

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1121
2. 授業担当教員	山口 敬雄			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。			
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること			
9. アサインメント (宿題)及びレポ ート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中に説明する。 2. 長期休暇における課題として、英文要約を課すので計画立てて実施すること。詳細は授業内で解説する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】George Truscott 他『Eye on America and Japan そのまま日米比較』南雲堂。 【参考書】各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	テスト 40% 小テスト・課題など 40% 授業への積極的参加度 20%			
12. 受講生への メッセージ	指定した範囲を事前・事後に必ず読んで、予習・復習すること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。辞書を必ず持参すること。			
13. オフィスアワー	授業中に指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	速やかに教科書を入手し、必ず90分以上かけて通読する。	
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。	
第2回	Lesson1: Physical Education 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p.7)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p.7)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第3回	Lesson2: Sports Club 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p.10)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p.10)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第4回	Lesson3: Cultural Differences 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p.13)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p.13)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第5回	Lesson4: Haircuts 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p.16)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p.16)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第6回	Lesson5: Music 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p.19)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p.19)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第7回	Lesson6: Money 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p.22)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p.22)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第8回	Lesson7: Safety 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p.25)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p.25)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第9回	Lesson8: Life Expectancy 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p.28)を通読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p.28)の意味を確実に理	

			解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 10 回	Lesson9: The Metric System 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p. 31)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p. 31)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 11 回	Lesson10: Police 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p. 34)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p. 34)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 12 回	Lesson11: Seasons 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p. 37)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p. 37)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 13 回	Lesson12: TV Sports 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p. 40)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p. 40)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 14 回	Lesson13: Business 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p. 43)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p. 43)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 15 回	Lesson14: Jobs 読解練習と米文化事項の解説	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(p. 46)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(p. 46)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1111
2. 授業担当教員	黒岩 好子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。			
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	1. 主体的に学習を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として「授業で扱わないレッスンから3つを自由に選び、各レッスンの1. Read (本文の要約200字程度を含む)、2. Incomplete Sentences, 3. Compositionの設問を全て答えA4用紙に記入し、第12回目の授業終了後に提出すること」を課すので計画を立てて実施すること。 3. 期末レポートのテーマは、「授業を通して発見した日米文化の相違点とそれに対する感想」とする。A4用紙に1000字程度で記載し第15回目の授業時に提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 George Truscott 他『Eye on America and Japan そのまま日米比較』南雲堂。 【参考書】、 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	期末レポート	30%	小テスト(4回)	30%
	長期休暇中課題・プレゼンテーション	20%	授業中の態度・積極的参加度	20%
12. 受講生へのメッセージ	1. 英語力及び異文化コミュニケーション力を高めるうえで重要なことは、積極的にチャレンジしていく精神である。授業では受け身の姿勢はリセットし、意欲的に参加することを望む。 2. 各授業の予習・復習は必須とする。その際、疑問に思ったことはそのままにせず質問すること。 3. 英語表現力向上を目指し、適宜演習用プリントも使用する。 4. 「授業中の私語・居眠り・携帯電話の使用、頻繁な遅刻、教科書を忘れる」を禁ずる。それに反した場合は「授業中の態度」評価点の減点対象とする。			
13. オフィスアワー	初回授業で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	Introduction: 授業概要、学習目標、学習方法、自己紹介		事前学習	1. 教科書を購入し、はしがきと目次に目を通し授業で取り上げる Lesson の内容を予測しておく。2. 本授業専用のノートを用意する。
			事後学習	1. 本授業を受講するにあたっての留意点を振り返り、英語学習の目標設定と自分に適した学習方法を再確認する。 2. 自己紹介の良かった点・改善点をノートに記録しておく。
第2回	Lesson 1: Physical Education		事前学習	Lesson 1(pp. 7~9)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。
			事後学習	1. Lesson 1の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 7)の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入しておく。
第3回	Lesson 2: Sports Club、小テスト#1		事前学習	1. Lesson 2(pp. 10~12)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. 小テスト#1 (Lesson 1 & 2)の準備をする。
			事後学習	1. Lesson 2の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 10)の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入しておく。 3. テストでできなかった箇所を復習する。
第4回	Lesson 3: Cultural Differences		事前学習	Lesson 3(pp. 13~15)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。
			事後学習	1. Lesson 3の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 13)の意味を理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入しておく。
第5回	Lesson 4: Hair Cuts		事前学習	Lesson 4(pp. 16~18)のわからない英単語を調べて和訳し問題もすべて解答する。
			事後学習	1. Lesson 3の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 16)の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入しておく。
第6回	Lesson 6: Money、小テスト#2		事前学習	1. Lesson 6(pp. 22~24)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. 小テスト#2 (Lesson 3, 4 & 6)の準備をする。

		事後学習	1. Lesson 6 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 22) の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入しておく。 3. テストでできなかった箇所を復習する。
第 7 回	Lesson 7: Safety プレゼンテーション準備	事前学習	Lesson 7 (pp. 25~27) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。
		事後学習	1. Lesson 7 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 25) の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入しておく。 3. ペア相手の情報を英語で表現し、練習する。
第 8 回	プレゼンテーション: 他已紹介	事前学習	英語の原稿を見ずにプレゼンテーションができるようになるまで練習を重ねる。
		事後学習	1. 自分のプレゼンテーションを振り返り良かった点と改善点をノートに記録しておく。2. 上手と思ったプレゼンテーションの共通点を考えてみる。
第 9 回	Lesson 9: The Metric System	事前学習	Lesson 9 (pp. 31~33) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。
		事後学習	1. Lesson 9 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 31) の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入しておく。
第 10 回	Lesson 11: Seasons、小テスト#3	事前学習	1. Lesson 11 (pp. 37~39) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. 小テスト#3 (Lesson 7, 9 & 11) の準備をする
		事後学習	1. Lesson 11 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 37) の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入する。 3. テストでできなかった箇所を復習する。
第 11 回	長期休暇中の課題、最終レポートについての解説、課題選択・グループ学習	事前学習	1. 各自取り組んでみたいレッスンを前もって3つ選んでおく。
		事後学習	グループ学習を通じ課題に対する各自の進捗状況を確認し合い協力する。
第 12 回	Lesson 13: Business 長期休暇中の課題提出	事前学習	1. 課題 (9.-2 参照) を完了する。 2. Lesson 13 (pp. 43~45) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。
		事後学習	1. Lesson 13 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 43) の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入する。
第 13 回	Lesson 14: Jobs	事前学習	Lesson 14 (pp. 46~48) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。
		事後学習	1. Lesson14 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 46) の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入する。
第 14 回	Lesson 19: Apartments、小テスト#4	事前学習	1. Lesson 19 (pp. 61~63) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. 小テスト#4 (Lesson 13, 14 & 19) の準備をする。
		事後学習	1. Lesson 14 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. (p. 61) の意味をよく理解しながら音読し、大意を英語でノートに記入する。 3. テストでできなかった箇所を復習する。
第 15 回	本授業のまとめとディスカッション 期末レポート提出	事前学習	1. 期末レポート (9.-3 参照) を完了する。 2. 初回授業時に設定した自分の学習目標に対する達成度を査定し、意見をノートに記録する。
		事後学習	本授業で使用した教科書、ノート、プリントなどに再度目を通し、自己分析をしながら更なる上達を目指し、自律的学習の習慣化計画を立てる。

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)	3. 科目番号	GECM1311 GECM1111
2. 授業担当教員	別府 結起		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心としたつめ込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。		
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること		
9. アサイメント (宿題)及びレポ ート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇前に課題を課すので計画立てて実施すること。 Students can choose homework that will be given before the break. It will be announced in detail in class. *Research Project *Book Review *Article Review *Movie Review *Diary *Adventure *Skit *Dialogue Writing *Singing an English Song		
10. 教科書・参考書・ 教材	Milada Broukal [All About the USA I: A Cultural Reader] Pearson Longman ・Bring English Japanese dictionary.		
11. 成績評価の方法	Attendance and Participation 20 % Quizzes 40 % Presentation 20 % Speech 10 % Homework 10 %		
12. 受講生への メッセージ	Hello everyone! Welcome to American Culture and Language I. In this class, you will learn a lot about American culture in English. The class will be student centered, mainly organized by students' presentations. On the first day of class, we make a group and decide which topic you want to do research and present. It is introduced to your classmates in class, and how much you understood would be checked by small quizzes. I am looking forward to studying with you.		
13. オフィスアワー	It will be announced on the first day of the class.		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction of the Class Presentation Group Making About The United States	事前学習	Check all the Units of the textbook
		事後学習	Start collecting information of the presentation
第2回	Example Presentation Part 1 The United States Unit 3 Vermont	事前学習	Solve all the Unit 3 problems
		事後学習	Review Unit 3 Collect information of the presentation
第3回	Part 1 The United States Presentation by students①	事前学習	Check words of Unit 4
		事後学習	Review information of the state that students presented in class. Collect information of the presentation
第4回	Part 2 U.S. Inventions and Inventors Unit 4 Spencer's Microwave Oven Presentation by students②	事前学習	Read Unit 4 aloud.
		事後学習	Review information of the Inventions and inventors of the U.S. Collect information of the presentation
第5回	Part 2 U.S. Inventions and Inventors Presentation by students ③ Quiz 1	事前学習	Prepare for Quiz 1
		事後学習	Review U.S. Inventions and Inventors Collect information of the presentation
第6回	Part 3 U.S. Originals Unit 7 McDonald's Presentation by students ④	事前学習	Check words of Unit 7
		事後学習	Review U.S. Originals Collect information of the presentation
第7回	Part 3 U.S. Originals Presentation by students ⑤	事前学習	Check Words of Unit 8
		事後学習	Review U.S. Originals Collect information of the presentation
第8回	Part 4 Holidays and Special Days Unit 10 Christmas and New Year Celebration Presentation by students ⑥	事前学習	Check words in Unit 10
		事後学習	Review Holidays and Special Days in the U.S. Collect information of the presentation
第9回	Part 4 Holidays and Special Days Presentation by students ⑦	事前学習	Check Holidays and Special Days in the U.S.
		事後学習	Review Christmas, National Holidays of the U.S. Collect information of the presentation
第10回	Part 4 Holidays and Special Days Presentation by students ⑧	事前学習	Check words in Unit 11 and 12
		事後学習	Review all holidays and special days in the U.S. Collect information of the presentation
第11回	Part 5 Washington D.C. Unit 13 Capitol Presentation by students ⑨	事前学習	Check words in Unit 13
		事後学習	Review Washington D.C. Collect information of the presentation
第12回	Part 5 Washington D.C. Presentation by students ⑩	事前学習	Read Unit 13 aloud
		事後学習	Review information of Washington D.C. Collect information of the presentation
第13回	Part 6 U.S. Arts and Entertainment Unit 16 Walt Disney Presentation by students ⑪	事前学習	Check words in Unit 16
		事後学習	Review Unit 16 Walt Disney Collect information of the presentation
第14回	Part 6 U.S. Arts and Entertainment	事前学習	Check U.S. Arts and Entertainment

平成 28 年度

	Presentation by students ⑫	事後学習	Review American Arts and Entertainment Review all the Units
第 1 5 回	Reviews of American Culture and Language (Extra Presentation Day) Final Check-up	事前学習	Prepare for the final Check-up
		事後学習	Review American Culture and Language you learned in class

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1112
2. 授業担当教員	澤口 彰子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	原則として、「解剖生理学」履修後、または履修中であること。		
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、福祉専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解できるようになる。 3. リハビリテーションの概要について理解し、説明できるようになる。 4. 生活習慣病とその予防につき、健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>新聞等のマスメディアに出てきた疾患に関するニュースの中からグループで興味を持ったものをひとつ選び、福祉、養護、保健、保育、心理などのそれぞれの立場から、支援をどう構築すればよいか検討を加える (発表およびレポート)。</p> <p>レポートは全て手書き、原稿用紙(20×20字用紙)5枚に記載。イラスト、図、表、文献を含む。提出日厳守</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 第 1 巻 人体の構造と機能及び疾病-医学一般』中央法規。</p> <p>【参考書】澤口彰子・他『人体のしくみとはたらき』朝倉書店、2015 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題レポート-----30%</p> <p>学習態度-----40%。</p> <p>(身だしなみ、内職、携帯機器使用、居眠り、私語、机上の整理・整頓、摂食、トイレ回数などのコントロール、討論、発表は活発に) なお本学は学内全て禁煙。</p> <p>期末試験-----30%</p> <p>計 100%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>養護、保健、福祉専門職者は無論のこと、また保育や臨床心理専門職者においても、保健・医療専門職者等と連携して地域社会の人々が健康で質の高い豊かな生活を送れるように支援することが求められます。そのためには、健康をむしろ、生活の質を低下させる病気、特に生活習慣病・メタボリックシンドローム、高齢者特有の疾患及び精神疾患などの知識を自ら学び取る必要があります。メディアが報じるニュースの中でも日常的に取り上げられているので、将来の福祉、養護、保健専門職者の立場からの問題を自ら発見し、自ら解決する目で見ようようにしましょう。</p> <p>現場にあっては、ヘルスケアプロフェッショナルチームの一員としての能力を開発する練習を授業でのグループディスカッション及びレポート作成・発表を通して出来る様にしましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 人の身体と精神の成長・発達及び老化	事前学習	学習ノートを準備し、シラバスを熟読してくる。グループ分け。
		事後学習	人の身体と精神の成長・発達をノートにまとめる。
第 2 回	人体部位の名称と各臓器の構造及び機能	事前学習	人体部位と骨の名称をノートに記載しておく。
		事後学習	心臓、腎臓、呼吸器、大脳をノートに図示し、それぞれの機能を理解する。
第 3 回	疾病の概要 脳血管循環器系統	事前学習	生活習慣病をノートにまとめておく。
		事後学習	悪性腫瘍、脳血管障害、心疾患、高血圧の要点をノートにまとめておく。
第 4 回	内分泌系、呼吸器系統	事前学習	内分泌とは？ノートに調べておく。
		事後学習	糖尿病と慢性閉塞性肺疾患との類似点について、800字にまとめて提出。
第 5 回	消化器系統、腎・尿路系統	事前学習	肝炎と肝硬変の違い及び膠原病を調べて、ノートに記載しておく。
		事後学習	急性腎不全と慢性腎不全の違い、排尿障害、尿路感染症、前立腺障害の要点をノートにまとめる。
第 6 回	骨、関節及び感覚器の疾患系統	事前学習	易骨折性について調べノートに記載しておく。
		事後学習	関節リウマチと変形性膝関節症の違いを、関節のイラストを加えて 1200 字にまとめて提出。

第 7 回	感染症、神経疾患と難病	事前学習	感染症とは、ノートにまとめておく。
		事後学習	介護保険の特定疾病について、難病との関係についても言及して、まとめる。
第 8 回	先天性疾患、高齢者に多い疾患	事前学習	先天性疾患をノートにまとめておく。
		事後学習	高齢者に多い疾患の特徴を発表できる
第 9 回	障害概要 1. 視覚・聴覚・平衡機能障害、肢体不自由障害 2. 内部・知的・発達障害	事前学習	障害と疾病の違いはあるか？ ノートに要点を書いておく。
		事後学習	知的障害と発達障害について、800 字にまとめて提出。
第 10 回	認知症、高次機能障害、精神障害	事前学習	認知症の人にあつたことはありますか。症状をノートにまとめておきましょう。
		事後学習	高次脳機能障害について、まとめておく
第 11 回	リハビリテーションとは、対象の疾病と障害、担当専門職種	事前学習	リハビリテーションにおける障害評価をノートにまとめておく。
		事後学習	リハビリテーションにおける専門職やチームアプローチをノートにまとめる。
第 12 回	国際生活機能分類の考え方；環境因子と個人因子、健康とは？ 日本人の健康、職業との関係	事前学習	国際生活機能分類の考え方をノートにまとめておく。
		事後学習	あなたにとっての健康の概念を 800 字にまとめて提出。
第 13 回	課題調査の発表会	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う。資料の精査及び発表手順の確認。
		事後学習	グループで発表したレポートについて、個人の考察を 400 字にまとめて提出。
第 14 回	課題調査の発表会	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う。資料の精査及び発表手順の確認。
		事後学習	グループで発表したレポートについて、個人の考察を 400 字にまとめて提出。
第 15 回	総合まとめ	事前学習	学習用ノートを振り返りこれまでの学びと考察をノートにまとめておく。
		事後学習	これまでの学びと考察をまとめる。イラスト可。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1112 GELA1333
2. 授業担当教員	石本 強		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、福祉専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解できるようになる。 3. リハビリテーションの概要について理解し、説明できるようになる。 4. 生活習慣病とその予防につき、健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各学生は、割り当てられた範囲について資料を調査しグループでまとめ、発表する。 詳細は授業の中で説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病-医学一般』 社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規</p> <p>【参考書】 必要に応じて授業の中で通知します。</p>		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 (授業態度など) …30% 課題提出と発表…30% テスト…40% (事前に範囲・形式を告示する)		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・初回授業で受講についての詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。 ・私語等、周囲の学生に迷惑がかかる行為をする者は注意します。また継続する場合受講ができなくなります。 		
13. オフィスアワー	授業の前後の時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 人の成長・発達と老化	事前学習	教科書のはじめにと目次を読んでおく。教科書 pp. 2～7 を読み、人の成長・発達と老化について調べる
		事後学習	指示された内容について準備する。教科書 pp. 2～7 を読み、人の成長・発達と老化に関する国試過去問を解いて理解を深める
第2回	人の成長・発達と老化	事前学習	教科書 pp. 8～23 を読み、人の成長・発達と老化について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 8～23 を読み、人の成長・発達と老化に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第3回	身体構造と心身の機能	事前学習	教科書 pp. 26～52 を読み、身体構造と心身の機能について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 26～52 を読み、身体構造と心身の機能に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第4回	疾病の概要 (生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、健康増進)	事前学習	教科書 pp. 54～65 を読み、生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 54～65 を読み、生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第5回	疾病の概要 (心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患)	事前学習	教科書 pp. 66～78 を読み、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患について調べる
		事後学習	教科書 pp. 66～78 を読み、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第6回	疾病の概要 (消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患)	事前学習	教科書 pp. 79～89 を読み、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 79～89 を読み、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第7回	疾病の概要 (泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症)	事前学習	教科書 pp. 90～104 を読み、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症に関する国試過去問を解いて理解を深める。

		事後学習	教科書 pp.90～104 を読み、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症について復習する。
第 8 回	疾病の概要（神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア）	事前学習	教科書 pp.105～121 を読み、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアに関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp.105～121 を読み、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアについて復習する。
第 9 回	障害の概要（視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由）	事前学習	教科書 pp.124～138 を読み、視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由に関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp.124～138 を読み、視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 10 回	障害の概要（内部障害・知的障害）	事前学習	教科書 pp.139～144 を読み、内部障害・知的障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp.139～144 を読み、内部障害・知的障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 11 回	障害の概要（発達障害）	事前学習	教科書 pp.145～147 を読み、発達障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp.145～147 を読み、発達障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 12 回	障害の概要（認知症、高次機能障害）	事前学習	教科書 pp.148～156 を読み、認知症、高次機能障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp.148～156 を読み、認知症、高次機能障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 13 回	障害の概要（精神障害）	事前学習	教科書 pp.158～162 を読み、精神障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp.158～162 を読み、精神障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 14 回	リハビリテーションの概要、国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、健康のとらえ方	事前学習	教科書 pp.164～213 を読み、リハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとらえ方に関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp.164～213 を読み、リハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとらえ方に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (小児保健を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2317
2. 授業担当教員	石本 強		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、乳・幼・小児の保育・教育にかかわる専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●小児の発達とリスク因子について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 乳・幼・小児の健全な発達に寄与する方策が理解できる。 3. 生活習慣病とその予防につき、小児の段階における健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各学生は、割り当てられた範囲について資料を調査しグループでまとめ、発表する。 詳細は授業の中で説明する		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病-医学一般』 社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規</p> <p>【参考書】 【教科書】 必要に応じて授業の中で通知します。</p>		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 (授業態度など) …30% 課題提出と発表…30% テスト…40% (事前に範囲・形式を告示する)		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・初回授業で受講についての詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。 ・私語等、周囲の学生に迷惑がかかる行為をする者は注意します。また継続する場合受講ができなくなります。 		
13. オフィスアワー	授業の前後の時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 人の成長・発達と老化	事前学習	教科書のはじめにと目次を読んでおく。教科書 pp. 2~7 を読み、人の成長・発達と老化について調べる
		事後学習	指示された内容について準備する。教科書 pp. 2~7 を読み、人の成長・発達と老化に関する国試過去問を解いて理解を深める
第2回	小児の発育と発達 (形態発育)	事前学習	教科書 pp. 8~23 を読み、人の成長・発達と老化について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 8~23 を読み、人の成長・発達とに関する理解を深める。
第3回	小児の発育と発達 (運動と精神機能)	事前学習	教科書 pp. 8~23 を読み、人の成長・発達と老化について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 8~23 を読み、人の成長・発達とに関する理解を深める。
第4回	身体構造と心身の機能	事前学習	教科書 pp. 26~52 を読み、身体構造と心身の機能について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 26~52 を読み、身体構造と心身の機能に関する理解を深める。
第5回	小児の生理学 (出生前・胎児の生理学、循環機能)	事前学習	教科書 pp. 8~52 を読み、発育と発達、心身の機能について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 8~52 を読み、発育と発達、心身の機能に関する理解を深める。
第6回	小児の生理学 (呼吸機能・血液・免疫・消化機能・腎機能・代謝)	事前学習	配布プリントを読み、小児の呼吸機能・血液・免疫・消化機能・腎機能・代謝について調べる。
		事後学習	配布プリントを読み、小児の呼吸機能・血液・免疫・消化機能・腎機能・代謝について理解を深める。
第7回	小児の生理学 (皮膚機能・体温・睡眠)	事前学習	配布プリントを読み、小児の皮膚機能・体温・睡眠について調べる。
		事後学習	配布プリントを読み、小児の皮膚機能・体

			温・睡眠について理解する。
第 8 回	疾病の概要（生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、健康増進）	事前学習	教科書 pp. 54～65 を読み、生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 54～65 を読み、生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 9 回	疾病の概要（心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患）	事前学習	教科書 pp. 66～78 を読み、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患について調べる
		事後学習	教科書 pp. 66～78 を読み、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 10 回	疾病の概要（消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患）	事前学習	教科書 pp. 79～89 を読み、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 79～89 を読み、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 11 回	疾病の概要（泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症）	事前学習	教科書 pp. 90～104 を読み、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症に関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp. 90～104 を読み、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症について復習する。
第 12 回	生活習慣病の予防と健康増進についての調査とディスカッション	事前学習	教科書 pp. 54～104 を読み、生活習慣病について調べる。
		事後学習	発表準備について復習しておく
第 13 回	生活習慣病の予防と健康増進についての発表	事前学習	発表の準備と練習をする
		事後学習	各グループの発表内容について復習しておく
第 14 回	疾病の概要（神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者の疾患）	事前学習	教科書 pp. 105～121 を読み、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアに関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp. 105～121 を読み、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアについて復習する。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	異文化理解 (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3331								
2. 授業担当教員	坂井 二郎											
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表		5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	<p>人は、ある文化環境の中で生活し、そこからさまざまな影響を受けている。文化を共有している人々の間では常識であることも、文化背景が異なると相互作用をする相手は自分と同じ考え方をするとはいえないし、自分とは異なった行動をすることもある。それらの異質性はまた様々な形の異文化摩擦が生じる原因となることもある。</p> <p>本講義では文化に起因する様々な異質性を理解するとともに、その比較対象である自文化、つまりは自分について理解することにも留意していく。つまり、外国人とのコミュニケーションや異文化接触の摩擦問題のみならず、自己と世界の関わり、自己と自文化の関係、そして異文化接触のダイナミズムを探り、理解を深めることで、「異質性を楽しむ」態度の育成を図っていく。</p>											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 「文化」という概念について理解を深め、説明できるようになる。 個人の持つ「文化」的背景への気づきを高め、「文化」がもたらす影響を意識できるようになる。 異文化接触と異文化摩擦の現象とそのダイナミズムを理解できるようになる。 異文化理解を促進する態度や技能を身につける。 											
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 宿題は教科書で扱われる各章の設問と課題を授業前に解答しておくことを意味する。またプリントが配布された時は次の授業までに完了しておく。 最終レポートは、異文化理解の本質と異文化理解教育に関する設問4題から3題選択し、それぞれの設問に対しA4用紙1枚程度で解答し、15回目の授業時に提出するものとする。 グループ発表は、4-6人程度のグループで、異文化理解に関する模擬授業を30分程度で行うことを意味する。 											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 久米昭元・長谷川典子著「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション」 有斐閣選書。</p> <p>【参考書】 授業時に指示する。</p>											
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>グループ学習への積極的参加度・貢献度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>宿題</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>最終レポート</td> <td>30%</td> </tr> </table>				グループ学習への積極的参加度・貢献度	20%	宿題	30%	グループ発表	20%	最終レポート	30%
グループ学習への積極的参加度・貢献度	20%											
宿題	30%											
グループ発表	20%											
最終レポート	30%											
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> わからないことはそのままにせず、どのような些細なことでも気軽に聞くようにしてください。 宿題は授業時のペアやグループでの演習の題材となるため、必ず行なってください。 辞書は忘れず持参してください。 皆さんと意見交換をする事を楽しみにしていますので、意見がある場合は積極的に発信してください。 											
13. オフィスアワー	初回授業時に通知します。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第1回	授業概要説明	事前学習	1. 授業日までに教科書を購入し目次に目を通しておく。2. 自分にとって異文化理解とは何か考えておく。									
		事後学習	1. 授業概要説明の内容を教員からの補足事項を中心に再確認し、疑問点があれば書き出しておく。2. 授業で設定した自分の目的を確認し、必要があれば適宜修正し、ノートに記入しておく。									
第2回	異文化理解の枠組みの考察	事前学習	第1回目配布されたプリントを完了しておく。									
		事後学習	グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、異文化理解の内容、本質を振り返り自分の意見をまとめなおす。									
第3回	第1章 日本在住外国人	事前学習	1. 教科書の第1章 (pp.11~37) の内容を確認するとともに設問と課題に答えておく。2. 配布されたプリントを完了する。									
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。									
第4回	第2章 帰国日本人	事前学習	1. 教科書の第2章 (pp.39~58) の内容を確認するとともに設問と課題に答えておく。2. 配布されたプリントを完了する。									
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。									
第5回	第3章 共文化コミュニケーション	事前学習	1. 教科書の第3章 (pp.59~88) の内容を確認するとともに設問と課題に答えておく。2. 配布されたプリントを完了する。									
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。									
第6回	第4章 海外留学	事前学習	1. 教科書の第4章 (pp.91~108) の内容を確認するとともに設問と課題に答えておく。2. 配布されたプリントを完了する。									
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や									

			疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第 7 回	第 5 章 海外赴任	事前学習	1. 教科書の第 5 章 (pp.109~126) の内容を確認するとともに設問と課題に答えておく。2. 配布されたプリントを完了する。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第 8 回	外側からの異文化理解、グループ発表準備	事前学習	1. 配布されたプリントを完了する。2. グループ発表準備が円滑に進行するよう自分の担当分の調べ学習を完了し、必要な資料を持参する。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2. グループ発表の流れ、留意点、自分の担当部分を再確認する。
第 9 回	グループ発表 1	事前学習	グループ発表の最終準備を行う。
		事後学習	グループ発表を終了したグループは、プリントを参照しながら振り返りを行う。グループ発表を行わなかったグループは、他のグループ発表を基に修正点があれば適宜行う。
第 10 回	グループ発表 2	事前学習	グループ発表を行うグループは最終準備を行う。グループ発表をすでに終了したグループは振り返りを基にどのような修正が可能かまとめる。
		事後学習	プリントを基にグループ発表の振り返りを完了する。
第 11 回	異文化理解の授業をどう教えるか？グループ発表の振り返り	事前学習	記入した振り返りのプリントを基に、具体的な改良点をリストにしておく。
		事後学習	振り返りに関するグループの発表とクラスでのディスカッションを通し、異文化理解の授業方法を自分なりにまとめなおす。
第 12 回	異文化理解を促進する知識、態度、スキルを考える 1 (プリント配布)	事前学習	配布されたプリントをすべて完了しておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第 13 回	異文化理解を促進する知識、態度、スキルを考える 2 : 相手の言いたい事を理解するためにどうするか？(プリント配布)	事前学習	配布されたプリントをすべて完了しておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第 14 回	異文化理解を促進する知識、態度、スキルを考える 3 : エポケーと D.I.D メソッド(プリント配布)、最終課題配布	事前学習	配布されたプリントをすべて完了する。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、異文化理解の授業内容を振り返り、総まとめを行う。2. 第 1 回目の授業時に設定した自分の目標を見返し、その達成度を査定する。
第 15 回	異文化理解の本質と目的を再考察する。最終レポート提出	事前学習	最終レポートを完了する。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、異文化理解の授業内容を振り返り、総まとめを行う。2. 第 1 回目の授業時に設定した自分の目標を見返し、その達成度を査定する。

1. 科目名 (単位数)	医療ソーシャルワーク実践論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3326
2. 授業担当教員	鹿内 佐和子		SCMP3326
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保健、医療の分野におけるソーシャルワーカーとして、疾患のある当事者や家族への心理社会的支援を行う過程で必要となる、専門的価値、知識、技術について学ぶことを目的とする。</p> <p>本講義では、患者及びその家族支援、医療ソーシャルワーク実践の理論と技術を学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>本科目では、保健医療ソーシャルワークに関する制度、サービスについて学ぶだけでなく、実際の臨床の場面で即戦力となるソーシャルワーカーを養成することを目的としている。</p> <p>学習目標は以下の3項目とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床ソーシャルワークを行う上で必要となる対人援助技術全般について学び、基本的技術を習得し応用出来るようになる。 2. 医療現場におけるソーシャルワーク実践に必要な価値、知識、技術を習得し、自分の言葉で人にわかりやすく伝えることができるようになる。 3. 具体的疾患や事例に沿ったソーシャルワーク実践の展開方法について学び、考察することで自らの意見をまとめ、論理的に説明出来るようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回授業後に小レポートを作成提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】【参考書】</p> <p>授業中に別途通知する。</p> <p>授業の中で配布プリント在り</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 (授業参加状況も含む) 30%</p> <p>レポート 30% ミニテスト 30%</p> <p>グループプレゼンテーション 10%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、学生個人の思考力・創造力・問題解決能力を養成し、医療ソーシャルワーク実践における技術・知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は積極的に授業に取り組むことが期待されます。		
13. オフィスアワー	授業中に別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 医療ソーシャルワーク概論Ⅰ 医療ソーシャルワーカーの役割と機能 (1)	事前学習	医療ソーシャルワーク実践論の学習用ノートを準備する。講義を受けるうえで具体的に何を学びたいか具体的に考えて、意見をまとめてくること
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 2 回	医療ソーシャルワーク概論Ⅰ 医療ソーシャルワーカーの役割と機能 (2)	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 3 回	医療ソーシャルワーク概論Ⅱ 医療ソーシャルワーク実践における疾病と生活障害の理解 (1)	事前学習	どんな疾病に対してソーシャルワーカーが関わりを持つか自己学習し、学習用ノートにまとめてくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 4 回	医療ソーシャルワーク概論Ⅱ 医療ソーシャルワーク実践における疾病と生活障害の理解 (2)	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 5 回	事例を通して医療ソーシャルワーカーの業務を理解する (1) (業務指針)	事前学習	第 3 回・4 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 6 回	事例を通して医療ソーシャルワーカーの業務を理解する (2) (受診・受療援助など)	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 7 回	事例を通して医療ソーシャルワーカーの業務を理解する (3) (療養中の心理的・社会的問題など)	事前学習	第 5 回・6 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 8 回	事例を通して医療ソーシャルワーカーの業務を理解する (4) (療養中の心理的・社会的問題など)	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 9 回	事例を通して医療ソーシャルワーカーの業務を理解する (5) (退院援助など)	事前学習	第 7 回・8 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 10 回	事例を通して医療ソーシャルワーカーの業務を理解する (6) (社会復帰援助など)	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 11 回	事例を通して医療ソーシャルワーカーの業務を理解する (7) (経済的問題など)	事前学習	1 回～10 回までの内容について学習用ノートに要点をまとめてくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 12 回	事例を通して医療ソーシャルワーカーの業務を理解する (8) (地域活動など)	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 13 回	医療ソーシャルワーク実践 面接技術 (1)	事前学習	第 11 回・12 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 14 回	医療ソーシャルワーク実践	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。

平成 28 年度

	面接技術（2）	事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 15 回	医療ソーシャルワーク実践 面接技術（3）	事前学習	第 13 回・14 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 16 回	医療ソーシャルワーク実践 面接技術（4）	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 17 回	医療ソーシャルワーク実践 面接技術（5）	事前学習	第 15 回・16 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 18 回	医療ソーシャルワーク実践 面接技術（6）	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 19 回	医療ソーシャルワーク実践 グループワーク技術（1）	事前学習	第 17 回・18 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 20 回	医療ソーシャルワーク実践 グループワーク技術（2）	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 21 回	医療ソーシャルワーク実践 グループワーク技術（3）	事前学習	第 19 回・20 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 22 回	医療ソーシャルワーク実践 グループワーク技術（4）	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 23 回	医療ソーシャルワーク実践 チームアプローチと組織の理解（1）	事前学習	第 21 回・22 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 24 回	医療ソーシャルワーク実践 チームアプローチと組織の理解（2）	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 25 回	医療ソーシャルワーク実践 事例を通してのアセスメント・プランニング （1）	事前学習	第 23 回・24 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 26 回	医療ソーシャルワーク実践 事例を通してのアセスメント・プランニング （2）	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 27 回	グループプレゼンテーション（1）	事前学習	プレゼンテーションが滞りなく実施出来る様準備を行う。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 28 回	グループプレゼンテーション（2）	事前学習	プレゼンテーションが滞りなく実施出来る様準備を行う。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 29 回	振り返り／まとめ（1）	事前学習	第 28 回までに学んだことを学習目標と照らし合わせ学習達成度について整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 30 回	振り返り／まとめ（2）	事前学習	講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理する。
		事後学習	医療ソーシャルワーク実践論での学びを振り返り、自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	英語学 I (英語の歴史) (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3307
2. 授業担当教員	坂井 二郎			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループ発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、英語学の基礎となる英語発達史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論という多様な諸分野を扱うことで英語学の全体像を概観する。これらの分野から英語という言語の成り立ちと構造・機能・特徴を理解していく。またこれらの英語諸分野が英語教育の場でどのように応用されているかを日本の英語教育の歴史から考察する。これらのことを学ぶことで英語教員としての素養を育成する。			
8. 学習目標	1. 英語学を形成する諸分野の基礎知識を理解し英語学の全体像を把握することができる。 2. 英語学の諸分野の英語教育上の意義を考察し、自分の考えを述べることができる。 3. 英語学の基礎を理解することで英語教員としての教養を高めることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 宿題は授業で扱うそれぞれの章を授業前までに熟読し、配布されたディスカッション・クエスチョンに答えながら要旨、疑問点、自分の意見を1000字以内でまとめておくことを意味する。また、まとめる際、重要だと思う点を列挙しながら要旨を作成しても構わない。 2. 期末レポートでは、英語学Iで学んだ英語史と英語学の諸分野についてまとめ、学んだ内容の英語教育への具体的活用例を考え記述するものとする。レポートは、A4用紙にパソコンを使用し3000字程度でまとめ、第15回の授業終了後に提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】長谷川瑞穂編著 大井恭子 木全睦子 森田彰 高尾幸幸著『はじめての英語学』研究社。 【参考書】授業時に適宜指摘する			
11. 成績評価の方法	グループ学習への参加度・貢献度 20% 宿題 30% 中間試験 20% 最終まとめレポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 英語学の基礎を学習しますので学習したことは必ず確認し、疑問やわからないことはそのままにせず、些細なことでも気軽に質問してください。 2. 宿題は授業時のペアやグループでの演習の題材となるため、必ず行なってください。 3. 辞書はどのようなものでも構わないので授業に持参してください。			
13. オフィスアワー	初回授業時に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業概要説明: シラバスから英語学の全体像を概観する	事前学習	教科書のまえがきと目次(iii~x)に目を通し授業内容を予想しておく。	
		事後学習	1. 教員の補足説明に留意しながら、授業概要をまとめなおす。また疑問点はノートなどに記入しておく。2. 授業時に考えた当該授業における目的を確認し必要があれば適宜修正し、ノートに記入しておく。	
第2回	英語の歴史1: 英語の起源と語族(第1章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第1章(pp. 2~9)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。	
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2. 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。	
第3回	英語の歴史2: 古英語時代から近代英語時代への変遷(第3章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第3章(pp. 18~25)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。	
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2. 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。	
第4回	英語の歴史3: 古英語時代から近代英語時代への変遷(第4章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第4章(pp. 26~33)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。	
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2. 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。	
第5回	英語の歴史4: 標準英語の成立(第5章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第5章(pp. 34~41)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。	
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2. 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。	
第6回	英語の歴史5: 国際語としての英語の成	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第6章	

	立と英語のバリエーション(第6章)		(pp.42~49)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第7回	英語の歴史6：英語の未来(プリント配布)、中間まとめテスト	事前学習	1. 配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、配布されたプリントを読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。2. 中間まとめテストの準備を行う。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第8回	英語の歴史7：英語発達史のまとめ(中間まとめテストの振り返り)	事前学習	教科書と配布されたプリントを使用し、英語発達史の概要を再確認する。
		事後学習	グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、英語発達史に関する授業内容を振り返り、自分の意見をまとめなおす。
第9回	英語学の諸領域(第2章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第2章(pp.10~17)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第10回	英語のことばとしてのしくみ1：音声学、音韻論(第8章、9章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第8-9章(pp.58~73)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第11回	英語のことばとしてのしくみ2：形態論(第10章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第10章(pp.74~81)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第12回	英語のことばとしてのしくみ3：統語論(第11章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第11章(pp.82~89)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第13回	英語のことばとしてのしくみ4：意味論(第13章、14章、17章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第13章(pp.98~105)、14章(pp.106~113)、17章(pp.130~137)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第14回	日本の英語教育の歴史(第25章)	事前学習	配布されたディスカッション・クエスチョンに答え、第25章(pp.194~201)を読み概要、自分の意見、疑問点などをレポートにまとめておく。
		事後学習	1. グループとクラス全体でのディスカッション内容を踏まえ、教科書、プリントを適宜参照しながら、授業を振り返り、自分の意見をまとめなおす。2 授業内容やディスカッションから興味深い内容や疑問点が浮上した時は、図書館、インターネットなどを適宜使用し、自主的に発展学習を行う。
第15回	英語学の総まとめと期末レポート提出	事前学習	期末レポートを完了する。
		事後学習	1. 英語学の授業内容全体を振り返り、総まとめを行う。2.

			英語学における自分の設定した目的達成度を査定する。
--	--	--	---------------------------

1. 科目名 (単位数)	英語学Ⅱ (英語の発音と音声) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2307
2. 授業担当教員	井草 玲子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語音声学の入門書をテキストとし、英語教員を目指すものにとって必要不可欠な英語の発音や音声について基礎的な知識を身につける事を目標とする。具体的には、音声器官、母音や子音の分類と発音の仕方、音の連結、アクセント、イントネーションについて学習し、実際に英語の発音を聞き取り、自らも発音練習をする。受講生は、近い将来、教育現場で発音指導にあたる事を念頭に置き、自らの英語の発音の矯正に努め、学習した事をどのように教育現場で活かせるか、考察することになる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界には様々な英語があるが、英語教員志望の受講生にとって必要不可欠な英語の発音と音声に関する基礎的な事項を理解することができる。 2. 将来英語を教える時、児童生徒の発音指導ができるように、まず、正しい発音を聞き取る力と調音する力を向上させ、教師として相応しい手本を示せるようになることができる。 3. 学んだ英語の発音と音声の知識を活かし、教育現場で楽しくかつ効果的に英語の発音指導ができるような教え方の素地を養うことができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：事前学習と事後学習の欄を見てください。 レポート課題： 1. 母音の発音の特徴とその指導法に関するレポート 2. 子音の発音の特徴とその指導法に関するレポート		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 三宅川正・増山節夫共著『最新 英語音声学教本：A New Course in English Phonetics』英宝社、1997。		
11. 成績評価の方法	期末テスト 30% 小テスト、レポート 40% 授業中の態度・発表・積極的参加度 30%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の発音と音声の学習は、積極性が要求されます。姿勢を正しくし、お腹からしっかり声を出すように心がけましょう。 2. 授業に参加するためには、シラバスに記載された参考箇所をよく読み、登場する新出単語は、辞書で意味をしっかりと確認し、授業に臨んでください。音を聞いて、物や概念をイメージするためにも、単語の意味の確認は大切です。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction 講義概要・学習目標・学習方法 I. 音声学の基礎知識	事前学習	第 1 章 (pp. 1～) を読み、ポイントに印をつける。
		事後学習	専門用語 (日本語と英語) の一覧表の作成。
第 2 回	II. 音声器官と英語の音の分類 ：音声器官、有声音と無声音、母音と子音	事前学習	第 2 章 (pp. 9～) を読み、ポイントに印をつける。
		事後学習	専門用語の音読と一覧表の作成。
第 3 回	III. 母音の発音の特徴を知り、音の識別、発音練習を通じて、発音の指導法について考察する。 ① (week, hit, head)	事前学習	第 3 章 (pp. 16～) を読み、未知語の意味の確認とポイントに印をつける。
		事後学習	専門用語の音読と一覧表の作成。
第 4 回	② (happy, park, law, hot)	事前学習	第 3 章 (pp. 20～) を読み、未知語の意味の確認。
		事後学習	専門用語の音読と一覧表の作成。
第 5 回	③ (move, full, sun, serve, validity)	事前学習	第 3 章 (pp. 23～) を読み、未知語の意味の確認
		事後学習	専門用語の音読と一覧表の作成。
第 6 回	④ (aim, fine, allow, voice, throat, etc.)	事前学習	第 3 章 (pp. 29～) を読み、未知語の意味の確認
		事後学習	レポート 1 を作成し、提出 (2 週間後)。
第 7 回	IV. 子音の発音の特徴を知り、音の識別、発音練習を通じて、発音の指導法について考察する。 ① 破裂音 (Plosives) - (pick, bell) (table, drill) (king, good) ② 鼻音 (Nasals) - (milk, know, tongue)	事前学習	第 4 章 (pp. 37～43) を読み、破裂音と鼻音の特徴を把握し、未知語の意味を確認する。
		事後学習	発音練習と指導上の留意点をまとめる。
第 8 回	③ 側音 (Lateral) - (live) (dull)	事前学習	第 4 章 (pp. 43～) を読み、側音の特徴を把握し、未知語の意味を確認する。
		事後学習	発音練習と指導上の留意点をまとめる。
第 9 回	④ 摩擦音 (Fricatives) - (fish, violin) (thick, they) (chase, visit) (ship, pleasure) (rain) (hope)	事前学習	第 4 章 (pp. 45～) を読み、摩擦音の特徴を把握し、未知語の意味を確認する。
		事後学習	発音練習と指導上の留意点をまとめる。
第 10 回	⑤ 破裂音 (Affricates) - (church, judge) ⑥ 半母音 (Semivowels) - (win) (yellow)	事前学習	第 4 章 (pp. 55～) を読み、破裂音と半母音の特徴を把握し、未知語の意味を確認する。
		事後学習	レポート 2 を作成し、提出 (2 週間後)。
第 11 回	V. 音の連続に伴う諸現象 ① 音連結 (Linking or Liaison) ② 音の同化 (Assimilation) ③ 音の脱落 (Elision)	事前学習	第 5 章 (pp. 59～) を読み、①音連結 ②音の同化 ③音の脱落の特徴を把握し、未知語の意味を確認する。
		事後学習	発音練習と指導上の留意点をまとめる。
第 12 回	VI. 強勢 (Stress) : アクセントの原理、語強勢、文強勢の特徴を知り、会話に及ぼす影響を考察する。	事前学習	第 6 章 (pp. 78～) を読み、左記の特徴を把握し、未知語の意味を確認する。
		事後学習	発音練習と指導上の留意点をまとめる。
第 13 回	VII. 音調 (Intonation) の特徴を知り、聞き手に与え	事前学習	第 7 章 (pp. 91～) を読み、音調の特徴を把握し、

平成 28 年度

	る影響を考察する。		未知語の意味を確認する。
		事後学習	発音練習と指導上の留意点をまとめる。
第 14 回	Group Presentation I (英語学 II の知識を、英語教育にいかにかに活かすか、発表する) Discussion	事前学習	Presentation の準備
		事後学習	Presentation の振り返り
第 15 回	Group Presentation II (英語学 II の知識を、英語教育にいかにかに活かすか、発表する) Discussion まとめ	事前学習	Presentation の準備
		事後学習	期末試験に向け、整理と復習を完了する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語学演習 I (統語論) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3304
2. 授業担当教員	井草 玲子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義 演習 ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	統語論の主流といえる生成文法の入門書を読み、生成文法の基本的な考え方を学ぶ。この授業の目標は、英語という言葉の構造をどのように捉えるべきかという基本的な考え方を理解することである。従来の英文法の知識と対比させて、生成文法理論の概要を知ることによって、英語教員としての基礎的な教養を高め、学んだことをどのように英語教育に活用できるか考察する。		
8. 学習目標	1. 生成文法の基本的な考え方を学び、英語の文構造の理解を深め、基本的な文型からなる英文を分析し、図式化出来るようになる。 2. 新しい概念を積極的に学ぶ態度を養い、今後の英語教授への活用ができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：授業の予習と復習 (事前学習と事後学習の欄を参照してください。) レポート： 1. 英語の 5 文型を生成文法理論に基づき構造分析せよ。 2. 統語論の英語教育への応用について、具体例を挙げて論じなさい。(1000字～1500字)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】安部潤『問題を通して学ぶ生成文法』ひつじ書房、2008。 【参考書】北川善久・上山あゆみ『生成文法の考え方』研究社、2008。		
11. 成績評価の方法	期末試験 30% レポート 20% 小テスト 25% 授業中の態度・発表・積極的参加度 25%		
12. 受講生へのメッセージ	生成文法という新しい概念を学びますので、しっかり予習して、授業に臨み、理解を深めるため、しっかり復習しましょう。		
13. オフィスアワー	授業時に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction 講義概要・学習目標・学習方法 1. 生成文法の変遷	事前学習	教科書でしっかり予習をし、授業に臨み、練習問題を解いていきます。至急教科書を手に入れてください。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。
第 2 回	2. 生成文法における「文法」とは ○ことばに関する直観 ○人間の言語習得	事前学習	教科書と配布プリントに目を通し、重要語句(日本語と英語)に印をつける。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。
第 3 回	○私たちはどのようにして言語の知識を獲得したのか ○メカニズムとしての文法	事前学習	教科書と配布プリントに目を通し、重要語句(日本語と英語)に印をつける。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。
第 4 回	3. 統語構造とは 1) 句構造 (pp. 11～)	事前学習	pp. 11～19 を通読し、重要語句(日本語と英語)に印をつける。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。
第 5 回	3. 統語構造とは 2) 句構造 Rewrite rules (pp. 15～19)	事前学習	pp. 15～17 を通読し、ポイントに印をつける。
		事後学習	重要項目を復習し、p. 19 の問題 1 を解答する。学んだことを図式化しておくこと。
第 6 回	復習テスト 1. 2) 句構造に適用する意味解釈規則 (pp. 19～)：理論	事前学習	pp. 19～26 を通読し、ポイントに印をつける。復習テスト 1 に備え、第 1 回～第 5 回のポイントをよく復習すること。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。
第 7 回	2) 句構造に適用する意味解釈規則 (pp. 19～)：練習問題	事前学習	pp. 19～26 を通読し、理解できたことと、さらなる理解が必要なことを明確にしておくこと。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。
第 8 回	3) 動詞を持つ節と助動詞を持たない小節 (pp. 26～)：理論	事前学習	p. 26～37 を通読し、ポイントに印をつける。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。
第 9 回	3) 動詞を持つ節と助動詞を持たない小節 (pp. 26～)：練習問題	事前学習	p. 26～37 を通読し、理解できたことと、さらなる理解が必要なことを明確にしておくこと。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。
第 10 回	復習テスト 2 4) 発音されない代名詞 PRO (pp. 37～)：理論	事前学習	これまで学んだことを良く復習し、復習テスト 2 に備える。
		事後学習	これまでの学習を振り返り、学習の足らなかった項目を良く復習する。
第 11 回	4) 発音されない代名詞 PRO (pp. 37～)：練習問題	事前学習	pp. 37～43 を通読し、ポイントに印をつける。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。

平成 28 年度

第 1 2 回	5) 構造的同音異義 (pp. 43～) : 理論	事前学習	pp. 43～46 を通読し、ポイントに印をつける。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。
第 1 3 回	5) 構造的同音異義 (pp. 43～) : 練習問題	事前学習	練習問題を自力で解いてみる。必要に応じ辞書を活用する。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。
第 1 4 回	6) 発展的な学習	事前学習	配付された練習問題を自力で解いてみる。必要に応じて辞書を活用すること。
		事後学習	重要項目を復習し、専門用語(日本語・英語)を記録する。学んだことを図式化しておくこと。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	これまでに学んだ事を復習し、弱点を補強しておくこと。学んだ事は図式化しておくこと。
		事後学習	これまで学んだことを良く復習し、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語科指導法 I (4 単位)		3. 科目番号	EDEN3341
2. 授業担当教員	井草 玲子			
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	英語教育の理論と実践の両側面をバランス良く学びながら、中学校及び高等学校の英語の教員免許状の取得を希望する者にとって必要不可欠な基礎知識を身につけることを目標とする。具体的には、世界の言語、言語の習得、代表的な英語教授法、学習指導要領、英語教育に関する基本用語などについて学ぶ。実践的な側面としては、聞く、話す、読む、書くといった 4 技能に焦点を当てた指導技術を学び、より良い授業を展開するために必要な事柄を考察し、学習していく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校及び高等学校における英語教育の指導目標について理解を深めることができる。 2. 代表的な英語教授法の特徴、長所、短所を学習し、英語科教育への適用を考察することができるようになる。 3. 教育現場で活用できるよう、英語の発音・語彙・文法と英語の 4 技能の指導技術の学びを深めることができる。 4. 言語テストと評価に関する理解を深め、学習者のニーズ・英語力・授業の効果を把握し、学習指導に生かす土台を形成することができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：授業の予習と復習 (事前学習と事後学習の欄を参照のこと) レポート課題： <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な英語教授法の特徴、長所、短所を指摘し、英語科教育への適用について述べよ。 2. 中学校及び高等学校学習指導要領 (外国語) の特徴を述べよ。 3. 言語テスト作成上の留意点について述べよ。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 岡 秀夫 編著『グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法—』成美堂、2011。 文部科学省『中学校学習指導要領外国語編』開隆堂、2008。 文部科学省『高等学校学習指導要領外国語編』開隆堂、2009。 【参考書】 村野井 仁・千葉 元信・畑中 孝實共著『実践的英語科教育法：総合的コミュニケーション能力を育てる指導』成美堂、2008。			
11. 成績評価の方法	期末テスト 30% 復習テスト 20% レポート 30% コースワーク 20% (授業中の態度・言語活動参加度・ワークシート・グループワークレポートを含む)			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 年時に学習した『教室英語 (Classroom English)』の復習をしっかり行ってください。模擬授業、中学校や高等学校での教育実習時、そして、将来の教育現場で、即、役に立ちます。 2. 講義終了後、その講義に関連する分野の英語の文献を積極的に読みましょう。英語教育の理解が深まりますし、英語力も向上します。 3. 聞き、話し、読み、書くといった 4 技能の向上に努めてください。バランスの取れた英語力のある英語教員が求められていますから。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	Introduction：講義概要・学習目標・学習方法 (予習の仕方、授業中の取り組み、復習の仕方、採用試験に向けての準備) 第 1 章 世界の中の英語 ①世界の言語事情 ②英語の広がり ③日本の英語教育の置かれた立場	事前学習	教科書のまえがきと内容のページに目を通す。第 1 章を通読し、重要点に印をつけておくこと。	
		事後学習	重要点を整理し、まとめておくこと。	
第 2 回	④小学校外国語活動の目的と目標 ⑤関連分野から見る外国語活動の意義と方向性	事前学習	④に関する配布資料に目を通しておくこと。	
		事後学習	④、⑤の重要点を整理し、まとめておくこと。	
第 3 回	第 2 章 第二言語習得 (SLA) ①言語の習得とは ②第二言語習得に影響を与える要因	事前学習	第 2 章を通読し、重要点に印をつけておくこと。	
		事後学習	重要点 (日本語と英語) は整理し、まとめておくこと。	
第 4 回	③第二言語能力とは	事前学習	③を通読し、重要点に印をつけておくこと。	
		事後学習	重要点 (日本語と英語) は整理し、まとめておくこと。復習テスト①の準備	
第 5 回	復習テスト① 第 3 章 外国語教授法概説：歴史的背景・指導法の特徴・活用法と問題点 ① 文法訳読法 (The Grammar Translation Method)	事前学習	第 3 章の①の指導法の歴史的背景及び特徴を把握すること。【レポート 1 に対応】	
		事後学習	左記の指導法の活用法と問題点についてまとめること。【レポート 1 に対応】	
第 6 回	② 直接教授法 (The Direct Method)	事前学習	左記の指導法の歴史的背景及び特徴を把握すること。【レポート 1 に対応】	
		事後学習	左記の指導法の活用法と問題点についてまとめること。【レポート 1 に対応】	
第 7 回	第 3 章 ③ The Oral Method	事前学習	左記の指導法の歴史的背景及び特徴を把握すること。【レポート 1 に対応】	
		事後学習	左記の指導法の活用法と問題点についてまとめること。【レポート 1 に対応】	
第 8 回	④ The Oral Approach / the Audiolingual Method	事前学習	左記の指導法の歴史的背景及び特徴を把握すること。【レポート 1 に対応】	

		事後学習	左記の指導法の活用法と問題点についてまとめること。 【レポート1に対応】
第9回	第3章 ⑤ Communicative Approaches	事前学習	左記の指導法の歴史的背景及び特徴を把握すること。【レポート1に対応】
		事後学習	左記の指導法の活用法と問題点についてまとめること。 【レポート1に対応】
第10回	⑥タスク中心教授法 (task-based instruction)	事前学習	左記の指導法の歴史的背景及び特徴を把握すること。【レポート1に対応】
		事後学習	左記の指導法の活用法と問題点についてまとめること。 【レポート1に対応】
第11回	第3章 ⑦ 内容重視の教授法 (Content-based Language Teaching)	事前学習	左記の指導法の歴史的背景及び特徴を把握すること。【レポート1に対応】
		事後学習	左記の指導法の活用法と問題点についてまとめること。 【レポート1に対応】
第12回	⑧その他の教授法 (T.P.R. the Natural Approach)	事前学習	左記の指導法の歴史的背景及び特徴を把握すること。【レポート1に対応】
		事後学習	左記の指導法の活用法と問題点についてまとめること。 【レポート1に対応】
第13回	第4章 学習指導要領 ①学習指導要領の変遷 ②中学校学習指導要領の特徴	事前学習	第4章を通読し、①、②の重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	中学校学習指導要領の特徴をまとめておくこと。【レポート2に対応】
第14回	③高等学校学習指導要領の特徴	事前学習	左記の学習指導要領の重要点に印をつけておくこと。【レポート2に対応】
		事後学習	高等学校学習指導要領の特徴をまとめておくこと。【レポート2に対応】 レポート2の作成、提出は2週間後。
第15回	第5章 言語要素の指導 ①発音指導	事前学習	第5章を通読し、①の重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。
第16回	②語彙指導	事前学習	②の重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。復習テスト②の準備。
第17回	復習テスト② 第5章 ③文法指導	事前学習	第5章の文法指導を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	文法指導の指導上の留意点をまとめておくこと。
第18回	③文法指導の実践 (Micro-teaching)	事前学習	文法指導を行う際の留意点について考察せよ。
		事後学習	文法指導を行い、良かった点と問題点と今後の課題についてまとめておくこと。
第19回	第6章 4技能の活動 ① Teaching Listening : 理論と実践	事前学習	第6章の①を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。
第20回	② Teaching Speaking : 理論と実践	事前学習	第6章の②を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。復習テスト③の準備。
第21回	復習テスト③ ③ Teaching Reading	事前学習	第6章③を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理しまとめておくこと。
第22回	④ Teaching Writing ⑤ 4技能を統合させた言語活動	事前学習	第6章④⑤を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理しまとめておくこと。
第23回	第9章 評価とテスト ①テストの目的と種類	事前学習	第9章①を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。
第24回	②テストの備えるべき条件: 信頼性、妥当性、実用性	事前学習	第9章②を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。【レポート3に対応】
第25回	③テスト得点の解釈と分析 ④到達度テストのあり方 (pp. 120~)	事前学習	第9章③④を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。
第26回	⑤テストの種類 (pp. 121~) (1) 理解力を測るテスト (2) 発信力を測るテスト	事前学習	第9章⑤を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。復習テスト④の準備。
第27回	復習テスト④ 第10章 学習者 ①学習者要因 : 言語適性、知性・知能、動機づけ、個性、年齢、認知スタイルなど。	事前学習	第10章を通読し、重要点に印をつけておくこと。
		事後学習	重要点(日本語と英語)は整理し、まとめておくこと。
第28回	②学習者要因についての Group Discussion	事前学習	学習者要因についての理解を深めておくこと。
		事後学習	学習者要因について自分の考えをまとめておくこと。
第29回	第11章 教員養成と教員研修 本章をベースに、理想の教師像についての考察。 Group Discussion.	事前学習	Group Work 課題に取り組むため、第11章を丁寧に読んでおくこと。
		事後学習	理想の教師像について自分の考えをまとめておくこと。
第30回	Group Presentation まとめ	事前学習	Group Presentation に向けて準備をする。
		事後学習	期末テストに向けて、英語科指導法 I の知識を確かなものとする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習 I (文法・読解) (2 単位)		3. 科目番号	EDEN1301
2. 授業担当教員	山口 敬雄			
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	英語の「読む力」や他の技能を向上させるには、英文法の基礎知識が不可欠である。本科目では英文法の基礎的な事項を改めて復習しながら様々な形態の練習問題をこなすことで、各自が持つ文法知識をより実践的に活用できるようになるよう目指す。特に英語の文構造を理解しながら意味を把握することで、英文をより正しく解釈するための基礎を培っていく。また文法力と同時に語彙力も必要であるため、継続的に語彙知識の増強を図っていく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の基礎をしっかりと固めて、自分の持つ文法知識をより体系的に捉えられるようになる。 2. 学習した英文法を英語の「読む力」や他の技能の養成へと実践的に活かせるようになる。 3. 英文読解や他の技能の養成に必要な語彙知識の量を効果的に増やせるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	英語の習得には、反復学習が極めて有効であると同時に不可欠である。したがって、本科目では指定教科書に付属されているコンピュータ上の復習用学習プログラムを使用し、授業で学習した内容に加えた応用問題まで含めて、自宅での自習を毎週課す。コンピュータ上での学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】小野博監修 清田洋一他著『English Quest Basic』桐原書店。			
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト・課題 30% 授業への積極的参加度その他 20%			
12. 受講生へのメッセージ	英文の読解力を身につけるためには、文法事項を確認して、構文を正確に把握すること。また、辞書をよく引いて予習に十分時間をかけ、疑問点を明らかにして授業に臨むことが大切である。			
13. オフィスアワー	初回にアナウンスする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	Introduction : 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	速やかに教科書を入手し、必ず 90 分以上かけて通読する。	
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。	
第 2 回	Unit 1 : 「文の成り立ち」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit1 の文法事項 (p. 2) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit1 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 3 回	Unit 2 : 「時制」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit2 の文法事項 (p. 8) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit2 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 4 回	Unit 3 : 「文型 (1)」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit3 の文法事項 (p. 14) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit3 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 5 回	Unit 4 : 「文型 (2)」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit4 の文法事項 (p. 20) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit4 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 6 回	Unit 5 : 「現在完了形」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit5 の文法事項 (p. 26) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit5 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 7 回	Unit 6 : 「助動詞」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit6 の文法事項 (p. 32) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit6 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 8 回	Unit 7 : 「受動態」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit7 の文法事項 (p. 38) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit7 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 9 回	Unit 8 : 「不定詞」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit8 の文法事項 (p. 44) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit8 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 10 回	Unit 9 : 「動名詞」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit9 の文法事項 (p. 50) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit9 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 11 回	Unit 10 : 「分詞」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit10 の文法事項 (p. 56) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit10 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 12 回	Unit 11 : 「比較」文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit11 の文法事項 (p. 62) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit11 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 13 回	Unit 12 : 「関係詞」文法事項の解説と練習問題及び単語テスト	事前学習	Unit12 の文法事項 (p. 68) を熟読し、要点をノートにまとめる。	
		事後学習	Unit12 のリメディアル的補習学習 80% 以上にして翌週提出する。	

平成 28 年度

			る。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 4 回	Unit 13 : 「仮定法」 文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit13 の文法事項 (p. 74) を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	Unit13 のリメディアル的補習学習 80%以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 5 回	Unit 14 : 「否定表現」 文法事項の解説と練習問題	事前学習	Unit14 の文法事項 (p. 80) を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	Unit14 のリメディアル的補習学習 80%以上にして翌週提出する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習Ⅱ (文法・読解) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1302
2. 授業担当教員	別府 結起		
4. 授業形態	演習 (ペアワーク)、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	小学校の英語の授業では、「聞く」、「話す」を中心とするコミュニケーションに重点が置かれることになった。また、今回の高等学校の指導要領の改訂では、小学校や中学校から英語を聞いて話すことに慣れる必要性がますます要求されることになった。そのため小学校などで英語を教える場合には、よく使用する英語表現 (教室英語) に習熟しておく必要があり、子どもたちがよく質問する身近な英単語を学習しておく必要がある。この授業では、このような英単語や英語表現を身につけて、小学生などに英語を楽しく学ばせるための手法を考察し、実践する。		
8. 学習目標	1. 教室でよく使う教室英語を習熟する。 2. 子どもたちに身近な英単語や英語表現を身につけさせることができるようになる素地を養う。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	Students need to submit lesson plan before break. Detailed information will be given in class.		
10. 教科書・参考書・ 教材	Houghton Mifflin Reading 1.1-1.5 Houghton Mifflin Reading Practice Book Grade 1 volume 2: Theme 5-10 (Students don't have to buy a textbook for this class)		
11. 成績評価の方法	Attendance & Participation 20 % Homework Packet 65 % Presentation 5 % Portfolio 10 %		
12. 受講生への メッセージ	In this class, all the content of the class will be taught in English. In so doing, you learn how to guide school children by you actually experiencing how English class would be taught. Your active participation of the class activities is absolutely necessary		
13. オフィスアワー	To be announced in the first class		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction: How class proceeds and explanation of requirements Calendar Read aloud: I Love You Forever Cover Theme 1-4	事前学習	Read syllabus carefully, and be ready for a class.
		事後学習	Read Moving Day and Me on the Map. Review what assignments you are required to do.
第 2 回	Theme 5: Home Sweet Home Calendar Read aloud: Me on the Map	事前学習	Complete the Homework Packet 1
		事後学習	Read Me on the Map, and make your own version of "Me on the Map."
第 3 回	Theme 5: Home Sweet Home Calendar Read aloud: Grandfather's Journey	事前学習	Complete the Homework Packet 2
		事後学習	Read Grandfather's Journey, and make your own version of "Grandfather's Journey."
第 4 回	Poetry: Song Calendar Read aloud: Baby Beluga	事前学習	Complete the Homework Packet 3. Find easy English Song to share in a class.
		事後学習	Read The Sleeping Pig and EEK, There's a Mouse in the House.
第 5 回	Theme 6: Animal Adventures Calendar Read aloud: Slowly, Slowly, Slowly said the Sloth	事前学習	Complete the Homework Packet 4.
		事後学習	Read Red-Eyed Tree frog.
第 6 回	Theme 6: Animal Adventures Calendar Read aloud: Brown Bear, Brown Bear, What do you see?	事前学習	Complete the Homework Packet 5.
		事後学習	Make your own version of "Brown Bear, Brown Bear, What do you see?" Book.
第 7 回	Theme 7: We can Work It Out Calendar Read aloud: The Giving Tree	事前学習	Complete the Homework Packet 6.
		事後学習	Read That Todd is Mine, and Lost.
第 8 回	Theme 7: We can Work It Out Calendar Read aloud: That's not My Fault	事前学習	Complete the Homework Packet 7.
		事後学習	Read If you Give a Pig a Pancake.
第 9 回	Theme 8: Our Earth Calendar Read aloud: Very Hungry Caterpillar	事前学習	Complete the Homework Packet 8.
		事後学習	Read Forest and Butterfly.
第 10 回	Theme 8: Our Earth Calendar Read aloud: The Grouchy Ladybug	事前学習	Complete the Homework Packet 9.
		事後学習	Read Johnny Appleseed.
第 11 回	Theme 9: Special Friends Calendar Read aloud: The New Friend Preparation for the presentation after break	事前学習	Complete the Homework Packet 10.
		事後学習	Read When I am Old With You.

平成 28 年度

第 1 2 回	Theme 9: Special Friends Calendar Read aloud: Dumb Bunnies Presentation①	事前学習	Complete the Homework Packet 11. Prepare for the presentation
		事後学習	Read The New Friend and Surprise Family.
第 1 3 回	Theme 10: We Can Do It! Calendar Read aloud: The Hat Presentation②	事前学習	Complete the Homework Packet 12. Prepare for the presentation
		事後学習	Read Two Greedy Bears, and Fireflies for Nathan.
第 1 4 回	Theme 10: We Can Do It! Calendar Read aloud: Swimmy Presentation③	事前学習	Complete the Homework Packet 13. Prepare for the presentation.
		事後学習	Read the Hat. Find any English book and make your own activity.
第 1 5 回	Review of all the classes Calendar Read aloud: Ghost Dinner	事前学習	Write Report of how you would teach children English in elementary school. Include your own presentation activity in your report. Detailed information will be announced in class.
		事後学習	Check and review the portfolio.

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習Ⅲ (文法・作文) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2301
2. 授業担当教員	井草 玲子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、 ペア・グループ活動		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英文法事項の整理・確認と英作文の展開を融合させたテキストを用いる。英文法の基礎的な事項を復習し確認しながら英文を書く基礎を身につける。また、各課の重要事項を踏まえたうえで自ら相手に伝えたいことを英語で「書く」訓練も合わせて積んでいく。将来のパラグラフライティングへの橋渡しの授業となるよう目指す。		
8. 学習目標	1. 英文を書くために必要な英文法の基本的な事項の復習と確認を行い、実際に基礎的な英文が書けるようになる。 2. 自分で書いた英文の問題点を知り、より良い英文を書くことができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：授業の予習と復習をする。事前学習と事後学習の欄を参照してください。 レポート課題： 1. Paragraph Writing I (指定されたタイトルで執筆し、A4のレポート用紙に1行おきを書いて提出。 2. Paragraph Writing II (指定されたタイトルで執筆し、A4のレポート用紙に1行おきを書いて提出。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山内信行・赤楚治之・北林利治共著『文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ From Grammar through Composition to paragraph Writing』英宝社、2013。		
11. 成績評価の方法	期末試験 35% 小テスト 25% レポート 20% 授業中の態度・積極的参加度 20%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 各課の文法のまとめをしっかりと読み、練習問題にあたり、授業に臨んでください。 2. 授業中は、自分で書いた英文の添削をしつつ、自分の英文の強み、弱みを知り、今後の英文執筆に活かしてください。 3. 授業で学んだ良い英語表現や、今後の学習や仕事に役立つ単語・熟語・慣用句は声に出して読み、正確に書けるようよく練習してください。		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction : 講義概要・学習目標・学習方法。 アンケートの実施	事前学習	はしがき、目次を読み、今後の学習内容の確認をする。
		事後学習	自分の英文執筆の問題点と対策を考察する。
第2回	Introduction 第1章 英文をうまく組み立てるには？ (主語、目的語、補語) 文法のまとめ・Writing Practice	事前学習	第1章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文を書く。
		事後学習	文法ポイントを確認後、添削した英文を覚える。
第3回	第1章 Writing Practice. 英文の推敲のポイント	事前学習	第1章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文の推敲をする。
		事後学習	自分の英文の問題点と対策を考察する。 復習テスト①の準備をする。
第4回	復習テスト① 第2章 動詞に着目してみると？(動詞・文型) 文法のまとめ・Writing Practice	事前学習	第2章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文を書く。
		事後学習	文法ポイントを確認後、添削した英文を覚える。 レポート課題1の執筆、提出は2週間後とする。
第5回	第2章 Writing Practice	事前学習	第2章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文の推敲をする。
		事後学習	自分の英文の問題点と対策を考察する。 復習テスト②の準備をする。
第6回	復習テスト② 第3章 時間を点としてとらえる表現は？ (時制) 文法のまとめ・Writing Practice	事前学習	第3章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文を書く。
		事後学習	文法ポイントを確認後、上記の英文を覚える。
第7回	第3章 Writing Practice	事前学習	第3章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文の推敲をする。
		事後学習	自分の英文の問題点と対策を考察する。 復習テスト③の準備をする。
第8回	復習テスト③ 第4章 時間を線としてとらえる表現は？(相) 文法のまとめ・Writing Practice	事前学習	第4章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文を書く。
		事後学習	文法ポイントを確認後、上記の英文を覚える。
第9回	第4章 Writing Practice	事前学習	第4章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文の推敲をする。
		事後学習	自分の英文の問題点と対策を考察する。 復習テスト④の準備をする。 レポート課題2の執筆、提出は2週間後とする
第10回	復習テスト④ 第5章 動詞の働きを担う表現は？(不定詞) 文法のまとめ・Writing Practice	事前学習	第5章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文を書く。
		事後学習	文法ポイントを確認後、上記の英文を覚える。
第11回	第5章 Writing Practice	事前学習	第5章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文を推敲する。
		事後学習	自分の英文の問題点と対策を考察する。 復習テスト⑤の準備をする。
第12回	復習テスト⑤ 第6章 動詞と名詞の働きを担う表現は？(動名詞) 文法のまとめ・Writing Practice	事前学習	第6章の文法の復習・確認を行い、練習問題1, 2の英文を書く。
		事後学習	文法ポイントを確認後、上記の英文を覚える。

平成 28 年度

第 13 回	第 6 章 Writing Practice	事前学習	第 6 章の文法の復習・確認を行い、練習問題 1, 2 の英文を推敲する。
		事後学習	自分の英文の問題点と対策を考察する。
第 14 回	発展的な学習	事前学習	発展的な学習のために、予習をする。
		事後学習	文法ポイントを確認後、上記の英文を覚える。
第 15 回	まとめ これからの Writing 学習への助言	事前学習	英文を書く際の留意点について考えてくる。
		事後学習	これまでの学習を振り返り、弱点補強をし、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読 I (2 単位)		3. 科目番号	EDEN1311
2. 授業担当教員	井草 玲子			
4. 授業形態	講義 演習 グループディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この授業では、英語基礎演習で習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、英文の構造と意味内容を正確に把握し、英文の読解力の向上をはかり、中学校または高等学校で教育実習を確実にこなして、中学・高校教諭一種免許を取得できるようにすることを目指す。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法を応用して構文を確認しながら、英文を読んで意味内容を把握する力を身に着けるようになる。 2. 英文の読解力向上には、単語力の向上が必要である。そのため、英語の単語の増やし方や、知らない単語の意味を文の前後関係から推測する方法を学び、実際の英文講読に活用できるようにする。 3. 英文を読むこと、書くこと、聞くこと、話すことの 4 技能を統合した言語活動を通じて、英語力の向上に努めることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：授業の予習と復習 (事前学習、事後学習の欄を参照してください。) レポート課題： <ol style="list-style-type: none"> 1. Spidergramを活用した語彙学習に関するレポート 2. Text 3 の英文を要約し、関連事項を調べまとめたレポート 3. Text 4 の英文を要約し、日本と英国の大学を比較するレポート 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Terry O' Brien 他『The UK and the USA :英米比較で英語を学ぶ』南雲堂、2011。			
11. 成績評価の方法	期末試験 : 30% 復習テスト : 20% レポート課題 : 30% コースワーク (授業中の態度・言語活動参加度・グループワークレポート) : 20%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語は積み重ねの教科です。日々の努力が、近い将来実を結びます。コツコツ努力を続けてください。 2. 英語学習は、目標を定めて学習をすると、効果が上がります。将来就きたい職業の事を良く考え、そのために必要な英語力とは何かを常に考えつつ、日々の英語の予習復習に励んでください。 3. 英文講読の際には、目的を持って、英文を 2 回読みましょう。1 回目は、辞書を使用せずに読み、設問に答え、自分の読解力をチェックし、2 回目は、文法の知識と辞書を最大限に活用し、英文の内容を正確に把握しましょう。 4. 受講の心構えとしては、常に他の受講生の事を思いやり、落ち着いて授業を受け、与えられている学習の機会を最大限に活用し、積極的に学んでください。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	Introduction : 講義概要・学習目標・学习方法 (予習の仕方・授業の受け方・復習の仕方等) 1. Terror in the City (p.6): 新出単語・熟語・表現の確認・音読の練習	事前学習	英文法を応用しながら、予習をし、英文の全体構造と意味内容を把握する。	
		事後学習	予習や授業中に学んだ単語・熟語・表現の復習をし、理解を深める。	
第 2 回	1. Terror in the City (p.6) : 本文の読解	事前学習	段落ごとの内容を把握し、本文全体の内容を把握する。	
		事後学習	本文の内容のポイントを箇条書きにする。	
第 3 回	1. Terror in the City (pp.6 ~ 9) : 練習問題・発展的な学習	事前学習	練習問題に取り組む。	
		事後学習	復習テスト①の準備。	
第 4 回	復習テスト① 2. British History (p.14) : 新出単語・熟語・表現の確認・音読の練習	事前学習	英文法を応用しながら、予習をし、英文の全体構造と意味内容を把握する。	
		事後学習	予習や授業中に学んだ単語・熟語・表現の復習をし、理解を深める。	
第 5 回	2. British History (pp.14~17) : 本文の読解	事前学習	段落ごとの内容を把握し、本文全体の内容を把握する。	
		事後学習	本文の内容のポイントを箇条書きにする。	
第 6 回	2. British History (pp.14~17) : 練習問題・発展的な学習 (Spidergram を活用した語彙学習)	事前学習	練習問題に取り組む。本課の重要単語の意味の確認。	
		事後学習	レポート①を完成させる。復習テスト②の準備。	
第 7 回	復習テスト② 3. American History (p.22) : 新出単語・熟語・表現の確認・音読の練習	事前学習	英文法を応用しながら、予習をし、英文の全体構造と意味内容を把握する。	
		事後学習	予習や授業中に学んだ単語・熟語・表現の復習をし、理解を深める。	
第 8 回	3. American History (pp.22~25) : 本文の読解	事前学習	段落ごとの内容を把握し、本文全体の内容を把握する。	
		事後学習	本文の内容のポイントを箇条書きにする。	
第 9 回	3. American History (pp.22~25) : 練習問題・発展的な学習	事前学習	練習問題に取り組む。	
		事後学習	復習テスト③の準備をする。	
第 10 回	復習テスト③ 4. Universities in the UK (pp.38~41) : 新出単語・熟語・表現の確認・音読の練習	事前学習	英文法を応用しながら、予習をし、英文の全体構造と意味内容を把握する。	
		事後学習	予習や授業中に学んだ単語・熟語・表現の復習をし、理解を深める。	
第 11 回	4. Universities in the UK (pp.38~41) : 本文の読解	事前学習	段落ごとの内容を把握し、本文全体の内容を把握する。	
		事後学習	本文の内容のポイントを箇条書きにする。	
第 12 回	4. Universities in the UK (pp.38~41) : 練習問題・発展的な学習	事前学習	練習問題に取り組む。	
		事後学習	復習テスト④の準備をする。	

平成 28 年度

第 1 3 回	復習テスト④ 5. Old Houses (pp. 58~61) : 新出単語・熟語・表現の確認・音読の練習	事前学習	英文法を応用しながら、予習をし、英文の全体構造と意味内容を把握する。
		事後学習	予習や授業中に学んだ単語・熟語・表現の復習をし、理解を深める。
第 1 4 回	5. Old Houses (pp. 58~61) : 本文の読解	事前学習	段落ごとの内容を把握し、本文全体の内容を把握する。
		事後学習	本文の内容のポイントを箇条書きにする。
第 1 5 回	5. Old Houses (pp. 58~61) : 練習問題 まとめ	事前学習	練習問題に取り組む。これまでに学んだ事を良く復習し、質問の準備をする。
		事後学習	期末試験に向けて、整理と復習を完了する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅳ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2311
2. 授業担当教員	山口 敬雄		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文からなる英文を読む力を身につけるため、多種多様な文学的英語テキストを読む。英語テキストを正しい語彙と正しい文法で読むことはもちろんのこと、小説であるがゆえに生じる「行間」の意味作用をも、正しく追及する。また、英語基礎演習で習得した知識を駆使して文学的英語テキストを読解することで、理論的知識の実践的な活用を図る。幅広いジャンルの英語テキストに触れることにより、多様な英語表現に親しむことが本科目のもう一つの眼目である。		
8. 学習目標	1: 学習辞典を適切に引くことができるようになる。 2: 多種多様な英語表現に親しみ、読解できるようになる。 3: 長文の英語テキストを、忍耐強く読み続けることができるようになる。 4: 英文法の知識を駆使しつつも、英語テキストをイメージ豊かに読み進めることができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アメリカ文学史に問題意識を持って取り組むために、また、長文英語テキストの要点を押さえて読解する力を涵養するために、授業で提示されたレポート課題の中から一つを選択してレポート作成する課題を定期的に課す。学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】適宜授業でプリントを配付する。		
11. 成績評価の方法	期末テスト 40% 小テスト・課題 40% 授業への積極的参加度・その他 20%		
12. 受講生への メッセージ	指定した範囲を事前・事後に必ず読んで、予習・復習すること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。辞書を必ず持参すること。		
13. オフィスアワー	初回にアナウンスする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	本科目用学習ノートブックを準備し、講義に望むこと。また、英語基礎演習Ⅰの総復習をしておく。
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。
第 2 回	植民地時代とアメリカ合衆国の誕生	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 3 回	国民文学の興隆とアメリカン・ルネサンス	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 4 回	南北戦争と「金ぴか時代」	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 5 回	リアリズムと自然主義の時代	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 6 回	世紀転換期と文学転換期	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 7 回	1930 年代までの詩	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。

第 8 回	Mid-term Test	事前学習	ここまで授業で取り扱った範囲を、必ず 90 分以上かけて通読し、不明瞭な知識を整理する。
		事後学習	テストを機会に曖昧で定着していないと気づいた知識を見直し、整理する。
第 9 回	「失われた世代」作家	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 10 回	1930 年代	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 11 回	1940 年代と 1950 年代	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 12 回	1960 年代と 1970 年代	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 13 回	黒人作家	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 14 回	演劇とポピュラー・フィクション	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 15 回	Conclusion: 本科目のまとめ	事前学習	事前に配付されるプリントの英単語を調べておく。また、扱うテーマへの自分の疑問をまとめておく。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し、要点を確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーション I (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1321
2. 授業担当教員	別府 結起		
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation, and Discussions	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	国際交流の手段・道具としての英語による、実践的なコミュニケーション能力を養う。基本はすべて英語での授業である。リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」力を養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらコミュニケーション能力向上を目指す。文法力を養うため、TOEIC の教材を適宜使用する。		
8. 学習目標	Students will learn how to communicate properly in English till the end of the semester. Students will foster their listening comprehension skills. Students will have confidence through actual communication in English. Students will be able to gain knowledge of pragmatics.		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Students can choose homework that will be given before the break. It will be announced in detail in class. *Research Project *Book Review *Article Review *Movie Review *Diary *Adventure *Skit *Dialogue Writing *Singing an English Song		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Title: <i>Cubic Listening: Breaking News</i> Authors: Kiggell, Bellars, Chandler, et al. Publisher: Macmillan Languagehouse (Extra textbook) <i>Key Reading for the TOEIC Test</i> Authors: Chizuko Tumor, Tomoyasu Miyano, and Miguel E. Corti Publisher: Macmillan Language House		
11. 成績評価の方法	Attendance and Participation 20 % Homework 10 % Presentation 10 % Quizzes 60 %		
12. 受講生へのメッセージ	Welcome to the English Communication Class I. We will have a fantastic time together while studying in English. You will find you know a lot in English, and it is time to use those skills you already have mastered over 6 years of English education. Through the listening practice, gain knowledge of spoken English!		
13. オフィスアワー	To be announced on the first day of the class		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction of the class, Unit 1 RECORDS: World's Biggest Hot Dog Part 1 How to do "Show and Tell"	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 1.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 1.
第 2 回	Show and Tell, Warm up, and Unit 1 World's Biggest Hot Dog Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 1.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud and practice Unit 1.
第 3 回	Show and Tell, Warm up and Unit 2 FINANCE: Ups and Downs Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 2.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 2.
第 4 回	Show and Tell, Warm up and Unit 2 FINANCE: Ups and Downs Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 2.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 2. Prepare for the Quiz 1.
第 5 回	Show and Tell, Warm up and Unit 3 WEATHER: Hot and Humid Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 3.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 3.
第 6 回	Show and Tell, Warm up and Unit 3 WEATHER: Hot and Humid Part 2 Quiz 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 1, 2, and 3. Prepare for the Quiz 1.
		事後学習	Review all the answers of the Quiz 1. Read aloud through Unit 1, 2, and 3.
第 7 回	Show and Tell, Warm up and Unit 4 SPORTS: Giants Win Again Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 4.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 4.
第 8 回	Show and Tell, Warm up and Unit 4 SPORTS: Giants Win Again Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 4.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 4

平成 28 年度

第 9 回	Show and Tell, Warm up and Unit 5 ROBBERY: Bank Robbers Steal Millions Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 5
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 5
第 10 回	Show and Tell, Warm up and Unit 5 ROBBERY: Bank Robbers Steal Millions Part 2 Quiz 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 4 and 5 Prepare for the Quiz 2
		事後学習	Review all the answers of the Quiz 2. Read aloud through Unit 4 and 5.
第 11 回	Show and Tell, Warm up and Unit 6 ENVIRONMENT: Pollution in the South Pacific Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 6
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 6
第 12 回	Show and Tell, Warm up and Unit 6 ENVIRONMENT: Pollution in the South Pacific Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 6
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 6
第 13 回	Show and Tell, Warm up, and Unit 7 CELEBRITIES: Twins for Star Couple Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 7
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 7
第 14 回	Show and Tell, Warm up, and Unit 7 CELEBRITIES: Twins for Star Couple Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 7
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 7
第 15 回	Show and Tell, Review of the Classes Quiz 3	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through all the Units Study Key Reading for the TOEIC TEST Prepare for the Quiz 3
		事後学習	Review all the answers of the Quiz 3. Read aloud through all the Units. Re-study Key Reading for the TOEIC Test problems

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションⅢ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2321
2. 授業担当教員	別府 結起	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	Listening and Reading practice, Building vocabulary, Presentation and Discussion.		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。1 年次と同様リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」力をさらに養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながら高いレベルでのコミュニケーション能力向上を目指す。		
8. 学習目標	Students will learn how to communicate efficiently in English till the end of the semester. Students will foster their listening comprehension skills. Students will increase their communication competence Students will be able to gain knowledge of pragmatics. Students will further develop their skills of listening, speaking, reading, and writing.		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Students can choose homework that will be given before the break. It will be announced in detail in class. *Research Project *Book Review *Article Review *Movie Review *Skit *Singing an English Song *Diary *Dialogue Writing		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 <i>Impact Listening 1: Second Edition</i> Ellen Kisslinger Todd Beuckens Series Editor: Michael Rost, Publisher: Pearson Longman		
11. 成績評価の方法	Attendance and Participation 20 % Homework 10 % Presentation 10 % Quizzes 60 %		
12. 受講生へのメッセージ	Welcome to the English Communication Class III. We will enjoy learning and communicating together. You will find you have learned a lot in English in the first year, and it is time to further develop your skills.		
13. オフィスアワー	To be announced on the first day in class.		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction of the class Unit 1 Greetings: How's it going? Part 1	事前学習	Read Through Unit 1. Check all the words.
		事後学習	Listen to Self-Study CD Unit 1. Prepare for Show and Tell.
第 2 回	Story to Share Unit 1 Greetings: How's it going? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 1.
		事後学習	Check all the answers in Unit 1. Prepare for Story to Share.
第 3 回	Story to Share Unit 2 Home: It's a great place. Part 1	事前学習	Read Through Unit 2. Check all the words.
		事後学習	Listen to Self-Study CD Unit 2. Prepare for Story to Share.
第 4 回	Story to Share Unit 2 Home: It's a great place. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 2.
		事後学習	Check all the answers in Unit 2. Prepare for Story to Share.
第 5 回	Story to Share Unit 3 Clothing: That looks good on you! Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 3.
		事後学習	Check all the answers in Unit 3. Prepare for Story to Share. Study for Quiz 1.
第 6 回	Story to Share Unit 3 Clothing: That looks good on you! Part 2 Quiz 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 1, 2, and 3.
		事後学習	Check all the answers of Quiz 1.
第 7 回	Story to Share Unit 4 Nationalities: Where are you from? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 4.
		事後学習	Check all the answers in Unit 4. Prepare for Story to Share.
第 8 回	Story to Share Unit 4 Nationalities: Where are you from? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 4.
		事後学習	Check all the answers in Unit 4. Prepare for Story to Share.
第 9 回	Story to Share Unit 5 People: Do you know who that is? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 5.
		事後学習	Check all the answers in Unit 5. Prepare for Story to Share.
第 10 回	Story to Share Unit 5 People: Do you know who that is? Part 2 Quiz 2	事前学習	Listen to Self-Study CD 4 and 5. Study for Quiz 2.
		事後学習	Check all the answers of Quiz 2. Prepare for Story to Share
第 11 回	Story to Share Unit 6 Family: What a nice family! Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 6.
		事後学習	Check all the answers of Unit 6. Prepare for Story to Share.
第 12 回	Story to Share Unit 6 Family: What a nice family! Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 6.
		事後学習	Check all the answers of Unit 6. Prepare

平成 28 年度

			for Story to Share.
第 1 3 回	Story to Share Unit 7 Directions: How do I get there? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 7.
		事後学習	Check all the answers in Unit 7. Prepare for Story to Share.
第 1 4 回	Story to Share Unit 8: Jobs. What kind of work do you do?	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 8.
		事後学習	Check all the answers in Unit 8.
第 1 5 回	Over All Review of the Classes Quiz 3	事前学習	Read through Unit 1 to 8. Study for Quiz 3.
		事後学習	Review all the answers of Quiz 3.

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションV (2単位)	3. 科目番号	EDEN3321
2. 授業担当教員	別府 結起		
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation and Discussions	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。1・2年次と同様リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」力をさらに養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらさらに高いレベルで英語コミュニケーション能力向上を目指す。		
8. 学習目標	Students will communicate efficiently and fluently in English. Students will foster their listening comprehension skills. Students will increase their communication competence Students will be able to gain knowledge of pragmatics. Students will further develop their skills of listening, speaking, reading, and writing. Students will be able to express their opinions clearly in English.		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Students can choose homework that will be given during the break. It will be announced in detail in class. *Research Project *Book Review *Article Review *Movie Review *Skit *Singing an English Song *Diary *Dialogue Writing		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 <i>Impact Listening 2: Second Edition</i> Authors: Jill Robbins, Andrew MacNeill Publisher: Pearson Longman		
11. 成績評価の方法	Attendance and Participation 20 % Homework 10 % Presentation 10 % Quizzes: 60 %		
12. 受講生へのメッセージ	Welcome to the English Communication Class V. We will learn to be able to speak in English. You will find you have learned a lot in past years, and it is time to further develop your communication skills in English.		
13. オフィスアワー	To be announced on the first day in class.		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction of the class Unit 1 Introduction: You really like him. Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 1.
		事後学習	Check all the answers in Unit 1 as you listen to Self-Study CD.
第2回	Story to Share and Warm up Unit1 Introduction: You really like him. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 1. Prepare for Story to Share.
		事後学習	Check all the answers in Unit 1 again.
第3回	Story to Share and Warm up Unit 2 Personality: What do you like about him? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 2.
		事後学習	Check all the answers in Unit 2 as you listen to Self-Study CD.
第4回	Story to Share and Warm up Unit 2 Personality: What do you like about him? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 2. Prepare for Story to Share.
		事後学習	Check all the answers in Unit 2 again.
第5回	Story to Share and Warm up Unit 3 Home: The view is great. Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 3.
		事後学習	Check all the answers in Unit 3 as you listen to Self-Study CD.
第6回	Story to Share and Warm up Unit 3 Home : The view is great. Part 2 Quiz 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 1, 2, and 3. Prepare for Story to Share and Quiz 1.
		事後学習	Check all the answers in Quiz 1 again.
第7回	Story to Share and Warm up Unit 4 Technology: How does it work? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 4.
		事後学習	Check all the answers in Unit 4 as you listen to Self-Study CD.
第8回	Story to Tell and Warm up Unit 4 Technology: How does it work? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 4. Prepare for Story to Share.
		事後学習	Check all the answers in Unit 4 again.
第9回	Story to Share and Warm up Unit 5 Nationalities: All around the world. Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 5.
		事後学習	Check all the answers in Unit 5 as you listen to Self-Study CD.
第10回	Story to Share and Warm up Unit 5 Nationalities: All around the world. Part 2 Quiz 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 4 and 5. Prepare for Story to Share and Quiz 2.
		事後学習	Check all the answers in Quiz 2 again.
第11回	Story to Share and Warm up Unit 6 Identity: What's your number? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 6.
		事後学習	Check all the answers in Unit 6 as you listen to Self-Study CD.
第12回	Story to Share and Warm up Unit 6 Identity: What's your number? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 6. Prepare for Story to Share.
		事後学習	Check all the answers in Unit 6 again.
第13回	Story to Share and Warm up	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 7.

平成 28 年度

	Unit 7 Family: I really take after my dad. Part 1	事後学習	Check all the answers in Unit 7 as you listen to Self-Study CD.
第 1 4 回	Story to Share and Warm up Unit 7 Family: I really take after my dad. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 7.
		事後学習	Check all the answers in Unit 7 again.
第 1 5 回	Over All Review of the Classes Quiz 3	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 1 to 7. Prepare for Quiz 3.
		事後学習	Review all the classes and make a portfolio.

1. 科目名 (単位数)	衛生学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2311
2. 授業担当教員	鈴木 路子・榎本 ヒカル		
4. 授業形態	講義を中心に、演習、実習等を導入する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解するとともに、それらが健康に如何なる影響を及ぼすかを考え、併せて、子供のときからよい環境衛生条件を維持することが重要であることを認識することを主なねらいとして、人間生活における身近な問題としての環境衛生を理解する。 よりよく「生きること」を「衛(護衛する)学問」衛生学は、①生きるための資源、②生きる場(生活の場)、③生きる様式(生活習慣)が、人類の存続、生活生存に影響することに視点を当てている。空気・水・光・土壌・植生・食品、住居・被服・学校・職場等の環境衛生学を核にして、人間生態系にまで視点を広げ、学校教育や就学前教育を支える保育士・養護教諭・保健科教師の専門性の基礎基盤を修得することを目的とする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 人間の生きる力は、環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解し、応用することが出来る。 環境の捉え方を包括することが出来る。 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解する。 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測する。 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等の理解とその体系を構築する。 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことが出来る。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【アサイメント(宿題)】: 原稿用紙5枚以内。提出日は、授業時に指定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校環境衛生の基準について説明せよ。 気象因子と人間の心身状態との関連を説明せよ。 建築基準法と建築物衛生管理基準について検討せよ。 各種職場環境の環境衛生の実態と労働者への健康影響について課題を発見し、解決の方法を模索せよ。 環境衛生から環境保健、主体一環境系へ、細胞・組織・器官のレベルから環境との関わりを検討せよ。 <p>【レポート課題】: 最終授業時に提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間一環境系について、環境衛生学の立場から論述せよ。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】鈴木路子・真野喜洋編著『教育健康学—教育と医療の接点を求めて』ぎょうせい。</p> <p>【参考書】鈴木路子編著『人間環境・教育福祉論』光生館。 鈴木庄亮『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂。</p>		
11. 成績評価の方法	アサインメント 30%、レポート 30%、日常の授業態度(質疑応答、授業後の学習達成振り返り調査) 40%		
12. 受講生への メッセージ	人間の健康、心身状態・生命現象は、環境との相互作用の中で営まれること、多くのストレスへの身体内部の諸反応を含めた内部環境は、身近な生活環境から、地球環境レベルでの外部環境との相互作用の中で存続していることを実感するため、各種測定を行って共に考えてゆくひと時に使いたいと思います。人間(内部環境)は長い人類の歴史の中で外的環境への適応という形で存続していることを衛生学の理念として理解されたい。		
13. オフィスアワー	授業中に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	衛生学とは? 健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解を深める	事前学習	教科書全体の内容構造を把握しておく
		事後学習	自らの健康問題を解決のための基盤としての「衛生学」の理解を深める(判別討論ポ)
第2回	人間生態系のとらえ方を基盤にした人間の生活生存のあり方を考える	事前学習	新聞記事等の情報を収集し、人間生態系の考え方を導入し、人類の生活生存の在り方を考える
		事後学習	教科書2部第2章 pp. 191~195、配布資料の復習
第3回	自然環境と人の健康、生命、発育、人工環境化によって生じる健康上のゆがみに関する具体的健康現象—生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応に視点をおいて—	事前学習	教科書 pp. 24~29 を読み、人間の発育現象を知る
		事後学習	授業時のプリント併用、人間の健康現象を適応の概念で理解する。プリント・グループ討論・教科書をまとめ、自らの健康観を確立する。
第4回	人類の進化過程から見た「個体発生と系統発生」: 人間の発育発達、生活生存の様相(心身の健康状態)	事前学習	教科書 pp. 3~23 を読、進化(適応)の概念を知る キーワードを挙げ、人間の生命の流れを把握する
		事後学習	「個体発生は系統発生を繰り返す」の衛生学的意義を考え、児童生徒等の成長過程(発育発達)の理解を深める
第5回	生体リズムの同調(獲得過程)と脱同調による健康障害(自律神経不安定症)、気象因子の心身状態への影響(季節病・気象病)	事前学習	配布資料・文献等から、生体リズムについて理解する
		事後学習	生体リズム・健康・気象因子の相互関連性の理解
第6回	音環境測定の理論と実践	事前学習	教科書 pp. 191~228 の該当箇所を読んでおく

平成 28 年度

		事後学習	実測レポートの作成、提出
第 7 回	光環境測定の実論と実践	事前学習	教科書 pp. 191～228 の該当箇所を読んでおく
		事後学習	実測レポートの作成、提出
第 8 回	空気環境測定の実論と実践	事前学習	教科書 pp. 191～228 の該当箇所を読んでおく
		事後学習	実測レポートの作成、提出
第 9 回	温熱環境測定の実論と実践 その 1 測定	事前学習	教科書 pp. 191～228 の該当箇所を読んでおく
		事後学習	実測レポートの作成、提出
第 10 回	温熱環境測定の実論と実践 その 2 評価	事前学習	教科書 pp. 191～228 の該当箇所を読んでおく
		事後学習	実測レポートの作成、提出
第 11 回	環境と学校環境衛生、労働安全衛生	事前学習	学校環境衛生管理基準（配付）を読んでおく
		事後学習	グループ討論課題レポートの提出、提出
第 12 回	生活習慣と人の健康：生活習慣病について	事前学習	教科書 pp. 21～23、pp. 102～103 を読んでおく
		事後学習	教科書・配布プリント、授業での討論の結果のレポート作成
第 13 回	水と健康：水質汚濁と健康被害⇔水系感染症、環境汚染病（重金属による健康被害：水俣病ほか）大気汚染と呼吸器系疾患	事前学習	教科書 pp. 206～226 を読み、水・大気等環境の健康影響の概要を把握する
		事後学習	教科書・配布資料・授業内容の理解とまとめ
第 14 回	学校環境衛生・建築物環境衛生基準（シックビル症候群等）及び・地域における環境課題	事前学習	学校保健法第 6 条、労働安全衛生法等における環境基準を整理する、新聞記事のチェック
		事後学習	授業内容・教科書及び各種資料を総合して、人間の健康、疾病、発育を護るための環境基準を整理し、グループ討論結果をまとめる：
第 15 回	グループ研究発表と口頭試問	事前学習	課題の整理をグループごとに話し合う、発表資料の作成
		事後学習	各班からの研究発表を総合した考察・学びをまとめ、口頭試問への資料提供とする

1. 科目名 (単位数)	英米児童文学演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3314
2. 授業担当教員	山口 敬雄		
4. 授業形態	演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この科目では、児童文学の名作といわれる作品を読み、英文の読解力を身につけるとともに、子どもたちの世界を描いた作品の世界を理解して、作品と時代との関わりや文化との関わりをも考察する。この授業を履修することによって得る読書体験は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際に必ず役立つ。		
8. 学習目標	1. 英文の読解力が身に付く。 2. 児童文学の作品のテーマや文体の技法の特徴を理解できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	多様な英語表現に親しむために、また、大量の英語テキストをイメージで読み進める力を涵養するために、授業で読んだ本を自宅で音読しながら書き写す課題を毎週課す。学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Louisa May Alcott, 『Little Women.』 ed. John Escott. New York: Oxford University Press, 2008. 【参考書】 適宜授業で指示する。		
11. 成績評価の方法	テスト 50% 小テスト・課題 30% 授業への積極的参加度・その他 20%		
12. 受講生へのメッセージ	指定した範囲を事前に必ず読んでくること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。積極的にディスカッションに参加すること。辞書を必ず持参すること。		
13. オフィスアワー	初回にアナウンスする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	速やかに教科書を手し、必ず90分以上かけて通読する。
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。
第 2 回	ch. 1 Four sisters 読解練習 #1	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 1~5)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 1~5)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 3 回	ch. 2 A Happy Christmas 読解練習 #2	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 6~10)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 6~10)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 4 回	ch. 3 The Laurence boy 読解練習 #3	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 10~16)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 10~16)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 5 回	ch. 4 The house next door 読解練習 #4	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 16~24)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 16~24)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 6 回	ch. 5 A surprise for Beth / ch. 6 Amy in trouble 読解練習 #5	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 24~31)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 24~31)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 7 回	Mid-term Test	事前学習	ここまで授業で取り扱った範囲(pp. 1~31)を、必ず90分以上かけて通読し、不明瞭な知識を整理する。
		事後学習	テストを機会に曖昧で定着していないと気づいた知識を見直し、整理する。
第 8 回	ch. 7 Meg hears some gossip 読解練習 #6	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 31~38)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 31~38)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 9 回	ch. 8 All play and no work 読解練習 #7	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 38~43)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 38~43)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。

第 1 0 回	ch. 9 Secrets 読解練習 #8	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 43~47)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 43~47)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 1 回	ch. 10 A telegram 読解練習 #9	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 48~50)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 48~50)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 2 回	ch. 11 Beth 読解練習 #10	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 50~55)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 50~55)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 3 回	ch. 12 Love and Mr Brooke 読解練習 #11	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 55~58)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 55~58)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 4 回	ch.13 Laurie makes trouble and Jo makes peace 読解練習 #12	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 59~65)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 59~65)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 5 回	ch. 14 Happier days 読解練習 #13	事前学習	事前に配付される英単語を調べておく。また、今回取り扱う範囲の章のテキスト(pp. 65~73)を通読する。
		事後学習	今回授業で取り扱った章のテキスト(pp. 65~73)の意味を確実に理解しながら音読し筆写する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	栄養学 (食品学含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3331
2. 授業担当教員	遠藤 道代		
4. 授業形態	講義、演習等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>生体の生命活動と健康に影響を及ぼす栄養素の種類と機能性を理解し、食物の消化、吸収、代謝の過程を通して、栄養素が健康に及ぼす影響について理解を深めることを目標とする。生体の生命活動と健康に影響を及ぼす栄養を科学的な側面から講述し、生体内で生ずる種々の反応やその反応系に異常を来たして生じた疾患を生化学的・栄養学的に解説する。さらに各食品群の特色を理解することにより、健やかな発育と生涯にわたる健康の維持増進を目指した、のぞましい食品選択と栄養摂取のあり方を学習する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康増進のための一次予防の重要性を理解し、栄養の必要性を説明することができる。 2. 五大栄養素の種類とはたらき、消化、吸収について説明することができる。 3. 食事摂取基準の概要を理解し、学童期及び思春期に必要な栄養と、のぞましい食生活について説明することができる。 4. 学童期及び思春期の「食育」の意義について理解を深め、実践できる能力を養うことができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>栄養学を体系的に理解するためには、授業を重ねるごとに知識の蓄積が必要になる。次回の授業内容について教科書で該当する単元を予習し、授業後は要点を復習することをアサイメントとする。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 脊山洋右, 廣野治子編『コンパクト栄養学 改訂第3版』南江堂。 【参考書】 講義内で適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への積極的参加態度 (質問等の積極性) 20% 2. 期末試験 80% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>栄養学はヒトのからだを学ぶサイエンスであり、新たな発見と驚きに満ちています。いつでも「なぜ?」と問うことの出来る質問を持って講義に臨んでください。もっと知りたいと思う気持ちが、栄養学をさらにおもしろくさせるはず。そこから、栄養が我々の体をつくっているということ、他のいのちを戴くことによってそれが得られることを知れば、食の大切さに気づかずにはられません。子どもの健全な育成のために、食の面から自分に何ができるのか、もっとできることはないかと常に心に止めてください。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	栄養の意義、人体の構成成分と食品の成分、栄養と食品	事前学習	テキスト pp. 1~7 を読み、内容を把握する。
		事後学習	食品と食物、栄養の定義を把握する。ヒトの体の構成要素と栄養の役割について理解する。
第2回	消化と吸収の意義、消化器系のしくみと働き	事前学習	テキスト pp. 9~16 を読み、内容を把握する。
		事後学習	栄養素の消化吸収に関わる器官・系をまとめる。
第3回	食物の摂取と消化と吸収・代謝のしくみ、栄養素の種類と役割	事前学習	テキスト pp. 17~27 を読み、内容を把握する。
		事後学習	食物の消化・吸収の流れをまとめる。
第4回	栄養素とその機能① 糖質の種類と機能および消化吸収	事前学習	テキスト pp. 29~38 を読み、内容を把握する。
		事後学習	糖質の種類とはたらき、消化・吸収・代謝についてまとめる。
第5回	栄養素とその機能② 脂質の種類と機能	事前学習	テキスト pp. 38~44 を読み、内容を把握する。
		事後学習	脂質の種類とはたらき、消化・吸収・代謝についてまとめる。
第6回	栄養素とその機能③ たんぱく質の種類と機能	事前学習	テキスト pp. 44~52 を読み、内容を把握する。
		事後学習	たんぱく質の種類とはたらき、消化・吸収・代謝についてまとめる。
第7回	栄養素とその機能④ ミネラルの定義と分類および、欠乏症と過剰症	事前学習	テキスト pp. 52~60 を読み、内容を把握する。
		事後学習	ミネラルの種類とはたらき、欠乏症と過剰症についてまとめる。
第8回	栄養素とその機能⑤ ビタミンの定義と分類および、欠乏症と過剰症	事前学習	テキスト pp. 61~68 を読み、内容を把握する。
		事後学習	ビタミンの種類とはたらき、欠乏症と過剰症についてまとめる。
第9回	食物繊維の機能、水の機能と代謝、核酸代謝	事前学習	テキスト pp. 68~78 を読み、内容を博する。
		事後学習	食物繊維の種類と役割、ヒトの体における水の役割についてまとめる。
第10回	エネルギーとカロリー、日本人の食事摂取基準	事前学習	テキスト pp. 79~85、88~108 を読み、内容を把握する。
		事後学習	食品中のエネルギーと、ヒトの体におけるエネルギー代謝の測定方法についてまとめる。基礎代謝基準値および、日本人の食事摂取基準から、各自の1日の推定エネルギーを算出する。
第11回	栄養状態の評価と方法	事前学習	テキスト pp. 109~118 を読み、内容を把握する。

平成 28 年度

		事後学習	学童期のと青年期の体格指標についてまとめ、各自の BMI を算出する。
第 1 2 回	ライフステージ別の栄養評価	事前学習	テキスト pp. 119～136 を読み、内容を把握する。
		事後学習	ライフステージの年齢区分を理解し、学童期および、思春期の栄養特性についてまとめる。
第 1 3 回	疾患時の栄養状態と栄養補給方法	事前学習	テキスト pp. 137～188 を読み、内容を把握する。
		事後学習	栄養と疾患の関わりについてまとめる。
第 1 4 回	食物アレルギーの原因と症状、対応方法の実際	事前学習	テキスト pp. 188～192 を読み、内容を把握する。
		事後学習	アレルギーの原因物質の種類と、アレルギー発症時の対処方法についてまとめる。
第 1 5 回	食品の特性と、六つの基礎食品および食事バランスガイドの活用	事前学習	テキスト pp. 193～220 を読み、内容を把握する。
		事後学習	各自の 24 時間以内に摂取した食事を、六つの基礎食品と食事バランスガイドで分類する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1140
2. 授業担当教員	福嶋 省吾		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」を履修後、「音楽Ⅱ」を履修すること		
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識、技術を身につけ、理解を深める。具体的には子どもの歌を歌うのに必要な発声法、ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力、簡易楽器などの扱いや奏法に関する知識と技術を身につけることを目指す。読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても、実践を通して学ぶ。		
8. 学習目標	①歌うための声の出し方を学習し、指導できるようになる。 ②音楽の基礎的な知識・理論を理解し、読譜の能力を身につける。 ③ピアノ及び歌の基礎的な演奏技能を習得する。 ④子どもの歌の「弾き歌い」を実践できる。 ⑤簡易楽器などの扱いや奏法を知る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①ピアノ実技：毎回個人のレベルに沿った課題曲を提示する。次週までに弾けるように練習をしていくこと。 ②音楽理論：単元別の練習問題を提示する。次週までに完成させ、疑問点や不明点は必ず聞くこと。 ③歌唱教材：レパートリーの拡充をめざして、日常的に「歌う」習慣をつけること。 ④コードネームによる伴奏：多くの課題に触れ、コードネームによる伴奏付けに慣れること。 ⑤レポート課題：提示されたレポート課題について、論理的にまとめること		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】1) 全音楽譜出版部編『全訳バイエル教則本』全音楽譜出版社。 【教科書】2) 井口 太編著『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 【参考書】1) 田崎教子編『誰でも弾ける 子どものうた 50 選』ドレミ楽譜出版社。 (その他) ①楽典など授業内にてプリントを配布する。 ②五線ノート 1 冊用意する		
11. 成績評価の方法	①ピアノ奏法試験 (中間・定期) 40% ②音楽理論 (楽典試験) 30% ③レポート課題提出 20% ④平常点 (意欲・態度・進捗・提出物) 10% 以上の①～④を含めて総合的に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 音楽が本来持っている美しさや楽しさは、音楽的な知識や技術を持たなくても感じられる。しかし、これらの楽しさを子どもたちに伝えるためには、それなりの知識やテクニックが必要です。みなさんが豊かな表現者になれるよう、あらゆる角度からアプローチします。したがって、様々な活動に対して積極的な態度で授業に臨むことです。 2. 音楽表現力とその演奏技能の上達は、日々継続した練習の積み重ねにより、その成果が得られます。 3. 授業に関して以下の事項を守ることを。 ①遅延による遅刻は、遅延証明書を提示すること。 ②アイフォンやスマートフォン等の充電禁止。 ③提出物は提示期日を守ることを。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の授業時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要) 音楽学習歴のアンケート調査、姿勢と奏法について 演奏レベルのチェックとそれに基づき課題曲の提示	事前学習	初心者は音符・楽譜・鍵盤楽器に慣れておく 経験者はピアノを弾く習慣をつけておく
		事後学習	課題曲の練習
第 2 回	ピアノレッスン (各自の課題曲) 音楽理論配布プリント① (音部記号・音符と休符) 発声法 (声の出し方と歌い方) ①	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	理論の復習 (練習問題を解く) 課題曲の練習
第 3 回	ピアノレッスン (各自の課題曲) 音楽理論配布プリント② (音名・変位記号) 発声法 (声の出し方と歌い方) ②	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	理論の復習 (練習問題を解く) 課題曲の練習
第 4 回	ピアノレッスン (各自の課題曲) 音楽理論配布プリント③ (拍子・リズム・演奏法) 発声法 (声の出し方と歌い方) ③	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	理論の復習 (練習問題を解く) 課題曲の練習
第 5 回	ピアノレッスン (各自の課題曲) 音楽理論配布プリント④ (強弱記号・速度標語) 簡易楽器奏法と合奏①	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	理論の復習 (練習問題を解く) 課題曲の練習
第 6 回	ピアノレッスン (各自の課題曲) 音楽理論配布プリント⑤ (その他) 簡易楽器奏法と合奏②	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	理論の復習 (練習問題を解く) 課題曲の練習
第 7 回	中間のまとめ (ピアノ演奏表現) (ピアノ演奏・音楽理論に関する確認)	事前学習	課題曲の仕上げ、音楽理論の総復習
		事後学習	課題曲の練習 理論のまとめ
第 8 回	ピアノレッスン (各自の課題) 音楽理論配布プリント⑥ (和音・コードについて) 子どもの歌による歌唱①	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	理論の復習、こどもの歌の復習、 課題曲の練習

平成 28 年度

第 9 回	ピアノレッスン (各自の課題) 音楽理論配布プリント⑦ (コードネームについて) 子どもの歌による歌唱②	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	理論の復習、こどもの歌の復習、 課題曲の練習
第 10 回	ピアノレッスン (各自の課題) 音楽理論配布プリント⑧ (簡易伴奏法について) 子どもの歌による歌唱③	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	伴奏課題の練習、こどもの歌の復習、 課題曲の練習
第 11 回	ピアノレッスン (各自の課題) 音楽理論配布プリント⑨ (簡易伴奏法について) 子どもの歌による歌唱④	事前学習	課題曲の練習、伴奏課題の練習
		事後学習	伴奏課題の練習、こどもの歌の復習、 課題曲の練習
第 12 回	ピアノレッスン (各自の課題) 音楽理論配布プリント⑩ (コードネームによる伴奏) 子どもの歌による歌唱⑤	事前学習	課題曲の練習、伴奏課題の練習
		事後学習	課題曲の練習、伴奏課題の練習、歌の練習
第 13 回	ピアノレッスン (各自の課題) 音楽理論配布プリント⑪ (コードネームによる伴奏) 子どもの歌による歌唱⑥	事前学習	課題曲の練習、伴奏課題の練習
		事後学習	課題曲の練習、伴奏課題の練習、歌の練習
第 14 回	ピアノレッスン (各自の課題) 音楽理論に関する確認	事前学習	課題曲の練習、
		事後学習	課題曲の仕上げ 音楽理論の総復習
第 15 回	期末のまとめ (ピアノ演奏表現と弾き歌い)	事前学習	課題曲の仕上げ
		事後学習	弾き歌い課題の練習 (2 年次に向けて)
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽／音楽 (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1140
2. 授業担当教員	杉原 由利子	5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義及び演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識、技術を身につけ、理解を深める。具体的には子どもの歌を歌うのに必要な発声法、ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力、簡易楽器などの扱いや奏法に関する知識と技術を身につけることを目指す。読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても、実践を通して学ぶ。		
8. 学習目標	①歌うための声の出し方を学習し、指導できるようになる。 ②音楽の基礎的な知識・理論を理解し、読譜の能力を身につける。 ③ピアノ及び歌の基礎的な演奏技能を習得する。 ④子どもの歌の「弾き歌い」を実践できる。 ⑤簡易楽器などの扱いや奏法を知る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	① ピアノ実技：授業終了時に次週の課題を提示するので必ず譜読みと練習をして臨んで下さい。 ② 音楽理論：コードネーム学習に使用するツールの作成を次週までに指示することがあります。 ③ 第 8 回と第 15 回に、課題曲から任意の曲を選択し発表形式の小テストを実施します。 ④ 歌唱教材：1 曲でも多くのレパートリーを持てるよう、「歌うこと」に積極的な姿勢で臨むこと。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 改訂 歌唱教材伴奏法 バイエールとツェルニーによる 教育芸術社 印刷楽譜適宜使用 配布楽譜をきちんと管理する為に A4 クリアフィルブックを用意して下さい。 コードネームの学習に使用しますので、毎回はさみと糊 (テープ糊が望ましい) を持参して下さい。 【参考書】川辺 真著『わかりやすい楽典』音楽之友社。		
11. 成績評価の方法	① 小テスト 2 回 (ピアノ実技発表) ② 音楽理論 (提出物) ③ 平常点 (出席・学習意欲・態度(きちんとした挨拶)・学習進度)	40% 10% 50%	
12. 受講生へのメッセージ	「ピアノが弾けるようになる」ことはすなわち技術の習得です。日々の鍛錬を忘れずに積み重ね、努力すると必ず弾けるようになります。自分を信じて取り組み、出来る喜びを分かち合いたいと思います。気持ちよく授業を進める為または素晴らしい保育者としても絶対に必要なこととして、学生の皆様すべてにきちんとした挨拶をして頂くよう求めます。声を出し、視線を合わせて挨拶をすることを必ず行いましょう！保育・教育に携わる皆さんが音楽の楽しさ、素晴らしいさを次世代に伝えていける伝達者になって欲しいと思っています。この授業では欲張ってたくさんの方に取り組みます。事前の譜読みや練習が必須です。それなしに授業に臨んでも有意義な時間が過ぎません。熱心にそして楽しく取り組まれることを期待しています！		
13. オフィスアワー	授業前後の時間 (最初の授業時に提示)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、経験者用楽曲選定シート配布、授業使用ツールの作成 課題曲提示、音楽理論復習プリントの配布	事前学習	鍵盤で“ド”の位置を理解しておくこと。
		事後学習	各自の目標 (初級：音符と鍵盤の一体化、中級：楽譜に忠実に、上級：表現力のある演奏を目指して) を設定し、各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
第 2 回	・ピアノ実技 (進度別) 経験者＝テキスト内バイエールの初見練習、平易な楽曲の練習 (配布楽譜) 未経験者＝配布楽譜バイエールの断片で導入練習 ・弾き歌い＝教科書 P12、15「ちょうちょう」コードネームと歌唱の基本 ・音楽理論教科書 P126	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標にピアノ練習、弾き歌いの課題曲を練習する。
第 3 回	・ピアノ実技 (進度別) 経験者＝バイエールの初見練習、平易な楽曲の練習 未経験者＝配布楽譜バイエールの断片で導入練習 ・弾き歌い＝カデンツの学習ハ長調、教科書 P23「なかよし」コードネームと歌唱の基本 ・音楽理論教科書 P126	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、プリント
第 4 回	・ピアノ実技 (進度別) 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・弾き歌い＝カデンツの学習ハ長調、教科書 P9「かっこう」、コードネームと伴奏形 ・音楽理論教科書 P126	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 5 回	・ピアノ実技 (進度別) 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習ハ長調、教科書 P55「こぎつね」、コードネームと伴奏形 ・音楽理論教科書 P126	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、プリント
第 6 回	・ピアノ実技 (進度別) 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習

平成 28 年度

	<ul style="list-style-type: none"> ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習ト長調、教科書 P103 「うみ」コードネームと伴奏形 ・音楽理論教科書 P126 		
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習ト長調、教科書 P63 「ちようちよう」移調について、コードネームと伴奏形 ・音楽理論前週復習プリント配布 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、プリント
第 8 回	小テスト＝ピアノ実技、研究	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習へ長調、教科書 P39 「ぶんぶんぶん」、教科書のほか印刷楽譜使用 ・音楽理論教科書 P126 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習へ長調、教科書 P63 「きらきらぼし」移調について、教科書のほか印刷楽譜使用 ・音楽理論教科書 P126 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、プリント
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・アンサンブルと弾き歌い＝教科書 P122 「茶色のこびん」ほか印刷楽譜使用 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、次回アンサンブルで使用する楽器のアイデア草案または製作
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・伴奏付けをしてみよう！教科書 P71 「森のくまさん」教科書に書き込んで実施 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・伴奏付けと弾き歌い＝配布楽譜「小さな世界」空欄に書き込んで実施 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・伴奏付けと弾き歌い＝教科書 P107 「あわたんぼうのおつかい」教科書に書き込んで実施 ・本講義において学習した音楽理論のまとめ 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 15 回	まとめと小テスト＝ピアノ実技、研究	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	実技練習
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2140								
2. 授業担当教員	高木 麻衣子		5. 開講学期	春期								
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)											
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 表現の教育について考え議論ができる。 5. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	(アサイメント) ピアノ実技：毎回課題曲を提示するので、次週の授業までに弾けるよう練習してくること。 グループ活動：お互いに協力し合い、練習をして発表に臨むこと。 メンバーに迷惑をかけないよう出来るだけ欠席しないこと。											
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 田崎教子編著『誰でも弾けるこどものうた 50 選』ドレミ楽譜出版社。 【参考書】 石丸由理監修 佐藤千賀子編著『合奏楽譜百科』ひかりのくに。											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>① 弾き歌いの実技発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>② グループ活動の発表</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>③ 提出物</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>④ 平常点 (学習意欲・態度・学習進度)</td> <td>40%</td> </tr> </table> *①～④を総合的に評価する。				① 弾き歌いの実技発表	30%	② グループ活動の発表	20%	③ 提出物	10%	④ 平常点 (学習意欲・態度・学習進度)	40%
① 弾き歌いの実技発表	30%											
② グループ活動の発表	20%											
③ 提出物	10%											
④ 平常点 (学習意欲・態度・学習進度)	40%											
12. 受講生へのメッセージ	この科目では、ピアノの演奏技術習得のみならず、「弾き歌い」をはじめとするピアノを用いた音楽活動を展開していきます。ピアノの基礎的な演奏技術を前提に授業を行ないますので、日頃の鍛錬を忘れないようにして下さい。また、グループ活動では一人ひとりの意識が作品に大きな影響を及ぼします。集団でしか味わえない音楽の素晴らしさを体験しましょう。											
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、課題曲提示	事前学習	音楽Ⅰの最終授業で取り組んだ曲を練習しておく。									
		事後学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
第 2 回	ピアノレッスン 楽器の取り扱い、グループ決め、合奏曲決め	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
		事後学習	各自の目標及び各自のレベルに応じた課題曲を練習する。 授業で学習した簡易楽器の取り扱いを覚える。									
第 3 回	ピアノレッスン グループ活動① (器楽)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
		事後学習	各自の目標及び各自のレベルに応じた課題曲を練習 (ピアノを弾くだけではなく、同時に歌も歌えるようによく練習してくること) する。 グループ活動における個人練習。									
第 4 回	ピアノレッスン グループ活動② (器楽)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
		事後学習	「歌う」点にも注意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 グループ活動における個人練習。									
第 5 回	ピアノレッスン グループ活動③ (器楽)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
		事後学習	「歌う」点にも留意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 グループ活動における個人練習。									
第 6 回	ピアノレッスン グループ活動④ (器楽)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
		事後学習	「歌う」点にも留意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 グループ活動における個人練習。									
第 7 回	ピアノレッスン グループ発表 (器楽合奏発表)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
		事後学習	ピアノ実技発表にむけて、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
第 8 回	ピアノ実技発表 (弾き歌い) トーンチャイム合奏①	事前学習	ピアノ実技発表にむけて、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。									
		事後学習	「歌う」「表現する」点にも留意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練									

			習する。 トーンチャイムの扱い方を覚える。
第 9 回	ピアノレッスン トーンチャイム合奏②	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「歌う」「表現する」点にも留意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
第 10 回	ピアノレッスン 身体表現と音楽の実践	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習してくる。
		事後学習	「歌う」「表現する」点にも留意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 身体表現と音楽の復習
第 11 回	ピアノレッスン コダーイによる音楽教育の実践	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「歌う」「表現する」点にも留意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 コダーイによる音楽教育の復習
第 12 回	ピアノレッスン 合唱グループ活動①	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「歌う」「表現する」点にも留意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 合唱グループ活動における個人練習。
第 13 回	ピアノレッスン 合唱グループ活動②	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「歌う」「表現する」点にも留意しながら、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 合唱グループ活動における個人練習。
第 14 回	ピアノレッスン 合唱グループ活動③	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	ピアノ実技発表にむけて、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 グループ活動における個人練習及び発表に向けての可能な範囲での全体練習。
第 15 回	ピアノ実技発表 グループ合唱発表	事前学習	ピアノ実技発表にむけて、各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。 グループ活動における個人練習及び発表に向けての可能な範囲での全体練習。
		事後学習	ピアノ実技の復習、またこれまでのグループ活動の振り返り

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (小) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2524
2. 授業担当教員	杉原 由利子		SCOT2524
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 表現の教育について考え議論ができる。 5. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業内容に即したレポート課題を適宜提示する。 ② ピアノの基本的な練習はもとより、合奏のための演奏の練習、指示された譜面作成などは次回の授業までに済ませておくこと。 		
10. 教科書・参考書・教材	有本真紀・坂井恵・山下薫子 編著『教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社。 その他、別途楽譜やプリントを配布する。 【その他】 音程調整の正確なソプラノリコーダーを用意する。今までに使用していたものでよい。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 平常点 (学習意欲・挨拶・参加態度・学習進度) 40% ② 小テスト3回 (実技発表) 30% ③ レポート・楽譜提出 30% ※①～③を総合的に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	小学校音楽科に必要な様々な活動や指導法を勉強します。基本的な音楽の実践練習とともに、教育の現場で活用できる学習を多く扱います。授業は常に自らが小学校の教諭として授業を行っている場を想定して臨んで下さい。ピアノ、歌唱、楽器の練習に関して、各々の課題をバランスよくこなせるよう、必ず指示された事前学習と事後学習を行ってください。		
13. オフィスアワー	後日通知いたします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (授業計画の説明他)、アンケート、演奏レベルのチェック	事前学習	教科書を用意し、目次などに目を通しておく
		事後学習	「うみ」の譜読みと伴奏の予習
第2回	音楽科の目標、学習指導要領の通読と理解、ピアノと歌唱の課題提示	事前学習	教科書の該当箇所を読み、重要な箇所に鉛筆でアンダーラインを引いてくる
		事後学習	指定されたピアノ曲と弾き歌いの練習
第3回	「歌唱の活動」内容の理解① 歌唱と伴奏の同時練習・和音奏	事前学習	「うみ」を音名で歌う。伴奏部分の和音を確認する
		事後学習	「うみ」を、左手で和音伴奏しながら旋律を歌えるよう練習する
第4回	「歌唱の活動」内容の理解② 歌唱と伴奏の同時練習・分散和音奏	事前学習	伴奏のパターンを予習する。
		事後学習	「うみ」を、左手で分散和音の伴奏で旋律を歌えるよう練習する
第5回	「歌唱の活動」内容の理解③ 歌唱と伴奏の同時練習・自由な伴奏付け	事前学習	楽譜に沿った伴奏形の予習。
		事後学習	「うみ」を、様々な形の伴奏で旋律を歌えるよう練習する
第6回	課題曲による弾き歌いの小テスト、レポート課題の提示 (次週提出)	事前学習	指定された課題曲に関し弾き歌いできるよう練習する
		事後学習	演奏の復習とレポート課題の実践
第7回	「器楽の活動」指導内容の理解① リコーダー、鍵盤ハーモニカの演奏練習	事前学習	教科書を参照し、リコーダーに関することを予習する。リコーダーの準備
		事後学習	リコーダーの練習と楽器に関する情報の復習
第8回	「器楽の活動」指導内容の理解② リコーダー、鍵盤ハーモニカの演奏練習	事前学習	予め指定された楽譜についての読譜を行う。
		事後学習	器楽練習の復習
第9回	「器楽の活動」指導内容の理解③ アンサンブル演奏における器楽練習	事前学習	器楽練習
		事後学習	器楽練習の復習
第10回	課題曲による器楽演奏の小テスト、レポート課題 (楽譜) の提示 (次週提出)	事前学習	器楽練習
		事後学習	レポート課題の実践
第11回	「音楽づくり」指導内容の理解① 事例学習	事前学習	教科書を読み、音楽づくりの指導内容について予習し、重要な箇所に鉛筆でアンダーラインを引いてくる
		事後学習	レジュメ空欄に学習した内容を短い文章に要約する

平成 28 年度

第 1 2 回	「音楽づくり」指導内容の理解②、レポート課題の提示 (次週提出)	事前学習	前回の授業を踏まえて再度教科書を読んで 内容を確認する
		事後学習	レポート課題の実践
第 1 3 回	「鑑賞の活動」指導内容の理解①—低学年の鑑賞教材に 関して	事前学習	教科書を読み、低学年の鑑賞の活動の指導内 容について予習し、重要な箇所に鉛筆でアン ダーラインを引いてくる
		事後学習	レジュメ空欄に学習した内容を短い文章に 要約する
第 1 4 回	「鑑賞の活動」における指導内容の理解②—中学年及び 高学年の鑑賞教材について	事前学習	教科書を読み、中学年及び高学年の鑑賞の活 動について予習し、重要な箇所に鉛筆でアン ダーラインを引いてくる
		事後学習	レジュメ空欄に学習した内容を短い文章に 要約する
第 1 5 回	課題曲による弾き歌いと器楽演奏の小テストと授業の 総括	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	引き続き、ピアノ、歌唱、弾き歌いの練習を 行う

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2305
2. 授業担当教員	田村 にしき		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 表現の教育について考え議論ができる。 5. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<アサインメント> ①授業内容をもとに、レポート課題を提示する。 ②伴奏、範唱、範奏などは事前に行うことができるようにする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】有本真紀・坂井恵・山下薫子 編著『教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社。 その他、必要なものはプリントにして配布する。 【その他】第7回までに、ソプラノリコーダーを用意する。今までに使用していたものでよい。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 平常点 (学習意欲・態度・学習進度) 40% ② 実技試験 20% ③ グループ発表 20% ④ レポート 20% ※①～④を総合的に評価する。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	授業の中で、小学校音楽科に必要な様々な活動や指導法を学んでいく中で、自らの音楽表現を広げていくことができるよう、積極的に授業に臨みましょう。 弾き歌いや楽器の演奏技能は、短期間で習得できるものではないので、日頃から練習を積み重ねましょう。 授業を受ける上で、下記の基本的な事項は守りましょう。 (1) 音楽室の使用の規則 (ピアノの扱い方、飲食厳禁等) を守りましょう。 (2) 携帯電話の使用は禁止です。また、授業に関係のない私語はやめましょう。 (3) 宿題やレポートは、指定した日までに提出しましょう。期日を過ぎると、内容が良くても評価は低くなります。		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業計画の説明他)、アンケート、演奏レベルチェック	事前学習	教科書を準備し、授業に臨むこと。
		事後学習	教科書 (p. 89) の《春がきた》のピアノ伴奏を練習しておくこと。
第2回	音楽科の目標、学習指導要領の理解、演奏課題提示	事前学習	教科書 (pp. 188～191) の「小学校学習指導要領 音楽」の箇所を読み、予習しておくこと。
		事後学習	学習指導要領の内容をノートにまとめること。 各自課された演奏課題を練習しておくこと。
第3回	「歌唱の活動」を通じた内容の理解① — 一つのレベルに応じた弾き歌いの個人レッスン—	事前学習	教科書 (p. 89) の《春がきた》の旋律を、歌ったり、ピアノで弾いたりできるように予習すること。
		事後学習	教科書 (p. 89) の《春がきた》の旋律を、歌いながら弾くことができるように復習すること。
第4回	「歌唱の活動」を通じた内容の理解② — 一つのレベルに応じた弾き歌いの個人レッスン—	事前学習	各自課された演奏課題を予習しておくこと。
		事後学習	レッスンを振り返り、今後の課題を進度表にまとめておくこと。
第5回	「歌唱の活動」を通じた内容の理解③ — 一つのレベルに応じた弾き歌いの個人レッスン—	事前学習	各自課された演奏課題を予習しておくこと。
		事後学習	レッスンを振り返り、今後の課題を進度表にまとめておくこと。
第6回	弾き歌いの試験、レポート	事前学習	各自の弾き歌いの試験課題曲を練習しておくこと。
		事後学習	レッスンを振り返り、今後の課題を進度表にまとめておくこと。
第7回	「器楽の活動」における指導内容の理解① リコーダー、鍵盤ハーモニカ等の扱いの理解	事前学習	教科書 (pp. 27～28) を読み、リコーダーの種類や奏法について予習すること。
		事後学習	リコーダーの奏法を復習すること。
第8回	「器楽の活動」における指導内容の理解② — 合奏活動のグループ決めと練習—	事前学習	教科書 (pp. 23～28) を読み、小学校で取り扱う打楽器の種類や名称についての理解を深めておくこと。
		事後学習	各自担当する楽器で《ミッキーマウスマーチ》の演奏の復習をすること。
第9回	「器楽の活動」における指導内容の理解③ — 合奏のグループ活動のしあげ—	事前学習	各自担当する楽器で《ミッキーマウスマーチ》の演奏のしあげをしておくこと。
		事後学習	グループ発表に向けて、《ミッキーマウスマーチ》の演奏のしあげをしておくこと。

平成 28 年度

第 10 回	合奏のグループ発表	事前学習	発表に向けて、グループで演奏を合わせて練習しておくこと。
		事後学習	グループ合奏を振り返り、良かった点、改善点をまとめておくこと。
第 11 回	「音楽づくり」における指導内容の理解①	事前学習	教科書 (pp. 36～43) を読み、音楽づくりの指導内容について予習しておくこと。
		事後学習	グループごとにつくった音楽について振り返り、良かった点、改善点をまとめておくこと。
第 12 回	「音楽づくり」における指導内容の理解② レポート提出	事前学習	教科書 (pp. 36～43) を読み、音楽づくりの指導内容について予習しておくこと。
		事後学習	グループごとにつくった音楽について振り返り、良かった点、改善点をまとめておくこと。
第 13 回	「鑑賞の活動」における指導内容の理解①—低学年の鑑賞教材について—	事前学習	教科書 (pp. 44～48) を読み、低学年の鑑賞の活動の指導内容について予習しておくこと。
		事後学習	低学年の鑑賞教材について、ノートにまとめておくこと。
第 14 回	「鑑賞の活動」における指導内容の理解②—中学年及び高学年の鑑賞教材について—	事前学習	教科書 (pp. 49～54) を読み、中学年及び高学年の鑑賞の活動について予習しておくこと。
		事後学習	中学年及び高学年の鑑賞教材について、ノートにまとめておくこと。
第 15 回	まとめと実技発表	事前学習	実技発表に向けて、ピアノの練習と弾き歌いの練習しておくこと。
		事後学習	「音楽Ⅱ」で学んだことを振り返り、小学校で扱う活動の内容についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (保育士) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2523 SCOT2523
2. 授業担当教員	本野 洋子		
4. 授業形態	演習、個人レッスン (キーボード)、小集団学習 (器楽合奏)、一斉学習 (歌唱)、ロールプレイ	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育、幼児教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏を行う。また、子どもの歌を歌うのに必要とする発声法についても学習する。それらの学習を通して、個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 歌うための声の出し方を学習し、指導できる。 ともすれば「大きな口をあけて」とか「もっと元気に、大きな声で」という指導が保育・教育現場でなされてきているが、子どもたちにとって無理なく歌える声の出し方について習得する。 ピアノを用いた簡単な弾き歌いができる。 ピアノ演奏の得意な学生については、しっかり歌いながら演奏することを、そしてレパートリーを増やす。得意でない学生は、コードネームをつけることによって、自分に合った伴奏を作り演奏する技術を身に着けることによってレパートリーを増やす努力をする。 保育現場で用いられている楽器などを用いた合奏指導の実践ができる。 簡易楽器における多彩な演奏法を知り合奏において応用する トーンチャイム演奏法 2声部や3声部などより複雑な曲をグループで演奏する技術を身に着ける。 指揮法：保育・教育の現場で使える指揮の仕方をロールプレイによって習得し、指揮ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 こどもの歌：レパートリーを増やす。 こどもの歌の弾き歌い(コードネーム奏を含む)：練習を重ねて慣れる。 第2, 5, 8, 14回に「弾き歌い」第11, 15回にグループでの「アンサンブル」発表を行います。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・関西地区大学音楽教育学会/企画・編集『幼児保育/児童教育のための子どもの歌・ピアノ伴奏法』株式会社エー・ディー・エヌ。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 【参考書】 ・二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。 ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 ・東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 ・東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 ※各自、五線ノートを用意すること。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ピアノの弾き歌い 40% グループ・アンサンブルの発表 30% 平常点(学習意欲/態度/進捗・提出物) 30% ※①～③を総合的に判断する。 なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要です		
12. 受講生へのメッセージ	既修の「音楽」で学んだことを踏まえ、幼稚園、保育園の現場でしっかりピアノで演奏し、弾き歌いできるような演奏技能レベルの更なる向上を目指しましょう。ピアノ演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大事です。またリズム遊び、楽器遊びなどを通じて幼稚園、保育園の現場で豊かな音楽活動が展開できるような力をつけていきましょう。		
13. オフィスアワー	授業中に通知。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス説明、授業概要) 課題曲解説	事前学習	今まで学んだ弾き歌い曲の練習。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことを復習。
第2回	経験値に応じた課題曲演奏発表 グレードの決定。子どもの歌について解説	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。子どもの歌について授業で指導されたことを復習。
第3回	ピアノ演奏及び弾き歌い① 子どもの歌のアレンジ	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。子どもの歌のアレンジについて復習。
第4回	ピアノ演奏及び弾き歌い② 伴奏形の工夫	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。伴奏形の工夫について復習。
第5回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 和音伴奏の表記の仕方	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。和音伴奏の表記の仕方について復習。

平成 28 年度

第 6 回	ピアノ演奏及び弾き歌い③ メジャーコードとマイナーコード	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。メジャーコードとマイナーコードの復習。
第 7 回	ピアノ演奏及び弾き歌い④ 調号について	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。調号について復習。
第 8 回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 コードネーム奏について	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。コードネーム奏について復習。
第 9 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑤ アンサンブルの実践① 簡易楽器の奏法について	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。簡易楽器の奏法について復習。
第 10 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑥ アンサンブルの実践② リズムアンサンブルについて	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。リズムアンサンブルについて復習。
第 11 回	アンサンブルの発表 トーンチャイムの奏法について	事前学習	グループごとにアンサンブル発表曲の練習。
		事後学習	トーンチャイムの奏法について復習。
第 12 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑦ アンサンブルの実践③	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。アンサンブルについて復習。
第 13 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑧ アンサンブルの実践④ グループ分け、アンサンブル曲の選定	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。グループごとにアンサンブルの発表曲を決定。
第 14 回	ピアノ演奏及び弾き歌い課題曲発表 アンサンブルの実践⑤ グループ発表に向けて準備	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。グループごとにアンサンブル発表曲を練習。
第 15 回	アンサンブルの発表 今後の学びについて	事前学習	グループごとにアンサンブル発表曲の練習。
		事後学習	今後の学びについて授業で指導されたことを実践する。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ / 音楽Ⅱ (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2140
2. 授業担当教員	杉原 由利子		
4. 授業形態	演習、個人レッスン (キーボード)、小集団学習 (器楽合奏)、一斉学習 (歌唱)、ロールプレイ	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育、幼児教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏を行う。また、子どもの歌を歌うのに必要とする発声法についても学習する。それらの学習を通して、個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 歌うための声の出し方を学習し、指導できる。 ともすれば「大きな口をあけて」とか「もっと元気に、大きな声で」という指導が保育・教育現場でなされてきているが、子どもたちにとって無理なく歌える声の出し方について習得する。 ピアノを用いた簡単な弾き歌いができる。 ピアノ演奏の得意な学生については、しっかり歌いながら演奏することを、そしてレパートリーを増やす。得意でない学生は、コードネームをつけることによって、自分に合った伴奏を作り演奏する技術を身に着けることによってレパートリーを増やす努力をする。 保育現場で用いられている楽器などを用いた合奏指導の実践ができる。 簡易楽器における多彩な演奏法を知り合奏において応用する トーンチャイム演奏法 2 声部や 3 声部などより複雑な曲をグループで演奏する技術を身に着ける。 指揮法：保育・教育の現場で使える指揮の仕方をロールプレイによって習得し、指揮ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ピアノの弾き歌いやアンサンブルにおいて試験を兼ねた演奏会で成果を発表する。 ピアノ実技：個々の課題で、実技練習する。 アンサンブル：グループを形成してアンサンブル演奏の練習をする。 基本的な音楽理論について授業内容の復習プリントを自習する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 1 年生で使用したピアノ教則本 (バイエルなど) 在原章子菊本哲也ほか『新版 和音伴奏による幼児のうた 100 曲』全音楽譜出版社 印刷楽譜適宜使用</p> <p>【参考書】 本廣明美/加藤照恵 (編著)『基礎から学べるピアノ 1, 2, 3』ドレミ楽譜出版社。 松山祐士 編『こどもの歌名曲アルバム』ドレミ楽譜出版社。 本真紀、阪井恵、山下薫子 (編)『教員養成課程 小学校音楽科教育法 2011 年改訂版』有教育芸術社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 (出席・挨拶・参加姿勢・提出物) 50%</p> <p>小テスト (第 8、15 回に実施/実技発表=ピアノ弾き歌い、ピアノ) 50%</p> <p>欠席が多くなって単位取得が危ぶまれるような場合、レポートなどの代替手段での評価を希望なさる学生諸君がいますが、授業の形態上、こうした措置がむづかしい分野であるので、欠席に関して単位取得不可能な回数に達することのないよう、留意してください。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>音楽の基礎学習として 2 年目のクラスなので、少し発展的な内容も加味して授業を実施したいと考えています。ピアノ演奏技術に関しては経験者 2 グレードと未経験者の、計 3 グレードに区分して授業を行います。受動的な姿勢に傾くことなく積極性を持って共に授業を作り上げたいと思います。発表の機会も時間が許す限りたくさん用意し、学生の皆様が相互に刺激を与え合える場にできるように工夫を行いますので、是非『本番に慣れる』という目標も達成して頂きたいです。弾き歌いに関しては「未習」の楽曲を 1 曲でも減らすことを念頭に授業内で毎回数曲をこなすスピード感で進めます。内容としては表層的な部分に触れるのみに終始しますが、その先は是非各自で鍛錬をしてください。「音楽」で学習を始めたコードネームに関してはこの 15 回の授業を通して完全に自分のものにすべく学習を進めましょう。個々の時間、グループでの時間各々が有益なものになるよう創意工夫して授業を行いたいと考えています。尚、受講生の進度により、シラバスを中途で変更するのが望ましい場合は予め告知の上、改変シラバスを採用することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス、講義概要、演奏課題についてオリエンテーション、演奏グレード判定、授業使用ツールの製作	事前学習	演奏予定の曲の候補を決める (数曲)
		事後学習	楽曲の譜読み
第 2 回	ピアノ実技指導/弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律と歌、伴奏と歌というスタイルで弾き歌いの練習をする。6 回目まで毎回 2 乃至 3 曲学習	事前学習	ピアノ練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、左手の強化練習
第 3 回	ピアノ実技指導/弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律と歌、伴奏と歌というスタイルで弾き歌いの練習をする。6 回目まで毎回 2 乃至 3 曲学習	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、左手の強化練習
第 4 回	ピアノ実技指導/弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方 (両手) で弾き歌いの練習をする。6 回目まで毎回 2 乃至 3 曲学習	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 5 回	ピアノ実技指導/弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方 (両手) で弾き歌いの練習を	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習

平成 28 年度

	する。6 回目まで毎回 2 乃至 3 曲学習		
第 6 回	ピアノ実技指導/ひき歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…初見でごく短い楽曲の弾き歌いを試みる	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、初見の練習（プリント配布）
第 7 回	ピアノ実技指導と弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…初見でごく短い楽曲の弾き歌いを試みる	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習初見の練習（プリント配布）
第 8 回	小テスト（実技発表、研究）	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 9 回	ピアノ実技指導/ひき歌い/アンサンブルの実践 *ピアノ…テキストから個々に楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方（両手）で弾き歌いの練習をする。 *アンサンブル…ピアノ、トーンチャイムなどを用いたアンサンブルを行う	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、アンサンブルパートの練習
第 10 回	ピアノ実技指導/弾き歌い/アンサンブルの実践 *ピアノ…テキストから個々に楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方（両手）で弾き歌いの練習をする。 *アンサンブル…ピアノ、トーンチャイムなどを用いたアンサンブルを行う	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、アンサンブルパートの練習
第 11 回	ピアノ実技指導/弾き歌い/アンサンブルの実践 *ピアノ…テキストから個々に楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方（両手）で弾き歌いの練習をする。ピアノ、トーンチャイムなどを用いたアンサンブルを行う	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、次回アンサンブルで使用する楽器のアイディア草案または製作
第 12 回	ピアノ実技指導/弾き歌い/アンサンブルの実践 *ピアノ…テキストから個々に楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方（両手）で弾き歌いの練習をする。 *アンサンブル…ピアノ、トーンチャイムなどを用いたアンサンブルを行う	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 13 回	模擬保育体験① 指導者役と園児に分かれ模擬保育を実施する	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、模擬保育の感想文を書く（次週提出）
第 14 回	模擬保育体験② 指導者役と園児に分かれ模擬保育を実施する	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、模擬保育の感想文を書く（次週提出）
第 15 回	小テスト（実技発表、研究）	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP4140
2. 授業担当教員	岡村 弘		
4. 授業形態	演習、一電子ピアノによる個人レッスン、合奏及び手作り楽器製作、手遊び等におけるグループ学習、一斉学習における歌唱法の演習などを組み合わせて行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に立って、保育・幼児教育、小学校教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏、手遊びの技術をさらに高めていく。また、“手作り楽器製作及び演奏”などを通して音楽表現の応用を学習するとともに、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの正しい発声法、歌唱法を学習する。 発声法は、ピアノ演奏と同様一朝一夕に美しい声を出すことは難しいので、日々の努力が求められる。 2. 楽譜や鍵盤を見ないでピアノの弾き歌いができる技能を持つ。できる限り、子どもに向き合って弾き歌いができるようになることが望ましい。 3. 保育・幼児教育現場、および小学校で用いられている楽器などを用いた合奏指導、あるいは手遊びの実践。 4. 手作り楽器の製作と演奏など、音や音楽を用いた活動の実践と演奏、また、それらを通じた指導法を学習する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回学生各個人の進度に応じたピアノ演奏課題を出す。 特に、保育士、幼稚園教諭など目標のある学生については、それらの資格に必要なレベルの課題を課す。 2. 第 5 回、第 10 回、第 15 回目の授業で、下記の“弾き歌い”実技課題を発表演奏。 就職後、各現場で子どもたちの前で演奏するという事に慣れるためと、課題を成し遂げるという目的のために実施する。 3. 器楽合奏および手作り楽器発表演奏。 現場での実践に即した、考える授業づくりのための演習とする。 4. 実技課題について 『生活のうた』から 2 曲、『新しい歌』から 1 曲選択して演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活のうた <ol style="list-style-type: none"> ①ごあいさつ 小林純一作詞、信時潔作曲 ②おべんとう 天野 蝶作詞、一宮道子作曲 ③おかえりのうた 天野 蝶作詞、一宮道子作曲 ④おててをあらいましょう ⑤おはようのうた ・ 新しい歌 <ol style="list-style-type: none"> ①ともだちになるために 新沢としひこ作詞、中川ひろたか作曲 ②ハッピーチルドレン 新沢としひこ作詞、中川ひろたか作曲 ③みんな友達 中川ひろたか作詞・作曲 ④楽しいね 山内佳鶴子作詞、寺島尚彦作曲 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林美実監修『こどものうた 100』チャイルド本社。 他に必要な資料を配布する。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 二階堂邦子編『手あそびうた 50 第一集』学事出版。 二階堂邦子編『手あそびうた 50 第二集』学事出版。</p> <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>“弾き歌い”課題の発表演奏 3 回、器楽合奏発表演奏、手作り楽器発表演奏・・・・・・ 50 % 毎回の授業への取り組み態度およびアサイメントへの取り組み・・・・・・・・・・・・ 50 % なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要である。従って、忌引や病気あるいは実習などやむを得ない事情以外の欠席は、1 欠席につき 10 点減点する。事情のある場合は必ず次週までにその旨届けること。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、特に音楽Ⅱを修了した皆さんが、さらに高度のテクニックを身に付けていくために、単に器楽を演奏するテクニックを向上させるのではなく、さらに進んでそれらのテクニックを応用して指導していく技術を学ぶことを目的としています。従って自主的で積極的な授業への参加を望んでいます。また、音楽Ⅱにおいて、十分に音楽的技術を習得できなかったと自覚する皆さんは、是非この授業で、ピアノの弾き歌いや指導法の技術を高めていってほしいと願っています。</p>		
13. オフィスアワー	<p>月曜日および金曜日以外の、授業および会議の無い時間はすべてオフィスアワーとする。 ただし、学会出張や研修会などで不在の場合があるので、研究室前の掲示板を参考にすること。</p>		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	弾き歌い課題提示それぞれの学生の進路および進度に見合った課題を課す。 新しい“子どもの歌”歌唱練習：最近、保育現場でよく歌われている曲を、子どもにとって正しい歌い方で歌う。その際、指揮法についても復習し、歌っている“子どもの歌”の指揮をする。	事前学習	一年次から使用している、『子どもの歌100』の中から、自分が弾ける程度の曲で、まだ練習したことのない曲を選び、練習しておく。
		事後学習	第1回目に指導された事柄を復習して練習する。指揮法を練習しておく。
第 2 回	新しい歌の歌唱。 保育士および幼稚園教諭希望者のために、子どもにとって正しい歌い方を考えながら歌ってみる。	事前学習	第1回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第2回目に指導された事柄を復習して練習する。発声の仕方について、復習する。
第 3 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い① 個別レッスンをを行い次回課題を課す。 特に、各学生が希望する現場でよく使われている曲を選びその中から順次やっていくよう指導する。	事前学習	第2回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習する。
		事後学習	第3回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 4 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い② 次回発表の課題について留意点などをポイントに練習する。	事前学習	第3回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第4回目に指導された事柄を復習して練習しておく。
第 5 回	ピアノ弾き歌い発表演奏 グランドピアノを使用し、他の学生が歌えるようロールプレイのような形式で行う。 旋律を奏でられる楽器の演奏練習、および指導法① 簡易楽器の中で、幼児教育の現場で使われている旋律楽器を中心に演奏し、音の出し方や美しく出す方法、特別な技術などを指導する練習を行う。	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
		事後学習	第5回目に指導された事柄を復習して練習する。特に、歌うという観点から、美しい発声、表現力あるいは美しい日本語での発声について復習しておく。
第 6 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い③ 新しい課題について練習する。 旋律を奏でられる楽器の演奏練習、および指導法② 小学校の実践映像を鑑賞し、各自の感想・意見などをディスカッションする。	事前学習	第5回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第6回目に指導された事柄を復習して練習する。鑑賞した実践教育のVTRについて、感想や意見などをまとめておく。
第 7 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い④ 特に歌いながら伴奏をすることに重点を置く。 旋律を奏でられる楽器を主とした合奏練習。 グループ分けし、各グループごとのアンサンブルを行う。	事前学習	第6回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第7回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルで使う楽器についてその演奏の仕方を復習しておく。
第 8 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑤ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを徹底する。 旋律を奏でられる楽器を主とした合奏練習。 各グループごとのアンサンブルを行うなかで、スコアを自分たちが演奏しやすいように工夫する。	事前学習	第7回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第8回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルの記譜法について慣れる。
第 9 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑥ 次回発表の課題を課し、指導された注意点に気を付けて練習する。 旋律を奏でられる楽器を主とした合奏発表と鑑賞。 グループごとの発表と、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表。	事前学習	第8回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第9回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
第 10 回	ピアノ弾き歌い発表演奏 グランドピアノを使用し、他の学生が歌えるようロールプレイのような形式で行う。 演奏発表していない学生が、子どもたちを演じうまく歌えるような演奏かどうかを評価し合う。	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。特に美しく歌うことに重点を置いて学習することが求められる。
		事後学習	第10回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌いをしていて途中で止まってしまう箇所、などには特に留意して、歌うことに重きを置いて練習する。
第 11 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑦ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。 手作り楽器の作成① 手作り楽器のポイントを説明。各学生が与えられた素材	事前学習	第10回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第11回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。止まらないよう、歌を中心にして、もしピアノが止まっても、歌を歌って続けて、入ってこられる部分から、ピア

	をどう工夫して音に出していくかを考える。		ノ伴奏ができるよう練習する。
第 12 回	<p>最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑧ 特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出しながら、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意する。 手作り楽器の作成と演奏、および指導法② 手作り楽器の中で、特に旋律を出せる楽器の制作を考える。そして、なぜ音が出るのか、なぜ旋律が出るのかなどを考えさせる指導法を学習する。</p>	事前学習	第 11 回目に練習した曲、または新しい曲を練習しておく。同じ曲を、完璧に弾けるようになるまですることよりも、ある程度弾ければ新しい曲に挑戦する気持ちを持つ。 手作り楽器のために必要な材料を準備しておく。
		事後学習	第 12 回目に指導された事柄を復習して練習する。特に弾き歌いに関しては、止まらない、美しく表現することを考えて歌う
第 13 回	<p>最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑨ 特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出しながら、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを徹底する。 手作り楽器での合奏練習と発表 それぞれが制作した楽器を使って、簡単な曲（チョウチョウ、チューリップなど）を合奏する。</p>	事前学習	第 12 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第 15 回目の弾き歌い発表演奏のための曲ばかりを練習しないよう、できる限り多くのレパートリーが持てるようにしておく。
		事後学習	第 13 回目に指導された事柄を復習して練習する。手作り楽器の音の出る原理について復習しておく。
第 14 回	<p>最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑩ 次回発表する曲について、指導を受けた箇所を注意し、特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出しながら、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意しながら練習する。</p>	事前学習	第 13 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第 15 回目の弾き歌い発表演奏の曲を決めて練習を始める。
		事後学習	第 14 回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。特に第 15 回目に演奏する曲で留意する点を考えておく。
第 15 回	<p>弾き歌い発表 グランドピアノを使用し、実技課題から 1 曲を他の学生が歌えるようロールプレイのような形式で行う。 演奏発表していない学生が、子どもたちを演じうまく歌えるような演奏かどうかを評価し合う。 これからの音楽の学習、音楽と共にある人生について、学生へのメッセージを送る。 学生による授業評価</p>	事前学習	今までに学習してきた弾き歌いの曲で、最も良く弾ける曲を仕上げる。
		事後学習	第 15 回目に指導された事柄を復習して練習する。今後の練習について、授業がなくなっても続けていけるよう今後の学習計画を立てる。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP4140
2. 授業担当教員	本野 洋子		
4. 授業形態	演習、一電子ピアノによる個人レッスン、合奏及び手作り楽器製作、手遊び等におけるグループ学習、一斉学習における歌唱法の演習などを組み合わせて行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に乗って、保育・幼児教育、小学校教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏、手遊びの技術をさらに高めていく。また、“手作り楽器製作及び演奏”などを通して音楽表現の応用を学習するとともに、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの正しい発声法、歌唱法を学習する。 発声法は、ピアノ演奏と同様一朝一夕に美しい声を出すことは難しいので、日々の努力が求められる。 2. 楽譜や鍵盤を見ないでピアノの弾き歌いができる技能を持つ。できる限り、子どもに向き合って弾き歌いができるようになることが望ましい。 3. 保育・幼児教育現場、および小学校で用いられている楽器などを用いた合奏指導、あるいは手遊びの実践。 4. 手作り楽器の製作と演奏など、音や音楽を用いた活動の実践と演奏、また、それらを通じた指導法を学習する。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ④ ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ⑤ こどもの歌：レパートリーを増やす。 ⑥ こどもの歌の弾き歌い(コードネーム奏を含む)：練習を重ねて慣れる。 第2, 5, 8回に「弾き歌い」第11, 15回にグループでの「アンサンブル」発表を行います。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 【参考書】 ・二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。 ・東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 ※各自、五線ノートを用意すること。 【教材】 ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmジャック (先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①ピアノの弾き歌い 40% ②グループ・アンサンブルの発表 30% ③平常点(学習意欲/態度/進度・提出物) 30% ※①～③を総合的に判断する。 なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要です。		
12. 受講生へのメッセージ	「音楽」「音楽Ⅱ」で学んだことを踏まえ、幼稚園、保育園、保育園の現場でしっかりピアノで演奏し、弾き歌いできるような演奏技能レベルの更なる向上を目指しましょう。ピアノ演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大事です。また手遊び歌、楽器遊び、アンサンブルなどを通じて幼稚園、保育園の現場で豊かな音楽活動が展開できるような力をつけていきましょう。		
13. オフィスアワー	授業時に通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス説明、授業概要) 課題曲解説	事前学習	今まで学んだこどもの歌の復習。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことの復習。
第2回	経験値に応じた課題曲演奏発表 グレードの決定。子どもの歌について解説	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。子どもの歌について授業で指導されたことの復習。
第3回	ピアノ演奏及び弾き歌い① 手遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。手遊び歌について復習。
第4回	ピアノ演奏及び弾き歌い② 年齢に応じた手遊び歌の実践①	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。年齢に応じた手遊び歌について復習。
第5回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 年齢に応じた手遊び歌の実践②	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。年齢に応じた手遊び歌について復習。
第6回	ピアノ演奏及び弾き歌い③ 年齢に応じた手遊び歌の実践③	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。年齢に応じた手遊び歌について復習。
第7回	ピアノ演奏及び弾き歌い④ わらべうたを用いた手遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。わらべうたを用いた手遊び

			歌について復習。
第 8 回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 アンサンブルの実践① ペアで行う手遊び歌の実践	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。ペアで行う手遊び歌について復習。
第 9 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑤ アンサンブルの実践② 集団で行う手遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。集団で行う手遊び歌について復習。
第 10 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑥ アンサンブルの実践③ 集団で行う手遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。集団で行う手遊び歌について復習。
第 11 回	アンサンブルの発表 手作り楽器の説明	事前学習	アンサンブルの発表曲練習。
		事後学習	手作り楽器について復習。
第 12 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑦ アンサンブルの実践④ 手作り楽器の作成	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。手作り楽器を完成させる。
第 13 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑧ グループごとにアンサンブル発表の準備	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。グループごとにアンサンブル発表の練習。
第 14 回	ピアノ演奏及び弾き歌い課題曲発表 グループごとにアンサンブル発表の準備	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。
第 15 回	アンサンブルの発表 今後の学びについて	事前学習	グループごとに発表の練習。
		事後学習	今後の学びについて授業で指導されたことを実践する。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP4140
2. 授業担当教員	杉原 由利子		
4. 授業形態	演習、一電子ピアノによる個人レッスン、合奏及び手作り楽器製作、手遊び等におけるグループ学習、一斉学習における歌唱法の演習などを組み合わせて行う	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に乗って、保育・幼児教育、小学校教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏、手遊びの技術をさらに高めていく。また、“手作り楽器製作及び演奏”などを通して音楽表現の応用を学習するとともに、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの正しい発声法、歌唱法を学習する。 発声法は、ピアノ演奏と同様一朝一夕に美しい声を出すことは難しいので、日々の努力が求められる。 2. 楽譜や鍵盤を見ないでピアノの弾き歌いができる技能を持つ。できる限り、子どもに向き合って弾き歌いができるようになることが望ましい。 3. 保育・幼児教育現場、および小学校で用いられている楽器などを用いた合奏指導、あるいは手遊びの実践。 4. 手作り楽器の製作と演奏など、音や音楽を用いた活動の実践と演奏、また、それらを通じた指導法を学習する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>《アサイメント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに与えられる課題の楽曲を練習した上、実践的に演奏できるよう暗譜を心掛けてください。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の機会が多いので、次週までに製作が必要なものの準備や、初見練習などの宿題課題はきちんとこなしましょう。安定した読譜能力を身につけることを意識して練習に臨みましょう。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】石井恵子・大見由香ほか 『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社</p> <p>【参考書】松山祐士 編『こどもの歌名曲アルバム』ドレミ楽譜出版社。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①小テスト (第8回と15回に実施)『弾き歌い』とピアノ演奏 40% ②グループ発表における参加姿勢・音楽表現 30% ③平常点 (出席・挨拶・学習意欲・学習態度・提出物) 30% <p>出席に関する評価は大学の規定に準拠します。グループを形成して発表を行う回も多く、2週にまたがる内容もありますので、特に遅刻・欠席に関して注意をしてください。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>今までに培ってきた力を基礎に、更に創造的な音楽を表現してみましょう。音楽の枠にとどまらず、あらゆる表現手段を組み入れ子供の心を動かす音楽を表現できるよう、一つでも多くアイディアを実現して下さい。既存のセオリーを学習しつつも新しい語法、独創的な方法を見つけましょう。それと同時に最終学年でもあるので、基本的な楽典について改めて復習と確認をする時間を確保します。不確かな点をなくすように学習しましょう。演奏技術に関しては、経験者2つに加え未経験者 (大学入学までに) の3グレードに区分し、各々に課題を提示いたします。個々のピアノ技術を伸ばす為の事前練習が必須でありますので、必ず次の授業前に鍵盤を用いた練習を行ってください。表現者として「照れずに堂々と」発表できるように臨みましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、課題曲提示、授業使用ツール製作	事前学習	音楽理論の復習、ピアノの基礎練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
第2回	弾き歌い/手遊び歌/リズム打ちの練習とリズム遊び *楽典の基礎 (コードネーム中心) *手遊び歌の弾き歌い…ピアノを弾く、歌唱と手遊びを牽引する各々の担当を交替で行う。 *リズム打ち…様々な動作や動物の様子を、リズムに置き換え、リズム打ちや身体運動をする。 前段の練習として印刷楽譜でリズム打ちを行う。	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、手遊び歌の練習
第3回	弾き歌い/手遊び歌/リズム打ちの練習とリズム遊び *楽典の基礎② (コードネーム中心) *手遊び歌の弾き歌い…ピアノを弾く、歌唱と手遊びを牽引する各々の担当を交替で行う。 *リズム遊び…リズムの模倣を行う。音量や速度の変化もつけて行う。 前段の練習として印刷楽譜でリズム打ちを行う。	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、手遊び歌の練習
第4回	弾き歌い/手遊び歌/リトミック的運動と音楽 *楽典の基礎③ (調に関する事) *手遊び歌の弾き歌い…ピアノを弾く、歌唱と手遊びを牽引する各々の担当を交替で行う。 *リトミック的運動…リズムを意識した身体運動と音楽を結びつける。	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、手遊び歌の練習
第5回	弾き歌い/手遊び歌/リトミック的運動と音楽 *楽典の基礎④ (調に関する事) *手遊び歌の弾き歌い…ピアノを弾く、歌唱と手遊びを牽引する各々の担当を交替で行う。	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、手遊び歌の練習

	*リトミック的運動…左右の手の動きを交えた身体運動を音楽に乗せて行う。 →配布楽譜「茶摘み」		
第 6 回	弾き歌い/手遊び歌/リトミック的運動と音楽 *楽典の基礎⑤ *手遊び歌の弾き歌い…ピアノを弾く、歌唱と手遊びを牽引する各々の担当を交替で行う。 *リトミック的運動…手足の動きを交えた運動やボール、リボン、スカーフなどを用いた身体運動を音楽に乗せて行う。	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
第 7 回	弾き歌い/手遊び歌/リトミック的運動と音楽 *楽典の基礎⑥ *手遊び歌の弾き歌い…ピアノを弾く、歌唱と手遊びを牽引する各々の担当を交替で行う。 *リトミック的運動…左右の手の動きを交えた運動やボール、リボン、スカーフなどを用いた身体運動を音楽に乗せて行う。	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
第 8 回	小テスト (実技発表) 一人 2 曲 (ピアノ演奏、手遊び歌のピアノ弾き歌い) 発表。	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習。手作り楽器の材用準備
第 9 回	弾き歌い/絵本と音楽—手作り楽器の製作 *弾き歌い…テキストから個々に与えられた課題楽曲を練習する (コード譜を用いて) *絵本にちなんで手作り楽器アンサンブルをする	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、絵本の選定、曲の選定
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習手作り楽器の材用準備
第 10 回	弾き歌い/絵本と音楽—手作り楽器の製作 *弾き歌い…テキストから個々に与えられた課題楽曲を練習する (コード譜を用いて) *絵本と音楽…絵本にちなんで手作り楽器アンサンブルをする	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、絵本の選定、曲の選定
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習
第 11 回	弾き歌い・アンサンブルの実践 *弾き歌い…テキストから個々に与えられた課題楽曲を練習する (コード譜を用いて) *アンサンブル譜を作成する	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、初見の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、即興演奏の練習
第 12 回	弾き歌い・アンサンブルの実践 *弾き歌い…テキストから個々に与えられた課題楽曲を練習する *アンサンブル譜を作成し演奏する	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、初見の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、即興演奏の練習
第 13 回	模擬保育体験 授業を通して体得したことを素材に実際の保育を模擬的に実施する。指導者と生徒役に分かれて実施。特に歌唱指導を中心に構成する	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、初見の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、即興演奏の練習
第 14 回	模擬保育体験 授業を通して体得したことを素材に実際の保育を模擬的に実施する。指導者と生徒役に分かれて実施。特に歌唱指導を中心に構成する	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、初見の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、即興演奏の練習
第 15 回	小テスト (実技発表と総括) 一人 2 曲 (ピアノ演奏、手遊び歌のピアノ弾き歌い) 発表。	事前学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、初見の練習
		事後学習	ピアノ弾き歌い課題曲の練習、即興演奏の練習

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP4140								
2. 授業担当教員	福嶋 省吾										
4. 授業形態	演習、一電子ピアノによる個人レッスン、合奏及び手作り楽器製作、手遊び等におけるグループ学習、一斉学習における歌唱法の演習などを組み合わせて行う	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」及び「音楽Ⅱ」を履修していること。										
7. 講義概要	「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に乗って、保育・幼児教育、小学校教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏、手遊びの技術をさらに高めていく。また、“手作り楽器製作及び演奏”などを通して音楽表現の応用を学習するとともに、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの正しい発声法、歌唱法を学習する。 発声法は、ピアノ演奏と同様一朝一夕に美しい声を出すことは難しいので、日々の努力が求められる。 2. 楽譜や鍵盤を見ないでピアノの弾き歌いができる技能を持つ。できる限り、子どもに向き合って弾き歌いができるようになることが望ましい。 3. 保育・幼児教育現場、および小学校で用いられている楽器などを用いた合奏指導、あるいは手遊びの実践。 4. 手作り楽器の製作と演奏など、音や音楽を用いた活動の実践と演奏、また、それらを通じた指導法を学習する。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場では、日々の保育の中でこどもの様子を見ながら、さまざまな音楽活動が行われます。したがって、日々の練習の積み重ねが大切です。 2. グループ発表に対して、しっかり取り組むこと。 3. レポート課題にも取り組むこと。 										
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 井口太編著『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 【参考書】 田崎教子編著『誰でも弾けるこどものうた 50 選』ドレミ楽譜出版 (他教材) 随時プリント配布										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>①ピアノ伴奏による弾き歌い点</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>②グループ発表点</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>③レポート課題評価点</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>④平常点 (学習意欲・ピアノ進度評価)</td> <td>10%</td> </tr> </table>			①ピアノ伴奏による弾き歌い点	30%	②グループ発表点	30%	③レポート課題評価点	30%	④平常点 (学習意欲・ピアノ進度評価)	10%
①ピアノ伴奏による弾き歌い点	30%										
②グループ発表点	30%										
③レポート課題評価点	30%										
④平常点 (学習意欲・ピアノ進度評価)	10%										
12. 受講生へのメッセージ	音楽Ⅲでは、これまで学んできた「音楽」・「音楽Ⅱ」で習得した音楽表現技法および音楽表現に関する知識を踏まえ、さらに教育・保育の現場で応用できる音楽表現力と指導力を培うための科目であるので、積極的に取り組むことを期待する。次いで、「幼児の音楽教育」についての理論的な知見も深めること。										
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	授業ガイダンス (シラバス内容・授業概要他の説明 音楽経験アンケート調査 ピアノ奏法のレベル確認と各自の課題曲を提示)	事前学習	シラバスを熟読する。 音楽理論の復習と、ピアノ奏法の復習								
		事後学習	課題曲の復習と練習								
第 2 回	ピアノ奏法レッスン (こどものうた課題曲弾き歌い) 幼児音楽教育概論—幼児の発達と音楽について—	事前学習	教科書 pp22～29 を予習する。 課題曲の予習								
		事後学習	「幼児の発達と音楽」の要点をまとめる 課題曲の復習と次の曲の練習								
第 3 回	ピアノ奏法レッスン (こどものうた課題曲弾き歌い) 幼児音楽教育概論—音楽教育方法論— (主要 5 大音楽教育方法論について)	事前学習	教科書 pp49～77 を予習する。 課題曲の予習								
		事後学習	主要 5 大音楽教育論の要点をまとめる 課題曲の復習と次の曲の練習								
第 4 回	ピアノ奏法レッスン (こどものうた課題曲弾き歌い) 「こどものうた」のジャンルについて (発声法とわらべうた (グループによる))	事前学習	「こどものうた」のジャンルを調べる 「課題曲の予習								
		事後学習	「こどものうた」ジャンルのまとめ 課題曲の復習と次の曲の練習 「わらべうた」のグループ練習								
第 5 回	ピアノ奏法レッスン (こどものうた課題曲弾き歌い) 発声法と手遊びうた (グループによる)	事前学習	「わらべうた」「手遊びうた」を調べる 課題曲の予習								
		事後学習	「わらべうた」と「手遊びうた」をまとめる 課題曲の復習と次の曲の練習 (手遊びうた)のグループ練習								
第 6 回	ピアノ奏法レッスン (こどものうた課題曲弾き歌い) 簡易楽器による合奏表現① (グループによる)	事前学習	教科書 pp121～120 を予習する 課題曲の予習								
		事後学習	簡易楽器による発表準備の練習 課題曲の復習と次の曲の予習								
第 7 回	ピアノ奏法レッスン (こどものうた課題曲弾き歌い) 簡易楽器による合奏表現② (グループによる)	事前学習	簡易合奏曲の予習 課題曲の予習								
		事後学習	簡易楽器による発表準備の練習 課題曲の復習と次の曲の予習、								

第 8 回	ピアノ奏法レッスン（こどものうた課題曲弾き歌い） レポート課題提示（幼児音楽教育の基本的な捉え方）	事前学習	レポート課題への準備（教科書を読む） 課題曲の予習
		事後学習	レポート課題について調べる 課題曲の復習と次の曲の予習
第 9 回	ピアノ奏法レッスン（こどものうた課題曲弾き歌い） 絵かきうたの作成	事前学習	「絵かきうた」「について調べる 課題曲の予習」
		事後学習	「絵かきうた」の練習 課題曲の復習と次の曲の予習
第 10 回	ピアノ奏法レッスン（こどものうた課題曲弾き歌い） 動物の動きのイメージと音楽表現（即興的）①	事前学習	動物の動きのイメージを描く 課題曲の予習
		事後学習	動物の動きと即興演奏の練習 課題曲の復習と次の曲の予習
第 11 回	ピアノ奏法レッスン（こどものうた課題曲弾き歌い） 身体表現と音楽表現（即興的）②	事前学習	身体表現と音楽を考えておく 課題曲の予習
		事後学習	身体表現とその音楽表現（即興）をまとめる 課題曲の復習と次の曲の予習
第 12 回	ピアノ奏法レッスン（こどものうた課題曲弾き歌い） 音楽表現活動の指導案作成（年齢別）	事前学習	教科書 pp34～43 を予習する 課題曲の予習
		事後学習	指導案の作成準備 課題曲の復習と次の曲の予習
第 13 回	ピアノ奏法レッスン（こどものうた課題曲弾き歌い） 音楽表現活動の指導実践（グループ）①	事前学習	指導案の作成準備 課題曲の予習
		事後学習	指導案のまとめ 課題曲の復習
第 14 回	音楽表現活動の指導実践（グループ）②	事前学習	指導案の実践準備 課題曲の復習
		事後学習	指導案の実践発表 指導案の提出準備
第 15 回	ピアノ奏法（こどものうた課題曲弾き歌い）の仕上げ 授業内容の総括・レポート返却と説明	事前学習	課題曲の復習と試験曲の準備
		事後学習	試験曲（こどものうた弾き歌い）まとめ

1. 科目名 (単位数)	介護概論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2109 SCMP2309
2. 授業担当教員	鄭 春姫		SBMP2309 SSMP2109 PSMP2409
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講座は、高齢者福祉論との関連において、介護が必要な高齢者に対する支援を中心に進めていく。 高齢者の特性と生活について理解を深めたうえで、生活支援の在り方を考え、介護の実践では、自立への支援、尊厳ある介護の理解を学習し、介護実践の基本を理解できるように授業を進めていく。特に根拠を持った介護実践が行えるように、介護過程と介護実技を学習して理解を深めていく。また、今後増加する認知症高齢者や精神的支援が必要な高齢者の介護についても授業を行なう。</p>		
8. 学習目標	<p>介護概論が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性からくる生活障害や、介護が必要となる状況を理解でき、快適な生活環境を考えることができる。 2. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、介護の今日的課題について考えることができる。 3. 高齢者を支援する専門職の役割の理解と専門職間の連携の在り方を考えることができる。 4. 介護の概念、理念と対象について理解でき、社会福祉士など専門職としての役割と結び付けることができる。 5. 介護は介護過程に基づいて行われることを理解し、専門性について考えることができる。 6. 認知症及び精神的支援が必要な高齢者に対する介護について理解ができ、その応用力を身につけることができる。 7. 終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持（人間観や倫理）について考えることができる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の授業で整理したところから、授業開始前にミニテストを行う。(10分程度) 第6回の授業で専門職の理解については、指定の用紙を使い記録を行い、提出する。 第9～13回のグループワークでは、毎回、進行係と書記を決めてメンバー皆が参加し意見や考えが発表できるようにする。指定の用紙に必要事項を書いてグループレポートを作成する。授業の最後に提出。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度－高齢者福祉論』中央法規出版 【参考書】 授業で適時配布する</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業開始時のミニテスト・レポート他提出物 20% 授業態度 30% 期末試験 50% 理由の申し出がない場合、欠席 10 点減点、遅刻、中抜け、早退は 3 回で 10 点減点とする。 尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 授業への積極的参加度等、出席をしたうえでの授業態度は加点的に評価する。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>授業中のマナー、ルールは守ること 【出欠席について】 ・やむを得ず、遅刻、早退、欠席する場合は、その理由を申し出ること。何もない場合は減点対象とする。 ・下記【マナー、ルールについて】を守れない場合は、欠席とする。 【マナー、ルールについて】 ・授業中、私語はしない。 ・携帯電話などは電源を切るかマナーモードにする。また、机の上に置かない。かばん等に必ずしまっておく。 ・授業中に携帯電話の作動はしないこと。守れない場合には、退出してもらう。 ・居眠りはしない。 ・他学生の学習の妨げになるようなことはしない。 ・明らかに授業態度が不適切と判断された際は、厳格な指導を行うが、指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ皆出席であっても F 評価になる。</p>		
13. オフィスアワー	時間割決定後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 「介護概論」のねらいと単元の解説 テーマ「社会福祉と介護」 介護の概念及び専門性を支える理念、介護の対象者について理解する。社会福祉士が介護を学ぶ必要性について理解する。	事前学習	シラバスを読み授業内容を理解する
		事後学習	介護の概念理念を理解し、社会福祉士が介護を学ぶ必要性について整理する。
第 2 回	テーマ「少子高齢社会と高齢者」 超高齢社会における介護の方向性を家族構成や就労、収入、医療の側面から考え、高齢者を取り巻く諸問題について理解する。	事前学習	少子高齢社会と高齢者について考える。
		事後学習	高齢者を取り巻く諸問題について整理する。
第 3 回	テーマ「高齢者の特性Ⅰ」 高齢期における生活の変化、家族、社会参加、生きがいなどを考え、高齢者の生活に、どのような影響を及ぼすのかまた、どのように適応するのか高齢者の社会的理解を深める。	事前学習	高齢者の生活、家族、社会参加、生きがいなどを考える。
		事後学習	高齢者の特性について整理する。
第 4 回	テーマ「高齢者の特性Ⅱ」 加齢に伴う身体機能、精神機能の変化から生じる疾病や生活障害を理解し、対応を考える。	事前学習	高齢者の身体的、精神的特性について考える。
		事後学習	高齢者の身体的、精神的特性について整理する。

			る。
第 5 回	テーマ「自立に向けた介護・尊厳を支える介護」高齢者の自立した日常生活とは何かを考え、高齢者介護のキーワードもある尊厳を支える介護について考える。	事前学習	自立とは、尊厳とは、について調べる。
		事後学習	自立に向けた介護、尊厳をささえる介護について整理する。
第 6 回	テーマ「高齢者を支援する専門職の役割と連携について」介護を必要としている高齢者を支援する専門職の役割を理解すると共に、連携の方法について理解する。	事前学習	高齢者を支援する専門職の役割と実際について考える。
		事後学習	専門職の役割、連携について整理する。
第 7 回	テーマ「介護保険について」① 介護保険制度の基本的知識について理解を深める。	事前学習	介護保険制度について調べる。
		事後学習	介護保険制度の改正点などを含め、理解を深める。
第 8 回	テーマ「介護保険について」② 介護保険制度の基本的知識について理解を深める。	事前学習	介護保険制度の改正点などを含め、整理する。
		事後学習	介護保険制度についてまとめる。
第 9 回	テーマ「介護過程」 ICFについて理解すると共に、介護実践を行う上で、最も大切である介護過程の意義と具体的な内容について理解する。	事前学習	ICF について調べておく。
		事後学習	ICF の分類による介護過程の展開を整理する。
第 10 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 身だしなみの介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における身だしなみについて考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 11 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 起居動作、移動等の介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における移動、移乗について考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 12 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 食事、口腔ケアの介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における食事、口腔ケアについて考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 13 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 排泄の介護を理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における排泄について考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 14 回	テーマ「認知症高齢者に対する介護の実践」 認知症について理解すると共に、実践的な介護の考え方や方法について理解する。	事前学習	認知症について調べておく。
		事後学習	実践的な介護の考え方や方法について整理する。
第 15 回	テーマ「終末期ケア」終末期における高齢者や家族について理解すると共に、その支援の実践的な方法を理解する。	事前学習	終末期について考える。
		事後学習	終末期における高齢者や家族について、支援の実践的な方法を整理する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	解剖生理学 I (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2321
2. 授業担当教員	石本 強		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、質疑応答、課題発表。簡単な実験も行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	約 60 兆個の様々なタイプの細胞から構成される人間の身体を全体からみて、その構造 (解剖) と機能 (生理) をうまく関連して考える思考過程を学び、解剖生理学の基本的知識を習得する。 具体的には、表面に現れた各種症状の背景となる、「人体の中で何が起きているのか」、「次に何が起ころのか」、「どう対処すればよいのか」、「予防するにはどうすればよいのか」と考えることができるよう、基礎知識の習得を目標とする。		
8. 学習目標	以下について学び、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 人体各部の名称とその位置を表す方向用語、および人体構造の構築 (細胞→組織→器官→器官系→個体) について学ぶ。 2. 筋系、骨格系の機能と神経支配について学ぶ。 3. 皮膚と体性感覚、頭部と特殊感覚について学ぶ。 4. 循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系の機能について学ぶ。 5. 体液 (細胞内液、細胞外液、血液、リンパ液)、体温とホメオスタシスについて学ぶ。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各学生は、割り当てられた範囲について事前に学習し、指定された課題に取り組み提出する。詳細は授業の中で説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】磯野日出夫ほか 『図説 解剖生理学』東京教学社 【参考書】高野長雄 (監修) 『からだの地図帳』講談社		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 (授業態度など) …30% 課題提出と発表…30% テスト…40% (事前に範囲・形式を告示する) 本学規程にしたがい、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。		
12. 受講生へのメッセージ	授業中は、緊張感と集中力を保って受講し、質問してください。明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告してください。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 また、私語、スマホの使用、無断退出、その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。		
13. オフィスアワー	講義時間前後、その他講義時間決定後通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	人体の構造と機能 1 (人体の構造についての解剖学的表現・細胞の構造と機能)	事前学習	教科書 pp. 1~3 を読んでおく。
		事後学習	人体の構造についての解剖学的表現・細胞の構造と機能を復習して理解する。
第 2 回	人体の構造と機能 2 (細胞小器官の機能、細胞の物質代謝、その他の働き、ホメオスタシス)	事前学習	pp. 3~8 を読んでおく。
		事後学習	細胞小器官の機能、細胞の物質代謝、その他の働き、ホメオスタシスを復習して理解する。
第 3 回	人体の構造と機能 3 (組織の種類と機能)	事前学習	pp. 9~10 を読んでおく。
		事後学習	組織の種類と機能を復習して理解する。
第 4 回	骨格系 (骨の構造、主要骨格、骨の生理)	事前学習	pp. 11~17 を読んでおく。
		事後学習	骨の構造、主要骨格、骨の生理を復習して理解する。
第 5 回	筋系 (筋の生理、主要骨格筋と役割)	事前学習	pp. 18~24 を読んでおく。
		事後学習	筋の生理、主要骨格筋と役割を復習して理解する。
第 6 回	神経系の構成 (神経細胞、シナプス)	事前学習	pp. 25~26 を読んでおく。
		事後学習	神経細胞、シナプスを復習して理解する。
第 7 回	中枢神経系 (大脳、間脳、脳幹)	事前学習	pp. 27~33 を読んでおく。
		事後学習	大脳、間脳、脳幹を復習して理解する。
第 8 回	末梢神経系 (脳神経、脊髄神経) 自律神経 (交感神経、副交感神経)	事前学習	pp. 34~36 を読んでおく。
		事後学習	脳神経、脊髄神経、交感神経、副交感神経を復習して理解する。
第 9 回	特殊感覚 (視覚、聴覚、味覚、臭覚、平行感覚) 体性感覚・内臓感覚 (表面感覚、深部感覚、臓器感覚)	事前学習	pp. 37~43 を読んでおく。
		事後学習	特殊感覚・体性感覚・内臓感覚を復習して理解する。
第 10 回	内分泌系と人体の恒常性 (ホルモンの分泌と調節) 内分泌腺の種類と生理作用 (視床下部、下垂体、甲状腺、他の内分泌腺)	事前学習	pp. 45~56 を読んでおく。
		事後学習	ホルモンの分泌と調節を復習して理解する。

第 1 1 回	循環・血管の構造と機能（体循環、肺循環、胎児循環、大動脈、中動脈、小動脈）	事前学習	pp. 73～77 を読んでおく。
		事後学習	循環・血管の構造と機能を復習して理解する。
第 1 2 回	心臓・循環・血液（構造と機能、刺激伝導系、血圧、拍動、動脈系、静脈系）	事前学習	pp. 78～84 を読んでおく。
		事後学習	を復習して理解する。
第 1 3 回	消化器系の構造と生理 （口腔、食道、胃小腸、大腸、肝臓） 呼吸器の構造と働き（鼻腔、咽頭鼻部、喉頭、気管と気管支、肺）	事前学習	pp. 57～72 を読んでおく。
		事後学習	消化器系の構造と生理、呼吸器の構造と働きを復習して理解する。
第 1 4 回	呼吸器の構造と働き（鼻腔、咽頭鼻部、喉頭、気管と気管支、肺）	事前学習	pp. 85～95 を読んでおく。
		事後学習	呼吸器の構造と働きを復習して理解する。
第 1 5 回	泌尿器系（腎臓、ネフロン）の構造と機能 生殖器系（生殖）	事前学習	pp. 97～111 を読んでおく。
		事後学習	泌尿器系、生殖器系について復習して理解する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	家庭 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3423 EDEL3309
2. 授業担当教員	榎本 ヒカル		
4. 授業形態	講義、実習など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校の家庭科の授業を行ううえで必要となる家族・家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活、環境に関する基本事項について解説するとともに実習などを行い、専門的な知識および技能を身につけることを目的とした授業を展開する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の授業を担当するための必要な家政学・生活科学全般の基本的知識および技能を身につける。 2. 家庭科の学びの広さが具体的にわかり、自らの生活をみつめ改善を図ることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	領域毎のレポート、実習後報告等の作成を課す。下記「14. 授業展開及び授業内容」を参照すること。授業中に詳細を通知する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社。 検定教科書『私たちの家庭科 小学校5・6』開隆堂。 流田直ほか『できますか？教えられますか？家庭科の基本』学研。		
11. 成績評価の方法	提出物評価 50%、 欠席・遅刻回数、教科書や実習用具持参状況も含めた授業参加態度評価 50%、 合計 100%。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 家政実習室使用時は使用のルールを必ず守ること。 2. 調理実習時には清潔を保ち、エプロンか白衣、三角巾やバンダナを持参し着用すること。 3. 被服製作時には裁縫道具を持参すること。 4. 毎時間教科書は 3 冊全て必ず持参し、学習する人間として相応しい態度で授業に臨むこと。 5. 交通機関の遅延による遅刻の場合は、遅延証の提出だけでなく遅延の状況を詳細に説明すること。 以上 5 点を守れない者には受講資格はないものとする。		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 講義を進めるにあたっての諸説明、各々の家庭科学習の振り返り	事前学習	各自が受けてきた家庭科教育を整理しておく
		事後学習	家庭科教育履歴に関するレポート作成
第 2 回	学問としての家政学と、教科としての家庭科の特徴と歴史	事前学習	前回の配付資料内容に関する疑問を整理する
		事後学習	小学校家庭科の意義とねらいをまとめる
第 3 回	各論 生活経営領域 (1) 家庭生活と家族	事前学習	学習指導要領解説 pp. 17～24 を読んでおく
		事後学習	家族のありかたに関するレポート作成
第 4 回	各論 生活経営領域 (2) 消費生活と家庭	事前学習	学習指導要領解説 pp. 49～53 を読んでおく
		事後学習	消費生活に関するレポート作成
第 5 回	各論 食生活領域 (1) 食と環境・健康について	事前学習	学習指導要領解説 pp. 25～30 を読んでおく
		事後学習	食生活に関するレポート作成
第 6 回	各論 食生活領域 (2) 食事の役割と栄養学の基礎	事前学習	学習指導要領解説 pp. 30～36 を読んでおく
		事後学習	調理実習計画のレポート作成
第 7 回	各論 食生活領域 (3) 調理学実習	事前学習	教科書 pp. 8～74 の該当ページをよく読んでおく
		事後学習	調理実習事後レポート作成
第 8 回	各論 住生活領域 (1) 住まいの歴史、住まいをめぐる諸問題と子どもの生活	事前学習	学習指導要領解説 pp. 40～43 を読んでおく
		事後学習	住生活に関するレポート作成
第 9 回	各論 住生活領域 (2) 快適な住まい方、環境と住まい方	事前学習	教科書 pp. 141～147 を読んでおく
		事後学習	配付資料をまとめ、レポート作成
第 10 回	各論 住生活領域 (3) 住居学実習	事前学習	教科書 pp. 148～159 を読んでおく
		事後学習	実習実践レポート作成
第 11 回	各論 衣生活領域 (1) 健康で快適な衣生活	事前学習	学習指導要領解説 pp. 37～40 を読んでおく
		事後学習	衣生活に関するレポート作成
第 12 回	各論 衣生活領域 (2) 衣服の管理	事前学習	学習指導要領解説 pp. 44～48 を読んでおく
		事後学習	被服製作実習準備レポートを作成
第 13 回	各論 衣生活領域 (3) 被服製作実習	事前学習	実習道具・材料を準備し、制作過程を予習する
		事後学習	被服製作実習事後レポート作成
第 14 回	総合領域 環境に配慮した家庭生活	事前学習	小学校教科書全体に目を通しておく
		事後学習	環境教育に関するレポート作成
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	プレゼンテーションの準備
		事後学習	まとめレポートの作成

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1315 GECM1325
2. 授業担当教員	郭 末任			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	2002 年ワールドカップ日韓共催以後、K-POP を始め、韓国ドラマやハングルに対する関心が急速に高まっている。こうしたことを踏まえて、本学でも韓国の大学と協定を結び、また、韓国短期研修も実施している。そのため、本講義ではハングルや韓国に関心がある初心者の学生を対象に基本的なハングルを学びながら、韓国の文化や社会についても学習することを目的にする。講義内容は難しい文法よりは、分かりやすい日常会話、すなわち実用会話を中心に学習する。また、韓国の文化や社会などについても学習し、韓国社会の理解を高めることにする。			
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国社会や文化に対して基本的なことを理解する。 2. ハングルの文字を覚え、韓国語の読み、書きができる。 3. 簡単な日常会話ができる。 4. 韓国語で簡単な自己紹介ができる。 5. 韓国旅行に必要な基本的な言葉を話すようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題1: 5回の授業までにハングルの文字を覚える。 課題2: 最終の授業に韓国語で自己紹介をする。 課題3: 韓国語や文化に関する情報や考えを持ち寄る発表をする。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】授業中に随時プリントを配る。 【参考書】授業中に随時示す。 木内明 著『基礎から学ぶ韓国語講座初歩』国書刊行会 2014 金真 他『韓国文化を読む』朝日出版社 2011</p>			
11. 成績評価の方法	成績の判断基準は試験、日常の取り組み、レポートの3つに基づく。評価の割合は、1 学期 100 点満点で、試験を 50 点、日常の取り組みを 30 点、レポートを 20 点にする。試験による評価は、何度か小テストと期末試験を行う。小テストは途中の理解度を測定するため授業中に何度か行う。日常の取り組みは韓国語や文化に関する情報や考えを持ち寄る情報コーナーでの発表による。レポートは 1 学期を通してこんなことができるようになりたいという自己目標を設定し、成果を学期末に提出する。			
12. 受講生への メッセージ	<p>始まらないと結果もなし。とりあえず、やってみましょう。本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的に参加し発音などの練習のときは大きな声を出すこと。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときは傾聴すること。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 授業概要についてシラバスを中心に説明する	事前学習	シラバス確認および学習用ノートを準備し 講義へ臨むこと	
		事後学習	自己目標の設定	
第 2 回	韓国語の理解 (ハングルの特徴と構成) 韓国の家屋	事前学習	ハングルの特徴と構成を理解する	
		事後学習	韓国語に関する理解内容をノートにまとめる	
第 3 回	基本母音(文字と発音)	事前学習	基本母音を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	基本母音の理解を確認	
第 4 回	基本子音(文字と発音) 韓国の飲食	事前学習	基本子音を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	基本子音の理解を確認	
第 5 回	合成母音(文字と発音) 韓国の衣服	事前学習	合成母音を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	合成母音の理解を確認	
第 6 回	合成子音(文字と発音) 韓国の音楽	事前学習	合成子音を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	合成子音の理解を確認	
第 7 回	私は〇〇です(名前と職業) 韓国の舞踊	事前学習	新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる	

平成 28 年度

第 8 回	この人は誰ですか(三人称代名詞) 韓国の伝統工芸	事前学習	新出単語を 10 回ずつノートに記入
		事後学習	単語の暗記
第 9 回	家族の呼び方 韓国の伝統工芸	事前学習	自分の家族を韓国語でノートに記入
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
第 10 回	N+ガ/はどこにありますか(位置関係の言葉) 韓国の陶磁器	事前学習	新出単語を 10 回ずつノートに記入
		事後学習	活用練習をまとめる
第 11 回	N+をしますか 韓国の世界遺産	事前学習	新出単語を 10 回ずつノートに記入
		事後学習	活用練習をまとめる
第 12 回	N+に/へ行きますか (時間関係の言葉) 韓国の観光	事前学習	新出単語を 10 回ずつノートに記入
		事後学習	時間と曜日関係の言葉の覚えを確認
第 13 回	漢数字と電話番号 韓国の現在 (人口と経済など)	事前学習	漢数字を 10 回ずつノートに記入
		事後学習	漢数字の覚えを確認
第 14 回	韓国語及び文化に関する発表	事前学習	韓国語及び文化に関する資料の収集及び整理
		事後学習	韓国語または文化に関する発表をまとめ
第 15 回	全体まとめ	事前学習	ハングルで自己紹介を書いて授業に臨むこと
		事後学習	学期初めに設定した自己目標の成果のまとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	起業経営論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP4105
2. 授業担当教員	田中 正秀		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答などを併用する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	日本経済の再生のためにはイノベーションを生み出すベンチャー企業が不可欠である。起業家精神やベンチャーマインドはベンチャー企業だけではなく、大企業にとっても重要性を増している。ベンチャー企業の経営は容易ではないが、ベンチャーを成功させるには、立ち上げから、成長、発展までの確かなビジネスプランの作成と、市場戦略、資金調達戦略、組織戦略、IPO 戦略ならびに各種支援が必要である。起業家精神を涵養し、失敗を恐れず新しいことに果敢に挑戦するベンチャー・ビジネスの立ち上げから成功に導く経営方法について、考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 起業の意義と方法を理解し、説明することが出来る。 2. ベンチャーの企業経営について理解し、説明することが出来る。 3. ベンチャーの成長戦略について理解し、説明することが出来る。 4. ベンチャーの成長段階に相応しい資金調達を理解し、説明することが出来る。 5. IPO 市場と上場プロセスを理解し、説明することが出来る。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ベンチャー・ビジネスで起業し、成功した会社を取り上げて、ビジネスモデルや成功要因について述べてください。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】太田一樹他『ベンチャー・ビジネス論』実教出版、2007。 【参考書】金井一頼他『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002。 東京弁護士会親和全期会 「起業と経営の基本知識がわかる本—弁護士税理士による実践書」 自由国民社 2014 藤野英人「起業」の歩き方—リアルストーリーでわかる創業から上場までの 50 のポイント 実務教育出版 2013</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度 (質問や授業への積極的参加度など) 50% 2. レポート 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	起業と企業経営について包括的かつ平易に説明するが、授業時間中に質問や意見を積極的に述べて学習して欲しい。		
13. オフィスアワー	授業終了後 1 時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	我が国でのベンチャーの意義とベンチャー企業の定義およびその位置づけ	事前学習	テキストの予習 (pp. 6~24 を読んでくる)
		事後学習	ベンチャー企業の必要性と定義をまとめる
第 2 回	我が国のベンチャー企業の実態、創業期の経緯、準備、成長・発展のステージならびに、経営課題	事前学習	テキストの予習 (pp. 25~40 を読んでくる)
		事後学習	わが国ベンチャー企業の実態の要点をまとめる
第 3 回	我が国のベンチャーの歴史を概観し、ベンチャー育成にかかわるベンチャー政策の取り組みを考える	事前学習	テキストの予習 (pp. 41~73 を読んでくる)
		事後学習	ベンチャー企業の政策に関する要点をまとめる
第 4 回	ベンチャー企業の成長マネジメントと成功に導くための手法	事前学習	テキストの予習 (pp. 74~85 を読んでくる)
		事後学習	企業成長とマネジメントの要点をまとめる
第 5 回	ベンチャー企業の経営戦略の策定方法	事前学習	テキストの予習 (pp. 86~107 を読んでくる)
		事後学習	ベンチャー企業の経営戦略の要点をまとめる
第 6 回	ベンチャー企業のマーケティングの役割と効果的な方法	事前学習	テキストの予習 (pp. 108~130 を読んでくる)
		事後学習	ベンチャー企業のマーケティングの要点をまとめる
第 7 回	ベンチャー企業の成長段階に応じた組織体制	事前学習	テキストの予習 (pp. 131~151 を読んでくる)
		事後学習	ベンチャー企業の経営組織・経営管理の要点をまとめる

平成 28 年度

第 8 回	ベンチャー企業の会計と財務諸表	事前学習	テキストの予習 (pp. 152～173 を読んでくる)
		事後学習	アカウンティングの要点をまとめる
第 9 回	ベンチャー企業の各成長段階における望ましい資金調達戦略ならびに株式公開	事前学習	テキストの予習 (pp. 174～198 を読んでくる)
		事後学習	ベンチャー企業の各成長段階における望ましい資金調達と株式公開の要点をまとめる
第 10 回	起業における企業形態の選択	事前学習	テキストの予習 (pp. 199～207 を読んでくる)
		事後学習	ベンチャー企業の企業形態の要点をまとめる
第 11 回	起業家のケーススタディー	事前学習	起業家に関する資料を読むこと
		事後学習	起業家の成功要因をまとめる
第 12 回	創業間もない企業を支援・育成するインキュベーションの意義、サービス内容とインキュベーションの担い手	事前学習	インキュベーションに関する資料を読んでくる
		事後学習	インキュベーションの要点をまとめる
第 13 回	効果的なビジネスプランの作成	事前学習	テキストの予習 (pp. 243～263 を読んでくる)
		事後学習	ビジネスプラン作成の要点をまとめる
第 14 回	ビジネスプランの評価と、銀行員やベンチャー・キャピタリストだとしたらビジネスプランをみて融資あるいは出資するかどうかの検討	事前学習	事前に資料を配布するので読んでくる
		事後学習	金融支援を受けるための要点をまとめる
第 15 回	コーポレート・ベンチャー戦略とまとめ	事前学習	コーポレート・ベンチャーの資料を読むこと
		事後学習	講義全体のまとめを行う

1. 科目名 (単位数)	企業統治論 (非営利企業を含む) (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3116
2. 授業担当教員	菊池 敏夫		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義を主にしながら質問、報告、討論の時間をつくり進める。			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>1) 企業の健全な経営のため最も重要な機能は企業統治だといわれている。まず企業統治 (コーポレート・ガバナンス) とは何かについて理解を深める。</p> <p>2) 企業という場合、株式会社などの営利企業のほかに非営利企業(NPO 法人など)、最近では社会的企業と表現される企業があるが、株式会社を中心としつつ、各種の企業経営に共通の機能として企業統治機能の内容を説明する。</p> <p>3) 企業活動のグローバル化にともない、日本をはじめアメリカ、中国、韓国、ドイツなどの企業統治の特徴を具体的にとりあげ、国際化への知的対応を準備する。</p>			
8. 学習目標	<p>将来、企業 (営利企業、非営利企業) へ就職したり、企業を設立、運営したり、企業と関係することが多いと思われ、そのような意味から学習の目標としては、1) 企業の立場から企業統治を考えるとともに、2) 企業の利害関係者 (ステイクホルダー) の立場から、株主、従業員、顧客、地域社会などの視点から考え、3) 数多くの具体的な事例をとりあげ、問題への認識を深めることを目標とする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義でとりあげ学習した問題または関連するテーマについて課題を示し、それについてレポートを作成または報告する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 菊池敏夫『企業統治論』税務経理協会、2014 年。毎回講義資料を配布。</p> <p>【参考書】 菊池敏夫・太田三郎・金山権・関岡保二編著『企業統治と経営行動』文眞堂、2012 年。 菊池・平田・厚東編著『企業の責任・統治・再生—国際比較の視点—』文眞堂、2008 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>質問・討論・授業への積極性 35%</p> <p>中間レポート 30%</p> <p>最終レポート 35%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	将来、企業 (営利・非営利企業) への就職、企業の設立、企業の経営管理への参加などの機会を想定しながら学習することをおすすめしたい。そうすることによって学習が将来の夢の実現への準備となり、問題を真剣に考えられるようになるからである。			
13. オフィスアワー	別途、お知らせする			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	企業統治 (コーポレート・ガバナンス) とは何か、その主な内容への理解を深める	事前学習	シラバスの企業統治の内容を読んでおくこと	
		事後学習	講義内容を復習する	
第 2 回	企業統治が提起されてきた理由、背景は何か—日本、アメリカ、中国、イギリスなどの事情、経営の方針と理念の重要性などをとりあげる	事前学習	テキスト第 1 章の 1・2 を読み、問題の背景を理解	
		事後学習	講義内容を復習する	
第 3 回	企業統治は企業の利害関係者 (ステイクホルダー) と関連している—企業のステイクホルダーとは何か、企業との関係	事前学習	テキスト第 1 章の 2 を読みステイクホルダーの意味を理解	
		事後学習	ステイクホルダーと企業との関係、経営の意思決定への影響を学習	
第 4 回	企業統治と CSR の関係、企業統治からみた企業責任の位置	事前学習	配布資料を読む	
		事後学習	配布資料の内容復習	
第 5 回	日本における企業統治改革の歴史	事前学習	企業統治改革の歴史を第 1 章の 3 で学習	
		事後学習	企業統治改革の内容を復習	
第 6 回	企業統治からみた日本の会社制度	事前学習	テキスト、第 3 章の 1 を読み問題への理解を深める	
		事後学習	配布資料、講義内容を復習	
第 7 回	日本の企業統治と取締役会	事前学習	テキスト、第 3 章の日本の取締役を読み、取締役会の機能を理解	
		事後学習	取締役会の機能の内容を復習	
第 8 回	中国の企業統治改革の歩み、その現状、特徴	事前学習	テキスト、第 3 章の 2 を読み理解	
		事後学習	講義内容、資料の整理	
第 9 回	アメリカ、イギリスの企業統治改革の特徴、サーベンズ・オクスリー法と日本への影響	事前学習	配布資料を精読、サーベンズ・オクスリー法の制定目的を理解	
		事後学習	講義内容、資料の復習	
第 10 回	韓国の企業統治改革、その特徴と問題点	事前学習	テキスト、第 3 章の韓国の企業統治を読み問題を理解	
		事後学習	配布資料、講義から最近の動向を理解	
第 11 回	企業統治からみた社外取締役、独立取締役の機能	事前学習	執行に対する監視機能をどこに位置づけるかを考える。テキスト第 4 章を読む	
		事後学習	講義内容から何が問題かを考える	
第 12 回	非営利企業の企業統治を考える	事前学習	非営利企業の企業統治機能を発揮するために第 6 章を読みどのような方法が望ましいかを考える	
		事後学習	有効な方法を理解	

平成 28 年度

第 13 回	非営利企業における企業統治の主要問題	事前学習	第 6 章を読み NPO 法人など非営利企業および社会的企業について考える
		事後学習	講義、資料、第 6 章により、NPO、社会的企業のガバナンスの核心は何かを理解
第 14 回	大規模自然災害と企業統治の問題—経営立地の決定、BCP（事業継続計画）の策定など	事前学習	配布資料から問題を考える
		事後学習	立地選定基準およびBCPの重要性を理解
第 15 回	講義全体のまとめ、総括	事前学習	講義内容全体の復習
		事後学習	最終レポート提出

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3213
2. 授業担当教員	成田 成		GECD3264
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、キャリアアップにつながる「教養」を身に付けるための一環として、効果的な考え方や勉強法を学習参考例や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、考え方や解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取り上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導などを行い、社会現場で役立つ実践的な能力を身に付けていく。		
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤上記の①～④を兼ね備えた、総合的な教養と実践力を身に付けられる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：最終日の授業時間には「就職先では自分の経験や知識をどのように活かすか」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成していただく。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】教科書は使用せずに、分かりやすい学習参考例を配付して授業を進めていく。</p> <p>【参考書】参考書は指定しないが、自分が受験する試験に関する参考書や問題集の中でも、解説が詳しく分かりやすいものをお薦めである。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート課題：60 点、授業態度 (宿題、質問、発表などを含む)：40 点、総合点：100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	本授業を通じて、自分の希望する就職先や資格などについて真剣に考え、それらの目標を達成させるために、自主的に教養を高めてキャリアアップを図れるようになってほしい。		
13. オフィスアワー	時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4 号館 1 階 120 研究室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、効果的な勉強法	事前学習	将来、自分がやりたい職業について考えてくる。
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再確認する。
第 2 回	就職活動に関する基本的な流れ	事前学習	就職活動を行うために何をすべきかを考えてくる。
		事後学習	希望する就職先について調査してみる。
第 3 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 4 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 5 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 6 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 7 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 8 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 9 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 10 回	施設・会社等の訪問の仕方 (アポイントの取り方、マナーなど)	事前学習	施設・会社等の訪問の仕方について調べてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 11 回	長期休暇期間におけるキャリアアップ法 (効果的な勉強法、有効な過ごし方など)	事前学習	夏休み期間中の有効な過ごし方について考えてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことを参考にして夏休みの計画に役立てる。
第 12 回	適性問題、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 13 回	適性問題、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 14 回	小論文の書き方	事前学習	小論文の書き方について調べてくる。
		事後学習	小論文の書き方について復習してくる。
第 15 回	レポート (就職先では自分の経験や知識をどのように活かすか)	事前学習	レポートの下書きを作成してくる。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I A (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3211 GECD3261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	2年次までの教職課程科目並びにキャリア基礎演習 I / キャリア基礎演習 II をすでに単位取得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教員には、校種別の専門的知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身に付けることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習 I (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習 I A (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア開発演習 I A においては、「教職教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力を身につけることを目標とする。各回の演習においては、「教職教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身に付け、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得することができる。 2. 教職教養の各領域の出題傾向を理解したうえで、各自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 教職教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 教職教養の各領域の過去問演習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集等に取り組み、自己学習できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 習熟度確認テストおよびレポート課題 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 東京教友会編著『教職教養ランナー 2017 年度版』一ツ橋書店。</p> <p>【配布資料】 各回の演習で資料を配布する。</p> <p>【参考書】 協同教育研究会編『教職教養の精選実施問題』、協同出版。 協同教育研究会編『過去問シリーズ：〇〇県 (自治体別に出版) の教職教養』、協同出版。 資格試験研究会編『教職教養らくらくマスター』、実務教育出版。 その他、自らが学習しやすい参考書を参照すること。</p>		
11. 成績評価の方法	各回の確認テスト 20% 習熟度確認まとめテスト 80%		
12. 受講生へのメッセージ	本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。 <ol style="list-style-type: none"> ① 授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ② 「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ③ 遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④ わからない点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑤ 本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワー (時間割掲載のオフィスアワー欄を参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の目標と進め方。	事前学習	シラバスで授業内容を確認してくること。
		事後学習	テキストの「まえがき」の部分熟読しておくこと。
第 2 回	現代の教育 (pp. 189~216) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 3 回	教育史① (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 4 回	教育史② (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 5 回	教育史③ (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 6 回	教育課程と教授・学習 (pp. 303~310) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 7 回	教育法規① (pp. 7~138)	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。

	* 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	教育法規② (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 9 回	教育法規③ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 10 回	教育法規④ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 11 回	教育法規⑤ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 12 回	教育法規⑥ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 13 回	特別支援教育の制度① * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	特別支援教育についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 14 回	特別支援教育の制度② * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	特別支援教育についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 15 回	習熟度確認まとめテスト/授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。
第 16 回	教育心理① (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 17 回	教育心理② (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 18 回	教育心理③ (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 19 回	教育時事① * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 20 回	教育時事② * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 21 回	教育時事③ * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 22 回	教育時事④ * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 23 回	学習指導要領① (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 24 回	学習指導要領② (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 25 回	学習指導要領③ (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 26 回	生徒指導・安全指導① (pp. 139～168) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 27 回	生徒指導・安全指導② (pp. 139～168) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 28 回	人権尊重の教育① (pp. 169～188) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわ

平成 28 年度

			からなかった点など復習しておくこと。
第 29 回	人権尊重の教育② (pp. 169~188) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 30 回	習熟度確認まとめテスト／授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I B (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3212
2. 授業担当教員	石垣 久美子		GECD3262
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、養護教諭教員採用試験対策を柱に据えつつ、養護教諭としての資質・能力をさらに向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、これまでに身につけてきた養護教諭としての基礎的な能力をさらに発展させ、児童生徒の複雑かつ多様な健康課題に対応できる高度な専門性を習得することを目指す。また講義に取り組む中で、養護教諭という職業への責任と使命感を再確認し、意欲的な自己学習を定着させていくことを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員採用試験に合格し、養護教諭として現場で活躍するための発展的知識・技術を確実に習得し、実践に活かすことが出来る。 2. 児童生徒の健康課題に対する判断力・対応力を磨き、高度な専門職としての資質をさらに向上させる。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、内容の定着を図る。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 4. 養護教諭の職務に関する小論文執筆 (夏季および冬季休業期間中) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 東京アカデミー編『オープンセサミシリーズ 2017 年度教員採用試験ステップアップ問題集⑩養護教諭』七賢出版、2015。 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第 2 次改訂版』第一法規、2009。(購入済み) 2) 『教員採用試験よくわかるシリーズ「よくわかる養護教諭」』時事通信出版局。(購入済み) 3) 文部科学省、日本学校保健会より出版されている冊子など 		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 (30%) 2. 演習問題の振り返りおよび日常的な自己学習への取り組み (20%) 3. 毎回の演習問題、半期ごとのまとめ課題への取り組み (30%) 4. 養護教諭の職務に関する小論文 (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	養護教諭専門科目での既習事項とリンクさせながら、2 年次までに身につけてきた養護教諭としての基礎基本をさらに発展させ、教員採用試験 1 次試験合格を目指しましょう。養護教諭としての専門性をさらに向上させ、学校現場で活躍することのできる知識・技術の習得を目標に、一つ一つクリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	初回講義にて告知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・全国の出題傾向等 ・教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	自らの受験する自治体の受験情報を調べ、必要な準備についての見通しを持つ。
第 2 回	学校保健 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校保健に関するページ (pp. 2~10) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校保健の演習問題に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 3 回	学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校安全に関するページ (pp. 19~25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校安全の演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 4 回	養護教諭の職務と保健室 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の養護教諭に関するページ (pp. 33~48) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った養護教諭に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 5 回	保健教育① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp. 66~84) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 6 回	保健教育② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp. 66~84) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 7 回	健康診断① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp. 108~123) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 8 回	健康診断② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp. 108~123) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。

第 9 回	健康相談・健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康相談に関するページ (pp. 146～157) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康相談に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 10 回	疾病とその予防① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp. 169～205) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 11 回	疾病とその予防② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp. 169～205) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 12 回	救急処置① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp. ～25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 13 回	救急処置② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp. ～25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 14 回	論文文① 「不登校の子どもへの養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	不登校の児童生徒への対応について、既習科目での学習内容を振り返っておく。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 15 回	春期問題演習のまとめと振り返り 今後の自己学習の進め方	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	半期の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標や自己学習計画を明確化する。
第 16 回	学校環境衛生 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校環境衛生に関するページ (pp. 301～310) を読んでおく。
		事後学習	本時に行った学校環境衛生に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 17 回	関係法規 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の関係法規に関するページ (pp. 321～329) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った関係法規に関連する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 18 回	実践問題① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 19 回	実践問題② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 20 回	全国過去問演習① (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 21 回	全国過去問演習② (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 22 回	全国過去問演習③ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 23 回	全国過去問演習④ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 24 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。
		事後学習	先輩の合格体験談を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。
第 25 回	論文文②： 「いじめに対する養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	いじめへの対応について、既習科目での学習内容をふりかえり、自分の考えをまとめる。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 26 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 27 回	全国過去問演習② (記述式)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予

	(解説・討論・実技)		習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 28 回	全国過去問演習③ (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 29 回	全国過去問演習④ (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 30 回	秋期過去問演習のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4213
2. 授業担当教員	成田 成		GECD4264
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、就職試験や資格試験のためだけでなく、有能な社会人として必要な「教養」を身に付けるための一環として、効果的な勉強法を資料や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導なども行い、現場で役立つ実践的な能力を身に付ける。		
8. 学習目標	本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。 ①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。 ②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。 ③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。 ④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。 ⑤上記の①～④を兼ね備えた、有能な社会人として活躍できる総合的な教養力や実践力を身に付けられる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：最終日の授業時間には、「有能な社会人となるためにはどうすべきか」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成していただく。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】教科書は使用しないが、市販の本よりも分かりやすい学習参考例を配付して授業を進めていく。 【参考書】参考書は指定しないが、自分が受験する試験に関する参考書や問題集の中でも、解説が詳しく分かりやすいものをお薦めである。		
11. 成績評価の方法	レポート課題：60 点、授業態度 (提出課題、発表などを含む)：40 点、総合点：100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本授業を通じて、有能な社会人として活躍できる教養力を養っていただきたい。また、現場で起こり得る問題点については、それを発見して解決できる能力を身に付けてほしい。		
13. オフィスアワー	時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4 号館 1 階 120 号室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、効果的な勉強法	事前学習	有能な社会人とは、どんな人のことを言うのかについて考えてくる。
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再確認する。
第 2 回	適性問題、就職活動をするための事前の準備	事前学習	どこに就職したいのかを考えておく。
		事後学習	就職先に応じた事前の準備を行う。
第 3 回	適性問題、小論文問題、自己 PR の仕方	事前学習	小論文や自己 PR の原案を考えてくる。
		事後学習	ワークシートに記載した内容を再確認して練り直す。
第 4 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 5 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 6 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 7 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 8 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 9 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 10 回	適性問題、面接の受け方	事前学習	面接の受け方について練習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 11 回	模擬面接、合格点がもらえる小論文	事前学習	小論文の書き方について予習してくる。
		事後学習	合格点がもらえる小論文のポイントについて復習する。
第 12 回	模擬面接、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 13 回	模擬面接、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 14 回	模擬面接、時事問題	事前学習	時事問題として取り上げられそうなテーマを考えてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 15 回	レポート (有能な社会人となるためにはどうすべきか)	事前学習	レポートの下書きを作成してくる。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習ⅡA (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4211 GECD4261								
2. 授業担当教員	チームティーチング										
4. 授業形態	講義・課題演習 (論作文作成・模擬面接など)	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ、Ⅱ」および「キャリア開発演習Ⅰ」を履修していることが望ましい。										
7. 講義概要	<p>本講義では、1 年次の「キャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)」、2 年次の「キャリア基礎演習Ⅱ (専門教養)」および 3 年次の「キャリア開発演習Ⅰ (教職教養)」で培われてきた各分野・領域における基礎学力を基盤とし、教員採用試験対策における最終的な総まとめとしての段階と位置づけ、より実践的かつ実務的な講義・演習を中心とした講座を展開する。</p> <p>各回の授業においては、各自自治体ごとの小論文および面接試験の傾向を踏まえながら、過去に出題された課題をもとにした個人および集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導などを行う。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 各自自治体による二次試験の出題傾向を自ら調べ対策をたてることができる。 個人および集団面接・集団討論形式の試験において、過去に出題されたテーマに対して積極的に自らの意見を述べることができ、教員になるための資質の向上を目指す。 模擬授業において、これまで各教科の指導法で学んできたことをもとに全体を見通した授業の一部を展開することができる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 論作文などの課題提出 各回における積極的な発言、態度を評価 										
10. 教科書・参考書・ 教材	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業の際に適宜配布 「教職教養」「全科」「一般教養」の各ランナーやその他、自らが学習しやすい参考書を用意 										
11. 成績評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">各時間に出された課題 (論作文、レポートなど) の提出</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">40%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> <tr> <td>模擬テスト</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right; border-top: 1px dashed black;">100%</td> </tr> </table>			各時間に出された課題 (論作文、レポートなど) の提出	40%	授業態度	40%	模擬テスト	20%		100%
各時間に出された課題 (論作文、レポートなど) の提出	40%										
授業態度	40%										
模擬テスト	20%										
	100%										
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業においては、教員採用試験合格を目指して、二次試験合格に向けての実践力を身につけることを目的としている。目的の達成のためには、受講生は以下の事項について守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。 個人および集団面接の際、予想される質問に対して端的に答えられるように十分な準備をして臨むこと。 集団面接および討論の際、積極的・意欲的に議論に参加すること。 授業中における私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁。 本授業の経験を契機として、教員採用試験合格を目指す友人と協力して個人・集団面接および集団討論に対する個々のさらなるレベルアップを図ること。面接試験対策においては、対応力が問われるため本番の面接を想定した練習を重ねることが重要である。 										
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションおよび論文の書き方について (講義) * 各自自治体の採用試験の傾向および 1~3 年生までのキャリア教育・教員対策講座の振り返りをし、現時点で自分が補わなければならない部分を再確認することができる。(教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。改めて自分が受験する自治体の動向を確認する。								
		事後学習	本講義の基本的な流れを理解し、受験する各自自治体の願書・資料の入手・収集に努める。								
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> 論文指導と実際 (講義・演習) * 前時で課題として出した論文の執筆。課題 1 (教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	論文を書く際に必要となる注意事項を知り、本時の課題を確認しアウトラインを練る。								
		事後学習	書いた論文について自己評価を行う。								
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> 新任教師や臨時教員に求められる必要な教育法規 (講義) * 来年度教員を目指す者および臨時教員を希望する者全てにおいて重要かつ必要な教育法規の見直しをし、再認識を行うとともにしかるべき将来に備える。 	事前学習	教育現場で求められる教師像を簡潔にまとめておく。								
		事後学習	来年度教員を目指す者および臨時教員を希望する者全てにおいて重要かつ必要な教育法規を再確認する。								
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 面接練習オリエンテーション (講義) * 各受験自治体別にグループ分け (教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	自分が受験する自治体の面接内容における最新の動向を調べる。								
		事後学習	各自でピックアップした設問を個々で練習する。								
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 個人 (集団) 面接練習① (演習) * 最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともにその振り返りをする。 	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。								
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理し、次時に生かせるようにする。								

第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・個人（集団）面談練習②（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともに集団でディスカッションを行い、よりよい応答を検討する。 	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理し、次時に生かせるようにする。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・集団討論・場面指導オリエンテーション（講義） *校種別にグループ分け（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理する。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・集団討論練習①（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともに集団でディスカッションを行い、よりよい応答を検討する。 	事前学習	教育現場で自分はどうに貢献できるか具体的に述べられるよう構想を練る。
		事後学習	本時の集団討論で指摘された注意事項やディスカッションを整理し、次時に生かせるようにする。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・集団討論練習②（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともに集団でディスカッションを行い、よりよい応答を検討する。 	事前学習	教育現場で自分はどうに貢献できるか具体的に述べられるよう構想を練る。
		事後学習	本時の集団討論で指摘された注意事項やディスカッションを整理する。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・場面指導①（演習） *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともに集団でディスカッションを行い、よりよい応答を検討する。 	事前学習	具体的な場面指導を想定し、実演ができるよう構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理し、次時に生かせるようにする。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・直前対策 模擬テスト① 一般教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	事前に一般教養の領域の内容を把握しておく。
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握する。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・直前対策 模擬テスト② 教職教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	事前に教職教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握する。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・直前対策 模擬テスト③ 専門教養編（演習） *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬テストでの実施。（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	事前に専門教養の領域の内容を把握しておく。
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握する。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・直前対策 模擬テスト④ 総合編（教職課程支援室にも依頼） 	事前学習	事前に全領域の内容を把握しておく。
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握する。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・評価とまとめ（講義およびまとめのレポート） *本講座における目的や目標が達成できたか総合的評価を行う。 	事前学習	これまでの授業の流れを振り返り、意義のあった部分および問題点を整理しておく。
		事後学習	本授業における意義を再確認し、今後に向けての自分の進むべき方向性を改めて明確にし、決意を新たにする。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習ⅡB (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2312
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、教員採用試験対策に主眼をおきながら、養護教諭としての資質向上を目指す専門教育科目として展開する。全国の過去数年間の出題傾向の研究・分析を踏まえ、養護教諭採用試験の必須事項を精選して最終確認を行う。また、小論文、面接、集団討論に関する実技や演習を通して、児童生徒等の心身の健康実態、教育現場が養護教諭に求めているものを整理する。		
8. 学習目標	養護教諭採用試験で実際に出題された問題を解くことを通し、まずは1次試験合格を目指す。また、面接や討論などの練習を通して実践的な資質を向上させ、即戦力となるための力量を確かなものにする。 <具体的な学習目標> ①学校保健・学校安全に関する法令等に精通する。 ②養護教諭としての基礎知識・専門知識を広く習得する。 ③救急処置の理論と方法を確実にマスターする。 ④児童生徒のヘルスニーズの解決のための対応力を高める。 ⑤学習指導要領に精通し、指導案の作成と指導の実践力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①演習問題の予習と、解答の再確認 (書いて覚える)。 ②受験する都道府県についての情報収集。 ③毎回、次の学習事項に関する資料と課題 (試験問題、論作テーマ等) を配付するので、学生は1週間かけて準備し、講義に臨む。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 1) 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校保健実務必携 第2次改訂版』第一法規 (購入済み) 【参考書】 1) 『教員採用試験よくわかるシリーズ「よくわかる養護教諭」』時事通信出版局 (購入済み) 2) 『オープンセサミシリーズ 2016 年度教員採用試験ステップアップ問題集①養護教諭』東京アカデミー編、七賢出版、2014 (購入済み) 3) 日本学校保健会・文部科学省からの出版物等 4) 各自治体過去問		
11. 成績評価の方法	1. 討論、面接等実技課題への積極的参加度 (50%) 2. 講義時間内に実施する問題演習の得点 (20%) 3. 授業ごとに出題するワークシートや事後学習への取り組み状況 (30%)		
12. 受講生へのメッセージ	やる気のある学生には、十分応える。授業中は手 (書く)・眼 (見る)・脳 (理解し、覚える) を使って集中して学ぼう。正解だけ脳に残し、間違った情報は直ちに消去する。関連のある事項は比較し、一緒に覚え、活用しよう。3年次までの講座により、努力した分、確実にその成果が上がることを体験したと思う。さらに本講座で学ぶ内容は、採用試験の為だけでなく、就任直後から職務に活用出来る重要なものである。		
13. オフィスアワー	後日連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・教員採用試験に対する心構えと応募手続きについて ・養護教諭志望理由等の再整理	事前学習	受験予定自治体の試験スケジュールや、応募に必要な準備について確認する。
		事後学習	養護教諭を志望する理由や、理想とする養護教諭像を整理する。
第2回	養護教諭専門教養問題演習① 1. 学校保健・学校安全 2. 養護教諭職務・学校保健関係職員 3. 保健室・保健室経営 4. 健康観察 5. 健康診断	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第3回	養護教諭専門教養問題演習② 6. 学校環境衛生 7. 健康相談・健康相談活動 8. 疾病とその予防 9. 感染症	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第4回	養護教諭専門教養問題演習③ 10. 養護教諭の基礎・専門知識 11. 救急処置 12. 救命・応急手当 13. 保健教育	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第5回	小論文対策 ・書き方についての基本事項の再確認 ・課題に対する答え方のアイデアについて討議する。	事前学習	3年次までに実施した小論文課題を復習し、ポイントを整理しておく。
		事後学習	受験自治体の出題傾向に合わせ、小論文を執筆する。
第6回	個人・集団面接対策 ・面接票の書き方と自己PRの在り方 ・質問に対する答え方のアイデアについて討議する。	事前学習	自己PRや志望理由を再整理し、後日実施するロールプレイに備える。
		事後学習	面接票に記載した内容について、自分の言葉で説明できるように練習をする。
第7回	集団討論対策 ・集団討論の基本的ルールと展開のポイント ・テーマに対する答え方のアイデアについて討議する。	事前学習	受験自治体の出題傾向について調べておく。
		事後学習	討論テーマについて、自分の考えを整理し、後日実施するロールプレイに備える。

平成 28 年度

第 8 回	模擬授業・救急処置実技対策 ・模擬授業, 救急処置実技の留意点 ・これまでの出題テーマの分析	事前学習	自分の受験する自治体の出題傾向について調べておく。
		事後学習	後日実施するロールプレイに備え, 練習をしておく。
第 9 回	面接・集団討論の実践① ・実際の面接, 討論を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について, 自分の考えを整理しておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し, 改善につとめ練習をする。
第 10 回	面接・集団討論の実践② ・実際の面接, 討論を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について, 自分の考えを整理しておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し, 改善につとめ練習をする。
第 11 回	模擬授業・救急処置の実践 ・実際の試験問題を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について, 自分の考えを整理し, 練習をしておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し, 改善につとめ練習をする。
第 12 回	教員採用試験の振り返り ・今年度の出題傾向の分析 ・今後の課題の整理	事前学習	受験した試験の自己採点を実施し, 難しかった問題について整理しておく。
		事後学習	養護教諭として教育現場に出るまでに, 自らが取り組むべきことについて整理する。
第 13 回	保健室経営① ・最新の学校保健の動向に関する討議	事前学習	事前に提示されたテーマについて, 自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議によって得られた新たな視点を踏まえ, 養護教諭として取り組むべきことをまとめる。
第 14 回	保健室経営② ・最新の学校保健の動向に関する討議	事前学習	事前に提示されたテーマについて, 自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議によって得られた新たな視点を踏まえ, 養護教諭として取り組むべきことをまとめる。
第 15 回	まとめ ・養護教諭としての資質向上における課題の整理 ・卒業後の進路決定における課題の整理	事前学習	本講義における半年間の取り組みについて, 振り返りをする。
		事後学習	整理した課題に基づき, 具体的な行動につなげる。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡB (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2312
2. 授業担当教員	面川 幸子		GECD2262
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、学校現場で必要とされる養護教諭をめざし、その資質と力量を向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、児童生徒への対応に関するディスカッション、各種実技演習などに取り組み、基礎的な能力を確実に身につける。また養護教諭という職業、あるいは教員採用試験対策に対する意欲を向上させるとともに、自己学習の習慣を定着させる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての養護教諭の資質と力量形成に向け、他の専門科目と関連付けながら、基礎的な知識や技術を確実に習得する。 2. 児童生徒の心身の健康課題に対する判断力を向上させるとともに、養護教諭の専門性をいかした対応のあり方を習得する。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、翌週の確認問題演習に備える。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 (学校保健実務必携の該当箇所を熟読し、他の科目での既習事項を復習しておく。) 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『2017 年度版教員採用試験 Basic 定着シリーズ⑦よくわかる養護教諭』時事通信出版局。 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第 4 次改訂版』第一法規。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加態度 (30%) 2. 演習問題および振り返りシートの記入 (自己学習への取り組み) (50%) 3. まとめ (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	養護教諭専門科目や教職関連科目の内容とリンクさせながら、養護教諭になるための基礎的な知識を確かなものにしていきます。また、演習やグループ討議を通して、養護教諭としての基本的態度や資質を身につけます。今のうちからこうした基盤作りに地道に取り組むことが、学校現場から必要とされる養護教諭として成長することにつながります。教員採用試験に合格に向けて、ひとつずつ、クリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・自己理解、他者理解のワーク ・これからの学びと教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	養護教諭を目指す意志を明確化し、今後の具体的な学習目標を持つ。
第 2 回	学校保健の領域・保健指導と保健学習 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.5～19
第 3 回	学校保健安全法 学校保健計画・学校安全計画・学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.20～25
第 4 回	養護教諭の職務 (養護教諭に求められる資質) (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.150～160
第 5 回	健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.80～86
第 6 回	健康診断 ①健康診断の意義・種類・検査項目 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる教科書 pp.38～70。
第 7 回	②保健調査・健康診断票の記入 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはか。pp.46～54
第 8 回	③健康相談・こころのケア (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.72～78
第 9 回	④発達障害・メンタルヘルス (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.180～184,p.194
第 10 回	⑤視力検査 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.56 p.166
第 11 回	⑥聴力検査 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.58 p.168

第 1 2 回	⑦歯科検診・う歯・その他歯科関連 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.62 ,p90 ,p170
第 1 3 回	⑧身体測定：身長・体重・座高 脊柱側弯検診 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.60～
第 1 4 回	⑨事後措置・健康診断での養護教諭の役割 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.68～70
第 1 5 回	・春期演習問題のまとめと振り返り	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 1 6 回	保健室の機能・保健室経営	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.196～198
第 1 7 回	疾病予防 ①最近の疾病予防 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.88
第 1 8 回	②腎臓病・糖尿病 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.94 ,p.98
第 1 9 回	③小児生活習慣病・肥満 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.96 ,p100 ,p192
第 2 0 回	④アレルギー疾患 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携の中で、本時の授業内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度行い、内容の定着をはかる。p.102 ,p104
第 2 1 回	⑤学校感染症の種類・出席停止期間の基準 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携(pp.447～462)等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.106～110
第 2 2 回	⑥感染症の症状 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.112～122
第 2 3 回	⑦心臓検診・心臓疾患・その他心臓関連 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.66 ,pp174
第 2 4 回	⑧結核検診 (問題演習・実技演習・振り返り) (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.64
第 2 5 回	学校環境衛生 ① 学校環境衛生の目的・学校環境衛生活 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携 (pp.80～166) 等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.26～29
第 2 6 回	②学校環境衛生検査項目と基準 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.30～36
第 2 7 回	養護教諭の専門知識 ①各種解剖学 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.162～178
第 2 8 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り) ②各種解剖学 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。 学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	先輩の合格体験を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。 本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 2 9 回	③飲酒・喫煙・薬物乱用、性教育 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.186～192
第 3 0 回	秋期演習問題のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (保育士 A コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4214
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	演習、ディスカッション、実技	5. 開講学期	
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座では、キャリア開発演習Ⅰ(保育コース)で学習した内容を踏まえて、保育の専門職としての基礎知識の定着を図り、保育現場で活用できる力を養成する。主として文章表現・レポート作成、面談、実技を中心に進める。また、外部講師により現場に求められる保育者像や現場で当面する課題に関する留意点等をご講話いただく。さらに、多くの保育関連諸施設での課題についての理解も深めるため、現場の具体的問題事例の解決の仕方など、これまでの知識を整理するとともに、課題を見出し解決する方法を考える。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育職として働く意義ややりがい等を確認し、それを他者に明瞭に表現することができる。 2. 保育職としての自らの教育理念・保育理念を形成し、社会的ニーズに対応できる。 3. 保育従事者としての心得と常識とを備えることができる。 4. 現代の社会状況と保育を取り巻く環境を理解した上で、将来の展望を描ける。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の現場と大学での学びを統合して考察することに関する課題。 2. 保育職に求められる人材に関する課題。 3. 保育職を目指すにあたっての自己の課題に関する課題。 4. 保育士に関する模擬テスト(業者テスト) 5. その他 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】必要に応じて紹介する。</p> <p>【参考書】保育士試験研究会編『保育士—就職の作文と面接』実務教育出版。 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文科省・厚労省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 その他、適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	授業への積極的な参加態度、課題 80% 記述試験 20% 尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本授業の開講時期は、福祉実習、保育実習、教育実習などで多忙な時期と重複することだろう。しかしまた、確実に、学生から社会人へ転換期を迎えたことも事実である。就職活動期にある4年生として、明確な自覚と認識をもって授業に臨み、自身の望む未来を目指し積極的に臨むこと期待する。 『保育士就職模擬試験(作文)』実務教育出版を実施する。		
13. オフィスアワー	各教員のオフィスアワーは、別途通知。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業ガイダンス 保育職の採用試験の準備について アンケート、作文課題	事前学習	自分の進路について改めて考えてくる。
		事後学習	自分がめざす進路への就職に必要な(試験)内容について、具体的に自分が準備することをまとめる。作文課題をする。
第2回	就職支援室からのアドバイス 履歴書の書き方 作文課題の提出	事前学習	自分がめざす進路について、就職支援室に質問したいことをまとめてくる。
		事後学習	履歴書を書く。
第3回	作文の書き方	事前学習	保育士作文テストの準備
		事後学習	保育士作文テストの復習
第4回	保育士模擬試験(作文)	事前学習	保育士作文テストの準備
		事後学習	保育士作文テストの復習
第5回	作文返却、講評	事前学習	保育士作文テストの準備
		事後学習	保育士作文テストの復習
第6回	福祉施設職員として求められる人材とは(福祉施設長)	事前学習	自分の進路を考えながら質問を考えてくる。
		事後学習	学んだ要点を整理して記録しておく。
第7回	保育所に求められる人材とは(公立保育園園長)	事前学習	自分の希望進路を考えながら、質問を考えてくる。
		事後学習	大切なことを復習する。
第8回	実技試験対策1 音楽表現	事前学習	自分の希望進路に必要な試験内容について調べてくる。
		事後学習	音楽について、具体的に自分が準備することをまとめる。
第9回	実技試験対策2 音楽表現	事前学習	自分の希望進路に必要な試験内容について調べてくる。
		事後学習	実技試験について、具体的に自分が準備することをまとめる。
第10回	実技試験対策3 造形表現	事前学習	自分の希望進路に必要な試験内容について調べてくる。
		事後学習	造形表現おについて、具体的に自分が準備することをまとめる。
第11回	実技試験対策4 造形表現	事前学習	自分の希望進路に必要な試験内容について調べてくる。
		事後学習	実技試験について、具体的に自分が準備する

平成 28 年度

			ことをまとめる。
第 1 2 回	実技試験対策 5 保育技術	事前学習	自分の希望進路に必要な試験内容について調べてくる。
		事後学習	実技試験について具体的に自分が準備することをまとめる。
第 1 3 回	面接についての留意事項	事前学習	自分の進路を考えながら、質問を考えてくる。
		事後学習	大切なことを復習する
第 1 4 回	模擬面接 1	事前学習	模擬面接の準備をする。
		事後学習	自分に足りないと思う部分を練習する。
第 1 5 回	模擬集団面接 2	事前学習	模擬面接の準備をする。
		事後学習	自分に足りないと思う部分を練習する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (保育士 B コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4214
2. 授業担当教員	チームティーチング		GECD4266
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議	5. 開講学期	
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、3 年次に「キャリア開発演習Ⅰ (保育 B コース)」での学習の連続として、専門的知識、技能の実践への応用力を図り、学生個々が自ら学び続ける保育者を目指して主体的に専門的実力を深化する方法を考える。また、外部講師により、現場に求められる保育者像や、現在当面している保育の課題や留意点などをご講話いただく。現状を踏まえて各自が自己分析をし、これまでの知識を整理するとともに、課題を見出し解決の方法を考える。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育職を志す意義ややりがいを確認し、それを他者に明確に表現することができる。 2. 保育者としての教育理念・保育理念を形成し、社会的ニーズに対応できる。 3. 保育者としての心得と常識を備えることができる。 4. 現代社会の状況と保育を取り巻く環境を理解した上で、将来の展望が描ける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場と大学での学びを統合して考察する 2. 保育職に求められる人材について 3. 保育職を目指すために必要な自己課題 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】必要に応じて紹介する。</p> <p>【参考書】保育士試験研究会編『保育士—就職の作文と面接』実務教育出版。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。 その他、適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極的な参加、授業態度 20% ・模擬試験の受験と振り返り 30% ・実技 (面接等) 30% ・課題 (作文等) 20% <p>* 本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本講座の開講時期は、福祉実習、保育実習、教育実習等と重複し多忙な時期だと思えます。しかし、学生から社会人への転換期を迎え、就職活動をはじめめる 4 年生として、明確な自覚と認識をもって授業に臨み、自身の目標の達成のために真剣に取り組んでくれることを望みます。 ・『保育士就職模擬試験 (教養・専門・作文)』実務教育出版。(¥2700) を実施する予定です。 		
13. オフィスアワー	チームティーチングのため、オフィスアワーは各教員の担当科目を参照して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス 採用試験・適性検査について アンケート、作文課題	事前学習	希望の進路について調べてくる。
		事後学習	希望の進路への就職に必要な試験内容について、具体的にまとめる。作文課題に取り組む。
第 2 回	就職支援室からのアドバイス 履歴書の書き方 作文提出	事前学習	希望の進路についての質問事項をまとめる。
		事後学習	履歴書を書く アドバイスをまとめる。
第 3 回	保育士就職模擬試験① 一般教養	事前学習	模擬テスト (一般教養) の準備
		事後学習	模擬テスト (一般教養) の復習
第 4 回	保育士就職模擬試験② 専門科目	事前学習	模擬テスト (専門科目) の準備
		事後学習	模擬テスト (専門科目) の復習
第 5 回	作文返却、講評、作文演習	事前学習	模擬テスト (作文) の練習をする。
		事後学習	返却された作文を推敲する。
第 6 回	保育士就職模擬試験③ 作文	事前学習	模擬テスト (作文) の準備
		事後学習	模擬テスト (作文) の復習
第 7 回	保育者に求められる人材とは	事前学習	現場の状況についての質問事項をまとめる。
		事後学習	講話を聞いて、大切な部分をまとめる。
第 8 回	専門科目対策① 保育原理	事前学習	現代の保育を取り巻く環境における問題をまとめる。
		事後学習	授業内容をもとに、関連事項を調べる。
第 9 回	専門科目対策② 幼児教育	事前学習	現代の幼児教育における問題についてまとめる。
		事後学習	授業内容をもとに、関連事項を調べる。
第 10 回	実技試験対策① 音楽表現	事前学習	現場に役立つ音楽表現について調べてくる。
		事後学習	授業内容を踏まえて、実践する。
第 11 回	実技試験対策② 保育技術	事前学習	現場に役立つ保育技術について考えてくる。
		事後学習	授業内容を踏まえて、実践する。
第 12 回	実技試験対策③ 造形表現	事前学習	現場に役立つ造形表現について考えてくる。
		事後学習	指摘された部分について検討する。
第 13 回	模擬面接についての留意事項	事前学習	面接の心得について、まとめる。
		事後学習	授業内容を振り返り、面接の準備をする。
第 14 回	集団面接①	事前学習	質問事項等を想定し、回答を考えてくる。

平成 28 年度

		事後学習	面接を振り返り、指摘された部分を検討する。
第 15 回	集団面接②	事前学習	質問事項などを想定し、回答を考えてくる。
		事後学習	採用試験に向けて準備する。

1. 科目名 (単位数)	教育学概論 (初等) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1105
2. 授業担当教員	攪上 哲夫			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>今後、教育を専門的に学んでいくにあたっての基礎的な知識・理解の涵養を目指し、人類が教育をどのように考え実践してきたのかを、その歴史的・文化的な背景と現在の日本の教育との関連を同時に射程に収めながら学んでいく。</p> <p>大学で教育(学)なるものを学ぶ大きな目的の一つは、学校文化の中にどっぷりと浸かりその内部の視点からのみ教育や教師を考えているであろう多くの受講生の視点を、学校文化という文脈からいったん引き離し、より大きな社会的・歴史的な背景のもとに教育を捉えなおしてみる姿勢と思考力を涵養することにあると言ってよい。人間が営む教育という社会的な営為は、ひとつの絶対的で普遍的な形式をもつものではなく、常に変化し続けている。言い換えれば、いま現在の日本の教育現場のみを念頭に置いた教育の勉強というのは、有用であるように見えながら、真っ先に時代の流れに取り残されてしまう可能性が高いという側面もっている。</p> <p>本講義では、教育方法や個々の教科教育などから成る狭義の教育学だけではなく、教育を分析・理解するさまざまなアプローチに目を向ける。それを通して、今後ますます変化の度合いを強めるであろう社会の中で、市民として、あるいは親として教師として生きていく受講生が、教育を複数の視点から玩味し、問いなおし、発展させていく態度と思考能力を磨いていけるような講義を展開する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育のさまざまな側面に触れることで、各自のこれまでの教育概念を揺さぶり、それぞれが教育という営みを再考できるようになること。 2. 教育に関する代表的な論考やアプローチから教育の射程の広さを学び、教育理解に関する柔軟さ、そして教育実践における覚悟と責任と寛容さを培えるようになること。 3. ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質だと考えられる)。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内課題の提出 2. 2本の課題レポートを課す。テーマについては授業内で指示をする。 3. 各回ワークシートをまとめ、次時の授業の予習とする。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著『やさしい教育原理 新版補改訂』有斐閣アルマ、2014年。</p> <p>【参考書】牛渡敦著『教育学原論』中央法規出版、2008年。</p> <p>江原武一・山崎高哉著『基礎教育学』放送大学教育振興会、2010年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度(発言・ワークシートの記述・グループ討論) 20% 2. 中間レポート・期末レポート 60% 3. 通常授業時での小レポート 20% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>これまでの教育を振り返り、今後あるべき教育の方向を受講生の皆さんと共に考えていきましょう。教育を自分の課題としてとらえ、諸外国の教育にも関心を示し、日本の、世界の教育に視野を広げられる柔軟性を持つような授業を展開します。</p>			
13. オフィスアワー	初回授業時に案内します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	科目ガイダンス 教育学概論を学ぶ意義	事前学習	これまで受けてきた「教育」の意味を考える。教科書を概観する。	
		事後学習	教育学に関係のある教育分野について調べ、ワークシートにまとめる。	
第2回	教育とは何か① ルソーの『エミール』と子どもの発見	事前学習	教科書 pp.1~16 を読み、エミールについての予備知識を持つ。	
		事後学習	「学ぶ」能力と「教える」能力についてワークシートにまとめる。	
第3回	教育とは何か② 発達への助成的介入	事前学習	教科書 pp.17~38 を読み、発達への助成的介入についての予備知識を持つ。	
		事後学習	カマラの成長と発達について考察し、ワークシートにまとめる。	
第4回	学校とは何か(1) 学校の成り立ち	事前学習	教科書 pp.39~55 を読み、近代学校への発展についての予備知識を持つ。	
		事後学習	近代学校への性格についてワークシートにまとめる。	
第5回	学校とは何か(2) 日本の学校① 戦前までの教育制度	事前学習	教科書 pp.57~77 を読み、日本の近代化と学校教育についての予備知識を持つ。	
		事後学習	日本における近代公教育制度の成立についてワークシートにまとめる。	

第 6 回	学校とは何か (3) 日本の学校② 戦後の教育制度	事前学習	教科書 pp.78~86 を読み、戦後教育改革についての予備知識を持つ。
		事後学習	戦後教育改革の変遷をワークシートにまとめる。
第 7 回	こころとからだを育てる (1) 学力とは何か	事前学習	教科書 pp.87~101 を読み、学力についての予備知識を持つ。
		事後学習	子どもたちに身に付けてほしい知識・技能・態度とはどのようなものか、自分なりにワークシートにまとめる。
第 8 回	こころとからだを育てる (2) 道徳性の発達と教育	事前学習	教科書 pp.102~116 を読み、教育と心の発達についての予備知識を持つ
		事後学習	知育と徳育の関係についてワークシートにまとめる。
第 9 回	教育評価とは何か 教育評価と指導要録の変遷	事前学習	教科書 pp.133~149 を読み、教育評価についての予備知識を持つ。
		事後学習	教育評価は何のために、どのような方法で実施されるのかワークシートにまとめる。
第 10 回	教師の仕事 教師の資質	事前学習	教科書 pp.177~201 を読み、教師の仕事の予備知識を持つ。
		事後学習	教師の資質と資格についてワークシートにまとめる
第 11 回	社会教育と生涯教育 人は学び続ける	事前学習	教科書 pp.177~201 を読み、社会教育についての予備知識を持つ。
		事後学習	現代社会において生涯学習が必要な理由をワークシートにまとめる。
第 12 回	国際化と教育 教育の国際化	事前学習	教育の国際化について、関心のあるテーマを持ち、資料を収集する。
		事後学習	教育の国際化に関する諸課題の中から関心のある課題の一つを選び、関連資料を分析した結果をまとめる。
第 13 回	転換期の教育 グローバル化	事前学習	日本の教育改革の動向について参考文献より調べ予備知識を持つ。
		事後学習	新しい学習指導要領の方向を調べ、今後期待される教育の方向についてワークシートにまとめる。
第 14 回	日本の教育のゆくえ	事前学習	今後の日本の教育の在り方を提案した資料を集める。
		事後学習	日本の教育のゆくえについて自分なりの見識でワークシートにまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書、配布資料を読みなおし、これまでの 14 回の授業内容を振り返っておく。
		事後学習	授業内容を踏まえたうえで、理解が不足していた点を再度学習する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習Ⅰ (2 単位)	3. 科目番号	GECD1311 GECD1261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教員になるためには「一般教養」をはじめ、校種・教科別の「専門教養」、あるいは教職に関する基礎的な教養としての「教職教養」等の知識を確実に身につけることが求められる。本学の教員採用試験対策は、1 年次 (秋期) のキャリア基礎演習Ⅰ (「一般教養」対策)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (「専門教養」対策)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (「教職教養」対策) という一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習Ⅰでは、教員になるための第一歩としての幅広い一般教養を身につけるために、各分野の担当教員が指定の教科書 (=テキスト) を使用して高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容を再確認しながら、教員採用試験における「一般教養」の各分野 (人文科学・自然科学・社会科学) の重要ポイントをわかりやすく解説した上で、各回、授業内で問題演習を行うことにより、学習内容の理解のみならず、知識の確実な定着を図ることを目標とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本演習をとおして、高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容に関する自らの未習得部分を確認することができる。 2. よりよい教員になるために必要な知識を学ぶ上での基本的な「学習の仕方」「学習計画の立て方」を習得する。 3. 自らの未習得あるいは苦手部分を克服するために、本講義で学んだ「学習の仕方」にしたがって基本を見据えた自己学習に取り組むことができる。 4. 各系統・各分野の重要ポイントを理解し、問題演習時の応用問題に対しても柔軟に対応できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の問題演習 (=「確認テスト」) 2. 次時の学習範囲の予習 3. 前時の学習範囲の復習 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 資格試験研究会編『教員採用試験一般教養らくらくマスター 2018 年度版』実務教育出版。 *大学の書籍販売等を通じて、必ず授業開始までに入手しておくこと。</p> <p>【参考書】 各回、担当教員が適宜資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>以下の 3 つの観点から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の「確認テスト」・・・20% ・授業態度・・・30% ・習熟度確認まとめテスト・・・50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教員採用試験合格に向けての第一歩では、基本的な知識習得のための暗記・反復学習が重要となる。本演習においては、その基礎力を身につけることが目標であるため、受講生は以下のことを遵守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書 (=テキスト) を必ず毎回持参すること。 ②授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ③「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ④遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ⑤わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑥学習の際には、その内容を理解するにとどまらず、中学生や高校生にわかりやすく教えるための方法を考え、独自のノートづくりにも取り組むなど、各自が積極的に自己学習を進めること。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の進め方および予習・復習の仕方、テキスト内容の確認	事前学習	シラバスを熟読し、授業内容を確認してくること。
		事後学習	テキストの「本書の特長と活用法」「出題傾向と対策」の部分を熟読しておくこと。
第 2 回	人文科学① (国語分野 pp. 14~41) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 3 回	人文科学② (日本史分野 pp. 42~59) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 4 回	人文科学③ (世界史分野 pp. 60~77) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 5 回	自然科学① (数学分野 pp. 196~211) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 6 回	人文科学④ (美術分野 pp. 118~124) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。

平成 28 年度

第 7 回	人文科学⑤（音楽分野 pp. 125～129） *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	人文科学⑥（英語分野 pp. 130～140） *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 9 回	自然科学②（物理分野 pp. 212～223） *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 10 回	自然科学③（化学分野 pp. 224～235） *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 11 回	自然科学④（地学分野 pp. 248～260） *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 12 回	自然科学⑤（生物分野 pp. 236～247） *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 13 回	人文科学⑦（倫理分野 pp. 108～117） *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 14 回	社会科学（政治・経済・社会・労働分野 pp. 150～189） *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 15 回	習熟度確認まとめテスト／授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡA (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2311 GECD2261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ (教員コース)」を履修していることが望ましい		
7. 講義概要	<p>教員には、校種別の専門知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身につけることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。</p> <p>本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習ⅡA においては、「専門教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力をつけることを目標とする。</p> <p>各回の演習においては、「専門教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身につけ、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得する。 2. 専門教養の各領域の出題を理解したうえで、各自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 専門教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 専門教養の各領域の過去問練習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集などに取り組み、自己学習できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 次時の学習範囲の予習 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】小学校各学習指導要領解説書 (各教科・道徳・特別活動・外国語活動)</p> <p>資格試験研究会編『教員採用試験小学校全科らくらくマスター 2017 年度版』実務教育出版。</p> <p>【参考書】各回の演習で担当教員から適宜資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>各回の確認テスト・・・20%</p> <p>授業への積極性・・・30%</p> <p>習熟度確認まとめテスト・・・50%</p> <p>-----</p> <p>100%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の決まりを守る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ②自己学習の際には、静粛に取り組むこと。 ③私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション *本演習における特性と今後の展望。教科書の確認。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	小学校全科における学習内容を大まかに理解する (各教科等における年間時数表等を参照し把握)。
第 2 回	算数① (らくらくマスターpp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 3 回	算数② (らくらくマスターpp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 4 回	算数③ (らくらくマスターpp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 5 回	社会① (らくらくマスターpp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 6 回	社会② (らくらくマスターpp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 7 回	社会③ (らくらくマスターpp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	図画工作① (らくらくマスターpp. 229~254) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	「確認テストで出題された部分を見直し、よくわ

1. 科目名 (単位数)	教育学概論 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	EDTS1101
2. 授業担当教員	北林 敬			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教育の基礎的概念と諸理論について概説するとともに、教育の意義と目的、教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理について講義する。</p> <p>① 後世の教育思想に大きな影響を与えたコメニウスに始まり、世界で最初の教科書『世界図絵』での「学校」を手掛かりに、現在の学校教育との差異に幅広く気付く。</p> <p>② 子どもの存在は歴史的にどのようにみなされてきたのであろうか。「子どもの発見」の意味を探る。</p> <p>③ 新教育運動の中心概念となっている「自発性の原理」「自己活動の原理」など、基本的な実践理論、指導理論を探る。</p> <p>④ 教育は子どもの人間形成に寄与するという大テーマのもとに、人間的な子どもの特性が強調され、定型化された教育から、より人間的な教育の方法へという日本の教育の流れを先人の教育理論からたどる。</p> <p>⑤ 「教えること」と「学ぶこと」をつなぐことに腐心してきた先人の指導理論の変遷をたどり、今の指導理論の中に十分反映されていることを探る。</p> <p>などを通して、現在の学校教育がかかえている諸課題に対応していく糸口を、先人の知見から学ぶ。</p>			
8. 学習目標	<p>①教育の考え方や在り方の多様性に触れ、今の教育事象に問いを持つ。</p> <p>②「子どもの発見」以来、子ども観の変遷を整理し、子どもの人間形成という教育の使命を柱に据えて教育を考えることができる。</p> <p>③教育はその時代とともに変遷し、教育者は社会の要請に応じて柔軟に建設的に対応することに努め、教育理論を進展させてきた上に今の教育の営みがあることを理解し、教育実践者としての自覚を深める。</p> <p>④「教えること」と「学ぶこと」をつなぐ教育者としての永遠の課題を自覚し「学生」となる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>予習課題や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かするとともに、問題解決力を培うように努めること。</p> <p>1. ワークシート (ミニレポートを含み、各回の講義内容に沿った課題を提示する。)</p> <p>2. 課題レポート「教育学概論を学ぶ意義について述べよ。」(1000字)</p> <p>3. 期末試験</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理[新版補訂版]』有斐閣アルマ、2011。</p> <p>【参考書】 安彦忠彦・児島邦宏・藤井千春・田中博之編著『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房、2012。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言) 30%</p> <p>・課題 (ワークシート)・レポート 30%</p> <p>・期末試験 40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>1. 授業中は私語を慎み、携帯電話の電源を切って参加すること。</p> <p>2. グループワークやグループ討議には積極的に参加すること。</p> <p>3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問すること。</p> <p>4. レポートや課題 (ワークシート等) の提出期限を守ること。</p> <p>5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないこと。</p>			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション - 教育学を学ぶ意義について - 教育とは何か (第 1 章) ①	事前学習	教科書「はじめに」(pp. i ~ vi)・目次他 (pp. vii ~ x viii) 第 1 章 1 (pp. 1 ~ 12) を読んでおく。	
		事後学習	教育学を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。	
第 2 回	教育とは何か (第 1 章) ②	事前学習	教科書「第 1 章」2・3・4 (pp. 12 ~ 38) を読み、分からない部分をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第 3 回	学校とは何か (1) (第 2 章)	事前学習	教科書「第 2 章」(pp. 39 ~ 55) を読み、分からない部分をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第 4 回	学校とは何か (2) (第 3 章) ①	事前学習	教科書「第 3 章」1・2 (pp. 57 ~ 77) を読み、分からない部分をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第 5 回	学校とは何か (2) (第 3 章) ②	事前学習	教科書「第 3 章」3 (pp. 78 ~ 86) を読み、分からない部分をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワーク	

			シートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 6 回	こころとからだを育てる (第 4 章) ①	事前学習	教科書「第 4 章」1・2・3 (pp.87~101) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	こころとからだを育てる (第 4 章) ②	事前学習	教科書「第 4 章」4・5 (pp.102~116) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	よりよく学ばせ、教えるために (第 5 章)	事前学習	教科書「第 5 章」(pp.117~132) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	教育評価とは何か (第 6 章)	事前学習	教科書「第 6 章」(pp.133~149) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	授業の可能性・学校の可能性 (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」(pp.151~175) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	教師の仕事 (第 8 章)	事前学習	教科書「第 8 章」(pp.177~202) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	青年期と教育 (第 9 章)	事前学習	教科書「第 9 章」(pp.203~218) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	社会教育と生涯学習 (第 10 章)	事前学習	教科書「第 10 章」(pp.219~232) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	教育への権利と「子どもの権利条約」(第 11 章)	事前学習	教科書「第 11 章」(pp.233~248) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 15 回	よりよい教育を求めて (第 12 章)	事前学習	教科書「第 12 章」(pp.249~271) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3339 SCMP3339 SBMP3339 EDTS1103
2. 授業担当教員	北林 敬		5. 開講学期
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表、グループ学習等	6. 履修条件・他科目との関係	
7. 講義概要	<p>教育課程とは、教育機関(学校)がその教育目標(学校の教育目標)を達成するために児童・生徒に提供する教育内容と学習経験の組織である。本講義では現代日本の教育課程を多角的に展望するための基礎的な知識や概念の習得を目的としている。</p> <p>まず教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念について学習する。そして日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴について学ぶ。さらに近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題についての理解を深める。</p> <p>これらの学習を通して、現行の学習指導要領の基本的方向について理解し、教師として必要となる資質・能力の基礎を養う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の思想や教育課程編成の方法・理論、教育課程と教育評価の関係を学ぶことによって、教育課程に関する基本的な用語や概念を理解し、説明することができる。 2. 日本の教育課程の変遷について学習し、歴史的視点から教育課程を展望することができる能力を身に付け、活用することができる。 3. 諸外国の教育改革について学び、日本の教育課程を相対的に考察することができる能力を身に付け、活用することができる。 4. 近年の教育課程に関する新たな取り組みについて学習し、現代の教育が抱える課題についての理解し、その課題に対する自らの考えを深めることができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>予習課題や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにするとともに、問題解決力を培うように努めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークシート(ミニレポートを含み、各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 課題レポート「教育課程論を学ぶ意義について述べよ。」(1000字) 3. 期末試験 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程〔第3版〕』有斐閣アルマ、2011年。</p> <p>【参考書】 柴田義松『教育課程－カリキュラム入門』有斐閣、2000年。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言) 30% ・課題(ワークシート・レポート) 30% ・期末試験 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 5. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 6. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 7. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 8. レポートや課題の提出期限を守ってください。 9. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。 		
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション-教育課程を学ぶ意義について-	事前学習	教科書「序章」(pp.1~16)を読んでおく。
		事後学習	教育課程を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。
第2回	近代日本の教育課程の歩み(第1章)	事前学習	教科書「第1章」(pp.17~44)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第3回	現代日本の教育課程の歩み①(第2章)	事前学習	教科書「第2章」1~4(pp.45~76)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	現代日本の教育課程の歩み②(第2章)	事前学習	教科書「第2章」5~7(pp.76~106)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第5回	教育課程開発の新しい動き①(第3章)	事前学習	教科書「第3章」1~3(pp.107~124)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。

第 6 回	教育課程開発の新しい動き② (第 3 章)	事前学習	教科書「第 3 章」 4～5 (pp.124～140) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	教育課程の思想と構造① (第 4 章)	事前学習	教科書「第 4 章」 1 (pp.141～152) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	教育課程の思想と構造② (第 4 章)	事前学習	教科書「第 4 章」 2、3、4 (pp.152～168) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	教育課程をどう編成するか① (第 5 章)	事前学習	教科書「第 5 章」 1、2 (pp.169～183) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	教育課程をどう編成するか② (第 5 章)	事前学習	教科書「第 5 章」 3、4 (pp.184～198) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	教育課程をどう評価するか (第 6 章)	事前学習	教科書「第 6 章」 (pp.199～226) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	社会における教育課程① (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」 1、2 (pp.227～236) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	社会における教育課程② (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」 3、4 (pp.237～252) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	今日的課題への挑戦 (第 8 章)	事前学習	教科書「第 8 章」 (pp.253～284) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 15 回	まとめ - 教育課程論を振り返って	事前学習	これまでの学習内容を振り返る。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等) / 教育心理学 (初等・小) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3110 EDTE2105
2. 授業担当教員	石 暁玲			
4. 授業形態	講義、演習、グループディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学概論」, 「心理学入門」, または「発達心理学」など心理系の 1 科目を履修したことが望ましい			
7. 講義概要	教育心理学は、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考える学問である。それを考える上では主に、発達、学習、人格、測定・評価の 4 つの領域について基礎知識が必要となってくる。本講義では、以上のような基礎的知識修得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用も考察する。			
8. 学習目標	1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明することができる。 2. 教育心理学の見方、考え方を習得し、活用できる。 3. 教育心理学の知識、見方、考え方を教育の場で応用できるようにする。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	保育・教育の現場での問題解決に必要な思考力、実践力を高めるために、演習課題などを出す。 事前学習として、テキストの授業内容との関連部分を読んでおくこと。 事後学習として、復習、資料・ノートのまとめは必須。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『教育心理学』松原達也編、丸善出版。 【参考書】 『保育のためのやさしい教育心理学』高村和代・小平英志・安藤史高著、ナカニシヤ出版。 『「使える」教育心理学』 服部環監修 安齊順子・荷方邦夫編著、北樹出版。 『教育心理学キーワード』森敏昭・秋田喜代美編、有斐閣双書。 『保育児童福祉要説』東京福祉大学編、中央法規。			
11. 成績評価の方法	・平常点 (授業態度、授業への貢献度) 30% ・演習課題・小論文 30% ・小テスト 40%			
12. 受講生へのメッセージ	「教育」とはどういうことかについて深く考え、そして教育心理学について関心が持てることが受講の前提となります。 授業態度を重視するので、私語厳禁です。 自ら考え、授業で出されるさまざまな課題に取り組んでください。			
13. オフィスアワー	初回の授業で知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業ガイダンス/教育心理学とは	事前学習	教育の概念について考える。	
		事後学習	教育心理学の全体内容のイメージをつくる。	
第 2 回	発達と教育	事前学習	発達と教育の部分を熟読する。	
		事後学習	復習し、主な発達理論を理解する。	
第 3 回	学習理論の基礎と応用	事前学習	学習理論の部分を熟読する。	
		事後学習	復習し、学習理論の基礎を理解する。	
第 4 回	動機づけの基礎知識と応用	事前学習	原因帰属理論を調べる。	
		事後学習	復習し、動機づけの応用についてまとめる。	
第 5 回	授業法の実際	事前学習	授業法の部分を熟読する。	
		事後学習	授業のイメージを作る。	
第 6 回	模擬授業の準備、グループワーク	事前学習	模擬授業の準備。テーマを下調べし、基本的な知識を身につける。	
		事後学習	模擬授業のデザインを熟考し、考察を深める。	
第 7 回	学習指導	事前学習	学習指導の部分を熟読する。	
		事後学習	理解不足な点を復習する。	
第 8 回	学級の心理 I (集団)	事前学習	学級の心理の部分を熟読する。	
		事後学習	理解不足な点を復習する。	
第 9 回	学級の心理 II (学級集団)	事前学習	日本の学級集団の特徴を調べる。	
		事後学習	理解不足な点を復習する。	
第 10 回	教育評価	事前学習	教育評価の部分を熟読する。	
		事後学習	理解不足な点を復習する。	
第 11 回	ここまでのまとめ	事前学習	ここまでの内容を復習、小テストの準備。	
		事後学習	ここまでの内容を確認。	
第 12 回	学校臨床 (1) 不登校の理解と対応	事前学習	不登校の実態、事例、対処法を調べる。	
		事後学習	不登校の学習内容についてまとめる。	
第 13 回	学校臨床 (2) いじめの理解と対応	事前学習	いじめの実態、事例、対処法を調べる。	
		事後学習	いじめの学習内容についてまとめる。	
第 14 回	学校臨床 (3) 特別支援教育と発達障害	事前学習	特別支援教育と発達障害の部分を熟読する。	

平成 28 年度

		事後学習	理解不足な点を復習する。
第 15 回	さまざまな視点から教育心理学を学ぶ、講義全体のまとめ	事前学習	授業内容を振り返り、教育とは何かを考える。
		事後学習	教育心理学の本質について考察する。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE2105
2. 授業担当教員	平沼 晶子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、グループディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育心理学は、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考える学問である。それを考える上では主に、発達、学習、人格、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本講義では、以上のような基礎的知識修得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのかを検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用も考察する。		
8. 学習目標	1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明することができる。 2. 教育心理学の見方、考え方を習得し、活用できる。 3. 教育心理学の知識、見方、考え方を教育の場で応用できるようにする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業内で小テストや小レポートを実施するので復習をして臨む。 授業を通して学習したことを振り返り、期末レポートとしてまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	会田元明著『子どもとむかいあうための教育心理学演習』ミネルヴァ書房、1994年。		
11. 成績評価の方法	本学の規定により、3/4以上の出席を単位認定要件とする。 その上で、小テスト・小レポート (40%)、レポート課題 (30%)、授業態度と参加姿勢 (30%) から総合的に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 教科書に沿って授業を進めるので、事前学習に指定された箇所を熟読して授業に臨みましょう。 2. 当該のテーマについてグループワークを行うので積極的な態度で参加してください。 3. 教育心理学で学習したことを保育や教育の現場に応用できるように、実際に即して考えてください。		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・教育心理学とは何か	事前学習	自分自身の「教育観」について考えてくる。
		事後学習	教科書の pp.9~24 を読み、教育観と児童観について理解を深める。
第2回	教育の原則	事前学習	教科書の pp.25~39 を読む。
		事後学習	グループで討議したことを整理する。
第3回	個人差に応じた指導	事前学習	子どもの個人差について考える。
		事後学習	子ども一人ひとりの成長を支援することへの理解を深める。
第4回	子どもの発達と環境	事前学習	配布資料の事例を熟読する。
		事後学習	グループで討議したことを整理する。
第5回	子ども中心の教育	事前学習	教科書の pp.40~47 を読む。
		事後学習	子ども中心の教育について理解を深める。
第6回	学習の動機づけ	事前学習	教科書の pp.48~73 を読む。
		事後学習	動機づけを高める教育について考える。
第7回	学習の成立の型と理論	事前学習	古典的条件づけとオペラント条件づけについて調べる。
		事後学習	学習の型に着目して身のまわりの学習の成り立ちを考える。
第8回	幼児の問題とされる行動	事前学習	教科書の pp.105~121 を読む。
		事後学習	グループで討議したことを整理する。
第9回	児童・生徒の問題とされる行動	事前学習	教科書の pp.122~141 を読む。
		事後学習	グループで討議したことを整理する。
第10回	学校における問題 (1) いじめの原因と背景	事前学習	教科書の pp.142~151 を読む。
		事後学習	配布資料の事例を熟読する。
第11回	学校における問題 (2) いじめへの対応	事前学習	いじめについて自分の考えを整理する。
		事後学習	グループで討議したことをまとめる。
第12回	発達障害への理解	事前学習	発達障害の種類と特徴について調べる。
		事後学習	発達障害をもつ子どもへの理解を深める。
第13回	発達障害をもつ子どもへの対応	事前学習	発達障害をもつ子どもへの対応を考える。
		事後学習	発達障害児に対する指導のあり方を理解する。
第14回	教育評価	事前学習	教科書の pp.74~82 を読む。
		事後学習	教育評価の目的、信頼性と妥当性について理解する。
第15回	全体のまとめ	事前学習	これまで学んだことを振り返り整理する。
		事後学習	学習したことを保育や教育の現場で応用できるように定着させる。

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等) ／教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3214 EDTE3106
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期／秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>生徒指導は、一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めていくことを目指して行われる教育活動であるが、教育相談はこの生徒指導の一環として位置づけられ、その中心的役割を担うものである。</p> <p>本講義は、教師が児童生徒の自発的、主体的な成長・発達の過程を援助するという教育的課題を達成するにあたり、必要な知見を獲得し、児童生徒と子どもたちを取り巻く多様な人々を共感的に理解するための資質について考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談を含め広義の生徒指導の意義と目的、内容、原理について理解し、説明することができるようになる。 2 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。 3 学校における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明することができるようになる。 4 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明することができるようになる。 5 発達支援活動としての教育相談の治療的、予防的、開発的側面について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○課題1 グループ活動 教師の行う教育相談は、個の尊重とあわせ学校教育の特質である集団指導の方法原理について理解することが重要である。そこで学習を班活動で行い、体験的に集団指導のあり方について理解を深める。 →役割分担を決定し、討議を行う。詳細は教場において指示する。</p> <p>○課題2 中間レポート作成 A4 1, 000字～1, 200字程度のものを作成し提出する。 →テーマ：生徒指導のあり方について</p> <p>○課題3 期末レポート作成 第15回目講義までにA4 1, 000字～1, 200字程度のものを作成し提出する。 →テーマ：望ましい教育相談のあり方について</p> <p>○課題4 振り返りシート作成 →毎講義授業のまとめを行い、定期的に提出し、添削を受ける。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】文部科学省『生徒指導提要』教育図書、平成 22 年 3 月。</p> <p>【参考書】必要に応じ教場で指示する。また毎時資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>中間レポート：総合点の 30%</p> <p>期末レポート：総合点の 40%</p> <p>振り返りシート：総合点の 20%</p> <p>授業への参加度等：総合点の 10%</p> <p>なお本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本講義は教職のための資格科目であり、将来の教育者としての思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な理論、技能の獲得を目指している。この目的達成のため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に励む。 3 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。 <p>なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることがある。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 5 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守らない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 講義の概要 学習姿勢の確認 グループ作り 生徒指導と教育相談	事前学習	教育に関するニュースのうち関心のある事柄を整理しておく。
		事後学習	生徒指導と教育相談についての差異についてまとめることができる。
第 2 回	生徒指導 1：グループによる討議 生徒指導の不登校について各種資料を読み取りつつグループにて背景、態様、対応等を討議し、のちに共有化を図る。	事前学習	不登校について調べておく。
		事後学習	不登校の現状及び対応についてまとめることができる。
第 3 回	生徒指導 2：グループによる討議 生徒指導のいじめについて各種資料を読み取りつつグループにて背景、態様、対応等を討議し、のちに共有化を図る。	事前学習	いじめについて自分の考えをまとめておく。
		事後学習	いじめの現状及び対応についてまとめることができる。

第 4 回	生徒指導 3 : グループによる討議 生徒指導の非行について各種資料を読み取り、グループにて背景、状況について討議する。また事例を通してその対応について考える。	事前学習	小学校における非行について調べておく。
		事後学習	非行の現状と最近の非行の特徴についてまとめることができる。
第 5 回	生徒指導 4 : グループによる討議 生徒指導の特別な支援を要する子どもへの対応について各種資料を読み取りつつ、グループで現状、対応を討議し、のちに共有化を図る。	事前学習	学校で行われている特別支援教育について調べておく。
		事後学習	さまざまな発達障害の特徴とその対応についてまとめることができる。
第 6 回	生徒指導の事例検討 : グループによる討議 不登校、いじめ、非行、発達障害について、成功事例を通して解決した理由を意見交換し、のちに共有化を図る。	事前学習	これまでの生徒指導の学びをまとめておく。
		事後学習	これまでの学びを踏まえて、各事例を読み、解決に至った要点をまとめることができる。
第 7 回	教育相談とカウンセリング 1 カウンセリングの定義 カウンセリングのルール 来談者中心療法	事前学習	カウンセリングとは何か調べてくる。
		事後学習	カウンセリングの基本についてまとめることができる。 中間レポートを提出する。
第 8 回	教育相談とカウンセリング 2 傾聴の基本的態度 傾聴の技法	事前学習	カウンセリングの技法を調べてくる。
		事後学習	カウンセリングの技法の一つである傾聴についてまとめることができる。
第 9 回	教育相談とカウンセリング 3 リソース ピア・サポート	事前学習	教育相談の行ううえで大切な心構えについて調べてくる。
		事後学習	リソース活用の意義とピア・サポートの方法についてまとめることができる。
第 10 回	教育相談とカウンセリング 4 教育相談の歴史 スクールカウンセラー配置の意義 教育相談体制について	事前学習	望ましい教育相談体制について調べてくる。
		事後学習	スクールカウンセラーの役割と学校における教育相談体制のつくり方についてまとめることができる。
第 11 回	教育相談とカウンセリング 5 開発的カウンセリングの実際 ・構成的グループエンカウンター ・アサーション ・ソーシャルスキルトレーニング等	事前学習	開発的カウンセリングを調べてくる。
		事後学習	開発的カウンセリングのポイントをまとめ、またその実践例について考えることができる。
第 12 回	教育相談とカウンセリング 6 保護者面接のあり方	事前学習	保護者との関係で最も難しいことは何か調べてくる。
		事後学習	保護者との良好な関係作り、また望ましい対応についてまとめることができる。
第 13 回	教育相談とカウンセリング 7 他機関との連携	事前学習	教育相談にて、どこと連携することが多いか調べてくる。
		事後学習	連携の様子と意義について、事例を通してまとめることができる。
第 14 回	教育相談とカウンセリング 8 事例を通じた具体的対応 1	事前学習	さまざまな教育相談の実際を調べてくる。
		事後学習	学校におけるさまざまな子どもの様子とその対応についてまとめることができる。
第 15 回	教育相談とカウンセリング 9 事例を通じた具体的対応 2 講義のまとめ	事前学習	教育相談について学んだことを整理しておく。
		事後学習	学校におけるさまざまな子どもの様子とその対応についてまとめることができる。 講義をまとめることができる。 期末レポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3314
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教育相談とは、小学校や中学校・高等学校など教育現場において、児童・生徒のこころの問題を扱うだけでなく、児童・生徒をとりまく保護者やさまざまな環境なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本講義では、教師あるいはスクールカウンセラーが行う学校での教育相談活動について、児童・生徒理解のために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて、知識を深め考察することを目的とする。</p>		
8. 学習目標	<p>①教育現場の実際の問題を知り教育相談の意義を理解し、説明できる。 ②教育相談の基礎となるカウンセリングについて理解し、対処できるようになる。 ③教育相談 (カウンセリング) を実践するための基本的に視点を身につけ実践できる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○課題1 主題に対する振り返り 講義主題ごとにレスポンスシート (A4 用紙半分程度) を作成し、内容理解について振り返る。 →全体で10回程度を予定している。 ○課題2 主題に対する振り返りその2 シートに書かれた事柄を可能な範囲で共有、討議することで、さらに内容理解を深める。 →全体で10回程度を予定している。 ○課題3 班活動 教師の行う教育相談は、個の尊重とあわせ学校教育の特質である集団について正確に理解することが肝要である。そこで学習を班活動で行うことで、体験的に集団理解を目指す場合がある。 →役割分担を決定し、討議および共同研究を行う。詳細は教場において指示する。 ○課題4 レポート作成 A4 (40字×40行) 2枚程度のものを作成し提出する。 →三大精神療法についてまとめる。 ○課題5 小論文作成 第15回目講義までにA4 (40字×40行) 2枚程度のものを作成し提出する。 →教育相談に関する事柄を設定しまとめる。詳細は教場において指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鈴木 康明編著『生徒指導・進路指導・教育相談テキスト』北大路書房、2012 年。 【参考書】 必要に応じ教場で指示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>小論文 60%、レスポンスシート 20%、レポート 10%、授業への参加度等 10% なお本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講義は教職のための資格科目であり、将来の教育者としての思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な理論、技術の獲得も目指している。この目的の達成のため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に勤しむ。 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルモニタリングにつとめる。 <p>なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることをしておく。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 受講者の質問には誠実に対応する。 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守らない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	<p>決まり次第、授業時間内に通知し、研究室前に掲示する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 講義目的、学習姿勢の確認など 人間の発達の理解 発達段階について	事前学習	教育に関するニュースのうち関心のある事柄を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 2 回	幼児期、児童期の発達課題	事前学習	教育相談についてのイメージを整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 3 回	生徒指導の概要 生徒指導とは、課題と内容	事前学習	教科書 pp. 1～4 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。

第 4 回	生徒指導の原理 基本的な人間観 目指す人間像	事前学習	教科書 pp. 5～8 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 5 回	自己指導力 集団指導 治療、予防、開発 ※カウンセリング関係資料配布	事前学習	教科書 pp. 9～12 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	集団指導について班で討議し問題点を整理する。
第 6 回	カウンセリングの理論と技術 三大精神療法	事前学習	課題 4 レポートを作成しておく。
		事後学習	三大精神療法について班ごとに特質の整理を行う。
第 7 回	教育相談とは 教育相談の利点と欠点 教育相談の限界	事前学習	教科書 pp. 87～89、p. 118 を読み内容を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 8 回	教育相談体制の構築 体制づくり 組織づくり	事前学習	教科書 pp. 90～97 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 9 回	教育相談の進め方 教育相談の対象と場面 担任	事前学習	教科書 pp. 98～108 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 10 回	教育相談担当教員 養護教諭の教育相談	事前学習	教科書 pp. 109～111 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 11 回	スクールカウンセラーなどの連携 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 専門機関との連携	事前学習	教科書 pp. 114～117 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 12 回	問題行動への理解とその対応 反社会的行動 非社会的行動 早期発見	事前学習	教科書 pp. 41～46 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	課題 3 発表に備え班で内容の整理をする。
第 13 回	調べ学習：児童の問題行動とカウンセリング活動 班別発表、討議	事前学習	課題 3 発表準備をする。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 14 回	調べ学習：児童の問題行動とカウンセリング活動 班別発表、討議	事前学習	課題 3 発表準備をする。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 15 回	演習：グループダイナミクス 教育相談についての各自のとらえ方、集団ごとのとらえ方が学習前とどのように変化したか確認し、討議する。	事前学習	教育相談についてのイメージを整理しておく。
		事後学習	課題 5 小論文を作成する。

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3440 SCMP3440 SBMP3440 EDTS3106
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めていくことを目指して行われる教育活動であるが、教育相談はこの生徒指導の一環として位置づけられ、その中心的役割を担うものである。</p> <p>本講義は、教師が児童生徒の自発的、主体的な成長・発達の過程を援助するという教育的課題を達成するにあたり、必要な知見を獲得し、児童生徒と子どもたちをとりまく多様な人々を共感的に理解するための資質について考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談を含む広義の生徒指導の意義と目的、内容、原理について理解し、説明することができるようになる。 2 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。 3 学校における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明することができるようになる。 4 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明することができるようになる。 5 発達支援活動としての教育相談の治療的、予防的、開発的側面について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○課題1 主題に対する振り返り その1 講義主題ごとにレスポンスシート (A4用紙半分程度) を作成し、内容理解について振り返る。 →全体で10回程度を予定している。</p> <p>○課題2 主題に対する振り返り その2 シートに書かれた事柄を可能な範囲で共有、討議することで、さらに内容理解を深める。 →全体で10回程度を予定している。</p> <p>○課題3 グループ活動 教師の行う教育相談は、個の尊重とあわせ学校教育の特質である集団指導の方法原理について理解することが重要である。そこで学習を班活動で行い、体験的に集団指導のあり方について理解を深める。 →役割分担を決定し、討議および共同研究を行う。詳細は教場において指示する。</p> <p>○課題4 レポート作成 A4 (40字×40行) 2枚程度のものを作成し提出する。 →精神療法についてまとめる。</p> <p>○課題5 小論文作成 第15回目講義までにA4 (40字×40行) 2枚程度のものを作成し提出する。 →教育相談に関する事柄を設定しまとめる。詳細は教場において指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】鈴木 康明編著『生徒指導・進路指導・教育相談テキスト』北大路書房、2012年。</p> <p>【参考書】必要に応じ教場で指示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>小論文60%、レスポンスシート20%、レポート10%、授業への参加度等10% なお本学規定により3/4以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講義は教職のための資格科目であり、将来の教育者としての思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な理論、技能の獲得を目指している。この目的達成のため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に励む。 3 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。 <p>なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であってもF評価になることがある。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 5 受講者が上記のメッセージ1～4が守らない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 講義の概要 学習姿勢の確認 グループ作り	事前学習	教育に関するニュースのうち関心のある事柄を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第2回	演習：グループ 生徒指導についての各自のとらえ方、グループごとのとらえ方について整理する。それを発表し、その後内容について討議する。	事前学習	生徒指導についてのイメージを整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第3回	生徒指導の概要 生徒指導とは、 課題と内容	事前学習	教科書 pp. 1～5 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。

第 4 回	生徒指導の原理 1 基本的な人間観 目指す人間像	事前学習	教科書 pp. 6～8 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 5 回	生徒指導の原理 2 自己指導力 集団指導 援助、指導の仕方	事前学習	教科書 pp. 8～13 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	集団指導について班で討議し問題点を整理する。
第 6 回	問題行動への理解とその対応 反社会的行動 非社会的行動 早期発見	事前学習	教科書 pp. 41～45 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	課題 3 発表に備え班で内容の整理をする。
第 7 回	調べ学習：児童生徒の問題行動 1 班別発表、討議	事前学習	課題 3 発表準備をする。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 8 回	調べ学習：児童生徒の問題行動 2 班別発表、討議 ※カウンセリング関係資料配布	事前学習	課題 3 発表準備をする。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 9 回	子どもの悩み苦しみとカウンセリングの役割 男女の悩み 友人関係の悩み 学校生活での悩み	事前学習	課題 4 レポートを作成しておく
		事後学習	子どもが悩み苦しむ事例とそのカウンセリングについてグループごとまとめる。 課題 4 レポートを提出する。
第 10 回	教育相談とは 教育相談の利点 教育相談の限界	事前学習	教科書 pp. 87～89、pp. 118～121 を読み内容を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 11 回	教育相談体制の構築 体制づくり 組織づくり	事前学習	教科書 pp. 90～98 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 12 回	教育相談の進め方 1 教育相談の対象と場面 担任	事前学習	教科書 pp. 98～109 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 13 回	教育相談の進め方 2 教育相談担当教員 養護教諭	事前学習	教科書 pp. 109～112 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 14 回	スクールカウンセラー等との連携 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 専門機関	事前学習	教科書 pp. 114～118 までを読み要点をまとめておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返りを行う。
第 15 回	演習：グループ 生徒指導・教育相談についての各自のとらえ方、グループごとのとらえ方が学習前とどのように変化したか確認し、討議する。	事前学習	教育相談について整理しておく。
		事後学習	課題 5 小論文を作成し、提出する。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (初等) / 教育法規 (初等・小) (2 単位)		3. 科目番号	SJTC1402 EDTE2102
2. 授業担当教員	山本 豊		5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。			
6. 履修条件・他科目との関係	本来は、法学や教育課程論などを履修していることが望ましい。したがって、それらの内容で教育法規に関する個所については、講義中に適宜説明する。			
7. 講義概要	<p>本科目は、小学校や特別支援学校の教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小学校や特別支援学校の小学部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>			
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠のある教育活動ができる教員となること。</p> <p>教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法規の基礎知識について知り、説明できるようになることを目的とする。 2. 教育関連法規の具体的な内容について学校(主に小学校及び特別支援学校の小学部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。 3. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめることができるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習が欠かせない科目である。なぜならば予習することによって、課題意識をもって講義に臨むことができるからである。その結果、学習の理解度に大きな差が生じることになるからである。 ・ シラバスに対応して、「有権解釈に重きを置いた 教育法規」を読み、「書いて理解する 教育法規」の空欄を埋めて講義に臨むこと。 ・ 講義内容に応じて、教員採用選考試験の過去問を配布するので、事前に解いて講義に臨むこと。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>山本豊著『有権解釈に重きを置いた 教育法規』学校図書、2015 年。(シラバスでは教科書と表示する)</p> <p>山本豊著『書いて理解する 教育法規』オフィス・サウス、2014 年。(シラバスではサブノートと表示する)</p> <p>*必要に応じて教材・資料等を配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発表 (事前学習の発表も含む)・態度 総合点の 30% ・ 学習カードの記入内容、事前学習の内容 総合点の 30% ・ 理解度テスト・事後学習の内容 総合点の 40% <p>◎ なお、本学規定により、3/4 以上の出席がない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。 2. 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなど予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。 3. 自ら進んで発表したり、質問したりし、講義内容の理解に努めること。 4. 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。 5. 授業中の着帽、私語、飲食 (ガムを含む) 等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等の操作はしないこと。学生として授業を受けるに相応しい態度で講義に臨むこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる声で話しをするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。 4. 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。 5. 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに入室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので (次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、教育法規を学ぶ意義 教育法規の体系と構造— 教育法規、法体系と法の形式・形式的効力、国の主な法令、地方の主な法規、法令間の矛盾抵触を解決するための諸原理などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、それに対応するサブノートの空欄を埋める。また、教科書の質問コーナーの解答を考えることで、教育法規に興味や関心をもつ。	
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。	
第 2 回	日本国憲法の教育に関連する規定— 教育を受ける権利、義務教育、法の下での平等、信教の自由、学問の自由などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。	
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。	
第 3 回	教育基本法—① 教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、学校教育、教員などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。また、教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。	

		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 4 回	教育基本法—② 家庭教育、社会教育、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力、政治教育、宗教教育、教育行政などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。教育基本法の理解度テストに備える。
第 5 回	学校教育—① 学校教育法 1 条校、学校の設置と管理、組織編制、学校の運営などについて理解する。 理解度テスト ①	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問すること。
第 6 回	学校教育—② 学校教育の目的と目標、教育課程、学習指導要領などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 7 回	学校教育—③ 教科書の使用義務と補助教材、備え付け表簿の内容とその保存期間、学年・学期・授業日・休業日などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。学校教育の理解度テストに備える。
第 8 回	児童・生徒—① 義務教育、義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業、懲戒・体罰（その 1）などについて理解する。 理解度テスト ②	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 9 回	児童・生徒—② 懲戒・体罰（その 2）、出席停止について理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。理解度テストに備える。
第 10 回	学校保健・安全・給食—① 学校保健、学校安全、学校給食について理解する。 理解度テスト ③	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 11 回	特別支援教育 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について理解する。 教職員—① 教員、教育公務員の定義	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 12 回	教職員—② 学校に配置される教職員、配置職員と職務教職員の資格などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 13 回	教職員—③ 免許状、任用、服務、分限処分と懲戒処分などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 14 回	教職員—④ 研修、給与、勤務時間その他の勤務条件などについて理解する。 教育行財政— 国と地方の役割分担、教育委員会、学校の管理及び経費の負担などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 15 回	その他の教育関連法規— 国家賠償、社会教育、学校図書館法、児童虐待の防止等に関する法律などについて理解する。 理解度テスト ④	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	本授業を振り返り、学習目標を達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は、今後の学習や実習等で解決を図る。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2102
2. 授業担当教員	江津 和也	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容の把握については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ双方向の授業が基本である。 事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目は、中学校・高等学校や特別支援学校及び養護教諭の教育職員免許取得のためのものである。 本講では、小中一貫連携教育を踏まえた教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小・中・高等学校や特別支援学校の小学部・中学部・高等部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。 教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。		
8. 学習目標	教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠ある教育活動ができる教員となること。 また、教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになること。 4. 教育法規の基礎知識について知り、その内容について説明できるようになることを目的とする。 5. 教育関連法規の具体的な内容について学校(小・中・高等学校及び特別支援学校の小学部・中学部・高等部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。 6. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめ、発表することができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	①宿題として、次回の授業内容と関連する用語調べを求めることもある。 ②以下の内容のレポートを求める。6月の最後の授業までに必ず提出する (成績評価の対象であるとともに、第14回の授業で用いるため必ず提出すること) ・教育法令や法規にかかわる新聞記事を探し、その概要を記す (200字程度) ・それについて授業内容やテキストの記述をふまえてコメントを付す (800～1200字程度)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 黒川雅子、坂田仰、河内祥子 『図解・表解 教育法規 確かにわかる法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所。 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 その他、授業中に提示する。		
11. 成績評価の方法	・授業態度、授業への貢献 10% ・レポート 30% ・筆記試験 60%		
12. 受講生へのメッセージ	1) 授業は講義を中心に展開していきますが、議論や発表など学生が参加できるような機会をつくります。そのような場では、ぜひ積極的に取り組んでください。 2) 授業中の迷惑行為 (私語など)、飲食、携帯電話やゲーム機の使用などは禁止します。マナー違反の学生に対しては減点するとともに退室を命じます。 3) 厳正な出席管理をするために指定する座席に着席してください。また、授業中の許可のない教室の出入りは認めません。 4) 遅刻は30分までの入室とし、それを超えると欠席扱いとします。		
13. オフィスアワー	初回講義で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	当科目のシラバスに目を通す。
		事後学習	シラバスの内容について確認し、評価基準について理解する。
第2回	法規の読み方	事前学習	テキスト第1章に目を通す。
		事後学習	法規の読み方の基本について第1章で確認するとともに、レジュメの空白に調べて記述する。
第3回	教育の基本理念に関する法規1 日本国憲法①	事前学習	テキスト第2章に目を通す。
		事後学習	日本国憲法の成立、理念等に授業内容をふまえ、文章として簡潔にノートにまとめる。
第4回	教育の基本理念に関する法規2 日本国憲法②	事前学習	憲法第26条について調べる。
		事後学習	授業内容を確認しつつ、教育を受ける権利の多様な解釈についてインターネット等を用いて調べてまとめる。
第5回	教育の基本理念に関する法規3 教育基本法①	事前学習	テキスト第2章に目を通す。
		事後学習	教育基本法の成立と理念について簡潔な文章でノートに論述する。
第6回	教育の基本理念に関する法規4 教育基本法②	事前学習	教育基本法の条文 (前半) に目を通す。
		事後学習	教育の基本に関する規定の条文をノートに写すとともに解釈をノートに記述する。
第7回	教育の基本理念に関する法規5 教育基本法③	事前学習	教育基本法の条文 (後半) に目を通す。
		事後学習	学校教育にかかわる規定の条文をノートに写し、その解釈を記述する。
第8回	教育行政に関する法規	事前学習	テキストの教育行政にかかわる部分を読む。
		事後学習	教育委員会の業務の具体的な事例について居住地の事例をインターネット等で調べ、ノートにまとめる。

第 9 回	学校教育に関する法規	事前学習	テキストの学校教育法にかかわる部分を読む。
		事後学習	学校教育法の重要な条文をノートに写し、解釈をノートにまとめる。
第 10 回	教育課程・教科書に関する法規	事前学習	テキストの教育課程等にかかわる部分を読む。
		事後学習	学習指導要領および教科書の制度等について授業内容をふまえて、簡潔に文章としてまとめる。
第 11 回	学校保健・学校安全に関する法規	事前学習	テキストの学校保健、学校安全等にかかわる部分を読む。
		事後学習	感染症予防や学校安全計画の事例についてインターネット等を活用して調べノートにまとめる。
第 12 回	児童・生徒に関する法規	事前学習	テキストの児童に関する法規の部分を読む。
		事後学習	児童および生徒にかかわる法規の重要条文をノートに写し、その解釈を記述する。
第 13 回	教育職員に関する法規	事前学習	テキストの教職員に関する法規の部分を読む。
		事後学習	教職員にかかわる法規の重要条文をノートに写し、その解釈を記述する。
第 14 回	教育改革の動向	事前学習	レポートの内容について再確認しておく。
		事後学習	他者のレポート発表内容を聞いたメモをもとに、ノートにまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまで学習した部分を確認しておく。
		事後学習	15回の授業内容について整理し、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2102
2. 授業担当教員	攪上 哲夫		
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容の把握については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ双方向の授業が基本である。 事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目は、中学校・高等学校や特別支援学校及び養護教諭の教育職員免許取得のためのものである。 本講では、小中一貫連携教育を踏まえた教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小・中・高等学校や特別支援学校の小学部・中学部・高等部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。 教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。		
8. 学習目標	教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠ある教育活動ができる教員となること。 また、教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになること。 7. 教育法規の基礎知識について知り、その内容について説明できるようになることを目的とする。 8. 教育関連法規の具体的な内容について学校(小・中・高等学校及び特別支援学校の小学部・中学部・高等部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。 9. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめ、発表することができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	①課題レポート2本 課題内容については授業時に説明をする。 ②授業進度に応じた小レポートを課す。 ③各回、配布資料を熟読し、ワークシートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 菱村幸彦著『はじめて学ぶ教育法規』教育開発研究所 2015 年 【参考図書】 坂田仰 河内祥子共著『ケーススタディ 教育法規』教育開発研究所 2012 年		
11. 成績評価の方法	課題レポート 2 本 (50%)、通常授業での小レポート (30%) 通常授業での積極的参加意欲と態度 (20%)		
12. 受講生へのメッセージ	中等教育で日常的に行われている学校教育活動を中心に、法律の目でみたらどのように評価できるか、どんな問題があるかなどについてわかりやすく授業を進める。教育小六法の購入がふさわしいが、日常的に法律に触れ、教育法規を積極的に学ぶ姿勢で授業に臨んでほしい。		
13. オフィスアワー	初回授業で案内します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション：授業概要、教科書『初めて学ぶ教育法規』第 1 章「授業をする」～教育法規を学ぶ意義～	事前学習	教科書第 1 章 (pp1~12) までを読み、法規のヒエラルキーについての予備知識を持つ。
		事後学習	日本国憲法から学習指導要領までのヒエラルキーをワークシートに図示する。
第 2 回	教科書第 1 章「授業をする」①法令のあらまし～法の体系・法の形式～	事前学習	配布資料を読み、法の体系、法の形式についての予備知識を持つ。
		事後学習	本時の授業を省察し、法のヒエラルキーについて、小レポートを書く。
第 3 回	教科書第 1 章「授業をする」②～学習指導要領の変遷・法的拘束の有無～	事前学習	学習指導要領の法的拘束力について、教科書を読み、予備知識を持つ。
		事後学習	「伝習館高校事件」の判例を熟読し、学習指導要領の法的拘束性について考察、小レポートを書く。
第 4 回	教科書第 2 章「教科書を使う」①～教科書使用義務の法的根拠～	事前学習	教科書第 2 章(pp.13~22)までを読み、教科書使用義務の法的根拠を予習する。
		事後学習	本時を省察し、教科書使用義務の法的根拠が示されている法律の条文を調べる。
第 5 回	教科書第 2 章「教科書を使う」②～教科書検定制度～	事前学習	配布資料を読み、教科書検定が争われた事例を読む。
		事後学習	教科書採択に関する記事を読み、法的な問題点を考察、ワークシートにまとめる。
第 6 回	教科書第 4 章「成績をつける」～原級留置～	事前学習	教科書第 4 章(pp33~42)を読み、成績と法律の関係についての予備知識を持つ。
		事後学習	配布資料「都立高校原級留置訴訟」を熟読し、原級留置の法的根拠を考察、小レポートを書く。
第 7 回	教科書第 5 章「指導要録を記入する」～指導要録の法的性格～	事前学習	教科書第 5 章(pp43~54)を読み、指導要録の法的性格について予備知識を持つ。
		事後学習	配布資料「指導要録開示訴訟」を熟読し、指導要録の開示について考察し、ワークシート

			にまとめる。
第 8 回	教科書第 6 章「子どもを叱る」～懲戒とは何か～	事前学習	教科書第 6 章(pp55～64)を読み、懲戒についての予備知識を持つ。
		事後学習	「法的効果を伴う懲戒」について省察し、ワークシートにまとめる。
第 9 回	教科書第 7 章「子どもをなぐる」～懲戒と体罰～	事前学習	教科書第 7 章(pp65～75)までを読み、懲戒と体罰の法的相違についての予備知識を持つ。
		事後学習	体罰で争われた訴訟を調べ、体罰が許されない理由を法的に考察し、小レポートを書く。
第 10 回	教科書第 8 章「いじめが起きた」 ～いじめと学校の責任～	事前学習	教科書第 8 章(pp77～96)を読み、いじめと学校の責任について、法的な観点からの予備知識を持つ。
		事後学習	配布資料「いじめ事件」の記事を読み、学校の法的責任について考察し、ワークシートにまとめる。
第 11 回	教科書第 9 章「髪型・服装を規制する」 ～髪型規制の是非～	事前学習	教科書第 9 章(pp.97～106)を読み、校則と法律との関係についての予備知識を持つ。
		事後学習	配布資料「私立高校生の校則違反」を熟読し、校則と法規の関係についてワークシートにまとめる。
第 12 回	教科書第 10 章「学校事故が起きた」 ～学校事故の責任～	事前学習	教科書第 10 章(pp107～116)を読み、学校事故の責任について、予備知識を持つ。
		事後学習	配布資料「学校事故訴訟」を熟読し、学校事故の法的責任についてワークシートにまとめる。
第 13 回	教科書第 11 章「学級を担当する」～学級担任の決定～	事前学習	教科書第 11 章(pp.117～126)を読み、校務分掌の法的性格についての予備知識を持つ。
		事後学習	本時の授業内容を省察し、ワークシートに校務分掌の法的性格についてまとめる。
第 14 回	教科書第 12 章「職員会議に出席する」 ～法律からみた職員会議～	事前学習	教科書第 12 章(pp.127～135)を読み、職員会議の法的性格について、予備知識を持つ。
		事後学習	配布資料「職員会議の規制」を熟読し、職員会議の法的性格をワークシートにまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容を復習する。
		事後学習	教育法規を意識した姿勢で、これからの教育実習への取り組みを考える。

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2208
2. 授業担当教員	柳 辰男			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	教育方法とは、一般的に、教授・学習の方法を意味しており、幼稚園を含む学校で行うすべての教育指導が含まれる。本科目では、教育方法の変遷、教育課程、授業の構造、教育の技術、教育評価などの基礎的事項について理解する。それらを踏まえて、幼児・児童の側に立った指導方法、教材の検討、地域の人材活用、コンピュータなどの情報機器を利用した教育方法等について学習する。さらに、今日的課題である幼・保・小の校種間の連携や、家庭との連携のあり方について考える。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の歴史的変遷を理解する。 2. 教育方法の理論と考え方を理解する。 3. 授業の概念や様式についての理解を深める。 4. 幼・保・小の連携や地域社会との連携のあり方について考え、自分の意見を言うことができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>*授業の事前事後学習として提出が求められる提出物を提出すると共に下記の提出課題に関しては、A 4 用紙3枚以上のレポートとして提出日に提出し発表し合うと共に評価を受けるようにする。</p> <p>・提出課題 幼稚園又は保育園を見学し、園庭やお部屋の中の環境を図式化し、それぞれの環境の役割や意義を考察すると共に、園の先生に面談し、実習や現場の先生になる前に学び習得しておいたほうがよい、教育保育上の知識、及び、技術態度等は何かを聞き取り自分なりの感想や考えをまとめる。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省編「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 総則編」 東洋館出版社 内閣府・文部科学省・厚生労働省編「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」。</p> <p>【参考書】 古橋和夫 「こどもの教育の原理 一保育の明日をひらくために」 萌文書林 森上史朗他 「保育方法・指導法の研究」 ミネルヴァ書房 倉橋惣三 「幼稚園真諦」 フレーベル館 土屋とく編 「倉橋惣三「保育法」講義録」 フレーベル館 三木成夫 「内臓のはたらきとこどものこころ」 築地書館 柴田義松・山崎準二編 「教育の方法と技術」 学文社 文部科学省 「幼児理解と評価」 ぎょうせい 文部科学省 「指導と評価に生かす記録」 ぎょうせい あんず幼稚園編 「きのうのつづきー「環境」における保育の日々」 新評論 近藤幹生 「保育とは何か」 岩波新書 岩波書店 岩間浩幸 「(砂場)と子ども」 東洋館出版社 秋山和夫・森上史朗編 「えんとクラスの経営」 同文書院</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度 宿題・予習課題の取り組み 40% (私語、居眠り、宿題未提出・遅れ マイナス点) (質問、発表、積極的参加貢献 授業後の誠実なコメント記述 プラス点) 3. 提出課題 30% 4. 期末試験 30% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>この講座を受講する学生は、幼稚園、小学校の教職を志す者が多いでしょう。幼稚園は初めての学校であり、今日、幼保連携の施設が求められそれに対応する保育教諭が要請されています。また、小学校との連携接続が、小1プロブレムの課題に対応するだけでなく充実した幼年期の成長発達を求める要望からも重要な課題となっています。その中心の役割を果たすのが幼稚園と小学校教育のフナ私をする教師です。受講生の皆さんは将来その役割を果たされるのでしょうか。</p> <p>ルソーの「自然」と「人間」と「事物」の教育に学び、幼児教育を創設したフレーベルの思いや方法を深く学び、子供に生きながら、「教えるとは希望を語ることであり、学ぶとは誠実さを胸に刻むことである。」という教師の思いを教育方法の根底にしていきたいと思います。また、教師は「できない子を出来るようにする」のが役割であり責任があるという職務を忘れない教師になりましょう。そのために必要な、専門職としての教育法の知識技能、技術を身に付けるには、積極的、主体的な学習の継続と練習訓練による技術態度の習熟が求められます。そのためにもこの授業では以下のことに留意するよう努力していきたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前事後学習及び提出課題には誠実に取り組み授業に積極的に参加し自分の個性を他の人に貢献できるようにすること。 2. 発表や実践練習のとき等に照れたりふざけたりして真剣な取り組みを阻害しないようにすること。 3. 私語や不適切な眼差し等によって他の学習者や指導者の人格や人権を傷つけたりせず、将来教育、保育、福祉を志す学生として信頼される人間形成に心掛けること 4. 授業者の私は時間の厳守と学生の質問に誠実に対応するように努めます。 			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	・シラバスの確認 ・学習内容の意義目的の自覚		事前学習	教育方法論の授業に対するイメージや要望をもつ。
	・幼稚園教育の現場の様子を見せるビデオを見て幼児教育に理解と課題を話し合う		事後学習	・幼稚園を中心にした教育方法に関して感想を文章化する。
第2回	・法規から見た小学校と幼稚園の教育の比較		事前学習	・法規の資料から小学校と幼稚園の比較の問題のワークシートに答える。
	・思い出から幼稚園と小学校の教師像の比較検討		事後学習	・幼稚園と小学校の教育の違いを文章化する。

第 3 回	・小学校の現場の先生の日々の活動の理解と検討 授業、授業以外の活動、日案、週案、年間計画の理解	事前学習	・教師の活動に関する資料を読んで教師の活動をまとめておく。
		事後学習	小学校の先生の活動をまとめた感想を文章化する。
第 4 回	小学校の授業を構成する要素の意味や価値を理解し検討する。	事前学習	授業を構成する要素に関する資料を読んで感想が言えるようにしておく。
		事後学習	小学校教師の授業における悩みや課題に関して文章化する。
第 5 回	授業案—学習指導案を構成する内容と作成の手順の理解 現場の多様な形式や内容に学ぶ	事前学習	学習指導案作成の体験が発表できるように準備する。
		事後学習	学習指導案の多様な形式や手順が説明できるようにする。
第 6 回	小学校における教育や授業における目標の 2 面性の理解 ——方向目標と到達目標及び評価基準と評価規準——	事前学習	目標の設定に関する資料を読み感想意見が言えるようにしておく。
		事後学習	目標の特性と基準と規準の違いを説明できるようにする。。
第 7 回	授業における重要な指導支援の技術の理解と実践 ——発問、説明、板書 机間指導、教科書の活用——。	事前学習	教科書の問題 5, 6, 7 の中一つを選び要点、感想、意見を文章化する。
		事後学習	ヘルバルト派の 5 段階教授法、新教育運動、集団主義教育等の今日における価値や問題点を自分なりにまとめ文章化する。
第 8 回	多様な評価の種類と活用及び小学校における指導要録の内容形式 相対評価、絶対評価、自己評価、相互評価、個人内評価 ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価。	事前学習	評価に関する資料を読み感想意見が言えるようにしておく。
		事後学習	多様な評価の長所短所が言えるようにする。
第 9 回	幼稚園の実習生の保育教育案に学ぶ。 形式、幼児の実態のとらえ方、環境づくり、具体的な言葉かけ、評価と記録の取り方	事前学習	実際の保育教育案を集めておく。
		事後学習	小学校における学習指導案との違いについて言えるようにすると共に幼稚園の保育教育案の特性を説明できるようにする。
第 10 回	幼稚園の先輩の先生の 1 日の保育教育案に学ぶ 登園、青札、個別対応、観察、自由あそび、交友関係、トラブルへの対応、学習活動、お弁当、降園、保護者への連絡相談支援、掃除、記録学年相談、あそびへの準備。	事前学習	教科書の問題 1, 3, 4 の中一つを選び要点、感想、意見を文章化する。
		事後学習	特に知らなかった活動や役割及び今後身に着けたい知識や技術が言えるようにする。
第 11 回	遊びの活動の本質的な見方や研究の理解及び幼稚園における役割と活用の仕方。 年齢に応じた遊びの姿と環境づくりと先生の役割の検討	事前学習	遊びの思い出や乳幼児の遊びの姿の報告ができるようにする。
		事後学習	人間にとっての遊びの役割の研究をまとめると共に乳幼児の時期における遊びの種類と重要な役割を文章化する。
第 12 回	乳幼児とうまく付き合い、よく育てる具体的な場面での声掛けの実際を先輩の実践に学び検討する。	事前学習	乳幼児との付き合いで困った事例、知りたい対応の事例を集めておく。
		事後学習	先輩の対応の仕方に学び実践できるようにまとめると共に場面を想定して実践練習をしておく。
第 13 回	課題レポートをグループ及び全体で発表し、幼稚園現場の環境設定の工夫や特色を検討すると同時に実習や実際の幼稚園教師として習得しておくべき知識技術態度を確認し今後の自分の課題を自覚する。	事前学習	提出課題のレポートを提出し発表できるようにしておく。
		事後学習	実際の保育園や幼稚園の環境の実際の工夫や意図をまとめておく。
第 14 回	幼児理解と保育指導と一体となる評価の基本と具体例を学ぶ。 ——保育指導に生きる記録の仕方と保育指導要録の形式内容の実際に触れる——	事前学習	幼児理解と評価に関する資料を読んでおく。
		事後学習	保育指導における効果的な幼児理解と記録、評価の実際を理解し実践できるようにする。
第 15 回	自分の設定したい幼稚園の全体環境設計図を描く。 また、遊びや学習活動を支援するお部屋、教室の具体的な環境のモデル図を描き発表しながら幼稚園教育の夢を語り合う。 授業評価	事前学習	各自が設立したい幼稚園の設計図の下書きを持参する。
		事後学習	幼稚園教育及び幼稚園の先生としての目標と課題を自覚しこれからの大学生活を作るようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2104
2. 授業担当教員	磯辺 武雄		
4. 授業形態	講義、演習 (視聴覚教材の鑑賞、問題解決のためのグループワーク・ロールプレイングなどを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「教育課程論 (中等)」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	「学習指導要領」の改訂により、各教科、総合的な学習の時間等の授業改善が求められている今日、教師は「よりよい授業づくり」のために、さまざまな教育方法を学ぶことが求められています。この授業では、基本的な指導方法・学習方法について説明するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、教育実習時の授業場面に役立つ教育の〈方法〉を身につけることを目的とします。具体的には、授業場面の事例をもとに、〈方法〉への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討します。その上で、グループワークによる「模擬授業」を実施し、「授業づくり」の過程における PDCA サイクル (Plan [企画] -Do [実行] -Check [評価] -Action [改善]) を体験的に学びます。		
8. 学習目標	この授業では、PDCA サイクルにもとづいた循環的な「授業づくり」を行うことができる教師の育成が目標となる。そこに至るために次の3つの到達目標を設定する。 1) 中学校・高等学校教諭等を目指す学生に求められる基本的な教授学習理論を理解し、重要な用語について説明することができる。 2) 基本的な指導方法・学習方法を理解した上で、「模擬授業」において実際にその方法論にもとづいた指導案を作成し、授業を展開することができる。 3) 自ら実施した (あるいは他の受講生が実施した) 「模擬授業」の問題点を検討し、次の授業に生かすことができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心の他に、アクティブラーニングの授業形態も予定しております。 ・グループワークの際は、関連資料等を必ず事前準備し、積極的にグループ討議に参加して下さい。 ・必要に応じてレポート、小テストを課すことがあります。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】教師養成研究会 多田俊文編『教育の方法と技術 (教職課程講座 5)』(四訂版) 学芸図書、2012。 【参考書】授業中、適宜紹介します。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験 50% ・レポート・小テスト 30% ・授業への参加意欲・態度 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての資質向上に関わる自己目標、自己課題をもち授業に参加して下さい。 ・授業中の私語、飲食等は慎んで下さい。 ・レポート、アサイメントについての提出物は必ず期限厳守して下さい。 		
13. オフィスアワー	授業終了後、教室にて適宜時間を設けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方 他	事前学習	シラバスに目を通しておく。
		事後学習	「学び」について考えを整理する。
第 2 回	授業とはなにか 1. 授業をどうみるか 2. 授業とその創造	事前学習	教科書 pp. 7~16 を読み、「授業とは何か」について調べる。
		事後学習	「授業とはなにか」について整理する。
第 3 回	教育課程 1. 教育課程とは 2. 教育課程の構造と類型 3. 教育課程の編成と評価	事前学習	教科書 pp. 17~37 を読み、「教育課程」の意味を調べる。
		事後学習	教育課程の構造、編成等について整理する。
第 4 回	現代の教授理論 [1] 教授理論とその歩み	事前学習	教科書 pp. 38~49 を読み、デューイ、ブルナー等について調べる。
		事後学習	教授理論の歩みを整理する。
第 5 回	現代の教授理論 [2] 1. 現代教授理論の類型 2. 日本の教育課題と教授理論の課題	事前学習	教科書 pp. 49~59 を読み、教授理論の類型を調べる。
		事後学習	現代教授理論の類型について整理する。
第 6 回	授業の設計と評価 1. 授業の設計と評価のあり方 2. 授業設計のモメント 3. 授業のプログラム 4. 個別化と集団化 他	事前学習	教科書 pp. 60~88 を読み、「授業の設計」とはなにかについて調べる。
		事後学習	授業の設計と評価について整理する。
第 7 回	教育情報機器・ソフトウェアの開発と利用 1. 教育情報機器の種類と教育利用 2. コンピュータ等 ICT の教育利用 他	事前学習	教科書 pp. 89~121 を読み、教育工学とは何かについて調べる。
		事後学習	教育情報機器の種類と教育利用について整理する。
第 8 回	教育方法と学校・学級の経営 [1] 1. 学校制度再検討の動き 2. 学校の経営過程と教育方法	事前学習	教科書 pp. 122~124 を読み、学校制度再検討の動きにどんなものがあるか調べる。
		事後学習	学校制度の再検討の動きについて整理する。
第 9 回	教育方法と学校・学級経営 [2] 1. 学校の教育活動変革の歴史的展望 2. 教育メディアの経営と教育方法	事前学習	教科書 pp. 124~147 を読み、ティーム・ティーチング、学校・学級経営等について調べる。
		事後学習	教育方法と学校・学級の経営について整理する。
第 10 回	「授業づくり」授業を学ぶ～教育実習編～ DVD 視聴	事前学習	「授業づくり」とは何かについて考えてみる。
		事後学習	DVD の内容について整理する。
第 11 回	模擬授業 (1) グループワーク ～学習指導案の作成～	事前学習	各人の取得予定の教免科目の学習指導案の試案を作成して来ること。

		事後学習	作成した学習指導案の再確認
第 1 2 回	模擬授業 (2) ～プレゼン～	事前学習	プレゼン配布関連資料を準備する。
		事後学習	模擬授業での指摘事項について整理する。
第 1 3 回	模擬授業 (3) ～プレゼン～	事前学習	プレゼン配布関連資料を準備する。
		事後学習	模擬授業での指摘事項について整理する。
第 1 4 回	教育方法の基本問題と教育実践 ～道徳の教科化と課題～	事前学習	教科書 pp. 176～178 を読み、道徳の教科化に関する資料を調べる。
		事後学習	道徳の教科化に関する課題点をまとめる。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	これまで学習した内容について確認する。
		事後学習	授業を振り返り、学習目標に対して自己評価をする。課題点がある場合は今後の学習計画を立て補完する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2447 SCMP2447 SBMP2447 EDTS2104
2. 授業担当教員	北林 敬		
4. 授業形態	講義、演習 (視聴覚教材の鑑賞、問題解決のためのグループワーク・ロールプレイングなどを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「学習指導要領」の改訂により、各教科、総合的な学習の時間等の授業改善が求められている今日、教師は「よりよい授業づくり」のために、さまざまな教育方法を学ぶことが求められています。この授業では、基本的な指導方法・学習方法について説明するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、教育実習時の授業場面に役立つ教育の〈方法〉を身につけることを目的とします。具体的には、授業場面の事例をもとに、〈方法〉への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討します。その上で、グループワークによる「模擬授業」を実施し、「授業づくり」の過程における PDCA サイクル (Plan [企画] -Do [実行] -Check [評価] -Action [改善]) を体験的に学びます。		
8. 学習目標	この授業では、PDCA サイクルにもとづいた循環的な「授業づくり」を行うことができる教師の育成が目標となる。そこに至るために次の3つの到達目標を設定する。 1) 中学校・高等学校教諭等を目指す学生に求められる基本的な教授学習理論を理解し、重要な用語について説明することができる。 2) 基本的な指導方法・学習方法を理解した上で、「模擬授業」において実際にその方法論にもとづいた指導案を作成し、授業を展開することができる。 3) 自ら実施した (あるいは他の受講生が実施した) 「模擬授業」の問題点を検討し、次の授業に生かすことができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かすると共に問題解決力を培うように努めること。 1. ワークシート (各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 課題レポート「現在の学習指導要領では、それまでの学習指導要領と比較して何が求められるようになったのか述べよ。」 (1000字) 3. 期末試験		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年。 【参考書】 佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年。		
11. 成績評価の方法	・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言) 30% ・課題 (ワークシート・レポート) 30% ・期末試験 40%		
12. 受講生へのメッセージ	1 0. 授業中は私語を慎み、携帯電話の電源を切って参加すること。 1 1. グループワークやグループ討議には積極的に参加すること。 1 2. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問すること。 1 3. レポートや課題 (ワークシート等) の提出期限を守ること。 1 4. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないこと。		
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーションー教育方法論を学ぶ意義について	事前学習	教科書「はじめに」(pp. i ~ xii) と「序章」(pp. 1 ~ 8) を読んでおく。
		事後学習	教育方法を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。
第 2 回	子どもは何を学ぶか (第 4 章)	事前学習	教科書「第 4 章」(pp. 103 ~ 120) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 3 回	学習とは何か (第 5 章)	事前学習	教科書「第 5 章」(pp. 121 ~ 141) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 4 回	学力をどう高めるのか (第 6 章)	事前学習	教科書「第 6 章」(pp. 143 ~ 163) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 5 回	授業をどうデザインするか (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」(pp. 165 ~ 196) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 6 回	教育の道具・素材・環境を考える (第 8 章)	事前学習	教科書「第 8 章」(pp. 197 ~ 218) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったこと

			をワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	何をどう評価するのか (第 9 章)	事前学習	教科書「第 9 章」(pp.219~240)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	基本的な指導方法と学習指導案	事前学習	学習指導案について調べる。
		事後学習	学習指導案の様式について理解する。
第 9 回	グループワークによる学習指導案の作成	事前学習	教科書のどの部分について授業するか検討する。
		事後学習	学習指導案を完成させる。
第 10 回	グループワークによる模擬授業(1)	事前学習	模擬授業の予行演習をする。
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめる。
第 11 回	グループワークによる模擬授業(2)	事前学習	模擬授業の予行演習をする。
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめる。
第 12 回	グループワークによる模擬授業(3)	事前学習	模擬授業の予行演習をする。
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめる。
第 13 回	教科外教育活動を構想する (10 章)	事前学習	教科書「第 10 章」(pp.241~258)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	どのような教師をめざすべきか (11 章)	事前学習	教科書「第 11 章」(pp.259~281)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 15 回	まとめと授業総括	事前学習	教科書「第 4 章~11 章」を読み返し、理解が十分でない部分をチェックしておく。
		事後学習	返却されたワークシートを手がかりに、授業内容全体の復習を行い期末試験の準備を行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教師論 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	SJTC1401
2. 授業担当教員	北林 敬		
4. 授業形態	講義、事例研究 (グループワーク)、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>今日の学校教育が抱える様々な課題を解決する上で、その主たる担い手である教員の役割や責任は極めて大きい。これからの教員は、教科・科目に関する知識を教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもたちを育成することが求められている。</p> <p>本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務 (サービス・研修・身分保障など) は法律上どのように規定されているかなど、教職にかかわる基本的な事項について幅広く学習する。</p> <p>学習するに当たっては、今日、教員に対する信頼が厳しく問われている点を踏まえておく必要がある。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職の意義や教員に求められる資質・能力について理解し、説明が出来るようになる。 2 教員の任用や身分・サービスについて理解し、説明が出来るようになる。 3 教員の役割と職務内容について理解し、説明が出来るようになる。 4 教員の専門性と研修について理解し、説明が出来るようになる。 5 教職への進路選択と教員採用選考試験の実際 (面接・集団討論・論作文等) について学ぶ。 6 学習全体を通じて、自身が目指す教師像について具体的に説明することが出来るようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かすると共に問題解決力を培うように努めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. ワークシート (各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 5. 課題レポート「教師論を学ぶ意義について述べよ。」(1000字) 3. 期末試験 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房、2015。</p> <p>【参考書】必要に応じてプリント資料を配付する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言) ・課題 (ワークシート・レポート) ・期末試験 	<p>30%</p> <p>30%</p> <p>40%</p>	
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 15. 授業中は私語を慎み、携帯電話の電源を切って参加すること。 16. グループワークやグループ討議には積極的に参加すること。 17. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問すること。 18. レポートや課題 (ワークシート等) の提出期限を守ること。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないこと。 		
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション - 教師とは何か -	事前学習	教科書「序章」(pp. 13~18) を読んでおく。
		事後学習	教師論を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。
第2回	教職の意義 (第1章)	事前学習	教科書「第1章」(pp. 19~31) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第3回	教職観と理想の教師像 (第2章)	事前学習	教科書「第2章」(pp. 32~53) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	教師と教員養成の歴史 (第3章)	事前学習	教科書「第3章」(pp. 54~72) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第5回	教員の任用とサービス (第4章)	事前学習	教科書「第4章」(pp. 73~90) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第6回	教師の役割と仕事 (第5章) ①	事前学習	教科書「第5章」1・2 (pp. 91~105) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったと

			ころがあれば教員に質問する。
第 7 回	教師の役割と仕事 (第 5 章) ②	事前学習	教科書「第 5 章」3・4 (pp.105～113) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	管理職・主任の役割 (第 6 章)	事前学習	教科書「第 6 章」(pp.114～130) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	教師の職場環境 (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」(pp.131～152) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	教師の資質向上と研修 (第 8 章)	事前学習	教科書「第 8 章」(pp.153～172) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	教育実習の意義と心得 (第 9 章)	事前学習	教科書「第 9 章」(pp.173～191) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	教職への進路選択と教員採用選考 (第 10 章)	事前学習	教科書「第 10 章」(pp.192～217) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	面接模擬授業にどう臨むか (第 11 章)	事前学習	教科書「第 11 章」(pp.218～230) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	教員採用選考 (教職教養) に出題される重要語	事前学習	教科書「索引」(pp.231～235) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 15 回	どのような教師を目指すのか	事前学習	どのような教師をめざすのか考えをまとめておく。
		事後学習	15 回の授業内容について整理し、筆記試験の対策をおこなう。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教師論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1320 SCMP1320 SBMP1320 EDTS1102
2. 授業担当教員	北林 敬		
4. 授業形態	講義・グループ討議・ワークシート・レポート・試験	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	国際化・情報化・科学技術の発展・環境問題など変化の激しい今日の社会において、学校教育の場においても様々な課題が生じている。この課題を解決するためには、学校教育の主たる担い手である教員の役割や責任が今まで以上に大きくなっている。これからの教員は、教科に関する知識を単に教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもを育成することが求められている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事と役割とはどのようなものか、教員の権利や義務(サービス・研修・身分保障などを含む)は、法律上、どのように規定されているのかなど教職を志す学生があらかじめ教職について知っておく必要がある事項を考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職観の変遷について理解するとともに、教師に求められる資質・能力について考察することができるようになる。 2. 教員養成の歴史の変遷について理解するとともに、現在の教員養成の現状について考察することができるようになる。 3. 教員の役割と仕事について理解するとともに、現在、教員に期待されている役割について考察することができるようになる。 4. 教員の養成・採用・研修について理解し、教師のライフコースについて考察することができるようになる。 5. 自分の適性を理解し、なりたい教師像について考察することができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。 <ol style="list-style-type: none"> 6. ワークシート(各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 7. 課題レポート「教師論を学ぶ意義について述べよ。」(1000字) 8. 期末試験 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房、2015。 【参考書】 必要に応じてプリント資料を配付する。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言) 30% ・課題(ワークシート・レポート) 30% ・期末試験 40% 		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 19. 授業中は私語を慎み、携帯電話の電源を切って参加すること。 20. グループワークやグループ討議には積極的に参加すること。 21. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問すること。 22. レポートや課題(ワークシート等)の提出期限を守ること。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないこと。 		
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション-教師とは何か-	事前学習	教科書「序章」(pp.13~18)を読んでおく。
		事後学習	教師論を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。
第2回	教職の意義(第1章)	事前学習	教科書「第1章」(pp.19~31)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第3回	教職観と理想の教師像(第2章)	事前学習	教科書「第2章」(pp.32~53)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	教師と教員養成の歴史(第3章)	事前学習	教科書「第3章」(pp.54~72)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第5回	教員の任用とサービス(第4章)	事前学習	教科書「第4章」(pp.73~90)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第6回	教師の役割と仕事(第5章)①	事前学習	教科書「第5章」1・2(pp.91~105)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。

第 7 回	教師の役割と仕事 (第 5 章) ②	事前学習	教科書「第 5 章」 3・4 (pp.105～113) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	管理職・主任の役割 (第 6 章)	事前学習	教科書「第 6 章」 (pp.114～130) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	教師の職場環境 (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」 (pp.131～152) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	教師の資質向上と研修 (第 8 章)	事前学習	教科書「第 8 章」 (pp.153～172) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	教育実習の意義と心得 (第 9 章)	事前学習	教科書「第 9 章」 (pp.173～191) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	教職への進路選択と教員採用選考 (第 10 章)	事前学習	教科書「第 10 章」 (pp.192～217) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	面接模擬授業にどう臨むか (第 11 章)	事前学習	教科書「第 11 章」 (pp.218～230) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	教員採用選考 (教職教養) に出題される重要語	事前学習	教科書「索引」 (pp.231～235) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 15 回	どのような教師を目指すのか	事前学習	どのような教師をめざすのか考えをまとめておく。
		事後学習	15 回の授業内容について整理し、筆記試験の対策をおこなう。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GELA1104 GELA1131
2. 授業担当教員	アカデミック・アドバイザー			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	大学は専門的職業への学習・準備期間である。この 4 年間をうまくデザインして、自分の夢を実現することは、学生に課せられた課題である。それを援助するのが、この講座の目的である。そこで本講座は、この 4 年間の生活の仕方から始まり、授業の受け方や行事の意義並びに学ぶ仲間との交流の仕方を体得していく。最終的には、卒業時の就職や進学に関する内容を学び、日々の勉学への意欲を高めていく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で共に学びあう仲間をつくる。 2. 時間の流れから将来計画をどのように考えていくべきかを理解し、将来の目標を明確に持つことができるようになる。 3. より現実的な将来を切り開くため、自分の特性や家庭事情も含めて考えることができる。 4. 就職や進学のためにこの 4 年間にどのような準備が必要か理解でき、行動に移すことができる。 5. キャリアを人生プロセスの中で考えられ、修正できる柔軟性を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生としての学びは高等学校とは何が違うのか。－本学の授業に期待すること－ 2. 赤城山宿泊研修から学ばされたこと－学びの友と心の友との関係－ 3. 親にもらったこと、迷惑をかけたこと、して返したこと－親からの自立とは何か－ 4. 自分が将来就きたい職業を考える。－その職業に就いた時、どんな人物像でありたいか－ 5. この半年間での私の進歩 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『学生生活の手引き』			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点(授業態度・発表・発言など) 50% 2. レポート5本(9. で示したもの) 50% 			
12. 受講生へのメッセージ	他の大学と異なり、本学の学生生活にはかなり厳しいものがある。例えば、授業への出席やレポートや発表は義務づけられ、かつディスカッションがふんだんに課せられるからである。そこで、入学後には、早速、高等学校時代とは異なる大きな段差があることになる。そこで、それにつまずかないよう、かつ将来を見据えた生活設計ができるよう本講座は設けられているので、必ず出席し、課題に取り組んでいただきたい。			
13. オフィスアワー	各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション(教員の自己紹介/大学における履修方法および成績評価について学ぶ)	事前学習	春期オリエンテーションで分からなかったところを整理しておく。	
		事後学習	履修方法や成績評価について分からなかったことを質問する。	
第 2 回	仲間作り (これまでの友人関係や部活での活動等について語り合う)	事前学習	これまでの友人関係や部活での活動等について思い出し、整理しておく。	
		事後学習	同級生の話を聞き、自分との共通点や相違点についてまとめる。	
第 3 回	海外にも視野を広げてみよう	事前学習	海外留学でどのような能力を身に付けることができるのかについて事前に考えておく。	
		事後学習	海外留学で学べることについてまとめる。	
第 4 回	コミュニケーション・スキル学習	事前学習	自分が周りの友人や家族にどのようなコミュニケーションをしているのかについて振り返り、整理しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをまとめ、今後のコミュニケーションに活用する。	
第 5 回	将来計画と今すべきこと・したいことを考える	事前学習	大学に入学してからどのようなことをしてきたかについて振り返り、整理しておく。	
		事後学習	授業で学んだことを活用し、今すべきことを計画通り実行していく。	
第 6 回	親との関係を見直す。心の自立をすとは何か。	事前学習	親からの影響を考えてみる。	
		事後学習	親にもらったこと、返したことについて箇条書きにする。	
第 7 回	職業について考える	事前学習	自分が将来就きたい職業について考えを整理しておく。	
		事後学習	自分が将来就きたい職業に就くにはどうしたらよいかについて自ら調べる。	
第 8 回	各学部における専門教育への導入①	事前学習	自分が所属している学部学科ではどのような専門性を身に付けることができるのかについてシラバスや大学のホームページを見て、確認しておく。	
		事後学習	授業中に示された各学部学科の専門教育に必要な基礎知識について復習する。	

第 9 回	野外活動を通じての仲間作り	事前学習	小・中・高校時代に体験した野外活動について思い出しておく。
		事後学習	赤城山宿泊研修での心構えなどについて再度、確認しておく。
第 10 回	各学部における専門教育への導入②	事前学習	各学部における専門教育への導入①での学習内容を復習しておく。
		事後学習	各学部における専門教育への導入②での学習内容を復習する。
第 11 回	本学の試験に備えてすべきこと	事前学習	自分が受講している授業のシラバスを確認し、各授業の成績評価の方法を確認しておく。
		事後学習	授業で学んだことを活用し、テストやレポートに向けて学習する。
第 12 回	体を鍛えて明日の自分を考える	事前学習	大学に入り、どのような運動をしてきたかについて思い出しておく。
		事後学習	合同スポーツデイに向けて体力作りに励む。
第 13 回	卒業生・先輩から学生生活、就職について話をきく	事前学習	卒業生や先輩に質問したいことを事前にまとめておく。
		事後学習	卒業生や先輩から聞いた話をまとめ、今後の学生生活の中で活用していく。
第 14 回	各学部における専門教育への導入③	事前学習	各学部における専門教育への導入①②での学習内容を復習しておく。
		事後学習	各学部における専門教育への導入③での学習内容を復習する。
第 15 回	この半年間で学んできたもの	事前学習	これまでの学習内容について整理しておく。
		事後学習	今後の学生生活を有意義に過ごすために教養基礎演習 I の中で学んだものを活用していく。

1. 科目名 (単位数)	暮らしと経済 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP1118
2. 授業担当教員	田中 正秀		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	日常、テレビや新聞で見聞きする、我々の身近な生活を取り巻く経済問題を、経済学的な観点から考察する。またそれらの経済問題を題材にして、経済学的なものの考え方を身につける。経済問題や経済学というと何かとつきにくく、縁遠い感覚を覚えるかもしれないが、実際には、意外とシンプルで、いったん身につけてしまうと、今後の社会生活を営んで行く中でも非常に便利なツールとなることがわかる。この講義を通じて、その生きていく上で有効なツールとしての経済学的な考え方が自然と身につくことを目指す。また、これまでなんとなく気になっていたにも関わらず未理解だった経済問題に整理をつけていくことを目指す。今回は日本経済を中心に学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、日本経済でどのようなことが起こり、問題になっているかを認識する。 2. 現在の日本を取り巻く経済問題を経済学の枠組みでとらえ直す。 3. 経済学 (ミクロ経済学、マクロ経済学) の基本的な考え方を身につける。 4. 数式やグラフを通じて物事を整理するという習慣を身につける。 5. 今後、日本や世界で展開する経済問題に関心がもてるようにする。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	15 回の講義のうち、数回、暮らしと経済 (日本経済) にかかわる課題を課す。また、最終的にレポート課題も課す。 最終レポート課題例 (他にも設問を設定し、課題選択の幅を広げる可能性がある) 東日本大震災の前と後では日本経済は変化したどう変化したか。また、その変化に即応してどのような対策を講じていかななくてはならないか。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小峰隆夫・村田啓子著『最新日本経済入門 第4版』日本評論社。 【参考書】 池上彰のやさしい経済学 (1) しくみがわかる (日経ビジネス人文庫) 池上彰のやさしい経済学 (2) ニュースがわかる (日経ビジネス人文庫)		
11. 成績評価の方法	期末試験、レポート、アサインメント、日常の授業態度 (質問、議論への参加等) で評価する。 期末試験 30% レポート・アサインメント 40% 日常の授業態度 (質問、議論への参加等) 30%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解が不十分な点については、そのまま放置せず、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。 2. 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。 3. 現実の経済に比して、仮定が多い、経済学の議論の進め方に最初は違和感を覚えるかもしれないが、学習を進めると案外シンプルで有効なツールであることを実感して欲しい。 4. これまで数式やグラフにアレルギーを持っていた人もいるかもしれないが、この講義をきっかけにしてそのアレルギーを克服して欲しい。 		
13. オフィスアワー	別途、通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、日本経済と経済の基本	事前学習	日本経済で気になる点を考えてくる。
		事後学習	日本経済の概況は把握できたか確認する。
第 2 回	日本経済の全体像	事前学習	日本経済の規模を調べてくる。
		事後学習	GDP 等はどう計算するか確認する。
第 3 回	戦後日本の経済成長	事前学習	戦後日本の経済状況を調べてくる。
		事後学習	日本の高度成長の特徴を整理する。
第 4 回	景気循環の姿とそのとらえ方	事前学習	景気の循環はどういうプロセスをたどるか確認する。
		事後学習	景気の変動を表す諸指標を整理する。
第 5 回	ストックから見た日本経済	事前学習	平成期の日本の経済状況を調べる。
		事後学習	バブル発生と崩壊のプロセスを把握する。
第 6 回	雇用の変動と日本型雇用慣行の行方	事前学習	日本の伝統的雇用慣行の特色を調べる。
		事後学習	今後雇用制度はどう変化するか考えてくる。
第 7 回	産業構造の変化と日本型企业経営の行方	事前学習	40 年前と今とで先行する産業はどう違うか確認する。
		事後学習	今後日本の産業や経営はどう変化するか考えをまとめる。
第 8 回	物価の変動とデフレ問題	事前学習	日本のデフレの現状を把握する。
		事後学習	デフレの背景と克服の重要性を理解する。
第 9 回	貿易と国際収支の姿	事前学習	貿易はなぜ行われるようになるか考える。
		事後学習	経常収支とは何か、どう変動するか調べてくる。
第 10 回	円レートの変動と日本経済	事前学習	円レートの変動の影響を考えてくる。
		事後学習	円レート変動のプロセスを理解する。

第 1 1 回	直接投資と空洞化をめぐる議論	事前学習	ユニクロの隆盛は何を意味するか考えてくる。
		事後学習	所得税より法人税引上げの議論は正しいか考える。
第 1 2 回	財政をめぐる諸問題	事前学習	日本の国債・地方債の累積残高を調べてくる。
		事後学習	財政の役割と再建への方策をまとめる。
第 1 3 回	経済の鍵を握る金融	事前学習	昨今の日本銀行の方針転換は何か調べる。
		事後学習	現在の金融政策の課題を整理する。
第 1 4 回	少子高齢化と社会保障	事前学習	日本の少子高齢化の現状を調べる。
		事後学習	少子高齢化が与える影響をまとめる。
第 1 5 回	最後のまとめ	事前学習	ここまで未消化であった事項を整理する。
		事後学習	日本経済に関し自分なりの知見がもてたか振り返る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ケアマネジメント演習 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3325
2. 授業担当教員	岡田 稔		SCMP3325
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目を履修する場合は、ケアマネジメント論を合わせて履修すること		
7. 講義概要	ケアマネジメントは社会福祉援助技術の 1 手法として、わが国の社会福祉の現場で幅広く活用されており、特に、介護保険制度や自立支援法の中で位置づけられている。本講義では、ケアマネジメント論で学んだ知識を活かしながら、実際にケアマネジメントの事例を通じ展開し、ケアマネジメントを理解していく。		
8. 学習目標	1) ケアマネジメントの実際を理解し、説明できる。 2) ケアマネジメントの過程を実践し、実践現場で行えるようにする。 3) 事例検討・ロールプレイ等を通じて、様々な分野におけるケアマネジメントについて理解ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いてアセスメントを行い、ケアプランの作成を行い提出する。 ・カンファレンスを実施し、ケアプランの検討を行う。 ・各事例検討における話し合いの結果について提出する。 ・ケアプランの実際についてレポートにまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『対人援助職を目指す人のケアマネジメント Learning10』(株)みらい。 *必要な資料は適宜配布をしながら進める。 【参考書】 池上直己・訳『日本版 MDS-HC 2.0 在宅ケアアセスメントマニュアル』医学書院。		
11. 成績評価の方法	授業への積極性・発表 50% レポート提出 50% 計 100% ※欠席・遅刻・早退、レポート提出の遅れは減点となる。		
12. 受講生へのメッセージ	・受講にあたり、下記事項を徹底して下さい。 受講生は以下のことを守って下さい。 1) 対人援助の専門職を目指す人材として、他者理解ができる事を自ら講義中の態度で示すこと。 2) 講義内容の事前の確認と、振り返りをしっかりすること。 3) 欠席・遅刻・早退をしないこと。(やむを得ない場合は必ず連絡すること) 4) 理解できないことはそのままにしておかないで、積極的に質問すること。 5) レポートの提出期限は厳守すること。 6) 演習には積極的に参加して、チームの一員としての役割を果たすこと。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	テーマ「ケアマネジメントの実際」 ケアマネジメントを実践する上で必要な方法を具体的に理解する。 特にアセスメントの重要性と課題分析の視点、ICF の概念を踏まえての実際について演習を通じて理解できる。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。
		事後学習	ケアマネジメントを実践する上で必要な方法を整理する
第 2 回	テーマ「アセスメントの実際」 紙上事例を用いてアセスメントを行う (用紙に情報を整理する)	事後学習	紙上事例による情報を考える
		事前学習	情報を整理してシートに記載する
第 3 回	テーマ「アセスメントの実際」 紙上事例を用いてアセスメントを行う (用紙に情報を整理する)	事後学習	課題・ニーズを考える
		事前学習	課題・ニーズを明確にする
第 4 回	テーマ「課題分析の実際」 紙上事例を用いてアセスメントを行ったものを用いて課題分析を行う。	事後学習	ケアプランを考える
		事前学習	ケアプランの有効性と根拠を明確にする
第 5 回	テーマ「ケアプランの作成の理解」 紙上事例のケアプランを作成する。	事後学習	カンファレンスの意味を考える
		事前学習	カンファレンスを通じたケアプランの見直しと整理を行う
第 6 回	テーマ「カンファレンスの実際」 各自作成したケアプランを発表し、カンファレンスを実践する。	事後学習	事例の検討と実際を踏まえてケアマネジメントを考える
		事前学習	ケアマネジメントの実際を振り返る
第 7 回	ケアマネジメントのまとめを行い、ケアマネジメントの実際についてレポートを作成して提出する。	事後学習	テキストの高齢者におけるケアマネジメントの事例を読む
		事前学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する
第 8 回	テーマ「高齢者におけるケアマネジメントの実際」 高齢者におけるケアマネジメントについて、2 事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事後学習	テキストの高齢者におけるケアマネジメントの事例を読む
		事前学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する
第 9 回	テーマ「高齢者におけるケアマネジメントの実際」 高齢者におけるケアマネジメントについて、2 事例を通してケアマ	事後学習	テキストの身体障害者におけるケアマネジメントの事例を読む

	ネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する
第 10 回	テーマ「身体障害者におけるケアマネジメントの実際の理解」 身体障害者におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事後学習	テキストの知的障害者におけるケアマネジメントの事例を読む
		事前学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する
第 11 回	テーマ「知的障害者におけるケアマネジメントの実際の理解」 知的障害者におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事後学習	テキストの精神障害者におけるケアマネジメントの事例を読む
		事前学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する
第 12 回	テーマ「精神障害者におけるケアマネジメントの実際の理解」 精神障害者におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事後学習	テキストの児童福祉におけるケアマネジメントの事例を読む
		事前学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する
第 13 回	テーマ「児童福祉におけるケアマネジメントの実際の理解」 児童福祉におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事後学習	テキストの生活保護におけるケアマネジメントの事例を読む
		事前学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する
第 14 回	テーマ「生活保護におけるケアマネジメントの実際の理解」 生活保護におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事後学習	テキストの施設におけるケアマネジメントの事例を読む
		事後学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する
第 15 回	テーマ「施設におけるケアマネジメントの実際の理解」 施設におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	事例で学んだケアマネジメントを振り返る。
		事後学習	ケアマネジメントを整理する

1. 科目名 (単位数)	ケアマネジメント論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3321
2. 授業担当教員	岡田 稔		SCMP3321
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目を履修する場合は、ケアマネジメント演習を合わせて履修すること		
7. 講義概要	ケアマネジメントは社会福祉援助技術の 1 手法として、わが国の社会福祉の現場で幅広く活用されている。特に、介護保険制度や自立支援法の中で位置づけられている。本講義では、ケアマネジメントの概要を理解し、実際の活用に必要な知識を学べるように講義を進めていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ケアマネジメントの概要を理解し、説明できる。 2) ケアマネジメントの活用について理解し、説明できる。 3) ケアマネジメントの機能について理解し、説明できる。 4) 対象別ケアマネジメントの実際について理解し、説明できる。 5) 在宅・施設におけるケアマネジメントについて理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が住んでいる地域の社会資源を調べて発表する。 ・ケアマネジメントの重要な視点についてまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning10』(株)みらい。 【参考書】『初めて学ぶ ケアマネジメントテキスト』中央法規。 池上直己・訳『日本版 MDS-HC 2.0 在宅ケアアセスメントマニュアル』医学書院。		
11. 成績評価の方法	授業への積極性・発表 50% レポート提出 50% 計 100% ※欠席・遅刻・早退、レポート提出の遅れは減点となる。		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・受講にあたり、下記事項を徹底して下さい。 受講生は以下のことを守って下さい。 1) 対人援助の専門職を目指す人材として、他者理解ができる事を自ら講義中の態度で示すこと。 2) 講義内容の事前の確認と、振り返りをしっかりとすること。 3) 欠席・遅刻・早退をしないこと。(やむを得ない場合は必ず連絡すること) 4) 理解できないことはそのままにしておかないで、積極的に質問すること。 5) レポートの提出期限は厳守すること。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	テーマ「ケアマネジメントの学習を進めるにあたって」 授業の進め方の説明を行なうので理解できる。ケアマネジメントとは何か、概要について資料をもとに説明を行なうので理解できる。専門職がケアマネジメントを行なう意義について説明し理解できる。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの意義を整理する
第 2 回	テーマ「ケアマネジメントの目的」 ケアマネジメントの誕生の背景を理解し、ケアマネジメントの考え方と日本におけるケアマネジメントの実際を学び、ソーシャルワーク技術の手法としての目的を理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの目的」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの目的を整理する
第 3 回	テーマ「ケアマネジメントの機能」 ケアマネジメントを活用することで、社会福祉実践を行う上で様々な効果をあらわすことができる。活用する場面において具体的な効果を理解することで、ケアマネジメントの機能について理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの機能」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの機能を整理する
第 4 回	テーマ「ケアマネジメントの展開過程」 ケースの発見(インテーク)、アセスメント、課題分析、ケアプランの作成、カンファレンス、実践、評価・モニタリングといった展開過程を概略的に理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの展開過程」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの展開過程について整理する
第 5 回	テーマ「アセスメントの方法」 対象者の個別の情報を収集し、整理する方法について理解する。また、その際に必要な視点についても理解し、ケアマネジメントにおけるアセスメントの重要性について理解し、演習につなげていく。	事前学習	テキストの「アセスメントの方法」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてアセスメントの方法について整理する
第 6 回	テーマ「ニーズの把握と課題分析」 ケアマネジメントにおける支援を行う上で、ニーズの把握と課題分析は、ケアプランの作成や実践をする上で目標設定や評価につながる重要な課程であることを具体的に理解し、演習につなげていく。	事前学習	テキストの「ニーズの把握と課題分析」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてニーズの把握と課題分析について整理する
第 7 回	テーマ「ケアプランの作成」 サービスの提供や実践を行う上で、指針となるものであり、具体的な実践につながる計画書となる。したがって、ケアプラン作成	事前学習	テキストの「ケアプランの作成」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアプランの

	の視点と留意点について理解し、演習につなげていく。		作成について整理する
第 8 回	テーマ「カンファレンスの開催」 サービス提供や実践を行うにあたり、ケアプランの原案についても内容の確認や利用者及び家族への説明と同意が必要である。カンファレンスの意義やその方法について理解し、演習につなげていく。	事前学習	テキストの「カンファレンスの開催」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてカンファレンスについて整理する
第 9 回	テーマ「ケアマネジメントにおけるケアマネジャーの役割と視点」 ケアマネジメントの対象者を支援する役割を担うのがケアマネジャーである。ケアマネジメントを行う際の大切な視点は、様々な課題を抱えている人である。その対象者が主体的に生活できるように支援していくことが重要となる。したがって、自立支援、エンパワメント、ストレングスといった視点が重要であることを理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントにおけるケアマネジャーの役割と視点」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジャーの役割を整理する
第 10 回	テーマ「ケアマネジメントの利用者と社会資源の活用」 ケアマネジメントの対象者を理解する。また、対象には様々なニーズ及び課題があることから、その支援を行うためには、様々な社会資源の活用が必要となる。多様なニーズ対象者について理解するとともに、社会資源についても理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの利用者と社会資源の活用」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントにおける社会資源について整理する
第 11 回	テーマ「介護保険におけるケアマネジメント」 介護保険制度におけるケアマネジメントの導入背景と現状について理解する。また具体的に行われている実際についてもふれて、その方法について理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの利用者と社会資源の活用」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえて介護保険制度におけるケアマネジメントについて整理する
第 12 回	テーマ「障害者におけるケアマネジメント」 障害者支援におけるケアマネジメントの実際の現状について理解する。また具体的に行われている実践についてもふれて、その方法について理解できる。	事前学習	テキストの「障害者におけるケアマネジメント」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえて障害者におけるケアマネジメントの意義を整理する
第 13 回	テーマ「児童福祉におけるケアマネジメント」 児童福祉におけるケアマネジメントの必要性を理解する。また具体的に行われている実際についてもふれて、その方法について理解できる。	事前学習	テキストの「児童福祉におけるケアマネジメント」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえて児童福祉におけるケアマネジメントの意義を整理する
第 14 回	テーマ「その他の分野におけるケアマネジメント」 生活保護におけるケアマネジメントの必要性を理解する。介護保険施設でもケアマネジメントが行われなければならないことから、その実際にもふれて理解できる。	事前学習	テキストの「その他の分野におけるケアマネジメント」を読む
		事後学習	授業の内容を踏まえて生活保護におけるケアマネジメントの意義を整理する
第 15 回	テーマ「ケアマネジメントについてまとめ」 ソーシャルワークにおける 1 手法としてのケアマネジメントの重要な視点について、振り返りを行い、授業内でレポートとしてまとめる。	事前学習	1 回～14 回までの授業を振り返る
		事後学習	ケアマネジメントの考え方と方法について整理する

1. 科目名 (単位数)	経営学 (非営利組織の経営含む) (2 単位)		3. 科目番号	SBMP1119
2. 授業担当教員	田中 正秀			
4. 授業形態	講義、グループワーク、グループディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、企業の活動における基礎的な諸概念、経営学用語、原理などの初歩を体系的に学ぶことによって、経営学の基本を身につけることを目的としている。そのために、経営学の学問的な性質、企業・経営の概念、経営管理、企業経営の内容、現代の経営学の役割など、各理論の概要の初歩を説明する。講義が抽象的にならないように、なるべく具体例を用いながら講義を進め、理論と実例の両側面から説明を展開していく。また、グループワークやグループディスカッションを通じて、受講者の主体的な参加によって、理解向上をはかる。			
8. 学習目標	1. 企業経営に関する基礎的知識を習得し、説明できるようになる。 2. 経営各分野について基礎的知識を習得し、専門科目履修時の理解力を向上させる。 3. 現代企業や団体の経営課題を把握し、課題解決の取り組み方法を選択できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1000字程度のレポートを課す予定。 詳細については授業内で提示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】土方千代子, 椎野裕美子『経営学の基本がきっちり理解できる本』秀和システム。			
11. 成績評価の方法	試験 50% レポート 30% 授業態度 20% (参加意欲・授業への積極的参加度)。			
12. 受講生へのメッセージ	経営学のコア的科目であるので、深く学習されることを望みます。			
13. オフィスアワー	授業中に指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	企業システム	事前学習	企業システムの項を読み、内容をまとめる。	
		事後学習	企業活動 (調達・生産・業務等) をまとめる。	
第 2 回	企業と経営	事前学習	企業と経営の項を読み、要点を文書化する。	
		事後学習	企業の活性化と利潤最大化について調べる。	
第 3 回	企業・会社に概念と形態	事前学習	企業・会社の項を読みその内容をまとめる。	
		事後学習	概念と形態についてまとめて文書化する。	
第 4 回	経営戦略の体系と理論	事前学習	戦略の体系と理論についてまとめる。	
		事後学習	経営戦略の方法論について考えをまとめる。	
第 5 回	全社戦略と事業戦略	事前学習	企業・製品・事業・産業の関係を調べる。	
		事後学習	企業戦略の本質・競争優位について理解する。	
第 6 回	機能別戦略	事前学習	組織・人事、マーケティング等でまとめる。	
		事後学習	生産・研究開発戦略を調べる。	
第 7 回	経営戦略の策定と経営環境	事前学習	策定プロセスについて調べてまとめる。	
		事後学習	経営資源についてまとめ、理解する。	
第 8 回	経営組織	事前学習	伝統的組織論についてまとめる。	
		事後学習	分業と協業の体系についてまとめる。	
第 9 回	組織の形態	事前学習	ライン組織を調べる。	
		事後学習	ファンクショナル組織についてまとめる。	
第 10 回	組織の制度	事前学習	人事の機能と原理について内容をまとめる。	
		事後学習	組織管理モデルを調べる。	
第 11 回	組織の管理・文化	事前学習	カンパニー組織についてまとめる。	
		事後学習	組織文化についてまとめる。	
第 12 回	経営管理の基礎理論	事前学習	管理課程論について調べる。	
		事後学習	人間関係論についてまとめる。	
第 13 回	経営管理の管理機能	事前学習	動機づけ理論についてまとめる。	
		事後学習	統合の哲学について考察する。	
第 14 回	リーダーシップ	事前学習	経営と管理について理解する。	
		事後学習	経営機能と管理機能についてまとめる。	
第 15 回	経営課題 (M&S, グローバリゼーション, 情報化)	事前学習	買収防衛策について考察する。	
		事後学習	経営の国際化について理解する。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	健康相談活動の理論と方法 (2 単位)		3. 科目番号	EDHE3304
2. 授業担当教員	石垣 久美子			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>児童生徒の心身の健康問題の複雑化、多様化に伴い、学校におけるカウンセリングの機能の充実が急務となっている。その中でも養護教諭は、児童生徒の身体的不調の背景に、いじめ等の心の健康に係わっていること等のサインにいち早く気づく立場にあるとされ、その専門性をいかした心と体、両面への対応に対する期待は年々高まっている。</p> <p>本講義では、養護教諭の専門性を最大限に発揮した統合的アプローチとも言える「健康相談活動」の基本的理論について習得する。また、保健室来室場面を想定した事例検討やロール・プレイを通して、児童生徒が抱える様々な問題に対応するための実践力を向上させる。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健室における健康相談活動のプロセスを理解し、説明できるようになる。 2) 健康相談活動の遂行に必要な基本的知識と技術を身につけ、応用することができるようになる。 3) 保護者・学級担任・専門機関の専門職との連携の方法を理解し、説明できるようになる。 4) 集団を対象にした心の健康教育について実践することができるようになる。 5) 専門職としての研修の在り方を習得できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する小レポートを出題する。 ・最終課題レポート：「健康相談活動の進め方」について、自らの考えを記述する。(800字程度) 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】森田光子『養護教諭の健康相談ハンドブック』東山書房。			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに提出する小レポート (30%) ・授業中のグループ活動等における積極的な発言・参加 (30%) ・最終課題レポート (40%) 			
12. 受講生へのメッセージ	健康相談活動は学際的な分野であるため、広く高度な専門的力が求められています。難しい側面もありますが、養護教諭だからこそできる独自性の強い活動でもあります。様々な訴えを持って保健室を訪れる子どもたちに対して、養護教諭としてどのような支援が可能であるのか、そのためにはどのような知識や技術が必要なのか、具体的なイメージを持ちながら受講してほしいと思います。子どもたちのもつ健康課題の解決に向けて、その力を発揮できる養護教諭を目指して、一緒に学んでいきましょう。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション I 健康相談活動の基本的な考え方 ①健康相談活動の定義 ・養護教諭に期待されていることとは？	事前学習	養護教育学での既習事項に目を通し、健康相談活動の概要を復習しておく。	
		事後学習	健康相談活動の概念を整理し、まとめる。	
第 2 回	②児童生徒のメンタルヘルスの現状と課題 ・保健室利用状況に関する調査から	事前学習	事前に配布する保健室利用状況調査の結果を熟読し、自分の考えをまとめておく。	
		事後学習	児童生徒の保健室利用状況に関するディスカッションを総括し、自分の考えをまとめる。	
第 3 回	③健康相談活動におけるかかわりの基礎 ・養護教諭の職務の特質、保健室の機能と健康相談活動	事前学習	養護教育学で学んだ養護教諭の職務の特質と保健室の機能について、復習しておく。	
		事後学習	養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談活動の進め方についてまとめる。	
第 4 回	④健康相談活動のプロセス ・養護教諭に求められる役割と、健康相談活動に必要な知識や技術。	事前学習	教科書の健康相談活動のプロセスに関する事項 (p. 11) を熟読し、自分の考えをまとめておく。	
		事後学習	健康相談活動の実践に必要な知識や技術について整理し、今後の自己研鑽の見通しをたてる。	
第 5 回	⑤健康相談活動における見立ての視点 ・児童生徒の多角的理解の必要性 ・医学的要因と心理社会的要因の見極め ・医学的、心理的ケアの視点と教育的視点	事前学習	教科書の養護教諭の行う見立てに関連する事項 (pp. 27～33) を熟読し、考えをまとめておく。	
		事後学習	健康相談活動において、どのような視点から情報収集を行う必要があるのかを整理する。	
第 6 回	⑥健康相談に活かす心理学的諸技法 ・基本的な相談技術と留意点 ・傾聴的応答のロール・プレイ	事前学習	教科書のカウンセリングの技法に関する事項 (pp. 86～88) を熟読し、予習を行う。	
		事後学習	傾聴的応答の練習を行う。	
第 7 回	II 健康相談活動を想定したロール・プレイ ①心理的ストレスから体調不良を訴える生徒の事例 (受験ストレスの事例)	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、健康相談活動のプロセスを確認しておく。	
		事後学習	養護教諭役の対応について評価し、その対応のポイントや改善点等についてまとめる。	
第 8 回	②身体的課題から、学校不適応に至った事例 (肥満児童が保健室に頻回来室する事例)	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、健康相談活動のプロセスを確認しておく。	
		事後学習	養護教諭役の対応について評価し、その対応のポイントや改善点等についてまとめる。	
第 9 回	III 健康相談活動の事例検討 ①身体的課題が心理的不調としてあらわれた事例 (小学生の心臓疾患の事例)	事前学習	慢性疾患をもつ児童生徒への対応のあり方について調べ、自分の考えをまとめておく。	
		事後学習	事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめる。	

第 1 0 回	②心理的ストレスが、身体症状に発展した事例（過呼吸発作の事例）	事前学習	過呼吸発作の救急処置について調べ、その対応のあり方について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめる。
第 1 1 回	③精神疾患が疑われる生徒の事例（自傷行為の事例）	事前学習	自傷行為の医学的背景について調べ、その対応のあり方について、考えをまとめておく。
		事後学習	事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめる。
第 1 2 回	④発達障害に起因する学校不適應の事例（アスペルガー障害の事例）	事前学習	各種発達障害の症状の特徴について調べ、その対応のあり方について、考えをまとめておく。
		事後学習	事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめる。
第 1 3 回	IV チーム支援の必要性和連携の実際 ・組織的対応の進め方と各教職員の役割 ・地域専門機関との連携のあり方	事前学習	児童生徒を支援する際に連携可能な専門機関の種類を調べておく。
		事後学習	校内外の連携について復習し、養護教諭としてのコーディネートのあり方について整理する。
第 1 4 回	V 集団を対象とした心の健康教育 ・ストレスマネジメント教育の体験	事前学習	保健学習、保健指導の位置づけや、養護教諭が実践する際の留意点について調べておく。
		事後学習	講義時間内の心の健康教育の体験を総括し、自分の考えをまとめる。
第 1 5 回	まとめ：「健康相談活動の進め方」 ・最終課題レポートに記載した内容に基づき、グループディスカッションを行う。 ・「健康相談活動の進め方」のポイントを共有する。	事前学習	最終課題レポートを作成し、これまでの講義内容をまとめておく。
		事後学習	グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえて、全講義内容を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	公衆衛生／公衆衛生 (養護) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3335 SCMP3335 SBMP3335 EDHE3314
2. 授業担当教員	福本 正勝		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>公衆衛生は、健康上の問題を集団で捉えることにより、疾病の予防や健康増進のための組織的な対策や制度を考える学問である。福祉や医療に携わる専門職には、必須の分野である。</p> <p>本科目では公衆衛生の概念や基本的な考え方、我が国が直面しているさまざまな健康問題の現状と課題を学び、疾病予防や健康増進のための公衆衛生活動について考察する。さらにこれからの保健・医療・福祉の方向性と互いの連携の在り方について、学生自身が考察できる力を身につけることができるようにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の歴史と概念について説明できるようになる。 2. 保健統計の各指標について説明できるようになる。 3. 疫学の考え方について説明できるようになる。 4. 各健康問題（感染症、生活習慣病など）の現状と課題、それに対する我が国の施策を理解し、説明できるようになる。 5. 養護教諭や福祉職として理解しておくべき公衆衛生に関する知識や考え方を習得し応用できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業時に適宜ワークシートの提出を求める。</p> <p>レポート課題：新聞、インターネットで取り上げられた医療・福祉の問題について、その概要、どのような社会問題となったかなどをまとめなさい (1600～2000 字程度)。</p> <p><課題例> インフルエンザ、腸管出血性大腸菌感染症、原発事故、花粉症、喫煙、生活習慣病対策、うつ病、災害対策など</p> <p>研究発表：レポート課題で調べた内容について、わかりやすく発表しなさい。適宜、実施する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鈴木庄亮・久道茂監修『シンプル衛生公衆衛生学 2015』南江堂。</p> <p>【参考書】 『国民衛生の動向 2013/2014 年』厚生統計協会編。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>提出物及びレポート 30%</p> <p>研究発表 10%</p> <p>期末試験 50%</p> <p>授業への積極的参加度 10%</p> <p>本学規程により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。なお、遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>福祉や医療・保健を志す者は社会の情報に敏感になることが必要である。新聞やインターネットなどのメディアが報じるニュースをよくチェックし、その内容を理解するとともに、対応や解決策を皆で検討する。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行は主にシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業の前後に講師控え室にあります。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	公衆衛生の概念および歴史 (古代ローマの環境保健対策、中世ヨーロッパの港で行われた感染症予防対策、ジョン・スノウの功績、高木兼寛の業績、チャドウィックの主張、ウィンスロウの公衆衛生の定義、WHO の健康の定義、疾病構造の変化)	事前学習	教科書 pp. 1～16 を読んでおく。
		事後学習	公衆衛生の概念及び歴史について復習し、ワークシートを提出する。
第 2 回	保健統計 (世界の人口とその推移、何が人口の増加をもたらしたか、人口転換、日本の人口とその推移、合計特殊出生率の推移、健康指標、粗死亡率と年齢調整死亡率、平均寿命と平均余命、罹患率と有病率、患者調査)	事前学習	教科書 pp. 17～27 を読んでおく。
		事後学習	保健統計について復習し、ワークシートを提出する。
第 3 回	疫学 (疫学とは何か、疫学調査の手順と留意事項、選択バイアス・情報バイアス・交絡バイアス、無作為化比較試験 (RCT)、年齢調整死亡率の求め方、相対危険度・寄与危険度の求め方)	事前学習	教科書 pp. 29～30 を読んでおく。
		事後学習	疫学について復習し、ワークシートを提出する。
第 4 回	疾病予防と健康管理 (疾病リスクと健康管理；一次予防・二次予防・三次予防の概念、健康日本 2 1、ヘルスプロモーションの考え方)	事前学習	教科書 pp. 49～60 を読んでおく。
		事後学習	「予防」について復習しワークシートを提出する。
第 5 回	食品と健康 (食中毒の原因 (病原微生物・自然毒・化学物質) と発生状況、予防対策について、食品の安全性を確保するための法律について)	事前学習	教科書 pp. 61～62 を読んでおく。
		事後学習	食品と健康について復習しワークシートを提出する。
第 6 回	感染症とその予防 (感染症の成立要因、感染症予防対策)	事前学習	教科書 pp. 73～88 を読んでおく。

		事後学習	感染症について復習しワークシートを提出する。
第 7 回	主な疾患の予防（循環器、代謝、がん、アレルギー疾患など）	事前学習	教科書 pp. 90～124 を読んでおく。
		事後学習	生活習慣病対策について復習しワークシートを提出する。
第 8 回	環境保健の概要（環境の諸要因と評価、量-反応曲線、環境要因による健康被害、放射線による健康被害、公害の概念と歴史、環境対策）	事前学習	教科書 pp. 127～136 を読んでおく。
		事後学習	環境保健の概要について復習しワークシートを提出する。
第 9 回	地域保健と保健行政（地域社会と地域保健、行政との関係）	事前学習	教科書 pp. 223～236 を読んでおく。
		事後学習	地域保健について復習しワークシートを提出する。
第 10 回	母子保健（日本の母子保健の水準、乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率、幼児死亡率、母子保健対策、健康診査、母子健康手帳、保健指導と医療援護、母子保健の課題と動向）	事前学習	教科書 pp. 227～239 を読んでおく。
		事後学習	母子保健対策について復習しワークシートを提出する。
第 11 回	学校保健（子どもの健康状況、学校保健、学校保健管理、学校保健指導、歯科保健、学校環境管理）	事前学習	教科書 pp. 241～245 を読んでおく。
		事後学習	学校保健について復習しワークシートを提出する。
第 12 回	レポート返却と学生発表の打ち合わせ	事前学習	自分が調べたテーマに関して再考する。
		事後学習	返却されたレポートを書き直す。
第 13 回	産業保健（労働災害、職業病、健康診断、3 管理）	事前学習	教科書 pp. 265～270 を読んでおく。
		事後学習	産業保健について復習しワークシートを提出する。
第 14 回	老人保健・福祉（老化、介護保険制度）、精神保健（ストレス、精神疾患の概念）、国際保健医療（国際保健、世界保健機構）	事前学習	教科書 pp. 295～296 を読んでおく。
		事後学習	老人保健、福祉の制度、精神保健、さらに国際保健について復習しワークシートを提出する。
第 15 回	医療の制度（わが国の医療保障の制度、公費負担医療、医療保険制度のしくみ、国民皆保険制度、診療報酬制度、国民医療費の現状）、難病対策（難病の概念）	事前学習	教科書 pp. 343～352 を読んでおく。
		事後学習	医療の制度について復習しワークシートを提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	更生保護 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4101 PSMP4401 SCMP4301 SBMP4301
2. 授業担当教員	藤田 尚		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、途中確認テスト・小テストの併用、期末に試験を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び犯罪や非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉でいう自立支援が必要である。これらの支援は、警察、検察、裁判、矯正の各段階で行われているが、本科目では、この内の社会の中での働きかけ (処遇) を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、心神喪失等の状態で重大な犯罪を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の運用の実際と今後の展望等について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉との関連において必要とされる更生保護制度の基礎的知識について理解し、説明することができるようになる。 2 更生保護の組織を中心に、刑事司法・少年司法分野で犯罪前歴者等の支援活動に関与する組織、団体及び専門職について理解し、説明することができるようになる。 3 更生保護制度における関係機関・団体との連携のあり方について理解し、説明することができるようになる。 4 保護観察所が担う新たな役割として、福祉機関・団体などとの密接な連携の下に実施される被害者支援や医療観察制度について理解し、説明することができるようになる。 5 更生保護の運用の実際と今後の展望について考察し、自分の言葉で表明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントとしては、講義前にはテキストの該当箇所を読み、講義後は知識の定着を図るため、再度、テキストやレジュメに目を通す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 [第 3 版]』中央法規出版、2014。 【参考書】 松本勝編『更生保護入門 [第 4 版]』成文堂、2015。 法務省法務総合研究所『平成 27 年版 犯罪白書』日経印刷株式会社、2015。		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・授業 (グループ討議も含む) への参加度など (20%)。 途中確認テスト・小テスト (80%)。		
12. 受講生へのメッセージ	聞きなれない法律用語等が数多くあると思いますが、なるべくわかりやすく図表を用いて説明したいと思いますので、わからない用語については積極的に質問して下さい。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 更生保護制度の概要 I (更生保護とは、刑事司法の中の更生保護)	事前学習	シラバス、テキスト pp. 1~14 を読んで授業に臨む。
		事後学習	オリエンテーションで学んだことを整理するため、再度、テキストの該当箇所を読み直す。
第 2 回	更生保護制度の概要 II 仮釈放等	事前学習	テキスト pp. 15~22 を読んで授業に臨む。
		事後学習	仮釈放等について学んだことを整理するため、テキスト及び参考書の該当箇所を読み直し、質問等があればまとめる。
第 3 回	更生保護制度の概要 III 保護観察	事前学習	テキスト pp. 23~35 を読んで授業に臨む。
		事後学習	保護観察の内容について復習し、重要箇所をまとめる。
第 4 回	更生保護制度の概要 IV 生活環境の調整、更生緊急保護	事前学習	テキスト pp. 36~48 を読んで授業に臨む。
		事後学習	生活環境の調整、更生緊急保護に関して、要点をまとめる。
第 5 回	更生保護制度の概要 V 更生保護における犯罪被害者等の施策	事前学習	テキスト pp. 49~51 を読んで授業に臨む。
		事後学習	犯罪被害者等に関する 4 つの施策を中心にまとめる。
第 6 回	更生保護制度の概要 VI 恩赦、犯罪予防活動	事前学習	テキスト pp. 52~59 を読んで授業に臨む。精読しておく。
		事後学習	恩赦の種類とその内容、犯罪予防活動の意義及び内容について、要点をまとめる。
第 7 回	更生保護制度の担い手 I 保護観察官、保護司	事前学習	テキスト pp. 61~67 を読んで授業に臨む。
		事後学習	保護観察官と保護司の各役割を整理し、両者がどのように協働しているかをまとめる。
第 8 回	更生保護制度の担い手 II 更生保護施設、民間協力者	事前学習	テキスト pp. 68~77 を読んで授業に臨む。
		事後学習	更生保護施設の内容、更生保護女性会・BBS・協力雇用主を中心とする民間協力者の役割についてまとめる。
第 9 回	更生保護制度における関係機関・団体との連携 I 裁判所、検察庁とのかかわり	事前学習	テキスト pp. 79~89 を読んで授業に臨む。
		事後学習	刑事司法制度の流れを念頭に置きながら、裁判所、検察庁とのかかわりについて整理する。

平成 28 年度

第 1 0 回	更生保護制度における関係機関・団体との連携Ⅱ 矯正施設、児童相談所、公共職業安定所・福祉事務所、民間団体とのかかわり	事前学習	テキスト pp.90～102 を読んで授業に臨む。
		事後学習	施設内から社会内処遇へ移行する際に、どのような関係機関や団体が関わっているかを意識しながら、要点をまとめる。
第 1 1 回	医療観察制度の概要Ⅰ 医療観察法に基づく処遇制度の創設、生活環境の調査、生活環境の調整	事前学習	テキスト pp.103～110 を読んで授業に臨む。
		事後学習	医療観察制度における処遇の流れをもとに、各段階での内容を押さえる。
第 1 2 回	医療観察制度の概要Ⅱ 地域社会における処遇（精神保健観察）、関係機関との連携	事前学習	テキスト pp.111～115 を読んで授業に臨む。
		事後学習	前回の流れを踏まえ、社会復帰調整官による精神保健観察、関係機関との連携について整理し、まとめる。
第 1 3 回	更生保護制度の運用の実際と今後の展望Ⅰ 保護観察官の業務の実際、社会復帰調整官の業務の実際	事前学習	テキスト pp.117～141 を読んで授業に臨む。
		事後学習	事例を思い浮かべながら、保護観察官及び社会復帰調整官の業務内容について整理し、まとめる。
第 1 4 回	更生保護制度の運用の実際と今後の展望Ⅱ 更生保護の課題と今後の展望	事前学習	テキスト pp.142～150 を読んで授業に臨む。
		事後学習	更生保護制度改革を契機とする様々な施策について整理し、まとめる。また、最終講義へ向け、質問等があればまとめておく。
第 1 5 回	小テスト(論述形式)	事前学習	提示した課題について、まとめておく。
		事後学習	テストでできなかった点について、復習を行う。

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2106
2. 授業担当教員	本沢 一善			SCMP2106
4. 授業形態	講義、グループ学習等		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。事前・事後学習の提出についても採点・返却する。状況により、授業内容のなかから90分以上の項目を選び、グループ学習とする。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会編 『低所得者に対する支援と生活保護制度 (第4版)』中央法規出版、2014年。			
11. 成績評価の方法	授業態度、事前・事後学習の提出など 20% 授業への積極的参加度 20% レポート・試験 60% 学ぼうとする基本姿勢を重視し、おしゃべり、配布の印刷物などのわずれ、授業のぬけ出などは評価にカウントする。			
12. 受講生へのメッセージ	公的扶助に関する学習は、理念、原理、原則が重要であるとともに、最近では援助技術への理解が重視されています。また、社会福祉士・精神保健福祉士の資格試験の科目でもあり、しっかり勉強しておきたい科目の1つです。90分、15回では、効率的な学習が必要です。そこで、数人で協力し合って学習するグループ学習の方法も採ります。この学習方法が成功する鍵はお互いに信頼できるような取り組みが必要です。真摯で積極的な授業参加をお願いします。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (授業の概要、授業の進め方)、貧困・低所得の問題	事前学習	「第1章 第1節 B 公的扶助と社会保険」を熟読し、原則A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第1章 第1節 C 公的扶助の範囲など、第2節 公的扶助の意義など」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第2回	公的扶助の意義、公的扶助制度の役割	事前学習	「第2章 第1節 貧困・低所得」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第2章 第2節 A 絶対的貧困と相対的貧困、B 社会的排除など」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第3回	公的扶助制度の歴史 (1)	事前学習	「第3章 第1節 A 救貧法、B 救貧施設と金銭給付」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第1節 C 救貧法の展開など、D 公的扶助の誕生」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第4回	公的扶助制度の歴史 (2)	事前学習	「第2節 日本の歴史」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第3節 貧困・低所得者対策の動向」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第5回	生活保護制度の仕組み (1)	事前学習	「第4章 第1節 A 生活保護法の目的、B 生活保護法の基本原理」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第1節 C 保護の原則」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第6回	生活保護制度の仕組み (2)	事前学習	「第2節 A 生活扶助」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第2節 D 医療扶助、E 介護扶助」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第7回	生活保護制度の仕組み (3)	事前学習	「第3節 保護施設」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第5節 不服申立と訴訟」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第8回	生活保護基準と最低生活保障水準	事前学習	「第5章 第2節 生活保護基準の考え方」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第3節 生活保護基準の実際」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	

第 9 回	生活保護に関する統計の動向	事前学習	「第 6 章 第 1 節 A 被保護人員、B 被保護世帯数」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 保護の開始・廃止の動向、第 3 節 医療扶助・介護扶助の動向」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 10 回	低所得者対策 (1) 生活福祉資金	事前学習	「第 7 章 第 1 節 A 世帯更生資金貸付制度の制立など」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「B 生活福祉資金貸付制度の概要」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 11 回	低所得者対策 (2) 公営住宅・ホームレス対策など	事前学習	「第 3 節 ホームレス対策」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 C 児童手当、第 4 節 A 公営住宅制度」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 12 回	生活保護の運営体制と関係組織 (国・都道府県等)・専門職 (現業員等)	事前学習	「第 8 章 第 1 節 D 国の役割」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 1 節 C 地方分権一括法など、第 2 節 福祉事務所の役割」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 13 回	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動、福祉事務所の役割と連携	事前学習	「第 9 章 第 1 節 A 生活保護における相談援助活動の特徴」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 1 節 B 相談援助活動のプロセス、第 3 節 他機関などとの連携等」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 14 回	自立支援プログラムの意義と実際	事前学習	「第 10 章 第 1 節 自立とは」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 自立支援プログラムの位置づけ」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 15 回	総合まとめ	事前学習	過去問をベースに 15 題 (項目は 75) の印刷を前もって配布する。そこから 3 題選び、内容をまとめて提出する。
		事後学習	国試の過去問をベースに、全体の理解を深める
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3442
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		SCMP3442
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>様々な社会的事象について関心をもち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることは、学校教育段階の教科である、社会科、地理歴史科、公民科の目的である。</p> <p>本科目では、公民科において指導すべき（学習指導要領に示される）教育内容についての概説にとどまらず、授業実践をふまえて、公民科指導の性質を理解することを目指す。</p> <p>公民科指導法 I では、現代社会・倫理・政治経済の科目のうち、現代社会に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。</p>		
8. 学習目標	<p>1) 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び「現代社会」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2) 「現代社会」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができるようになる。</p> <p>3) 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、その実践と評価を通して相互に学び合いができるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1 中間レポート課題：現代社会の諸課題を生命、情報、環境のいずれかの視点で考察する。</p> <p>2 期末レポート課題：持続可能な社会を形成する観点から、身近な地域、日本、世界の現状を踏まえたテーマを設定し、考察する。（両レポートとも講義にて詳細は説明する）</p> <p>※いずれも A4 版横書き 1, 000 字～1, 200 字程度のレポート形式で記述。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版、2010。 高等学校公民科教科書『新現代社会』帝国書院（46 帝国 現社—307）</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。 中学校社会科教科書『中学生の公民』帝国書院。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東山書房 2009</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1 中間・期末レポート：総合点の 50%</p> <p>2 振り返りシート：総合点の 20%</p> <p>3 単元指導計画、学習指導案、模擬授業、討論：総合点の 20%</p> <p>4 日常の授業への出席、参加態度：総合点の 10%</p> <p>・遅刻、早退はそれぞれ 3 回で欠席 1 回とする。</p> <p>・レポートは期日厳守で提出する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「現代社会」は科目設立以来、現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎を養い、それと関連させながら人間としての在り方生き方を考える力を養うことを基本的なねらいとしているが、さらに主体的に学習に取り組むための学び方を習得することも大きな特色として掲げられている。そこで本科目を通して、「現代社会」の内容はもちろん、課題の探究方法や社会調査の仕方及び言語活動を踏まえた表現力の育成を学ぶこととする。このため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。</p> <p>1 緊張感と集中力をもって受講する。</p> <p>2 質問、発表を積極的に行い、主体的に取り組む。</p> <p>3 欠席、遅刻、早退をしない。</p> <p>4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などを慎む。</p> <p>教員は次のことを実行する。</p> <p>1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。</p> <p>2 声の大きさや話し方など受講者の立場に立って講義する。</p> <p>3 討議や発表、模擬授業など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。</p> <p>4 受講者の質問には誠実に対応する。</p>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 講義の概要 高等学校学習指導要領の改訂の基本方針、改訂の要点 公民科改訂の趣旨と要点及び目標 次回学習指導要領の改訂に向けた動き グループ作り	事前学習	高等学校学習指導要領の改訂の基本方針、改訂の要点を通読する。
		事後学習	公民科改訂の趣旨、要点及び目標についてまとめることができる。
第 2 回	「現代社会」の基本的性格と目標 基本的性格と目標 内容の取扱い (1) 私たちの生きる社会	事前学習	高等学校学習指導要領解説 公民編の該当箇所を通読する。
		事後学習	「(1) 私たちの生きる社会」の内容をまとめることができる。

第 3 回	「現代社会」の内容の取扱い 内容の取扱い(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 内容の取扱い(3) 共に生きる社会を目指して	事前学習	高等学校学習指導要領解説 公民編の該当箇所を通読する。
		事後学習	「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」と「(3) 共に生きる社会を目指して」の内容をまとめることができる。
第 4 回	「現代社会」の指導計画の作成と指導上の配慮事項 ・他教科・科目などとの関連と全体のまとめ ・多様な角度からの考察と自己の生き方にかかわる思索の重視 ・事項・事柄の精選 ・見方や考え方の育成と学び方の習得及び表現力の育成	事前学習	高等学校学習指導要領解説 公民編の該当箇所を通読する。
		事後学習	他教科との関連については、特に中学校社会科との関連についてまとめることができる。
第 5 回	キーワードから現代を見る 1 ・考察する基盤として幸福、正義、公正の観点で考える。 ・諸課題として生命、情報、環境を扱う。 ・キーワードを資料から選択する。	事前学習	現代社会の諸課題を調べてくる。
		事後学習	現代社会の諸課題をキーワードという形で考察し、現代社会への関心を高めることができる。
第 6 回	キーワードから現代を見る 2 キーワードの発表と質疑応答	事前学習	キーワードを調べてくる。
		事後学習	調べてきたキーワードを各自発表することで現代社会の様子を考えることができる。中間レポートを提出する。
第 7 回	「現代社会」の指導法 1 事例を通した指導法の考察	事前学習	「現代社会」の指導について調べる。
		事後学習	優れた実践例を通して「現代社会」の指導技術、指導法について考えることができる。
第 8 回	「現代社会」の授業づくり 1 「現代社会」の単元指導計画、学習指導案づくり	事前学習	模擬授業で扱う単元、項目を調べてくる。
		事後学習	単元指導計画と指導案を作成し、その作成方法の基本、留意点などを考えることができる。
第 9 回	「現代社会」の授業づくり 2 「現代社会」の模擬授業 1 模擬授業を通して質疑応答と相互評価	事前学習	模擬授業の準備を行う。
		事後学習	模擬授業に対して相互評価を行い、授業力の向上を図るよう努める。
第 10 回	「現代社会」の授業づくり 3 「現代社会」の模擬授業 2 模擬授業を通して質疑応答と相互評価	事前学習	模擬授業の準備を行う。
		事後学習	模擬授業に対して相互評価を行い、授業力の向上を図るよう努める。
第 11 回	「現代社会」の授業づくり 4 「現代社会」の模擬授業 3 模擬授業を通して質疑応答と相互評価	事前学習	模擬授業の準備を行う。
		事後学習	模擬授業に対して相互評価を行い、授業力の向上を図るよう努める。
第 12 回	DVDの視聴 「これから正義の話をしよう」 「現代社会」で教える学習内容一覧 ※視聴後：話し合い活動	事前学習	「現代社会」の学習内容について調べてくる。
		事後学習	2つのDVDをもとに教える際の課題についてまとめることができる。
第 13 回	「現代社会」の実践例 1 優れた実践例を踏まえ、その特色についての意見交換	事前学習	「現代社会」の実践例を調べてくる。
		事後学習	どの点に興味を持ち、さらに追及したいところはどこかまとめることができる。
第 14 回	「現代社会」の実践例 2 優れた実践例を踏まえ、その特色についての意見交換	事前学習	「現代社会」の実践例を調べてくる。
		事後学習	どの点に興味を持ち、さらに追及したいところはどこかまとめることができる。
第 15 回	「現代社会」の指導についてのまとめ 「現代社会」を通した学び方について 講義のまとめ	事前学習	講義で学んだことを整理する。
		事後学習	「現代社会」で求められる学び方についてまとめることができる。 講義についてまとめることができる。 期末レポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3443
2. 授業担当教員	荻原 邦昭			SCMP3443
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>様々な社会的事象について関心をもち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることは、学校教育段階の教科である、社会科、地理歴史科、公民科の目的である。</p> <p>本科目では、公民科において指導すべき(学習指導要領に示される)教育内容についての概説にとどまらず、授業実践をふまえて、公民科指導の性質を理解することを目指す。</p> <p>公民科指導法Ⅱでは、現代社会・倫理・政治経済の科目のうち、倫理・政治経済に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。</p>			
8. 学習目標	<p>1) 教科「公民科」のうち、科目「倫理」「政治経済」の意義と役割について説明することができる。</p> <p>2) 科目「倫理」「政治経済」の学習内容について説明することができる。</p> <p>3) 「公民科」授業の実践に必要な知識、技能について見通しを持ち、教員を目指すに当たっての学習課題を設定することができる。</p>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>1 中間レポート課題 模擬授業にて作成した学習指導案(「倫理」「政治経済」)を提出することでレポートとする。</p> <p>2 期末レポート課題 「倫理」「政治経済」のどちらかを選択し、指導法のあり方について、具体的事例を取り上げ論述する。 A4版横書き 1,000字～1,200字程度 レポート形式</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2010。 『高等学校公民科用教科書 現代の倫理』山川出版社。(81 山川 倫理303) 『高等学校公民科用教科書 詳説 政治・経済』山川出版社。(81 山川 政経307)</p> <p>【参考書】 1 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012年。 「NIE」や「ロールプレイング」など公民科授業を創る上でのキーワードや理論について事典様式で解説がなされている。アカデミックの色彩が強い書籍なので発展的学習としてここに紹介する。 2 日本公民教育学会編『公民教育事典』第一学習社、2009年。 「先哲の基本的な考え方」をどのように学ばせたらよいか各分野の専門家がトピック別に見開きで解説している。参考文献も学術論文に偏らず、授業教材として使用できる一般書を多く紹介している。 3 中学校社会科教科書『中学生の公民』帝国書院 4 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東山書房 2009</p>			
11. 成績評価の方法	<p>1 中間・期末レポート：総合点の50%</p> <p>2 振り返りシート：総合点の20%</p> <p>3 単元指導計画・学習指導案・模擬授業・討論：総合点の20%</p> <p>4 日常の授業への参加態度：総合点の10%</p> <p>・遅刻、早退はそれぞれ3回で欠席1回とする。 ・レポートは期日厳守で提出する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生の多くは将来、高等学校教諭を志すと推察するが、免許の取得には、実習がある。短期間の実習だが、その間に実習先の生徒に有益な授業実践ができるように努めて欲しい。たとえ短期であっても教師に変わりはない。免許を取得し、実際に教育機関へ勤務することになればそれ以上の責務を負うこととなる。本講義を通して、「学習者」としてだけでなく、「指導者」としての意識を併せ持てるよう努力して欲しい。また、倫理・政治経済は専門知識を要求される科目でもあり、指導法以外の講義で学んだ事項についてはよく復習して欲しい。本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の通りである。</p> <p>1 授業に集中する。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁)</p> <p>2 欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告する。(事後に提出する。事前は口頭報告する)正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となる。</p> <p>3 明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めない。</p> <p>4 授業中はスマホの電源を切る。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用を許可する。また、教員は次のことを実行する。</p> <p>1 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>2 受講生全員に聞こえる大きさの声で話す。また、専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>3 一方通行の講義だけでなく、模擬授業、討論などを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作る。</p> <p>4 遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、スマホ(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p> <p>本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組む。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とする。受講生各自が自覚を持って講義に参加する。</p>			
13. オフィスアワー	授業時間内にて通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション 本科目の目的、学習の進め方、評価についての説明 「倫理」「政治経済」の改訂の趣旨、改訂の要点		事前学習	現代社会における「倫理」「政治経済」をめぐる動向について調べておく。
			事後学習	「倫理」「政治経済」の改訂の趣旨、要点をまとめることができる。

第 2 回	「倫理」の学習指導要領解説 1 ・基本的性格と目標 ・内容の取扱い (1) 現代に生きる自己の課題 (2) 人間としての在り方生き方	事前学習	「倫理」の目標、内容について該当箇所を通読する。
		事後学習	基本的性格や目標、内容 (1) (2) についてまとめることができる。
第 3 回	「倫理」の学習指導要領解説 2 ・内容の取扱い (3) 現代と倫理 ・指導計画の作成と指導上の配慮事項	事前学習	「倫理」の内容について該当箇所を通読する。
		事後学習	内容 (3) をまとめることができる。
第 4 回	「政治・経済」の学習指導要領解説 1 ・基本的性格と目標 ・内容の取扱い (1) 現代の政治 (2) 現代の経済	事前学習	「政治・経済」の目標、内容について該当箇所を通読する。
		事後学習	基本的性格や目標、内容「(1) (2)」をまとめることができる。
第 5 回	「政治・経済」の学習指導要領解説 2 ・内容の取扱い (3) 現代社会の諸課題 ・指導計画の作成と指導上の配慮事項	事前学習	「政治・経済」の内容について該当箇所を通読する。
		事後学習	内容 (3) をまとめることができる。
第 6 回	「倫理」の指導事例の検討 指導事例の検討と意見交換	事前学習	「倫理」の指導例を調べておく。
		事後学習	指導事例を参考に「倫理」の指導法、指導技術について考えることができる。
第 7 回	「政治・経済」の指導事例の検討 指導事例の検討と意見交換	事前学習	「政治・経済」の指導例を調べておく。
		事後学習	指導事例を参考に「政治・経済」の指導法、指導技術について考えることができる。
第 8 回	「倫理」の授業づくり 1 各自選択した単元、項目にて単元指導計画と学習指導案を作成する。	事前学習	「倫理」の指導案作りの準備を行う。
		事後学習	「倫理」の単元指導計画、指導案を作成し、作成方法、留意点などを考えることができる。
第 9 回	「倫理」の授業づくり 2 「倫理」の模擬授業 1 模擬授業を踏まえての質疑応答と相互評価	事前学習	「倫理」の模擬授業の準備を行う。
		事後学習	模擬授業に対して質疑応答、意見交換を行い、授業力の向上を目指すことができる。
第 10 回	「倫理」の授業づくり 3 「倫理」の模擬授業 2 模擬授業を踏まえての質疑応答と相互評価	事前学習	「倫理」の模擬授業の準備を行う。
		事後学習	模擬授業に対して質疑応答、意見交換を行い、授業力の向上を目指すことができる。
第 11 回	「政治・経済」の授業づくり 1 各自選択した単元、項目にて単元指導計画と学習指導案を作成する。	事前学習	「政治・経済」の指導案づくりの準備を行う。
		事後学習	「政治・経済」の単元指導計画、指導案を作成し、作成方法、留意点などを考えることができる。
第 12 回	「政治・経済」の授業づくり 2 「政治・経済」の模擬授業 1 模擬授業を踏まえての質疑応答と相互評価	事前学習	「政治・経済」の模擬授業の準備を行う。
		事後学習	模擬授業に対して質疑応答、意見交換を行い、授業力の向上を目指すことができる。
第 13 回	「政治・経済」の授業づくり 3 「政治・経済」の模擬授業 2 模擬授業を踏まえての質疑応答と相互評価	事前学習	「政治・経済」の模擬授業の準備を行う。
		事後学習	模擬授業に対して質疑応答、意見交換を行い、授業力の向上を目指すことができる。 中間レポートを提出する。
第 14 回	問題解決的学習について 1 学習課題の立て方 学習過程	事前学習	問題解決的学習の意義について調べておく。
		事後学習	問題解決的学習の学習過程を理解し、学習問題の立て方についてまとめる。
第 15 回	問題解決的学習について 2 ・学習計画 ・話し合い ・振り返り 講義についてのまとめ	事前学習	講義で学んだことを整理する。
		事後学習	問題解決的学習に必要な指導上の要点をまとめることができる。 講義についてまとめることができる。 期末レポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	高齢者支援展開論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3319 SCMP3319 SBMP3319
2. 授業担当教員	金 貞任		
4. 授業形態	講義、高齢者に対する面接調査、高齢者支援プラン作成、発表、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>少子・高齢化の急速な進行に伴い、医療ニーズの高い高齢者と介護を必要とする高齢者の増加、単身世帯と高齢者のみ世帯の増加が今後も予想されている。高齢者が介護や支援を必要とする状態になっても、住み慣れた地域の中で生きがいと尊厳を保ちながら安心して暮らし続けるためには、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供できる地域に密着した包括ケアが必要である。それを実現するためには、高齢者個々のニーズに基づいたケアプランと支援が非常に重要である。</p> <p>加齢に伴う慢性疾病や ADL・IADL の低下、認知症等、リスクの高低にかかわらず高齢者が住み慣れたコミュニティで生活するために、高齢者の身体的・精神的状態の改善や維持、家族介護者の負担の軽減が必要である。</p> <p>本講義では、高齢者が住み慣れた地域で住み続けることを支援するために、コミュニティ独自のサービスと介護サービスを組み合わせたきめ細かいケアプラン作成など多方面の角度から高齢者支援プランを作成する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者支援計画の背景と目的、意義を理解する。 2. 在宅サービスの種類と要介護度に応じた支援プランを作成するために、必要な情報とは何かを把握する。 3. 市町村独自の高齢者支援政策について調査し、長所と短所を理解する。 4. 介護と医療の連携が必要な理由について調査する。 5. 支援が必要な高齢者が地域で生活するために、どのような支援プランが必要であるか調べる。 6. 介護支援専門員と同じレベルの高齢者支援プランの作成を目指す。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う高齢者の身体的・精神的状況と経済的状況の把握のために在宅で居住している高齢者に対する現地調査を行う。 2. 要介護高齢者が在宅で生活が維持できるような高齢者支援計画を作成する。 (家族介護者の負担感の軽減を目指す) 3. ディスカッションとコメントを参考に高齢者に最も適切な支援プランを作成する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 NPO 法人千葉県介護支援専門員協議会、『三訂 介護支援専門員のためのケアプラン作成事例集』中央法規 東京福祉大学『新・社会福祉要説』、中央法規、 *適宜授業中にプリントなどを配布する</p> <p>【参考書】 ケアプラン点検支援マニュアル活用の手引編集委員会、『介護保険ケアプラン点検支援マニュアル活用の手引』 白澤政和編・著、『介護支援専門員のためのケアプラン作成講座』、シルバー新報/環境新聞社</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 (ディスカッション、質問など) 総合点の 30% 2. グループレポート (アサイメント (宿題) 含む) 40% 3. 個人レポート 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p><受講生に期待される学習態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に適切な支援とは何かについて、常に考え実践することを望みます。 2. 宿題と発表は、義務として必ず完成させる必要があります。 3. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で参加することを望みます。 4. 理解できないことや疑問点がある場合は、必ず質問してください。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではありません。 5. 授業中に他人が発表や質問している時は、静かに傾聴してください。 6. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないでください。 7. 発表とレポート等の提出期限を厳守してください。発表とレポート提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点になります。 8. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等、学習活動を妨げる行為は厳禁とします。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義概要についてシラバスを中心に説明	事前学習	高齢者支援展開論の学習ノートを準備し、講義に臨む。
		事後学習	要介護高齢者に必要なサポートについて図書館で調べる
第 2 回	介護保険制度の現状と問題点 (DVD、1 章)	事前学習	介護サービスの種類、介護支援専門員の義務とケアマネジメントを調べ、ノートにまとめる。(pp.2-8)
		事後学習	介護サービスの現状と問題点、ケアマネジメントの現状と改善策を考える
第 3 回	高齢者に対するケアプランの記載内容の検討： ADL, IADL, 認知症のチェック項目を理解、ケアプランの標本様式と記載内容の把握 (1 章)	事前学習	高齢者を支援するためにチェックすべき項目とは何かについて調べてノートにまとめる。(pp.9-12)
		事後学習	居宅サービス計画書と施設サービス計画書が違う理由について考える。
第 4 回	配偶者を亡くした独居高齢者への支援の検討、ディスカッション・発表 (グループ作業) (2 章 1_5)	事前学習	配偶者を亡くした独居高齢者に対する支援時に必要な支援策をノートにまとめる(pp.77-90)
		事後学習	居宅支援計画書の短所と長所を把握し、サービス計画書の短所の改善策を作成する。(グループ作業)

第 5 回	配偶者を亡くした独居高齢者の支援計画書の発表 (グループ) 子ども家族と同居する ALS 女性事例の検討、ディス カッション・発表 (2 章 2_1)	事前学習	子ども家族と同居する ALS 女性の事例をノートにま とめる。(pp.22-34)
		事後学習	ALS 症状を理解し、サービス計画書の短所の改善策 を作成する。(グループ作業)
第 6 回	介護支援専門員による授業	事前学習	介護支援専門員の義務、ケアマネジメントの定義、 介護支援専門員の問題点とは何かについてノートに 整理する。(pp.2-8)
		事後学習	介護支援専門員は、どのような観点から計画書を書 く必要があるかを吟味する サービス計画書の課題を完成する (グループ作業)
第 7 回	サービス計画書の発表 (グループ作業) 老人保健施設退所の男性事例の検討、ディスカッ ション (2 章 1_3)	事前学習	老人保健施設退所の男性事例を調べノートにまと める。(pp.47-63)
		事後学習	老人保健施設退所の男性事例のサービス計画書の完 成 (グループ作業)
第 8 回	退院直後の ADL 低下の女性のサービス計画書の 発表 (グループ) 医療との連携により生活機能の早期改善を目指し た事例の検討、ディスカッション (DVD,2 章 1_3)	事前学習	多職種との連携により早期改善を目指した事例を調べ ノートにまとめる。(pp.35-46)
		事後学習	どのような連携が望ましいかなどを考える
第 9 回	支援が必要な高齢者に対するインタビュー調査の ための質問項目の作成と完成: グループ作業	事前学習	インタビュー調査の質問項目の内容をノートにまと める。(P.12)
		事後学習	インタビュー調査の項目の完成
第 10 回	支援が必要な高齢者へのインタビュー調査; 現地調査 (個人作業)	事前学習	インタビュー調査の練習 (グループ作業)
		事後学習	インタビュー調査の結果をまとめる (個人作業) 発表レジュメをコピーする
第 11 回	支援が必要な高齢者の支援計画書の発表: 個人発 表	事前学習	インタビュー調査の発表の練習をする (個人作業) 配布コピーを用意する。
		事後学習	発表内容の長所・短所を把握し、短所を改善する
第 12 回	支援が必要な高齢者の支援計画書の発表: 個人発 表	事前学習	インタビュー調査の発表の練習をする (個人作業) 配布コピーを用意する。
		事後学習	発表内容の長所・短所を把握し、短所を改善する
第 13 回	ターミナル事例の検討、ディスカッション (DVD)、ケアプラン作成: グループワーク	事前学習	ターミナルケアとは何か、どのような支援が必要で あるかを調べ、ノートにまとめる。(pp.138-152)
		事後学習	ターミナル状態の高齢者の支援計画書を完成する。 選択した事例の発表準備をする。
第 14 回	虐待事例の検討・ディスカッション (配布資料)	事前学習	新聞やメディアを利用し、虐待事例を調べノートにま とめる
		事後学習	虐待事例の支援計画書を完成する。 発表レジュメをコピーする。(個人発表)
第 15 回	虐待事例の支援計画書の発表、ディスカッション、 まとめ、レポート提出	事前学習	支援が必要な事例を対象とした支援計画書を完成す る。発表練習をする。(個人発表)
		事後学習	高齢者を支援するためには、どのような方法で支援 計画書を書く必要があるかを吟味する

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2281 SJMP2381								
2. 授業担当教員	小本 そのみ										
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることは、私たちが豊かな言語活動を展開するために必要不可欠である。加えて子どもたちに国語への関心を高め、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者が母語 (日本語) に愛着心を抱き、日本語についての確かな知識を身に付けることが大切である。指導者が言語感覚・能力を培い、思考力・判断力・表現力を育成することが、感性や情緒をはぐくみ、人間形成や社会参加につながることを理解した上で、子どもたちの発達段階に応じた国語教育のあり方について学習する。										
8. 学習目標	<p>国語に対する関心を深め、思考力や想像力、言語感覚を磨き、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者自らが、日本語についての正しい知識を身に付ける必要がある。そのために、次のことを学習目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本語の現状と、日本語を取り巻く課題、問題点等を理解することができる。 2 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基礎的知識を身に付けることができる。 3 「国語科」の教材としての「日本語」を考えることができるようになる。 4 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向けて、これからの国語力や国語教育について考えることができるようになる。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目 口語文法に関する簡単なテストで国語力を自己評価する。 第4回目 レポート課題 「共通語と方言」と題したレポート (600字程度) を提出する。 第15回目 期末課題 「母語としての日本語」と題したレポート (1000字程度) を提出する。 第8・9・10回 事前事後学習欄に記載のアサインメントを提出する。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】沖森卓也・木村義幸・陳力衛・山本真吾著『図解日本語』三省堂、2006。 【参考書】北原保雄編著『概説日本語』朝倉書店、1995。</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>宿題、レポート、小テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末課題</td> <td>30%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加度	20%	授業態度	20%	宿題、レポート、小テスト	30%	期末課題	30%
授業への積極的参加度	20%										
授業態度	20%										
宿題、レポート、小テスト	30%										
期末課題	30%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>言語は論理や思考などの知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤になると言われています。国語の力を身に付けることは、こうした言語の果たす役割に応じた能力、感性・情緒を育む上で重要です。他の教科等を学ぶ上でも国語の力が基盤となるため、受講者の皆さんには、国語としての確かな日本語を身に付け、より高い言語能力を発揮できるようになってほしいと思います。なお、座席は指定とします。</p>										
13. オフィスアワー	授業前後の時間										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション (シラバスの確認、授業展開の見通し)。日本語の知識に関する簡単な実態調査 (テスト) を行う。	事前学習	教科書『図解日本語』を準備する。また、シラバスに目を通し、授業内容を把握してから授業に臨む。								
		事後学習	テストで間違った箇所の復習をする。								
第2回	外国語の中に入っていった日本語を調べ、言語交流が歴史や文化に深く関わっていることを理解する。学校現場における日本語教育について学ぶ。	事前学習	pp. 150～153 を読んで日本語教育と国語教育の違いをまとめる。								
		事後学習	学校現場の日本語教育について考えをまとめる。								
第3回	「音声」「音韻」「音節」等、日本語の発音や音の仕組みについて学ぶ。	事前学習	pp. 12～25 を読み、単音と音素、音節とモーラなど重要語句の意味をつかんでおく。								
		事後学習	特殊音素とモーラについてまとめる。								
第4回	日本語のアクセントの特徴や機能について理解する。	事前学習	pp. 25～36 を読み、アクセントの滝と核の意味について、概略を理解しておく。								
		事後学習	日本語のアクセントの特徴をまとめる。								
第5回	文字の種類や漢字に関する基礎的な知識の拡充を図る。	事前学習	pp. 40～50 を読み、主な内容の要点をまとめる。								
		事後学習	漢字の六書、書体、字音についてまとめる。								
第6回	平仮名、片仮名の歴史、五十音図といろは歌について理解し、知識の拡充を図る。	事前学習	pp. 51～57 を読み、仮名への関心をもつ。								
		事後学習	伊勢物語の冒頭文を平仮名の字体変遷表に照らして読む。								
第7回	「ローマ字」についての理解を図り、標準式、日本式、訓令式などローマ字の方式を整理する。	事前学習	pp. 58～59 を読み、自分の綴り方が何式にあたるか考えて授業に臨む。								
		事後学習	訓令式とヘボン式の表記の違いを明確にする。								
第8回	「書写」についての理解を図り、平仮名及び漢字の書き順や運筆に注意して、毛筆練習をする。	事前学習	筆ペンを準備して、授業に臨む。								
		事後学習	配付された練習用紙に練習する。								
第9回	「書写」についての理解を深め、筆運びの難しい平仮名及び画数の多い漢字の書き順や運筆に注意して、毛筆練習をする。	事前学習	筆ペンを準備して授業に臨む。								
		事後学習	配付された練習用紙に練習する。								
第10回	語や語彙の意味、語の種類、語彙の系統、語の誕生と歴史など興味ある内容を中心に調べ、発表する。	事前学習	pp. 66～91 の中で、興味を持った箇所について、その内容を簡潔にまとめ、発表の準備をする。								
		事後学習	発表内容を参考に語彙について整理する。								
第11回	学校文法を中心とした文法①「文の構造や用言」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。	事前学習	pp. 92～101 を読み、内容をまとめる。								
		事後学習	用言3品詞について活用の仕方や特徴を押さえる。								
第12回	学校文法を中心とした文法②「自立語と付属語」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。	事前学習	pp. 102～110 を読み、自立語と付属語の特徴をまとめる。								
		事後学習	活用のない自立語を品詞ごとにまとめる。								

平成 28 年度

第 13 回	待遇表現について理解し、敬語表現を正しく使用できるようにする。	事前学習	pp. 124～127 を読み、待遇表現と敬語表現の意味の違いに気づく。
		事後学習	為手尊敬と受け手尊敬、聞き手尊敬についての確にまとめる。
第 14 回	敬語の表現形式について調べ、敬意の度合いや注意すべき敬語について学び、敬語表現の理解を深める。	事前学習	pp. 127～131 を読み、敬語表現に対する疑問点を明らかにして授業に臨む。
		事後学習	敬語の学習を振り返り、敬語を学ぶ意義をまとめ、学んだ感想を書く。
第 15 回	これまでの学習を振り返り、「母語としての日本語」についてレポートをまとめる。授業評価	事前学習	これまでの学習の振り返りが出来るように、学習物をすべて準備し、目を通しておく。
		事後学習	本授業を通して、日本語について自分の考え方がどう変わったのかを振り返る。

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2301								
2. 授業担当教員	市川 直道										
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	国語(書写)→国語科指導法										
7. 講義概要	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることは、私たちが豊かな言語活動を展開するために必要不可欠である。加えて子どもたちに国語への関心を高め、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者が母語(日本語)に愛着心を抱き、日本語についての確かな知識を身に付けることが大切である。指導者が言語感覚・能力を培い、思考力・判断力・表現力を育成することが、感性や情緒をはぐくみ、人間形成や社会参加につながることを理解した上で、子どもたちの発達段階に応じた国語教育のあり方について学習する。										
8. 学習目標	<p>国語に対する関心を深め、思考力や想像力、言語感覚を磨き、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者自らが、日本語についての正しい知識を身に付ける必要がある。そのために、次のことを学習目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本語の現状と、日本語を取り巻く課題、問題点等を理解することができる。 2 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基礎的知識を身に付けることができる。 3 「国語科」の教材としての「日本語」を考えることができるようになる。 4 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向けて、これからの国語力や国語教育について考えることができるようになる。 										
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	初回に口語文法に関する簡単なテストを実施し、国語力についての実態を診断する。 第4回目アサイメント 「共通語と方言」と題して600字程度のレポートを課す。 第15回目 期末課題「母語としての日本語」と題して1000字程度のレポートを課す。										
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】沖森卓也・木村義幸・陳力衛・山本真吾著『図解日本語』三省堂。 【参考書】沖森卓也『日本語概説』朝倉書店										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>宿題、レポート、小テスト</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>期末課題</td> <td>20%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加度	20%	授業態度	20%	宿題、レポート、小テスト	40%	期末課題	20%
授業への積極的参加度	20%										
授業態度	20%										
宿題、レポート、小テスト	40%										
期末課題	20%										
12. 受講生へのメッセージ	言語は論理や思考などの知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤になると言われています。国語の力を身に付けることは、私たち日本人にとって、こうした言語の果たす役割に応じた能力、感性・情緒をはぐくむ上で重要です。他の教科等を学ぶ上でも国語の力が基盤となるため、受講者の皆さんには、国語としての確かな日本語を身に付け、より高い言語能力を発揮できるようになってほしいと思います。 ※ なお、座席は指定とします。										
13. オフィスアワー	別途通知する										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション(シラバスの確認、授業展開の見直し)。日本語の知識に関する簡単な実態調査(テスト)を行う。	事前学習	教科書『図解日本語』を準備する。また、シラバスに目を通し、授業内容を把握してから講義に臨む。								
		事後学習	テストで間違った箇所の復習をする。								
第2回	外国語の中に入っていた日本語を調べ、言語交流が歴史や文化に深くかかわっていることを理解する。	事前学習	pp. 150～153 を熟読しまとめる。								
		事後学習	世界における日本語学習者数の地域別割合や推移に関心を持つ。								
第3回	「音声」「音韻」「音節」等、日本語の発音や音の仕組みについて学ぶ。	事前学習	pp. 12～24 を熟読し、単音と音素、音節とモーラなど重要語句の意味をつかんでおく。								
		事後学習	特殊音素とモーラについてまとめる。								
第4回	日本語のアクセントの特徴や機能について理解し、アクセントの表記法を身に付ける。	事前学習	pp. 25～36 を熟読し、アクセントの滝と核の意味について、概略を理解しておく。								
		事後学習	アクセントの表記法をまとめる。								
第5回	文字の種類や漢字に関する基礎的な知識の拡充を図る。	事前学習	pp. 40～50 を熟読し、主な内容の要点をまとめる。								
		事後学習	漢字の六書、書体、字音についてまとめる。								
第6回	平仮名、片仮名の歴史、五十音図といろは歌について理解し、知識の拡充を図る。	事前学習	pp. 51～57 を熟読し、仮名への関心をもつ。								
		事後学習	伊勢物語の冒頭文を平仮名の字体変遷表に照らして読む。								
第7回	「ローマ字」についての理解を図り、標準式、日本式、訓令式などローマ字の方式を整理する。	事前学習	自分の綴り方が何式にあたるか考えて授業に臨む。								
		事後学習	訓令式とヘボン式の表記の違いを明確にする。								
第8回	「書写」についての理解を図り、平仮名及び漢字の書き順や運筆に注意して、毛筆練習をする。	事前学習	筆ペンを準備して授業に臨む。								
		事後学習	配布された練習用紙に練習する。								
第9回	「書写」についての理解を深め、筆運びの難しい平仮名及び画数の多い漢字の書き順や運筆に注意して、毛筆練習をする。	事前学習	筆ペンを準備して授業に臨む。								
		事後学習	配布された練習用紙に練習する。								
第10回	語や語彙の意味、語の種類、語彙の系統、語の誕生と歴史など興味ある内容を中心に調べ、発表する。	事前学習	pp. 66～83 を熟読し、語と語彙の違いなどをつかむ。								
		事後学習	グループで担当した部分をレポートにまとめ、提出する。								
第11回	学校文法を中心とした文法①「文の構造や用言」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。	事前学習	pp. 92～101 を熟読し、内容をまとめる。								
		事後学習	用言の3品詞について活用の仕方や特徴を押さえる。								
第12回	学校文法を中心とした文法②「自立語と付属語」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。	事前学習	pp. 102～107 を熟読し、自立語と付属語の特徴をまとめる。								
		事後学習	活用のない自立語を品詞ごとにまとめる。								
第13回	待遇表現について理解し、敬語表現を正しく使用できるようにする。	事前学習	pp. 123～127 を読み、待遇表現と敬語表現の意味の違いに気づく。								

平成 28 年度

		事後学習	為手尊敬と受け手尊敬、聞き手尊敬についての確にまとめる。
第 1 4 回	敬語の表現形式について調べ、敬意の度合いや注意すべき敬語について学び、敬語表現の理解を深める。	事前学習	敬語表現に対する疑問点を明らかにして授業に臨む。
		事後学習	敬語の学習を振り返り、感想を書く。
第 1 5 回	これまでの学習を振り返り、「母語としての日本語」についてレポートをまとめる。授業評価	事前学習	これまでの学習の振り返りが出来るように、学習物をすべて準備しておく。
		事後学習	母語としての日本語に愛着心をもてたか振り返る。

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2381
2. 授業担当教員	柳 辰男		
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	国語 (日本語) 能力の養成・強化を主とする。発音・アクセント・方言等の日本語の特質や語法・表現技法に至るまで、日本語の基礎的知識を習得するとともに、語彙力や文章表現力の養成に努める。また幼児の発達段階を踏まえ、実際の絵本等児童文化教材の分析から、国語 (日本語) の使用方法を実感的に理解する。どのような指導を行えば言語能力を向上させていくことができるのか、具体的な教材を用いることで言語能力を高める。		
8. 学習目標	1, 国語科教育の歴史や意義を踏まえ、国語 (日本語) 能力を高める。 2, 言葉の機能や教科としての国語の特質を理解し、説明できるようになる。 3, 話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと的能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につける。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	日本語や国語教育に関する基礎的な知識や技能を実践的な身につけた能力にするために以下の課題に取り組みレポートを提出する。 1. 指定した国語の教科書の文学作品及び説明的文章の教材研究をして提出する 2. 幼児向けのお話を創作して提出する。 3. はがき及び手紙、封筒の書き方を実践し提出する。 4. 身近な方言や気になる日本語を収集して感想意見を書いて提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 沖森卓也編著『図解日本語』三省堂。 文部科学省『小学校学習指導要領解説「国語編」』東洋館出版。(絶版の場合は無とする) 【参考書】 杉藤美代子・森山卓郎著『音読・朗読入門』岩波書店。 国立国語研究所「新ことばシリーズ 21「私たちと敬語」ぎょうせい 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくまライブラリー 筑摩書房。 大野 晋『日本語練習帳』岩波新書。 水村 美苗『日本語が亡びるとき』筑摩書房。 大久保 愛『幼児のことば』国土社。 酒井 邦嘉『言語の脳科学—脳はどのようにことばを生み出すか』中公新書。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度、宿題への取り組み 30% (授業後の誠実なコメント記述の提出 15%) (質問、発表、積極的参加貢献活動 15%) *私語、居眠り、欠席遅刻、マイナス点 2. 提出課題 40% 3. 期末試験 30%		
12. 受講生へのメッセージ	国語である日本語は、それを母国語とする人にとっては、単なる音声、文法、語彙、コミュニケーションの問題にとどまらず、その人の感情、考え方、社会性、生き方も関わっているといわれています。母国語である日本語は、生まれてより、親を中心として家族や地域の日と教えられ学び、そして、保育園、幼稚園、さらに小学校と育てられていく個性的であると同時に日本人や地域社会の共通性を担った財産でありその人の能力でもあります。日本語そのものは、祖先から渡され受け継いだ貴重な文化であります。 幼児、児童の保育教育を志す諸君は、母国語である日本語そのものを学び直すと共にそれらを駆使する表現理解、コミュニケーションの能力を改めて確かにすることが求められます。本授業での学習を通して是非それらの目標が達成できるように頑張らしましょう。 国際化、高齢化社会により、多様な人間の共生社会に生きるこれからの幼児児童を教育するには、世界の一つの言語としての日本語の認識と、言語が人権に関わる行為であるという言語観を育てていきたいと思います。そのためにも、以下のことを守ることは守り、努めることは努めていきたいと思います。 1 音読、話し合い、書くなどの機会を多く取り入れます。ふざけたり、照れたりしないで、積極的にとりくみ、自分自身のためだけでなく他の人に貢献する役割を実践していきましょう。 2 私語を慎み、携帯電話の電源は切ること。 3 授業には、欠席、遅刻、早退をしないこと。 4 福祉、保育、教育を目指す学生として、他の学生を尊重し、ルールやエチケットを守り、信頼されるように努めること。 5 発表、活動者に対しては感謝の拍手を忘れず、決して不適切な眼差しによって他の学習者の人格や権利を傷つけたりしないよう、保育や教育者を志すものとして努め修行していきましょう。 6 指導者の私は、事前準備に努め、授業の開始修了時刻を厳守し、諸君の質問や考えを尊重し丁寧に対応するので積極的に話しかけてください。 ※ なお、座席は指定とします。		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの確認、授業展開の見通し)。グループ編成 日本語と国語の違いとは？	事前学習	教科書『図解日本語』を準備し授業に臨むこと。
		事後学習	「日本語」と「国語」の違い、「共通語」と「標準語」の違いをまとめる。
第 2 回	音声と音韻について調べる。 「単音と音素」、「音節とモーラ」、「特殊音素」とは何か? 楽しい掛け合い	事前学習	第 2 章 (pp. 12~23) を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	音声と音韻について理解したことをまとめる。

第 3 回	日本語のアクセントの機能、型、表記法について学ぶ。グループ毎に 1～4 モーラ語のアクセント型を発表する。	事前学習	pp. 2 5～3 7 を熟読し、各自 1～4 モーラ語を集めておく。
		事後学習	絵本の読み聞かせで注意することをまとめる。 *課題 2 幼児向けの簡単な話、童話を書いて提出する。
第 4 回	文字の種類や漢字に関する基礎的な知識の拡充を図る。六書とは何か？	事前学習	pp. 4 0～4 8 を熟読し、内容の要点をまとめて、講義に臨む。
		事後学習	漢字の成り立ちについて具体的な漢字を例に挙げながら 4 つの方法に分類してまとめる。
第 5 回	万葉仮名、平仮名、片仮名の成立や役割を学ぶ。	事前学習	pp. 5 1～5 5 を熟読し、内容の要点をまとめて、講義に臨む。
		事後学習	紙芝居の読み聞かせで注意することをまとめる。
第 6 回	ローマ字の綴り方を理解する。	事前学習	pp. 5 8 を熟読し、ローマ字の歴史をまとめる。
		事後学習	訓令式、日本式、ヘボン式の特徴をまとめる。
第 7 回	毛筆で書き順や運筆に注意して、平仮名を書く。	事前学習	筆ペンを準備して授業に臨む。
		事後学習	縦書きと横書き、文字色の工夫をまとめる。
第 8 回	毛筆で書き順や運筆に注意して、漢字を書く。	事前学習	筆ペンを準備して授業に臨む。
		事後学習	配布された練習用紙に練習をする。 *課題 3 はがき、封筒の宛名等を書いて提出する。
第 9 回	表記の原則を理解し、仮名遣いや送り仮名など間違いやすい事例について検討する。	事前学習	p p 6 0～6 4 を熟読し歴史的仮名遣いについて、あらかじめ調べて、講義に臨む。
		事後学習	間違いやすい仮名遣いや送り仮名についてまとめる。
第 1 0 回	語や語彙の意味、語構成と造語法、語彙の意味関係について調べ、グループで分担し発表する。	事前学習	p p 6 6～7 9 を通読し、語と語彙の違いを考え、授業に臨む。
		事後学習	語構成と造語法についてまとめる。
第 1 1 回	学校文法を中心とした文法①「文の構造や体言」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。	事前学習	pp. 9 2～1 0 1 を熟読し、内容の要点をまとめる。
		事後学習	品詞分類表に書き込みをし、表を完成させる。 *課題 1 文学作品の教材研究を提出する。
第 1 2 回	学校文法を中心とした文法②「用言・副詞・接続詞・連体詞・感動詞」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。	事前学習	Pp 1 0 2～1 0 8 を熟読し、各品詞の性格をまとめる。
		事後学習	活用のある自立語、活用のない自立語についてまとめる。
第 1 3 回	学校文法を中心とした文法③「助動詞・助詞」について学び、日本語の文法の基礎的理解を図る。	事前学習	p p 1 0 8～1 1 0 を熟読し助動詞と助詞について調べて、授業に臨む。
		事後学習	助動詞の態やテンスについてまとめる。 *課題 5 方言や気になる表現を集めて提出する。
第 1 4 回	待遇表現について理解し、敬語表現を正しく使用できるようにする。待遇表現と敬語表現の違いは？	事前学習	待遇表現の分類について調べて、授業に臨む。
		事後学習	敬語の種類をまとめる。
第 1 5 回	敬語等の日本語表現の特色ある表現の練習をすると共にこれからの日本語の教育に関して討議しまとめる。 授業評価	事前学習	pp. 1 5 0～1 5 1 を熟読し、授業に臨む。
		事後学習	国語科の目標「言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」という目標を改めてとらえ直し今後の日本語教育の在り方を考えると同時に自分自身の日本語力を養うよう努力する。
期末試験			
*期末試験を実施します。問題は、日本語に関する基礎的知識理解の問題と日本語、及び国語教育に関する課題を 1000 字程度で論述する問題です。			

1. 科目名 (単位数)	国際関係論 (国際法を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA3318
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目履修にあたっては事前に以下に挙げる科目の事前・事後履修を推奨します。履修可能な範囲で意欲的に取り組んで下さい。 事前・事後履修を推奨する科目：「政治学」「経済学」「国際社会と日本」「世界史」「日本史」		
7. 講義概要	本科目は、国際政治や国際経済に関する諸問題について理解を深めることを目的とする。また、人権、国家主権や領土の問題など、国際法の考え方についても取り上げる。 本科目では、国際関係論の全体を概観し、公務員試験や教員採用試験にも関連する内容も取り上げながら展開していく。		
8. 学習目標	1) 国際関係論における基本的な考え方、重要な概念について理解し説明できる。 2) 国際社会における政治・経済動向について関心を持ち、諸問題について多面的に検討し思考することができるようになる。 3) 国際社会における行動主体とその関係について理解できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	リーディングアサインメントを課します。論述で解答する場合と確認テストにて解答を求める場合があります。基本的に、2回以降はテキスト (中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013年) 持参が必須になります。前回講義時に指定された範囲のテキストの読み込みとともに、各講義回に設定された課題について自分なりの解答をもって講義に臨んでください。 講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。配付を受けるまでは上記課題を意識してテキストの各章を読んでみましょう。また、講義配当時間の関係上、テキスト掲載のすべての章を取り扱うことはできないので、今回対象外とする章については以下に示す課題例を参考に各自で読み進めるようにしてください。各回で関連ある内容の章を紹介し、課題例はその都度補足します。 課題例：第 5 章；安全保障という考え方が定着するようになった背景はどのようなものだろうか。テキスト pp. 232-252. を読みまとめてみよう。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013 年 (以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 1) 原康著『岩波ジュニア新書 国際関係がわかる本』岩波書店、1999 年。 高橋和志ほか『岩波ジュニア新書 国際協力ってなんだろう』岩波書店、2010 年。 教科書の内容に難しさを覚えた学生は参照することをお勧めします。後者は教科書の第 6 章～10 章で取り扱っている、アジアの状況について中心的に取り上げております。 2) 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』。有斐閣ブックス、2004 年。 国際政治、国際経済の分野の専門用語、トピック 163 項目を解説しています。「集団安全保障」「開発主義」といった本科目でも取り扱う概念について更に理解を深めたいときに有益です。 3) 羽場久美子・増田正人編『21 世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003 年。 最新事情については参照できないが、1990 年代からの国際社会の変化について 22 のトピックで分かりやすく解説している。 4) 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 ほか、高等学校歴史地理において使用した世界史資料集などが本科目の学習の手助けになる。		
11. 成績評価の方法	リーディングアサインメント (40%)、授業への取り組み (授業内発表なども含む) (20%)、試験 (40%) を評価の配分とします。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。		
12. 受講生へのメッセージ	国際関係論が取り扱う領域は広範にわたります。原則、テキストのトピックについて学習を進めていくこととなります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言・発表等) できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話 (メール・通話) の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。		

	本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと) 国際関係論についての基礎知識	事前学習	テキストの目次を参考に国際関係論（国際政治学）が議論する観点を見ておくこと。その中で関心を持ったテーマについて各章の summary を読んでおくこと。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 2 回	国際政治学の見取り図① 国際政治の悲劇性とリアリズム・リアリズムへの挑戦 …テキスト第 1 章	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。 課題：リアリズムとリベラリズムとは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 3 回	国際政治学の見取り図② 三つの分析レベル・国際政治から世界政治へ …テキスト第 1 章	事前学習	課題：ウォルツ『戦争原因論』およびウォラーステイン『世界システム論』について調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 4 回	国際政治の歴史的視角① 主権国家体制以前の「世界秩序」 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：東アジア国際体制について調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 5 回	国際政治の歴史的視角② 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（1） ドイツ三十年戦争およびウェストファリア体制の現代的評価 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：ドイツ三十年戦争の経過を教科書以外の参考文献も活用して調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 6 回	国際政治の歴史的視角③ 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（2） ドイツに見る「国民国家」形成の過程 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：ドイツ国家の国民意識が形成される過程には何があったのだろうか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 7 回	国際政治の歴史的視角③ 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（3） ヨーロッパ外世界との関係 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：19 世紀頃までのヨーロッパ諸国による植民地獲得とアメリカおよび日本との関わり方について（pp.76-79.）調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 8 回	対外政策の選択① 外交・国内政治と対外政策 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：アリソンは三つの政策決定モデルとは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 9 回	対外政策の選択② 国家間の戦略的相互依存 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：なぜ軍拡競争が起こるのか。囚人のジレンマの論理を手がかりに考えてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 10 回	対外政策の選択③ 認識と行動 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：シェリング『行動の自由の逆説』とは何か調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の

			学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 1 回	対外政策の選択④ 威嚇と約束 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：モーゲンソーの「威嚇や約束の説得力」とは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 2 回	国際秩序① 領域主権国家体制 …テキスト第 4 章	事前学習	課題：国際秩序」を形作る考え方について、国内類推論とは何か調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 3 回	国際秩序② 秩序の設計と生成・国際秩序の変動と国内秩序の変動 …テキスト第 4 章	事前学習	課題：国際秩序」を形作る考え方について、市場類推論、共振論とは何か調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 4 回	国際政治経済 国際政治経済の過程グローバリゼーションとパワーシフト …テキスト第 6 章	事前学習	課題：自由な国際交易国家間の関係を平和にする効果があるのか？
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 5 回	越境的世界 文明論と国際政治 …テキスト第 7 章	事前学習	課題：グローバリゼーションによって異文化社会間の交流が深まることは、国際政治にどのような影響をもたらすか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 アサインメントすべてを見直す。 課題：今、目の前にある世界はどうしてこうなったのか。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	国際福祉研究 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2337
2. 授業担当教員	河内 孝		SCMP2337
4. 授業形態	講義、課題発表、グループ・ディスカッション等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	各国の社会福祉制度を比較する中で、今後の日本の福祉の在り方を研究する講座です。社会福祉制度には、その国固有の宗教、歴史、哲学などが色濃く反映しています。公的な介入を極力避けて利用者の選択、on your risk に任せるアメリカ。国家と市民との契約に基づき税投入により高福祉を追求するスウェーデンなど北欧諸国、少子化対策などと高齢者福祉を一体のものとして社会のセイフティーネットづくりに取り組むフランス。質量とも充実したボランティア組織が福祉水準を維持する英国、本格的高齢化の到来で政策確立を急ぐ中国など。これらの事例を学びながら超高齢化の進む日本型福祉の在り方をさぐります。		
8. 学習目標	1. 各国の先進的な社会福祉制度について事例を通して理解を深める。 2. 1を通して日本型社会福祉のあり方について自分の意見を持つことができる。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	適時、レポート提出、意見発表を求める。 グループディスカッションに基づく発表など積極的な授業参加を評価する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 河内 孝著『自衛する老後』新潮新書。その他、必要な資料をプリントして渡します。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度(質問、授業への積極的参加度、課題発表) 50% 提出レポート、随時提出してもらう授業の理解度を確認するための短記式レポート 50%		
12. 受講生へのメッセージ	高齢化率が3割に近づいた日本で、どのような社会保障体制を整えるかは国民的な課題です。先進国の様々な福祉への取り組みを研究し、日本型社会福祉の在り方について明確なビジョンを把握し、専門介護職として必修の知識を得てもらいたいと思います。		
13. オフィスアワー	授業日の授業前後ならいつでも		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	アメリカの福祉制度①国としての成り立ち	事前学習	教科書「序」を読み、日本の介護保険制度につき、その現状について、概略を予習して来る。
		事後学習	授業で配布するプリント、「アメリカの社会保障」を再読し、日本との制度的違いについて理解を深めてくる。
第2回	アメリカの福祉制度②政策展開	事前学習	アメリカの社会保障政策の基礎となっている On your risk の概念について配布プリントに基づき予習する。
		事後学習	授業で説明した medicare ,medicaid について内容を授業中に示した参考書により復習する。
第3回	日米福祉比較(文化の違いを中心に)	事前学習	教科書第2章「介護保険はどこへ行く」を読み、介護保険制度が直面する問題点を理解した上で、アメリカとの制度比較する。
		事後学習	何故、アメリカにおいては保険制度の導入に抵抗が強いのか、配布プリントで復習する。
第4回	グループ・ディスカッション(日米の社会保障制度の比較、違いが生まれた文化的、歴史的背景につき4~5グループに分けて発表、討論を行う)	事前学習	グループ・ディスカッションに備え日米社会保障制度の違い、違いを生んだ文化的土壌につき自分の意見を5分程度で発表できる準備をする。
		事後学習	グループ討論の結果を踏まえ、日米比較を短レポートにまとめる(随時授業中の発表してもらう)。
第5回	日本の福祉問題点、介護保険制度が直面している問題	事前学習	教科書第3~4章、「地域介護の旗手たち」、「外国人労働力問題」を読んで、問題の概略を把握して来ること。
		事後学習	教科書第3章で取り上げた介護施設現場ルポについて、感想、自分の意見をまとめ、指名された時に発表できるよう用意すること。
第6回	日本の福祉 外国人労働力の導入は是か非か、介護離職ゼロ政策との整合性を研究する	事前学習	教科書第4章「外国人労働力に背を向ける国」を読み、外国人看護師、介護士の導入についてメリットとデメリットについて考えをまとめてくること。
		事後学習	介護人材の不足をどのようにして解消したら良いのか考え、次回授業で意見発表できるよう準備する。
第7回	英国の福祉制度、政権交代と制度改革について	事前学習	第6回授業で配布するプリント、「英国の社会保障」を読み、英国における社会保障制度発達の歴史について学んでくること。
		事後学習	授業で説明した英国の NSC 制度について復習すること。

第 8 回	フランス、ドイツの福祉制度、少子化対策への取り組み	事前学習	第 7 回授業で配布するプリント、「ドイツ、フランスの社会保障」を読み、両国の制度につき概略、理解して来ること。
		事後学習	フランスの少子化対策、ドイツの介護保険の特徴につきプリントで復習する。
第 9 回	日本とヨーロッパ福祉文化の近似性と相違点を比較	事前学習	日本と英、独、仏の欧州 3 カ国との制度的相違について予習、意見発表の準備をすること。
		事後学習	英、仏、独各国の社会保障制度について、各国固有の制度、システムがどのようにして生まれたのか、歴史的背景を配布資料を中心に復習すること。
第 10 回	グループ・ディスカッション（第 7~8 回授業内容を中心に日本と、英、仏、独 3 カ国の社会保障制度の違い、また違いが生まれた歴史的、文化的背景について。班別のグループ討論を行う）	事前学習	グループ・ディスカッションに備え、授業で学んだ英、仏、独の社会保障制度の特徴、さらに日本との違いについて発表できるように自分の意見を 5 分程度にまとめてくること。
		事後学習	討論内容をまとめ短レポートにまとめること（提出義務はない）。
第 11 回	北欧の社会福祉（スウェーデン）	事前学習	教科書第 2 章「スウェーデンにおける訪問介護ルポ」を読み、そのシステム、どのように行われているかについて理解して来ること。
		事後学習	配布プリント「北欧の社会保障」を読み、北欧諸国の社会保障制度が、どのような哲学により発展してきたか、その歴史を学習すること。
第 12 回	北欧の社会福祉（スウェーデン、デンマーク）	事前学習	日本と異なる税制、システムを中心に配布プリントで研究すること。
		事後学習	日本と北欧の社会福祉制度の違いを理解した上で、学ぶべき点があるとすれば何か、について考えをまとめ、発表できるように準備する。
第 13 回	中国の社会福祉政策について	事前学習	第 12 回授業で配布する「中国の社会保障」を読み、同国の高齢化のスピードについて学んでくること。
		事後学習	同国の一人っ子政策につき、その功罪について自分の意見をまとめること。
第 14 回	韓国の社会福祉政策について	事前学習	第 13 回授業で配布するプリント、「韓国の福祉」を読み、同国の介護保険制度の特徴について概略、学んでくること。
		事後学習	同国の介護保険制度の現状、問題点について日本と比較すること。
第 15 回	レポート提出、発表と講評を行い添削した上で返却する（希望者のみ。返却は当日でない場合もある）	事前学習	過去 14 回の講義を通じて学んだ各国と日本の社会保障制度の違いを整理してレポートにまとめること。
		事後学習	各国の社会福祉政策の成功例、失敗例を復習し、日本が学ぶべき項目を整理する。

1. 科目名 (単位数)	子どもの食と栄養 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3358 SCMP3358 SBMP3358 SJMP3121
2. 授業担当教員	遠藤 道代		
4. 授業形態	講義、演習 (課題作成および発表含む)、調理実習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小児期の栄養と食生活の重要性を理解し、一生涯の食生活の意義を理解する。また保育者として、小児の発育と発達の特徴を踏まえた栄養と食のあり方を理解し、保育所における望ましい食のあり方について理解を深める。さらに最近の食にまつわる様々な問題にふれながら、保護者と子どもの総合的な食育や保育所における食の実践について理解する。		
8. 学習目標	1) 栄養、食生活の基礎知識を身につける。 2) 小児期各期の栄養と食生活について学び、説明することができる。 ①妊娠期 (胎児期) ②新生児期 ③乳児期 ④幼児期 ⑤学童期・思春期 3) 保育士としての食の援助の役割について学び、説明することができる。 4) 疾患をもつ小児の栄養・食生活について学び、説明することができる。 5) 小児の食の問題について学び、説明することができる。 6) 子どもとその家族に対する栄養教育・食教育について学び、知識を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	栄養学を体系的に理解するためには、授業を重ねるごとに知識の蓄積が必要になる。今回の授業内容について教科書で該当する単元を予習し、授業後は要点を復習することをアサイメントとする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 堤ちはる, 土井正子編著『子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養』萌文書林。 【参考書】 講義内で適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	1. 授業への積極的参加態度 (質問等の積極性など) 20% 2. 期末試験 80%		
12. 受講生へのメッセージ	栄養が我々の体をつくっているということ、他のいのちを戴くことによってそれが得られることを知れば、食の大切さに気づかずにいられません。まずは自身の適切な健康管理、食生活管理を身につけることが始めてみましょう。次に子どもの健全な育成のために、食の面から自分に何ができるのか、もっとできることはないかと常に心に止め、目的意識を明確にして受講してください。 履修にあたっては次の事を最低限守ってください。 1. 指定の教科書は授業の際、必ず持参すること。 2. 授業中の私語、飲食、携帯電話やゲーム機の使用は厳禁します。 3. 教室内の秩序を保つため、座席を指定する場合があります。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	小児期の健康と食生活の意義	事前学習	テキスト pp. 1~16 を読み、内容を把握する。
		事後学習	健全な発育・発達と食生活との関わりについて理解し、小児の食の問題についてまとめる。
第 2 回	小児期の発育・発達と食生活	事前学習	テキスト pp. 17~25 を読み、内容を把握する。
		事後学習	小児の摂食・嚥下機能および、消化・吸収についてまとめる。
第 3 回	栄養に関する基礎知識① 栄養素の消化と吸収	事前学習	テキスト pp. 25~34 を読み、内容を把握する。
		事後学習	小児の消化・吸収の特徴についてまとめる。
第 4 回	栄養に関する基礎知識② 栄養素の機能	事前学習	テキスト pp. 35~60 を読み、内容を把握する。
		事後学習	五大栄養素の種類と役割についてまとめる。
第 5 回	日本人の食事摂取基準の意義とその活用 乳児期・幼児期の必要栄養量	事前学習	テキスト pp. 62~71 を読み、内容を把握する。
		事後学習	日本人の食事摂取基準策定の意義と、小児期に必要な栄養素量をまとめる。
第 6 回	小児期の発育・発達と食生活① 妊娠期 (胎児期) の食生活	事前学習	テキスト pp. 72~88 を読み、内容を把握する。
		事後学習	妊娠期・授乳期に配慮すべき栄養、食生活についてまとめる。
第 7 回	小児期の発育・発達と食生活② 新生児期・乳児期の栄養 (乳汁栄養の種類と特徴)	事前学習	テキスト pp. 89~107 を読み、内容を把握する。
		事後学習	母乳栄養と育児用ミルクの特性について分類する。育児用ミルクの調乳法についてまとめる。
第 8 回	小児期の発育・発達と食生活③ 乳児期・幼児期における授乳・離乳の意義とその実践	事前学習	テキスト pp. 107~127 を読み、内容を把握する。
		事後学習	授乳・離乳の支援ガイドの要点をまとめる。離乳食としてふさわしい献立をまとめる。
第 9 回	小児期の発育・発達と食生活④ 幼児期の発達と食生活	事前学習	テキスト pp. 128~152 を読み、内容を把握する。
		事後学習	幼児期の食機能の特性を理解し、幼児期の食事摂取基準に適した食生活についてまとめ

			る。間食の意義と実践方法についてまとめる。
第 10 回	小児期の発育・発達と食生活⑤ 学童期・思春期の発達と食生活	事前学習	テキスト pp. 153～168 を読み、内容を把握する。
		事後学習	第二次発育急進期や二次性徴をふまえて、学童期・思春期に必要な栄養についてまとめる。
第 11 回	食育の基本と内容	事前学習	テキスト pp. 174～198 を読み、内容を把握する。
		事後学習	食育基本法の要点をまとめる。食育を援助するための役割についてまとめる。
第 12 回	子どもとその家族に対する栄養教育・食教育	事前学習	テキスト pp. 199～212 を読み、内容を把握する。
		事後学習	家庭の食事の現状と課題についてまとめる。保護者への食の支援方法についてまとめる。
第 13 回	児童福祉施設における食事と栄養	事前学習	テキスト pp. 213～238 を読み、内容を把握する。
		事後学習	児童福祉施設の食事の内容について要点をまとめる。手洗いを実践する。
第 14 回	疾患を持つ小児の栄養・食生活	事前学習	テキスト pp. 239～271 を読み、内容を把握する。
		事後学習	疾病および体調不良の小児への対応について、疾患の特徴と栄養との関わりについてまとめる。
第 15 回	保育所における食育推進の計画・実施・評価 食育実践活動事例からの検討	事前学習	事前に配布される資料を基に、保育所、家庭、地域に向けた実践方法を把握する。
		事後学習	教材を活用した食育活動についてまとめる。給食を通じた食育をまとめ、実際に調理作業を実践する。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	子どもの保健 I (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2340 SCMP2340 SJMP2446								
2. 授業担当教員	根岸 祥子										
4. 授業形態	講義、グループ学習・発表・討論、課題発表・討論	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	ヒトの一生のなかで、小児期は形態的にも機能的にも最も激しい変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分が出来上がってくる。本教科目では、成長・発達してゆく過程を学び、子どもの健康の意味を理解し、子どもの健全育成とは何かを考えてみよう。さらに、子どもの疾病とその予防対策、事故と安全教育、ハンディーキャップを持った子どもの保育などの健康課題に関する知識を学ぶと共に、日常の保育の現場で実践できる能力、問題解決能力を身につけることが求められている。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの成長および発達について説明することができる。 2) 小児期の成長・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育の意義について説明することができる。 3) 子どもの生活リズムや基本的な生活習慣を説明し、実践することができる。 4) 小児期によくみられる疾病とその対処法を説明し、実践することができる。 5) 小児期の事故防止と安全教育について説明することができる。 6) 母子保健の現状と課題について説明することができる。 										
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>アサイメント(宿題) 1) 母乳哺育の意義について 2) 事故とその対応法について (A4版、横書き、レポート用紙1枚にまとめて下さい。)</p> <p>レポート課題: 1) <u>個人別レポート課題</u>；「母子健康手帳から得られるもの」 母子健康手帳の中から一つテーマを選んで論文を作成して下さい。子どもの保健を習得する上で個人個人の育成歴を理解することや親の育児のを知ることは大変大切なことです。 (A4版、横書き、レポート用紙、2枚にまとめて下さい。) 2) <u>グループ別レポート課題</u>；「発疹を伴う子どもの病気について」 グループごとに発疹性疾患の2疾患を受け持ち、A4版、横書き、レポート用紙、4枚(1疾患に2枚)にまとめて提出する。その後にグループで発表してもらいます。発疹性疾患の診断は大変難しいので、保育園、幼稚園に実習に行く前に知識を身につけておいてほしい。 レポート字数：1枚1200～1600字とする。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 巷野悟郎、岩田力、前澤眞理子編著『子どもの保健—理論と実際—』同文書院、2011。 【教材】 テーマごとに資料を随時配布 【参考書】 新 保育士養成講座編集委員会/編『新 保育士養成講座 2011 第7巻「子どもの保健」』社会福祉法人 全国社会福祉協議会。</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>授業中に配布するワークシート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート・宿題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業参加態度、発表</td> <td>10%</td> </tr> </table>			試験	50%	授業中に配布するワークシート	20%	レポート・宿題	20%	授業参加態度、発表	10%
試験	50%										
授業中に配布するワークシート	20%										
レポート・宿題	20%										
授業参加態度、発表	10%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもの発育・発達などの基礎的な項目をひろく取り上げる。将来受講者たちが親になった時にも役立つように健康課題に関する知識についても学習し習得しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) この教科内容は難解のところも多いので、常に緊張感と集中力を保って受講し、積極的な態度で授業に参加することを希望します。 2) 授業内容の理解のために、必ず予習と復習を行いましょう。 3) 宿題やレポートの提出期限は厳守しましょう。 4) 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず担当教官に書面をもって報告しましょう。 5) 授業中の私語、居眠りはしないように心がけ、携帯電話は OFF にしておくこと。周りの学生に迷惑をかけないようにしましょう。 										
13. オフィスアワー	別途通知する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	子どもの保健 ①保育における子どもの保健 第1章 p.1	事前学習	教科書全体を俯瞰して内容を確認する。								
		事後学習	子どもの定義に関してワークシートの作成と提出								
第2回	子どもの保健 ②子どもの健康と保健 第1章 p.4	事前学習	教科書 p.4 の内容のまとめ								
		事後学習	健康と保健に関してワークシートの作成と提出								
第3回	子どもの発育と発達 ①子どもの身体発育 第2章 pp.7～10	事前学習	教科書 pp.7～10 の内容のまとめ								
		事後学習	身体発達に関してワークシートの作成と提出								
第4回	子どもの発育と発達 ②精神運動機能の発達 第2章 pp.19～21	事前学習	教科書 pp.19～21 の内容のまとめ								
		事後学習	精神運動機能の発達に関してワークシートの作成と提出								
第5回	子どもの発育と発達 ③生理機能の発達(その1) 呼吸器、循環器、消化器 第2章 p.17	事前学習	教科書 p.17 の内容のまとめ								
		事後学習	呼吸器、循環器、消化器機能の発達に関するワークシートの作成と提出								
第6回	子どもの発育と発達 ④生理機能の発達(その2) 泌尿器、視覚、聴覚	事前学習	教科書 p.17 の内容のまとめ								
		事後学習	泌尿器、視覚、聴覚の発達に関するワークシ								

	第 2 章 p. 17		トの作成と提出
第 7 回	子どもの精神保健 ①概要 第 3 章 p. 27	事前学習	教科書 p. 27 の内容のまとめ
		事後学習	精神保健に関するワークシートの作成と提出
第 8 回	子どもの精神保健 ②治療と療育とは 第 3 章 p. 29	事前学習	教科書 p. 29 の内容のまとめ
		事後学習	治療と療育に関するワークシートの作成と提出
第 9 回	子どもの生活と保健 ①保育現場における衛生管理 第 4 章 pp. 43～49	事前学習	教科書 pp. 43～49 の内容のまとめ
		事後学習	保育現場の衛生管理に関するワークシートの作成と提出
第 10 回	子どもの生活と保健 ②保育現場における事故防止及び安全対策 第 4 章 pp. 50～59	事前学習	教科書 pp. 50～59 の内容のまとめ
		事後学習	事故防止と安全対策に関するワークシートの作成と提出
第 11 回	子どもの食 ①子どもの栄養生理 第 5 章 pp. 62～68	事前学習	教科書 pp. 62～68 の内容のまとめ
		事後学習	栄養生理に関するワークシートの作成と提出
第 12 回	子どもの食 ②母乳哺育の意義 第 5 章 pp. 69～74	事前学習	教科書 pp. 69～74 の内容のまとめ
		事後学習	母乳哺育に関するワークシートの作成と提出
第 13 回	保育現場での保健の実際 ①排泄、着衣、清潔 第 6 章 pp. 89～109	事前学習	教科書 pp. 89～109 の内容のまとめ
		事後学習	保育現場での排泄、着衣、清潔に関するワークシートの作成と提出
第 14 回	保育現場での保健の実際 ②抱っこ、おんぶ、ベビーカー (中間のまとめ) 第 6 章 pp. 109～117	事前学習	教科書 pp. 109～117 の内容のまとめ
		事後学習	保育現場での抱っこ、おんぶ、ベビーカーに関するワークシートの作成と提出
第 15 回	子どもの疾病と保育 ①子どもの健康状態の把握 第 7 章 pp. 121～124	事前学習	教科書 pp. 121～124 の内容のまとめ
		事後学習	子どもの健康状態の把握に関するワークシートの作成と提出
第 16 回	子どもの疾病と保育 ②おもな症状の見かたと対応 第 7 章 pp. 124～132	事前学習	教科書 pp. 124～132 の内容のまとめ
		事後学習	疾病の主な症状の見かたと対応に関してワークシートの作成と提出
第 17 回	子どもの疾病と保育 ③子どもの病気の予防と対応 第 7 章 pp. 133～134	事前学習	教科書 pp. 133～134 の内容のまとめ
		事後学習	病気の予防と対応に関するワークシートの作成と提出
第 18 回	子どもの疾病と保育 ④代表的な疾病 (アレルギー疾患) 第 7 章 pp. 134～136	事前学習	教科書 pp. 134～136 の内容のまとめ
		事後学習	アレルギー疾患に関するワークシートの作成と提出
第 19 回	子どもの疾病と保育 ⑤感染症 第 7 章 pp. 136～142	事前学習	教科書 pp. 136～142 の内容のまとめ
		事後学習	感染症に関するワークシートの作成と提出
第 20 回	子どもの疾病と保育 ④予防接種 第 7 章 pp. 142～146	事前学習	教科書 pp. 142～146 の内容のまとめ
		事後学習	予防接種に関するワークシート①の作成と提出
第 21 回	子どもの疾病と保育 ⑤障害のある子どもたちへの対応 第 7 章 pp. 146～149	事前学習	教科書 pp. 146～149 の内容のまとめ
		事後学習	障害のある子どもたちへの対応に関するワークシート②の作成と提出
第 22 回	救急処置 ①意識障害、呼吸停止、心停止、ショック、けいれん 第 8 章 pp. 151～157	事前学習	教科書 pp. 151～157 の内容のまとめ
		事後学習	救急処置①に関し、ワークシートの作成と提出
第 23 回	救急処置 ②頭部打撲、やけど、異物誤嚥、異物誤飲 第 8 章 pp. 158～160	事前学習	教科書 pp. 158～160 の内容のまとめ
		事後学習	救急処置②に関してワークシートの作成と提出
第 24 回	保育所と家庭の連携 (生活リズム、食事、睡眠) 第 9 章 pp. 161～175	事前学習	教科書 pp. 161～175 の内容のまとめ
		事後学習	保育所と家庭の連携に関するワークシートの作成と提出
第 25 回	母と子どもの保健 第 10 章 pp. 177～188	事前学習	教科書 pp. 177～188 の内容のまとめ
		事後学習	母子保健行政に関するワークシートの作成と提出
第 26 回	乳幼児健康診査をはじめとする母子保健対策 第 10 章 pp. 188～194	事前学習	教科書 pp. 188～194 の内容のまとめ
		事後学習	母子保健対策 (健康診査など) に関するワークシートの作成
第 27 回	子どもにみられる発疹性疾患①斑丘疹性発疹 (その 1) 課題発表	事前学習	他の発表者の課題についての予習と質問の準備
		事後学習	斑丘疹性発疹に関するワークシート①の作成と提出
第 28 回	子どもにみられる発疹性疾患②斑丘疹性発疹 (その 2) 課題発表	事前学習	他の発表者の課題についての予習と質問の準備
		事後学習	斑丘疹性発疹に関するワークシート②の作成と提出
第 29 回	子どもにみられる発疹性疾患③水疱性発疹 課題発表	事前学習	他の発表者の課題についての予習と質問の準備
		事後学習	水疱性疾患に関するワークシート③の作成と

平成 28 年度

			提出
第 30 回	子どもにみられる発疹性疾患④しょう紅熱様発疹、 じんま疹様発疹 課題発表	事前学習	他の発表者の課題についての予習と質問の準備
		事後学習	発疹性疾患に関するワークシート④の作成と提出
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	子どもの保健Ⅱ (1 単位)	3. 科目番号	SSOT2407
2. 授業担当教員	深田 一枝		SCOT2407
4. 授業形態	技術演習、講義、グループワーク、プレゼンテーション	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育者として子どもの健康と安全を守るために必要な基礎的知識や実践力を身に付けることをねらいとしている。「子どもの保健Ⅰ」で学んだ知識を基礎とし、子どもが健康的に生活するうえで必要な生活環境要因について理解し、総合的な援助技術の習得を目指す。</p> <p>技術演習では、子どもの発育の観察と評価、日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、一般的な症状に対する看護の方法、応急手当（一次救命処置を含む）など、保育現場で必要とされる技術をモデル人形を対象として実践する。</p> <p>グループワークでは、事故防止対策と安全教育、歯磨きや手洗いなどの健康教育について検討し、発表することで集団保育における事故防止や健康管理・健康教育の実践力を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。 2. 子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。 3. 子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。 4. 子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。 5. 子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。 6. 応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができるようになる。 7. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。 8. 子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. アサイメント (宿題) : 授業内容に応じた課題プリント 2. レポート課題 : テーマ「保育士等を目指す学生としての自己管理」 提出期限は第11回講義日までとする。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著 『子どもの保健・実習 一健やかな育ちをサポートするために一』 第2版 同文書院、2016。</p>		
11. 成績評価の方法	試験 50%、レポート 30%、授業への積極的参加態度 20%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、子どもの健康と安全をまもるために必要な基礎的知識・技術を習得し、保育者にふさわしい態度を身につけることを目的としている。</p> <p>受講生は、履修要項の「授業における心構えⅠ・Ⅱ」、「予習・レポートについて」を読み、以下のことを守り講義に臨む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生 (大学生) としてふさわしい態度を示す。 2. 技術演習にあたっては、以下のことを守ること <ol style="list-style-type: none"> ①技術演習にふさわしい身支度を整える。 ②準備・実施・後片付けまで互いに協力し合い、積極的に取り組む。 ③他学生の手技にも注目し、良い点を学ぶ。 ④保育の現場と同様に緊張感をもち、言動に注意する。 ⑤使用する物品は大切に扱う。 3. 成績評価の対象となるレポートの提出期限は厳守する。 教員は以下のことを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 授業開始時に授業の目的・目標を明確に示す。 3. 聴き取りやすい大きさの声で話し、専門用語はわかりやすく説明する。 4. 学生が積極的に授業に参加できるよう双方向対話型の学習環境をつくる。 5. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の使用等の受講生としてふさわしくない態度には厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	「子どもの保健Ⅱ」についてのオリエンテーション	事前学習	シラバスを熟読し講義に臨む。
		事後学習	受講生として望ましい学習態度や身支度についてまとめる。
第2回	小児保健の現状 (子どもの保育と保健・養護について学ぶ)	事前学習	pp. 8～18、p. 273 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第3回	子どもの成長発達 (1) (成長・発達の基本、形態的成長、脳・神経系の発達、言語の発達について学ぶ)	事前学習	pp. 21～23 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認、課題プリント
第4回	子どもの成長発達 (2) (グループワーク) (生理機能・精神機能の発達について学ぶ)	事前学習	グループでの発表の準備を行う。
		事後学習	発表のまとめを行う。
第5回	発育の観察と評価 (身体発育の評価・発達の評価について学ぶ)	事前学習	pp. 32～35 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第6回	発育の観察と評価の実際 (技術演習) (乳幼児の身体測定)	事前学習	課題プリント、pp. 35～37 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。

第 7 回	子どもの生活環境 (乳幼児に必要な居室環境について学ぶ)	事前学習	pp. 41～43 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 8 回	保育環境と衛生管理の実際 (グループワーク) (保育環境の調整と衛生管理のありかた)	事前学習	グループでの発表の準備を行う。
		事後学習	発表のまとめを行う。
第 9 回	健康的な日常生活習慣形成のための養護 (1) (子どもの栄養と食事、睡眠・休息の援助について学ぶ)	事前学習	pp. 43～44、pp. 59～60、p. 79 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 10 回	健康的な日常生活習慣形成のための養護の実際 (1) (技術演習) (抱き方、寝かせ方、ミルクの飲ませ方)	事前学習	課題プリント、pp. 58～60、pp. 79～80、pp. 84～85、を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。
第 11 回	健康的な日常生活習慣形成のための養護 (2) (子どもの排泄、清潔、衣生活の援助について学ぶ)	事前学習	pp. 86～87、pp. 93～94、pp. 98～100 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 12 回	健康的な日常生活習慣形成のための養護の実際 (2) (技術演習) (沐浴、乳児の衣服の着脱、おむつのあて方)	事前学習	課題プリント、pp. 87～92、pp. 94～97 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。
第 13 回	日々の健康状態の観察 (子どもの健康状態の観察について学ぶ)	事前学習	pp. 105～107、pp. 222～223 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 14 回	日々の健康状態の観察の実際 (技術演習) (乳幼児のバイタルサイン測定)	事前学習	課題プリント、pp. 107～109 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。
第 15 回	一般的な症状に対する看護と感染予防 (子どもに多い症状とその対応、感染予防について学ぶ)	事前学習	pp. 161～172 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 16 回	一般的な症状に対する看護と感染予防の実際 (技術演習) (糞法、手洗い、嘔吐物の処理・消毒液の作り方)	事前学習	課題プリント、pp. 162～163、p. 171 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。
第 17 回	子どもの事故の特徴と安全教育 (子どもの事故と事故防止・安全教育について学ぶ)	事前学習	pp. 189～193 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 18 回	事故防止策と安全教育の実際 (グループワーク) (保育現場における事故防止策と安全教育のあり方)	事前学習	グループでの発表の準備を行う。
		事後学習	発表のまとめを行う。
第 19 回	応急手当 (一次救命処置を含む) (子どもに必要な応急手当について学ぶ)	事前学習	pp. 208～211 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 20 回	応急手当 (技術演習) (三角巾の使い方、一次救命処置)	事前学習	課題プリント、pp. 211～215 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする
第 21 回	集団保育における健康管理 (集団保育における子どもの健康支援と環境衛生・安全管理について学ぶ)	事前学習	pp. 219～222 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 22 回	集団保育における健康教育 (グループワーク) (「健康教育」のための企画書作成を行う)	事前学習	pp. 241～246、p. 256 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認、「健康教育」の企画書を提出する。
第 23 回	集団保育における健康教育 (グループワーク) (「健康教育」のための教材作成を行う)	事前学習	グループでの教材作成の準備を行う。
		事後学習	教材作成の進行状況を確認する。
第 24 回	集団保育における健康教育 (「健康教育」のプレゼンテーションを行う)	事前学習	グループでの発表の準備を行う。
		事後学習	発表のまとめと評価を行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	コンピュータサイエンス I (2 単位)		3. 科目番号	EDIT1311
2. 授業担当教員	舘 秀典			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	素晴らしい機能を発揮しているコンピュータは、実は、基本的には単純な処理しか行っていない。しかし、その単純な処理を巧妙に組み合わせることによって、素晴らしい機能を発揮しているのである。 本講義では、コンピュータの基本的な働きを理解し効果的に活用していくために、また、将来、高等学校の教科「情報」の講義が担当できるように、教員採用試験に出題された問題や日常生活に現れる具体的な問題を例に取りながら、次の考え方・方法論を学ぶ。すなわち、コンピュータ内部におけるデータの表し方、論理演算とブール代数、論理回路、論理関数や論理回路の単純化の方法について学ぶ。			
8. 学習目標	以下について学習し、教科「情報」の授業を教えることが出来るようになることを学習目標とする。 1. コンピュータ内部におけるデータの表し方、特に、2進表現、8進表現、負の数や実数の表し方と、相互変換法について学ぶ。 2. コンピュータの中では、あらゆる処理が1と0の組み合わせ、すなわち、論理演算で行われている。同じ論理演算でも、様々な表し方があるので、より簡単な論理関数を求める方法について学ぶ。 3. 論理演算は、論理回路によって具体的に実現される。加算回路や誤り検出回路・誤り訂正回路のような論理回路の構成法について学ぶ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマ毎に、授業内容に基づく課題を出題する。課題の内容は、主に教科書や配付資料内の演習問題などから出題され、受講者には授業担当者の指示に従ってレポートを作成および提出することが求められる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】清水賢資著『デジタル情報回路 第2版』森北出版。 【参考書】講義の中で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	下記の観点に基づいて評価を行う。 1. 授業への参加態度 20% 2. レポートと小テスト 30% 3. 総合演習 50%			
12. 受講生へのメッセージ	コンピュータサイエンスに関する専門的な内容を学んでいくことになりますので、意欲的に取り組むように。また、欠席および遅刻した分の遅れを取り戻すには、遅れたコマ数以上の時間と労力が必要になります。よって、欠席や遅刻をしないように心掛けてください。			
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション	事前学習	シラバスと指定教科書の内容を確認し、今後の学習事項について把握する。	
		事後学習	オリエンテーションで学習した重要事項を学習ノート等に整理し、記憶の定着を促す。	
第2回	情報表現1 (2進数と10進数)	事前学習	「2進数と10進数」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「2進数と10進数」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。	
第3回	情報表現2 (8進数、16進数)	事前学習	「8進数、16進数」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「8進数、16進数」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。	
第4回	情報表現3 (実数の表現)	事前学習	「実数の表現」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「実数の表現」の練習問題及び応用問題に取り組み、理解を深め、記憶の定着を促す。	
第5回	情報表現4 (負数・補数)	事前学習	「負数・補数」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「負数・補数」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。	
第6回	情報表現5 (固定小数点数)	事前学習	「固定小数点数」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「固定小数点数」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。	
第7回	情報表現6 (浮動小数点数)	事前学習	「浮動小数点数」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「浮動小数点数」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。	
第8回	コンピュータの仕組み1 (論理回路の基礎①)	事前学習	「論理回路の基礎①」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「論理回路の基礎①」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内	

			容の理解を深め、記憶の定着を促す。
第 9 回	コンピュータの仕組み 2 (論理回路の基礎②)	事前学習	「論理回路の基礎②」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「論理回路の基礎②」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。
第 10 回	コンピュータの仕組み 3 (様々な論理回路①)	事前学習	「様々な論理回路①」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「様々な論理回路①」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。
第 11 回	コンピュータの仕組み 4 (様々な論理回路②)	事前学習	「様々な論理回路②」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「様々な論理回路②」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。
第 12 回	コンピュータの動作と命令 1	事前学習	「コンピュータの動作と命令 1」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「コンピュータの動作と命令 1」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。
第 13 回	コンピュータの動作と命令 2	事前学習	「コンピュータの動作と命令 2」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「コンピュータの動作と命令 2」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。
第 14 回	総合演習	事前学習	「総合演習」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「総合演習」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深め、記憶の定着を促す。
第 15 回	講義の総括	事前学習	「講義の総括」を前に、これまでの学習内容の中から理解できていない項目がないか教科書及びノート等を見直して確認する。
		事後学習	「講義の総括」で再学習があると判明した問題を解き直し、理解を深め、記憶の定着を促す。

1. 科目名 (単位数)	コンピュータネットワーク I (2 単位)		3. 科目番号	EDIT2321
2. 授業担当教員	館 秀典			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	インターネットをはじめとしたコンピュータネットワークの仕組みを理解することは、情報化社会をリードする人材にとって必要不可欠の事柄である。本科目では、演習を通してコンピュータネットワークの基礎を学び、現在の情報通信を担っている仕組みを理解する。具体的には OSI モデル、特に物理層とデータリンク層を学ぶ。			
8. 学習目標	次の概念を理解することを目標とする。 1. 情報ネットワークプロトコルの仕組み (特に物理層とデータリンク層) 2. データ通信を可能にした基本的なハードウェア装置の仕組み、およびデータ転送の仕組み 3. データ通信に関する国際規格 (OSI、IEEE802.x、ITU-T系プロトコルなど)			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教科書および配布資料を基に、各回の終了毎に演習問題等を課す。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】針生時夫・佐藤健『わかりやすい通信ネットワーク』日本理工出版会。 【参考書】A.S. タネンバウム著『コンピュータネットワーク第4版』日経BP社。			
11. 成績評価の方法	授業に対する積極性 30% 演習およびレポート 40% 小テスト等 30%			
12. 受講生へのメッセージ	専門用語が多く、数学的概念が多い科目である。自ら積極的に学ぶ姿勢を期待する。 また、演習問題は確実に解くように。事前・事後学習の有無が理解度を大きく左右するため、怠らない事。			
13. オフィスアワー	初回講義時に周知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	符号化と規格・アナログとデジタル	事前学習	教科書 第 1 章を読み理解する	
		事後学習	符号化と規格・アナログとデジタルについての演習課題を解く	
第 2 回	通信ネットワークの伝送方式	事前学習	教科書 第 2 章 2.1-2.2 を読み理解する	
		事後学習	伝送方式について演習課題を解く	
第 3 回	通信ネットワークの伝送手順	事前学習	教科書 第 2 章 2.3-2.5 を読み理解する	
		事後学習	ネットワーク伝送手順について演習課題を解く	
第 4 回	OSI の原則とその考え方	事前学習	教科書 第 3 章 3.1 を読み理解する	
		事後学習	OSI の考え方についての演習課題を解く	
第 5 回	OSI の階層構造	事前学習	教科書 第 3 章 3.2-1.2 を読み理解する	
		事後学習	OSI の階層構造についての演習課題を解く	
第 6 回	OSI の階層構造 物理層	事前学習	教科書 第 3 章 pp.64-65 を読み理解する	
		事後学習	OSI の物理層についての演習課題を解く	
第 7 回	OSI の階層構造 データリンク層	事前学習	OSI の階層構造 データリンク層についての事前配布資料を読み理解する	
		事後学習	OSI のデータリンク層について演習課題を解く	
第 8 回	OSI の階層構造 ネットワーク層	事前学習	OSI の階層構造 ネットワーク層についての事前配布資料を読み理解する	
		事後学習	OSI のネットワーク層について演習課題を解く	
第 9 回	OSI の階層構造 第 4～第 7 層	事前学習	教科書 第 3 章 pp.66-67 を読み理解する	
		事後学習	OSI の第 4～第 7 層についての演習課題を解く	
第 10 回	通信サービスの種類について	事前学習	教科書 第 4 章 4.1-4.5 を読み理解する	
		事後学習	通信サービスの種類についての演習課題を解く	
第 11 回	ローカルエリアネットワーク (LAN) の基礎知識・基礎技術	事前学習	教科書 第 4 章 5.1-5.5 を読み理解する	
		事後学習	ローカルエリアネットワーク (LAN) の基礎知識・基礎技術についての演習課題を解く	
第 12 回	インターネットと TCP/IP	事前学習	教科書 第 6.7 章 6.1-7.3 を読み理解する	
		事後学習	TCP/IP についての演習課題を解く	
第 13 回	情報ネットワークにおけるセキュリティ技術	事前学習	教科書 第 8 章 8.1-8.5 を読み理解する	
		事後学習	情報ネットワークにおけるセキュリティ技術についての演習課題を解く	
第 14 回	演習問題	事前学習	過去の演習問題の見直しを行う	
		事後学習	講義中に行った演習課題の見直しを行う	
第 15 回	総復習	事前学習	講義内容全般の見直しを行う	
		事後学習	全講義を通して理解不足だった箇所を自ら補う	

1. 科目名 (単位数)	算数 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2302
2. 授業担当教員	加藤 卓		
4. 授業形態	講義と演習, 実習 (ディスカッション・グループ学習, 製作活動)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この科目を履修することによって, 学ぶ立場での算数への苦手意識を払拭するだけでなく, 更に, 算数を教える立場での算数科特有の論理的思考力を習得することができる。 本科目では, 算数科の 4 領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容を一段深め, 再学習する。日常の様々な事象に問題を発見し, 整理して見通しを立てて解決する能力を高め, 算数的な感覚を豊かにし, 算数を生活に生かそうとする態度を育成する教員となるための素養を身につける。本講義での算数的活動や様々な体験を通し, より高い数学的見地に立った教材分析や指導・評価方法等の日頃の教育実践に生かせる教材研究力を習得することができる。		
8. 学習目標	1. 「算数的活動」を通して 4 領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容を再学習し, 数学教育の意義を感得し, 算数的な事象について進んで考えようとするようになる。 2. 算数の領域の関連に基づいて, より高度な数学的思考ができるようになる。 3. 算数・数学に関する問題解決の技能を復習し, 習得することができるようになる。 4. 数学教育史を基に数学教育の今日的課題を知り, 教育内容の学年・領域の関連はもとより, 算数・数学の教材研究・教材開発に耐えうる広範な知識やと数学に関する学力を習得することができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	問題解決における思考力の向上と算数的活動のあり方を習得するため, 以下の課題に取り組む。 課題 1: 下位目標行動の分析 課題 2: 車やハンドバックの製作		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』, 東洋館出版社, 2008 守屋誠司編著『教科力シリーズ 小学校 算数』, 玉川大学出版部, 2015 【参考書】必要に応じて授業中に紹介する。		
11. 成績評価の方法	下記の 4 つをもとに, 総合的に判断する。 1. 授業への積極的参加度, … 15 点 (欠席 4 回で単位取得資格を失う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とする。1 時間以上遅れた遅刻については原則として出席と認めない。山手線の遅延は, 初回の遅延証のみ認める。4 回目以降の遅延は遅刻扱いとする。) 2. 準備物・事前学習点検 … 15 点 3. 講義での課題 2 つ … 30 点 4. 期末試験 … 40 点		
12. 受講生へのメッセージ	算数・数学は積み上げの学習であるため, 他教科と違って一朝一夕には成績向上が望めない。本講義を通して自分の弱点を知り, 積極的に補習をして苦手意識を払拭できるよう努力すること。 1. 学生証を必ず持参し, 授業中は机上に提示しておくこと。(出席点検・加減点に使用するため。) 2. 正当な理由がある欠席・遅刻・早退は, 理由を書面にて提出すること。 3. 授業開始 3 分前から真剣に取り組み, 他受講者の学ぶ権利を侵害することがないよう, 私語・電話やメールや SNS での携帯の使用・居眠り・飲食等を禁止する。 4. 事前学習の点検に備え, 予習・復習の習慣をつけること。 5. 製作活動には, 直定規・分度器・コンパス・はさみ・のりを準備・持参すること。 6. 試験勉強・受験勉強で役立つよう, 学習したページには付箋を貼ること。 7. 期末試験に備え, 自分にとって分かりやすくまとめたノート筆記に努力すること。 8. 受講者の学力・理解度・作業速度等により, 内容を一部変更する場合がある。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義で提示する (シラバス記載時点で, 講義時間割が未定であるため)。 Office Hour でも不在の場合があるので, 予めアポイントメントを取ること。 E-mail address ta-kato アットマーク ed.tokyo-fukushi.ac.jp (←スパム防止なので@にしないで!) 研究室所在地 13 号館 5 階 957 研究室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 算数科の学習内容と特色について	事前学習	第 1 章 算数科の学習内容と特色 PP.9-20 を 2 回通読し, 分からない言葉を調べる
		事後学習	算数科の学習内容と特色 の要点をまとめる
第 2 回	数と計算 1 数の構造の問題 数の構造について	事前学習	第 2 章 数と計算 1 PP.21-32 を 2 回通読し, 分からない言葉を調べる
		事後学習	数の構造 の要点をまとめる
第 3 回	数と計算 2 演算の意味の問題 演算の意味について	事前学習	第 3 章 数と計算 2 PP.33-43 を 2 回通読し, 分からない言葉を調べる
		事後学習	演算の意味 の要点をまとめる
第 4 回	数と計算 3 代数の問題 代数の導入について	事前学習	第 4 章 数と計算 3 PP.44-56 を 2 回通読し, 分からない言葉を調べる
		事後学習	代数の導入 の要点をまとめる
第 5 回	量と測定 1 単純量の問題 基本的な量について	事前学習	第 5 章 量と測定 1 PP.57-71 を 2 回通読し, 分からない言葉を調べる
		事後学習	基本的な量 の要点をまとめる
第 6 回	量と測定 2 複合量の問題 複合的な量について	事前学習	第 6 章 量と測定 2 PP.72-80 を 2 回通読し, 分からない言葉を調べる
		事後学習	複合的な量 の要点をまとめる
第 7 回	図形と論理 1 ユークリッド幾何の問題 ユークリッド幾何について	事前学習	第 7 章 図形と論理 1 PP.81-92 を 2 回通読し, 分からない言葉を調べる
		事後学習	ユークリッド幾何 の要点をまとめる

第 8 回	図形と論理 2 多様な幾何の問題 いろいろな幾何について	事前学習	第 8 章 図形と論理 2 PP.93-104 を 2 回通読し、分からない言葉を調べる
		事後学習	いろいろな幾何 の要点をまとめる
第 9 回	図形と論理 3 論理の問題 論理について	事前学習	第 9 章 図形と論理 3 PP.105-118 を 2 回通読し、分からない言葉を調べる
		事後学習	論理 の要点をまとめる
第 10 回	数量関係 1 関数の問題 関数について	事前学習	第 10 章 数量関係 1 PP.119-140 を 2 回通読し、分からない言葉を調べる
		事後学習	関数 の要点をまとめる
第 11 回	数量関係 2 確率の問題 確率と基本統計、推測統計について	事前学習	第 11 章 数量関係 2 PP.141-169 を 2 回通読し、分からない言葉を調べる
		事後学習	確率と統計 の要点をまとめる
第 12 回	問題解決 全国学力・学習状況調査 算数 B 問題 問題解決と数学的モデリングについて	事前学習	第 12 章 問題解決と数学的モデリング PP.170-182 を 2 回通読し、分からない言葉を調べる
		事後学習	問題解決と数学的モデリング の要点をまとめる
第 13 回	他教科との連携 1 美術と数学 模様やトリック・アートについて	事前学習	第 13 章 他教科との連携 1 PP.183-195 を 2 回通読し、分からない言葉を調べる
		事後学習	美術と数学 の要点をまとめる
第 14 回	他教科との連携 2 理科と数学 日時計について	事前学習	第 14 章 他教科との連携 2 PP.196-208 を 2 回通読し、分からない言葉を調べる
		事後学習	理科と数学 の要点をまとめる
第 15 回	いろいろな問題 教員採用試験問題 中学入試問題とパズルについて	事前学習	第 15 章 いろいろな問題 PP.209-231 を 2 回通読し、分からない言葉を調べる
		事後学習	いろいろな問題 の要点をまとめる
<p>期末試験： 講義で学んだことを中心に、以下に関する筆記試験を行う。</p> <p>教育公務員の研修に必要な教材研究力の基礎を習得できているか。(2問 各 10点) 0</p> <p>各種採用試験を突破可能な数学の基礎的学力を習得できているか。(2問 各 10点) 計 40点</p>			

1. 科目名 (単位数)	算数 (初等・小) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2302
2. 授業担当教員	守屋 誠司			
4. 授業形態	講義と演習, 実習 (ディスカッション・グループ学習, 製作活動)	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この科目を履修することによって, 学ぶ立場での算数への苦手意識を払拭するだけでなく, 更に, 算数を教える立場での算数科特有の論理的思考力を習得することができる。 本科目では, 算数科の 4 領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容を一段深め, 再学習する。日常の様々な事象に問題を発見し, 整理して見通しを立てて解決する能力を高め, 算数的な感覚を豊かにし, 算数を生活に生かそうとする態度を育成する教員となるための素養を身につける。本講義での算数的活動や様々な体験を通し, より高い数学的見地に立った教材分析や指導・評価方法等の日頃の教育実践に生かせる教材研究力を習得することができる。			
8. 学習目標	1. 「算数的活動」を通して 4 領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容を再学習し, 数学教育の意義を感得し, 算数的な事象について進んで考えようとするようになる。 2. 算数の領域の関連に基づいて, より高度な数学的思考ができるようになる。 3. 算数・数学に関する問題解決の技能を復習し, 習得することができるようになる。 4. 数学教育史を基に数学教育の今日的課題を知り, 教育内容の学年・領域の関連はもとより, 算数・数学の教材研究・教材開発に耐える広範な知識やと数学に関する学力を習得することができるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 : 和算の計算問題のレポート (A4 2枚) 課題 2 : 死海の求積のレポート (A4 1枚) 課題 3 : 長方形模様と正方形模様を描く 課題 3 : 日時計の製作 課題 4 : ハンドバックと車の製作 課題 5 : トリックアートの製作			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】守屋誠司編著, 教科力シリーズ『小学校 算数』玉川大学出版部。 【参考書】授業中に紹介する。			
11. 成績評価の方法	授業で出される課題 40%, 最終試験 50%, 日常の授業態度 (質問、授業への積極的参加度) 10%で総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	① 実習を伴うため, 必要な材料や道具を忘れないようにすること。 ② 受講者の学力, 理解度, 作業スピード等によって内容を変更する場合がある。 ③ まとめでは, 各講義で扱った内容の中からいくつかを取り上げて, 詳しく記述することを求めるので, 各講義でしっかりとノートを取り, 確実に理解するようにしておくこと。			
13. オフィスアワー	月曜日 19:55-20:30			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション, 数学教育学入門, 数学教育史 (明治から終戦まで), 2 次方程式の解の公式, ピタゴラスの定理	事前学習	第 1 章を予習する。	
		事後学習	和算の問題を解く。	
第 2 回	数と計算, 数とは何か (自然数, 整数, 実数), 基礎計算の確認テスト	事前学習	第 2 章を予習する	
		事後学習	循環無限小数を分数表現する。	
第 3 回	量と測定, 不定形の求積 (区分求積の応用)	事前学習	第 12 章第 1 節を予習する。	
		事後学習	台形近似を使って, 湖の面積を求める。	
第 4 回	量と測定, 曲線の長さ (1) (曲率と作図)	事前学習	第 12 章第 2 節を予習する。	
		事後学習	円の性質の利用法をまとめておく。	
第 5 回	図形, 平面図形 (長方形模様), 群論の入門	事前学習	第 13 章第 1 節を予習する。	
		事後学習	180 度回転の長方形模様を作成する。	
第 6 回	図形, 平面図形 (正方形模様)	事前学習	前時の内容を十分に理解しておく。	
		事後学習	90 度回転の正方形模様を作成する。	
第 7 回	図形, 空間の幾何 (1) (論証入門)	事前学習	第 9 章を予習する。	
		事後学習	いくつかの証明問題を解いてみる。	
第 8 回	図形, 空間の幾何 (2) (赤道型日時計作り)	事前学習	第 14 章を予習する。	
		事後学習	赤道型日時計を制作する	
第 9 回	図形, 立体幾何 (1) (2 面角, 2 面角分度器, ハンドバック作り)	事前学習	第 12 章第 4 節を予習する。	
		事後学習	ハンドバックを制作してその 2 面角計測する。	
第 10 回	図形, 立体幾何 (2) (車作り)	事前学習	前時の内容を十分に理解しておく。	
		事後学習	十字形の展開図を元に, 車を制作する。	
第 11 回	図形, 射影幾何学 (1) (数学的遠近法)	事前学習	相似図形と相似比について予習する。	
		事後学習	幾何の証明を復習する。	
第 12 回	図形, 射影幾何学 (2) (トリックアートの制作)	事前学習	第 13 章第 2 節を予習する。	
		事後学習	オリジナルのトリックアートを作成する。	
第 13 回	記述統計の初歩 (1), 度数分布とヒストグラム, 平均値, 中央値, 最頻値	事前学習	第 11 章を予習する。	
		事後学習	データを本に各種統計値を計算できるようにする。	
第 14 回	記述統計の初歩 (2), 分散, 標準偏差, 散布図と相関係数	事前学習	前時の内容を十分に理解しておく。	
		事後学習	標準偏差, 散布図の復習をする。	
第 15 回	算数科のバックにある数学のまとめ	事前学習	授業内容を整理し, 疑問点をまとめる。	
		事後学習	これまでの学習内容を復習する。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	算数／算数 (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2282 SJMP2382
2. 授業担当教員	佐々木 隆宏			
4. 授業形態	講義・演習・実習等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	小学校算数科の目標「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」を踏まえて、指導する 4 つの領域、指導する学年の指導内容や指導方法についての講義・演習や今後求められる算数教育のあり方についての講義・演習。			
8. 学習目標	(1)算数科の目標や学習指導要領の内容を理解する。 (2)各学年の指導内容について理解し、説明することができる。 (3)算数科の授業づくりを理解し、自分なりの授業構想を考え説明することができる。 (4)指導計画作成の意義やその方法のポイントについて理解し、説明することができる。 (5)算数指導における課題を理解し、その改善のための方法について具体的な方法を踏まえて自らの考えを説明することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	算数科の特徴は系統立った学習内容になっているということである。学習にも指導にも生かすことができるよう算数的な思考の積み上がり方を見通し、分析できる思考力を習得するために、第 7 回の講義中にレポート課題を課す。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】文部科学省「学習指導要領解説算数編」東洋館出版社 講義において資料を配布するが上記教科書は必ず購入すること			
11. 成績評価の方法	下記の 3 項目により、総合的に判断する。 1. 授業への積極的参加度・受講態度 … 20% 2. レポート … 30% 3. 期末試験 … 50% * 私語が目立つ学生に対しては減点をする。 4. 出席に関して * 欠席 4 回で単位取得資格を失う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とする。 * 講義開始後 3 0 分以内に出席の手続きを行わなければ欠席扱いとする。 * 再履修学生で実習により欠席をした場合は、実習以外の欠席が 2 回で単位取得資格を失う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とする。 * 遅刻した場合の出席申請は当日中のみ有効とする。			
12. 受講生への メッセージ	「自分は幼稚園教諭志望だから算数は関係ない」という学生は、まだ算数のことがわかっていません。 「自分は算数で挫折したから…」という学生は、そう言うと子どもは喜んで算数を学んでくれますか？ 「算数なんて答えが出ればいいのだから簡単だよ」という学生は、教師から一番速い位置にいます。 * 必ず講義資料をまとめる本講義専用ファイルをもってくること。			
13. オフィスアワー	火曜日 (12:30～17:30)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	・算数・数学学習パラダイムをかえる	事前学習	これまでにどんな授業を受けてきたかを振り返る	
		事後学習	算数・数学についてのコンセプトマップを作成する	
第 2 回	・算数・数学科教育の歴史と目的の変遷	事前学習	第 1 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	算数・数学教育の年表をつくる	
第 3 回	・幼稚園環境領域の「数と図形」	事前学習	第 2 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	講義内で扱った内容の具体例を調べてまとめる	
第 4 回	・ A 領域「数と計算」① ～命数法/記数法/十進法と二進法～	事前学習	第 3 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	二進法を利用した「数あてゲーム」の理由の説明をまとめる	
第 5 回	・ A 領域「数と計算」② ～整数の加法・減法・乗法・除法～	事前学習	第 4 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	講義で扱った計算の式が得られる文章題を考える	
第 6 回	・ A 領域「数と計算」③ ～小数の加法・減法・乗法・除法～	事前学習	第 5 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	小数の計算のポイントを学年ごとにまとめる	
第 7 回	・ A 領域「数と計算」④ ～分数の加法・減法・乗法・除法～	事前学習	第 6 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	分数の計算のポイントを学年ごとにまとめる【課題指示】	
第 8 回	・ B 領域「量と測定」① ～量の概念と性質/長さ・面積～	事前学習	第 7 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	三角形・四角形の面積の指導の系統性がどのようにになっているか、また他領域とのかかわりはどのようにになっているか、これを学習指導要領解説の記述から具体的に述べる	
第 9 回	・ B 領域「量と測定」② ～面積・体積・時間～	事前学習	第 8 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	円の面積の 2 通りの求め方について、それぞれで用いられている考え方をまとめ、円周率の扱いの相違点についてまとめる	
第 10 回	・ B 領域「量と測定」③ ～単位量あたりの大きさ～	事前学習	第 9 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	
		事後学習	学習指導要領解説を参考にして長さ・重さのような測定と、込み具合や速さを測定する指導過程を対比し、それぞれの指導段階の違いと各段階での指導の留意点を考察せよ。	
第 11 回	・ C 領域「図形」①	事前学習	第 10 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく	

	～図形概念と操作～	事後学習	図形領域における帰納的な考え方を利用する指導と演繹的な考え方を利用する指導についての具体例を考える
第 1 2 回	・ C 領域「図形」② ～空間観念と図形的直観～	事前学習	第 1 1 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく
		事後学習	空間観念の素地を、どの学年のどの内容で扱うことができるかについて調べ、まとめる
第 1 3 回	・ D 領域「数量関係」① ～関数の考え方（比例・反比例から）～	事前学習	第 1 2 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく
		事後学習	数と計算、量と測定、図形領域における関数の考えの指導場面の例を考えて、そこでの関数の考えの働きとその意義をまとめる
第 1 4 回	・ D 領域「数量関係」② ～式・記号化の考え方～	事前学習	第 1 3 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく
		事後学習	算数でどのような記号や式がどの学年のどの単元で指導されるかを調べて一覧表にまとめよ
第 1 5 回	・ D 領域「数量関係」③ ～確率と統計の考え方～	事前学習	第 1 4 回に配布された講義資料を読み問題を解いておく
		事後学習	棒グラフ・円グラフ・帯グラフ・折れ線グラフの特徴と使われる具体例について調べ、まとめよ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ジェンダー論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1331 GELA1351
2. 授業担当教員	石井 砂母亜		
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	「女は家庭のなかで子育てをすることに向いている」とか「男は外で仕事をする事に向いている」といった「女らしさ」や「男らしさ」は、長い間、身体の仕組みや本能などの生物学的要因によって決定されるものだと考えられてきた。しかし、20 世紀の後半から、「女らしさ」「男らしさ」の区別は、社会的・文化的要因と深く関係していると考えられるようになった。「ジェンダー」とは、このような社会的・文化的に形成された性別を意味し、「女らしさ」「男らしさ」の社会的な側面に注目した概念である。本講義では、「ジェンダー」という言葉の意味を理解した上で、現代社会の様々な社会現象・社会問題に対して、「ジェンダー」の観点から関心をもち、分析・考察し、表現する力を身につけることを目指す。		
8. 学習目標	<p>本講義の目的を達成するために、以下の3つの到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「ジェンダー」の概念とその意義を理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 現代社会における家族、労働、家事、育児、介護等の諸問題に内在する「ジェンダー」に関心をもち、それぞれの課題について他の受講者の意見を尊重した上で議論することができる。 3) 本授業での学びの成果をもとに、「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析・考察し、自らの意見を適切な表現を用いて表現することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回の講義でリアクションペーパーを提出する。 15回目の講義時にレポートを提出する(レポートは講義内容を踏まえ、本を読み考察し、自らの見解を述べる。また、本や資料を参考にした場合には、参考文献として記載すること)。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 加藤秀一『ジェンダー入門』朝日新聞社、2006年。</p> <p>【参考書】 加藤秀一・石田仁・海老原暁子『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社、2005年。 若桑みどり『お姫様とジェンダー』ちくま新書、2003年。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート 70% 授業への積極的参加度 30%		
12. 受講生への メッセージ	「男らしくしなさい」、「女の幸せは家庭にある」といった言葉に触れて、どこか腑に落ちない思いをした人はいないでしょうか。そのような人は、是非この講義をとってみてください。こうした言及がなされる社会的・文化的背景を学びます。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：ジェンダー論とは何か	事前学習	指定テキストの「本書を手にとってくださいみなさんへ」を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第2回	ディズニー長編アニメ「白雪姫」を観る(1)	事前学習	指定テキストの第1章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第3回	ディズニー長編アニメ「白雪姫」を観る(2)	事前学習	ディズニー長編アニメ「白雪姫」に関して、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第4回	「ジェンダー」という観点から日常を問う	事前学習	第3回で配布したプリントを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第5回	「白雪姫と鏡の女王」を観る(1)	事前学習	前回のディスカッションの内容を振り返る。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第6回	「白雪姫と鏡の女王」を観る(2)	事前学習	「白雪姫と鏡の女王」に関して、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第7回	二つの白雪姫とジェンダー論	事前学習	二つの白雪姫の物語を比較して、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第8回	ジェンダーは何を訴えてきたか	事前学習	指定テキストの第2章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第9回	ボーヴォワール『第二の性』を読む	事前学習	ボーヴォワールに関して、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第10回	「ブリジット・ジョーンズの日記」を観る(1)	事前学習	第9回で配布したプリントを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。

			べ、理解を深める。
第 1 1 回	「ブリジット・ジョーンズの日記」を観る (2)	事前学習	「ブリジット・ジョーンズの日記」に関して、自分の考えをまとめておく
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 1 2 回	性差と性役割	事前学習	指定テキストの第 4-5 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 1 3 回	ジェンダーとセクシュアリティ	事前学習	指定テキストの第 6 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 1 4 回	「トランス・アメリカ」を観る	事前学習	第 1 2 回で配布したプリントを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 1 5 回	〈私〉の生 (ライフ) と性 (ジェンダー)	事前学習	第 1 回～第 1 4 回までの講義の内容を踏まえ、「トランス・アメリカ」とジェンダー論をめぐる自分の考えをまとめておく
		事後学習	1 5 回に及ぶ講義の内容を整理し、疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	システム設計 (2 単位)	3. 科目番号	EDIT3315
2. 授業担当教員	竹内 俊彦	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	演習		
6. 履修条件・他科目との関係	何らかのプログラム言語を習得していることが望ましい。		
7. 講義概要	システムを構築あるいは分析するためには、対象とするシステムの分析と業務分析が必要になる。これらの分析を基に、システムを UML などにて記述することで明確な設計を行える。具体的には、この一連の手続きについて演習を通して学ぶ。また、例題研究によって、各種のシステムがどのようにになっているかの分析や設計記述を行う。		
8. 学習目標	目標は、①情報システムの構築を行うための分析・設計技術の基本知識を習得し、②簡単な情報システムを、主として構造化設計技法に基づき、自ら設計できるスキルを獲得することである。本科目では、顧客によるシステム化要求に基づき、情報システムを構築することを想定する。構築にあたってはウォータフォールモデルをベースにしたシステム開発技法をもとに、DFD(データフロー図)やER (Entity Relationship) など、関連する技法も学ぶ。これにより広く普及している構造化設計技法を習得する。オブジェクト指向技法(具体的にUMLを通して)を本格的に学習する。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	課題 自分で作成したいシステムのDFD図、ER図、仕様書、設計書、クラス図を作成する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】河合昭男「ゼロからわかる UML 超入門 -はじめてのモデリング-」技術評論社、2010 年。		
11. 成績評価の方法	[1] 課題 70% [2] 発表会 30%		
12. 受講生へのメッセージ	システム設計を学ぶなら、プログラミング言語でのシステム開発経験があることが望ましいです。ですが、そういう経験のある学生は少数だと思います。Astah* community を使って UML 図の作成方法や、オブジェクト指向技法の諸概念を学んでいきましょう。		
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示するが、時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照すること。なおオフィスアワー以外でも時間が合えば面するが、事前にメール連絡が望ましい。totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・モデルとは何か 本講義の概要説明、UML とは何か、モデルと模型、UML のダイアグラム、3 つのモデルと UML のダイアグラムの関係	事前学習	システム設計、オブジェクト指向とは何かについて、ネットで調べる。教科書の 1 章、2 章を読む。
		事後学習	自宅にパソコンがあれば Java, Astah* community をインストールする。
第 2 回	オブジェクトの理解 オブジェクトとは認識の対象、オブジェクトの状態、オブジェクトの責務	事前学習	教科書の 3 章を読む。
		事後学習	オブジェクトの責務、カプセル化という言葉の説明できるようにする
第 3 回	同じ種類のオブジェクトをクラスにまとめる クラス、クラスとインスタンス、クラスはオブジェクトの抽象概念	事前学習	教科書の 4 章を読む。
		事後学習	クラスとインスタンスの違いを説明できるようになる。
第 4 回	クラス図の理解 オブジェクト図、クラス図、多重度、クラス図を描く	事前学習	教科書の 5 章を読む。
		事後学習	クラス図とオブジェクト図を描く。
第 5 回	ダイアグラムの理解 CRC カードでダイアグラムを理解、相互作用図、コミュニケーション図とシーケンス図、イベントで変化する状態を表現	事前学習	教科書の 6 章を読む。
		事後学習	相互作用図、コミュニケーション図、シーケンス図の違いを説明できるようにする。
第 6 回	クラスを分類して整理 クラス階層、分類の方法、継承	事前学習	教科書の 7 章を読む。
		事後学習	汎化関係の例を、具体例を挙げて説明できるようにする。
第 7 回	多態性 継承を考える、抽象クラスと抽象操作、多態性、インターフェース、種類=クラス	事前学習	教科書の 8 章を読む。
		事後学習	多態性について、器用個所の照明器具以外の例を挙げて説明できるようにする。
第 8 回	オブジェクトを理解して内部構造を理解しよう オブジェクトを分解する、UML の関連を整理する、汎化と集約で整理する	事前学習	教科書の 9 章を読む。
		事後学習	is-a 関係と、has-a 関係の違いを、それぞれ例を挙げて説明できるようにする。
第 9 回	その他のダイアグラムも知っておこう ユースケース図、アクティビティ図、UML の共通メカニズム、UML の仕様書	事前学習	教科書の 10 章を読む。
		事後学習	ユースケース図、アクティビティ図がどれか、いくつかの図の中から示せるようにする。
第 10 回	DFD 図 DFD 図・ER 図の書き方を学ぶ	事前学習	DFD 図について、ネットで調べる。
		事後学習	簡単な作業(たとえば紅茶を入れる)を、DFD 図で描けるようにする。
第 11 回	ER 図 ER モデルの理解と ER 図	事前学習	ER モデルについて調べ、ER 図の具体例を見ておく
		事後学習	簡単な状況において、データベース的な観点から ER 図を作成する。
第 12 回	課題説明・アイデア出しと構想発表	事前学習	設計したいシステムのアイデアを考えておく。

平成 28 年度

	課題に向け、設計したいシステムのアイディアを出し、発表する。	事後学習	コメントに基づき、システムを再考する。
第 1 3 回	システムの設計実習(1) 個別のアドバイス	事前学習	Astah* community の使い方を復習する。
		事後学習	自宅・大学で課題を進める。
第 1 4 回	システムの設計実習(2) 個別のアドバイス	事前学習	Astah* community の使い方を復習する
		事後学習	自宅・大学で課題を進める。
第 1 5 回	発表会 課題に基づいた発表会・講評・まとめ	事前学習	システムの設計に必要な諸図を完成させる。
		事後学習	本授業で学んだ技術を復習する。

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由教育Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3453 SCMP3453 SBMP3453						
2. 授業担当教員	須藤 典征		5. 開講学期	春期						
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション									
6. 履修条件・ 他科目との関係										
7. 講義概要	本科目では、肢体不自由教育Ⅰで学習した知識を基礎に、医療・福祉など近接分野の最新の動向に触れながら、より実践的な内容を学習する。具体的には学習指導案の作成・模擬授業を通して、実態評価の基礎、教材・教具の意義理解など、肢体不自由特別支援学校で必要な実践力を、グループ討議や双方向対話形式で培っていく。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由の主な起因疾患について確実に理解し説明できる。 2 身体障害者福祉施策の概要が説明できる。 3 実態把握・アセスメントの基礎知識が身に付く。 4 グループを編成し、学習指導案の作成と模擬授業を通して、主体的に自己の役割を見出し取り組む態度が身に付く。 5 他のグループが行った模擬授業に対し、適切な視点で評価し、討議できる。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	脳性まひ、進行性筋ジストロフィー症のどちらか一つを選択してレポートを提出する (1200字程度)。									
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』ミネルヴァ書房、2015。 【参考書】竹田一則著『やさしい医学・生理学』ジアース教育新社、2010。									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加態度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30%</td> </tr> </table>				授業への積極的参加態度	40%	レポート	30%	期末試験	30%
授業への積極的参加態度	40%									
レポート	30%									
期末試験	30%									
12. 受講生への メッセージ	<p>肢体不自由児はその障害の種類・程度・実態も様々です。肢体不自由教育Ⅱでは、自ら問題意識を持ち、積極的に仲間と協議しながら、肢体不自由児教育の基本姿勢を学び、具体的な学習指導案が立てられるようにしていきます。チームでの協同作業となりますので、チーム内での役割を明確に意識してください。</p> <p>*授業には、自らの問題意識を持ち、仲間と協議する気持ちで臨みましょう。様々な人の意見を聴きながら、自分の考えをまとめていけるようにしていきます。</p> <p>授業中の私語、携帯電話の作動は禁止します。節度のある態度で授業に臨みましょう。</p>									
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	肢体不自由とは	事前学習	肢体不自由とはどういう状態のことか調べておく。							
		事後学習	肢体不自由の状態を理解する。							
第 2 回	肢体不自由の起因疾患・種類	事前学習	どのような病気が起因疾患か調べておく。							
		事後学習	どのような病気が起因疾患かまとめる。							
第 3 回	肢体不自由児の発達特性	事前学習	定型発達の運動発達について調べておく。							
		事後学習	肢体不自由児の発達特性についてまとめる。							
第 4 回	肢体不自由児の教育	事前学習	肢体不自由児の教育課程について調べておく。							
		事後学習	自立活動の項目について確認する。							
第 5 回	脳性まひ児の運動発達と教育的支援について①	事前学習	脳性まひのタイプについて調べておく。							
		事後学習	脳性まひのタイプについて確実にまとめる。							
第 6 回	脳性まひ児の運動発達と教育的支援について② 肢体不自由児の二次障害について	事前学習	肢体不自由児の二次障害について調べておく。							
		事後学習	二次障害についてまとめる。							
第 7 回	進行性筋ジストロフィーの病理・生理・心理	事前学習	筋ジストロフィー症のタイプについて調べる							
		事後学習	筋ジストロフィー症の支援について考える。							
第 8 回	学習指導案作成の準備など (チーム編成)	事前学習	予め障害の種類を決めておく。							
		事後学習	チームの役割分担の確認をする。							
第 9 回	学習指導案の作成①- 1	事前学習	本時の達成目標を明確にする。							
		事後学習	本時の達成度合いと課題を明確にする。							
第 10 回	学習指導案の作成①- 2	事前学習	本時の達成目標を明確にする。							
		事後学習	本時の達成度合いと課題を明確にする。							
第 11 回	第一回学習指導案の発表	事前学習	発表時の役割を明確にする。							
		事後学習	他チームからの質問について後日回答する							
第 12 回	学習指導案の作成②- 1	事前学習	本時の達成目標を明確にする。							
		事後学習	本時の達成度合いと課題を明確にする。							
第 13 回	学習指導案の作成②- 2	事前学習	本時の達成目標を明確にする。							
		事後学習	本時の達成度合いと課題を明確にする。							
第 14 回	学習指導案の作成②- 3	事前学習	本時の達成目標を明確にする。							
		事後学習	本時の達成度合いと課題を明確にする。							
第 15 回	第二回学習指導案の発表	事前学習	発表時の役割を明確にする。							
		事後学習	他チームからの質問について後日回答する							
期末試験										

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由教育総論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2454 SCMP2454 SBMP2454
2. 授業担当教員	須藤 典征			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	肢体不自由教育の基礎科目であることから、履修することが望ましい。			
7. 講義概要	<p>近年、肢体不自由特別支援学校では重複障害や合併症を伴う児童・生徒が増える一方、知的障害を主たる対象とする特別支援学校や視覚障害や聴覚障害を専門とする特別支援学校、病弱特別支援学校においても、肢体不自由を合併する児童生徒が増えている。また、医療的ケアを必要とする重症心身障害児が学校に通ってくるケースも増加するなど、肢体不自由教育の教育課程編成はより一層複雑かつ創意工夫が必要になっている。さらに、インクルーシブ教育の理念の広がりにより、地域の小中学校に肢体不自由のある子どもが入学するケースも増加するなど、その必要性は、様々な場所に広がっている。</p> <p>このような現状をふまえながら、家庭・地域ならびに医療や福祉の関係機関と連携した教育的支援のあり方について、実際の講義を進めていきたい。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肢体不自由児教育についての概要を理解し、説明できるようになる。 2. 肢体不自由教育の現状と課題について理解し、説明できるようになる。 3. 肢体不自由教育の場、教育課程についての知識を身に付ける。 4. 日常生活における家族や医療機関等との連携の実際がわかる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	特別支援学校で行われる「医療的ケア」についてのレポート (1000~1200字)			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】川間健之介・西川公司『肢体不自由児の教育』一般財団法人 放送大学教育振興会、2014。			
11. 成績評価の方法	・講義中の態度 50% 試験 30%、レポート 20%			
12. 受講生への メッセージ	<p>肢体不自由教育においては特に身体のケアが重視されています。身体のケアを進める「自立活動」のあり方を知ることはこの世界においては必要不可欠であり、数多くの「訓練法」に関する知識や考え方の良し悪しを学ぶことも重要です。また最近では医療的ケア (学校内で行われる簡単な医療的行為) も法的な位置づけが明確になり、数多くの都道府県で実施が進められています。この点においてもこれからの特別支援学校教員には知識や技能が必要とされてくるでしょう。特別支援学校教員を目指すみなさんにわかりやすく幅広い内容で講義を進めていきます。</p>			
13. オフィスアワー	講義開始時間の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション&肢体不自由教育について —肢体不自由教育の現状—	事前学習	教科書「第 1 章 肢体不自由教育の基礎的理解を読み「肢体不自由」の概念等について理解する。	
		事後学習	肢体不自由児教育に関して再確認する。	
第 2 回	肢体不自由児が学ぶ場について —特別支援学校を中心に—	事前学習	肢体不自由特別支援学校について理解できるようにする	
		事後学習	肢体不自由児の教育支援システムを再確認する。	
第 3 回	肢体不自由児の療育・福祉・相談事業 —療育の場・相談の場・福祉制度など—	事前学習	肢体不自由児の学校外の支援の場を理解し、覚える。	
		事後学習	学校外の支援の場に関し再確認し、その種類等を確実に覚える。	
第 4 回	肢体不自由児の生理・病理 1 —運動発達の仕組み—	事前学習	教科書「3 肢体不自由児の生理・病理 1」を読み、医学的な観点から理解できるようになる。	
		事後学習	筋肉・骨の働きとしくみについて理解できる。	
第 5 回	肢体不自由児の生理・病理 2 —脳性まひ・二分脊椎を中心に—	事前学習	教科書「4 肢体不自由児の生理・病理 2」を読み、脳性まひと二分脊椎について理解できるようになる。	
		事後学習	脳性まひと二分脊椎について確実に説明・理解できる。	
第 6 回	肢体不自由児の心理 1 —発達を中心に—	事前学習	教科書「5 肢体不自由児の心理 1」を読み、認知・思考の発達について理解できるようになる。	
		事後学習	肢体不自由児の認知・思考の発達について理解を定着できる。	
第 7 回	肢体不自由児の心理 2 —障害特性を中心に—	事前学習	教科書「6 肢体不自由児の心理 2」を読み、視知覚や行動特性について、理解できるようになる。	
		事後学習	知覚や行動特性について、確実に理解できる。	
第 8 回	肢体不自由教育の教育課程 —教育課程編成の基本—	事前学習	教科書「7 肢体不自由教育の教育課程」を読み、教育課程の概念を把握できるようになる。	
		事後学習	肢体不自由教育の教育課程について、確実に理解できる。	
第 9 回	肢体不自由教育の実際 1 —自立活動の指導 I—	事前学習	教科書「8 肢体不自由教育の実際 1」を読み、自立活動の概要について把握できるようにしておく。	
		事後学習	自立活動の概要について、確実に理解できるようになる。	
第 10 回	肢体不自由教育の実際 2 —自立活動の指導 II—	事前学習	教科書「9 肢体不自由教育の実際 2」を読み、自立活動の指導における「身体の動き」について把握できるようになる。	

		事後学習	ポジショニングについて理解できる。
第 1 1 回	肢体不自由教育の実際 3 —重複障害児の理解—	事前学習	教科書「12 肢体不自由教育の実際 5」を読み、重複障害児について理解できるようになる。
		事後学習	医療的ケアについて確実に理解できる。
第 1 2 回	肢体不自由教育の実際 4 —重度・重複障害児の指導—	事前学習	教科書「13 肢体不自由教育の実際 6」を読み、重度・重複障害児の指導の概要について把握できる。
		事後学習	個別の指導計画の作成と指導の評価について理解できる。
第 1 3 回	肢体不自由教育の実際 5 —キャリア教育と進路指導—	事前学習	教科書「14 肢体不自由教育の実際 7」を読み、肢体不自由児の進路指導とは、どのようなものか考えておく。
		事後学習	「個別の教育支援計画」について理解できる。
第 1 4 回	肢体不自由教育の新たな取り組み —肢体不自由特別支援学校のホームページから 看取する—	事前学習	肢体不自由特別支援学校のホームページをダウンロードして、各校の取り組みを調べておく。現状の課題について自分の意見を言えるようにする。
		事後学習	肢体不自由教育の課題と改善策について授業を振り返りながら確認することができる。
第 1 5 回	肢体不自由児教育の今後の課題 —現状の課題から未来を考える—	事前学習	教科書「15 新たな取組と今後の課題」を読み、肢体不自由教育の課題を考えておく。
		事後学習	肢体不自由教育の課題について、まとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由者の心理・生理・病理 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2451 SCMP2451 SBMP2451						
2. 授業担当教員	須藤 典征									
4. 授業形態	講義、演習 (グループディスカッション)		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係										
7. 講義概要	<p>肢体不自由の原因は、脳中枢の損傷に起因するものと他の末梢性の運動器障害群とに分けられるが、脳性まひに代表される脳性疾患と、進行性筋ジストロフィー症に代表される神経・筋疾患や骨・関節疾患、形態異常や外傷性後遺症に関する心理・病理・生理を学ぶ。医療面での規制が長期化することもあり、日常生活でも、家族や医療機関との連携を図り、まず、身体上・健康上の環境要因を整える知識・技術について学ぶ。また、一人ひとりに合わせて支援器具をうまく活用し、住宅環境や教育環境の改善をはかる点についても理解する。</p> <p>このことにより、肢体に障害のある人の「生活の質の向上」や効果的な支援に結びつける。</p>									
8. 学習目標	<p>①肢体不自由の生じる原因について理解し、説明することができる。</p> <p>②肢体不自由児者の病理について学び、説明することができる。</p> <p>③肢体不自由児者の心理について学び、説明することができる。</p> <p>④肢体不自由児者の生理について学び、説明することができる。</p> <p>⑤肢体不自由児者への支援を行ううえでのニーズについて学び、説明することができる。</p>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	肢体不自由の起因疾患・病理についてのレポート (1200字)。									
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 竹田一則著『肢体不自由児・病弱児教育のためのやさしい医学・生理学』ジアース教育新社、2010。</p> <p>【参考書】 石部元雄著『肢体不自由児の教育 第2版』ミネルヴァ書房。 * その他、配布資料、VTR などを用いて授業を進めていく。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加態度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30%</td> </tr> </table>				授業への積極的参加態度	40%	レポート	30%	期末試験	30%
授業への積極的参加態度	40%									
レポート	30%									
期末試験	30%									
12. 受講生への メッセージ	<p>特別支援学校では、障害の重度重複化・多様化が進み、医療的ケアの必要な児童生徒も微増しています。障害のある子の教育に携わる場合、各障害の生理・病理・心理的特徴を理解することは不可欠です。知識の習得に留まらず、障害のある子やその家族の気持ちを理解できるように心がけてください。</p> <p>* 授業には、自らの問題意識を持ち、仲間と協議する気持ちで臨みましょう。様々な人の意見を聴きながら、自分の考えをまとめていけるようにしていきます。</p> <p>授業中の私語、携帯電話の作動は禁止します。節度のある態度で授業に臨みましょう。</p>									
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	本講義を進行する上での遵守事項の確認	事前学習	受講に際し「シラバスの 12」を理解しておく。							
		事後学習	「シラバスの 12」について合意したことを確認・意識付けをする。							
第 2 回	肢体不自由とは	事前学習	肢体不自由のイメージをし、まとめる。							
		事後学習	肢体不自由がもたらす生活の困難について考えをまとめる。							
第 3 回	肢体不自由の起因疾患・種類	事前学習	肢体不自由の起因疾患について調べておく。							
		事後学習	肢体不自由の起因疾患についてまとめる。							
第 4 回	肢体不自由児の発達特性	事前学習	肢体不自由児の発達特性について調べておく。							
		事後学習	肢体不自由児の発達特性についてまとめる。							
第 5 回	脳性まひ① 痙直型	事前学習	脳性まひの「痙直型」について予習しておく。							
		事後学習	脳性まひの「痙直型」についてまとめる。							
第 6 回	脳性まひ② アテトーゼ型	事前学習	脳性まひの「アテトーゼ型」について予習する。							
		事後学習	脳性まひの「アテトーゼ型」についてまとめる。							
第 7 回	脳性まひ③ 失調型	事前学習	脳性まひの「失調型」について予習しておく。							
		事後学習	脳性まひの「失調型」についてまとめる。							
第 8 回	二分脊椎・手足の奇形の病理・生理・心理	事前学習	二分脊椎について予習しておく。							
		事後学習	二分脊椎について理解を確実にする。							
第 9 回	進行性筋ジストロフィーの病理・生理・心理	事前学習	進行性筋ジストロフィー症の病型を調べる。							
		事後学習	進行性筋ジストロフィー症の心理について考察する。							
第 10 回	肢体不自由児の教育的特質	事前学習	肢体不自由児の認知特性について調べておく。							
		事後学習	肢体不自由児の認知特性についてまとめる。							
第 11 回	重度・重複障害について	事前学習	重度・重複障害についてどういう状態がイメージをまとめる。							
		事後学習	重度・重複障害についてまとめる。							
第 12 回	重度・重複障害児の発達特性	事前学習	重度・重複障害児の認知特性について考えをまとめる。							
		事後学習	重度・重複障害児の発達特性についてまとめ							

			る。
第 13 回	医療的ケアと看護ニーズ	事前学習	特別支援教育の現場にも医療的ケアが多いことをイメージし、まとめる。
		事後学習	教員が行える医療的ケアを確実にまとめる。
第 14 回	重度・重複障害児の教育的特質	事前学習	自立活動について予習しておく。
		事後学習	自立活動について確実に理解し、まとめる。
第 15 回	肢体不自由者の心理・生理・病理のまとめ	事前学習	関心のある起因疾患について決めておく。
		事後学習	決めた起因疾患についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	視聴覚障害者の心理・生理・病理 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3447 SCMP3447 SBMP3447
2. 授業担当教員	木村 仁美・須藤 典征	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	視覚障害は「盲」と「弱視」に、聴覚障害は聴力の損失によって「軽度、中等度、高度、重度」に大別されるが、その心理・病理・生理について理解する。視覚障害の発達に関しては、体格・平衡感覚・運動能力の遅れや、知的・認知発達が困難になる反面、聴覚や触覚の能力が高くなること、言語発達の遅れについても理解する。聴覚障害は、特に言語能力が、聴力の程度、知能、聴覚活用の程度、失聴の時期、家庭環境や早期療育によって大きく差が出てくることを学ぶ。また、関連分野として言語障害に関する心理・生理・病理についても学ぶ。以上のことから、視覚障害・聴覚障害、そして、言語障害について学ぶことが、ひとの言語獲得の過程を明らかにし、そのことが教育の原点に関わることを理解する。		
8. 学習目標	以下に関して理解を深め学習し、説明することができる。 1. 視覚障害の生理・病理・心理について 2. 聴覚障害の生理・病理・心理について 3. 視覚障害がある子どもの発達特性について 4. 聴覚障害がある子どもの発達特性について 5. 視覚障害及び聴覚障害がある子どもの適切な教育について		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	聴覚障害分野：聴覚障害の検査法について (1000～1200字)。 視覚障害分野：授業前に指定された教科書範囲には目を通しておくこと。 毎回、授業時間内に学習範囲に関連したテーマについて簡単なレポートを課す。自分なりの仮説や理解したことを文章化することにより、授業前後の知識や考え方の変化を客観視するためである。欠席した場合も積極的に提出して欲しい。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>聴覚障害分野：草薙進郎・四日市章『聴覚障害児の教育と指導』筑波大学心身障害学系 (コピー配布)。 草薙進郎・四日市章編著『聴覚障害児の教育と方法』コレール社。 適宜資料を配布する。</p> <p>視覚障害分野：国立特別支援教育研究所のサイト内「障害のある子どもの教育の広場」より関連部分のプリントを授業内で配布する。 事前学習においては下記のサイトの該当箇所目を通しておくこと。 http://www.nise.go.jp/cms/13.html</p> <p>【参考書】</p> <p>青柳まゆみ・鳥山由子編著『視覚障害教育入門—改定版—』ジアース教育新社、2015。 香川邦生編著『視覚障害教育に携わる方のために』慶応義塾大学出版会、2010。 香川邦生他編『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』日本弱視教育研究会、2009。 日本弱視教育研究会 機関紙『弱視教育』 筑波大学附属視覚特別支援学校編集委員会『視覚障害教育ブックレット各号』ジアース教育新社。</p> <p>【参考資料】</p> <p>授業の進行に合わせて参考資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	聴覚障害分野：講義中の積極的態度 50% 試験 50% 視覚障害分野：試験 40%、レポート提出状況、演習への取り組み等 30% レポート内容 20%、自発的な取り組み 10%		
12. 受講生へのメッセージ	聴覚障害分野：積極的な受講態度を期待します。受講態度が芳しくない場合は成績評価に反映させます。 視覚障害分野：限られた講義時間だけでは知識偏重で、理解不足が否めません。近隣の特別支援学校の学校公開日なども紹介していきますから、積極的に現場を知る機会を持つようにして欲しいと思います。		
13. オフィスアワー	講義前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	視覚障害分野 1 オリエンテーション 見えないことへの理解 コミュニケーション上の配慮	事前学習	「視覚障害の幼児児童生徒への対応」を通読し視覚障害の幼児児童生徒への特別支援教育の概要を把握しておく
		事後学習	体験を通じて学んだ「見えない」と困ること、不自由なこと、配慮して欲しいこと、できる・できないことを整理する
第 2 回	視覚障害分野 2 視覚系の構造と視覚伝導路 障害原因となる主な疾患 全盲体験	事前学習	「1. 視覚障害教育 [1] 視覚障害児の発達と実態把握 (1) 視覚障害とは」を通読する
		事後学習	眼の構造の概要を把握し、疾患と影響を受ける部位が対応するように知識を整理する
第 3 回	視覚障害分野 3 視機能の評価 見えにくさの理解 ロービジョン体験	事前学習	「1. 視覚障害教育 [1] 視覚障害児の発達と実態把握 (1) 視覚障害とは」を再読する
		事後学習	子どもの動作から、視覚的な問題が類推できるよう「見えにくさ」の問題点をまとめておく
第 4 回	視覚障害分野 4 概念形成 代替手段の獲得	事前学習	「1. 視覚障害教育 [1] 視覚障害児の発達と実態把握 (2) 視覚障害の実態把握」を通読する
		事後学習	私たちが模倣などから自然に体得している

			ことを書き出してみる
第 5 回	視覚障害分野 5 補助具の活用 重複障害	事前学習	「1. 視覚障害教育 [6] 情報機器等の活用を 通読する
		事後学習	見補助具類の一覧表を作成しておく。
第 6 回	視覚障害分野 6 施設見学 (視覚障害者情報提供施設見学予定)	事前学習	見学施設のサイトを確認し、事業の概要を把握する
		事後学習	適切な教科書の選定ができるように各文字 形態の特徴をまとめておく
第 7 回	視覚障害分野 7 まとめ 小テスト (出題範囲: 視覚障害分野のみ)	事前学習	身近な課題を選択し、指導計画を立ててみる
		事後学習	実際に即した指導計画になるよう、今までの 学習を踏まえて修正を加える
第 8 回	聴覚障害分野: オリエンテーション 聴覚障害とは 聞こえないことの理解 コミュニケーション上の配慮	事前学習	講義を進行する上での遵守事項の確認
		事後学習	聴覚障害の不自由による困難さを理解する。
第 9 回	聴覚障害分野: 聴覚障害の定義と発見・主な起因疾患と聴覚系の構造	事前学習	聴覚系の諸器官について予習しておく。
		事後学習	聴覚系の諸器官について図に描けるようにする。
第 10 回	聴覚障害分野: 聴覚障害教育の歴史	事前学習	聴覚障害教育に貢献した人物について予習 しておく。
		事後学習	聴覚障害教育の歴史について復習しておく。
第 11 回	聴覚障害分野: 聴覚障害教育の目的・制度と教育課程 I	事前学習	特別支援学校学習指導要領の聴覚障害について概略を予習しておく。
		事後学習	聴覚障害特別支援学校の教育課程について 確実に理解しておく。
第 12 回	聴覚障害分野: 聴覚障害教育の目的・制度と教育課程 II、 コミュニケーションの方法	事前学習	前回の事後学習の再整理をしておく。
		事後学習	特別支援学級について整理しておく。
第 13 回	聴覚障害分野: 聴覚障害幼児の早期教育	事前学習	聴覚障害発見の検査法を予習しておく。
		事後学習	聴覚障害児の早期教育について理解する。
第 14 回	聴覚障害分野: 難聴児の教育	事前学習	難聴の生活上の困難についてイメージしておく。
		事後学習	難聴児の教育方法と場について整理する。
第 15 回	聴覚障害分野: まとめ・試験 (出題範囲: 聴覚障害分野 のみ)	事前学習	受講生各自質問項目を考えておく。
		事後学習	聴覚系の諸器官について確実に図に描ける ようにする。
期末試験 (聴覚障害分野)			

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2102 SCMP2302 SBMP2302 SJMP1101
2. 授業担当教員	田中 良幸		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、 学外調査	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>日常の学習姿勢が大切です。日ごろから新聞やテレビニュース等のマスコミを通して、今、子どもと生活と家庭にどのようなことが起きていることに関心を持つことが期待されます。課題図書購読を学期初めから長期休みをはさんで求めます。各課題図書についてレポート提出が必要です。その他、適宜、レポートの提出を求めます。本シラバスの「学習課題」欄の内容は実施する際、必要なスタイルを習得できるようにしてください。随時、講義内容に関しての発言やグループディスカッションを求めます。「授業への貢献度」を重視するので、積極的な関わりを期待します。</p> <p>授業計画は進度等によって変更もあり得ます。レポートはこちらからの書式や指示、説明に従って作成されることが期待されます。締切を厳守して提出すれば加点され、独自性や考察の適切さ等でさらに加点されます。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第 5 版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への貢献度 20%、レポート 20%、小テスト 20%。また、長期休みに課題本に関するレポート提出 20% を求めます。期末に到達度試験 20%を行います。グループ活動でのディスカッションや発表への積極的な取り組み、真摯な授業態度は加点対象となり、満点を 100%として評価を付けます。居眠り、私事、私語等への改善が見られない場合は注意書、警告書を発行し、中途退出を求めることがあります。</p> <p>始業時間開始以降、社会的にやむを得ないと認められる遅延(人身事故・電車故障・災害など)の場合は遅延証を持参のうえ個別に相談すること。遅刻を合算して欠席とみなすことはないが、4 分の 3 以上の出席が必須であるという本学の規程は厳守してください。</p> <p>レポートでのコピー、試験時のカンニング等の不正行為が発覚した場合は無条件で F 評価とします。</p> <p>理解確認カードへの記入を必要に応じて適宜実施する。授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかで評価します。</p> <p>小テスト、期末テストは、穴埋め選択形式と記述式を組み合わせて行います。例：穴埋め 1 問 2 点×20 問 40 点、記述問題 60 点で 100 点満点です。基本的かつ重要な項目を中心に問うが、授業では教科書を読んでいくことはしないので、自主的に教科書を精読してください。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>「児童福祉論」は「子ども家庭福祉論」という科目名で最近では呼ばれることがある。なぜ、「子ども」となり、そこに「家庭」が付くようになったのだろうか、また、グローバル時代の今日、どのような視点から子どもと家族を理解する必要があるのだろうか。国や家庭によって子どもの課題は変わることがある。では、何は同じ対応でよくて、どこを変える必要があるのか等を探求をし、考えてみる。学びのきっかけは、こうした素朴な疑問から出発します。様々な人々がそれぞれ自分たちの社会規範や価値観を抱いて同じ社会を構成する時代となった今日、正解のない事柄について授業を通して一緒に考えていきましょう。</p> <p>必要に応じて、映像を活用したり、レジュメを用意しますが、欠席した回のレジュメが欲しい場合など、気軽に研究室に来室してください。</p>		
13. オフィスアワー	別途研究室に掲示する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要と進めかた	事前学習	シラバスを熟読しておく。
	【課題図書の提示 1】グループ活動導入	事後学習	「子育て」と「育ち」に対するイメージを言語化し、書き出す。
第 2 回	子どもの権利と人権：今、世界で子どもに何が起きているのか 映画鑑賞 1	事前学習	「人身売買」「子ども兵士」「代理出産」という言葉について調べておく。
		事後学習	「子どもの権利条約」を確認し、現代社会における国や

			地域での子どもの置かれた立場の違いをまとめておく。
第 3 回	子どもの歴史①：世界史にみる子どもの生活状況（虐殺・虐待・誘拐等） 映画鑑賞 2	事前学習	「エリザベス救貧法」「ワークハウス」「子どもの誕生」「ナチ・ホロコースト」「人身売買」「子ども兵士」等を調べる。
		事後学習	「子ども」「青少年」「成人」の定義、世界史に見る子どもが置かれた状況を考察する。
第 4 回	子どもの歴史②：日本史にみる子どもの生活状況 古代、中世までの日本 グループ活動	事前学習	日本の古代、中世の子どもの生活を調べてみよう昔話の中の子ども等を自分で調べておく。
		事後学習	日本の近世以前の子どもの生活の様子を考察し、整理する。
第 5 回	子どもの歴史③：日本史にみる子どもの生活状況 近代以降の子どもの置かれた社会的状況	事前学習	明治以降の日本の子どもの生活を調べてみよう
		事後学習	昭和時代までの子どもの歴史を考察し、整理する。
第 6 回	現代社会と子ども・家庭	事前学習	現代の子どもの生活の特徴をチェックする。
		事後学習	現代までの子どもの置かれた歴史をまとめ、考察する ⇒課題をレポートにまとめる
第 7 回	障害のある子どもと家庭支援 グループ活動	事前学習	「ヒルコ」「福助」という言葉について意味を調べる。
		事後学習	「障害」のある子どもとその保護者の生活とその課題を理解し、どのような支援が必要となるかを考察する。
第 8 回	子ども福祉関連法・制度 1	事前学習	社会福祉小六法で児童福祉法の概要を読み、児童相談所に関連する資料を検索しておく。
		事後学習	「子どもの貧困」に関する資料を集めて読んでおく
第 9 回	子ども福祉関連法・制度 2 児童虐待防止法の変遷と課題 映画鑑賞 1	事前学習	児童虐待について調べてみる。
		事後学習	児童虐待防止法と児童福祉法の関連をまとめる。
第 10 回	子ども福祉関連法・制度と関連機関；福祉・保健 1 映画鑑賞 2	事前学習	児童福祉法を読んで、項目を理解しておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスについて理解する。
第 11 回	子ども福祉関連法・制度と関連機関：福祉・保健 2	事前学習	社会福祉六法体制の内訳は何か、書き出しておく。
		事後学習	課題図書の提示
第 12 回	援助活動の実際 1	事前学習	就学前の子どもの養育制度の概要を調べておく。
		事後学習	学生前の子どもの養育困難の支援と効果をまとめる。
第 13 回	援助活動の実際 2	事前学習	社会的養護について事前に自分で概要を調べておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスを整理する
第 14 回	グループによる課題報告発表	事前学習	テーマについて各グループで発表準備をしておく。
		事後学習	他グループの発表を含めて要点を確認する。
第 15 回	まとめ	事前学習	全授業を通してのキーワードの確認と不明点の整理。
		事後学習	全 15 回を振り返り、学習目標が達成できたかどうかを確認し、児童・家庭福祉論Ⅱに向けて準備をする。
期末試験として期末に到達度試験 20%を実施します			

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2102
2. 授業担当教員	高柳 瑞穂		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	児童・家庭福祉論Ⅱを履修予定のものは履修しておくことが望ましい		
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の授業時に集中力を以て臨むことが求められる。</p> <p>本シラバスの「学習課題」欄の内容について提出を求めることは原則ないが、各自で取り組むことが望ましい。細かさよりも効率よく要点を把握することが大切である。講義内容に関しての発言やグループディスカッションは「授業への貢献度」の対象となり、加点方式である。積極的な関わりを期待する。</p> <p>レポート (任意提出) の内容は、授業で扱った年号を時系列に整理し、オリジナルの年表を作成するというものである。すべての年号を羅列すればよいというものではなく、内容別、テーマ別、国別、人物別など、自分で考えたテーマに従ってきちんと整理して記述することが求められる。講義全体を理解していなければ、自分の年表が講義のどの部分を取り上げたものなのかを説明できず、根拠も不明確なものとなるだろう。講義全体の理解度を問うとともに、シラバス8.に述べた力が身に付きつつあるかを確認する、中間総括的なレポートといえる。レポートを課す時期と締切はシラバス14.に示すとおりであるが、キャンパスの授業計画や進度等によって変更もあり得る。こちらからの書式や指示、説明に従って作成されており、締切を厳守して提出すれば5点が付与され、独自性や考察の適切さ等でさらに加点され、15点満点で評価する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第5版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>コメントカードを含む授業への貢献度 40%、小テスト 30%×2 回。レポート (任意提出) はこれとは別に加点される。ディスカッションや発表への積極的な取り組みや真摯な授業態度は加点の対象となり、貢献度に含まれる。全出席を前提として授業を進める。こちらからの指示なく私語をした場合は退出を求め、その回を欠席と見なすことがある。</p> <p>始業時間に1分でも遅れた場合は遅刻となる。遅延証は受け付けない。遅刻を合算して欠席1回とみなすことはないが、本学規程に基づき出席が4分の3未満の場合、単位付与されない。</p> <p>レポートのコピペ、試験のカンニングなどの不正行為ないしそれと疑われる行為は無条件でF評価とする。コメントカードは、ランダムに数度、授業中に実施する。授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかで評価する。</p> <p>小テストは社会福祉士国家試験と同様、5者択一のマークシート方式で行う。10～15問で30点満点である。それが2回実施される。他の科目とも接合するような、ごく基本的かつ重要な項目を中心に問う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>かつては「児童福祉論」という科目名で呼ばれていたこともある分野です。なぜ、そこに「家族」や「家庭」が付くようになったのでしょうか。子どもに対する「福祉」と「保育」、いったい何が違うのでしょうか。学びのきっかけは、こうした素朴な疑問から構いません。必ずしも一様の正解のない事柄について、授業を通して一緒に考えていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	<p>オフィスアワー : 授業内で通知します。オフィスアワー以外の来室も可能です。なるべくメール (mimatsum@ed.tokyo-fukushi.ac.jp) で事前にアポ (約束) を取ってからの来室が望ましいですが、アポ無しに来室にもできる限り対応します。</p> <p>学外研究日 : 授業内で通知します。</p> <p>研究室の場所 : 13号館 (6号館斜め向かい、セブンイレブンの脇道入ったところ) 5階 951号室</p> <p>メールボックス : 研究室のドアに袋があるほか、6号館1階にメールボックスがあります。</p>		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要と進めかた 「児童福祉」「児童家庭福祉」「子ども家庭福祉」の概念	事前学習	シラバスを熟読する
		事後学習	児童家庭福祉に対するイメージを言語化してみる
第 2 回	子どもの権利と人権	事前学習	「権利」について国語辞典で調べておく
		事後学習	ナチ・ホロコーストについて調べる
第 3 回	子どもの歴史①：欧米の子どもの歴史 1	事前学習	「子どもの誕生」について文献やインターネットで検索する
		事後学習	「子ども」「青少年」「成人」の定義について考える
第 4 回	子どもの歴史②：欧米の子どもの歴史 2	事前学習	世界史の一般的知識をおさえておく
		事後学習	近代以前の子どもの歴史に照らし合わせて子ども観を考える
第 5 回	子どもの歴史③：日本の福祉思想と子ども 1	事前学習	日本史の一般的知識をおさえておく
		事後学習	「子宝」の概念について考える
第 6 回	子どもの歴史④：日本の福祉思想と子ども 2	事前学習	映画『火垂るの墓』をさっとでも観ておく(任意)
		事後学習	授業で学んだことをふまえて、日本と欧米の子ども観を比較する
第 7 回	障害のある子どもを育てる	事前学習	「ライフサイクル」や「親亡きあと」という言葉について調べる
		事後学習	ジェンダーの視点で授業内容を振り返って考察する
第 8 回	映像教材①『オリバー・ツイスト』前編	事前学習	エリザベス救貧法・新救貧法について調べておく
		事後学習	後編の視聴に備え、前編の内容を整理しておく
第 9 回	映像教材②『オリバー・ツイスト』後編	事前学習	「救貧院」「劣等処遇」について調べておく
		事後学習	当時の子ども観・貧困観について考える
第 10 回	児童家庭福祉の法律①【小テスト①実施(予定)】	事前学習	社会福祉小六法で児童福祉法の概要を読む
		事後学習	児童福祉法を根拠法としているサービスを整理する
第 11 回	児童家庭福祉の法律②【レポート課題の提示(予定)】	事前学習	社会福祉六法体制には何法が含まれているのかを把握しておく
		事後学習	授業で学んだ法律と、児童福祉関連の他の法律との接合を考える
第 12 回	児童虐待の概要①：児童虐待防止法を中心に 1 【レポート提出(予定)】	事前学習	社会福祉小六法で児童虐待防止法の概要を読んでおく
		事後学習	児童虐待防止法の成立過程を時系列に整理する
第 13 回	児童虐待の概要②：児童虐待防止法を中心に 2	事前学習	同法と児童福祉法の主な改正年を整理しておく
		事後学習	児童虐待防止法と児童福祉法の主な改正のポイントを整理する
第 14 回	児童虐待①：事例検討 1	事前学習	実際の児童虐待の事件について 1 つ以上調べてみる
		事後学習	児童虐待の主たる要因は何かを考える
第 15 回	児童虐待②：事例検討 2【小テスト②実施】	事前学習	事例前編の内容を整理しておく
		事後学習	児童虐待防止法及び改正との関連を整理して理解する

1. 科目名 (単位数)	社会 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3306
2. 授業担当教員	篠 大輔	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、実習等を織り交ぜる。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」である。学習指導要領の改訂において、「生きる力」の育成が一層重視されている。そこで、小学校社会科においても、今回の改訂のねらいと目標、小学校社会科の目標と内容について学修する。特に、各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する中で、習得型の知識と探究による知識活用について学び、社会科と総合的な学習の時間との関連について学習する。さらに、社会科学習に必要な学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方についても学習する。		
8. 学習目標	「社会」の学習が終了した時点で、学生には下記の目標を達成することが期待される。 1. 小学校社会科の意義、目標、及び各学年の目標・内容を理解し、説明できるようになる。 2. 社会生活の内容について、地理(自然・国土・産業)、歴史、公民の各分野の特徴を述べる事が出来る。 3. 小学校社会科の指導計画作成・学習方法や小学校社会科の評価規準について理解し、説明できる。 4. 授業においては、班活動の重要性を理解し、役割を分担し協力態勢のもとで、調査・体験・作業的な学習や話し合い・発表学習ができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. ミニレポート・ワークシート 各回の講義内容に沿った課題を提示する。 2. 夏休みの課題 小学校社会科に関連する施設(工場・歴史遺跡・市場・行政施設・博物館・歴史館・郷土資料館等)を見学し、レポートを作成する。 3. 期末レポート 授業内で課題を提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 1. 須本良夫編『若い教師のための小学校社会科 Capter15』梓出版社、2012年。 2. 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2008年。 【参考書】 『新しい社会 3・4年上下、5年上下、6年上下』東京書籍。 『小学校学習指導要領』東京書籍、2009年。 社会認識教育学会編『小学校社会科教育』学術図書出版社、2010年。		
11. 成績評価の方法	・平常点(授業態度・発表・発言) 20% ・課題(ミニレポート・ワークシート) 30% ・夏休みの課題 20% ・期末レポート 30%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 2. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 4. レポートや課題の提出期限を守ってください。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。		
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション - 社会科教育について考える -	事前学習	これまで受けてきた社会の授業について振り返る。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第2回	小学校社会科の回顧と展望	事前学習	教科書1のCapter1を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第3回	社会科教育の目標と内容	事前学習	教科書1のCapter2を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	社会科教育における知識の習得	事前学習	教科書1のCapter4を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。

第 5 回	子どもと創る授業	事前学習	教科書 1 の Capter5 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 6 回	学習材の開発	事前学習	教科書 1 の Capter6 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	考えの再構成を生む 3 年生の授業	事前学習	教科書 1 の Capter8 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	事実と意味の追究を目指す 4 年生の授業	事前学習	教科書 1 の Capter9 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	地域から世界を見る 5 年生の授業	事前学習	教科書 1 の Capter10 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	自分と他者を結ぶ 6 年生の授業	事前学習	教科書 1 の Capter11 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	社会科で行う言語活動の充実	事前学習	教科書 1 の Capter12 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	ICT リテラシーの育成	事前学習	教科書 1 の Capter13 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	価値判断力・意思決定力の育成	事前学習	教科書 1 の Capter14 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	シチズンシップの涵養と「政治的リテラシー」	事前学習	教科書 1 の Capter15 を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 15 回	まとめ - 社会の授業を振り返って -	事前学習	これまでの学習内容や課題を振り返る。
		事後学習	この授業を踏まえて、教師になった際にどのような社会の授業を行うのかについて考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	社会 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3421
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、演習、実習等を織り交ぜる。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	同一年度に「社会科指導法」を履修することが望ましい。 本科目で指導要領の趣旨を理解し、「社会科指導法」においては指導案作成と授業実践を中心とする課題に取り組む。		
7. 講義概要	社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」である。学習指導要領の改訂において、「生きる力」の育成が一層重視されている。そこで、小学校社会科においても、今回の改訂のねらいと目標、小学校社会科の目標と内容について学修する。特に、各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する中で、習得型の知識と探究による知識活用について学び、社会科と総合的な学習の時間との関連について学習する。さらに、社会科学習に必要な学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方についても学習する。		
8. 学習目標	<p>「社会」の学習が終了した時点で、学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校社会科の意義、目標、及び各学年の目標・内容を理解し、説明できるようになる。 2. 社会生活の内容について、地理(自然・国土・産業)、歴史、公民の各分野の特徴を述べることが出来る。 3. 小学校社会科の指導計画作成・学習方法や小学校社会科の評価規準について理解し、説明できる。 4. 授業においては、班活動の重要性を理解し、役割を分担し協力態勢のもとで、調査・体験・作業的な学習や話し合い・発表学習ができる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>各回に設定するアサインメントは以下の内容になります。</p> <p>①:教育基本法より、社会科に関係する箇所・条文を見つけよう。②:各学年の目標のうち、「理解に関する目標」について、学年を追ってどのような発達を子どもに期待しているのかまとめなさい。③:指導計画を作成する上での配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめなさい。④:学習指導案作成にあたってのポイントを整理しなさい。⑤:「言語活動」とは何か説明しなさい。⑥「身近な地域」とは何か説明しなさい。⑦地図記号の意味について説明しなさい。⑧見学(観察調査)の注意事項をまとめなさい。⑨「国」の定義について説明しなさい。⑩社会の変化を示す統計資料を見つけ、グラフにまとめなさい。⑪42名の歴史の人物について紹介文をつくりなさい。⑫道徳教育の目標を説明しなさい。⑬「災害復旧」における行政の取り組みについて取り上げた資料を紹介しなさい。⑭海外の食生活の様子について観察できる資料を見つけ、紹介しなさい。講義では上記をリーディングアサインメント(RA)と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 安彦忠彦監修『小学校 学習指導要領の解説と展開 社会編』東洋館出版。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2008年。(以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。)</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012年。 「調べ学習」「ポートフォリオ」や「ポスターセッション」など社会科授業を創る上でのキーワードや理論について事典様式で解説がなされている。アカデミックの色彩が強い書籍ですので発展的学習のための材料としてここに紹介する。 2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版、2008年。 ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社、2008年。 中学校学習指導要領の内容については、教科書の付録にもある。また、総合的な学習の時間についての理解は必須である。生活科についても同様だが、各教科間の関係性について注目してみると指導計画を立てる上で有意である。 3) 安彦忠彦監修『小学校 学習指導要領の解説と展開 社会編』教育出版、2008年。 小学校学習指導要領について、教科社会に関する記述内容を57問の質問に対する答えとしてまとめ直している。例えば「Q12:「身近な地域や市の様子」をどのようにとらえたらよいのでしょうか。」(p.26.)など、現場教員の立場で発想する疑問が多く収録されている。教師の立場から学習指導要領の社会科を理解するには取り組みやすい書といえる。 4) 『新編 新しい社会 3・4年 上・下、5年上・下、6年上・下』東京書籍。 小学校で採用される教科書の中でも採用頻度が比較的高い出版社の編集した教科書である。秋期社会科指導法では指導案作成や授業実践演習の機会があるため購入しておくとし便性が高い。教育実習校で採用されている教科書でもよい。1年後には教壇に立って実践する立場になるので、小学校用教科書のような基本教材への投資は無駄にならない。 5) 2万5千分の1地形図。 国土地理院が発行する地図。講義内では巡検地域の地形図を事例提示するが、教育実習で勤務する学校の含まれた地形図や学生自身が慣れ親しんだ地域の地形図をみて、実際の光景と地図上での見え方についての感覚をトレーニングすることが大切。地域に根ざした社会科授業を作り上げる過程で生きてくる力となる。 		
11. 成績評価の方法	<p>各回に設定されるアサインメント 30%、講義内で設定されるグループ課題 30%、レポート 40%を評価の構成要素とします。ただしアサインメントについてはすべて個人で取り組む課題とします。 なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。 公欠事由による欠席があった回についてはアサインメントの提出とともに課題を設定します。欠席の事前事後速やかに報告し、指示を受けてください。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生の多くは将来、小学校教諭を志すと推察します。小学校教諭の資質として、「子どもが好き」であること、「子どもの心身の成長を支援したい」という意欲とそれを果たそうとする責任感など様々あります。しかし、同様に大事にしなければならぬこととして、本科目をはじめとする各教科の学習指導です。成長過程にある子どもは様々な学びをします。その学びの機会に、保護者以上に関わるのが小学校教諭です。これは、子どもを託した保護者との信頼関係を築くことにも影響が及ぶものです。本科目をきっかけとして、社会的な事象への関心を深め、「社会」のありようを伝え考えさせることができる様にしていきたいです。</p> <p>本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください)正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出の状況如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 <p>また、教員は次のことを実行します</p>		

	①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言・発表等）できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話（メール・通話）の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 時間割判明後、講義内にて案内します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	①オリエンテーション（シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと。） ②社会科教育の意義を考える	事前学習	課題：「社会科」に期待されていることは何だろう。テキスト pp. 1～9 を読み、改訂された学習指導要領の性格をまとめよう。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 2 回	社会科教育の歴史と教育基本法 学習指導要領（試案）誕生から現在までの教科「社会」の変遷。教育基本法に見る社会科教育の課題と方向性。	事前学習	課題①：教育基本法より、社会科に関係する箇所・条文を見つけよう。課題②：戦後に登場した社会科はどのような内容であったのか。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 3 回	社会科の目標と内容 教科の目標、各学年の目標、各学年の内容について概観する。	事前学習	課題：各学年の目標のうち、「理解に関する目標」「能力に関する目標」について注目し、学年を追ってどのような発達を子どもに期待しているのか説明してみよう。テキスト pp. 10～17 を参照するとよい。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 4 回	社会科の指導計画 指導計画作成上の配慮事項、各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の配慮事項	事前学習	課題①：指導計画を作成する上での配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめよう。 課題②：各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめよう。 テキスト pp. 100～107 を参照するとよい。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 5 回	社会科の学習指導案 授業の映像資料をみて、実践者が意図した授業の展開について再現を試みる。	事前学習	課題：学習指導案作成にあたってのポイントを整理しよう。授業の時に大切にすることは何か。その根拠も含めて各々リストアップしておくこと。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 6 回	社会科における評価 「言語活動」を事例として社会科授業で取り組まれるレポート作成や新聞づくり、劇化表現などの意義について考える。	事前学習	課題：社会科における「言語活動」はどうあるべきか。具体的な指導方法を 1 点取り上げ、どう評価するのか説明しよう。言語活動は例えば実践としてはレポート作成や新聞づくりなどの形で現れる。その成果をどのような観点で評価するべきか考える。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 7 回	第 3・4 学年の地域学習① 地域の様子を実際に観察させる学習活動をどのように構成するべきか考える。	事前学習	課題：「地域における社会的事象を観察や調査する」にあたり具体的に組み立てる時のポイントを指摘しよう。見学活動指導での注意点をリストアップしてみる。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。
第 8 回	第 3・4 学年の地域学習② 地形図と地図記号指導の実際について考える。	事前学習	課題：地形図から「地形」「土地利用の様子」を読み取ろう。 地元や実習先の学区、または大学付近の地形図を見て気になった場所をリストアップしてみる。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント（RA）に取り組む。

第 9 回	第 3・4 学年の地域学習③ 大学周辺を地形図持参で見て歩き、地図上での見え方と実際の地形を比べてみる。地形図上での表記と実地での違いがある場合など子供に観察させるときのポイントを考える。	事前学習	課題：地域巡検を実践しよう。 テキスト pp. 20～24 を参照し、コース案を考えてみる。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント (RA) に取り組む。
第 10 回	第 5 学年の国土学習 我が国の位置と領土について調べる際の留意点について考える。	事前学習	課題：我が国の位置と領土について調べる際の留意点について説明しよう。 テキスト pp. 51～52 を参照。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント (RA) に取り組む。
第 11 回	第 5 学年の産業学習 資料を活用する学習を進めていく上での留意点を図式資料 (特に統計) の活用場面を事例に説明する。	事前学習	課題：統計資料にはどのような種類があるのか。またそれぞれの特性について考えよう。身近な統計データを一つ取り上げどのように授業で活用できるのか考えてみる。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント (RA) に取り組む。
第 12 回	第 6 学年の歴史学習① 先人の業績や文化遺産について興味関心をもたせ理解を深めるための指導をする上でのポイントは何か考える。	事前学習	課題：先人の業績や文化遺産について興味関心をもたせ理解を深めるための指導をする上でのポイントは何か、指摘してみよう。 テキスト pp. 75～87 を参照。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント (RA) に取り組む。
第 13 回	第 6 学年の歴史学習② 社会科と道徳教育の関係について、学習指導要領ではどのように説明されているか。	事前学習	課題：社会科と道徳教育の関係について、学習指導要領ではどのように説明されているか。指摘してみよう。 テキスト p. 104, pp. 138～139 を参照。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント (RA) に取り組む。
第 14 回	第 6 学年の政治学習 「災害復旧の取り組み」を事例として政治の働きについての学習を進める上でのポイントを考える。	事前学習	課題：「災害復旧の取り組み」を事例として政治の働きについての学習を進める上でのポイントを指摘してみよう。 テキスト pp. 88～93 を参照し、教材案を考えてみる。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント (RA) に取り組む。
第 15 回	第 6 学年の国際理解学習 「異なる文化や習慣の違い」に触れる学習について、「食文化」を事例として教材について考える。	事前学習	課題：「異なる文化や習慣の違い」に触れる学習について、「食文化」を事例として教材を探してみよう。 テキスト pp. 94～99 を参照し、教材案を考えてみる。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。秋期の社会科指導法のシラバスをもとに授業実践として「社会」をどのように構成していくのか見直しをもつ。

1. 科目名 (単位数)	社会 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3306
2. 授業担当教員	池田 芳和		
4. 授業形態	講義、演習、実習等を織り交ぜる。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公的資質の基礎を養う。」である。学習指導要領の改訂において、「生きる力」の育成が一層重視されている。そこで、小学校社会科においても、今回の改訂のねらいと目標、小学校社会科の目標と内容について学修する。特に、各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する中で、習得型の知識と探究による知識活用について学び、社会科と総合的な学習の時間との関連について学習する。さらに、社会科学習に必要な学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>「社会」の学習が終了した時点で、学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校社会科の意義、目標、及び各学年の目標・内容を理解し、説明できるようになる。 2. 社会生活の内容について、地理(自然・国土・産業)、歴史、公民の各分野の特徴を述べる事が出来る。 3. 小学校社会科の指導計画作成・学習方法や小学校社会科の評価規準について理解し、説明できる。 4. 授業においては、班活動の重要性を理解し、役割を分担し協力態勢のもとで、調査・体験・作業的な学習や話し合い・発表学習ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	社会科の視点で街を観察したり、情報を活用したりして、小レポートにまとめるなど課題を課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>平常点(ミニレポートの評価を含む)と課題レポート</p> <p>評価基準 日常の積極的授業参加態度(質問、ミニレポート等) 50%、指導案の作成 20%、まとめレポート 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	自らが感動し、問題をもつことが社会の学習の一步である。この感覚を大切にしながら、社会科教育はどうあればよいか考え、話し合い、自分なりの社会科教育観を創ってほしい。		
13. オフィスアワー	授業日の授業のない時間、随時(一時間目に伝達)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、社会科教育の目標からこれからの学習について理解する。	事前学習	社会科で学んだことを思い出しておく。
		事後学習	社会生活についてマインドマップを作る。
第2回	社会科教育の意義・特質 社会の考え方を知り、どのような指導が望ましいのかを考える。	事前学習	教科書「社会科編」を読んでおく。
		事後学習	社会科教育の意義・特質を整理する。
第3回	学習指導要領と社会科教育の目標構造 社会科の目標を調べ、自分にわかりやすい目標の構造を作る。	事前学習	社会科の歴史を読んでくる。
		事後学習	社会科教育の考え方をまとめる。
第4回	学習指導要領と社会科教育の目標の特色 社会科学習の目標の特徴について話し合う。	事前学習	社会科の各学年目標を調べてくる。
		事後学習	目標の構造を整理してくる。
第5回	指導計画の作成と内容の取り扱い(問題解決学習の方法) 社会科の内容を調べ、系統を作り、自分にわかりやすいものにする。	事前学習	教科書「社会科編」から内容等を縫い書きする。
		事後学習	内容を系統的に整理する。
第6回	地理的分野の目標と内容 学習指導要領から、地理的分野の学習を取り出すことができる。	事前学習	系統的にした内容を学年ごとにわけける。
		事後学習	小学校における地理的な学習についてまとめる。
第7回	地図指導の在り方 地図の学習の基礎基本を知り、活用できるようにする。	事前学習	2万5千分の1の地図を読んで、まとめる。
		事後学習	小学校における地図指導の要点をまとめる。
第8回	地域学習の方法(観察とレポート)(1) 小学校3/4年生の学習に合わせ、学区の観察、行政区の観察を行い、レポートにまとめる。	事前学習	3年生の学習内容を調べる。
		事後学習	地域観察したことで分かったことをまとめる。
第9回	地域学習の方法(観察とレポート)(2) 小学校3/4年生の学習に合わせ、学区の観察、行政区の観察を行い、レポートにまとめる。	事前学習	4年生の学習について調べる。
		事後学習	健康で安全な暮らしについて、分かったことをまとめる。
第10回	人物中心の歴史学習を進めるために(人物の資料収集) 学習指導要領に示された人物について調べ、業績を発表しあい、時代の特徴を知る。	事前学習	日本史年表を作成する。
		事後学習	人物と歴史的な事柄との関連をまとめる。
第11回	人物中心の歴史学習を進めるために(学習指導案の作成) 自分で選択した人物を中心に、学習指導案を書く。	事前学習	教科書の指導案を例に、自分の選んだ人物を調べる。
		事後学習	人物と歴史事象との関連から、学びの中心概念をまとめる。
第12回	公的的分野の目標と内容 学習指導要領から、公的的分野の学習を取り出すことが	事前学習	日本国憲法について調べる
		事後学習	小学校で取り扱う内容をまとめる。

平成 28 年度

	できる。		
第 13 回	資料活用の在り方 教科書に示されている代表的な資料の分析と活用の仕方を学ぶ。	事前学習	印象に残っている資料を探してくる。
		事後学習	資料と思考との関連についてまとめる。
第 14 回	指導と評価の一体化 社会科の指導と評価の一体化を目指して、評価方法を学ぶ。	事前学習	評価の在り方についての答申を読んてくる。
		事後学習	新しい評価の方法をまとめる。
第 15 回	社会科教育の構造をまとめる 義務教育における社会科教育の構造を学び、小学校社会科の特徴をまとめる。	事前学習	社会科学習の構造を考える。
		事後学習	社会科教育の改定点についてレポートをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	社会学概論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1113 GELA1334 GELA1313
2. 授業担当教員	若狭 清紀		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目は、国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会理論と社会システム」に対応するものである。対人援助職に就く者には、被援助者とそのニーズを、社会的な関係性の中で把握することが求められる。人間は社会的な関係の中で生まれ育つものであるし、援助を必要とするような問題（ニーズ）も社会的関係の中から生ずるものだからである。こうしたことから、援助職に就こうとする者には、人間を取り巻く「社会」のなりたちや変化について観察・分析する学問である社会学の学習が必要となるのである。</p> <p>この講義では、社会学の基本的な考えかたと対象について幅広く取り上げる。また、国家試験などで求められる社会学の基本的な用語や知識についても学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会についての基礎知識を身につけて、物事をその社会的背景から考えられるようになる。 2. 人間と社会の関係について学び、人間を社会的関係の中で捉えられるようになる。 3. 社会問題について深く考察できるようになる。 4. 人々の生活について多角的に考えられるようになる。 5. さまざまな社会理論について学び、社会的な考え方ができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>毎回の授業の事前学習・事後学習の記録を、指定する書式で提出してもらおう。 夏休み前に、「自分の生活史、生活経験に関して、いくつかのテーマを設定して、教科書の記述と関連させながら社会的に考察しなさい。」という設題のレポートを提出してもらおう。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会『社会理論と社会システム (第 3 版)』中央法規出版、2014 年</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度等：20% レポート：50% 学習記録：30%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>社会学が扱う「社会」は、常に変化している。授業の中でも最新の動向を紹介するが、ぜひ日頃から新聞や雑誌を読む習慣をつけてほしい。 授業中は私語をしない、携帯電話を鳴らさないなどの基本的なマナーを守るように努めてもらいたい。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション：社会とは何か、社会学とは何か	事前学習	シラバスに目を通しておき、授業時に持って来ること。教科書 pp. 2～3 の 21 行目を読む。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 2 回	社会システム ～社会システムとは、社会システムの構造と機能、規範	事前学習	教科書 p. 14 の 3 段落目まで、pp. 16 の最終段落～17 の 5 段落目、pp. 19 の 2 段落目～20 の 1 行目を読み、学習記録に記入する。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 3 回	社会変動 ～社会変動とは何か、近代化	事前学習	教科書 pp. 58～62 の 5 行目を読み、学習記録に記入する。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 4 回	人口変動とその影響 ～少子化、高齢化	事前学習	教科書 pp. 76～80 の 2 段落目、pp. 82 の 3 段落目～83 の 8 行目を読み、学習記録に記入する。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 5 回	生活の捉え方 ～ライフサイクル、ライフコース、生活の質	事前学習	教科書 pp. 95 の 3 段落目～96 の 2 段落目、pp. 99 の下から 9 行目～104 を読み、学習記録に記入する。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 6 回	家族 (1) ～家族と世帯	事前学習	教科書 pp. 105～108 の 4 段落目を読み、学習記録に記入する。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 7 回	家族 (2) ～家族の機能、家族の変容	事前学習	教科書 pp. 108 の最終行～109、pp. 112 の 4 段落目～116 の 4 段落目を読み、学習記録に記入する。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 8 回	地域 ～地域・コミュニティの概念、都市化	事前学習	教科書 pp. 120～124 の 2 段落目、pp. 126 の最終行～127 の 3 段落目を読み、学習記録に記入する。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 9 回	社会関係 ～社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマ	事前学習	教科書 pp. 145 の下から 8 行目～146、pp. 151～152 の 3 行目、pp. 153 の最終行～155 の 4 の前、p. 176 の下から 6 行目まで、p. 183 の 2 段落目を読み、学習記録に記入する。	
		事後学習	学習記録への記入	
第 10 回	社会集団と組織 ～集団の概念・類型、官僚制	事前学習	教科書 pp. 164 の下から 2 行目～169 の 4 段落目、pp. 170 の最終段落～171 の 2 段落目、pp. 172 の最終段落～173 の 2 段落目を読み、学習記録に記入する。	

		事後学習	学習記録への記入
第 1 1 回	社会関係資本と社会的連帯 ～中間集団の解体、社会関係資本	事前学習	教科書 pp. 187～188 の下から 6 行目、pp. 189 の下から 4 行目～191 の 1 行目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第 1 2 回	社会病理と逸脱 ～文化学習理論、社会緊張理論、機会構造論、ラベリング理論	事前学習	教科書 pp. 200～207 の 2 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第 1 3 回	社会問題① ～貧困、ワーキングプア	事前学習	教科書 pp. 211～215 の 4 行目、pp. 53 の最終段落～54 の 2 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第 1 4 回	社会問題② ～非行、いじめ、ハラスメント、ひきこもり	事前学習	教科書 pp. 215 の 2 段落目～220 の 3 段落目を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入
第 1 5 回	社会問題③ ～DV、児童虐待、高齢者虐待	事前学習	教科書 pp. 220 の 4 段落目～224 を読み、学習記録に記入する。
		事後学習	学習記録への記入

1. 科目名 (単位数)	社会情報学 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT1301
2. 授業担当教員	舘 秀典			
4. 授業形態	講義と演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	情報化によって仕事や生活の様式が大きく変化している現代において、メディアや IT に関する知識は不可欠なものである。本講義では、携帯電話、電子メール、インターネットなどといった情報化社会のキーワードの理解をもとに、ワークスタイルやライフスタイルの変化を具体的な事例から学ぶ。また、社会におけるメディアのあり方や、メディアを使う人間 (ユーザー) にも着目する。			
8. 学習目標	情報化社会が現代にもたらした影響や人間の心理や生理へ与える問題などについて理解し、情報化社会におけるメディアの在り方を理解することを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	原則として毎回の授業で課題を出題する。授業内容に関するレポートを提出し、次回の授業に向けた予習や準備を行うこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】梅本吉彦 編著 『情報教育シリーズ 情報社会と情報倫理』 丸善出版。 【参考書】講義の中で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	下記の観点に基づいて評価を行う。 1. 授業への参加態度 30% 2. レポートおよび小テスト 40% 3. 総合演習・総括の評価 30%			
12. 受講生への メッセージ	この講義では、こちらが提示する課題について、適宜発表やディスカッションしてもらうことによって、さまざまな視点から物事を考える習慣や、適切な判断力を身に付けてもらいたいと考えています。			
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション	事前学習	シラバスと指定教科書の内容を確認し、今後の学習事項について把握する。	
		事後学習	オリエンテーションで学習した重要事項を学習ノート等に整理し、記憶の定着を促す。	
第 2 回	情報社会における法と倫理	事前学習	テキスト第 1 章を読み、情報社会とはどのようなものであるかについてまとめる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 3 回	情報社会における法と倫理	事前学習	情報社会には様々な関連する法がある。どのような方がるか、またその概要を調べる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 4 回	知的財産と情報	事前学習	知的財産とは何を指すのか、またどのような法で守られているのか調べる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 5 回	情報社会と個人情報保護	事前学習	テキスト第 2 章を読み、個人情報とは何か、プライバシーとは何かについてまとめる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 6 回	個人情報保護の国際的動向	事前学習	各国の個人情報の定義について調べる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 7 回	コンピュータ社会と情報倫理	事前学習	テキスト 3 章を読み、コンピュータ社会とは何を指すのか、またそこで必要とされるモラルについて調べる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 8 回	情報倫理とコンピュータセキュリティ	事前学習	コンピュータを利用する上で、どのようなセキュリティが必要であるか調べる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 9 回	情報倫理とコンピュータ犯罪	事前学習	情報社会となった現在、どのような犯罪が起きているのか調べる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 10 回	学校教育・運営と情報倫理	事前学習	テキスト第 4 章を読み、学校教育における情報倫理の育成について各自まとめてくる。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
第 11 回	学校運営と情報倫理	事前学習	教育行政の視点から、情報倫理について検討する。	
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解	

			を要する箇所の把握に努める。
第 1 2 回	学校生活と情報倫理	事前学習	学校生活において情報はどうかあるべきか検討する。
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
第 1 3 回	情報倫理教育の在り方	事前学習	テキスト第 5 章を読み、教職員、児童・生徒に対する情報倫理教育はどうか自分の意見をまとめる。
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
第 1 4 回	情報社会における新たな視点	事前学習	これまでの学習を踏まえ、今後情報倫理教育はどうかあるべきか各自の意見をまとめる。
		事後学習	教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
第 1 5 回	講義の総括	事前学習	これまでの学習内容の中から理解できていない項目がないか教科書及びノート等を見直して確認する。
		事後学習	「講義の総括」で再学習があると判明した問題を解き直し、理解を深め、記憶の定着を促す。

1. 科目名 (単位数)	社会心理学 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2343 SCMP2343 SBMP2343 EDPS2303
2. 授業担当教員	新井 洋輔		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッション・フィールドワークを含む)		6. 履修条件・ 他科目との関係	「心理学入門」、「心理学概論」を履修済みであることが望ましい。
7. 講義概要	<p>人は他者と関わり、集団に所属しながら生活している。そして人は、他者や集団や社会から様々な影響を受けると同時に、自らも対人関係や集団に影響を及ぼしている。社会心理学は、社会学と心理学の境界領域にあたる学問領域であり、人と他者・集団との関係の中で、人の態度や認知に表れるさまざまな変化を明らかにすることを主なねらいとしている。</p> <p>本科目では、社会心理学の主要な研究分野である自己、対人認知、対人関係、集団等の心理について、基礎的な知見を学習するとともに、現代社会における諸現象について、社会心理学的視点から読み解いていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学における社会心理学の位置づけについて理解し、説明することができるようになる。 2. 社会心理学における主要トピックスの要点を理解し、説明することができるようになる。 3. 日常生活や社会現象について、社会心理学で提唱されている理論を用いて考察できるようにになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各回で事前学習の内容を前提として講義が開始されるため、事前・事後学習を必ず行って受講すること。予習課題や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的な学習によって理解を確かめると共に問題解決力を培うように努めること。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】吉田俊和・元吉忠寛『体験で学ぶ社会心理学』ナカニシヤ出版。</p> <p>【参考書】山田一成・結城雅樹・北村 英哉『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	受講態度 30% 小テストおよび期末試験 70%			
12. 受講生への メッセージ	<p>社会心理学は、これまでに蓄積されてきた研究知見を、日常生活や社会活動に直接応用しやすい分野です。講義の内容から、自分自身や周囲の人々を理解し、今後の社会生活や問題解決の糸口を探る視点を獲得できるよう、積極的に取り組んでください。</p> <p>本講義の受講に関する取り決めを行いますので、第一回の講義には必ず出席してください。皆さんの理解度やワークの進捗状況に応じて、講義内容を変更する場合があります。内容に関する疑問については、質問を歓迎します。わからない点は放置せず、積極的に質問してください。なお、受講態度と毎回の課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話の使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。</p>			
13. オフィスアワー	授業内で提示する。授業時間外での質問・相談を希望する場合は、yoarai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく	
		事後学習	講義で議論した「禁止事項」と、自分のもつ「常識」の感覚との差異について内観しまとめる	
第 2 回	自己	事前学習	教科書 p. 6 の課題に取り組む (紙面を追加してよい)	
		事後学習	講義の内容をうけて、自分の自己呈示の性質について振り返りを行う	
第 3 回	原因帰属	事前学習	教科書 p. 22 の課題に取り組む (気持ちの記述はノートに行ってよい)	
		事後学習	我々が持つ原因帰属に関するクセが現実場面にもたらす問題と、その対策をまとめる	
第 4 回	判断と意思決定	事前学習	教科書 p. 34 の内容を熟読したのち、p. 35 にある問題を二種、作成しておく (A5 用紙程度)	
		事後学習	フレーミング効果が及ぼす影響を考慮し、現実に使われている「良い例」「悪い例」をあげる	
第 5 回	対人認知とステレオタイプ 1	事前学習	以下の語句からイメージされる人物像を文章化しておく ①「A B 型の人」②「弁護士」③「同性愛者の男性」	
		事後学習	対人認知のクセが我々の社会や日常生活にもたらす「良い影響」「悪い影響」をできるだけ多く挙げる	
第 6 回	対人認知とステレオタイプ 2	事前学習	前回配布資料をもとにした事前学習の内容に取り組む	
		事後学習	ステレオタイプが維持されるメカニズムについてまとめる	
第 7 回	対人関係	事前学習	初対面の状況で自分が感じる気持ちや、過去に起きた困ったことを列挙しておく	
		事後学習	講義を踏まえ、事前学習で挙げた問題への対策を追記する	
第 8 回	健康と幸福 1 (状態自尊感情とその向上)	事前学習	教科書 p. 80 を読み、p. 81 の課題に取り組む	
		事後学習	講義を受けて自分の状態自尊感情がどのように変化した	

			か、再度教科書 p. 80 に取り組む
第 9 回	健康と幸福 2 (自己効力感と仮想的有能感)	事前学習	自分の長所について記述した短い文章を 10 作っておく
		事後学習	講義内容を受けて、再度、自分の長所を記述してみる
第 10 回	対人コミュニケーション	事前学習	p. 117 の課題 1 の 3 つの空欄を埋めておく (ノートに作成すること)
		事後学習	自分の希望する職業について、コミュニケーション方略として心がけるべきことをまとめる
第 11 回	社会的公正 1	事前学習	p. 122 の第一段落・第二段落を読み、自分が感じた「不公平」の経験を文章化しておく
		事後学習	講義で取り組んだワークにおいて、自分が「重視したこと」や満足度の「理由」などをまとめておく
第 12 回	社会的公正 2	事前学習	前回講義で取り組んだワークにおいて、自分が「公正」と感じるにはどのような条件が満たされていれば良いと思うかを文章化しておく
		事後学習	自分が過去に受けた単位の評価は、講義で扱った公正性のどの観点が重視されていたのか考察し、まとめる
第 13 回	反社会的行為 1	事前学習	「電車の中での携帯電話使用はなぜ迷惑行為なのか」について、自分の意見をまとめる。
		事後学習	事前学習での記載は、社会規範の観点からみると、何を重視していたと考えられるのか考察する
第 14 回	反社会的行為 2	事前学習	前回講義で配布された「逸脱行為発生状況」のワークシートに記入しておく
		事後学習	講義の内容を受けて、逸脱行動の抑制にはどのような対策が可能か、検討してまとめる
第 15 回	学校教育とリーダーシップ	事前学習	教科書 p. 179 の「体験してみよう」にある尺度に回答しておく (小学校 6 年生時が思い出しにくい場合は中学や高校の教師でも可)
		事後学習	リーダーシップの PM 理論や SL 理論を適用することのできる対人関係を挙げ、整理しておく

1. 科目名 (単位数)	社会政策論 / 社会政策 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3308 SBMP2134
2. 授業担当教員	齋藤 有里			
4. 授業形態	講義、学生による発表とディスカッション		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	現代社会は、様々な社会問題を抱えている。その問題群に対応する政策が社会政策であり、労働・人口変動・生活保障など幅広い分野をカバーしている。一方で、社会政策が十分に機能しているかという点、不十分な点も多くあり、さらには政策自体が逆に問題を大きくしている場合もある。 この授業では、そのような社会問題や、社会政策について勉強し、少しでも良い方向に向かわせるためにはどうすればいいかを、自分の住んでいる社会のこととしてとらえ、一緒に考えてもらいたい。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の様々な社会問題について、様々な視点からとらえられるようになる。 ・社会問題に対する社会政策について調べ、その概要を説明できるようになる。 ・新聞等で取り上げられている社会問題について考え、自らの意見が発表できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業期間中に、授業の理解度の確認のため小テストをおこなう。また授業の中で、学習内容の要約の発表や問題提起などをしてもらおう。発表者となった学生は、自らが重要と思ったポイントや自分の考えなどをA4用紙1枚にまとめたものを準備する。 このほかに、A4用紙・3枚程度の小レポートを実施する。レポートについては、授業時にテーマや書き方などを明記したプリントを配布し、詳しく説明する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 授業時にプリントを配布する。 【参考書】 石畑良太郎、牧野富夫著『よくわかる社会政策』ミネルヴァ書房、2014。			
11. 成績評価の方法	評価については、理解度確認のための小テストおよび期末試験 50%、小レポートと発表 25%、授業態度および積極的参加度 (授業への取り組み・発言) 等 25%で判断する。			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の理解や課題解決のため、積極的に授業に参加すること。 2. 新聞等を読んで、労働関連の問題に目を向けてもらいたい。 3. 欠席、遅刻、早退をしないようにすること。 4. 授業中の私語、携帯電話等の操作は禁止。 			
13. オフィスアワー	第1回目の授業で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、 評価方法など) 社会政策とは何か	事前学習	社会政策とはどのようなものか、考える。	
		事後学習	これから学んでいく社会政策の中で、自分が興味を持った内容をまとめておく。	
第2回	社会政策論の誕生と様々な学派	事前学習	社会政策が誕生したきっかけなどについて、調べておく。	
		事後学習	社会政策の歴史的な流れを整理する。	
第3回	日本における社会政策	事前学習	福祉国家と社会政策との関わりについて考える。	
		事後学習	社会政策の考え方を整理する。	
第4回	労働と賃金	事前学習	賃金の役割について調べておく。	
		事後学習	授業内容を復習し、要点をまとめる。	
第5回	賃金と社会政策	事前学習	賃金格差がもたらす問題にはどのようなものがあるか調べておく。	
		事後学習	賃金制度について、要点をまとめる。	
第6回	私たちの生活との労働時間	事前学習	労働時間の長時間化がもたらす問題点を調べておく。	
		事後学習	労働時間の内容と諸問題をまとめる。	
第7回	雇用と失業政策の沿革	事前学習	なぜ失業が発生するのか、原因を考えておく。	
		事後学習	多様な雇用形態について要点をまとめる。	
第8回	働き方の多様化と失業問題	事前学習	雇用と失業に関する様々な制度を調べておく。	
		事後学習	授業で取り上げた制度の特徴と役割をまとめる。	
第9回	労使関係とは	事前学習	労働組合の役割を調べておく。	
		事後学習	日本の労使関係の特徴をまとめる。	
第10回	少子・高齢化と社会政策	事前学習	高齢化の現状について、高齢化率などを調べておく。	
		事後学習	高齢化の特徴や現状、高齢化がもたらす課題をまとめる。	
第11回	高齢社会と生活の保障	事前学習	高齢者にかかわりのある政策を調べておく。	
		事後学習	高齢者のための政策とその他の保障の要点をまとめる。	
第12回	社会保障制度の構造と役割	事前学習	社会保障の役割について調べておく。	
		事後学習	授業で取り上げた各制度の特徴を整理し、まとめる。	
第13回	社会保険制度の内容とその他の制度 について	事前学習	社会保険制度には具体的にどんな制度があるか調べておく。	
		事後学習	授業で取り上げた各制度の特徴を整理し、まとめる。	
第14回	男女平等とさまざまな格差	事前学習	働き方などによって発生する格差の問題点を考える。	
		事後学習	どんな課題があるか、要点をまとめる。	
第15回	外国人労働者と社会政策	事前学習	外国人労働者が直面している問題を調べておく。	
		事後学習	授業内容を整理し、自分の考えをまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	社会的養護 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2339 SCMP2339 SBMP2339 SJMP2104
2. 授業担当教員	花崎 みさを		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について理解する。また、平成 24 年公布の関係法制度や最新の統計データを参考にしつつ、児童福祉施設の今日的動向と各サービスの特徴を理解する。		
8. 学習目標	1. 社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 2. 児童の権利、児童養護の理念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 3. 施設養護における自立支援等の具体的な支援について理解し、保育士としての実践力を身につける。 4. 社会的養護の抱える今後の課題について理解し、保育士としての考察力、対応力を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	第 8 回および第 14 回の授業終了時に、宿題として授業内容に即したレポートの提出を求める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】櫻井奈津子編著『社会的養護の原理』青踏社。 【参考書】山縣文治、林浩康著『よくわかる養護原理第 2 版』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	レポート (2 回合計) を 100 点満点として減点方式で採点し、下記のように評価する。さらに授業態度が悪い場合は、適宜減点する。 レポート 2 回 80% 授業への積極的参加態度 (含む ディスカッション) 20% なお、本校の規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 常に積極的な授業態度であること。 講義を自分自身の中に取り込み理解するよう努めること。 常に自分自身を見つめる眼を持ち、各々のテーマに正直に取り組むこと。 		
13. オフィスアワー	授業に対して、質問・相談・苦情などのある学生のために、授業終了後、または空いている時間を面接時間とする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	家庭の役割と機能、社会的養護の必要性 第 1 章 1~2 (ミニレポート作成・提出)	事前学習	自分にとっての家族の意味について考えて来る。
		事後学習	子どもの養護問題の現状と子ども虐待について確認する。
第 2 回	子どもの権利擁護と子育て支援 第 1 章 3 (事前説明等)	事前学習	「施設生活の手引き」について、事例 1-1 を読んでくる。
		事後学習	当事者である子どもを理解するということ。
第 3 回	児童養護の歴史の変遷、先駆者の取り組み 第 2 章 1~2 (グループによるまとめ)	事前学習	古代から現代までの流れについて、テキストを読む。
		事後学習	各々の年代のポイントについて理解する。
第 4 回	先駆者の取り組みと児童養護の理論の流れ 第 2 章 2~3	事前学習	先駆者の取り組みの各々のポイントの理解。
		事後学習	児童養護施設の理論的な流れについて確認する。
第 5 回	児童養護の体系、施設養護 第 3 章 1~2 (グループによるまとめ)	事前学習	児童養護の体系の理解 (テキストに目を通す)
		事後学習	児童養護施設の種類や施設のスタイルについて確認する。
第 6 回	家庭的養護 (里親制度) 第 3 章 3、第 5 章 1~2 (レポート課題提示)	事前学習	「家庭的養護」の制度について概要を理解しておく。
		事後学習	里親の諸制度について確認する。
第 7 回	児童福祉施設への入所理由 第 4 章 1 (事例をグループで討議)	事前学習	入所理由について自分の考えをまとめてくる。
		事後学習	児童福祉施設職員としての専門的役割について確認する。
第 8 回	施設養護の基本原則 第 4 章 2 (グループ発表及び講義)	事前学習	ウェルフェアとウェルビーイングの違いの理解。
		事後学習	施設養護の原則について確認する。
第 9 回	施設養護の実際、地域との交わり 第 4 章 3~4 (体験発表等)	事前学習	治療的養育と被虐待児支援について目を通して来る。
		事後学習	施設機能の解放とボランティアについて確認する。
第 10 回	施設養護のこれからの課題 第 4 章 5 (グループによるまとめ)	事前学習	施設養護の課題について考えてくる。
		事後学習	ソーシャルインクルージョンについて確認する。
第 11 回	家庭的養護の課題、施設と里親 第 5 章 3 (グループ発表及び講義)	事前学習	家庭的養護の課題とは何かを考えてくる。
		事後学習	里親の養成、施設と里親の協働について確認

			する。
第 1 2 回	職員の資質と専門技術 第 6 章 1 (レポート課題の提示)	事前学習	職員の専門性とは何かについて考える。
		事後学習	求められる資質と専門性について確認する。
第 1 3 回	施設運営、チームワーク、スーパービジョン 第 6 章 2～3 (グループによるまとめ)	事前学習	措置費や社会的責任について目を通して くる。
		事後学習	チームワークやコミュニケーションの技術 について確認する。
第 1 4 回	パーマネンシープランニング 親の役割への支援 第 7 章 1～2 (講義)	事前学習	パーマネンシープランニングについて考 える。
		事後学習	親権及びパートナーシップについて確認 する。
第 1 5 回	地域における権利擁護への取り組み これからの施設養護に求められる視点 第 7 章 3～4 (説明とまとめ)	事前学習	要保護児童対策地域協議会について自習 してくる。
		事後学習	新しい社会的養護のあり方について確認 する。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2102
2. 授業担当教員	村本 浄司		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。) について理解する。 6. 福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む。) の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習し、説明できるようになる。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解し、説明できるようになる。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解し、説明できるようになる。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習し、説明できるようになる。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解し、説明できるようになる。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習し、説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループディスカッションの内容についてグループごとに授業終了後に提出する。 2. 授業の最後にその日の講義内容について小テストを実施する。 3. レポート課題1500字以上「保育士に求められるソーシャルワークとは何か」 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 橋本好一・宮田徹編集『シリーズ保育と現代社会 保育と社会福祉 第2版』(株)みらい、2015.</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座第4巻 現代社会と福祉 第4版』中央法規、2014.</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①レポート 30% ②ディスカッションや授業への積極的参加度 40% ③毎回の小テスト 30% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>社会福祉専門職として子どもや保護者に寄り添いながら支援を行っていくための基盤を自分の中に確立してください。授業を通して学んだ社会福祉の知識や専門職としての価値・倫理観は、みなさんが実際に支援の現場でさまざまな課題に直面した時に大きな支えになってくれるはずです。</p> <p>履修にあたっては、真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことを期待します。シラバスに記載してある事前学習を必ずしておいてください。</p>		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際にお伝えします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義の概要、学習目標の説明、座席の決定) テキスト第1章「保育と社会福祉」 —生活課題と社会福祉の概要について学ぶ	事前学習	シラバスとテキスト第1章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (少子高齢社会、都市化と過疎化、保育や子育ての問題) についてまとめる。
第2回	テキスト第2章「社会福祉の考え方と役割」 —社会福祉の概念 (理念)、保育と社会福祉の関係について学ぶ	事前学習	テキスト第2章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン等) についてまとめる。
第3回	テキスト第3章「社会福祉のあゆみ」 —欧米 (イギリス、アメリカ、スウェーデン) と日本の福祉のあゆみについて学ぶ	事前学習	テキスト第3章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (諸外国やわが国の社会福祉の歴史等) についてまとめる。
第4回	テキスト第4章「生活を守る社会保障制度」 —社会保障の体系と社会保険制度について学ぶ	事前学習	テキスト第4章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (社会保障、生存権、社会保険、生活保護等) についてまとめる。
第5回	テキスト第5章「社会福祉の制度・法体系」 —福祉分野の法体系と、高齢者福祉の法制度及び障害者福祉の法制度について学ぶ	事前学習	テキスト第5章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (社会福祉法、介護保険、障害者総合支援法等) についてまとめる。
第6回	テキスト第6章「社会福祉の実施機関と行財政」 —社会福祉に関わる行政機関や民間組織・団体と、福祉の財源について学ぶ	事前学習	テキスト第6章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (福祉事務所、児童相談所、社会福祉協議会等) についてまとめる。
第7回	テキスト第7章「社会福祉の施設」 —社会福祉施設の概要 (施設の意義、施設の種類、運営に関する基準等) について学ぶ	事前学習	テキスト第7章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (社会福祉施設、その設置基準等) について

			てまとめる。
第 8 回	テキスト第 8 章「子どもの人権と児童家庭福祉」 —児童福祉の理念、児童家庭福祉及び保育施策の実施状況について学ぶ	事前学習	テキスト第 8 章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（子どもの権利条約、社会的養護、児童福祉法、子どもの貧困等）についてまとめる。
第 9 回	テキスト第 9 章「社会福祉の専門職と倫理」 —社会福祉専門職の役割と専門職として求められる倫理について学ぶ	事前学習	テキスト第 9 章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（保育士の職務、社会福祉士の役割等）についてまとめる。
第 10 回	テキスト第 10 章「相談援助（ソーシャルワーク）の意味と方法」 —相談援助の原則と視点、相談援助の展開過程について学ぶ	事前学習	テキスト第 10 章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（ソーシャルワークの定義、ストレングス、エンパワメント、アドボカシー等）についてまとめる。
第 11 回	テキスト第 11 章「福祉サービスの利用支援と第三者評価」 —福祉サービスの利用支援と第三者評価について学ぶ	事前学習	テキスト第 11 章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（措置制度と契約制度、福祉サービス利用援助事業、第三者評価等）についてまとめる。
第 12 回	テキスト第 12 章「権利擁護と苦情解決」 —権利擁護が求められる背景とそのためのしくみ、苦情解決のしくみについて学ぶ	事前学習	テキスト第 12 章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（権利擁護、成年後見制度、虐待の防止、苦情解決等）についてまとめる。
第 13 回	テキスト第 13 章「地域福祉の意味と推進方法」 —地域福祉の理念と担い手、地域福祉を推進する方法について学ぶ	事前学習	テキスト第 13 章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（地域福祉、民生委員、ボランティア、共同募金等）についてまとめる。
第 14 回	テキスト第 14 章「他分野との連携とネットワーク」 —社会福祉と関連分野との連携・ネットワークの視点と方法について学ぶ	事前学習	テキスト第 14 章を熟読する。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（連携・ネットワーク、ソーシャルサポートネットワーク等）についてまとめる。
第 15 回	テキスト第 15 章「社会福祉と保育士のこれからを考える」 —これからの社会における社会福祉専門職としての保育士のあり方について学ぶ	事前学習	テキスト第 15 章を熟読する。 第 1 回～第 14 回の授業の重要事項の確認・見直しを行い、疑問点があればまとめておく。
		事後学習	これまで学習した内容について復習をしておく。必要に応じて参考書等を活用して知識の補足、整理を行い、疑問点については確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉運営管理論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP4102 SCMP4302 SBMP4102 PSMP4402
2. 授業担当教員	宮崎 栄二			
4. 授業形態	講義、グループ討議		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。 ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 ・福祉サービスの経営と管理運営について理解する。 			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスにおける組織と経営の概要について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスに係る組織や団体の役割や税制等について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスの組織、経営、集団の力学、リーダーシップ等に関する基礎理論について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスの管理運営の方法（サービス管理、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理）について理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	A4用紙1枚、1000～1500字程度のを1回課す予定。内容については授業内で周知する。 (前年度例：社会福祉法人経営の現状と課題について。) 参考図書を含め、関係図書を数多く読むこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座 第11巻 福祉サービスの組織と経営』、中央法規。			
11. 成績評価の方法	平常点 (授業への積極的参加度) 30% 中間レポート 30% 期末筆記試験 40% 計100% なお、本学規定により、単位取得のためには3/4 以上の出席を必要とする。			
12. 受講生への メッセージ	将来的には、自らが福祉サービス経営・管理を行うという感覚で授業に臨んでください。 履修にあたっては次の事を最低限守ってください。 ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。			
13. オフィスアワー	授業時間内に提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第1章第1・2節 オリエンテーション (シラバスの説明・講義の進め方 等)、最近の福祉サービスの動向について学ぶ。	事前学習	社会福祉法、教科書 pp. 2～3 を読み、福祉サ ービスの概念を調べる。	
		事後学習	「市場」と「準市場 (社会市場)」をまとめる。 福祉サービス提供主体者の経営倫理をまとめ る。	
第2回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第2章第1・2節 福祉サービスに係る組織や団体 (社会福祉法人制度) に ついて学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 18～22 を読み、法人とは何か、法 人の統治 (ガバナンス)、法令遵守とは何か を調べる。	
		事後学習	社会福法人の定義、社会福祉法人に求められ る役割など、基本的性格をまとめる。	
第3回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第2章第3・4節 福祉サービスに係る組織や団体 (特定非営利活動法人制 度、その他の団体) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 44～47 を読み、特定非営利活動促 進法、NPO 法人の定義と活動の範囲につい て調べる。	
		事後学習	特定非営利活動法人の課題について、教科書 p. 52 を参考にしてまとめる。	
第4回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第3章第1・2節 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 (経営に関す る基礎理論) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 68～73 を読み、戦略と戦術につい て基礎概念を調べる。	
		事後学習	福祉サービスにおける経営戦略策定につい てまとめる。コトラーの戦略についてまとめ る。	
第5回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第3章第3節 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 (組織に関す る基礎理論) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 83～84 を読み、コンティンジェン シー理論を調べ、福祉サービス組織の概念に ついて考える。	
		事後学習	専門家の原則、権限・責任一致など、組織構 造と組織原則についてまとめる。	
第6回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第3章第4節 福祉サービスの組織の経営に係る基礎理論 (管理運営に 関する基礎理論) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 89～90 を読み、福祉サービス管理 の必要性・対象について調べる。	
		事後学習	福祉サービスにおける管理の手法について まとめる。(PDCA サイクル)	
第7回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第3章第5・6節 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 (リーダーシ ップに関する基礎理論等) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 97～99 を読み、バーナードの公式 組織の理論について調べる。	
		事後学習	福祉サービス組織におけるリーダーシ ップのあり方についてまとめる。	

第 8 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 4 章第 1 節 福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理 (サービスマネジメント) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 112～113 を読み、サービスマネジメントの対象領域について調べる。
		事後学習	サービスの品質の規定要素としての三つの P についてまとめる。
第 9 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 4 章第 2 節 福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理 (サービスの質の評価) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 128～131 を読み、「福祉サービスの質の向上に関する基本指針」について調べる。
		事後学習	福祉サービス第三者評価の今後の課題についてまとめる。
第 10 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 4 章第 3・4 節 福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理 (苦情対応、リスクマネジメントの方法等) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 143～148 を読み、リスクマネジメントについて調べる。
		事後学習	ハインリッヒの法則・リーゾンの軌道モデルについてまとめる。
第 11 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 5 章第 1 節 福祉サービスの管理運営の方法②人事管理と労務管理 (人事管理) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 166～170 を読み、マズローの五段階論・マクレガーの X 理論と Y 理論について調べる。(練習問題)
		事後学習	人材の評価 (人事考課) についてまとめる。
第 12 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 5 章第 2 節 福祉サービスの管理運営の方法②人事管理と労務管理 (労務管理・人材育成) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 189～193 を読み、労務管理とは何か、その概要について調べる。
		事後学習	平成 19 年の社会福祉事業における、「新人材確保指針」についてまとめる。(練習問題)
第 13 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 6 章 福祉サービスの管理運営の方法③会計管理と財務管理 (社会福祉法人の経営と財務管理) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 214～217 を読み、ランニングコスト・イニシャルコストについて調べる。
		事後学習	社会福祉法人の財務管理の特殊性についてまとめる。(練習問題)
第 14 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 7 章 1～4 福祉サービスの管理運営の方法④情報管理と戦略的広報 (高度情報社会の進展と福祉サービス) について学ぶ。	事前学習	教科書 pp. 246～248 を読み、高度情報社会の問題点について調べる。
		事後学習	パブリック・リレーションズについてまとめる。(練習問題)
第 15 回	教科書『福祉サービスの組織と経営』第 7 章 5～7 福祉サービスの管理運営の方法④情報管理と戦略的広報 (個人情報保護と情報開示) 等について学ぶ。全体のまとめを行う。	事前学習	教科書 pp. 254～255 を読み、個人情報の確保に関する法律を読み、個人情報についての定義を調べる。
		事後学習	公益通報者保護法について、制度創設の背景、目的、事業者ガイドラインについてまとめる。(練習問題)
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として地域や施設で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、過去問題を使用した演習を徹底して行います。その中で、試験に合格するための知識を定着させ、合格へと導いていきます。		
8. 学習目標	<p>社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(I) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(II) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる)</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・毎回の授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。</p> <p>・定期試験 (共通科目・専門科目) では、本番の試験の合格基準に従って、</p> <p>① 全体の60%以上の得点がある。</p> <p>② 全ての科目で得点がある (0点科目がない) 。ことを課題とします。 (不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます。)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】授業内配布テキスト、『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。</p> <p>【参考文献】『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>各授業に行う確認テスト 50%</p> <p>定期試験 (共通科目・専門科目) 50%</p> <p>30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなします。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家試験に合格するためには、「過去問題集」をどれだけ暗記できるかによって決まるので、本講義を受講する学生は、1 問 1 問真剣に取り組んでください。</p> <p>授業の内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる 教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第 2 回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 4 回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 5 回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 6 回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 7 回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 8 回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 9 回	【福祉行政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 10 回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 11 回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】 (「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律 (障害者総合支援法)」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習

	門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童福祉法（障害児支援関係）」「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」について		
第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 （「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 （「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 （「相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期（共通科目）			
第 1 6 回	【社会調査の基礎①】 （「統計法」「社会調査における倫理」「量的調査の方法①」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【社会調査の基礎②】 （「量的調査の方法②」「質的調査の方法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【相談援助の基盤と専門職】 （「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の理念」「相談援助に係る専門職の概念と範囲」「専門職倫理と倫理的ジレンマ」「総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 9 回	【相談援助の理論と方法①】 （「様々な実践モデルとアプローチ」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 0 回	【相談援助の理論と方法②】 （「相談援助の過程」「ケースマネジメントとケアマネジメント」「相談援助における社会資源の活用・調整・開発」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【相談援助の理論と方法③】 （「スーパービジョン」「記録」「相談援助と個人情報の保護の意義と留意点」「相談援助における情報通信技術（IT）の活用」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 2 回	【福祉サービスの組織と経営①】 （「福祉サービスに係る組織や団体」「福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 3 回	【福祉サービスの組織と経営②】 （「福祉サービス提供組織の経営と実際」「福祉サービスの管理運営の方法と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 4 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度①】 （「高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）」「介護過程」「介護と住環境」「介護保険法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度②】 （「介護保険法における組織及び団体の役割と実際」「地域包括支援センターの役割と実際」「高齢者の虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 6 回	【児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】（「児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「児童・家庭福祉制度の発展過程」「児童福祉法」「DV 防止法」「母子保健法」「児童手当法」「次世代育成支援対策推進法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【就労支援サービス】 （「雇用・就労の動向と労働施策の概要」「就労支援に係る専門職の役割と実際」「就労支援分野との連携と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 8 回	【更生保護制度】 （「更生保護制度の概要」「更生保護制度の担い手」「医療観察制度の概要」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 9 回	専門事例問題	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 0 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期（専門科目）			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECD4221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習 (指定座席による問題演習)	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として施設や地域で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、社会福祉士養成演習Ⅰで身につけた基本的知識の定着を図るとともに、実際の試験に対応できる応用力を身につけていきます。過去の試験において出題が多くみられる項目を中心について問題演習を行い、最新の福祉の動向も踏まえながら、社会福祉士国家試験合格に必要な力を養成していきます。</p>		
8. 学習目標	<p>社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる)</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・予め配布する「一問一答」の中から、毎回授業の最後に確認テストを行うので、満点が取れるまで予習復習を繰り返してください。</p> <p>・期間の途中で行う「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>③ 全体の60%以上の得点がある</p> <p>④ 全ての科目で得点がある (0点科目がない) ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 『2016 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規 (3 年生の養成演習Ⅰで購入したテキストです。3 年次に養成演習Ⅰを受講していなかった学生は、事前に購入しておくこと。) 『大学作成の授業内配布テキスト』 『見て覚える! 社会福祉士国試ナビ 2017』、中央法規 (秋期の開始時に購入します)</p> <p>【参考文献】 『2017 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規 『社会福祉士国家試験模擬問題集 2017』中央法規 『社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック 共通科目編 2015』中央法規。 『社会福祉士受験ワークブック 専門科目編 2015』中央法規。 『社会福祉士の合格教科書 2017』医学評論社</p>		
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」と 12 月に実施する校内模試の結果 50%</p> <p>60 コマ中、16 コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する (春学期のみ)。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家試験に合格するためには、「過去問題集」にどれだけ真剣に取り組み、どれだけ暗記できたかにかかっています。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという決意をもって、1 問 1 問真剣に取り組んでください。</p> <p>授業の内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (春期) (試験の概要・傾向等) 【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第2回	【福祉行政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第3回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第4回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第5回	実力確認テストⅠ (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までに授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習
第6回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第7回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第8回	【相談援助の理論と方法】【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習

第 9 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】 【障害者に対する支援と障害者自立支援法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】 【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【地域福祉の理論と方法】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】 【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】 【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】 【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【相談援助の理論と方法】 【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験（実力確認テストⅡ）（専門科目）			
第 16 回	ガイダンス（秋期） 共通科目基礎徹底理解①（共通科目ランダム問題） （制度を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解②（共通科目ランダム問題） （人物・年代を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解（専門科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解 （医学・心理学・介護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解① （社会学・法学）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解② （法人）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解① （社会保障・低所得者・高齢者）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解② （障害者・権利擁護・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③ （行政・保健医療・児童・更生保護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解① （基盤と専門職・社会調査）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解② （理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	事例問題の演習①（理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 28 回	事例問題の演習②（高齢者・児童・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	事例問題の演習③（共通科目編）	事前学習	指定された科目の過去問演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	（試験の問題冊子を持参する）
		事後学習	（最後まで合格を信じること）

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1101 GELA1101 GELA1301
2. 授業担当教員	宮崎 栄二			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。			
8. 学習目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	A4用紙1枚、1000～1500字程度のもを1回課す予定。内容については授業内で周知する。 (前年度例：社会福祉の基本概念・領域について) 参考図書を含め、関係図書を数多く読むこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉 (第 10 版)』ミネルヴァ書房。 【参考書】 基礎からの社会福祉編集委員会編『社会福祉概論 (第 2 版)』ミネルヴァ書房。 【教 材】 必要に応じて資料を配布			
11. 成績評価の方法	・平常点 (授業への積極的参加度) 30% ・中間レポート 30% ・期末筆記試験 40% 計 100% なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。			
12. 受講生への メッセージ	この科目は、社会福祉実践への入口でもある。少子・高齢社会にあって、自らがどう福祉と関わっていくかを考えるよい機会にすることが要求される。授業では積極的な意見発表を期待するとともに、教科書等を含めて関連する書物を数多く読み込んでいただきたい。 履修にあたっては次の事を最低限守ってください。 ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴すること。 ④授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。			
13. オフィスアワー	授業時間内に提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義の概要・授業の進め方)、最近の話題から	事前学習	現代社会にあって、社会福祉が市民 (自分を含め) 一人ひとりにとって、日常生活上どの様な関わりを持っているか調べる。	
		事後学習	社会福祉の枠組みと、今日、話題となっている生活保護の給付実態等を通して、「自立」と「支え合い」をまとめる。	
第 2 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅰ 社会福祉の基礎概念について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 16～17 を読み、社会福祉の対象とニーズを調べる。	
		事後学習	社会福祉の専門性と、バリエーションの 7 原則をまとめる。	
第 3 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅱ 社会福祉をとりまく状況について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 22～23 を読み、少子化について調べる。	
		事後学習	高齢化社会と介護問題についてまとめる。	
第 4 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅲ 社会福祉の歴史と展開について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 32～35 を読み、福祉国家の成立と主な社会福祉実践家を調べる。	
		事後学習	社会福祉基礎構造改革についてまとめる。	
第 5 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅳ 社会福祉の仕組みと運営について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 48～49 を読み、社会福祉行政の仕組みを調べる。	
		事後学習	社会福祉サービスの利用システムについてまとめる。	
第 6 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅴ 社会福祉の機関と施設について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 64～65 を読み、福祉事務所について調べる。	
		事後学習	社会福祉法人についてまとめる。	
第 7 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅵ 社会福祉の援助と方法について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 78～79 を読み、ソーシャルワーカーについて調べる。	
		事後学習	ソーシャルワークの展開過程についてまとめる。	
第 8 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅶ 社会保障・公的扶助について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 102～103 を読み、社会保障の機能について調べる。	
		事後学習	生活保護の原理と原則をまとめる。	
第 9 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅷ 子ども家庭福祉について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 122～123 を読み、子ども家庭福祉の考え方を調べる。	
		事後学習	児童虐待についてまとめる。	
第 10 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅸ 高齢者福祉について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 144～145 を読み、高齢者福祉の理念を調べる。	
		事後学習	介護保険制度の概要をまとめる。	
第 11 回	教科書『よくわかる社会福祉』Ⅹ 障害者福祉について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 168～169 を読み、障害者福祉の基本理念を調べる。	
		事後学習	障害者の権利保障とアドボカシーについてまとめる。	
第 12 回	教科書『よくわかる社会福祉』ⅩⅠ 地域福祉について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 198～199 を読み、地域社会におけるコミュニティとはなにかについて調べる。	
		事後学習	ソーシャルインクルージョンについてまとめる。	
第 13 回	教科書『よくわかる社会福祉』ⅩⅡ これからの社会福祉の課題について学	事前学習	教科書 pp. 210～211 を読み、苦情解決について調べる。	
		事後学習	福祉情報システムについてまとめる。	

	ぶ		
第 1 4 回	教科書『よくわかる社会福祉』XIII 社会福祉を支える人たちについて学ぶ	事前学習	教科書 pp. 222～223 を読み、社会福祉専門職の現状と課題について調べる
		事後学習	社会福祉士についてまとめる。
第 1 5 回	全体のまとめ（最近の話題から） 社会福祉の現代的課題－自己決定と自己責任－について学ぶ	事前学習	社会的自由とはなにかについて調べる。
		事後学習	自己決定・自己責任についてまとめる。 社会福祉の観点から、今後の学習での自己課題等をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1101
2. 授業担当教員	上木 文夫		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。		
8. 学習目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1、「振り返りシート」(小テスト扱い)を随時実施する。全授業参加が基本であるため、あえて実施日は予告しない。欠席に注意すること。 2、通常レポート「社会福祉の歴史的展開を踏まえた上で、福祉の理念の変遷を説明しなさい。」 ※A4レポートで3枚程度 ※夏期休校明けの最初の授業内に提出		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山縣文治・岡田忠克編 『よくわかる社会福祉 (第10版)』 ミネルヴァ書房、2014年。 【参考書・資料】 大久保秀子著 『新・社会福祉とは何か (第2版)』 中央法規出版、2014年。 授業の進展に則して、随時資料を配布する。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加・貢献度、各種レポート課題、期末試験等を総合して、合計100%として評価する。 1 授業への積極的参加・貢献度 総合点の40% 2 振り返りシート(小テスト扱い) 総合点の20% 3 通常レポート課題 総合点の20% 4 期末試験 総合点の20%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目は、文字通り、社会福祉を本格的に学んでいく上での入門的科目です。これから皆さんが、福祉等の専門職になるために必要な知識や理論、倫理やスキルを修得していく上で基礎となる科目とあってよいでしょう。授業への出席、熱意ある参加、グループでのディスカッションや課題作成への積極的な取組みを望みます。		
13. オフィスアワー	原則として授業前後に質問や相談を受けますが、時間が掛かるようであれば相談の上、日時と場所を個別的に調整します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業オリエンテーション 講師の自己紹介 社会福祉とは何か	事前学習	教科書を購入し、目次を通してテキストの全体像を把握する。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第2回	教科書Ⅰ 社会福祉の基礎概念	事前学習	教科書のⅠを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第3回	教科書Ⅱ 社会福祉をとりまく状況	事前学習	教科書のⅡを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第4回	教科書Ⅲ 社会福祉の歴史と展開	事前学習	教科書のⅢを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第5回	教科書Ⅳ 社会福祉の仕組みと運営	事前学習	教科書のⅣを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第6回	教科書Ⅴ 社会福祉の機関と施設	事前学習	教科書のⅤを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第7回	教科書Ⅵ 社会福祉の援助と方法	事前学習	教科書のⅥを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第8回	教科書Ⅶ 社会保障・公的扶助	事前学習	教科書のⅦを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第9回	教科書Ⅷ 子ども家庭福祉	事前学習	教科書のⅧを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第10回	教科書Ⅸ 高齢者福祉	事前学習	教科書のⅨを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第11回	教科書Ⅹ 障害者福祉	事前学習	教科書のⅩを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。

第 1 2 回	教科書XI 地域福祉	事前学習	教科書のXIを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 3 回	教科書XII これからの社会福祉の課題	事前学習	教科書のXIIを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 4 回	視聴覚教材「泣くものか」を通じた福祉専門職の資質と能力についての考察	事前学習	児童養護施設について調べておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 5 回	視聴覚教材「泣くものか」を通じた対象者観	事前学習	福祉専門職の資質とは何かを考えておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。また、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (経営福祉) (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1101
2. 授業担当教員	掛札 節			
4. 授業形態	テキストの輪読を中心に、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、日本社会は、社会福祉重視型社会への転換を図っている。この流れは、先進諸国に共通しており、アジア諸国においても、将来的な展望としては同じ方向に進んでいくものと考えられている。</p> <p>この講義は、これから社会福祉にかかわる仕事を目指したり、社会福祉分野での起業を目指す学生のために、福祉の基本や福祉に関連する職業にはどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の仕事に従事するためにはどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何かなどを講義する。同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。</p> <p>この講義は、日本の社会福祉を中心に、留学生にも配慮した授業内容で講義を行う。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉とは何かについて、歴史や各領域の法制度等を踏まえて理解し、説明することができる。 2. ソーシャルワークの方法について、各領域や地域での実践等を踏まえて理解し、説明することができる。 3. さまざまな領域 (低所得者・児童家庭・高齢者・障がい者等) の状況や課題について理解し、今後の社会福祉やソーシャルワークのあり方について考察することができる。 4. 日本だけでなく、世界的な視点から、現在生じている福祉問題について関心を持てるようになる。 5. 関心を持った福祉問題について、解決策を考え、議論できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>学習の理解度をみる課題 (まとめ) を授業内で複数回 (3 回程度) 行います。</p> <p>*その他毎回の授業の進行状況に応じて指示します。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 大久保秀子著 『新・社会福祉とは何か (第 2 版)』 中央法規出版。</p> <p>【参考書・資料】 喜多村悦史 『社会保障論』テキスト (第 2 版) 東京福祉大学出版会。</p> <p>(*その他、授業の進行に合わせ、随時指示する。)</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 (まとめ) ①～③を含む個人の課題の内容 60% ・グループでの作業・発表を含む積極的参加態度 40% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>社会福祉入門は、これから保育や児童、福祉等の専門職になるために必要な理論や技術等を修得していく上で基礎となる科目です。そのため、授業への出席、熱意ある参加、グループでのディスカッションや作業、課題作成などへの積極的な取り組みを望みます。</p> <p>(*授業内容や順番、課題等は、皆さんの進捗状況・理解度にあわせて適宜変更していきます。)</p>			
13. オフィスアワー	授業時間内に提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業の主な内容や進め方について 社会福祉について	事前学習	教科書の冒頭にある「はじめに」を読んで、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 2 回	第 1 章 社会福祉とは何か	事前学習	教科書の第 1 章 (pp. 1～19) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 3 回	第 2 章 社会福祉の歴史	事前学習	教科書の第 2 章 (pp. 20～38) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 4 回	第 3 章 社会福祉の法と行財政	事前学習	教科書の第 3 章 (pp. 39～52) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 5 回	中間まとめ① (課題①作成)	事前学習	教科書の第 1/2/3 章 (pp. 1～52) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。	
第 6 回	第 4 章 ソーシャルワークの理解	事前学習	教科書の第 4 章 (pp. 53～67) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 7 回	第 5 章 最低生活保障と生活保護制度	事前学習	教科書の第 5 章 (pp. 68～82) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 8 回	第 6 章 児童家庭福祉と次世代育成の展開①	事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 83～108) を読み、理解を進めておく。	

		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 9 回	第 6 章 児童家庭福祉と次世代育成の展開②	事前学習	教科書の第 6 章 (pp.83~108) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 10 回	中間まとめ 2 (課題②作成)	事前学習	教科書の第 4/5/6 章を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
第 11 回	第 7 章 障がい者の自立と福祉	事前学習	教科書の第 7 章 (pp.109~131) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 12 回	第 8 章 高齢者の生活と福祉	事前学習	教科書の第 8 章 (pp.132~159) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 13 回	第 9 章 地域福祉への展開	事前学習	教科書の第 9 章 (pp.160~174) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 14 回	第 10 章 これからの社会福祉	事前学習	教科書の第 10 章 (pp.175~190) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 15 回	総まとめ (課題③作成)	事前学習	教科書の第 7/8/9/10 章 (pp109~190) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (経営福祉) (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1101								
2. 授業担当教員	上木 文夫											
4. 授業形態	テキストの輪読を中心に、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション(学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等)を伴ったものにする。		5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	<p>近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、日本社会は、社会福祉重視型社会への転換を図っている。この流れは、先進諸国に共通しており、アジア諸国においても、将来的な展望としては同じ方向に進んでいくものと考えられている。</p> <p>この講義は、これから社会福祉にかかわる仕事を目指したり、社会福祉分野での起業を目指す学生のために、福祉の基本や福祉に関連する職業にはどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の仕事に従事するためにはどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何かなどを講義する。同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。</p> <p>この講義は、日本の社会福祉を中心に、留学生にも配慮した授業内容で講義を行う。</p>											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉とは何かについて、歴史や各領域の法制度等を踏まえて理解し、説明することができる。 2. ソーシャルワークの方法について、各領域や地域での実践等を踏まえて理解し、説明することができる。 3. さまざまな領域(低所得者・児童家庭・高齢者・障がい者等)の状況や課題について理解し、今後の社会福祉やソーシャルワークのあり方について考察することができる。 4. 日本だけではなく、世界的な視点から、現在生じている福祉問題について関心を持てるようになる。 5. 関心を持った福祉問題について、解決策を考え、議論できるようになる。 											
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「振り返りシート」(小テスト扱い)を随時実施する。全授業参加が基本であるため、あえて実施日は予告しない。欠席に注意すること。 2. 通常レポート「社会福祉の歴史的展開を踏まえた上で、福祉の理念の変遷を説明しなさい。」 ※A4レポートで3枚程度 ※夏期休校明けの最初の授業内に提出 											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山縣文治・岡田忠克編 『よくわかる社会福祉(第10版)』 ミネルヴァ書房、2014年。</p> <p>【参考書・資料】 大久保秀子著 『新・社会福祉とは何か(第2版)』 中央法規出版、2014年。 授業の進展に則して、随時資料を配布する。</p>											
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加・貢献度、各種レポート課題、期末試験等を総合して、合計100%として評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加・貢献度</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>2 振り返りシート(小テスト扱い)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3 通常レポート課題</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 期末試験</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>				1 授業への積極的参加・貢献度	総合点の40%	2 振り返りシート(小テスト扱い)	総合点の20%	3 通常レポート課題	総合点の20%	4 期末試験	総合点の20%
1 授業への積極的参加・貢献度	総合点の40%											
2 振り返りシート(小テスト扱い)	総合点の20%											
3 通常レポート課題	総合点の20%											
4 期末試験	総合点の20%											
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目は、文字通り、社会福祉を本格的に学んでいく上での入門的科目です。これから皆さんが、福祉等の専門職になるために必要な知識や理論、倫理やスキルを修得していく上で基礎となる科目とあってよいでしょう。授業への出席、熱意ある参加、グループでのディスカッションや課題作成への積極的な取組みを望みます。</p>											
13. オフィスアワー	<p>原則として授業前後に質問や相談を受けますが、時間が掛かるようであれば相談の上、日時と場所を個別的に調整します。</p>											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第1回	授業オリエンテーション 講師の自己紹介 社会福祉とは何か	事前学習	教科書を購入し、目次に目を通してテキストの全体像を把握する。									
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。									
第2回	教科書Ⅰ 社会福祉の基礎概念	事前学習	教科書のⅠを読み、理解を進めておく。									
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。									
第3回	教科書Ⅱ 社会福祉をとりまく状況	事前学習	教科書のⅡを読み、理解を進めておく。									
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。									
第4回	教科書Ⅲ 社会福祉の歴史と展開	事前学習	教科書のⅢを読み、理解を進めておく。									
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。									
第5回	教科書Ⅳ 社会福祉の仕組みと運営	事前学習	教科書のⅣを読み、理解を進めておく。									
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。									
第6回	教科書Ⅴ 社会福祉の機関と施設	事前学習	教科書のⅤを読み、理解を進めておく。									
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。									
第7回	教科書Ⅵ 社会福祉の援助と方法	事前学習	教科書のⅥを読み、理解を進めておく。									
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等									

			についての要点をまとめる。
第 8 回	教科書Ⅶ 社会保障・公的扶助	事前学習	教科書のⅦを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 9 回	教科書Ⅷ 子ども家庭福祉	事前学習	教科書のⅧを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 10 回	教科書Ⅸ 高齢者福祉	事前学習	教科書のⅨを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 11 回	教科書Ⅹ 障害者福祉	事前学習	教科書のⅩを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 12 回	教科書Ⅺ 地域福祉	事前学習	教科書のⅪを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 13 回	教科書Ⅻ これからの社会福祉の課題	事前学習	教科書のⅫを読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 14 回	視聴覚教材「泣くものか」を通じた福祉専門職の資質と能力についての考察	事前学習	児童養護施設について調べておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 15 回	視聴覚教材「泣くものか」を通じた対象者観について	事前学習	福祉専門職の資質とは何かを考えておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。また、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会保障論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2105 SCMP2105 SBMP2105 PSMP2405
2. 授業担当教員	齋藤 有里		
4. 授業形態	講義、学生発表、グループディスカッション、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、社会保障を構成している年金、医療、介護保険、労働保険などを、それぞれの沿革にまでさかのぼり、理論的に解説する。そのことにより社会福祉の現場で働く場合に必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を体得する。</p> <p>社会保障の理念や範囲、期待する社会保障の機能などは国によって異なっており、その相違が主に市場経済の構造や社会的慣行にあるとすれば、今後、わが国が豊かな社会保障を構築するためにどのような条件整備を進めていくべきかを探っていく必要がある。</p> <p>教科書をベースに、下記の講義日程に沿って授業を進める。聞き漏らし部分を含め、授業中および授業終了後等に質問する習慣を身に付け、その日のうちに不明部分を解消することが必要である。本科目の学習分野は膨大であり、講義日程に沿って授業が進行するので、後日まとめたの一括つめこみは難しい。</p> <p>事前学習が済んでいることが前提であるから、説明は要点のみとなる。黒板への原則、板書は行わない。論点のいくつかに関して、学生による事前学習成果の発表と質疑討論を授業に組み入れる。</p> <p>制度知識を確実なものとするため、社会福祉士国家試験の過去問等を活用してのグループ討議を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の基本理念と役割を理解し、文章で説明できるようになる。 2 社会保障の各制度について、その適用や給付にとどまらず、運営の仕組みや財源確保の仕組みについても、わかりやすい自分の言葉で口頭説明できるようになる。 3 少子高齢化、政府財政悪化、企業福祉後といった環境変化の中で、社会保障制度の持続性を確保するには何が求められ、国民としてどう行動すべきなのかについて、自身の分析と対案を提示できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業期間中に、授業の理解度の確認のため小テストを数回行う。 2. 事前学習の発表を行う際には、発表者はA4用紙1枚程度の原稿を準備すること。 3. また社会保障制度の役割や機能に関して、各自の理解度および問題意識をより明確にするために、A4用紙3枚程度の課題レポートがある。課題レポートについては、授業時にテーマなどを明記したプリントを配布し、詳しく説明する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 学内作成のオリジナル教科書</p> <p>【参考書】 『新・社会福祉要説』『保育児童福祉要説』『教職科目要説 (初等教育編・中等教育編)』</p>		
11. 成績評価の方法	評価については、理解度を確認するために行う小テストおよび期末試験 55%、課題レポートおよび事前学習に関する発表 25%、授業態度および積極的参加度 (授業への取り組み・発言) 等 20% で判断する。		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の理解や課題解決のため、積極的な態度で臨むこと。 2. 新聞等に目を通すなど、最近の社会保障制度の動向についても興味を持ってもらいたい。 3. 授業中の私語、携帯電話等の操作は禁止。 4. 欠席、遅刻、早退をしないようにすること。 		
13. オフィスアワー	第 1 回目の授業で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	社会保障制度の概要： 社会保障の体系、機能、方法	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障制度の体系などを整理する。
第 2 回	社会保険・公的扶助・社会手当のそれぞれの役割	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	各制度の役割の違いを整理する。
第 3 回	社会保障制度の財源： 社会保障給付費、財源構成	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	財源構成や年次推移などのポイントを理解する。
第 4 回	社会保障の実施体制	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障をめぐる財政の流れを整理する。
第 5 回	少子高齢化・雇用と社会保障： 人口問題、少子高齢化の状況	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	少子高齢化の状況や問題点をまとめる。
第 6 回	労働環境の変化、働き方の多様化	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	働き方による格差や雇用にかかわる様々な問題点を整理する。
第 7 回	社会保障制度の発達： 社会保障制度の成立の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障制度の歴史の大きな流れを整理する。
第 8 回	日本の社会保障制度の発展	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	日本の制度の変遷を整理する。
第 9 回	年金保険制度の概要と沿革： 年金保険制度の構造	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	年金制度の役割や体系を整理する。
第 10 回	年金保険制度の歴史	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。

		事後学習	年金制度の沿革を整理する。
第 11 回	国民年金（基礎年金）制度： 国民年金制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 12 回	国民年金基金	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民年金との関わりを意識しながら、国民年金基金の役割を整理する。
第 13 回	厚生年金保険制度： 厚生年金保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	厚生年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 14 回	年金保険制度の保険給付と旧共済年金の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	他の年金制度と比較しながら、旧共済年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 15 回	医療保険制度の概要と沿革： 医療保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	医療保険制度の役割や体系を整理する。
第 16 回	医療保険制度の歴史	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	医療保険制度の沿革をまとめる。
第 17 回	健康保険制度： 健康保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	健康保険制度の被保険者や保険料などについて整理する。
第 18 回	健康保険制度の給付	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	健康保険制度の給付内容を整理する。
第 19 回	国民健康保険制度・高齢者医療制度： 国民健康保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民健康保険制度の被保険者や保険料について整理する。
第 20 回	高齢者医療制度の概要、その他の公的医療保険制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	高齢者医療制度の被保険者や給付内容などを整理する。
第 21 回	介護保険制度： 介護保険制度の沿革と概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	介護保険制度の沿革をまとめ、被保険者や制度の概要を整理する。
第 22 回	介護保険制度の給付内容と制度改正	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	介護保険制度の内容や制度改正の要点をまとめる。
第 23 回	雇用保険： 雇用保険の沿革と仕組み	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	雇用保険の沿革をまとめ、被保険者や保険料について整理する。
第 24 回	雇用保険の給付および各種制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	雇用保険の給付内容などについてまとめる。
第 25 回	労災保険： 労災保険の沿革と仕組み	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	労災保険の沿革をまとめ適用労働者や保険料について整理する。
第 26 回	労災の認定と保険給付	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	労災保険の給付内容などについてまとめる。
第 27 回	諸外国の社会保障制度： 先進国の社会保障制度、主要国の年金制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	諸外国の社会保障制度の特徴をまとめる。
第 28 回	主要国の医療保障、社会保障の国際化	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	諸外国の社会保障制度の特徴をまとめる。
第 29 回	保険の意義、企業年金と社会保障の直近の動き： 民間保険と社会保障	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保険と民間保険との違いや、保険の原則についてまとめる。
第 30 回	企業年金、社会保障をめぐる直近の動き	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	企業年金などの役割についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会保障論 (4 単位)		3. 科目番号	SSMP2105
2. 授業担当教員	本沢 一善			
4. 授業形態	講義、学生発表、グループディスカッション、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は、年金、医療など 5 つの保健は社会保険として中核をなすが、他に、公的扶助 (生活保護など)、社会福祉などの科目も含み、膨大なものである点を十分自覚して履修してほしい。			
7. 講義概要	<p>本科目では、社会保障を構成している年金、医療、介護保険、労働保険などを、それぞれの沿革にまでさかのぼり、理論的に解説する。そのことにより社会福祉の現場で働く場合に必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を体得する。</p> <p>社会保障の理念や範囲、期待する社会保障の機能などは国によって異なっており、その相違が主に市場経済の構造や社会的慣行にあるとすれば、今後、わが国が豊かな社会保障を構築するためにどのような条件整備を進めていくべきかを探っていく必要がある。</p> <p>教科書をベースに、下記の講義日程に沿って授業を進める。聞き漏らし部分を含め、授業中および授業終了後等に質問する習慣を身に付け、その日のうちに不明部分を解消することが必要である。本科目の学習分野は膨大であり、講義日程に沿って授業が進行するので、後日まとめた一括つめこみは難しい。</p> <p>事前学習が済んでいることが前提であるから、説明は要点のみとなる。黒板への原則、板書は行わない。論点のいくつかに関して、学生による事前学習成果の発表と質疑討論を授業に組み入れる。</p> <p>制度知識を確実なものとするため、社会福祉士国家試験の過去問等を活用してのグループ討議を行う。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の基本理念と役割を理解し、文章で説明できるようになる。 2 社会保障の各制度について、その適用や給付にとどまらず、運営の仕組みや財源確保の仕組みについても、わかりやすい自分の言葉で口頭説明できるようになる。 3 少子高齢化、政府財政悪化、企業福祉後といった環境変化の中で、社会保障制度の持続性を確保するには何が求められ、国民としてどう行動すべきなのかについて、自身の分析と対案を提示できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。</p> <p>事前・事後学習の提出についても、採点・返却をする。</p> <p>授業進行のなかで120分以上をとり項目を選ぶグループ学習を行う。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 学内作成のオリジナル教科書</p> <p>【参考書】 『新・社会福祉要説』『保育児童福祉要説』『教職科目要説 (初等教育編・中等教育編)』。</p>			
11. 成績評価の方法	授業態度 (質問、積極的参加度) 20%、試験・レポート・事前・事後学習の提出 80%、計 100% で評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・復習をし、疑問を次回に質問し、次回の予定の項目につき、一覧しておくこと。 ・授業態度の悪い学生 (おしゃべり、授業をぬけ出る、教科書持参せずなど) はチェックし、評価にカウントする。 			
13. オフィスアワー	授業前と授業後に行う。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	社会保障の概念、理念	事前学習	「第 1 章 1 (1) 概念、(2) 理念」を熟読し、原則 A4 用紙 (表) にまとめる。	
		事後学習	「憲法第 2 5 条、社会保障の全体と税方式など」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。	
第 2 回	社会保障の概念、理念	事前学習	「第 1 章 1 (1) 概念、(2) 理念」を熟読し、原則 A4 用紙 (表) にまとめる。	
		事後学習	「憲法第 2 5 条、社会保障の全体と税方式など」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。	
第 3 回	歴史 a 欧米 b 日本	事前学習	「2 (1) 欧米 (歴史) [イギリス]、[ドイツ] など」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。	
		事後学習	「救貧法「旧」と「新」制度、(2) 日本」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。	
第 4 回	歴史 a 欧米 b 日本	事前学習	「2 (1) 欧米 (歴史) [イギリス]、[ドイツ] など」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。	
		事後学習	「救貧法「旧」と「新」制度、(2) 日本」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。	
第 5 回	社会保障 a 体系 b 社会保険 c 機能	事前学習	「3 (1) 体系、(3) 社会保険について」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。	
		事後学習	「3 (2) 給付内容による種類、4 社会保障の機能、5 公的扶助、6 社会福祉、7 社会手当」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。	
第 6 回	社会保障 a 体系 b 社会保険 c 機能	事前学習	「3 (1) 体系、(3) 社会保険について」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。	
		事後学習	「3 (2) 給付内容による種類、4 社会保障の機能、5 公的扶助、6 社会福祉、7 社会手当」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。	
第 7 回	年金保険 1 a 歴史 b 国民年金	事前学習	「第 2 章 1 (1) 年金制度の沿革」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。	

		事後学習	「(2)国民年金(老齢基礎年金)①加入、②保険料、③資格期間」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第8回	年金保険1 a 歴史 b 国民年金	事前学習	「第2章 1(1)年金制度の沿革」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(2)国民年金(老齢基礎年金)①加入、②保険料、③資格期間」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第9回	年金保険2 c 厚生年金	事前学習	「(3)厚生年金①加入、②支給年齢」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「③年金額、在職老齢年金」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第10回	年金保険2 c 厚生年金	事前学習	「(3)厚生年金①加入、②支給年齢」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「③年金額、在職老齢年金」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第11回	年金保険3 d 障害年金 e 遺族年金	事前学習	「(4)障害年金①国民年金、(5)遺族年金①国民年金」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(4)障害年金②厚生年金、(5)遺族年金②厚生年金、◎不服申立」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第12回	年金保険3 d 障害年金 e 遺族年金	事前学習	「(4)障害年金①国民年金、(5)遺族年金①国民年金」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(4)障害年金②厚生年金、(5)遺族年金②厚生年金、◎不服申立」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第13回	医療保険1 a 歴史 b 改正	事前学習	「2(1)医療保険の概要と沿革」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「2(2)体系と内容」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第14回	医療保険1 a 歴史 b 改正	事前学習	「2(1)医療保険の概要と沿革」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「2(2)体系と内容」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第15回	医療保険2 c 内容 d 課題	事前学習	「(3)①医療費の流れ、(4)公費負担医療」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(3)②医療保険の給付、(3)③不服申立て、(5)今後の課題」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第16回	医療保険2 c 内容 d 課題	事前学習	「(3)①医療費の流れ、(4)公費負担医療」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(3)②医療保険の給付、(3)③不服申立て、(5)今後の課題」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第17回	介護保険1 a 歴史 b 改正	事前学習	「3(1)制度創設(介護)と2005年改正」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「老人保健法」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第18回	介護保険1 a 歴史 b 改正	事前学習	「3(1)制度創設(介護)と2005年改正」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「老人保健法」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第19回	介護保険2 c 体系 d 内容	事前学習	「(2)制度の体系、(4)要介護認定」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(3)費用負担、(5)サービスの給付、(8)不服申立て」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第20回	介護保険2 c 体系 d 内容	事前学習	「(2)制度の体系、(4)要介護認定」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(3)費用負担、(5)サービスの給付、(8)不服申立て」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第21回	労働災害補償保険 a 歴史 b 内容	事前学習	「第3章 1(1)労災保険の意義、(3)①保険者と加入者」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(3)②費用の負担、③労災の判断、(4)不服申立て」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第22回	労働災害補償保険 a 歴史 b 内容	事前学習	「第3章 1(1)労災保険の意義、(3)①保険者と加入者」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(3)②費用の負担、③労災の判断、(4)不服申

			立て」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 23 回	雇用保険 a 歴史 b 内容	事前学習	「2 (1)制度 (雇用保険) の沿革、(2)②保険者、⑤費用の負担」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(3) 給付、(4) 今後の課題、3 社会保険の実施体制」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 24 回	雇用保険 a 歴史 b 内容	事前学習	「2 (1)制度 (雇用保険) の沿革、(2)②保険者、⑤費用の負担」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「(3) 給付、(4) 今後の課題、3 社会保険の実施体制」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 25 回	民間保険 a 社会保険とのちがい b 個人保険 c 企業保険	事前学習	「第 4 章 1 (1)民間保険と社会保険」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「1 (2)企業年金と個人年金、(4)生命保険、(5)損害保険」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 26 回	民間保険 a 社会保険とのちがい b 個人保険 c 企業保険	事前学習	「第 4 章 1 (1)民間保険と社会保険」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「1 (2)企業年金と個人年金、(4)生命保険、(5)損害保険」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 27 回	外国の社会保障	事前学習	「2 (1)外国の高齢化と合計特殊出生率、(3)アメリカ」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「2 (2)外国の社会保障費の負担、(4)イギリス、(5)ドイツ」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 28 回	外国の社会保障	事前学習	「2 (1)外国の高齢化と合計特殊出生率、(3)アメリカ」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「2 (2)外国の社会保障費の負担、(4)イギリス、(5)ドイツ」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 29 回	総合まとめ	事前学習	【国試対策】大事だと思う問題を 30 選び、全員に解答させ、解説につき、ディスカッションをする。
		事後学習	総合まとめ
第 30 回	総合まとめ	事前学習	【国試対策】大事だと思う問題を 30 選び、全員に解答させ、解説につき、ディスカッションをする。
		事後学習	総合まとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	就労支援 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3102 PSMP3402
2. 授業担当教員	白井 絵里子		
4. 授業形態	講義・ディスカッション等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会福祉士が行う相談援助業務の一部として位置づけられる就労支援は、福祉サービスの利用者として位置づけられてきた人々が広い意味での「就労」を通して自立や社会参加を実現していくための支援として重要性を増している。</p> <p>この授業では、テキストを使用して就労支援に係る関係法規や制度、就労支援に関わる組織・団体や専門職についての知識を習得する。</p> <p>就労支援に関する基本的な内容を理解したうえで、就労支援が実際にどのように行われているのかを具体的な事例をもとに学習し、応用力を養っていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労支援が求められる背景について理解し、説明することができる。 2. 労働施策の概要について理解し、説明することができる。 3. 就労支援制度について理解し、説明することができる。 4. 就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解し、説明することができる。 5. 就労支援における支援のプロセスについて理解し、説明することができる。 6. 就労支援を行ううえで社会福祉専門職に求められる価値観、視点、態度について理解し、自分の言葉でまとめることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解度を把握するため、夏季休暇終了時にレポート (3000 字程度) の提出を求める。 2. 授業内容の定着度を確認するため、第 15 回授業内でレポートを作成する。 上記のレポート課題については授業の中で指示する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 朝日雅也・布川日佐史編著 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック第 16 巻 就労支援 (第 2 版)』ミネルヴァ書房、2013 年。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座第 18 巻 就労支援サービス (第 3 版)』中央法規、2013 年。 この他、必要に応じて参考資料等を使用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 20% 2. 夏季休暇終了後の課題レポート 40% 3. 授業内レポート 40% <p>遅刻、早退は 3 回で 1 回欠席とします。私語、携帯電話の使用、無断退出等、他の学生に迷惑がかかる行為は減点の対象とします。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>就労支援の意義や内容、課題についてより深く理解するために、関連領域 (障害者福祉論、公的扶助論等) で学習した内容と関連づけて学習するようにしましょう。社会情勢に合わせて就労環境は変化していくので、就労環境をとりまくさまざまな動きにも着目しておくことが必要です。</p> <p>また、学習を通して、自らの「就労」に対する考え方に向き合ってください。その経験が、社会福祉専門職として就労支援を実践する際に活かされると思います。</p> <p>履修にあたっては、真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことを期待します。シラバスに記載してある事前学習を必ずしておいてください。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際にお伝えします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義の概要、学習目標、講義の進め方についての説明) テキスト序章「社会福祉士と就労支援」 —社会福祉士に就労支援が求められる背景と就労支援を行う際の視点について学ぶ	事前学習	シラバスとテキスト序章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 2 回	テキスト第 1 章「就労支援とは」 —就労支援の基本的な視点とソーシャルワークとの関係について学ぶ	事前学習	テキスト第 1 章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 3 回	テキスト第 2 章「現代社会の労働市場と労働法規」 第 1 節～第 4 節 —今日の労働をとりまく状況について学ぶ	事前学習	テキスト第 2 章第 1 節～第 4 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 4 回	テキスト第 2 章「現代社会の労働市場と労働法規」 第 5 節 —労働法規について学ぶ	事前学習	テキスト第 2 章第 5 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 5 回	テキスト第 3 章「就労支援の実施体制」 —就労支援の実施体制や就労支援に関わる専門職について学ぶ	事前学習	テキスト第 3 章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 6 回	テキスト第 4 章「障害のある人への就労支援」第 1 節 —障害者の就労をとりまく情勢と障害者の雇用に関わる法律について学ぶ	事前学習	テキスト第 4 章第 1 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 7 回	テキスト第 4 章「障害のある人への就労支援」第 2 節、第 4 節 —障害者福祉施策における就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 4 章第 2 節、第 4 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。

第 8 回	テキスト第 4 章「障害のある人への就労支援」第 3 節、第 5 節 —障害者雇用施策における就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 4 章 3 節、第 5 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 9 回	テキスト第 4 章「障害のある人への就労支援」第 6 節、第 7 節 —障害者への就労支援における実態と今後の課題について学ぶ	事前学習	テキスト第 4 章 6 節、第 7 節を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 10 回	テキスト第 5 章「低所得者への就労支援」 —低所得者への就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 5 章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 11 回	テキスト第 6 章「母子家庭の母への就業支援」 —ひとり親家庭への就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 6 章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 12 回	テキスト第 7 章「ホームレスへの就労支援」 —ホームレスへの就労支援について学ぶ	事前学習	テキスト第 7 章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 13 回	就労支援をめぐる今日的な動きについて学ぶ	事前学習	事前に配布する資料を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 14 回	テキスト終章「これからの就労支援と社会福祉士」 —就労支援を行う際に求められる社会福祉士の役割について学ぶ	事前学習	テキスト終章を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項（重要項目、キーワード等）についてまとめる。
第 15 回	これまで学習してきた内容についての確認 (授業内でレポートを作成)	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分であると思われる点について参考書等を活用して知識の補足をしておく。
		事後学習	レポート作成を通して考察した就労支援の意義と役割を実践するために、自らが今後取り組むべき課題はどのようなものかを明確にしておく。

1. 科目名 (単位数)	就労支援 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3102
2. 授業担当教員	小金澤 嘉		SCMP3302
4. 授業形態	講義・ディスカッション等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会福祉士が行う相談援助業務の一部として位置づけられる就労支援は、福祉サービスの利用者として位置づけられてきた人々が広い意味での「就労」を通して自立や社会参加を実現していくための支援として重要性を増している。</p> <p>この授業では、テキストを使用して就労支援に係る関係法規や制度、就労支援に関わる組織・団体や専門職についての知識を習得する。</p> <p>就労支援に関する基本的な内容を理解したうえで、就労支援が実際にどのように行われているのかを具体的な事例をもとに学習し、応用力を養っていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労支援が求められる背景について理解し、説明することができる。 2. 労働施策の概要について理解し、説明することができる。 3. 就労支援制度について理解し、説明することができる。 4. 就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解し、説明することができる。 5. 就労支援における支援のプロセスについて理解し、説明することができる。 6. 就労支援を行ううえで社会福祉専門職に求められる価値観、視点、態度について理解し、自分の言葉でまとめることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>レポート1) 障害者への就労支援の事例を一つ選び、専門機関が行う就労支援サービスの実際を2500字程度で述べなさい。</p> <p>ポイント：制度・サービスを覚えるだけでなく、クライアントのニーズに対して社会資源を使った支援方法を理解し説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 朝日雅也・布川日佐史編著 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック第 16 巻 就労支援 (第 2 版)』ミネルヴァ書房、2013 年。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座第 18 巻 就労支援サービス (第 3 版)』中央法規、2013 年。 この他、必要に応じて参考資料等を使用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート 50%</p> <p>試験 50%</p> <p>遅刻・早退は 30 分までとし、出席が 3/4 に満たない場合は単位を行わない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>クライアントを支援する上で社会資源の理解は必須になります。その上で、クライアントの就労ニーズを把握し、エンパワーしながら社会資源を利用することが求められます。「知っている」だけでなく「使える」までイメージ出来るようになります。</p> <p>また、社会情勢に合わせて就労環境は変化し、就労ニーズも変化します。現在の就労環境を関連づけながら理解しましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業全体の流れ 就労をどう考えるか 働く事の意味と社会福祉士の役割	事前学習	「働くこと」からイメージすることを考える。
		事後学習	就労の意味についてまとめる。
第 2 回	障害者の就労支援 (1) 障害者の就労とその現状 障害者自立支援法や障害者雇用促進法による支援の 現状	事前学習	障害者雇用促進法についてまとめておく。
		事後学習	障害者の就労状況についてまとめる。
第 3 回	障害者の就労支援 (2) 就労支援機関と制度 (障害 者雇用施策)、障害者就労支援におけるサービス体系	事前学習	障害者自立支援法におけるサービスを調べる。
		事後学習	障害者就労支援の概要についてまとめる。
第 4 回	障害者の就労支援 (3) 就労支援機関と制度 障害者自立支援法における障害者の就労支援制度	事前学習	就労移行支援、就労継続支援について調べる。
		事後学習	就労移行支援、就労継続支援についてまとめる。
第 5 回	障害者の就労支援 (4) 障害者雇用政策における就 労支援、専門職の役割	事前学習	機関・施設に配置されている専門職について調べる。
		事後学習	専門職の役割についてまとめる。
第 6 回	障害者の就労支援 (5) 民間の取り組み 差別禁止法と雇用率制度	事前学習	差別禁止法について調べる。
		事後学習	差別禁止法と雇用率制度の長所と短所についてまとめる。
第 7 回	障害者の就労支援についてまとめ、説明する 障害者の就労支援の実際 (事例を基に理解する)	事前学習	障害者の就労支援についてまとめ、説明できるようにする。
		事後学習	事例から気づいたことをまとめる。
第 8 回	労働を取り巻く状況 労働市場の変化	事前学習	大学新卒の就職率を調べる。
		事後学習	ワーク・ライフ・バランスについてまとめる。
第 9 回	労働政策の概要 労働に関する法規の動向、労働に関する公的保険	事前学習	労働法規に関する法律を調べる。
		事後学習	労働法規の内容をまとめる。
第 10 回	労働市場の変化、ワーク・ライフ・バランス、労働法 規・労働に関する公的保険についてまとめ、説明する、 事例を基に労働紛争の実際を考える	事前学習	労働法規についてまとめ、説明できるようにする。
		事後学習	労働者を守るための制度についてまとめる。
第 11 回	生活保護制度における就労支援 (1) 低所得者への就労支援の現状・就労支援機関と制度	事前学習	生活保護受給者、母子家庭の現状について調べる
		事後学習	低所得者の就労支援制度についてまとめる。

平成 28 年度

第 1 2 回	生活保護制度における就労支援 (2) 専門職・団体の役割とその連携、今後の展望	事前学習	福祉事務所・ハローワークの役割について調べる。
		事後学習	低所得者の就労支援の課題についてまとめる。
第 1 3 回	低所得者に対する就労支援の制度についてまとめ、説明する、低所得者に対する就労支援を事例を使い考察する	事前学習	低所得者に対する就労支援制度についてまとめ、説明できるようにする。
		事後学習	考察についてまとめる。
第 1 4 回	就労支援におけるケアマネジメント、ネットワークの有用性と社会資源としての活用	事前学習	ケアマネジメントの理論についてまとめる。
		事後学習	就労支援におけるケアマネジメントをまとめる。
第 1 5 回	連携・ネットワークングの実際、ジョブコーチ	事前学習	ジョブコーチについて調べる。
		事後学習	ジョブコーチモデルについてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害児教育課程論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3452 SCMP3452 SBMP3452
2. 授業担当教員	金川 朋子			
4. 授業形態	講義・演習 講義による基礎理論の習得に基づき、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履習者同士の実践的な学び合いを重視します。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	教育課程とは、学校の教育目標の具現化をめざし、指導内容を総合的に組織した学校の教育計画であり、指導計画を具体化したものである。特別支援学校においてはその教育目的が学校教育法第 72 条において「障害による学習上または生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けること」となっている。特別支援学校、特別支援学級における教育課程の構成、具体的な指導内容について検討し、学習指導要領に基づいた教育実践について理解し、指導実践力を高める。			
8. 学習目標	以下に関して学習し理解を深め、指導実践力を高める。 1. 障害に応じた特別支援学校の教育課程について理解し、説明できる。 2. 教科別の指導、領域別の指導内容について理解し、説明できる。 3. 「領域・教科を合わせた指導」の種類や特徴、具体的な指導内容について理解し、説明できる。 4. 「自立活動」の目標及び内容について理解し、個に応じた授業内容等を計画できる。 5. 個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成及び活用について理解し、作成する事ができる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 1 全国特別支援学校知的障害教育校長会編著『新しい教育課程と学習活動 Q & A 特別支援教育[知的障害教育]』東洋館出版社。 2 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則等編 (幼稚部・小学部・中学部・高等部)』。 3 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部・高等部)』。 【参考資料】 東京福祉大学編著『教職科目要説』ミネルヴァ書房。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)			
12. 受講生へのメッセージ	「教育課程」とは年間の授業計画のみを指し示すものではなく、学校経営に係るすべての教育活動を組み合わせた全体計画がしめされているものです。特別支援学校に勤務していた経験に基づき、実践的な力を育て、様々な事柄、情報についてわかりやすく説明したいと考えています。 1. 講義が終わったら後に、毎回レポートを提出。 2. 実技を通して、理論と実践を結び付けながら授業を行います。 3. 学び、高めあえる授業づくりを一緒に作り上げていきましょう。			
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義でお知らせします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	①オリエンテーション ②「教育課程」とは	事前学習	「教育課程」について、教科書・インターネット等で調べ、まとめておく。	
		事後学習	「特別支援学校の教育課程」について、まとめる。	
第 2 回	特別支援教育の教育課程 (1) ー 準ずる教育とはー	事前学習	「準ずる教育」について考え、教科書やインターネット等で情報を集め、まとめる。	
		事後学習	特別支援教育における「準ずる教育」について、意味をまとめる。	
第 3 回	特別支援教育の教育課程 (2) ー 学習指導要領の変遷ー	事前学習	特別支援教育における「自立活動」の変遷について、調べる。	
		事後学習	特別支援教育における「自立活動」の区分のその内容についてまとめる。	
第 4 回	特別支援教育の教育課程 (3) ー 生きる力をはぐむ教育ー	事前学習	学習指導要領における「生きる力」とは何か、考える。	
		事後学習	特別支援教育における「生きる力をはぐむ教育」とは何かを、まとめる。	
第 5 回	特別支援教育の教育課程 (4) ー 重度重複・多様化等への対応ー	事前学習	障害の重度重複・多様化の状況について、教科書インターネット等で調べ、まとめる。	
		事後学習	特別支援教育における重度重複・多様化等への対応の在り方をまとめる。	
第 6 回	特別支援教育の教育課程 (5) ー 各校種・各学部に応じた教育課程ー	事前学習	「各校種・各学部に応じた教育課程」について、教科書・インターネット等で調べる。	
		事後学習	「各校種・各学部に応じた教育課程」の在り方について、まとめる。	
第 7 回	領域・教科を合わせた指導 (1)	事前学習	「日常生活の指導」「遊びの指導」について、	

	－「日常生活の指導」、「遊びの指導」－		教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「日常生活の指導」「遊びの指導」の具体的な指導・内容についてまとめる。
第 8 回	領域・教科を合わせた指導（2） －生活単元学習・作業学習－	事前学習	、「生活単元学習」「作業学習」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「生活単元学習」「作業学習」の具体的な指導・内容についてまとめる。
第 9 回	領域・教科を合わせた指導（3） －道徳・総合的な学習・特別活動と学校行事－	事前学習	「道徳・総合的な学習・特別活動」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「道徳・総合的な学習・特別活動」の具体的な指導・内容についてまとめる。
第 10 回	領域・教科を合わせた指導（4） －自立活動－	事前学習	「自立活動」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「自立活動」の具体的な指導・内容についてまとめる。
第 11 回	特別支援教育の実際に学ぶ －特別支援学校等の学外施設見学もしくは外部講師による講義－※相手先の都合により変更の可能性あり	事前学習	事前に配付する資料を読み、特別支援教育の教育課程に関する疑問点をまとめる。
		事後学習	特別支援教育の教育課程について、学んだ事をまとめる。
第 12 回	個別の指導計画、教育支援計画について② －アセスメント、保護者の願い、作成－	事前学習	「個別の指導計画」「教育支援計画」に記入する内容を調べてまとめる。
		事後学習	「個別の指導計画」「教育支援計画」の作成におけるアセスメントの意義をまとめる。
第 13 回	個別の指導計画、教育支援計画について② －保護者・関係機関との連携－	事前学習	「個別の指導計画・教育支援計画」の作成における連携の在り方について調べる。
		事後学習	「個別の指導計画・教育支援計画」の作成における連携の意義についてまとめる。
第 14 回	高等学校等における特別支援教育	事前学習	高等学校等における特別支援教育の在り方について、調べる。
		事後学習	高等学校等における特別支援教育の在り方と課題をまとめる。
第 15 回	まとめ グループワーク 障害児教育の教育課程	事前学習	全講義を通じて関心が高かったテーマを選び、それになぜ関心を持ったのか、を説明できるように準備する。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート（800～1000字）を作成し提出する。

1. 科目名 (単位数)	障害児教育論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2449 SCMP2449 SSMP2449
2. 授業担当教員	金川 朋子		
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>リハビリテーションとノーマライゼーションの国際的進展を背景とするインクルーシブ教育に関しては、わが国でも課題となり、教育制度の大幅な見直しとしてなされようとしている。これをふまえ、以下に関して理解を深め学習する。</p> <p>①障害児教育のあゆみ ②障害児・者の状況と我が国の教育制度 ③知的障害者の理解と指導 ④肢体不自由者の理解と指導 ⑤病弱者の理解と指導 ⑥視覚・聴覚障害者の理解と指導 ⑦重度重複障害・LD等の理解と指導 ⑧教育課程について</p> <p>さらに、就学前や就学期はもとより将来の本人の自立・社会参加を念頭に置いた新たな教師の役割を理解する。</p>		
8. 学習目標	<p>以下に関して学習し理解を深め、説明することができる。</p> <p>1. 特別支援教育の基本ー障害とはーについて 2. 特別支援教育の歴史について 3. 障害児の発達特性と教育方法について 4. 発達障害のある子どもの理解と教育支援について 5. 特別支援教育における教育課程について 6. 障害児の発達のアセスメントと支援について 7. 特別支援教育に関わる教師や療育の専門家について 8. 特別支援教育の課題について</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 国立特別支援教育総合研究所著『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』ジアース教育新社。</p> <p>【参考書】 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚園・小学部・中学部)』教育出版。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部・高等部)』海文堂。 小林芳文『ムーブメント教育・療法による発達支援ステップガイド』日本文化科学社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>全ての校種で子どもの教育に携わる教員には、特別支援教育についての知識・理解に基づいた指導実践力が求められています。子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応できる教員をめざして欲しいと思います。教育の原点と言われる特別支援教育について、共に学んでいきましょう。</p> <p>1. 講義が終わったら後に、レポートを提出。 2. 実技を通して、理論と実践を結び付けながら授業を行います。 3. 学び、高めあえる授業づくりを一緒に作り上げていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義で詳細を伝えます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	①オリエンテーション ②特別支援教育の基本 (1) 「障害児教育」とは	事前学習	「障害児教育」に関する経験や関わった内容等についてまとめる。
		事後学習	「障害児教育」と「特別支援教育」との違いについてまとめる。
第 2 回	①特別支援教育の基本 (2) 「特別支援教育の基本的な考え方」 ②子どもの発達 (1) 「子どもの発達について」	事前学習	「子どもの発達」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「子どもの発達と障害児教育」について、学んだ事をまとめる。
第 3 回	①特別支援教育の基本 (3) 「特別支援教育にかかわる制度」 ②子どもの発達 (2) 「ムーブメント教育の理論」	事前学習	「障害のある子どもの教育 (校種及び対象児童生徒等) にいて調べまとめる。
		事後学習	「特別支援学校と特別支援学級の役割」をまとめる。

第 4 回	①特別支援教育の基本 (4)「教育課程」 ②子どもの発達 (3)「ムーブメント教育による発達支援」 (タオル①)	事前学習	「特別支援学校の教育課程」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「自立活動」のねらいとその内容について、まとめる。
第 5 回	①特別支援教育の基本 (5)「アセスメント」について ②子どもの発達 (4)「ムーブメント教育による発達支援」 (実技：タオル②)	事前学習	「障害児教育において行われている「アセスメント」について調べる。
		事後学習	「障害児教育における「アセスメント」の意義をまとめる。
第 6 回	①特別支援教育の基本 (6)「発達障害」について ②子どもの発達 (5)「ムーブメント教育による発達支援」 (実技：カラーロープ①)	事前学習	「発達障害」の定義について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「発達障害」の定義とその特徴についてまとめる。
第 7 回	①特別支援教育の基礎 (7) 障害種別の特別支援学校 ②子どもの発達 (6)「ムーブメント教育による発達支援」 (実技：カラーロープ②)	事前学習	「特別支援学校」の校種について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「特別支援学校の教育と役割」についてまとめる。
第 8 回	①特別支援教育の基礎 (8) 個別の教育支援計画 ②子どもの発達 (7)「ムーブメント教育による発達支援」 (実技：プレイバンド①)	事前学習	「個別の教育支援計画」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「個別の教育支援計画」の意義についてまとめる。
第 9 回	①小・中学校における特別支援教育 ②子どもの発達 (8)「ムーブメント教育による発達支援」 (実技：プレイバンド②)	事前学習	「教育におけるユニバーサルデザイン」について、調べる。
		事後学習	「教育におけるユニバーサルデザイン」についてまとめる。
第 10 回	障害児のある子どもの教育 ー障害のある子どものための学外施設見学もしくは外部講師による講義ー※都合により変更の可能性あり	事前学習	事前に配布した資料を読み、障害児教育について、学びたいことをまとめる
		事後学習	障害児のある子どもの教育的支援について、学んだ事をまとめる。
第 11 回	障害のある子どもの教育 (1) グループワーク① ポスター作成	事前学習	グループワークで取り組むテーマについて、インターネット情報を調べる。
		事後学習	グループワークで取り組むテーマについて、インターネット情報を調べる。
第 12 回	障害のある子どもの教育 (2) グループワーク② ポスター作成	事前学習	グループワークで取り組むテーマについて、文インターネット情報を調べる。
		事後学習	グループワークで取り組むテーマについて、インターネット情報を調べる。
第 13 回	障害のある子どもの教育 (3) グループワーク③ ポスター発表	事前学習	ポスター発表での役割理解、発表原稿等を準備する。
		事後学習	ポスター発表を振り返り、よかった点と課題をまとめる。
第 14 回	障害のある子どもの教育 (4) グループワーク④ ポスター発表	事前学習	ポスター発表での役割理解、発表原稿等を準備する。
		事後学習	ポスター発表を振り返り、よかった点と課題をまとめる。
第 15 回	まとめ 障害児教育の在り方について	事前学習	「障害児教育において大切なこと」について考える。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート (800~1000 字) を作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	障害児・者の心理 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3332 SCMP3332 SBMP3332 EDPS3304
2. 授業担当教員	新井 良保		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	様々な障害の特性によってもたらされる様々な心理的影響を知り、併せて、それぞれの障害を持つことでの発達段階に応じた心理的影響も理解する。また、障害を持つ当事者だけでなく、その人を取り巻く家族の心理を理解する。そして、障害の特性に応じた心理的援助のあり方について学ぶ。		
8. 学習目標	1. 様々な障害の種類について理解し、一般的な心理的傾向を把握し、説明することができる。 2. 障害児・者を持った家族の心理を理解し、説明することができる。 3. 障害受容の一般的な過程とその実態について理解し、説明することができる。 4. 障害に種別に応じた援助のあり方を理解し、自分の考えを述べるることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート課題 (詳細は授業で。) 小テスト (授業におけるキーワード・要点等の理解について随時実施する。) グループワーク・発表 (詳細は授業で。)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小林芳文・新井良保 (他著) 『障がいの重い児 (者) が求めるムーブメントプログラム』 文教資料協会 その他、適宜プリント教材を配付する。		
11. 成績評価の方法	1 期末レポート課題 50% 2 小テスト 30% 3 グループワーク・発表 20%		
12. 受講生への メッセージ	私は約 30 年間、養護学校教諭として学んだことで、良かったと実感することがあります。それは、言葉以外の方法でも人とのコミュニケーションが取れるということです。そのことを重い障がいを持った子どもから教えてもらったことです。皆さんも実際に関わってそのことを体験してみてください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	WHO にみる障害の捉え方の変化 レポート作成	事前学習	ICF (国際生活機能分類) について 200 字程度にまとめる。
		事後学習	授業において配付した資料に基づき、要点・キーワードを確認
第 2 回	肢体不自由児の理解と支援	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認。
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 3 回	知的障がい児の理解と支援	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認。
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 4 回	発達障がい児の理解と支援 小テスト	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 5 回	心身障がい児のアセスメント (MEPA-II R) グループワーク・発表	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 6 回	心身障がい児の指導法 (ムーブメント教育・療法) グループワーク・発表	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 7 回	心身障がい児の知っておきたい健康情報 (医学的知識)	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 8 回	心身障がい児の IEP (個別の指導計画) 小テスト	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 9 回	重度重複障がい児の感覚運動指導 (実践事例) グループワーク・発表	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。

第 10 回	重度重複障がい児のコミュニケーション支援	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 11 回	家族支援に生かしたムーブメント法の活用事例 —17 年間に渡る MEPA-II の記録を通して— グループワーク・発表	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 12 回	ムーブメント法による支援の実際① 小テスト	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 13 回	ムーブメント法による支援の実際②	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 14 回	保護者から学んだこと —養護学校教員 30 年を振り返り— グループワーク・発表	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。
第 15 回	心身障がい児と特別支援教育 レポート課題	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づき 要点・キーワードを確認
		事後学習	要点・キーワードの理解を確認する振り返り 授業の準備。

1. 科目名 (単位数)	障害児療育 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2341 SCMP2341 SBMP2341 SJMP2119
2. 授業担当教員	齋藤 厚子		
4. 授業形態	講義、DVD視聴、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>「療育」という用語は、狭義には障害の早期発見から就学までの取り組みの意味で使われ、広義には成人の生活支援も含み、医療・福祉・教育にまたがる分野で使われている。近年、明確な診断のない「気になる」子どもや被虐待児もその対象となり、ノーマライゼーションの理念の理解とともに発達や障害についての幅広い知識が必要となるばかりか、親支援や地域の子育て支援も保育士の重要な役割となっている。</p> <p>本科目では、知的障害、肢体不自由、視覚障害や聴覚障害、自閉症スペクトラムを含む発達障害、診断はないが「気になる」子どもを対象に、年齢は乳幼児から成人まで、場所は一般の保育所のみならず、病院内保育、施設内保育等、幅広い視野で「療育」を捉え、保育士としての専門性を培う。</p>		
8. 学習目標	<p>統合保育の場では、障害のある子どもやその子を支える家族の生活・心情をふまえた支援ができるとともに、障害のない子どもへの配慮や教育もできるようになる。また、専門機関においても、保育士としての専門性を発揮して、医療・福祉の専門化と連携して適切な支援ができるようになる。</p> <p>① 幅広い対象、場、形態に及ぶ「療育」の理念や概念について知る。 ② 障害に関する医療・社会福祉・教育の制度についての基礎知識を身に付ける。 ③ 障害のある子どものいる家族の生活や心情について共感できるようになる。 ④ 発達とその順序性についての基礎知識を基盤に、障害のある子どもの育ちに見通しをつけられるようになる。 ⑤ 様々な専門家の役割を知って、障害のある子どもや保護者を中心とした連携・協働ができるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>1. 授業の内容についてミニテストを実施します。レジュメ・ノートにて予習、復習を行ってください。 2. 障害の特徴などについてグループごとにテーマを決めて調べ発表を行います。 3. テスト 事例レポートを実施します (詳細は授業にて)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 指定しません。レジュメ、資料を使用します。※レジュメをファイルするフォルダーを用意すること。 【参考書】 小林保子・立松英子『保育者のための障害児療育 理論と実践をつなぐ』学術出版会。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』、中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (積極的参加度 グループ学習での取り組み姿勢)、試験・レポート等を総合的に評価 授業参加態度 グループ活動参加度 40% 授業時レポート・ミニテスト 20% テスト 40%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>授業を通して学ぶ知識や考える力、他者と協力する姿勢など全てが将来の障害児支援の専門職としての実践力につながります。そしてその実践力が、子どもたちの可能性を広げます。そのような将来への視点を持って授業に臨んでください。</p>		
13. オフィスアワー	後日インフォメーションします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・授業概要 ・評価基準の説明 ・グループ作りとグループ課題の説明	事前学習	シラバスを読み授業概要を理解しておく。※レジュメをファイルするフォルダーを用意すること。
		事後学習	グループ課題に関する書籍など資料を探しておく。
第 2 回	DVD 視聴を通し障害の多様性について知る	事前学習	事前プリントに目を通しておく
		事後学習	DVD で学んだことについて振り返っておく。
第 3 回	障害概念の変化 ・ノーマライゼーション ・ICF ・障害児者に関する法律・福祉政策・教育施策	事前学習	3 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 4 回	知的障害児への理解と支援	事前学習	4 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 5 回	肢体不自由児への理解と支援	事前学習	5 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 6 回	聴覚障害児者への理解と支援 視覚障害児者への理解と支援	事前学習	6 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 7 回	自閉症スペクトラム障害への理解と支援	事前学習	7 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 8 回	注意欠如多動性障害への理解と支援	事前学習	8 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 9 回	学習障害への理解と支援 てんかんに対する理解と支援	事前学習	9 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 10 回	気になる子への理解と支援 家族への理解と支援	事前学習	10 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 11 回	療育とは	事前学習	11 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 12 回	支援計画の作成①脳性麻痺の A ちゃんへの支援	事前学習	12 回目のテーマについて各自調べてみる。

平成 28 年度

		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 13 回	支援計画の発表とディスカッション	事前学習	13 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 14 回	支援計画の作成②冰山モデルでの支援プラン作成	事前学習	14 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 15 回	支援計画の発表とディスカッション	事前学習	今までのテーマについて振り返っておく。
		事後学習	1～15 回までのレジュメ・ノートの内容を復習しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2101 SCMP2101 SBMP2301 PSMP2401
2. 授業担当教員	西村 明子		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>障害者を取り巻く福祉制度・政策は、日々、劇的な変化を遂げている。そして、障害者のニーズも複雑・多様化している。実践現場では、これに適切に対処することができるソーシャルワーカーが求められている。本講義においては、激しく移り変わる障害福祉制度や情勢、さらには障害者の実情について学び、ソーシャルワーカーが主体的に問題解決に取り組むことができるように知識を身につけていく。</p> <p>また、ソーシャルワーカーは多面的な視点を必要とすることから、新聞記事等、資料も用いて障害者問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ、福祉問題について共に考えていく。</p> <p>そして、障害者福祉論は、社会福祉士国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目となる。同国家試験の合格を目指すためには、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」が得点源となるような受験対策が必要となる。そのため、本講義においては、過去の国家試験を分析・検討し、それに沿った内容も講義する。</p>		
8. 学習目標	<p>障害者福祉論が終了した時点で、具体的に以下の点を理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 ・障害者福祉制度の発展過程 ・障害者自立支援制度と近年における改正状況 ・障害者福祉に関連する法令の概要 ・相談支援事業所の役割と実際 ・障害者福祉の専門職の役割と実際 ・障害者福祉の他職種連携・ネットワーキング ・障害者自立支援制度と介護保険制度の関係 ・障害者権利条約の批准 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>講義を聞いているだけでは、その内容を理解することは難しい。そのため、学生の理解度を上げるため、講義内において課題を設定し、それを行うことを予定している。</p> <p>具体的には次のような課題である。①障害者の生活実態、②障害者基本法の体系、③身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要、④障害者虐待防止法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者差別解消法の概要、⑤障害者総合支援法への改正点等</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第 5 版)』中央法規。</p> <p>参考図書等については随時提示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>①中間試験 40% ②期末試験 40% ③授業への積極的参加度及びレポート 20% ①～③を総合的に評価する。</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得を認めない。 また、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象となる。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本講義においては、学生の理解度を上げるため、さまざまな箇所において、学生の意見や感想、さらにはこれまでに学んだ福祉の知識について、質問していくという形式で講義を進めていく。その際、学生からの積極的な参加を望んでいるので、その内容が優れていると判断した場合には、大いに講義内評価として加味していく。授業の進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合もある。</p> <p>また、学生自身により講義の質を高めるため、以下の点に注意して受講しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講する。 ・理解できないことは、講義外において積極的に質問する。 ・明らかに態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。それでも改善が見られない場合には、たとえ皆出席であっても F 評価とする。 ・講義中、私語、居眠りは絶対にしてはならない。 		
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 障害者を取り巻く社会情勢と生活実態① 戦後の障害者福祉の展開・障害の理念	事前学習	教科書を準備し、シラバスに目を通してから講義へ臨むこと
		事後学習	戦後の障害者福祉の展開を理解する
第 2 回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態② 障害者権利条約批准の意味するところ 障害者の生活実態	事前学習	教科書 pp. 14～25 を熟読し、障害者の現状を理解する
		事後学習	障害者の現状について、配布プリントの復習
第 3 回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態③ 「障害」の多様な見方・国際生活機能分類 (ICF)	事前学習	教科書 pp. 26～30 を熟読し、ICF を理解する。
		事後学習	ICF と医学モデル/社会モデルについて配布プリントの復習
第 4 回	障害者にかかわる法体系① 障害者基本法の概要 障害者差別解消法と合理的配慮	事前学習	教科書 pp. 32～45・pp69～70 を熟読し、障害者基本法を理解する。
		事後学習	障害者基本法・障害者差別解消法の概要について配布プリントの復習
第 5 回	障害者にかかわる法体系② 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要と課題	事前学習	教科書 pp. 46～58 を熟読し、身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法を理解する

		事後学習	身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要について配布プリントの復習
第 6 回	障害者にかかわる法体系③ 障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法の概要と課題	事前学習	教科書 pp. 59～73 を熟読し、障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法等を理解する
		事後学習	障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法の概要について配布資料を復習
第 7 回	第 1 回から第 6 回までのまとめ・中間試験	事前学習	第 1 回～第 6 回までを復習する
		事後学習	中間試験で、出来なかったところを復習
第 8 回	障害者総合支援法の概要①	事前学習	教科書 pp. 102～104 を熟読し、障害者総合支援法の概要を理解する。
		事後学習	障害者総合支援法の概要について配布プリントの復習
第 9 回	障害者総合支援法② 支給決定のプロセス	事前学習	教科書 pp. 118～125 を熟読し、障害者総合支援法の支給決定のプロセスを理解する。
		事後学習	支給決定のプロセスについて配布プリントの復習
第 10 回	障害者総合支援法③ 自立支援給付のサービス (1) (介護給付・訓練等給付)	事前学習	教科書 pp. 105～117 を熟読し、自立支援給付のサービスを理解する
		事後学習	自立支援給付のサービスについて配布プリントの復習
第 11 回	障害者総合支援法④ 自立支援給付のサービス (2) (自立支援医療・補装具・地域相談支援)	事前学習	教科書 pp. 126～151 を熟読し、自立支援給付のサービスを理解する
		事後学習	自立支援給付のサービスについて配布プリントの復習
第 12 回	地域生活支援事業のサービス (都道府県地域生活支援事業・高次脳機能障害) 障害児に対する支援・	事前学習	教科書 pp. 132～137 を熟読し、地域生活支援事業のサービスを理解する
		事後学習	地域生活支援事業・障害児支援のサービスについて配布プリントの復習
第 13 回	ゲストスピーカーを予定	事前学習	配布する資料を通読しておく
		事後学習	ゲストスピーカーの講義をノートに整理する
第 14 回	障害者の所得保障・国家試験過去問題 (事例問題)	事前学習	教科書 pp. 78～79 を熟読し、障害者の所得保障の理解と提示した国家試験過去問題を解いてくる
		事後学習	障害者の所得保障について配布プリント・国家試験問題の復習
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書・配布したプリントを復習し、解らないところを整理しておく
		事後学習	期末試験に向けて復習
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	情報科指導法 I (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3344
2. 授業担当教員	竹内 俊彦			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義は、高等学校教諭免許状「情報」を取得しようとする学生を対象とし、高等学校・教科「情報」の指導法の基本的事項について学習する。「情報科指導法 I」では、教科「情報」の設定の趣旨や、科目のねらいを理解するとともに、情報教育の3つの目標である、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」を育成するための具体的な授業展開のしかたについて、実習を通して具体的に学習する。			
8. 学習目標	教科「情報」の成り立ちや意義、教科編成などに関して理解すると共に、情報科教員として必要な知識、技能を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1回の模擬授業と、1回以上のショートレクチャーを行います。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山極隆監修「最新社会と情報」実教出版、2015年。 山極隆監修「最新情報の科学」実教出版、2015年。 【参考書】 『高等学校学習指導要領解説情報編』文部科学省。2010年。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 40% ショートレクチャー 30% 模擬授業 30%			
12. 受講生への メッセージ	受講者の状況に応じて講義内容を変更する場合があります。なお、教育実習先に迷惑をかけないためにも、他の授業以上に、欠席や遅刻には厳しくしたいと思います。			
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示しますが、時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照してください。なおオフィスアワー以外でも時間があえば面談しますが、事前にメールで連絡をすることが望ましいです。totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション ショートレクチャーの割り当て	事前学習	シラバスと指定教科書の内容を確認し、今後の学習事項について把握する。	
		事後学習	オリエンテーションで学習した重要事項を学習ノート等に整理し、記憶の定着を促す。	
第2回	情報科教育への考え方	事前学習	これまでの、高校での情報の授業について思い出し、皆の前で発表できるようにしておく。	
		事後学習	他の学生の発表を聞いて、参考になった部分をノートにまとめる。	
第3回	教科「情報」の理念と設立の経緯	事前学習	「情報科設置の経緯と趣旨」の内容を教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「情報科設置の経緯と趣旨」を再読し、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。	
第4回	情報科の授業はどんな授業か	事前学習	教科「情報」の特徴について、教科書で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	教科「情報」の特徴について、授業中に学んだことをまとめたノートを再読し、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。	
第5回	「社会と情報」の調査(1)	事前学習	「社会と情報」の教科書を事前にざっと読み、好きなテーマの候補を決めてくる。	
		事後学習	図書館・ネットなどで「社会と情報」から選んだテーマについて、発表のための調査・発表資料を集める。	
第6回	「社会と情報」の調査(2)	事前学習	図書館・ネットなどで「社会と情報」から選んだテーマについて、発表のための調査・発表資料を集める。	
		事後学習	「社会と情報」の発表に向けたリハーサルをする。	
第7回	「社会と情報」の発表	事前学習	「社会と情報」から好きなテーマを選び、の内容を教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	発表中に教員、他の学生から言われた意見	

			を参考に、自分の発表資料を修正する。
第 8 回	「情報と科学」の調査 (1)	事前学習	「情報と科学」の教科書を事前にざっと読み、好きなテーマの候補を決めてくる。
		事後学習	図書館・ネットなどで「社会と情報」から選んだテーマについて、発表のための調査・発表資料を集める。
第 9 回	「情報と科学」の調査 (2)	事前学習	図書館・ネットなどで「社会と情報」から選んだテーマについて、発表のための調査・発表資料を集める。
		事後学習	「情報と科学」の発表に向けたリハーサルをする。
第 10 回	「情報と科学」の発表	事前学習	「情報と科学」から好きなテーマを選び、の内容を教科書及び配布資料で確認し、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	発表中に教員、他の学生から言われた意見を参考に、自分の発表資料を修正する。
第 11 回	学習指導案の作成	事前学習	学習指導案のファイルを持ち帰り、自分なりに作成して持参する。
		事後学習	授業中の指導をもとに、学習指導案をとりあえず完成させる。。
第 12 回	学習指導案についての討論・修正	事前学習	学習指導案についての討論に向けて、自分の授業案について他の人に説明する準備をする。
		事後学習	発表中に教員、他の学生から言われた意見を参考に、自分の発表資料を修正する。
第 13 回	模擬授業 (1)	事前学習	模擬授業の発表準備をする。
		事後学習	模擬授業中に教員、他の学生から言われた意見を参考に、自分の学習指導案を修正する。
第 14 回	模擬授業 (2)	事前学習	模擬授業の発表準備をする。
		事後学習	模擬授業中に教員、他の学生から言われた意見を参考に、自分の学習指導案を修正する。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容の中から理解できていない項目がないか教科書及びノート等を見直して確認する。
		事後学習	再学習があると判明した事項について理解を深め、記憶の定着を促す。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GEBS1104
2. 授業担当教員	伊達 康博		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で、テーマごとに総合的な演習を行う。 また、授業外アサイメントとして、テーマごとに課題の作成・提出を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 杉本くみ子・吉田栄子『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』実教出版、2013 年。 【教材】 USBメモリ (2 ギガバイト以上の空き容量があるもの) を 1 個用意し毎回の授業に持参。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、授業態度： 30% 課題の提出： 30% 中期達成度実技検定： 20% 最終確認実技検定： 20% 合計： 100% 以上により、本学規定に沿って総合的に評価を行う。		
12. 受講生へのメッセージ	特にレクチャー時における私語は固く厳禁とします。コンピュータを使って文書作成やデータ処理、プレゼンテーションを行うことは、好き嫌いに問わず現代社会で活躍するうえでとても重要な能力です。また、電子メールやインターネットを利用したコミュニケーションや情報収集技術も情報を得るために必要な最低限の能力です。そのため、必要事項を伝達するときに、私語は他の受講生への深刻な妨害行為となります。受講に際しては、特に予習の必要はありませんが、毎回出席することが必要です。この演習では初歩の基礎から、コンピュータの効果的な使い方を学習していきますので、全くの初心者でも何も心配ありません。大学生および社会人として必要な基本的な知識やスキルと一緒に勉強していきましょう。		
13. オフィスアワー	授業の前後に適宜設ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション：春期講義の概要、コンピュータの経験に関するアンケート、情報処理学習室の使い方 (コンピュータの起動と終了など)	事前学習	シラバスを下読みしておくこと。
		事後学習	本演習の目的を理解し、次回までに指示された学用品を準備しておくこと。
第 2 回	OS (Windows) の基本操作：ファイル操作、フォルダ操作 (ファイルの保存・読み込みなど)	事前学習	教科書で Windows の概要を下読みしておく。
		事後学習	ファイルおよびディレクトリの意味を再確認しておく。
第 3 回	WWW：ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報検索	事前学習	自らのネットの主要な用途について質問された時に必ず答えられるようにしておくこと。
		事後学習	特に著作権の事柄については必ず復習しておくこと。
第 4 回	電子メール ①：電子メールの利用方法とメールアドレスの設定方法	事前学習	メールの利便性について質問された時に必ず答えられるようにしておくこと。
		事後学習	アカウントシートの保存に留意すること。
第 5 回	電子メール ②：電子メールの送信と受信、添付ファイルの利用方法	事前学習	自分のログイン情報を覚えておくこと。
		事後学習	自分宛にメールを送り、受信する人がどのように見えているのかを確認しておくこと。
第 6 回	インターネットを取り巻く諸問題：ウイルスチェック、著作権、ネチケットなど	事前学習	著作権の事柄について予習しておくこと。
		事後学習	ノートを見返し、清書したものをメールで送信する。
第 7 回	総復習：WWW、電子メール、インターネット	事前学習	第 6 回までの内容を必ず各自で振り返っておくこと。
		事後学習	総復習した事柄をノートにまとめる。
第 8 回	Microsoft Word ①：基本操作	事前学習	Word について小・中・高校でどのような学習をしてきたのかを振り返っておくこと。
		事後学習	Word で利用できる機能や目的を再度確認して理解しておく。
第 9 回	Microsoft Word ②：文書の作成	事前学習	Word の起動を自分でできるようにしておく。
		事後学習	ローマ字入力や半角・全角の違いと切替操作を必ず理解しておくこと。

第 1 0 回	Microsoft Word ③ : 表の作成	事前学習	どのような時に表を用いると効果的かについて必ず自らで考えておくこと。
		事後学習	作表の効果について理解し、用途を考える。
第 1 1 回	Microsoft Word ④ : 文章の編集	事前学習	入力操作をできるようにしておく。
		事後学習	効果的な編集について必ず振り返ること。
第 1 2 回	Microsoft Word ⑤ : 文章の飾り付け	事前学習	なるべく早く入力できるように練習しておく。
		事後学習	装飾のバリエーションについて復習する。
第 1 3 回	Microsoft Word⑥ : その他の便利な機能	事前学習	これまで学習した機能を踏まえて、どのような機能が使えると便利なのかを考えておくこと。
		事後学習	それぞれの機能について用途を考える。
第 1 4 回	総復習 : Microsoft Word	事前学習	第 8~13 回の内容について事前に振り返る。
		事後学習	配布資料をもとに必ず操作を復習すること。
第 1 5 回	春期学期の総括	事前学習	春期を通しての資料やノートを確認すること。
		事後学習	Word の効果的な使用方法を自ら考える。
第 1 6 回	秋期講義の概要	事前学習	必ず春期までの内容を振り返り学習し、それを踏まえて秋期のシラバスを下読みすること。
		事後学習	秋期の計画の全体を理解し再確認しておく。
第 1 7 回	Microsoft PowerPoint ① : 基本操作とスライドの作成	事前学習	教科書の基本操作の項を下読みしておくこと。
		事後学習	プレゼン企画の内容を熟考しメモすること。
第 1 8 回	Microsoft PowerPoint ② : 文字の入力と図形の挿入	事前学習	著作権の学習内容を復習しておくこと。
		事後学習	効果的な図表の使い方を改めて再考すること。
第 1 9 回	Microsoft PowerPoint ③ : 効果的プレゼンテーションの基礎知識	事前学習	受け手にとってのわかりやすさを考えておく。
		事後学習	わかりやすいプレゼンのために再編集する。
第 2 0 回	総復習 : Microsoft PowerPoint	事前学習	必ずスライドショーで見え方を確認しておく。
		事後学習	より明解なプレゼンとは何かを各自で考える。
第 2 1 回	Microsoft Excel ① : 基本操作	事前学習	自分のタイピング速度を予め確認しておく。
		事後学習	教科書で基本操作の項を復習しておく。
第 2 2 回	Microsoft Excel ② : データの作成 (セル範囲の選択、四則演算など)	事前学習	社会のどのような場面で計算を用いることが求められるのかを考えておくこと。
		事後学習	基本的な計算の概念を復習しておくこと。
第 2 3 回	Microsoft Excel ③ : 表の作成 (オートフィル、基本的な関数の利用、表の書式設定など)	事前学習	前回の資料をもういちど読んでおくこと。
		事後学習	Excel 特有の計算操作を教科書で復習する。
第 2 4 回	Microsoft Excel ④ : 表の編集 (セルの相対参照と絶対参照など)	事前学習	Excel 特有の計算操作を教科書で再度復習。
		事後学習	参照の概念と操作方法について再確認する。
第 2 5 回	Microsoft Excel ⑤ : グラフの作成と編集	事前学習	グラフの種類について復習しておくこと。
		事後学習	グラフの適切な選択について考えること。
第 2 6 回	Microsoft Excel ⑥ : さまざまな関数の利用 (I)	事前学習	関数の機能についてその概要を教科書を下読みして確認しておくこと。
		事後学習	関数の考え方と種類を復習しておくこと。
第 2 7 回	Microsoft Excel ⑦ : データベース (リストの作成、ソート、フィルタリングなど)	事前学習	データベースとは、その定義を調べておく。
		事後学習	データベースの用途と運用方法について特に再確認しておく。
第 2 8 回	Microsoft Excel ⑧ : Excel と Word の連携	事前学習	Word の基本操作を復習しておくこと。
		事後学習	より効果的な書類の作成方法を再確認する。
第 2 9 回	総復習 : Microsoft Excel	事前学習	第 21~28 回の内容を振り返っておくこと。
		事後学習	表計算ソフトの応用について各自で考える。
第 3 0 回	秋期学期の総括	事前学習	秋期で用いた資料やノートを確認しておく。
		事後学習	情報処理の基本概念や要点について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GEBS1104 GECM1104												
2. 授業担当教員	加藤 由樹															
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年												
6. 履修条件・ 他科目との関係																
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。															
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。															
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマごとに総合的な課題を行う。 具体的には、以下の二つの課題を行う。 1. 主に情報モラル・セキュリティについて、調べてまとめる作業 (Wordによる総合課題) 2. 学生自身の興味のある事柄について、わかりやすく伝えるための発表資料の作成作業 (PowerPointによる総合課題)															
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 教科書は使用しない。教員が準備したプリント教材を配付したり、デジタル教材を投影し提示したりする。 【参考書】 授業の中で、随時紹介する。 【教材】 教員が準備したプリント教材を配付したり、デジタル教材を投影し提示したりする。															
11. 成績評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">1. 授業態度</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2. テーマごとの課題</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3. 文書作成の総合試験</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4. 表計算の総合試験</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5. プレゼンテーション</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: right;">100%</td> </tr> </table> 以上により、本学規定に沿って評価を行う。				1. 授業態度	30%	2. テーマごとの課題	20%	3. 文書作成の総合試験	20%	4. 表計算の総合試験	20%	5. プレゼンテーション	10%	合計	100%
1. 授業態度	30%															
2. テーマごとの課題	20%															
3. 文書作成の総合試験	20%															
4. 表計算の総合試験	20%															
5. プレゼンテーション	10%															
合計	100%															
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ● コンピュータは、とても便利な道具です。日々生じる問題に対して、それらの解決のための手段の一つとして、コンピュータをうまく活用できる能力が、この授業を通じて、皆さんに身に付くことを期待します。 ● コンピュータの使用において疑問な点があれば、どんなことでも積極的に質問してください。 ● この科目は、授業内の演習がメインです。欠席、遅刻、早退する場合は、連絡してください。 															
13. オフィスアワー	授業の前後															
14. 授業展開及び授業内容																
講義日程	授業内容	学習課題														
第 1 回	イントロダクション：春期講義の概要、コンピュータの経験に関するアンケート 情報処理学習室の使い方、コンピュータの基本操作	事前学習	高校での情報の授業を振り返る。													
		事後学習	大学の情報処理教室を空き時間に利用してみる。													
第 2 回	Windows 基礎、ファイル操作	事前学習	OS とは何かを調べておく。													
		事後学習	各自のファイルの整理をする。													
第 3 回	ファイルとフォルダ構造	事前学習	日常での整理を振り返る。													
		事後学習	フォルダによる整理を各自で実践する。													
第 4 回	インターネットと情報検索。情報モラル、マナー	事前学習	インターネットの仕組みを調べておく。													
		事後学習	仕組みを思い出しながらインターネットを利用する。													
第 5 回	電子メール (1)：電子メールの利用方法とメールアドレスの設定方法など	事前学習	携帯メールの特徴をまとめておく。													
		事後学習	大学 Web メールを各自で使ってみる。													
第 6 回	電子メール (2)：電子メールの宛先など	事前学習	大学 Web メールをどう使用したかをまとめておく。													
		事後学習	大学 Web メールを使って複数の人に同時にメールを送ってみる。													
第 7 回	電子メール (3)：電子メールのマナー、添付ファイルなど	事前学習	携帯メールのマナーをまとめておく。													
		事後学習	PC メールと携帯メールの違いを認識してメールを使い分ける。													
第 8 回	Microsoft Word (1)：Word の基本操作、文書の作成	事前学習	文書とは何かをイメージしておく。													
		事後学習	タイピングについてトレーニングをする。													
第 9 回	Microsoft Word (2)：罫線	事前学習	表の構造を整理しておく。													
		事後学習	罫線を使って、文字を配置する。													
第 10 回	Microsoft Word (3)：文書の編集、拡張書式など	事前学習	文字入力について調べる。													

		事後学習	拡張書式を利用して文字を書く。
第 1 1 回	Microsoft Word (4) : 文書の飾り付け、クリップアート、図形描画など	事前学習	カット集を使った文書をイメージしておく。
		事後学習	サークルなどの募集ポスターを作ってみる①
第 1 2 回	Microsoft Word (5) : 図形描画 続き	事前学習	地図を書きたい場所を考えておく。ランドマークを整理していく。
		事後学習	サークルなどの募集ポスターを作ってみる①
第 1 3 回	Microsoft Word についての総復習 その 1	事前学習	文字入力、フォントの修飾、拡張書式を振り返っておく。
		事後学習	文字入力、フォントの修飾、拡張書式のしかたを確実に身につける。
第 1 4 回	Microsoft Word についての総復習 その 2	事前学習	図形描画、罫線について振り返っておく。
		事後学習	図形描画、罫線のしかたや、これらを使ったアイデアを考える。
第 1 5 回	春期まとめ	事前学習	今までの Word の操作を再確認しておく。
		事後学習	Word でレポートを書く際などに、さまざまな機能を使うように心掛ける。
第 1 6 回	Microsoft Excel (1) : Excel の基本操作、データの作成	事前学習	表の構造 (セル、行、列など) を調べておく。
第 1 7 回	Microsoft Excel (2) : 表の作成、オートフィル、基本的な関数の利用 (合計、平均など)	事後学習	セル入力をトレーニングする。
		事前学習	授業で使用する表の作成を行う。
第 1 8 回	Microsoft Excel (3) : 表の編集、相対参照と絶対参照	事後学習	四則計算を表計算で行うトレーニングをする。
		事前学習	表計算の利点を整理しておく。
第 1 9 回	Microsoft Excel (4) : グラフの作成 その 1	事後学習	絶対参照について繰り返し練習する。
		事前学習	グラフを作る意義を考えておく。
第 2 0 回	Microsoft Excel (5) : グラフの作成 その 2	事後学習	授業で説明したグラフ以外の棒グラフを作る。
		事前学習	割合のグラフとは何かを考えてく。
第 2 1 回	Microsoft Excel (6) : 並び替え、オートフィルタなど	事後学習	割合のグラフとは何かを考えてく。
		事前学習	データを整理するとき便利な機能を整理しておく。
第 2 2 回	Microsoft Excel (7) : 基本的な関数	事後学習	データの抽出を求める問題を解く。
		事前学習	関数とは何かについて調べておく。
第 2 3 回	Microsoft Excel (8) : さまざまな関数	事後学習	基本的な関数を使った問題を解く。
		事前学習	様々な関数の中で興味のあるものを調べておく。
第 2 4 回	Microsoft Excel (9) : Excel 総復習	事後学習	特に文字列に関する関数の問題を解く。
		事前学習	グラフの作り方を確認しておく。
第 2 5 回	Microsoft Excel (10) : Excel まとめ	事後学習	複雑な関数の問題を解く。
		事前学習	複雑な関数の問題を何度も解いて慣れておく。
第 2 6 回	Microsoft PowerPoint (1) : PowerPoint の基本操作、デザインテンプレートの利用	事後学習	さまざまな場面で効率を上げるために Excel を使えるように意識して生活する。
		事前学習	プレゼンテーションの心得について調べておく。
第 2 7 回	Microsoft PowerPoint (2) : 図表の作成、アニメーションなど	事後学習	PPT を使って自己紹介スライドを作成する① 内容を考える。
		事前学習	アニメーションについて調べておく。
第 2 8 回	Microsoft PowerPoint (3) : さまざまな機能を用いたスライドの作成	事後学習	PPT を使って自己紹介スライドを作成する② アニメーションを入れる。
		事前学習	図、写真などを効果的に見せる方法を考えておく。
第 2 9 回	Microsoft PowerPoint (4) : 自己紹介発表 1	事後学習	PPT を使って自己紹介スライドを作成する③ 図、写真を入れる。
		事前学習	セリフの準備、発表の練習をしておく。
第 3 0 回	Microsoft PowerPoint (5) : 自己紹介発表 2	事後学習	発表を反省する。
		事前学習	セリフの準備、発表の練習をしておく。前回あ たった学生はまだの学生の練習に協力する。
		事後学習	発表を反省する。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GECM1104
2. 授業担当教員	清水 文也			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	演習課題提出時に提出できなかった場合は、持ち帰り宿題になり次回までに提出する			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】実教出版編集部著『30時間でマスター Windows8 対応 Office2013』実教出版、2014。			
11. 成績評価の方法	1. Word, Excel, PowerPoint の3つの演習課題提出：60% 2. 最終プレゼンテーションの内容と発表及び提出：40% ※ファイル未提出及びプレゼン未実施は大幅な減点対象となります。			
12. 受講生への メッセージ	大学生活は学生から社会人に切り替わるための準備期間でもあります。本講義には企業での社内研修に参加する想定で受講してください。社会人は研修を正当な理由なく欠席したり遅刻したりはしません。ましてや、研修中に私語・居眠り・他の用事・スマホなどをするということもありません。それは社会人経験のない大学生でも想像できるかと思います。受講の際は、この点を意識して切り替えるつもりで受講してください。連続性のある演習科目ですので欠席は遅れるだけでなく知識定着の妨げにもなるので皆勤を目指しましょう。			
13. オフィスアワー	初回時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	講義ガイダンス ・学習目標及び成績評価の解説 ・タイピング演習	事前学習	シラバスをしっかりと読んでおく。	
		事後学習	タイピングの復習をしておく	
第2回	Windowsの基本操作演習 ・OSの基本操作(フォルダ&ファイル) ・インターネットとメールのマナー	事前学習	教科書(pp.4~31)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第3回	Microsoft Word(1) ・文字、文章の入力とファイルの保存	事前学習	教科書(pp.32~48)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第4回	Microsoft Word(2) ・文書の作成と文字の修飾	事前学習	教科書(pp.49~64)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第5回	Microsoft Word(3) ・表の挿入と編集	事前学習	教科書(pp.65~78)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第6回	Microsoft Word(4) ・画像と図形の挿入と編集	事前学習	教科書(pp.79~95)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第7回	Microsoft Word(5) ・レポート、論文の文書編集①	事前学習	レポート、論文の記述方法を学習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第8回	Microsoft Word(6) ・レポート、論文の文書編集②	事前学習	レポート、論文の記述方法を学習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第9回	Microsoft Word(7) ・その他の機能	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第10回	Microsoft Word(8) ・Word総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第11回	Microsoft Excel(1) ・データ入力とオートフィル	事前学習	教科書(pp.96~111)を読んでおく。	
		事後学習	単独でできるように復習しておく。	
第12回	Microsoft Excel(2) ・計算式と関数	事前学習	教科書(pp.112~127)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第13回	Microsoft Excel(3) ・相対参照と絶対参照	事前学習	教科書(pp.128~141)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第14回	Microsoft Excel(4) ・グラフ作成と編集	事前学習	教科書(pp.142~151)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第15回	Microsoft Excel(5) ・条件判定と検索関数	事前学習	教科書(pp.152~167)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第16回	Microsoft Excel(6) ・セルの参照機能とフィルター	事前学習	教科書(pp.168~193)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第17回	Microsoft Excel(7) ・その他の機能	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	

第 18 回	Microsoft Excel (8) ・Excel 総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 19 回	Microsoft PowerPoint (1) ・スライド作成と図形の挿入	事前学習	教科書 (pp. 194~209) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 20 回	Microsoft PowerPoint (2) ・グラフとアニメーション効果	事前学習	教科書 (pp. 210~217) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 21 回	Microsoft PowerPoint (3) ・表の挿入とワードアート	事前学習	教科書 (pp. 218~225) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 22 回	Microsoft PowerPoint (4) ・その他の機能とスライドショー	事前学習	教科書 (pp. 226~247) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 23 回	Microsoft PowerPoint (5) ・PowerPoint 総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 24 回	情報リテラシーと最新テクノロジー ・情報リテラシーと情報倫理 ・“サイバー” という第 5 の空間	事前学習	情報リテラシーについて調べておく。
		事後学習	講義内容について要点をまとめておく。
第 25 回	自己プレゼンテーションの準備① ・フレームワークをもとに自己分析を行う ・自分の取扱説明書を作成する	事前学習	自己分析の準備をしておく。
		事後学習	プレゼン用に自己分析を整理しておく。
第 26 回	自己プレゼンテーションの準備② ・プレゼン用スライドの作成 ・プレゼン評価の説明	事前学習	スライド作成の復習をしておく。
		事後学習	スライドを完成させる
第 27 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表①) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 28 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表②) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 29 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表③) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 30 回	講義のまとめと振り返り	事前学習	これまでの講義について質問を用意すること。
		事後学習	これまでのすべての講義内容を復習しておく。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GMCM1104
2. 授業担当教員	田畑 忍			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義中の各テーマにおいて課題を提示する。 また、春期・秋期の各学期末に、レポート課題を提示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 杉本くみ子/大澤栄子『30時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013』実教出版、2013年。 必要に応じ適時資料を配布する。 【参考書】 参考資料等は授業時に提示する。			
11. 成績評価の方法	授業への積極性・授業態度 40% 課題 60% *遅刻・欠席・早退は減点の対象となります。			
12. 受講生へのメッセージ	演習であるため、これまでの経験が大きく左右する面もありますが、基本的には初心者であることを前提に行います。 疑問点等は都度解決し、次回の展開に備えてください。 演習の授業ですが、グループによる学習や発表も行うので、積極的に参加してください。			
13. オフィスアワー				
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス、コンピュータの経験に関するアンケート 情報処理学習室の使い方	事前学習	シラバスを読んでくること。	
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。	
第 2 回	コンピュータの基礎、OS (Windows) の基本操作について	事前学習	教科書 pp. 4~5 を読む。	
		事後学習	学習した内容について復習をしておくこと。 ふり返しシートを提出すること。	
第 3 回	ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報の検索について	事前学習	教科書 pp. 6~9 を読む。	
		事後学習	学習した内容について復習をしておくこと。 ふり返しシートを提出すること。	
第 4 回	電子メールの仕組み、マナーについて	事前学習	電子メールのマナーや利便性について考えてくること。	
		事後学習	学習した内容について復習をしておくこと。 ふり返しシートを提出すること。	
第 5 回	コンピュータウイルス、著作権、ネチケットについて	事前学習	担当になった用語について調べてくること。	
		事後学習	学習した内容について復習をしておくこと。 ふり返しシートを提出すること。	
第 6 回	Microsoft Word①：基本操作	事前学習	配付した基本操作の資料を確認しておくこと。	
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。	
第 7 回	Microsoft Word②：課題練習	事前学習	教科書 pp. 45、69 を確認してくること。	
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。	
第 8 回	Microsoft Word③：オリジナル文書作成	事前学習	どのようなオリジナル文書を作成するのかを考えてくること。	
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。	
第 9 回	Microsoft Word④：相互評価・発表	事前学習	オリジナル文書を完成させておくこと。	
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。	
第 10 回	Microsoft Word⑤：オリジナル文書の改善	事前学習	オリジナル文書の改善点を考えてくること。	
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。 オリジナル文書の完成版を提出すること。	
第 11 回	Microsoft Excel①：基本操作 (1)	事前学習	配付した基本操作の資料を確認しておくこと。	
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。	
第 12 回	Microsoft Excel②：課題練習 (1)	事前学習	教科書 pp. 157、158 を確認してくること。	
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。	

第 1 3 回	Microsoft Excel③：オリジナル文書作成	事前学習	どのようなオリジナル文書を作成するのかを考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 1 4 回	Microsoft Excel④：相互評価・発表	事前学習	オリジナル文書を完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 1 5 回	Microsoft Excel⑤：オリジナル文書の改善	事前学習	オリジナル文書の改善点を考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。 オリジナル文書の完成版を提出すること。
第 1 6 回	秋期講義の概要・春期の復習	事前学習	春期の演習を見直しておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 1 7 回	Microsoft Excel⑥：基本操作 (2)	事前学習	配付した基本操作の資料を確認しておくこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 1 8 回	Microsoft Excel⑦：課題練習 (2)	事前学習	教科書 pp. 121、145 を確認してくること。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 1 9 回	Microsoft PowerPoint①：基本操作 (1)	事前学習	配付した基本操作の資料を確認しておくこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 2 0 回	Microsoft PowerPoint②：課題練習	事前学習	教科書 pp. 215、216 を確認してくること。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 2 1 回	Microsoft PowerPoint③：オリジナルスライド作成 (1)	事前学習	どのようなオリジナル文書を作成するのかを考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 2 回	Microsoft PowerPoint④：相互評価・発表 (1)	事前学習	オリジナルスライドを完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 3 回	Microsoft PowerPoint⑤：相互評価・発表 (2)	事前学習	オリジナルスライドを完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 4 回	Microsoft PowerPoint⑥：オリジナルスライドの改善 (1)	事前学習	オリジナルスライドの改善点を考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。 オリジナルスライドの完成版を提出すること。
第 2 5 回	Microsoft PowerPoint⑦：基本操作 (2)	事前学習	教科書 pp. 192～198、209～210 を再確認しておくこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 2 6 回	Microsoft PowerPoint⑧：オリジナルスライド作成 (2)	事前学習	どのようなオリジナル文書を作成するのかを考えてくること。 写真を用意しておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 7 回	Microsoft PowerPoint⑨：相互評価・発表 (3)	事前学習	オリジナルスライドを完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 8 回	Microsoft PowerPoint⑥：オリジナルスライドの改善 (2)	事前学習	オリジナルスライドの改善点を考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。 オリジナルスライドの完成版を提出すること。
第 2 9 回	総合演習	事前学習	これまでの学習内容を確認してくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 3 0 回	本講義のまとめ	事前学習	これまでの演習問題を再度試してみる
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GECM1104 GEBS1104
2. 授業担当教員	二村 泰弘			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマ毎に、授業内容に基づく課題を出題する。受講者には、課題要件を満たす作品やファイル(文書ファイル、表計算ファイル、プレゼンテーションファイルなど)を作成すること、そしてそれらを指示された手続き(電子メールなど)で提出することが求められる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】システムテクニカルサービス著『情報処理入門 Windows7 版 -Office2013 対応-』システムテクニカルサービス、2014。 【参考書】講義の中で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	下記の観点に基づいて評価を行う。 1. 授業への参加、発表 40% 2. 課題 60% ※欠席・遅刻・早退は減点の対象となるので注意すること。			
12. 受講生への メッセージ	欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは、理由を書面にて提出すること。なお、受講者の状況に応じて講義内容を一部変更する場合がある。			
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。面談に際しては、事前にメール等で連絡することが望ましい。 y a f u t a m u @ e d . t o k y o - f u k u s h i . a c . j p			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション、Windows の起動と終了、ファイル操作、フォルダ操作	事前学習	教科書 pp. 1~19 および pp. 33~40 を読む。	
		事後学習	Windows の基本操作を復習する。	
第 2 回	情報通信機器の利用 (1): インターネットを利用した情報収集の基礎①	事前学習	教科書 pp. 20~27 を読む。	
		事後学習	www ブラウザを利用する。	
第 3 回	情報通信機器の利用 (2): インターネットを利用した情報収集の基礎②	事前学習	教科書 pp. 27~32 を読む。	
		事後学習	検索機能を活用してみる。	
第 4 回	情報通信機器の利用 (3): インターネットを利用した情報伝達の基礎①	事前学習	教科書 pp. 354~359 を読む。	
		事後学習	電子メールを利用する。	
第 5 回	情報通信機器の利用 (4): インターネットを利用した情報伝達の基礎②	事前学習	教科書 pp. 104~105 を読む。	
		事後学習	電子メールのマナーを復習する。	
第 6 回	情報通信機器の利用 (5): 総合演習	事前学習	教科書のこれまでの範囲を復習する。	
		事後学習	これまでの課題を仕上げる。	
第 7 回	情報通信機器の利用 (6): インターネットを取り巻く諸問題 (ウイルス、著作権など)	事前学習	教科書 pp. 78~107 を読む。	
		事後学習	ウイルス対策、著作権の保護について復習する。	
第 8 回	文書作成ソフトウェア (1): ソフトウェアの基本操作	事前学習	教科書 pp. 110~129 を読む。	
		事後学習	Word での文書作成を復習する。	
第 9 回	文書作成ソフトウェア (2): 表の作成	事前学習	教科書 pp. 130~143 を読む。	
		事後学習	Word での表の作成を復習する。	
第 10 回	文書作成ソフトウェア (3): 文書の編集	事前学習	教科書 pp. 144~161 を読む。	
		事後学習	Word での文書の編集を復習する。	
第 11 回	文書作成ソフトウェア (4): 図の利用	事前学習	教科書 pp. 162~179 を読む。	
		事後学習	「ペイント」での図形描画などを復習する。	
第 12 回	文書作成ソフトウェア (5): 文書の飾り付け、図形描画など	事前学習	教科書 pp. 162~179 を読む。	
		事後学習	Word での図形描画などを復習する。	
第 13 回	文書作成ソフトウェア (6): その他の便利な機能	事前学習	教科書 pp. 180~186 を読む。	
		事後学習	Word での文章校正機能などを復習する。	
第 14 回	文書作成ソフトウェア (7): 総合演習①	事前学習	教科書「Word 編」の全範囲を復習する。	
		事後学習	課題を仕上げる。	
第 15 回	文書作成ソフトウェア (8): 総合演習②	事前学習	教科書「Word 編」の全範囲を復習する。	
		事後学習	課題を仕上げる。	
第 16 回	プレゼンテーションソフトウェア (1): ソフトウェアの基本操作	事前学習	教科書 pp. 282~296 を読む。	
		事後学習	PowerPoint でのファイル作成を復習する。	
第 17 回	プレゼンテーションソフトウェア (2): 図表の作成、アニメーションなど	事前学習	教科書 pp. 282~296 を読む。	
		事後学習	PowerPoint でのファイル作成を復習する。	
第 18 回	プレゼンテーションソフトウェア (3): 効果的プレゼ	事前学習	教科書 pp. 297~307 を読む。	

	ンテーションの基礎知識①	事後学習	発表に向けPowerPointでファイルを作成する。
第 19 回	プレゼンテーションソフトウェア (4) : 効果的プレゼンテーションの基礎知識②	事前学習	教科書 pp. 308~312 を読む。
		事後学習	発表に向けPowerPointでファイルを作成する。
第 20 回	プレゼンテーションソフトウェア (5) : 発表①	事前学習	プレゼンテーションの準備を行う。
		事後学習	プレゼンテーションを振り返る。
第 21 回	プレゼンテーションソフトウェア (6) : 発表②	事前学習	プレゼンテーションの準備を行う。
		事後学習	プレゼンテーションを振り返る。
第 22 回	表計算ソフトウェア (1) : ソフトウェアの基本操作	事前学習	教科書 pp. 188~205 を読む。
		事後学習	Excel の基本操作を復習する。
第 23 回	表計算ソフトウェア (2) : 表の作成	事前学習	教科書 pp. 206~215 を読む。
		事後学習	Excel でのファイル作成を復習する。
第 24 回	表計算ソフトウェア (3) : 表の印刷	事前学習	教科書 pp. 215~221 を読む。
		事後学習	Excel での表の作成と印刷について復習する。
第 25 回	表計算ソフトウェア (4) : 相対参照と絶対参照	事前学習	教科書 pp. 222~227 を読む。
		事後学習	Excel の相対参照と絶対参照について復習する。
第 26 回	表計算ソフトウェア (5) : さまざまな関数の利用 (IF 関数など)	事前学習	教科書「Excel 編」のこれまでの範囲を復習する。
		事後学習	Excel のさまざまな関数について復習する。
第 27 回	表計算ソフトウェア (6) : グラフの作成	事前学習	教科書 pp. 228~245 を読む。
		事後学習	Excel でのグラフ作成を復習する。
第 28 回	表計算ソフトウェア (7) : 複数のシートの連携	事前学習	教科書 pp. 246~258 を読む。
		事後学習	Excel での 3D 参照について復習する。
第 29 回	表計算ソフトウェア (8) : データの並べ替え・抽出	事前学習	教科書 pp. 259~275 を読む。
		事後学習	Excel のデータベース利用を復習する。
第 30 回	表計算ソフトウェア (9) : 総合演習	事前学習	教科書「Excel 編」の全範囲を復習する。
		事後学習	課題を仕上げる。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GECM1104
2. 授業担当教員	舘 秀典			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義中の各テーマにおいて課題を提示する。 毎時、提示されたテーマに基づくグループ発表を行う。 また、春期・秋期の各学期末に、レポート課題を提示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft2013を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社。 また、必要に応じ適時資料を配布する。 【参考書】 参考資料等は授業時に提示する。			
11. 成績評価の方法	授業への積極性・授業態度 30% 各回における演習課題の完成物 40% 総合演習課題 30%			
12. 受講生への メッセージ	演習であるため、これまでの経験が大きく左右する面もあるかと思いますが、基本的には初心者であることを前提に行います。 疑問点等は都度解決し、次回の展開に備えること。 講義・演習中の演習問題のやり残しは必ず早めに対処すること。 一度学んだことは次回までに自分のものにしておくこと。			
13. オフィスアワー	初回時に提示する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス、コンピュータの経験に関するアンケート 情報処理学習室の使い方	事前学習	教科書第 1 章を読み、疑問点を見つける。	
		事後学習	社会における情報技術の使われ方について 自らの経験をもとにレポートを作成する。	
第 2 回	コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史 等について	事前学習	前講義にて配布される情報関連の用語について 調べてくる。	
		事後学習	コンピュータとは何か、どのような歴史がある のかについてレポートを作成する。	
第 3 回	インターネットの歴史、サービスについて	事前学習	前講義にて配布されるインターネット関連の 用語について調べてくる。	
		事後学習	講義中のインターネットの歴史に関する課題 レポートの作成。	
第 4 回	WWW : ブラウザの使用方法、インターネットを利用した 情報の検索	事前学習	前講義に配布されるインターネット関連の用 語について調べてくる。	
		事後学習	インターネットを利用し、講義中に課題に対し て様々な検索方法を試してみる。	
第 5 回	電子メール : 電子メールの仕組み、マナーについて	事前学習	前講義にて配布される電子メール・モラル・マ ナー関連の用語について調べてくる。	
		事後学習	電子メールの仕組みについての課題レポート の作成を行う。	
第 6 回	最近のインターネットの動向について	事前学習	最近目にしたインターネット関連の用語・技術 を箇条書きで書き出す。	
		事後学習	最近のインターネットで気になった事につい て自ら調べまとめる。	
第 7 回	著作権について	事前学習	事前配布される著作権関連の用語について調 べてくる。	
		事後学習	著作権に関する Q&A を作成する。	
第 8 回	Microsoft PowerPoint : プレゼンテーションソフトと は	事前学習	プレゼンテーションとは何か、またどのような 場所で利用されるものなのかを調べる。	
		事後学習	プレゼンテーションソフトの基本的な操作の 演習課題の遂行。	
第 9 回	Microsoft PowerPoint : 基本的な利用方法	事前学習	今回利用する PowerPoint について、どのよ うなものか調べる。	
		事後学習	プレゼンテーションソフトの基本的な操作の	

			演習課題の遂行。
第 10 回	Microsoft PowerPoint : プレゼンテーション作成	事前学習	プレゼンテーションを作成するにあたり、気を付けることは何かについて調べる。
		事後学習	プレゼンテーションを作成するにあたってのストーリー作成を行う。
第 11 回	Microsoft Word : ワープロソフトとは	事前学習	教科書 pp.87-91 を読み、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解する。
		事後学習	ワードプロセッサソフトの基本的な操作の演習課題の遂行
第 12 回	Microsoft Word : 文字の編集 (書体、大きさの変更および装飾など)	事前学習	ワードプロセッサソフトでは何ができるのかについて調べ、可能であればソフトウェアに触れてみる。
		事後学習	ワードプロセッサソフトのレイアウト変更の演習課題の遂行
第 13 回	Microsoft Word : 余白、ページの設定、インデントなど	事前学習	事前配布されるワープロソフトのサンプルをもとに自らページの設定を行ってみる。
		事後学習	ワードプロセッサソフトのレイアウト変更の演習課題の遂行
第 14 回	Microsoft Word : スタイル、テンプレートの利用など	事前学習	事前配布されるワープロソフトのサンプルをもとに自らスタイル、テンプレートの機能を試してみる。
		事後学習	テンプレートを用いて Word 文章を作成する演習課題の遂行
第 15 回	第 1 回～第 14 回までの総合演習	事前学習	これまでのワードプロセッサソフト・プレゼンテーションソフトの演習問題を再度試してみる。
		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行
第 16 回	秋期講義の概要・春期の復習	事前学習	春期の演習を再度見直し、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	秋期に行う演習の概要を教科書にて見直しておく。
第 17 回	Microsoft Word : クリップアート、図形描画、罫線など	事前学習	事前配布されるワープロソフトのサンプルをもとにメディアの挿入を試してみる。
		事後学習	クリップアート、図形描画、罫線などを利用した演習課題の遂行。
第 18 回	Microsoft Word : さまざまな機能を用いたレポート文書の作成	事前学習	事前配布されるワープロソフトのサンプルをもとにどのような機能を利用すれば作成可能であるかを検討する。
		事後学習	さまざまな機能を用いたレポート課題の作成
第 19 回	Microsoft Excel : 表計算ソフトとは	事前学習	教科書 pp.167～168 を読み、表計算ソフトを用いるメリットについて理解する。
		事後学習	表計算ソフトはどのような時に利用すると有効であるか自らまとめる。
第 20 回	Microsoft Excel : データの入力 (数値データと文字データ)、セルの操作	事前学習	教科書 pp.169～177 を参照し、基本操作の注意点について理解する。
		事後学習	データ入力を主とした講義課題の遂行
第 21 回	Microsoft Excel : 数式の利用、セルの相対参照と絶対参照	事前学習	教科書 pp.188～191 を参照し、数式の演算記号・参照とは何かについて理解する。
		事後学習	数式を利用した講義課題の遂行
第 22 回	Microsoft Excel : 基本的な関数の利用 (合計、平均など)、グラフの作成	事前学習	教科書 pp.193～195, pp.204～211 を参照し、関数とは・関数の入力方法・グラフの作成について学んでおく。
		事後学習	関数を利用した講義課題の遂行
第 23 回	Microsoft Excel : 関数の利用、IF 関数の入れ子など	事前学習	教科書 pp.196～199 を参照し、IF 関数とは、関数の入れ子について学んでおく。
		事後学習	IF 関数を利用した講義課題の遂行
第 24 回	Microsoft Excel : さまざまな関数の応用	事前学習	教科書 p.201 および事前配布資料を参照し Excel における日付の扱い、その他関数について学んでおく。
		事後学習	さまざまな関数を利用した講義課題の遂行
第 25 回	Microsoft Excel : データの処理、並べ替え、フィルタリングなど	事前学習	教科書 pp.226～235 を参照しデータの処理について学んでおく。
		事後学習	データ処理を行う講義課題の遂行
第 26 回	総合演習 (0)	事前学習	事前に配布される Word, Excel を連携させた文章を作成するには、どのような機能を用いればよいのかを検討する。
		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行
第 27 回	総合演習 (1)	事前学習	事前に配布される Word, Excel を連携させた文章を作成するには、どのような機能を用いればよいのかを検討する。

		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行
第 28 回	総合演習 (2)	事前学習	事前に配布される Word, Excel を連携させた文章を作成するには、どのような機能を用いればよいのかを検討する。
		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行サイトを完成させる。
第 29 回	総合的な演習 : Microsoft Excel の総復習	事前学習	これまでの Excel の演習問題を再度試してみる。
		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行
第 30 回	本講義のまとめ	事前学習	これまでの演習問題を再度試してみる。
		事後学習	演習時間中の課題の遂行

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	GECM2104 GECM2304
2. 授業担当教員	加藤 卓		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<p>情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどの様な姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業のレベルを満たすSiteを作成できる知識・技能を各自が習得するため、以下の課題に取り組む。</p> <p>課題 1 (春期末課題) SEOに則ったSiteを、HTMLとCSSにより構築し運用する。</p> <p>課題 2 (秋期末課題) JavaScript言語のプログラミングを習得し、自Siteに適用する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】授業内で、教材を提示する(複数の最新書籍の指定では高額になるため)。</p> <p>【参考書】必要に応じて授業内で参考書を紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>講義内容レベルの Web Site の作成能力を習得できない場合、欠席が無くとも再履修となる。</p> <p>1. 授業への積極的参加度 … 30% (半期欠席 4 回・通年欠席 8 回で単位取得資格を失う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とする。1 時間以上遅れた遅刻については原則として出席と認めない。山手線の遅延は、初回の遅延証のみ認める。半期 4 回目以降の遅延は遅刻扱いとする。学習不能に陥らぬよう、初回から遅延・遅刻・欠席の皆無を期すること。)</p> <p>2. 前期期末課題 (Web Site 作成) … 40%</p> <p>3. 後期期末課題 (SEO 対策+Java script の Web Site 作成) … 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>先に学習した情報処理演習Ⅰを、サンシャイン 60 の最上階にエレベーターで昇ることに例えるならば、情報処理演習Ⅱは、徒歩で海拔 0m から富士山頂まで登ることに相当する。頂上を極めたい方は、相当の覚悟を持ち一步一步努力されたい。積極的に学ぶ意欲がない、反復習得を好まない方には、非常に単位取得困難な科目である。</p> <p>検索上位に表示されない Site は、その存在すら認識してもらえない。就職先が求めている人材とは、検索で上位に表示されるよう、SEO 対策や運用術まで習得済みの Webmaster である。なぜならば、Site の検索ヒット率が、就職先の宣伝・説明責任・収益に直結しているからである。</p> <p>Webmaster は、情報生産者であるため、就職や経済面で非常に有利である。プログラミングの考え方や技能を習得するためには、長時間にわたって集中して作業することが必要であるため、自分への先行投資として PC の個人所有等の環境整備を強く勧める。</p> <p>SEO 対策まで習得するためには、従来は幾度か学び直しをしなければならなかったが、本講義では、最初から SEO 対策に有効な Site の作り方を学び、自分の Site を自己責任で実際に運用する。</p> <p>1. 学生証を必ず持参し、授業中は机上に提示しておくこと。(出席点検・加減点に使用するため。)</p> <p>2. 正当な理由がある欠席・遅刻・早退は、理由を書面にて提出すること。</p> <p>3. 授業開始 3 分前から真剣に取り組み、他受講者の学ぶ権利を侵害することがないように、私語・電話やメールや SNS での携帯の使用・居眠り・飲食等を禁止する。</p> <p>4. 事前学習点検に備え、予習・復習の習慣をつけること。</p> <p>5. 受講者の学力・理解度・作業速度等により、内容を一部変更する場合がある。</p>		
13. オフィスアワー	<p>第 1 回目の講義で提示する(シラバス記載時点で、講義時間割が未定であるため)。</p> <p>Office Hour でも不在の場合があるので、予めアポイントメントを取ることを。</p> <p>E-mail address ta-kato アットマーク ed.tokyo-fukushi.ac.jp (←スパム防止なので@にしないで!)</p> <p>研究室所在地 13 号館 5 階 957 研究室</p>		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 【ICT モラル】 著作権・肖像権・パブリシティ権 無料ホームページサービスへの申請	事前学習	シラバス・著作権を調べる。
		事後学習	プロバイダへの申請をする。
第 2 回	【Site の基礎知識】 Site 構築の考え方 SEO, 言語とツール, Site の構想・基本構造・配置・階層・色彩設計 Google アカウント取得	事前学習	Web の仕組みについて調べる。
		事後学習	春期末課題作品の構想を練る。
第 3 回	Ez-html の使用方法, head と body の記述, CSS と html の記述方法, #タグ, 色の記述, メモの仕方	事前学習	春期末課題作品のイメージを持つ。
		事後学習	春期末課題作品の構想を決定する。Ez-html の操作の復習をする。
第 4 回	【ベースのページの作成】 ①ヘッダー部分の作成 Site 名の記述, パンくずリストの作成, トップのリンクメニュー, H1 タグの記述	事前学習	Site の基本構造を調べる。
		事後学習	ヘッダー部分やパンくずリストを修正する。
第 5 回	Google Add Words の使用方法, keywords の決定, title の記述	事前学習	Meta タグについて調べる。
		事後学習	keywords・title について復習をする。
第 6 回	description の記述	事前学習	description について調べる。

		事後学習	更により Meta タグを構想する。
第 7 回	②サイドメニュー部分の作成 リストの記述	事前学習	リストのタグを調べる。
		事後学習	サイドメニュー部分を修正する。
第 8 回	③メイン部分の作成 囲み, margin と padding, 文章の記述	事前学習	文書領域について調べる。
		事後学習	文書領域のサイズや配置を修正する。
第 9 回	画像の修正 写真やイラストの挿入	事前学習	画像の拡張子について調べる。
		事後学習	画像を修正・挿入してみる。
第 10 回	④フッター部分の作成 常時掲載項目の記述	事前学習	footer について調べる。
		事後学習	不足している素材を集める。
第 11 回	ベースのページの完成 レイアウト・色彩デザインの最終仕上げ	事前学習	色彩デザインについて調べる。
		事後学習	ベースのページを完璧に仕上げる。
第 12 回	【サイトの構築と運用】 CSS の追い出し, ページの複数化	事前学習	Site の構造について調べる。
		事後学習	Site のファイル・フォルダ構成を修正する。
第 13 回	Site 全体の構造化 作業しやすいサイトの構造化	事前学習	他のページの作成を進める。
		事後学習	Site のフォルダ構成を修正する。
第 14 回	複数ページの作成 サイトの複数ページの改訂	事前学習	複数ページの作成を進める。
		事後学習	複数ページの完成度を高める。
第 15 回	作品の最終確認 点検表で不具合を修正し作品の完成度を高める	事前学習	春期提出作品を完成させる。
		事後学習	点検表に従い前期提出作品の総点検をする。
第 16 回	Google Webmasters tools について 作品の確認と春期作品の提出	事前学習	Google Webmasters tools について調べる。
		事後学習	春期作品を修正してアップロードする。
第 17 回	【SEO 対策による改善】 LPO の適用	事前学習	LPO について調べる。
		事後学習	秋季期末課題の構想を練る。
第 18 回	2 つの Site map の作成 XML-Sitemaps Generator について	事前学習	Site map について調べる。
		事後学習	XML-Sitemaps Generator の操作の復習をする。
第 19 回	アクセス解析ツール Google Analytics の使用について	事前学習	アクセス解析ツールについて調べる。
		事後学習	Google Analytics の操作の復習をする。
第 20 回	外部対策とサテライトブログ サテライトブログの作成	事前学習	外部対策について調べる。
		事後学習	作成したサテライトブログを修正してみる。
第 21 回	【動的ページの作成】 JavaScript について ソースの基本的な記述	事前学習	JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 22 回	JavaScript について メモの活用	事前学習	JavaScript のソースについて調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 23 回	HTML に働く JavaScript について デバックの作法	事前学習	HTML に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 24 回	HTML に働く JavaScript について イベントハンドラと function	事前学習	HTML に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 25 回	CSS に働く JavaScript について if を使ったイベントの仕分け	事前学習	CSS に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 26 回	CSS に働く JavaScript について タブ式ページの完成	事前学習	CSS に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 27 回	【WEB を活用した問題発見・問題解決能力】 JavaScript の自サイトへの移植 バナー作成とアップ	事前学習	JavaScript の適用について調べる。
		事後学習	該当回のページを自 Site に移植・修正する。
第 28 回	他の JavaScript を適用してみる ファビコンの作成とアップ	事前学習	Web 検索により他の JavaScript を調べる。
		事後学習	自分の Site へ適用する。
第 29 回	他の JavaScript の適用を完成させる アクセス解析・Meta タグ・サイトマップの確認	事前学習	Web 検索により他の JavaScript を調べる。
		事後学習	自分の Site への適用を完了させる。
第 30 回	講義のまとめ・秋期最終作品の提出	事前学習	講義終了後のサイト発展の構想を練る。
		事後学習	講義全体の復習・秋期最終作品のアップロード

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	GECM2104
2. 授業担当教員	清水 文也			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
8. 学習目標	<p>情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどのような姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>春期: HTML5 と CSS3 と JavaScript の演習課題 秋期: 分析レポート、改善案レポート及び最終提案書の課題</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】必要な資料は講義時に配布します			
11. 成績評価の方法	<p>春期: HTML, CSS, JavaScript の演習課題提出: 20% 秋期: 個人演習の問題分析レポート課題提出: 10% グループ演習の分析内容と発表の精度: 20% 個人演習の改善企画レポート課題提出: 10% グループ演習の改善内容と発表の精度: 20% フィードバック後の最終提案書の提出: 20% ※課題未提出は大幅な減点対象となります。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>物事の原理原則を学んだ上で、現状の問題発見から分析を行い、解決案を提案することは現代社会に求められる非常に重要なスキルです。本科目では Web 技術の基礎的な仕組みを学んだ上で、後半に既存サイトの改善案を提案していきます。「情報」というものをどのように扱うべきかを学ぶには、インターネットを通じた利用者側と発信者側の両方の視点で考察することが最適です。テーマを変えれば演習で行うことは他の場面の問題でも応用できるものです。やや難易度は高い取り組みですが、やりがいは実感できますので創造的な改善立案と活発なグループディスカッションを期待しています。何事も本気で取り組まなければ、自分の本当の能力を知ることはできません。また、本気で取り組んだ時にだけ得られるものがあります。</p>			
13. オフィスアワー	初回時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義ガイダンス ・学習目標及び成績評価の解説 ・Web 技術の基礎知識	事前学習	シラバスをしっかりと読んでおく。	
		事後学習	Web 技術の仕組みを復習しておく。	
第 2 回	Web サイト全体と HTML 文書の基本的構造	事前学習	HTML について調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 3 回	テキスト表示の各要素	事前学習	HTML 文字入力を調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 4 回	マルチメディア表示の各要素	事前学習	HTML マルチメディア表示を調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 5 回	メニューボタンの設置と CSS 装飾	事前学習	HTML リストを調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 6 回	表 (テーブル) の作成と編集	事前学習	HTML テーブルを調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 7 回	メイン・記事ページの設置	事前学習	HTML 文字入力を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 8 回	お問い合わせページの設置 (JavaScript)	事前学習	問合せページを調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 9 回	資料請求 (PDF) ページの設置	事前学習	資料請求ページを調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 10 回	Google MAP と YouTube の埋込, SNS ボタンの設置	事前学習	他のサイトで調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 11 回	Web デザインについて	事前学習	Web デザインについて調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 12 回	レスポンス Web デザイン対応	事前学習	レスポンス Web について調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 13 回	Web サイトの課題作成 (1)	事前学習	これまでの演習内容を復習しておく。	
		事後学習	課題を作成しておく。	
第 14 回	Web サイトの課題作成 (2)	事前学習	これまでの演習内容を復習しておく。	
		事後学習	課題を作成しておく。	
第 15 回	Web サイトの課題作成 (3) と提出	事前学習	これまでの演習内容を復習しておく。	
		事後学習	完成課題を改善しておく。	

第 16 回	Web マーケティングとは ・発信者としての Web マーケティング基礎知識 ・RFP (提案依頼書) の解説	事前学習	Web マーケティングについて調べておく。
		事後学習	Web マーケティングについて復習しておく。
第 17 回	Web サイト現状問題分析 (個人演習) ① ・問題分析手法の解説 ・既存 Web サイトの問題発見と分析	事前学習	問題分析について調べておく。
		事後学習	問題分析を整理しておく。
第 18 回	Web サイト現状問題分析 (個人演習) ② ・3C による問題分析 ・分析レポート提出	事前学習	問題分析について調べておく。
		事後学習	分析内容を改善しておく。
第 19 回	グループ分析 (協同演習) ① ・各自の分析レポートについて討議 ・発信者として優先事項の検討と取捨選択	事前学習	自分の分析レポートを整理しておく。
		事後学習	グループ討議の内容を整理しておく。
第 20 回	グループ分析 (協同演習) ② ・3C+クロス SWOT 分析 ・中間発表用スライド作成	事前学習	問題分析について調べておく。
		事後学習	スライドを整理しておく。
第 21 回	グループ分析中間発表 (協同演習) ・各グループの分析結果を発表 ・質疑応答と相互評価	事前学習	発表準備をしておく。
		事後学習	フィードバックを反映しておく。
第 22 回	Web プロデュースとは ・発信者としての Web プロデュース基礎知識 ・SNS マーケティングの活用	事前学習	Web プロデュースについて調べておく。
		事後学習	Web プロデュースについて復習しておく。
第 23 回	アイデア発想法 (個人演習) ① ・アイデア発想方法の解説 ・個人演習による改善案の捻出	事前学習	アイデア発想方法について調べておく。
		事後学習	改善案をさらに検討しておく。
第 24 回	アイデア発想法 (個人演習) ② ・改善案の検討 ・改善レポート提出	事前学習	改善案を整理しておく。
		事後学習	レポートを見直しておく。
第 25 回	グループ案検討 (協同演習) ① ・各自の改善案レポートをもとに討議 ・拡散思考でさらに改善案を検討	事前学習	改善案についてさらに検討しておく。
		事後学習	グループの改善案を整理しておく。
第 26 回	グループ案検討 (協同演習) ② ・RFP をもとに改善案の整理 ・収束思考で改善案を合目的に落とし込む	事前学習	RFP を再度見直しておく。
		事後学習	グループの改善案を整理しておく。
第 27 回	グループ提案書作成 (協同演習) ・発信者として Web サイトの「あるべき姿」を整理 ・問題分析と改善案を含めた最終提案書の作成	事前学習	グループ提案書の作成準備をしておく。
		事後学習	最終提案書を改善しておく。
第 28 回	最終プレゼン (競争演習) ① ・各グループによる最終提案プレゼン ・質疑応答と相互評価	事前学習	最終プレゼンのリハーサルを行っておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 29 回	最終プレゼン (競争演習) ② ・各グループによる最終提案プレゼン ・質疑応答と相互評価	事前学習	最終プレゼンのリハーサルを行っておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 30 回	提案書の改善 (競争演習) ・フィードバックをもとに提案書を改善 ・プレゼン総評と最終提案書の提出	事前学習	提案書の改善をまとめておく。
		事後学習	これまでの講義内容を復習しておく。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅲ (4 単位)		3. 科目番号	GECM3304
2. 授業担当教員	竹内 俊彦			
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	通年	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	この講義では、「情報処理演習Ⅰ」や「情報処理演習Ⅱ」で学んだ基礎知識や技術を基にして、さらに発展的な内容を具体的な事例を用いて学習する。事例と演習により、これまでに学んだ情報処理をどのような場面で活用できるのかを学ぶ。そのため、コンピュータを使った数値計算にとどまらず、さらに大きな枠組みで情報処理について考えていく。具体的には、プログラミング言語として VBA 言語を取り上げ、プログラミングを構成する基本要素を、演習を行いながら学んでいく。また、データ分析に関しても扱い、調査や実験の結果を導くために必要な技法を学ぶ。			
8. 学習目標	情報処理において、コンピュータを使うための知識や技術は重要である。しかし、コンピュータは何かの目的を達成するための道具であるという一面もある。そこで本講義では、履修者自らがコンピュータを使いこなすための具体的な方法を調べて、どのようにしたらその目的を達成できるのかを考える。そのような考え方や姿勢を習得し、操作できるようになることが本講義の目標である。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	[1] 課題1 VBAとExcelを連携させた有用なプログラムとレポートを作成せよ(春期の最終提出物) [2] 課題2 フォーム、関数を用いた有用なプログラムとレポートを作成せよ(秋期の最終提出物)			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 結城 圭介『Excel VBA 超入門講座』技術評論社、2006 年 1 月、2079 円。			
11. 成績評価の方法	[1] 課題1 (春期の最終提出物とレポート) 40% [2] 課題2 (秋期の最終提出物とレポート) 60%			
12. 受講生への メッセージ	VBA を覚えれば、Excel の高度な使い方ができるため、たとえば教師になるのならば成績処理、ビジネス・パーソンになるのであれば名簿管理や売上管理など、現場で役立つソフトを自分で作れるようになります。ですので、自分ばかりか周囲の人にも多大な支援ができます。社会人になる前にぜひ習得したいスキルです。			
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示しますが、時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照してください。なおオフィスアワー以外でも時間があれば面談しますが、事前にメールで連絡をすることが望ましいです。totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション VBA でプログラミング・VBE を使ってみよう・連続処理・判断・繰り返し	事前学習	教科書『Excel VBA 超入門講座』を入手する。	
		事後学習	教科書第 1 章～第 2 章を再読する。	
第 2 回	変数・配列・文字列と数値・プロシージャ・イベント	事前学習	第 3 章を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 3 章を再読する。	
第 3 回	プロシージャから別のプロシージャを呼び出す、 プロシージャに引数を渡す	事前学習	第 4 章 01-03 を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 4 章 01-03 を再読し、プロシージャを作ってみる。	
第 4 回	変数の宣言と有効範囲・文字列・数値の保存	事前学習	第 4 章 04-08 を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 4 章 04-08 を再読し、変数を宣言し値を代入表示してみる。	
第 5 回	論理式による判断と選択	事前学習	第 4 章 09-13 を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 4 章 09-13 を再読し、論理式を用いた分岐をするプログラムを書いてみる。	
第 6 回	繰り返し(for 文と while 文)	事前学習	第 4 章 14-17 を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 4 章 14-17 を再読し、for 文、while 文を用いたプログラムを書いてみる。	
第 7 回	On Error 文・配列変数・コメント文	事前学習	第 4 章 18-22 を事前に読み、ことに配列変数について重点的に予習する。	
		事後学習	第 4 章 18-22 を再読し、配列変数を用いたプログラムを作成する。	
第 8 回	変数と定数・組み込み定数・ユーザ定数	事前学習	第 4 章 23-25 を事前に読み、組み込み定数とユーザ定数の違いを重点的に予習する。	
		事後学習	第 4 章 23-25 を再読し、組み込み定数とユーザ定数を用いたプログラムを作成する。	
第 9 回	組み込み関数の利用・整数化・切り捨て・型のチェック	事前学習	第 5 章 01-03 を事前に読み、予習する。	
		事後学習	第 5 章 01-03 を再読し、整数化・切り捨て等の関数を利用したプログラムを作成する。	
第 10 回	乱数の発生・文字列の切り出し・トリム・置換・ 文字列の検索・文字コード取得	事前学習	第 5 章 04-10 を事前に読み、予習する。	
		事後学習	第 5 章 04-10 を再読し、文字列操作関連の関数を利用したプログラムを作成する。	
第 11 回	日付や時刻関連の関数	事前学習	第 5 章 11-17 を事前に読み、予習する。	
		事後学習	第 5 章 11-17 を再読し、日付や時刻関連の関数を利用したプログラムを作成する。	

第 1 2 回	MsgBox 関数・InputBox 関数・ユーザ関数の作成	事前学習	第 5 章 18-22 を事前に読み、予習する。
		事後学習	第 5 章 18-22 を再読し、ユーザ関数を利用したプログラムを作成する。
第 1 3 回	自作ソフト作成(1)	事前学習	自分の作りたいソフトのアイデアを考える。
		事後学習	講評をもとにアイデアを具体化する。
第 1 4 回	自作ソフト作成(2)	事前学習	自宅でソフトを作成する。
		事後学習	自宅でソフトを完成させる。
第 1 5 回	ソフト発表会 (課題 1)	事前学習	発表会に向けた下準備をする。
		事後学習	講評に従ってプログラムを修正する。
第 1 6 回	ボタン・テキストボックス・チェックボックス	事前学習	第 6 章 01-04 を事前に読み、予習する。
		事後学習	第 6 章 01-04 を再読し、各種オブジェクトを利用したプログラムを作成する。
第 1 7 回	ワークブックを開いたときに実行等、イベント時に実行するプログラム	事前学習	第 6 章 05-09 を事前に読み、予習する。
		事後学習	第 6 章 05-09 を再読し、ワークシートを開いたときに実行されるプログラムを作成する。
第 1 8 回	きれいにコーディングするためのテクニック	事前学習	第 7 章を事前に読み、予習する。
		事後学習	第 7 章を再読し、自分のプログラムをきれいに書き直す。
第 1 9 回	時限爆弾プログラムの作成・占いプログラムの作成	事前学習	時限爆弾プログラムの実装方法を考える。
		事後学習	時限爆弾プログラムの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 0 回	ファイルを処理するプログラム	事前学習	簡単なメモ帳の実装方法を考える。
		事後学習	簡単なメモ帳プログラムの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 1 回	画像を用いた簡単なゲーム・プログラムの作成	事前学習	アルバム・プログラムの実装方法を考える。
		事後学習	アルバム・プログラムの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 2 回	スクリーン・セーバー的なプログラムの作成	事前学習	スクリーン・セーバーの実装方法を考える。
		事後学習	スクリーン・セーバーの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 3 回	RPG 的なプログラムの作成	事前学習	RPG 的なプログラムの実装方法を考える。
		事後学習	RPG 的なプログラムの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 4 回	自作プログラムのアイデア出しとアドバイス	事前学習	自分の作りたいプログラムの原案を練る。
		事後学習	講評をもとに、プログラムの実装方法を考える。
第 2 5 回	自分のプログラムを作成(1)	事前学習	プログラムの実装に必要な素材(画像・サウンドなど)を集める。
		事後学習	自宅でプログラムを作成する。
第 2 6 回	自分のプログラムを作成(2)	事前学習	自宅でプログラムを作成する。
		事後学習	自宅でプログラムを作成する。
第 2 7 回	自分のプログラムを作成(3) 中間発表会	事前学習	中間発表に向けた準備をする。
		事後学習	講評に従い、自分のプログラムを修正する。
第 2 8 回	自分のプログラムを作成(4)	事前学習	自宅でプログラムを作成する。
		事後学習	自宅でプログラムを作成する。
第 2 9 回	自分のプログラムを作成(5)	事前学習	自宅でプログラムを作成する。
		事後学習	自宅でプログラムを完成させる。
第 3 0 回	ソフト発表会(課題 2)・まとめ	事前学習	プログラム発表会の準備をする。
		事後学習	プログラムのレポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	情報セキュリティ (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3323
2. 授業担当教員	竹内 俊彦			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータネットワークⅠ」と「Ⅱ」、「コンピュータサイエンスⅠ」と「Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。特に「コンピュータネットワークⅡ」で学ぶ概念は多く使われる。			
7. 講義概要	本科目では、コンピュータシステムおよびデータのセキュリティとプライバシー保護について学ぶ。具体的には、システム保護、システムの信頼性、システムの欠陥への対処、データ保護と暗号、ハッキングとソーシャルエンジニアリングについて演習を通じて、かなり高度な内容にまで踏み込み、情報セキュリティに関する深い理解を図る。			
8. 学習目標	技術の面、国際および国内規程の面からみた情報セキュリティの基礎を学ぶ。 IT に関しては、抽象的なことだけでなく、ハッカーの基本的技術を学び、また、今までの様々な事例を見ながら、情報システムの欠陥をどう探すか、どう防ぐかを考えることができる。 情報資産への脅威は、最近、ITが大部分を占めているが、IT以外にも多くのリスクが存在する。それらのリスクの分析、評価の方法についても考えることが出来るようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ディスカッションを行うので、授業前に、かならず教科書の授業章を読んでくること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】株式会社 SCC 教育事業推進本部 セキュリティ教育部『わかりやすすぎる情報セキュリティの教科書』2014 年 12 月 15 日、1500 円+税。			
11. 成績評価の方法	[1] 授業への積極的参加度 50% [2] 課題レポート 50%			
12. 受講生へのメッセージ	パソコンのセキュリティは、実社会では非常に重要となる知識です。ところがパソコンが趣味の人でも、趣味でセキュリティ技術を学ぶことは、あまりありません。ですので、ここはひとつ、授業でしっかり学んでしまいましょう。また教科書は、第 1 回の授業から使いますので、かならず購入して下さい。			
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示します。また掲示板のオフィスアワー掲示を参照すること。なおオフィスアワー以外でも時間があえば面談するが、事前にメールで連絡をすることが望ましい。totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション ・情報セキュリティとは何か ・不正侵入が引き起こす Web ページの改ざん	事前学習	教科書の第 1 章を読んでおく	
		事後学習	Web ページの改ざんはどのようにして可能になってしまうのか、他人に説明できるようになるまで学習する。	
第 2 回	急増するサイバー犯罪と法律	事前学習	教科書の第 2 章を読んでおく	
		事後学習	サイバー犯罪の主な種類と、それに適用される法律について、他人に説明できるようになるまで学習する。	
第 3 回	個人情報流出事件と個人情報保護	事前学習	教科書の第 3 章を読んでおく	
		事後学習	個人情報が流出する代表的な原因と、その対策について、他人に説明できるようになるまで学習する。	
第 4 回	ウイルス対策	事前学習	教科書の第 4 章を読んでおく	
		事後学習	コンピュータウイルスの感染経路、マルウェアの手口と、その対策について、他人に説明できるようになるまで学習する。	
第 5 回	情報資産とリスク評価/セキュリティポリシー	事前学習	教科書の第 5, 6 章を読んでおく	
		事後学習	情報セキュリティの 3 つの基礎概念(機密性・完全性・可用性)について、それぞれ具体例を挙げて他人に説明できるようになるまで学習する。また情報セキュリティポリシーとは何か、また策定する意味について、他人に説明できるようになるまで学習する。	
第 6 回	教育 IT ソリューション[学外授業]	事前学習	教育 IT ソリューションについて予習する	
		事後学習	教育 IT ソリューションで見聞した製品・サービスのうち、情報セキュリティに関して興味の湧いたものを数点、選び、レポートにまとめる。	
第 7 回	教育 IT ソリューションのレポート報告会・不正アクセスの動機と主体	事前学習	教科書の第 7 章を読んでおく・教育 IT ソリューションのレポートを完成させる。	
		事後学習	迷惑メール、メール爆弾とは何かとそれらへの対処法について、他人に説明できるようになるまで学習する。	
第 8 回	ソーシャルエンジニアリング	事前学習	教科書の第 8 章を読んでおく	
		事後学習	ソーシャルエンジニアリングの代表的な手法を、3 つほど挙げ、それは何かとそれらへの対策について、他人に説明できるようになるまで学習する。	
第 9 回	危ない Web サイトと TCP/IP の仕組み	事前学習	教科書の第 9 章を読んでおく	
		事後学習	IP アドレス、クッキー、プロキシサーバ、ポート番号など、危ない Web サイトへの対策に必要な知識のキーワードについて、他人に説明できるようになるまで学習する。	
第 10 回	DoS 攻撃と防御	事前学習	教科書の第 10 章を読んでおく	
		事後学習	DoS 攻撃とは何かとそれらへの対策について、他人に説明で	

			きるようになるまで学習する。
第 1 1 回	アクセス主体をみつけるネットワーク構成	事前学習	教科書の第 1 1 章を読んでおく
		事後学習	ネットワークへの外部から侵入者の手口と対策について、他人に説明できるようになるまで学習する。
第 1 2 回	有線/無線 LAN とインターネットの盗聴対策	事前学習	教科書の第 1 2 章を読んでおく
		事後学習	LAN からの盗聴流出と、その対策としての通信暗号化について、他人に説明できるようになるまで学習する。
第 1 3 回	公開鍵暗号と PKI	事前学習	教科書の第 1 3 章を読んでおく
		事後学習	共通鍵暗号と公開鍵暗号のしくみについて、他人に説明できるようになるまで学習する。
第 1 4 回	スマホやタブレットのセキュリティ	事前学習	教科書の第 1 4 章を読んでおく
		事後学習	スマホやタブレットによるセキュリティ上の危険について、他人に説明できるようになるまで学習する。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	情報セキュリティの危険について、最新の事例をもとに説明し、本講義全体の内容を概観する
		事後学習	本講義におけるレポートを執筆する

1. 科目名 (単位数)	情報倫理 (2 単位)	3. 科目番号	EDIT2305
2. 授業担当教員	竹内 俊彦	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義および演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、情報機器およびインターネットを活用するときの基本的倫理を学習する。また、情報社会における多様な情報倫理に関する諸問題を把握するとともに、その理論的根拠について考察する。具体的には、知的所有権、プライバシー、ネチケット、セキュリティなどの情報倫理について解説し、適切な行動様式を体得することを目標とする。		
8. 学習目標	情報技術を利用する上での安全性やモラル等の諸問題に関して、技術的側面のみでなく、倫理や社会的側面にも焦点を当てて論ずる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	本講義で学んだことから興味のあるテーマを選び、自分で調べ、資料を作成し提出してください		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 noa 出版「情報倫理ハンドブック」noa 出版, 2012 年, 360 円(税込)。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 50% 発表会 1 10% 発表会 2 10% 発表会 3 30%		
12. 受講生への メッセージ	情報倫理は進化します。最新の教科書に基づいて、情報倫理について考える事ができるようにしましょう。また、5 月に 1 回、東京ビッグサイトでの学外学習があります。		
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示します。なおオフィスアワー以外でも時間があれば面談しますが、事前にメールで連絡をすることが望ましいです。totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	情報倫理とは	事前学習	教科書 1 章を読んでおく
		事後学習	Web サイトの練習問題に取り組む。
第 2 回	ネット上での情報発信/メールのマナー	事前学習	教科書 2 章 1~3 を読んでおく
		事後学習	Web サイトの練習問題に取り組む。
第 3 回	不特定多数のコミュニケーション	事前学習	教科書 2 章 4~6 を読んでおく
		事後学習	Web サイトの練習問題に取り組む。
第 4 回	トラブル事例の調べ学習 1	事前学習	第 1 回~第 3 回の授業内容から、取り上げたい事例の候補を挙げておく。
		事後学習	取り上げたい事例について調べる。
第 5 回	トラブル事例の発表会 1	事前学習	発表会 1 の準備をする。
		事後学習	講評に基づき、資料を修正する。
第 6 回	教育 IT ソリューション[学外授業]	事前学習	教育 IT ソリューションについて予習する
		事後学習	教育 IT ソリューションで見聞した製品・サービスのうち、情報倫理に関して興味湧いたものを数点、選び、レポートにまとめる。
第 7 回	教育 IT ソリューションのレポート报告会・情報の安全性を守る	事前学習	教科書 3 章を読んでおく。教育 IT ソリューションのレポートを完成させる。
		事後学習	Web サイトの練習問題に取り組む。
第 8 回	ネットワーク/スマホアプリのトラブル事例	事前学習	教科書 4 章を読んでおく
		事後学習	Web サイトの練習問題に取り組む。
第 9 回	トラブル事例の調べ学習 2	事前学習	第 6 回~第 8 回の授業内容から、取り上げたい事例の候補を挙げておく。
		事後学習	取り上げたい事例について調べる。
第 10 回	トラブル事例の発表会 2	事前学習	発表会 2 の準備をする。
		事後学習	講評に基づき、資料を修正する。
第 11 回	著作権と著作権侵害	事前学習	教科書 pp.49-50 を読んでおく
		事後学習	Web サイトの練習問題に取り組む。
第 12 回	ネットショッピング・架空請求	事前学習	教科書 p.51 を読んでおく
		事後学習	Web サイトの練習問題に取り組む。
第 13 回	未来の情報倫理とは	事前学習	未来社会の情報倫理について自分のアイデアを考えておく。
		事後学習	未来の情報倫理について、ディスカッションの結果を考察する。
第 14 回	未来の情報倫理についての調べ学習	事前学習	自分の調べたいアイデアを決定する。
		事後学習	発表会に向けて資料を作成する。
第 15 回	発表会・まとめ	事前学習	発表会の最終準備を行う。
		事後学習	本講義で学んだことから興味のあるテーマを選び、調べてレポートにし提出する

1. 科目名 (単位数)	人事管理論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP4103
2. 授業担当教員	菊池 敏夫		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答など	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	企業など組織・経営体が利潤を最大化するために、どのように内部の人事を管理していくかを学んでいく。人事管理には、組織内に努める社員・職員の評価や勤務条件などの他に、どのようなシステムにおいて、社員・職員全員が最大の生産性を上げることができるかなどを学び、「人」がどのような価値をもち、どのように機能しているのかを考えて行く。社員・職員は「人財」とも呼ばれ、最も重要なファクターの一つであることから、企業や組織・経営体を管理する上で、人事管理の効率的な運営とは何かについて、考察を深めて行く。		
8. 学習目標	1. 経営体は多くの経営資源から構成されている。その経営資源の中で最も重要な人的資源に関わる管理の全体像を理解する。 2. 生きた資源としての人的資源を確保 (採用) し、職務能力を育成し、合理的・効率的に活用するなどといった管理のステップを理解する。 3. 人的資源の管理を学ぶことにより、病院・学校・公共団体・企業など、組織に参画し、自ら職務を担当したり、経営するための人事管理能力の基礎を身に付ける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	15回の講義回数のうち、2回を学生の課題発表、討論に当てます。発表の前にテーマを設定して報告要旨を準備して発表、討論、コメントを行う。なお、レポート、小論文は講義中に提出してもらい。最終レポートはテーマを選択して作成、提出してもらいます。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 佐藤博樹他著『新しい人事労務管理 (第 4 版)』有斐閣、2012 年。 【参考書】 宮下 清著『経営・人事入門』創成社、2013 年。 林 明文著『合理的人事マネジメント』中央経済社、2014 年。 Howard Gospel & Andrew Pendleton(Edited), Corporate Governance and Labour Management, Oxford, 2005.		
11. 成績評価の方法	1. 質問・討論、授業への積極的参加状況 30% 2. 課題の発表、レポート 35% 3. 期末最終レポート 35%		
12. 受講生への メッセージ	学生諸君は卒業後、企業または何らかの組織に就職するため、在学中から就職活動に多くのエネルギーを投入することになります。この就活の相手として企業側の説明会、採用などを担当するのは、各企業や組織の人事管理部門です。この部門の活動の主な内容が人事管理論の対象であることを理解しておいて下さい。学生諸君に対する対応、採用試験、採用後の入社前教育などが、合理的に行われているかを判断できる学科目であることを理解し、学習することをすすめます。		
13. オフィスアワー	後日、連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義内容の説明、テキストの内容への理解と説明	事前学習	人事管理論とは何かを理解するためにテキストの第 1 章および目次に眼を通し、シラバスの講義概要、学習目標、受講生へのメッセージを読んでおく。
		事後学習	テキスト第 1 章を熟読、講義内容のノートを整理しておくこと。
第 2 回	雇用管理の内容、採用管理、配置と異動、定年制などへの理解	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.31~58) を読んで何が問題かを考えておくこと。
		事後学習	採用から定年までの人事管理の流れを正確に理解すること。
第 3 回	人事制度、人事考課制度への理解を深める	事前学習	第 3 章 (pp.65~86) を読み、人事考課、新しい評価制度へ関心を持つこと。
		事後学習	講義のノートを整理し、人事考課の新しい方向を考え、理解を深める。
第 4 回	賃金管理：賃金とは何か、賃金決定の基準への理解	事前学習	第 4 章 1.2 (pp.87~99) を読み、賃金が決定される基準を考えておく。
		事後学習	賃金において、決定基準への理解を深める。
第 5 回	賃金体系と年功賃金、成果賃金への理解と問題の分析	事前学習	第 4 章 3.4 (pp.100~115) を読み、年功賃金の特徴を理解しておく。
		事後学習	年功賃金および成果にもとづく賃金の問題への理解を深める。
第 6 回	労働時間管理の問題—制度的問題、時間短縮、弾力化の問題への理解と分析	事前学習	テキスト第 6 章 (pp.143~115) を読み、労働時間管理にはどんな問題があるかを理解する。
		事後学習	時間短縮およびフレックス・タイムの有効性と問題点を考え整理しておくこと。
第 7 回	第 1 回～第 6 回の講義のまとめの後、受講生による課題発表と討論、レポート (報告要旨) 提出	事前学習	課題について十分準備し、報告要旨を作成しておく。
		事後学習	発表に対する質問、問題の指摘、コメントをよく整理、記録しておくこと。
第 8 回	能力開発、OJT と OFF・JT の有効性と問題分析	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.165~195) を読み、能力とは何かを考えておく。

		事後学習	能力開発の方法、OJT と OFF・JT について理解を深めること。
第 9 回	非正規従業員と派遣労働者、コンティジェント・ワーカーの活用と問題点	事前学習	第 8 章 (pp.197～218) を読み、非正規従業員、派遣労働者について調べ、まとめておくこと。
		事後学習	近年の非正規従業員の増加傾向の背景に理解を深めること。
第 10 回	従業員の生活支援、企業の福利厚生、ワーク・ライフ・バランスの実現への理解	事前学習	第 9 章 (pp.219～243) を読み、福利厚生制度の現状を理解し、考えをまとめておくこと。
		事後学習	近年の問題がワーク・ライフ・バランスであることの意味、背景を考えること。
第 11 回	労使関係管理、従業員の利益、労働組合、労使協議制、の問題分析	事前学習	第 10 章 (pp.245～264) を読み、労使関係管理にどんな問題があるかに関心をもっておくこと。
		事後学習	労使関係管理の近年の変化に理解を深めること。
第 12 回	労使関係の国際比較—従業員の経営参加制度、ドイツ、中国の事例分析	事前学習	配布資料により、ドイツ、中国の従業員の経営参加の理解を深めること。
		事後学習	ドイツの監査役会、中国の監査役会には従業員代表が参加していることの意味、背景を考え理解を深めること。
第 13 回	人事管理論における新傾向と問題、人事管理論の変遷と課題	事前学習	テキスト終章 (pp.265～298) を読み、変化の方向を理解しておくこと。
		事後学習	第二次大戦後、人事管理の主題は変化しており、変化の方向と問題点を考え、ノートにまとめておくこと。
第 14 回	第 8 回～第 13 回の講義のまとめの後、受講生による課題報告と討論、レポート (報告要旨) 提出	事前学習	あらかじめ設定された課題について十分準備し、レポート (報告要旨) を作成しておくこと。
		事後学習	発表に対する質問、コメントを整理し、記録しておくこと。
第 15 回	講義全体のまとめ、いくつかの残された課題についての考えかた	事前学習	講義全体をふりかえり、人事管理論とは何かを復習すること。
		事後学習	最終レポートを作成、提出。

1. 科目名 (単位数)	身体構造と機能 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2316 SCMP2316 SBMP2316
2. 授業担当教員	秋島 恵子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義 演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	介護実践に必要な知識という観点から、こころとからだのしくみについての知識を養う。 日常生活行動の意義を再確認し、そのそれぞれの場面で機能するこころとからだのしくみを理解する。 (身支度、活動、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠、コミュニケーション) この科目を履修することで、利用者の状態を正しく理解し、提供する介護の根拠を説明できるようになる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身支度に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 2. 日常生活の活動に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 3. 食事に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 4. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 5. 排泄に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 6. 睡眠に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 7. コミュニケーションに関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業内に配布する「リアクションペーパー」に、授業に対する意見・感想・質問等を書き、その授業時間内に提出する。なお、リアクションペーパーには毎回小テストあるいは小レポートがついている。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 長谷川和夫他編著『こころとからだのしくみ 生活場面・状態像に応じた支援の理解』建帛社。		
11. 成績評価の方法	期末試験 (到達度確認試験) 30% レポート 2 回 30% 確認テスト 2 回 30% 授業参加態度 10% 理由の申し出がない場合、欠席 10 点減点、遅刻、中抜け、早退は 1 回で 3 点減点とする。 尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	授業中のマナー、ルールを守ること 【出欠席について】 ・やむを得ず、遅刻、早退、欠席する場合は、その理由を申し出ること。何もない場合は減点対象とする。 【マナー、ルールについて】 ・他の人の受講の妨げになるような迷惑行為は慎む 私語や携帯の利用、授業途中での入退室は、授業を真面目に聞こうとしている人に対して大変に迷惑をかける行為となるため、自粛する。(携帯電話などは電源を切るかマナーモードにする。また、かばん等に必ずしまっておく。) ・居眠りをしない ・明らかに授業態度が不適切と判断された際は、厳格な指導を行うが、指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ皆出席であっても F 評価となる。		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 「身体構造と機能 I」 のねらいと授業の進め方について テーマ「コミュニケーションに関連したこころとからだのしくみ 1」 コミュニケーションの意味と目的、コミュニケーション技術、しくみについて理解する。	事前学習	テキスト pp. 1～12 を読んでおく
		事後学習	コミュニケーションの意味と目的、技術、しくみについて整理する。
第 2 回	テーマ「コミュニケーションに関連したこころとからだのしくみ 2」 コミュニケーションに関する機能低下と障害について理解する。	事前学習	テキスト pp. 13～42 を読んでおく
		事後学習	コミュニケーションに関する機能低下と障害について整理する。
第 3 回	テーマ「食べることに関連したこころとからだのしくみ 1」 食べることの意味、栄養素の種類と働きについて理解する。	事前学習	テキスト pp. 49～58 を読んでおく
		事後学習	食べることの意味、食べることにに関するしくみについて整理する。
第 4 回	テーマ「食べることに関連したこころとからだのしくみ 2」 食べることにに関するしくみ、機能低下と障害、生活場面における変化と気付きと医療職との連携について理解する。	事前学習	テキスト pp. 59～62 を読んでおく
		事後学習	食べることにに関する機能低下と障害、生活場面における変化と気付きについて整理する。
第 5 回	テーマ「口腔の清潔に関連したこころとからだのしくみ」 口腔のしくみ、口腔ケアの実際、口腔に関する機能低下と障害について理解する。	事前学習	テキスト pp. 63～86 を読んでおく
		事後学習	口腔のしくみ、口腔ケアの実際、口腔に関する機能低下と障害について整理する。
第 6 回	テーマ「排泄に関連したこころとからだのしくみ 1」 排泄の意味、しくみ、機能低下と障害、日常生活での気付きについて理解する。	事前学習	おむつ体験に関するレポートを作成する。 テキスト pp. 87～100
		事後学習	排泄の意味、しくみ、機能低下と障害、日常

	おむつ体験のレポート提出		生活での気付きについて整理する。
第 7 回	テーマ「排泄に関連したところとからだのしくみ 2」 おむつ体験をもとに、おむつの弊害について考える。 テーマ「移動に関連したところとからだのしくみ 1」 移動とは、移動の意義、高齢者の移動を困難にする要因 移動を支えるシステム、骨の役割	事前学習	おむつの弊害について考える。
		事後学習	おむつの弊害について整理する。
第 8 回	テーマ「移動に関連したところとからだのしくみ 2」 なめらかな連携プレー～骨・筋肉～ 確認テスト 1	事前学習	テキスト pp. 114～126 を読んでおく
		事後学習	骨と筋肉の連携について整理する。
第 9 回	テーマ「入浴に関連したところとからだのしくみ」 入浴の意味と役割、入浴の注意点について理解する。 睡眠日誌課題の説明	事前学習	テキスト pp. 127～132 を読んでおく
		事後学習	入浴の意味と役割、入浴の注意点について整理する。
第 10 回	テーマ「睡眠に関連したところとからだのしくみ」 睡眠の意味、睡眠障害、睡眠パターン、高齢者の睡眠、 睡眠習慣と生活習慣病について理解する。 睡眠日誌の提出 確認テスト 2	事前学習	睡眠日誌を記入する。 テキスト pp. 133～136 を読んでおく
		事後学習	睡眠について整理する。
第 11 回	テーマ「睡眠に関連したところとからだのしくみ」 実際の睡眠パターンについて理解する。	事前学習	テキスト pp. 137～150 を読んでおく
		事後学習	確認テスト 2 の内容を理解する。
第 12 回	テーマ「人間の欲求について 1」 欲求とは、欲求の種類、欲求の段階について、理解する。 事例をみて、利用者の欲求や職員の対応についてまとめる。	事前学習	テキスト pp. 1～12 を読んでおく
		事後学習	欲求とは、欲求の種類、欲求の段階について理解する。
第 13 回	テーマ「人間の欲求について 2」 利用者の欲求や職員の対応について、班で発表する資料を作成する。	事前学習	再度、テキスト pp. 1～12 を読んでおく
		事後学習	利用者の欲求や職員の対応について、内容をまとめる。
第 14 回	テーマ「人間の欲求について 3」 利用者の欲求や職員の対応について、班で発表し、理解する。 欲求不満、防衛機制について理解する。	事前学習	利用者の欲求や職員の対応について、班での発表原稿を作成する。
		事後学習	利用者の欲求や職員の対応、欲求不満、防衛機制について整理する。
第 15 回	テーマ「死にゆく人のところとからだ 1」 生理的は死、法律的な死、臨床的な死、死に対するところの理解、家族の死を受容する段階について理解する。	事前学習	テキスト pp. 157～167 を読んでおく
		事後学習	死の定義、死に対するところの理解、家族の死を受容する段階について整理する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1311
2. 授業担当教員	成本 忠正	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)		
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学という学問の歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学ぶことを通して、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識、心理学的視点を身につける。 3. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 4. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 5. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【小テスト】各テーマ終了後に小テスト (15分程度) を実施する。</p> <p>【レポート課題】本講義で学習した心理現象あるいは心理学的知見の社会的貢献をリサーチし、レポートを作成する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】手島茂樹・渡邊映子 (編著) 『スタンダード心理学』おうふう、2014。</p> <p>【参考書】梅本堯夫・大山正 編著 『心理学への招待 こころの科学を知る』サイエンス社、1992。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の 30% 2 課題レポート 総合点の 40% 3 小テスト (複数回) 総合点の 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	心理学は、保育・教育・福祉・医療・産業など、受講生の皆さんが将来関わる様々な分野に応用がなされています。応用のための基礎を身に付け、各自が学習目標に到達するために、(1)高い緊張感と積極的な態度で授業に臨むこと、(2)理解できないことをそのままにせずに質問すること、(3)レポートの提出期限を厳守すること、(4)自らの意見を述べる機会を模索すること、(5)遅刻・欠席・早退をしないこと、(6)携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) を慎むこと、を心掛けてください。		
13. オフィスアワー	質問・相談等は随時、授業中あるいは授業前後の休憩時間に受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 心理学とは何か	事前学習	教科書【心理学の歴史】を読む
		事後学習	心理学史について復習する
第 2 回	環境を理解する (感覚・知覚・認知)	事前学習	教科書【知覚の心理】を読む
		事後学習	知覚特性について復習する
第 3 回	記憶を理解する (覚えるとは?)	事前学習	教科書【記憶の心理】を読む
		事後学習	短期・長期記憶の特性について復習する
第 4 回	記憶を理解する (忘れるとは?)	事前学習	教科書【記憶の心理】を読む
		事後学習	忘却要因について復習する
第 5 回	環境を学習する (反応・反射の学習課程)	事前学習	教科書【学習の心理】を読む
		事後学習	古典的学習プロセスについて復習する
第 6 回	環境を学習する (自発的行動の学習課程)	事前学習	教科書【学習の心理】を読む
		事後学習	オペラント学習プロセスについて復習する
第 7 回	動機・欲求を理解する	事前学習	事前に配布された資料【動機づけ】を読む
		事後学習	社会的欲求について復習する
第 8 回	感情を理解する	事前学習	教科書【感情と情動の心理】を読む
		事後学習	感情の生起メカニズムについて復習する
第 9 回	発達を理解する (性格・愛着)	事前学習	教科書【発達の心理】を読む
		事後学習	発達の諸モデルについて復習する
第 10 回	社会性とは何か	事前学習	配布資料【社会性】を読む
		事後学習	向社会的行動について復習する
第 11 回	性格を理解する	事前学習	教科書【性格の心理】を読む
		事後学習	類型論・特製論について復習する
第 12 回	集団を理解する	事前学習	配布資料【集団】を読む
		事後学習	集団の特性について復習する
第 13 回	ストレスを理解する (適応とは?)	事前学習	配布資料【ストレス】を読む
		事後学習	ストレス適応モデルについて復習する
第 14 回	ストレスを理解する (対処法とは?)	事前学習	配布資料【ストレス】を読む
		事後学習	ストレス対処法について復習する
第 15 回	まとめ (レポート講評・質疑応答)	事前学習	これまでの授業内容で質問があれば準備する
		事後学習	レポート添削の内容を理解する

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1111 GELA1311
2. 授業担当教員	川島 亜紀子		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	教育学部生は、先に「心理学入門」を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学という学問の歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学ぶことを通して、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。		
8. 学習目標	6. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 7. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識、心理学的視点を身につける。 8. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 9. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 10. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	事前学習として、指定された部分を読んでください。毎回、授業の最初に簡単な小テスト (10分程度) を実施します。第 1 4 回, 第 1 5 回の講義で、興味あるテーマに関するグループ発表および質疑応答を行うため、プレゼンテーション・シートを作成し、レポートを提出します。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 「図説 心理学入門 第 2 版」齊藤勇篇 誠信書房		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の 30% 2 課題レポート 総合点の 40% 3 小テスト (複数回) 総合点の 30% 具体的な評価方法は第 1 回目のガイダンスで説明します。		
12. 受講生への メッセージ	皆さんの理解度・達成度によって講義の進度を調整する場合があります。 わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、事前に通知のない欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語、居眠りは減点の対象となります。また、授業内での携帯電話の使用は厳禁とします。 初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第 1 回の授業に出席してください。		
13. オフィスアワー	授業中に周知する。(掲示参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 心理学とは何か	事前学習	教科書 序章を読む
		事後学習	序章の要点をまとめる
第 2 回	知覚と認知 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 1 章を読む
		事後学習	教科書 第 1 章の要点をまとめる
第 3 回	知覚と認知 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 1 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 4 回	欲求と感情 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 2 章を読む
		事後学習	教科書 第 2 章の要点をまとめる
第 5 回	欲求と感情 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 2 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 6 回	学習・思考・記憶 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 3 章を読む
		事後学習	教科書 第 3 章の要点をまとめる
第 7 回	学習・思考・記憶 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 3 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 8 回	発達と教育 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 4 章を読む
		事後学習	教科書 第 4 章の要点をまとめる
第 9 回	発達と教育 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 4 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 1 0 回	性格と異常心理 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 5 章を読む
		事後学習	教科書 第 5 章の要点をまとめる
第 1 1 回	性格と異常心理 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 5 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 1 2 回	対人心理と社会心理 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 6 章を読む
		事後学習	教科書 第 6 章の要点をまとめる
第 1 3 回	対人心理と社会心理 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 6 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 1 4 回	まとめ (1) プレゼンテーションとディスカッション	事前学習	発表資料の準備
		事後学習	発表についてのレポートを書く
第 1 5 回	まとめ (2) プレゼンテーションとディスカッション	事前学習	発表資料の準備
		事後学習	発表についてのレポートを書く

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1111
2. 授業担当教員	木村 純		
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	人間の知覚、記憶、学習、発達、感情や動機づけ等に関する基礎理論を学び、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図る。また、日常生活と心の健康との関係について理解し、心理的支援の方法と実際についても、基礎的な理解を得る。可能な限り演習的要素を盛り込み、グループ学習を通して、心理学的思考方法を身に付ける。加えて、自己と他者、及びその関係性についての「体験的な人間理解」を図る。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基本的な知識を学び、人間の基礎的な行動原理を理解し、説明することができる。 2. 人の成長・発達と心理についての理解を深め、自分の言葉で表現することができる。 3. 日常生活と心の健康について理解するとともに、心理的支援の方法と実際について説明することができる。 4. 自分自身や他者への理解を深めることができる。 5. 心理学的な視点と思考方法を学び、実社会に応用するための基礎力を身に付け、実践に活かすことができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習の理解度をみるための小テストを授業内で行います。 (その他につきましては、授業の進行状況に応じて提示します。)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 特に指定しない。必要に応じて適宜資料を配布する。 【参考書】 梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延 (共著) 『心理学 第2版』サイエンス社 その他は授業内でそのつど紹介する。		
11. 成績評価の方法	平常点 (積極的授業態度、発表、発言) 70% 小テスト 10% 期末試験 20%		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的に参加すること。 2. 正当な理由なく、遅刻、欠席、早退をしないこと。 3. 授業の妨害行為および他者への迷惑行為 (私語、居眠り、携帯の使用、実習やディスカッションへの不参加など) をしないこと。これらの不適切な行為がみられた場合は厳格に対処する。 4. 授業内容は、進捗状況・理解度にあわせて適宜変更していく。 		
13. オフィスアワー	授業内で提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理学とは	事前学習	心理学で知っていることをまとめてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第2回	心理学の歴史と方法	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第3回	感覚と知覚 (1) 感覚と知覚、感覚の一般的性質	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第4回	感覚と知覚 (2) 知覚と錯覚	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第5回	学習と記憶 (1) 古典的条件づけとオペラント条件づけ	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第6回	学習と記憶 (2) さまざまな学習	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第7回	学習と記憶 (3) 記憶	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第8回	動機づけと情動 動機づけと行動・情動 <小テスト>	事前学習	資料を通読し、小テストの準備をする。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第9回	発達 (1) 遺伝と環境	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第10回	発達 (2) エリクソンとピアジェの発達理論	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第11回	性格 (1) さまざまな性格理論	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第12回	性格 (2) さまざまな性格テスト	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。

平成 28 年度

第 13 回	対人関係 (1) 対人魅力とリーダーシップ ＜小テスト＞	事前学習	資料を通読し、小テストの準備をしてくる。
		事後学習	ワークシートの作成と提出。
第 14 回	対人関係 (2) 集団と個人	事前学習	資料を通読してくる。
		事後学習	文献と資料の検索課題。
第 15 回	授業の総括： 今までの内容の振り返りとまとめ。	事前学習	今までの内容を総括し、疑問点をおさらいする
		事後学習	今までの内容を総括し、疑問点をおさらいする。期末試験の準備
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS3301
2. 授業担当教員	太田 信夫		
4. 授業形態	講義・実習・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学は、具体的に見ることのできない人の心を対象としていることから、一般の人にも興味を持たれやすい学問であり、身近なもののように思われる。しかし学問としての心理学は実証科学としての性格を持っており、具体的に見ることのできる対象を扱う自然科学の方法論と共通するところが多い。そのため、心理学を研究する際、具体的に見ることのできない心を見えるようにするための工夫が求められることから、人の心という対象を実証科学的に扱う方法は、本質的な難点を伴っている。</p> <p>そこで、本科目では、心理学を科学として研究するための代表的な方法である実験法、調査法、観察法、検査法、面接法等について、それぞれの長所短所の両面を学び、実践するために必要な知識を身につけることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 科学としての心理学であることの認識を持ち、実証科学的方法の手順を理解する。</p> <p>2. 心理学の代表的な研究方法について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。</p> <p>3. 心理的な問題をいかに研究に乗せていくかについて、自ら考え、実践できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	教科書の各章についてその内容をまとめる。これは、学習の再確認をし、学習の定着をはかるために行う。同時に、内容についての感想もまとめる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 高野陽太郎・岡 隆(編)『心理学研究法一心を見つめる科学のまなざし』有斐閣。		
11. 成績評価の方法	試験 70% レポート 20% 授業中の態度 10%		
12. 受講生への メッセージ	自分の頭を使って考えましょう。積極的に発言をしましょう。		
13. オフィスアワー	授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	調査法 (概観)	事前学習	第 10 章の前半を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 2 回	調査法 (質問紙の作成)	事前学習	第 10 章の前半を再度よく読んでくること
		事後学習	質問紙の作成の修正を行うこと
第 3 回	調査法 (作成の検討、発表)	事前学習	第 10 章の後半を読んでくること
		事後学習	質問紙の修正を行うこと
第 4 回	調査法 (講義)	事前学習	第 10 章後半を再度読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 5 回	調査法 (まとめ)	事前学習	第 10 章のまとめを自分なりにすること
		事後学習	質問紙を完成させ、提出の準備をすること
第 6 回	調査法 (質問紙の完成)	事前学習	第 10 章を通読する
		事後学習	質問紙作成の反省点をノートにまとめる
第 7 回	観察法 (概観)	事前学習	第 11 章を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 8 回	観察法 (観察用紙の作成)	事前学習	第 11 章を再度読んでくること
		事後学習	観察用紙の作成のさらなる修正をすること
第 9 回	観察法 (結果の発表と検討、講義)	事前学習	観察用紙を完成させてくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 10 回	観察法 (まとめ)	事前学習	第 11 章を通読すること
		事後学習	第 11 章をまとめること
第 11 回	面接法 (概観)	事前学習	第 13 章を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 12 回	面接法 (面接の実施練習)	事前学習	第 13 章を再度読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 13 回	面接法 (まとめ)	事前学習	第 13 章を通読すること
		事後学習	第 13 章をノートにまとめる
第 14 回	検査法 (信頼性・妥当性)	事前学習	第 12 章を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 15 回	検査法 (標準化)、	事前学習	第 12 章を再度読んでくること
		事後学習	第 12 章をノートにまとめる
第 16 回	中間テスト	事前学習	これまでの学習の復習をすること
		事前学習	テスト結果の自己評価をすること
第 17 回	科学と実証	事前学習	第 1 章を読んでくること

		事後学習	第 1 章をノートにまとめる
第 18 回	実験と観察	事前学習	第 2 章を読んでくること
		事後学習	第 2 章をノートにまとめる
第 19 回	実験的実証の手続き (概観)	事前学習	第 3 章を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 20 回	実験的実証の手続き (実習)	事前学習	いくつかの実験計画を考える
		事後学習	いくつかの実験計画の再検討をすること
第 21 回	実験計画の立案、実施、結果、考察	事前学習	一つの実験計画 (案) を持参すること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 22 回	実験のデータをとる	事前学習	実験計画を完成させること
		事後学習	収集したデータの分析をすること
第 23 回	実験法 (グループ発表)	事前学習	発表原稿を作成すること
		事後学習	実験報告を作成し、提出の準備をすること
第 24 回	実験法 (実習のまとめ)	事前学習	第 3 章を再度読んでくること
		事後学習	第 3 章をノートにまとめる
第 25 回	実験法 (独立変数)	事前学習	第 4 章前半を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 26 回	実験法 (独立変数の操作)	事前学習	第 4 章後半を読んでくること
		事後学習	第 4 章をノートにまとめる
第 27 回	実験法 (従属変数)	事前学習	第 5 章前半を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 28 回	実験法 (従属変数の操作)	事前学習	第 5 章後半を読んでくること
		事後学習	第 5 章をノートにまとめる
第 29 回	実験法 (剰余変数)	事前学習	第 6 章を読んでくること
		事後学習	第 6 章をノートにまとめる
第 30 回	実験法 (全体のまとめ)	事前学習	テキスト pp.114-118 を読んでくること
		事後学習	実験法についての学習をノートにまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学入門 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1310
2. 授業担当教員	水國 照充		
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	心理学系科目の中で最初に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目では、心理学という学問の入門的な学習として、歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における最も基礎的な概念と理論に幅広くふれながら、理解する。		
8. 学習目標	1. 心理学への興味を高め、後の心理学系専門科目の学習につなげることができる。 2. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 3. 心理学的な思考方法を身につけ、心理学系専門科目を学ぶための基礎を身につける。 4. 世間一般の心理学のイメージと、学問としての心理学との違いを理解し、説明することができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. 質疑応答課題シートを毎時間、授業終了時に記入して提出すること。 2. グループディスカッション毎に配布するディスカッションシートを各自でまとめ、授業終了時に提出すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ①長谷川寿一，東條正城，大島尚，丹野義彦，廣中直行『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣アルマ 2008 年 ②青木智子，水國照充，木附千晶『エクササイズで学ぶ心理学 自己理解と他者理解のために』北樹出版 2011 年 【参考書】 スーザン・ノーレン・ホークセマ，バーバラ・L・フレデリックセン，ジェフ・R・ロフタス，クリステル・ルッツ編 内田一成監訳『ヒルガードの心理学 第 16 版』金剛出版 2015 年		
11. 成績評価の方法	授業時に実施する課題シート（質疑応答含む）による評価 10% グループ発表による評価 40% 期末試験 50% 注意 1. 本学の規定により全講義回数のうち 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合は F 評価とする。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 3/4 以上の出席は必須です。 2. 座席指定で授業をおこないます。指定された座席で授業を受けてください。席の移動は認めません。 3. 指定された座席に基づくグループを作り、グループディスカッションを行います。グループ毎に司会者、記録者、発表者を決めて積極的なディスカッションを行ってください。 4. 第 10 回以降に実施するグループ発表では、事前に資料をまとめ入念な準備の元で発表に臨んでください。1 グループ 30 分（予定）の持ち時間を最大限に活かしてください。 5. 授業妨害となる行為は厳に慎んでください（上記、成績評価の方法参照）。 6. 学期末試験の持込み（ノート、配布資料等）の可否は、全受講生の受講態度や参加姿勢によって決定します。一部の受講生の授業態度が悪い場合でも、すべての受講生の持込みを不可としますので、お互いに声をかけあって積極的に授業に参加してください。		
13. オフィスアワー	授業中に周知する。(掲示参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 受講にあたっての諸注意 エクササイズ①グループディスカッション	事前学習	シラバスを熟読して、専用ノートを作成する
		事後学習	教科書②pp.10～16 を熟読してノートにまとめる。のなかから
第 2 回	心理学とは何か 心理学の歴史	事前学習	教科書①pp.3～28 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	教科書①pp.26～27 の参考図書のうち、1 冊以上を熟読してノートにまとめる。
第 3 回	心とは何か ～動物に心はあるのか～	事前学習	教科書①pp.29～46 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	教科書①pp.44～45 の参考図書のうち、1 冊以上を熟読してノートにまとめる。
第 4 回	心の発達 (1) ～ライフサイクル～	事前学習	教科書①pp.47～66 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	教科書①pp.80～81 の参考図書のうち、1 冊以上を熟読してノートにまとめる。

第 5 回	エクササイズ②グループディスカッション	事前学習	教科書②pp.17～23 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	ディスカッションで学んだことをノートにまとめる。
第 6 回	動機づけと情動	事前学習	教科書①pp.83～100 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	教科書①p.100 の参考図書のうち、1 冊以上を熟読してノートにまとめる。
第 7 回	性格① ～性格の記述、測定、変容～	事前学習	教科書①pp.83～100 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	教科書①p.116 の参考図書のうち、1 冊以上を熟読してノートにまとめる。
第 8 回	性格② ～心理テストで自分の性格を知る～	事前学習	「性格テスト」「人格テスト」をキーワードに文献等で調べてノートにまとめる。
		事後学習	心理テストの効果と限界について自分の考えをノートにまとめる。
第 9 回	知能 ～知能の考え方と測定～	事前学習	教科書①pp.117～130 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	教科書①pp.129～130 の参考図書のうち、1 冊以上を熟読してノートにまとめる。
第 10 回	エクササイズ③グループディスカッション	事前学習	教科書②pp.58～65 を熟読してノートにまとめる。
		事後学習	ディスカッションで学んだことをノートにまとめる。
第 11 回	グループ発表① 感覚	事前学習	教科書①pp.161～176 を熟読してノートにまとめる。発表指定されるグループは準備する。
		事後学習	2 つのグループの発表から学んだことをノートにまとめる。
第 12 回	グループ発表② 知覚	事前学習	教科書①pp.177～192 を熟読してノートにまとめる。発表指定されるグループは準備する。
		事後学習	2 つのグループの発表から学んだことをノートにまとめる。
第 13 回	グループ発表③ 記憶	事前学習	教科書①pp.193～208 を熟読してノートにまとめる。発表指定されるグループは準備する。
		事後学習	2 つのグループの発表から学んだことをノートにまとめる。
第 14 回	グループ発表④ 学習	事前学習	教科書①pp.209～230 を熟読してノートにまとめる。発表指定されるグループは準備する。
		事後学習	2 つのグループの発表から学んだことをノートにまとめる。
第 15 回	グループ発表⑤ 社会のなかの人	事前学習	教科書①pp.287～302 を熟読してノートにまとめる。発表指定されるグループは準備する。
		事後学習	2 つのグループの発表から学んだことをノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理療法概説 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3308 PSMP3382
2. 授業担当教員	水國 照充		
4. 授業形態	講義、演習、討議	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	臨床心理学の単位を修得しておくことが望ましい		
7. 講義概要	様々な心理療法の中から、クライアント中心療法、精神分析療法、行動療法、家族療法、芸術療法等の主要な心理療法を取り上げ、その理論と技法を体験的に学習する。また、それぞれのアプローチにおける効用と限界についての理解を深めることで、クライアント自身や問題に適した心理療法を学ぶ。		
8. 学習目標	1. 心理療法の諸理論・諸技法について、その背景となる考え方を理解し、それぞれの治療・援助の方法を具体的に知ること、その考え方や方法を日常生活に応用できるようになる。 2. 対人援助の場で、利用者や抱える問題に応じた心理的側面の援助方法を選ぶことができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業毎に課題シート (質疑応答含む) を配布するので毎時間提出すること。 2. グループディスカッション毎に配布するディスカッションシートを各自でまとめ、授業終了時に提出すること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 指定はありません。資料を毎時間配布します。 【参考書】 窪内節子・吉武光世『やさしく学べる 心理療法の基礎』培風館 金沢吉展『カウンセリング・心理療法の基礎』有斐閣アルマ 青木智子、水國照充、木附千晶『エクササイズで学ぶ心理学～自己理解と他者理解のために～』北樹出版。		
11. 成績評価の方法	受講態度・参加姿勢 10% 授業時に実施する課題シート (質疑応答含む) による評価 40% 期末試験 50% 注意 1. 本学の規定により全講義回数のうち 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合は F 評価とする。		
12. 受講生への メッセージ	1. 3/4 以上の出席は必須です。 2. 座席指定で授業をおこないます。指定された座席で授業を受けてください。席の移動は認めません。 3. 指定された座席に基づくグループを作り、グループディスカッションを行います。グループ毎に司会者、記録者、発表者を決めて積極的なディスカッションを行ってください。 4. 授業妨害となる行為は厳に慎んでください (上記、成績評価の方法参照)。 5. 学期末試験の持込み (ノート、配布資料等) の可否は、全受講生の受講態度や参加姿勢によって決定します。一部の受講生の授業態度が悪い場合でも、すべての受講生の持込みを不可としますので、お互いに声をかけあって積極的に授業に参加してください。		
13. オフィスアワー	授業中に周知する。(掲示参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 受講に関する諸注意	事前学習	シラバスを熟読しておく。専用ノートを用意する。
		事後学習	授業の目的、評価、授業内容についてノートにまとめる。
第 2 回	心理療法の手順～初回面接の進め方～	事前学習	授業で解説する心理療法を文献等から調べてノートにまとめておく。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 3 回	心理療法の倫理～事例を基に考える その 1	事前学習	心理療法の倫理問題を文献等から探し 1 事例以上をノートにまとめる。
		事後学習	想定される倫理問題を 1 つ以上考えてノートにまとめる。
第 4 回	心理療法の倫理～事例を基に考える その 2	事前学習	心理療法の倫理問題を文献等から探し 1 事例以上をノートにまとめる。
		事後学習	想定される倫理問題を 1 つ以上考えてノートにまとめる。
第 5 回	心理療法の基礎～対話による支援と傾聴	事前学習	臨床心理士が行う心理療法・カウンセリングについて文献等をノートにまとめる。
		事後学習	傾聴スキル以外の主張スキル、葛藤対処スキルについてノートにまとめる。
第 6 回	精神分析の理論と技法	事前学習	フロイト (Freud, S.) について文献等で調べてノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 7 回	グループエンカウンター	事前学習	グループエンカウターの種類や効果を調べてノートにまとめる。

		事後学習	授業では扱わなかったエンカウターの技法を文献で調べてノートにまとめる。
第 8 回	行動療法の理論と技法	事前学習	アイゼンク (Eysenck, H. J.) について文献等で調べてノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 9 回	行動療法を用いた不登校事例	事前学習	文科省のウェブサイトから平成 27 年度の不登校について調べノートにまとめる。
		事後学習	他のグループが挙げた行動療法の技法を 1 つ以上ノートにまとめる。
第 10 回	クライアント中心療法の理論と技法	事前学習	ロジャーズ (Rogers, C. R.) について文献等で調べてノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 11 回	クライアント中心療法を用いたいじめ事例検討	事前学習	文科省のウェブサイトから平成 27 年度のいじめについて調べノートにまとめる。
		事後学習	「他のグループが挙げたクライアント中心療法による解釈を 1 つ以上ノートにまとめる。
第 12 回	認知行動療法の理論と技法	事前学習	欧米での認知行動療法の活用状況等についてインターネット等を使ってノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 13 回	認知行動療法を用いた気分障害事例の検討	事前学習	気分障害とは何かを調べてノートにまとめる。
		事後学習	思考記録表を使って自分の悩みや不安について、1 週間程度モニターしてみる。
第 14 回	家族療法の理論と技法	事前学習	家族療法をキーワードにインターネット等で検索し、著名な家族療法家を 1 名以上調べてノートにまとめる。
		事後学習	配布された資料に挙げてある文献を 1 冊以上熟読してノートにまとめる。
第 15 回	多世代派理論を用いたジェノグラム作成	事前学習	自分から 3 世代先までの兄弟数、仕事、特徴等を親等から聞いてノートにまとめる。
		事後学習	自分自身の未来のジェノグラムを描く。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (初等・小) (2単位)		3. 科目番号	EDEL1304
2. 授業担当教員	片岡 浩			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題作品提出 2. プレゼンテーションおよび資料 (写真) の提出 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 【参考書】 花篤 實・岡田敬吾『新造形表現 実技編』三晃書房。 適宜資料を配布します。作品制作のための道具、材料は事前に指示しますので各自で用意してください。			
11. 成績評価の方法	実技課題&レポート50%、 日常の授業態度 (試行錯誤や創意工夫など自ら感じ考え、思考し、行動する姿勢) 50%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ものづくりや表現を「楽しむ」体験をして下さい。 2. 指示されたノルマやプログラムをただこなすのではなく、「失敗しても構わないので」自分の興味関心を大切に、自ら考え工夫し判断しながら自由な心で取り組む習慣を身に付けていって下さい。 3. 作品制作をとおして表現活動におけるコンセプトの意味を体験し、プレゼンテーション能力を養って下さい。※授業日程は実習の進行状況によって調整する場合があります。 			
13. オフィスアワー	※ 現在、時間割曜日未定			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業内容、目的、評価、用意するものなど) 【必要な道具】 必要な道具は前週に指示する		事前学習	①美術・芸術作品に親しむ為に、NHK 日曜美術館などメディアを通じた美術鑑賞を行う ②過去の作品制作体験を振り返り、その経験をクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する
			事後学習	内容のまとめ、図画工作でやってみたいことのイメージをふくらませアイデアや表現をクロッキー帳に描く
第2回	絵具を使って親指と人差し指で文字を描く 顔写真撮影		事前学習	美術・芸術作品に親しむ為に、NHK 日曜美術館などメディアを通じた美術鑑賞を行う
			事後学習	過去の作品制作体験を振り返り、その経験をクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する
第3回	スタンプング表現1 「にぼし」をつくろう 【必要な道具】 絵具、カッター		事前学習	好きなもの・興味のあるものの特徴を観察し、クロッキー帳に描く (書くのではなく描く)
			事後学習	①ネガ・ポジ視点でモチーフを観察して描く ②「マーブリング」「ブラッシング」「フロタージュ」「デカルコマニー」「ステンシル」など関連した技法について調べ比較しまとめる
第4回	スタンプング表現2 「手相を観察してペイントしよう」 【必要な道具】 筆、絵具		事前学習	様々な絵の具の表現方法を体験し、理解を深める為に、その技法と表現について調べる
			事後学習	版画の技法についてグループで分担して調べる
第5回	五感をつかった表現1 「右脳を使って表現しよう！」 「見て、触って、たたいて、嗅いで、味わってりんごを表現する」 (第4回～第6回は継続した作業) 【必要な道具】 クレヨン、スケッチブック		事前学習	五感をとおした実体験において、今までで印象に残っていることをクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する
			事後学習	様々なモチーフを授業と同様に、五感で体験し、クロッキー帳に自由に表現し描く
第6回	五感をつかった表現2 「りんごの世界」 色彩による感覚表現 【必要な道具】 折り紙・和紙・いろ紙、のり、はさみ、スケッチブック		事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する
			事後学習	①スクラッチ技法について調べる ②異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第7回	五感をつかった表現3 「りんごの世界」触覚による造形表現		事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する

	【必要な道具】新聞紙・折り紙・和紙・いろ紙、のり、はさみ、スケッチブック まとめ（りんごの仕上げ・サイン）と撮影会	事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第 8 回	視点を変えた立体表現 1 アルミホイルと粘土をつかった立体造形 「ルビンの壺～ネガポジ視点でかたちをつくる工夫」 「骨格を意識する」 【必要な道具】アルミホイル、ティッシュ、粘土、水彩絵の具	事前学習	白抜き描法でモチーフを意識的に観察する
		事後学習	「作品」に対する意識を高め、造詣を深め、興味・関心・創作意欲を養う為に、ジュンク堂や図書館などで美術・芸術の情報に触れたり、銀座のギャラリー巡りを体験する（研究室前に展覧会情報が掲示してあります※ギャラリーは基本的には入場無料ですのでマナーを守って鑑賞しましょう）
第 9 回	視点を変えた立体表現 2 アルミホイルと粘土をつかった立体造形 「ネガポジ視点でかたちをつくる」 「オリジナル動物の作成」 【必要な道具】水彩絵の具、粘土 鑑賞会（各作品にコメントを書く）と撮影会	事前学習	ネガポジ視点でモノを観察する練習を行う 五感をとおした実体験において、今までで印象に残っていることをクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する
		事後学習	プロポーションやムードを把握する能力を養う為、今回の課題で体験的に学んだことを参考にして、意識的にカタチを捉え、その見方を学ぶ 様々なモチーフを授業と同様に、五感で体験し、クロッキー帳に自由に表現し描く
第 10 回	色水あそび 1 「カタチの見方、捉え方（鉛筆による表現）」 「水彩表現の基礎とコツ」 【必要な道具】水彩絵の具	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第 11 回	色水あそび 2 「カタチの見方、捉え方（鉛筆による表現）」 「水彩表現の基礎とコツ」 【必要な道具】水彩絵の具、のり	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第 12 回	造形基礎 1 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～鉛筆の削り方・持ち方・グラデーション～」	事前学習	「本物そっくりに上手にかく」ことにどのような意味があるのか、自分の経験も振り返りながら考察し、まとめる
		事後学習	①各段階における作業目標を意識しながら取り組み身に付けていく ②自分の経験値だけに頼った「わかったつもり」の作業をしない
第 13 回	造形基礎 2 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～様々な種類の鉛筆を使う～」	事前学習	現段階における作業到達点を意識し理解し身に付けること
		事後学習	現段階における作業到達点を意識し理解し身に付けること
第 14 回	造形基礎 3 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～かたちの見方・捉え方～」	事前学習	現段階における作業到達点を意識し理解し身に付けること
		事後学習	①各段階における到達目標と全体の作業段階の関係性を理解する ②全体の作業工程とポイントを意識しながら身に付けていく ③誰にでもできるプログラムについて考察し、まとめる
第 15 回	造形基礎 4 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～鉛筆の削り方・持ち方・グラデーション～」	事前学習	作品表現に関わるコンセプト・プレゼンテーションの意味について考察し、「作品テーマ」を詩や言葉で表現する
		事後学習	素材表現の可能性について試行錯誤し探求する※納得がいくまで実習室での時間外制作に取り組んでも構わない

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (小) (2 単位)		3. 科目番号	SJOT1141 EDEL1304
2. 授業担当教員	宮坂 慎司			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	i. 毎時の授業において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 自己の振り返りとして、授業における取り組みをスケッチブックにまとめることを課題とする。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】【参考書】 授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時に指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的姿勢・参加態度：50% (意欲的な制作活動・自己課題への取り組み等) 課題：50% (毎時の提出作品・発表・レポート課題等)			
12. 受講生への メッセージ	i. 指導者としての資格を得るという自覚を持ち、積極的に、集中して制作に取り組むこと。 そのために、必要な道具や材料は必ず準備し、事前事後の学習に努めること。 ii. 多くの体験を積み、広い視野を持つこと。多くの人の作品に触れ、考えや意見を持つこと。 iii. 自分の制作した作品を大切にすること。 以上のことを意識して、自分の学びをより有意義なものとしてください。			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (研究室の前に時間割表を掲示)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造—発想について—		事前学習	中学校・高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。
			事後学習	造形発想に関するグループでの制作活動を振り返り、考えたこと感じたことを配布プリントにまとめる。
第 2 回	◇ 描画の基礎・デッサン 鉛筆の使い方を学び、身近なものを描く		事前学習	これまでの描画経験を振り返り、描いたことのあるモチーフを挙げる。「立体感」について考え、表現するための工夫を書き出す。
			事後学習	鉛筆による立体感を意識した描画について、制作活動の振り返りを行い、スケッチブックに作品をまとめる。
第 3 回	◇ 絵画表現 I 色彩についての基礎知識の習得		事前学習	絵の具を用いた制作活動の経験を振り返り、色彩に関して印象深かった作品を書き出す。それらの作品から、自分の色彩表現の特色について考える。
			事後学習	加法混色と減法混色についてプリントにまとめる。減法混色における色の三原色から、色相環をつくる復習をする。
第 4 回	◇ 絵画表現 II 特徴を捉えた簡潔な線による描画		事前学習	子どもに好まれるキャラクターの特徴について考えをまとめる。また、実際に子どもに人気のあるキャラクターをできるだけ多く調べる。
			事後学習	○△□といった基本的な形から複雑な形を組み立てていく練習を繰り返し行う。
第 5 回	◇ 絵画表現 III 技法の習得① (デカルコマニー・ドリップング)		事前学習	筆を用いない描画の経験を振り返り、活動の内容を思い出して書き出す。作品制作に向けて、自分らしい色合いについて考え、構想を練る。
			事後学習	デカルコマニーとドリップングによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。スケッチブックに作品をまとめる。
第 6 回	◇ 絵画表現 IV		事前学習	筆を用いない描画の特性について考える。作

	技法の習得②（スタンピング・フロッタージュ）		品制作に向けて、身の回りにある自然物の有機的な形態に着目し、構想を練る。
		事後学習	スタンピングとフロッタージュによる制作活動を振り返り、子どもの造形活動における見立ての重要性について考えたこと・感じたことをプリントにまとめる。スケッチブックに作品をまとめる。
第 7 回	◇ 素材についての研究 I 紙の折り目を利用した立体表現	事前学習	A4 ケント紙を用いてバースデーカードを制作する時、どのような工夫ができるか考え、アイデアを書き出す。
		事後学習	ポップアップカードの制作活動を振り返り、実際に制作した作品以外に、どのような形で応用できるかを考え、アイデアを書き留める。スケッチブックに作品をまとめる。
第 8 回	◇ 素材についての研究 II 可塑性を用いた造形の展開	事前学習	粘土を使った活動の経験を振り返り、使用していた粘土の特徴（においや触感）を思い出して書き出す。作品制作に向けて、紙粘土の特性を活かした形態をイメージし、構想をまとめる。
		事後学習	粘土による制作活動を振り返り、それぞれの種類の粘土の特徴をプリントにまとめる。スケッチブックに作品をまとめる。
第 9 回	◇ 素材についての研究 III プラスチック容器などの身近な材料を用いた造形の展開	事前学習	空き容器など、身近にある素材に目を向けて、造形材料の可能性について考える。身近な材料を利用した作品制作に向けて、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	廃材となる素材を利用した制作活動を振り返る。他の人が利用していた素材にも着目し、内容をプリントにまとめる。スケッチブックに作品をまとめる。
第 10 回	◇ 実践的教材研究 I 題材の設定、制作の準備・構想と下書き	事前学習	ペーパーサートやパネルシアター、エプロンシアターがそれぞれどのようなものかを調べ、制作のイメージを広げる。
		事後学習	ペーパーサート・パネルシアター・エプロンシアターの特徴をまとめ、表現を活かせるキャラクターを考えてスケッチを行う。
第 11 回	◇ 実践的教材研究 II 技法の工夫・彩色・組み立て	事前学習	制作する題材を選択し、キャラクターについて、性格や特技などの個性を考えて、プリントにまとめる。
		事後学習	制作したキャラクターについて、その周辺を飾る背景や持ち物についてイメージを広げ、アイデアをスケッチする。
第 12 回	◇ 表現への寄り添い 子どもの描く絵から感じとれること	事前学習	教育の現場や子どもの絵が飾られる場に着目し、子どもの描く絵について調査する。
		事後学習	描画表現の発達と子どもの表現の特性についてプリントにまとめる。実際に展示されている現場において子どもの絵を鑑賞する。
第 13 回	◇ じゃばら絵本制作 I 作品構想・構造の試作とラフデッサン	事前学習	オリジナルの絵本制作に向けて、課題（あらすじ制作）を行う。キャラクターの構想を練り、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	じゃばら絵本の基本的構造を復習し、各ページにおけるラフデッサンの制作を進める。スケッチブックに作品をまとめる。
第 14 回	◇ じゃばら絵本制作 II ページの作成・内容を描く	事前学習	各ページのラフデッサンをもとに、表現に適した技法について考え、制作に必要な材料を用意する。
		事後学習	『えほん 子どものための 500 冊』を参考に、興味を持った作家・作品について調べ、プリントにまとめる。
第 15 回	◇ じゃばら絵本制作 III 表紙の作成・組み立て・作品発表と講評	事前学習	じゃばら絵本の作品制作に関して、表紙の色合いやタイトルのフォントなどのイメージを持ち、全体像の構想をまとめる。
		事後学習	図画工作 I での自身の制作活動を振り返りながら、自分の造形表現の個性について考える。スケッチブック提出に向けて、作品やプリントをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (小) (2単位)		3. 科目番号	EDEL1304
2. 授業担当教員	中川 画太		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	実技、講義			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・授業内容に沿った作品、レポートの作成 ・授業内容に沿ったグループ作品、レポートの作成・発表 以上について、随時指示を行う			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】花篤實『造形表現 実技編』三晃書房。			
11. 成績評価の方法	・日常の授業態度 (授業への積極的参加度) 総合点の 40% ・実習による作品制作、発表 総合点の 60%			
12. 受講生へのメッセージ	物を作る喜びや楽しさを体験する講座である。これまでに小・中・高の学校で児童や生徒として体験してきた“図画工作”や“美術”の授業とは異なり、指導者となるための授業である。 1. 良好な体調で、積極的に臨み、集中する 2. 指示された用具や素材を、必ず用意する 3. 制作した作品は、今後の貴重な資料となるものでもあり、必ず大切にファイリングする 以上 3 点、厳守の上で、貴重な体験を積んでいきたい。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義概要。鉛筆等による素描 (自画像) 鉛筆の使い方	事前学習	シラバスより、講義概要を捉えておく。	
		事後学習	本講義を受講するに当たり、心構え等、重要なポイントを整理し、必要となる用具などをそろえる準備をする。	
第 2 回	オートマティズムによる描画実習 I 【スタンピング、ドリッピングなど絵の具を使った表現】	事前学習	必要な用具と材料を準備する。その際、どこでどのように手に入れられるか、値段、他にどのような類似したものがあるかなどを、チェックする。	
		事後学習	返却された前回の作品を、しっかりファイリングする。【今後、全作品が同様である】 第 2 回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。	
第 3 回	オートマティズムによる描画実習 II 【クレヨンを使ったパッチ、ぼかし網を使ったスパッタリング】	事前学習	第 2 回同様、必要な用具・材料の準備と、それに関わることのチェック。	
		事後学習	返却された第 2 回の作品について、反省し求められたことについて考察する。 第 3 回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。	
第 4 回	オートマティズムによる描画実習 III 【デカルコマニー】	事前学習	第 3 回同様、必要な用具・材料の準備と、それに関わることのチェック。	
		事後学習	返却された第 3 回の作品について、反省し求められたことについて考察する。 第 4 回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。	
第 5 回	粘土等、可塑的素材による立体造形 I 【“4 本脚の動物”をテーマに、制作】	事前学習	多種類の紙粘土等が置いてある場所 (店舗) に行き、粘土 (造形材料) について調べる。	
		事後学習	返却された第 4 回の作品について、反省し求められたことについて考察する。 立体造形の平面との違いを整理する。	
第 6 回	粘土等、可塑的素材による立体造形 II 【アルミホイルを使った立体造形】	事前学習	必要な材料の準備と、それに関わることのチェック。	

		事後学習	身近な材料について、身の回りをチェックする。
第 7 回	紙工作 I 【お面制作】	事前学習	紙工作に、どのような材料が使えるかを考えて、準備する。
		事後学習	紙による立体造形について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果、そして、他にどのような方法があるか、配布物や教科書を参考にして整理する。
第 8 回	紙工作 II 【「動物」制作】	事前学習	前回の体験をふまえ、紙工作に有用な用具や適切と思われる材料を準備する。
		事後学習	紙の特性や、立体造形の材料としての可能性などを、配布物や教科書を参考にして整理する。
第 9 回	紙工作 III 【身近なものを使っておもちゃを作る・・・紙コップロケットなど】	事前学習	身近にある紙や接着剤など、どんなものが“工作”の材料になるか考えながら、準備する。
		事後学習	制作した体験をふまえ、子どもへの指導上の留意点を、配布物や教科書を参考にして整理する。
第 10 回	見立て活動の聞き取り実践	事前学習	第 4 回までの平面作品を中心に、これまでに制作してきた自分の作品に発見したことを思い返し、新たに発見することはないか、一つ一つ、見返してみる。
		事後学習	コミュニケーションの方法や、共感できるための姿勢など、実習で体験したことを整理し、気付いたことを、まとめる。
第 11 回	動物の形態研究	事前学習	動物の形態が判りやすい資料を探す。
		事後学習	形態の要点を捉えて単純化する際に、自分が目を向けた部分の他に、目を向ける部分はなかったかなど、考察してみる。
第 12 回	ペープサート制作 I 【ペープサート人形制作】	事前学習	紙工作の体験をベースにした、材料準備。
		事後学習	“観客からの視点”で、自分の作品を見てみる。
第 13 回	ペープサート制作 II 【劇制作：グループワーク】	事前学習	導入から終幕まで、見せるために必要なことを考え、整理しておく。
		事後学習	グループ内での役割分担に沿って、必要な準備をする。
第 14 回	ペープサート制作 III 【劇制作：グループワーク】	事前学習	前回の反省点や、新たな提案があれば、グループ全員に伝えられるよう、整理して準備しておく。
		事後学習	グループ内での役割分担にそった最終準備をする。チームワークを高めるためのコミュニケーションについても、考察する。
第 15 回	ペープサート制作 IV 【劇発表：グループワーク、鑑賞、講評】	事前学習	演出、シナリオ読み合わせ、セリフの声だし、音響、舞台道具等、チェックポイントや、新たな提案があれば、グループ全員に伝えられるよう、整理して準備しておく。
		事後学習	自分のグループについてだけでなく、他のグループの発表から得られた事を、しっかりと受けとめ、整理してまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL1304
2. 授業担当教員	薬本 武則	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	実技、講義		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎時の授業において制作する作品を完成させる (90分以内での完成を目指す)。 2. 毎時の授業において、完成させた作品を発表する。 3. 授業における作品制作を、テーマ・使用材料・作業方法・感想及び反省内容を記述する。 4. 詳細については、オリエンテーションの際に説明する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】薬本武則著『絵画原理』K's 工房出版。 文部科学省『小学校学習指導要領・図画工作編』。</p> <p>【教材】画材 (スケッチブック《S120》、水彩道具一式、色鉛筆《12 色》) などの準備。授業ごと事前に通知。</p>		
11. 成績評価の方法	授業内での提出物と制作作品 80%、授業態度と出席状況 20%で総合評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 基本的な授業に対して、各自が自分なりのイメージを創り、自ら考え工夫する自由な心で表現する力を育成すること。		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	◇ オリエンテーション 「図画工作 I」の授業内容について説明する。	事前学習	シラバス「図画工作 I」を一読する。
		事後学習	説明内容をポートフォリオにまとめる。
第 2 回	◇ 理論 美術教育 (図画工作) の基本意識について、絵画原理から理論的に解説する。	事前学習	「絵画原理」「小学校学習指導要領・図画工作」を読む。
		事後学習	説明内容をポートフォリオにまとめる。
第 3 回	◇ 理論 美術教育 (図画工作) の表現、鑑賞方法について、絵画原理から理論的に解説する。	事前学習	「絵画原理」を熟読する。
		事後学習	説明内容をポートフォリオにまとめる。
第 4 回	◇ レポート レポート作成 (私と美術)、理論と体験を融合させた立場から記述する。	事前学習	レポートの構想を練る。
		事後学習	「美術」表現、鑑賞の基礎をポートフォリオにまとめる。
第 5 回	◇ 絵画表現① 風景写生 (水彩絵具を用いて、身近かな風景を描く)。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 6 回	◇ 絵画表現② 自画像を描く (クレヨンを用いて立体表現する)。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 7 回	◇ 絵画表現③ 手をデッサンする (クレヨンを用いて光と陰を的確に表現する)。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 8 回	◇ 絵画表現④ 落ち葉を画面構成して描く (水彩絵具を用いて光と陰を的確に表現する)。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 9 回	◇ 紙細工① 花を表現構成する (折り紙を用いて表現する)。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 10 回	◇ 紙細工② 想像画を制作する (広告、雑誌等を利用して生活空間を表現する)。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 11 回	◇ 紙細工③ 飛ぶ鳥を作る (画用紙や厚紙を用いて表現する)。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 12 回	◇ 紙細工④ 手の立体作品を作る (画用紙や厚紙を用いて表現する)。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 13 回	◇ 素材研究 I	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。

平成 28 年度

	粘土を使って十二支の立体作品を作る。	事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 1 4 回	◇素材研究Ⅱ 粘土を使って手の立体作品を作る。	事前学習	指定された教材を準備し構想を練る。
		事後学習	制作過程、完成作品のコメントをポートフォリオに記録する。
第 1 5 回	◇まとめ 発表と講評及び鑑賞	事前学習	作品発表に向けての準備をする。また、鑑賞に対する批評を整理しておく。
		事後学習	他の学生の発表を観察吸収し、良い点を学びコメント等をポートフォリオに記録する。

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (保育士) / 図画工作 I (2 単位)		3. 科目番号	SSOT2421 SCOT2421 SJMP1141
2. 授業担当教員	片岡 浩		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	実技、講義			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 課題作品提出 2. プレゼンテーションおよび資料 (写真) の提出			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】使用しない 【参考書】花篤 實・岡田敬吾『新造形表現 実技編』三晃書房。 適宜資料を配布します。 作品制作のための道具、材料は事前に指示しますので各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的姿勢・参加態度：50% (意欲的な制作活動・自己課題への取り組み等) 課題：50% (毎時の提出作品・発表・レポート課題等)			
12. 受講生への メッセージ	1. ものづくりや表現を「楽しむ」体験をして下さい。 2. 指示されたノルマやプログラムをただこなすのではなく、「失敗しても構わないので」自分の興味関心を大切に、自ら考え工夫し判断しながら自由な心で取り組む習慣を身に付けていって下さい。 3. 指導者としての資格を得るという自覚を持ち、積極的に、集中して制作に取り組むこと。 そのために、必要な道具や材料は必ず準備し、事前事後の学習に努めること。 4. 多くの体験を積み、広い視野を持つこと。多くの人の作品に触れ、意見を持つこと。作品制作をとおして表現活動におけるコンセプトの意味を体験し、プレゼンテーション&コミュニケーション能力を養って下さい。 5. 自分の制作した作品を大切にすること。ものづくりのこころを培う学習に取り組んでください。 以上のことを意識して、自分の学びをより有意義なものとしてください。 ※授業日程は実習の進行状況によって調整する場合があります。			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (研究室の前に時間割表を掲示)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業内容、目的、評価、用意するものなど) 【必要な道具】 必要な道具は前週に指示する	事前学習	①美術・芸術作品に親しむ為に、NHK 日曜美術館などメディアを通じた美術鑑賞を行う ②過去の作品制作体験を振り返り、その経験をクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する	
		事後学習	内容のまとめ、図画工作でやってみようことイメージをふくらませアイデアや表現をクロッキー帳に描く	
第 2 回	絵具を使って親指と人差し指で文字を描く 顔写真撮影	事前学習	美術・芸術作品に親しむ為に、NHK 日曜美術館などメディアを通じた美術鑑賞を行う	
		事後学習	過去の作品制作体験を振り返り、その経験をクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する	
第 3 回	スタンプング表現 1 「にぼし」をつくろう 【必要な道具】 絵具、カッター	事前学習	好きなもの・興味のあるものの特徴を観察し、クロッキー帳に描く (書くのではなく描く)	
		事後学習	①ネガ・ボジ視点でモチーフを観察して描く ②「マーブリング」「ブラッシング」「フロタージュ」「デカルコマニー」「ステンシル」など関連した技法について調べ比較しまとめる	
第 4 回	スタンプング表現 2 「手相を観察してペイントしよう」 【必要な道具】 筆、絵具	事前学習	様々な絵の具の表現方法を体験し、理解を深める為に、その技法と表現について調べる	
		事後学習	版画の技法についてグループで分担して調べる	
第 5 回	五感をつかった表現 1 「右脳を使って表現しよう！」 「見て、触って、たいて、嗅いで、味わってりんごを表現する」 (第 4 回～第 6 回は継続した作業) 【必要な道具】 クレヨン、スケッチブック	事前学習	五感をとおした実体験において、今までで印象に残っていることをクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する	
		事後学習	様々なモチーフを授業と同様に、五感で体験し、クロッキー帳に自由に表現し描く	
第 6 回	五感をつかった表現 2 「りんごの世界」 色彩による感覚表現	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する	

	【必要な道具】折り紙・和紙・いろ紙、のり、はさみ、スケッチブック	事後学習	①スクラッチ技法について調べる ②異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第 7 回	五感をつかった表現 3 「りんごの世界」触覚による造形表現 【必要な道具】新聞紙・折り紙・和紙・いろ紙、のり、はさみ、スケッチブック まとめ（りんごの仕上げ・サイン）と撮影会	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第 8 回	視点を変えた立体表現 1 アルミホイルと粘土をつかった立体造形 「ルビンの壺～ネガポジ視点でかたちをつくる工夫」 「骨格を意識する」 【必要な道具】アルミホイル、ティッシュ、粘土、水彩絵の具	事前学習	白抜き描法でモチーフを意識的に観察する
		事後学習	「作品」に対する意識を高め、造詣を深め、興味・関心・創作意欲を養う為に、ジュンク堂や図書館などで美術・芸術の情報に触れたり、銀座のギャラリー巡りを体験する（研究室前に展覧会情報が掲示してあります※ギャラリーは基本的には入場無料ですのでマナーを守って鑑賞しましょう）
第 9 回	視点を変えた立体表現 2 アルミホイルと粘土をつかった立体造形 「ネガポジ視点でかたちをつくる」 「オリジナル動物の作成」 【必要な道具】水彩絵の具、粘土 鑑賞会（各作品にコメントを書く）と撮影会	事前学習	ネガポジ視点でモノを観察する練習を行う。五感をとおした実体験において、今までで印象に残っていることをクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する
		事後学習	アポジションやムーブメントを把握する能力を養う為、今回の課題で体験的に学んだことを参考にして、意識的にカタチを捉え、その見方を学ぶ。 様々なモチーフを授業と同様に、五感で体験し、クロッキー帳に自由に表現し描く
第 10 回	色水あそび 1 「カタチの見方、捉え方（鉛筆による表現）」 「水彩表現の基礎とコツ」 【必要な道具】水彩絵の具	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第 11 回	色水あそび 2 「カタチの見方、捉え方（鉛筆による表現）」 「水彩表現の基礎とコツ」 【必要な道具】水彩絵の具、のり	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する
第 12 回	保育教材研究 I 『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる 1 プレゼンテーションとプレゼンテーションの学習 ① グループ分け（4名づつ） ② グループ A は「昔話、童話」などを題材にして他グループへの制作指示依頼書を作成する（課題づくり） ③ グループ A（2名）はグループ B（2名）に対し、課題のプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。グループ B（残り 2名）はグループ A（残り 2名）へ課題プレゼンおよび質疑応答を同様にを行う。 【必要な道具】鉛筆、資料、粘土、絵具、段ボール、色紙など自由に使用する	事前学習	①ペープサートやパネルシアター、エプロンシアターがそれぞれどのようなものかを調べ、制作のイメージを広げる。②「出来ないかもしれない」「こんなこと言っていないのか」などの否定的思考を排除した、自由で楽しい発想力を身に付け養うために、個人やグループでプレゼンテーションやプレゼンテーション学習に積極的に取り組むこと
		事後学習	（授業の続き） ④各グループは与えられた課題を自分たちの解釈を加え、アレンジして制作に取り組む（作品の題名、登場人物、キャラクター設定、場面状況設定、小道具、表現方法、工夫点など） ⑤グループごとに、斬新かつ独創的な様々なアイデアや意見交換を記録し、それを元にさらに新しい発想、新たなアイデアを創出していく
第 13 回	保育教材研究 II 『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる 2 「制作（テーマ・コンセプトを最大限に活かした参加型の展示発表の準備）」 【50cm×50cm ダンボール 2 枚、A3 用紙 2 枚】	事前学習	作品コンセプトについてグループでまとめておく
		事後学習	作品コンセプトを最大限に活かす工夫と表現方法の模索・研究にグループで取り組むこと
第 14 回	保育教材研究 III 『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる 3 「制作（テーマ・コンセプトを最大限に活かした参加型の展示発表の準備）」	事前学習	作品コンセプトを最大限に伝達する工夫と表現方法や場面設定の模索・研究にグループで取り組むこと
		事後学習	作品コンセプトを最大限に活かす工夫と表現方法の模索・研究にグループで取り組むこと
第 15 回	保育教材研究 IV 「各ブースにおいて参加型の展示発表をおこなう」	事前学習	グループごとに発表を行う。各班で準備。
		事後学習	①作業全体の流れと各工程ごとに配慮すべきポイントをまとめる ②美術・芸術・造形に関する造詣を深める為に国立新美術館、東京藝術大学大学美術館などで興味のある展覧会を鑑賞する

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (初等・小) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2304
2. 授業担当教員	佐々木 達行		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	実技、講義			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通ずる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を追求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」とは関係なく、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的な造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予め教科書を読むなど、講義内容を予習し、内容について問いを持ったり、質問ができるようにしたりして授業に臨むようにする。 ○ 毎回の講義内容の記録、実技、演習作品等を記録してファイル (A4) にまとめ、ポートフォリオとして提出する。 ○ 学習の成果を課題レポートとして提出する。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 佐々木達行『造形教育における授業の課題・目標と評価』開隆堂出版。</p> <p>【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業に対する関心・意欲・主体性等の態度、授業記録・作品等ポートフォリオ、課題レポート、等により総合的に判定をする。</p> <p>授業に対する関心・意欲・主体性等の態度 20%、ポートフォリオ 50%、課題レポート 30%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>講義内容は皆さんが目指している教師としての専門性を高めるためのものである。</p> <p>講義に出席した皆さんは、お客さんではない。講義内容を予習しておき、分からないことがあれば質問したり、自分の考えを述べたりするなど自主的、積極的にに関わり、理解を深めていくこと。講義内容について質問をすることは決して恥ずかしいことではない。むしろ、質問ができるということは、自分が分かっている部分に気づいていることで、優秀であり、大きく成長する可能性を持っているということである。講義は、知識や技術を与えてもらうだけのものではなく、自分で勝ち取るものである。それは自分に自信が持てるようになること、教師としての誇りを培っていくことにつながっていくはずである。</p>			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 授業の受け方、内容、方法、準備等について	事前学習	教科書の通読しておく	
		事後学習	記録帳、材料、用具、ファイル等の準備、確認する。	
第2回	授業デザイン (授業づくり) における「授業課題・目標」、「表現内容」の捉え方 (講義理論)	事前学習	教科書 27p~57p を読んで、「授業課題・目標」、「内容」とは何か、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。	
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、造形教育における「授業課題・目標」、「表現内容」の捉え方について、他に説明できるようにしておく。	
第3回	「授業課題・目標」、「表現内容」と授業のデザイン方法の関係 (講義理論)	事前学習	教科書 57p~80p を読んで、「授業課題・目標」、「表現内容」と授業デザイン方法との関係について、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。	
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、造形教育における「授業課題・目標」、「表現内容」の具体と授業デザインとの関係について、他に説明できるようにしておく。	
第4回	「文房具を描くー対象をよく見てー」(絵画表現、題材研究、実技演習)	事前学習	材料準備：図画用鉛筆。鉛筆の使い方、描き方を練習し、慣れておく。	
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。	
第5回	「文房具を描く」(教師中心型、指導型の授業デザイン演習)	事前学習	教科書 89p~91p を読んで、「文房具を描く」を題材として表現技術を教える教師中心型の「授業デザイン」を行うとどのようになるか、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。	
		事後学習	授業の記録、作成した「授業デザイン分析表」	

			を整理し、ファイルしておく。
第 6 回	教える「授業課題・目標」、「表現内容」としての造形発想と知識・技術（講義理論）	事前学習	教科書 74p~78p を読んで、教える「授業課題・目標」、「内容」としての造形発想方法や表現技術をどの様に捉えるか、分らないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、教える「授業課題・目標」に対して、育てる「授業課題・目標」について考えておく。
第 7 回	「何を描きたい、好きなもの、好きな感じ！ー対象や主題を見つけてー（絵画表現題材研究、実技演習）	事前学習	材料準備：図画用鉛筆、クレヨン、他。描きたい、好きなもの、好きな感じをイメージしておく。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。また、対象や主題を自ら見つけたり決めたりするなどして描くことに対する表現のあり方を確認しておく。
第 8 回	「何を描きたい、好きなもの！好きな感じ！」（課題追究型の授業デザイン演習）	事前学習	教科書 89p~91p、119p~122p を読んで、「何を描きたい、好きなもの！好きな感じ！」を題材として自主性や主体性を育てる児童中心型の「授業デザイン」を行うとどの様になるか、分らないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録、作成した「授業デザイン分析表」を整理し、ファイルしておく。
第 9 回	育てる「授業課題・目標」、「内容」としての自主・主体と総合力（講義理論）	事前学習	教科書 64p~73p を読んで、育てる「授業課題・目標」、「内容」としての自主・主体、総合力をどの様に捉えるか、分らないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。
第 10 回	人間教育としての造形教育の意味と課題（講義理論）	事前学習	教科書 10p~26p を読んで、「人間教育としての造形教育」とはどの様なことか、分らないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。
第 11 回	「タワーをつくるー割り箸を使ってー」（立体工作表現題材研究、実技演習）	事前学習	材料準備：割り箸、輪ゴム、他。割り箸を使ってどの様なタワーを作るか、考えておく。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を図として描き、ファイルしておく。
第 12 回	「タワーをつくる」の授業デザイン（指導型の授業デザイン演習）	事前学習	教科書 89p~91p を読んで、「割り箸でタワーをつくる」を題材として表現技術を教える教師中心型の「授業デザイン」を行うとどの様になるか、分らないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録、作成した「授業デザイン分析表」を整理し、ファイルしておく。
第 13 回	「直線的な材料を組み合わせる！ー割り箸を使ってー」（立体工作表現題材研究、実技演習）	事前学習	材料準備：割り箸、輪ゴム、他。割り箸を使ってどの様な表現をするか、考えておく。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を図として描き、ファイルしておく。
第 14 回	「直線的な材料を組み合わせる！」の授業デザイン（課題追究型の授業デザイン演習）	事前学習	教科書 89p~91p、107p~110p を読んで、「直線的な材料を組み合わせる！」を題材として自主性や主体性を育てる児童中心型の「授業デザイン」を行うとどの様になるか、分らないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録、作成した「授業デザイン分析表」を整理し、ファイルしておく。
第 15 回	授業のまとめと課題レポートについて	事前学習	作成したポートフォリオを確認し、授業の内容や課題を捉えなおしておく。
		事後学習	課題レポートの作成

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (小) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2304
2. 授業担当教員	片岡 浩			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通ずる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探究するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題作品提出 2. プレゼンテーションおよび資料 (写真) の提出 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 使用しない</p> <p>【参考書】 『カラーコーディネーター入門 色彩』 日本色研事業株式会社。</p> <p>適宜資料を配布します。作品制作のための道具、材料は事前に指示しますので各自で用意してください。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>実技課題&レポート 50%、 日常の授業態度 (試行錯誤や創意工夫など自ら感じ考え、思考し、行動する姿勢) 50%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ものづくりや表現を「楽しみ、身につける」体験をしてください。 2. 指示されたノルマやプログラムをただこなすのではなく、「失敗しても構わないので」自分の興味関心を大切に、自ら考え工夫し判断しながら自由な心で取り組む習慣を身に付けていってください。 <p>※授業日程は実習の進行状況によって調整する場合があります。</p>			
13. オフィスアワー	※ 現在、時間割曜日未定			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<p>オリエンテーション (授業内容、目的、評価、用意するものなど)</p> <p>【必要な道具】 必要な道具は前週に指示する</p> <p>【学習の取り組みについて】</p>	事前学習	美術・芸術作品に親しむ為、NHK 日曜美術館などメディアを通じた美術・芸術鑑賞を行う	
		事後学習	過去の作品制作体験を振り返り、図画工作でやってみたいことのイメージを膨らませアイデアをクロッキー帳に描きとめておく	
第 2 回	<p>自分に見立てた動物を「描く」</p> <p>写真撮影 (作品と人物) をおこなう</p> <p>【必要な道具】 鉛筆</p>	事前学習	国立新美術館、東京藝術大学大学美術館などで企画されている興味のある展覧会を鑑賞する	
		事後学習	美術館・博物館・工芸館・ギャラリーなどに足を運び、本物の作品や展示空間を体験する	
第 3 回	<p>組木パズルの制作①</p> <p>概要説明</p> <p>「動線・安全性・清掃・整理整頓について」</p> <p>「鉛筆の削り方・扱い方」</p> <p>「白抜き動物のデザイン」</p>	事前学習	①正しい技能の修得と機械工具・道具の扱い方、道具の片づけと清掃、作品の保管に取り組み、それらを習慣化し体験的に身に付けるという意識を持つこと	
		事後学習	②デザイン資料 (写真) の準備 ①授業全体を通して、制作者及び指導者の視点を持ち、安全確保を第一の旨とし身だしなみに気を配り、作業空間に対する配慮と意識を養うこと ②作業記録プリントにグループでの作業の要点、配慮事項、気付いたこと、工夫点などを書き込む (毎時記入し提出する)	
第 4 回	<p>組木パズルの制作②</p> <p>相手と組んでのデザイン展開</p> <p>切り抜いた動物を使ってグループ (2 人か 3 人) でデザイン決め</p> <p>【デザイン資料配布 (動物プリント)】</p>	事前学習	完成までの作業工程計画を具体帝にイメージし表にする	
		事後学習	①「動物の白抜きデザイン」に取り組む ②パズルの初「ボジ」・白抜きデザインにグループで取り組む	
第 5 回	<p>組木パズルの制作③</p> <p>デザイン OK のグループに厚板配布</p> <p>薄板への写しと切抜き</p> <p>【電ノコ・糸鋸の使用方法的説明】</p> <p>動線・安全性・清掃・整理整頓について</p> <p>道具・機械の扱いについて</p>	事前学習	電ノコ作業をするためのデザイン書き写し	
		事後学習	道具の扱い方を知り体験的に身に付ける	
第 6 回	<p>組木パズルの制作④</p> <p>薄板への写しと切抜き</p> <p>電鋸・糸ノコの使用方法的の確認</p> <p>動線の確保の説明</p> <p>電ノコ・糸鋸による制作 1</p>	事前学習	動線確保・安全作業について、機械工具の特性と使用法についての認識力を養う	
		事後学習	実習を通して安全確保のための身だしなみへの配慮と動作についての意識を養うこと	

【安全への注意と配慮】			
第 7 回	組木パズルの制作⑤ 電ノコ・糸鋸による制作 2 ペーパーやすりの扱いについて #120 でカット面やすりと面取り #400 で磨き仕上げ 【板・ペーパーやすり#120・#400】 【安全への注意と配慮】	事前学習	班ごとにホームセンター等で必要な道具を購入すること 【必要な道具】 木工用ペーパーやすり #120、#400
		事後学習	①技能とコツについて深く考察・分析し、身につけるように取り組むこと ②実習において気が付いたこと、工夫したこと、上手いかなかったことがあればその原因を分析し記録し次回にいかすこと
第 8 回	組木パズルの制作⑥ ヤスリがけ 色彩計画・着色・仕上げ	事前学習	道具・材料の準備 素材の特性を活かす仕上げ法と表現について考察する 【必要な道具】 絵具
		事後学習	作業工程を振り返りまとめておく
第 9 回	組木パズルの制作⑦ 仕上げと鑑賞会・中間講評会 各グループで撮影・写真提出 作業工程ファイルのまとめと提出 レポート作成「安全教育への配慮と責任」 【作品のファイリングを行う】	事前学習	「作品」に対する意識を高め、造詣を深め、興味・関心・創作意欲を養う為に、ジュンク堂や図書館などで美術・芸術の情報に触れたり、銀座のギャラリー巡りを体験する（研究室前に展覧会情報が掲示してあります（基本的に無料で観られます）
		事後学習	作品のファイリングを行う。 レポート作成「安全教育への配慮と責任」
第 10 回	人物を創る 1 「身上調査書の作成」 「紙と絵具の特性を活かした表現」 【必要な道具】新聞紙、ティッシュ、色紙、のりおよび絵具、クレヨンなどの色表現のできる画材	事前学習	「ルビンの壺」や白抜き描法でモチーフを意識的に観察する
		事後学習	「作品」に対する意識を高め、造詣を深め、興味・関心・創作意欲を養う為に、ジュンク堂や図書館などで美術・芸術の情報に触れたり、銀座のギャラリー巡りを体験する（研究室前に展覧会情報が掲示してあります※ギャラリーは基本的には入場無料ですのでマナーを守って鑑賞しましょう）
第 11 回	人物を創る 2 「紙と絵具の特性を活かした表現」 「自分の顔をモデルにする」 【必要な道具】新聞紙、ティッシュ、色紙、のりおよび絵具、クレヨンなどの色表現のできる画材	事前学習	各自で画材と紙の関係性を探りながら表現の可能性を探る
		事後学習	表現活動におけるコンセプトやテーマの意味合いを探り、各自でまとめる
第 12 回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる 1 プレゼンテーションとプレゼンテーションの学習 ④ グループ分け（4名づつ） ⑤ グループ A は「昔話、童話」などを題材にして他グループへの制作指示依頼書を作成する（課題づくり） ⑥ グループ A（2名）はグループ B（2名）に対し、課題のプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。グループ B（残り 2名）はグループ A（残り 2名）へ課題プレゼンおよび質疑応答を同様にを行う。 【必要な道具】鉛筆、資料、粘土、絵具、段ボール、色紙など自由に使用する	事前学習	①「プレゼンテーション」について調べ、授業において活用すること ②「出来ないかもしれない」「こんなこと言っていないのか」などの否定的思考を排除した、自由に楽しい発想力を身に付け養うために、個人やグループでプレゼンテーションやプレゼンテーションの学習に積極的に取り組むこと
		事後学習	（授業の続き） ④各グループは与えられた課題を自分たちの解釈を加え、アレンジして制作に取り組む（作品の題名、登場人物、キャラクター設定、場面状況設定、小道具、表現方法、工夫点など） ⑤グループごとに、斬新かつ独創的な様々なアイデアや意見交換を記録し、それを元にさらに新しい発想、新たなアイデアを創出していく
第 13 回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる 2 「制作（テーマ・コンセプトを最大限に活かした参加型の展示発表の準備）」 【50cm×50cm ダンボール 2 枚、A3 用紙 2 枚】	事前学習	作品コンセプトについてグループでまとめておく
		事後学習	作品コンセプトを最大限に活かす工夫と表現方法の模索・研究にグループで取り組むこと
第 14 回	『語り継がれてきたものがたり』の場面をつくる 3 「制作（テーマ・コンセプトを最大限に活かした参加型の展示発表の準備）」	事前学習	作品コンセプトを最大限に伝達する工夫と表現方法や場面設定の模索・研究にグループで取り組むこと
		事後学習	作品コンセプトを最大限に活かす工夫と表現方法の模索・研究にグループで取り組むこと
第 15 回	造形まつり 「各ブースにおいて参加型の展示発表をおこなう」	事前学習	グループごとに発表を行う。各班で準備。
		事後学習	①作業全体の流れと各工程ごとに配慮すべきポイントをまとめる ②美術・芸術・造形に関する造詣を深める為に国立新美術館、東京藝術大学大学美術館などで興味のある展覧会を鑑賞する

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (保育士) / 図画工作Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SSOT2522 SCOT2522 SJMP2141
2. 授業担当教員	中川 画太		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	実技、講義			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。 実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、保育者・指導者として保育実践の場に還元することのできる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探究するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	・授業内容に沿った作品、レポートの作成 ・授業内容に沿ったグループ作品、レポートの作成・発表 以上について、随時指示を行う			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 花篤實『造形表現 実技編』三見書房			
11. 成績評価の方法	・日常の授業態度 (参加態度、出席状況) 総合点の40% ・実習による作品制作、発表 総合点の60%			
12. 受講生への メッセージ	物を作る喜びや楽しさを体験する講座です。 1. 良好な体調で、積極的に臨み、集中する 2. 指示にされた用具や素材を、必ず用意する 3. 制作した作品は、今後の貴重な資料となるものでもあり、必ず大切にファイリングする 以上3点、厳守の上で、貴重な体験を積んでいきましょう			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	◇ オリエンテーション 講義概要。 鉛筆等を使って、視覚認識についての体験、実践	事前学習	絵画表現や紙工作など、図画工作Ⅰでの造形活動を振り返り、その達成度を考えるとともに図画工作Ⅱにおける自分自身の目標を設定する。	
		事後学習	「見る」と「読む」に関して、理解を深める。	
第2回	◇ 造形実習Ⅰ【表出体験、表現体験Ⅰ (平面)】	事前学習	用具の準備	
		事後学習	「表現とは？」をより深く考える。作品をファイルする。	
第3回	◇ 造形実習Ⅱ【表現体験Ⅱ (立体)】	事前学習	造形表現と言語の関係について、図画工作Ⅰでの体験を振り返る。粘土など材料・用具の準備。	
		事後学習	繰り返し、「表現とは？」をより深く考える。	
第4回	◇ 造形実習Ⅲ【表現体験Ⅲ (平面)】	事前学習	造形表現と言語の関係について、図画工作Ⅰでの体験を振り返る。	
		事後学習	見つめて、発見し、感動する、その大切さを確実に認識理解する。作品をファイルする	
第5回	◇ 版を使った実習Ⅰ【凸版Ⅰ (フロッタージュ)】	事前学習	幼児からこれまでの版画体験を振り返る	
		事後学習	触覚を感じながら制作した体験をより深く認識するように努める。作品をファイルする	
第6回	◇ 版を使った実習Ⅱ【凸版Ⅱ (紙版画Ⅰ)】 版制作	事前学習	紙工作体験を振り返り、材料・用具を準備する。	
		事後学習	刷りをイメージしながら、デザインを確定する。作品をファイルする。	
第7回	◇ 版を使った実習Ⅲ【凸版Ⅲ (紙版画Ⅱ)】 刷り	事前学習	仕上がりに必要な作業を確認する	
		事後学習	刷りの効果を確認、予想外に巧く行った点、より工夫できると思われる点などを確認する。作品をファイルする。	
第8回	◇ 版を使った実習Ⅳ【凸版Ⅳ (粘土版画)】	事前学習	これまでの版表現で発見したことを確認する。	
		事後学習	紙版画とは異なる刷りの効果を確認、予想外に巧く行った点、より工夫できると思われる点などを確認する。作品をファイルする。	
第9回	◇ 版を使った実習Ⅴ【孔版 (ステンシル)】	事前学習	造形表現から何を感じるか、これまでの体験を振り返る。	
		事後学習	今までとは違う「刷り」の効果を確認、予想外に巧く行った点、より工夫できると思われる点などを確認する。作品をファイルする。	
第10回	◇ 実践実習Ⅰ 【見立て活動の聞き取り実践 (たこ糸やローラーを使って描画)】	事前学習	見立て聞き取りについて、図画工作Ⅰを振り返っておく。	
		事後学習	コミュニケーションの内容や、お話のまとめ方を振り返り、良かった点、工夫すべき点を整理して、技量の向上に努める。作品をファイルする。	

第 1 1 回	◇ 実践実習Ⅱ【森と海の形態研究】	事前学習	造形表現から何を発見し、何を感じるか、感動できたか、など、これまでの体験を振り返る。
		事後学習	伝える描画について、理解を深める。
第 1 2 回	◇ 実践実習Ⅲ 【ファッションショーⅠ：グループワーク（チーム作成、テーマを決める）】	事前学習	環境意識などについての自分の考えをまとめる。
		事後学習	何を伝えるか、そのためには何をしたらよいか、を考え、用具や材料をそろえる準備をする。
第 1 3 回	◇ 実践実習Ⅳ 【ファッションショーⅡ：グループワーク（アイデアディスカッション、制作）】	事前学習	今後の展開に対する自分の考えをまとめておく。
		事後学習	グループ制作の作品における各人の個性について考えながら、制作活動の振り返りを行う。用具や材料をそろえる。
第 1 4 回	◇ 実践実習Ⅴ【ファッションショーⅢ：グループワーク（制作）】	事前学習	グループにおける自分の役割を全う出来るように準備する。
		事後学習	発表に向け、最終チェック。
第 1 5 回	◇ 講義まとめ【ファッションショーⅣ：グループワークによる発表、鑑賞、講評】	事前学習	用具や材料をそろえ、発表時に注意すべき点を整理しておく。
		事後学習	お互いの発表を鑑賞しての、印象に残った点、プレゼンテーションが良かった点をまとめる。図画工作Ⅱの制作活動を振り返り、ファイリングした作品を整理して、まとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ／図画工作Ⅱ (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2141
2. 授業担当教員	宮坂 慎司			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期／秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、保育者・指導者として保育実践の場に還元することのできる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探究するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> i. 毎時の実習において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 自己の振り返りとして、授業における取り組みをスケッチブックにまとめることを課題とする。 <p>以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】【参考書】 授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。</p> <p>【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時に指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的姿勢・参加態度：50% (意欲的な制作活動・自己課題への取り組み等)</p> <p>課題：50% (毎時の提出作品・発表・レポート課題等)</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> i. 指導者としての資格を得るという自覚を持ち、積極的に、集中して制作に取り組むこと。 <p>そのために、必要な道具や材料は必ず準備すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ii. 多くの体験を積み、広い視野を持つこと。多くの人の作品に触れ、考えや意見を持つこと。 iii. 自分の制作した作品を大切にすること。 <p>以上のことを意識して、自分の学びをより有意義なものとしてください。</p>			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (研究室の前に時間割表を掲示)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 子どもの造形表現への理解について	事前学習	絵画表現や紙工作など、図画工作Ⅰでの造形活動を振り返り、その達成度を考えるとともに図画工作Ⅱにおける自分自身の目標を設定する。	
		事後学習	子どもの描いた絵画に関して、ディスカッションの前後における自身の考えをまとめる。	
第2回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究Ⅰ 技法の復習と自己課題の設定	事前学習	図画工作Ⅰにおいて習得した絵画技法 (デカルコマニー・フィンガーペインティング・にじみ絵・パチック・スクラッチ・スパッタリング・ドリッピング・スタンピング・フロタージュ・コラージュ等) の復習をする。	
		事後学習	自身で題材を設定する自己課題について、制作の道筋を明確にし、構想をまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。	
第3回	◇ 型抜き版画による表現Ⅰ 構想・下描き・型紙の制作	事前学習	型抜き版画による作品制作に向けて、モチーフとなる動植物に関する資料を収集する。その上でアイデアデッサンを描く。	
		事後学習	型抜き版画の特徴をプリントにまとめ、モチーフのデフォルメについて考えをまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。	
第4回	◇ 型抜き版画による表現Ⅱ スクリーン印刷・作品の相互評価	事前学習	スクリーン印刷に向けて、構図や色構成についてイメージをかためる。	
		事後学習	型抜き版画による制作活動を振り返り、自己評価をまとめる。また、シルクスクリーンなど、関連する版画技法について調べる。作品をスケッチブックにまとめる。	
第5回	◇ 張り子による造形Ⅰ 作品構想・張り子制作	事前学習	張り子技法の制作の実例を調べる。風船や空き容器を心材とした張り子制作に向けて、モチーフに関する資料と材料を収集する。	
		事後学習	張り子技法による制作活動を振り返り、風船を心材とした場合の展開を考える。作品をスケッチブックにまとめる。	
第6回	◇ 張り子による造形Ⅱ 着色と組み立て・作品の相互評価	事前学習	前回制作した作品について、装飾するために必要な資料を収集する。作品を相互に鑑賞するにあたって、コンセプトをまとめる。	

		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第 7 回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 I 作品構想・アイデアスケッチ	事前学習	身近にある材料を用いたおもちゃ制作に関して、資料を収集する。実際に身近にある素材を集め、造形材料となる可能性を探る。
		事後学習	ディスカッションによって得られた制作の構想をアイデアスケッチとともにまとめる。実践的な制作の場において、子どもにより伝わりやすい表現を意識しながら模擬授業の準備を行う。
第 8 回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 II 作品の試作と発表準備	事前学習	制作の構想をもとに、教材準備について考える。実際に模擬授業における制作物を試作する。
		事後学習	それぞれが持ち寄った試作を踏まえ、導入・展開・まとめといった模擬授業の具体的な中身についてグループで考えをまとめる。
第 9 回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 III 発表と相互評価	事前学習	グループ毎に発表の準備とリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業形式の発表について、振り返りをプリントにまとめる。また、鑑賞者の視点において印象に残った発表を取り上げ、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第 10 回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究 II 色・形・触感について・自己課題の制作	事前学習	それぞれの制作計画に従って、必要となる材料を収集する。まとめた構想についてアイデアスケッチを描く。
		事後学習	制作活動を振り返り、自身の作品における色や形、触感といった造形要素について考える。作品をスケッチブックにまとめる。
第 11 回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究 III 自己課題の制作・作品相互評価	事前学習	自己課題について、仕上げていくイメージを持つ。作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第 12 回	◇ まとめ制作・発表 I 作品構想・試作	事前学習	まとめ制作・発表に向けて、課題プリントにアイデアをまとめる。ストーリーやキャラクターの構想を練り、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	各制作物の基本的構造を復習し、アイデアデッサンの制作を進める。作品をスケッチブックにまとめる。
第 13 回	◇ まとめ制作・発表 II ページの作成・内容を描く	事前学習	アイデアデッサンをもとに、表現に適した技法について考え、制作に必要な材料を用意する。
		事後学習	作家「レオ・レオニ」に関するプリントをまとめる。
第 14 回	◇ まとめ制作・発表 III 表紙の作成・組み立て	事前学習	手作り絵本やパネルシアターの作品制作に関して、彩色や仕掛けなどの工夫についてイメージを膨らませ、全体像の構想をまとめる。
		事後学習	『えほん 子どものための 500 冊』を参考に、興味を持った作家・作品について調べ、プリントにまとめる。
第 15 回	◇ まとめ制作・発表 IV まとめ・作品発表と講評	事前学習	作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。自身の作品の魅力をより相手に伝える工夫を考える。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。図画工作 II の制作活動を振り返り、スケッチブック提出に向けて作品とプリントをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	スクールソーシャルワーク実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	SSMP4488 SCMP4488
2. 授業担当教員	大門 俊樹		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	(1) スクールソーシャルワーク実習の意義について理解する。(2) 学校現場を知り、学校組織について体験的に学ぶ。(3) スクールソーシャルワーク実習に関わる個別指導や集団指導を通して、学校におけるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術について具体的に理解し、実践的な技術を身につける。(4) 教育現場でのソーシャルワーク実践を行う社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、教育課題に総合的に対応できる能力を身につける。(5) 具体的体験や援助活動を専門的援助技術として概念化・理論化・体系化していくことができる能力を身につける。(6) 既存の実践現場ではなく、新たな実践現場に入っていき意義を十分に理解し、開拓的視点を身につける。		
8. 学習目標	スクールソーシャルワーク教育課程で学んだ内容をもとに、学校現場等での実習を通して、学校現場が抱える多くの課題にソーシャルワークの視点から対応できるようになる。特に、新たな実践現場である学校組織をよく知り、教員との連携はもとより、保護者や関係機関、地域との連携まで視野に入れた実践が展開できる能力も身につけることを目指す。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	(1) 授業期間中に、学校または子ども支援に関する施設へボランティアとして行き、フィールド体験を行うとともに、その内容と成果についてレポートにまとめる。(2) 実習校への事前訪問を行い、その内容について報告する。(3) それ以外の課題については、授業中に指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 門田光司・鈴木庸裕『ハンドブック・学校ソーシャルワーク演習～実践のための手引～』 ミネルヴァ書房、2010。 【参考書】 米川和雄編著『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房、2010。 門田光司・奥村賢『スクールソーシャルワーカーのしごと 学校ソーシャルワーク実践ガイド』 中央法規、2009。 日本学校ソーシャルワーク学会『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規、2008。		
11. 成績評価の方法	レポート	50%	
	学校または子ども支援に関するフィールド体験とそのレポート	15%	
	実習校への事前訪問及びその内容報告	15%	
	授業態度、発表、授業への積極的参加度	20%	
12. 受講生への メッセージ	1. 本授業の受講については次の点が前提となる。 ・3年次にソーシャルワーク実習を終了していること。 ・社会福祉士または精神保健福祉士の国家資格取得に向けて十分な学習をし、基本的知識と技術を備えていること。 ・スクールソーシャルワーク実習に行く準備をしていること。 2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 3. 授業中は携帯電話やPHS等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 4. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F評価とする。 5. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前に出ること。 6. 授業中に指示された課題の提出期限は厳守すること。		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (内容・進め方・評価方法・スクールソーシャルワーク実習について)	事前学習	スクールソーシャルワーク実習のイメージをした上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーク実習についてわかったことをまとめる。
第2回	実習の心構えと準備①	事前学習	「なぜ実習に行くのか」について考えた上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーク実習の特性についてまとめる。
第3回	実習の心構えと準備②	事前学習	実習の流れについて理解した上で授業に臨む。
		事後学習	実習前に身に付けておくべき事項をチェックした上で、どのようにして身に付けるか考える。
第4回	実習課題の設定	事前学習	自分の実習課題について考えた上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーカーの配置形態別内容についてまとめる。
第5回	実習記録と記録方法、スクールソーシャルワーカーとしての資質	事前学習	実習記録と記録方法について理解した上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーカーとしての資質について確認し、どのようにしてそうした資質を身に付けるか考える。

第 6 回	スクールソーシャルワークの支援方法 1 (スクールソーシャルワークの目的、支援方法、アセスメント)	事前学習	テキスト第 2 章の pp. 18～42 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	アセスメントシートの記入方法を理解する。
第 7 回	スクールソーシャルワークの支援方法 2 (ジェノグラム・エコマップ・子どもの支援計画)	事前学習	テキスト第 2 章の pp. 42～53 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	ジェノグラム・エコマップを描いてみる。
第 8 回	実習校への事前訪問	事前学習	実習校の概要を調べ、まとめる。
		事後学習	事前訪問でわかったことをまとめる。
第 9 回	不登校の子どもたちへの支援 1	事前学習	テキスト第 3 章の pp. 54～65 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	不登校の子どもたちの支援についてまとめる。
第 10 回	不登校の子どもたちへの支援 2	事前学習	テキスト第 3 章の pp. 65～71 の事例をよく読み、アセスメントシートを作成してみる。
		事後学習	p. 70 の「支援の振り返り」を考える。
第 11 回	ゲストスピーカーを迎えて	事前学習	ゲストスピーカーに質問したいことを考える。
		事後学習	ゲストスピーカーの話から得たことをまとめる。
第 12 回	児童虐待を受けている子どもたちへの支援 1	事前学習	テキスト第 3 章の pp. 71～79 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	児童虐待を受けている子どもたちへの支援についてまとめる。
第 13 回	児童虐待を受けている子どもたちへの支援 2	事前学習	テキスト第 3 章の pp. 79～89 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	p. 89 の「支援の振り返り」を考える。
第 14 回	実習校への事前訪問	事前学習	実習校の概要を調べ、まとめる。
		事後学習	事前訪問でわかったことをまとめる。
第 15 回	まとめ(スクールソーシャルワークによる子どもたちへの支援について総合的に考える)	事前学習	テキストの事例を一つ取り上げ、熟読する。
		事後学習	選んだ事例の「支援の振り返り」を考える。

1. 科目名 (単位数)	スクールソーシャルワーク論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4306 SCMP4306
2. 授業担当教員	大門 俊樹		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	子ども家庭福祉におけるスクールソーシャルワークの位置づけを意識しながら、その固有性、特性をまず理解する。その後、①スクールソーシャルワークの価値、目的、役割、②アメリカ・韓国・日本のスクールソーシャルワーク、③学校及び連携機関の理解、④スクールソーシャルワークの基礎理論及び展開過程、⑤スクールソーシャルワーク実践などについて学んでいく。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ わが国の学校現場の理解、児童問題について理解したうえで、学校現場にスクールソーシャルワークを導入する意義について理解し、説明することができる。 ・ スクールソーシャルワークの実践過程、理論及びわが国における実践状況を学ぶとともに、海外のスクールソーシャルワーク実践についても理解し、説明することができる。 ・ わが国においては、これから作られていく新しい領域であり、エビデンスに基づいた実践へと発展することを目標とする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業期間中に、学校または子ども支援に関する施設へボランティアとして行き、フィールド体験を行うとともに、その内容と成果についてレポートにまとめる。それ以外の課題については、授業中に指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2012 年。 【参考書】 日本学校ソーシャルワーク学会『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規、2008 年。 門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと 学校ソーシャルワーク実践ガイド』中央法規、2009 年。		
11. 成績評価の方法	レポート	50%	
	学校または子ども支援に関するフィールド体験とそのレポート	30%	
	授業態度、発表、授業への積極的参加度	20%	
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の受講については次の点が前提となる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 年次にソーシャルワーク実習を終了していること。 ・ 社会福祉士または精神保健福祉士の国家資格取得に向けて十分な学習をし、基本的知識と技術を備えていること。 ・ スクールソーシャルワーク実習に行く準備をしていること。 2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 3. 授業中は携帯電話や PHS 等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 4. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F 評価とする。 5. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前に出ること。 6. 授業中に指示された課題の提出期限は厳守すること。 		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (内容・進め方・評価方法・スクールソーシャルワークの現況等)	事前学習	なぜスクールソーシャルワークを学ぼうと思うのか、よく考え整理して授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワークの現況についてわかったことをまとめる。
第 2 回	学校・子どもたちが抱える課題	事前学習	現在、学校・子どもたちが抱える課題を挙げて授業に臨む。
		事後学習	テキスト第 1 章を熟読し、「なぜスクールソーシャルワークが必要なのか」についてまとめる。
第 3 回	スクールソーシャルワークとは	事前学習	テキスト第 2 章を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	スクールソーシャルワークの価値、目的と役割についてまとめる。
第 4 回	アメリカのスクールソーシャルワーク、韓国のスクールソーシャルワーク	事前学習	テキスト第 3 章第 1～3 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	アメリカと韓国のスクールソーシャルワークから学べる点についてまとめる。
第 5 回	日本のスクールソーシャルワーク	事前学習	テキスト第 3 章第 5～6 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	日本のスクールソーシャルワークの歴史についてまとめる。
第 6 回	学校教育とスクールソーシャルワーク① (教育行政の仕組みと学校)	事前学習	テキスト第 4 章第 1～3 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	教育行政の仕組みと学校についてまとめる。
第 7 回	学校教育とスクールソーシャルワーク② (スクールソーシャルワークにおける教育委員会の役割)	事前学習	テキスト第 4 章第 4, 6, 7 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	スクールソーシャルワークにおける教育委員会の役割についてまとめる。

第 8 回	教育(学校)が連携する機関とその機能①(児童相談所と福祉事務所の機能)	事前学習	第 5 章第 1 ～ 3 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	児童相談所と福祉事務所の機能についてまとめる。
第 9 回	教育(学校)が連携する機関とその機能②(福祉事務所・要保護児童対策地域協議会・児童福祉施設の機能)	事前学習	第 5 章第 4, 5, 8 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	市町村と要保護児童対策地域協議会についてまとめる。
第 10 回	スクールソーシャルワークの基礎理論	事前学習	第 6 章を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	エコロジカル・アプローチと修復的対話についてまとめる。
第 11 回	スクールソーシャルワークの展開過程(マイクロ実践の展開過程)	事前学習	第 7 章第 1 ～ 3 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	マイクロ実践の展開過程についてまとめる。
第 12 回	スクールソーシャルワークの展開過程(メゾ実践の展開過程)	事前学習	第 7 章第 4 ～ 7 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	メゾ実践の展開過程についてまとめる。
第 13 回	スクールソーシャルワーク実践(いじめとスクールソーシャルワーク)	事前学習	第 8 章第 4 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	いじめとスクールソーシャルワークについてまとめる。
第 14 回	スクールソーシャルワーク実践(児童虐待とスクールソーシャルワーク)	事前学習	第 8 章第 8 節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	児童虐待とスクールソーシャルワークについてまとめる。
第 15 回	まとめ(スクールソーシャルワークの必要性について総合的に考察)	事前学習	なぜスクールソーシャルワークが必要とされてきているのか考える。
		事後学習	秋のスクールソーシャルワーク実習において何を得ようと思うか考える。

1. 科目名 (単位数)	生活 (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3383
2. 授業担当教員	倉澤 達雄		
4. 授業形態	講義、実習、グループ学習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	教科「生活」がなぜ新設・改訂されたのか、小学校学習指導要領の変遷を通して目標や内容、基本的方針など理解を深め、幼児期から児童期へのスムーズな移行を意図していることに気付き、「遊び」「基本的生活習慣」を基にその連関について考察する。そして、生活科学習内容項目について理解したうえで具体的な教育課程や指導案展開の活動事例を構想する。さらに、グループワークやディスカッションの学習や実践的体験活動を通して子どもの気づきを大切にされた教師側の声の掛け方や支援・地域環境や幼児・児童等の発達段階に応じた生活科教育のあり方を考え、それらの学習を基にして、教科「生活」を横断的・系統的視点から他教科等との関連・総合学習との関連・幼児教育との関連について学んでいく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程における生活科の位置、子ども観、生活科の目標、学習内容について理解し、説明することができる。 2. 具体的な体験学習を通じた生活科学習のあり方について理解し、説明できる。 3. 生活科の指導計画や活動展開について構想し、表現することができる。 4. 生活科と幼児教育の連続や関連性について具体的に考えることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かすると共に問題解決力を培うように努めること。 レポート課題 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科目標に「具体的な活動や体験を通すこと」と示されていることの趣旨について具体的に考察する。 2. 生活科の学習指導の特質について考察する。 3. 生活科と幼児教育との関連を考える。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版。		
11. 成績評価の方法	レポート 総合点の 70% 授業への参加度 総合点の 30% 総合点 100%		
12. 受講生への メッセージ	生活科は平成元年に発足した教科です。教育活動を総合的に捉えると、知識や技能を身に付けると同時に、それらの力を存分に使って学び生きる意欲を高めることが欠かせません。生活科は直接体験を重視して学ぶ意欲を高めます。皆さんが、生活科に止まらず視野を教育課程全体に広めながら学ぶことを期待します。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画概要 ・ 生活科の誕生と生活科のイメージ 	事前学習	各自の生活科体験を想起する。
		事後学習	生活科教育の児童観を整理する。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科改訂の趣旨と要点 ・ 幼児教育と生活科の関連 	事前学習	教科書 pp. 2～7 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	生活科と幼児教育との異同を整理する。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の目標 	事前学習	教科書 pp. 9～18 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	生活科における体験と生活科の目標との関連を整理する。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の内容構成の考え方 	事前学習	教科書 pp. 19～23 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	生活科の 9 の内容の全体構成を整理する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の内容 (1～4) (学校、家庭、地域、公共物) 	事前学習	教科書 pp. 24～30 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	児童の生活圏としての環境と生活科の内容との関連について整理する。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の内容 (5～8) (季節、自然、動植物、交流) 	事前学習	教科書 pp. 31～38 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	低学年で体験させておきたい内容について整理する。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の内容 (9) (自分自身) ・ 指導計画作成上の配慮事項 (1～2) 	事前学習	教科書 pp. 38～43 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	生活科と他教科等との関連について整理する。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画作成上の配慮事項 (3～4) ・ 内容の取り扱いについての配慮事項 	事前学習	教科書 pp. 43～63 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	体験の中における気づきの質を高める指導について整理する。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の学習指導の進め方 	事前学習	教科書 pp. 64～66 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	生活科の学習における振り返り表現することの重要性を整理する。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の学習指導案の特性 	事前学習	9 の内容と単元構成と学習指導の実際との関係を考える。
		事後学習	実践事例と生活科の内容との関連を整理する。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の学習指導の実際 	事前学習	自己の生活科学習の体験や教育実習などの体験を想起しておく。
		事後学習	実践的に生活科学習の特性を整理する。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科の教科書の特徴 	事前学習	生活科における教科書の必要性を考える。
		事後学習	学習における教科書の役割を考える。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科と他教科、総合的な学習の時間との関連 	事前学習	実践的に他教科等との関連を考える。
		事後学習	実践事例を基にして、生活科の体験に含まれる学習内容を整理する。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小の連携の試み 	事前学習	生活科における評価の必要性を考える。

平成 28 年度

	・生活科の評価	事後学習	生活科の評価の特徴を整理する。幼保と生活科の関連を整理する。
第 1 5 回	・期末のまとめ	事前学習	生活科と児童の主体的な学習について考える。
		事後学習	生活科の特性について実践的に整理する。

1. 科目名 (単位数)	精神医学 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3324 SNMP3324 SCMP2124 SBMP3324 PSMP2315 EDHE2306												
2. 授業担当教員	先崎 章、吉田 尚史														
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論	5. 開講学期	春期												
6. 履修条件・他科目との関係															
7. 講義概要	精神保健福祉士 (および他の援助専門職) としての実務に役立つ精神医学の基本知識を身につける。統合失調症 (精神分裂病)、躁うつ病など、主要な疾患の学習を通して、精神障害者の心理社会的側面についての理解を深める。脳および神経の生理・解剖、臨床および分子遺伝学の概要を把握し、その生物学的側面についても留意する。代表的な精神疾患の従来診断、DSM 診断、ICD 診断を学習する。薬物療法はもとより、さまざまな精神療法的アプローチについても学習する。また、精神障害者を地域社会のなかで治療するための地域精神医療について学習する。														
8. 学習目標	以下の項目について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 精神医学、精神医療の歴史を理解する。 2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。 3. 精神医学の概念について理解する。 4. 精神疾患の従来診断および操作診断について理解する。 5. 代表的な精神疾患の病因・症状・経過について理解する。 6. 薬物療法およびその副作用について理解する。 7. 精神療法、家族療法など心理社会的アプローチの概要について理解する。 8. 病院精神医学および地域精神医学について理解する。														
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	南カリフォルニア大学 (USC) 編「シミュレーションによる精神科患者インタビュー」(日本語吹きかえビデオ) 各巻を使用し、グループ発表および全員に対するレポートを課す。 各巻の内容は以下の通りである。①双極感情障害 躁病性、②神経性無食欲症、③大うつ病 単一エピソード、④反社会的人格障害、⑤アルコール乱用、⑥精神分裂病性障害 解体型、⑦双極感情障害 うつ病性、⑧気分変調性障害 抑うつ神経症、⑨依存性人格障害、⑩恐慌発作を伴う空間恐怖症、⑪アルコールおよび薬剤性痴呆、⑫精神分裂病性障害 妄想型。														
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 改訂 新版 精神保健福祉士養成セミナー第 1 巻『精神医学—精神疾患とその治療』へるす出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 【参考書】 北村俊則著『精神・心理症状学ハンドブック』日本評論社。 笠原嘉著『精神病』岩波新書。 ヘル、フィッシャー・フェルテン著 (植木・曾根監訳)『みんなで学ぶ精神分裂病 —正しい理解とオリエンテーション』星和書店。 【教材】 南カリフォルニア大学 (USC) 編『シミュレーションによる精神科患者インタビュー』(日本語吹きかえビデオ)														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>随時行われるミニテストの総計点数</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表の際の加点法による評価</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題に対する評価得点の総計</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>終講試験①多肢選択問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>②論述問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			随時行われるミニテストの総計点数	15%	グループ発表の際の加点法による評価	10%	レポート課題に対する評価得点の総計	25%	終講試験①多肢選択問題	25%	②論述問題	25%	計	100%
随時行われるミニテストの総計点数	15%														
グループ発表の際の加点法による評価	10%														
レポート課題に対する評価得点の総計	25%														
終講試験①多肢選択問題	25%														
②論述問題	25%														
計	100%														
12. 受講生へのメッセージ	毎回、授業内容の重要項目のみゴシック体でプリントアウトしたものを全員に配付する。各自、授業を聴きながら、その余白に書き込んで自前のノートをつくる。この作業には、なによりも授業の脈絡をつかむことが要求される。ビデオ教材にもとづく症状の評価をはじめ、講義というよりは実習に近い。精神保健福祉士 (および他の援助専門職) として実務をこなすための基本的な記述能力を身につけよう。 本科目における学習目標は先に掲げた通りであるが、付加価値として次の項目を補足しておく。パトグラフィ (病跡学) やアートセラピー (芸術療法) から適宜素材を選び、スライドにて提示する。精神疾患は単に障害としてだけでなく、創造と紙一重の危機としても理解できる。こういう側面についての知見を補うことは、精神疾患に対する感受性トレーニングになるはずである。														
13. オフィスアワー	授業中に通知する。 研究室 26 (1 号館 4 階)														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	精神医学・精神医療の歴史 (欧米) : 古代、中世、近世、近代、第 2 次世界大戦後、現代 (DSM による操作主義の採用)、正統精神医学と力動精神医学	事前学習	精神科の病気について、まずイメージを思い浮かべてみよう。												
		事後学習	DSM と ICD の両方に目が配れるようにしておく。												
第 2 回	精神医学・精神医療の歴史 (日本) : わが国における精神医療の変遷 (古代から近世まで、明治、大正、昭和 [敗	事前学習	狐憑きなど、昔の日本によくみられた迷信について考えてみよう。												

	戦まで]、昭和 [戦後]・平成)	事後学習	欧米と日本の精神医療史を比べて、どういう違いがあるだろうか。
第 3 回	脳および神経の生理・解剖 1：脳と心の関係、神経系の発生と構成、ニューロンおよびシナプスの構成 (神経伝達物質についての知識)	事前学習	脳と心の関係について、常識的な考え方を整理してみよう。
		事後学習	脳を肉眼で側面から見た図を描き、言語中枢を指し示してみよう。
第 4 回	脳および神経の生理・解剖 2：中枢神経系 (脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳：前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳辺縁系、大脳基底核)、末梢神経系	事前学習	知・情・意の脳におけるおおまかな局在を思い浮かべてみる。
		事後学習	神経伝達物質を少なくとも 4 つは列挙できるようになっているか。
第 5 回	精神医学にとって鍵となる概念：正常と異常の問題、精神病理学 (了解と説明)、精神分析学 (葛藤、防衛機制)、操作的診断基準	事前学習	精神の健康とはなにか、改めて自分の考えを文章に書いてみよう。
		事後学習	ヤスバースの「了解 (理解) の概念について、よく復習しておこう。
第 6 回	精神障害の成因、用語、分類：外因・内因・心因、病態・挿話、治癒・緩解、再燃・再発・増悪、ICD の診断ガイドライン、DSM の操作的診断基準	事前学習	外因・内因・心因という用語の意味について少し予習しておこう。
		事後学習	ある病態を心因によると判定するための基準について述べよ。
第 7 回	精神科における面接の仕方：問診表、面接を進めるときの注意、問診の順序、カルテ記載の仕方、精神的現在症、さまざまな状態像	事前学習	「話す能力」と「聞く能力」のうちで、どちらが大切だと思うか。
		事後学習	精神科で扱われるさまざまな状態像について、解説できるだろうか。
第 8 回	身体検査と心理検査：一般身体検査 (神経学的所見)、一般臨床検査、神経学的補助診断法 (頭部 X 線、CT、MRI、PET、EEG)、遺伝子診断、心理検査、症状評価尺度	事前学習	精神科で身体検査が重要なのはなぜだろうか、考えてみよう。
		事後学習	ニューロイメージングのうちで「無侵襲」といえるのはどれか。
第 9 回	症状性を含む器質性精神障害：意識障害、健忘症状群、認知症 (アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、びまん性レビー小体病、ピック病など)、軽度認知機能障害 (MCI)、AChE 阻害剤	事前学習	意識障害と認知症との違いについて、理解しているだろうか。
		事後学習	三大認知症を列挙し、それぞれの臨床経過をまとめておくこと。
第 10 回	精神作用物質使用による精神および行動の障害：急性中毒、依存、離脱状態、フラッシュバック、アルコール関連障害 (振戦せん妄を含む)	事前学習	精神依存と身体依存の 2 つについて、少し予習しておこう。
		事後学習	覚醒剤精神病のフラッシュバックについて、説明できるだろうか。
第 11 回	統合失調症 (精神分裂病) 1：概念の歴史、診断・徴候・症状 (プロイラーの症状基準、シュナイダーの一級症状、DSM-IV の診断基準)、病型、経過と予後	事前学習	幻覚と妄想について、これまで習ったことをもう一度復習しよう。
		事後学習	DSM-IV の診断基準のポイントをしっかりと整理しておくこと。
第 12 回	統合失調症 (精神分裂病) 2：疫学、病因 (遺伝学的、生物学的、心理社会的)、治療 (薬物療法、ECT、その他)、妄想性障害および他の精神障害	事前学習	遺伝因と環境因のどちらが重要か、自分なりに考えてみる。
		事後学習	脆弱性 - ストレスモデルについて、明解に説明できるだろうか。
第 13 回	気分 [感情] 障害 (躁うつ病) 1：概念と歴史、抑うつと躁状態、うつ病性障害、双極性障害、気分変調性障害	事前学習	統合失調症との一番の違いはどこに求めることができるだろうか。
		事後学習	双極 I 型と双極 II 型それぞれの臨床経過像を図示してみる。
第 14 回	気分 [感情] 障害 (躁うつ病) 2：病前性格と発病状況、疫学、縦断的経過のシエマ、患者に接する際の注意点、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、SSRI (選択的セロトニン再取り込み阻害剤)	事前学習	うつ病になりやすい人のパーソナリティ特徴について考えよう。
		事後学習	代表的な気分安定薬を 3 種類列挙して試してみることができるだろうか。
第 15 回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 1：恐怖症性不安障害、パニック発作、全般性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害	事前学習	これが「了解可能」な精神疾患であることを銘記してほしい。
		事後学習	PTSD について、症状と経過の概要をまとめておくこと。
第 16 回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 2：解離性 (転換性) 障害、身体表現性障害、離人・現実感喪失症候群、神経衰弱	事前学習	フロイトの精神分析はどのような臨床経験に基づくものであったか。
		事後学習	転換ヒステリーと解離ヒステリーという分け方も理解しておく。
第 17 回	摂食障害：神経性無食欲症 (anorexia nervosa)、神経症性大食症 (bulimia nervosa)、社会文化的背景、行動療法・家族療法	事前学習	拒食症よりも過食症のほうが増えているのはなぜだろうか。
		事後学習	過食症に制限型と排出型の 2 種があることを銘記しよう。
第 18 回	睡眠障害：不眠、過眠、ナルコレプシー、睡眠・覚醒サイクル障害、パラソムニア、睡眠時無呼吸症候群、睡眠による脳波の変化	事前学習	一口に「不眠」と言っても、いろいろなタイプがありそうである。
		事後学習	ナルコレプシーの睡眠脳波にはどのような特徴があるだろうか。
第 19 回	精神の人格および行動の障害 1：人格障害とは、奇妙で風変わりな群、演技的・感情的でうつろいやすい群、不安や恐怖を感じやすい群	事前学習	最近では「人格」よりも「パーソナリティ」のほうがいられる。
		事後学習	境界性パーソナリティ障害の臨床症状を整理し

			ておくこと。
第 20 回	精神の人格および行動の障害 2: 脳損傷および脳疾患によらない持続的人格変化、習慣および衝動の障害、性同一性障害、性嗜好障害、虚偽性障害 (ミュンヒハウゼン症候群)	事前学習	欧米に比べ、日本では、性に関する臨床研究が立ち遅れている。
		事後学習	虚偽性障害、とくに「ミュンヒハウゼン症候群」を覚えておこう。
第 21 回	精神遅滞および発達の障害: 精神遅滞とは、精神遅滞の病因、自閉性障害 (高機能、中機能および低機能自閉症)、アスペルガー障害	事前学習	最近では「精神遅滞」よりも「知的障害」のほうが用いられる。
		事後学習	DSM-V の「自閉症スペクトラム障害」についても学習してみよう。
第 22 回	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害: 多動性障害、行為障害、情緒障害、その他 (選択的緘黙、チック障害など)	事前学習	児童精神医学という領域は、昨今ますます重要視されつつある。
		事後学習	ADHD の治療薬として処方される薬剤の一般名を覚えておこう。
第 23 回	てんかん: 定義、疫学、病因、発作閾値、分類、発作のタイプ、診断、治療、脳波検査法と脳波周波数の分類	事前学習	てんかんが精神科の病気でもあることを銘記してほしい。
		事後学習	正常脳波と比べながら、異常脳波の特徴について理解する。
第 24 回	その他の神経系の疾患: 感染性疾患、脱髄性疾患、代謝疾患・栄養障害、変性疾患、プリオン病、磁気共鳴映像法 (MRI)	事前学習	精神症状が身体疾患にもよくあらわれることを忘れないように。
		事後学習	CT および MRI の所見に即して、いくつかの脳疾患を復習する。
第 25 回	薬物療法とその副作用: 向精神薬の歴史、薬物療法における注意事項、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、電気ショック療法	事前学習	脳内の神経伝達物質について、これまで習ったことを整理しよう。
		事後学習	新世代型抗精神病薬の最大の利点について述べられるだろうか。
第 26 回	精神療法および環境・社会療法: 一般精神科医の精神療法、精神分析、森田療法、認知・行動療法、集団精神療法、家族療法	事前学習	正統精神医学と力動精神医学の対比のことを思い起こそう。
		事後学習	精神分析でいう「転移」および「逆転移」について説明できるか。
第 27 回	精神科リハビリテーション: 蜂矢による ICIDH による障害構造論、院内および院外リハビリテーション、精神科クリニック、精神科デイケア	事前学習	「精神疾患」と「精神障害」のニュアンスの違いはどこにあるか。
		事後学習	ICIDH の改訂版 ICF についても少し予習しておくことが望ましい。
第 28 回	病院精神医療から地域精神医療: 日本における精神病院の概要、精神保健福祉法と精神病院、精神科救急医療、地域精神医療	事前学習	精神科での「保健」「医療」「福祉」をイメージアップしてみよう。
		事後学習	日本の精神科医療に「脱施設化」が生じないのはなぜだろうか。
第 29 回	授業の総括と補足 (病跡学、表現精神病理学からの話題; 認知神経科学、分子精神医学の展望など)	事前学習	返却されたミニ・テストの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	現代精神医学のいくつかのトピックについて、自分で調べてみよう。
第 30 回	まとめ	事前学習	返却されたミニレポートの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	教員との質疑で浮上した疑問点について、自分で解決しておく。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論 I (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2127 PSMP2427
2. 授業担当教員	藤島 薫・谷口恵子			
4. 授業形態	講義、集団討議、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	相談援助を実施するにあたって、基礎となるべき事柄を学ぶ。特に本授業では総合低包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含めた精神保健福祉士の役割と意義について学ぶ。さらに同じ相談援助の専門職である社会福祉士の役割と意義について学ぶとともに、人権尊重、社会正義、利用者主体などの相談援助の理念について理解を深め対人援助の専門職としての基盤を養うことを目的とする。			
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士の役割と意義 ②社会福祉士の役割と意義 ③相談援助の概念と範囲 ④相談援助の理念			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題レポート① 「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義 (2014)」を熟読し、「定義」、「中核となる任務」、「原則」、「知」、「実践」から一つを選択し、その解説と、自分が精神保健福祉士になった時にどのように実践に活かすかについて論述しなさい」 課題レポート② 「精神障害者のリカバリーを支えるとはどういうことかについて論述しなさい」			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 3「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版、2014。			
11. 成績評価の方法	評価方法 試験及びレポート：80% 授業態度：20%			
12. 受講生への メッセージ	精神科ソーシャルワーク論 I・II は精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目が理解できることで、精神保健援助技術論、演習、実習へとつながることが出来ますので、しっかりと学ぶよう心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知する (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	近年の精神保健福祉の動向 精神科ソーシャルワーク論を学ぶ意義 精神科ソーシャルワーク論 I の授業概要	事前学習	「刊行にあたって」を読み近年の精神保健福祉の動向をまとめること。	
		事後学習	「入院から地域へ」に至る背景と、精神障害者の地域生活支援の重要性についてまとめること。	
第 2 回	精神保健福祉士の役割と意義① 精神保健福祉士成立に至る歴史的経緯	事前学習	テキスト 1～12 ページ、71～75 ページを読んでくること。	
		事後学習	精神保健福祉士が国家資格として成立するに至る経緯をまとめること。	
第 3 回	精神保健福祉士の役割と意義② 精神保健福祉士の専門性と社会福祉士の専門性	事前学習	テキスト 13～17 ページを読んでくること。	
		事後学習	法律で規定されたそれぞれの役割と機能をまとめること。	
第 4 回	精神保健福祉士の専門職倫理① 日本精神保健福祉士協会倫理綱領	事前学習	日本精神保健福祉士協会の倫理綱領を読んでくること。	
		事後学習	現行の倫理綱領に至る背景についてまとめること。	
第 5 回	精神保健福祉士の専門職倫理② 専門職倫理とジレンマ 事例によるディスカッション	事前学習	想定される専門職倫理とジレンマについて考えてくること。	
		事後学習	事例におけるジレンマ分析をふり返し、倫理綱領がどのように機能するのか考察すること。	
第 6 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士① ソーシャルワークの発展過程	事前学習	テキスト 29～35 ページを読んでくること。	
		事後学習	ソーシャルワークの発展過程を時系列で整理すること。	
第 7 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士② イギリスにおける精神保健福祉の歴史	事前学習	テキスト 59～64 ページを読んでくること。	
		事後学習	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史とわが国への影響についてまとめること。	
第 8 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士③ アメリカにおける精神保健福祉の歴史	事前学習	テキスト 64～71 ページを読んでくること。	
		事後学習	アメリカの精神保健福祉発展の理解とわが国への影響をまとめること。	

第 9 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士④ イタリア、北欧における精神保健福祉の歴史	事前学習	イタリアの脱施設化について、文献などを探して調べてくること。
		事後学習	イタリア、北欧における精神保健福祉の歴史と新しい取り組みについてまとめること。
第 10 回	相談援助の範囲と概念① ソーシャルワーク専門職のグローバル定義「定義」、「中核となる任務」、「原則」、「知」、「実践」	事前学習	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する課題レポートを作成すること。
第 11 回	相談援助の範囲と概念② ソーシャルワーク実践の総合的理解	事前学習	これまでの学習を通して、ソーシャルワークとは何かについて考察をしてくる。
		事後学習	ソーシャルワーク実践の価値、目的、領域、対象、方法などの概要を体系的にまとめること
第 12 回	相談援助の価値と理念① ソーシャルワークの支援関係における価値と理念 利用者主体と自立支援、協働による支援関係とは ディスカッション	事前学習	テキスト 40～46、69～71 ページを読み、支援関係の転換についてまとめてくること
		事後学習	ディスカッションを通して考えた協働による支援関係についてまとめること
第 13 回	相談援助の価値と理念② 人権尊重、社会正義、社会的包摂、ノーマライゼーション、キーワードに基づくディスカッション	事前学習	テキスト 46～68 ページを読み、人権の尊重、社会正義などについて考えてくること
		事後学習	授業で学んだ価値と倫理のキーワードについてまとめること
第 14 回	相談援助の価値と理念③ 尊厳の保持、権利擁護、エンパワメント、リカバリー、キーワードに基づくディスカッション	事前学習	テキスト 46～68 ページを読み、尊厳の保持、権利擁護、エンパワメントなどについて考えてくること
		事後学習	精神障害者のリカバリーについて考察し、課題レポート②を作成すること
第 15 回	精神科ソーシャルワーク論 I のまとめ 授業内で指定したテーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだことを確認してくること
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習 I (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3168 PSMP3468
2. 授業担当教員	大山 勉、鹿内 佐和子、谷口 恵子、茅野 由紀		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習 I、II、精神保健福祉援助演習 I、II、IIIは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習 I では、自己覚知やコミュニケーションなど精神保健福祉士として必要な基本的技術を学習し、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己覚知 2) 基本的なコミュニケーション技術の習得 3) 基本的な面接技術の習得 4) グループダイナミクス活用技術の習得 5) 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 6) 課題の発見・分析・解決の技術の習得 7) 記録の技術の習得 8) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行う <ol style="list-style-type: none"> ①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ②地域アセスメント ③地域福祉の計画 ④ネットワークング ⑤社会資源の活用・整備・開発 ⑥サービス評価 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかる基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己覚知について 2 面接技術について <p>その他、授業中に振り返りのレポートを課す</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日総研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習 I のねらいの解説 <ul style="list-style-type: none"> － 専門職養成における演習の位置づけと目的を理解する 	事前学習	ソーシャルワーク演習 I、II で学んだ内容を振り返る テキスト【基礎編】序章～第 1 章 (p 3～15) を熟読する
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (1) <ul style="list-style-type: none"> － 自己覚知について理解する － 対人援助職における自己覚知の意義を考える 	事前学習	テキスト【基礎編】付章 I (p 71) を熟読する
		事後学習	自己覚知はなぜ必要かまとめる
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (2) <ul style="list-style-type: none"> － ジェノグラム、エコマップなどマッピング技法を用いて自己理解につなげる － 自分の価値観をみつめ、自分の価値観に基づく他者 	事前学習	テキスト【基礎編】付章 II (p 72～78) を熟読する
		事後学習	授業での実践を通して自分について考えた

	との関係性のあり方を考える ー自己理解を深めたうえで、他者理解について考える		ことをまとめる 課題 1 を作成する
第 4 回	・コミュニケーションの理解 ーコミュニケーションの過程を理解する ー言語・非言語コミュニケーションについて理解し、その活用方法を学ぶ ーロールプレイを用いてコミュニケーション技術を学ぶ	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章（p 28～30）を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 5 回	・クライアントに対する姿勢 ー人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する ーバイステックの 7 原則について実際の援助場面を想定して理解を深める	事前学習	バイステックの 7 原則について復習する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	・面接における技術：基本的応答技法 ー単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する ー感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅱ（p 31～34）を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 7 回	・面接における技術：応用 ー基本的応答技法を用いて、事例に基づくアセスメント面接を実践する	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 8 回	・情報の収集・整理・伝達の意義と方法を学ぶ ー情報収集・整理・伝達の目的、原則、方法を理解する ーロールプレイを用いて情報の収集・整理・伝達の技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅳ（p 38～43）を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 9 回	・課題の発見・分析・解決の技術の習得 ー課題の発見・分析・解決方法を学ぶ ーロールプレイを用いて課題の発見・分析・解決の技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅴ（p 44～47）を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 10 回	・グループダイナミクス活用技術を習得する ーグループダイナミクス理論を学ぶ ーロールプレイを用いてグループダイナミクス活用技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅲ（p 35～37）を熟読する ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだことを振り返る
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 11 回	・ソーシャルワークにおける記録について理解し、技術を習得する ー記録の目的を理解する ー記録の方法を理解する ー事例を用いて記録法を実践する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅵ（p 48～52）を熟読する
		事後学習	事例を用いて記録する練習を行う
第 12 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する（1） ーアウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメントを理解する ー事例を活用して上記項目を実践的に理解する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅰ～Ⅱ（p 149～159）を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 13 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する（2） ー地域福祉計画づくりを理解する ー事例を活用して地域福祉計画づくりを実践する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅴー2（p 173～178）を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 14 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する（3） ーネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価について理解する ー事例を活用して上記項目に関する技術を習得する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅲ～Ⅴー1（p 160～172）を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 15 回	・まとめ ー精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る	事前学習	学習ノートを見返す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3169 PSMP3469
2. 授業担当教員	大山 勉、鹿内 佐和子、星野 弘美		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、2 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱでは、実技指導を通してソーシャルワーカーとして必要なケースワークの基本的技術を学習する。また、事例を用いて具体的な課題別の援助方法を理解し課題により異なる援助技術を学習する。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) インテークからアセスメント、プランニング、介入、モニタリング、評価、終結とアフターケアのケースワークの一連の流れを理解し、それぞれの過程における必要な技術を実践することができる。 2) 他専門職の専門性を尊重したチームアプローチの意義を理解し、ネットワーキングの技術を身につける 3) 社会資源について理解し、その活用、調整、開発の技術を学ぶ 4) ケアマネジメントについて理解し、実践することができる 5) 事例検討の意義を理解し、その方法を実践する 6) 次の課題について必要な援助技術を習得する：社会的排除/退院支援・地域移行、地域生活継続/ピアサポート/地域における精神保健/教育、就労/貧困、低所得、ホームレス/精神科リハビリテーション/危機状態にある精神保健福祉 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中に行ったロールプレイの考察 2 授業で取り上げた課題の一つを選び、その課題について調べる 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日経研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだことの振り返りと演習Ⅱのねらいの解説 	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだ内容を振り返る テキスト〔基礎編〕序章～第 1 章 (pp.3～15) を熟読する
		事後学習	演習において身に付けたいことを書き出す
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源とその活用 － 社会資源とは何か理解する － クライエントと社会資源を結びつける際に必要な技術を身につける － 社会資源の開発の技術を学ぶ 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章Ⅲ (pp.62～64) を熟読する
		事後学習	精神保健福祉士としてかわるクライアントが必要な社会資源は何があるか書き出す
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・チームアプローチ：他専門職の理解と実践 － 精神保健福祉士の専門性と比較しながら精神保健福祉士が関わる他専門職の専門性を理解する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章Ⅳ (p.65) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる

	<ul style="list-style-type: none"> チームアプローチにおいて必要な技術を理解する 事例を用い、ロールプレイでチームアプローチを実践する 		
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークング ーネットワークングを理解し、必要な技術を学ぶ ー事例を用いて支援に必要なネットワークングを考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章 V～VI (pp.66～70) を熟読する
		事後学習	ネットワークングをつくる際に配慮すべきことをまとめる
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実践 (1) : ケースワークの流れの理解とインテーク～契約まで ーインテークからアフターケアまでの流れとそれぞれの過程において大切な要素を学ぶ ー事例を用いてインテーク場面をロールプレイで実践する ー自己のロールプレイを振り返りクライアントとかわる際の特徴を知る 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 I (p.89) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実践 (2) : アセスメント ー事例を用いてアセスメント面接をロールプレイで実践する ー情報をアセスメントシートにまとめる技術を身につける ー収集した情報からクライアントのニーズを見出す技術を身につける 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 II (pp.91～93) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる 授業を受けてアセスメントシートに再度情報をまとめる
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実践 (3) : プランニング～介入 (支援の実際) ～モニタリング ーニーズを基に支援計画を立案する技術を身につける ーモニタリングの意義とその方法を身につける 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 III (pp.94～98) を熟読する
		事後学習	自分の立てた支援計画を記録にまとめる モニタリングの際に配慮すべき点をまとめる
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実践 (4) : 評価～終結 ー支援評価の意義とその方法を身につける ー終結の大切さを理解し、終結の場面をロールプレイで実践する ーアフターケアの意義を理解し、必要なアフターケアを計画する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 IV (pp.99～101) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる アフターケアについて学んだ点をまとめる
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワークの実践 (5) : まとめ ーケースワークの過程を振り返り、ワーカーとしての自己の課題を見出す 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章 I (pp.53～56) を熟読する
		事後学習	数回にわたり実施したロールプレイを振り返り、ワーカーとしての自分の課題を書き出す。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント ーケアマネジメントの方法を学び、精神障害者に対するケアマネジメントの意義を理解する ー事例を用いてケアマネジメントを実践する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章 II (pp.～159) を熟読する
		事後学習	ケアマネジメントとは何か自分の言葉でまとめる
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討の意義と方法 ー事例検討とは何か理解し、事例検討の方法を学ぶ ・事例検討 (1) : 社会的排除 ー精神障害者が抱える社会的排除の問題を理解する ー事例を用いて社会的排除における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕序章 (pp.79～86) を熟読する テキスト〔実践編〕第 2 章 (pp.103～105) を読み、わからない用語等意味を調べる
		事後学習	社会的排除とは何か自己の考えをまとめる 事例を通して学んだことを書き出す
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 (2) : 退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート ー上記に掲げたそれぞれの課題を理解する ー事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 (3) : 地域における精神保健 (自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存) ー地域における精神保健の課題を理解する ー事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討 (4) : 教育・就労、貧困・低所得・ホームレス、精神科リハビリテーション、危機状態にある精神保健福祉 ー上記に掲げたそれぞれの課題を理解する ー事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ー精神保健福祉援助演習 II で学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る 	事前学習	学習ノートを見返す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士援助演習Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP4170 PSMP4470
2. 授業担当教員	大山 勉、藤島 薫、星野 弘美		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅲでは、実習体験をソーシャルワーク概念に結びつけながら振り返るとともに、実践モデル。アプローチを実践的に学び、終了した時点で、実習での体験を踏まえ精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目的とする</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <p>①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>実習での振り返りを理論的に行っていくため、その都度実習の振り返りを事前にしてくることを課題とする。課題は後日提出し、評価の対象となる。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第7巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日総研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>精神保健福祉士を目指して学んできた講義科目、演習科目、実習での体験の総まとめとなる授業です。学んできたことを結びつけて理解を深められるよう、また就職して働くに際して即戦力となるよう、積極的な態度で授業に参加することが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことの振り返りと演習Ⅲのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことを振り返る。
		事後学習	演習Ⅲで学びたいことを書きだす
第 2 回	・自己覚知、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティ ー当事者との関わり等を通して気付いた自分自身と実習を通して身に着けたソーシャルワーカーとしてのアイデンティティを振り返る。	事前学習	実習体験を通して気づいた自分自身についてまとめる。 テキスト〔基礎編〕第2章Ⅰ (pp.17～19)を熟読する。
		事後学習	授業でのディスカッション等を通しての考察をまとめる。
第 3 回	・クライアントに対する姿勢：バイステックの7原則 ー実際の援助場面で学んだバイステックの7原則について振り返る	事前学習	テキスト〔基礎編〕第2章Ⅱ～Ⅳ (pp.20～26)を熟読する。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第 4 回	・社会資源とその活用・調整・開発 ー当事者を支援するうえで、活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表する。関わった当事者の方たちに必要な資源について考えるとともに、資源の調整・開発の方法を考察する	事前学習	実習中活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表の準備をする。
		事後学習	発表を通して学んだことをまとめる。
第 5 回	・チームアプローチ(ネットワーキング、アウトリーチ) ーチームアプローチを用いて支援した事例を振り返る ーチームアプローチを行う上で、精神保健福祉士がどのような役割を担っていたかまとめる	事前学習	実習中のチームアプローチの事例を記入する。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。

	ー自分自身が担った役割を振り返り、自己の課題を認識する		
第 6 回	ケースワーク（１）：ケースの振り返り ー自分がかかわったケースを振り返る 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る。	事前学習	実習中記入したソーシャルワークケース記録を見返す。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第 7 回	ケースワーク（２）：ケースの振り返り、発表、考察 ー自分がかかわったケースを振り返る 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る。	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	自身の関わりについてよかった点、課題点をまとめる。
第 8 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（１） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (エコロジカル、システムなど)	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 9 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（２） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (ストレングス／エンパワメント／ナラティブなど)	事前学習	どのようにして情報を収集したか記入する。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第 10 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（３） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (危機介入／行動変容／問題解決など)	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 11 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（４） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (リカバリーなど)	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 12 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（５） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (SST／心理教育／セルフヘルプグループなど)	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 13 回	課題別、対象者別の支援を学ぶ（１） ー演習の中で学んだモデル・アプローチを用い、設定された課題（認知症、発達障害、高次脳機能障害等）についての知識を深めながら、支援について考える。	事前学習	設定された課題について調べる。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる。
第 14 回	課題別、対象者別の支援を学ぶ（２） ー演習の中で学んだモデル・アプローチを用い、設定された課題（自殺予防、権利擁護等）についての知識を深めながら、支援について考える	事前学習	設定された課題について調べる。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる。
第 15 回	・まとめ ー精神保健福祉援助演習Ⅲで学んだことをふりかえる	事前学習	授業で学んだことを振り返る。
		事後学習	精神保健福祉援助演習Ⅲで身に付けたことをまとめる。 ワーカーとしての自身のストレングス・課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助技術論 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP3111 PSMP3411
2. 授業担当教員	谷口 恵子、小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、グループ討論	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱを受けて、精神障害者に対する援助方法や実践の基本を学ぶ。また、精神医学や精神科リハビリテーションの概念を踏まえて、精神障害者への相談援助に対する基本的な考え方や相談援助技術の展開を学ぶ。さらに、社会資源の活用方法、ケアマネジメント、コミュニティワークの実際と、保健・医療・福祉等にわたる包括的な支援の意義と展開を学ぶ。</p> <p>本授業の終了後には以下を理解していることが期待される。</p> <p>①精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方について ②精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について ③精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術及び活用の方法について ④精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について ⑤精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について ⑥地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワークの実際について ⑦地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について</p>		
8. 学習目標	<p>以下の点を学習の目標とする。</p> <p>①精神保健医療福祉の歴史と動向について説明できる ②精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識を身に付ける ③精神科リハビリテーションの概念と構成、精神科リハビリテーションのプロセスについて説明できる ④医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割を学ぶ ⑤相談援助の過程及び対象者との援助関係、面接技術を理解し、援助活動の展開を身に付ける ⑥家族調整・支援の実際を学ぶ ⑦スーパービジョンとコンサルテーションについて理解する ⑧地域移行について理解する ⑨地域を基盤にした相談援助、リハビリテーションの基本的考え方、ネットワーキングについて理解する ⑩精神障害者のケアマネジメントを学ぶ</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内で課題を課すことがある。 ＊予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 第4巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」』へるす出版。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>試験及びレポート 90% 授業態度 10% (遅刻・早退は減点する)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>精神科ソーシャルワーク論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識と技術の概要をさらに深く学び、実践に結びつけることができる内容とします。グループワークや、ロールプレイなど積極的な授業への参加を求めます。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途連絡する</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について、 第1章 障害者福祉の理念と精神障害者の人権：障害者福祉の理念と精神障害（ノーマライゼーション）	事前学習	障害者とはどのような人をいうのか、障害者福祉とはどのようなことをいうのかについて、自分の考えをまとめる。
		事後学習	ディスカッションの振り返り、障害者と障害者福祉、ノーマライゼーション、の関係を整理すること。
第2回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：障害者福祉の理念と精神障害（リハビリテーション）	事前学習	障害者と障害者福祉、リハビリテーションの関係を整理すること。
		事後学習	ディスカッションを振り返り、障害者と障害者福祉、リハビリテーションの関係を整理すること。
第3回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：：障害者福祉理念と精神障害（生活の質、自立支援）	事前学習	障害者にとっての自立とは何かを考え、生活の質、地域社会とのつながりを踏まえて自己の意見をまとめること。
		事後学習	精神障害者の生活の質とは何か、自立とは何か、社会で生活することの困難さと社会的サポートの必要性についてまとめること。
第4回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：：障害者福祉と精神障害（ソーシャルインクルージョン）	事前学習	ソーシャルインクルージョンとは何かを理解しておくこと。
		事後学習	社会で生活することの困難さとソーシャルインクルージョンについてまとめること。
第5回	精神障害者の人権：精神障害者の人権とは何	事前学習	我が国の精神障害者の人権について文献等を使い調べる。

	か 障害者権利条約の理念	事後学習	我が国の精神障害者の人権が障害者の権利条約によってどのように守られているのかをまとめること。
第 6 回	精神障害者の人権：精神障害者の人権とは何か 精神障害及び精神障害者	事前学習	精神障害と精神障害者の関係をよく調べて理解すること。
		事後学習	授業で学んだ精神障害者の人権侵害について、事例を含めて考察すること。
第 7 回	第 2 章 精神保健福祉の歴史と理念：精神保健福祉と精神障害者	事前学習	精神医学、精神科リハビリテーション学、精神科ソーシャルワーク論 I で学んだ歴史を整理しておくこと。
		事後学習	今日の我が国の精神保健福祉施策への影響を考察するとともに、今日求められている精神障害者の地域支援の意義についてまとめること。
第 8 回	精神保健福祉の歴史と理念：精神保健福祉の歴史と理念、精神保健福祉の現状と展望	事前学習	我が国の入院者数、入院日数、精神科病床数等精神障害者のおかれている現状を調べること。
		事後学習	授業を振り返り、我が国の精神障害者施策に対する諸外国の批判をまとめること。
第 9 回	第 3 章 精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：導入期、	事前学習	精神科ソーシャルワーク論で学んだ、宇都宮事件と Y 問題について教科書を振り返り、まとめること。
		事後学習	我が国における精神科ソーシャルワーカー導入のきっかけとなった諸問題をまとめること。
第 10 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：混乱期	事前学習	混乱期とはどのような状態であったのかを教科書からまとめること。
		事後学習	混乱がどのようにして生じ、問題点は何かをまとめること。
第 11 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：展開期	事前学習	精神保健福祉士が国家資格となった経過と当時の精神保健福祉の動向を、精神科ソーシャルワーク論で学んだ知識をもとにまとめること。
		事後学習	我が国における精神保健福祉士の黎明期から現在に至るまでをまとめるとともに、実習や見学等を通して、実際の業務を考察すること。
第 12 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：拡大期	事前学習	精神保健福祉の新たな動向を理解すること。
		事後学習	拡大期にどのような領域に拡大されたのかをまとめること。
第 13 回	第 4 章 精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の意義（1）	事前学習	教科書 pp.99～108 を読み、精神保健福祉士が持つべき理念や存在する意義についてまとめること。
		事後学習	精神保健福祉士の持つべき理念と存在意義について自己の考えをまとめ、合わせて精神保健福祉士の専門性について考察すること。
第 14 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の意義（2）	事前学習	前回の授業を振り返り、精神保健福祉士の意義をまとめること。
		事後学習	前回の授業に加えて、精神保健福祉士の果たしてきた意義や今後果たすべき役割について考えること。
第 15 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の専門性と倫理	事前学習	教科書 pp.108～126 を読み、精神保健福祉士倫理綱領作成のきっかけとなった Y 問題について整理すること。
		事後学習	精神保健福祉士倫理綱領のポイントをつかみ、繰り返し読み、全文を暗記すること。
第 16 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の専門性と倫理（倫理綱領）	事前学習	倫理綱領を読んでくること。
		事後学習	倫理綱領に意味する内容を考え、理解すること。
第 17 回	中間のまとめ	事前学習	今までの授業のポイントを整理すること。
		事後学習	まとめて出された問題について教科書等で調べて、理解すること。
第 18 回	第 5 章 精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（受理面接と契約）	事前学習	精神科ソーシャルワーク論 I・II で学んだソーシャルワークの展開過程を、もう一度見直し整理すること。
		事後学習	インテーク（受理面接）の仕方をイメージし、教科書等の事例をもとに、くり返しトレーニングをすること。
第 19 回	中間のまとめの解答と解説。精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（受理面接と契約）	事前学習	ソーシャルワークの展開過程のうちアセスメントの内容と方法について、精神科ソーシャルワーク論の教科書を読み、理解しておくこと。
		事後学習	教科書にあるインテークに係る事例を読み、事例のインテークを試みること。
第 20 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（アセスメント）	事前学習	受理面接とアセスメントの関係を教科書で調べておくこと。
		事後学習	アセスメントとはどのようなことをまとめること。
第 21 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程：ソーシャルワークの展開過程（支援計画、支援の実際）	事前学習	支援に係る様々なアプローチについて、精神科リハビリテーション学の教科書を読み、理解するとともに、他の授業で学んだ社会資源についてまとめること。
		事後学習	支援計画のポイント、使用されているアプローチ方法を理解すること。また、事例に即した社会資源の利用方法、支援技術、支援の評価方法、最終の仕方を検討すること。
第 22 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程：ソーシャルワークの展開過程（支	事前学習	支援計画、支援の評価がどのような段階で行われるか教科書を使い調べておくこと。

	援計画、支援の支援の評価、終結)	事後学習	受理面接から終結までの過程をまとめること。
第 23 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：個別支援、グループを活用した支 援	事前学習	個別支援技術、集団支援技術についてまとめること。
		事後学習	授業で学んだ個別支援技術と理論、集団支援技術の対 象と基礎理論及び技術に関する事例についてまとめる こと。
第 24 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：地域を対象とした支援	事前学習	地域を対象とする支援とは何かを教科書を使い理解す ること。
		事後学習	直接援助と間接援助の違いを理解し、具体的な例を考 えてみること。
第 25 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：災害時における精神保健福祉士の 役割、スーパービジョンとコンサルテーショ ン、	事前学習	災害時における援助のポイントをまとめること。また、 教科書 pp.193～203 を読み、スーパービジョンとコン サルテーションの概念を理解し、実習で受けたスーパ ービジョンを思い出し、スーパービジョンが自己に与 えた影響を考察すること。
		事後学習	スーパービジョンとコンサルテーションの違いを明確 にすること。ケアマネジメントに関する配布資料を見 直し、手順を確認すること。
第 26 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：ケアマネジメント	事前学習	教科書を使い、ケアマネジメントの歴史を調べておく こと。
		事後学習	授業を振り返り、ケアマネジメントの流れ、有効性を 理解すること
第 27 回	第 6 章 精神障害者のソーシャルワークと関 連専門種との連携：チーム医療における精神 保健福祉士の役割	事前学習	教科書 pp.235～244 を読み、チーム医療の概念を整理 すること。
		事後学習	チーム医療を実施する際のポイントをまとめること
第 28 回	精神障害者のソーシャルワークと関連専門種 との連携：専門職の役割と機能	事前学習	精神保健福祉士がどのような職種とチームを組む必要 性があるか想定すること。
		事後学習	実習先で実施されていたチーム医療（チームアプロ ーチ）に関わっている職員の職種と役割、連携について 整理すること。
第 29 回	精神障害者のソーシャルワークと関連専門種 との連携：チームアプローチ及び生活支援の理 念と精神保健福祉士の役割	事前学習	地域における支援チームの要素とチームの中で精神保 健福祉士が果たす役割について自己の意見をまとめる こと。
		事後学習	地域支援チームと医療機関でのチームの違いについて 整理すること。また、地域での生活支援にかかわる職 種、機関を上げ、それぞれの役割と連携のポイントを 整理すること。
第 30 回	授業評価・精神保健福祉援助技術論のまとめ (事例を総合的に検討する)	事前学習	ソーシャルワークの展開過程をもう一度調べておくこ と(参考:精神科ソーシャルワーク論教科書P105)。
		事後学習	授業で検討された内容を吟味すること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導 I (編) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2183 PSMP2483
2. 授業担当教員	藤島 薫、鹿内 佐和子		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導 I、II、III は 2 年時～3 年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <p>1) 実習の意義について理解する。</p> <p>2) 個人の資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。</p> <p>2) 実習施設・機関の概要及びその地域について理解し、明瞭な説明ができる。</p> <p>4) 日本における精神保健福祉の現状を理解し、実習先でかかわる精神障害者への理解を深めるため、他の講義で学んだ基礎知識を総括的に確認する。</p> <p>5) 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務について理解し、実習においてそれらに基づく実践ができる基礎を身につける。</p> <p>6) 事前訪問に向けて準備を整え、事前訪問を実施する。</p>		
8. 学習目標	<p>① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。</p> <p>② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。</p> <p>④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <p>1 精神保健福祉に関わる知識の確認 (実習コンピテンス確認テストに向けて基礎知識の確認)</p> <p>2 自己の実習に対する動機、目標</p> <p>* 予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>・新 (改定) 版 精神保健福祉士養成セミナー 第 8 巻 『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版 (この教科書は「精神保健福祉援助実習指導 I、II、III」共通)、2014。</p> <p>・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布</p> <p>・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】</p> <p>精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016 年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、事前学習の内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉援助実習指導 I のねらい、授業の進め方についての説明 実習の流れの理解と実習に関する基本的ルールの確認 (「実習の手引き使用」) 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導 I の学習用ノートを準備し講義に臨むこと。
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。実習の手引きの実習の流れを再確認する。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> 専門職養成における実習の意義を理解する 精神保健福祉士を目指すうえで、実習がなぜ大切なのか、また実習で何を学ぶべきなのか理解を深める。 	事前学習	テキスト第 1 章・第 2 章 (pp. 3～26) を熟読する。
		事後学習	授業で学んだことを受け、自己にとっての実習に行く意義について学習ノートにまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉士を目指している自己の動機に対する理解を深める 実習の意義と同時に、個人が持っている資格取得に対する動機を自己の中で明確にするとともに、他人に対して説明できるようにする 	事前学習	自分の資格取得動機を説明できるように準備する。
		事後学習	授業を受け再度自己の資格取得動機について考える。自己の実習の動機を学習ノートにまとめる。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習の意義について理解する 事前学習で学ぶべきことを把握するとともに、その意義を理解する 精神保健福祉に関する基礎知識の確認① 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する 	事前学習	テキスト第 3 章 III (pp. 46～65) を熟読する 精神保健福祉の歴史、精神科医療の現状についてレポートにまとめる。
		事後学習	精神障害者のおかれている現状について考えたことをまとめる。

	：日本の精神保健福祉の歴史、精神保健福祉の現状、精神障害者が抱える困難性について考える		
第 5 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認② ・精神疾患の理解 ：主な精神疾患についての基礎知識を確認する	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる。
	精神保健福祉に関する基礎知識の確認③ ・精神保健福祉に関する制度の理解 ：精神保健福祉士として必要となる制度についての知識を確認する	事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる。
第 6 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認④ ・精神保健福祉に関する技術の理解 ：面接の基本姿勢、面接技術などソーシャルワーカーとして必要になる基礎的技術について確認	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる。
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる。
第 7 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認⑤ ・精神保健福祉に関する職業倫理と法的責務の確認 ：精神保健福祉士法、倫理綱領について、実習に結びつけて理解 ・実習先を理解する ：実習が可能な施設・機関の紹介と説明（「実習の手引き」使用） ：事前学習として実習先を理解する意義と、どのような点について理解することが必要か説明	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる テキスト第 7 章（p 127～137）を熟読する。
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる。 実習可能な施設について確認する。
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 医療機関① 〈精神科病院／総合病院精神科／精神科診療所／精神科デイケア施設／アルコール専門病棟／認知症病棟〉	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 I、II（pp. 139～150）を熟読する。 テキスト第 8 章 IV（pp. 162～164）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 医療機関② 〈精神科病院／総合病院精神科／精神科診療所／精神科デイケア施設／アルコール専門病棟／認知症病棟〉	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 I、II（pp. 139～150）を熟読する。 テキスト第 8 章 IV（pp. 162～164）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 10 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：障害者総合支援法について ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設① 〈共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所〉	事前学習	障害者総合支援法についてまとめる。
		事後学習	授業を受けて、自分でまとめたものの中で足りない部分を補足する。
第 11 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設② 〈共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所〉	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する。 テキスト第 4 章 VII（pp. 87～95）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 12 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設③ 〈共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所〉	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する。 テキスト第 4 章 VII（pp. 87～95）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 13 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 行政① 〈精神保健福祉センター／保健所／市町村保健センター〉	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する。 テキスト第 4 章 VII（pp. 87～95）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 14 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 行政② 〈精神保健福祉センター／保健所／市町村保健センター〉 ：実習施設・機関の理解に対するまとめ	事前学習	グループで発表の準備をする。 テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する。 テキスト第 4 章 VII（pp. 87～95）を熟読する。
		事後学習	発表の内容をまとめる。
第 15 回	・学習のまとめ ・実習に向けて自己覚知を深める ：セルフアセスメントシートの実施 ・精神保健福祉援助実習指導 II に向けた課題	事前学習	精神保健福祉援助実習指導 I で学んだことをまとめる。
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導 II における課題を書きだす。

実習及び実習コンピテンスに関する流れ

授業後半	セルフアセスメントの実施
授業中盤～後半	実習コンピテンス（１）（２）問題配布

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (精保専攻) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3184
2. 授業担当教員	藤島 薫、鹿内 佐和子		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンステストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者 (スーパーバイザー) との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習コンピテンス確認テスト (1) 及び (2) の実施 (合格点に達するまで再テストを行う) 2 実習施設の概要、実習計画書の作成 3 ソーシャルワーク基礎実習振り返り 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー第8巻『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書2016年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業中に課されるレポート、実習の振り返りの内容、授業参加態度を総合的に判断する。</p> <p>尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は実習に直結している。この授業期間中に、初めて実習に行き、次の段階の実習に備えます。実習及び資格取得に対する動機を高め、より充実した実習体験を持てるよう、積極的な授業参加態度を期待する。</p>		
13. オフィスアワー	<p>後日通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 <p>: 実習までの流れの確認</p>	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る。 実習コンピテンス確認テストのための学習を行う。
		事後学習	実習に向けての自己の課題を書き出す。 実習コンピテンス確認テストのための学習を行う。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習コンピテンス確認テストⅠの実施 ・ソーシャルワーク基礎実習、実習プログラム (案) の作成 <p>: ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認 (「実習の手引き」使用)</p> <p>: 実習計画の意義と目的について説明</p>	事前学習	「実習の手引き」ソーシャルワーク実習についての項目に目を通す。 テキスト第3章V、3 (pp.63~65) を熟読する。
		事後学習	実習施設・機関の概要、ソーシャルワーク基礎実習プログラム (案) を作成する。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習、実習計画の作成 <p>: 自己の実習の意義、目的を再確認する</p> <p>: 実習計画書の記入と添削・確認</p>	事前学習	実習施設・機関の概要、ソーシャルワーク基礎実習プログラム (案) を作成する。
		事後学習	実習プログラム (案) について、添削された箇所を再度修正する。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 : スーパービジョンについて理解する : 巡回指導の目的と内容を理解する 	事前学習	テキスト第4章VI (pp.85~86) VIII (pp.89~95) を熟読する。
		事後学習	実習施設・機関の概要及び実習プログラム (案) 持参のうえ、実習施設訪問について実習指導者に相談する。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 <p>: 個人情報保護の理解</p> <p>: 実習中の記録等の取り扱いに関する具体的注意事項</p>	事前学習	テキスト第8章V (pp.165~167)、第4章VII (pp.87~95) を熟読する。 「実習の手引き」資料: 学生が行う現場実習における個人情報保護の手引きに目を通す。

		事後学習	個人のプライバシー保護と守秘義務について、実習生、利用者それぞれの視点から重要な点をまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の意義・書き方を理解する ：実習記録の書き方演習 ・自己評価表の理解 ：自己評価を行う意義と活用方法を理解する ：自己評価表の記入方法を理解する 	事前学習	テキスト第 8 章 V (p 165～167)
		事後学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する自己評価表の各項目の意味を再度確認する(不明点があれば、翌週確認する)。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ：実習記録の取り扱い等に関する説明 ・ソーシャルワーク基礎実習に向けての最終確認 ：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 	事前学習	実習先訪問の報告書を作成する。
		事後学習	テキスト、実習の手引きを振り返り、実習に備える。実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り ：グループにおけるディスカッション(実習中に感じたこと、困難だったこと、自己の課題等共有する) ：実習後の必要事項の確認(記録の提出、お礼状の郵送等) ：実習成果発表会について説明 	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習のまとめを記入実習先にお礼状を出す。
		事後学習	実習中に学んだこと、課題を学習ノートに書きだす。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り ：事後学習の意義を理解する ：ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ：ソーシャルワーク基礎実習に関する実習総括レポートを作成 ・実習後の自身の成長を把握する 	事前学習	テキスト第 5 章 (pp. 97～109) を熟読する。
		事後学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする。
第 10 回	実習の評価・総括(実習成果発表会)①	事前学習	実習総括レポートの作成
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる。
第 11 回	実習の評価・総括(実習成果発表会)②	事前学習	実習総括レポートの作成
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返りを援助実習につなげる ：基礎実習の課題を明確にし、援助実習における自己の実習目標を明確にする ・実習コンピテンス確認テストⅡの実施 	事前学習	援助実習における実習目標を書きだす。実習コンピテンス確認テストのための自己学習を行う。
		事後学習	実習の手引き、実習プログラムシートについて学んだことを振り返る。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・援助実習に関する理解 ：実習実施時期の確認 ：「実習プログラムシート」の理解(援助実習の目標の理解と目標を達成するための展開方法について) ・援助実習、実習プログラム(案)の作成 ：援助実習の課題を理解したうえで実習計画を作成する 	事前学習	実習の手引き、精神保健福祉援助実習の項目を熟読する。
		事後学習	実習プログラム(案)を作成する。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・援助実習、実習プログラム(案)の作成 ：実習プログラム(案)の作成、添削 	事前学習	実習計画を作成する。
		事後学習	添削を受けて実習プログラム(案)を再度作成する。実習プログラム(案)を持って実習先を訪問する。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ：援助実習に向けて、基礎実習での課題、その後の振り返りをまとめる 	事前学習	実習先訪問の報告書を作成する。
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅱで学んだことと今後の課題をまとめる。

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり
実習計画書作成のうえ、実習先訪問	5 月中	第 4 回～第 6 回授業あたりに学生個別に実施
巡回教員発表・教員への挨拶	5 月中旬～下旬	第 5 回～第 6 回あたりに発表。挨拶は学生個別に実施
SW 基礎実習	6 月第 1 週より開始	第 7 回～8 回あたりが基礎実習前最後の授業
実習コンピテンス確認テストⅠ・Ⅱの実施 セルフアセスメント 2 回目の実施	Ⅰ：授業開始時 Ⅱ：夏休み明け頃 セルフアセスメント ：夏休み前～明け頃	確認テストⅠ：第 2 回目の授業時に実施 ※「実習コンピテンス確認テストⅡの問題夏休み前に配布(夏休み中に予習する) 確認テストⅡ：夏休み明けの授業第 1 回目：第 11 回～第 12 回あたりに実施 セルフアセスメント 2 回目：夏休み前/明け頃の授業で実施

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ (編) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3185
2. 授業担当教員	藤島 薫	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、討論		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>尚、精神保健福祉援助実習指導Ⅲは、施設実習の事後学習、医療機関実習に向けての具体的準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、専門職が行う各種手続きについて明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、専門職が行う相談援助業務について明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、専門職間の連携について明確に説明できる。 5) 実習先での実践を振り返り、社会資源、関係機関との連携について明確に説明できる。 6) 実習先での実践を振り返り、相談援助過程のそれぞれの重要性や意義について理解し、個別支援計画を立案することができる。 7) 倫理綱領の重要性について、実習をもとに理解を深め、実践に基づく説明ができる。 8) 自己の価値観についてまとめ、それが援助にどのように反映するか考えをまとめられる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習コンピテンス確認テスト (2) の実施 (合格点に達するまで再テストを行う) 2 第一段階実習/施設実習総括レポート 3 第二段階実習/医療機関実習、実習施設の概要、実習計画 4 第二段階実習/医療機関実習 総括レポート 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】新 (改定) 版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業中に課されるレポート、実習の振り返りの内容、授業参加態度を総合的に判断する。</p> <p>尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は2年間通して行った実習体験の総まとめの授業であると同時に、2種類の実習の事後学習の場でもある。実習体験をより充実したものとできるかどうかは、本授業での学びが大きく関係する。このことを念頭に、積極的な授業参加態度を期待する。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途、連絡する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・本講義内容、進め方の説明 ・施設実習の振り返り ：担当した事例についての報告と意見交換 ：自己の成長を把握する、セルフアセスメントシートの実施 	事前学習	施設実習のまとめを記入する
		事後学習	ディスカッションを終えて、自己の実習に対する考察をまとめる
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習について理解する ：事後学習の意義を理解する ：実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ：ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める (自己の価値観が実習中利用者とのかかわりにおいてどのように反映したか考えをまとめる) ・実習成果発表会について説明 	事前学習	テキスト第5章 (p97～109) を熟読する
		事後学習	事後学習について学んだことをまとめる
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉専門職についての理解 ：実習施設・機関で行われる各種手続きについてまとめる ：実習施設・機関で行われる相談援助業務についてまとめる ・連携についての理解 実習施設・機関と社会資源、関係機関との連携についてま 	事前学習	実習中で体験した各種制度の手続き、相談援助業務、連携について書き出す
		事後学習	授業を通して、自分の体験を振り返り、まとめる

	とめる		
第 4 回	・実習の評価・総括（実習成果発表会）	事前学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる
第 5 回	・精神科医療機関のワーカーとして必要となる諸制度の知識を確認する ：入院制度、保険制度、診療報酬等 ・社会復帰施設のワーカーとして必要となる諸制度の知識を確認する ：総合支援法、雇用促進法等 ・実習コンピテンス確認テスト（2）の実施	事前学習	精神保健福祉法、その他関連法を確認する 実習コンピテンス確認テスト（2）の実施に向けて自己学習を行う
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第 6 回	・第二段階実習／施設実習に向けての準備 ：施設実習及び本授業を振り返り実習における課題を明確化する ：医療機関実習における実習課題を理解する ：個人調書の準備 ：配属先に関する情報収集 ・施設実習に向けての準備 ：実習施設概要の作成 ：実習プログラム（案）の作成	事前学習	各自自分の該当する実習について『実習の手引きを確認する』
		事後学習	個人調書を作成する
第 7 回	・実習に向けての準備 ：実習施設概要の作成 ：実習プログラム（案）の作成 ・事前訪問（見学実習）に向けた準備 ：事前訪問（見学実習）の目的と意義の再確認 ：実習プログラム（案）（スーパーバイザーと協議したい点を明確化する） ：基本的態度と訪問時の注意事項の再確認 ・見学実習の総括 ：実習計画に関するスーパーバイザーとの協議事項の確認とそれを踏まえての計画書の完成	事前学習	配属実習先についてホームページ等を用いて情報を収集する
		事後学習	実習施設の概要、実習プログラム（案）を作成する 各自見学実習の日程を調整する
第 8 回	・事前訪問の総括 ：事前訪問を終えて再度実習計画を見直す ：実習までの課題を確認する	事前学習	見学実習報告書の作成 実習プログラム（案）の見直し
		事後学習	実習までの課題を書き出す
第 9 回	・医療機関での精神保健福祉士の役割を理解する（社会福祉専門職についての理解） ：医療機関で行われる各種手続き、相談援助業務、連携の在り方について学ぶ	事前学習	医療機関における PSW の業務を書き出す テキスト第 8 章 IV（p 162～164）を熟読する
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第 10 回	・倫理綱領を学ぶ ：ワーカーとしての葛藤を考える	事前学習	倫理綱領に目を通す テキスト第 8 章 V（p 165～167）を熟読する
		事後学習	実習で抱え得る葛藤について考える
第 11 回	・実習に向けての最終確認 ：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・実習後の実習成果発表会について説明	事前学習	実習までに確認したいことを書きだす
		事後学習	テキスト、実習の手引きを振り返り、実習に備える 実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う
第 12 回	・実習の振り返り ：事後学習の意義を理解する ：グループにおけるディスカッション（実習中に感じたこと、困難だったこと、自己の課題等共有する） ：実習後の必要事項の確認（記録の提出、お礼状の郵送等） ：実習に関する実習総括レポートを作成	事前学習	実習のまとめを記入 実習先にお礼状を出す テキスト第 5 章（p. 97～109）を熟読する
		事後学習	実習総括レポートを作成する
第 13 回	・実習の振り返り（社会福祉専門職についての理解） ：実習先で行われる各種手続きについてまとめる ：実習先で行われる相談援助業務についてまとめる ・実習の振り返り（連携についての理解） ：実習先における各部門職種とその機能・関係についてまとめる ：実習先と社会資源、関係機関との連携についてまとめる	事前学習	実習中に体験した各種手続き、相談援助業務、連携について書き出す。
		事後学習	学んだ内容をまとめる
第 14 回	・実習の評価・総括（実習成果発表会）	事前学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる

平成 28 年度

第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り（ソーシャルワーカーの倫理綱領と自己覚知） ：倫理綱領をもとに実習先での専門職の実践についてまとめる ：自分の価値観が実習中のクライアントとのかかわりに及ぼした影響についてまとめる ・実習指導Ⅰ～Ⅲの総まとめ ：実習指導及び実習を通しての学び、自己の成長、今後の課題を振り返る 	事前学習	実習中に体験した倫理的葛藤についてまとめる
		事後学習	授業を通して考察したこと、自分に対する気づきについて書き出す

実習及び実習コンピテンス関連の流れ

セルフアセスメントシートの活用	授業初期
第一段階実習の実施	6月学外授業期間 / 夏季休講期間
第一段階実習の振り返り ：実習報告集の作成	第一段階実習後
第二段階実習先発表	6～7月
第二段階実習の実施	夏季休講期間
事後学習：実習報告集の作成	第二段階実習後（夏季休講期間明け）

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。この講義では、過去問題の演習を繰り返して行います。その中で、試験に合格するための知識を記憶に定着させて下さい。		
8. 学習目標	精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。 (I)問題の総得点の6割程度以上の点数の得点があること。 (II)受験で課されるすべての科目において得点があること (一科目でも0点を取ると不合格となる) これらの基準を満たすために、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストはあなた方の学習の形成的評価となるものですから、確実に得点ができるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを2度と繰り返さないようにしましょう。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	・各授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。 ・定期試験(共通科目・専門科目)では、実際の本番の試験の合格基準に従って、 ①全体の60%以上の得点がある ②全ての科目で得点が見られる(0点科目がない)ことを課題とします。 (不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業内配布テキスト、『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】『見て覚える！社会福祉士国試ナビ2017』中央法規。		
11. 成績評価の方法	各授業の最後に行う確認テスト 50% 定期試験(共通科目・専門科目) 50% 30コマ中、8回以上欠席した場合は、単位修得できません。 10分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。		
12. 受講生へのメッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題」をどれだけ自分のものとして理解し暗記できているかによって決まります。本講義を受講する学生は、本番の試験と同様に1問1問真剣に取り組んで下さい。 (授業進行は変更することがあります)		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス(試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる 教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第2回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第3回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第4回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第5回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第6回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第7回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第8回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第9回	【福祉行政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第10回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第11回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習

	(「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童福祉法(障害児支援関係)」「障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)」について)	事後学習	確認テストの復習
第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 (「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 (「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 (「相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。)との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期(共通科目)			
第 1 6 回	【精神疾患とその治療①】 (「精神疾患総論」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【精神疾患とその治療②】 (「精神疾患の治療」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【精神保健の課題と支援①】 (「精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 9 回	【精神保健の課題と支援②】 (「精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割」「精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題」「精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 0 回	【精神保健福祉相談援助の基盤①】 (「精神保健福祉士の役割と意義」「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の概念と範囲」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【精神保健福祉相談援助の基盤②】 (「相談援助の理念」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「相談援助に係わる専門職の概念と範囲」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 2 回	【精神保健福祉相談援助の基盤③】 (精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲)「精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 3 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開①】 (「精神保健医療福祉の歴史と動向」「精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 4 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開②】 (「医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割」「相談援助の過程及び対象者との援助関係」「相談援助のための面接技術」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開③】 (「相談援助活動の展開」「家族調整・支援の実際と事例分析」「地域移行・地域定着支援の対象及び支援体制」「地域を基盤にした相談援助の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 6 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開④】 (「地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方」「精神障害者のケアマネジメント」「地域を基盤にした支援とネットワーク」「地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス①】 (「精神保健福祉法の意義と内容」「精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス」「精神障害者に関連する社会保障制度の概要」「相談援助に係わる組織、団体、関係	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習

	機関及び専門職や地域住民との協議)について)		
第 28 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス②】 (「更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係」「更生保護制度における関係機関や団体との連携」「医療観察法の概要」「医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割」「社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用)について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 29 回	【精神障害者の生活支援システム】 (「精神障害者の生活の実際」「精神障害者の生活と人権」「精神障害者の居住支援」「精神障害者の就労支援」「市町村における相談援助)について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 30 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期 (専門科目)			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECD4225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し、精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。すでに履修している精神保健福祉士養成演習Ⅰにおける学習を基盤として、この講義ではより実践的な演習を行っていきます。今まで学んできた学習内容を、出題が多く見られる分野を中心に徹底した問題演習を行っていきます。試験に合格するために必要となる知識を確実に記憶に定着させるとともに、近年の出題傾向を把握した上で、新しい問題にも対応できる実力を身につけられる講義を行います。</p> <p>また、全国統一模擬試験を受験することで試験の雰囲気になれるとともに、解答した問題については、その後の授業の中でも振り返りをしていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ)問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ)受験で課されるすべての科目において得点があること (一科目でも0点を取ると不合格となる)。</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を満遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。特にこの養成演習Ⅱの授業では、実際の出題実績の多い最頻出分野の問題から繰り返し解いていく作業を中心とします。各授業の最後に行う確認テストは、皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に全問が正解できることを目標とするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直すことで、同じ間違いを二度と繰り返さないことが重要です。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・各授業の最後には、予め配付する「一問一答」の中から関連する項目の確認テストを行います。満点が取れるまで予習復習を繰り返して下さい。</p> <p>・期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目編)・Ⅱ (専門科目編)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>① 全体の60%以上の得点が見られる。</p> <p>② 全ての科目で得点が見られる (0点科目がない) ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】(3年の養成演習Ⅰの時に購入した問題集を使用します。3年次に養成演習Ⅰを履修していなかった者は、事前に購入して授業に臨むこと。『2016 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規))</p> <p>「大学作成の授業内配付テキスト」</p> <p>『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』(中央法規)</p> <p>【参考書】『精神保健福祉士受験ワークブック 専門科目編 2017』(中央法規)</p> <p>『2017 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規)</p> <p>『精神保健福祉士国家試験模擬問題集<専門科目>2017』(中央法規)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目編)・Ⅱ (専門科目編)」と12月に実施する校内模試 50%</p> <p>60 コマ中、16 コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する(春学期のみ)。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家試験へ合格するためには、徹底した「過去問題」の理解・暗記が欠かせません。試験本番まで1年を切った本年度は、より実践的な演習を行っていきます。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという強い決意をもって、一問一問真剣に取り組むようにして下さい。</p> <p>授業内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業開始時に提示します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (春期) (試験の概要・傾向等) 【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく。
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第2回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第3回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第4回	【福祉行財政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第5回	実力確認テストⅠ (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までの授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習
第6回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習

		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 7 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 8 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 9 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行財政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】【地域福祉の理論と方法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験（実力確認テストⅡ）（専門科目）			
第 16 回	ガイダンス（秋期） 事例問題の演習①（相談援助関連）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解（共通科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解（専門科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解①（共通科目） （人体・心理学）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解①（共通科目） （社会理論・現代社会）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解②（共通科目） （地域福祉）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解①（共通科目） （社会保障・低所得者）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解②（共通科目） （障害者・権利擁護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③（共通科目） （行財政・保健医療）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	利用者を理解する科目の徹底理解②（専門科目） （精神疾患・精神保健）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	精神保健福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解 （専門科目）（基盤・理論と展開）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	社会保障を理解する科目の徹底理解④（専門科目） （制度とサービス・生活支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 28 回	事例問題の演習②（基盤・制度とサービス・生活支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	精神保健医療福祉の最近の動向の理解（時事問題）	事前学習	配付資料を事前によく読んでくる
		事後学習	福祉に関する時事問題をしっかりと把握する
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	（国家試験の問題冊子を持参する）
		事後学習	（最後まで、合格を信じること！）

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	SCMP3129 PSMP3429
2. 授業担当教員	大山 勉、小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、課題の発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	障害者福祉の歴史、理念と意義、障害の概念、障害福祉施策についての学習を基礎とし、精神障害者に対する処遇の歴史を踏まえ、精神保健福祉の理念と意義、精神障害者の人権、精神保健福祉法制、精神保健福祉施策の現状と課題について学習する。また、精神保健福祉業務を担う精神保健福祉士の理念と意義、対象、専門性、および精神障害者に対する相談援助について学習する。		
8. 学習目標	以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 障害者福祉の理念と意義、障害の概念、障害者福祉施策について理解する。 2. 精神障害者の人権について理解する。 3. 精神保健福祉士の理念と意義、対象について理解する。 4. 精神障害者に対する相談援助活動について理解する。 5. 精神保健福祉法等、精神障害者に関する法律の意義と内容について理解する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	割り当てられた範囲について調査及びディスカッションを行い、レポート等を作成・提出及び発表をする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『新版 精神保健福祉士養成セミナー 第6巻 精神障害者の生活支援—制度・システムとサービス』へるす出版 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知する。		
11. 成績評価の方法	授業への参加度 (授業態度など) ...30% 課題提出・発表...30% テスト...40% (事前に範囲・形式を予告する。)		
12. 受講生へのメッセージ	初回授業で受講ルールの詳細を説明する。したがって受講希望者は必ず第1回の授業に出席すること。 精神保健福祉論Ⅰに続く講義であり、受講生諸君が「精神障害がある人たちへの支援が如何にあるべきか」という課題について考察を深めることを期待する。		
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1・2回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読。
		事後学習	精神保健福祉士の倫理について求める。
第3・4回	障害者自立支援法とその動向	事前学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法とその動向について調べる。
		事後学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第5・6回	新たな障害保健福祉施策の検討 障害者総合福祉法への道	事前学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討について調べる。
		事後学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第7・8回	今後の精神保健福祉医療の課題と検討	事前学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討について調べる。
		事後学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第9・10回	精神保健福祉に関する行政組織	事前学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織について調べる。
		事後学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第11・12回	医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景 医療観察法の概要および目的 精神保健福祉士と医療観察制度 医療観察法の今後の課題と期待	事前学習	教科書 pp.77～88 を読み、医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景について調べる。
		事後学習	教科書 pp.77～88 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第13・14回	更生保護制度の概要 司法・医療・福祉の連携 司法・医療・福祉の連携	事前学習	教科書 pp.88～96 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.88～96 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。

第 15・16 回	医療保険制度・健康保険の概要と医療保険給付の状況 介護保険制度・給付の概要	事前学習	教科書 pp.97～112 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.97～112 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 17・18 回	労働者災害補償制度・障害年金制度・公的扶助について 経済負担の軽減と精神障害者、経済負担の軽減措置	事前学習	教科書 pp.113～133 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.97～133 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 19・20 回	精神障害者の生活実態 ・障害の捉え方—医学モデルから社会モデルへ ・障害者の実態把握の難しさ ・自治体のアンケート調査から	事前学習	教科書 pp.113～142 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 113～142 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 21・22 回	精神障害者の生活実態 ・家族の調査から見えてくること ・精神障害者自身の経験から ・実態から政策提言へ	事前学習	教科書 pp.142～148 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.142～148 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 23・24 回	精神障害者の居住支援	事前学習	教科書 pp.148～153 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 148～153 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 25・26 回	精神障害者と雇用・就労	事前学習	教科書 pp.153～166 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 153～166 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 27・28 回	精神障害者の生活支援システム	事前学習	教科書 pp.166～175 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 166～175 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 29・30 回	まとめ	事前学習	テキスト・配布資料等を見直し、理解不足な点を明らかにしておく。
		事後学習	これまでの学習内容における不明点が克服されたか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生物学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1322 GELA1343
2. 授業担当教員	多比良 和誠		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本授業では、①地球上に初めて誕生した生物はどのような生命体であったのか、②生物はどのように進化してきたのか、③現存する生物は環境に対してどのように適応しているのか、④生物の構成単位である細胞の核には、どのようなものがあるのか、⑤染色体や遺伝子の働きは何か、⑥ホメオスタシス (恒常性) を維持するために、神経やホルモンはどのように働いているのか、⑦発生はどのように進んでいくのか、⑧炭酸同化作用の意義はどのようなところにあるのか、⑨細胞の老化は何故起こるのか、⑩老化を抑制して健康的に長生きするためにはどうすればよいのかなどについて、資料やワークシートを用い、ディスカッションや発表などを取り入れながら、双方向対話型の授業を行っていく。</p>		
8. 学習目標	<p>本講義では、①生物の体内の仕組みや働きに興味や関心を持つこと、②生物学的な知識を幅広く持つようになること、③命の大切さを十分に理解できるようになること、を学習目標としている。また、これらの学習目標の達成が、保育、教育、福祉、心理などの専門科目への橋渡しにすることを達成目標とし、本講義で学んだことを社会へ出てからも様々な分野で応用できるようになることを究極の目標とする。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：本授業に参加して興味を持ったことについて、自分でテーマを決めて、1,000字程度で論述してもらう。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 木下勉・小林秀明・浅賀宏昭・著『ZERO からの生命科学 (改訂 4 版)』南山堂</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房 東京大学生命科学教科書編集委員会編『文系のための・生命科学』羊土社</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、毎週の口頭試問テスト、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1 授業への積極的参加度 総合点の 20%</p> <p>2 受講態度 総合点の 15%</p> <p>3 毎週の確認テスト 総合点の 25%</p> <p>4 課題レポート 総合点の 40%</p> <p>期末試験は実施しないので、各授業での「確認テスト」が重要になる。欠席すると、「確認テスト」が受けられないだけでなく「授業への積極的参加」の評価が低くなる。 なお、4分の3以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業を通じて、生物に関心を持っていただきたい。また、地球上に誕生した緑色植物の存在意義が大きいことや、我々が引き起こした人工的な環境破壊によって、地球の環境が多くの生物にとって危機的状況になっていることを理解してほしい。さらには、細胞の老化に関する知識を超高齢社会で応用できるようになっていただければ幸いである。</p>		
13. オフィスアワー	<p>時間：授業がある日の昼休みと放課後 場所：王子キャンパス 管理・研究棟 3 階の 2 号室</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方など) 生命とは (生命の誕生と生命の最小機能単位)	事前学習	学んだことをまとめるノートと教科書を準備して、講義へ臨むこと。教科書 (pp. 1~14) の予習。
		事後学習	教科書 (pp. 1~14) の要点と生命がどのように誕生したのかについてまとめる。
第 2 回	生命の基本構造 (細胞の構造と機能)	事前学習	教科書 2 章 (pp. 15~25) の予習。
		事後学習	教科書 2 章 (pp. 15~25) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 3 回	多細胞動物の体 (組織・器官から器官形成の機能まで)	事前学習	教科書 3 章 (pp. 27~49) の予習。
		事後学習	教科書 3 章 (pp. 27~49) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 4 回	生命を構成している物質 (アミノ酸・タンパク質、糖質、脂質、核酸・遺伝子)	事前学習	教科書 4 章 (pp. 51~77) の予習。
		事後学習	教科書 4 章 (pp. 51~77) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 5 回	遺伝子に関する DVD 鑑賞 (女と男の X, Y 遺伝子)	事前学習	これまでの『遺伝子』に関する復習。
		事後学習	DVD の内容をまとめる。
第 6 回	体内における物質代謝 (酵素反応による代謝)	事前学習	教科書 5 章 (pp. 79~100) の予習。
		事後学習	教科書 5 章 (pp. 79~100) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 7 回	生命の設計図 (ヒトの遺伝子解明、ABO 式血液型など)	事前学習	教科書 6 章 (pp. 101~122) の予習。
		事後学習	教科書 6 章 (pp. 101~122) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 8 回	遺伝子の複製と発現 (遺伝暗号を用いたタンパク質合成)	事前学習	教科書 6 章 (pp. 123~146) の予習。
		事後学習	教科書 6 章 (pp. 123~146) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 9 回	ホメオスタシス (恒常性を維持するための神経やホルモ	事前学習	教科書 7 章 (pp. 147~161) の予習。

	ンの働き)	事後学習	教科書 7 章 (pp.147~161) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 10 回	生体の防御・免疫系と疾患 (免疫応答のしくみ)	事前学習	教科書 8 章 (pp.163~172) の予習。
		事後学習	教科書 8 章 (pp.163~172) の要点を学習用ノートにまとめる。
第 11 回	教科書の復習 (全体の要点をまとめる)	事前学習	教科書全体の復習。
		事後学習	教科書全体の要点を学習用ノートにまとめる。
第 12 回	生命に関する DVD 鑑賞	事前学習	教科書全体の復習。
		事後学習	DVD の内容をまとめる。
第 13 回	遺伝子・環境問題に関するパワーポイント講義 (最新情報)	事前学習	これまでの教科書や配布資料の復習。
		事後学習	期末レポートのアウトラインの作成。
第 14 回	期末レポートのアウトラインの作成・下書き	事前学習	期末レポートのアウトラインの作成。
		事後学習	期末レポートのアウトラインの下書き。
第 15 回	期末レポートの清書・提出 授業評価	事前学習	期末レポートの最終チェック。
		事後学習	清書した期末レポートの提出。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生理学 (4 単位)	3. 科目番号	GELA2322
2. 授業担当教員	清水 信好		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表。生理学に関する簡単な実験。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	医療分野の多極化がすすみ、数多くの co-medical の新しい職種が誕生している。人体に関係のある仕事に携わる人々にとって人体生理学は大変大切である。職場の労働者の健康管理や快適な職場環境づくりを行うための衛生管理者にとって、この生理学は欠かすことのできない科目であるが、難解な科目でもある。しかし、まず、人体の全般にわたって理解を深め、その上で、専門的な知識を習得していくことが大切である。本科目では、人体各部の組織、器官・器官系それぞれの生理機能を理解し、それらが統合された個体としての人体活動について、疾病とも関連させて学ぶ。		
8. 学習目標	学生には下記について学び、説明できるようになることが期待される。 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を確認する。 2. 生体内の諸組織・器官の機能について学ぶ。 3. 生体内の諸組織・器官の神経系による調節について学ぶ。 4. 生体内の諸組織・器官の内分泌系による調節について学ぶ。 5. 神経系・免疫系・自律神経系を介する生体防御について学ぶ。 6. 生体機能を健康的に維持する方法について学ぶ。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業で学んだ内容をミニレポートにまとめ、終了時に提出する。 2. レポート課題：指定する設題に対し、生理機能をわかりやすく具体的にまとめる		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 照井直人著『これならわかる！生理学』ナツメ社。 【参考書】 田中越郎著『好きになる生理学』講談社。 松村譲児ほか『人間 いのちの歴史』小学館。 岡田隆夫『基礎からわかる生理学』ナツメ社。 随時プリントを配布		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 40% 期末試験 30% 課題レポート、提出物等 30% 総計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 本授業を通じ、自らの健康行動を実践するようにしてください。 2. ミニレポートは、授業の内容・要点について掘り下げたものを求めます。 3. 事前学習、事後学習を充分に行ってください。 4. 講義だけでなく、視聴覚、グループワークを行います。真剣に臨んでください。 5. 欠席遅刻はしないこと。成績評価に大いに反映させます。 6. 居眠り、私語、明らかな不適切授業態度には厳格に対処します。		
13. オフィスアワー	別途連絡します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 生理学とは	事前学習	生理学とは何かについて概要をまとめてくる
		事後学習	人のからだの仕組みについて概要をまとめる
第 2 回	進化と適応 人類の誕生 身体各部の名称と位置及び働きの概要	事前学習	人類の進化の歴史について把握して授業に臨む
		事後学習	適応⇒進化⇒種の保存をミニレポート・提出
第 3 回	生命の誕生 1 生殖	事前学習	教科書 pp. 248～258 理解しておく
		事後学習	生命の誕生についてのミニレポートの作成
第 4 回	生命の誕生 2 胎盤 (哺乳類)	事前学習	教科書 pp. 248～258 を理解しておく
		事後学習	ヒトの身体の素晴らしさ (哺乳類) をまとめる
第 5 回	循環 1 体液 循環系の仕組み	事前学習	教科書 pp. 104～109、120～127 をまとめてくる
		事後学習	循環系の仕組みについてミニレポートにまとめる
第 6 回	循環 2 心臓の構造と機能	事前学習	教科書 pp. 104～109、120～127 を理解しておく
		事後学習	心臓の働きについてミニレポートにまとめる
第 7 回	循環 3 循環としてのリンパ、	事前学習	リンパの働きについて理解しておく
		事後学習	ミニレポートの作成
第 8 回	ここまでのまとめ 発汗と体液の移動 確認テスト	事前学習	発汗の意味について理解しておく
		事後学習	確認テストの実施
第 9 回	エネルギーの取り込み 消化 1 消化のしくみ	事前学習	教科書 pp. 34～41 を理解しておく
		事後学習	消化に関するミニレポートの作成
第 10 回	エネルギーの取り込み 消化 2 消化 吸収	事前学習	教科書 pp. 49～60 を理解しておく
		事後学習	消化管に関するミニレポートの作成
第 11 回	エネルギーの取り込み 消化 3	事前学習	肝臓、すい臓の働きについてまとめる

	消化腺	事後学習	肝臓、すい臓のミニレポートの作成
第 1 2 回	不要物の廃棄 1 泌尿器概要	事前学習	泌尿器の役割と働きについてまとめる
		事後学習	泌尿器の役割についてミニレポートを作成
第 1 3 回	不要物の廃棄 2 腎臓	事前学習	腎臓の働きについてまとめる
		事後学習	泌尿器に関するミニレポートの作成
第 1 4 回	行動を起こす 1 筋・骨	事前学習	筋・骨の種類とメカニズムについて理解する
		事後学習	筋・骨に関するミニレポートの作成
第 1 5 回	行動を起こす 2 運動器の連携	事前学習	運動器とは何かについてまとめる
		事後学習	「運動器の連携」についてミニレポートを作成
第 1 6 回	生体の防御 1 免疫 その 1	事前学習	免疫とは何かについて調べてくる
		事後学習	身体の構造・機能と免疫の関係性についてミニレポート作成する
第 1 7 回	生体の防御 2 免疫 その 2	事前学習	抗原抗体反応について理解してくる
		事後学習	生命を守る免疫機能についてミニレポート作成
第 1 8 回	呼吸 肺の構造と仕組み	事前学習	教科書 pp. 62～75 を理解しておく
		事後学習	呼吸機能の仕組みについてミニレポートを作成
第 1 9 回	ここまでのまとめの確認テスト	事前学習	循環、消化、泌尿器、呼吸、免疫についてまとめる
		事後学習	確認テストの実施
第 2 0 回	ホルモン 内分泌器官と働き	事前学習	ホルモンの概要と働きについて理解してくる
		事後学習	授業内容の結果を整理しまとめる
第 2 1 回	自律神経系 交感神経と副交感神経	事前学習	人体の恒常性はどのように保たれているのか
		事後学習	自律神経に関するミニレポートの作成
第 2 2 回	情報をコントロールする 1 神経系とは	事前学習	ヒトの情報通信の仕組みについて理解する
		事後学習	神経組織の概要と働きをミニレポートする
第 2 3 回	情報をコントロールする 2 骨格筋：筋収縮の機序、運動の神経支配	事前学習	教科書 pp. 176～181 を理解しておく
		事後学習	本授業に関するミニレポートの作成
第 2 4 回	情報をコントロールする 3 脳の仕組みと働き	事前学習	脳の構造と働きについてまとめる
		事後学習	脳の仕組みをミニレポートする
第 2 5 回	情報をコントロールする 4 神秘的脳	事前学習	脳の錯覚について調べてくる
		事後学習	中枢神経の役割についてミニレポートを作成
第 2 6 回	情報を受容する 1 感覚（聴覚、平衡感覚）	事前学習	教科書 pp. 220～229 を理解しておく
		事後学習	聴覚、平衡感覚に関するミニレポートを作成
第 2 7 回	情報を受容する 2 感覚（視覚、味覚、嗅覚）	事前学習	教科書 pp. 210～219 を理解しておく
		事後学習	視覚、味覚、嗅覚に関するミニレポートを作成
第 2 8 回	栄養とからだ 1 栄養素とからだ	事前学習	飲食物とからだの健康について調べる
		事後学習	本日の授業内容の結果を整理しミニレポート
第 2 9 回	栄養とからだ 2 肥満とるい瘦のメカニズム	事前学習	肥満のメカニズムについて調べてくる
		事後学習	エネルギー出納についてミニレポート作成
第 3 0 回	睡眠とからだ 睡眠の意義 種類	事前学習	睡眠と健康との関係性について調べる
		事後学習	睡眠を通じて、ヒトの身体の仕組みを理解する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)	3. 科目番号	SCMP2355
2. 授業担当教員	佐久山 敏之		SBMP2155
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の役割 (総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む) と意義について理解し説明できる。 ・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助の理念について理解し、説明できる。 ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題 (1600 字以上)</p> <p>1) 「相談援助の形成過程について説明しなさい。」</p> <p>2) 「ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質について述べなさい」</p> <p>提出期限等については、初回講義時において指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。</p> <p>【参考書】</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p> <p>東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。</p> <p>東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>①授業の積極的参加度と参加態度 40%</p> <p>②筆記試験 30% レポート 30%</p> <p>③本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業中はつねに集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。</p> <p>1. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。</p> <p>2. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。</p> <p>レポートの提出日を厳守すること。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義の概要、シラバス・試験についての説明等)	事前学習	事前にシラバスに目を通してくる。
		事後学習	オリエンテーションの内容をまとめる。
第 2 回	「社会福祉士の役割と意義」 (社会福祉士法及び介護福祉士法における位置づけ、名称独占、社会福祉士の専門性と独立性等)	事前学習	テキスト pp. 2～6 を熟読しておく。
		事後学習	社会福祉士の位置づけ、名称独占の意義、業務内容等をまとめる。
第 3 回	「現代社会と地域生活」	事前学習	テキスト pp. 7～17 を熟読しておく。
		事後学習	地域生活におけるソーシャルワーカーの役割、ソーシャルワーク実践の意義についてまとめる。
第 4 回	事例 (グループディスカッション)	事前学習	テキスト pp. 7～17 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 5 回	「相談援助の定義と構成要素」 ① (国際ソーシャルワーカー連盟の定義等)	事前学習	テキスト pp. 20～28 を熟読しておく。
		事後学習	国際ソーシャルワーカー連盟の定義の内容をまとめる。
第 6 回	「相談援助の定義と構成要素」 ② (クライアントシステムとニーズ、知識、スキル)	事前学習	テキスト pp. 29～40 を熟読しておく。
		事後学習	具体例を使いながらソーシャルワークの構成要素をまとめる。
第 7 回	「相談援助の定義と構成要素」 ③ (ソーシャルワーカーの知識・スキル、社会資源)	事前学習	テキスト pp. 29～40 を熟読しておく。
		事後学習	具体例を使いながらソーシャルワークの構成要素をまとめる。
第 8 回	事例 (グループディスカッション)	事前学習	配布資料を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 9 回	「相談援助の形成過程」 ① (ソーシャルワークの源流、基礎確立期～1930 年代)	事前学習	テキスト pp. 44～59 を熟読しておく。
		事後学習	エリザベス救貧法、社会調査、COS、セツルメント運動、YMCA、リッチモンドのケースワーク、ジェネリック・ソーシャル・ケースワーク等についてまとめる。
第 10 回	「相談援助の形成過程」 ② (ソーシャルワークの発展期、1940 年代～1950 年代半ば)	事前学習	テキスト pp. 62～68 を熟読しておく。
		事後学習	診断主義と機能主義、グループワークの形成等についてまとめる。

第 1 1 回	「相談援助の形成過程」③ (ソーシャルワークの展開期、1950 年代半ば～1960 年代以降)	事前学習	テキスト pp.69～76 を熟読しておく。
		事後学習	問題解決アプローチ、医学モデルと生活モデル等についてまとめる。
第 1 2 回	「相談援助の形成過程」④ (ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク)	事前学習	テキスト pp.77～82 を熟読しておく。
		事後学習	ジェネラリスト・ソーシャルワークについてまとめる。
第 1 3 回	「相談援助の理念」①(ソーシャルワーク実践と権利擁護)	事前学習	テキスト pp.84～103 を熟読しておく。
		事後学習	ソーシャルワークの価値、権利擁護の意義についてまとめる
第 1 4 回	事例 (グループディスカッション)	事前学習	テキスト pp.84～103 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 1 5 回	「相談援助の理念」②(自己決定と自己実現、自立支援、エンパワメントとストレングスアプローチ)	事前学習	テキスト pp.106～112 を熟読しておく。
		事後学習	自立支援の意義、エンパワメントとストレングスの概念をまとめる。
第 1 6 回	事例 (グループディスカッション)	事前学習	テキスト pp.106～112 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 1 7 回	「相談援助の理念」③(ノーマライゼーションと社会的包摂)	事前学習	テキスト pp.113～118 を熟読しておく。
		事後学習	ノーマライゼーションと社会的包摂の実践的な意味をまとめる。
第 1 8 回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」① (倫理綱領の意義、日本社会福祉士会倫理綱領及び行動規範、倫理に反するソーシャルワーク実践)	事前学習	テキスト pp.120～140 を熟読しておく。
		事後学習	倫理綱領の内容をまとめる。ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマの意義、内容をまとめる。
第 1 9 回	事例 (グループディスカッション)	事前学習	テキスト pp.120～140 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 2 0 回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」① (総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景、ソーシャルワークの基本的視座)	事前学習	テキスト pp.142～152 を熟読しておく。
		事後学習	総合的かつ包括的な相談援助の概念・歴史的背景と近時の動向をまとめる。
第 2 1 回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」③ (地域を基盤にしたソーシャルワークの八つの機能と事例)	事前学習	テキスト pp.153～155 を熟読しておく。
		事後学習	事例を通じて 8 つの機能をまとめる。
第 2 2 回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」① (ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と特質)	事前学習	テキスト pp.156～167 を熟読しておく。
		事後学習	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と特質をまとめる。
第 2 3 回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」② (システム思考とエコシステム等)	事前学習	テキスト pp.156～167 を熟読しておく。
		事後学習	システムの意義、システム理論の内容、エコシステムの内容をまとめる。
第 2 4 回	事例 (グループディスカッション)	事前学習	配付資料を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 2 5 回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」(相談援助専門職の概念・範囲)	事前学習	テキスト pp.170～188 を熟読しておく。
		事後学習	相談援助専門職の概念・範囲をまとめる。独立型社会福祉士の意義についてまとめる。
第 2 6 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」① (予防機能 事例検討・グループディスカッション 孤独死の予防)	事前学習	テキスト pp.190～200 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 2 7 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」② (新しいニーズへの対応 事例検討・グループディスカッション 外国籍住民への支援)	事前学習	テキスト pp.201～212 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 2 8 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」③ (総合的支援機能 事例検討・グループディスカッション スクールソーシャルワーカーによる総合的支援)	事前学習	テキスト pp.213～221 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 2 9 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」④ (相談援助における権利擁護の概念と範囲 事例検討・グループディスカッション 知的障害者施設における権利擁護の実践)	事前学習	テキスト pp.222～231 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 3 0 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」⑤ (社会資源開発機能 事例検討・グループディスカッション 社会福祉協議会による社会資源開発)、まとめ	事前学習	テキスト pp.232～237 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)		3. 科目番号	SSMP2155
2. 授業担当教員	水島 正浩			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。			
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の役割 (総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む) と意義について理解し説明できる。 ・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助の理念について理解し、説明できる。 ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の理解度をみる課題を授業内で複数回行う。 ＊その他授業の進行状況に応じて指示します。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 (まとめ) 60%</p> <p>授業への積極的参加態度 40%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>ソーシャルワーク I はこれから社会福祉士・社会福祉の専門職になるために必要な理論習得の基礎となる科目です。そのため、授業への出席、熱意ある参加、ディスカッション・作業、レポート作成などへの積極的な取組みを望みます。授業の進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合があります。</p>			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業内容と進め方について	事前学習	教科書の「はじめに」を読み、学習内容の全体的なイメージをつかんでおく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 2 回	第 1 章 社会福祉士の役割と意義	事前学習	教科書の第 1 章 (pp. 1~17) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 3 回	第 2 章 相談援助の定義と構成要素①	事前学習	教科書の第 2 章 (pp. 19~41) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 4 回	第 2 章 相談援助の定義と構成要素②	事前学習	教科書の第 2 章 (pp. 19~41) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 5 回	第 5・6 章 相談援助の理念 I II ①	事前学習	教科書の第 5/6 章 (pp. 83~118) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 6 回	第 5・6 章 相談援助の理念 I II ②	事前学習	教科書の第 5/6 章 (pp. 83~118) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 7 回	第 7 章 専門職倫理と倫理的ジレンマ①	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 119~140) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 8 回	第 7 章 専門職倫理と倫理的ジレンマ②	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 119~140) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 9 回	第 7 章 専門職倫理と倫理的ジレンマ③	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 119~140) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。	
第 10 回	中間まとめ 1 (課題①作成)	事前学習	教科書の第 1/2/5/6/7 章を読み、重要な点の再確認をしておく。	
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。	
第 11 回	第 3 章 相談援助の形成過程 I ①	事前学習	教科書の第 3 章 (pp. 43~59) を読み、理解を進めておく。	
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要	

			点をまとめる。
第 1 2 回	第 3 章 相談援助の形成過程 I ②	事前学習	教科書の第 3 章 (pp. 43~59) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 3 回	第 3 章 相談援助の形成過程 I ③	事前学習	教科書の第 3 章 (pp. 43~59) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 4 回	第 3 章 相談援助の形成過程 II ④	事前学習	教科書の第 3 章 (pp. 43~59) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 5 回	第 4 章 相談援助の形成過程 II ①	事前学習	教科書の第 4 章 (pp. 61~82) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 6 回	第 4 章 相談援助の形成過程 II ②	事前学習	教科書の第 4 章 (pp. 61~82) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 7 回	第 4 章 相談援助の形成過程 II ③	事前学習	教科書の第 4 章 (pp. 61~82) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 8 回	第 4 章 相談援助の形成過程 II ④	事前学習	教科書の第 4 章 (pp. 61~82) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 9 回	第 4 章 相談援助の形成過程 II ⑤	事前学習	教科書の第 4 章 (pp. 61~82) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 0 回	中間まとめ 2 (課題②作成)	事前学習	教科書の第 3 章~第 4 章 (pp. 43~82) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
第 2 1 回	第 8 章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像①	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 141~154) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 2 回	第 8 章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像①	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 141~154) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 3 回	第 9 章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論①	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 155~167) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 4 回	第 9 章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論②	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 155~167) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 5 回	第 10 章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲①	事前学習	教科書の第 10 章 (pp. 169~188) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 6 回	第 10 章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲①	事前学習	教科書の第 10 章 (pp. 169~188) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 7 回	第 11 章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能①	事前学習	教科書の第 11 章 (pp189~237) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 8 回	第 11 章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②	事前学習	教科書の第 11 章 (pp189~237) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 9 回	第 11 章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能③	事前学習	教科書の第 11 章 (pp189~237) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 3 0 回	総まとめ (課題③作成)	事前学習	教科書の第 8 章~11 章 (pp141~237) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)		3. 科目番号	SSMP2155 SCMP2355
2. 授業担当教員	村本 淨司			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。			
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の役割 (総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む) と意義について理解し説明できる。 ・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助の理念について理解し、説明できる。 ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループディスカッションの内容についてグループごとに授業終了後に提出する。 2. 授業の最後にその日の講義内容について課題を設定し、提出を求める。 3. レポート課題1500字以上「社会福祉における相談援助の役割についてまとめ、それに対するあなたの考えを述べなさい」 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①レポート 30% ②授業への積極的参加度 40% ③毎回の講義のまとめ 30% 			
12. 受講生への メッセージ	本講義ではソーシャルワークの中でも、ソーシャルワークに関する基本理念や定義、意義、あるいは社会福祉士としての倫理などの重要な分野を含んでいます。ソーシャルワーカーとして働く際の基盤となる内容を含んでいますので、講義には真剣に挑んでください。講義はなるべくわかりやすくするように努めますが、講義中の疑問点などがありましたら積極的に質問するようにしてください。			
13. オフィスアワー	初回の講義において発表する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要、講師紹介等) 社会福祉士の役割と意義 (社会福祉士及び介護福祉士法、社会福祉士の専門性) ①	事前学習	教科書を準備し、シラバスを確認して講義へ臨むこと。	
		事後学習	社会福祉士の理想と実際について考える。	
第 2 回	社会福祉士の役割と意義 (社会福祉士及び介護福祉士法、社会福祉士の専門性) ②	事前学習	教科書 pp. 2～6 を熟読し、社会福祉士について理解する。	
		事後学習	社会福祉士の役割と意義についてまとめる。	
第 3 回	精神保健福祉士の役割と意義 (精神保健福祉士法、精神保健福祉士の専門性) 現代社会と地域生活①	事前学習	教科書 pp. 6～12 を熟読し、精神保健福祉士・現代社会と地域生活の理解を深める。	
		事後学習	現代社会と地域生活についてまとめる。	
第 4 回	現代社会と地域生活②	事前学習	教科書 pp. 12～22 を熟読し、現代社会と地域生活の要点をまとめる。	
		事後学習	現代社会と地域生活についてまとめる。	
第 5 回	ソーシャルワークの概念	事前学習	教科書 pp. 24～36 を熟読し、ソーシャルワークの概念について理解する。	
		事後学習	ソーシャルワークの概念について振り返り、その要点をまとめる。	
第 6 回	ソーシャルワークの構成要素①	事前学習	教科書 pp. 37～49 を熟読し、ソーシャルワークの構成要素の要点をまとめる。	
		事後学習	ソーシャルワークの構成要素の要点をまとめる。	
第 7 回	ソーシャルワークの構成要素②	事前学習	教科書 pp. 37～49 を熟読し、クライアントのニーズについて理解する。	
		事後学習	社会資源マップを完成させる。	
第 8 回	ソーシャルワークの構成要素③	事前学習	教科書 pp. 37～49 を熟読し、社会資源について調べてくる。	
		事後学習	社会資源についてまとめる。	
第 9 回	ソーシャルワークの源流	事前学習	教科書 pp. 52～60 を熟読し、各援助技術の沿革を理解する。	
		事後学習	社会福祉実践の分類を完成させる。	
第 10 回	ソーシャルワークの基礎確立期	事前学習	教科書 pp. 61～67 を熟読し、ソーシャルワークの基礎確立期を理解する。	
		事後学習	ソーシャルワークの基礎確立期についてまとめる。	
第 11 回	ソーシャルワークの発達期	事前学習	教科書 pp. 70～77 を熟読し、ソーシャルワークの発達期について理解する。	

		事後学習	ソーシャルワークにおける沿革表を完成させる。
第 1 2 回	ソーシャルワークの展開期	事前学習	教科書 pp. 78～85 を熟読し、ソーシャルワークの展開期について理解する。
		事後学習	ソーシャルワークの展開期についてまとめる。
第 1 3 回	ソーシャルワークの統合とジェネラリスト・ソーシャルワーク	事前学習	教科書 pp. 86～91 を熟読し、ソーシャルワークの統合を理解する。
		事後学習	実践現場におけるジェネラリスト・ソーシャルワークについてまとめる。
第 1 4 回	ソーシャルワーカーと価値①	事前学習	教科書 pp. 94～98 を熟読し、ソーシャルワーカーと価値について理解する。
		事後学習	ソーシャルワーカーと価値についてまとめる。
第 1 5 回	ソーシャルワーカーと価値②	事前学習	教科書 pp. 99～106 を熟読し、ソーシャルワーク専門職の価値を理解する。
		事後学習	権利擁護のサービス内容を完成させる。
第 1 6 回	ソーシャルワーク実践と権利擁護	事前学習	教科書 pp. 107～119 を熟読し、クライアントの権利擁護について理解する。
		事後学習	クライアントの権利擁護についてまとめる。
第 1 7 回	クライアントの尊厳と自己決定	事前学習	教科書 pp. 122～128 を熟読し、クライアントの尊厳と自己決定を理解する。
		事後学習	ワーカーの機能とバイスティクの 7 原則を完成させる。
第 1 8 回	ノーマライゼーションと社会的包摂	事前学習	教科書 pp. 129～135 を熟読し、ソーシャルインクルージョンを理解する。
		事後学習	ソーシャルインクルージョンについてまとめる。
第 1 9 回	専門職倫理の概念	事前学習	教科書 pp. 138～149 を熟読し、倫理的ジレンマについて理解する。
		事後学習	事例について、要点をまとめる。
第 2 0 回	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	事前学習	教科書 pp. 150～158 を熟読し、倫理的判断過程を理解する。
		事後学習	倫理的判断過程についてまとめる。
第 2 1 回	総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景	事前学習	教科書 pp. 160～168 を熟読し、総合的かつ包括的な相談援助を理解する。
		事後学習	総合的かつ包括的な相談援助の内容を完成させる。
第 2 2 回	地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座	事前学習	教科書 pp. 169～174 を熟読し、地域を基盤としたソーシャルワークを理解する。
		事後学習	地域を基盤としたソーシャルワークについてまとめる。
第 2 3 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点①	事前学習	教科書 pp. 176～177 を熟読し、ジェネラリスト・ソーシャルワークを理解する。
		事後学習	ストレングス・パースペクティブを完成させる。
第 2 4 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	事前学習	教科書 pp. 178～187 を熟読し、ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質について理解する。
		事後学習	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質についてまとめる。
第 2 5 回	相談援助専門職の概念	事前学習	教科書 pp. 190～198 を熟読し、相談援助専門職の概念を理解する。
		事後学習	相談援助専門職の表を完成させる。
第 2 6 回	相談援助専門職の範囲	事前学習	教科書 pp. 199～206 を熟読し、相談援助専門職の範囲を理解する。
		事後学習	相談援助専門職の範囲についてまとめる。
第 2 7 回	諸外国の動向	事前学習	教科書 pp. 207～209 を熟読し、諸外国の動向を理解する。
		事後学習	イギリスの沿革表を完成させる。
第 2 8 回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能の展開	事前学習	教科書 pp. 212～228 を熟読し、専門的機能の展開を理解する。
		事後学習	専門的機能の展開についてまとめる。
第 2 9 回	新しいニーズへの対応	事前学習	教科書 pp. 229～240 を熟読し独立型社会福祉士を理解する。
		事後学習	事例について要点をまとめる。
第 3 0 回	総合的支援機能	事前学習	教科書 pp. 241～275 を熟読しスクールソーシャルワークを理解する。
		事後学習	過去問題を復習する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4 単位)	3. 科目番号	SCMP2356 SSMP2156 SBMP2156 PSMP2456
2. 授業担当教員	水島 正浩		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・学習の理解度をみる課題を授業内で複数回行う。 *その他授業の進行状況に応じて指示します。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座Ⅶ）』第3版、中央法規出版、2015年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題（まとめ） 60% 授業への積極的参加態度 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>ソーシャルワークⅡはこれから社会福祉士・社会福祉の専門職になるために必要な理論や実践技術修得の基礎となる科目です。そのため、授業への出席、熱意ある参加、ディスカッション・作業、レポート作成などへの積極的な取組みを望みます。授業の進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合があります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業内（初回授業）に通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業内容と進め方について	事前学習	教科書の「はじめに」を読み、学習内容の全体的なイメージをつかんでおく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第2回	第1章 相談援助とは	事前学習	教科書の第1章 (pp. 1～25) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第3回	第2章 相談援助の構造と機能①	事前学習	教科書の第2章 (pp. 27～51) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第4回	第2章 相談援助の構造と機能②	事前学習	教科書の第2章 (pp. 27～51) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第5回	第3章 人と環境の相互作用①	事前学習	教科書の第3章 (pp. 53～66) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第6回	第3章 人と環境の相互作用②	事前学習	教科書の第3章 (pp. 53～66) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第7回	第4章 相談援助における援助関係①	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第8回	第4章 相談援助における援助関係②	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第9回	第4章 相談援助における援助関係③	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第10回	中間まとめ1 (課題①作成)	事前学習	教科書の第1章～第4章 (pp. 2～90) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。

第 1 1 回	第 5 章 相談援助の展開過程 I ①	事前学習	教科書の第 5 章 (pp. 91~130) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 2 回	第 5 章 相談援助の展開過程 I ②	事前学習	教科書の第 5 章 (pp. 91~130) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 3 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II ①	事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 131~147) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 4 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II ②	事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 131~147) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 5 回	第 7 章 相談援助のためのリサーチ技術①	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 149~159) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 6 回	第 7 章 相談援助のためのリサーチ技術②	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 149~159) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 7 回	第 8 章 相談援助のための契約の技術①	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 161~173) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 8 回	第 8 章 相談援助のための契約の技術②	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 161~173) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 9 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術①	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 0 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術②	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 1 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術③	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 2 回	中間まとめ 2 (課題②作成)	事前学習	教科書の第 5 章~第 9 章 (pp. 91~215) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
第 2 3 回	第 1 0 章 相談援助のための介入の技術①	事前学習	教科書の第 10 章 (pp. 199~215) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 4 回	第 1 0 章 相談援助のための介入の技術②	事前学習	教科書の第 10 章 (pp. 199~215) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 5 回	第 1 1 章 相談援助のための経過観察・再アセスメント・効果測定・評価①	事前学習	教科書の第 11 章 (pp. 217~242) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 6 回	第 1 1 章 相談援助のための経過観察・再アセスメント・効果測定・評価②	事前学習	教科書の第 11 章 (pp. 217~242) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 7 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術①	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 8 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術②	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 9 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術③	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 3 0 回	総まとめ (課題③作成)	事前学習	教科書の第 10 章~14 章 (pp. 199~310) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4 単位)	3. 科目番号	SCMP3357 SBMP3157 SSMP3157								
2. 授業担当教員	青木 正	5. 開講学期	春期								
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ										
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>										
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。 2. ケースマネジメント (ケアマネジメント) についてその概要を理解する 3. グループを活用した支援について理解する。 4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。 5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。 6. スーパービジョンについて理解する。 7. ケースカンファレンスについて理解する。 8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>前半期と後半期にそれぞれ1回ずつ (計2回) レポートを課す。レポートの題目及び執筆規定については授業の中で指示する。</p> <p>予習や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的な学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座 8)』第 3 版、中央法規、2015 年。</p>										
11. 成績評価の方法	<p>試験、レポート (2 回)、受講態度、授業への積極的参加度を総合して、次の基準で評価を行う。</p> <table border="1"> <tr> <td>試験の評価</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポートの評価</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>グループ課題の評価</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>20% (積極的な取り組みを見せた個人をプラス評価の対象とする)</td> </tr> </table>			試験の評価	40%	レポートの評価	20%	グループ課題の評価	20%	受講態度	20% (積極的な取り組みを見せた個人をプラス評価の対象とする)
試験の評価	40%										
レポートの評価	20%										
グループ課題の評価	20%										
受講態度	20% (積極的な取り組みを見せた個人をプラス評価の対象とする)										
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する (した) 場合は書面で教員に届け出ること。 2. レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。 3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。 										
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィス参照)。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	オリエンテーション (学習を進めるにあたっての諸説明等)	事前学習	ソーシャルワークについて予習をしてくる。								
		事後学習	学習目標と学習内容を理解する。								
第 2 回	相談援助における対象の理解 (1) 社会福祉援助活動の概念と定義	事前学習	教科書 pp. 2~4 を読む。								
		事後学習	ソーシャルワークの定義を理解する。								
第 3 回	相談援助における対象の理解 (2) 相談援助の対象をどうとらえるか	事前学習	システム理論について予習をしてくる。								
		事後学習	システム理論を理解する。								
第 4 回	相談援助における対象の理解 (3) 人間社会と組織・地域生活とコミュニティ・新しい専門的視点の必要性	事前学習	教科書 pp. 5~17 を読む。								
		事後学習	人間社会と組織・地域生活とコミュニティ・新しい専門的視点の必要性を理解する。								
第 5 回	ケースマネジメント (1) ケースマネジメントの意義	事前学習	教科書 pp. 22~38 を読む。								
		事後学習	ケースマネジメントの意義について、講義内容を再度理解しながらノートを整理する。								
第 6 回	ケースマネジメント (2) ケースマネジメントの特徴	事前学習	教科書 pp. 39~52 を読む。								
		事後学習	ケースマネジメントの特徴とし、特にアセスメントについて講義内容を再度理解しながらノートを整理する。								
第 7 回	グループを活用した相談援助 (1) グループワークの意義	事前学習	教科書 pp. 54~58 を読む。								
		事後学習	グループ・ダイナミクスについて理解を深める。								
第 8 回	グループを活用した相談援助 (2) グループワークの援助過程	事前学習	教科書 pp. 58~73 を読む。								
		事後学習	グループワークの意義、展開過程について理解を深める。								
第 9 回	グループを活用した相談援助 (3) グループワークの事例	事前学習	自助グループの活動について調べる。								
		事後学習	グループワークの意義、展開過程について理解を深める。								
第 10 回	グループを活用した相談援助 (4) グループワークの事例	事前学習	自助グループの活動について調べる。								
		事後学習	グループワークの意義、展開過程について理解を深める。								

第 1 1 回	コーディネーションとネットワークング (1) コーディネーションの意義	事前学習	教科書 pp. 76～85 を読む。
		事後学習	コーディネーションについて理解を深める。
第 1 2 回	コーディネーションとネットワークング (2) ネットワークングの意義	事前学習	教科書 pp. 86～97 を読む。
		事後学習	ネットワークングについて理解を深める。
第 1 3 回	コーディネーションとネットワークング (3) ネットワークングの事例	事前学習	地域包括支援センターについて調べてくる。
		事後学習	事例について振り返る。
第 1 4 回	コーディネーションとネットワークング (4) ネットワークングの事例	事前学習	地域での見守りについて考えてくる。
		事後学習	事例について振り返る。
第 1 5 回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (1) 意義・目的・方法	事前学習	教科書 pp. 76～85 を読む。
		事後学習	社会資源の種類と、その特徴について理解を深める。
第 1 6 回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発 (2) ソーシャルアクションとシステムづくり	事前学習	教科書 pp. 86～97 を読む。
		事後学習	社会資源の開発に関する留意点を整理する。
第 1 7 回	さまざまな実践モデルとアプローチ (1) 実践モデルの意義、治療モデル、生活モデル・ ストレングスモデル	事前学習	教科書 pp. 122～141 を読む。
		事後学習	治療モデル・生活モデル・ストレングスモデルの違いが説明できるようになる。
第 1 8 回	さまざまな実践モデルとアプローチ (2) 心理社会的アプローチ・機能的アプローチ	事前学習	教科書 pp. 122～141 を読む。
		事後学習	心理社会的・機能的アプローチについて理解を深める。
第 1 9 回	さまざまな実践モデルとアプローチ (3) 問題解決アプローチ・課題中心アプローチ	事前学習	教科書 pp. 150～155 を読む。
		事後学習	問題解決・課題中心アプローチについて理解を深める。
第 2 0 回	さまざまな実践モデルとアプローチ (4) 危機介入アプローチ	事前学習	教科書 pp. 156～158 を読む。
		事後学習	危機介入アプローチについて理解を深める。
第 2 1 回	さまざまな実践モデルとアプローチ (5) 行動変容アプローチ	事前学習	教科書 pp. 159～161 を読む。
		事後学習	行動変容アプローチについて理解を深める。
第 2 2 回	さまざまな実践モデルとアプローチ (6) エンパワメントアプローチ	事前学習	教科書 pp. 164～167 を読む。
		事後学習	エンパワメントアプローチについて理解を深める。
第 2 3 回	さまざまな実践モデルとアプローチ (7) ナラティブアプローチ	事前学習	教科書 pp. 168～171 を読む。
		事後学習	ナラティブアプローチについて理解を深める。
第 2 4 回	さまざまな実践モデルとアプローチ (8) その他の実践アプローチ	事前学習	教科書 pp. 172～181 ページを読む。
		事後学習	ソーシャルワークの実践アプローチを整理する。
第 2 5 回	スーパービジョンとコンサルテーションの 技術 (1)	事前学習	教科書 pp. 184～190 を読む。
		事後学習	スーパービジョンの意義と定義について理解する。
第 2 6 回	スーパービジョンとコンサルテーションの 技術 (2)	事前学習	教科書 pp. 190～204 を読む。
		事後学習	スーパービジョンとコンサルテーションの違いについて理解を深める。
第 2 7 回	ケースカンファレンスの技術と実際	事前学習	教科書 pp. 206～229 を読む。
		事後学習	事例研究の目的と意義について理解を深める。
第 2 8 回	相談援助における個人情報の保護、情報通信 の活用	事前学習	教科書 pp. 232～255 を読む。
		事後学習	個人情報保護法について理解を深める。
第 2 9 回	事例研究の目的と意義	事前学習	教科書 pp. 258～281 を読む。
		事後学習	事例研究の目的と意義について理解を深める。
第 3 0 回	まとめ	事前学習	後半のまとめ。
		事後学習	自己評価し、理解不足のところは知識を補い、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1102 GELA2302
2. 授業担当教員	藤島 薫、白井 絵里子、高柳 瑞穂、田中 良幸、西村 明子、 上木 文夫、茅野 由紀、小金澤 嘉、坂間 治子、高橋 登志子			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期/秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習 I、II、III、IV、V と 1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習 I では、これからの演習への導入として、社会福祉とは何か、社会福祉援助活動とは何か、どのように援助活動が展開されるのかという基本的学習を中心に、コミュニティ (地域) の社会学的定義、コミュニティの役割・機能、住民のニーズ (必要性) の発見と理解などに必要とする情報収集方法と社会調査方法を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習 I が終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) 社会福祉実践とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) コミュニティの社会学的な定義が明瞭にできる。 4) コミュニティの役割・機能と住民に対する福祉サービスがどのような形態で、どのような過程を通じて提供されるのか理解し、明瞭な説明が口頭及び文書でできる。 5) 初歩的なコミュニティ・ニーズの調査方法と情報収集方法の理解がされ、応用することができる。 6) コミュニティにおける福祉従事者の役割・機能の理解がされ、明瞭に説明できる。 7) コミュニティにおける福祉従事者の実践活動に必要とする知識について理解する。 8) 以上のことを報告書にまとめ、発表することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: マズローのニーズ体系に関するレポート (A4/2 枚) 課題 2: グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成 課題 3: グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。 課題 4: コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。 まとめレポート: 課題 4 にて作成した報告書について各自でのまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房、2011 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート (課題 2・3・4) 30% 個人レポート (課題 1) 30% まとめレポート 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習 I のねらいと単元の解説、他己紹介、グループ編成		事前学習	ソーシャルワーク演習 I の学習用ノートを準備し講義へ臨むこと。また、これからの学習に際し、テキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	ソーシャルワーク演習 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。
第 2 回	社会福祉とは? 社会福祉援助活動とは? 社会福祉の定義と目的、分類、活動の展開過程を知る		事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~25) を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
			事後学習	「社会福祉とは何か」「社会福祉援助活動」について学習用ノートにまとめ提出する (学習用

			ノートの確認)。
第 3 回	<p>社会福祉の働き “ニーズ”とは何か? 個人の“ニーズ”と福祉“ニーズ”の違い(もしくは同じ点)を知る</p> <p>課題 1: マズローのニーズ体系に関するレポート (A4/2 枚)</p>	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.28~51) のうち、「福祉ニーズ」について要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成。
第 4 回	<p>地域(コミュニティ)について知る コミュニティとは何か? コミュニティを知るための手段とは? グループ分けと調べるコミュニティの選別 グループ毎に選別したコミュニティを調べるのに必要な資料やデータ収集</p>	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.54~65) を熟読し、「コミュニティとは何か」「コミュニティの診断方法」についてその内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーで相談し、選別したコミュニティに関する資料とデータを収集する。
第 5 回	<p>集めた資料やデータを整理、分析しグループレポートにまとめる</p> <p>課題 2: グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成</p>	事前学習	集められたデータをもとに、グループメンバー各自が予備的なレポートを作成する(これを用いてグループレポートを作成)。
		事後学習	グループ毎に作成したレポートをもとに、各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。
第 6 回	グループレポートの発表 1	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う(資料の精査及び発表手順の確認)。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 7 回	グループレポートの発表 2	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う(資料の精査及び発表手順の確認)。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 8 回	<p>地域社会にどのような福祉のニーズがあるのか考える 希望する対象領域を考える 領域ごとのグループ編成</p> <p>課題 3: グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。</p>	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.68~76) を熟読し、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループ毎に選別した領域に関する予備的情報(制度や関連データ)を各自収集し、学習用ノートにまとめる。
第 9 回	集めた資料、データの報告	事前学習	各自がまとめたものをベースに、報告用資料をグループで作成する。
		事後学習	報告した資料の課題点、不足点についてまとめ、不足点を補足する。
第 10 回	<p>聞き取り調査の計画 (1) 聞き取り対象者の選定 質問項目の作成</p>	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.76~86) を熟読し、「現地調査の方法」について学習用ノートにまとめ提出する(学習用ノートの確認)。
		事後学習	「キー・インフォーマント・アプローチ」及び「フォーカス・グループ・アプローチ」について学習ノートにまとめる。
第 11 回	<p>聞き取り調査の計画 (2) 聞き取り調査の依頼(協力依頼書の作成方法、電話での依頼方法について) 聞き取り調査のロールプレイ(実際の聞き取り調査を想定して、演習内で互いに調査を行ってみる)</p>	事前学習	グループ毎に聞き取り調査における調査項目について素案を作成する。
		事後学習	ロールプレイの実施を受け、課題とその修正点について各自学習ノートにまとめる。 聞き取り調査の実施計画についてグループで最終確認の後実施する。
第 12 回	<p>聞き取り調査の実施</p> <p>課題 4: コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。</p>	事前学習	聞き取り調査にて収集したデータ(回答)を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめたレポートを受け、各自の考察を学習用ノートにまとめる。
第 13 回	聞き取り調査の成果発表 (1)	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う(資料の精査及び発表手順の確認)。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 14 回	聞き取り調査の成果発表 (2)	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う(資料の精査及び発表手順の確認)。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 15 回	振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅱに向けての課題	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を 1 ページにまとめる(まとめレポート)。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ提出する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2103 GELA2303
2. 授業担当教員	水島 正浩、高柳 瑞穂、上木 文夫、大嶋 泰子、茅野 由紀、 小金澤 嘉、坂間 治子、高橋 登志子、星野 弘美		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは、グループ(小集団)理論、グループ・ダイナミクス理論を基礎にして、グループワーク(集団援助技術)の学習をする。特に、実践グループワークの方法を中心に、目標の設定方法、グループの構成方法、グループ・プロセス、リーダーシップ、凝集性、メンバーの役割、相互作用、グループの発達段階などを演習グループの体験を通じて学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <p>「学生自身がグループワークを使用できる最小限度の知識と技術の習得を目的とする」</p> <p>より詳細には、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ(小集団)とは何か、その基本的知識、特性の理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) グループ・ダイナミクス理論とその主要概念の理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) グループワークの歴史的発展、目的、特質、援助技術としての位置づけについて理解ができ、明瞭な説明ができる。 4) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)について各々の特質の理解ができ、説明ができる。 5) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)についてのワーカーの知識、技術、役割、機能の理解ができ、説明ができる。 6) グループ・プロセス(過程)の理解ができ、説明ができる。 7) グループワークを行ううえでの最低の技術(リーダーシップ、個々のメンバーとグループ全体にどのように関わるか、プロセスの促進、凝集性の発達、葛藤の解決、コミュニケーション能力の発達など)に関しての基本的理解ができ、説明ができる。 8) 図工、音楽、ゲーム、行事などのプログラムを媒介役として、相互作用、凝集性の促進、役割・責務の遂行などについて理解ができ、実行することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：自分がこれまで関わったグループ(小集団)(例：仲良しグループ、学級、高校の同窓会、勉強会、趣味のグループ等)を題材に、次にあげるグループの特性について例をあげて説明せよ(A4/3枚)。</p> <p>①どのような目的のグループか ②どのようにしてグループが作られたのか ③メンバーは何人か ④どのくらいの期間、継続しているのか ⑤どのくらいの頻度で会合を開いているのか ⑥グループの特性は何か ⑦あなたがグループに属する理由は何か ⑧今までにグループを止めた人はいるか、それはどのような理由からか ⑨グループの中心になっている人がいるか、それはどのような人格の人か ⑩グループの中で意見の相違、お互いの葛藤が生じた場合、どのように相違や葛藤を解決したか</p> <p>課題2：グループワークに関する文献を調べ、下記の「概念」の意味について自分の言葉で説明せよ(A4/3枚)。</p> <p>①グループ・ダイナミクス ②規範 ③役割 ④相互作用 ⑤凝集性 ⑥グループの発達段階 ⑦グループワーカーの役割と機能 ⑧メンバーの役割と機能</p> <p>課題3：リーダーシップ理論についてその概念についてまとめよ。(A4/2枚)。</p> <p>まとめレポート：グループワークに関するまとめレポートの作成を課す。</p> <p>詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】保田井進・硯川眞旬・黒木保博『福祉グループワークの理論と実際』、2010年。</p> <p>【参考書】平山尚・武田丈『人間行動と社会環境』、2004年。</p> <p>野村豊子 監訳『グループワーク入門』中央法規、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 7. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 8. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 9. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 10. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 6. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 7. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 8. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 9. 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション グループとは何か 自分が体験したグループの目的、特徴、何が自分のためになったか。グループの良い点と悪い点はなにか。 演習Ⅱの学習目標は何か、何を、どのように学習するか。 (グループの目的と、個々のメンバーの目的は何か)	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~9) の内容をまとめる
		事後学習	課題 1 の作成と提出
第 2 回	グループワーク基本的概念を理解する 相互作用、過程、規範、力動、凝集性、自己開示とはなにかに体験してみる。 グループワークの歴史発達を理解する。 グループワークと他の実践技術との関係を理解する。	事前学習	参考書『グループワーク入門』第 2 章 (pp.71~98) の内容をまとめる
		事後学習	課題 2 の作成と提出
第 3 回	グループワークの理解の枠組み：グループの発達段階 (準備期、開始期、作業期、終結期) グループワークのプロセスを学習する。 グループワークの記録の方式を学ぶ。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~61 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	グループワークの記録について学習したことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 4 回	新しいグループを構成する 準備期：グループの計画 施設・機関のニーズを知る。どのようなグループを構成するか、参加者の募集 (高齢者の孤立を解消する、児童養護施設での行動問題がある子どもの矯正グループ、統合失調症患者の家族のためのグループなど)。 グループワークの計画書を作成する。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~53 を熟読し、グループ計画書を作成する。
		事後学習	構成されたグループメンバーにてグループワークの計画書を完成させる。
第 5 回	準備期 「契約書」を作成し、ワーカーとメンバー間で交換する。 グループワークの評価方法をきめる。	事前学習	テキスト p.77 「評価の方法」を読み、その内容をまとめる。
		事後学習	講義内で用いた契約書をもとに、再度契約書を作成し提出する。
第 6 回	開始期 グループをどのように始めるか。「アイスブレイカー」を用意する。 ワーカーはグループ全体と個々のメンバーとの関係をつくる技術 (メンバーの経験を普遍化する技術、メンバーのグループ・過程に参加を促進する技術) の習得。 グループのルール (規範) について話し合う。	事前学習	アイスブレイクに必要なアイデアを考えまとめる。
		事後学習	テキスト pp.53~56 の内容を A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 7 回	開始期 「コミュニケーション技術の基本」を学習する。 メンバーの自己開示を促進する技術の習得。 メンバー間の思考、感情、行動を連携させる技術の習得。 リーダーシップについて。	事前学習	第 6 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	課題 3 の作成と提出
第 8 回	作業期 グループ過程を明確化する技術。プロセスの促進する技術、凝集性を発達する技術の習得。メンバーの役割を理解する技術、「葛藤解決技術」習得の習得。	事前学習	テキスト pp.56~59 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	講義で取り上げた技術について 1 つを選択し、その内容についてまとめる。
第 9 回	作業期 「問題解決技術」と「認知再構成技術」の習得。	事前学習	第 8 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	問題解決技術もしくは認知再構成技術について 1 つを選びその内容を A4 用紙 1 枚にまとめる。
第 10 回	作業期 メンバーの役割を理解する技術の習得。 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.62~68 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	教員から提示されたプログラム活動についてその内容をまとめる。
第 11 回	作業期 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。 ソシオグラム (Sociogram) を作る。	事前学習	プログラム活動案を作成し、講義内でメンバーからフィードバックを受ける。
		事後学習	ソシオグラムについて学習したことを用いて家族のそれを作成する。
第 12 回	作業期 グループ内と外の社会資源を探し、有効に利用する技術 (例：精神障害者の家族のための心理・教育グループ)。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.68~72 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	特定のグループを想定し、そのグループに提供可能な身近で具体的な社会資源についてあげ、その活用と意義についてまとめ提出する。
第 13 回	終結期 グループの終結の準備 (終結の予告をして、メンバーの終結に対する感情の話し合い)。	事前学習	テキスト pp.59~61 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	グループで実践してみる「終結作業」を通じて学び、感じたことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 14 回	グループワークの評価方法を応用	事前学習	テキスト第 8 章 pp.73~81 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	これまで行ってきたグループ活動を通じてグループワークにおけるソーシャルワーカーの機能と役割について A4 用紙 3 枚にまとめて提出する (まとめレポート)。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生が演習Ⅱで学んだことは何であって、どの程度学習目標の達成ができたか。	事前学習	テキスト第 9 章 pp.82~88 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3160 SCMP3460 SBMP3460 PSMP3460
2. 授業担当教員	上木 文夫、上野 義光、大嶋 泰子、白井 絵里子、鄭 春姫、 中里 哲也、久次 奈美、星野 弘美			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲでは、ケースワークの基本技術として、他者理解と自己理解について考えることから、人間関係形成に必要な技術、また基本的な面接技術とコミュニケーションに焦点をあてて、必要な専門知識と技術を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間行動に関する心理学理論について理解を深め、その概要を説明することができる。 2) クライエントに対する姿勢について理解を深め、実践することができる。 3) 基本的コミュニケーション技法について理解し、実践することができる。 4) 基本的応答技法について理解し、実践することができる。 5) 面接技法について理解し、それを用いてクライエントの問題や課題をアセスメントすることができる。 6) 以上のことを総合的に理解し、ソーシャルワークにおける面接を展開することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：個人(人)を理解する上で必要となる精神分析理論について、その主要概念について説明しなさい。 課題2：面接における基本的応答技法について、技法がもたらす効果について簡潔に説明しなさい(第9・10回の学習をまとめる) 課題3：事例を用いて面接を実施し、自らの面接技術に関し他者からの評価を受け、また自己評価を行う まとめレポート：ソーシャルワークⅢにて学習したことに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。 【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2004年。 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『相談援助の理論と方法Ⅰ(新・社会福祉士養成講座 第7巻)』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート 30% 個人レポート 40% まとめレポート 30%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 12. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 13. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 14. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 15. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 11. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 12. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 13. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り ソーシャルワーク演習Ⅲのねらいと単元の解説	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びをレポートにまとめる。	
		事後学習	参考書『人間行動と社会環境』第2章(pp.10~33)を熟読し、その内容をまとめる。	
第2回	人を理解する(1) 精神分析理論について学習する：精神分析理論の主要概念について理解を深める 行動理論と学習理論について学習する：行動理論と学習理論の主要概念について理解を深める	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第3章1(pp.35~38)を熟読し、その内容をまとめる。	
		事後学習	課題1の作成(授業内で示された提出期限厳守)	

	学んだ人間行動に関する心理学理論が、どのように人間行動の理解に用いられるのかを事例をもとに検証する		
第 3 回	人を理解する (2) 心理社会理論について学習する：心理社会理論の主要概念について理解を深める 人間の発達過程について理解を深める 事例を用いて人間行動に関して心理社会理論を使用して分析・検証する	事前学習	参考書『人間行動と社環境』第 4 章 (pp.64～88) を熟読し、その要点をノートにまとめる。
		事後学習	心理社会理論について口頭で説明ができるよう、その内容を確認する。
第 4 回	ソーシャルワークにおける面接の目的・特性理解 「会話」と「面接」の相違点について理解し、面接の形態 (構造化面接と生活場面面接)、面接実施の基盤となる考え方について理解を深める	事前学習	テキスト pp.100～111 を読みその内容をまとめる。
		事後学習	「会話」と「面接」の相違点について口頭で説明できるよう、学習内容をノートにまとめる。
第 5 回	クライアントに対する姿勢：距離について考える 人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する	事前学習	自分自身の日常生活を振り返り、人と接する際の距離について考え、どのような距離感をもっているかをノートにまとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり適切な距離とは何か演習を通じて学んだことをレポートにまとめ提出する。
第 6 回	クライアントに対する姿勢：バイスティックの 7 原則の実践 専門的対人援助関係形成のための原則について再確認する	事前学習	バイスティックの 7 つの原則について、その内容を調べ、まとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり、その人間関係形成とバイスティックの 7 原則との関係性をノートにまとめる。
第 7 回	面接における技術：面接におけるコミュニケーションについて理解する 基本的コミュニケーション技法について、その原則について理解を深め、ロールプレイを用いて習得する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、コミュニケーションの特質 (癖や傾向) について気づいたことをノートにまとめる。
		事後学習	基本的コミュニケーション技法について、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてレポートにまとめ提出する。
第 8 回	面接における技術：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 言語・非言語的コミュニケーションの意義を理解し、その活用方法についてロールプレイを用いて実践する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、非言語的コミュニケーションについて気づいた事をノートにまとめる。
		事後学習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてノートにまとめる。
第 9 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (1) 「反射」について理解し、技術を習得する 単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112～116 を熟読したうえで、p.112 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「反射」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 10 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (2) 「感情の反射」「適切な質問」について理解し、技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112～116 を熟読したうえで、p.92 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「感情の反射」「開かれた質問と閉ざされた質問」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 11 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 10 回までに学んだことを振り返り、コミュニケーションと応答技法についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 12 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 9 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 13 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	面接のロールプレイを実施し、明らかとなった自己の課題について明確にし、ノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 14 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	第 13 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生がソーシャルワーク演習Ⅲで学んだこと、学習目標の達成度を評価する	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲを通じて学んだこと、課題となったことをノートにまとめる。
		事後学習	コミュニケーションと面接技法に関し、実習及び実践を行う上で自身の評価できる点と改善点をレポートにまとめ提出する (まとめレポート)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3161 SCMP4461 PSMP3461
2. 授業担当教員	藤島 薫、大門 俊樹、石井 三智子、上木 文夫、上野 義光、 中里 哲也、星野 弘美			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に把握します。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論についても学習を深めます。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2：事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3：グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4：社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に関する知識や理論を深める。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：認知理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題2：課題中心理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題3：システム (家族療法) 理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>まとめレポート：ソーシャルワーク実践アプローチに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 川村隆彦著『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版、2011年。</p> <p>【参考書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』中央法規出版、2015年。 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート (課題1~3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は以下の条件を守って下さい。</p> <p>16. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講しましょう。受講生には積極的な態度を望みます。</p> <p>17. 自ら進んで教員に質問しましょう。理解できないことをそのまま放っておかないようにしましょう。</p> <p>18. 授業は欠席、遅刻、早退をしないで下さい。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告して下さい。</p> <p>19. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意して下さい。</p> <p>20. 授業中、私語、居眠り、携帯電話などの操作は緊急時以外、絶対にしないで下さい。</p> <p>また教員は、以下のことを実行します。</p> <p>14. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>15. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>16. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>17. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します) 認知理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.76~83 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。	
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。	
第2回	認知理論・アプローチ② (事例を通してクライアントの考え方の傾向に気づかせることを学びます)	事前学習	テキスト pp.83~86 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。	
		事後学習	支援プロセスについてノートにまとめる。	

第 3 回	認知理論・アプローチ③ (事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます)	事前学習	テキスト pp.86～87 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ABC 理論についてノートにまとめる。
第 4 回	認知理論・アプローチ④ (事例を通して、クライアントの非合理的な考え方を論駁することについて学びます)	事前学習	テキスト pp.87～89 を熟読し、不明な点は明らかにし、箇条書きにしてノートにまとめ、授業へ臨む。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 5 回	認知理論・アプローチ⑤ (事例を通して合理的な考え方を学び、それを訓練することについて学びます) 小まとめ *課題 1	事前学習	テキスト pp.92～94 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 6 回	課題中心理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.132～138 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 7 回	課題中心理論・アプローチ② (事例を通して、ターゲット問題を選択することを学びます)	事前学習	テキスト pp.138～141 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	ターゲット問題についてノートにまとめる。
第 8 回	課題中心理論・アプローチ③ (事例を通して、目標と課題を設定する(契約)ことを学びます)	事前学習	テキスト pp.141～143 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題中心アプローチにおける契約についてノートにまとめる。
第 9 回	課題中心理論・アプローチ④ (事例を通して、課題を遂行し、アセスメントを行うことを学びます)	事前学習	テキスト pp.143～145 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 10 回	課題中心理論・アプローチ⑤ (事例を通して、終結について学びます) 小まとめ *課題 2	事前学習	テキスト pp.145～147 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 11 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.165～173 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 12 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ② (事例を通して、ジョイニングにより関係を形成し、主訴を確認することを学びます)	事前学習	テキスト pp.173～178 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 13 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ③ (事例を通して、情報収集と仮説設定をすることを学びます)	事前学習	テキスト pp.178～180 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 14 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ④ (事例を通して、働きかけることを学びます)	事前学習	テキスト pp.180～182 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 15 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ⑤ (事例を通して、再情報収集・仮説設定・働きかけの循環を行うことを学びます) まとめ *課題 3	事前学習	テキスト pp.183～186 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 3 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習V (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4162 SCMP4462 PSMP4462
2. 授業担当教員	青木 正、上野 義光、大嶋 泰子、久次 奈美、星野 弘美	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅴでは、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8) 終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1: 授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標2: 授業内容にある事例の中に含まれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標3: 自らの相談援助の場面を想定して、目標1、目標2を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1: 前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>課題 2: 後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>まとめレポート: 事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第 2 版、中央法規、2015 年。</p> <p>【参考書】 平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005 年。 障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題 1~2) 50%</p> <p>まとめレポート 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。そのため受講生は次の条件を守ってください。</p> <p>21. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って積極的な態度で受講する。</p> <p>22. 自ら進んで教員に質問する。理解できないことはそのまま放っておかない。</p> <p>23. 欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告する。</p> <p>24. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしない。</p> <p>教員は以下の方針で授業を行います。</p> <p>18. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>19. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>20. 双方向対話型の学習によりディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう環境を作る。</p> <p>21. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>オリエンテーション(授業の進め方等) 障害者の就労支援に関する相談援助 ①</p> <p>※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、職場(環境や集団)や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要があることを学習する。</p> <p>※ 教科書の第 5 章、事例問題 25 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。</p>	事前学習	テキスト pp.268~271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 2 回	<p>障害者の就労支援に関する相談援助 ②</p> <p>※ 前回宿題の発表とディスカッション</p>	事前学習	第 1 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。

		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 3 回	病院からの退院に関する相談援助 ① ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、専門職がチームを組んで支援する必要があることを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 27 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.276～279 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 4 回	病院からの退院に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 3 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 5 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ① ※ DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談援助事例をもとに、DV とはどのようなものか、その特質を理解し、「DV 防止法」をもとに DV が被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 28 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 6 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 5 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 7 回	虐待児童への相談援助 ① ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、発達障害とネグレクト（育児放棄）が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿（環境）と児童のもつ力（ストレングス）を調整しながら支援することを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 30 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 8 回	虐待虐待への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 7 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 9 回	低所得者への相談援助 ① ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源（環境）を活用しながら自立に向けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 34 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 10 回	低所得者への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 9 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 11 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ① ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方について学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 37 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 12 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 11 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 13 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ① ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけの内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 38 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 14 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 13 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 15 回	まとめ ※ 第 1 回～第 14 回授業を振り返り、援助の重要ポイントを押さえる。	事前学習	授業で配布されたレジュメ、事前・事後学習ノートの内容を整理し、ソーシャルワーク演習 V での学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (C/J) (2 単位)		3. 科目番号	SCMP3480 SSMP2180
2. 授業担当教員	大門 俊樹、高柳 瑞穂、大嶋 泰子			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) の法的な位置づけとその内容について明確に説明できる。 3) 社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性について口頭、もしくは文書で説明ができる。 4) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) 施設・機関における相談援助業務について説明できる。 5) 実習におけるリスクマネジメントについて理解する。 6) スーパービジョンの意味と機能について説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容についてまとめなさい。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 50%</p> <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未修得者への実習配属は行わない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 26. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 27. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 28. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 29. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 22. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 23. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 24. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明 		事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
			配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、学生調査票
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制について理解する (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) 		事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
			事後学習	「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」を参照して東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の位置付けについて理解する (テキスト pp.2~18) : 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める 		事前学習	テキスト pp.2~18 を熟読する
			事後学習	実習における実習生の役割についてノートにまとめ提出する。

第 4 回	・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習（ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習）の理解（テキスト pp.19～34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用）： 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める	事前学習	テキスト pp.19～34 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト pp.19～34 を参照のうえ、実習の中で行うべき事項についてノートにまとめる。
第 5 回	・ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について理解（テキスト pp.36～54）： 社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係、社会福祉士の役割を理解する。	事前学習	テキスト pp.36～54 を熟読し、特に社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト pp.36～54 を参照のうえ、実習の中で価値・倫理、知識、技術をいかに形成すべきかノートにまとめる。
第 6 回	・「相談援助実習」（ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習）が可能な施設・機関の紹介と説明（テキスト pp.55～59 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用）：法定施設・機関の紹介と希望種別の選択	事前学習	テキスト pp.55～59 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
		事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。
第 7 回	・実習の場と相談援助の内容（テキスト pp.60～68）： フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワークについて理解し、そのソーシャルワーク機能についての理解を深める。 ・実習形態に関する理解（テキスト pp.65～68）： 各種実習形態のメリットとデメリットを理解する。	事前学習	テキスト pp.60～68 を熟読し、フィールド・ソーシャルワーク、レジデンシャル・ソーシャルワークのメリット、デメリットを箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	実習先施設・機関におけるリスクマネジメントについて学びをノートにまとめる。
第 8 回	・契約関係のなかにある実習（テキスト pp.70～88）： 実習契約関係と実習におけるリスクマネジメントについて学ぶ	事前学習	テキスト pp.70～88 を熟読し、実習における 4 者関係についてノートにまとめる。
		事後学習	実習における 4 者関係において実習生の果たすべき役割についてノートにまとめる。
第 9 回	・スーパービジョンの理解（テキスト pp.90～102）： 「スーパービジョン」の意味と機能について理解を深める	事前学習	テキスト pp.90～102 を熟読し、スーパービジョンの機能についてノートにまとめる。
		事後学習	スーパーバイザーのあるべき姿勢についてノートにまとめる。
第 10 回	・事前学習として実習先を理解する意義について（テキスト p.103）：希望種別に関する事前学習レポートをまとめる（課題 1） ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題 1 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 11 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート（課題 1）の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 12 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート（課題 1）の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 13 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート（課題 1）の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 14 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート（課題 1）の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 15 回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた自己課題についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2180 PSMP2480
2. 授業担当教員	鹿内 佐和子、大門 俊樹、高柳 瑞穂、谷口 恵子、西村 明子、大嶋 泰子、小金澤 嘉、鹿内 佐和子			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 3) 資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 4) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容について、まとめなさい。</p> <p>課題 2: 実習配属施設・機関に関して、その関連法令、規定されたサービス内容等施設・機関の概要についてまとめなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未収得者への実習配属は行わない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 30. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 31. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 32. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 33. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 34. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 26. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 27. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明		事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
			配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、『学習の手引き』、学生調査票
第 2 回	・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制についての理解 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用)		事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
			事後学習	「ソーシャルワーク実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。
第 3 回	・相談援助実習の位置付けについて理解する (テキスト pp.2~18) : 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める		事前学習	テキスト pp.2~18 を熟読する
			事後学習	「なぜ実習が必要なのか」についてノートにまとめ提出する。
第 4 回	・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の理解 (テキスト pp.19~34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用) : 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める		事前学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。
			事後学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、東京福祉大学の実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の目標についてノートにまとめる。
第 5 回	・「相談援助実習」(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) が可能な施設・機関の紹介と説明 (テキスト pp.55~64 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) : 法定施設・機関の紹介と希望種別の選択		事前学習	テキスト pp.62~69 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
			事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。

	・実習形態に関する理解 (テキスト pp.65~68)		
第 6 回	・事前学習として実習先を理解する意義 (テキスト p103~106) : 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる (課題 1) ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題 1 の作成 (講義内で示される提出期限厳守)。
第 7 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成 (実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		配布物	実習配属通知、個人調査書 (実習先提出用) 実習記録必要書式のコピー (施設概要及び実習プログラム案下書き用紙)
第 11 回	・配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法 (テキスト p.123~139) ・個人調書等書類の作成 (社会福祉士資格取得の動機の明文化)	事前学習	「社会福祉士を目指す動機」「思い描く社会福祉士像」について言語化できるようまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第 12 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	テキスト pp.142~146 を熟読し、「3 段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
		配布物	「事前訪問について」
第 13 回	・実習計画の作成 (テキスト pp.147~154) : 実習計画 (本学では「実習プログラム (案)」とする) の意義と作成についての理解を深める ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	テキスト pp.147~154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・「契約としての実習」についての理解 (テキスト pp.70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp.74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性和重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	事前訪問に向けた準備を行う。
第 15 回	・見学実習 (事前訪問) の最終確認 ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導 II に向けた課題	事前学習	事前訪問日時について実習指導者へ電話連絡のうえ、訪問日時を明確にする。
		事後学習	ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習指導 II に向けた自己課題についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3181 PSMP3481
2. 授業担当教員	水島 正浩、青木 正、高柳 瑞穂、谷口 恵子、西村 明子、大嶋 泰子、高橋 登志子、久次 奈美、星野 弘美			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習プログラム(案)の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 3) 記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 4) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 5) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1: 実習プログラム(案)の作成 課題2: ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』(第2版)、中央法規、2014年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題1 30% 課題2 30% 講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 35. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 36. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 37. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 38. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 39. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 28. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 29. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 30. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 31. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明:シラバスを用いて今後の講義の進め方、また実習(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習)との関連について理解を深める ・実習に向けての不安・課題についての話し合い 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート(ファイル)の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。	
		事後学習	講義での話し合いを踏まえ、ソーシャルワーク基礎(またソーシャルワーク実習)実施上の課題についてノートにまとめる。	
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録及び下書き用紙、健康診断・細菌検査について	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践(テキストpp.160~181):第1節~第3節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム(案)の作成:ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認 	事前学習	テキスト pp.160~181 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	実習プログラム(案)を作成し、教員の添削を受ける。	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践(テキストpp.182~202):第4節~第6節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム(案)の作成:実習計画書の記入と添削 	事前学習	テキスト pp.182~202 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	添削された実習プログラム(案)を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から	

			確認印を受ける。
		配布物	実習開始に関する諸注意、細菌検査容器、福祉実習に伴う欠席届について、巡回教員への挨拶用紙
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.203～223）：第 7 節～第 9 節 ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成：施設概要作成に関する説明 ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成（課題 1）：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 <p>※この週から第 7 回の週の期間中にソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削指導を受けた実習プログラム（案）を実習指導者へ提出、協議を行う。</p>	事前学習	テキスト pp.203～223 を読み、実習活動について理解を深める。
		事後学習	添削された実習プログラム（案）を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。 確認を受けた実習プログラム（案）を実習先実習指導者へ訪問のうえ提出し、その内容を協議する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習記録の理解：実習記録の意義、記入方法、取扱い等に関する説明と書き方演習（テキスト pp.226～238） ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成：スーパーバイザーとの協議の結果、実習プログラム（案）をまとめる 	事前学習	テキスト pp.226～238 を読み、記録の意義、内容について理解を深める。
		事後学習	実習先指導者との協議のうえ、確定した実習プログラム（案）をまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習スーパービジョン・巡回指導の理解（テキスト pp.239～252）：巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する ※ここまで巡回担当教員との面接を終えていること。 ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成：作成された施設概要の確認 	事前学習	テキスト pp.239～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	実習巡回指導教員への挨拶用紙を作成し、実習巡回教員への挨拶と打合せを行う。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習に向けて最終確認：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について 実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」pp.38～42・p.54 を熟読し、実習中の留意事項について理解する。
		事後学習	実習生の義務と権利について学習したことをノートにまとめる。
		配布物	細菌検査結果（該当者のみ）、ソーシャルワーク基礎実習終了後の諸注意、実習記録提出証明書、実習誓約書
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習の振り返り：ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ソーシャルワーク基礎実習の学習効果と課題の整理：ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成（課題 2） <p>※確認事項：実習記録の提出、お礼状の送付</p>	事前学習	実習記録の整理 自己評価の実施
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で提示される提出期限厳守）。
第 9 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）①	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク実習の目的と内容の理解：ソーシャルワーク実習の全体像と目的、課題について理解する 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」p.9 を熟読する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習においてすべきことがらについてノートにまとめ、口頭で説明できるようにする。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習の評価：返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」pp.20～の実習プログラミングの実習先該当箇所を目を通す。
		事後学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録（実習評価）返却、ソーシャルワーク実習記録、ソーシャルワーク実習プログラム（案）下書き用紙
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び 	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。

	「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事後学習	事例をもとに「ソーシャルケースワーク記録」の記入を行い提出する。
第 14 回	・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認を受ける。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員と協議した実習計画（案）を、実習先指導者へ提出、協議を行う（ソーシャルワーク実習事前訪問の実施）。
		配布物	ソーシャルワーク実習開始にあたっての諸注意
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	ソーシャルワーク実施に向けた自己課題をノートに記載する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習に必要な資料を収集し、事前学習を進める。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (C/N) (2 単位)		3. 科目番号	SCMP4482
2. 授業担当教員	星野 弘美			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲでは、社会福祉実践に必要な知識と技術習得のための実習計画の作成、記録の技法等、実習実施のための学習とともに、実習後指導を通じて実践評価を行い、実践上の課題を明確にする。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門職実習、つまりソーシャルワーク実習 (相談援助実習) で求められ、確認すべき専門技術について明確に説明することができる。 2) 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習計画を立案できる。 3) 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4) 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 5) 実習実施後の総括を踏まえ、実践に向けた自己の課題を明確に文書化できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習配属施設・機関の施設概要について規定の書式にまとめなさい。</p> <p>課題 2: ソーシャルワーク実習 実習プログラム (案) の作成</p> <p>課題 3: 実習報告書の作成</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 20%</p> <p>課題 2 20%</p> <p>課題 3 30%</p> <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 30%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 40. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 41. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 42. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 43. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 44. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 32. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 33. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 34. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・実習先配属発表 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成した課題 1 を読み返し、修正箇所等を改善し講義に持参する。	
		事後学習	ソーシャルワーク実習の実施に至るまでに取り組むべき自己課題についてノートにまとめる。	
		配布物	実習配属通知、(集中型) ソーシャルワーク実習記録及び必要な書式のコピー、個人調書	
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.56~68 及び 141~158) 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク実習にて学ぶべき内容につ 	事前学習	テキスト pp.167~175 を熟読し、「3 段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。	
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。	

	いて理解する ・実習生 個人調書の記入		
第 3 回	・ソーシャルワーク実習 施設概要の作成 (課題 1) : 施設概要作成に関する説明	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	施設概要について必要な資料をそろえ、作成する。
第 4 回	・ソーシャルワーク実習 施設概要の作成 (課題 1) : 施設概要作成 ・実習計画 (本学では「実習プログラム (案) とする」) の作成 (テキスト pp.182~186) : 実習プログラム (案) の意義と作成についての理解を深める	事前学習	テキスト pp.182~186 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。必要に応じ、施設概要について添削を受ける。
第 5 回	・ソーシャルワーク実習 実習プログラム (案) の作成 (課題 2) : 実習プログラム (案) の記入と添削・確認 ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	実習プログラム (案) の作成に必要な情報を収集する。
		事後学習	実習プログラム (案) に不足な点を補足し、教員から添削を受ける。
		配布物	事前訪問について
第 6 回	・実習記録の理解 (テキスト pp.226~238) : ・実習記録の理解 : 実習記録の書き方演習 実習記録の意義、書き方、取り扱い等に関する説明 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解	事前学習	テキスト pp.226~238 を熟読し、記録の意義と記入の際の留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	第 6 回で配布された実習日誌 (コピー・練習用) に記録を記入し、添削を受ける。
第 7 回	・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解	事前学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	事例をもとに「ソーシャルケースワーク記録」の記入を行い提出する。
		配布物	実習巡回指導教員への挨拶用紙、細菌検査・健康診断について
第 8 回	・巡回指導の理解 (テキスト pp.239~260) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp.239~260 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
第 9 回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解 実習指導教員 (非常勤) からの指導及び打ち合わせ	事前学習	実習プログラム (案) 内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第 10 回	・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp.74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性和重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	実習に向けた準備を行う。
		配布物	実習の開始、終了に関する諸注意、実習誓約書
第 11 回	・ソーシャルワーク基礎実習に向けて最終確認 : 事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.38~42・p.54 を熟読し、実習中の留意事項について理解する。
		事後学習	実習に向けた準備を行う。
第 12 回	・ソーシャルワーク実習の振り返り : ソーシャルワーク実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。
第 13 回	・ソーシャルワーク実習の学習効果と課題の整理 : ソーシャルワーク実習の実施を踏まえて実習報告書を作成 (課題 3)	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。
第 14 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ①	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 15 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ②	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (J) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3182
2. 授業担当教員	白井 絵里子			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、社会福祉専門職が行う各種手続きについて明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、社会福祉専門職が行う相談援助業務について明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、専門職間の連携について明確に説明できる。 5) 実習先での実践を振り返り、社会資源、関係機関との連携について明確に説明できる。 6) 倫理綱領の重要性について、実践(実習)をもとに理解を深め、実践に基づく説明ができる。 7) 自己の価値観念についてめとめ、それが援助にどのように反映するか考えをまとめられる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1～7: 講義日程に示す通り 課題 8: 実習報告書の作成</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1～7 40% 課題 8 30% 講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 30% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 45. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 46. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 47. 授業中は欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 48. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 49. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 35. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 36. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするともに専門用語はわかりやすく説明する。 37. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱでの事前事後学習ノートを振り返る。	
		事後学習	実習で用いた資料等を整理し、今後の学習へ活かす。	
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例(事業)についての報告と意見交換 ・社会福祉専門職についての理解： 実習施設・機関で行われる各種手続きについてまとめる(課題 1) 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。	
		事後学習	課題 1 の作成。	
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例(事業)についての報告と意見交換 ・社会福祉専門職についての理解： 実習施設・機関における相談援助業務についてまとめる(課題 2) 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。	
		事後学習	課題 2 の作成。	

第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 ・社会福祉専門職についての理解： 実習施設・機関で行われている行事等の実施過程についてまとめる（課題 3） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 3 の作成。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 ・職種間連携についての理解： 実習施設・機関における各部門職種とその機能・関係についてまとめる（課題 4） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 4 の作成。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 ・機関の社会的連携についての理解： 実習施設・機関と社会資源・関係機関との連携についてまとめる（課題 5） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 5 の作成。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 ・専門職の倫理綱領と実践についての理解： 実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題 6） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 6 の作成。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 ・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める： 自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映すると考えるかまとめる（課題 7） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 7 の作成。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の全体総括（テキスト pp.324～328）： 実習報告会の意義と方法について理解し、報告を行う ・ソーシャルワーク実習の学習効果と課題の整理： ソーシャルワーク実習の実施を踏まえて実習報告書を作成 	事前学習	テキスト pp.324～328 を熟読し、実習報告会の意義について理解を深める。
		事後学習	実習報告書の作成
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）①	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 11 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 12 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）③	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 13 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）④	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の評価について理解する（テキスト pp.290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）： 実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う 	事前学習	実習活動を通じて自己について振り返り、価値観と実習行動等の関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	実習自己評価を行う担当教員へ提出する。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習後の学習課題（テキスト pp.310～321）： 目標と結果の照合、今後の課題について明確化する 	事前学習	実習及び報告によって明確化した今後の課題を事後学習の報告とともにまとめる。
		事後学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。

1. 科目名 (単位数)	体育 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2303
2. 授業担当教員	小谷川 元一	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	・実技 (小学校体育における各領域から抜粋した運動) ・講義 (実技で取り扱えない領域および保健領域に関わるもの) ・ディスカッション (適宜グループで話し合いをし、より質の高い運動や演技を考える)		
6. 履修条件・他科目との関係	2年次秋期の「体育科指導法」と密接な関連性をもつ授業であることを理解し修得することが望ましい。		
7. 講義概要	○本授業では、以下に提示された小学校体育に関わるおもな学習内容を知るとともに、教育現場において本講義で身に付けた知識・技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。 ・小学校学習指導要領における体育の目標、内容をおおまかに捉え、小学校における体育の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、体育指導に必要な必要最低限の技能を身につけることができるようにする。 ・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。 1. 今日までの小学校体育科授業の位置づけについて理解することができる。 2. 小学校体育科指導に際して各運動領域における必要最低限の基本的運動技能を身につけることができる。 3. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 各自の「スポーツ感動体験」から教育観をまとめる。 課題 2 各運動領域の基礎となる運動課題を実施する。(実技試験)		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】小谷川元一著『教師と親の『共育』で防ぐ いじめ・学級崩壊』大修館書店、2007。 高橋健夫監修『優れた体育授業を観る (DVD 編)』文部科学省科学研究補助金、2007。 小谷川元一他編著『水泳の授業』大修館書店、1995。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 50% 課題 1 (レポート) 20% 課題 2 (実技試験) 30%		
12. 受講生へのメッセージ	小学校学習指導要領 (体育) に位置づけられている各領域の運動について、その特性について実技を通じながら触れることをねらいとしています。小学校教諭として体育授業実践を行う際に最低限必要な技能及び教師行動を身に付けます。高度な運動技能を求めるよりも、児童に達成感や成就感を体感させるための大切なポイントを身に付けることができます。 実技の際には運動にふさわしい服装 (ジャージ、T シャツ等。ジーパン禁止) で参加してください。 集中実技の日程および会場については、オリエンテーションで説明いたします。		
13. オフィスアワー	研究室在室時はいつでも結構です。皆さんの来室をお待ちしております。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション VTR 視聴 (テレビ朝日「バスケットボールなんて怖くない」)	事前学習	シラバスをもとに学習の見通しを持つ
		事後学習	「バスケットボールなんて怖くない」の感想をワークシートに記入する
第 2 回	講義 体育科の特性と目標 「学校体育の可能性を問い直す」	事前学習	経験から体育の特性を整理する
		事後学習	学校体育の可能性をまとめる
第 3 回	実技試験種目 (ミニマム) 練習ポイント説明	事前学習	ミニマムチェックシートを記入する
		事後学習	各種目の大切ポイント及び練習方法をする
第 4 回	各領域の運動実技を実践する 「全学年で取り上げられる体づくり運動について実技を通して学ぶ①」	事前学習	低学年体づくり運動について情報収集をする
		事後学習	低学年体づくり運動の実技指導のポイントを整理する
第 5 回	各領域の運動実技を実践する 「全学年で取り上げられる体づくり運動について実技を通して学ぶ②」	事前学習	高学年体づくり運動について情報収集をする
		事後学習	高学年体づくり運動の実技指導のポイントを整理する
第 6 回	各領域の運動実技を実践する 「器械運動領域の跳び箱・マット・鉄棒の基礎的な運動を実技について通して学ぶ」	事前学習	器械運動について情報収集をする
		事後学習	器械運動の実技指導のポイントを整理する
第 7 回	各領域の運動実技を実践する 「陸上運動領域の高跳び・幅跳び・ハードル走の基礎的な運動について実技を通して学ぶ」	事前学習	陸上運動について情報収集をする
		事後学習	陸上運動の実技指導のポイントを整理する
第 8 回	ミニマム中間試験 【課題 2】	事前学習	ミニマムチェックシートを記入する
		事後学習	不合格種目の反復練習をする
第 9 回	各領域の運動実技を実践する (期日・会場等については授業の中で説明) 「ゴール型ボール運動の基礎的な運動について実技を通して学ぶ」	事前学習	ゴール型ボール運動について情報収集をする
		事後学習	ゴール型ボール運動の実技指導のポイントを整理する
第 10 回	各領域の運動実技を実践する 「ネット型ボール運動の基礎的な運動について実技を通して学ぶ」	事前学習	ネット型ボール運動について情報収集をする
		事後学習	ネット型ボール運動の実技指導のポイント

平成 28 年度

			を整理する
第 1 1 回	各領域の運動実技を实践する 「ベースボール型ボール運動の基礎的な運動について 実技を通して学ぶ」	事前学習	ベースボール型ボール運動について情報収集をする
		事後学習	ベースボール型ボール運動の実技指導のポイントを整理する
第 1 2 回	各領域の運動実技を实践する 「表現運動及びダンスの基礎的な運動について実技を 通して学ぶ」	事前学習	表現運動及びダンスについて情報収集をする
		事後学習	表現運動及びダンスの実技指導のポイントを整理する
第 1 3 回	ミニマム最終試験 【課題 2】	事前学習	ミニマムチェックシートを記入する
		事後学習	不合格種目の反復練習をする
第 1 4 回	「スポーツ感動体験」から教育観をまとめる 【課題 1】	事前学習	スポーツ感動体験の素材収集をする
		事後学習	他学生発表の感想を記入する
第 1 5 回	学習のまとめ	事前学習	各種運動実技のポイントを整理する
		事後学習	学習全体のまとめをし、自己評価をする

1. 科目名 (単位数)	体育 (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2380						
2. 授業担当教員	小谷川 元一	5. 開講学期	春期						
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義(実技で扱えない領域・保健領域)やディスカッション、グループでの発表を行う。								
6. 履修条件・他科目との関係	特に小学校 1 種免許取得希望者は 2 年次秋期の「体育科指導法」と密接な関連性をもつ授業であることを理解し修得することが望ましい。								
7. 講義概要	<p>今の日本では生活習慣病の予防・改善や平均寿命の延伸などにより、運動やスポーツ、健康への関心が高まってきている。このことから、体育は生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために重要な科目となっている。また、子どもの体力は低下しており、幼児や児童の体力向上のために体育は重要な位置づけとなる科目である。</p> <p>この授業では、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領を踏まえ、教育現場で実際に指導を行える能力を学習していく。学習指導要領に応じて、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるようになるとともに、健康の保持増進、体力の向上を養うための技能や知識を身につけ、指導できるようになることを目的とする。また、幼稚園教育の現場で行われる運動を指導できるようにすることを目的とする。</p> <p>・幼稚園「健康」・小学校学習指導要領における「体育」の目標、内容の概要を捉え、「健康」および「体育」の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、健康・体育指導に必要な最低限の技能を身につけることができるようにする。具体的には以下の①②に示す通りである。</p> <p>①正しい運動の方法を理解し、正しく運動ができるようにする。 ②ただし各種運動を指導するためのポイントを押さえ理解する。</p> <p>・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。</p>								
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までの幼・小の体育授業の位置づけについて理解することができる。 2. 小学校体育指導に際しては、各運動領域における必要最低限の運動技能を身につけることができる。 3. 幼稚園教育の現場で行われる運動については、正しい指導ができるとともに基本的な運動の模範を見せることができるようにする 4. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1 各自の「スポーツ感動体験」から教育観をまとめる。 課題 2 各運動領域の基礎となる運動課題を実施する。(実技試験)</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】 小谷川元一著『教師と親の『共育』で防ぐ いじめ・学級崩壊』大修館書店、2007。 高橋健夫監修『優れた体育授業を観る (DVD 編)』文部科学省科学研究補助金、2007。 小谷川元一他編著『水泳の授業』大修館書店、1995。</p>								
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>課題 1 (レポート)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題 2 (実技試験)</td> <td>30%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加度	50%	課題 1 (レポート)	20%	課題 2 (実技試験)	30%
授業への積極的参加度	50%								
課題 1 (レポート)	20%								
課題 2 (実技試験)	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼稚園教育要領に位置づけられている運動遊びについて、その特性について実技を通じながら触れることをねらいとしています。幼稚園教諭として運動遊び実践を行う際に最低限必要な技能及び教師行動を身に付けます。高度な運動技能を求めるよりも、園児に達成感や成就感を体感させるための大切なポイントを身に付けることができます。</p> <p>実技の際には運動にふさわしい服装 (ジャージ、T シャツ等。ジーパン禁止) で参加してください。 集中実技の日程および会場については、オリエンテーションで説明いたします。</p>								
13. オフィスアワー	研究室在室時はいつでも結構です。皆さんの来室をお待ちしております。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション VTR 視聴 (テレビ朝日「バスケットボールなんて怖くない」)	事前学習	シラバスをもとに学習の見通しを持つ。						
		事後学習	「バスケットボールなんて怖くない」の感想をワークシートに記入する。						
第 2 回	講義 運動遊びの特性と目標 「幼児教育と運動の適時性」	事前学習	経験から運動遊びの特性を整理する。						
		事後学習	幼児期の「運動の適時性」についてまとめる。						
第 3 回	実技試験種目(ミニマム) 練習ポイント説明	事前学習	ミニマムチェックシートを記入する。						
		事後学習	各種目の大切ポイント及び練習方法をやる。						
第 4 回	各領域の運動遊びを実践する 「幼稚園で取り上げられる体づくり運動系の運動遊びについて実技を通して学ぶ」	事前学習	体づくり系運動遊びについて情報収集をする。						
		事後学習	体づくり系運動遊びの実技指導のポイントを整理する。						
第 5 回	各領域の運動遊びを実践する「幼稚園で取り上げられる鬼ごっこについて実技を通して学ぶ」	事前学習	鬼ごっこについて情報収集をする。						
		事後学習	鬼ごっこを中心とする運動遊びの実技指導のポイントを整理する。						
第 6 回	各領域の運動遊びを実践する 「器械運動系の運動遊びの基礎的な運動について実技を通して学ぶ」	事前学習	器械運動系運動遊びについて情報収集をする。						
		事後学習	器械運動系運動遊びの実技指導のポイントを整理する。						
第 7 回	各領域の運動遊びを実践する 「かけっこ、立ち幅跳び系の運動遊びの基礎的な運動について実技を通して学ぶ」	事前学習	陸上運動系運動遊びについて情報収集をする。						
		事後学習	陸上運動系運動遊びの実技指導のポイントを整理する。						

平成 28 年度

第 8 回	ミニマム中間実技試験 【課題 2】	事前学習	ミニマムチェックシートを記入する。
		事後学習	不合格種目の反復練習をする。
第 9 回	各領域の運動遊びを实践する 「ボール運動系の運動遊びの基礎的な運動について実技を通して学ぶ①」	事前学習	ボールを投げる運動遊びについて情報収集をする。
		事後学習	ボールを投げる運動遊びの実技指導のポイントを整理する。
第 10 回	各領域の運動遊びを实践する 「ボール運動系の運動遊びの基礎的な運動について実技を通して学ぶ②」	事前学習	ドッジボール系の運動遊びについて情報収集をする。
		事後学習	ドッジボール系の運動遊びの実技指導のポイントを整理する。
第 11 回	各領域の運動遊びを实践する 「ボール運動系の運動遊びの基礎的な運動について実技を通して学ぶ③」	事前学習	ボールを蹴る運動遊びについて情報収集をする。
		事後学習	ボールを蹴る運動遊びの実技指導のポイントを整理する。
第 12 回	各領域の運動遊びを实践する 「リズムダンスの基礎的な運動について実技を通して学ぶ」	事前学習	幼児期のダンスについて情報収集をする。
		事後学習	幼児期のダンスの実技指導のポイントを整理する。
第 13 回	ミニマム最終実技試験 【課題 2】	事前学習	ミニマムチェックシートを記入する。
		事後学習	不合格種目の反復練習をする。
第 14 回	「スポーツ感動体験」から教育観をまとめる 【課題 1】	事前学習	スポーツ感動体験の素材収集をする。
		事後学習	他学生発表の感想を記入する。
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	各種運動実技のポイントを整理する。
		事後学習	学習全体のまとめをし自己評価をする。

1. 科目名 (単位数)	体育 (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2380 SJMP2280						
2. 授業担当教員	田中 マキ子								
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義(実技で扱えない領域・保健領域)やディスカッション、グループでの発表を行う。	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係	特に小学校 1 種免許取得希望者は 2 年次秋期の「体育科指導法」と密接な関連性をもつ授業であることを理解し修得することが望ましい。								
7. 講義概要	<p>今の日本では生活習慣病の予防・改善や平均寿命の延伸などにより、運動やスポーツ、健康への関心が高まってきている。このことから、体育は生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために重要な科目となっている。また、子どもの体力は低下しており、幼児や児童の体力向上のために体育は重要な位置づけとなる科目である。</p> <p>この授業では、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領を踏まえ、教育現場で実際に指導を行える能力を学習していく。学習指導要領に応じて、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるようになるとともに、健康の保持増進、体力の向上を養うための技能や知識を身につけ、指導できるようになることを目的とする。また、幼稚園教育の現場で行われる運動を指導できるようにすることを目的とする。</p> <p>・幼稚園「健康」・小学校学習指導要領における「体育」の目標、内容の概要を捉え、「健康」および「体育」の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、健康・体育指導に必要な最低限の技能を身につけることができるようにする。具体的には以下の①②に示す通りである。</p> <p>①正しい運動の方法を理解し、正しく運動ができるようにする。 ②ただし各種運動を指導するためのポイントを押さえ理解する。</p> <p>・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。</p>								
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までの幼・小の体育授業の位置づけについて理解することができる。 2. 小学校体育指導に際しては、各運動領域における必要最低限の運動技能を身につけることができる。 3. 幼稚園教育の現場で行われる運動については、正しい指導ができるとともに基本的な運動の模範を見せることができるようにする 4. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1 各自の「スポーツ感動体験」から教育観をまとめる。 課題 2 各運動領域の基礎となる運動課題を実施する。(実技試験)</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】 小谷川元一著『教師と親の『共育』で防ぐ いじめ・学級崩壊』大修館書店、2007。 高橋健夫監修『優れた体育授業を観る (DVD 編)』文部科学省科学研究補助金、2007。</p>								
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>課題 1 (レポート)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題 2 (実技)</td> <td>30%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加度	50%	課題 1 (レポート)	20%	課題 2 (実技)	30%
授業への積極的参加度	50%								
課題 1 (レポート)	20%								
課題 2 (実技)	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼稚園教育要領に位置づけられている運動遊びについて、その特性について実技を通じながら触れることをねらいとしています。幼稚園教諭として運動遊び実践を行う際に最低限必要な技能及び教師行動を身に付けます。高度な運動技能を求めるよりも、園児に達成感や成就感を体感させるための大切なポイントを身に付けることができます。</p> <p>実技の際には運動にふさわしい服装 (ジャージ、T シャツ等。ジーパン禁止) で参加してください。集中実技の日程および会場については、オリエンテーションで説明いたします。</p>								
13. オフィスアワー	研究室在室時はいつでも結構です。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション および「幼児期の運動遊びの現状」	事前学習	シラバスをもとに学習の見通しを持つ。						
		事後学習	授業内容をまとめ、現状を把握する						
第 2 回	「幼児期の運動遊びの必要性について」	事前学習	運動遊びの必要性について調べておく						
		事後学習	運動遊びの必要性について授業を基にまとめる						
第 3 回	運動遊びの特性と目標 「運動遊びの実施方法について」	事前学習	経験から運動遊びの特性を整理する。						
		事後学習	幼児の運動遊びの実施方法についてまとめる。						
第 4 回	【集中実技①】 「幼稚園で取り上げられる体づくり運動系の運動遊びについて実技を通して学ぶ」	事前学習	体づくり系運動遊びについて情報収集をする。						
		事後学習	体づくり系運動遊びの実技指導のポイントを整理する。						
第 5 回	【集中実技①】 「幼稚園で取り上げられる鬼ごっこについて実技を通して学ぶ」	事前学習	鬼ごっこについて情報収集をする。						
		事後学習	鬼ごっこを中心とする運動遊びの実技指導のポイントを整理する。						
第 6 回	【集中実技①】 「マット運動を使った運動遊びの基礎的な運動・指導方法について実技を通して学ぶ」	事前学習	器械運動系運動遊びについて情報収集をする。						
		事後学習	マット運動の運動遊びの実技指導のポイントを整理する。						
第 7 回	【集中実技①】 「跳び箱を使った基礎的な運動・指導方法について実技を通して学ぶ」	事前学習	跳び箱の運動遊びについて情報収集をする。						
		事後学習	跳び箱の運動遊びの実技指導のポイントを整理する。						
第 8 回	【集中実技①】	事前学習	鉄棒の運動遊びのについて情報収集をする。						

平成 28 年度

	「鉄棒を使った基本的な運動・指導方法について実技を通して学ぶ」	事後学習	鉄棒の運動遊びの実技指導のポイントを整理する。
第 9 回	【集中実技②】 「ボール運動系の運動遊びの基礎的な運動について実技を通して学ぶ①」小さいボールを使う	事前学習	ボールを投げる運動遊びについて調べておく。
		事後学習	ボール運動の実技指導のポイントを整理する。
第 10 回	【集中実技②】 「ボール運動系の運動遊びの基礎的な運動について実技を通して学ぶ②」大きなボールを使う	事前学習	バランスボールを使つての遊びを考える。
		事後学習	バランスボールでどんな運動遊びがあるのか整理する。
第 11 回	【集中実技②】各領域の運動遊びを実践する 「ボール運動系の運動遊びの基礎的な運動について実技を通して学ぶ③」	事前学習	ボールを蹴る運動遊びについて情報収集をする。
		事後学習	ボールを蹴る運動遊びの実技指導のポイントを整理する。
第 12 回	【集中実技②】実技まとめ 「運動遊びのプログラムをつくる (グループワーク)」	事前学習	今までの実技をまとめ、プログラム作りに活かせるように整理する。
		事後学習	作成プログラムを見直し、発表がうまくできるように整理する。
第 13 回	【集中実技②】実技まとめ 「作成したプログラムの発表 (グループワーク)」	事前学習	作成プログラムを上手く発表できるようにグループ内で準備をする。
		事後学習	発表の反省点をグループ内でまとめる
第 14 回	「安全管理について」	事前学習	幼児指導の際の安全管理について調べておく。
		事後学習	授業内容を整理し、実践で活かせるようにまとめておく。
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	各種運動実技のポイントを整理する。
		事後学習	学習全体のまとめをし自己評価をする。

1. 科目名 (単位数)	多文化理解入門 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1335												
2. 授業担当教員	坂井 二郎		5. 開講学期	春期												
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表															
6. 履修条件・他科目との関係																
7. 講義概要	<p>現代はグローバル化の影響で以前にもまして人やモノが国境を越え移動するようになり、文化背景が異なる他者が日常の中で身近に存在している。その一方、文化を共有している人々の間では常識であることも、文化背景が異なると相手は自分と同じ考え方をすると限らないし、自分とは異なった行動をすることもあ。そのような文化の違いにより誤解などが生じることもあるため、「文化」の影響について知ることは多文化共生のために特に大切である。</p> <p>本講義では異なった文化背景を持つ様々な他者の理解を深めると共に、自文化、つまりは自分について理解することも目的とする。自分とは異なる文化背景を持つ他者に向かい合うことで、自分と自分が属する文化への理解を深めていく。また多文化理解を促進する態度や技能を個人ワーク、ペアワーク、グループディスカッションを通し身につけていく。</p>															
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化」という概念について理解を具体例を通し、説明できるようになる。 2. 自分とは異なった背景を持つ他者について理解できるようになる。 3. 自分自身の「文化」的背景への気づきを高め、「文化」がもたらす影響を意識できるようになる。 4. 多文化理解を促進する態度や技能を身につける。 5. 多文化共生社会の実現のために自分ができることを自分なりに考え意見をいえる。 															
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習課題は毎回指定された教科書の課題を意味する。 2. 学習プリントは授業中に配布される授業内容に関するプリントを指し毎回授業後に提出する。 3. まとめプリントは毎回授業後に配布される復習のためのプリントを指し、次回授業開始時に提出する。 4. 振り返りプリントは授業内容の総復習のためのプリントを指し、第5回と第10回の授業時に提出する。 5. 学習記録ファイルはすべての学習プリント、まとめプリント、振り返りプリントを含めた学習記録を指し、14回目の授業終了時に提出する。 															
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】原沢 伊都夫著 「異文化理解入門」 研究社。</p> <p>【参考書】授業時に指示する。</p>															
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>事前学習課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>学習プリントの提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>まとめプリントの提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>振り返りプリントの提出</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>学習記録ファイルの提出</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表</td> <td>20%</td> </tr> </table>				事前学習課題	20%	学習プリントの提出	20%	まとめプリントの提出	20%	振り返りプリントの提出	10%	学習記録ファイルの提出	10%	グループ発表	20%
事前学習課題	20%															
学習プリントの提出	20%															
まとめプリントの提出	20%															
振り返りプリントの提出	10%															
学習記録ファイルの提出	10%															
グループ発表	20%															
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は事前学習を前提に行うため、必ず事前学習課題は行うこと。 2. 授業で扱ったすべてのプリントは学習記録ファイルにまとめ、なくさないよう注意すること。 3. 携帯電話は電源から切り、かばんの中に入れておくこと。 4. 私語は授業中は決してしないこと。 5. わからないことはどのようなことでも教員に質問するよう心がけること。 6. どのようなことでもよいので積極的に意見を述べること。 															
13. オフィスアワー	初回授業時に通知します。															
14. 授業展開及び授業内容																
講義日程	授業内容	学習課題														
第1回	シラバスの説明、	事前学習	教科書の P3 から P5 まで読み大切と思うところに線を引いておく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 1 にまとめる。													
第2回	第1章:異文化を理解する (P. 19-24)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 1 とワーク 1 を教科書に書き込んでおく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 2 にまとめる。													
第3回	第2章:文化とは(その1) (P. 29-36)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 2, 3, 4 と考えよう 1 を教科書に書き込んでおく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 3 にまとめる。													
第4回	第3章:文化とは(その2) (P. 41-P52)	事前学習	授業範囲を読み、ワーク 2 と確認チェック 5 と 6 を教科書に書き込んでおく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 4 にまとめる。													
第5回	振り返り 1: 自文化を説明する	事前学習	まとめプリント 1 から 4 までを見直し、気づいたことを振り返りプリント 1 にまとめておく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 5 にまとめる。													
第6回	第4章:異文化適応 (P. 57-66)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 7 と考えよう 2 を教科書に書き込んでおく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 6 にまとめる。													
第7回	第6章:違いに気づく (P. 79-87)	事前学習	授業範囲を読み、事例 1 と事例 2 について自分の考えをノートにまとめておく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 7 にまとめる。													
第8回	第7章:異文化の認識 (P. 93-99)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 8 と 9 と考えよう 3 について自分の考えをノートにまとめておく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 8 にまとめる。													
第9回	第8章:差別を考える (P. 105-108)	事前学習	授業範囲を読み、大切だと思う部分をノートにまとめておく。													
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 9 にまとめる。													

平成 28 年度

第 1 0 回	振り返り 2: 異文化理解の問題を説明する	事前学習	まとめプリント 6 から 9 までを見直し、気づいたことを振り返りプリント 2 にまとめておく。
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 10 にまとめる。
第 1 1 回	第 9 章: 世界の価値観 (P. 117-126)	事前学習	授業範囲を読み、ワーク 5 と考えよう 5 を教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 11 にまとめる。
第 1 2 回	第 11 章: 異文化受容 (P. 143-150)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 10 と考えよう 6 を教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 12 にまとめる。
第 1 3 回	第 12 章: 自分を知る (P. 155-163)	事前学習	授業範囲を読み、ワーク 6 と 7 を教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 13 にまとめる。
第 1 4 回	第 15 章: 多文化共生社会の実現に向けて (P. 193-196)	事前学習	授業範囲を読み、ワーク 12 を自分なりに考えノートにまとめておく。学習記録ファイルの提出準備をする。
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリント 14 にまとめる。
第 1 5 回	まとめ: 多文化共生社会の実現に向けたグループ発表	事前学習	ワーク 12 のグループ発表ができるよう準備をする。
		事後学習	授業全体のまとめをノートに記録しておく。

1. 科目名 (単位数)	地域福祉論 (4 単位)	3. 科目番号	SBMP2104
2. 授業担当教員	白井 絵里子		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を学ぶとともに、地域援助技術としてのコミュニティワーク、コミュニティソーシャルネットワークの実践方法を身につける。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。 ・地域福祉の主体と対象について理解し説明できる。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について把握することができる。 ・地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法について把握し、その実際について説明できる。 ・地域福祉の推進方法（ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解し説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容の理解度を把握するため、夏季休暇終了時にレポート (3000 字程度) の提出を求める。 2. 授業内容の定着度を確保するため、第 30 回授業内でレポートを作成する。 上記のレポート課題については授業の中で指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	1. 授業への積極的参加度、授業内提出物 30% 2. 夏季休暇終了後の課題レポート 30% 3. 授業内レポート 40% 遅刻、早退は 3 回で 1 回欠席とします。私語、携帯電話の使用、無断退出等、他の学生に迷惑がかかる行為は減点の対象とします。		
12. 受講生へのメッセージ	授業を通して、地域で暮らす“市民”として求められていること、“福祉専門職”として求められていることを理解しましょう。そして授業での学びをそれぞれの立場で生きた実践につなげていってください。 履修にあたっては、真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことを期待します。シラバスに記載してある事前学習を必ずしておいてください。		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際にお伝えします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション —講義の概要、学習目標、授業の進め方についての説明 —生活課題に対応する地域福祉	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 2 回	テキスト第 1 章「新しい社会福祉システム」 —地域福祉の発展過程 —行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉	事前学習	テキスト第 1 章 (p1~20) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 3 回	テキスト第 1 章「新しい社会福祉システム」 —新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉 —福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成	事前学習	テキスト第 1 章 (p21~33) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 4 回	テキスト第 2 章「地域福祉の基本的な考え方」 —地域福祉理論の発展と広がり —地域自立生活支援と地域福祉の理念	事前学習	テキスト第 1 章 (p35~46) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 5 回	テキスト第 2 章「地域福祉の基本的な考え方」 —地域のとらえ方と福祉圏域 —地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携	事前学習	テキスト第 3 章 (p47~56) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 6 回	テキスト第 3 章「地域福祉の主体と福祉教育」 —地域福祉の推進と福祉教育 —地域福祉の推進と福祉教育の歩み	事前学習	テキスト第 3 章 (p57~67) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 7 回	テキスト第 3 章「地域福祉の主体と福祉教育」 —福祉教育の概念と内容	事前学習	テキスト第 4 章 (p68~76) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 8 回	テキスト第 4 章「行政組織と民間組織の役割と実際」 —社会福祉における地方分権化と地域福祉計画 —社会福祉協議会の役割と実際	事前学習	テキスト第 4 章 (p77~100) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。

第 9 回	テキスト第 4 章「行政組織と民間組織の役割と実際」 —社会福祉法人の役割と意義 —特定非営利活動法人の役割とボランティア活動	事前学習	テキスト第 4 章 (p101～115) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 10 回	テキスト第 4 章「行政組織と民間組織の役割と実際」 —民生委員・児童委員、保護司 —福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献	事前学習	テキスト第 4 章 (p116～132) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 11 回	テキスト第 5 章「コミュニティソーシャルワークと専門職の役割」 —コミュニティソーシャルワークの考え方 —コミュニティソーシャルワークの展開とシステム	事前学習	テキスト第 5 章 (p133～147) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 12 回	テキスト第 5 章「コミュニティソーシャルワークと専門職の役割」 —コミュニティソーシャルワークの方法 —専門多職種チームアプローチとコミュニティソーシャルワーク —専門職と住民の関係	事前学習	テキスト第 5 章 (p148～172) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 13 回	テキスト第 6 章「住民の参加と方法」 —地域福祉推進における住民参加の意義 —市町村社会福祉行政における住民参加	事前学習	テキスト第 6 章 (p173～184) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 14 回	テキスト第 6 章「住民の参加と方法」 —住民の代表性と参加方法	事前学習	テキスト第 6 章 (p185～194) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 15 回	テキスト第 7 章「ソーシャルサポートネットワーク」 —ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置 —ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ	事前学習	テキスト第 7 章 (p195～206) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 16 回	テキスト第 7 章「ソーシャルサポートネットワーク」 —事例から読みとくソーシャルサポート	事前学習	テキスト第 7 章 (p207～212) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 17 回	テキスト第 8 章「地域福祉における社会資源の活用・調整・開発」 —社会資源の活用と開発 —ニーズ対応型福祉サービスの開発	事前学習	テキスト第 8 章 (p213～228) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 18 回	テキスト第 8 章「地域福祉における社会資源の活用・調整・開発」 —税制優遇と助成金の活用 —福祉でまちづくりとソーシャルアクション	事前学習	テキスト第 8 章 (p229～238) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 19 回	テキスト第 9 章「地域における福祉ニーズの把握方法と実際」 —地域福祉におけるアウトリーチの意義	事前学習	テキスト第 9 章 (p239～243) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 20 回	テキスト第 9 章「地域における福祉ニーズの把握方法と実際」 —地域における福祉ニーズの把握方法と実際	事前学習	テキスト第 9 章 (p244～252) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 21 回	テキスト第 10 章「地域トータルケアシステムの構築と実際」 —地域トータルケアシステムの必要性と考え方 —地域トータルケアシステムの展開方法	事前学習	テキスト第 10 章 (p253～269) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 22 回	テキスト第 10 章「地域トータルケアシステムの構築と実際」 —地域トータルケアシステムの事例 —ソーシャルケア従事者の研修と組織化	事前学習	テキスト第 10 章 (p270～279) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 23 回	テキスト第 11 章「地域における福祉サービスの評価方法と実際」 —福祉サービスの評価を必要とする背景 —評価の考え方	事前学習	テキスト第 11 章 (p281～288) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 24 回	テキスト第 11 章「地域における福祉サービスの評価方法と実際」 —福祉サービスの評価の方法と実際 —福祉サービスのプログラム評価とその展開	事前学習	テキスト第 11 章 (p289～298) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 25 回	テキスト第 13 章「日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方」 —イギリス	事前学習	テキスト第 13 章 (p313～322) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 26 回	テキスト第 13 章「日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方」 —アメリカ	事前学習	テキスト第 13 章 (p323～329) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項

			(重要項目、キーワード等)についてまとめる。
第 27 回	テキスト第 12 章「災害支援と地域福祉」 —災害支援の考え方と方法	事前学習	テキスト第 12 章 (p299~306) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 28 回	テキスト第 12 章「災害支援と地域福祉」 —災害支援の実際	事前学習	テキスト第 12 章 (p307~312) を読んでおく。
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項 (重要項目、キーワード等) についてまとめる。
第 29 回	学習してきた内容の振り返りとポイントの確認	事前学習	これまで学習した内容を振り返り、理解が不十分である点を明らかにしてくる。
		事後学習	重要事項の整理と確認を行い、知識の補足を行っておく。
第 30 回	これまで学習してきた内容についての確認 (授業内でレポートを作成)	事前学習	これまで学習してきた内容について復習しておく。
		事後学習	レポート作成を通して地域福祉の意義と役割を考察し、自らが今後取り組むべき課題はどのようなものかを明確にしておく。

1. 科目名(単位数)	地域福祉論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2104 SCMP2104
2. 授業担当教員	櫻井 猛		
4. 授業形態	講義、グループビデオ学習 ディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を学ぶとともに、地域援助技術としてのコミュニティワーク、コミュニティソーシャルネットワークの実践方法を身につける。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。 ・地域福祉の主体と対象について理解し説明できる。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について把握することができる。 ・地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法について把握し、その実際について説明できる。 ・地域福祉の推進方法（ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解し説明できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	自分にとって一番身近に感じられる地域社会を選び、その地域社会の歴史、風土、地勢、戦前戦後の住民の生活、戦後の変遷、現在の地域福祉の状況について調査し、レポートを提出する。 以上、3000字程度にまとめて夏期休校期間終了時に提出するものとする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説（初等教育編）』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度とレポート等を総合して行う。 1. レポート 総合点の 30% 2. 期末試験 総合点の 60% 3. 出席状況と授業への積極的参加度 総合点の 10% その他、実践活動のビデオ感想文の評価を含む 評価方法は試験を行い 60 点以上を可とする。なお、ボーダーラインの学生については、毎回行っているレポートの評価及び夏休みの宿題レポートを重視する。		
12. 受講生へのメッセージ	1、自分なりの専門職としての将来設計をもって、積極的な態度で授業に出席する。 2、授業のための予習を必ずしておくこと。 3、携帯電話は電源を切り、机の上に置かないこと。		
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション（シラバス、講義概要。レポートについての説明等）、地域福祉の事例紹介	事前学習	第 1 章 地域福祉とコミュニティの予習 pp. 1～19
		事後学習	内容の確認と講義の整理
第 2 回	新しい社会福祉システム 地域福祉の発展過程、行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉	事前学習	第 1 章 地域福祉とコミュニティの予習 pp. 1～19
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 3 回	新しい社会福祉システム 新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉、福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成	事前学習	第 1 章 地域福祉とコミュニティの予習 pp. 1～19
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 4 回	地域福祉の基本的な考え方 地域福祉理論の発展と広がり、地域自立生活支援と地域福祉の理論	事前学習	第 2 章 歴史と理論の予習 pp. 28～49
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 5 回	地域福祉の基本的な考え方 地域のとらえ方と福祉圏域、地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携	事前学習	第 2 章 歴史と理論の予習 pp. 28～49
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 6 回	地域福祉の主体と福祉教育 地域福祉の主体と福祉教育、地域福祉の主体と福祉教育の歩み	事前学習	第 3 章 福祉教育の予習 pp. 50～67
		事後学習	内容の確認と講義の整理
第 7 回	地域福祉の主体と福祉教育 福祉教育の概念と内容	事前学習	第 3 章 福祉教育の予習 pp. 50～67
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 8 回	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉における地方分権と地域福祉計画、社会福祉協議会の役割と実際	事前学習	第 4 章 行政と民間の予習 pp. 72～117
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 9 回	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉法人の役割と実際、特定非営利法人の役割と実際のボランティア活動	事前学習	第 4 章 行政と民間の予習 pp. 72～117
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 10 回	行政組織と民間組織の役割と実際 民生委員・児童委員、保護司、福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献	事前学習	第 4 章 行政と民間の予習 pp. 72～117
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 11 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割	事前学習	第 5 章 専門的支援の予習 pp. 174～191

	コミュニティソーシャルワークの考え方、コミュニティソーシャルワークの展開とシステム	事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 2 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 コミュニティソーシャルワークの方法、専門多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク	事前学習	第 5 章 専門的支援の予習 pp. 174～191
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 3 回	住民参加と方法 地域福祉推進における住民参加の意義、市町村社会福祉行政における住民参加	事前学習	第 6 章 住民参加の予習 pp. 150～173
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 4 回	住民参加と方法 住民代表性と参加方法	事前学習	第 6 章 住民参加の予習 pp. 150～173
		事後学習	内容の確認と講義の整理
第 1 5 回	ソーシャルサポートネットワーク ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置、ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ	事前学習	第 7 章 専門的ネットワークの予習 pp. 174～
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 6 回	ソーシャルサポートネットワーク ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク	事前学習	第 7 章 専門的ネットワークの予習 pp. 174～
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 7 回	地域における社会資源活用・調整・開発 社会資源の概要、社会資源の活用法とコーディネーター	事前学習	第 8 章 社会資源の予習 pp. 192～215
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 8 回	地域における社会資源活用・調整・開発 福祉サービスの開発、税制優遇と助成金の活用	事前学習	第 8 章 社会資源の予習 pp. 192～215
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 9 回	地域における社会資源活用・調整・開発 福祉でまちづくりとソーシャルアクション	事前学習	第 8 章 社会資源の予習 pp. 192～215
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 0 回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際 地域福祉におけるアウトリーチの意義、質的な福祉ニーズの把握方法と実際	事前学習	第 9 章 ニーズの予習 pp. 216～233
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 1 回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際 量的な福祉ニーズの把握方法と実際	事前学習	第 9 章 ニーズの予習 pp. 216～233
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 2 回	地域トータルケアシステムの構築と実際 地域トータルケアシステムの必要性と考え方、地域トータルケアシステムの展開方法	事前学習	第 10 章 トータルケアの予習 pp. 234～157
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 3 回	地域トータルケアシステムの構築と実際 地域トータルケアシステムの事例、ソーシャル従事者の研修と組織化	事前学習	第 10 章 トータルケアの予習 pp. 234～157
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 4 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスの評価を必要とする背景、評価の考え方	事前学習	第 11 章 サービス評価の予習 pp. 258～275
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 5 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスの評価の方法と実際	事前学習	第 11 章 サービス評価の予習 pp. 258～275
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 6 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスのプログラム評価とその展開	事前学習	第 11 章 サービス評価の予習 pp. 258～275
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 7 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 イギリス	事前学習	第 11 章 サービス評価の予習 pp. 258～275
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 8 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 アメリカ	事前学習	第 11 章 サービス評価の予習 pp. 258～275
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 9 回	これからの地域福祉の方向性について（グループに分かれて討論）	事前学習	今までの学習の整理
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 3 0 回	総まとめ	事前学習	今までの学習の整理
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	知的障害教育 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3448
2. 授業担当教員	金川 朋子		SCMP3448
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、知的障害のある児童生徒の教育に関する理念に触れながら、わが国の知的障害教育の基礎について学んでいく。関連法令や学習指導要領に根拠を置いた教育課程、すなわち、各教科、領域、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習）の内容について理解を深めていく。また、知的障害にしばしば合併する、自閉症スペクトラム、肢体不自由や感覚障害（視覚・聴覚など）、病弱虚弱（腎臓疾患、喘息等）にも触れながら、その幅広い実態について理解を図る。その上で、各種アセスメントや専門的な療育技法、専門家との連携の実態についても紹介し、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成に役立てていく。		
8. 学習目標	①特別支援教育の概要と知的障害教育の特徴がわかる。 ②知的障害、発達障害の定義や特性がわかる。 ③知的障害教育の教育課程編成上の留意点 ④各教科等を合わせた指導の内容・方法の概要がわかる。 ⑤個別の教育支援計画・個別の指導計画等各種教育計画がわかる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。		
10. 教科書・参考書・教材	文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚園・小学部・中学部)』教育出版。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部・高等部)』海文堂。 小林芳文・大橋さつき・飯村敦子編著『発達障がい児の育成・支援とムーブメント教育』大修館書店。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)		
12. 受講生へのメッセージ	「知的障害教育 I・II」では、特別支援学校や特別支援学級の現場で即戦力となりうる教員養成のための講座になります。『成すことによって学ぶ』をモットーに、実技・演習を中心に進めていきます。各講義では、児童生徒の立場と教師としての教える立場の二つの視点に立ち、教育実践力を高めることを目標に積極的に受講してください。教師には、イメージ力が必要です。豊かな感性、創造力を存分に発揮してください。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義で詳細を伝えます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	①オリエンテーション ②知的障害教育とは	事前学習	「知的障害教育」についての自分の考えを 200 字程度にまとめる。
		事後学習	「本講座で学びたいこと・目標」を 200 字程度にまとめる。
第 2 回	自立活動の指導 (1) 健康の保持 ムーブメント教育を活用した自立活動の指導①	事前学習	「自立活動の 6 区分の目標と指導内容」について、まとめておく。
		事後学習	自立活動「健康の保持」の内容についてまとめ、具体的な指導内容を考える。
第 3 回	自立活動の指導 (2) 心理的な安定 ムーブメント教育を活用した自立活動の指導②	事前学習	自立活動「心理的な安定」について、その目標と内容について、調べる。
		事後学習	自立活動「心理的な安定」の内容をまとめ、具体的な指導内容を考える。
第 4 回	自立活動の指導 (3) 人間関係の形成 ムーブメント教育を活用した自立活動の指導③	事前学習	自立活動「人間関係の形成」について、その目標と内容について、調べる。
		事後学習	自立活動「人間関係の形成」の内容をまとめ、具体的な指導内容を考える。
第 5 回	自立活動の指導 (4) 環境の把握 ムーブメント教育を活用した自立活動の指導④	事前学習	自立活動「環境の把握」について、その目標と内容について、調べる。
		事後学習	自立活動「環境の把握」の内容をまとめ、具体的な指導内容を考える。
第 6 回	自立活動の指導 (5) 身体の動き ムーブメント教育を活用した自立活動の指導⑤	事前学習	自立活動「身体の動き」について、その目標と内容について、調べる。
		事後学習	自立活動「身体の動き」の内容をまとめ、具体的な指導内容を考える。
第 7 回	自立活動の指導 (6) コミュニケーション ムーブメント教育を活用した自立活動の指導⑥	事前学習	自立活動「コミュニケーション」について、その目標と内容について、調べる。
		事後学習	自立活動「コミュニケーション」の内容をまとめ、具体的な指導内容を考える。
第 8 回	知的障害教育の実際に学ぶ ー知的障害に関する学外施設見学もしくは外部講師による講義ー ※相手先の都合により変更の可能性あり	事前学習	事前に配付する資料を読み、知的障害教育の指導内容・方法に関する疑問点をまとめる。
		事後学習	知的障害教育の指導内容・方法に関して学んだ事をまとめる。

第 9 回	知的障害教育における学習指導 (1) －教科・領域を合わせた指導教材作り (1)－	事前学習	事前に示した課題に応じた教材作りのために必要な物を準備し、持参する。
		事後学習	「教科・領域を合わせた指導」について、具体的な指導のねらいとその内容を考える。
第 10 回	知的障害教育における学習指導 (2) －教科・領域を合わせた指導 教材作り (2)－	事前学習	事前に示した課題に応じた教材作りのために必要な物を準備し、持参する。
		事後学習	「教科・領域を合わせた指導」について、具体的な指導のねらいとその内容を考える。
第 11 回	知的障害教育における学習指導 (3) －教科・領域を合わせた指導教材作り (3)－	事前学習	事前に示した課題に応じた教材作りのために必要な物を準備し、持参する。
		事後学習	「教科・領域を合わせた指導」について、具体的な指導のねらいとその内容を考える。
第 12 回	知的障害教育における学習指導 (4) －キャリア教育－	事前学習	「キャリア教育」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「キャリア教育」について、具体的な指導のねらいとその内容をまとめる。
第 13 回	知的障害教育における学習指導 (5) －情報機器の活用－	事前学習	知的障害教育における「情報機器の活用」について、調べる。
		事後学習	知的障害教育における「情報機器の活用」による、効果と配慮事項をまとめる。
第 14 回	知的障害教育における学習指導 (6) －特別活動・交流及び共同学習・道徳－	事前学習	「特別活動・交流および共同学習・道徳」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「特別活動・交流および共同学習・道徳」について、指導内容等をまとめる。
第 15 回	まとめ －これからの知的障害教育について－	事前学習	全講義を振り返り、これからの知的障害教育の在り方について考えをまとめる。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート (800～1000 字) を作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	知的障害者の心理・生理・病理 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2450
2. 授業担当教員	金川 朋子		SCMP2450
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば補講期間などに関連施設の見学を入れる。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	知的障害特別支援学校の在籍児童生徒はいま、その大半が自閉症である。特別支援教育に関わる教員を目指すのであれば自閉症に関する知識、理解を深めることは必須の条件であり、本講座では主に自閉症児者の心理や病理にスポットを当てて講義を進めていく。また昨今では特別支援学校高等部に在籍する軽度知的障害がある生徒が起す問題行動がクローズアップされている。ダウン症などその他の知的障害も含め、特別支援学校児童生徒の理解に必要な基礎的、基本的知識をベースにしながら彼らの生活全般に係る指導・支援の方法についてともに考えていく。講義ではスライドや画像、動画、独自の資料を多用し、積極的なグループディスカッションを取り入れ、より実践的に学ぶ。		
8. 学習目標	以下に関して学習し理解を深め、指導実践力を高める。 1. 知的障害に関する基礎的、基本的な知識を理解し、説明することができる。 2. 特に自閉症についてはその発生原因から発達過程、行動特性などについて知り、学校現場での支援方法について考えを述べるすることができる。 3. 各種発達検査の目的、種類、方法、アセスメントについて理解し、説明することができる。 4. ダウン症やその他の知的障害についても理解を深め、説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 国立特別支援教育総合研究所著『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』ジアース教育新社。 【参考書】 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚園・小学部・中学部)』教育出版。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部・高等部)』海文堂。 小林芳文・大橋さつき・飯村敦子編著『発達障がい児の育成・支援とムーブメント教育』大修館書店。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)		
12. 受講生へのメッセージ	知的障害特別支援学校には、知的障害を併せ持つ自閉症の生徒が多く在籍している。近視の者が眼鏡を着用することで、生活での混乱が解消します。障害のある子どもに対する眼鏡に対応する教育的支援をどのように支援していけばいいか、具体的に考えます。実際に、教育的支援ツールを作成し、障害の特性に応じた指導の在り方を考えたいと思います。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義で詳細を伝えます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	①オリエンテーション ②知的障害について	事前学習	知的障害児・者と触れ合った経験について説明できるよう 200 字以内にまとめる。
		事後学習	知的障害の定義についてまとめる。
第 2 回	知的障害の特性と実態把握について	事前学習	「知的障害の特性」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「知的障害の特性に応じた指導」について、まとめる。
第 3 回	自閉症について (1) －定義、発達過程等－	事前学習	「自閉症の定義」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「自閉症の特性に応じた指導」について、まとめる。
第 4 回	自閉症について (2) －心理特性、行動特性－	事前学習	「自閉症の行動特徴」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「自閉症の特性に応じた指導」について、まとめる。
第 5 回	自閉症について (3) －学校における指導・支援の手立て①－	事前学習	「自閉症の障害特性に応じた教育支援ツールについて、調べる。
		事後学習	「自閉症の障害特性」に応じた教育的支援、指導方法を考え、まとめる。
第 6 回	自閉症について (4) －学校における指導・支援の手立て②－	事前学習	「自閉症の障害特性に応じた教育支援ツールについて、調べる。
		事後学習	「自閉症の障害特性」に応じた教育的支援、指導方法を考え、まとめる。
第 7 回	自閉症について (5) －医療、福祉、就労、社会生活の現状－	事前学習	「自閉症の就労の現状」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「自閉症の障害特性」に応じた社会的支援、指導方法を考え、まとめる。

第 8 回	その他の知的障害について (1) ダウン症について — 定義・特徴・心理的特性・行動特性—	事前学習	「ダウン症」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「ダウン症の特性に応じた指導」について、まとめる。
第 9 回	その他の知的障害について (2) 「脳性まひ」について — 定義・特徴・心理的特性・行動特性—	事前学習	「脳性まひ」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「脳性まひのある子どもに応じた指導」について、まとめる。
第 10 回	知的障害児・者のある子どもの教育 — 知的障害児・者に関する学外施設見学もしくは外部講師による講義—※都合により変更の可能性あり	事前学習	事前に配布した資料を読み、指導内容、支援方法について、学びたいことをまとめる。
		事後学習	知的障害児・者の教育的支援の在り方について、まとめる。
第 11 回	実態把握 (アセスメント) について — 発達検査、行動観察ほか— ムーブメント教育による教育的支援①	事前学習	「発達検査」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「発達検査」について、その教育的意義について、まとめる。
第 12 回	知的障害児者の支援システムについて — 早期発見、早期療育から— ムーブメント教育による教育的支援②	事前学習	「早期療育」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「早期療育」について、その教育的意義について、まとめる。
第 13 回	障害に応じた教育的支援方法について (1) — 障害の特性に応じた教材づくり—	事前学習	「障害の特性に応じた教材」を作成に必要な情報、準備物を用意する。
		事後学習	「障害の特性に応じた教材」を作成に必要な情報、準備物を用意する。
第 14 回	障害に応じた教育的支援方法について (2) — 障害の特性に応じた教材づくり—	事前学習	「障害の特性に応じた教材」を作成に必要な情報、準備物を用意する。
		事後学習	「障害の特性に応じた教材づくり」を通して、学んだ事をまとめる。
第 15 回	知的障害・自閉症児者を取り巻く最新事情 — 教育課題、最新支援ツールの紹介ほか—	事前学習	全講義を振り返り、知的障害者の特性に応じた教育について、自分の意見をまとめる。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート (800～1000 字) を作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語 I (2 単位)	3. 科目番号	GECM1313 GECM1323
2. 授業担当教員	張 岩		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>初心者を対象に、中国語の基礎訓練を行う。やさしく、正確に、しかも気軽に話せるように、まず簡単な会話の訓練から始める。同時に、古来より日本にはかりしれない影響を与え続けてきた、「隣の国」中国の文化と歴史についても学習していく。国連公用語に指定されている、国際語としての中国語の言語的特徴(リズムカルな美しい音調等)を理解し、簡単な会話であれば、気軽に正確に使えるようになることを目指し、学習を進めていく。また、今、経済成長を遂げ、国際的にも発言力を増してきた中国について、言語と文化、そして人びとの暮らしを通して理解し、これからの交流の機会に役立てていく授業である。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 中国語の発音と文法の概略を知り、自ら学習を進展させることができるようになるための基礎を身につける。 ピンイン(ローマ字による中国語発音表記システム)の読み方と綴り方、常用の単語、日常の挨拶語、単文の基本文型などを学ぶことで、中国語の各音節が声調を伴って正確に発音でき、基本的な表現構造を理解できるようになる。 授業では簡単な受け答えや聞き取り・書き取りなどの練習を通して、簡単な会話が聞き取れ、話せるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>授業中の口頭発表：随時、ディスカッション後(授業に対しての理解を確認する、個人の見解を述べて、皆で考える)。 授業中及び授業後のドリル：一課毎(勉強した内容を振り返って、理解を強化する) レポート：1～2回(映画などを見て考えよう。命題。800～1200文字) 小テスト、まとめドリル(採点あり)：学期中、期末(学習内容がどれくらい習得したのかを確かめる)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】陳淑梅・劉光赤著『しゃべっていいとも中国語(中西君と一緒に中国へ行こう)』朝日出版社。(履修にあたって、教科書は必ず用意すること) 【参考書】(任意) ○中国語辞書 ○瀬戸口 律子著『完全マスター中国語の文法 改訂版』 ○竹内 実著『北京』文芸春秋社。 ○沈潔 著『地域福祉と福祉NPOの日中比較研究』日本僑報社。 ○その他、インターネットなど</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業の参加、予習・復習、課題の作成などを総合的に評価する。 授業への参加(出席率・授業態度・宿題・個別発表) 40% 授業中ドリル・まとめドリル 30% レポート 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>発音が難しいといわれる中国語ですが、ルールやコツを覚えてしまえば大丈夫。漢字をもつ日本人には、とても学びやすい外国語といえます。しかし、共通点が多い反面、「日本語と異なった外国語である」としっかり認識しておかないと、日本語との混同や誤用が習得の邪魔になることも。また、この授業を通して、中国語だけではなく、ビデオや映画などを楽しみながら、言語とその背景にある文化や人々の暮らしを学んでいきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業時間の前後に設ける		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義概要・学習目標・注意事項などの説明 グループ分け ディスカッションと指導：中国と中国語のイメージ	事前学習	中国と中国語について考えよう：知っている事、知ってみたい事
		事後学習	要点をノートにまとめる。確かめたいものはインターネットや図書館で調べてみる 教科書、ノートを用意
第2回	発音記号と声調Ⅰ(母音、子音、組み合わせ)(教科書第1～4課より、中国語基本音節表)	事前学習	予習：教科書P2-P3、P9-P10、P13-P14 (内容を読んで理解する)
		事後学習	復習：発音記号と声調Ⅰの内容(授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする)
第3回	①教科書P11、P15ドリル ②発音記号と声調Ⅱ(母音の鼻音、声調)(教科書第1～4課より、中国語基本音節表)	事前学習	予習：教科書P5-P6、P17-P18 (内容を読んで理解する)
		事後学習	復習：発音記号と声調Ⅱの内容(授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする。教科書のドリルで間違えたところをまとめる)
第4回	①教科書P7、P19ドリル ②発音記号と声調Ⅲ(変調、r化、軽声) ③簡単なあいさつから発音を練習(教科書第1～4課より)	事前学習	予習：教科書P5-P6、P17-P18 (内容を読んで理解する)
		事後学習	復習：発音記号と声調Ⅲの内容(授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする。教科書のドリルで間違えたところをまとめる)
第5回	①小テスト(発音記号と声調の確かめ) ②中国いろいろ(ビデオ*)	事前学習	復習：発音記号と声調Ⅰ～Ⅲの内容(授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする)
		事後学習	小テストで間違えたところをまとめる

			第 1～4 課の挨拶用語を暗記する
第 6 回	教科書第 5 課「出迎える」 (名前の言い方と尋ね方)	事前学習	予習：教科書 P20-P22 (内容を読んで理解する、新出単語を発音して覚えてみよう)
		事後学習	復習：教科書第 5 課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする) 教科書 P24-25 ドリル
第 7 回	①教科書第 5 課 P23 ②教科書 P24-25 ドリルの答え合わせ ③教科書第 6 課「歓迎パーティー」 (動詞“是”、助詞“的”)	事前学習	予習：教科書 P26～P27 (内容を読んで理解する)
		事後学習	復習：教科書第 6 課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる)
第 8 回	①教科書第 6 課 P28-P29 ②教科書 P30-31 ドリル ③映画「霸王別姫」とその時代背景 (資料配布)	事前学習	教科書 P28、新出単語を発音して覚えて、第 6 課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第 6 課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる) 映画「霸王別姫」の時代背景について、資料を読む、調べる (インターネット、図書館など)
第 9 回	映画：「霸王別姫」 I	事前学習	映画「霸王別姫」とその時代背景 (資料などを用意)
		事後学習	映画の内容をノートにまとめる
第 10 回	映画：「霸王別姫」 II	事前学習	映画「霸王別姫」とその時代背景 (資料などを用意)
		事後学習	映画の内容をノートにまとめる
第 11 回	①教科書第 7 課「タクシーに乗る」 (基本語順、連動文) ②ディスカッションと指導、「霸王別姫」レポート設題について	事前学習	映画の資料やノート、調べた内容を用意 予習：教科書 P32～P33 (内容を読んで理解する)
		事後学習	復習：教科書第 7 課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめる) ディスカッションの内容をノートにまとめる、レポートの主旨を決める、レポートを書く
第 12 回	①教科書第 7 課 P34-35 ②教科書 P36-37 ドリル	事前学習	教科書 P34、新出単語を発音して覚えて、第 7 課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第 6 課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる)
第 13 回	教科書第 8 課「宿泊する」 (能願動詞“想”、動詞“有”) レポート提出	事前学習	予習：教科書 P38～P40 (内容を読んで理解する 新出単語を発音して覚えてみよう) レポートを用意
		事後学習	復習：教科書第 8 課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする) 教科書 P42-43 ドリル
第 14 回	①教科書第 8 課 P40-41 ②教科書 P42-43 ドリルの答え合わせ ③ 1～8 課復習練習問題	事前学習	予習：教科書 P40、新出単語を発音して覚えて、第 8 課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第 8 課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる) 総復習：1～8 課の授業でノートにメモした内容や、教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる、1～8 課復習練習問題を覚える
第 15 回	学習のまとめ (まとめドリル)	事前学習	ノート、教科書、プリントを整理して用意
		事後学習	「学習のまとめ」で間違えたところをまとめる

1. 科目名 (単位数)	データベース演習 I (2 単位)	3. 科目番号	EDIT3313
2. 授業担当教員	舘 秀典		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、リレーショナルデータベースに関する基礎知識を、演習を通して考える。データベース、データモデルなどの概念を理解するとともに、データベースの効率的な検索技法を身につけることを目標とする。また、関係データベースを利用するための言語である、SQL 言語の基礎を解説し、SQL 言語を用いた基礎的な演習を行う。		
8. 学習目標	現在、主流であるリレーショナルデータベースの仕組みについて学ぶだけではなく、データベース管理システムの歴史と、それらの管理システムを可能にしたハードウェアの仕組み、数学の概念、ソフトウェアの基本も学ぶことを目標とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義中に都度提示		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】初回授業時に指示する 【参考書】北川 博之『データベースシステム』オーム社 増永良文『データベース入門』サイエンス社 増永良文『リレーショナルデータベース入門』サイエンス社		
11. 成績評価の方法	参加態度 40% 提示課題 40% 最終課題 20%		
12. 受講生への メッセージ	事前学習を怠らないこと。やむを得ず欠席した場合は各自で補完すること。 データベース演習 II への基礎となるため確実な理解を。		
13. オフィスアワー	講義初回にて提示		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	データベースの基本概念	事前学習	データベースが利用されているケースを考える
		事後学習	データベースの概念をまとめる
第 2 回	概念モデル、実体関連図	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	ER 図を書いてみる
第 3 回	データモデルについて	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	各種データモデルについてまとめる
第 4 回	リレーショナルモデルの基本概念	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	内容を振り返り各自まとめる
第 5 回	正規化	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	配布された演習課題を解く
第 6 回	データベースの概念設計	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	実体関連モデルについて理解を深める
第 7 回	データベース言語 (1)	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	データの定義、操作言語についてまとめる
第 8 回	データベース言語 (2)	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	データの定義、操作言語についてまとめる
第 9 回	トランザクション	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	トランザクション処理について各自まとめる
第 10 回	障害回復	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	ログ、アルゴリズムについて復習する
第 11 回	設計演習	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	配布された演習課題を解く
第 12 回	問い合わせ処理 (1)	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	関係演算のアルゴリズムとコストについて復習する
第 13 回	問い合わせ処理 (2)	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	関係演算のアルゴリズムとコストについて復習する
第 14 回	その他のデータベース	事前学習	配布されたプリントを参照し、用語を理解する
		事後学習	その他のデータベースについて特徴をまとめる
第 15 回	総括・課題	事前学習	これまでの疑問点を洗い出しておく
		事後学習	半期のまとめを行い課題に取り組む

1. 科目名 (単位数)	統計学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1321 GELA1342
2. 授業担当教員	丹野 宏昭		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション形式の授業を行います	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	心理学基礎実験、心理学研究法の講義を受講する際は、この講義を先に履修してください		
7. 講義概要	我々の身の回りには実に多くの統計的データが存在する。しかし、それらについての正しい見方を知らない、日常生活において重大な間違いを犯してしまうことにもなりかねない。理系・文系の枠に関係なく、統計学の知識は、データを正しく読み取り、正しく理解するために必要な教養のひとつである。この統計学のクラスでは、統計に対する正しい知識を身につけることと、将来自分でデータを集め分析できるようになることを目標に、統計学の基本的な概念の紹介から始まり、記述統計、推測統計まで幅広く学習していく予定である。		
8. 学習目標	日常生活における統計学的なものの見方・考え方を身につけるとともに、レポート・論文の中に記載された統計に関する記述箇所を正しく読み取れるようになることが、本講義の主たる学習目標である。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各授業後にその日の講義内容に関する宿題プリントを課します。講義、演習は前回の内容を踏まえて行われるため、プリントを用いて必ず復習をして、講義の内容を確実に理解するようにしてください。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 その他、参考図書については授業中に適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	授業態度・授業への積極的参加度 30% 小テスト 30% 期末試験 40%		
12. 受講生へのメッセージ	授業中に電卓を使用しますので、 $\sqrt{\quad}$ (ルート) の計算ができる電卓を毎回持参してください (携帯不可)。数字や数式が出てくるからと身構える必要はありませんが、気を抜くと分からなくなります。毎回高い緊張感と積極的な態度で授業に臨んでください。 講義内容はすべて教科書の内容に基づいています。講義中によく分からなかったところについては、次回までに教科書を何度もよく読みこんでおいてください。復習が何より大切です。また、学生の理解度によって授業内容を変更する場合があります。遅刻、無断欠席、途中退席は原則禁止します。繰り返しになりますが、一度聞き逃すと、その後の授業についていけなくなります。		
13. オフィスアワー	詳細な時間は授業開始後に指示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス	事前学習	計算機の使用法 (ルートを含む) を確認する。
		事後学習	ガイダンス内容を踏まえ、教科書を読んでこれから学習する内容を理解する。
第 2 回	データの分類、さまざまな代表値	事前学習	教科書 1 章および 2 章を熟読する。
		事後学習	データの分類法と各種代表値の算出法に関する宿題を行い理解不足な点が無いか確認する。
第 3 回	散布度：分散、標準偏差	事前学習	教科書 2 章を再度確認する。
		事後学習	宿題を行い分散と標準偏差の算出方法を復習する。
第 4 回	散布図と共分散、因果関係と相関関係、相関係数	事前学習	教科書 3 章を熟読する。
		事後学習	宿題を行い相関係数の算出方法を確認するとともに、正の相関、負の相関のイメージを再確認する。
第 5 回	相関係数の見方、連関係数	事前学習	教科書 3 章を再度確認する。
		事後学習	宿題を行い、相関係数の数値の見方を復習する。また、連関係数の算出法を確認する。
第 6 回	標準化と偏差値の求め方	事前学習	教科書 4 章を熟読する。
		事後学習	宿題を行い z 値と偏差値の算出法を復習する。
第 7 回	正規分布の特徴とその利用	事前学習	教科書 4 章を再度確認する。
		事後学習	宿題を行い正規分布のイメージを再確認するとともに、正規分布と標準偏差との関係を理解する。
第 8 回	記述統計のまとめ	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、これまでに学んだ数値の算出法を確認する。
		事後学習	理解不足な点を復習する。
第 9 回	記述統計から推測統計へ	事前学習	教科書 5 章を熟読する。
		事後学習	宿題を行い記述統計と推測統計の違いを確認する。
第 10 回	統計的仮説検定 (1) : 検定手順の理解	事前学習	教科書 5 章を再度確認する。
		事後学習	宿題を行い検定の手順を確認する。
第 11 回	統計的仮説検定 (2) : 両側検定・片側検定、有意水準、検定における 2 種の過誤	事前学習	教科書 5 章を再度確認する。
		事後学習	宿題を行い両側検定と片側検定の違いを理解する。「有意差がある」とはどういうことか、再確認する。統計的検定が万能ではないことを理解し、誤りのパターンを確認する。

平成 28 年度

第 1 2 回	標準正規分布を用いた検定	事前学習	教科書 5 章（特に 8 節）を熟読する。
		事後学習	宿題を行い手順に従って標準正規分布を用いた検定法を復習する。
第 1 3 回	対応のない t 検定	事前学習	教科書 6 章（特に 1～3 節）を熟読する。
		事後学習	宿題を行い対応の無い t 検定の方法を復習する。「対応がある」「対応が無い」とはどういうことか理解する。
第 1 4 回	対応のある t 検定	事前学習	教科書 6 章（特に 4、5 節）を熟読する。
		事後学習	宿題を行い対応のある t 検定の方法を復習する。対応の無い t 検定との違いを確認する。
第 1 5 回	まとめと 3 水準以上の平均値の比較	事前学習	これまでの内容を振り返り、各種記述統計値の算出法と、3 つの仮説検定の方法を復習する。教科書 7 章を熟読する。
		事後学習	総復習を行い期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	道徳教育の研究 (初等) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3396 SJMP3296 EDTE3307
2. 授業担当教員	倉澤 達雄		5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>道徳というのは大人がしたり顔で説教でも教科書に羅列されている題目でもなく、私たちの身近にあるものである。たとえば、「あれかこれか」という二つ以上の選択肢にぶつかったときに、私たちはどの道を選ぶのがよいのかという価値判断に迫られる。このような、よさ・悪さ、xxすべき、といった当為・価値判断に関わる問題はすべて道徳的、倫理的問題だと言える。この意味では、私たちは道徳とともに毎日の生活を送っている。</p> <p>自分の価値判断が、自分の考えや行動、自分の生き方の内部だけで完結するのであれば、それほどたくさん問題は出てこないのかもしれない。しかし自分の価値判断はほとんどの場合、他人を巻き込む。つまり、道徳の問題は個人的であると同時に社会性をもつものである。異なる道徳規範をもった人が二人以上集まる時(私たちの実際の生活のほとんどあらゆる場がそれに該当する)、そこは衝突と妥協と調整の場となる。</p> <p>このような価値判断のぶつかり合いの連続である現実をどのように生き抜いていけるのか、またそれを次の世代の子どもたちにどのように伝えていったらよいかを考えるために、本講義では縦軸(日本の歴史の中で道徳規範がどのように変化してきたか)と横軸(他の社会や文化圏ではどのような道徳規範が機能しているか)の両方に目を配り、今の自分も持っている道徳観念や価値基準を見つめなおしていき、さらに人類の発展とともに新たに生じてきた道徳的、倫理的課題(科学技術と自然環境との関係、医療技術と生命の意味との関係など)をも取り上げ、今後ますます変化していく社会の中で生きていく受講生が、自分の頭で価値を判断していく力をつけられるようにする。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> さまざまな私たちの道徳規範や価値基準と自分たちのそれとの間の共通点と相違点に着目することで、自分が(無意識に)拠って立っている基盤を再考できるようになること。 自分がどのように生きていくかという課題は、ほとんど必然的に他者を巻き込むという点ですぐれて社会的なテーマでもある。「自分を含みこむ社会の一員としての自分」という角度から自分を見つめなおしていき、そして自分が関わっていると感ぜられる社会の外延を広げられるようになること。 ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質であるのみならず、これこそがまさに、非常に大切な「道徳的資質」と言える)。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	レポート・「道徳教育の目標、内容」にかかわる設問 ・「道徳教育の指導」にかかわる設問 ・「道徳性の日常的な育成」に関する設問			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 I 文部科学省『小学校学習指導要領解説(道徳編)』東洋館出版社。 【参考書】 横浜市教育委員会『横浜版 学習指導要領(道徳編)』ぎょうせい。 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。			
11. 成績評価の方法	レポート 総合点の 70% 授業への参加態度、積極性 総合点の 30% 総合点 100%			
12. 受講生へのメッセージ	この科目は教師を志す人のためのものです。子どもに充実した教育を保障するためには、まず、教師自身の道徳性とその実践力が問われます。したがって、みなさんの講義への責任ある参加態度が特に重要になります。また、この学習が自分の日常の生活態度に反映することを期待します。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業計画概要、教育課程の全体構成と道徳教育	事前学習	道徳教育についての自分のイメージをまとめておく。	
		事後学習	教育課程全体における道徳教育の位置を整理する。	
第 2 回	道徳教育の改訂の経緯とその要点	事前学習	教科書 I pp. 7~14 を熟読し改訂の要点をまとめておく。	
		事後学習	わが国の道徳教育の歩みを整理する。	
第 3 回	道徳性の発達と道徳教育	事前学習	教科書 I pp. 15~22 を熟読しその要点をまとめる。	
		事後学習	道徳の意義と道徳性の発達について整理する。	
第 4 回	道徳教育の目標	事前学習	教科書 I pp. 23~33 を熟読しその要点をまとめる。	
		事後学習	道徳教育の目標と道徳の時間の目標について整理する。	
第 5 回	道徳の内容と内容構成の考え方	事前学習	教科書 I pp. 34~38 を熟読しその要点をまとめる。	

		事後学習	内容項目の指導の四観点について整理する。
第 6 回	低学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 pp. 39～48 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	低学年の四観点 16 項目について整理する。
第 7 回	中学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 I pp. 48～53 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	中学年の四観点 18 項目について整理する。
第 8 回	高学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 I pp. 53～62 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	高学年の四観点 22 項目について整理する。
第 9 回	道徳の時間の指導計画と指導の展開	事前学習	教科書 I pp. 65～78 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画について整理する。
第 10 回	道徳の時間の指導計画と指導の展開	事前学習	教科書 I pp. 79～98 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳の時間の特質とその指導について整理する。
第 11 回	全教育活動における道徳教育	事前学習	教科書 I pp. 99～107 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	全教育活動の道徳教育の必要性と教科等との関連について整理する。
第 12 回	総合的な学習の時間における道徳教育	事前学習	教科書 I pp. 107～111 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	他領域における道徳教育について整理する。
第 13 回	道徳に時間における児童理解と評価	事前学習	教科書 I pp. 124～128 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳教育における評価について整理する
第 14 回	道徳教育における家庭、地域社会との連携	事前学習	教科書 I pp. 116～123 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	家庭や地域との連携の重要性について理解を深める。
第 15 回	まとめ	事前学習	道徳教育推進上の課題について考える。
		事後学習	道徳性の育成とその実践化への課題をもつ。

1. 科目名 (単位数)	道徳教育の研究 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS3307										
2. 授業担当教員	篠 大輔												
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期										
6. 履修条件・他科目との関係													
7. 講義概要	<p>道徳というのは大人がしたり顔で説教でも教科書に羅列されている題目でもなく、私たちの身近にあるものである。たとえば、「あれかこれか」という二つ以上の選択肢にぶつかったときに、私たちはどの道を選ぶのがよいのかという価値判断に迫られる。このような、よさ・悪さ、xxすべき、といった当為・価値判断に関わる問題はすべて道徳的、倫理的問題だと言える。この意味では、私たちは道徳とともに毎日の生活を送っている。</p> <p>自分の価値判断が、自分の考えや行動、自分の生き方の内部だけで完結するのであれば、それほどたくさん問題は出てこないのかもしれない。しかし自分の価値判断はほとんどの場合、他人を巻き込む。つまり、道徳の問題は個人的であると同時に社会性をもつものである。異なる道徳規範をもった人が二人以上集まる時(私たちの実際の生活のほとんどあらゆる場がそれに該当する)、そこは衝突と妥協と調整の場となる。</p> <p>このような価値判断のぶつかり合いの連続である現実をどのように生き抜いていけるのか、またそれを次の世代の子どもたちにどのように伝えていったらよいかを考えるために、本講義では縦軸(日本の歴史の中で道徳規範がどのように変化し、道徳教育がどのように変遷してきたか)と横軸(他の社会や文化圏ではどのような道徳規範が機能しているか)の両方に目を配り、今の自分も持っている道徳観念や価値基準を見つめなおしていく。さらに人類の発展とともに新たに生じてきた道徳的、倫理的課題をも取り上げ、今後ますます変化していく社会の中で生きていく受講生が、自分の頭で価値を判断していく力をつけ、道徳教育を実践する上で基礎となる資質・能力を養う。</p>												
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の課題と展望について学び、道徳教育に対する自らの考えを深め、説明することができること。 2. 道徳教育の授業理論を理解し、実践的な指導力を身につけること。 3. さまざまな私たちの道徳規範や価値基準と自分たちのそれとの間の共通点と相違点に着目することで、自分が(無意識に)拠って立っている基盤を再考できるようになること。 4. 自分がどのように生きていくかという課題は、ほとんど必然的に他者を巻き込むという点ですぐれて社会的なテーマでもある。「自分を含みこむ社会の一員としての自分」という角度から自分を見つめなおしてみること、そして自分が関わっていると感じられる社会の外延を広げられるようになること。 5. ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質であるのみならず、これこそがまさに、非常に大切な「道徳的資質」と言える)。 												
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミニレポート・ワークシート テーマごとに課題内容を提示する。 2. 道徳の時間の学習指導案 具体的な課題内容は授業中に指示する。 3. 道徳の時間の模擬授業 2で作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行う。 4. 期末レポート 課題内容は授業中に指示する。 												
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版、2008年。</p> <p>【参考書】 赤坂雅裕『心に響く道徳教育講義 - 教職を志す大学生と現場の忙しい先生方へ -』北樹出版、2008年。 田沼茂紀『人間力を育む道徳教育の理論と方法』北樹出版、2011年。 松下良平『道徳教育はホントに道徳的か? - 「生きづらさ」の背景を探る -』日本図書センター、2011年。</p>												
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>・平常点(授業態度・発表・発言)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・課題(ミニレポート・ワークシート)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・道徳の時間の学習指導案</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・道徳の時間の模擬授業</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・期末レポート</td> <td>20%</td> </tr> </table>			・平常点(授業態度・発表・発言)	20%	・課題(ミニレポート・ワークシート)	20%	・道徳の時間の学習指導案	20%	・道徳の時間の模擬授業	20%	・期末レポート	20%
・平常点(授業態度・発表・発言)	20%												
・課題(ミニレポート・ワークシート)	20%												
・道徳の時間の学習指導案	20%												
・道徳の時間の模擬授業	20%												
・期末レポート	20%												
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 2. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 4. レポートや課題の提出期限を守ってください。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。 												
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。												
14. 授業展開及び授業内容													
講義日程	授業内容	学習課題											
第1回	オリエンテーション - 道徳教育について考える -	事前学習	これまで受けてきた道徳の授業について振り返る。										
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。										

第 2 回	現代社会と道徳教育	事前学習	配布資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 3 回	道徳教育の本質	事前学習	配布資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 4 回	子どもの道徳性の発達	事前学習	配布資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 5 回	日本の道徳教育の理論と歴史① - 戦前 -	事前学習	日本の道徳教育の歴史について知っていることをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 6 回	日本の道徳教育の理論と歴史② - 戦後 -	事前学習	配布資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	道徳教育の授業理論 - 統合的道徳教育 -	事前学習	配布資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	道徳教育の授業理論 - 価値明確化 -	事前学習	前回の学習を振り返り、モラル・ジレンマの問題点について復習する。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	道徳教育の授業理論 - モラル・ジレンマ① -	事前学習	前回の学習を振り返り、価値明確化の問題点について復習する。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	道徳教育の授業理論 - モラル・ジレンマ② -	事前学習	前回の学習を振り返り、価値葛藤の理論について復習する。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	道徳教育の授業理論 - 構成的グループエンカウンター -	事前学習	前回の学習を振り返り、モラル・ジレンマの問題点について復習する。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	中学生の心に響く道徳授業	事前学習	配布資料を読み、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	道徳教育の指導計画と学習指導案	事前学習	教科書の中で学習指導案作成に関係するところの予習を行う。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	中学校道徳の模擬授業①	事前学習	模擬授業に必要な資料を揃え、イメージトレーニングしておく。
		事後学習	模擬授業の振り返りシートを作成し、模擬授業の反省をする。
第 15 回	中学校道徳の模擬授業② まとめ - 道徳教育の研究を振り返って -	事前学習	模擬授業に必要な資料を揃え、イメージトレーニングしておく。
		事後学習	この授業を踏まえて、教師になった際にどのような道徳の授業を行うのかについて考えをまとめる。

1 科目名 (単位数)	特別活動の指導法 (中等) (2 単位)	3 科目番号	SSMP2346 SCMP2346 SBMP2346 EDTS2307
2 授業担当教員	磯辺 武雄		
4 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)	5 開講学期	春期/秋期
6 履修条件・他科目との関係	「児童生徒指導論 (進路指導を含む) (中等)」を履修していることが望ましい。		
7 講義概要	特別活動に関する主要な概念を講義等で受け入れて増やす学び(概念受容型の学び)と演習や協議等を通じて自力で概念を形成する「概念形成型の学習」を行うようにする。特に、特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、学級活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。演習内容は、小学校における「学級活動」を中心にその授業力・指導力を育成するものとする。学級活動を中心に演習を展開する理由は、学級活動が特別活動の中核であり、集団成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、人間としての生き方に関する指導を行う中心的な場であるとともに、生徒指導の全機能が補充・深化・統合される場として重要であるからであり、教科書もなく学級担任としての真の力量が問われからである。		
8 学習目標	(1)特別活動に関する理論と実践について理解し、理論と実践の交流や応用が図れるようになる。 (2)改訂学習指導要領の特別活動では、「よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成」などを特に重視しており、それらに関わる力について実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動を一層充実することが求められている。そこで、これらのニーズに応える具体的な活動例を理解し、自ら考えた新企画を発表できるようになること。 (3)中学校における特別活動の中核となる「学級活動」について、計画委員会が主体となって授業を展開する指導案(展開案)を作成し、班内及び全員の前で発表できるようになること。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・必要に応じて、小テスト・小レポートを課すことがあります。 ・事例研究等においては、必ず各自で関連資料等の事前準備をしておいて下さい。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ①相原次男・新富康央・南本長徳編著『新しい時代の特別活動—一個が生きる集団活動を創造する—(シリーズ現代の教職 9)』ミネルヴァ書房、2012 年。 ②文部科学省『小/中/高等学校学習指導要領解説 特別活動編』。各自が取得する免許状に該当するもの。 ただし、授業では『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を中心に使用します。 【参考書】 田中智志ほか編著『特別活動』一藝社、2013。 江川政成編『特別活動の理論と方法 (三訂版)』学芸図書、2014(三訂版 5 刷)。		
11. 成績評価の方法	期末試験(50%)、小テスト・小レポート(30%)、授業への参加意欲・態度(20%)		
12. 受講生へのメッセージ	・授業中の私語、飲食及び携帯電話、スマートフォンの使用等は慎んで下さい。 ・グループワークの際は、必ず各自、関連資料等の事前準備をし、グループ討議に積極的に参加して下さい。 ・教員としての資質向上に関わる自己目標・自己課題をもち、授業に参加して下さい。 ・新聞・テレビ等における教育に関連する時事問題に関して、常に関心を持っていただきたい。 ・レポート、アサイメントについては、指定の提出日を必ず厳守して下さい。		
13. オフィスアワー	授業終了後、教室にて適宜時間を設けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	特別活動の教育的意義と実践課題 ・特別活動の今日的意義 ・特別活動の教員に求める力量 他	事前学習	教科書 pp. 2~15 を読み、特別活動の今日的意義について調べる。
		事後学習	特別活動の今日的意義と実践課題について整理する。
第 2 回	特別活動の方法 ・特別活動の方法 (集団活動、体験活動) 他	事前学習	教科書 pp. 16~30 を読み、特別活動の方法について調べる。
		事後学習	集団活動と体験活動について整理する。
第 3 回	特別活動の歴史 ・戦前の特別活動 ・戦後の特別活動 他	事前学習	教科書 pp. 31~44 を読み、学習指導要領における特別活動の内容について調べる。
		事後学習	特別活動の歴史について整理する。
第 4 回	小・中学校の学級活動と高等学校のホームルーム活動 ・学級活動の目標・内容 (小・中学校) ・ホームルーム活動の目標・内容 (高等学校)	事前学習	教科書 pp. 46~59 を読み、学級活動の目標・内容について調べる。
		事後学習	学級活動の目標・内容について整理する。
第 5 回	児童会活動と生徒会活動 ・児童会・生徒会活動の目標・内容および特質 ・児童会・生徒会活動の現実的問題 他	事前学習	教科書 pp. 60~75 を読み、児童会・生徒会活動の内容等について調べる。
		事後学習	児童会活動と生徒会活動について整理する。
第 6 回	学校行事 ・学校行事の歴史およびその種類と内容 ・学校行事の展開上の問題とその克服の方向 他	事前学習	教科書 pp. 76~90 を読み、学校行事といじめとの関係について調べる。
		事後学習	学校行事の種類について整理する。
第 7 回	特別活動と総合的な学習の時間 ・特別活動、総合的な学習の教育的特質 ・学校行事と総合的な学習との関連性 他	事前学習	教科書 pp. 92~106 を読み、総合的な学習の教育課程上の特質について調べる。
		事後学習	特別活動と総合的な学習の時間について整理する。

平成 28 年度

第 8 回	特別活動と道徳教育 ・特別活動における道徳教育 ・特別活動と道徳の時間との関連 他	事前学習	教科書 pp. 107～121 を読み、特別活動と道徳教育の関連性について調べる。
		事後学習	特別活動と道徳教育との関連性について整理する。
第 9 回	・学級活動／学級経営 学級づくり ～グループワーク～ (1)	事前学習	教科書 pp. 122～133 を読み、学級活動／学級経営の特質について調べ、どんな学級づくりをしたいか考えてみよう。
		事後学習	学級づくりの要諦について整理する。
第 10 回	・学級づくり ～グループワーク～ (2) 学級づくり ～GWおよびGWプレゼン～	事前学習	GWでの学級づくりについて再考する。 GWプレゼン配布資料を準備する。
		事後学習	学級づくりの意義について整理する。
第 11 回	・学級づくり ～グループワーク～ (3) 学級づくり ～GWプレゼン～	事前学習	GWプレゼン配布資料を準備する 学級活動の活性化と実践手法について調べる。
		事後学習	魅力ある学級づくりについて再整理する。
第 12 回	今日の特別活動の諸課題について ～グループワーク	事前学習	特別活動の諸課題について調べてみよう。
		事後学習	特別活動の課題点を整理する。
第 13 回	今日の特別活動の諸課題について ～グループ発表～	事前学習	GWプレゼン配布資料を準備する。
		事後学習	プレゼンの指摘内容について再整理する。
第 14 回	進路指導／キャリア教育 ・進路指導の意義 ・キャリア教育の意義 他	事前学習	「働く」ことの意義について考えてみる。
		事後学習	職業観、勤労観について整理する。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの授業を振り返り課題点を確認する
		事後学習	課題点について、今後の学習計画を立てる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	日本史 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1327 GELA1347								
2. 授業担当教員	篠 大輔										
4. 授業形態	講義 ディスカッション	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係											
7. 講義概要	グローバルな時代と呼ばれている現代、国と国、国民と国民とのあいだの交流がさまざまな面で深く、密接になっており、自他の歴史的な関係を理解することが求められている。わたしたちが生きている現代は、過去のできごとの積み重ねの上に成り立っている。その意味で、歴史は過去と現在との対話である。また、歴史には、未知のことも多くあり、新しい事実関係が発見されたり、時代とともに評価が変わることもある。授業では、日本の歴史のなかで興味深い事件やできごと、歴史上の人物をとりあげて、歴史上のできごとの背景や、激動の時代を生きた人びとの生き方、歴史上に果たした役割を検証していく。										
8. 学習目標	1) 日本史の基本事項 (概念) について理解し、説明できる。 2) 日本史上の出来事や時代背景について歴史学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 日本史上の人物の考え方や生き方を知り、自分の考え方や生き方を省みることができる。										
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. ワークシート (各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. フィールドワークのレポート 3. 期末レポート (課題内容は授業中に指示する。)										
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。 【参考文献】 参考文献については、テーマごとに紹介する。										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>・平常点 (授業態度・発表・発言)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・各回のワークシート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>・フィールドワークのレポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・期末レポート</td> <td>30%</td> </tr> </table>			・平常点 (授業態度・発表・発言)	20%	・各回のワークシート	30%	・フィールドワークのレポート	20%	・期末レポート	30%
・平常点 (授業態度・発表・発言)	20%										
・各回のワークシート	30%										
・フィールドワークのレポート	20%										
・期末レポート	30%										
12. 受講生への メッセージ	受講生には意欲的に授業に参加し、積極的にフィールドワークやレポート作成に取り組むことを希望する。そのためグループワークやディスカッションに積極的に参加しない学生や課題を提出期限までに出さない学生に対しては厳しい姿勢で臨み、改善の見られない者については単位を認定しない。 また、この授業ではフィールドワークに実際に行ってもらいレポートにまとめるなど他の授業に比べて課題が多いため、実習や就職活動等で授業時間外の学習時間を十分に確保できない学生はどれだけこの授業に時間を費やすことができるのかをよく検討した上で受講してもらいたい。										
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	オリエンテーション - 日本史を学ぶ意義について -	事前学習	これまでの学習で歴史にどう向き合ってきたかについて思い出しておく。								
		事後学習	日本史を学ぶ意義について自分なりの考えをまとめておく。								
第 2 回	日本の地理的条件についての検討	事前学習	日本の地理的条件についてこれまで学習してきたことをまとめておく。								
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。								
第 3 回	統一政権の誕生と古代国家の形成	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。								
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。								
第 4 回	平安時代の政治と文化	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。								
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。								
第 5 回	武士の時代の政治と文化	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。								
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。								
第 6 回	戦国時代① - 戦国大名の台頭 -	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。								
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。								
第 7 回	戦国時代② - 全国統一の完成 -	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。								
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。								
第 8 回	江戸時代初期の政治と文化	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。								
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。								

平成 28 年度

第 9 回	江戸時代後期の政治的動乱	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。
第 10 回	明治維新と新政府の成立	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。
第 11 回	日本の近代化① - 明治時代の文化 -	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。
第 12 回	日本の近代化② - 大正自由教育運動 -	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。
第 13 回	太平洋戦争 - 開戦から敗戦まで -	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。
第 14 回	戦後復興と現代日本	事前学習	前回の授業で学んだことや考えたことを復習しておく。
		事後学習	DVDの視聴やディスカッションを通して、自分の考えをまとめておく。
第 15 回	まとめ - 日本史の授業を振り返って - 期末レポートの提出	事前学習	これまでの学習を振り返り、期末レポートを作成する。
		事後学習	期末レポートについてのディスカッションを通して学んだことをまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語 / 日本の文化と言語 I (2 単位)	3. 科目番号	GECM1717
2. 授業担当教員	古田 高史	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この授業は、本学で学ぼうとする留学生の日本語運用能力のレベルアップと日本文化についての理解をより一層深めることを目的としています。特に中・上級学習者の知的好奇心に答えるため、女性、子ども、若者、働く人々の実態に関する資料と読み物を教材として用い、日本経済の変遷、教育制度、ファッション、「携帯」文化、就業実態といった現代日本社会の多様な側面について学んでいきます。毎回の授業は、これらのトピックについての資料の読解、ディスカッション、作文、そして語彙・語法に関する小テストで構成されます。また学期中を通して、各自で興味のあるテーマについての研究を進め、その成果を口頭で発表し、最終レポートにまとめます。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・社会に関する理解を深める。 2. 日本語で書かれた説明文や資料を正確に理解し、自分の言葉で要約できるようになる。 3. 議論を進めるために適切な質問ができるようになる。 4. 日本語での口頭発表を行う能力を養う。 5. 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働して作業が出来るようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習課題に指示した事前学習・事後学習を必ず行った上で授業に参加すること。 2. 毎回の授業後、復習シートを実施する。次の授業に持参して必ず提出する。 3. 別冊の例文、練習に取り組んだノート (ルーズリーフは不可) を提出する。 4. 授業で扱うトピックから一つを選び、報告文 (内容要約と自分の意見) を作成する。詳しい作成方法は、授業中に説明する。 		
10. 教科書・参考書・教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編『日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書 出会い 本冊 テーマ学習・タスク活動編』ひつじ書房、2015 東京外国語大学留学生日本語教育センター編『日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書 出会い 別冊 文型・表現練習編』ひつじ書房、2016		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・積極的参加度 30% 小テスト・復習シート・ノートの提出 40% まとめのテスト 15% 期末レポート (報告文) の提出 15%		
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、受講生が自らの日本語運用能力を高めようとする「努力のプロセス」も大切にします。特に以下の点には注意してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席、遅刻、早退などせず、積極的に参加すること。 2. 提出物、宿題は必ず提出すること。 3. ノート、復習シートはなくさないこと。 4. 教科書 (本冊、別冊の二冊) は毎回必ず持参すること 5. 分からないことは、担当教員に必ず質問、確認をすること なお、受講生の関心等に応じて、トピックについては、若干、変更することもあります。		
13. オフィスアワー	初回の授業時間内に説明する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業概要の説明、自己紹介 (自分の目標など)	事前学習	指定教科書 (本冊) の目次 (p. 2~3) を読み、この授業で、「何が」出来るようになりたいのかを考えておく。
		事後学習	授業で考えた自分の目標を補助プリントに記入して、第二回の授業に持参する。
第 2 回	第一課 異文化との出会い (文型・表現練習)	事前学習	【別冊】文型練習の例文と練習 1 (p. 16~26) をノートに写してくる。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 3 回	第一課 異文化との出会い トピック 1 留学することの意義① (読解)	事前学習	【本冊】 p. 18~19 を読み、p. 16~17、20~21 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 4 回	第一課 異文化との出会い トピック 1 留学することの意義② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 22~23 に、自分の場合を記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 5 回	第一課 異文化との出会い トピック 2 街で見つけたおもしろいもの① (聴解)	事前学習	【本冊】 p. 24 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 6 回	第一課 異文化との出会い トピック 2 街で見つけたおもしろいもの② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 28~29 に、自分の場合を記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 7 回	第二課 人生とキャリア (文型・表現練習)	事前学習	【別冊】文型練習の例文と練習 1 (p. 38~48) をノートに写してくる。
		事後学習	復習シートを実施する。

第 8 回	第二課 人生とキャリア トピック 1 就活を考える① (読解)	事前学習	【本冊】 p. 48~49 を読み、p. 46~47、50~51 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 9 回	第二課 人生とキャリア トピック 1 就活を考える② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 52~53 に、自分の場合を記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 10 回	第二課 人生とキャリア トピック 2 日本の職場① (聴解)	事前学習	【本冊】 p. 54 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 11 回	第二課 人生とキャリア トピック 2 日本の職場② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 62 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 12 回	第三課 地域と共に生きる (文型・表現練習)	事前学習	【別冊】 文型練習の例文と練習 1 (p. 58~69) をノートに写してくる。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 13 回	第三課 地域と共に生きる トピック 1 商店街でみんな元気に① (読解)	事前学習	【本冊】 p. 91~92 を読み、p. 88~90、94~95 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 14 回	第三課 地域と共に生きる トピック 1 商店街でみんな元気に② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 96~97 に、自分の場合を記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 15 回	第三課 地域と共に生きる トピック 2 豆腐で地域を元気にしたい① (聴解)	事前学習	【本冊】 p. 98 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 16 回	第三課 地域と共に生きる トピック 2 豆腐で地域を元気にしたい② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 104 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 17 回	第四課 自然との共生 (文型・表現練習)	事前学習	【別冊】 文型練習の例文と練習 1 (p. 80~90) をノートに写してくる。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 18 回	第四課 自然との共生 トピック 1 里山① (読解)	事前学習	【本冊】 p. 112~113 を読み、p. 110~111、115~117 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 19 回	第四課 自然との共生 トピック 1 里山② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 118~119 に、自分の場合を記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 20 回	第四課 自然との共生 トピック 2 自然と共生する町 ① (聴解)	事前学習	【本冊】 p. 120 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 21 回	第四課 自然との共生 トピック 2 自然と共生する町 ② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 127 に、自分の場合を記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 22 回	第五課 「食」に見る世界 (文型・表現練習)	事前学習	【別冊】 文型練習の例文と練習 1 (p. 100~111) をノートに写してくる。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 23 回	第五課 「食」に見る世界 トピック 1 一杯のコーヒーから世界を考える① (読解)	事前学習	【本冊】 p. 156~159 を読み、p. 154~155、160~161 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 24 回	第五課 「食」に見る世界 トピック 1 一杯のコーヒーから世界を考える ② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 163 に、自分の調べたフェアトレード商品について、記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 25 回	第五課 「食」に見る世界 トピック 2 フードマイレージ① (聴解)	事前学習	【本冊】 p. 164 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 26 回	第五課 「食」に見る世界 トピック 2 フードマイレージ② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 171 にあなたの考えを記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 27 回	第六課 子どもと教育 (文型・表現練習)	事前学習	【別冊】 文型練習の例文と練習 1 (p. 120~130) をノートに写してくる。
		事後学習	復習シートを実施する。

第 28 回	第六課 子どもと教育 トピック 1 教室のお客様① (読解)	事前学習	【本冊】 p. 178～181 を読み、p. 176～177、 183～184 に記入しておく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 29 回	第六課 子どもと教育 トピック 1 教室のお客様② (ディスカッション)	事前学習	【本冊】 p. 185 にあなたの考えを記入して おく。
		事後学習	復習シートを実施する。
第 30 回	これまでの内容の振り返り、まとめのテスト	事前学習	これまでのノート、復習シートを見直してお く。
		事後学習	この授業で達成できたことと今後の目標を 復習シートに記入する。

1. 科目名 (単位数)	認知心理学 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3309
2. 授業担当教員	成本 忠正		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	認知心理学は、“知”の働きを中心にして、人間の心のしくみを、情報処理という枠組みにもとづいて明らかにしていこうとする心理学の一分野である。本講義では、特に知覚、注意、記憶、言語、思考などの領域を概観する。また、心の働きを科学的に解明しようとする手法や考え方について学習するとともに、上記領域における最新の知識を習得する。		
8. 学習目標	1. 認知心理学における基礎的な知識を習得する。 2. 認知心理学の研究の方法を理解し、説明することができる。 3. 日常生活の身近な問題に、習得した認知心理学的手法を適用することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 認知心理学研究の成果が、教育・福祉現場あるいは日常生活にどのような影響を与えているのかをリサーチし、レポートを作成する。 2 各テーマの終了後に簡単な小テスト (15分程度) を実施する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 森敏昭・井上毅・松井孝雄『グラフィック認知心理学』サイエンス社、2006。 【参考書】 適宜講義内容に応じて授業で紹介する。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の 40% 2 レポート課題 総合点の 30% 3 小テスト 総合点の 30%		
12. 受講生へのメッセージ	認知心理学は、心の働きを科学的に解明しようとする学問です。心の働きを調べることは自分自身を知ることでもあり、また未知の世界に対する知的な冒険でもあります。授業を楽しみながら、心の働きに興味をいただき、積極的に他の関連書を調べる気持ちになってください。知的な好奇心旺盛な受講者を期待しています。		
13. オフィスアワー	質問・相談等は随時、授業中あるいは授業前後の休憩時間に受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (講義内容・評価の説明) 認知心理学の歴史と研究法	事前学習	教科書【認知心理学とは】を読む。
		事後学習	認知心理学研究の意義について復習する。
第 2 回	記憶のしくみ：覚える (1)	事前学習	教科書【記憶のしくみ】を読む。
		事後学習	感覚記憶・短期記憶の特性を理解する。
第 3 回	記憶のしくみ：覚える (2)	事前学習	教科書【記憶のしくみ】を読む。
		事後学習	長期記憶の特性を理解する。
第 4 回	記憶のしくみ：覚える (3)	事前学習	教科書【記憶のしくみ】を読む。
		事後学習	作動記憶の特性を理解する。
第 5 回	情報の検索と忘却 (1)	事前学習	教科書【情報の検索と忘却】を読む。
		事後学習	なぜ思い出せないのかについて復習する。
第 6 回	情報の検索と忘却 (2)	事前学習	教科書【情報の検索と忘却】を読む。
		事後学習	検索のメカニズム・顕在記憶・潜在記憶について復習する。
第 7 回	概念はどのように構造化されているのか?	事前学習	教科書【概念と言語】を読む。
		事後学習	概念の構造に関するモデルを理解する。
第 8 回	知識はどのように記憶されているのか?	事前学習	教科書【知識と表象】を読む。
		事後学習	活性化拡散モデル・プライミング効果について復習する。
第 9 回	画像記憶の特性	事前学習	教科書【イメージと空間の情報処理】を読む。
		事後学習	画像記憶の保持時間と容量について復習する。
第 10 回	認知に及ぼす注意の影響	事前学習	教科書【認知の制御過程】を読む。
		事後学習	焦点的注意と注意の分割について復習する。
第 11 回	高次認知作業：意思決定	事前学習	教科書【意思決定】を読む。
		事後学習	緊急時・不確実状況下の意思決定について復習する。
第 12 回	認知心理学の応用	事前学習	教科書【日常世界と認知心理学】を読む。
		事後学習	教育・産業場面での応用について復習する。
第 13 回	高齢者と認知症	事前学習	配布資料【高齢者と認知症】を読む。
		事後学習	認知症による行動障害を理解する。
第 14 回	態度はどのように決まるのか?	事前学習	配布資料【態度】を読む。
		事後学習	態度は認知・感情・行動から構成される。態度はどのように決まるのかを復習する。
第 15 回	まとめ 授業の全体について復習し、質疑応答の時間を設ける。	事前学習	認知心理学の意義とは何かを考える。
		事後学習	これまでの授業内容を自分なりにまとめ、認知心理学の重要性を理解する。

1. 科目名 (単位数)	表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1326
2. 授業担当教員	田村 にしき		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	日常生活において、人間は何らかの方法で他者に表現し、メッセージを発している。その表現は、視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚等の感覚器官を通じて受け取られ、再び表現として表出される。 本講義では、人間にとって表現とはどのような意味をもつのか、様々な表現方法に触れながら考察し、体験や演習を通して、人間の表現活動を総合的に理解していく。		
8. 学習目標	1. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識をめざし、自己表現力を高める。 2. 他者の表現に対して共感し受容する能力、相手の表現に対し応答する能力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・ 日常に溢れている「表現」に対し、普段から興味を持ち、常に敏感でいること。 ・ 長期休み前に課題を提示する。十分な時間を使って、質の良いものに仕上げること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 その都度、関連資料を配付する。 【参考書】 石井玲子『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社。 【教材】 授業内容により、適宜用意すること。		
11. 成績評価の方法	1. 平常点 (学習意欲・態度・学習進度・提出物) 40% 2. 個人・グループ発表 40% 3. レポート等の提出物 20% ※ 1～3 を総合的に評価する。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	授業内容により教材を必要とする場合がありますが、忘れずに用意持参して下さい。グループワークを主とするため、遅刻・欠席はメンバーに迷惑がかかります。良い作品が創れるよう協調性をもって活動に参加し、自ら楽しんで授業に臨むようにして下さい。 授業を受ける上で、下記の基本的な事項は守りましょう。 (1) 携帯電話の使用は禁止です。また、授業に関係のない私語はやめましょう。 (2) 宿題やレポートは、指定した日までに提出しましょう。期日を過ぎると、内容が良くても評価は低くなります。		
13. オフィスアワー	授業中に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス、シラバス説明 自己紹介	事前学習	シラバスを読み、全体の学びの流れを把握する。
		事後学習	多様な「表現」について考察する。
第 2 回	人間にとって「表現」とは 表現のかたち ①動き・身体	事前学習	人間の身体の動きをよく観察する。
		事後学習	授業内容を踏まえ、グループ活動に生かす。
第 3 回	表現のかたち ②言葉とリズム	事前学習	言葉とリズムの関係について考察する。
		事後学習	授業内容を踏まえ、グループ活動に生かす。
第 4 回	表現のかたち ③言葉と音声	事前学習	人間の「言葉」「音声」を観察する。
		事後学習	授業内容を踏まえ、グループ活動に生かす。
第 5 回	表現のかたち ④映像と音楽	事前学習	身の回りで、映像に効果的に音や音楽がつけられている例を探す。
		事後学習	授業内容を踏まえ、グループ活動に生かす。
第 6 回	表現のかたち ⑤音・音楽	事前学習	音楽表現について考える。
		事後学習	授業内容を踏まえ、グループ活動に生かす。
第 7 回	グループ表現①—グループとテーマを決める—	事前学習	グループ表現のアイディアを考える。
		事後学習	授業内容を踏まえ、グループ活動に生かす。
第 8 回	グループ表現②—効果的な音・音楽をつける—	事前学習	効果的な音・音楽のつけ方を考える。
		事後学習	グループ発表の準備をする。
第 9 回	グループ表現③—ペーパーサートなどの制作—	事前学習	制作に必要な材料を準備する。
		事後学習	グループ発表の準備をする。
第 10 回	グループ表現④—効果的な演出方法を考える—	事前学習	効果的な演出方法を考える。
		事後学習	グループ発表に向けての仕上げをする。
第 11 回	グループ発表 I と総括	事前学習	グループ発表に必要なものを持参する。
		事後学習	発表内容を踏まえ、表現について整理する。
第 12 回	表現を伝える (個人発表)	事前学習	課題レポートを仕上げ、発表の方法を工夫する。
		事後学習	授業内容を踏まえ個人/グループ活動に生かす。
第 13 回	即興的な表現①	事前学習	即興的な表現について調べる。
		事後学習	グループで話し合ったことを踏まえ、グループ発表の準備をする。
第 14 回	即興的な表現②	事前学習	グループで、即興的な表現に必要なものを準備する。

平成 28 年度

		事後学習	グループ発表に向けての仕上げをする。
第 1 5 回	グループ発表Ⅱと総括	事前学習	グループ発表の準備と練習をする。
		事後学習	「表現」について学んだことをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	病弱教育総論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3456 SCMP3456 SBMP3456
2. 授業担当教員	金川 朋子		
4. 授業形態	講義・演習 講義による基礎理論の習得に基づき、グループ討議等のアクティブ ラーニングにより、履習者同士の実践的な学び合いを重視します。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	知的障害特別支援学校数は増加傾向にある。対して、病弱教育特別支援学校数は微減に転じている。しかしそれは単に長期入院しながら院内学級や特別支援学校に通う子どもたちが減ったことだけが理由であり、病虚弱児自体が減少しているわけではない。むしろ総数は増える傾向にあり、また子どもたちが抱える病気の種類も多様になっている。本講座では「病気の子どもたちに対する教育」の概念から学校における指導・支援に至るまでを系統的に取組み、病弱教育における指導・支援の在り方を学び、指導実践力を兼ね備えた教員をめざす。		
8. 学習目標	以下に関して学習し理解を深め、指導実践力を高める。 1. 病弱教育の概念についての理解を深め、「病気の子ども」の実態把握ができるようになる。 2. 「病気の子ども」の教育の課題、教育課程等について理解を深め、学習活動を考えられるようになる。 3. 「病気の子ども」の抱える疾病状況・配慮事項等を理解し、個に応じた指導内容・方法を考えられるようになる。 4. 病弱教育の今後の課題及び方向性を考え、病弱教育の在り方等を考え、発表できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 全国特別支援学校病弱教育校長会編『病気の子どものガイドブック』ジヤース教育新社。 【参考書】 全国特別支援学校病弱教育校長会編『病気の子どもの理解のために』(国立特別支援教育総合研究所 HP から無料ダウンロード可。授業に必要な場合には指示に従って使用する部分を各々でダウンロードし持参する)。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)		
12. 受講生への メッセージ	病弱教育特別支援学校の設置数は他の校種と比較は少ないです。しかし、現実的には普通学校や他障害種の特別支援学校にも病気を抱えた児童生徒が数多く通っています。慢性疾患等がある子どもたちの病気について洞察を深め、病気の種類や状態に応じた学習・身体的・心理的支援を行うことは彼らの自己肯定感を高め、病気への抵抗力を高めることにもつながるといわれています。そのことが、早期の治癒や寛解(病状が一時的に安定すること)を可能にします。また、心身の病気の種類が増えています。「病弱教育」はこれから教育界でキーワードになるかもしれません。みなさんの積極的な学びの姿勢は将来、病気で悩んでいる数多くの子どもたちを救うことにもつながるでしょう。子どもたちの命と正面から向き合う病弱教育の学びの場に、一人一人の真摯な姿が集まることを期待しています。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義で詳細を伝えます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	①オリエンテーション ②「病弱教育」とは	事前学習	「病弱教育」に関する経験や関わった内容等についてまとめる
		事後学習	「我が国の病気の子どもの現状」について、まとめる。
第 2 回	病弱教育の基礎 (1) —学校における病気の子どもの教育—	事前学習	病弱教育の学校種等について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「病弱教育に関する制度」について、まとめる。
第 3 回	病弱教育の基礎 (2) —病気の子どもへの指導に当たって大切なこと—	事前学習	「病気の子どもの不安」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「病気の子どもへの指導に当たって大切なこと」をまとめる。
第 4 回	病弱教育の基礎 (3) —病気の子どもが教育を受けるため手続き等—	事前学習	「病弱教育における連携」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「病気の子どもが教育を受けるための手続き」について、まとめる。
第 5 回	病弱教育の基礎 (4) —学習指導要領を踏まえた指導—	事前学習	小学校における「病弱教育」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「学習指導要領を踏まえた指導」について、まとめる
第 6 回	病気等の状態等に応じた配慮事項 (1) グループワーク 子どもたちの疾病を知る	事前学習	pp. 154～237 を読み、「子どもの疾病に関する基礎知識」を考える。
		事後学習	グループ発表で取り組む子どもの疾病について、まとめる。

第 7 回	病気等の状態等に応じた配慮事項 (2) グループワーク 子どもの疾病を知る	事前学習	グループワークで取り組むテーマに関して、インターネット等で調べる。
		事後学習	グループワークで取り組む子どもの疾病について、まとめる。
第 8 回	病気等の状態等に応じた配慮事項 (3) グループワーク グループ発表①	事前学習	グループ発表に向けての事前準備を行う。
		事後学習	グループ発表を振り返り、よかった点と課題をまとめる。
第 9 回	病気等の状態等に応じた配慮事項 (4) グループワーク グループ発表②	事前学習	グループ発表に向けての事前準備を行う。
		事後学習	グループ発表を振り返り、よかった点と課題をまとめる。
第 10 回	学校における指導事例 特別支援学校における指導①	事前学習	事前に示す資料をよく読み、病弱教育についての考えをまとめる。
		事後学習	病弱教育に携わる教員の在り方について、自分の考えをまとめる。
第 11 回	学校における指導事例 特別支援学校における指導②	事前学習	事前に示す資料をよく読み、病弱教育についての考えをまとめる。
		事後学習	病弱教育に携わる教員の在り方について、自分の考えをまとめる。
第 12 回	病弱教育について 子どもの気持ちに寄り添う① グループディスカッション	事前学習	事前に示す資料をよく読み、病弱教育についての考えをまとめる。
		事後学習	病弱教育に携わる教員の在り方について、自分の考えをまとめる。
第 13 回	病弱教育について 子どもの気持ちに寄り添う② グループディスカッション	事前学習	事前に示す資料をよく読み、病弱教育についての考えをまとめる。
		事後学習	病弱教育に携わる教員の在り方について、自分の考えをまとめる。
第 14 回	病弱教育の実際に学ぶ ー病弱教育に関する学外施設見学もしくは外部講師による講義ー※都合により変更の可能性あり	事前学習	事前に示す資料をよく読み、病弱教育についての考えをまとめる。
		事後学習	病弱教育に携わる教員として、大切なことについて、自分の考えをまとめる。
第 15 回	まとめ 病弱教育が抱える諸課題と今後の展望	事前学習	病弱教育の意義、重要性について、自らの考えを発言できるよう準備しておく。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート (800～1000 字) を作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	病弱者の心理・生理・病理 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3446
2. 授業担当教員	新井 良保			SCMP3446
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	小児慢性特定疾患(悪性新生物、喘息など難治性の呼吸器系疾患、ネフローゼ症候群などの内臓系疾患、血友病などの血液・リンパ系疾患、筋ジストロフィーなどの神経疾患)を中心に、各疾患の生理・病理、心理的特性、家族の生活や心情、医療チームとの連携、学校生活での配慮事項など、医療側から期待されるスキルを中心に、院内学級や訪問教育に携わる教師に必要な基礎的知識について学ぶ。			
8. 学習目標	<p>【期待される効果】 長期の療養を伴い完治の難しい慢性疾患とともに生きる子どもや家族の心情に共感できるようになるとともに、病院等で医療チームと連携する際の基礎知識及び、倫理・態度が身につく。また、それらの疾患の基礎知識をふまえ、病院内の教育のみならず、地域の学校に帰った場合に学校側が配慮すべき点が理解できるようになる。</p> <p>① 子どもの発達や子育てについての基礎知識を得る。 ② 病気の子どもや病気の子どもを育てる家族への心理的支援の実際を知る。 ③ 病気の子どもに関わる専門職の役割を知り、適切な協働のための知識を得る。 ④ 病気の子どもが地域の学校に戻った時に必要な学校側の配慮点を知る。 ⑤ 病気の子どもをとりまく地域行政や制度について知る。</p>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>まとめテストを実施します。教科書・レジュメの事前・事後学習を行ってください。</p> <p>病弱児(者)の事例等についてのグループワーク・グループ発表を行います。</p> <p>レポートを実施します。(詳細は授業で)</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小野次朗・西牧謙吾編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』ミネルバ書房 小林芳文・新井良保他著『障がいの重い児(者)が求めるムーブメントプログラム』文教資料協会</p> <p>【参考書】 安藤春彦監修・土橋圭子編集『障害児教育のための医療問題』篠原出版</p>			
11. 成績評価の方法	1 まとめテスト	50%		
	2 グループワーク・発表	30%		
	3 レポート作成	20%		
12. 受講生へのメッセージ	私の養護学校教諭の体験を振り返り、感ずることは、健康・医学的知識の重要性・必要性です。本講座を通して、少しでも病弱児の健康・医学的知識を得るきっかけになれば嬉しく思います。そして教育現場で生かして行ってください。また医療・教育・福祉の連携の大切さも理解してください。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	病気、障害をめぐる動向 —健康・病気・障害の概念— レポート作成	事前学習	「障害とは」について 200 字程度でまとめる 教科書 pp.1~14 を読み、キーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第2回	子どもの発達と発達障害	事前学習	教科書 pp.17~24 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第3回	発達障害の考え方と 広汎性発達障害・注意欠陥多動性障害 グループワーク・発表	事前学習	教科書 pp.28~43 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第4回	発達障害と二次障害 レポート作成	事前学習	教科書 pp.45~55 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第5回	子どもの病気 —呼吸器疾患の理解と支援—	事前学習	教科書 pp.74~85 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第6回	子どもの病気 —悪性腫瘍の理解と支援—	事前学習	教科書 pp.86~114 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第7回	子どもの病気 —神経系疾患(てんかん、脳性まひ)の理解と支援①— グループワーク・発表	事前学習	教科書 pp.150~163 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第8回	子どもの病気 —神経系疾患(ダウン症)の理解と支援①—	事前学習	教科書 pp.163~167 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第9回	子どもの病気—神経系疾患(知的障害)の理解と支援②—	事前学習	教科書 pp.173~182 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第10回	子どもの病気—神経系疾患(筋ジストロフィー、水頭症)の理解と支援② グループワーク・発表	事前学習	教科書 pp.186~194 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第11回	病気の障害の受容とセルフケア	事前学習	教科書 pp.197~205 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第12回	病気、障害の子どもの心理的特性	事前学習	教科書 pp.206~214 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	
第13回	教育・医療・保健・福祉の連携と支援 レポート作成	事前学習	教科書 pp.215~224 を読みキーワード等を確認	
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備	

平成 28 年度

第 1 4 回	病気、障害のある子どもを支える法制度	事前学習	教科書 pp.225~231 を読みキーワード等を確認
		事後学習	要点・キーワード等の理解を確認する振り返り授業の準備
第 1 5 回	病弱教育の現状と課題 まとめテスト	事前学習	教科書、レジュメ資料の振り返りとまとめテストへの準備
		事後学習	まとめテストの要点とキーワードの確認

1. 科目名 (単位数)	福祉行財政と福祉計画 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3103												
2. 授業担当教員	尹 文九															
4. 授業形態	講義、グループ討議等		5. 開講学期	春期												
6. 履修条件・ 他科目との関係																
7. 講義概要	<p>市場の失敗が問われている現在、これからは福祉分野においても、行政の役割が市場機能より重要になると考えられる。こうした問題意識から本講義は福祉と関連し、パブリック (行政) が行っている事について以下の点を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉の行財政の実施体制 (国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。) について理解する。 福祉行財政の実際について理解する。 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 															
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 福祉分野において市場の失敗と行政の機能の変化について理解し、説明することができる。 福祉サービスの担い手として行政組織の役割について学習し、理解を深める。 福祉予算と福祉サービスの関係について学び、説明できるようになる。 福祉計画の理論と技法について、また、福祉計画がなぜ重要になってきたのかについて学び、説明できるようになる。 福祉行政の過程すなわち、plan→do→see→feed back について学び、理解を深める。 福祉計画の策定するとき、なぜ住民参加が重要なのかについて理解し、説明することができる。 															
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 : 福祉計画にはどのようなものがあるのかについて(A4サイズ2枚)															
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』中央法規。</p> <p>【参考書】 坂田周一『社会福祉計画』有斐閣。</p>															
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1) レポートと課題</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2) 授業への参加度</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3) ミニテスト</td> <td>50%</td> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。 また、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象になる。</p>				1) レポートと課題	20%			2) 授業への参加度	30%			3) ミニテスト	50%	計	100%
1) レポートと課題	20%															
2) 授業への参加度	30%															
3) ミニテスト	50%	計	100%													
12. 受講生への メッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 席は前から男女混合で座ること。 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと (正当な理由以外は減点の対象になる)。 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときにはきちんと傾聴すること。 															
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)															
14. 授業展開及び授業内容																
講義日程	授業内容	学習課題														
第 1 回	オリエンテーション 第 1 セクター(民間)と第 2 セクター(行政)の相違点	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと													
		事後学習	行政と民間の相違点についてまとめる													
第 2 回	福祉と制度 福祉を実現する主体と機能、社会福祉の捉え方、 社会福祉と社会保障の違いについて	事前学習	pp.2~10 を熟読し、要点をまとめる													
		事後学習	社会福祉の概念の変遷についてまとめる													
第 3 回	福祉の法制度の展開 時代によってどのような制度ができ、特徴があるのか、 社会福祉における市場と行政の機能変化について	事前学習	pp.11~23 を熟読し、要点をまとめる													
		事後学習	社会福祉における市場と行政の機能変化についてまとめる													
第 4 回	福祉計画の概要 社会福祉と計画の関係、福祉行政と福祉計画について	事前学習	pp.24~31 を熟読し、要点をまとめる													
		事後学習	福祉行政と福祉計画についてまとめる													
第 5 回	行政の骨格と社会福祉の法制度 政府の役割と地方自治体の関係、社会福祉の法令を読む ポイント	事前学習	pp.34~43 を熟読し、要点をまとめる													
		事後学習	社会福祉関連法令の専門用語をまとめる													
第 6 回	福祉行政の組織(中央及び地方政府を中心に)	事前学習	pp.44~51 を熟読し、要点をまとめる													
		事後学習	厚生労働省の機能についてまとめる													
第 7 回	社会福祉基礎構造改革と福祉サービスの利用方式の分化 について	事前学習	pp.54~60 を熟読し、要点をまとめる													
		事後学習	福祉サービスの利用方式についてまとめる													
第 8 回	財政と社会福祉 社会保障給付費とは、社会保障給付費の推移、社会保障 関係費の動向について	事前学習	pp.62~68 を熟読し、要点をまとめる													
		事後学習	日本の社会保障給付費の動向の特徴についてまとめる													

平成 28 年度

第 9 回	地方自治団体の財政と民生費の動向、民間と利用者負担	事前学習	pp.69～75 を参考に自分が住んでいる地方自治団体の民生費を調べてまとめる
		事後学習	日本の民生費の動向の特徴についてまとめる
第 10 回	福祉行政の専門機関と専門職 福祉関連専門機関と専門職にはどのようなものがあるのか	事前学習	pp.86～100 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第 11 回	福祉計画の基本的視点 計画と計画化、目標と目的の違いや PDCA サイクル、福祉計画の概念や主体そして類型について	事前学習	pp.116～133 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	福祉計画のプロセスについてまとめる
第 12 回	福祉計画におけるニーズ把握について	事前学習	pp.134～141 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	客観的ニーズと主観的ニーズの関係についてまとめる
第 13 回	福祉計画における評価について	事前学習	pp.142～148 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	評価技法についてまとめる
第 14 回	福祉計画の事例研究の視点と種類について	事前学習	pp.158～163 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第 15 回	福祉計画における住民参加の方法となぜそれが重要な のか	事前学習	pp.149～155 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	住民参加の方法及び重要性についてまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1107 GEBS1107
2. 授業担当教員	安藤 哲也			
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>			
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・レポート</p> <p>身の回りで起きている問題や関心のある社会問題について、自分で課題 (テーマ) を設定し、講義の内容を踏まえてレポートを作成する。</p> <p>※レポートは2000字程度とし、第14回の授業で発表し、第15回の授業で提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 (第3版)』慶應義塾大学出版会、2002</p> <p>【参考書】 戸田山和久『新版 論文の教室-レポートから卒論まで-』NHK 出版、2012 東方出版社編『公用文の表記 改定新版』東方出版社、2014 ※必要に応じて、授業内でプリントを配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	レポート 40%、授業への取り組み姿勢 30%、課題提出 30%			
12. 受講生への メッセージ	<p>この科目では、学生同士のグループ討議による学び合いを中心に授業を進めます。自分とは違う考えに出会うことで、一人一人がより思考を深めたり広げたりしていくことを期待しています。</p> <p>授業に有意義に楽しく参加するためにも、事前学習での課題の取り組みが重要です。たくさん書いて、たくさん読んで、自分の考えを書き言葉で効果的に表すトレーニングをしていきましょう。</p>			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	科目のガイダンス (シラバス、授業の進め方)、本授業に期待することを文章化する。	事前学習	本授業に期待することについて、考えをまとめておく。	
		事後学習	教科書 pp.5~9 を読み、レポート・論文の基礎事項をまとめる。	
第2回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章を基に、論文・レポートの要件と書き進める上での注意点について理解する。	事前学習	教科書 pp.32~39 を読み、重要事項をまとめておく。	
		事後学習	論文・レポートの要件と書く上での注意点を整理しておく。	
第3回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章を基に、論文の構成部分と順序、各部分で書く内容について理解する。	事前学習	教科書 pp.40~53 を読み、重要事項をまとめておく。	
		事後学習	論文の構成 (内容を含む) ・順序について整理しておく。	
第4回	パラグラフやトピック・センテンスに関する配布資料を基に、パラグラフの構造について理解する。	事前学習	パラグラフに関する配布資料を読み、重要事項をまとめておく。	
		事後学習	パラグラフの構造、トピック・センテンスについて、整理しておく。	
第5回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第2章を基に、テキスト批評の仕方を理解する。また、前回の授業内容を踏まえ、テキストの要約をする。	事前学習	教科書 pp.14~29 を読み、重要事項をまとめておく。	
		事後学習	テキスト批評の仕方について、整理しておく。	
第6回	前回の授業で要約したテキストに対する批評を発表し、検討する。	事前学習	前回の授業で要約したテキストについて、自身の批評を行う。	
		事後学習	検討の結果、文章構成において不十分であった部分を確認し、修正する。	
第7回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章及び論証に関する配布資料を基に、論証の仕方について理解する。	事前学習	論証に関する配布資料を読み、重要事項をまとめておく。	
		事後学習	説得力のある論述の仕方について、整理する。	
第8回	アウトラインに関する配布資料を基に、文章を構造化するためのアウトライン作成について理解する。	事前学習	アウトラインに関する配布資料を読み、重要事項をまとめておく。	
		事後学習	文章構成の骨組となるアウトライン作成の意義について整理する。	

第 9 回	表記方法に関する配付資料を基に、分かりやすい文章を書くための表記の仕方について理解する。	事前学習	分かりやすい文章にするための表記の仕方について、考えておく。
		事後学習	読み手に分かりやすい表記の仕方について、整理しておく。
第 10 回	与えられた課題について、肯定派と否定派に分かれ、自己の立場を主張するための文章をグループ単位で作成する。	事前学習	一人一人がディベート用の文章を作成しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第 11 回	肯定派、否定派双方の文章を読み、どちらに説得力があるか、根拠を伴って審査する。	事前学習	ディベート用の文章を推敲しておく。
		事後学習	より説得力をもつ文章の書き方について、整理しておく。
第 12 回	前回とは異なる課題について、肯定派と否定派に分かれ、自己の立場を主張するための文章をグループ単位で作成する。	事前学習	一人一人がディベート用の文章を作成しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第 13 回	肯定派、否定派双方の文章を読み、どちらに説得力があるか、根拠を伴って審査する。	事前学習	ディベート用の文章を推敲しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第 14 回	自分でテーマ設定した課題レポートの発表とグループによる検討。	事前学習	文章の推敲、話し方の工夫など、発表の準備をする。
		事後学習	レポートの検討課題を基に、これまでの学習内容を振り返り、修正する。
第 15 回	まとめ (本授業で期待していたこととその成果について文章化し、第 1 回の授業で書いた文章と比較してみる。)	事前学習	本授業の成果について、考えをまとめておく。
		事後学習	自作の文章の比較を基に、これまでの学習内容を振り返り、文章表現の方法を確認する。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107 GEBS1107
2. 授業担当教員	新井 美也子		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やもの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1, レポート課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 説明授業型 (テキストをまとめる) レポート (2) 要約型 (文学作品の要約) レポート (3) 報告学習型 (地球の温暖化を防ぐことはできるか等) レポート (4) 口頭発表会の資料 (パワーポイント) <p>* それぞれのレポート作成に関する本や資料などの収集</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 大島弥生共著『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 (第2版)』ひつじ書房</p> <p>【参考書】 三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック第6版』三省堂</p> <p>*必要に応じてプリント資料を配付する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業で課せられるレポート 50%</p> <p>レポートの口頭発表会 20%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>期末テストは実施しない。合格に達しないレポートの場合は再提出。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国語や作文は苦手と考える人も大丈夫。大学生として必要な、レポート作成を初めて体験する大学生を対象にした授業です。「レポートの書き方・発表の仕方」を習得してもらいます。</p> <p>学習方法は、仲間同士がお互いの文章をよりよくするために話し合い、そこで議論されたことを参考に、書き手が文章の構想を練り直し、推敲を重ねていくピア・レスポンス活動で進めます。こうした共同学習から、内容を深め、文章表現を洗練し、レポートの質を高めていきます。ピア・レスポンス活動の成否は、個々の努力にかかっています。協力し合い、クラス全体で、社会が必要としているコミュニケーション能力のレベルアップを図りましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	30秒スピーチ「自己紹介 (私の愛読書を入れて)」 科目のガイダンス (授業の進め方・グループ編成等)	事前学習	愛読書 (文学作品) に触れた自己紹介を30秒程度でスピーチできるように準備しておく。
		事後学習	自他の愛読書から第5回講義、「要約型レポート作成」で使用する文学作品を決定し、再読する。
第2回	レポート作成の基礎・基本 ・作文・レポート・小論文の違い ・レポートの種類 ・レポート作成のプロセス	事前学習	「要約型レポート作成」で使用する文学作品を再読し、主題に関連する文章を記録しておく。
		事後学習	レポートの種類・作成のプロセスについてまとめる。
第3回	レポート作成1 ・説明授業型 (テキストをまとめる) レポートの作成	事前学習	教科書P5からP22まで熟読しておく。
		事後学習	テキストをまとめるレポートを完成する。
第4回	レポート作成1 ・説明授業型レポートの完成 (話し合い・推敲・清書)	事前学習	「要約型レポート作成」で使用する文学作品を再読し、要約に必要な文章を決定しておく。
		事後学習	説明授業型レポートを完成し提出する。
第5回	レポート作成2 ・要約型 (文学作品) レポートの作成	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	文学作品を要約するレポートを完成する。
第6回	レポート作成2 ・要約型レポートの完成 (話し合い・推敲・清書)	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	要約型レポートを完成し提出する。

平成 28 年度

第 7 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 構想を練り、情報を調べる。 ② テーマを絞り込み目標を規定する。	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	テーマに関する本を補足する。
第 8 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 文章を組み立てる ② 組み立てを再検討する ③ 中心部を書く。	事前学習	テーマに関する本や資料を補足しておく。
		事後学習	レポートの組み立てを完成させる。 序論を完成させる。
第 9 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 本文を書きこんでいく。 ② 数値データと図表を根拠部分に使う。	事前学習	組み立てと序論の見直しをしておく。
		事後学習	本論を完成させる
第 10 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 引用しながら書く。	事前学習	本論の見直しをしておく。
		事後学習	結論と引用を完成させる。
第 11 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 文章・表現・形式を点検する。	事前学習	レポートを見直しておく。
		事後学習	話し合いを活かして加筆・削除など修正する。
第 12 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 口頭発表の準備 (発表資料作成)	事前学習	レポート全体を見直しておく。
		事後学習	パワーポイントなどで発表資料を完成する。
第 13 回	論証型レポートの概要 レポート発表会のリハーサル・最終確認	事前学習	パワーポイントなど発表資料を修正しておく。
		事後学習	口頭発表会の確認をする。
第 14 回	レポートの口頭発表会 1・評価・交流	事前学習	口頭発表練習をしておく。
		事後学習	相互評価を見直す。
第 15 回	レポートの口頭発表会 2・評価・交流 文章表現の成果と課題	事前学習	口頭発表練習をしておく。
		事後学習	これまでの学習を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	攪上 哲夫		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>中間レポート: 「課題」を課し、授業で学習した内容に沿ってレポートを提出する。</p> <p>期末レポート: 各自が選んだテーマについてのレポートを提出する。</p> <p>授業進度に沿った小レポートの提出を求める。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>教科書 河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 慶應義塾大学出版会、2014』</p> <p>参考書 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規、2013</p> <p>吉田健正著『レポート・論文の書き方』ナカニシヤ 2004 年</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート 2 本 (50%)、 2. 通常授業での小レポート (30%) 3. 日常の学習状況 (20%) 		
12. 受講生への メッセージ	<p>大学のレポートは、試験の代わりに要求されることもあり、大学生にとってはその技法を知ることは重要なことである。「レポート」をどのように書くのか、大学のレポートの基本を身に付けるように指導をする。レポートを書きなれ、自らテーマを決め「論文」を書けるまでに成長をしてほしい。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業時に連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 「大学の教育とレポート。論文の書き方」	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.5~8 を読み、大学の教育に必要なレポートの予備知識を持つ。
		事後学習	高校までのレポートと大学のレポートの違いについてワークシートにまとめる。
第 2 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』 第 1 章「レポート・論文の有用性 論理的な表現を身に付ける。」	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.9~11 を読み、大学のレポートの意味についての予備知識を持つ
		事後学習	大学のレポートとビジネス文書についてワークシートにまとめる。
第 3 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』 第 2 章「テキスト批評とは何か」本を読む、本を批評する。	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.14~16 を読み、テキスト批評の予備知識を持つ。
		事後学習	テキスト批評の練習問題でまとめる。
第 4 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』 第 2 章「テキスト批評とは何か」テキスト批評の仕方① 要約の仕方を学ぶ。	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.17~21 を読み、テキスト批評の仕方の概略を掴む。
		事後学習	「要約」の練習問題で復習する。
第 5 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』 第 2 章「テキスト批評とは何か」テキスト批評の仕方② 各種の調査方法について学ぶ。	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.22~29 を読み、「問題の提起」について予備知識を持つ。
		事後学習	「問題の提起」の練習問題で復習する。
第 6 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』 第 2 章「テキスト批評とは何か」テキスト批評の効果 テキスト批評 演習問題	事前学習	第 2 章「テキスト批評という練習法」を繰り返し読み、授業に臨む。
		事後学習	「テキスト批評」の練習問題で復習する。
第 7 回	論文「刑務所出所者に対する福祉的支援システムの必要性に関する一考察」を読み、「テキスト批評」演習。	事前学習	授業で使用する論文を事前に読み、概要を掴む。
		事後学習	「テキスト批評」振り返りを行う。
第 8 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』 第 3 章「論文の要件と構成」論文・レポートとは何か を学ぶ。	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.32~35 を読み、論文についての予備知識を持つ。
		事後学習	『保育児童福祉要説』のレポート例を読む。

第 9 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』レポートを書く際の注意を学ぶ。	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.36~41 を読み、論文の構成についての予備知識を持つ
		事後学習	『保育児童福祉要説』参考例を読み、課題をレポートする。
第 10 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』第 3 章「論文の要件と構成」論文の構成を学ぶ。①	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.42~54 を読み、論文構成の予備知識を持つ。
		事後学習	『保育児童福祉要説』参考例を読み、課題をレポートする。
第 11 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』第 3 章「論文の要件と構成」論文の構成を学ぶ。② レポート作成①	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.42~54 を読み、前時の復習をする。
		事後学習	レポートの見直しを行う。
第 12 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』第 3 章「論文の要件と構成」論文の構成を学ぶ。② レポート作成② レポートを発表する。	事前学習	見直したレポートを清書する。
		事後学習	本時の復習をする。
第 13 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』第 4 章「問題の設定、本文の組み立て方」卒業論文の参考例から論文について考察する。	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.56~68 を読み、論文の組み立て方の予備知識を持つ。
		事後学習	授業で取り上げた論文の組み立て方を復習する。
第 14 回	教科書『レポート・論文の書き方入門』第 5 章「引用・文献表の付け方」引用の仕方、参考文献の表記の仕方を学ぶ。	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』 pp.70~91 を読み、注・注記号、参考文献の書き方の予備知識を持つ。
		事後学習	『保育児童福祉要説』を参考に、注・注記、参考文献の書き方を復習する。
第 15 回	文章表現のまとめ	事前学習	教科書『レポート・論文の書き方』を通して読む。
		事後学習	これまでの学習を生かし、大学のレポートの書き方を今後の学習に活かす。

1. 科目名 (単位数)	保育・教育課程論 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3404
2. 授業担当教員	河合 光利		SCOT3404
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育所保育、幼稚園教育の目的と方法の基本を確認し、保育課程・教育課程の意義を示し、その編成の仕方を実際の子どもの発達、生活に照らしながら理解するようにする。保育は子どもの自発的な興味関心や個人差に応じて実践することを踏まえ、保育・教育課程と指導計画との質的差異を理解し、保育者の教育的意図を子どもの主体的な生活の中にどう反映したらよいか具体的に分るように、実例によって示す。さらに、実践においては子どもの実態に対応しながら計画の修正をどのようにするか、一日の保育の評価反省をどうするかを扱いながら、保育における計画性と偶発性の双方の意味の理解を深める。ボトムアップによる計画作成の方法を長期指導計画と短期指導計画との関連から理解するようにする。以上を通して、保育所保育指針、幼稚園教育要領等に示されている保育課程・教育課程、指導計画の考え方を正しく理解し、実践に結びつける力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>1 カリキュラムについての基礎的理解ができるようになる。 2 保育における計画—実践—評価 (反省) の関係を理解できるようになる。 3 保育課程、教育課程と指導計画との関係、および長期指導計画と短期指導計画の関係を理解し、実践に結びつけることが出来るようになる。 4 長期指導計画、短期指導計画の立て方が分かり、一日の指導計画を作成する。 5 保育実践の反省の仕方がわかり、計画の修正への過程を理解できるようになる。 6 子どもの発達の把握と指導要録、保育児童要録の意義と書き方を理解できるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内容に関して、毎回、予習、復習の内容を確認するので、必ず予習・復習をすること。また、質問や発言等、授業内での学習態度を重要視するので、しっかりとした意識をもって授業に参加すること。小レポート等の課題に対しては、時間厳守にて提出すること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 佐藤康富編著「保育・教育課程総論」大学図書出版, 2014</p> <p>【参考書】 『幼稚園教育要領・保育所保育指針解説書』ミネルヴァ書房。 磯部裕子編『教育課程の理論—保育におけるカリキュラム・デザイン—』萌文書林。 柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編『最新保育講座 5 保育課程 教育課程総論』ミネルヴァ書房 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的な参加態度 (質問、発表) 20% 小レポート 40% 期末試験 40%にて評価する</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この科目は幼稚園教諭免許、保育士資格の必修科目であり、授業中のマナー、意欲、保育者としての考え方などを大切にしたいと考えている。教育課程、保育計画は、子どもの生活に根ざしたものであり、子どもの育ちを保证するものでもある。したがって、地球環境、自然環境、異文化、伝統行事などへの関心を広くもち、これから育つ子どもたちに対して「伝えるべき文化」をしっかりとし身につけて欲しい。</p>		
13. オフィスアワー	後日、授業内で提示する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション 授業方針及び授業概要の説明	事前学習	教科書の初項を読み、授業内容を理解する。
		事後学習	授業方針、内容、約束等をまとめる。
第 2 回	保育所保育指針・幼稚園教育要領に示されている保育・教育課程と指導計画	事前学習	教育要領・保育指針の序章を読んでくる。
		事後学習	保育・教育課程とは何かをまとめる。
第 3 回	保育におけるカリキュラムの必要性について	事前学習	カリキュラムとは何か調べ理解する。
		事後学習	カリキュラムの必要性についてまとめる。
第 4 回	子どもの発達過程・興味関心や経験、家庭環境等、教育的系統性の総合的把握	事前学習	子どもの生活や発達の姿をまとめてくる。
		事後学習	子どもの生活の成り立ちをまとめる。
第 5 回	保育内容と保育・教育課程の編成の仕方	事前学習	保育教育課程の成り立ちを調べ、理解する。
		事後学習	編成の仕方をまとめる。
第 6 回	長期の指導計画の作成 (年間計画、月、期案)	事前学習	教育課程と指導計画の違いをまとめてくる。
		事後学習	長期の指導計画をまとめる。
第 7 回	短期の指導計画の作成 (週、日、時間案)	事前学習	指導計画について調べ、まとめてくる。
		事後学習	短期の指導計画をまとめる。
第 8 回	長期と短期の指導計画の関係	事前学習	指導計画を調べ、まとめてくる。
		事後学習	長期と短期の指導計画をまとめる。
第 9 回	計画と実践との関係 (1 日の保育の例を通して)	事前学習	日案の成り立ちをまとめてくる。
		事後学習	計画と実践のギャップを検証する。
第 10 回	保育の評価・反省の仕方 (子どもの経験から、保育の目標から、保育者の指導法等から)	事前学習	保育の評価について理解する。
		事後学習	様々な側面からの反省をまとめてみる。
第 11 回	計画—実践—反省—計画 のサイクル (反省の活かし方)	事前学習	指導計画の流れを理解する。
		事後学習	反省の活かし方をまとめる。
第 12 回	幼児指導要録、保育所児童保育要録の意義と書き方	事前学習	指導要録・保育要録を調べ、まとめてくる。

平成 28 年度

		事後学習	記入の仕方についてまとめる。
第 1 3 回	事例または課題による指導案作成例の発表・討論 (1)	事前学習	自らの指導計画を作成してくる。
		事後学習	指導計画について討論及び発表を行う。
第 1 4 回	事例または課題による指導案作成例の発表・討論 (2)	事前学習	いろいろな指導計画を探し、まとめてくる。
		事後学習	様々な角度から指導計画を検証する。
第 1 5 回	まとめ (保育における計画と実践の考え方)	事前学習	授業ノートのこれまでの内容をまとめる。
		事後学習	今後の課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育・教育課程論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3109						
2. 授業担当教員	矢野 景子								
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>保育所保育、幼稚園教育の目的と方法の基本を確認し、保育課程・教育課程の意義を示し、その編成の仕方を実際の子どもの発達、生活に照らしながら理解するようにする。保育は子どもの自発的な興味関心や個人差に応じて実践することを踏まえ、保育・教育課程と指導計画との質的差異を理解し、保育者の教育的意図を子どもの主体的な生活の中にどう反映したらよいか具体的に示す。さらに、実践においては子どもの実態に対応しながら計画の修正をどのようにするか、一日の保育の評価反省をどうするかを扱いながら、保育における計画性と偶発性の双方の意味の理解を深める。ボトムアップによる計画作成の方法を長期指導計画と短期指導計画との関連から理解するようにする。以上を通して、保育所保育指針、幼稚園教育要領等に示されている保育課程・教育課程、指導計画の考え方を正しく理解し、実践に結びつける力を養う。</p>								
8. 学習目標	<p>1 カリキュラムについての基礎的理解ができるようになる。 2 保育における計画—実践—評価 (反省) の関係を理解できるようになる。 3 保育課程、教育課程と指導計画との関係、および長期指導計画と短期指導計画の関係を理解し、実践に結びつけることが出来るようになる。 4 長期指導計画、短期指導計画の立て方が分かり、一日の指導計画を作成する。 5 保育実践の反省の仕方がわかり、計画の修正への過程を理解できるようになる。 6 子どもの発達の把握と指導要録、保育児童要録の意義と書き方を理解できるようになる。</p>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題: 「保育の質」に関連する書籍を読み、関心のある視点から自分の考えを述べる。								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編『最新保育講座 5 保育課程 教育課程総論』ミネルヴァ書房、2010年。 【参考書】 阿部和子・前原寛『保育課程の研究』萌文書林、2009年。 河邊貴子『教育課程保育課程論』東京書籍、2008年。 『幼稚園教育要領・保育所保育指針解説とポイント』ミネルヴァ書房、2008年。 関口はつ江・太田光洋編著『実践としての保育学—現代に生きる子どものための保育—』同文書院、2009年。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 その他、講義内容に応じて文献を紹介する他、プリント等を配布する。</p>								
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加態度 (質問、発表、提出物)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>にて評価する 本学の規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 遅延の場合は、遅延届を必ず提出すること。</p>			授業への積極的参加態度 (質問、発表、提出物)	20%	グループ発表	30%	レポート	50%
授業への積極的参加態度 (質問、発表、提出物)	20%								
グループ発表	30%								
レポート	50%								
12. 受講生への メッセージ	<p>子どもの発達を見通した園全体の教育目標と具体的な計画は、子どもの生活に根ざしたものであり、子どもの育ちを保障するだけでなく、保育者の柔軟な対応の道標にもなる。具体的な実習場面や子どもの姿を自分なりにイメージしながら、実践に結びつくよう積極的に授業に臨むことを期待する。また、現場で求められる協働性についても理解し、その方法を習得するよう努め、解らないことや疑問点等は対話で解決すること。</p>								
13. オフィスアワー	後日、授業内で提示する								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション 保育の基本とカリキュラム	事前学習	教科書の目次を読み、関心のある章を読む。						
		事後学習	カリキュラムについて理解したことを整理しまとめる。						
第 2 回	保育の計画の必要性和種類	事前学習	保育所保育指針・幼稚園教育要領の保育の計画について精読する。						
		事後学習	保育の計画の必要性について、気付いたことを自分の言葉でまとめる。						
第 3 回	指導計画の種類と役割	事前学習	教科書 pp. 32~37 を精読する。						
		事後学習	長期計画と短期計画の関係についてまとめる。						
第 4 回	保育における計画の考え方① 0, 1, 2 歳児を中心に	事前学習	教科書 pp. 41~52 を精読する。						
		事後学習	計画の視点と配慮を整理し自分の言葉でまとめる。						
第 5 回	保育における計画の考え方② 3, 4, 5 歳児を中心に	事前学習	教科書 pp. 69~79 を精読し、「遊びの連続性」について、考えをまとめる。						
		事後学習	計画の視点と配慮を整理し、自分の言葉でまとめる。						

第 6 回	指導計画の実際①日案	事前学習	配布資料を読み、関心のある箇所を探す。
		事後学習	授業で気付いたことを自分の言葉でまとめる。
第 7 回	指導計画の実際②週案・月案	事前学習	配布資料を読み、関心のある箇所を探す。
		事後学習	授業で気付いたことを自分の言葉でまとめる。
第 8 回	指導計画の実際③休日保育、一時保育、異年齢保育、預かり保育	事前学習	休日保育、一時保育、異年齢保育、預かり保育について調べ、まとめる。
		事後学習	保育形態と計画について、気づいたことをまとめる。
第 9 回	指導計画の実際④ウェブ式指導計画の実際	事前学習	配布資料を精読する。
		事後学習	ウェブ式指導計画について気づいたことをまとめる。
第 10 回	計画－実践－反省－計画 のサイクル（反省の活かし方）-園内研修の実際-	事前学習	「質の高い保育とは？」を具体的に考えてくる。
		事後学習	園内研修の実際から、気づいたことを整理しまとめる。
第 11 回	保育課程・教育課程の見直し	事前学習	教科書 pp. 147～150、pp. 163～166 を精読する。
		事後学習	生きた保育課程・教育課程にするためのポイントを整理しまとめる。
第 12 回	保幼小連携と保育の計画	事前学習	教科書 pp. 83～96 を精読する。
		事後学習	保幼小連携について気づいたことを整理しまとめる。
第 13 回	幼児指導要録、保育所児童保育要録	事前学習	配布資料を精読し、関心のある箇所を探す。
		事後学習	授業で気付いたことを自分の言葉でまとめる。
第 14 回	保育課程・教育課程の作成と発表・討議 (1)	事前学習	理想の保育園、幼稚園を想定し考えてくる。
		事後学習	ワークシートをもとに、グループで話し合い、保育理念や保育目標を作成し、保育課程・教育課程をもとにパンフレット作成を行う。
第 15 回	保育課程・教育課程の作成と発表・討議 (2)	事前学習	パンフレットの作成を行う。
		事後学習	期末レポートの課題を作成し、提出する。

1. 科目名 (単位数)	保育原理 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2107
2. 授業担当教員	吉川 晴美	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	乳幼児期における保育・教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うきわめて重要なものである。そのことを踏まえて本科目では、なぜ重要な意味をもつのかについて、様々な観点から理解できるようにする。保育の意義とその思想、保育の歴史の変遷、子どもの発達特性、保育理論と実践との関連などについて概説し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基本的資料として、保育の原理、目的、目標、内容、方法、計画、評価について理解する。さらに、現代的保育ニーズや子育て支援に関する基本を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の目的、目標、内容、方法を理解し、説明することができる。 2. 保育の歴史の変遷、その思想についての知識を身に付ける。 3. 保育実践の土台となる子ども観、保育観、発達観について理解し、説明することができる。 4. 子ども理解の重要性、個の特性に応じた望ましい援助について習得する。 5. 環境を通して行う保育について理解し、具体的な実践方法を習得する。 6. 保育の現状を知り、現代社会における保育ニーズや子育て支援について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の通った園の保育について」のプリント 2. 保育の現状と課題についてのレポート 		
10. 教科書・参考書・教材	武藤安子吉川晴美、松永あけみ『家庭支援の保育学』建帛社 2010、 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館		
11. 成績評価の方法	テスト 70%、レポート 10%、学習態度 20% (平常の学習態度、出席状況) を総合的に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	保育原理は難しくありません。実際の場面やロールプレイ、自分で調べたことなどから、保育において大切にしたい基本的な考え方について、学んでいきましょう。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	自分の通った園についてふりかえる	事前学習	自分の通った園の現状を調べる
		事後学習	園の方針、保育内容、特色をまとめる
第 2 回	保育と何か	事前学習	自分の受けた保育からその特色に気づく
		事後学習	保育の重要性について実感する。
第 3 回	保育の意義と目標	事前学習	教科書、配布資料を読む
		事後学習	具体的場面から保育の意義と目標を復習する
第 4 回	保育の現状と課題	事前学習	報道党から、今日の保育をとりまく現状、問題点に気づく
		事後学習	保育の現状と課題についてレポートする
第 5 回	保育の歴史と思想① (コメニウス、ルソー)	事前学習	教科書、配布資料の該当部分を読む
		事後学習	該当する人物について調べ内容を深める
第 6 回	保育の歴史と思想② (モンテッソーリ、フレーベル)	事前学習	教科書、配布資料の該当部分を読む教科書を読む
		事後学習	該当する人物について調べ内容を深める
第 7 回	保育の歴史と思想③ (シュタイナー、倉橋惣三)	事前学習	教科書、配布資料の該当部分を読む
		事後学習	該当する人物について調べ内容を深める
第 8 回	保育の原理	事前学習	歴史、現在に流れる保育の原理に気付く。
		事後学習	実際の保育場面から保育原理を導く
第 9 回	保育の場—幼稚園、保育所、認定子ども園	事前学習	幼稚園、保育所、認定子ども園を知る
		事後学習	幼稚園、保育所、認定子ども園を調べ深める
第 10 回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本的な考え方①	事前学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む
		事後学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の特色に気付く
第 11 回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本的な考え方②	事前学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本的な考え方を理解する
		事後学習	実際の園の保育と保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との関連性を理解し、深める
第 12 回	集団保育の意義	事前学習	具体的事例から、幼児の集団の意義を考える
		事後学習	ビデオ資料等の事例から集団保育の意義を理解し、まとめる。
第 13 回	集団保育の形態と方法	事前学習	教科書、配布資料の保育事例場面から形態と方法について考える
		事後学習	保育事例場面から集団保育の形態と方法を理解し、まとめる。

平成 28 年度

第 1 4 回	集団保育における子ども理解と保育者のかかわり方	事前学習	実際の保育場面におけるエピソードの抽出
		事後学習	エピソードから子どもと保育者のかかわりについて理解し、まとめる。
第 1 5 回	まとめー集団保育の実践	事前学習	今までの授業をふりかえり、実際の集団保育の場面から重要な保育の原理をまとめる。
		事後学習	今までの学習内容を理解しまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育原理 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2338 SCMP2338 SBMP2338 SJMP2107
2. 授業担当教員	太田 節子		5. 開講学期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	乳幼児期における保育・教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うきわめて重要なものである。そのことを踏まえて本科目では、なぜ重要な意味をもつのかについて、様々な観点から理解できるようにする。保育の意義とその思想、保育の歴史の変遷、子どもの発達特性、保育理論と実践との関連などについて概説し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基本的資料として、保育の原理、目的、目標、内容、方法、計画、評価について理解する。さらに、現代的保育ニーズや子育て支援に関する基本を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の目的、目標、内容、方法を理解し、説明することができる。 2. 保育の歴史の変遷、その思想についての知識を身に付ける。 3. 保育実践の土台となる子ども観、保育観、発達観について理解し、説明することができる。 4. 子ども理解の重要性、個の特性に応じた望ましい援助について習得する。 5. 環境を通して行う保育について理解し、具体的な実践方法を習得する。 6. 保育の現状を知り、現代社会における保育ニーズや子育て支援について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・受講者の学習状況に応じて、保育所保育指針、幼稚園教育要領に関する課題を提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 関口はつ江編『保育原理』萌文書林。 森上史朗監修『最新保育資料集』ミネルヴァ書房。 「保育児童福祉要説」東京福祉大学編、中央法規。 【参考書】 『保育所保育指針解説』厚生労働省。 『幼稚園教育要領解説』文部科学省。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 20% レポート 20% 期末試験 60%		
12. 受講生へのメッセージ	人間形成の基礎をつくる乳幼児期の子どもにかかわる保育者は、子どもたちに多大な影響を及ぼす存在となります。未来を担う子どもたちのためにも授業は真剣に臨み、疑問を抱いた時には大いに質問し、学習を深めることを期待します。保育の勉強には、「議論すること」が効果をあげます。ディスカッションでは、自分の意見を遠慮なくぶつけて、自分自身のなかでの子ども観や保育観をしっかりと築いていけるようにしましょう。		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	保育とは何かを知り、養護と教育の意味、養護と教育の一体化の意味を理解する。	事前学習	「保育所」と「幼稚園」の社会的役割について調べておく。
		事後学習	授業内容を復習し、「養護と教育の一体化」の意味を理解する。
第2回	諸外国の保育の歴史の変遷、保育思想について学び、現代の保育への示唆を得る。	事前学習	ヨーロッパの保育の歴史について、調べておく。
		事後学習	コメニウスからフレーベルの思想について、要点をまとめる。
第3回	日本の保育の歴史の変遷、保育思想について学び、現代の保育への示唆を得る。	事前学習	日本の保育の歴史について調べる。
		事後学習	モンテッソーリと倉橋総三の思想について、要点をまとめる。
第4回	保育所保育指針、幼稚園教育要領をもとに、保育の目的・目標、ねらいについて理解する。	事前学習	幼稚園教育要領、保育所保育指針のそれぞれの第1章を読み、理解する。
		事後学習	保育の目的・目標・ねらいの関係を復習する。
第5回	保育所保育指針、幼稚園教育要領をもとに、保育の内容、方法について理解する。	事前学習	幼稚園教育要領の第2章、保育所保育指針第3章を読み、理解する。
		事後学習	保育の方法と内容の密接な関係を理解する。保育の両義性の例を考える。
第6回	子ども観、保育観について理解する。「子ども」や「保育」の捉え方が、保育内容・方法へどのような影響を及ぼすのかを理解する。	事前学習	子ども観、保育観の意味を調べる。
		事後学習	自身の子ども観や保育観について考えをまとめる。
第7回	発達観について理解する。発達の捉え方が、保育内容・方法へどのような影響を及ぼすのかを理解する。	事前学習	「発達」の定義について調べる。
		事後学習	授業での事例をもとに、自身の発達観を検証してみる。
第8回	5領域の意味を理解し、幼児の発達を総合的に捉えて援助することの重要性を習得する。	事前学習	幼稚園教育要領と保育所保育指針の5領域の箇所を読み、両文書の「ねらい」と「内容」に整合性があるかどうかを検証する。

		事後学習	5領域をふまえたうえで、総合的に指導・援助する意味を理解する。
第 9 回	遊びの意味や特徴を学び、幼児期の遊びの重要性について知る。	事前学習	身近な幼児の遊びを観察し、気づいた点や特徴をメモする。
		事後学習	遊びと学びの関係を理解し、学びを引き出すための望ましい援助方法を理解する。
第 10 回	保育の環境を理解し、環境を通して行う保育の意味を知り、現場での具体的な実践方法を習得する。	事前学習	保育の環境にはどのようなものがあるかを記述する。
		事後学習	環境による保育の効果を考察する。
第 11 回	保育課程、教育課程について理解し、その構造を知る。	事前学習	教科書の保育課程、教育課程に就いて記述されている箇所を読み、その意味を理解する。
		事後学習	保育に計画が必要な理由を理解する。
第 12 回	指導計画の構造と作成上の留意点について理解する。	事前学習	教科書の「指導計画」の箇所を読み、理解する。
		事後学習	指導計画の具体例のプリントを丁寧に読み、発達段階による違いを検証する。
第 13 回	現代の子どもをとりまく状況と保育の現状を理解する。	事前学習	現代の子どもをとりまく状況について考え、気づいた点をまとめる。
		事後学習	保育の現状について復習し、保育者として求められる喫緊の課題について自身の考えをまとめる。
第 14 回	現代的保育ニーズと子育て支援、保育政策について知る。	事前学習	厚労省のホームページから「子ども・子育て関連3法」について調べる。
		事後学習	子育て支援に関連する保育政策は、どのような点を重視しているか、それはなぜかを考え、記述し、問題点をあげる。
第 15 回	授業のまとめをする。	事前学習	子どもの視点に立って、現在の保育政策を検証する。
		事後学習	制度のなかで仕事に携わる保育者として、子どもや保護者、地域に何を提供することが求められているかを考え、レポートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導 I (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3251
2. 授業担当教員	齋藤 厚子・佐藤 賢一郎			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	保育実習 I の意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を明確にする。 2. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。 3. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につける。 4. 演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。 5. 保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	実習への準備をする科目である。提出期日は厳守。遅れた場合は受け取りません。 ①実習目標②実習施設レポート③記録の模写④記録の作成⑤部分実習指導案⑥教材研究⑦その他提出書類など			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 岡本幹彦他編『福祉施設実習ハンドブック』(株)みらい 2013。 関口はつ江編『保育実習ハンドブック (実習の手引き)』大学図書出版 2012。 保育所保育指針<平成 20 年告示>フレーベル館 【参考書】 東京福祉大学社会学部発刊『保育実習の手引き』 (授業中に配布予定) 東京福祉大学社会学部発刊『保育実習 学習の手引き』(授業中に配布予定) 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008。			
11. 成績評価の方法	積極的授業参加態度及び提出物状況、レポート内容を総合的に評価する。 授業態度 50% 各提出物 50% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	初めての实習に向けての事前準備及び事後のまとめとなる授業です。大学の外へ出ていくことを自覚し、基本的な社会的ルールへの意識を持って授業に臨むこと。また保育実習は、これまで履修した科目の学習を前提として行われます。今までの学習全てを現場でフル活用していく心構えで授業に臨んで下さい。実際に子どもの目の前に立つ皆さんは、子どもにとって一人の大人のモデルとなります。保育者は全人格を問われる職業であることを自覚して、実習事前・事後それぞれに自己課題を明確にもち、実践力を身につけて下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	○オリエンテーション ○保育実習 I・II・IIIそれぞれの目的と実習の流れ及び実習生としての基本的な姿勢を理解する ○施設実習の実際を学ぶ	事前学習	教科書「保育実習ハンドブック」第 2 章 実習前の準備 (pp. 39~46) 教科書「福祉施設実習ハンドブック」Sheet 7・Sheet 8・Sheet 14・Sheet 15・Sheet 16・Sheet 17 を熟読してくる。	
		事後学習	学習のまとめを記録する。	
第 2 回	○種別ごとにグループごとにそれぞれの施設の機能・役割についてまとめる。	事前学習	教科書「福祉施設実習ハンドブック」Sheet 11 を熟読する。自己の配属先について調べる	
		事後学習	学習のまとめを記録する。	
第 3 回	○種別ごとに調べたことを発表する。 ○実習計画について学ぶ	事前学習	教科書「福祉施設実習ハンドブック」Sheet 13 を熟読する。	
		事後学習	施設実習自己課題を明確にする。	
第 4 回	施設実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。①	事前学習	教科書「福祉施設実習ハンドブック」Sheet 19 pp. 56~57 及び配布資料を熟読し、記録の書き方のポイントについて考えてくる。	
		事後学習	授業で行った記録シートを完成させる。	
第 5 回	施設実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。②	事前学習	自己の記録についての課題をまとめる。	
		事後学習	授業で行った記録シートを完成させる。	
第 6 回	施設実習直前に向けて最終準備を行い、実習への心構えを再確認する。	事前学習	実習前チェックリストを実施し疑問点や確認点を明確にしておく。	
		事後学習	実習の手引き・施設からの連絡プリントなどを再度確認し、最終チェックを行う。	
第 7 回	○保育実習の基礎知識を学び、保育所の一日の流れを把握する。 ○保育所実習オリエンテーションへの準備を通して、保育所実習の実習課題を明確にする。	事前学習	教科書「保育実習ハンドブック」第 3 章 実習中に学ぶこと (pp. 98~100) を熟読してくる。 『保育実習の手引き』のなかの保育所実習 I の実習目標を読み、理解する。	
		事後学習	保育所実習自己課題を明確にする。	
第 8 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。①	事前学習	教科書「保育実習ハンドブック」第 2 章 実習前の準備 (pp. 47~58) を熟読してくる。	
		事後学習	授業で視聴した VTR のなかの「子どもの姿」について記録したエピソードを清書し、1 日のまとめを記入する。	

平成 28 年度

第 9 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。②	事前学習	記録についての自己の課題をまとめる。
		事後学習	記録について指摘された点を修正する。
第 10 回	○部分について理解し、指導計画の理解と立案方法を習得する。	事前学習	保育実習ハンドブック第 2 章 実習前の準備 (pp. 69～71) を熟読してくる。教科書及び事前配布資料から指導案作成のポイントを考える。
		事後学習	指導案を完成させる。
第 11 回	模擬保育についてグループで話し合い計画を立て、発表をする。	事前学習	読み聞かせの練習をする。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 12 回	保育実習直前に向けて最終準備を行い、実習への心構えを再確認する。	事前学習	実習前チェックリストを実施し疑問点や確認点を明確にしておく。
		事後学習	実習の手引き・施設からの連絡プリントなどを再度確認し、最終チェックを行う。
第 13 回	施設実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	施設実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	施設実習の反省をふまえて、保育実習Ⅲに向けて、自己課題を明確にする。
第 14 回	保育所実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	保育所実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	保育所実習の反省をふまえて、保育実習Ⅱに向けて、自己課題を明確にする。
第 15 回	授業のまとめをする。	事前学習	保育実習Ⅰを総合的に振り返り、保育士の専門性と自己課題について考察する。
		事後学習	保育士の専門性と自己課題について、レポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SSOT4482 SCOT4482 SJMP4252
2. 授業担当教員	佐藤 賢一郎			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	保育実習Ⅰの総括・評価を丁寧に行うことにより、保育実習Ⅱに向けて新たな学習目標・課題を明確化する。これらをふまえて保育実習Ⅱに必要な知識や技能を習得し、現場に通用するための資質・能力のブラッシュアップを目指す。指導計画の立案と相互批評、計画を基にした模擬保育などにより実践力を向上させる。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅰの総括・評価を行い、保育実習Ⅱに向けて学習目標・課題を明確化することにより、新たな実習計画をたてることができる。 2. 保育現場に直結する具体的な知識・技能をグループ学習から体得する。 3. 責任実習のための指導計画を立案し、計画に基づく演習を繰り返し行い、実践力を向上させる。 4. 保育実習Ⅰ・Ⅱの振り返りを行い、自身の保育実践を総合的に省察する能力を身に付けることができる 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	実習への準備をする科目であるので、自己をふりかえり自己課題をみつけ (部分実習指導案、教材研究、記録の書き方など) 課題として提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 岡本幹彦他編『福祉施設実習ハンドブック』(株)みらい 2013。 関口はつ江編『保育実習ハンドブック (実習の手引き)』大学図書出版 2012。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学社会学部発刊『保育実習の手引き』 (授業中に配布予定) 東京福祉大学社会学部発刊『保育実習 学習の手引き』 (授業中に配布予定) 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>積極的授業参加態度 50% 15 回まとめレポートの内容 50% 以上の比率で総合評価する。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	保育実習は、これまで履修した科目の学習を前提として行われます。今までの学習全てを現場でフル活用していく心構えで授業に臨んで下さい。実際に子どもの目の前に立つ皆さんは、子どもにとって一人の大人のモデルとなります。保育者は全人格を問われる職業であることを自覚して、実習事前・事後それぞれに自己課題を明確にもち、実践力を身につけて下さい。さらに実習終了後は、現場での学習を保育理論と統合し、今後履修する科目の学習の糧にしてほしいと思います。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲそれぞれの目的と授業概要、実習の流れを理解する。施設実習の基礎知識を学習する。	事前学習	教科書「保育実習ハンドブック」第 1 章 実習とは何か (pp. 7~20) を熟読してくる。	
		事後学習	施設実習Ⅰの実習目標を復習する。	
第 2 回	実習におけるマナーと勤務の留意点を確認する。先輩の体験談から実習生としてのあるべき態度を理解する。	事前学習	『保育実習の手引き』の「実習に関する基本的ルール」及び「留意事項」の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	ノートに記録した先輩からの体験談をまとめて、要点を整理する。	
第 3 回	施設実習オリエンテーションへの準備を通して、実習施設別の目的と内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』のなかの実習オリエンテーションへの準備、必要とする持ち物、の箇所を読み、必要なものを準備する。	
		事後学習	施設実習自己課題を明確にする。	
第 4 回	施設実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。	事前学習	施設実習に関する教科書の「実習日誌の書き方」の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	『保育実習 学習の手引き』のなかの「実習記録について」及び「実習記録の提出にあたって」を読み、復習する。	
第 5 回	保育実習の基礎知識を学び、保育所の一日の流れを把握する。乳幼児の発達の特徴と年齢別による保育の留意点を理解する。	事前学習	『保育所保育指針』のなかの年齢別発達の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	保育所のデイリープログラムのサンプルを読み、保育所生活の一日の流れを把握する。	
第 6 回	施設実習直前に向けて最終準備を行い、実習への心構えを再確認する。	事前学習	『保育実習の手引き』の守秘義務の箇所を読み、理解する	
		事後学習	施設実習の実習ノートを見直し、記述もれの有無を最終チェックする。	
第 7 回	保育所実習オリエンテーションへの準備を通して、保育所実習の実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』のなかの保育所実習Ⅰの実習目標を読み、理解する。	
		事後学習	保育所実習自己課題を明確にする。	
第 8 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。	事前学習	保育実習に関する教科書の「実習日誌」の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	授業で視聴した VTR のなかの「子どもの姿」について記録したエピソードを清書する。	

平成 28 年度

第 9 回	部分・責任実習について理解し、指導計画の理解と立案方法を習得する。	事前学習	保育実習に関する教科書の「指導案」の箇所を読み、理解する。
		事後学習	課題とする指導案を立案し、模擬保育に備えてグループ全員で検討する。
第 10 回	保育演習（1） 指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 11 回	保育演習（2） 指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 12 回	保育演習（3）（4） 指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 13 回	施設実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	施設実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	施設実習の反省をふまえて、保育実習Ⅲに向けて、自己課題を明確にする。
第 14 回	保育所実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	保育所実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	保育所実習の反省をふまえて、保育実習Ⅱに向けて、自己課題を明確にする。
第 15 回	授業のまとめをする。	事前学習	保育実習Ⅰを総合的に振り返り、保育士の専門性と自己課題について考察する。
		事後学習	保育士の専門性と自己課題について、レポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SSOT4483
2. 授業担当教員	齋藤 厚子		SCOT4483
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	保育実習Ⅲの意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を明確にする。 2. 実習に臨む際の目標を明確化し、それを達成するための具体的方策を考えることができる。 3. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。 4. 演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。 5. 保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設についての事前学習レポート ・実習Ⅲに向けての自己課題レポート ・振り返りシートの作成 ・授業時レポート 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 特に指定せず。レジュメ、必要な文献のコピーにて実施 【参考書】 小林保子 立松英子『保育者のための障害児療育』学術出版会 2011。		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 (積極的参加度 グループ学習での取り組み姿勢)、レポート等を総合的に評価 授業参加態度 30% 授業時レポート 20% 事前学習レポート 20% 振り返りシートの作成 30%		
12. 受講生への メッセージ	最後の実習に向けて、実習Ⅰの振り返りをしっかりと行い自己課題を明確にしてください。遅刻や欠席はしない、提出物の期日を守るなどの基本的姿勢はもちろんのこと 3 回目の実習としての自覚をもって取り組むこと。		
13. オフィスアワー	後日伝えます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 実習Ⅰとの違いをふまえて実習Ⅲの目的を明確にする。	事前学習	実習Ⅰの記録を読み返す。実習記録を持参すること。
		事後学習	実習Ⅰの振り返りまとめる。
第 2 回	保育実習Ⅰについての振り返り、自己の課題を明らかにする (自己課題レポートの作成)	事前学習	実習Ⅰの記録から自己の課題を抽出する。
		事後学習	実習Ⅲの課題を再度確認する。
第 3 回	種別ごとのグループに分かれ、実習Ⅲの配置施設について調べ、機能と役割について明確にするとともに自己の課題を具体化する。	事前学習	配属施設について調べ施設の機能を明確にする。
		事後学習	実習Ⅲの施設について再度確認する。
第 4 回	種別ごとに施設についての事前学習の発表を行う	事前学習	発表に向けて準備する。
		事後学習	発表全体を通して考えたことを踏まえ実習Ⅲに向けての抱負をまとめる。
第 5 回	実習記録の書き方についてグループで話し合い、最終実習にふさわしい記録について考察する。	事前学習	実習Ⅰの記録から、記録を書く際の課題を具体的に抽出する。
		事後学習	記録の意義についてまとめる。
第 6 回	ゲストスピーカー①	事前学習	ゲストスピーカーについて調べる。
		事後学習	ゲストスピーカーからの学びをまとめる。
第 7 回	ゲストスピーカー②	事前学習	ゲストスピーカーについて調べる。
		事後学習	ゲストスピーカーからの学びをまとめる。
第 8 回	施設の種別ごとに分かれ、必要とされる援助技術について意見交換し考察を深める。	事前学習	3 回で発表した資料とゲストスピーカーからの情報をもとに求められる支援技術について考えてみる。
		事後学習	求められる支援技術を身につけるための実践課題を具体的にまとめる。
第 9 回	施設の種別ごとに部分実習の指導案を作成する。	事前学習	部分実習案を考える。
		事後学習	部分実習案を完成させる。
第 10 回	9 回目の指導案に基づき模擬保育の準備を行う。	事前学習	模擬保育に向けての準備を考える。
		事後学習	発表に向けての仕上げを行う。
第 11 回	施設の種別ごとに部分実習の指導案に基づき模擬保育を行う。	事前学習	模擬保育の準備をする。
		事後学習	部分実習の実施における重要な視点をまとめる。
第 12 回	実習Ⅲについて振り返りを行い個々に振り返りシートにまとめる。	事前学習	実習Ⅲの振り返りを行っておく。
		事後学習	振り返りシートを完成させる。
第 13 回	個別の振り返りを発表する①	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	発表から学んだことをまとめる。

平成 28 年度

第 1 4 回	個別の振り返りを発表する②	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	発表から学んだことをまとめる。
第 1 5 回	全体討論と総括	事前学習	発表を通して学んだことを踏まえ振り返りシートを修正する。
		事後学習	実習Ⅲ全体をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育児童学概論 (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1106
2. 授業担当教員	太田 節子		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目では、人間の生涯発達のなかの初期段階である乳幼児期について、その発達の様相を学び、子どもが育つことの本質を考えるとともに、子どもを育てることの意義について理解する。すなわち、子どもは人的環境をはじめ様々な環境とのかかわりのなかで育つが、特に「愛着と自立」の観点から考える。また、子どもは生活の中で育つことから、今日的生活環境の変化を背景として「育つ」「育てる」の関係も変化していることを踏まえ、子どもの発達のしかたの実情に基づいて、保育者に求められるあり方について考える。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の子どもの生物学的な特徴を理解し、乳幼児期の愛着の重要性と自立への道筋を理解する。 2. 子どもの育ちの過程を成熟と保育的かかわりの相互作用として捉えることができる。 3. 子どもの内面とその表現の特徴を理解し、子どもの個性や主体性を育てる保育について考えることができる。 4. 子どもが育つ場 (家庭、保育施設、地域社会など) の役割と連携や今日的課題について考えることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業での学習状況に応じて、課題を課す。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>参考書 厚生労働省『保育所保育指針解説』文部科学省『幼稚園教育要領解説』 東京福祉大学編「保育児童福祉要説」中央法規</p>			
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 40% 小テスト 60%</p>			
12. 受講生への メッセージ	この科目は、皆さんが保育を勉強するにあたり最初に出会う科目です。保育者になりたい、という夢を今後4年間の学習により実現するために、現在の保育に対する新鮮さ、好奇心、意欲、興味・関心を大切に持ち続けて授業に臨んで下さい。			
13. オフィスアワー				
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業の目的、内容、望まれる学習態度等の説明。 各自の保育者志望の理由を確認する。	事前学習	保育者になりたいと思った理由を確認する。	
		事後学習	授業で説明した保育者になるために必要な学習態度を復習し、自己課題を考える。	
第2回	保育とは何かについて具体例から理解する。	事前学習	保育所保育指針第1章を読んでおく。	
		事後学習	保育の意味を復習し、理解する。	
第3回	「子ども」という存在について考察する。	事前学習	「子ども」という存在の特徴を考えてくる。	
		事後学習	授業で行った「子ども」という存在の見方を広げ、深める。	
第4回	乳幼児期の重要性を理解する。	事前学習	自身の幼児期を振り返り、記憶している体験を呼び起こす。	
		事後学習	乳幼児期の重要性を自身の体験と重ねて考える。	
第5回	「愛着」の重要性について理解する。	事前学習	「愛着」とは何かについて調べておく。	
		事後学習	「愛着」と基本的信頼感の形成について復習する。	
第6回	「愛着」から「自律」への過程を理解する。	事前学習	幼児の「自律」とはどのようなことなのかを調べておく。	
		事後学習	「自尊心」と「自律」の関係について復習する。	
第7回	発達とは何かについて理解する。	事前学習	「発達の定義」について調べておく。	
		事後学習	「発達の原理」について復習する。	
第8回	子どもが育つ環境の整備	事前学習	自身が育った環境について振り返る。	
		事後学習	子どものために望ましい環境とは何かを復習する。	
第9回	子どもの育ちの姿① 0歳児	事前学習	0歳児の特徴をまとめておく。	
		事後学習	0歳児の特徴を復習する。	
第10回	子どもの育ちの姿② 1歳児	事前学習	1歳児の特徴をまとめておく。	
		事後学習	1歳児の特徴を復習する。	
第11回	子どもの育ちの姿③ 2歳児	事前学習	2歳児の特徴をまとめておく。	
		事後学習	2歳児の特徴を復習する。	
第12回	子どもの育ちの姿④ 3歳児	事前学習	3歳児の特徴をまとめておく。	
		事後学習	3歳児の特徴を復習する。	
第13回	子どもの育ちの姿⑤ 4歳児	事前学習	4歳児の特徴をまとめておく。	
		事後学習	4歳児の特徴を復習する。	

平成 28 年度

第 1 4 回	子どもの育ちの姿⑥ 5 歳児	事前学習	5 歳児の特徴をまとめておく。
		事後学習	5 歳児の特徴を復習する。歳児の特徴を復習する。
第 1 5 回	授業のまとめ	事前学習	今までの授業についての質問事項を拾い出しておく。
		事後学習	今までの授業について振り返り、まとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育児童学概論 (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1106
2. 授業担当教員	矢吹 芙美子			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目では、人間の生涯発達のなかの初期段階である乳幼児期について、その発達の様相を学び、子どもが育つことの本質を考えるとともに、子どもを育てることの意義について理解する。すなわち、子どもは人的環境をはじめ様々な環境とのかかわりのなかで育つが、特に「愛着と自立」の観点から考える。また、子どもは生活の中で育つことから、今日的生活環境の変化を背景として「育つ」「育てる」の関係も変化していることを踏まえ、子どもの発達しかたの実情に基づいて、保育者に求められるあり方について考える。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の子どもの生物学的な特徴を理解し、乳幼児期の愛着の重要性と自立への道筋を理解する。 2. 子どもの育ちの過程を成熟と保育的かかわりの相互作用として捉えることができる。 3. 子どもの内面とその表現の特徴を理解し、子どもの個性や主体性を育てる保育について考えることができる。 4. 子どもが育つ場（家庭、保育施設、地域社会など）の役割と連携や今日的課題について考えることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題 3 題 <ol style="list-style-type: none"> 1 人間関係の形成の基盤を考える。 2 自分がどうかかわり、どのような視点で子どもの行動を解釈しているか。 3 子どもの内面理解のための考察 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 吉川晴美編著、矢吹他著『共に育つー人間探求の児童学ー』宣協社。 その他、必要に応じて資料配布 【参考書】 津守真『保育の一日とその周辺』フレーベル館。 酒井幸子編著 矢吹他著『保育内容 人間関係 あなたならどうしますか』萌文書林。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加態度 (小課題への取り組み、レポートを含む)、小試験を適宜実施し、それらを総合し評価します。授業への参加態度 50%、小試験 50%			
12. 受講生へのメッセージ	自分の幼児期の体験や、子どもや保育についてのこれまでの知識、体験を掘り起こしてください。子どもをよく観察し、小さなことでもさまざまな見方ができ、より専門的な見方に近づけるよう、また、大人としてのよりよい行動形成に向けて努力を続けてください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のルールを守る (欠席、遅刻、早退は届け出ること。交通機関の遅延が常習的な場合は遅刻しないように早めに来ること。連続的な遅延証は認めない。) 2. 携帯電話の作動は厳禁とする。 3. 私語は慎むこと。 4. レポート等の提出日時は厳守する。間に合わない場合は必ず本人から申出ること (原則として書面とする)。 			
13. オフィスアワー	授業時に指定します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	人格としての子ども理解 (自分の子ども観を振り返る)	事前学習	自分のできるだけ小さい頃のことを思い出しておく。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 2 回	子ども理解のために今ここの状況をとらえる、ものの見方、感じ方	事前学習	あなたの「今、ここの状況」はどう表せるか書いておく。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 3 回	状況におけるものの見え方	事前学習	他人と見え方感じ方違うと感じたのはどんな時でしたか思い出して見よう。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 4 回	子どものものの見方	事前学習	思いがけない子どもの言葉を探してみよう。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 5 回	子ども観の変遷	事前学習	古代、中世、子どもの発見から子どもの世紀をまとめておく。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 6 回	現代社会における子ども問題の所在 子どもを取り巻く環境の変化	事前学習	現代の子どもをとりまく問題を調べておく。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 7 回	現代社会の格差化と子どもの問題	事前学習	子どもの貧困について調べておく。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 8 回	心の発達と人間関係ー赤ちゃんの素晴らしき生命ー	事前学習	乳児の周りの世界を感じる感受性と親のかかわりを調べておく。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 9 回	心の発達の基盤ー乳児の自己・人・物の関係体験を通しての育ち、母と乳児の響き合い、同調性	事前学習	乳児の 4 週までの敏感な感受性を調べる。アタッチメントについて調べておく。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 10 回	心の発達の基盤ー第一次間主観性、自己・人・物の分化から第二次間主観性へ	事前学習	コミュニケーションを求めて誰をもやりとりに巻き込む力から相手の意図を読むようになる過程を調べる。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	
第 11 回	脳の発達と人間関係	事前学習	脳の成長に及ぼす人間関係体験について考える。	
		事後学習	授業の流れを復習し発見・疑問をまとめておく。	

平成 28 年度

第 1 2 回	子どもの育ちの姿 1 (乳児期) アタッチメントの意味とその形成とかかわり	事前学習	ボウルビイの愛着について調べておく。
		事後学習	発見と疑問をふりかえる。
第 1 3 回	子どもの育ちの姿 2 愛着障害とその対害	事前学習	愛着障害について書物を探し調べておく
		事後学習	愛着の形成ができなかったときの対応についてまとめておく。
第 1 4 回	子どもの育ちの姿 3 かかわりの転換期、自我の成長とかかわり	事前学習	幼いころ、自己主張をして大人に理解されなかった時の体験を思い出してみよう。
		事後学習	幼児期の友達関係 2~3 歳児をまとめ、発見疑問を明らかにする。かかわりと自我の成長を学んで発見疑問を明らかにする。
第 1 5 回	子どもの育ちの姿 4、仲間との体験を通しての人間関係の育ち、まとめ	事前学習	幼いころ友達と遊んで楽しかったこと悲しかったことは？
		事後学習	幼児期の友達関係 2~3 歳児をまとめ、15 回の授業の流れを復習し発見・疑問をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育児童基礎演習 (2 単位)		3. 科目番号	GEBS2106
2. 授業担当教員	太田 節子			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>保育士資格取得に際して必修となる保育実習を見据え、保育実習 I 直前に開講される「保育実習指導 I」に先立っておこなわれる実習事前基礎学習を目的とする。実習生としての基本的な心構えやマナー、基礎知識、および実習先開拓に関する手順などについて具体的に学べるようにする。</p> <p>2 年次秋学期実施の保育所実習、3 年次春学期実施の施設実習に備え、実習概要の理解、実習日誌記録上の注意点や保育実技の習得ができるよう講義と演習を行う。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての心構えを体得する。 2. 保育実習の基本的知識や実習の概要を理解し、説明することができる。 3. 実習先開拓に関する手順および留意点を理解し、説明することができる。 4. 保育実習 I に備え、保育所実習、施設実習の意義や実習園の概要などを調べ学習し説明することができる。 5. 実習記録に関する基本を学び、習得することができる。 6. 基本的な保育技術(手遊び・読み聞かせなど)の習得および教材製作について学び、実践することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に向かうための心構えに関する課題 2. 実習記録に伴う記述に関する課題 3. 保育技術、教材作成に関する課題 4. 実習先開拓に関する課題 5. その他 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 小林育子他『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林 『保育実習の手引き』東京福祉大学社会福祉学部 刊 (授業中に配布) 『保育実習 学習の手引き』東京福祉大学社会福祉学部 刊 (授業中に配布)</p> <p>【参考書】 適宜紹介予定</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業態度・試験など 40%</p> <p>課 題 30%</p> <p>発 表 など 30%</p> <p>本学の規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>実習は、慌ててその場で頑張っても間に合わないことが数々存在する。学生ひとりひとりの普段からの意識の高さや真摯な努力が大きな差となり実習という場に正直に現れるものである。そのことを素直に受け止めて、今この瞬間から、生活態度や学習態度を振り返り、改めるべきところは改善するよう前向きにそして意欲的に取り組んでいくことを期待したい。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンスー実習とはなにか。保育実習・教育実習の概要と履修方法、実習目的などー	事前学習	「保育所保育指針」第 1 章をよく読み保育所の役割と保育士の仕事について理解しておく。	
		事後学習	「保育士倫理綱領」中のプライバシーの保護について考えをまとめる。	
第 2 回	保育所実習の基礎知識ービデオで学ぶ保育所の一日常保育実技(手遊び、読み聞かせ)について	事前学習	「保育所保育指針」第 1 章 3 保育の原理をよく読み理解しておく。	
		事後学習	実習生としてのマナーや態度について、考えをまとめる。	
第 3 回	施設実習の基礎知識ービデオで学ぶ保育所の一日常	事前学習	「実習の手引き」から、実習先施設について理解する。	
		事後学習	実習生として利用者とのようにかかわればよいか、考えをまとめる。	
第 4 回	実習先開拓の手順と留意点(1) 本学の実習先開拓の手順についての説明、手紙の書き方	事前学習	「保育実習学習の手引き」2. 自己開拓実習依頼の進め方、を熟読しておく。	
		事後学習	手紙の下書きを書いて提出する。	
第 5 回	子どもの前に立って行う保育技術を身につける(パネルシアター、ペープサート、エプロンシアター、素話、人形劇等、様々な表現方法について学ぶ)。	事前学習	教材作りのための資料(絵本、雑誌等)を持ち寄る。	
		事後学習	製作活動をする。	
第 6 回	保育技術を身につける(様々な表現方法を用いての演じ方の研究)	事前学習	様々な材料の研究をする。	
		事後学習	保育教材から活動への展開を考える。	
第 7 回	保育技術を身につける(様々な表現方法の作成・発表)	事前学習	グループで発表練習を十分におこなっておく。	
		事後学習	グループ発表評価を評価表により、提出する。	
第 8 回	保育技術を身につける(教材のグループ発表)	事前学習	グループで発表練習を十分におこなっておく。	
		事後学習	グループ発表評価を評価表により、提出する。	
第 9 回	実習先開拓の手順と留意点(1) 本学の実習先開拓の手順についての説明	事前学習	「保育実習学習の手引き」2. 自己開拓実習依頼の進め方、を熟読しておく。	
		事後学習	自己の今後の自己開拓の予定表を作成する。	

平成 28 年度

第 10 回	子どもの活動の様子の DVD を視聴し、体験の意味と保育者のかかわり方についてグループ討議を行い、発表して考察を深める（乳児）	事前学習	「保育所保育指針第 3 章保育の内容」を読み、5 領域のねらいと内容を確認しておく。
		事後学習	発表内容と考察について、整理しまとめる。
第 11 回	子どもの活動の様子の DVD を視聴し、体験の意味と保育者のかかわり方についてグループ討議を行い、発表して考察を深める（幼児）	事前学習	「保育所保育指針第 3 章保育の内容」を読み、5 領域のねらいと内容を確認しておく。
		事後学習	発表内容と考察について、整理しまとめる。
第 12 回	実習記録について ・実習記録を書くポイントを理解する	事前学習	「保育実習学習の手引き」Ⅱ保育実習に関する留意点 1. 実習記録について、を熟読しておく。
		事後学習	実習記録に使われない表現について整理する
第 13 回	実習記録について ・保育所や施設の DVD を視聴し、記録を書いている（利用者の動き、保育者の援助、実習生のかかわりの記入のしかたを学ぶ）	事前学習	施設実習と保育所実習の記録の違いについて予習しておく。
		事後学習	DVD の視聴から記録を清書し、読み直しておく。
第 14 回	実習記録について ・保育所や施設の DVD を視聴し、記録を書いている（実習生のかかわりの欄の気づき・考察の記入のしかたを学ぶ）	事前学習	施設実習における必要な準備について考えておく。
		事後学習	自己の実習施設について調査し、レポートを作成して提出する。
第 15 回	実習に臨むにあたって一先輩の実習体験から学ぶ・総括	事前学習	1～14 回の授業を通しての学びを踏まえ、保育実習に関する自己の心構えを整理する。
		事後学習	保育実習において、今行うべき準備について考え、実行計画を立てて、3 年次の実習に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育相談支援演習 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3138
2. 授業担当教員	平沼 晶子			
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目では、現代の生活環境の変化の中で子育て環境も変化しているという背景を踏まえて、保護者に対する相談支援がなぜ必要であるかについて理解し、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、子どもの利益を守り保護者の問題解決を図る支援の実際について習得する。保育士は保護者との信頼関係を築くことが重要であることを理解し、ともに育てる関係づくりや地域の関係諸機関との連携のあり方などについて学習し、児童福祉施設全般の保育相談支援への応用、展開ができるようにする。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実際について学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>授業では相談場面に関するワークや映像資料を取り入れる。これらについてディスカッションやロールプレイを行い、各自が考えたことや気づいたことを小レポートにまとめる。 授業を通して学習したことについて振り返り、期末レポートとしてまとめる。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 指定しない。授業内でプリントを配布するので、各自 A4 ファイルを用意しておく。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>本学の規定により、3/4 以上の出席を単位認定要件とする。 その上で、課題ごとに提出するレポート (40%)、期末レポート (30%)、授業態度と参加姿勢 (30%) から総合的に評価する。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>保護者支援においては、保護者の気持ちはもとより、取り巻く環境や子どもの育ちを理解するとともに、保育者自身の心の動きにも向き合いながら、適切な対応を考えなければなりません。 受講者は本授業で扱うテーマを保育に即した実際の問題として認識し、主体的な姿勢で臨んでください。</p>			
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション・自分の特徴を知る	事前学習	シラバスを読む。保育相談支援の意義について考える。	
		事後学習	相談の受け手として自分の特徴を捉える。	
第 2 回	信頼されるためのコミュニケーション	事前学習	信頼関係を築くために大切なことを考える。	
		事後学習	ロールプレイで気づいたことをまとめる。	
第 3 回	家族支援 (1) 家族に対してどう支援するか	事前学習	子育てを取り巻く環境について考える。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 4 回	家族支援 (2) 子どもの様子をどう伝えるか	事前学習	保護者との関わりにおける留意点を考える。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 5 回	保育におけるカウンセリングマインド (1) 基本的態度	事前学習	相談の受け手として大切なことを考える。	
		事後学習	ロールプレイで気づいたことをまとめる。	
第 6 回	保育におけるカウンセリングマインド (2) 保護者の気 もちの理解	事前学習	保護者は保育者に何を求めているかについて考える。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 7 回	子どもの心の理解 (1) 子どもの言動を多面的に捉える	事前学習	子どもの心を理解するために、気をつけることを考える。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 8 回	子どもの心の理解 (2) 子どもの気もちに添う	事前学習	自分自身の幼少期の保育者との思い出を振り返る。	
		事後学習	ビデオをみて自分ならどのように対応するかをまとめる。	
第 9 回	中間のまとめ	事前学習	第 1 回から第 8 回までの学習を振り返る。	
		事後学習	演習で学んだことを応用できるようになる。	
第 10 回	家庭との連携 連絡帳の活用	事前学習	家庭との連携に必要なことを考える。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 11 回	保護者の気もちの理解 (1) 保護者間の問題	事前学習	保護者の気もちに添うとはどういうことかを考える。	
		事後学習	ロールプレイで気づいたことをまとめる。	
第 12 回	保護者の気もちの理解 (2) 送迎時における保護者対応	事前学習	保育中の怪我について保護者にどう伝えたらよいかを考える。	
		事後学習	ロールプレイで気づいたことをまとめる。	
第 13 回	保護者の気もちの理解 (3) 生活面に関する相談	事前学習	しつけや生活面について家庭との連携を考える。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 14 回	「保育相談支援」で求められる保育者の役割	事前学習	保育相談支援の意義についてあらためて考える。	

平成 28 年度

		事後学習	グループで討議したことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 1 5 回	全体のまとめ	事前学習	演習で学んだことを振り返る。
		事後学習	実際の相談支援にどのように活かせるかを考える。

1. 科目名 (単位数)	保育相談支援演習 (2 単位)		3. 科目番号	SSOT3419 SCOT3419 SJMP3138
2. 授業担当教員	齋藤 厚子		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本科目では、現代の生活環境の変化の中で子育て環境も変化しているという背景を踏まえて、保護者に対する相談支援がなぜ必要であるかについて理解し、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、子どもの利益を守り保護者の問題解決を図る支援の実践について習得する。保育士は保護者との信頼関係を築くことが重要であることを理解し、ともに育てる関係づくりや地域の関係諸機関との連携のあり方などについて学習し、児童福祉施設全般の保育相談支援への応用、展開ができるようにする。			
8. 学習目標	1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実践について学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実践について理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 授業の内容についてミニテストを実施します。レジュメにて予習、復習を行ってください。 2. グループごとにテーマを決めディスカッション・制作・発表を行います。 3. 中間テスト・レポートを実施します (詳細は授業にて)			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 厚生労働省 保育所保育指針<平成 20 年告示> フレーベル館 レジュメにて授業を進めます。※レジュメをファイルするフォルダーを用意すること。 【参考書】 岡野雅子他著『新保育学 改訂 5 版』南山堂、2011 年。 柏女霊峰他著『保育相談支援』ミネルヴァ書房、2011 年。			
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 (積極的参加度 グループ学習での取り組み姿勢)、試験・レポート等を総合的に評価 授業参加態度 グループ活動参加度 30% 授業時レポート・ミニテスト 20% 中間テスト 30% レポート 20%			
12. 受講生への メッセージ	日常生活の中で親と子どもがかかわる場面に出会う機会をもつように努め、親子の相互作用についてよく観察して、学ぶ姿勢をもってください。日々の生活においてもニュース、新聞へのアンテナを張り、学びと生活を繋げながら考える姿勢を持って下さい			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 保育相談支援が求められる背景と保育士の役割	事前学習	現在の子育て家庭を取り巻く社会環境について考えてくる。※レジュメをファイルするフォルダーを用意すること。	
		事後学習	レジュメを通し社会の変化と保育士の役割について再度確認をする。	
第 2 回	保育士の専門性にもとづく相談の基本的構造	事前学習	保育園における保護者相談にはどのようなものがあるかについて考えてみる。	
		事後学習	レジュメを通して保育相談の基本構造のポイントをまとめる。	
第 3 回	保育相談支援の対象と支援の枠組み	事前学習	配布資料を読み保育相談の対象について考える。	
		事後学習	レジュメを通して支援の枠組みについてまとめる。	
第 4 回	保育所における保育相談支援 全体への支援① 日常保育の中での支援ツール	事前学習	保育園における保育相談のツールにはどのようなものがあるか考えてみる。	
		事後学習	それぞれの支援ツールの意義と留意点について再度確認をする。	
第 5 回	保育所における保育相談支援 全体への支援② おたより帳の活用 グループワーク	事前学習	配布資料よりおたより帳を書く意味について考えてみる。	
		事後学習	おたより帳を書くポイントについて再度確認をする。	
第 6 回	保育所における保育相談支援 全体への支援③ 送迎時の対応 グループワーク	事前学習	保育園における送迎時の保護者対応の意義について考えてみる。	
		事後学習	送迎時の対応におけるポイントについて再度確認をする。	
第 7 回	保育所における保育相談支援 全体への支援④ クラス便りの活用 グループワーク	事前学習	保育園におけるクラスだよりの目的について考えてみる。	
		事後学習	グループ作成のクラスだよりについて良い点と課題を抽出し整理する	
第 8 回	保育所における保育相談支援 全体への支援④ クラス便りの活用 発表	事前学習	クラスだよりのグループ発表の準備	
		事後学習	保育園におけるクラスだよりの作成の意義とポイントについて再度確認をする。	
第 9 回	中間のまとめ	事前学習	保育相談の意義・役割・具体的内容について振り返る	

平成 28 年度

		事後学習	今までの授業理解度を確認し不明確な点について整理しておく。
第 1 0 回	保育所における保育相談支援 配慮を要する家庭への支援①障害児を持つ家庭	事前学習	障害児を持つ家庭への配慮点について考えてみる。
		事後学習	支援のポイントをまとめる。
第 1 1 回	保育所における保育相談支援 配慮を要する家庭への支援②虐待リスク家庭	事前学習	虐待リスク家庭への配慮点について考えてみる。
		事後学習	支援のポイントをまとめる。
第 1 2 回	児童福祉施設における保育相談支援	事前学習	児童福祉施設における相談の意味について考えてみる。
		事後学習	支援のポイントをまとめる。
第 1 3 回	事例ケースについてのグループワーク	事前学習	今までの学習を通して相談支援の意義と具体的内容について振り返っておく。
		事後学習	事例で必要とされる支援技術について再度確認をする。
第 1 4 回	子どもの最善の利益を守る保育相談支援とは	事前学習	今までの学習を振り返り子どもの最善の利益について考える。
		事後学習	グループワークで討論したことをまとめてみる。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	1～14 回の授業を振り返り、保育相談支援の意味を再度考えてみる。
		事後学習	1 5 回目も含め全体を再度振り返る

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (環境) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3133
2. 授業担当教員	河合 光利		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を構成する5領域のひとつである「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることで、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。また、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。演習形式で学ぶことにより、本講義で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 ・子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。 ・子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で小レポートの提出を求める。小レポートは課題を提示するので、参考文献5冊以上を基にレポートを作成し、時間厳守にて提出すること。また、授業では出席、発言、授業ノート等といった学習態度を重要視するので、しっかりとした学習意識をもって授業に参加すること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 田尻由美子、無藤隆編『保育内容、子どもと環境－基本と実践事例－』同文書院、 【参考図書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 日本保育協会『保育所保育指針解説書』フレーベル館。 その他、必要に応じて参考書を紹介、もしくはプリントを配布する。		
11. 成績評価の方法	授業態度 (出席、発言、ノート、傾聴態度等) 20% 小レポート 40% 期末レポート 40%		
12. 受講生への メッセージ	授業では、発言、発表を求めていくので、指名を受けた際にはきちんと発言、発表ができるように、予習、復習を忘れずに行うこと。また、授業の中でわからないことがあれば、すぐに質問をすること。レポートの締切りは厳守すること。授業への積極的な参加を期待する。		
13. オフィスアワー	授業内にて通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	領域「環境」とは	事前学習	教育要領、保育指針の基本を読んでくる
		事後学習	幼児教育の基本をまとめる
第2回	環境が持つ意味	事前学習	領域及び環境について調べる
		事後学習	保育環境と自然環境をまとめる
第3回	保育者の感性を考える	事前学習	感性とは何かを調べてくる
		事後学習	保育者の感性をまとめる
第4回	幼児の中に育てるもの	事前学習	原体験について調べてくる
		事後学習	自らの原体験をまとめる
第5回	幼児の好奇心、探求心とは何か	事前学習	好奇心、探求心とは何かを調べてくる
		事後学習	幼児の具体的な活動を考える
第6回	文字や数の扱い	事前学習	生活の中にある文字や数量を挙げてくる
		事後学習	文字や数量の指導法をまとめる
第7回	社会的環境を考える	事前学習	地域の中の施設を調べてくる
		事後学習	地域社会資源の利用方法について考える
第8回	人的環境を考える	事前学習	人が幼児に与える影響を挙げてくる
		事後学習	人の幼児へのかかわり方をまとめる
第9回	物的環境を考える	事前学習	物が幼児に与える影響を挙げてくる
		事後学習	物の幼児へのかかわり方をまとめる
第10回	自然環境を考える (1) 動物飼育	事前学習	飼育可能な動物について調べてくる
		事後学習	動物飼育の意味をまとめる
第11回	自然環境を考える (2) 植物栽培	事前学習	栽培可能な植物について調べてくる
		事後学習	植物栽培の意味をまとめる
第12回	領域「環境」に対する具体的な活動計画	事前学習	実践計画の事例を集めてくる
		事後学習	事例研究をまとめる
第13回	遊具の安全性を考える	事前学習	園庭遊具の種類を調べてくる
		事後学習	安全学習、安全管理についてまとめる
第14回	環境保全の視点から	事前学習	環境保全とは何かを調べてくる
		事後学習	日本の環境教育を考える
第15回	幼児の環境教育	事前学習	ESD について調べてくる
		事後学習	人と自然の関わりをまとめる

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (環境) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3414
2. 授業担当教員	矢野 景子		SCOT3414
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を構成する 5 領域のひとつである「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることで、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。また、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。演習形式で学ぶことにより、本講義で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 ・子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。 ・子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>①「私のセンス・オブ・ワンダー」の写真とレポートの提出 ②植物や小動物の飼育を行い、観察記録をつけ、保育における活用と留意点についてまとめる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 無藤隆 (監) 福元真由美 編『事例で学ぶ保育内容 領域 環境』、萌文書林、2007 年。 【参考書】 小川博久編『「遊び」の探究』生活ジャーナル、2001 年。 柴崎 正行編『子どもが育つ保育環境づくり』学研、2013 年。 ミネルヴァ書房編集部編『保育所保育指針幼稚園教育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房、2008 年。 レイチェル・カーソン/上遠恵子訳『センス・オブ・ワンダー』新潮社、1996 年。 レッチョ・エミリア市の幼児教育実践記録『子どもたちの 100 の言葉』学研、2001 年。 高山静子『環境構成の理論と実践』エイデル研究所、2014 年 その他、講義内容に応じて文献を紹介する他、プリント等を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>評価については、以下の内容にて評価する。 授業態度 (積極的参加度、グループワークでの協働性、リフレクションシートの記述内容と提出等) 20% 課題レポート①② 30% グループ学習プレゼンテーション (指導案の立案と保育の展開) 50%</p> <p>本学の規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 遅延の場合は、遅延届を必ず提出すること。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業では、子どもの姿を通して、保育環境を考え、環境設定を構成するための視点を学ぶ。したがって、教育・保育実習時における指導案作成および保育者としての視点を構築することに繋がるものであることを理解して、授業に臨んでほしい。予習、復習、質疑を含め、授業内での積極的な発言、グループワークの協働的参加を期待する。授業内でのリフレクションシートでは、気づきや質問等を自分なりの言葉でまとめるよう努め、相手にわかる文章を心がけること。レポート及び提出物の提出日は厳守すること。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 保育所保育指針・幼稚園教育要領における「環境」	事前学習	幼稚園教育要領及び保育所保育指針から「環境」のキーワードを探し確認する。
		事後学習	①今後の授業で学びたいこと、自身の課題について整理し自分なりの言葉でまとめる。 ②学習目標を立てる。
第 2 回	保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本的構造—領域「環境」と他領域との関係 子どもの育ちと環境—保育者の意図性と子どもの主体性—	事前学習	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「環境」について、ねらいと内容を確認する。
		事後学習	リフレクションシートにこの回の学習の要点を整理し、気づきを整理する。
第 3 回	自然とのかかわり (1) 自然の美しさ、不思議さに触れる—フィールドワーカー—	事前学習	教科書 pp. 50~54 を精読する。 幼児期における自然の原体験をワークシートにまとめる。
		事後学習	『私のセンスオブワンダー』をレポート作成を行う (写真も添付すること)
第 4 回	自然とのかかわり (2)・自然を取り入れて遊ぶ・季節と文化的行事自然とのかかわり	事前学習	教科書 pp. 55~66 を精読する。 日常生活において、季節と行事について、関心のあることをワークシートに整理する。
		事後学習	リフレクションシートに、子どもが自然と関わることの重要性を考え自身の言葉でまとめる
第 5 回	自然とのかかわり (3) 生き物に親しみ命を大切にする。	事前学習	教科書 pp. 67~72 を精読する。 命と向き合った経験をワークシートにまとめる。
		事後学習	命について授業での気づきを自身の言葉でまとめる。

第 6 回	子どもの遊びと環境	事前学習	幼少期の遊びの原体験について、ワークシートにまとめる。
		事後学習	発達と玩具の選定の重要性について、授業での気づきをリフレクションシートに自身の言葉でまとめる。
第 7 回	ものや道具とのかかわり-身近なものを使い、工夫する- 手作り玩具の制作-グループ活動-	事前学習	教科書 pp. 80~100 を精読する。 紙・布・糸・輪ゴム・廃材など身近な素材で作ることのできる玩具を考え、材料を揃える。
		事後学習	制作と道具の選定、及び発達の視点について、気づいたことをリフレクションシートにまとめる。
第 8 回	人やものとのかかわり-散歩場面から-	事前学習	3 歳未満児の散歩場面をイメージし、散歩の面白さを考え、まとめる。
		事後学習	散歩場面の人やものとのかかわりの意義について、リフレクションシートに授業での気づきを整理しまとめる。
第 9 回	文字・標識・数量とのかかわり	事前学習	教科書 pp. 107~126 を精読する。 幼少期の数量に関わった原体験をワークシートにまとめる。
		事後学習	授業での気づきを整理し、子どもの生活と数量について、リフレクションシートに自身の言葉で考えをまとめる。
第 10 回	様々な保育環境-子育てひろば・一時保育・家庭的保育-	事前学習	子育てひろば、一時保育、家庭的保育について調べまとめる。
		事後学習	授業での気づきを整理し、保育環境を構成する視点について、リフレクションシートに自身の言葉で考えをまとめる。
第 11 回	指導案の立案と発表 (1) グループ作成	事前学習	自然・もの・行事・文字・数量などをテーマにした活動の指導案づくりについて各自で構想を立てておく。
		事後学習	グループで立てた指導案を各自で整理し、発表に備える。
第 12 回	指導案の立案と発表 (2) 発表および討議	事前学習	発表にむけてグループごとにパワーポイントを用意する。
		事後学習	発表された他グループの指導案について、指導案作成の視点や環境設定の配慮点についての気づきをまとめ、指導案の修正を行う。
第 13 回	指導案の立案と発表 (3) 発表および討議	事前学習	発表にむけてグループごとにパワーポイントを用意する。
		事後学習	発表された他グループの指導案について、指導案作成の視点や環境設定の配慮点についての気づきをまとめ、指導案の修正を行う。
第 14 回	保育を取り巻く環境-今日的課題- 海外の幼児教育に学ぶ DVD 視聴とグループ討議	事前学習	「プロジェクト保育について調べる
		事後学習	保育内容と環境構成の視点から、気付いた点や参考にしたい点をリフレクションシートに整理する。
第 15 回	領域 環境と保育者の役割/保幼小の連携	事前学習	教科書 pp. 183~185 を精読する。 子どもが主体的に関わることの意義を接続期の課題と環境の違いから考えておく。
		事後学習	学習目標を自己評価し、リフレクションシートに自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (健康) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2412 SCOT2412 SJMP1131								
2. 授業担当教員	清水信好										
4. 授業形態	配布資料による質疑応答形式およびグループディスカッションを主とした授業を行う。	5. 開講学期	春期/秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	保育内容を構成する健康について理解し、乳幼児の健康な心身の発達に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進、安全な生活、積極的な身体活動への援助について理解する。保育の全体構造における「保育内容健康」に関して総合的に指導・援助が行えるよう、具体的な実践例を通して、健康の内容、他領域の内容の総合的な展開のしかたについて習得する。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣を育て、健全な心身の基礎を培うことができるようになる。 幼児が健康の諸問題について自ら学び、自ら考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導を学び、実践できるようになる。 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における健康領域の「ねらい」「内容」について理解し、習得して、「遊びによる総合的な」保育活動の中で実践できるようにする。 保育者として子どもの健康な心と体を育てることが出来るよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようになる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「幼児の生活実態を把握しそのうえで運動遊びをどのように定着させていったらよいのか」「発育発達と伸ばしたい能力」などの指定する設題に対しレポートを提出する										
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】宮下恭子編著『保育内容「健康」』大学図書出版。										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート、提出物等</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加度	40%	期末試験	30%	課題レポート、提出物等	30%	総計	100%
授業への積極的参加度	40%										
期末試験	30%										
課題レポート、提出物等	30%										
総計	100%										
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 自ら保育者、教諭になったとしての前提で授業に臨んでください。 講義だけでなくグループワークを行います。ディスカッションに真剣に臨んでください。 欠席、遅刻はしないこと。成績評価に大きく反映させます。 居眠り、私語、明らかに授業に臨む不適切な態度は厳格に対処します。 										
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	オリエンテーション 最近の子供たちのからだの状況 健康領域における保育者の役割と援助とは	事前学習	保育内容「健康」用のノートを準備し授業に臨む。 幼稚園と保育所の制度上の違いについて調べてくる。								
		事後学習	講義内容について私見を加味してノートにまとめる。								
第 2 回	幼児の健康について 1 幼児の健康が保障される条件	事前学習	テキスト pp. 9~14 を熟読しておくこと。								
		事後学習	グループごとに課題をまとめ発表できるように準備する。								
第 3 回	幼児の健康について 2 幼児の健康とは何か	事前学習	幼児の健康とは何かを考えてくる。								
		事後学習	グループ発表の評価と講義の内容をノートにまとめる。								
第 4 回	心身の発育・発達について 1 スキヤモンの発育曲線 (リンパ型、神経型)	事前学習	幼児の発育発達について予習してくる。 テキスト pp. 26~27								
		事後学習	課題に対するグループワークと発表準備								
第 5 回	心身の発育・発達について 2 育てたい子どもの能力 (調整力)	事前学習	免疫力についての事前情報を入手して臨む。								
		事後学習	グループ発表の内容と講義の内容を専用用紙にまとめ提出する。								
第 6 回	幼児期の生理的機能について 幼児期の特徴と留意点	事前学習	テキスト pp. 26~35 を通読しておく。								
		事後学習	講義の内容に自分の考えを加味してノートにまとめる 発表。								
第 7 回	遊びと健康管理 遊びと熱中症と水分補給	事前学習	体と水分の関わりについて予習して臨む。								
		事後学習	講義と視聴覚の内容から総合的に捉え「人と水」のテーマで、専用用紙にまとめ提出する。								
第 8 回	運動遊びと心身の健康について 1 遊びにより育まれるもの 運動遊びの意義	事前学習	テキスト pp. 39~48 を通読して臨む。								
		事後学習	配付されたプリントからディスカッションし運動あそびの重要性について理解する。								
第 9 回	運動遊びと心身の健康について 2 課題の総括と前半授業の確認テスト	事前学習	遊びの不足は子どもにどのような悪影響が出るか事前学習しておく。								
		事後学習	他学生の考えと自分の考えを対比し、整理する。								

			前半の授業を総括し、確認テストとする。
第 10 回	基本的生活習慣について 1 望ましい幼児の生活スタイル	事前学習	幼児の基本的生活習慣について概要をまとめておく。 テキスト pp.113~117
		事後学習	グループ発表および講義の内容から自分の考えをノートにまとめる。
第 11 回	基本的生活習慣について 2 幼児の食生活を点検する	事前学習	朝食の欠食、おやつについての実態を把握して臨む。
		事後学習	講義内容および視聴覚内容について専用用紙にまとめ提出する。
第 12 回	基本的生活習慣について 3 幼児の睡眠とその意義 サーカディアンリズム	事前学習	テキスト pp.103~107 を熟読して臨む。
		事後学習	子どもにとって重要な意味をもつ睡眠について講義、資料をもとに望ましい睡眠について専用用紙にまとめ提出する。
第 13 回	健康と安全について 安全対策、安全管理、救急処置	事前学習	事故を未然に防止する具体的方法について列挙し授業に臨む。
		事後学習	講義内容、配付された資料、グループ討議の内容をまとめ安全管理についての理解を深める。
第 14 回	子どもの成長と保育者の理解と姿勢	事前学習	今、子どもの身体がおかしいと言われている実態について調べて臨む。
		事後学習	課題に対するグループワーク、保護者の役割を再確認する 発表の準備をする。
第 15 回	健康で元気な子供を保障するために 保育者の健康行動について	事前学習	発表の準備をして臨む テキスト pp.199~200 を読み自分の感想をまとめる。
		事後学習	学習主体を知り、保護者、保育者の役割・援助と責務を確認し、本科目を総括する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (言葉) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2415 SCOT2415 SJMP2134
2. 授業担当教員	矢野 景子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、保育内容を構成する 5 領域のひとつである「言葉」について理解を深める。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、基本的な技術を習得する。		
8. 学習目標	1. 領域「言葉」の内容と意味を理解する 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解する。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5. 言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6. 児童文化財 (絵本や紙芝居、パネルシアターなど) の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回の授業前には、必ず、配布プリントや教科書の事前に指定した箇所を読んでくること。 ①レポート課題 (メディアリテラシーの関連文献を読み、現代社会の課題整理と保育者の役割について論述する) を期末試験内に提出する。 ②ブックリストの作成及び提出 (絵本や児童書を 50 冊以上読み、ブックリストを完成させる)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 徳安敦・堀科『保育内容 (言葉)』青踏社、2016 年 必要に応じて、別途授業内でプリントを配布する 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 小川清美編『演習 児童文化 保育内容としての実践と展開』萌文書林、2010 年。 長島和代編『保育のマナーと言葉』わかば社、2014 年。 矢野博之編『こどもの世界 こどもと文化/生活 Ⅰ』大学図書出版、2013 年。 レゾジョ・エミリア市の幼児教育実践記録『子どもたちの 100 の言葉』学研、2001 年。		
11. 成績評価の方法	評価については、以下の内容にて評価する。 授業態度 (積極的参加度、リフレクションシートの記述内容と提出 等) 20% ブックリストの提出 30% 期末試験 (筆記試験)・課題レポート 50% 本学の規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 遅延の場合は、遅延届を必ず提出すること。		
12. 受講生へのメッセージ	子どもは大人との関係を基盤にしてことばの世界を広げていく。授業では、子どもの権利と発達を保障する大人 (保育者) として、専門的知識だけでなく、子どもの姿を通してことばの面白さや役割についても学び、ことばの持つ魅力について考えていく。また、保育者としての正しい言葉づかいやクラス便り、連絡帳等の記述などについても触れ、実際の事例や映像等を使用して、ディスカッションを行う。予習、復習、質疑を含め、授業内での積極的な発言、グループワークの積極的な協働・参加を期待する。授業内でのリフレクションシートでは、気づきや疑問等を自身の言葉でまとめるよう努め、相手にわかる文章を心がけること。レポート及び提出物の提出日は厳守すること。		
13. オフィスアワー	別途、通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要及授業計画、求められる態度等について 私たちの生活を取り巻くことばや文字	事前学習	教科書の目次を参照し、関心のある章を精読する。
		事後学習	今後の授業で学びたいことを整理し、学習目標を立てる。
第 2 回	保育の基本・専門性と領域「言葉」	事前学習	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「言葉」を精読し、関心のある箇所とその理由をワークシートにまとめる。
		事後学習	授業を通しての気づきを整理し、リフレクションシートに保育者の専門性と言葉の役割について自身の考えをまとめる。
第 3 回	言葉の発達 乳児期 (1)	事前学習	乳児期の言葉の発達について、身近な日常生活やメディア等から関心のあることを探し、ワークシートに整理する。
		事後学習	授業を通しての気づきを整理し、リフレクションシートに言葉の発達についてまとめる。
第 4 回	言葉の発達 乳児期 (2)	事前学習	乳児期の言葉の発達について、身近な生活の中で、養育者の関わりを観察し、特徴をワークシートに整理する。
		事後学習	配布資料「ことばのみちすじ」を精読し、授業を通しての気づきを整理し、養育者の関わりについてリフレクションシートに自身の言葉でまとめる。

第 5 回	言葉の発達 幼児期	事前学習	幼児の面白いつぶやきや子どもの頃の原体験など、ワークシートにまとめる。
		事後学習	幼児期の言葉の発達を踏まえ、保育者の役割について、リフレクションシートに自身の言葉でまとめる。
第 6 回	言葉の発達 学童期	事前学習	配布資料「たいようのおなら」から、学童期の子どもと言葉について気づいたことをワークシートにまとめる。
		事後学習	接続期の課題と保育実践ジャーゴンの相違について整理し、リフレクションシートに自身の考えをまとめる。
第 7 回	児童文化財とことば（1）絵本	事前学習	ブックトークで紹介したい本を 1 冊用意する。
		事後学習	①保育における絵本の役割についてリフレクションシートに自身の考えをまとめる。 ②期末課題「ブックリスト」の制作に取り掛かる。
第 8 回	児童文化財とことば（2）紙芝居	事前学習	関心のある紙芝居を 1 冊用意する。
		事後学習	グループ発表を通して、紙芝居を演じる際の留意点と環境設定について、リフレクションシートに考えをまとめる。
第 9 回	児童文化財とことば（3）パネルシアター・パペット・エプロンシアターの理解	事前学習	パネルシアター・パペット・エプロンシアターについて調べ、ワークシートにまとめる。
		事後学習	児童文化財の特徴を整理し、グループ制作に向けた準備を行う。
第 10 回	グループ制作	事前学習	どの児童文化財の制作を行うかを考え、材料を用意する。
		事後学習	台本、演出の構成、環境設定などをまとめ、発表に向けた準備と確認を行う。
第 11 回	実践「グループ発表」と討議	事前学習	発表に向けて、練習し、最終の確認を行う。
		事後学習	ワークシートを基に、保育における活用と展開について、児童文化財の活用とその留意点について、リフレクションシートに自身の考えをまとめる。
第 12 回	保育者の専門性とことば①	事前学習	配布資料「言語障害について」を精読する。
		事後学習	言語障害と早期発見、専門機関との連携の必要性について、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。
第 13 回	保育者の専門性とことば②	事前学習	子どもの言葉と虐待の関連について、日常生活から考え、ワークシートにまとめる。
		事後学習	子どもの権利条約とことばの視点から、保育者の役割について考え、リフレクションシートにまとめる。
第 14 回	保育者の専門性とことば③	事前学習	現代社会とことばの課題について、日常生活を振り返り、ワークシートに関心のあることを整理する。
		事後学習	識字、メディア、個人差、接続期の課題など、授業を踏まえ、保育者となる前にどのような自身の課題があるか、リフレクションシートに考えをまとめる。
第 15 回	まとめ領域「言葉」の理解	事前学習	配布資料「クラス便り」を精読し、保育者の子どもの姿を捉える視点と記述について、気づいたことをワークシートに整理する。
		事後学習	学習目標を自己評価し、リフレクションシートにまとめる。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2411 SCOT2411 SJMP2130
2. 授業担当教員	瑞穂 優		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育者として保育内容を考える際、保育内容の5領域や子どもの活動に対する理解は重要である。しかし、子どもの実態に応じて保育を構想するためにはこれらの理解のみでは十分条件とはならない。これらに加えて、養護と教育が一体的に展開する保育、環境を通して行う保育、遊びによる総合的な保育といった一連の保育内容の展開に関する考え方への理解が深まることで、はじめて目の前の子どもの姿から具体的に保育を構想することが可能となる。本講義の目的はここにあり、子どもの姿から保育を構想していく際に必要な考え方を身につけることを目指す。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育・教育要領に基づく保育の基本及び保育内容を理解し、保育の全体的な構造を把握するとともに、その歴史の変遷について学び、保育内容について説明できる。 ・子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することについて理解を深め、具体的な保育実践につなげる。 ・子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子ども理解を深めたいうで具体的な保育内容を考察し、実践できる。 ・多様な保育展開について具体的に学び、保育者の専門性について説明できる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 入江 礼子・榎沢良彦 編著 『シードブック 保育内容総論』 建帛社 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館		
11. 成績評価の方法	授業参加態度 50% 課題レポート (ワークシート) の提出状況と内容 50%		
12. 受講生へのメッセージ	乳幼児期をどのように過ごすかということは、とても大切なことです。保育者はその責任を負う仕事です。自分はどのような保育者になりたいか、どのような保育をしたいのか、しっかり考えて、しっかり学んでほしいと思います。 1. 授業にきちんと出席する 2. 私語は慎む 3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にしまう この3つは守ってください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	家庭での保育と保育所・幼稚園・認定こども園での保育	事前学習	自分の過ごした乳幼児期を思い出しておく。
		事後学習	保育所または幼稚園の1日をまとめる。
第2回	小学校との連携と保育	事前学習	保育所・幼稚園と小学校の違いを考えてくる。
		事後学習	乳幼児期にはどのような生活がふさわしいかまとめる。
第3回	子どもの発達と生活	事前学習	保育所保育指針 第2章を読んでくる。
		事後学習	保育所保育指針の発達についてまとめる。
第4回	保育所で展開される生活と保育内容	事前学習	教科書 第3章-1を読んでくる。
		事後学習	保育所での生活をまとめる。
第5回	保育所における0・1歳児の生活	事前学習	教科書 第3章-2・3を読んでくる。
		事後学習	0・1歳児の生活をまとめる。
第6回	保育所における2・3歳児の生活	事前学習	教科書 第3章-4・5を読んでくる。
		事後学習	2・3歳児の生活をまとめる。
第7回	幼稚園で展開される生活と保育内容	事前学習	教科書 第2章-1を読んでくる。
		事後学習	幼稚園での生活をまとめる。
第8回	保育所・幼稚園における3・4・5歳児の生活	事前学習	教科書 第2章-2・3・4を読んでくる。
		事後学習	3・4・5歳児の生活をまとめる。
第9回	保育内容の歴史の変遷と社会状況の関連	事前学習	教科書 第4章を読んでくる。
		事後学習	保育内容の変遷についてまとめる。
第10回	幼稚園教育要領・保育所保育指針について	事前学習	教科書 第5章を読んでくる。
		事後学習	「5領域」についてまとめる。
第11回	遊びの特質	事前学習	子どもにとって「遊び」とは何か、考えてくる。
		事後学習	「遊び」を分類する。
第12回	遊びと学び	事前学習	教科書 第6章を読んでくる。
		事後学習	子どもにとっての「遊び」の意義についてまとめる。
第13回	主体性を大切にする保育所・幼稚園における保育	事前学習	「主体性」とは何か、自分にあてはめて考えてくる。
		事後学習	どのような保育が望ましいか、自分の考えをまとめる。
第14回	保育所・幼稚園における実習	事前学習	教科書 第8章を読み、自分がこれから何を学ばなければならないか考える。
		事後学習	実習に向けての準備を考える。
第15回	まとめ	事前学習	授業で学んだことを振り返る。
		事後学習	授業をもう一度振り返る。

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SJMP4130
2. 授業担当教員	矢吹 芙美子		5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「保育内容総論」の授業内容をふまえて、その応用、発展的な学習を目指す。幼稚園実習及び保育所実習の経験を活用させ、グループワークを取り入れながら現場の保育内容について検証する。また、保育内容に関する知識・理解を深めるために、様々な保育実践事例を取り上げ、事例から子どもの発達の可能性を見いだす視点を養うと共にその保育内容について総合的に検証・評価する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく社会的状況を理解し、説明することができる。 ・幼稚園実習及び保育所実習経験をふまえて現場の保育内容を検証することができる。 ・よりよい保育内容を構築するための環境構成、指導・援助について考察することができる。 ・様々な保育実践事例を通して、子どもの発達や学習の可能性を考察し、議論することができる。 ・保育全体への視野を広げ、保育内容を総合的に検証・評価する力を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題 3 題 1 保育の方法・形態について事例を挙げ考察する。 2 遊びを通しての学びについて事例をあげ考察する。 3 状況における子どもの把握と評価について事例を挙げて考察する			
10. 教科書・参考書・教材	授業内でプリントを配布する			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加態度 (小課題への取り組み、レポートを含む)、小試験を適宜実施し、それらを総合し評価します。授業への参加態度 50%、小試験 50%			
12. 受講生へのメッセージ	実習体験で生じた課題との関連を意識し、めざされる保育を発展的に学んでいく。毎回の課題や演習に積極的に取り組み、自らより良い保育は展開できるようになる。			
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	現代社会と子どもの現状	事前学習	1 年時に使った教科書「共に育つ」pp.15～27 を復習し、乳幼児期の保育内容の課題を考えておく	
		事後学習	集団討議および授業から学んだことを整理し確認する。	
第 2 回	実習体験から成立する保育の課題	事前学習	実習体験から課題として成立していることをレポートに書く	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 3 回	揺れ動く子どもの心の理解とかかわり	事前学習	子どもの理解の困難さを感じた事例をまとめておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 4 回	友達を求めあう子どもの姿の理解とかかわり	事前学習	テーマについて実習体験を思い起こし書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 5 回	友達に伝わる喜びから伝え合う楽しさの理解とかかわり	事前学習	テーマについて実習体験を思い起こし書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 6 回	保育方法としての保育の形態、自由保育、誘導保育、集団保育、課程保育、一斉保育	事前学習	テーマについて実習体験を思い起こしどのような保育形態を経験したか書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 7 回	実習で体験した保育形態から子どもの姿を振り返り検証する	事前学習	体験した保育形態における子どもの姿を	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 8 回	集団における個々に寄り添う保育と環境構成	事前学習	実習経験からテーマについて書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 9 回	集団と個の関係をとらえた保育	事前学習	実習経験からテーマについて書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 10 回	リーダーチーム理論、一斉保育、課程保育、集団指導への活用	事前学習	実習経験からテーマについて書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 11 回	行事に向けての子どもと保育	事前学習	行事に向けてどのような指導がされ子どもたちの姿はどうか思い起こして書く	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 12 回	新たな保育の実践、状況における子どもの理解、共に育つ発達評価法、	事前学習	前もって資料配布するので資料を読んでおく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第 13 回	ニュージーランドの学びの物語、フィンランドの保育	事前学習	世界の保育について調べておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	

平成 28 年度

第 1 4 回	英国の伝統的保育からプロジェクトアプローチへ	事前学習	プロジェクトアプローチについて調べておく
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する
第 1 5 回	ごっこ遊びと心理劇、 子どもと共に創る心理劇、ふるまいながら考える	事前学習	ごっこ遊びについて調べておく
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する

1. 科目名 (単位数)	保育の心理学Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3405
2. 授業担当教員	関根 佐也佳		SCOT3405
4. 授業形態	演習 (ディスカッション, グループワーク), 講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	保育の心理学Ⅰを受講済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>子どもを取り巻く社会は、家族の形態や就労、価値観や知識などの家族環境、子育てを支援する地域や福祉という社会環境、さらには社会全体にある子育て観や遊び道具の変化など様々な側面で大きく変化してきています。</p> <p>保育の心理学Ⅱでは、保育場面での生活や遊びを通じて得られる様々な経験がどのように子どもの発達に関わっているかを理解し、子どもの心身の発達を促進する保育における発達援助について学びます。この講義では学習心理学や教育心理学と呼ばれる心理学の知識についての理解を深めながら、保育の心理学Ⅰで学習した子どもが本来持っている発達の素質を引き出すために、保育者はどのような関わりをしていけばよいのかを実践的に考えていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>①子どもの経験に基づく学習の過程を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②保育実践の場で養われる子どもの心身の発達について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③子どもの発達・教育に関する心理学の知見をもとに、発達に応じた保育場面での支援について実践的に考えることができるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内容に関わる簡単な課題を読み、内容をまとめ、自分の意見を記述する小レポート (600~800文字程度) を3回実施します。</p> <p>授業中にビデオを見たり課題を読んだりして、ディスカッションを行います。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 立松英子(編著)『保育の心理学Ⅱ』大学図書出版。 授業中にプリントや資料を配付するので、各自ファイル (A4 用) を用意しておくといと思います。</p> <p>【参考書】 丹羽さかの(編著)・小田豊(監修)『保育の心理学Ⅱ』光生館。 藤崎真知代・野田幸江・村田保太郎・中村美津子(編著)『保育のための発達心理学』新曜社。 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』(平成 20 年度) フレーベル館。 「保育の心理学Ⅰ」や「発達心理学」「教育心理学」などの授業を受講している人は、その授業内容、教科書、参考書も参考にしてください。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 (質問や発表・授業に望む姿勢) 40%</p> <p>授業中に行う小レポート・ディスカッション 60%</p> <p>具体的な評価方法は第 1 回目のガイダンスで説明します。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもや自分、他者の心の働きに対して興味を持つことが授業の理解につながります。</p> <p>教員と学生の相互努力によって授業はよりよくなっていきます。受講生の授業への積極的な参加と授業への協力を求めます。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回目のガイダンスで発表します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 授業のすすめ方 保育の心理学Ⅱを学ぶ意義について	事前学習	シラバスを読んできてください。
		事後学習	シラバスと授業の進め方を理解し、テキストに簡単に目を通しておいてください。
第 2 回	子ども理解における発達の把握① (教科書第 1 章)	事前学習	教科書の第 1 章を読み、『発達』の意味を理解しておいてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、子どもの発達をとらえる視点について考えてください。
第 3 回	子ども理解における発達の把握② (第 1 章)	事前学習	発達の大まかな流れを復習しておいてください。
		事後学習	授業を振り返り、幼児期の発達の節目を理解してください。
第 4 回	個人差に応じた保育 (第 1 章)	事前学習	第 1 章を読み、個人差と発達の関係を理解しておいてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、発達における個人差を保育者としてどうとらえるか考えてください。
第 5 回	生活や遊びを通じた学びの過程 (第 2 章)	事前学習	第 2 章を読み、子どもの発達に与える遊びの影響について考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、遊びの重要性についてまとめてください。
第 6 回	遊びと発達 (第 2 章)	事前学習	第 2 章を読み、遊びの発達に復習しておいてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、保育における遊びを豊かに進めるための環境設定や環境作りの大切さについて考えてみてください。

第 7 回	遊びと学び (第 2 章)	事前学習	第 2 章を読み、遊びと学びの関係について考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、子どもにおける遊びと学びの関わりを理解しておいてください。
第 8 回	保育における特別な支援 (第 3 章)	事前学習	第 3 章を読み、「特別支援教育」という言葉にはどんな意味がこめられているのか考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、これからの特別支援教育には何が求められるのか考えてください。
第 9 回	保育における特別な支援 (第 3 章)	事前学習	第 3 章を読み、代表的な発達障害について理解を深めてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、個々の特徴に応じた支援のあり方について考えてください。
第 10 回	保育における特別な支援 (第 3 章)	事前学習	第 3 章を読み、子どもや保護者を支える協働体制にはどのようなものがあるのか考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、保育者としてどう他機関と協同していくのか考えてください。
第 11 回	子どもの生活・学びと地域社会 (第 4 章)	事前学習	第 4 章を読み、子育てを支える地域社会がどう変化したのか考えてください。
		事後学習	これからの時代に求められる子育てにおける地域の役割について考えてください。
第 12 回	現代社会の変化と子ども (第 4 章)	事前学習	第 4 章を読み、現代の情報機器やメディア、電化製品が子育てに与える影響について考えてください。
		事後学習	子どもと情報機器、メディアとの適切な関わりとはどのようなものか、授業を振り返り、考えてください。
第 13 回	保育所における支援① (第 4 章)	事前学習	第 4 章を読み、虐待の現状について考えてください。
		事後学習	授業を振り返り、虐待に対して保育者としてどのような支援ができるのか、考えてください。
第 14 回	保育所における支援② (第 4 章)	事前学習	第 4 章を読み、不登校の定義を理解しておいてください。
		事後学習	授業を振り返り、幼児期の育ちと集団生活、学校への移行について考えてください。
第 15 回	保育における発達理解の重要性	事前学習	テキストをもう一度通読し、発達と保育に関する課題を考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、現代における保育の課題や問題点を解決するための取り組みについて考えてください。

1. 科目名 (単位数)	保育の心理学Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2110
2. 授業担当教員	石 暁玲			
4. 授業形態	演習 (ディスカッション, グループワーク), 講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「保育の心理学」Ⅱは「保育の心理学Ⅰ」の発展科目なので、「保育の心理学Ⅰ」の単位を修得した後に履修することが望ましい。			
7. 講義概要	<p>子どもを取り巻く社会は、家族の形態や就労、価値観や知識などの家族環境、子育てを支援する地域や福祉という社会環境、さらには社会全体にある子育て観や遊び道具の変化など様々な側面で大きく変化してきました。</p> <p>保育の心理学Ⅱでは、保育場面での生活や遊びを通じて得られる様々な経験がどのように子どもの発達に関わっているかを理解し、子どもの心身の発達を促進する保育における発達援助について学びます。この講義では学習心理学や教育心理学と呼ばれる心理学の知識についての理解を深めながら、保育の心理学Ⅰで学習した子どもが本来持っている発達の素質を引き出すために、保育者はどのような関わりをしていけばよいのかを実践的に考えていきます。</p>			
8. 学習目標	<p>①子どもの経験に基づく学習の過程を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②保育実践の場で養われる子どもの心身の発達について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③子どもの発達・教育に関する心理学の知見をもとに、発達に応じた保育場面での支援について実践的に考えることができるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内容にかかわる課題を授業中に随時提示します。</p> <p>授業中テストを実施します。予習・復習など自発的勉強が必要です。</p> <p>子どもの発達や保育、子育てに関わる宿題を出します。</p> <p>授業中にビデオを見たり課題を読んだりして、話し合いや発表を行います。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 立松英子(編著)『保育の心理学Ⅱ』大学図書出版。 授業中にプリントや資料を配付するので、各自ファイル (A4 用) を用意しておくとうよいと思います。</p> <p>【参考書】 松原達哉編『発達心理学—健全やかな幸せな発達をめざして』丸善出版。 咲間まり子編『多文化保育・教育論』みらい社。 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦 (編著)『やわらかアカデミズムくわかる>シリーズ よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。 藤村宣之 (編著)『いちばんはじめに読む心理学の本 3 発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか?』ミネルヴァ書房。 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』(平成 20 年度) フレーベル館。 『平成 20 年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>』チャイルド本社。 「保育の心理学Ⅰ」や「発達心理学」「教育心理学」などの授業を受講している人は、その授業内容、教科書、参考書も参考にしてください。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>プレゼンテーション・課題発表 20%</p> <p>授業への積極的参加態度 30%</p> <p>テスト (2 回) 50%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもや自分、他者の心の働きに対して興味を持つことが授業の理解につながります。</p> <p>教員と学生の相互努力によって授業はよりよくなっていきます。受講生の授業への積極的な参加と授業への協力を求めます。</p>			
13. オフィスアワー	第 1 回目のガイダンスで発表します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	ガイダンス 授業のすすめ方 保育の心理学Ⅱを学ぶ意義について	事前学習	シラバスを読んでください。	
		事後学習	シラバスと授業の進め方を理解し、テキストに簡単に目を通しておいてください。	
第 2 回	子ども理解における発達の把握① (教科書第 1 章)	事前学習	教科書の第 1 章を読み、『発達』の意味を理解しておいてください。	
		事後学習	授業内容を振り返り、子どもの発達をとらえる視点について考えてください。	
第 3 回	子ども理解における発達の把握② (第 1 章)	事前学習	発達の大まかな流れを復習しておいてください。	
		事後学習	授業を振り返り、幼児期の発達の節目を理解してください。	
第 4 回	個人差に応じた保育 (第 1 章)	事前学習	第 1 章を読み、個人差と発達の関係を理解しておいてください。	
		事後学習	授業内容を振り返り、発達における個人差を保育者としてどうとらえるか考えてください。	
第 5 回	生活や遊びを通じた学びの過程 (第 2 章)	事前学習	第 2 章を読み、子どもの発達に与える遊びの影響について考えてください。	
		事後学習	授業内容を振り返り、遊びの重要性についてまとめてください。	

第 6 回	遊びと発達(第 2 章)	事前学習	第 2 章を読み、遊びと発達の基礎知識を復習しておいてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、子どもにおける遊びと発達の関わりを理解しておいてください。
第 7 回	遊び支援の実際 (第 2 章)	事前学習	第 2 章を読み、遊び支援の意味を考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、保育における遊びを豊かに進めるための環境設定や環境作りの大切さについて考えてみてください。
第 8 回	保育における特別な支援 I (第 3 章)	事前学習	第 3 章を読み、「特別支援教育」という言葉にはどんな意味がこめられているのか考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、これからの特別支援教育には何が求められるのか考えてください。
第 9 回	保育における特別な支援 II (第 3 章)	事前学習	第 3 章を読み、代表的な発達障害について理解を深めてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、個々の特徴に応じた支援のあり方について考えてください。
第 10 回	保育における特別な支援 III (第 3 章)	事前学習	第 3 章を読み、子どもや保護者を支える協働体制にはどのようなものがあるのか考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、保育者としてどう他機関と協同していくのか考えてください。
第 11 回	子どもの生活・学びと地域社会 (第 4 章)	事前学習	第 4 章を読み、子育てを支える地域社会がどう変化したのか考えてください。
		事後学習	これからの時代に求められる子育てにおける地域の役割について考えてください。
第 12 回	さまざまな視点から保育を学ぶ	事前学習	多文化保育について調べる。
		事後学習	文化の視点から保育を考察する。
第 13 回	保育所における支援①児童虐待の理解と対応 (第 4 章)	事前学習	第 4 章を読み、虐待の現状について考えてください。
		事後学習	授業を振り返り、虐待に対して保育者としてどのような支援ができるのか、考えてください。
第 14 回	保育所における支援②就学への支援 (第 3 章)	事前学習	発達の連続性を理解しておいてください。
		事後学習	授業を振り返り、幼児期の育ちと集団生活、学校への移行について考えてください。
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	テキストをもう一度通読し、発達と保育に関する課題を考えてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、現代における保育の課題や問題点を解決するための取り組みについて考えてください。

1. 科目名 (単位数)	保育の心理学Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2110
2. 授業担当教員	平沼 晶子		
4. 授業形態	演習 (ディスカッション, グループワーク), 講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>子どもを取り巻く社会は、家族の形態や就労、価値観や知識などの家族環境、子育てを支援する地域や福祉という社会環境、さらには社会全体にある子育て観や遊び道具の変化など様々な側面で大きく変化してきました。</p> <p>保育の心理学Ⅱでは、保育場面での生活や遊びを通じて得られる様々な経験がどのように子どもの発達に関わっているかを理解し、子どもの心身の発達を促進する保育における発達援助について学びます。この講義では学習心理学や教育心理学と呼ばれる心理学の知識についての理解を深めながら、保育の心理学Ⅰで学習した子どもが本来持っている発達の素質を引き出すために、保育者はどのような関わりをしていけばよいのかを実践的に考えていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>①子どもの経験に基づく学習の過程を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②保育実践の場で養われる子どもの心身の発達について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③子どもの発達・教育に関する心理学の知見をもとに、発達に応じた保育場面での支援について実践的に考えることができるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>講義内容を踏まえて、保育場面での支援に関するワークに取り組む。そして、ディスカッションや発表などの意見交流を通して各自が理解を深めたことを小レポートにまとめる。</p> <p>授業を通して学習したことについて振り返り、期末レポートとしてまとめる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>青木紀久代・矢野由佳子編著『こどもとかかわる力を培う 実践・発達心理学ワークブック』 みらい、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>本学の規定により、3/4以上の出席を単位認定要件とする。</p> <p>その上で、課題ごとに提出するレポート (40%)、期末レポート (30%)、授業態度と参加姿勢 (30%) から総合的に評価する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>保育の心理学Ⅰで学習したことに基づき、ワークを通してより実践的に子どもの発達と保育者の役割について理解を深めます。そのため、受講生は自分の問題として捉え、積極的な態度で授業に臨んでください。</p>		
13. オフィスアワー	<p>初回授業で周知する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・授業概要の説明	事前学習	シラバスを読む。保育の心理学Ⅰで学んだことを整理しておく。
		事後学習	言葉はどのように育まれるのかを理解する。
第2回	発達と保育実践 (1) 言葉の発達	事前学習	教科書 pp. 10~13 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第3回	発達と保育実践 (2) 仲間関係の発達	事前学習	教科書 pp. 20~23 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第4回	発達と保育実践 (3) 自己主張と自己抑制	事前学習	教科書 pp. 30~33 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第5回	発達と保育実践 (4) 社会性と情動の発達	事前学習	教科書 pp. 38~43 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第6回	発達と保育実践 まとめ	事前学習	第1回から第5回までの学習を振り返る。
		事後学習	学習したことを定着させる。
第7回	生活を通じた学び (1) 知的発達	事前学習	教科書 pp. 50~51 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第8回	生活を通じた学び (2) 学習理論	事前学習	教科書 pp. 56~57 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第9回	生活を通じた学び (3) 身辺自立と自己決定	事前学習	教科書 pp.62~63 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第10回	生活を通じた学び まとめ	事前学習	第7回から第9回までの学習を振り返る。
		事後学習	学習したことを定着させる。
第11回	保育における発達援助 (1) 子どもの個人差への配慮	事前学習	教科書 pp. 70~71 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第12回	保育における発達援助 (2) 就学に向けた支援	事前学習	教科書 pp. 76~79 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第13回	保育における発達援助 (3) 家族支援	事前学習	教科書 pp. 84~89 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第14回	保育における発達援助 (4) 特別なニーズのある子どもに対する支援	事前学習	教科書 pp. 94~99 を読む。
		事後学習	ワークを通して気づいた点をまとめる。
第15回	全体のまとめ	事前学習	授業で学習したことを振り返り整理する。
		事後学習	学習した内容を保育実践にどのように活かすことができるかについて考える。

1. 科目名 (単位数)	法学 (憲法) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1117 GELA1138 GELA1317
2. 授業担当教員	本沢 一善	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義 (質疑応答を含む) を主とするが、事例問題ではグループ討議、発表、検討を行う。講義はレジュメに沿って行うが、理解を助ける上で教科書を使用したり、必要な最新情報等を提供したりする。各自が要点を把握し、配布されたレジュメに筆記することが必要である。毎回の授業時間の末尾においてその日の授業内容に関する内容を記入し、提出する。		
6. 履修条件・他科目との関係	今後学ぶことが考えられる法律に関する科目の基礎となるものである。この科目は、民法、行政法、教育法規等を学習するときの基礎知識となるものである。		
7. 講義概要	<p>本科目は、教育職員免許状を取得する際の基礎資格として必須科目である。また、公務員試験を受験する際の必要な科目ともなっている。</p> <p>公務員や教員だけに限らず社会人にとって、法について基礎知識を学び、身に付けることは仕事を進める上で大切なことである。また、一般の公務員や教員及び企業人の実践力は法に裏付けられたものでなければ、その役割を全うすることは困難である。</p> <p>そこで、本講義では法的作用や役割を学び、社会人として必要とされる法律の基礎知識を習得する。なお、習得の際には多くの具体的事例を通して学び、時にはグループディスカッションをしたりして理解を深めるところにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学 (憲法) の基礎知識を理解する。 2. 法学を学ぶには、条文や判例などを読むことは欠かせないものであるとの学習態度を身に付ける。 3. 法律的なものの考え方を理解し、仕事に就いたときに活かせるようにする。 4. 教員採用試験や公務員試験に出題される法規一般の問題に対応しうる法律知識を身に付ける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。</p> <p>事前・事後学習の提出についても採点・返却する。</p> <p>授業状況の中で90分以上をとり、授業内容から項目を選びグループ学習を行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>○本沢一善『法学要説』学文社、改訂版 2014。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 (積極的参加度、事前・事後学習の提出など) 30%、レポート 10%、期末試験 60%、計 100% で評価する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>おしゃべり、授業のぬけ出、教科書のわずれなどはチェックし評価する。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業前と授業後に行う。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	法とは何か、a 法の理念、b 制定法、c 法の適用	事前学習	「第 1 節 [1] 法の理念・目的、第 3 節 [1] 法の適用」を熟読し、原則 A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 [1] 法源、[2] a 制定法」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 2 回	憲法について、a 歴史—外国、日本、b 最高法規制、c 基本原理	事前学習	「第 2 章 第 1 節 [1] 近代的意義の憲法」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 1 節 [4] 最高法規性、[5] 日本国憲法の基本原理」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 3 回	国民主権、a 国民をどうとらえる、b 象徴天皇制、c 代表民主制	事前学習	「第 2 節 [1] 民主主義」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[2] 象徴天皇制、[3] 代表民主制」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 4 回	基本的人権 1、a 体系	事前学習	「第 3 節 [1] (1) 基本的人権の体系」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[1] (1) b 社会権、(3) 享有する主体」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 5 回	基本的人権 2、a 人権と公共の福祉、b 自由権	事前学習	「[1] (4) 人権と公共の福祉、[2] (1) b 信教の自由」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[2] (1) c 学問の自由 (2) 経済的自由」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 6 回	基本的人権 3、a 国務請求権など、b 社会権	事前学習	「[3] (1) 国務請求権、(2) 参政権」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[4] (2) 生存権、(3) 教育を受ける権利」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 7 回	国民の義務、平和主義	事前学習	「第 4 節 国民の義務」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 5 節 [2] 憲法第 9 条、[3] b 自衛隊」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 8 回	立法権—国会	事前学習	「第 7 節 [1] 国会の地位」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[4] 国会の活動、[5] 国会の活動」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 9 回	行政権—内閣	事前学習	「第 8 節 [2] (1) 内閣の組織」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[2] (2) 総理大臣の権限、[3] 内閣の権能」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。

第 10 回	司法権—裁判所	事前学習	「第 9 節[1] a 司法とは何か、[2] (1) 裁判所の組織」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「[1] (2) 司法権の限界、[2] (3) 最高裁判所」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 11 回	財政、a 国費と予算	事前学習	「第 10 節[2] 国費と予算、[3] (1) 政教分離の原則」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「[1] 財政の基本原則、[3] (2) 公私分離の原則」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 12 回	地方自治 1、a 基本原則、b 組織、 c 権能	事前学習	「第 11 節[1] (1) 住民自治と団体自治、[3] (2) 条例制定権」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「[3] (1) 自治事務と法定受託事務」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 13 回	民法	事前学習	「第 3 章 民法」を一読し、三つの項目を選択したうえで、それぞれの内容をまとめて手書で提出する。
		事後学習	項目の中から選び展開する
第 14 回	行政法	事前学習	「第 4 章 行政法」を一読し、三つの項目を選択したうえで、それぞれの内容をまとめて手書で提出する。
		事後学習	項目の中から選び展開する
第 15 回	総合まとめ	事前学習	大事だと思う項目を三つ選び、内容を手書でまとめる。教科書の巻末の「設問と解答および解説」41 項目から質問を三つ選ぶ。
		事後学習	総まとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	法学 (憲法) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1317
2. 授業担当教員	杉原 弘泰		
4. 授業形態	講義 (質疑応答を含む) を主とするが、事例問題ではグループ討議、発表、検討を行う。講義はレジュメに沿って行うが、理解を助ける上で教科書を使用したり、必要な最新情報等を提供したりする。各自が要点を把握し、配布されたレジュメに筆記することが必要である。毎回の授業時間の末尾においてその日の授業内容に関する内容を記入し、提出する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	今後学ぶことが考えられる法律に関係する科目の基礎となるものである。この科目は、民法、行政法、教育法規等を学習するときの基礎知識となるものである。		
7. 講義概要	<p>本科目は、教育職員免許状を取得する際の基礎資格として必須科目である。また、公務員試験を受験する際の必要な科目ともなっている。</p> <p>公務員や教員だけに限らず社会人にとって、法について基礎知識を学び、身に付けることは仕事を進める上で大切なことである。また、一般の公務員や教員及び企業人の実践力は法に裏付けられたものでなければ、その役割を全うすることは困難である。</p> <p>そこで、本講義では法的作用や役割を学び、社会人として必要とされる法律の基礎知識を習得する。なお、習得の際には多くの具体的事例を通して学び、時にはグループディスカッションをしたりして理解を深めることにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学 (憲法) の基礎知識を理解する。 2. 法学を学ぶには、条文や判例などを読むことは欠かせないものであるとの学習態度を身に付ける。 3. 法律的なものの考え方を理解し、仕事に就いたときに活かせるようにする。 4. 教員採用試験や公務員試験に出題される法規一般の問題に対応しうる法律知識を身に付ける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	小テスト、確認テストの実施。 場合によってはレポートの提出を指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 伊藤正巳著『憲法入門[第4版補訂版]』有斐閣叢書 江頭・小早川・西田・高橋・能見編『ポケット 六法 平成25年版』有斐閣</p> <p>【参考書】 宍戸常寿著『憲法解釈論の応用と展開』日本評論社</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 (授業への参加意欲) 20%</p> <p>確認テスト・小テスト 30%</p> <p>期末試験 50%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>憲法に関する基礎知識は国民の常識であり、特に教育や社会福祉に携わる者にとっては更に深い理解を求められる必須の知識である。教科書は初めて憲法を勉強する皆さんには少し難しいかもしれないが、出来るだけ予習するように心がけてほしい。授業の効果はどれだけ学生諸君が予習をしたかにかかっていると言っても過言ではない。また、授業中、疑問のあるところはいつでも質問して頂いて良いし、むしろそれを望んでいる。皆さんから質問がない場合逆に私の方から質問することになっている。いずれにしても、教官と学生が協力して楽しい授業にすることが私の目標である。</p> <p>なお、授業の進行速度、受講生の理解度等を考慮し、シラバスの授業内容、進行順序を一部変更することがある。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、法体系における憲法の位置、意義、その教科書の読み方、判例の調べ方、法律的な思考方法、法解釈の仕方、その他の一般的な法学の研究手法等について解説し、学生諸君の質問に答える。	事前学習	教科書、六法全書は必ず準備して下さい。これを持参せずに授業を受けることは、兵士が銃を持たずに戦うにも等しいことである。
		事後学習	先ず図書館に行き、憲法に関する書籍、判例集等についてどのようなものがあるか調べておく。
第2回	憲法とは何か	事前学習	教科書 pp. 1～18 を通読する。
		事後学習	何故どの国にも憲法があるのか。国家権力、国民と憲法との関係、憲法が最高法規と言われる理由などについて十分な理解が得られるよう、講義後に教科書を読み返す。
第3回	明治憲法の特質 日本国憲法の成立	事前学習	教科書 pp. 18～38 を通読する。
		事後学習	明治憲法と日本国憲法の違いについて考え、それをノートに整理する。何故今憲法改正の動きがあるのか、その改正意見にはどのようなものがあり、それについて皆さんはどのように考えるのかについて自分なりの考えをノートに整理してみる。
第4回	憲法の法源と運用	事前学習	教科書 pp. 39～53 と通読する。
		事後学習	憲法の条文上、解釈の相違が問題となるのは、どの点か、

			その解釈に関してどれが正しいと考えるのかについて、自分なりの考えを整理してみる。
第 5 回	国民主権と選挙	事前学習	教科書 pp. 54～77 を通読する。
		事後学習	講義の内容を踏まえて、「主権」とは何か、君主主権と国民主権との違い、選挙が行われる意味などについて考え、それを整理する。
第 6 回	象徴天皇制	事前学習	教科書 pp. 78～94 を通読する。
		事後学習	講義の内容を踏まえて、明治憲法下の天皇と日本国憲法下の天皇とはどこが違うのか、我が国が天皇制を採用している意義、象徴天皇の法的性格、天皇の行う国事行為の内容等を理解出来たかどうかを、もう一度教科書に照らしながら、確認する。
第 7 回	地方自治	事前学習	教科書 pp. 95～103 を通読する。
		事後学習	地方自治が民主主義の出発点とも言われるのは何故か、既に勉強した国民主権との関係でどのような意味があるのか、最近言われている道州制とは何か、などの論点を意識してもう一度教科書と参考書を読み返す。
第 8 回	地方自治	事前学習	教科書 pp. 104～115 を通読する。
		事後学習	憲法 9 条は戦争放棄と戦力不保持を定めているが、自衛隊は「戦力」なのか否か、自衛のための戦争は憲法上許されるのか。国連の P K O 活動としての自衛隊員の海外派遣は合憲かなどの論点につき、講義を踏まえて、深く理解できるように復習する。
第 9 回	基本的人権 (1) 人権尊重の原理	事前学習	教科書 pp. 116～130 を通読する。
		事後学習	人権思想の拡大は世界的潮流であったが、複雑な現代社会では、「公共の福祉」が人権の制約概念として存在する。個人の尊重と公共の福祉という一見矛盾するかに見える価値を如何に調整していくかが、憲法解釈に求められる課題である。参考書を参照しながら、具体的なケースを想定して問題の所在と解決方法を探る。
第 10 回	基本的人権 (2) 人権の体系	事前学習	教科書 pp. 131～146 を通読する。
		事後学習	人権は様々な観点から生存権、自由権等幾つかの類型に分類されるが、これらはそれぞれ規律される基準が異なり、内在的な制約もある。また、「法の下における平等」の平等権など他の類型の人権とやや異なる性格のものもある。これらを総括的に理解出来るように、参考書を見ながら具体的なケースを通して勉強する。
第 11 回	基本的人権 (3) 自由権	事前学習	教科書 pp. 147～174 を通読する。
		事後学習	思想、信教、学問、集会結社、表現の自由等多岐にわたる自由権の保障は近代国家の基本条件である。講義と教科書で基礎知識が得られたら、早速参考書を見ながら、現実社会でどのような問題が起き、いかなる司法的解決が図られているかを勉強する。
第 12 回	基本的人権 (4) 社会権	事前学習	教科書 pp. 175～184 を通読する。
		事後学習	国家からの自由権と異なり、逆に国家の積極的行為を要求できる権利として生存権、教育を受ける権利、労働基本権と言われるものがある。近代福祉国家で保障される近代的な人権であることを理解できるよう教科書を反芻して読む。
第 13 回	権力分立 (1) 国会	事前学習	教科書 pp. 185～211 を通読する。国家の機能が立法、司法、行政という 3 つ区分されていることを 3 権分立というが、そのような制度となっているのは何故か、諸外国には 3 権分立の形はあるが実態はそうではないような国もある。そんなことも図書館で調べながら、13 回以降の講義に臨んで頂きたい。
		事後学習	国会が国権の最高機関と言われる理由は何か、衆議院と参議院の 2 院制を採用しているのは何故か、衆議院の解散はどのような目的で行われるかなどを理解できるように講義を聴き教科書、参考書を繰返し読む。
第 14 回	権力分立 (2) 内閣	事前学習	教科書 pp. 212～224 を通読する。
		事後学習	アメリカのような大統領制の国と異なり、我が国はイギリス同様、議院内閣制を採用している。両者の違いはどこにあるか、内閣総理大臣は行政機関のトップとしてど

平成 28 年度

			のような権限と責任をもつか、などを正確に理解できたかどうか教科書、参考書を良く読み返して確認する。
第 15 回	権力分立 (3) 司法	事前学習	教科書 pp. 225~235 を通読する。
		事後学習	司法と裁判は同義語として用いられることがある。三権分立の原則に関して、司法権の独立性が保障される一方で、司法権の限界として、立法機関である国会や行政機関の行為のうち一定のものについて司法審査の対象外とされるものがある。この点を良く理解するように講義後に復習する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	簿記 (4 単位)	3. 科目番号	SBMP2132
2. 授業担当教員	平 仁		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、問題演習などを併用し、期末に試験を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「簿記」履修後、「会計学」を履修すると理解力は増大する。		
7. 講義概要	<p>簿記は、事業経営における日々の取引を記録し、経営成績や財政状態を把握するための財務諸表にまとめるための基礎部分を構成する、実務的には非常に重要な部分を占めるものです。簿記を学ぶ上では、机上で学ぶことに加え、実際に手を動かし、電卓を叩いて、実践することが大切です。</p> <p>この講座では、1 コマ目の前半 30 分間を用いて、毎回確認テストを行い、確認テストを解説した上で、2 コマ目で新たな分野を学習します。</p> <p>この講座を受講する学生は、毎回電卓 (できれば 10 ケタ以上の電卓を用意して欲しい) を持参して下さい。</p>		
8. 学習目標	<p>1、簿記の仕組みを理解し、簡単な仕訳を正確にできるようになる。</p> <p>2、財務諸表の仕組みを理解し、自分で作成できるようになる。</p> <p>3、日商簿記 3 級程度の内容を理解できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメント及びレポートを課すことはないが、毎回の確認テストの内容は前回の復習なので、しっかり復習することが大切です。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】滝沢ななみ『スッキリわかる日商簿記 3 級【第 7 版】』TAC 出版、2016。</p> <p>【参考書】授業内で適宜指示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1、授業態度 (質問、出席状況など) 10%</p> <p>2、確認テスト 30%</p> <p>3、期末テスト 60%</p> <p>遅刻、欠席等には所定の減点をする。 なお、本学規定により、4 分の 3 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>簿記を理解し、仕訳を正確に切れるようになることは、事業経営を数値化して把握する上で、必要不可欠なことです。簿記を学ぶことは事業経営を学ぶ第一歩とも言えるでしょう。</p> <p>簿記は「習うより慣れよ」を地で行く世界でもありますので、事前学習よりも事後学習が大切ですから、しっかり復習して下さい。特に第 17 回以降は、第 16 回までの講義内容を踏まえた応用問題になりますので、復習していないとついていけなくなる可能性が高いので、必ず復習して下さい。</p> <p>また、留学生にとっては、日本語による検定試験に合格することが日本での勉強の成果を客観的に示す証拠として活用することができますので、就職活動を成功させるためにもこの講義の授業範囲と一致する日商簿記 3 級にチャレンジすることを勧めます。</p> <p>なお、事前学習で指示したページはシラバス作成時には第 7 版発行前であるため、第 6 版の頁で記載していることに注意すること。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、商品売買 (1)	事前学習	テキスト pp. 2~10 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 2 回	商品売買 (2)	事前学習	テキスト pp. 12~28 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 3 回	確認テスト (商品売買)、現金 (1)	事前学習	テキスト pp. 30~38 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 4 回	現金 (2)、預金	事前学習	テキスト pp. 40~56 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 5 回	確認テスト (現金・預金)、手形 (1)	事前学習	テキスト pp. 58~70 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 6 回	手形 (2)、貸付金・借入金	事前学習	テキスト pp. 71~84 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 7 回	確認テスト (手形・貸付金・借入金)、消耗品、租税公課と資本金	事前学習	テキスト pp. 128~132、pp. 160~168 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 8 回	有価証券	事前学習	テキスト pp. 86~98 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 9 回	確認テスト (消耗品・租税公課と資本金・有価証券)、その他の債権債務 (1)	事前学習	テキスト pp. 100~107 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 10 回	その他の債権債務 (2)	事前学習	テキスト pp. 108~126 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 11 回	確認テスト (その他の債権債務)、貸倒れと貸倒引当金 (1)	事前学習	テキスト pp. 134~142 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 12 回	貸倒れと貸倒引当金 (2)、見越し繰延べ	事前学習	テキスト pp. 170~187 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 13 回	確認テスト (貸倒れと貸倒引当金、見越し繰延べ)、固定資産と減価償却 (1)	事前学習	テキスト pp. 144~151 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 14 回	固定資産と減価償却 (2)	事前学習	テキスト pp. 152~158 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること

平成 28 年度

第 15 回	確認テスト（固定資産と減価償却）、帳簿への記入（1）	事前学習	テキスト pp. 190～197 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 16 回	帳簿への記入（2）	事前学習	テキスト pp. 198～208 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 17 回	確認テスト（帳簿への記入）、試算表（1）	事前学習	テキスト pp. 210～214 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 18 回	試算表（2）	事前学習	テキスト pp. 215～221 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 19 回	確認テスト（試算表）、伝票制度（1）	事前学習	テキスト pp. 224～231 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 20 回	伝票制度（2）	事前学習	テキスト pp. 232～235 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 21 回	確認テスト（伝票制度）、精算表の作成（1）	事前学習	テキスト pp. 238～239 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 22 回	精算表の作成（2）	事前学習	テキスト pp. 240～257 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 23 回	確認テスト（精算表の作成）、財務諸表の作成（1）	事前学習	テキスト pp. 238～257 を再度よく読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 24 回	財務諸表の作成（2）	事前学習	テキスト pp. 258～259 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 25 回	確認テスト（財務諸表の作成）	事前学習	ここまでの復習をしっかりとってくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 26 回	帳簿の締切り	事前学習	テキスト pp. 262～271 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 27 回	確認テスト（帳簿の締切り→財務諸表の作成）	事前学習	ここまでの復習をしっかりとってくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 28 回	問題演習（精算表の作成＜類推問題＞）	事前学習	ここまでの復習をしっかりとってくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 29 回	問題演習（総合問題）	事前学習	ここまでの復習をしっかりとってくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 30 回	総合問題の解説	事前学習	ここまでの復習をしっかりとってくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保健科指導法 I (4 単位)		3. 科目番号	EDHE2347
2. 授業担当教員	菅原 健次			
4. 授業形態	◇課題提示→講義→演習・協議等→講義→振り返り など <例 1> 導入：講義から課題の把握→展開 (演習)：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議→まとめ：協議と講義のまとめ <例 2>演習 (課題学習を生かした授業の在り方) 導入：指導法を形にする講義→展開 (演習)：課題の調査による解明→指導案の作成→模擬授業→全体協議→まとめ：模擬授業の成果とまとめ		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	(1) 保健科教員を目指す者にとって必要な授業力の基礎を身に付ける内容とする。 (2) 生徒に分かる保健授業の展開を目指し、「教育内容の教材化、指導法、指導案作成」の基礎を身につける。 (3) 保健学習に関する主要な指導法を講義等で理解し、演習・協議等を通じて保健学習の概念を自ら描けるようにする。 (4) 生徒を取り巻く生活環境やライフスタイルの変化による新たな健康課題を学ぶとともに、保健科指導法Ⅱの授業で本格的な指導案が作成できるための基礎的・基本的な資質・力量を養う。			
8. 学習目標	(1) 生徒にとって楽しく分かりやすく学べる保健授業の展開を目指した「教育内容の教材化、指導法、指導案の作成」など、保健科教員を目指す者にとって必要不可欠な基礎・基本となる学力を、試行錯誤しながら実践的に身に付けることができるようにする。 (2) 文部科学省刊「中学校学習指導要領解説 保健体育編」と「高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編」の保健分野・保健科の内容について理解し、説明することができるようにする。 (3) 課題学習の進め方 (課題設定の在り方、類型、ディベートの手法を生かした課題学習など) を理解できるようにする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	平素の講義と学習指導要領解説書並びに教科書を理解し、次の点を予習することにより、確かな力を身に付けることができる。 (1) 次時の学習内容について、教科書を活用して予習することをアサイメントとする。 (2) 健康教育に関する多様な指導法をまとめ、適宜レポートとして提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ○文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編 (新)』東山書房。 ○森 昭三・和唐 正勝『新版 保健の授業づくり入門』大修館書店。 【参考書】 プリント教材等は、随時の授業時に配布しそれを使用する。			
11. 成績評価の方法	授業力こそ学校における最も重要な力である。そのためには、学習指導要領解説書の内容を十分に理解するとともに、学習内容に応じた指導法を適用できることである。各領域に沿った指導法は、具体的に指導する。教科書と学習内容を合わせれば、十分に望ましい指導案も、具体的な指導も可能となる。 ○学習成果を生かした模擬授業の確かさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合点の 4 5 % ○自らの課題に応じた学習指導案の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合点の 2 5 % ○授業態度 (課題に対する発言、質問、グループ活動の司会、記録など積極的参加度)・・・総合点の 3 0 %			
12. 受講生へのメッセージ	(1) 学びとは自らの課題を知ることであり、その課題を自分の課題として捉えたところから学習は始まる。 (2) 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。やむを得ず欠席する場合は、書面を提出すること。 (3) 携帯電話の操作、及び私語は厳禁のこと。 (4) レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。 (5) 予習するとともに、関心を持って健康教育関係の新聞記事や月刊誌に目を通しておくこと。			
13. オフィスアワー	金曜日 15:00~18:00			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (現代社会における保健科教育への期待されること) ① 健康教育の現状と課題を理解できる。 ② 保健科の多様な指導法を踏まえた教材研究ができる		事前学習	『保健科指導法 I』の講義用ノートを作成し、自分が受けた保健学習、保健指導を振り返り、その課題を明らかにしてくる。
			事後学習	児童生徒の健康の状況をもとに、その指導の在り方を、本時の学習を通してまとめる。
第 2 回	学校教育が担うべき保健の学力形成について ① 保健の学力を多面的に捉えることができる ② 学力を基にした授業づくりができる		事前学習	模擬授業にかかわる課題を選択し、調査の方法を明らかにしてくる。
			事後学習	五つの観点からまとめられる保健の学力への思いをまとめる。
第 3 回	わが国の保健科教育の歩みについて ① 健康の捉え方が時代によって変化していることを知る ② 現代の課題の特色を生かした授業ができる		事前学習	模擬授業の課題について調査を始め、その資料を収集する。①
			事後学習	保健科教育の歴史を振り返り、これからのあるべき姿をまとめる。
第 4 回	保健の授業が成立するという事 I ① 生徒が真に活動したくなる授業を知っている ② 生徒自身が興味を持って自己との対話ができる		事前学習	教師が陥っている授業の課題を明らかにしてくる。
			事後学習	保健の授業の在り方について、本時をもとに自分の授業観をまとめる。①

第 5 回	保健の授業が成立するという事 II ① 教材の精選とその教材を生かした展開を知っている ② わかる・できる授業の展開ができる	事前学習	模擬授業の課題について調査を始め、その資料を収集する。②
		事後学習	保健の授業の在り方について、本時をもとに自分の授業観をまとめる。①
第 6 回	楽しくてわかる保健授業の探求について I ① 分かる喜びにつながる保健授業を理解できる ② 生徒のやる気をはぐむ授業ができる	事前学習	よい授業の在り方を pp. 50～65 までの範囲で熟読してくる。
		事後学習	本時の学習を通じたよい授業の条件をまとめてくる。
第 7 回	楽しくてわかる保健授業の探求について II ① 追求が可能な授業が求められることを知っている ② 次回が待たれる授業のポイントが分かる	事前学習	模擬授業の課題について調査を始め、その資料を収集する。③
		事後学習	授業における『よい発問』とは何かについて、p. 59 を中心としてまとめる。
第 8 回	『生きて働く』学力の形成と保健授業づくりについて I ① 健康な生活を求める実践力をはぐむ必要性が理解できる ② 今求められる授業ができるようになる	事前学習	pp. 66～80 までを丹念に読み、『生きて働く学力』について、まとめる。
		事後学習	問題解決学習の進め方の課題を授業に基づきまとめることができるようにする。
第 9 回	『生きて働く』学力の形成と保健授業づくりについて II ① 実践力をはぐむ授業の展開がわかる ② 今最も求められる授業の展開ができる可能性がある	事前学習	模擬授業の課題について調査を始め、その資料を収集する。④
		事後学習	保健の授業づくりの意味するところについてまとめられるようにする。
第 10 回	保健科の学力と教育内容（学習指導要領の内容について） I ① 学習指導要領に基づいた学力を理解できる ② 教材研究の方法を知った指導案づくりができる	事前学習	pp. 82～102 までをよく読み、今次改訂の柱を明確にさせる。
		事後学習	保健の学力観を学習指導要領から抽出し、教材研究の必要性を理解する。
第 11 回	保健科の学力と教育内容（今次改訂の特徴について） II ① 今次改訂の中で学力のポイントを理解できる ② 改訂を踏まえた学力観をもっている	事前学習	調査している資料を整理し、模擬授業としてまとめられる工夫をする。①
		事後学習	これからの保健学習と保健指導の在り方を説明できるようにする。
第 12 回	保健科の学力と教育内容（様々な学力観とその内容について） III ① 様々な実態の中から必要な学力を理解できる ② 今日的課題に対応できる指導ができる	事前学習	pp. 103～122 までの変化について理解できるようにする。
		事後学習	教材化の 4 観点を整理できるようにし、そのよさを明らかにする。
第 13 回	保健の学力形成を保障する教育内容の編成 ① 保健の学力を基に、育成できる教育内容を知っている ② 単元における指導の重点化を図れる	事前学習	調査している資料を整理し、模擬授業としてまとめられる工夫をする。②
		事後学習	『分かったこと』は段階があることを整理しておく。分かることとできることの違いを明確にする。
第 14 回	保健の教科内容と教材 I ① 教科内容に応じた教材を知る ② 生徒の思いや願い	事前学習	教材とは何かについて、具体的に理解したことを使って説明する。
		事後学習	児童生徒の願いに添った学習の展開とはどのようなことかまとめる。
第 15 回	保健の教科内容と教材 II ① 教科内容に応じた教材の工夫の大切さが分かる ② 教材研究を重視した授業が行えるようになる	事前学習	調査している資料を整理し、模擬授業としてまとめられる工夫をする。③
		事後学習	教材研究の重要性について、本時の学習に基づきまとめる。
第 16 回	保健の教科内容と教材 III ① 教材の工夫をした授業づくりの方法がわかる ② やる気をもたせる教材を作成することができる	事前学習	意欲的な学習とは、どのような学習かについて考えを整理しておく。
		事後学習	授業ビデオから得られた展開のどこがよかったかについて整理する。
第 17 回	保健の教材づくりとそのあり方 I ① 学習目標に応じた教材例とその価値を理解できる ② 授業の工夫改善に結びつく方法を知っている	事前学習	調査している資料を整理し、模擬授業としてまとめられる工夫をする。④
		事後学習	小学校における授業の特色をまとめ、模擬授業に生かせるように工夫する。
第 18 回	保健の教材づくりとそのあり方 II ① 課題に応じた多様な教材を工夫できる ② 一人一人の生徒の思いを生かせる教材を工夫できる	事前学習	pp. 172～189 までをよく読み、中学校らしさを自分なりにまとめる。
		事後学習	一人一人に応じること、個を伸ばすことの違いについてまとめておく。
第 19 回	授業案づくりと授業の展開 ① 目標に沿った授業の展開の大切さを理解できている ② 目標にせまる授業の展開が工夫できる	事前学習	調査内容を生かした授業の展開と成るように模擬授業案をまとめる。①
		事後学習	授業案を見ながら、その授業の工夫のポイントを整理する。
第 20 回	授業における教師の技量 ① 生徒の思いや願いを生かせる言葉掛けに努める ② 授業力を支えるポイントを理解している	事前学習	指導者の教材研究の在り方について、自分の考えをまとめてくる。
		事後学習	保健学習における教師の授業力、養護教諭の専門性について考えを整理する。
第 21 回	授業の具体的技術 ① やる気を生む学習の展開を知っている ② 内発的な動機付けにつながる展開を知っている	事前学習	調査内容を生かした授業の展開と成るように模擬授業案をまとめる。②
		事後学習	動機付けを生かした授業を展開する理由をまとめておく。
第 22 回	小・中・高等学校における保健の授業 ① それぞれの目標を比較し発達段階の違いが理解できる	事前学習	pp. 190～212 までをしっかりと読んで、授業の特色を把握する。

	② 校種の特徴を理解した指導観がもてる	事後学習	小学校における授業の特色をまとめ、模擬授業に生かせるように工夫する。
第 2 3 回	保健の授業案づくり I ① 中学校の教材である『毎日の生活と健康』の理解 ② 教育実習等の授業づくりにつながる	事前学習	調査内容を生かした授業の展開と成るように模擬授業案をまとめる。③
		事後学習	中学校における授業の特徴について授業の基づきまとめる。
第 2 4 回	保健の授業案づくり II ① 前時に続き学習指導案を作成することができる ② 教育実習等の授業づくりにつながる	事前学習	pp. 231～244 をよく読み、高等学校の授業の特徴を把握する。
		事後学習	高等学校における授業の展開の特色を、本時を通してまとめる。
第 2 5 回	保健の授業案づくり III ① 作成した学習指導案に自分らしい工夫を加えられる ② 教育実習等の授業づくりにつながる	事前学習	調査内容を生かした授業の展開と成るように模擬授業案をまとめる。④
		事後学習	学習指導案を作成する手順をまとめ、教育実習に生かすポイントをまとめる。
第 2 6 回	模擬授業とその評価について I ① 評価規準をもって模擬授業を観察できる ② 指導と評価の一体化を図れるようになる	事前学習	授業分析の観点について明らかにし、自分の重点にする観点を明確にする。
		事後学習	模擬授業者事のよさを記し、他の学生が指摘した点を記録していく。視点の違いを知ることの重要性をまとめておく。
第 2 7 回	模擬授業とその評価について II ① 前時に使った評価規準を修正して模擬授業に臨める ② 授業者のよさを確実に指摘できる	事前学習	模擬授業内容を事前に把握し、下調べをして本時を迎える。自分ならばどうするか、その視点を持って望めるようにする。
		事後学習	友だちの模擬授業のよさと課題について授業分析表に添って実施、授業感想を記す。①
第 2 8 回	模擬授業とその評価について III ① 模擬授業を実施し、自らの授業評価を行う ② 自らの授業の改善点を見つけ、次の機会に生かす	事前学習	模擬授業の視点を明らかにしながら、本時を迎えられるようにする。①
		事後学習	友だちの模擬授業のよさと課題について授業分析表に添って実施、授業感想を記す。②
第 2 9 回	模擬授業の全体講評と保健科指導法について ① 課題学習を中心とした展開が理解できる ② 他の授業のよさと課題を説明することができる	事前学習	模擬授業の視点を明らかにしながら、本時を迎えられるようにする。②
		事後学習	友だちの模擬授業のよさと課題について授業分析表に添って実施、授業感想を記す。③
第 3 0 回	保健科指導法 I のまとめ ① 課題学習、ディベートなどのよさと課題について ② 授業の在り方に基づく指導案が作成できる	事前学習	春期に体験した模擬授業の自己評価を行い、保健科指導法と養護教諭の専門性を明らかにしておく。
		事後学習	保健科指導法として、模擬授業の進め方の理解にたった、指導の在り方のポイントを 4 点まとめておく。

1. 科目名 (単位数)	マルチメディア表現 I (2 単位)	3. 科目番号	EDIT2331
2. 授業担当教員	竹内 俊彦		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	マルチメディアデータの表現と操作に関する基礎知識を整理する。具体的には、音声信号や 2 次元静止画像の標本化・量子化など、アナログ信号のデジタル化方法、表現方法、操作方法、圧縮方法に関する理解を深める。		
8. 学習目標	以下について学習し、教科「情報」の授業を教えることができるようになることを学習目標とする。 1. 音声信号のとらえ方、特に周波数スペクトルの概念を身につけ、それを基にした標本化や圧縮法を学ぶ。 2. 2次元静止画像の表現法を学ぶ。 3. カラー画像の表現法を学ぶ。 4. 2次元静止画像の変換・合成法を学ぶ。 5. 画像の圧縮法 (可逆圧縮、非可逆圧縮) の方法を学ぶ。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	音声信号が画像圧縮技術、動画データの技術・理論について学んだことで、あなたの実生活で理解が深まった役に立ったことをレポートせよ		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】眉村雅人「基礎からの MPEG」工学社、2000 円) 【参考書】瀧本往人「MPEG4 入門」工学社、1900 円+税		
11. 成績評価の方法	[1] 授業への積極的参加度 50% [2] レポート課題 50%		
12. 受講生へのメッセージ	ネットの音声や画像、動画を楽しんでいる方も多いと思います。秋期は自分の作品を作りますが、まずはその前に、さまざまな圧縮方法や形式について、理論を学びましょう。		
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示する。また時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照すること。なおオフィスアワー以外でも時間があえば面談するが、事前にメールで連絡をすることが望ましい。 totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション	事前学習	「マルチメディア」の定義を調べる
		事後学習	授業中の疑問点をノートにまとめる
第 2 回	音声信号と周波数解析・標本化と圧縮	事前学習	スペクトル解析、フーリエ変換について調べる
		事後学習	フーリエ変換体験サイトで、自分でも体験する
第 3 回	MPEG とは何か	事前学習	教科書 1 章を読む
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 4 回	画像圧縮技術の基礎	事前学習	教科書 2 章を読む
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 5 回	MPEG の 3 つの基本圧縮技術	事前学習	教科書 3 章を読む
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 6 回	「MPEG1」の仕組み	事前学習	教科書 4 章を読む
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 7 回	「MPEG2」の仕組み	事前学習	教科書 5 章を読む
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 8 回	「MPEG4」の仕組み	事前学習	教科書 6 章を読む
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 9 回	MPEG 動画の使い方	事前学習	教科書 7 章を読む
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 10 回	「MPEG4」のその後と新圧縮技術「H.265」	事前学習	教科書 8 章を読む
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 11 回	さまざまな動画圧縮とフィルタ・ノイズ、DivX と MPEG4	事前学習	Div について調べる
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 12 回	記録メディアと MPEG4	事前学習	記録メディアの種類について調べる
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 13 回	デジカメ・携帯音楽プレイヤー・携帯ゲーム機と MPEG4	事前学習	各モバイル機器と MPEG4 の関係について調べる
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 14 回	テレビ放送・インターネットと MPEG4	事前学習	ワンセグ放送について調べる
		事後学習	授業中の疑問点を調べ、まとめる
第 15 回	文化としての動画圧縮技術・まとめ	事前学習	MPEG4 と社会の関わりについて調べる
		事後学習	レポートを作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	養護教育学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2301
2. 授業担当教員	面川 幸子		
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>児童生徒の健康課題が多様化する中、平成 20 年中央教育審議会答申における養護教諭に関する記述からは、その専門性に対する期待の大きさを読み取ることができる。養護教諭の職務は、学校教育法 37 条 12 項において「養護教諭は児童の養護をつかさどる」と記されており、他の教職員にはない独自の活動を理解し、これを展開することのできる力量を形成することは、養護教諭を目指す者にとって大変重要である。本講義では、養護教諭の歴史の変遷や、その固有の職務内容を概観することにより、「養護教諭の実践する養護とは何か」を、明らかにしていく。また、学校保健領域における養護教諭の具体的実践について学び、取り組みの基本的スタンスを身につける。</p>		
8. 学習目標	<p>① 養護教諭の歴史の変遷を理解し、学校教育に果たす養護教諭の役割について説明することができる。 ② 養護の概念を体得するとともに、養護教諭独自の活動の展開について、具体的に考えることができる。 ③ 子どもが主体の学校教育を基本として、効果的な保健教育活動のあり方について説明することができる。 ④ 保健室の機能と養護教諭の活動過程を理解し、これから時代に必要とされる養護教諭の基本的スタンスを身につける。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する授業振り返りの提出をする。 ・中間課題レポート：講義内容に基づき、養護教諭の専門性について自分の考えを記述する。 #12 (800字程度) ・最終課題レポート：講義内容に基づき、「養護とは何か」について自らの考えを記述する。(800字程度) 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】大谷尚子・中桐佐智子編著『新養護学概論』東山書房、2014 年。 【参考書】日本学校保健会等から出版されている養護教諭関連冊子等。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言の積極的な活動 (30%)・毎時間提出の授業振り返り (30%) ・中間課題レポート(20%) ・最終課題レポート (20%) 		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では養護教諭の全般的な活動を概観し、その出発点となる「養護」の概念についての理解を深めていきます。講義を通して、他の教職員にはない養護教諭独自の専門性や、「養護」という視点からの教育活動あるいは支援活動のあり方を見出すとともに、受講生の皆さんが「自分だったらどうするか」ということを積極的に考える姿勢を重視していきます。時代背景とともに変遷してきた養護教諭の職務についても振り返りながら、現在あるいは未来の養護教諭像について、一緒に考えていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 養護教育学で目指すもの、授業の目的を理解する。	事前学習	現段階での「養護」や「保健室」のイメージについて、自分なりの考えを持って講義に望む。
		事後学習	授業の目的について理解したことをまとめる。
第 2 回	I 養護の概念と養護教諭 ①「養護」とは何か ・養護教諭の職務の法的位置づけ ・ヘルスプロモーションと養護教諭	事前学習	ヘルスプロモーションについて調べる (学校保健実務必携第 3 次改訂版) pp554～558 参照)、養護教諭の職務との関連性について、自分の考えをまとめておく。 教科書 pp15～18
		事後学習	養護教諭の職務の法的位置づけやヘルスプロモーションの観点から、「養護とは何か」についてまとめる。
第 3 回	②養護教諭の活動過程 ・養護の基本原則 ・養護の機能 ・基本的かわり	事前学習	教科書の養護の基本原則に関する事項について (pp.22～28) を熟読し、予習をする。
		事後学習	養護教諭の活動過程について、本時の講義を通して、感じたことやわかったことをまとめる。
第 4 回	③養護教諭の専門性 ・養護教諭の歴史の変遷 ・各種答申における養護教諭の役割	事前学習	教科書の養護教諭の歴史に関する事項 (pp.29～41) を熟読し、予習をする。
		事後学習	養護教諭の専門性に関し、本時の講義を通して、感じたことやわかったことをまとめる。
第 5 回	④保健室経営方針と保健室の設営 ・養護教諭の職務の特質と保健室の機能 ・保健室経営計画の立て方 ・保健室レイアウトのポイント	事前学習	教科書 pp.42～53 を熟読し、保健室という場の持つ特徴について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	保健室の機能をふまえ、保健室のレイアウト案を考える。
第 6 回	II 養護教諭の目的と専門性 ①保健管理 ・定期健康診断の進め方 実施および事後措置上の留意点	事前学習	教科書 pp.84～88 を熟読し、健康診断の運営のあり方について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	健康診断を行う際に養護教諭として留意すべき点について、感じたことやわかったことをまとめる。
第 7 回	・救急処置の進め方 養護教諭の役割と救急処置の範囲 アセスメントや対応の留意点	事前学習	教科書 pp90～95 pp.130～137 を熟読し、救急処置活動の基本事項について予習する。
		事後学習	これまでの講義をふまえ、学校救急処置において、養護教諭が果たすべき役割についてまとめる。

第 8 回	・健康相談、健康相談活動の進め方 心身の健康問題についての事例検討	事前学習	事前配付資料（教職員心のケア）を熟読し、事例から見える子どもの健康課題等を 2 例まとめておく教科書 pp152～161 を熟読しておく
		事後学習	心身の健康に課題を持つ児童生徒への対応に関し、事例検討を通して感じたことやわかったことをまとめる。
第 9 回	②健康教育 ・養護教諭の行う保健学習 教育課程内での位置づけ 実践上のメリット・デメリット	事前学習	教科書 p105～112 を熟読し、養護教諭の行う健康教育の留意点について予習をする。
		事後学習	養護教諭が教室に向いて授業を実践することのメリット・デメリットについて、感じたことやわかったことをまとめる。
第 10 回	・養護教諭の行う保健指導 法のおよび教育課程内での位置づけ 個別保健指導の実践事例	事前学習	教科書 pp.121～129 を熟読し、養護教諭の行う健康教育の留意点について予習をする。
		事後学習	個別の保健指導を進める際の留意点に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをまとめる。
第 11 回	③保健組織活動 ・各種委員会活動における養護教諭の役割	事前学習	教科書 pp.113～120 を熟読し、保健組織活動に関する自分の考えをまとめておく。
		事後学習	保健組織活動に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをまとめる。
第 12 回	Ⅲ 児童生徒の健康課題と養護活動の展開 ① 感染症の予防と集団の健康管理 ・インフルエンザ・ノロウイルス等 ・中間課題レポート①	事前学習	教科書 p.94 感染症発生時における支援にすることを事前配布資料を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	感染症の予防や拡大防止において養護教諭が果たすべき役割に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをまとめる。
第 13 回	②慢性疾患を持つ児童生徒への対応 ・心臓疾患・糖尿病、アレルギー疾患等	事前学習	教科書の慢性疾患を持つ子どもへの養護に関する事項 (pp.139～144) を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	慢性疾患を持つ児童生徒への支援に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをまとめる。
第 14 回	③心の健康問題を持つ児童生徒への対応 ・保健室登校・保健室頻回来室・不登校等	事前学習	教科書の心の問題を抱えた子どもへの養護に関する事項 (pp.147～151・pp163～169) を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	心の健康に課題を持つ児童生徒への支援に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをまとめる。
第 15 回	まとめ：「養護」とは何か。 ・最終課題レポートに記載した内容に基づいて、グループディスカッションを行う。 ・受講者各自が習得した「養護」についての概念を共有し、養護教諭の職務のあり方に総括する。	事前学習	これまでの講義を総括し、「養護とは何か」をレポート課題としてまとめる。教科書 pp200～207 を熟読し自分の考えをまとめておく
		事後学習	グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえて、全講義内容の振り返りをおこなう。

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (初等) / 幼児体育 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1142
2. 授業担当教員	田中 マキ子			
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。			
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。) 2, 子どもの運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。) 3, リズム体操、身体表現の教材がつかれる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 「運動実施案」を作成し発表する。 課題 2 運動プログラム指導案 (グループワーク) を作成し、発表する。(実技発表)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ワークシートや学習資料を毎時間配布する。 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版。 幼児体育研究所『保育者のための幼児運動遊び指導』不昧堂出版、2000。			
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 50% 課題 1 (レポート) 20% 課題 2 (実技発表) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育要領・保育指針に位置づけられている運動について、その特性について実技を通じながら触れることをねらいとしています。幼稚園教諭・保育士として運動遊びを展開する上で最低限必要な技能及び教師行動を身に付けます。高度な運動技能を求めるよりも、幼児の身体の可能性を体感させるための大切なポイントや小学校の体育授業への関連性を身に付けることができます。実技の際には運動にふさわしい服装 (ジャージ、T シャツ等。ジーパン禁止) で参加してください。			
13. オフィスアワー	研究室のオフィスアワーに準ずる、それ以外でも研究室にいるときはいつでも対応します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、講義 「幼児期の運動能力の発達と運動の必要性」	事前学習	幼児期の運動の必要性を考察する。	
		事後学習	講義の概要を各自復習し、ノートにまとめておく。	
第 2 回	講義 「幼児期に身につけさせたい運動の系統性」	事前学習	幼児期の運動経験を振り返り、どのような運動をしていたかをまとめておく。	
		事後学習	自分の運動経験と講義内容の違いを考え、今後の指導に活かせるようにまとめておく。	
第 3 回	講義 幼児期・児童期の運動遊びについて	事前学習	幼児期の運動遊びについて、どのようなものがよいか、どんな種類があるか、調べておく。	
		事後学習	自分の調べた運動遊びと、講義を聞いての違いをまとめる。	
第 4 回	【集中講義】① 道具を使わない運動遊び① 基礎運動 (走る、飛ぶ、腕を使う、ストレッチ体操など)	事前学習	幼児期の運動遊び (道具なし) を調べ、どんな運動遊びがあるか、授業で提案できるようにしておく。	
		事後学習	授業で行った運動遊びから、さらに発展させてどんな運動遊びが考えられるか、できるだけ多く考え出す。	
第 5 回	【集中講義】① 道具を使わない運動遊び② 鬼ごっこ、ごっこ遊びなど	事前学習	道具を使わずに遊びながら体を動かせる運動遊びを授業で提案できるようにできるだけ多く考えておく。	
		事後学習	授業を行ってみてさらに、自分のオリジナルの遊びを考えてみる。	
第 6 回	【集中講義】① 器械運動 (マット、跳び箱など)	事前学習	器械運動について調べ、安全に授業を行えるよう、知識とともに体を作っておく。	
		事後学習	指導が行えるように、補助の方法などをまとめておく。	
第 7 回	【集中講義】① 道具を使った運動遊び① 様々な大きさのボールを使って	事前学習	ボールを使ってどのような運動遊びができるか考えて、まとめておく。	
		事後学習	授業で行った運動遊びをまとめ、実際にグループで実践し、さらに発展させる。	
第 8 回	【集中講義】① 道具を使った運動遊び② フープ、縄を使って	事前学習	道具を使った遊びについて調べる。	
		事後学習	授業で行った内容を自分なりにまとめておく。実査に指導現場で行えるように指導方法を覚える。	

平成 28 年度

第 9 回	【集中講義】② 運動プログラム案の作成(グループワーク)①	事前学習	運動プログラム作成に必要な知識を調べておく。
		事後学習	授業を行ったうえで、もう一度どんな運動遊びが考えられるか、各自考える。
第 10 回	【集中講義】② 運動プログラム案の作成(グループワーク)②	事前学習	各グループで考えられる案をまとめておく。
		事後学習	実際に指導ができるように段取りをしっかりと確認しておく。
第 11 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表①	事前学習	授業構成モデルを各自調べ、グループで話し合いができるように準備する。
		事後学習	各グループの発表に対して意見が言えるよう、幼児体育指導に対するの考えをまとめておく。
第 12 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表②	事前学習	授業構成モデルを各自調べ、グループで話し合いができるように準備する。
		事後学習	作成した模擬授業案をシュミレーションし、グループ発表がうまくいくよう段取りを考える。
第 13 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表③	事前学習	各グループの発表に対して意見が言えるよう、幼児体育指導に対するの考えをまとめておく。
		事後学習	良かった点、修正点を見つけ、各自まとめる。
第 14 回	講義 運動指導時の安全管理と怪我の応急処置	事前学習	運動指導時の安全管理、リスクを調べておく。
		事後学習	怪我の対処方法など、指導に活かせるようにまとめておく。
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	今まで授業で行ったことを整理し、各自幼児体育の指導に対する考えをまとめておく。
		事後学習	今までの授業の内容を整理し、指導をする時にできるだけたくさんの引き出しを持っておけるようにまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	幼児理解 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2312
2. 授業担当教員	佐藤 賢一郎		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>幼児期の保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うことが重要です。本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、実践事例（文献、映像）等を用いて、幼児の生活の実際とその理解、具体的な指導のとらえと意味、幼児期の保育における環境のとらえ方、評価の在り方、幼小の連携、並びに行事について学びます。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育は環境を通して行うものであることが理解できるようになる。 ・保育者の役割をあげ、説明することができるようになる。 ・幼児期の保育における評価について説明することができるようになる。 ・幼小の学びの関連性が分かるようになる。 ・行事の意味が分かり、日常の保育との関係を説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>【中間レポート・期末レポートの課題】 実践事例を示し、あなたはその子どもをどう理解し、どのようなかわり方をするのかを述べてもらいます。 (特別区立幼稚園教員採用試験の小論文試験を参考とした問題を作成します)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』株式会社ぎょうせい、2010。 授業中にプリントや資料を適宜配付します。 授業には DVD およびパワーポイントを使用します。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的態、中間レポート、期末レポートを総合して評価する。</p> <p>1 授業への積極的参加 総合点の 20% 2 中間レポート 総合点の 40% 3 期末レポート 総合点の 40%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業では、講義とともに受講生自身が体験を通して学習することを重視します。そのため受講生には、各課題やグループ討議などに積極的、主体的に取り組むことを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	<p>第 1 回目のガイダンスの際に指示します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 授業の進め方・授業評価の方法について 幼児理解とは何かをイメージしグループワークする	事前学習	シラバスおよびテキスト pp. 1~12 を熟読し、 授業内容をイメージしておいてください。
		事後学習	シラバスと授業の進め方を理解し、テキスト 全体に簡単に目を通しておいてください。
第 2 回	幼児理解と評価の考え方① 幼児教育の充実のための基本的な視点を考える	事前学習	テキスト pp. 1~12 を熟読し、幼児教育の充 実のための基本的な視点について考えてみ てください。
		事後学習	授業内容を振り返り、幼児理解の基本的な考 え方についてまとめてみてください。
第 3 回	幼児理解と評価の考え方② 子どもの発達と学びの連続性について考える	事前学習	テキスト pp. 1~12 を熟読し、子どもの発達 と学びの連続性について考えてみてくださ い。
		事後学習	授業内容を振り返り、子どもの発達と学びの 連続性についてまとめてみてください。
第 4 回	幼児理解と評価の考え方③ 幼児期の評価とは何かを考える	事前学習	テキスト pp. 1~12 を熟読し、幼児期の評価 とは何かを考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、幼児期の評価とは何か をまとめてみてください。
第 5 回	子どもの発達理解と援助① 子どもを肯定的に見る	事前学習	テキスト pp. 13~26 を熟読し、子どもを肯定 的に見ることについて考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、子どもを肯定的に見る ことについてまとめてみてください。
第 6 回	子どもの発達理解と援助② 活動の意味を理解する	事前学習	テキスト pp. 13~26 を熟読し、子どもの活動 の意味について考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、子どもの活動の意味に ついてまとめてみてください。
第 7 回	子どもの発達理解と援助③ 集団と個の関係をとらえる	事前学習	テキスト pp. 13~26 を熟読し、集団と個の関 係について考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、集団と個の関係につい てまとめてみてください。
第 8 回	保育者の心もちについて① 温かい関係性を育てる	事前学習	テキスト pp. 27~37 を熟読し、温かい関係性 を育てることについて考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、温かい関係性を育てる ことについてまとめてみてください。

第 9 回	保育者の心もちについて② 子どもの内面を理解する	事前学習	テキスト pp. 27～37 を熟読し、子どもの内面を理解することについて考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振りかえり、子どもの内面を理解することについてまとめてみてください。
第 10 回	保育者の心もちについて③ 保育者の協働性について	事前学習	テキスト pp. 27～37 を熟読し、保育者の協働性について考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、保育者の協働性についてまとめてみてください。
第 11 回	幼児理解と具体的な評価方法① 触れ合いを通して考える	事前学習	テキスト pp. 38～54 を熟読し、触れ合いを通して考えるということについて考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、触れ合いを通して考えるということについてまとめてみてください。
第 12 回	幼児理解と具体的な評価方法② 記録を工夫する	事前学習	テキスト pp. 38～54 を熟読し、記録を工夫することについて考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、記録を工夫することについてまとめてみてください。
第 13 回	幼児理解と具体的な評価方法③ 家庭からの情報をもとに考える	事前学習	テキスト pp. 38～54 を熟読し、家庭からの情報をもとに考えるということについて考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、家庭からの情報をもとに考えるということについてまとめてみてください。
第 14 回	保育と幼児指導要録について① 指導要録の役割と記入方法	事前学習	テキスト pp. 55～70 を熟読し、指導要録の役割について考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、指導要録の役割と記入方法についてまとめてみてください。
第 15 回	保育と幼児指導要録について② 小学校との連携	事前学習	テキスト pp. 55～70 を熟読し、これまでの授業内容を振り返り、小学校との連携について考えてみてください。
		事後学習	授業内容を振り返り、小学校との連携についてまとめてみてください。

1. 科目名 (単位数)	理科 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3422 EDEL3307
2. 授業担当教員	二村 泰弘	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、実験、グループ学習、討議・発表		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	私たちを取り巻く身近な自然を対象として、小学生が興味関心を持てるような自然現象、生命誕生、発生、生物の進化、大気形成、宇宙、地震、地球温暖化等について学習し、科学的な物の見方・考え方の基礎を身に付けることを目指す。		
8. 学習目標	理科の授業では、私たちの身の回りで起きている自然現象に興味関心を持ち、その神秘のベールを解き明かすことを第一の条件にする必要がある。そのためには、子ども達が探求する喜びを味わえるような実験・観察方法を習得する。また、理科離れを防ぐために、教師は子ども達に実感を伴った体験ができるような教材を見つけ、自然の原理・原則をしっかり理解できるようになることを学習目標とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1: 生物はどのようなメカニズムで進化してきたか、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。 課題 2: 温暖化が問題になっている。そこで、温暖化を防止するためにはどのような対処の仕方があるか、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。 課題 3: 資源としての化石燃料が枯渇しようとしている。資源の枯渇問題に対しどのような対処の仕方があるか、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】左巻 健男『新しい科学の教科書 III 第3版』文一総合出版。 【参考書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書。		
11. 成績評価の方法	授業態度 (教科書の準備・私語・居眠り・積極性) 総合点 60% レポート 総合点 40% ※欠席・遅刻・早退は減点の対象となるので注意すること。		
12. 受講生へのメッセージ	受講生に期待すること 1. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。 2. 授業中は他人に迷惑をかけないよう、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 3. 予習・復習をしっかり行い、学習内容を確実に習得すること。 4. 副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは理由を書面にて提出すること。		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。面談に際しては、事前にメール等で連絡することが望ましい。 y a f u t a m u @ e d . t o k y o - f u k u s h i . a c . j p		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。生物界のつながりについて、どのような法則があるか教科書を使用して学習する。	事前学習	教科書の第5章を読んでおく
		事後学習	生態系について復習しておく
第2回	生物はどのようにして殖えていくのか。また、親から子へ伝わる遺伝について学習する。	事前学習	教科書の第4章を読んでおく
		事後学習	発生と遺伝について復習しておく
第3回	生物はどのようにして進化してきたか、教科書を使用して学習する。(課題1提示)	事前学習	生物の進化について、自分の考えを持っておく
		事後学習	課題1のレポートを仕上げる
第4回	地球の運動と星の動きについて、教科書を使用して学習する。(課題1提出)	事前学習	教科書の第6章を読んでおく
		事後学習	地球・星座・惑星・月・太陽の動きを復習しておく
第5回	地球の形成と大気形成について、副教材をもとに学習する。	事前学習	地球の形成について、自分の考えを持っておく
		事後学習	副教材を復習しておく
第6回	宇宙の広がりや成り立ちについて、教科書や副教材を使用して学習する。	事前学習	教科書の第7章と第8章を読んでおく
		事後学習	副教材を復習しておく
第7回	映像や副教材を見て、地震のメカニズムと土地の変化について学習する。	事前学習	震度階やマグニチュードについて調べておく
		事後学習	震源地の求め方を復習しておく
第8回	教科書と映像を見て、科学技術の進歩とその陰で進行している環境破壊について、グループで討議し発表する。	事前学習	教科書の第9章を読んでおく
		事後学習	課題2のレポートを仕上げる
第9回	教科書と映像を見て、地球の温暖化問題について、グループで討議し発表する。(課題2提示)	事前学習	温暖化の原因について考えておく
		事後学習	温暖化防止について、自分でできることをまとめておく
第10回	力と運動について実験を通して学習する。(課題2提出)	事前学習	教科書の第1章を読んでおく
		事後学習	授業で行った計算問題を解く
第11回	エネルギーの変換と保存について実験を通して学習する。	事前学習	教科書の第2章を読んでおく
		事後学習	新エネルギーの開発が進まない理由を考える
第12回	生活に欠かせない物質資源とエネルギー資源の利用について、教科書を使用して学習する。(課題3提示)	事前学習	新エネルギーの開発が進まない理由をまとめてくる
		事後学習	課題3のレポートを仕上げる

平成 28 年度

第 1 3 回	原子の構造について、教科書を使用して学習する。(課題 3 提出)	事前学習	教科書の第 3 章を読んでおく
		事後学習	原子の構造について復習をしておく
第 1 4 回	電気を帯びた原子としてのイオンを理解するための実験や化学式を学習する。	事前学習	イオンの働きについて、自分の考えをまとめておく
		事後学習	教科書の第 3 章を復習しておく
第 1 5 回	まとめ(身近な自然現象の学習を終えて、自然界の原理・原則を理解し、科学的な物の見方・考え方を身に付ける)	事前学習	科学的なもの見方・考え方について、自分の考えを持っておく
		事後学習	身の回りの自然について、疑問を持って見つめ直してみる

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3331
2. 授業担当教員	沢 哲司		SCMP3331
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	臨床心理学として、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	臨床心理学の理解を深めるために毎回の課題シートの他にレポートを課します。 【レポート課題】 課題：あなたの日常の中で臨床心理学をどう生かすかについて、2000字程度でレポートする。 必要に応じて他の課題も課す予定である。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特に指定しない。プリント教材を使用する。 【参考書】 ・下山 晴彦 編 『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房 2009 年		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の参加度 (授業態度を含む) …30% ・課題シート…30% ・レポート課題…40% ・私語、携帯電話の操作、授業時間中での教室の出入り、その他周囲の学生に迷惑がかかる行為は「授業態度」として、減点の評価を行います。また、理由の申し出がない欠席、遅刻、早退も減点の対象です。 なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	毎回の課題シートは、かなり大変かもしれませんが日常の中で役立つ臨床心理学を伝えたいと思います。疑問や意見に限らず、講義を受けていて少しでも気になったことを講義の中で学生が発表することを歓迎します。学生とできる限り交流しながら授業を進めていきたいと思っています。そのため、学生の理解度・達成度・要望によって講義の進度や内容を一部調整する場合があります		
13. オフィスアワー	決まり次第授業で告知 メールアドレス：tesawa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 臨床心理学を学ぶにあたって	事前学習	シラバスをよく読んでおくこと。
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 2 回	臨床心理学の歴史	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 3 回	臨床心理面接 (1) 精神分析	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 4 回	臨床心理面接 (2) 行動療法	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 5 回	臨床心理面接 (3) 来談者中心療法	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 6 回	臨床心理面接 (4) 認知行動療法	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 7 回	臨床心理面接 (5) 家族療法	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 8 回	臨床心理面接 (6) その他	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 9 回	臨床心理査定 (1) 心理検査	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 10 回	臨床心理査定 (2) 大人の異常	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 11 回	臨床心理査定 (3) 子どもの異常	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 12 回	臨床心理的地域援助	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 13 回	臨床心理の実際	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。課題に取り組む

平成 28 年度

第 1 4 回	臨床心理学の研究法	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	課題シートに取り組む
		事後学習	配布資料を整理しておく。

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学/臨床心理学 (養護) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3331 SCMP3331 SBMP3331 EDPS3305
2. 授業担当教員	平沼 晶子		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	臨床心理学とは、人間がより健康的に生きるために心理学な知見を大いに活用する学問のことである。心理学の分野のなかでも、特に実践的かつ応用的なものであり、そのため、学問の全体を学ぶことはなかなか大変な事柄である。そこで本講義では、臨床心理学を支える専門知識として、①面接、②査定、③地域援助、④研究の 4 点を取り上げ、その理解を主な目的とする。そして時間の許す限り、教育、福祉、医療、社会における臨床心理学の役割、たとえば健康の維持や予防について言及する予定である。 ※養護教諭、高校教諭 (公民) を希望する学生等が履修します。		
8. 学習目標	臨床心理学とはどのような学問体系かわかるようになる。 1 臨床心理学の構造を理解し、説明することができる。 2 面接、査定、地域援助、研究のそれぞれについて理解し、説明することができる。 3 面接と査定については、理論とあわせ実践に役立つ技術についても理解し、説明することができる。 4 地域援助は、教育、福祉、医療、社会の領域における臨床心理学の役割について理解し、説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業内で小テストや小レポートを実施するので復習をして臨む。 授業を通して学習したことについて振り返り、期末レポートとしてまとめる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	杉原一昭編著『事例で見る発達と臨床』北大路書房、2001 年。		
11. 成績評価の方法	本学の規定により、3/4 以上の出席を単位認定要件とする。 その上で、小テスト・小レポート (40%)、レポート課題 (30%)、授業態度と参加姿勢 (30%) から総合的に評価する。		
12. 受講生への メッセージ	1. 教科書に沿って授業を進めるので、事前学習に指定された箇所を熟読して授業に臨みましょう。 2. 人間がよりよく生きるために、臨床心理学の知識をどのように活用していくかについて実践に即して考え、積極的な態度で受講してください。		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・臨床心理学とは何か	事前学習	シラバスを読む。臨床心理学とは何かを自分で調べておく。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 2 回	臨床心理学の全体構造	事前学習	教科書の pp. i ~ v を読む。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 3 回	アセスメントの方法	事前学習	教科書の pp. 2~5 を読む。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 4 回	面接の種類と目的	事前学習	教科書の pp. 6~11 を読む。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 5 回	発達と臨床 (1) 乳児期の問題・地域援助	事前学習	臨床心理学における社会的連携について調べる。
		事後学習	視聴した映像資料について自分の考えをまとめる。
第 6 回	地域援助	事前学習	臨床心理学における地域援助について調べる。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 7 回	発達と臨床 (2) 幼児期の問題	事前学習	教科書の pp. 34~45 を読む。
		事後学習	福祉領域での臨床実践のあり方を理解する。
第 8 回	発達と臨床 (3) 児童期の問題	事前学習	教科書の pp. 52~59 を読む。
		事後学習	プレイセラピーについての理解を深める。
第 9 回	発達と臨床 (4) 思春期の問題	事前学習	教科書の pp. 78~87 を読む。
		事後学習	教育領域での臨床実践のあり方を理解する。
第 10 回	発達と臨床 (5) 青年期の問題	事前学習	教科書の pp. 96~106 を読む。
		事後学習	家族を含めた面接について理解を深める。
第 11 回	発達と臨床 (6) 成人前期の問題	事前学習	教科書の pp. 123~132 を読む。
		事後学習	認知行動療法について理解を深める。
第 12 回	発達と臨床 (7) 成人後期の問題	事前学習	教科書の pp. 147~154 を読む。
		事後学習	事例の問題背景について整理してまとめる。
第 13 回	発達と臨床 (8) 老年期の問題	事前学習	教科書の pp. 190~198 を読む。
		事後学習	高齢者への援助に必要なことをまとめる。
第 14 回	臨床心理学研究の課題	事前学習	臨床活動と研究との関係について調べる。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。

平成 28 年度

第 1 5 回	全体のまとめ	事前学習	これまで学んだことを振り返り整理する。
		事後学習	学習したことを各自の専門領域につなげて考える。

1. 科目名 (単位数)	倫理学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1320
2. 授業担当教員	篠 大輔	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	われわれ人間は、事実的な文脈(「～である」)と価値的な文脈(「～すべき/よい/悪い」)とが交差しながら織り成す毎日の中で生きている。大雑把に言えば、「科学」を志向するさまざまな学問分野は、前者(事実)を明らかにすることを目指しており、他方、後者(価値)をその研究対象に据えているのが、哲学や本コースで学ぶ倫理学である。 価値(判断)という捉えどころのないものに対して、人類社会は、少なくとも 2,000 年以上にわたって思索を積み重ね、叡智を積み上げてきた。本コースでは、そのような倫理学の主要な理論や学説を、日常生活につながりをもつような問いと重ね合わせながら学んでいく。		
8. 学習目標	1 現代社会における様々な倫理的問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を発表することができる。 2 さまざまな倫理学説を学ぶことによって、日常生活の中にいろいろなかたちで姿を表す「正義」「幸福」「公正」「自由」「義務」といった概念に対して、自分なりに根拠をもって説明できるようになる。 3 倫理的問題に関する様々な議論を理解し、それを踏まえて自分の意見を聞いている人に分かりやすく述べることができる。 4 ディスカッションを通して、人の意見をよく聞き、自分の意見を人に分かりやすく伝えることができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. 事前課題・ワークシート(各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 期末レポート 「事前課題・ワークシートに記述してきた自分の意見や授業中のディスカッションを踏まえて、自分自身の倫理観について分析しなさい。」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 高橋昌一郎『哲学ディベート〈倫理〉を〈論理〉する』NHK出版、2007。 【参考書】 ジェームズ・レイチェルズ著・古牧徳生・次田憲和訳『現実をみつめる道徳哲学 - 安楽死からフェミニズムまで -』晃洋書房、2003。 アンソニー・ウエストン著・野矢茂樹・高村夏輝・法野谷俊哉訳『ここからはじまる倫理』春秋社、2004。		
11. 成績評価の方法	・平常点(授業態度・発表・発言) 20% ・課題(事前課題・ワークシート) 30% ・期末レポート 50%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 事前課題を毎回出しますので、教科書を読み、授業前に事前課題に取り組みましょう。事前課題を行っていない人の出席は認めません。 2. 授業中は私語を慎み、携帯電話の電源を切って参加してください。 3. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 4. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 5. レポートや課題の提出期限を守ってください。 6. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。		
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	はじめに - 〈論理〉と〈倫理〉	事前学習	「目次」を見て、興味のあるテーマをチェックしておく。
		事後学習	倫理学を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。
第2回	功利主義と普遍的道徳	事前学習	教科書「はじめに」(pp.9~24)を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第3回	道徳 - あなたはなぜ正直なのか(序章)	事前学習	教科書(pp.24~71)を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	文化 - 食べるとはどのようなことか①(第I章) - 命の授業 -	事前学習	教科書(pp.73~94)を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第5回	文化 - 食べるとはどのようなことか②(第I章) - 犬食問題 -	事前学習	教科書(pp.95~114)を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第6回	人命 - いかに産むべきか①(第II章) - 代理出産 -	事前学習	教科書(pp.115~138)を読み、事前課題に取り組む。

		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	人命 - いかになむべきか② (第 II 章) - ベビー・ビジネス -	事前学習	教科書 (pp. 138~158) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	人権 - どのように罰するべきか① (第 III 章) - 死刑 -	事前学習	教科書 (pp. 159~185) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	人権 - どのように罰するべきか② (第 III 章) - 終身刑 -	事前学習	教科書 (pp. 186~201) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	自由 - 何をしても許されるのか① (第 IV 章) - メーガン法 -	事前学習	教科書 (pp. 203~224) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	自由 - 何をしても許されるのか② (第 IV 章) - 売春 -	事前学習	教科書 (pp. 225~245) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	尊厳 - いかになむべきか① (第 V 章) - 安楽死 -	事前学習	教科書 (pp. 247~270) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	尊厳 - いかになむべきか② (第 V 章) - 自殺 -	事前学習	教科書 (pp. 270~289) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	これまでの議論を踏まえて自分自身の倫理観について分析する	事前学習	これまで取り上げたテーマやディスカッションの内容を復習し、自らの倫理観について考えておく。
		事後学習	ディスカッションの中で明らかとなってきた自分自身の倫理観について分析し、まとめる。
第 15 回	まとめ - これまでの議論を振り返って	事前学習	自分自身の倫理観の分析について振り返っておく。
		事後学習	この授業で学んだことを今後、受講する授業で活用する。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1102
2. 授業担当教員	山内 健次		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	〔課題 1〕 対象者に応じたレクリエーション支援案の作成とその発表・評価 (発表課題) ・対象者の特徴に応じた立案内容を考案する。 ・支援を行う上での役割分担や留意点を明確にする。 ・タイムスケジュールや用具などの条件について配慮する。 〔課題 2〕 今後のレクリエーション支援者としての活動への意欲 (レポート課題)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 「いちばんやさしいレクリエーションゲーム全集」 (成美堂出版) 【参考書】 「レクリエーション支援の基礎」 「事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーション・サービス実施マニュアル」 (ともに日本レクリエーション協会編) 「これからのレジャー・レクリエーション ～余暇社会に向けて～」 弓箭書院		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 40% 課題 1 40% 課題 2 20%		
12. 受講生へのメッセージ	レクリエーション支援者はホスピタリティーの精神が必要です。受講者みんなが楽しめるような雰囲気づくりを心掛けて下さい。		
13. オフィスアワー	授業内でお知らせいたします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (授業の進め方、成績評価方法、レクリエーションインストラクター資格取得方法説明) 自己紹介と受講者各自のレクリエーション体験についてのディスカッション	事前学習	これまでのレクリエーション体験を思い出して来る。
		事後学習	学習の見通しを整理する。
第 2 回	コミュニケーション・ワーク①: ホスピタリティとは	事前学習	どのような職業でホスピタリティーは必要とされるのかを考えて来る。
		事後学習	これからの社会におけるホスピタリティーの重要性について整理する。
第 3 回	コミュニケーション・ワーク②: アイスブレイキングの実際	事前学習	アイスブレイキングについて調べる。
		事後学習	アイスブレイキングの技法をふりかえる。
第 4 回	コミュニケーション・ワーク③: アイスブレイキングのプログラミング	事前学習	対象者に応じたアイスブレイキングについて調べる。
		事後学習	アイスブレイキングのプログラミングについてふりかえる
第 5 回	対象に合わせたレクリエーション・ワーク: 生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化	事前学習	様々な人数を対象としたレクリエーションについて調べる。
		事後学習	様々な人数を対象としたレクリエーション技法をふりかえる。
第 6 回	活動領域に合わせたアクティビティの体験① (ネイチャーゲーム)	事前学習	ネイチャーゲームについて調べる。
		事後学習	授業をふりかえり、ネイチャーゲームにはどのようなベネフィットがあったのかをまとめる
第 7 回	活動領域に合わせたアクティビティの体験② (遊びリテーション)	事前学習	遊びリテーションで使用する素材を準備する。
		事後学習	授業をふりかえり、ネイチャーゲームにはどのようなベネフィットがあったのかをまとめる。
第 8 回	活動領域に合わせたアクティビティの体験③ (手作りおもちゃ・折り紙)	事前学習	本時の講義に使用する素材を準備する。
		事後学習	授業をふりかえり、クラフトにはどのようなベネフィットがあったのかをまとめる。
第 9 回	活動領域に合わせたアクティビティの体験④ (身近な素材を用いたレクリエーション)	事前学習	本時の講義に使用する素材を準備する。
		事後学習	グループワークの技法をふりかえる。
第 10 回	グループワークトレーニング	事前学習	グループ活動の必要性について考えて来る。

平成 28 年度

		事後学習	グループワークトレーニングの実践をふりかえる。
第 1 1 回	レクリエーション支援案の作成とその発表・評価①	事前学習	グループレクリエーションの発表準備をする。
		事後学習	グループレクの実践を評価する。
第 1 2 回	レクリエーション支援案の作成とその発表・評価②	事前学習	グループレクリエーションの発表準備をする。
		事後学習	グループレクの実践を評価する。
第 1 3 回	レクリエーション支援案の作成とその発表・評価③	事前学習	グループレクリエーションの発表準備をする。
		事後学習	グループレクの実践を評価する。
第 1 4 回	レクリエーション支援案の作成とその発表・評価④	事前学習	グループレクリエーションの発表準備をする。
		事後学習	グループレクの実践を評価する。
第 1 5 回	レクリエーション支援案の作成とその発表・評価⑤	事前学習	グループレクリエーションの発表準備をする。
		事後学習	グループレクの実践を評価する。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2302
2. 授業担当教員	田中 マキ子		GEHL2313
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	〔課題 1〕 対象者に応じたレクリエーション・ワークを展開する。グループで指導計画を立案し、実際にレクリエーションを指導する。 ・対象者の特徴に応じた具体的な指導方法を考案し実践する。 ・支援を行う上での留意点を明確にする。 ・タイムスケジュールや用具などの周回の条件について配慮する。 以上三点を考慮すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・毎時間ワークシートと学習資料を配布する。 【参考書】 ・日本レクリエーション協会編『楽しいをつくるーやさしいレクリエーション実践ー』。 ・諸澄俊之著『よく効くふれあいゲーム 119』杏林書院。 ・三浦一朗著『楽しいアイスブレイキングゲーム集』日本レクリエーション協会。		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 40% 課題 1 30% 実技 30%		
12. 受講生へのメッセージ	レクリエーションの意義や特性を把握し、発達段階に応じたレクリエーション・ワークについて知ることをねらいとする。自らが楽しいと思えないことは、対象者を楽しませることはできない。レクリエーション・ワークを自分で楽しむことからスタートし、徐々にレクリエーション・ワークを計画し、援助する立場としての視点を養ってほしいと考えている。 授業においては以下のような基本的なルールを守ること。 1. 活発な授業への参加態度を望む。楽しい雰囲気での学習することをこころがけること。 2. 実技中心の授業なので、運動にふさわしい服装や髪型 (T シャツ、ジャージ、運動靴など動きやすいもの) で参加すること。 3. 時間厳守、私語は慎むこと。		
13. オフィスアワー	研究室のオフィスアワーに準ずる。その他、研究室に在室中はいつでも対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 【講義】「アイスブレイキングとは」	事前学習	アイスブレイキングの概要を調べ、ある程度把握しておく。
		事後学習	授業の内容をまとめ、次回の実践に活かせるようにまとめておく。
第 2 回	アイスブレイキング 「心をひらく楽しいゲーム」	事前学習	アイスブレイキングゲームを調べ、どのようなものがあるか把握しておく。
		事後学習	授業でアイスブレイキングゲームを実際に行ってみる。
第 3 回	グループごとによるレクリエーション・ワークのプランニング	事前学習	グループで様々な意見交換をし、より良いレクリエーションワークを計画できるように自分なりにまとめておく。
		事後学習	グループで計画したレクリエーションワークの良い点、悪い点を見つけてまとめておく。
第 4 回	【実技】 「実技を通して、アイスブレイキングの手法を学ぶ」	事前学習	アイスブレイキングの手法を自分なりに調べ、意見できるようにまとめておく。
		事後学習	実技で行った内容の良い点、悪い点を見つけてまとめる。
第 5 回	【実技】 「実技を通して、一人で楽しめる手遊びやレクリエーション・ダンスの手法を学ぶ」	事前学習	レクリエーション・ダンスの手法を調べる。
		事後学習	授業で行ったレクリエーション・ダンスの手法について考察し、自分のオリジナル作品を考えてみる。
第 6 回	【実技】 「実技を通して、小グループで楽しめるレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	小グループレクリエーションの手法を調べ、まとめておく。
		事後学習	グループで楽しめる手法を考え、実践してみる。
第 7 回	【実技】 「実技を通して、幼年期や老年期を対象にしたレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	幼年期・老年期レクリエーションを調べ、どのようなものがあるのかまとめておく。
		事後学習	年齢に合わせたレクリエーションを自分なりに考え、独自のプログラムを考えてみる。
第 8 回	【実技】 「実技を通して、児童期・青年期を対象にしたレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	児童期・青年期レクリエーションを調べ、どのようなものがあるのかまとめておく。
		事後学習	年齢に合わせたレクリエーションを自分なりに考え、独自のプログラムを考えてみる。

平成 28 年度

第 9 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク① 「運動を通しての仲間づくり、健康づくり」	事前学習	運動のレクリエーション活動の実践方法を調べ、グループで活動案を作る際に意見できるように準備する。
		事後学習	より良い活動できるよう、体調を管理し、ベストコンディションで臨めるようにする。
第 10 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク② 「運動を通しての身体作り、体力づくり」	事前学習	レクリエーション活動の実践を良く調べ、自分なりにまとめ、活動案を作成する。
		事後学習	活動した内容の反省点、良かった点をまとめ、ノートに記入しておく。
第 11 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク③ 「ウォークラリー①体力づくり、歴史・文化に触れる」	事前学習	ウォークラリーをする場所の歴史や文化をよく調べ、内容を把握しておく。
		事後学習	活動した内容の反省点、学んだこと、わかったことなどをまとめ、ノートに記入しておく。
第 12 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク④ 「ウォークラリー②仲間との協調性を学ぶ」	事前学習	ウォークラリーをする場所の歴史や文化を良く調べ、内容を把握しておく。
		事後学習	活動した内容の反省点、同じグループの人に意見を聞き、今後の活動に活かせるように、ノートにまとめておく。
第 13 回	【実技】 グループごとによるレクリエーション・ワーク⑤ 「実技の反省点・改善点等ディスカッションする」	事前学習	レクリエーション実践して、自分なりの改善点を整理しておく。
		事後学習	レクリエーション実践についてディスカッションし、意見をまとめ、改善案作成する。
第 14 回	【講義】「今日におけるレクリエーションの必要性と課題」	事前学習	レクリエーションの必要性と課題を調べ、考えをまとめておく。
		事後学習	ディスカッションした内容をまとめ、今後の活動に活かせるようまとめておく。
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	実践してきたレクリエーションワークを振り返り、まとめておく。
		事後学習	今後の活動に活かせるようにレクリエーションワークをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1102
2. 授業担当教員	木本 多美子		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【課題 1】 対象に合わせた、レクリエーション指導計画作成 【課題 2】 レクリエーション指導 (実技)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・毎時間ワークシートと学習資料を配布する。 【参考書】 ・日本レクリエーション協会編『楽しいをつくるーやさしいレクリエーション実践ー』。 ・プロジェクトアドベンチャー日本編『グループの力を生かす - プロジェクトアドベンチャー入門 成長を支えるグループづくり』 ・諸澄俊之著『よく効くふれあいゲーム 119』杏林書院。 ・三浦一朗著、日本レクリエーション協会編『楽しいアイスブレイキングゲーム集』。		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 (授業毎の振り返りを含む) 40% 課題 1 30% 課題 2 30%		
12. 受講生へのメッセージ	レクリエーションの意義や特性を把握し、発達段階等対象に応じたレクリエーション・ワークについて知ることをねらいとしています。自らが楽しいと思えないことは、対象者を楽ませることなどできません。レクリエーション・ワークを自分で楽しむことからスタートし、徐々にレクリエーション・ワークを計画し、援助する立場としての視点を養ってほしいと考えています。 授業においては以下のような基本的なルールを守るようお願いいたします。 1. 活発な授業への参加態度を期待します。楽しい雰囲気での学習しましょう。 2. 実技中心の授業なので、運動にふさわしい服装や髪型で参加しましょう。 3. 集中講義形式で行いますので、必ず参加しましょう。(期日・会場等は授業の中で説明します。) 4. 障害や疾病等、何らかの配慮が必要な学生は、初回到授業担当教員に連絡の上、受講してください。		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション ・自己理解/レジャーレクリエーション自己分析	事前学習	シラバスをもとに学習の見通しを持つ。
		事後学習	学習の見通しを整理する。
第 2 回	レクリエーション・ワークの目的	事前学習	前回の自己理解を確認し、自分にとってのレクリエーションとは何かを考える。
		事後学習	授業の復習を通して、自分自身のレクリエーションから、指導者としての視点を持ちレクリエーション・ワークとは何かを整理する。
第 3 回	レクリエーション・ワークの対象者理解	事前学習	様々な発達段階の特性やあらゆる障害の特性について調べる。
		事後学習	それぞれの人々の特性を整理する。
第 4 回	集中講義① レクリエーション・ワークにおける援助技術を学ぶ 「実技を通して、出会いのレクリエーション/アイスブレイキングの手法を学ぶ」 (期日・会場等は授業の中で説明)	事前学習	アイスブレイキングについて調べる。
		事後学習	アイスブレイキングの技法をふりかえる。
第 5 回	集中講義① レクリエーション・ワークにおける援助技術を学ぶ 「実技を通して、グループサイズに合わせたレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	様々な人数を対象としたレクリエーションについて調べる。
		事後学習	様々な人数を対象としたレクリエーション技法をふりかえる。
第 6 回	集中講義① レクリエーション・ワークにおける援助技術を学ぶ 「グループの力を高めるレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	グループレクリエーション/イニシアティブゲームについて調べる。
		事後学習	授業をふりかえり、自分の変化やグループの変化はどんなことがあったのかを整理し、レクリエーションがどのように作用したかをまとめる

第 7 回	集中講義① レクリエーション・ワークにおける援助技術を学ぶ 「実技を通して、発達に応じたレクリエーションの手法を学ぶ」	事前学習	対象者理解について復習し、それぞれの対象者にどんなレクがふさわしいかを調べ、考える。
		事後学習	対象者に合わせたレクリエーションについてまとめる
第 8 回	集中講義② レクリエーション・ワークにおける援助技術を学ぶ 「実技を通してニュースポーツについて学ぶ」 (期日・会場等は授業の中で説明)	事前学習	ニュースポーツとは何があるのか調べる
		事後学習	ニュースポーツの特徴や意義をまとめる
第 9 回	集中講義② レクリエーション・ワークにおける援助技術を学ぶ 「実技を通して、アダプティブスポーツについて学ぶ」	事前学習	アダプティブスポーツとは何があるか調べる
		事後学習	アダプティブスポーツの特徴や意義をまとめる
第 10 回	集中講義② グループごとによるレクリエーションの指導企画作り 「対象を考慮したレクリエーションを企画する①」	事前学習	対象者に合ったグループレクの計画を個人で考える
		事後学習	グループレクの計画に必要な準備を整え、指導のイメージする
第 11 回	集中講義② グループごとによるレクリエーションの指導企画作り 「対象を考慮したレクリエーションを企画する②」	事前学習	対象者に合ったグループレクに関する安全の配慮を個人で考える
		事後学習	グループレクの計画に必要な準備を整え、指導のイメージする
第 12 回	集中講義③ レクリエーション指導実践	事前学習	グループレクの計画に必要な準備を整え、指導のイメージする
		事後学習	自己評価、他グループの評価を行い、次回に活かす方法を考える
第 13 回	集中講義③ レクリエーション指導実践	事前学習	グループレクの計画に必要な準備を整え、指導のイメージする
		事後学習	自己評価、他グループの評価を行い、次回に活かす方法を考える
第 14 回	集中講義③ レクリエーション指導実践	事前学習	グループレクの計画に必要な準備を整え、指導のイメージする
		事後学習	自己評価、他グループの評価を行い、次回に活かす方法を考える
第 15 回	グループごとにレクリエーション実践を振り返り、反省・評価を行う	事前学習	学習をふりかえる。
		事後学習	学習のまとめをし、今後の自分の課題をまとめる

1. 科目名 (単位数)	労働安全衛生法 (じん肺法を含む) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3337
2. 授業担当教員	福本 正勝		SCMP3337
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>労働安全衛生法は、労働者の安全と健康を確保すると共に、労働者を取り巻く環境の変化に応じ、人間尊重を基盤とした「より快適な」作業環境づくりの促進を目的として、事業者のみならず国や労働者に対する責務についても規定している。</p> <p>本科目では、労働安全衛生法、じん肺法、およびそれらに基づいてより細かく具体的に規定された労働安全衛生規則や種々の有害作業別に規定された規則について学ぶ。近年、技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高齢化等に伴う心身の健康状態の変化等の問題が頻発しているため、これらに対応できる福祉を学んだ衛生管理者が求められていることについても学ぶ。</p> <p>なお労働安全衛生法は、本学で国家資格である第 1 種衛生管理者免許を取得するために、必ず履修しなければならない科目の一つである。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 労働安全衛生法および施行令、施行規則について説明できるようになる。 事務所衛生基準規則について説明できるようになる。 酸素欠乏症等防止規則について説明できるようになる。 有機溶剤中毒予防規則について説明できるようになる。 特定化学物質等障害予防規則について説明できるようになる。 粉じん障害防止規則について説明できるようになる。 じん肺法およびじん肺法施行規則について説明できるようになる。 石綿障害予防規則について説明できるようになる。 電離放射線障害防止規則について説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>演習において適宜、提出物を求める。</p> <p>課題レポートは、授業で学んだことを踏まえ、自分でテーマを立て、2,000字でまとめ、下書きを期日までに提出する。その清書レポートは期末試験の時に提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 中央労働災害防止協会編『衛生管理 受験から実務まで 第 1 種用 (下) 第 5 版』 中央労働災害防止協会。授業配付資料</p> <p>【参考書】 中央労働災害防止協会編『労働衛生のしおり』中央労働災害防止協会。 <労働衛生学と同じ> 中央労働災害防止協会編『労働安全衛生法令要覧 平成 27 年版』中央労働災害防止協会。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 期末試験 40% ② 提出物 10% ③ 課題レポート 30% ④ 授業への積極的参加度 20% <p>※ 必ず 3/4 以上 (30 回中 23 回以上) の出席がなければならない。また、遅刻・早退・途中退室は 3 回で、1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>衛生管理者は「法令」に基づいた行動をします。あいまいな知識は、企業などの組織に大きな不利益をもたらします。法律はなかなか馴染みにくいものですが、自分、そして組織を衛るために一緒に学習しましょう。</p> <p>注意事項は、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) この講義は、国家試験が「免除」されるための講義・演習であり、よって、毎時間の授業で出席をとり、欠席・遅刻・早退・途中退室は、減点します。 (2) 私語、居眠り、携帯電話、飲食、代返、その他講義と関係のない行為は、禁止します。 <p>※ 授業内容を変更する場合があります、その際は周知します。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	労働安全衛生法について (1) シラバスの説明、労働安全衛生法の成立背景、労働法との関係性、法の全体像	事前学習	テキスト (衛生管理・下) pp. 19~22 を読む
		事後学習	労働安全衛生法 (安衛法) の全体像を説明できる
第 2 回	労働安全衛生法について (2) 法の目的・定義、安全配慮義務、事業者責任、労働安全衛生法違反による送検事例	事前学習	テキスト pp. 23~24
		事後学習	「安衛法と判例」の関係性を説明できる
第 3 回	労働安全衛生法について (3) 衛生管理体制	事前学習	テキスト pp. 25~50、pp. 150~154
		事後学習	衛生管理体制の法令を説明できる
第 4 回	労働安全衛生法について (4) 健康診断等	事前学習	テキスト pp. 97~114
		事後学習	健康診断等の法令を説明できる
第 5 回	労働安全衛生法について (5) 危険健康障害、機械、就業措置など	事前学習	テキスト pp. 51~96
		事後学習	健康障害、機械、就業措置の法令を説明できる
第 6 回	労働安全衛生法について (6) 衛生基準、事務所衛生基準規則	事前学習	テキスト pp. 155~166、pp. 295~301
		事後学習	衛生基準、事務所衛生基準を説明できる
第 7 回	安全衛生・労働基準監督行政について	事前学習	テキスト pp. 116~149
		事後学習	安全衛生・労働基準行政の概要を説明できる

平成 28 年度

第 8 回	有機溶剤中毒予防規則について	事前学習	テキスト pp. 167～202
		事後学習	有機溶剤に関する法令を説明できる
第 9 回	特定化学物質等障害予防規則について	事前学習	テキスト pp. 203～253
		事後学習	特定化学物質に関する法令を説明できる
第 10 回	酸素欠乏等防止規則について	事前学習	テキスト pp. 262～270
		事後学習	酸素欠乏に関する法令を説明できる
第 11 回	粉じん障害防止規則について	事前学習	テキスト pp. 271～282
		事後学習	特定化学物質等に関する法令を説明できる
第 12 回	石綿障害予防規則について (下書き提出最終日)	事前学習	テキスト pp. 283～294
		事後学習	石綿に関する法令を説明できる
第 13 回	じん肺法、じん肺法施行規則について	事前学習	テキスト pp. 307～317
		事後学習	じん肺に関する法令を説明できる
第 14 回	派遣労働者、女性労働基準規則など	事前学習	テキスト pp. 353～354
		事後学習	派遣・女性等の労働者の法令を説明できる
第 15 回	期末のまとめ 課題レポート清書提出	事前学習	これまでの授業の「総まとめ」
		事後学習	期末試験に向けての学習
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	労働衛生学 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3336								
2. 授業担当教員	福本 正勝			SCMP3336								
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	<p>労働者が安全で衛生的かつ快適に働くには、労働者を取り巻く環境をより良い状態に維持することが重要である。そのために衛生管理者は、社会情勢の変化や技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高齢化等に伴う心身の健康状態の変化等に柔軟に対応できなくてはならない。</p> <p>本科目では、安全衛生管理体制の確立と衛生管理者の役割、そして衛生管理の 3 本柱である「作業環境管理」、「作業管理」、「健康管理」を中心に労働衛生管理全般について学ぶ。福祉を学んだ衛生管理者が求められていることについても考察する。</p> <p>なお労働衛生学は、本学で国家資格である第 1 種衛生管理者免許を取得するために、必ず履修しなければならない科目の一つである。</p>											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の労働衛生の現状について説明できるようになる。 2. 望ましい安全衛生管理体制について説明できるようになる。 3. 労働安全衛生マネジメントシステムやリスクアセスメントについて説明できるようになる。 4. 一般作業環境について説明できるようになる。 5. 有害作業環境 (物理的、化学的、生物学的) 要因とそれらによる健康障害について説明できるようになる。 6. 作業環境管理 (作業環境測定とその管理、換気装置等) について説明できるようになる。 7. 作業管理 (作業時間と休憩時間、労働衛生保護具等) について説明できるようになる。 8. 健康管理 (健康診断及び健康教育等) について説明できるようになる。 9. 職場におけるメンタルヘルス対策について説明できるようになる。 10. 救急蘇生法について説明できるようになる。 											
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>提出物、レポートの下書き等を適宜提出する。</p> <p>課題レポートは、授業で学んだことを踏まえ、自分でテーマを立て「2,000字」でまとめ、下書きを期日までに提出する。その清書レポートは期末試験の時に提出する。</p>											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央労働災害防止協会編『衛生管理 受験から実務まで 第一種用 (上) 第 5 版』中央労働災害防止協会。 ・授業で配付する資料 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央労働災害防止協会編『労働衛生のしおり』中央労働災害防止協会。 ・中央労働災害防止協会編『安全衛生法令要覧』中央労働災害防止協会。 ・中辻めぐみら著『プロに聞く職場のうつメンタルヘルス対策』労働調査会。 											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>① 期末試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>③ 提出物</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>④ 課題レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>⑤ 授業への積極的参加度</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>※ 必ず 3/4 以上 (30 回中 23 回以上) の出席がなければならない。また、遅刻・早退・途中退室は 3 回で、1 回の欠席とする。</p>				① 期末試験	40%	③ 提出物	10%	④ 課題レポート	30%	⑤ 授業への積極的参加度	20%
① 期末試験	40%											
③ 提出物	10%											
④ 課題レポート	30%											
⑤ 授業への積極的参加度	20%											
12. 受講生へのメッセージ	<p>(1) この講義は国家試験が「免除」されるための講義・演習です。よって、毎時間の授業で出席をとり、欠席・遅刻・早退・途中退室は、減点します。</p> <p>(2) 私語、居眠り、携帯電話、飲食、代返、その他講義と関係のない行為は、禁止します。</p> <p>(3) うつ病などの「職場のメンタルヘルス対策」にも対応できる衛生管理者の養成を目指します。</p> <p>(4) 快適な職場環境の構築のための職場環境の理解は、ソーシャルワークにおける「環境への働きかけ」にリンクする部分もあり、福祉職とのダブルライセンスは就職後にとっても有用と考えます。</p> <p>※ 授業内容を変更する場合があります、その際は周知します。</p>											
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	シラバスの説明、期末試験・課題レポートについて、衛生管理者の仕事とは	事前学習	テキスト(衛生管理・上) pp. 12~16 を読む									
		事後学習	衛生管理者の仕事の説明ができるようにする									
第 2 回	労働衛生とは	事前学習	テキスト pp. 12、pp. 17~25 を読む									
		事後学習	労働衛生について説明できるようにする									
第 3 回	労働衛生管理体制	事前学習	テキスト pp. 26~36 を読む									
		事後学習	労働衛生管理体制を説明できるようにする									
第 4 回	労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS)	事前学習	テキスト pp. 36~38 を読む									
		事後学習	OSHMS を説明できるようにする									
第 5 回	有害業務と有機化学物質	事前学習	テキスト pp. 42~65 を読む									
		事後学習	有害業務と有害物質を説明できるようにする									
第 6 回	化学的要因と健康障害① (じん肺、酸素欠乏症)	事前学習	テキスト pp. 66~83 を読む									
		事後学習	化学的要因について説明できるようにする									
第 7 回	化学的要因と健康障害② (金属、有機溶剤、酸アルカリ、ガスほか)	事前学習	テキスト pp. 66~83 を読む									
		事後学習	化学的要因について説明できるようにする									

第 8 回	物理的要因と健康障害	事前学習	テキスト pp. 84～90 を読む
		事後学習	物理的要因について説明できるようにする
第 9 回	生物学的要因と健康障害	事前学習	テキスト pp. 91～97 を読む
		事後学習	生物的要因について説明できるようにする
第 10 回	作業要因と健康障害	事前学習	テキスト pp. 98～106 を読む
		事後学習	業務上疾病・作業関連疾病を整理する
第 11 回	作業環境管理とは	事前学習	テキスト pp. 108～112 を読む
		事後学習	作業環境管理について説明できるようにする
第 12 回	作業環境管理（事例検討）	事前学習	テキスト pp. 113～155 を読む
		事後学習	事案を通じた作業環境管理について理解する
第 13 回	作業管理とは	事前学習	テキスト pp. 166～178 を読む
		事後学習	作業管理について説明できるようにする
第 14 回	作業管理（事例検討）	事前学習	テキスト pp. 179～203 を読む
		事後学習	事案を通じた作業管理について理解する
第 15 回	健康管理とは	事前学習	テキスト pp. 204～238 を読む
		事後学習	健康管理について説明できるようにする
第 16 回	健康管理（事例検討）	事前学習	テキスト pp. 239～269 を読む
		事後学習	事案を通じた健康管理について理解する
第 17 回	職場メンタルヘルスとは	事前学習	テキスト pp. 270～275 を読む
		事後学習	職場メンタルの概要を説明できるようにする
第 18 回	職場メンタルヘルス（職場のいじめ、パワハラ、セクハラ、モラハラ）	事前学習	職場のいじめ、ハラスメント関連の記事を読んでおく
		事後学習	いじめ・ハラスメントを説明できるようにする
第 19 回	職場メンタルヘルス（自殺、うつ病、EAP、リワーク）	事前学習	自殺・うつ病関連の記事を読んでおく
		事後学習	自殺・うつ病の特徴を説明できるようにする
第 20 回	職場メンタルヘルス（精神疾患の理解）	事前学習	うつ病について、調べておくこと。
		事後学習	精神疾患について、概要を理解する
第 21 回	職場メンタルヘルス（最近の話題）	事前学習	「ワーク・エンゲージメント」を調べておく
		事後学習	職場メンタルに関する新しい知見を説明できるようにする
第 22 回	快適職場づくり・THP・職場改善提案	事前学習	テキスト pp. 158～165、pp. 270～275 を読む
		事後学習	快適職場形成・THP を説明でき、具体的に、職場改善提案の方法をイメージできる
第 23 回	労働衛生教育とは	事前学習	テキスト pp. 288～303 を読む
		事後学習	労働衛生教育の必要性を説明できる
第 24 回	労働衛生教育 演習 （下書き提出最終日）	事前学習	テキスト pp. 30～303 を読む
		事後学習	労働衛生教育の進め方をイメージする
第 25 回	労働衛生管理統計とは	事前学習	テキスト pp. 304～313 を読む
		事後学習	労働衛生管理統計を説明できるようにする
第 26 回	課題チェック、まとめ	事前学習	テキスト全体を通じて、疑問を挙げておく
		事後学習	振り返りに活用する
第 27 回	職場における救急措置	事前学習	テキスト pp. 314～351 を読む
		事後学習	職場で求められる「救急措置」を説明できる
第 28 回	労働生理（細胞、血液、循環器系、呼吸器系、消化器系）	事前学習	テキスト pp. 352～401 を読む
		事後学習	「人体」が職場から受ける影響を説明できる
第 29 回	労働生理（栄養、体質、泌尿器系、内分泌系、免疫、筋骨格、神経、感覚器、その他）	事前学習	テキスト pp. 352～401 を読む
		事後学習	「人体」が職場から受ける影響を説明できる
第 30 回	期末のまとめ （課題レポート清書提出）	事前学習	課題内容の確認の確認
		事後学習	期末試験に向けての学習
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	労働法 (労働基準法) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3338 SCMP3338 SBMP3338 PSMP3309
2. 授業担当教員	平 仁		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係	労働安全衛生法、社会保障論 (労災保険)		
7. 講義概要	<p>20 世紀末以降労働関係法令は新しいものがいくつも制定され、かつ既存法も大幅に内容が改正されてきた。そこには、社会における新しい雇用形態や労働条件の変化が大きく影響している。本科目では、労働基準法の基本構造を学ぶとともに、新たに制定された労働契約法や男女雇用機会均等法のほか、パートタイム労働法や派遣労働法も対象領域とする。ただし、学習負担の面から基本事項に限定して講義する。発展部分は実社会に出てから各自で応用学習してもらいたい。</p> <p>なお、労働組合活動の退潮もあり、労働組合活動を対象とした集団的労働関係法は扱わない。講義は教科書に沿って進行する。随時、テーマを設定してディスカッションを行い、自宅学習で議論の集約、文章化の訓練を行う。最終授業では、実際の試験問題を用いた基礎知識修得状況の検証を行う。</p>		
8. 学習目標	<p>就職とは基本的に勤め先との間で労働契約を交わすことである。雇用労働者は、内定、使用期間、処遇、人事異動、出向、昇格・昇進、懲戒処分、労災事故、退職 (解雇) など様々な事態に遭遇することになる。本科目の履修者は、労働基準法等においてどのように規定されているか、また労働基準監督署や裁判所ではどのように判断されているかの知識を習得しているので、適切に対処することができる。</p> <p>勤務経験を積むことにより、勤務先で管理監督者 (使用者) の地位を与えられることになるが、本科目内容を履修することで労働法令の基礎理論や先例を理解でき、職場内の労働紛争を回避することができる。アルバイトなどの学生生活においても、労働基準法等がどのように適用されるかを検証し、労働法を身近なものとして生かすことができる。</p> <p>いわゆるブラック企業のやり口を見極める基礎能力を身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 各回の授業に際しては、下記の論点事項について教科書の十分な読み込み学習がされていることを前提に講義を進める。(1 回の授業に関して 4 時間の事前または事後学習が必要とされている。) なお、事前学習に際しては、マスコミ報道のうち労働問題に関連するものに注目し、現実社会で労働法がどのように作用しているかを検証する点検しておくことを求める。</p> <p>2. 毎回の授業の中でディスカッションを組み込む。積極的な発言、討論を必須とする。無言者、無反応者は早退したものとみなすことがある。</p> <p>3. 学期を通じて使用する学習カード (初回に配布) に、毎回の授業で学んだことなどを記述して提出しなければならない (最終週を除く)。学習カードは次回授業時に返却する。</p> <p>4. 学期内に 1 回、テーマを指定してのレポート作成提出 (自筆 1800 字程度) を求める。</p> <p>5. 適宜、希望学生による研究成果発表を予定する。この場合、学生は発表用資料を事前準備する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】原昌登『コンパクト労働法』新生社。</p> <p>【参考書】今野晴樹『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』文春新書。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 六法書 労働基準法、労働契約法等労働法令を含むもの (各自インターネットで抽出)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1. 演習等授業参加態度 (9. のアサイメントの 1. から 3.) 60% 4%×15 回 2. レポート (9. のアサイメントの 4.) 10% 3. 期末試験 30% 4. 研究発表 (9. のアサイメントの 5.) 10% (該当者のみ) なお、本学規定により、4 分の 3 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>1. 労働法 (労働基準法) は範囲が広く、制度改正も頻繁であるため、細かな制度内容よりも、全体を貫く理念は何かを常に念頭において講義に参加すること。</p> <p>2. 授業中の質問は歓迎。各自相談することを指示した場合以外の私語は厳禁。</p>		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	労働法とは何か 労働法の存在理由 労働法により介入の仕組み 法学の基礎知識 労働法のルール	事前学習	教科書第 1 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 2 回	雇用関係における様々な法ルール 労働基準法 労使協定 労働契約法 労働協約 就業規則 労働契約	事前学習	教科書第 2 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 3 回	労働法の当事者 労働者とは 労基法、労契法、労組法 使用者 労働組合	事前学習	教科書第 3 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。

第 4 回	労働者の採用について 使用者の採用自由の原則とは 採用内定の法的性質 使用期間とは	事前学習	教科書第 4 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 5 回	企業の人事権と権利濫用法理の適用 昇進・昇格・降格について 配転とは何か 出向（在籍） 転籍 休職	事前学習	教科書第 5 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 6 回	使用者の懲戒権 懲戒処分とは 懲戒処分の法規制 懲戒処分のポイント	事前学習	教科書第 6 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 7 回	労使関係の終了 解雇の法的問題 労働契約終了事由 解雇に関する法規制 手続・理由 解雇権濫用法理 整理解雇のルール 解雇紛争の解決 定年制 高齢者雇用確保措置	事前学習	教科書第 7 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 8 回	賃金について 賃金とは何か 賞与・退職金の法律問題 賃金支払いの 4 原則 休業手当とは 最低賃金	事前学習	教科書第 8 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 9 回	労働時間の基本 労働時間規制の基本的枠組み 法定労働時間 休憩時間 休日 時間外・休日労働 三六協定 割増賃金	事前学習	教科書第 9 章（9.1 から 9.3 まででよい）を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 10 回	休憩・休業 年次有給休暇 年休権の法的性質 休業制度 労基法、育児・介護休業法	事前学習	教科書第 10 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 11 回	労働条件の変更 就業規則の不利益変更の法ルール 労働協約による労働条件不利益変更	事前学習	教科書第 11 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 12 回	非正規労働者と労働法 非正規雇用とは 有期契約と雇い止め 無期契約への転換制度導入 パートタイム労働者（短時間労働者）と労働法 派遣労働の法ルール 偽装請負とは	事前学習	教科書第 12 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 13 回	労働者の健康・労働災害 職場における安全衛生 労安法 労働災害補償 労災保険 民事上の損害賠償 労働時間規制の例外措置 法規制の適用除外 変形労働時間制とフレックスタイム制 みなし労働時間制	事前学習	教科書第 13 章を熟読。疑問点を整理しておく。 教科書第 9 章のうち 9.4 と 9.5 を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 14 回	労基法の総則部分 労働者の人権保障・雇用差別禁止 労働者の人権保障規定 平等原則 男女雇用機会均等法 各種ハラスメントの法的責任	事前学習	教科書第 14 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 15 回	企業組織の変動と労働関係 企業合併の場合	事前学習	教科書第 15 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	15 回の授業で学んだことの総復習をする。

	事業譲渡の場合 会社分割の場合 社福士（精神保健福祉士）試験と労働法 過去の出題事例の検討		
期末試験は完全論述方式で実施する。過去 14 回の事後学習テーマを中心に入念な試験準備が必要である。			

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECM1312 GECM1322
2. 授業担当教員	黒岩 好子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	アメリカの文化と言語Ⅰのクラスで学んだアメリカの文化と言語に関する知識の幅を広げ、更に深い考察ができることを目指す。まず、読解力、聴解力、文章力、会話力の四技能を、基本的なレベルから、より高いレベルへとさらに一步向上させるため、また表現力の幅を広げるため、様々な補助教材も使用し英語に多角的に触れていく。次に、視覚・聴覚教材などを通して、英語という言語の特徴(発音、文法、語用法など)や、アメリカの文化事情に精通することを目指す。最後に、アメリカの文化を学びながら自国の文化と比較することで、様々な文化を尊重できる素地を養う。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な教材を適宜使用しながら、英語の4技能をバランスよく育成する。 2. 1)を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解する。 3. アメリカの文化事情について多角的に考察を深める。 4. アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成する。 			
9. アサインメント (宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に学習を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 期末レポートのテーマは、「授業を通して発見したコミュニケーションの相違と異文化理解について」とする。A4用紙に1000字程度で記載し、第15回目の授業時に提出すること。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 Kyoko Yashiro 他 『What do you mean? コミュニケーション・ギャップと異文化理解』金星堂。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	期末レポート	30%		
	小テスト(4回)・課題	50%		
	授業姿勢(協調性、積極的参加度)	20%		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語力および異文化コミュニケーション力を高めるうえで重要なことは、積極的にチャレンジしていく精神である。授業では受け身的姿勢はリセットし、意欲的に参加することを望む。 2. 各授業の予習・復習は必須とする。その際、疑問に思ったことはそのままにせず質問すること。 3. 「授業中の私語・居眠り・携帯電話の使用、頻繁な遅刻、教科書を忘れる」を禁ずる。それに反した場合は「授業姿勢」評価点の減点対象とする。 			
13. オフィスアワー	初回授業時に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	Introduction: 授業概要、学習目標、学習方法、自己紹介		事前学習	1. 教科書を購入し、はしがきと目次に目を通し授業で取り上げる Unit の内容を予測しておく。2. 本授業専用のノートを用意する。
			事後学習	1. 本授業を受講するにあたっての留意点を振り返り、目標設定と自分に適した学習方法を再確認する。2. 自己紹介の良かった点・改善点をノートに記録しておく。
第2回	Unit 1: Japanese Bow		事前学習	1. Unit 1(pp.1~5)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p.6)の Column を読む。
			事後学習	1. Unit 1の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 1(pp.1~3)の意味をよく理解しながら音読する。
第3回	Unit 2: Smiles、小テスト#1		事前学習	1. Unit 2(pp.7~11)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p.12)の Column を読む。 3. 小テスト#1 (Unit 1 & 2) の準備をする。
			事後学習	1. Unit 2の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 2(pp.7~9)の意味をよく理解しながら音読する。
第4回	Unit 3: Eye Contact		事前学習	1. Unit 3(pp.13~17)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p.18)の Column を読む。
			事後学習	1. Unit 3の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 3(pp.13~15)の意味をよく理解しながら音読する。
第5回	Unit 4: Touching Behavior		事前学習	1. Unit 4(pp.19~23)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p.24)の Column を読む。
			事後学習	1. Unit 4の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 4(pp.19~21)の意味をよく理解しながら音読する。
第6回	Unit 5: Hand Gestures、小テスト#2		事前学習	1. Unit 5(pp.25~29)のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p.30)の Column を読む。3. 小テスト#2 (Unit 3, 4 & 5) の準備をする。

		事後学習	1. Unit 5 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 5 (pp. 25～27) の意味をよく理解しながら音読する。
第 7 回	Unit 6: Body Movements	事前学習	1. Unit 6 (pp. 31～35) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p. 36) の Column を読む。
		事後学習	1. Unit 6 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 6 (pp. 31～33) の意味をよく理解しながら音読する。
第 8 回	Unit 7: Space	事前学習	1. Unit 7 (pp. 37～41) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p. 42) の Column を読む。
		事後学習	1. Unit 7 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 7 (pp. 37～39) の意味をよく理解しながら音読する。
第 9 回	Unit 8: Same Words Different Meaning、 小テスト#3	事前学習	1. Unit 8 (pp. 43～47) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p. 48) の Column を読む。3. 小テスト #3 (Unit 6, 7 & 8) の準備をする。
		事後学習	1. Unit 8 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 8 (pp. 43～45) の意味をよく理解しながら音読する。
第 10 回	Unit 9: Intonation	事前学習	1. Unit 9 (pp. 49～53) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p. 54) の Column を読む。
		事後学習	1. Unit 9 の内容を確認し要点をまとめ直す。 2. Unit 9 (pp. 49～51) の意味をよく理解しながら音読する。
第 11 回	Unit 10: Succinct or Elaborate	事前学習	1. Unit 10 (pp. 55～59) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p. 60) の Column を読む。
		事後学習	1. Unit 10 の内容を確認し要点をまとめ直す。2. Unit 10 (pp. 55～57) の意味をよく理解しながら音読する。
第 12 回	Unit 11: Personal or Contextual, 小テスト#4	事前学習	1. Unit 11 (pp. 61～65) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。2. (p. 66) の Column を読む。3. 小テスト#4 (Unit 9, 10 & 11) の準備をする。
		事後学習	1. Unit 11 の内容を確認し要点をまとめ直す。2. Unit 11 (pp. 61～63) の意味をよく理解しながら音読する。
第 13 回	Unit 12: Goal or Process Oriented	事前学習	1. Unit 12 (pp. 67～71) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p. 72) の Column を読む。
		事後学習	1. Unit 12 の内容を確認し要点をまとめ直す。2. Unit 12 (pp. 67～69) の意味をよく理解しながら音読する。
第 14 回	Unit 13: Sarcasm	事前学習	1. Unit 13 (pp. 73～77) のわからない英単語を調べ問題もすべて解答する。 2. (p. 78) の Column を読む。
		事後学習	1. Unit 13 の内容を確認し要点をまとめ直す。2. Unit 13 (pp. 73～75) の意味をよく理解しながら音読する。
第 15 回	本授業のまとめ、ディスカッション 期末レポート提出	事前学習	1. 期末レポート (9. - 2 参照) を完了する。2. 初回授業時に設定した自分の学習目標に対する達成度を査定し、意見をノートに記録する。
		事後学習	本授業で使用した教科書、ノート、プリントなどに再度目を通し、自己分析をしながら英語力の一層の向上を目指し自律的学習の習慣化計画を立て実行していく。

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1112 GELA1333
2. 授業担当教員	石本 強		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、福祉専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解できるようになる。 3. リハビリテーションの概要について理解し、説明できるようになる。 4. 生活習慣病とその予防につき、健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各学生は、割り当てられた範囲について資料を調査しグループでまとめ、発表する。 詳細は授業の中で説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病-医学一般』 社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規</p> <p>【参考書】 必要に応じて授業の中で通知します。</p>		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 (授業態度など) …30% 課題提出と発表…30% テスト…40% (事前に範囲・形式を告示する)		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・初回授業で受講についての詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。 ・私語等、周囲の学生に迷惑がかかる行為をする者は注意します。また継続する場合受講ができなくなります。 		
13. オフィスアワー	授業の前後の時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 人の成長・発達と老化	事前学習	教科書のはじめにと目次を読んでおく。教科書 pp. 2～7 を読み、人の成長・発達と老化について調べる
		事後学習	指示された内容について準備する。教科書 pp. 2～7 を読み、人の成長・発達と老化に関する国試過去問を解いて理解を深める
第2回	人の成長・発達と老化	事前学習	教科書 pp. 8～23 を読み、人の成長・発達と老化について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 8～23 を読み、人の成長・発達と老化に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第3回	身体構造と心身の機能	事前学習	教科書 pp. 26～52 を読み、身体構造と心身の機能について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 26～52 を読み、身体構造と心身の機能に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第4回	疾病の概要 (生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、健康増進)	事前学習	教科書 pp. 54～65 を読み、生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 54～65 を読み、生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第5回	疾病の概要 (心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患)	事前学習	教科書 pp. 66～78 を読み、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患について調べる
		事後学習	教科書 pp. 66～78 を読み、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第6回	疾病の概要 (消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患)	事前学習	教科書 pp. 79～89 を読み、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 79～89 を読み、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第7回	疾病の概要 (泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症)	事前学習	教科書 pp. 90～104 を読み、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症に関する国試過去問を解いて理解を深める。

		事後学習	教科書 pp.90～104 を読み、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症について復習する。
第 8 回	疾病の概要（神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア）	事前学習	教科書 pp.105～121 を読み、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアに関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp.105～121 を読み、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケアについて復習する。
第 9 回	障害の概要（視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由）	事前学習	教科書 pp.124～138 を読み、視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由に関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp.124～138 を読み、視覚障害・聴覚障害・平衡機能障害、肢体不自由に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 10 回	障害の概要（内部障害・知的障害）	事前学習	教科書 pp.139～144 を読み、内部障害・知的障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp.139～144 を読み、内部障害・知的障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 11 回	障害の概要（発達障害）	事前学習	教科書 pp.145～147 を読み、発達障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp.145～147 を読み、発達障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 12 回	障害の概要（認知症、高次機能障害）	事前学習	教科書 pp.148～156 を読み、認知症、高次機能障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp.148～156 を読み、認知症、高次機能障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 13 回	障害の概要（精神障害）	事前学習	教科書 pp.158～162 を読み、精神障害について調べる。
		事後学習	教科書 pp.158～162 を読み、精神障害に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 14 回	リハビリテーションの概要、国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、健康のとらえ方	事前学習	教科書 pp.164～213 を読み、リハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとらえ方に関する国試過去問を解いて理解を深める。
		事後学習	教科書 pp.164～213 を読み、リハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとらえ方に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語学演習Ⅱ (意味論) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3305
2. 授業担当教員	井草 玲子		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	意味論は言語(日常言語)の意味を研究対象とするが、この授業では、「意味の分析」「意味関係」「文法と意味」「テキストと意味」「意味変化」などの分野を取り上げる。このような分野を通して、言葉の意味、日常語の曖昧性と類似性、文法的分析と意味的分析、いくつかの文からなる「テキスト」(「談話」とも言う)の構造、意味の変化の原因や分類などの考察を試みる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉のいろいろな意味を知り、意味の分析方法を学習し、初歩的な分析ができるようになる。 2. 意味の曖昧さの原因を知り、英語の意味の奥深さの一端を理解できるようになる。 3. 意味関係について学習し、意味の同義性と反意性の理解を深め、英語の語彙指導を行う際の留意点について考察できるようになる。 4. テキストの構造の特徴を学習し、英語の技能の向上のため、効果的な教授方法を身に付けることができるようになる。 5. 意味変化の原因と分類の枠組みを学習し、英語の授業を楽しく行う方法を考えることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題 1 「意味関係」に関連するレポート 2. 意味論の英語教育への応用に関するレポート		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】池上嘉彦編『テイクオフ英語学シリーズ 3 「英語の意味」』大修館書店、2003。 【教材】授業時に配布する。		
11. 成績評価の方法	中間試験・期末試験 50% 復習テスト&レポート 30% 授業への積極的参加度 20%		
12. 受講生へのメッセージ	意味論は大変興味深い分野であり、語学教育への応用が可能です。授業研究や教材開発にも、意味論で学んだことを積極的に活用してみてください。		
13. オフィスアワー	授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction 講義概要・学習目標・学習方法 1. 日常の言語生活の中の「意味論」	事前学習	第1章(pp.3~)を読み、ポイントに印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第2回	2. 意味の分析 ①概念的意味 ②感情的意味 ③文法的意味	事前学習	配布プリントを読み、ポイントに印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第3回	2. 意味の分析：成分分析を用いて	事前学習	成分分析の手順を理解する
		事後学習	成分分析を行う。
第4回	3. 意味関係 ①意味のあいまいさ：同音性と多義性	事前学習	第1章 (pp.4,5,9) のポイントに印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第5回	3. 意味関係 ②意味の類似性：上下関係、非両立性	事前学習	第4章 (pp.55~)を読み、ポイントに印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第6回	3. 意味関係 ③反意性	事前学習	第4章 (p.59)を読み、ポイントに印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第7回	中間試験	事前学習	中間試験に向けて、丁寧に復習を行う。
		事後学習	学習の良かった点、問題点、改善点の考察。
第8回	4. 文法と意味	事前学習	第5章(pp.71~)を読み、ポイントに印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第9回	5. ①コンテキストと意味	事前学習	第6章(pp.95~)をよみ、ポイントに印をつける。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第10回	5. ②テキストと意味 ：マイクロ構造とマクロ構造	事前学習	配布プリントを読み、ポイントを把握する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第11回	6. 意味の変化 ①語の意味変化 ②意味変化の原因	事前学習	第7章(pp.113~)を読み、ポイントを把握する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第12回	6. 意味の変化 ②意味変化の仕組み	事前学習	第7章(pp.120~)を読み、ポイントを把握する。
		事後学習	学んだことを良く復習し、英語教育への応用を考察する。
第13回	7. 意味論の知識を英語教育に活用する ①教材開発研究	事前学習	配布プリントを読み、練習問題を解く。
		事後学習	グループ発表の準備をする。
第14回	7. 意味論の知識を英語教育に活用する ②グループ発表	事前学習	グループ発表の準備をする。
		事後学習	グループ発表の振り返りをする。
第15回	授業の総まとめ	事前学習	これまでに学んだことを良く復習し、質問内容を考える。
		事後学習	期末テストに備え、知識の整理を行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語科指導法Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	EDEN3342
2. 授業担当教員	井草 玲子			
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	英語科指導法Ⅰで学んだことを踏まえ、教育実習に必要な実践的な知識を身につけることを目標とする。授業の構成は以下になる。まず、学習者及び、言語活動のポイントに応じて、授業が展開できるよう、基本的な知識や指導技術を学び、次に、学んだことや自分で行った教材研究の成果を生かして、指導案を作成する。この指導案に基づいて、模擬授業を展開し、自己及び相互評価、ディスカッションを通して、授業の改善の可能性を探る。最後に、より良い授業を目指して、教授法と教授技術の学びを深める。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できる。 2. 教材研究を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができる。 3. 文法を中心とした指導案とコミュニケーションを中心とした指導案の作成方法を学習し、実際に指導案を作成できる。 4. 模擬授業を体験し、クラスディスカッションを通して授業改善のヒントをつかむことができる。 5. 視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：授業の予習と復習 レポート課題：①タスク中心学習ワークシート ②指導案(50分授業) ③模擬授業で工夫した点、今後の課題とその対策に関する記述式のレポート ④模擬授業見学レポート (毎回)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 米山朝二・杉山敏・多田茂 共著『英語科教育実習ハンドブック 改訂版』大修館書店、2013。 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂、2008。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂、2009。 【参考書】 村野井仁・千葉元信・畑中孝實共著『実践的英語科教育法 総合的コミュニケーション能力を育てる指導』成美堂、2008。			
11. 成績評価の方法	レポート課題 30% 小テスト 20% 期末テスト 30% コースワーク 20% (授業への取り組み・言語活動参加度)			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習が始まると忙しくなります。時間のある今、教材研究を深めると共に、英語力の向上に努めてください。 2. 英語の教科書や教材は、教授理論の裏づけがあると、教材作成意図が分かり易くなり、応用もききます。折にふれて、春学期学習した教授法の復習をしておきましょう。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	Introduction ; 講義概要・学習目標・学習方法 第12章 教育機器等の活用 (pp.169~)	事前学習	英語科指導法Ⅱのシラバスを熟読し、授業に備える。第12章を通読し重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	
第2回	第13章 教室管理 (pp.188~) タスク中心学習①	事前学習	第13章を通読し重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	
第3回	第1章 教育実習に臨んで：教育実習の目的 教育実習の心構え	事前学習	pp.1~10を通読し、重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	
第4回	第2章 授業観察 : その視点と方法	事前学習	pp.11~24を通読し、重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	
第5回	中学校学習指導要領の重要事項の確認 (日本語版と英語版)	事前学習	中学校学習指導要領の重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	
第6回	高等学校学習指導要領の重要事項の確認 タスク中心学習②	事前学習	高等学校学習指導要領の重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	
第7回	第3章 授業準備 1. 教科書研究：全体の構成・題材・文法事項の配列・関連資料の確認を通してのシラバスの基本理解 2. 扱う単元の授業研究：単元のねらいの確認・単元の指導計画・題材研究・文法の確認	事前学習	pp.25~38を通読し、重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	
第8回	3. 本時の教材研究 ①本時の目標・活動の設定 ②未習事項・学習内容のチェックと関連事項の理解 ③視聴覚教材の準備	事前学習	pp.38~42を通読し、重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	
第9回	第4章 指導案の作成 1. 授業の構成 (pp.43~) : ①Warm-up	事前学習	pp.43~54を通読し、重要点に印をつける。	
		事後学習	重要点(日本語と英語)を整理し、記録する。	

	②Review ③Introduction of new material ④Practice ⑤New words ⑥Reading ⑦Consolidation ⑧授業構成のバリエーション		
第 10 回	タスク中心学習③ 2. 指導案作成の手順 (pp. 55～)	事前学習	pp. 55～63 を通読し、重要点に印をつける。
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する。
第 11 回	教科書の選定	事前学習	教科書の事前選定 [2～3 冊]
		事後学習	選定した教科書の目次と 1 課分のコピーを取り、授業の展開の仕方の構想を練る。
第 12 回	コラム：小学校外国語活動の指導案の検討 (pp. 64～71) Group Discussion	事前学習	pp. 64～71 を通読し、重要点に印をつける。
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する。
第 13 回	第 5 章 中学校指導案の検討 (pp. 72～93)・ Group Discussion.	事前学習	グループで、中学校指導案の検討を行う。
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する
第 14 回	第 6 章 高等学校指導案の検討 (pp. 94～112) Group Discussion	事前学習	グループで、高等学校学習指導案の検討を行う。
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する
第 15 回	I. <u>文法を中心とした指導案の作成を開始する。</u> 第 7 章 授業の工夫 (1) Warm-up と Review (pp. 114～)	事前学習	pp. 114～126 を通読し、重要点に印をつける。
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する
第 16 回	第 8 章 授業の工夫 (2) 文法・文型の導入 (pp. 127～) タスク中心学習④	事前学習	pp. 127～136 を通読し、重要点に印をつける。
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する
第 17 回	第 9 章 授業の工夫 (3) 文法・文型の練習と発展活動 (pp. 137～)	事前学習	pp. 137～148 を通読し、重要点に印をつける
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する
第 18 回	第 10 章 授業の工夫 (4) 語彙の導入と指導 (pp. 149～)	事前学習	pp. 149～157 を通読し、重要点に印をつける
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する
第 19 回	第 11 章 授業の工夫 (5) 本文の読解指導 (pp. 158～)	事前学習	pp. 158～170 を通読し、重要点に印をつける
		事後学習	重要点 (日本語と英語) を整理し、記録する。 ◆指導案全体、各部を丁寧に見て、不備がないか チェックする。自宅で模擬授業のリハーサル。
第 20 回	タスク中心学習⑤ 各自の指導案の確認をする。 ◆模擬授業①②③のリハーサル	事前学習	○授業評価基準の確認を行う。
		事後学習	◆リハーサル後、指導案を加筆修正し印刷する。
第 21 回	模擬授業① 評価 質疑応答 総評 模擬授業② 評価 質疑応答 総評	事前学習	○授業評価基準の確認を行う
		事後学習	○授業評価シートに記入する。
第 22 回	模擬授業③ 評価 質疑応答 総評 ◆模擬授業④⑤のリハーサル タスク中心学習⑥	事前学習	○授業評価基準の確認を行う ◆指導案全体、各部を丁寧に見て、不備がないか チェックする。自宅で模擬授業のリハーサル。
		事前学習	○授業評価シートに記入する。 ◆リハーサル後、指導案を加筆修正し印刷する。
第 23 回	○模擬授業①②③の相互評価のフィードバック 模擬授業④ 評価 質疑応答 総評 模擬授業⑤ 評価 質疑応答 総評	事前学習	○授業評価基準の確認を行う。
		事後学習	○授業評価シートに記入する。
第 24 回	コミュニケーション活動を中心とした模擬授業 コミュニケーション活動を中心とした模擬授業の 評価基準の確認 ◆模擬授業 C1 C2 C3 のリハーサル	事前学習	○授業評価基準の確認を行う。 ◆指導案全体、各部を丁寧に見て、不備がないか チェックする。自宅で模擬授業のリハーサル。
		事後学習	◆リハーサル後、指導案を加筆修正し印刷する。
第 25 回	○模擬授業④⑤のフィードバック 模擬授業 C1 評価 質疑応答 総評 模擬授業 C2 評価 質疑応答 総評	事前学習	○授業評価基準の確認を行う。
		事後学習	○授業評価シートに記入する。
第 26 回	模擬授業 C3 評価 質疑応答 総評 ◆模擬授業 C4 C5 のリハーサル タスク中心学習⑦	事前学習	○授業評価基準の確認を行う。 ◆指導案全体、各部を丁寧に見て、不備がないか チェックする。自宅で模擬授業のリハーサル。
		事後学習	◆リハーサル後、指導案を加筆修正し印刷する。
第 27 回	○模擬授業 C1 C2 C3 のフィードバック 模擬授業 C4 評価 質疑応答 総評	事前学習	○授業評価基準の確認を行う。
		事後学習	○授業評価シートに記入する。
第 28 回	模擬授業 C5 評価 質疑応答 総評	事前学習	○授業評価基準の確認を行う。
		事後学習	○授業評価シートに記入する
第 29 回	○模擬授業 C4. C5 のフィードバック Group Discussion 『より良い英語の授業とは』	事前学習	○これまでの模擬授業評価シートを見直し、学んだことを整理し、テーマについて考える。
		事後学習	◆模擬授業から学んだ事をまとめておく。
第 30 回	Group Presentation & Discussion まとめ	事前学習	○グループ発表の準備をする。
		事後学習	期末テストの重要ポイントの確認。 ◎すべてのレポートは提出締め切りを厳守すること。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1312
2. 授業担当教員	山口 敬雄		
4. 授業形態	講義、グループ学習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この授業では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、精確に英文を読む力を身につけて、中学校または高等学校で教育実習を確実にこなし、中学・高校教諭一種免許を取得できるようにすることをめざす。さらに英語圏文学と文化の基礎的な知識を習得して、英語圏文学独自の世界の魅力を味わい、文学および文化に対する関心を高めることも目的とする。この授業を履修することによって得られた文学に関する知識は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際、実践的に役立つ。また異文化への理解は、21 世紀の現代の問題を多角的に考察する上でも役に立つ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学・高校教諭一種免許が取得できるように、英語の学力を身につける。 2. 英文法を応用して構文を確認しながら、英文を読んで意味内容を把握する力を身につける。 3. 英語圏文学の基礎的な知識が習得できる。 4. 英語圏文化について理解し考察することができる 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	多様な英語表現に親しむために、また、英語テキストに書かれた意味内容を継続的な関心を持って読み進める力を涵養するために、自ら任意で選択した英語テキストを読解する自由課題を毎週課す。学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Alison Baxter, <i>The USA</i> . Oxford University Press (Oxford Bookworms Factfiles: Stage 3).		
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト・課題 30% 授業への積極的参加度その他 20%		
12. 受講生へのメッセージ	指定した範囲を事前・事後に必ず読んで、予習・復習すること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。辞書を必ず持参すること。		
13. オフィスアワー	初回にアナウンスする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	速やかに教科書を入手し、必ず 90 分以上かけて通読する。
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。
第 2 回	ch. 1: In the Beginning 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 1 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 1 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 3 回	ch. 2: The Pilgrim Fathers 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 2 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 2 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 4 回	ch. 3: The War of Independence 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 3 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 3 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 5 回	ch. 4: The Civil War 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 4 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 4 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 6 回	ch. 5: The Wild West 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 5 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 5 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 7 回	ch. 6: Native Americans 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 6 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 6 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 8 回	ch. 7: New Americans 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 7 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 7 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 9 回	ch. 8: Black Americans 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 8 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 8 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 10 回	ch. 9: The government of the USA 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 9 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。

		事後学習	ch. 9 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 1 回	ch. 10: Living in the USA 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 10 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 10 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 2 回	ch. 11: Eating and drinking the American way 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 11 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 11 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 3 回	ch. 12: Music from America 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 12 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 12 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 4 回	ch. 13: Some great American cities 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 13 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 13 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 1 5 回	ch. 14: California 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 14 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 14 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1303
2. 授業担当教員	井草 玲子		
4. 授業形態	講義、グループ学習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語の文章構造を速やかに把握する方法を身に付け、英語基礎演習で習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用しながら、英文の読解力の向上をはかり、中学校または高等学校で教育実習を確実にこなして、中学・高校教諭一種免許を取得できるようにすることを目指す。		
8. 学習目標	1. 英語の文章構造を速やかに把握する方法を身につける。 2. 中学・高校教諭一種免許を取得できるように、英文読解力の向上を図る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：授業の予習と復習 (事前学習と事後学習の欄を参照してください。) レポート： 1. Text 1の英文の文章構造に注意を払いつつ、各段落のポイントをSpidergramで表しなさい。(A4用紙1枚) 2. Text 2の英文を日本語で要約し、日本とインドの教育を比較しなさい。(1000字)		
10. 教科書・参考書・教材	参考書：David Peaty 『Good News Book1 : グッドニュースで読む世界の動き』桐原書店、2007年。 必要に応じ、印刷教材を配付します。		
11. 成績評価の方法	期末試験 30% 小テスト・レポート 40% コースワーク (授業中の態度・言語活動参加度、グループワークレポート) 30%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 英語は積み重ねの教科です。日々の努力が、近い将来実を結びます。コツコツ努力を続けてください。 2. 英文は、一文一文ではなく段落単位でまず読み、その後分からない単語の意味や慣用語を調べ、内容の理解に努め、学んだ単語や表現は、教育実習で英語を教える時すぐ役立つようにしっかり覚えましょう。 3. 受講の心構えとしては、常に他の受講生の事を思いやり、落ち着いて授業を受け、与えられている学習の機会を最大限に活用し、積極的に学んでください。		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction : 講義概要・学習目標・学習方法・英文講読法 1. Increase in Panda Population (pp.14~) : Introduction	事前学習	テキスト1の新出単語の確認と通読。
		事後学習	重要英単語・熟語を覚える。
第2回	1. Increase in Panda Population (pp.14~) : Word and Text Study	事前学習	段落ごとに本文の通読。
		事後学習	各段落の要点をまとめる。
第3回	1. Increase in Panda Population : Review, Group Discussion.	事前学習	練習問題に取り組む。Group Work 課題に取り組む。
		事後学習	復習テストの準備 (vocabulary, use of English, summary) レポート1の執筆 提出締め切りは2週間後。
第4回	復習テスト① 2. Educating the Poor (pp.20~) : Introduction, Word Study	事前学習	テキスト2の新出単語の確認と通読。
		事後学習	重要英単語・熟語を覚える。
第5回	2. Educating the Poor (pp.20~) : Text Study	事前学習	段落ごとに本文の通読。
		事後学習	各段落の要点をまとめる。
第6回	2. Educating the Poor : Review, Group Discussion.	事前学習	練習問題に取り組む。Group Work 課題に取り組む。
		事後学習	復習テストの準備 (vocabulary, use of English, summary) レポート2の執筆 提出締め切りは2週間後。
第7回	復習テスト② 3. Volunteering Holidays. (pp.49~) : Introduction, Word Study	事前学習	テキスト3の新出単語の確認と通読。
		事後学習	重要英単語・熟語を覚える。
第8回	3. Volunteering Holidays. (pp.49~) : Text Study	事前学習	段落ごとに本文の通読。
		事後学習	各段落の要点をまとめる。
第9回	3. Volunteering Holidays : Review, Group Discussion.	事前学習	練習問題に取り組む。Group Work 課題に取り組む。
		事後学習	復習テストの準備 (vocabulary, use of English, summary)
第10回	復習テスト③ 4. The Gift of Sight (pp.56~) : Introduction, Words Study	事前学習	テキスト4の新出単語の確認と通読。
		事後学習	重要英単語・熟語を覚える。
第11回	4. The Gift of Sight (pp.56~) : Text Study	事前学習	段落ごとに本文の通読。
		事後学習	各段落の要点をまとめる。
第12回	4. The Gift of Sight : Review, Group Discussion.	事前学習	練習問題に取り組む。Group Work 課題に取り組む。
		事後学習	復習テストの準備 (vocabulary, use of English, summary)
第13回	復習テスト④ 5. No Smoking Please (pp.74~) : Group Discussion.	事前学習	テキスト5の新出単語の確認と通読。
		事後学習	要点の整理
第14回	5. No Smoking Please (pp.74~) : Group Discussion. Presentation	事前学習	板書計画を考える。
		事後学習	各段落の要点をまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	これまで学んだ事を良く復習し、質問の準備をする。
		事後学習	期末試験に向けて、整理と復習を完了する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅴ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2312
2. 授業担当教員	山口 敬雄		
4. 授業形態	演習、グループ学習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語圏の小説や英語のリーディングテキストを教材として使用し、習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文の英文を読む力を身につける。ストーリーの面白さを味わいながら、英語で物語を読む楽しさを体験すること、歴史上の人物のライフストーリーを追体験しながら、他者への想像力を鍛えることを目的とする。この授業を履修することによって得る読書体験は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際に必ず役立つ。また、言語の背景に潜在する歴史や文化を理解することにより、異文化圏の人々とコミュニケーションする際にも役に立つ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の基本事項を確認し、英語の読解力を身に付ける。 2. 英語圏の小説や歴史、文化に関する理解を深めることができる。 3. 多様な英語表現に親しみ、異文化コミュニケーションに活用できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	多様な英語表現に親しむために、また、英語テキストに書かれた意味内容を継続的な関心を持って読み進める力を涵養するために、自ら任意で選択した英語テキストを読解する自由課題を毎週課す。学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】P.セラフィン、根間弘海『アメリカを変えた 20 人 Twenty American Heroes』三修社、1977 年。 【参考書】適宜授業でアナウンスする。		
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト・レポート課題 30% 授業への積極的参加度・その他 20%		
12. 受講生へのメッセージ	本リーディング教材は反復学習に耐える力を持っているため、英語学習者は容易な英語といって軽んじることなく、鋭意努力してほしい。 指定した範囲を事後に必ず読んで、復習すること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。辞書を必ず持参すること。		
13. オフィスアワー	初回にアナウンスする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	速やかに教科書を手し、必ず 90 分以上かけて通読する。
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。
第 2 回	ch. 1: Charles Lindbergh 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 1 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 1 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 3 回	ch. 2: Malcom X 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 2 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 2 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 4 回	ch. 3: Marilyn Monroe 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 3 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 3 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 5 回	ch. 4: Henry Ford 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 4 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 4 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 6 回	ch. 5: Steven Spielberg 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 5 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 5 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 7 回	ch. 6: Geronimo 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 6 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 6 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 8 回	ch. 7: Elvis Presley 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 7 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 7 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶

			を定着させる。
第 9 回	ch. 8: Martin Luther King Jr. 読解練習と歴史事項の解説	事前学習	ch. 8 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 8 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 10 回	ch. 9: Ernest Hemingway 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 9 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 9 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 11 回	ch. 10: John D. Rockefeller 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 10 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 10 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 12 回	ch. 11: Jackie Robinson 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 11 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 11 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 13 回	ch. 12: Robert E. Lee 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 12 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 12 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 14 回	ch. 13: Hugh Hefner 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 13 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 13 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 15 回	ch. 14: Andrew Carnegie 読解練習と文化事項の解説	事前学習	ch. 14 のテキストにおいて知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	ch. 14 のテキストの意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読VI (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2303								
2. 授業担当教員	井草 玲子										
4. 授業形態	講義、演習、ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	英語の読解力を向上させるためには、単語、熟語、文法事項などを確認しながら正確に読む精読と、スピードを意識しながら大量の文書を読み進める速読の両方の読み方を駆使する必要がある。そこで、本授業では、読む目的に応じて、英文の速読と精読を行い、英文の読解力の向上を目指す。題材は、これから教壇で英語を教える学生に役立つように配慮したので、各課のねらいに従って、タスクを行い、問題の解決力や批判的思考力も身に付けてほしい。このようにして、学生は、これまでに習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、英文の読解力の向上を目指す。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語教員として必要な語彙知識と文法知識を、英文読解を通して培うことができる。 2. 読む目的に応じて、英文を読む速度を変え、効率良く英文を読むコツを学習し、実際の英文講読で活用できるようになる。 3. 英文テキストの要点をまとめ、他文化や他言語と比較し、類似点や相違点を発見し、自分の考えを表現することができるようになる。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：予習と復習 (事前学習及び事後学習の欄を参照してください。) レポート課題 <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 1 (テキスト 1 & 2 に関するもの) 2. レポート 2 (テキスト 3 & 4 に関するもの) 										
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Naoyuki Akaso 他『 <i>Twenty -Six Short Essays on English</i> (英語についての 26 章)』英宝社、2013。										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>期末テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>復習テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>授業中の態度・積極的参加度</td> <td>25%</td> </tr> </table>			期末テスト	30%	レポート課題	20%	復習テスト	25%	授業中の態度・積極的参加度	25%
期末テスト	30%										
レポート課題	20%										
復習テスト	25%										
授業中の態度・積極的参加度	25%										
12. 受講生へのメッセージ	英語を使って仕事をする職場では、限られた時間で英文を理解し、与えられた仕事を遂行することがよくあります。特に、英語科の教員は、必要に応じて英文の速読と精読を迅速に行う読解力が要求されます。ですから、時間がないとききめなめで、15分の空き時間があれば、とにかく英文を読み、ポイントを英語でメモしておきましょう。このように折にふれて、英語学習を行い英語力の向上に努めましょう。										
13. オフィスアワー	授業中に通知する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	Introduction : 講義概要・学習目標・学習方法 1. British English and American English. Introduction (背景知識を得る)	事前学習	講読 VI のシラバスをよく読み、授業に備える。								
		事後学習	入手した教科書とノートの効果的な活用の仕方を考え、予習ノートを作成する。								
第 2 回	1. British English and American English : Word Study, Reading Comprehension	事前学習	テキスト 1 (pp. 11~12) の通読								
		事後学習	本文の要点をまとめる。								
第 3 回	1. British English and American English : Exercises, Group Discussion.	事前学習	テキスト 1 の練習問題・Group Work 課題に取り組む。								
		事後学習	復習テスト①の準備 (vocabulary, use of English, summary, etc.)								
第 4 回	復習テスト① 2. Register : Introduction, Word Study, Reading Comprehension	事前学習	テキスト 2 (pp. 23~24) の通読								
		事後学習	本文の要点をまとめる。								
第 5 回	2. Register : Exercises, Group Discussion.	事前学習	テキスト 2 の練習問題・Group Work 課題に取り組む。								
		事後学習	復習テスト②の準備 (vocabulary, use of English, summary, etc.)								
第 6 回	復習テスト② 3. First Language Acquisition : Introduction, Word Study, Reading Comprehension	事前学習	テキスト 3 (pp. 31~32) の通読								
		事後学習	本文の要点をまとめる。								
第 7 回	3. First Language Acquisition : Exercises, Group Discussion	事前学習	テキスト 3 の練習問題・Group Work 課題に取り組む。								
		事後学習	復習テスト③の準備 (vocabulary, use of English, summary, etc.)								
第 8 回	復習テスト③ 4. Names in English : Introduction, Word Study, Reading Comprehension	事前学習	テキスト 4 (pp. 39~40) の通読								
		事後学習	本文の要点をまとめる。								
第 9 回	4. Names in English : Exercises, Group Discussion	事前学習	テキスト 4 の練習問題・Group Work 課題に取り組む。								
		事後学習	復習テスト④の準備 (vocabulary, use of English, summary, etc.)								
第 10 回	復習テスト④ 5. Language Contact and Borrowing : Introduction, Word Study, Reading Comprehension	事前学習	テキスト 5 (pp. 43~44) の通読								
		事後学習	本文の要点をまとめる。								
第 11 回	5. Language Contact and Borrowing : Exercises, Group Discussion	事前学習	テキスト 5 の練習問題・Group Work 課題に取り組む。								
		事後学習	復習テスト⑤の準備 (vocabulary, use of English, summary, etc.)								
第 12 回	復習テスト⑤ 6. Meaning in Words and Sentences :	事前学習	テキスト 6 (pp. 51~52) の通読								
		事後学習	本文の要点をまとめる。発表を通して学んだ事や								

	Group Discussion and Presentation I.		気づいたことを記録する。
第 13 回	6. Meaning in Words and Sentences : Group Discussion and Presentation II.	事前学習	テキスト 6 の練習問題・Group Work 課題に取り 組む。
		事後学習	本文の要点をまとめる。発表を通して学んだ事 や気づいたことを記録する。
第 14 回	発展学習①	事前学習	これまでに学んだ事を良く復習し、質問の準備を する。
		事後学習	発展学習のまとめ。 期末試験に向けて、整理と復習を行う。
第 15 回	発展学習② まとめ	事前学習	これまでに学んだ事を良く復習し、質問の準備をす る。
		事後学習	期末試験に向けて、整理と復習を完了する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションⅡ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1322
2. 授業担当教員	別府 結起		
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation and Discussions	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。リスニングの練習活動、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」力を養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらコミュニケーション能力向上を目指す。春期に開講されたコミュニケーションⅠに引き続きさらに英語で表現できるような学習を進める。文法のため適宜 TOEIC 教材を使用する。		
8. 学習目標	Students will learn how to communicate properly in English till the end of the semester. Students will foster their listening comprehension skills. Students will have confidence through actual communication in English. Students will be able to gain knowledge of pragmatics.		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Students can choose homework that will be given before the break. It will be announced in detail in class. *Research Project *Book Review *Article Review *Movie Review *Skit *Singing an English Song *Diary *Dialogue Writing		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Title: <i>Cubic Listening: Breaking News</i> Authors: Kiggell, Bellars, Chandler, et al. Publisher: Macmillan Languagehouse (Extra textbook) <i>Key Reading for the TOEIC Test</i> Authors: Chizuko Tumator, Tomoyasu Miyano, and Miguel E. Corti Publisher: Macmillan Language House		
11. 成績評価の方法	Attendance and Participation 20 % Homework 10 % Presentation 10 % Quizzes 60 %		
12. 受講生へのメッセージ	Welcome to the English Communication Class II. We will have a fantastic time together while studying in English. You will find you know a lot in English, and it is time to use those skills you mastered.		
13. オフィスアワー	To be announced on the first day in class.		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction of the class Unit 8 FIRE: Baby Saved from the Burning House Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 8.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 8.
第 2 回	1 minute Speech and Warm up Unit 8 FIRE: Baby Saved from Burning House Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 8.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud and practice Unit 8.
第 3 回	1 minute Speech and Warm up Unit 9 PRODUCTS: Toyota Launches New 4 x 4 Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 9.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 9.
第 4 回	1 minute Speech and Warm up Unit 9 PRODUCTS: Toyota Launches New 4 x 4 Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 9.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 8 to 9. Prepare for the quiz.
第 5 回	1 minute Speech and Warm up Unit 10 TRANSPORT: Traffic Report Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 10.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 10.
第 6 回	1 minute Speech and Warm up Unit 10 TRANSPORT: Traffic Report Part 2 Quiz 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 8, 9, and 10. Prepare for the Quiz 1.
		事後学習	Review all the answers of the Quiz 1. Read aloud through Unit 8, 9, and 10.
第 7 回	1 minute Speech and Warm up Unit 11 STORM: Cyclone Hits Australia Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 11.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 11.
第 8 回	1 minute Speech and Warm up Unit 11 STORM: Cyclone Hits Australia Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 11.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud

			through Unit 11.
第 9 回	Adventure, Warm up, and Unit 12 AWARDS: And the Winner Is... Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 12.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 12.
第 10 回	Adventure, Warm up, and Unit 12 AWARDS: And the Winner Is... Part 2 Quiz 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 11 and 12. Prepare for the Quiz 2.
		事後学習	Review all the answers of the Quiz 2. Read aloud through Unit 11 and 12.
第 11 回	1 minute Speech and Warm up Unit 13 DEALS: Red Sox Sign A New Pitcher Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 13.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 13.
第 12 回	1 minute Speech and Warm up Unit 13 DEALS: Red Sox Sign a New Pitcher Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 13.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 13.
第 13 回	1 minute Speech and Warm up Unit 14 HEALTH: Cure Found For Malaria Part 1	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 14.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 14.
第 14 回	1 minute Speech and Warm up Unit 14 HEALTH: Cure Found for Malaria Part 2	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through Unit 14.
		事後学習	Review all the answers, and read aloud through Unit 13 and 14. Prepare for Quiz 3.
第 15 回	Over all review of the classes Quiz 3	事前学習	Check words in dictionary. Read them aloud and practice. Read through all the Units. Study Key Reading for the TOEIC TEST. Prepare for the Quiz 3
		事後学習	Review all the answers of the Quiz 3. Read aloud through all the Units. Re-study Key Reading for the TOEIC Test problems.

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションⅣ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2322
2. 授業担当教員	別府 結起		
4. 授業形態	Listening and reading practice, Building vocabulary, Presentation and Discussion.	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。春期と同様リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」力をさらに養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながら高いレベルでのコミュニケーション能力向上を目指す。		
8. 学習目標	Students will learn how to communicate efficiently in English till the end of the semester. Students will foster their listening comprehension skills. Students will increase their communication competence Students will be able to gain knowledge of pragmatics. Students will further develop their skills of listening, speaking, reading, and writing.		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Students can choose homework that will be given during the break. It will be announced in detail in class. *Research Project *Book Review *Article Review *Movie Review *Skit *Singing an English Song *Dialogue Writing *Diary		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Title: <i>Impact Listening 1: Second Edition</i> Authors: Ellen Kisslinger Todd Beuckens, Publisher: Pearson Longman		
11. 成績評価の方法	Attendance and Participation 20 % Homework 10 % Presentation 10 % Quizzes 60 %		
12. 受講生へのメッセージ	Welcome to the English Communication Class IV. We will enjoy learning and communicating together. You will find you have learned a lot in English in spring term, and it is time to further develop your skills.		
13. オフィスアワー	To be announced on the first day in class.		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction of the Class Warm Up, Unit 9 Schedules: I' m really busy these days. Part 1	事前学習	Read Through Unit 9. Check all the words.
		事後学習	Listen to Self-Study CD Unit 9. Prepare for 1 minute Speech.
第 2 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 9 Schedules: I' m really busy these days. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 9.
		事後学習	Check all the answers in Unit 9. Prepare for 1 minute Speech.
第 3 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 10 Travel: It was a fantastic trip! Part 1	事前学習	Read Through Unit 10. Check all the words.
		事後学習	Listen to Self-Study CD Unit 10. Prepare for 1 minute Speech.
第 4 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 10 Travel: It was a fantastic trip! Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 10.
		事後学習	Check all the answers in Unit 10. Prepare for 1 minute Speech.
第 5 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 11 Money: Where does it all go? Part 1 Quiz 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 9, 10 and 11.
		事後学習	Check all the answers in Quiz 1. Prepare for 1 minute Speech.
第 6 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 11 Money: Where does it all go? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 11.
		事後学習	Check all the answers in Unit 11. Prepare for 1 minute Speech.
第 7 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 12 Free Time: What do you want to do? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 12.
		事後学習	Check all the answers in Unit 12. Prepare for 1 minute Speech.
第 8 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 12 Free Time: What do you want to do? Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 12.
		事後学習	Check all the answers in Unit 12. Prepare for 1 minute Speech.
第 9 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 13 Food: She makes the best pasta! Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 13.
		事後学習	Check all the answers in Unit 13. Prepare for 1 minute Speech.
第 10 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 13 Food: She makes the best pasta! Part 2 Quiz 2	事前学習	Listen to Self-Study CD 12 and 13. Study for Quiz 2.
		事後学習	Check all the answers of Quiz 2.
第 11 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 14 Health: How are you feeling? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 14.
		事後学習	Check all the answers of Unit 14. Prepare for 1 minute Speech.
第 12 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 14 Health: How are you feeling? Part2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 14.
		事後学習	Check all the answers of Unit 14. Prepare

平成 28 年度

			for Show and Tell.
第 1 3 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 15 City Life: I love it here. Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 15.
		事後学習	Check all the answers in Unit 15. Prepare for 1 minute Speech.
第 1 4 回	1 minute Speech and Warm Up Unit 15 City Life: I love it here. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 15.
		事後学習	Check all the answers in Unit 15.
第 1 5 回	Over All Review of the classes Quiz 3	事前学習	Read through Unit 9 to 15. Study for Quiz 3.
		事後学習	Review all the answers of Quiz 3.

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションVI (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3322
2. 授業担当教員	別府 結起		
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation and Discussions	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。1・2 年次と同様リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」力をさらに養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらさらに高いレベルで英語コミュニケーション能力向上を目指す。		
8. 学習目標	Students will communicate efficiently and fluently in English. Students will foster their listening comprehension skills. Students will increase their communication competence Students will be able to gain knowledge of pragmatics. Students will further develop their skills of listening, speaking, reading, and writing. Students will be able to express their opinions clearly in English.		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Students can choose homework that will be given during the break. It will be announced in detail in class. *Research Project *Book Review *Article Review *Movie Review *Skit *Singing an English Song *Diary *Dialogue Writing		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 <i>Impact Listening 2: Second Edition</i> Authors: Jill Robbins, Andrew MacNeill Publisher: Pearson Longman		
11. 成績評価の方法	Attendance and Participation 20 % Homework 10 % Presentation: 10 % Quizzes 60 %		
12. 受講生へのメッセージ	Welcome to the English Communication Class V. We will learn to be able to speak in English. You will find you have learned a lot in past years, and it is time to further develop your communication skills in English.		
13. オフィスアワー	To be announced on the first day in class.		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction of the class Unit 8 Directions: Are you lost? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 8.
		事後学習	Check all the answers in Unit 8 as you listen to Self-Study CD.
第 2 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 8 Directions: Are you lost?" Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 8. Prepare for discussion by choosing an issue.
		事後学習	Check all the answers in Unit 8 again.
第 3 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 9 Jobs: The benefits are great!" Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 9.
		事後学習	Check all the answers in Unit 9 as you listen to Self-Study CD.
第 4 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 9 Jobs: The benefits are great! Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 9. Prepare for discussion by choosing an issue.
		事後学習	Check all the answers in Unit 9 again.
第 5 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 10 Style "It means a lot to me." Part 1 Quiz 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 8, 9, and 10. Prepare for discussion by choosing an issue.
		事後学習	Check all the answers in Quiz 1.
第 6 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 10 Style: It means a lot to me. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 10. Prepare for discussion by choosing an issue.
		事後学習	Check all the answers in Unit 10 again.
第 7 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 11 Travel: They lost my luggage! Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 11.
		事後学習	Check all the answers in Unit 11 as you listen to Self-Study CD.
第 8 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 11 Travel: They lost my luggage! Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 11. Prepare for discussion by choosing an issue.
		事後学習	Check all the answers in Unit 11 again.
第 9 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 12 Food: What's for dinner? Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 12.
		事後学習	Check all the answers in Unit 12 as you listen to Self-Study CD.
第 10 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 12 Food: What's for dinner? Part 2 Quiz 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 11 and 12. Prepare for discussion and Quiz 2.
		事後学習	Check all the answers in Quiz 2 again.
第 11 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 13 Schedule: I'll pencil it in. Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 13.
		事後学習	Check all the answers in Unit 13 as you listen to Self-Study CD.
第 12 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 13 Schedule: I'll pencil it in. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 13. Prepare for Story to Share.
		事後学習	Check all the answers in Unit 13 again.

平成 28 年度

第 1 3 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 14 Weather: It' s raining cats and dogs. Part 1	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 14.
		事後学習	Check all the answers in Unit 14 as you listen to Self-Study CD.
第 1 4 回	Discussion: Issues Around Us. Unit 14 Weather: It' s raining cats and dogs. Part 2	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 14.
		事後学習	Check all the answers in Unit 14 again.
第 1 5 回	Over All Review of the Classes Quiz 3	事前学習	Listen to Self-Study CD Unit 8 to 14. Prepare for Quiz 3.
		事後学習	Review all the classes and make a portfolio.

1. 科目名 (単位数)	英米児童文学 (作品論) (2 単位)		3. 科目番号	EDEN2317
2. 授業担当教員	山口 敬雄		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーション、ディスカッション			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この授業では、英米児童文学の歴史を概観し、英米児童文学の主要作家と作品を考察するとともに、その時代的・文化的背景をも明らかにする。知識の習得に加え、作品に描かれた子ども像の変遷を辿る作業が、「子ども」という概念に対するこれまでの認識を改める契機をもたらし、新たな視点の獲得へとつながるようになることを目的としている。また、作品の名場面を原文で鑑賞することも、貴重な読書体験となるにちがいない。この授業を履修することによって得られた英米児童文学に関する様々な知識は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際にも必ず役立つ。			
8. 学習目標	1. 英米の児童文学の古典と新しい児童文学の主要作家とその主要作品を学習し、説明できるようになる。 2. 英米以外の英語圏の児童文学の主要作家とその主要作品を学習し、説明できるようになる。 3. 英米の絵本の主要作家とその主要作品を学習し、説明できるようになる。 4. 英米の児童文学の時代的・文化的な背景を学習し、説明できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	児童文学作品への理解を深めるために、また、論理的な文章表現力を涵養するために、授業で考察した問題についてレポートを作成する課題を課す。学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 適宜プリントを配付する。 【参考書】 適宜授業で指示する。			
11. 成績評価の方法	修了レポート 40% 小テスト・レポート課題 40% 授業への積極的参加度、ディスカッションへの貢献度、その他 20%			
12. 受講生へのメッセージ	指定した範囲を事前に必ず読んでくること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。積極的にディスカッションに参加すること。辞書を必ず持参すること。			
13. オフィスアワー	初回にアナウンスする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	本科目用学習ノートブックを準備し、講義に望むこと。また、英語基礎演習 I の総復習をしておく。	
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。	
第 2 回	James Matthew Barrie, <i>Peter Pan</i> 読解練習 #1 倒置表現を中心に	事前学習	テキスト (pp. 5~23) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。	
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 5~23) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 3 回	James Matthew Barrie, <i>Peter Pan</i> 読解練習 #2 場面の対照表現を中心に	事前学習	テキスト (pp. 24~43) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。	
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 24~43) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 4 回	レポート作成の注意事項とディスカッション #1	事前学習	事前に配付されるプリントを熟読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱ったレポート作成の注意に配慮しながら、ディスカッションをもとに実際にレポートを作成する。	
第 5 回	Eleanor Farjeon, "The Flower Without A Name" 読解練習 #1 封建領主と荘園構造	事前学習	テキスト (pp. 7~8) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。	
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 7~8) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 6 回	Eleanor Farjeon, "The Flower Without A Name" 読解練習 #2 博物誌と天地創造	事前学習	テキスト (pp. 8~9) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。	
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 8~9) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 7 回	Eleanor Farjeon, "The Flower Without A Name" 読解練習 #3 象徴と表象	事前学習	テキスト (pp. 9~10) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。	
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 9~10) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 8 回	有島武郎「一房の葡萄」読解練習とディスカッション	事前学習	テキスト (pp. 51~61) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。	
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 51~61) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。	
第 9 回	レポート作成の注意事項とディスカッション #2	事前学習	事前に配付されるプリントを熟読する。	
		事後学習	今回授業で取り扱ったレポート作成の注意に配慮しながら、ディスカッションをもとに実際にレポートを作成す	

			る。
第 10 回	Oscar Wilde, “The Happy Prince” 読解練習 #1 倒置表現を中心に	事前学習	テキスト (pp. 1~3) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 1~3) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 11 回	Oscar Wilde, “The Happy Prince” 読解練習 #2 比較の as を中心に	事前学習	テキスト (pp. 4~6) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 4~6) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 12 回	Oscar Wilde, “The Happy Prince” 読解練習 #3 「幸福」をめぐって	事前学習	テキスト (pp. 7~9) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 7~9) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 13 回	Oscar Wilde, “The Happy Prince” 読解練習 #4 「美」をめぐって	事前学習	テキスト (pp. 10~12) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 10~12) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 14 回	Oscar Wilde, “The Happy Prince” 読解練習 #5 再び「幸福」をめぐって	事前学習	テキスト (pp. 13~14) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 13~14) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 15 回	レポート作成の注意事項とディスカッション #3	事前学習	事前に配付されるプリントを熟読する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったレポート作成の注意に配慮しながら、ディスカッションをもとに実際にレポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	英米文学演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3313
2. 授業担当教員	山口 敬雄		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文からなる英文を読む力を身につけるため、文学的英語テキストを精確に読む。英語テキストを正しい語彙と正しい文法で読むことはもちろんのこと、小説であるがゆえに生じる「行間」の意味作用をも、正しく追及する。また、文学作品が何らかの形で言及するところの西洋的な価値基準について検討し、日本と対照的な英米の諸相を概観すると同時に、両文化に共通する生命への価値観を考察する。		
8. 学習目標	1: 英米文学作品における英語表現を精読することができる。 2: 英文法・構文の知識を確実に修得し、長文を読み通すことができる。 3: 英米文学作品の歴史的・文化的な背景を知悉し、説明することができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	米文学作品への理解を深めるために、また、論理的な文章表現力を涵養するために、授業で考察した問題についてレポートを作成する課題を課す。学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】安永義夫編『Bitter & Sweet Love Stories 《英米珠玉短篇選》』金星堂、2014 年。 【参考書】適宜授業で指示する。		
11. 成績評価の方法	テスト 50% 小テスト・課題 30% 授業への積極的参加度・その他 20%		
12. 受講生への メッセージ	指定した範囲を事前に必ず読んで来ること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。事前に読んでこなかった学生の入室は許可しない。積極的にディスカッションに参加すること。辞書を必ず持参すること。		
13. オフィスアワー	初回にアナウンスする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction: 本科目のねらいと取り組みの解説	事前学習	本科目用学習ノートブックを準備し、講義に望むこと。また、英語基礎演習 I の総復習をしておく。
		事後学習	授業中に指摘された参考文献について検索し、必要ならば入手しておく。
第 2 回	William Saroyan, “The First Day of School” 読解 練習 #1	事前学習	テキスト (pp. 1~4) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 1~4) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 3 回	William Saroyan, “The First Day of School” 読解 練習 #2	事前学習	テキスト (pp. 5~8) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 5~8) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 4 回	William Saroyan, “The First Day of School” 読解 練習 #3	事前学習	テキスト (pp. 8~10) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 8~10) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 5 回	Erskine Caldwell, “The Strawberry Season” 読解練習 #1	事前学習	テキスト (pp. 10~12) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 10~12) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 6 回	Erskine Caldwell, “The Strawberry Season” 読解練習 #2	事前学習	テキスト (pp. 12~14) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 12~14) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 7 回	Erskine Caldwell, “The Strawberry Season” 読解練習 #3	事前学習	テキスト (pp. 14~16) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 14~16) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定

			着させる。
第 8 回	Mid-term Test	事前学習	ここまで授業で取り扱った範囲を、必ず 90 分以上かけて通読し、不明瞭な知識を整理する。
		事後学習	テストを機会に曖昧で定着していないと気づいた知識を見直し、整理する。
第 9 回	Ernest Hemingway, “Indian Camp” 読解練習 #1	事前学習	テキスト (pp. 17~20) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 17~20) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 10 回	Ernest Hemingway, “Indian Camp” 読解練習 #2	事前学習	テキスト (pp. 20~23) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 20~23) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 11 回	Ernest Hemingway, “Indian Camp” 読解練習 #3	事前学習	テキスト (pp. 23~24) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 23~24) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 12 回	Sherwood Anderson, “Brothers” 読解練習 #1	事前学習	テキスト (pp. 25~30) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 25~30) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 13 回	Sherwood Anderson, “Brothers” 読解練習 #2	事前学習	テキスト (pp. 30~37) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 30~37) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 14 回	Sherwood Anderson, “Brothers” 読解練習 #3	事前学習	テキスト (pp. 38~41) において知らない単語を調べ、通読し、概要を整理する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキスト (pp. 38~41) の意味を確実に理解しながら音読する。授業中に指摘された英単語についての記憶を定着させる。
第 15 回	Conclusion: 本科目のまとめ	事前学習	テキストにおいて記憶できていない単語を調べ、繰り返し通読し、概要を確認する。
		事後学習	今回授業で取り扱ったテキストの意味を確実に理解しながら音読し、要点を確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽 (小) (2 単位)		3. 科目番号	GELA1325
2. 授業担当教員	高木 麻衣子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	小学校教育において必要とされる音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌い、器楽アンサンブル、音楽づくり (言葉、動き、音を媒体として) を学ぶ。特にアンサンブルはグループ・ディスカッションを重視した活動となる。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによるアンサンブルに関心を持ち、演奏ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①ピアノ実技：毎回レベル毎に課題曲を提示するので、次週までに弾けるように練習をしてくること。 ②音楽理論：ほぼ毎回単元別の練習問題を提示するので、次週までに完成させ、疑問点や質問事項は次週に必ず聞くこと。 ③中間のまとめ (実技、筆記)、期末のまとめ (実技、筆記) を行う。 ④歌唱教材：1曲でも多くのレパートリーを持てるよう、「歌うこと」に積極的な姿勢で臨むこと。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 <ol style="list-style-type: none"> ① 全音楽譜出版部編『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社。 ② 阪井恵、有本真紀他著『2011年改訂版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社。 【参考書】 川辺 真著『わかりやすい楽典』音楽之友社。			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①実技発表 (ピアノ実技発表) 30% ②音楽理論 (試験) 30% ③平常点 (学習意欲・態度・学習進度・提出物) 40% ①～③を総合的に評価する			
12. 受講生へのメッセージ	「ピアノが弾けるようになる」ことは技術の習得です。したがって、日々の鍛錬を忘れずに積み重ね、努力すると必ず弾けるようになります。自分を信じて取り組み、出来る喜びを分かち合いましょう。保育・教育に携わる皆さんが音楽の楽しさ、素晴らしさを次世代に伝えていける伝達者になって欲しいと思っています。熱心に取り組まれることを期待しています！ 弾き歌いでは、小学校共通教材の中より個々の技量にあった、より多くの曲に触れてほしいと思います。			
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、課題曲提示	事前学習	鍵盤で「ド」の位置を理解しておくこと。	
		事後学習	各自の目標 (初級：音符と鍵盤の一体化、中級：楽譜に忠実に、上級：表現力のある演奏を目指して) を設定し、各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。	
第2回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論① (音部記号・楽譜について)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。	
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音部記号・楽譜について) に取り組む。	
第3回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論② (音名・変位記号)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。	
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音名・変位記号) に取り組む。	
第4回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論③ (音符と休符)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。	
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音符と休符) に取り組む。	
第5回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論④ (拍子とリズム)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。	
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (拍子とリズム) に取り組む。	
第6回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑤ (強弱記号、簡単な楽語)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。	
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (強弱記号、簡単な楽語) に取り組む。	
第7回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑧ (反復記号、装飾音符) グループアンサンブル① (グループ決め、曲決め)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。	
		事後学習	中間のまとめに向けた各自の課題曲を練習する。 中間のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。	
第8回	中間のまとめ (ピアノ弾き歌い実技発表・音楽理論に関する筆記試験)	事前学習	中間のまとめに向けた各自の課題曲を練習する。	
		事後学習	各自、期末試験に向けての目標を設定し、それに従って決めた各自の課題曲を練習する。	
第9回	ピアノ弾き歌いレッスン	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を	

	グループアンサンブル②（合奏練習）		練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 グループアンサンブルの個人練習をする。
第 10 回	ピアノ弾き歌いレッスン グループアンサンブル③（合奏練習）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 グループアンサンブルの個人練習をする。
第 11 回	ピアノ弾き歌いレッスン グループアンサンブル④（合奏発表）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第 12 回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑨（長音階）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題（長音階）に取り組む。
第 13 回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑩（短音階）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題（短音階）に取り組む。
第 14 回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑪（簡単なコードネーム）	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 期末のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。
第 15 回	期末のまとめ（（ピアノ弾き歌い実技発表・音楽理論に関する筆記試験）	事前学習	期末のまとめに向けた課題曲を練習する。 期末のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。
		事後学習	実技の復習、これまでに学習した音楽理論について復習をする。

1. 科目名 (単位数)	音楽 (小) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1325
2. 授業担当教員	田口 雅夫	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校教育において必要とされる音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌い、器楽アンサンブル、音楽づくり (言葉、動き、音を媒体として) を学ぶ。特にアンサンブルはグループ・ディスカッションを重視した活動となる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによるアンサンブルに関心を持ち、演奏ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① ピアノ奏法は、個人差があるので苦手な学生は出題された課題をよく練習しておくこと。 ② 弾き歌いは自分の演奏レベルを確認できるので、必ず歌うようにすること。 ③ 高度な理論は必要ありませんが、指導技術として基礎的な内容はよく理解しておくこと。 ④ まとめとして、場慣れの意味で全員の前のでの演奏に取り組む。 ⑤ 既にピアノの技術を身に付けている学生には、その程度に合わせた課題を提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<ol style="list-style-type: none"> ①全音楽譜出版部編「全訳バイエル教則本」 ②「教育養成課程 小学校音楽科教育法」 ③五線ノートは様々な種類があるので、必要な時期に指示します。 		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価内容 <ol style="list-style-type: none"> ①授業への積極的態。 ②学習意欲とピアノ・歌唱・弾き歌い実技の状況。 ③理論を含むレポート。 以上を総合的に評価する。 2. 評価配分 <ol style="list-style-type: none"> ①授業への積極的参加度・学習意欲 40% ②実技試験 40% ③レポート 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演奏技術向上のためには、一度に長い時間の練習ではなく、毎日少しの時間でも取り組む方が効果的です。 2. 焦らず、こつこつと練習を積み上げることが大切です。出来るか否かではなく、努力することが必要です。 3. 少しピアノを弾ける学生は、その能力を上手く使う方法を習得しましょう。 4. 音楽の技術的なことで(ピアノ・歌)不安や心配のある学生は遠慮なく申し出ること。心配は要りません。 5. 授業中に関しては以下の事については厳しく注意します。 <ol style="list-style-type: none"> (I) 音楽室使用規則を守ること (飲食・楽器の扱い方等) (II) スマートフォン等を使用しない。 (III) 授業中の私語は、真面目に受講している者にとって迷惑です。 		
13. オフィスアワー	授業前後の時間を活用して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、自己紹介、音楽学習歴調査、音楽理論に対する知識調査、音楽理論で使用するプリント配布。教則本のチェックシートについての説明。	事前学習	バイエルを各自の能力に沿って予習しておく。
		事後学習	音楽に対する自分の経験の有無・能力を確認しておく。
第 2 回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論 譜表・音符・休符・音名階名について。 2. ピアノ奏法実習① バイエル教則本より選曲・演奏。 	事前学習	音楽理論内容の確認。各自に指示されたピアノ楽曲の予習
		事後学習	弾いているピアノ曲を階名唱してみる。学習したピアノ曲を練習しておく。指番号等基本的な楽譜の読み方も実践してみる。
第 3 回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論 リズムと拍子・リズム唱について。 2. ピアノ奏法実習② バイエル教則本より選曲・演奏。 	事前学習	音楽理論内容を復習しておく。生活の中に感じられるリズムに意識をもとう。
		事後学習	現在練習しているピアノ曲、その前後の曲を弾いてみる。
第 4 回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論 変化記号(臨時記号・調号)について。 2. ピアノ奏法実習③ バイエル教則本より選曲・演奏 	事前学習	練習してきたピアノ曲のリズムをリズム唱したり手で叩いてみる。
		事後学習	ピアノ曲の苦手な箇所を確認し、部分練習を行う。
第 5 回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論 簡単な楽語の理解。 2. ピアノ奏法実習④(歌唱も含む) バイエル教則本より選曲・演奏 	事前学習	理論についての疑問があればメモしておくように。
		事後学習	次の練習曲に取り組む。楽譜上にある全ての中に不明なものは無いか探してみる。
第 6 回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論 音程・和音について 2. ピアノ奏法実習⑤(歌唱も含む) 	事前学習	発表する曲をスムーズに弾けるように、記号の確認もしておく。
		事後学習	自分の演奏技術の確認及び復習。大きな声で

	バイエル教則本より選曲・中間演奏発表		歌唱に慣れてみよう。
第 7 回	1. 音楽理論 コードネーム 2. ピアノ奏法実習⑥ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	出来る限り弾き歌いに取り組む。声の大きさも確認しておく。
		事後学習	コードネームの付いている楽譜を見て弾いてみよう。
第 8 回	1. 音楽理論 和音の効果について。 2. ピアノ奏法実習⑦ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	小学校で取り上げられている歌で、知っている曲を思い出しておきましょう。
		事後学習	和音については理解しにくいので、理論の復習が不可欠です。
第 9 回	1. 音楽理論 いろいろな伴奏形について。 2. ピアノ奏法実習⑧ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	バイエル教則本より、いろいろな伴奏形を見つけておく。
		事後学習	同じ曲をいろいろな伴奏形で弾いてみる。
第 10 回	1. 音楽理論 2. アンサンブル①使用楽器について。 3. ピアノ奏法実習⑨ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	小学生で経験したアンサンブルを思い出してみる。
		事後学習	楽器の奏法について確認をしておく。
第 11 回	1. 音楽理論 2. アンサンブル②アンサンブルの編曲法。 3. ピアノ奏法実習⑩ 共通教材を弾いてみる。	事前学習	編曲する曲を決めておく。(曲の感じは自由で良い)
		事後学習	各自、頭の中で編曲した音をイメージしてみよう。
第 12 回	1. 音楽理論 2. アンサンブル③グループで編曲をしてみる。 3. ピアノ奏法実習⑪ ひきうたい発表曲の選曲と準備	事前学習	初歩的な質問でも構いません。質問を探してみてください。
		事後学習	次回の発表に向けてグループで協力をし、練習をしておく。
第 13 回	1. 音楽理論 2. アンサンブル④グループ発表・ディスカッション 3. ピアノ奏法実習⑬ 発表の準備	事前学習	発表の前に必要な確認をしておく。発表までの自己反省の確認をしておく。
		事後学習	アンサンブルについての学習成果確認。ピアノ発表は暗譜を意識して練習する
第 14 回	1. ピアノ奏法実習発表	事前学習	歌うテンポが適切であるか確認する。教室で自分の歌声がどこまで届いているかを確認する。
		事後学習	自己評価をする。
第 15 回	音楽理論・ピアノ奏法についての総括(質問)	事前学習	質問事項をまとめておく。
		事後学習	授業で学習したことを確認する。

1. 科目名 (単位数)	音楽 (小) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1140 GELA1325
2. 授業担当教員	本野 洋子		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校教育において必要とされる音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌い、器楽アンサンブル、音楽づくり (言葉、動き、音を媒体として) を学ぶ。特にアンサンブルはグループ・ディスカッションを重視した活動となる。		
8. 学習目標	1. ピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによるアンサンブルに関心を持ち、演奏ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	① ピアノ実技: 「弾き歌い」の課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ② グループ活動: お互いに協力し合い、練習をして合奏の発表に臨むこと。 ③ 第4, 8, 11, 15回に「弾き歌い」の発表、第14回にグループ発表 (合奏) を行います。 ④ 第15回目に音楽理論のまとめのテスト (筆記) を行います。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法 改訂版一小学校教員養成課程用一』音楽之友社、2011年。 二宮紀子『歌って、弾いて、書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 ※各自 五線ノートを一冊用意すること。		
11. 成績評価の方法	①ピアノの弾き歌い 40% ②グループ・アンサンブルの発表 20% ③音楽理論の筆記テスト 20% ④平常点 (学習意欲/態度/進捗・提出物) 20% ※①～④を総合的に判断する。 なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要です。		
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園や小学校での音楽教育に必要な基礎的な音楽理論やピアノ演奏技能、リコーダー、打楽器の奏法やアンサンブルのもち方等を学びましょう。演奏技能の習得には少しずつ毎日練習することが必要です。また、人と音とを合わせる喜びを体験しましょう。		
13. オフィスアワー	授業時に通知。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要)、音楽歴調査、教科書解説、歌唱共通教材解説。 歌唱共通教材1曲を使ってドレミ唱、拍に合わせて歌詞のリズムを叩く。拍、リズム、音高の変化の理解。	事前学習	教科書の予習。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことの復習。
第2回	ピアノの演奏及び弾き歌い① 音楽理論①楽譜とは何か。音楽を縦と横で捉える。ドレミ唱の意味と拍と分割。	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。拍と分割について授業で指導されたことの復習。
第3回	ピアノの演奏及び弾き歌い② 音楽理論②拍と拍の分割から生まれる様々なリズムを体得する。	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。拍子とリズムについて授業で指導されたことの復習。
第4回	ピアノの演奏及び弾き歌い発表 音楽理論③連符と付点のリズム	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。連符と付点のリズムについて授業で指導されたことの復習。
第5回	ピアノの演奏及び弾き歌い③ 音楽理論④拍子の違いによるリズムの捉え方。自分で伴奏和音を考える。	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。伴奏和音の考え方について等授業で指導されたことの復習。
第6回	ピアノの演奏及び弾き歌い④ 音楽理論⑤伴奏和音のつながりとその表記の仕方 (和音記号、カデンツ、コードネーム)	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。和音について授業で指導されたことの復習。
第7回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑤ 音楽理論⑥音階とは何か。長音階。	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。長音階について指導されたことの復習。
第8回	ピアノの演奏及び弾き歌い発表 音楽理論⑦#、b 4つまでの長音階	事前学習	発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。#、b 4つまでの長音階について授業で指導されたことの復習。
第9回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑥	事前学習	課題曲の練習。

	音楽理論⑧日本の音階	事後学習	レッスンの復習。日本の音階について授業で指導されたことの復習。
第 10 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑦ 音楽理論⑨様々な音階とその表記	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。様々な音階とその表記について授業で指導されたことの復習。
第 11 回	ピアノの演奏及び弾き歌い発表 わらべうたのオスティナート伴奏について	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。わらべうたについて授業で指導されたことの復習。
第 12 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑧ 打楽器とリコーダー、トーンチャイム等によるアンサンブル①(小学校教材 1 曲をアンサンブル用に編曲する)	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。グループ・アンサンブルについて授業で指導されたことの復習。
第 13 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑨ 打楽器とリコーダー、トーンチャイム等によるアンサンブル②(グループ毎のアンサンブルの工夫)	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。グループ・アンサンブルについて授業で指導されたことの復習。
第 14 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑩ 打楽器とリコーダー、トーンチャイム等によるアンサンブルの発表(グループ別)	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。グループ・アンサンブルの発表に関して工夫点等レポート課題の作成。
第 15 回	ピアノの演奏及び弾き歌い発表 音楽理論のまとめ	事前学習	課題発表曲の練習。音楽理論について勉強したことの復習。
		事後学習	授業で指導されたことの復習。

1. 科目名 (単位数)	音楽 (保育士) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1324
2. 授業担当教員	本野 洋子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義及び演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識、技術を身につけ、理解を深める。具体的には子どもの歌を歌うのに必要な発声法、ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力、簡易楽器などの扱いや奏法に関する知識と技術を身につけることを目指す。読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても、実践を通して学ぶ。		
8. 学習目標	①歌うための声の出し方を学習し、指導できるようになる。 ②音楽の基礎的な知識・理論を理解し、読譜の能力を身につける。 ③ピアノ及び歌の基礎的な演奏技能を習得する。 ④子どもの歌の「弾き歌い」を実践できる。 ⑤簡易楽器などの扱いや奏法を知る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	① 音楽理論：練習問題を次週までに仕上げることがある。 ② ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ③ こどもの歌：レパートリーを増やす。 ④ こどもの歌の弾き歌い(コードネーム奏を含む)：練習を重ねて慣れる。 ⑤ 第14回に筆記テスト、第2回に課題曲の発表, 第5, 8, 11, 15回に「弾き歌い」の発表を行います。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。 ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 【参考書】 ・東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 ・東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 ※各自、五線ノートを用意すること。		
11. 成績評価の方法	①ピアノの弾き歌い 40% ②音楽理論の筆記テスト 30% ③平常点(学習意欲/態度/進度・提出物) 30% ※①～③を総合的に判断する。 なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要です。		
12. 受講生へのメッセージ	基礎的な音楽理論の理解を深め、幼稚園、保育園で歌われる子どもの歌をしっかりとピアノで演奏し、弾き歌いできる演奏技能を身に付けられるよう学びましょう。演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大事です。		
13. オフィスアワー	授業時に通知。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス説明、授業概要) 音楽歴調査、課題曲解説	事前学習	教科書を予習。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことの復習。
第2回	経験値に応じた課題曲演奏発表 グレードの決定。子どもの歌について解説	事前学習	発表曲の練習。
		事後学習	子どもの歌について授業で指導されたことの復習。
第3回	ピアノ演奏及び弾き歌い① 音楽理論①ドレミ唱と歌のリズム	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。ドレミ唱と歌のリズムについて授業で指導されたことの復習。
第4回	ピアノ演奏及び弾き歌い② 音楽理論②拍の分割、音符、休符の名称	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。拍の分割、音符、休符の名称について授業で指導されたことの復習。
第5回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 音楽理論③付点と連符	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。付点と連符について授業で指導されたことの復習。
第6回	ピアノ演奏及び弾き歌い③ 音楽理論④和音のゆれ、和音伴奏を考える	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。和音のゆれについて授業で指導されたことの復習。
第7回	ピアノ演奏及び弾き歌い④ 音楽理論⑤和音伴奏のつながりとその表記の仕方	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習和音伴奏のつながりとその表記の仕方について授業で指導されたことの復習。
第8回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 音楽理論⑥長音階	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。長音階について授業で指導されたことの復習。

第 9 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑤ 音楽理論⑦#、b4つまでの長音階	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。#、b4つまでの長音階について授業で指導されたことを復習しておく。
第 10 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑥ 音楽理論⑧調号	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。調号について授業で指導されたことの復習。
第 11 回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 音楽理論⑨ I,IV,V度の和音とコードネーム	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。 I,IV,V度の和音とコードネームについて授業で指導されたことの復習。
第 12 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑦ 音楽理論⑩属七の和音とコードネーム	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。属七の和音とコードネームについて授業で指導されたことの復習。
第 13 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑧ 音楽理論⑪コードネーム奏について	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。コードネーム奏について授業で指導されたことの復習。
第 14 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑨ 音楽理論まとめ(音楽理論の筆記テスト)	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。学習した音楽理論について授業で指導されたことの復習。
第 15 回	課題曲演奏発表 今後の学びについて	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	今後の学びについて授業で指導されたことを実践する。

1. 科目名 (単位数)	音楽／音楽 (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1140
2. 授業担当教員	杉原 由利子	5. 開講学期	春期/秋期
4. 授業形態	講義及び演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識、技術を身につけ、理解を深める。具体的には子どもの歌を歌うのに必要な発声法、ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力、簡易楽器などの扱いや奏法に関する知識と技術を身につけることを目指す。読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても、実践を通して学ぶ。		
8. 学習目標	①歌うための声の出し方を学習し、指導できるようになる。 ②音楽の基礎的な知識・理論を理解し、読譜の能力を身につける。 ③ピアノ及び歌の基礎的な演奏技能を習得する。 ④子どもの歌の「弾き歌い」を実践できる。 ⑤簡易楽器などの扱いや奏法を知る。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	① ピアノ実技：授業終了時に次週の課題を提示するので必ず譜読みと練習をして臨んで下さい。 ② 音楽理論：コードネーム学習に使用するツールの作成を次週までに指示することがあります。 ③ 第 8 回と第 15 回に、課題曲から任意の曲を選択し発表形式の小テストを実施します。 ④ 歌唱教材：1 曲でも多くのレパートリーを持てるよう、「歌うこと」に積極的な姿勢で臨むこと。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 改訂 歌唱教材伴奏法 バイエルとツェルニーによる 教育芸術社 印刷楽譜適宜使用 配布楽譜をきちんと管理する為に A4 クリアフィルブックを用意して下さい。 コードネームの学習に使用しますので、毎回はさみと糊 (テープ糊が望ましい) を持参して下さい。 【参考書】 川辺 真著『わかりやすい楽典』音楽之友社。		
11. 成績評価の方法	① 小テスト 2 回 (ピアノ実技発表) ② 音楽理論 (提出物) ③ 平常点 (出席・学習意欲・態度(きちんとした挨拶)・学習進度)	40% 10% 50%	
12. 受講生へのメッセージ	「ピアノが弾けるようになる」ことはすなわち技術の習得です。日々の鍛錬を忘れずに積み重ね、努力すると必ず弾けるようになります。自分を信じて取り組み、出来る喜びを分かち合いたいと思います。気持ちよく授業を進める為または素晴らしい保育者としても絶対に必要なこととして、学生の皆様すべてにきちんとした挨拶をして頂くよう求めます。声を出し、視線を合わせて挨拶をすることを必ず行いましょう！保育・教育に携わる皆さんが音楽の楽しさ、素晴らしいさを次世代に伝えていける伝達者になって欲しいと思っています。この授業では欲張ってたくさんの方に取り組みます。事前の譜読みや練習が必須です。それなしに授業に臨んでも有意義な時間が過ぎません。熱心にそして楽しく取り組まれることを期待しています！		
13. オフィスアワー	授業前後の時間 (最初の授業時に提示)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、経験者用楽曲選定シート配布、授業使用ツールの作成 課題曲提示、音楽理論復習プリントの配布	事前学習	鍵盤で“ド”の位置を理解しておくこと。
		事後学習	各自の目標 (初級：音符と鍵盤の一体化、中級：楽譜に忠実に、上級：表現力のある演奏を目指して) を設定し、各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ実技 (進度別) 経験者＝テキスト内バイエルの初見練習、平易な楽曲の練習 (配布楽譜) 未経験者＝配布楽譜バイエルの断片で導入練習 弾き歌い＝教科書 P12、15 「ちょうちょう」コードネームと歌唱の基本 音楽理論教科書 P126 	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標にピアノ練習、弾き歌いの課題曲を練習する。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ実技 (進度別) 経験者＝バイエルの初見練習、平易な楽曲の練習 未経験者＝配布楽譜バイエルの断片で導入練習 弾き歌い＝カデンツの学習ハ長調、教科書 P23 「なかよし」コードネームと歌唱の基本 音楽理論教科書 P126 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、プリント
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ実技 (進度別) 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ 弾き歌い＝カデンツの学習ハ長調、教科書 P9 「かっこう」、コードネームと伴奏形 音楽理論教科書 P126 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ実技 (進度別) 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ 弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習ハ長調、教科書 P55 「こぎつね」、コードネームと伴奏形 音楽理論教科書 P126 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、プリント
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ実技 (進度別) 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習

	<ul style="list-style-type: none"> ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習ト長調、教科書 P103 「うみ」コードネームと伴奏形 ・音楽理論教科書 P126 		
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習ト長調、教科書 P63 「ちょうちょう」移調について、コードネームと伴奏形 ・音楽理論前週復習プリント配布 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、プリント
第 8 回	小テスト＝ピアノ実技、研究	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習へ長調、教科書 P39 「ぶんぶんぶん」、教科書のほか印刷楽譜使用 ・音楽理論教科書 P126 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・弾き歌い＝歌唱の基本とカデンツの学習へ長調、教科書 P63 「きらきらぼし」移調について、教科書のほか印刷楽譜使用 ・音楽理論教科書 P126 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、プリント
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・アンサンブルと弾き歌い＝教科書 P122 「茶色のこびん」ほか印刷楽譜使用 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、次回アンサンブルで使用する楽器のアイデア草案または製作
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・伴奏付けをしてみよう！教科書 P71 「森のくまさん」教科書に書き込んで実施 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・伴奏付けと弾き歌い＝配布楽譜「小さな世界」空欄に書き込んで実施 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技（進度別） 経験者＝個々に提示された楽曲の練習 未経験者＝ ・伴奏付けと弾き歌い＝教科書 P107 「あわてんぼうのおつかい」教科書に書き込んで実施 ・本講義において学習した音楽理論のまとめ 	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 15 回	まとめと小テスト＝ピアノ実技、研究	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	実技練習
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ / 音楽Ⅱ (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2140
2. 授業担当教員	杉原 由利子		
4. 授業形態	演習、個人レッスン (キーボード)、小集団学習 (器楽合奏)、一斉学習 (歌唱)、ロールプレイ	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育、幼児教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏を行う。また、子どもの歌を歌うのに必要とする発声法についても学習する。それらの学習を通して、個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 歌うための声の出し方を学習し、指導できる。 ともすれば「大きな口をあけて」とか「もっと元気に、大きな声で」という指導が保育・教育現場でなされてきているが、子どもたちにとって無理なく歌える声の出し方について習得する。 ピアノを用いた簡単な弾き歌いができる。 ピアノ演奏の得意な学生については、しっかり歌いながら演奏することを、そしてレパートリーを増やす。得意でない学生は、コードネームをつけることによって、自分に合った伴奏を作り演奏する技術を身に着けることによってレパートリーを増やす努力をする。 保育現場で用いられている楽器などを用いた合奏指導の実践ができる。 簡易楽器における多彩な演奏法を知り合奏において応用する トーンチャイム演奏法 2 声部や 3 声部などより複雑な曲をグループで演奏する技術を身に着ける。 指揮法：保育・教育の現場で使える指揮の仕方をロールプレイによって習得し、指揮ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ピアノの弾き歌いやアンサンブルにおいて試験を兼ねた演奏会で成果を発表する。 ピアノ実技：個々の課題で、実技練習する。 アンサンブル：グループを形成してアンサンブル演奏の練習をする。 基本的な音楽理論について授業内容の復習プリントを自習する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 1 年生で使用したピアノ教則本 (バイエルなど) 在原章子菊本哲也ほか『新版 和音伴奏による幼児のうた 100 曲』全音楽譜出版社 印刷楽譜適宜使用</p> <p>【参考書】 本廣明美/加藤照恵 (編著)『基礎から学べるピアノ 1, 2, 3』ドレミ楽譜出版社。 松山祐士 編『こどもの歌名曲アルバム』ドレミ楽譜出版社。 本真紀、阪井恵、山下薫子 (編)『教員養成課程 小学校音楽科教育法 2011 年改訂版』有教育芸術社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 (出席・挨拶・参加姿勢・提出物) 50%</p> <p>小テスト (第 8、15 回に実施/実技発表=ピアノ弾き歌い、ピアノ) 50%</p> <p>欠席が多くなって単位取得が危ぶまれるような場合、レポートなどの代替手段での評価を希望なさる学生諸君がいますが、授業の形態上、こうした措置がむづかしい分野であるので、欠席に関して単位取得不可能な回数に達することのないよう、留意してください。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>音楽の基礎学習として 2 年目のクラスなので、少し発展的な内容も加味して授業を実施したいと考えています。ピアノ演奏技術に関しては経験者 2 グレードと未経験者の、計 3 グレードに区分して授業を行います。受動的な姿勢に傾くことなく積極性を持って共に授業を作り上げたいと思います。発表の機会も時間が許す限りたくさん用意し、学生の皆様が相互に刺激を与え合える場にできるように工夫を行いますので、是非『本番に慣れる』という目標も達成して頂きたいです。弾き歌いに関しては「未習」の楽曲を 1 曲でも減らすことを念頭に授業内で毎回数曲をこなすスピード感で進めます。内容としては表層的な部分に触れるのみに終始しますが、その先は是非各自で鍛錬をしてください。「音楽」で学習を始めたコードネームに関してはこの 15 回の授業を通して完全に自分のものにすべく学習を進めましょう。個々の時間、グループでの時間各々が有益なものになるよう創意工夫して授業を行いたいと考えています。尚、受講生の進度により、シラバスを中途で変更するのが望ましい場合は予め告知の上、改変シラバスを採用することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス、講義概要、演奏課題についてオリエンテーション、演奏グレード判定、授業使用ツールの製作	事前学習	演奏予定の曲の候補を決める (数曲)
		事後学習	楽曲の譜読み
第 2 回	ピアノ実技指導/弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律と歌、伴奏と歌というスタイルで弾き歌いの練習をする。6 回目まで毎回 2 乃至 3 曲学習	事前学習	ピアノ練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、左手の強化練習
第 3 回	ピアノ実技指導/弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律と歌、伴奏と歌というスタイルで弾き歌いの練習をする。6 回目まで毎回 2 乃至 3 曲学習	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、左手の強化練習
第 4 回	ピアノ実技指導/弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方 (両手) で弾き歌いの練習をする。6 回目まで毎回 2 乃至 3 曲学習	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 5 回	ピアノ実技指導/弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方 (両手) で弾き歌いの練習をする	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習

	する。6 回目まで毎回 2 乃至 3 曲学習		
第 6 回	ピアノ実技指導/ひき歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…初見でごく短い楽曲の弾き歌いを試みる	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、初見の練習 (プリント配布)
第 7 回	ピアノ実技指導と弾き歌い・コードネームの学習 *ピアノ…テキストからここに楽曲を選定し練習する *弾き歌い…初見でごく短い楽曲の弾き歌いを試みる	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習初見の練習 (プリント配布)
第 8 回	小テスト (実技発表、研究)	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 9 回	ピアノ実技指導/ひき歌い/アンサンブルの実践 *ピアノ…テキストから個々に楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方 (両手) で弾き歌いの練習をする。 *アンサンブル…ピアノ、トーンチャイムなどを用いたアンサンブルを行う	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、アンサンブルパートの練習
第 10 回	ピアノ実技指導/弾き歌い/アンサンブルの実践 *ピアノ…テキストから個々に楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方 (両手) で弾き歌いの練習をする。 *アンサンブル…ピアノ、トーンチャイムなどを用いたアンサンブルを行う	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、アンサンブルパートの練習
第 11 回	ピアノ実技指導/弾き歌い/アンサンブルの実践 *ピアノ…テキストから個々に楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方 (両手) で弾き歌いの練習をする。ピアノ、トーンチャイムなどを用いたアンサンブルを行う	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、次回アンサンブルで使用する楽器のアイディア草案または製作
第 12 回	ピアノ実技指導/弾き歌い/アンサンブルの実践 *ピアノ…テキストから個々に楽曲を選定し練習する *弾き歌い…旋律伴奏両方 (両手) で弾き歌いの練習をする。 *アンサンブル…ピアノ、トーンチャイムなどを用いたアンサンブルを行う	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
第 13 回	模擬保育体験① 指導者役と園児に分かれ模擬保育を実施する	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、模擬保育の感想文を書く (次週提出)
第 14 回	模擬保育体験② 指導者役と園児に分かれ模擬保育を実施する	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習、模擬保育の感想文を書く (次週提出)
第 15 回	小テスト (実技発表、研究)	事前学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習
		事後学習	ピアノ練習、弾き歌いの練習

1. 科目名 (単位数)	音楽科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2394 EDEL2315
2. 授業担当教員	田村 にしき		
4. 授業形態	講義、演習 (全員、個人、グループ)	5. 開講学期	
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、「音楽 (初等・小) 及びⅡ」で学んだ基本的な内容を踏まえて、小学校音楽科の授業ができるようになることを目指す。実際には、小学校の授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について話し合ったり、音楽科で扱う教材研究を行ったりし、教育方法や教材開発について考える。その上で、音楽科学習指導案を作成して、グループによる模擬授業を行い、全員でディスカッションする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校音楽科の目標と内容を理解し、説明することができる。 2. 授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について、根拠を示して意見を述べることができる。 3. 小学校音楽科学習指導案を作成して模擬授業ができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループごとに学習指導案を提出する。 2. 授業内容をもとに、レポート課題を提示する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 有本真紀・坂井恵・山下薫子 編著『教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社。 その他、必要なものはプリントにして配布する。</p> <p>【参考書】 1. 『児童用教科書「音楽のおくりもの」1～6』教育出版。 2. 『児童用教科書「小学生の音楽」1～6』教育芸術社。 ※指導書や小学生用の教科書は、音楽室に置いてあり、指導案を作成する際等に閲覧することができます。 ※模擬授業の際に使用するので、「音楽Ⅱ」で使用していたソプラノリコーダーを指示された際は持参してください。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点 (学習意欲・態度・学習進度・提出物) 40% 2. 発表 (模擬授業への取り組み) 40% 3. 学習指導案や レポート等の提出物 20% <p>※1～3を総合的に評価する。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>小学校の教員となった時に、効果的な音楽科の授業ができるよう、課題意識を持って講義や討論に臨んでください。この授業で教師の働きかけ、子どもの表現、授業の進め方等について討論を重ねることで、多様な視点で授業を見ることができるようになることを目指しましょう。また、自ら学習指導案を作成し、模擬授業を行って、また次の実践に生かしていく力を養っていきましょう。</p> <p>授業を受ける上で、下記の基本的な事項は守りましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽室の使用の規則 (ピアノの扱い方、飲食厳禁等) を守りましょう。 (2) 携帯電話の使用は禁止です。また、授業に関係のない私語はやめましょう。 (3) 宿題やレポートは、指定した日までに提出しましょう。期日を過ぎると、内容が良くても評価は低くなります。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方、成績評価等について)	事前学習	教科書を準備して講義に臨むこと。
		事後学習	教科書 (p. 90) の《虫のこえ》の楽譜を見て、歌えるようにしておくこと。
第 2 回	授業の実践事例の分析及びディスカッション (小学校の音楽の授業のビデオ記録の視聴を通して)	事前学習	教科書 (p. 90) の《虫のこえ》の楽譜を見て、歌えるようにしておくこと。
		事後学習	教科書 (p. 106) の《ふるさと》の楽譜を見て、範唱しながら旋律を弾くことができるように練習すること。
第 3 回	教材研究①—《ふるさと》の歌唱指導	事前学習	教科書 (p. 106) の《ふるさと》の楽譜を見て、範唱しながら旋律または伴奏を弾くことができるように練習すること。
		事後学習	教科書 (p. 106) の《ふるさと》の楽譜を見て、範唱しながら旋律または伴奏を弾くことができるように復習すること。
第 4 回	教材研究②—《ふるさと》のリコーダーアンサンブル	事前学習	音楽Ⅱで学んだソプラノリコーダーの演奏の仕方について復習しておくこと。
		事後学習	《ふるさと》の授業展開を考え、学習指導案を作成すること。
第 5 回	教材研究③—《ふるさと》の模擬授業	事前学習	《ふるさと》の授業展開を考え、学習指導案を作成し、教師役としての発問や板書計画を考えておくこと。
		事後学習	模擬授業を振り返って、良かった点、改善点を評価カードにまとめておくこと。
第 6 回	学習指導計画 指導案作成① —学習指導案の書き方に関する講義、模擬授業のグループ決め—	事前学習	模擬授業で扱いたい教材を、教科書 (pp. 86-107) の中から選んでおくこと。
		事後学習	グループごとに模擬授業で扱う教材を決定し、学習指導案の作成を進めること。
第 7 回	教材研究④—器楽合奏、学習指導案作成②	事前学習	教科書 (pp. 146~147) の《威風堂々》の旋律をリコーダーで演奏できるように予習すること。
		事後学習	教科書 (pp. 146~147) の《威風堂々》の旋律をリコーダ

			一で演奏できるように復習すること。
第 8 回	教材研究⑤—器楽合奏、学習指導案作成③	事前学習	教科書 (pp. 146～147) の《威風堂々》のグループ合奏に取り組むために、各自の担当楽器を練習すること。
		事後学習	教科書 (pp. 146～147) の《威風堂々》のグループ合奏で担当した楽器を復習すること。
第 9 回	教材研究⑥—器楽合奏、学習指導案作成④	事前学習	教科書 (p. 26) を読み、トーンチャイムとミュージックベルについて理解しておくこと。
		事後学習	トーンチャイムとミュージックベルの演奏方法について復習すること。
第 10 回	教材研究⑦—器楽合奏、グループごとに作成した学習指導案の提出	事前学習	トーンチャイムとミュージックベルの演奏方法について復習すること。
		事後学習	提出した学習指導案に基づいて、発問や板書計画を具体的に考えておくこと。
第 11 回	模擬授業の発表及びディスカッション①—低学年の歌唱活動—	事前学習	模擬授業で扱う曲を、事前に教科書で予習しておくこと。
		事後学習	模擬授業を振り返って、良かった点、改善点を評価カードにまとめておくこと。
第 12 回	模擬授業の発表及びディスカッション②—中学年の歌唱活動—	事前学習	模擬授業で扱う曲を、事前に教科書で予習しておくこと。
		事後学習	模擬授業を振り返って、良かった点、改善点を評価カードにまとめておくこと。
第 13 回	模擬授業の発表及びディスカッション③—高学年の歌唱活動—	事前学習	模擬授業で扱う曲を、事前に教科書で予習しておくこと。
		事後学習	模擬授業を振り返って、良かった点、改善点を評価カードにまとめておくこと。
第 14 回	模擬授業の発表及びディスカッション④—リコーダーの導入、または鑑賞活動—	事前学習	模擬授業で扱う曲を、事前に教科書で予習しておくこと。
		事後学習	模擬授業を振り返って、良かった点、改善点を評価カードにまとめておくこと。
第 15 回	まとめ、レポート課題提出	事前学習	これまで学習した教材や模擬授業を振り返って、音楽科教育で大切なことについて、ノートにまとめておくこと。
		事後学習	音楽科指導法の授業を振り返り、今後音楽の授業を行う上での、自己課題をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	音楽科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2315
2. 授業担当教員	福島 省吾	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習 (全員、個人、グループ)		
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」及び「音楽Ⅱ」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	本講義では、「音楽 (初等・小) 及びⅡ」で学んだ基本的な内容を踏まえて、小学校音楽科の授業ができるようになることを目指す。実際には、小学校の授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について話し合ったり、音楽科で扱う教材研究を行ったりし、教育方法や教材開発について考える。その上で、音楽科学習指導案を作成して、グループによる模擬授業を行い、全員でディスカッションする。		
8. 学習目標	1. 小学校音楽科の目標と内容を理解し、説明することができる。 2. 授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について、根拠を示して意見を述べるができる。 3. 小学校音楽科学習指導案を作成して模擬授業ができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. グループごとに学習指導案を検討し、各自それを提出する。 2. テキストの内容をもとにしたレポート課題を提示する。 3. 共通教材の楽曲を一曲でも多く練習する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 全音楽譜出版部編『全訳バイエル教則本』全音楽譜出版社。 有本真紀・坂井恵・山下薫子 編著『教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社。 上記の教科書を1年次で購入していない学生は、必ず購入すること。 その他、必要なものはプリントにして配布する。 【参考書】 1. 『児童用教科書「音楽のおくりもの」1～6』教育出版。 2. 『児童用教科書「小学生の音楽」1～6』教育芸術社。 ※指導書や小学生用の教科書は、音楽室に置いてあり、指導案を作成する際等に閲覧することができる。 ※模擬授業の際に使用するので、「音楽Ⅱ」で使用したソプラノリコーダーを指示された際は持参すること。		
11. 成績評価の方法	評価区分 1. 発表 (弾き歌い実技試験、リコーダ奏法実技試験、模擬授業への取り組み) 40% 2. 学習指導案や レポートなどの提出物 40% 3. 平常点 (学習意欲・態度・ピアノ学習進度) 20% ※1～3を総合的に評価する。 なお、本学規定により、12回以上の出席が確認できない場合は単位の認定はしない。		
12. 受講生へのメッセージ	小学校の教員となった時に、音楽教育の基本的な目標と目的を深く理解し、それに沿って効果的な音楽科の授業ができるよう、課題意識を持って講義や討論に臨むこと。この授業で教師の働きかけ、子どもの表現、授業の進め方などについて討論を重ねることで、多様な視点で授業を見るができるようになることを目指すこと。また、自ら学習指導案を作成し、模擬授業を行って、また次の実践に生かしていく力を養っていくよう努力すること。 授業を受ける上で、下記の基本的な事項は守ること。 (1) 音楽室の使用の規則 (ピアノの扱い方、飲食厳禁等) を守ること。また、アイホンなどの充電行為は禁止。 (2) 携帯電話の使用は禁止。また、授業に関係のない私語はやめること。 (3) 宿題やレポートは、指定した期日までに提出すること。期日を過ぎると、内容が良くても評価は低くなる。 (4) 遅延による遅刻は、遅延証明書を提示すること。		
13. オフィスアワー	最初の授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・自己紹介・教科目の性格の説明・授業の進め方 ・成績評価等について説明 ・プリント3種配布(シラバス・指導要領一覧・進度票) ・共通教材1年生《うみ》を斉唱 ① ・《うみ》の簡易伴奏の練習	事前学習	教科書を準備して講義に臨む。 シラバスを読んで授業内容を理解する。 レポート用紙を用意する。 教科書 p. 86《うみ》の楽譜を見て歌えるようにしておく。
		事後学習	教科書 p. 86《うみ》の楽譜を見て、伴奏が弾けるようにしておく。 シラバスの内容を確認する。
第2回	音楽教育概論 (世界の5大音楽教育論) ① 【教育基本法の改正と小学校教育における音楽科の役割】(p6~7)の輪読と解説 教材研究: 1年生共通教材《うみ》の楽曲分析 ② 《うみ》弾き歌い練習(歌唱指導と伴奏)	事前学習	教科書 p. 86《うみ》の楽譜を見て、歌えるようにしておく。 教科書 p. 6「教育基本法」を読んで理解を深める。
		事後学習	教科書 p. 86《うみ》の楽曲を弾き歌いができるように練習する。 教科書 pp. 6~7の要点をまとめておく。
第3回	音楽教育②概論 (世界の5大音楽教育論) ② 【音楽的発達について】(p8~9)の輪読と解説 教材研究: 2年生共通教材《虫の声》の楽曲分析 ① 《虫の声》弾き歌い練習 (歌唱指導と伴奏)	事前学習	教科書 p. 90《虫の声》の楽譜を見て、範唱しながら旋律または伴奏を弾くことができるように練習する。
		事後学習	教科書 p. 90《虫の声》の楽曲を弾き歌いができるように復習する。 教科書 pp. 8~9の要点をまとめておく。
第4回	【学習指導要領に示された「音楽科教育の目標」】(p10)の輪読と解説 (心情・感性・培う・情操・養う) 《虫の声》の弾き歌い練習(歌唱指導と伴奏) ② 教材研究: 6年生共通教材《ふるさと》の楽曲分析① 音楽教育史概論①	事前学習	音楽Ⅱで学んだソプラノリコーダーの奏法について復習しておく。 教科書 p. 106《ふるさと》を歌えるようにする。
		事後学習	《ふるさと》の楽曲をリコーダーで演奏できるようにしておく。 教科書 p. 10の要点をまとめておく。
第5回	【小学校音楽科の指導内容】(p11)の輪読と解説 《ふるさと》のリコーダーアンサンブル練習 ①	事前学習	《ふるさと》の楽曲をリコーダーでアンサンブルができるよう練習をしておく。

	《ふるさと》の弾き歌いの練習 ② 音楽教育史概論②	事後学習	《ふるさと》の楽曲を弾き歌えるように練習しておく。 教科書 p. 11 の要点をまとめておく。
第 6 回	【小学校音楽科の指導内容】(p12-13)の輪読と解説 《ふるさと》のリコーダアンサンブル練習 ② 授業実践の事例研究 (DVD) 鑑賞と分析まとめ (低学年) 《ふるさと》の弾き歌い練習 ③	事前学習	教科書 pp. 12~13 をよく読んで理解を深める。 リコーダーでアンサンブルの練習をしておく。
		事後学習	授業事例の DVD を観た感想をまとめておく。 教科書 pp. 12~13 の要点をまとめておく。 《ふるさと》の楽曲を練習する。(仕上げとする)
第 7 回	【学習指導計画】1. 学習指導計画(p65)の輪読と解説 《ふるさと》リコーダー二重奏と二重唱の発表 ③ 授業実践の事例研究 (DVD) 鑑賞と分析まとめ (中学年) 共通教材より、弾き歌い練習	事前学習	教科書 p. 65 をよく読んで理解を深める。 リコーダーによる《ふるさと》の楽曲を二重奏と二重唱で演奏ができるように予習する。
		事後学習	授業事例の DVD を見た感想をまとめておく。 教科書 p. 65 の要点をまとめておく。
第 8 回	【学習指導計画】2. 音楽科の学習指導案(1)総論 (pp68~69) 輪読と解説 授業実践の事例研究 (DVD) 鑑賞と分析まとめ (高学年) 共通教材より、弾き歌い曲練習	事前学習	教科書 pp. 68~69 (1) 総論をよく読んで理解を深めておく。 共通教材より、任意の楽曲を練習しておく。
		事後学習	授業事例の DVD を見た感想をまとめておく。 教科書 pp. 68~69 (1) 総論の要点をまとめる。 共通教材より、任意の楽曲を練習しておく。
第 9 回	【学習指導計画】2. 音楽科の学習指導案(2)低学年における学習指導案の例 (pp70~72) 輪読と解説 トーンチャイムとミュージックベル奏法① 共通教材より、弾き歌い曲練習	事前学習	教科書 pp70~72 (2) を読んで理解を深める。 教科書 p. 26 を読み、トーンチャイムとミュージックベルについて理解しておくこと。
		事後学習	教科書 pp70~72 (2) の要点の要点をまとめる。 トーンチャイムとミュージックベルの演奏方法を復習する。 共通教材より、任意の楽曲を練習する。
第 10 回	【音楽科の評価】(pp80~81) 輪読と解説 トーンチャイムとミュージックベル奏法と発表 ② 共通教材より、弾き歌い曲練習 今後の予定表の配布と説明《以下、レポート課題提示》 「教科書より、各自課題を設定し、レポートする 3枚」	事前学習	教科書 pp80~81 を読んで理解を深める。 トーンチャイムとミュージックベルの演奏方法について復習しておく。
		事後学習	教科書 pp80~81 の要点をまとめる。 今後の授業予定を確認する。 共通教材より、任意の楽曲を練習する。
第 11 回	1 年生指導案作成準備 ①ー低学年歌唱活動ー 模擬授業の発表及びディスカッション準備 ① 共通教材より、弾き歌い練習 「低学年の指導案作成と提出	事前学習	教科書の「指導案」の事例を読んでおく。 共通教材より、任意の楽曲を練習しておく。
		事後学習	「指導案」に基づく模擬授業の準備を確認する。 共通教材より、任意の楽曲の弾き歌いを仕上げる。
第 12 回	1 年生「指導案」作成提出 ②ー低学年歌唱活動ー 模擬授業の発表及びディスカッション② レポート課題提出締め切り	事前学習	1 年生の「授業指導案」を作成する。
		事後学習	模擬授業を振り返って、良かった点、改善点を評価カードにまとめておく。
第 13 回	模擬授業の発表及びディスカッション③ ー中学年の歌唱活動ー	事前学習	中学年の「授業指導案」を作成する。 模擬授業で扱う曲を教科書で予習しておく。
		事後学習	模擬授業を振り返って、良かった点、改善点を評価カードにまとめておく。
第 14 回	模擬授業の発表及びディスカッション④ ー高学年の歌唱活動ー	事前学習	高学年の「授業指導案」を作成する。 模擬授業で扱う曲を教科書で予習しておく。
		事後学習	模擬授業を振り返って、良かった点、改善点を評価カードにまとめておく。
第 15 回	まとめとして、「課題レポート」及び「指導案」の返却と説明。試験曲弾き歌いの最終レッスン	事前学習	これまで学習した教材や模擬授業を振り返って、大切な要点をノートにまとめる。
		事後学習	今後音楽の授業を行う上での、自己課題をノートにまとめる。 弾き歌い試験曲の最終練習を行う

1. 科目名 (単位数)	会計学 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2131
2. 授業担当教員	平 仁		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	近年の会計制度の状況を踏まえ、会計学の基礎的な理論を把握するのがこの授業の目的である。財務会計の目的は、会計の財務状況を投資家などの利害関係者に知らせるものであり、そのために、会計の基礎概念、財務諸表の作成ルール、現金、手形、商品取引、資金調達、収益と費用、決算手続等についても解説を加える。財務諸表の利用者 (債権者や株主などの利害関係者)、経営者の会計に関する行動などについても解説を加える。将来、就職した先や自分で立ち上げる事業所等の経営に役立てるようにする。		
8. 学習目標	1. 個人商店や会社について、その財政状態や経営成績を表す財務諸表の読み方を知り、説明できる。 2. 収益と費用と測定して利益を計上するという過程の基礎にある会計理論を学び、説明できる。 3. 資産項目、負債項目、資本項目の課題と評価について理解し、説明できる。 4. 会計情報を活用した経営改善について理解し、説明できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントを課すことはないが、事後学習で指示する巻末の確認問題は解いておくこと。年末年始休暇中の課題レポートは授業内で指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 梶岡源一郎編『図解でナットク! 会計入門』中央経済社 2015 年。 【参考書】 林總著『餃子屋と高級フレンチでは、どちらが儲かるか?』 PHP 文庫、林總著・武井宏文画『マンガ餃子屋と高級フレンチでは、どちらが儲かるか?』ダイヤモンド社、山田真哉著『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』光文社新書、山田真哉原案・マエダマキコ作画『コミック版さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』KADOKAWA、山田真哉著『女子大生会計士の事件簿 1~5』角川文庫、など様々な会計本がビジネス書の形式で出版されている。会計をリアルなものとして捉えられるようになるためにも、興味を持ってそうなものを実際に書店等で手に取ってもらいたい。		
11. 成績評価の方法	1、授業態度 (質問、出席状況など) 10% 2、レポート 30% 3、期末試験 (論述式・持込有) 60% なお、本学規定により、4 分の 3 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	1. 会計情報は、会社経営の成績表とも言えます。会計情報を読みこなすことは、会社の強みと弱みを把握し、今後の経営改善に役立てる指標を明らかにして、事業経営を成功に導くための道しるべを作ることなのです。 2. 本学における双方向対話型授業の効果を最大限生かすためには、積極的に質問することが大切ですが、事前に予習を行わなければ双方向対話型授業が成立しませんので、予習をしていることを前提に授業を行います。予習してもわからないこともあるかと思いますが、分からないのは自分だけ、と思いつまずに、積極的に質問し、復習することにより、理解を深めて下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	参考文献等を読み、会計についてイメージを持つてくること
		事後学習	これから講義を受けるにあたり、会計について問題意識を高める。
第 2 回	会計はどこで必要とされるの?	事前学習	テキスト第一部 I を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 3 回	会社の健康診断書と成績表を知ろう!	事前学習	テキスト第一部 II を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 4 回	100 円ハンバーガーは儲かるの?	事前学習	テキスト第一部 III を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 5 回	値引きセールをしてもお店は儲かるのか? (課題レポートのテーマを発表 (予定))	事前学習	テキスト第一部 IV を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 6 回	決算書に間違いはありませんか?	事前学習	テキスト第一部 V を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 7 回	会計と仕事 ~公認会計士・税理士・国税専門官~	事前学習	テキスト第一部 VI を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 8 回	税金の計算には会計が必要?	事前学習	テキスト第一部 VII を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 9 回	会計のグローバル化を知ろう!	事前学習	テキスト第一部 VIII を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 10 回	会計の目的を理解しよう!	事前学習	テキスト第二部 I を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 11 回	会計のルールを知ろう! (課題レポートの提出〆切 (予定))	事前学習	テキスト第二部 II を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 12 回	会社の健康診断表を理解しよう! -貸借対照表	事前学習	テキスト第二部 III を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 13 回	会社の成績表を理解しよう! -損益計算書	事前学習	テキスト第二部 IV を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く

平成 28 年度

第 1 4 回	会計情報を分析してみよう！ (第 1 5 回に使う資料を配布)	事前学習	テキスト第二部 V を読んでくること
		事後学習	テキストの確認問題を解く
第 1 5 回	社会福祉法人に関する会計のしくみを知る	事前学習	第 1 4 回に配布した資料を読んでくる。
		事後学習	一般企業の会計と非営利の社会福祉法人の会計の違いを理解し、施設長等になった際に備える。
期末試験 論述式・持込可			

1. 科目名 (単位数)	介護概論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2109 SCMP2309
2. 授業担当教員	鄭 春姫		SBMP2309 SSMP2109 PSMP2409
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講座は、高齢者福祉論との関連において、介護が必要な高齢者に対する支援を中心に進めていく。 高齢者の特性と生活について理解を深めたいうえで、生活支援の在り方を考え、介護の実践では、自立への支援、尊厳ある介護の理解を学習し、介護実践の基本を理解できるように授業を進めていく。特に根拠を持った介護実践が行えるように、介護過程と介護実技を学習して理解を深めていく。また、今後増加する認知症高齢者や精神的支援が必要な高齢者の介護についても授業を行なう。</p>		
8. 学習目標	<p>介護概論が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性からくる生活障害や、介護が必要となる状況を理解でき、快適な生活環境を考えることができる。 2. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、介護の今日的課題について考えることができる。 3. 高齢者を支援する専門職の役割の理解と専門職間の連携の在り方を考えることができる。 4. 介護の概念、理念と対象について理解でき、社会福祉士など専門職としての役割と結び付けることができる。 5. 介護は介護過程に基づいて行われることを理解し、専門性について考えることができる。 6. 認知症及び精神的支援が必要な高齢者に対する介護について理解ができ、その応用力を身につけることができる。 7. 終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持 (人間観や倫理) について考えることができる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回の授業で整理したところから、授業開始前にミニテストを行う。(10分程度) 第6回の授業で専門職の理解については、指定の用紙を使い記録を行い、提出する。 第9～13回のグループワークでは、毎回、進行係と書記を決めてメンバー皆が参加し意見や考えが発表できるようにする。指定の用紙に必要事項を書いてグループレポートを作成する。授業の最後に提出。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度－高齢者福祉論』中央法規出版 【参考書】 授業で適時配布する</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業開始時のミニテスト・レポート他提出物 20% 授業態度 30% 期末試験 50% 理由の申し出がない場合、欠席 10 点減点、遅刻、中抜け、早退は 3 回で 10 点減点とする。 尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 授業への積極的参加度等、出席をしたうえでの授業態度は加点的に評価する。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>授業中のマナー、ルールは守ること 【出欠席について】 ・やむを得ず、遅刻、早退、欠席する場合は、その理由を申し出ること。何もない場合は減点対象とする。 ・下記【マナー、ルールについて】を守れない場合は、欠席とする。 【マナー、ルールについて】 ・授業中、私語はしない。 ・携帯電話などは電源を切るかマナーモードにする。また、机の上に置かない。かばん等に必ずしまっておく。 ・授業中に携帯電話の作動はしないこと。守れない場合には、退出してもらう。 ・居眠りはしない。 ・他学生の学習の妨げになるようなことはしない。 ・明らかに授業態度が不適切と判断された際は、厳格な指導を行うが、指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ皆出席であっても F 評価になる。</p>		
13. オフィスアワー	時間割決定後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 「介護概論」のねらいと単元の解説 テーマ「社会福祉と介護」 介護の概念及び専門性を支える理念、介護の対象者について理解する。社会福祉士が介護を学ぶ必要性について理解する。	事前学習	シラバスを読み授業内容を理解する
		事後学習	介護の概念理念を理解し、社会福祉士が介護を学ぶ必要性について整理する。
第 2 回	テーマ「少子高齢社会と高齢者」 超高齢社会における介護の方向性を家族構成や就労、収入、医療の側面から考え、高齢者を取り巻く諸問題について理解する。	事前学習	少子高齢社会と高齢者について考える。
		事後学習	高齢者を取り巻く諸問題について整理する。
第 3 回	テーマ「高齢者の特性Ⅰ」 高齢期における生活の変化、家族、社会参加、生きがいなどを考え、高齢者の生活に、どのような影響を及ぼすのかまた、どのように適応するのか高齢者の社会的理解を深める。	事前学習	高齢者の生活、家族、社会参加、生きがいなどを考える。
		事後学習	高齢者の特性について整理する。
第 4 回	テーマ「高齢者の特性Ⅱ」 加齢に伴う身体機能、精神機能の変化から生じる疾病や生活障害を理解し、対応を考える。	事前学習	高齢者の身体的、精神的特性について考える。
		事後学習	高齢者の身体的、精神的特性について整理する。

第 5 回	テーマ「自立に向けた介護・尊厳を支える介護」高齢者の自立した日常生活とは何かを考え、高齢者介護のキーワードもある尊厳を支える介護について考える。	事前学習	自立とは、尊厳とは、について調べる。
		事後学習	自立に向けた介護、尊厳をささえる介護について整理する。
第 6 回	テーマ「高齢者を支援する専門職の役割と連携について」介護を必要としている高齢者を支援する専門職の役割を理解すると共に、連携の方法について理解する。	事前学習	高齢者を支援する専門職の役割と実際について考える。
		事後学習	専門職の役割、連携について整理する。
第 7 回	テーマ 「介護保険について」① 介護保険制度の基本的知識について理解を深める。	事前学習	介護保険制度について調べる。
		事後学習	介護保険制度の改正点などを含め、理解を深める。
第 8 回	テーマ 「介護保険について」② 介護保険制度の基本的知識について理解を深める。	事前学習	介護保険制度の改正点などを含め、整理する。
		事後学習	介護保険制度についてまとめる。
第 9 回	テーマ「介護過程」 ICF について理解すると共に、介護実践を行う上で、最も大切である介護過程の意義と具体的な内容について理解する。	事前学習	ICF について調べておく。
		事後学習	ICF の分類による介護過程の展開を整理する。
第 10 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 身だしなみの介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における身だしなみについて考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 11 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 起居動作、移動等の介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における移動、移乗について考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 12 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 食事、口腔ケアの介護の方法を実践して理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における食事、口腔ケアについて考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 13 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践」 排泄の介護を理解する。(グループワーク)	事前学習	日常生活における排泄について考える。
		事後学習	グループレポートの作成
第 14 回	テーマ「認知症高齢者に対する介護の実践」 認知症について理解すると共に、実践的な介護の考え方や方法について理解する。	事前学習	認知症について調べておく。
		事後学習	実践的な介護の考え方や方法について整理する。
第 15 回	テーマ「終末期ケア」終末期における高齢者や家族について理解すると共に、その支援の実践的な方法を理解する。	事前学習	終末期について考える。
		事後学習	終末期における高齢者や家族について、支援の実践的な方法を整理する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	介護概論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2109
2. 授業担当教員	秋島 恵子		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講座は、高齢者福祉論との関連において、介護が必要な高齢者に対する支援を中心に進めていく。 高齢者の特性と生活について理解を深めたうえで、生活支援の在り方を考え、介護の実践では、自立への支援、尊厳ある介護の理解を学習し、介護実践の基本を理解できるように授業を進めていく。特に根拠を持った介護実践が行えるように、介護過程と介護実技を学習して理解を深めていく。また、今後増加する認知症高齢者や精神的支援が必要な高齢者の介護についても授業を行なう。</p>		
8. 学習目標	<p>介護概論が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性からくる生活障害や、介護が必要となる状況を理解でき、快適な生活環境を考えることができる。 2. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、介護の今日的課題について考えることができる。 3. 高齢者を支援する専門職の役割の理解と専門職間の連携の在り方を考えることができる。 4. 介護の概念、理念と対象について理解でき、社会福祉士など専門職としての役割と結び付けることができる。 5. 介護は介護過程に基づいて行われることを理解し、専門性について考えることができる。 6. 認知症及び精神的支援が必要な高齢者に対する介護について理解ができ、その応用力を身につけることができる。 7. 終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持（人間観や倫理）について考えることができる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>第1回～5回、第8回、第9回、第14回、第15回の講義では、授業内に配布する「リアクションペーパー」に、授業に対する意見・感想・質問等を書き、その授業時間内に提出する。なお、リアクションペーパーには毎回小テストあるいは小レポートがついている。 第1回、第6回、7回のグループワークでは、進行係、書記を決めて、メンバー皆が参加し意見や考えを発表する。その後、指定の用紙に必要事項を書いて提出する。 第10～13回は、演習を行って理解したことを指定の用紙に書いて提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度－高齢者福祉論』中央法規出版 (注: 「高齢者福祉論」と同じ教科書を使用するため、すでに履修している学生は新たに購入する必要無し)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>期末試験 (到達度確認試験) 40% レポート 30% リアクションペーパー 15% 授業参加態度 15% 理由の申し出がない場合、欠席10点減点、遅刻、中抜け、早退は1回で3点減点とする。 尚、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>授業中のマナー、ルールを守ること 【出欠席について】 ・やむを得ず、遅刻、早退、欠席する場合は、その理由を申し出ること。何もない場合は減点対象とする。 【マナー、ルールについて】 ・他の人の受講の妨げになるような迷惑行為は慎む 私語や携帯の利用、授業途中での入退室は、授業を真面目に聞こうとしている人に対して大変迷惑をかける行為となるため、自粛する。(携帯電話などは電源を切るかマナーモードにする。また、かばん等に必ずしまっておく。) ・居眠りをしない ・明らかに授業態度が不適切と判断された際は、厳格な指導を行うが、指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ皆出席であってもF評価となる。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 「介護概論」のねらいと授業のすすめ方 テーマ「社会福祉と介護」 介護の概念及び理念、社会福祉士が介護を学ぶ必要性について理解する。	事前学習	シラバスを読み授業内容を理解する
		事後学習	介護の概念理念を理解し、社会福祉士が介護を学ぶ必要性について整理する。
第2回	テーマ「生活支援、介護の実際、高齢者を取り巻く状況」 生活支援の概念、施設における介護の実際、高齢者を取り巻く状況について理解する。	事前学習	少子高齢社会と高齢者について考える。
		事後学習	生活支援の概念、介護の実際、高齢者を取り巻く状況について整理する。
第3回	テーマ「高齢者の生活実態1」 高齢者世帯の家計、生活時間（グループホームでの生活時間）を理解する。	事前学習	高齢者世帯の家計について考える。
		事後学習	高齢者世帯の家計について整理する。

第 4 回	テーマ「高齢者生活実態 2」 高齢者の生活時間について、調査結果をもとに理解する。	事前学習	高齢者の生活時間についてのデータを読む。
		事後学習	高齢者の生活時間の特徴について整理する。
第 5 回	テーマ「自立に向けた介護 1」 高齢者の自立した日常生活とは何かを考える。	事前学習	自立の概念について調べる。
		事後学習	自立に向けた介護について整理する。
第 6 回	テーマ「自立に向けた介護 2」 高齢者の自立のに向けた介護について理解する。	事前学習	高齢者の自立について考える。
		事後学習	高齢者の自立に向けた介護についてまとめる。
第 7 回	テーマ「尊厳を支える介護」 高齢者介護のキーワードでもある尊厳を支える介護について考える。	事前学習	尊厳とは何かについて調べる。
		事後学習	尊厳を支える介護について整理する。
第 8 回	テーマ「高齢者を取り巻く福祉・介護 1」 高齢者を取り巻く福祉・介護の現状について理解する。	事前学習	地域の介護力について考える。
		事後学習	高齢者を取り巻く福祉・介護の現状について整理する。
第 9 回	テーマ「高齢者を取り巻く福祉・介護 2」「高齢者を支援する専門職の役割と連携について」 地域の介護力、高齢者を支援する専門職の役割と連携について理解する。 テーマ「介護過程」 ICF について理解すると共に、介護過程の意義と具体的な内容について理解する。	事前学習	ICF について調べる。
		事後学習	専門職の役割、介護過程、ICF についてまとめる。
第 10 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践 1」 移乗動作の介護の方法を実践して理解する。(グループワーク) 車いすでの介助の方法やボディメカニクスについて、演習を通して理解する。	事前学習	日常生活における移動、移乗について考える。
		事後学習	ボディメカニクスについて整理する。
第 11 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践 2」 移乗動作の介護の方法に関するまとめ 食事介助の方法について演習を通して理解する。(グループワーク)	事前学習	食事介助の方法について調べる。
		事後学習	移乗動作の介護の方法について整理する。
第 12 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践 3」 食事介助の方法(介護食について) 咀嚼や嚥下困難の人のための食事形態、誤嚥しやすい食品について理解する。 介護食を試食し、咀嚼や嚥下困難の人のための食事形態について考える。	事前学習	介護食について調べる。
		事後学習	咀嚼や嚥下困難の人のための食事形態、誤嚥しやすい食品について整理する。
第 13 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践 4」 介護食についてまとめ 入浴に関する介護について理解する。 身だしなみの介護の方法について演習を通して理解する。(グループワーク)	事前学習	入浴に関する介護について調べる。
		事後学習	入浴に関する介護について整理する。
第 14 回	テーマ「日常生活動作における介護の実践 5」 身だしなみの介護のまとめ 排泄介助について理解する。 テーマ「認知症高齢者に対する介護の実践 1」 認知症について理解する。	事前学習	衣類の着脱介助の方法について考える。
		事後学習	衣類の着脱の方法、排泄介助について整理する。 認知症の特徴について整理する。
第 15 回	テーマ「認知症高齢者に対する介護の実践 2」 認知症の人の家族や本人の思いを理解し、実践的な介護の考え方や方法について理解する。 終末期における高齢者や家族について理解すると共に、その支援の実践的な方法を理解する。	事前学習	認知症の人への介護、終末期について考える。
		事後学習	認知症の人への介護についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	解剖生理学Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2322
2. 授業担当教員	石本 強			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、質疑応答、課題発表。簡単な実験も行う。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「解剖生理学Ⅰ」を履修しておくこと			
7. 講義概要	解剖生理学Ⅱでは、解剖生理学Ⅰでの学習を基盤として、人体を構成している骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系の各器官系の成り立ちと生理機能について学習する。さらに各器官系を統合し、内部環境のホメオスタシスを維持している調節機構について学び、一生命体としての個体の営みはどのようになされているかについて考える。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を、自分の体で確認できるようにする。 2. 人体構造の発生、成長、老化について、動物進化の過程と関連付けて理解し、説明できるようになる。 3. 生体機能の調節機構、およびホメオスタシスの維持について理解し、説明できるようになる。 4. 脳機能の分化と発達について理解し、説明できるようになる。 5. ヒトの形態・生理機能と病気・ケガとの関連を理解し、基本的対応ができるようになる。 6. 病気の予防における基本的知識を深め、説明できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各学生は、割り当てられた範囲について事前に学習し、指定された課題に取り組み提出する。詳細は授業の中で説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 磯野日出夫ほか 『図説 解剖生理学』東京教学社。 【参考書】 高橋長雄 (監修) 『からだの地図帳』講談社。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 (授業態度など) …30% 課題提出と発表…30% テスト…40% (事前に範囲・形式を告示する) 本学規程にしたがい、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。			
12. 受講生へのメッセージ	授業中は、緊張感と集中力を保って受講し、質問してください。明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告してください。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 また、私語、スマホの使用、無断退出、その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。			
13. オフィスアワー	講義時間の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	人体の構造と機能：外形区分、解剖学的表現の具体的理解と解剖学的全景	事前学習	教科書 pp. 1～3 を読んでおく。	
		事後学習	解剖学的全景を通して、人体の構造についての解剖学的表現、機能を復習して理解する。	
第 2 回	人体の構造と機能：細胞、細胞小器官の配置と機能、構造図の作成、細胞の物質代謝、ホメオスタシス	事前学習	pp. 3～8 を読んでおく。	
		事後学習	細胞、細胞小器官の機能、細胞の物質代謝、ホメオスタシスについて詳細に理解する。	
第 3 回	人体の構造と機能：組織の種類と機能	事前学習	pp. 9～10 を読んでおく。	
		事後学習	組織図を通して、組織の種類と機能を復習して詳細に理解する。	
第 4 回	骨格系：骨の構造と生理	事前学習	pp. 11～17 を読んでおく。	
		事後学習	解剖図を通して、骨の構造、骨の生理を復習して詳細に理解する。	
第 5 回	筋系：筋の生理と役割	事前学習	pp. 18～24 を読んでおく。	
		事後学習	解剖図を通して、筋の生理と役割を復習して詳細に理解する。	
第 6 回	神経系の構成：神経細胞、神経伝達 神経系の疾患について 脳波の計測	事前学習	pp. 25～26 を読んでおく。	
		事後学習	神経細胞、神経伝達、神経機能を詳しく理解する。	
第 7 回	中枢神経系：大脳、間脳、脳幹 大脳が関連する疾患について 大脳の機能に関する生理学的実験と観察	事前学習	pp. 27～33 を読んでおく。	
		事後学習	大脳、間脳、脳幹を詳しく理解する。	
第 8 回	末梢神経系：脳神経、脊髄神経 自律神経：交感神経、副交感神経 抹消神経、自律神経が関わる疾患について 神経機能に関する生理学的実験と観察	事前学習	pp. 34～36 を読んでおく。	
		事後学習	脳神経、脊髄神経、交感神経、副交感神経を詳しく理解する。	
第 9 回	特殊感覚：視覚、聴覚、味覚、臭覚、平行感覚 体性感覚・内臓感覚：表面感覚、深部感覚、臓	事前学習	pp. 37～43 を読んでおく。	
		事後学習	特殊感覚・体性感覚・内臓感覚を詳しく理解する。	

	器感覚 感覚の異常による疾患について 感覚に関する生理学的実験と観察		
第 10 回	内分泌系と人体の恒常性：ホルモンの分泌と調節 ホメオスタシスの仕組みと計算 ホメオスタシスに関する生理学的実験と観察 内分泌腺の種類と生理作用：視床下部、下垂体、甲状腺、他の内分泌腺	事前学習	pp. 45～56 を読んでおく。
		事後学習	恒常性、ホルモンの分泌と調節を詳しく理解する。
第 11 回	循環・血管の構造と機能：体循環、肺循環、胎児循環、大動脈、中動脈、小動脈 循環・血管の疾患と予防 循環・血管の構造に関する生理学的実験と観察	事前学習	pp. 73～77 を読んでおく。
		事後学習	循環・血管の構造と機能を詳しく理解する。
第 12 回	心臓・循環・血液：構造と機能、刺激伝導系、血圧、拍動、動脈系、静脈系 心臓・循環・血液の疾患と予防 心臓・循環に関する生理学的実験と観察	事前学習	pp. 78～84 を読んでおく。
		事後学習	心臓・循環・血液の機能を詳しく理解する。
第 13 回	消化器系の構造と生理：口腔、食道、胃小腸、大腸、肝臓 消化器系の疾患と予防 消化器系に関する生理学的実験と観察	事前学習	pp. 57～72 を読んでおく。
		事後学習	消化器系の構造と生理、呼吸器の構造と働きを詳しく理解する。
第 14 回	呼吸器の構造と働き（鼻腔、咽頭鼻部、喉頭、気管と気管支、肺） 呼吸器系の疾患と予防 呼吸器に関する生理学的実験と観察	事前学習	pp. 85～95 を読んでおく。
		事後学習	呼吸器の構造と働きを詳しく理解する。
第 15 回	泌尿器系（腎臓、ネフロン）の構造と機能 生殖器系（生殖） 泌尿器系の疾患 泌尿器系に関する生理学的実験と観察	事前学習	pp. 97～111 を読んでおく。
		事後学習	泌尿器系、生殖器系について詳しく理解する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3333
2. 授業担当教員	田上 不二夫		SCMP3333
4. 授業形態	講義 (ディスカッション)、演習 (ロールプレイ)、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「カウンセリングの基礎」の単位を履修していることが望ましい (この科目は、心理学部であれば「カウンセリングの基礎」を発展させていくものですが、社会福祉学部や教育学部の学生は、ソーシャルワークや教育相談などで学習した内容と関連します)		
7. 講義概要	<p>カウンセリングの理論は、医療・教育・福祉の現場でも幅広く活用・実践されている。カウンセリングとは、何らかの援助を求める人 (クライアント) に対して、自己理解、環境理解と行動変容 (レポートが遅れがちな人が日時を守る、悩みが解消する、性格が明るくなる、など) を通して人をエンパワーすることを目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする人間関係でありプロセスである。</p> <p>本講義では、カウンセリングの理論と技法の基礎を学びながら、単に頭で知識を学ぶのではなく、ロールプレイを通して、自分のコミュニケーションのあり方を振り返り、社会生活で健全な人間関係を形成するとともに問題を解決する能力を育てる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングが具体的にどのような環境・方法で、どんな人達を対象に行われ役立っているのかを理解する。 2. カウンセリングの基本的な態度・技法を習得し、実践できるようにする。 3. さまざまなケースを通してクライアント理解を深め、対応のポイントを理解し、実践できるようにする。 4. 社会生活で、人の生き方を尊重した支援ができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で、研究課題とレポート課題について提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 福島脩美著『相談の心理学』金子書房。</p> <p>【参考書】 水野修次郎著『カウンセリング練習帳－人間関係システム視点』おうふう。</p> <p>カーカフ著『ヘルピングの心理学』講談社。</p> <p>玉瀬耕治著『カウンセリングの技法を学ぶ』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の方法	研究とプレゼンテーション 30%、レポート 30% 授業への参加態度 40%		
12. 受講生へのメッセージ	この授業を受けることでカウンセリングができるようになるわけではありません。カウンセリングについて体験的に理解を深める授業です。日常生活での相談について心構えが変化することや社会人になって職業に就いた時に役に立てばと思っています。初心者であるからカウンセリングをうまくできないことは当然ですが、人の尊厳を守り真摯な態度で授業にのぞんでください。		
13. オフィスアワー	金曜日 (時間は最初の授業時に知らせる)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	I カウンセリングとは何か 1 カウンセリングの歴史	事前学習	インターネットでカウンセリングについて調べる
		事後学習	カウンセリングについて考えをまとめてシートに記入する
第 2 回	2 カウンセリングの定義と職業倫理	事前学習	第 1 章の重要なところに下線を引く
		事後学習	職業倫理のシートを完成させる
第 3 回	3 影響を与えた人と出来事 ①心の闇の発見	事前学習	第 2 章の重要なところに下線を引く
		事後学習	無意識の働きについて考えをまとめる
第 4 回	②行動心理学の挑戦	事前学習	第 2 章を要約する
		事後学習	行動変容についてまとめる
第 5 回	③生きる意味の探求	事前学習	第 3 章の重要なところに下線を引く
		事後学習	自己実現について考えをまとめる
第 6 回	④ポジティブ心理学	事前学習	第 3 章を要約する
		事後学習	ポジティブ心理学について考えをまとめる
第 7 回	II カウンセリング・プロセス 1 カウンセリング関係を築く ①主訴と困り感の傾聴	事前学習	第 4 章の重要なところに下線を引く
		事後学習	受容について考えをまとめる
第 8 回	実習：受容する	事前学習	第 4 章を要約する
		事後学習	実習のまとめ
第 9 回	②共感的理解とは	事前学習	第 5 章の重要なところに下線を引く
		事後学習	共感的理解について考えをまとめる
第 10 回	実習：共感的に聴く	事前学習	第 5 章を要約する
		事後学習	実習のまとめ
第 11 回	2 自己理解・環境理解を深める ①自己資源・環境資源を探す	事前学習	第 6 章の重要なところに下線を引く
		事後学習	自己資源・環境資源について考えをまとめる
第 12 回	実習：資源の探求	事前学習	第 6 章を要約する
		事後学習	自己資源・環境資源を探す
第 13 回	②アセスメントと目標の共有	事前学習	第 7 章 1・2 の重要なところに下線を引く
		事後学習	アセスメントについて考えをまとめる
第 14 回	実習：目標を明確にする	事前学習	第 7 章 1・2 を要約する

		事後学習	実習のまとめ
第 15 回	3 課題の設定と遂行	事前学習	第 7 章 3・4 の重要なところに下線を引く
		事後学習	課題の設定と遂行について考えをまとめる
第 16 回	実習：変容技法を学ぶ	事前学習	第 7 章 3・4 を要約する
		事後学習	実習のまとめ
第 17 回	Ⅲカウンセリングの現場から 1 企業でのカウンセリング ①ストレス・コントロール	事前学習	自分のキャリアを考える
		事後学習	職場のストレスについて考えをまとめる
第 18 回	研究発表と討議①	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 19 回	②落ち込みからの回復	事前学習	落ち込みへの自分の対処方法を考える
		事後学習	呼吸法を練習する
第 20 回	研究発表と討議②	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 21 回	2 学校でのカウンセリング ①登校支援	事前学習	不登校について考えを深める
		事後学習	登校援助について具体策を考える
第 22 回	研究発表と討議③	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 23 回	②つながり合う人間関係	事前学習	学級の人間関係について考えをまとめる
		事後学習	つながり合う方法を練習する
第 24 回	研究発表と討議④	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 25 回	③学級集団づくり	事前学習	学級集団について経験をまとめる
		事後学習	学級集団プログラムを体験する
第 26 回	研究発表と討議⑤	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 27 回	④多様な子どもを受け入れる学級	事前学習	発達の特性を考える
		事後学習	豊かな人間関係について考えをまとめる
第 28 回	研究発表と討議⑥	事前学習	研究発表事前準備
		事後学習	研究発表の内容をまとめる
第 29 回	Ⅳカウンセリングと現代社会(1)相談は社会を変える	事前学習	終章の重要なところに下線を引く
		事後学習	カウンセリングと現代社会について考えをまとめる
第 30 回	カウンセリングと現代社会(2)まとめ	事前学習	終章を要約する
		事後学習	授業を振り返り学習成果を確認する

1. 科目名 (単位数)	カウセリングの基礎 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2344 SCMP2344 SBMP2344
2. 授業担当教員	川島 亜紀子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	カウセリングの土台となる人間の心のメカニズムについての考え方を理解し、実際のカウセリング面接中に生起する様々な現象とカウセリングのプロセスおよび展開について基礎的なことを学ぶ。また、カウセラーの条件となる基本的な態度や面接技法について、討議や演習を通して実践的に理解する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウセリングの基本的な概念や用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. カウセリングの一般的なプロセスと展開について説明できる。 3. カウセリングの基本的な理論と技法について理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 : 精神分析的心理療法について自分の言葉で説明する (A4サイズ 1 枚) 課題 2 : 認知行動主義的心理療法について自分の言葉で説明する (A4サイズ 1 枚) 課題 3 : 来談者中心療法について自分の言葉で説明する (A4サイズ 1 枚)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 瀧本 孝雄著『カウセリングへの招待』サイエンス社。 【参考書】 授業中に随時紹介する		
11. 成績評価の方法	受講態度・参加姿勢 20% 小レポート 20% まとめレポート 60% <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の規定により全講義回数のうち 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. グループディスカッション等において積極的に討議できているグループは加点的な対象とする。 6. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合は F 評価とする。 7. レポートや小テスト、プレゼンテーションにおいて、不正行為 (カンニングや他者の論文・レポート等の盗用など) とみなされた場合、ただちに本講義を F 評価するとともに、当該年度の全ての授業において F 評価とする。 		
12. 受講生へのメッセージ	積極的な取り組みを期待する。私語は厳禁である。 遅刻・欠席・中抜けなどの態度も意欲的な受講態度と認めがたい。 意欲的な受講態度とは認められない場合は厳格な指導を行う。		
13. オフィスアワー	授業中に周知する。(掲示参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・講義概要と評価方法、レポートの書き方について説明する。 ・受講している学生間の交流を図る	事前学習	シラバスを熟読し臨むこと
		事後学習	カウセリングのイメージを小レポートにまとめる。
第 2 回	カウセリングとは何か	事前学習	教科書第 1 章の内容を確認する。
		事後学習	教科書第 1 章の内容をまとめる。
第 3 回	カウセリングとパーソナリティ	事前学習	教科書第 2 章の内容を確認する。
		事後学習	教科書第 2 章の内容をまとめる。
第 4 回	カウセリングの理論 I ～来談者中心療法の理論を学ぶ	事前学習	教科書第 3 章の内容を確認する。
		事後学習	教科書第 3 章の内容をまとめる。
第 5 回	カウセリングの理論 II ～行動主義的心理療法の理論を学ぶ	事前学習	教科書第 4 章の内容を確認する。
		事後学習	教科書第 4 章の内容をまとめる。
第 6 回	カウセリングの理論 III ～精神分析的心理療法の理論を学ぶ	事前学習	教科書第 5 章の内容を確認する。
		事後学習	教科書第 5 章の内容をまとめる。
第 7 回	心理アセスメントと心理検査	事前学習	教科書第 7 章の内容を確認する。
		事後学習	教科書第 7 章の内容をまとめる。
第 8 回	心理検査の種類と方法	事前学習	教科書第 8 章の内容を確認する。
		事後学習	教科書第 8 章の内容をまとめる。
第 9 回	カウセリングの技術 I ～視線のワーク	事前学習	アイコンタクトの持つ意味を考える。
		事後学習	体験後の感想を表現する。
第 10 回	カウセリングの技術 II ～非言語的コミュニケーション	事前学習	身体的かかわり行動の意味を考える。
		事後学習	他者の行動がどのように見えたのかを振り返る
第 11 回	カウセリングの技術 III ～共感的態度の基礎を学ぶ	事前学習	共感の意味を考える。
		事後学習	共感的態度の練習をし、感想をまとめる。
第 12 回	カウセリングの技術 IV ～共感的態度の基礎を学ぶ	事前学習	架空の相談事例を用意する。
		事後学習	共感的態度の練習をし、感想をまとめる。
第 13 回	カウセリングの技術 V ～反映技法 1	事前学習	質問技法について予習する。
		事後学習	反映技法についてまとめる。
第 14 回	カウセリングの技術 VI ～反映技法 2	事前学習	感情の反映とは何かについてまとめる。
		事後学習	反映技法をどのように使い分けるか考える。
第 15 回	学習のまとめと振りかえり	事前学習	カウセリングの三大理論を説明できるようにする。
		事後学習	レポートを仕上げる。

1. 科目名 (単位数)	家族心理学 (2 単位)		3. 科目番号	EDPS3307
2. 授業担当教員	石 暁玲			
4. 授業形態	講義および演習・ディスカッション・グループ発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「発達心理学」・「臨床心理学」など心理や臨床系の単位を修得した後に履修することが望ましい			
7. 講義概要	人間は生涯を通じて他者との中で生きて行く。その最も身近な人間関係の中の一つに「家族」がある。本講義では、家族システム理論を始めとする家族を理解するための鍵概念を解説し、①家族のライフコースと発達、②家族内（夫婦、親子、兄弟姉妹など）の心理構造、③家族療法の概要について学びます。講義による解説とディスカッション・グループ発表を通し、人が成長していくうえで重要な役割を持つ家族の心理に関して理解を深め、日常生活の場で起きている家族の諸問題を考察し、受講生にとっての家族観の再考を促すことを目的としています。			
8. 学習目標	家族心理学が終了した時点で下記の目標達成をすることが期待されます。 1. 家族の在り方と家族メンバーの心理的ウェルビーイングとの深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 家族の発達と共に起こりうる諸問題について指摘できるようになる。 3. 家族心理学の理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 4. 家族臨床の歴史と近年の主たる理論とアプローチについて、説明できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	家族理解のための理論やキー概念を説明する力、またはそれらを用いて家族実践へつなげる応用力を培うために、課題の提出およびグループ・プレゼンテーションを求める。必要に応じて宿題も提示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	教科書：平木典子 中益洋子著『家族の心理—家族への理解を深めるために』サイエンス社 参考書：授業中で随時紹介。			
11. 成績評価の方法	平常点（授業態度・授業への貢献度） 30% 小テスト・提出物 50% グループ・プレゼンテーション 20%			
12. 受講生への メッセージ	自身の家族について理解を深めることも目指しているため、家族のことに真剣に向き合う姿勢が求められます。またグループ演習を取り入れて行うので、積極的な参加を期待しています。授業ルールや進め方は初回授業で説明します。受講者は必ず初回授業に参加してください。			
13. オフィスアワー	第一回目授業中に知らせる			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、家族とは	事前学習	教科書を通読しておく	
		事後学習	家族のイメージを作る	
第 2 回	健康な家族と家族機能	事前学習	前書き～P26 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく	
		事後学習	家族機能と円環モデルを理解できるように復習しまとめる	
第 3 回	家族システム理論	事前学習	p 94-104 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく	
		事後学習	家族システム理論の概要、いくつかのキー概念を理解できるように復習しまとめる	
第 4 回	家族システム論の観点からみた家族の発達	事前学習	p 26-34 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく	
		事後学習	家族の発達を理解し、ジェノグラムの書き方をできるようにする	
第 5 回	家族作りの準備Ⅰ 青年期の発達	事前学習	p 35-46 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく	
		事後学習	青年期の発達課題を理解できるようにする	
第 6 回	家族作りの準備Ⅱ 恋愛と結婚	事前学習	p 46-54 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく	
		事後学習	親密性、結婚前の準備について理解する	
第 7 回	夫婦の発達Ⅰ 新婚期の発達	事前学習	p 55-61 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく	
		事後学習	新婚期の発達課題を理解する	
第 8 回	夫婦の発達Ⅱ 夫婦関係の発達	事前学習	p 62-71 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく	
		事後学習	夫婦間コミュニケーションの重要性について理解する	
第 9 回	育児期の発達Ⅰ 親としての発達	事前学習	p 73-81 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく	
		事後学習	「親になること」の意味と必要なスキルを理解する	

第 10 回	育児期の発達Ⅱ 育児期の家族発達の課題	事前学習	p 78-91 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく
		事後学習	育児期の発達課題を理解する
第 11 回	中年期・老年期の家族の発達	事前学習	p 27,p88,p120 の関連部分を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく
		事後学習	親子関係の変化、子どもの巣立ち後の夫婦関係の再編成、家族のケア機能を理解する
第 12 回	異文化にみる家族のかたち	事前学習	文化の中での家族の発達という視点から、一つの文献を調べ読んでおく
		事後学習	「文化と家族」について考察する
第 13 回	家族臨床の実際	事前学習	P113-149 を読み、重要だと思うところ、疑問に感じたところにマーカーを引いておく
		事後学習	家族臨床の概要を知る、家族療法の歴史・考え方、技法を理解する
第 14 回	グループ・プレゼンテーション	事前学習	グループ・プレゼンテーションの準備
		事後学習	学んだ点、改善点をまとめる
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	いままでの内容を総復習し、まとめる
		事後学習	現代家族の意味、家族の本質を考察する

1. 科目名 (単位数)	学校保健学 (学校安全を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2302
2. 授業担当教員	石垣 久美子		
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	学校保健は、児童、生徒、学生並びに幼児の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果に資するための学問である。教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の法令が、学校教育課程にある子どものよりよい成長と学校教育の円滑な実施を支援している。本講義では、学校保健の構造やその意義、法的な位置づけなど、基礎的かつ重要な事項について習得し、それぞれの領域での取り組みの実際について学ぶ。また、各自が目指す職種の立場からの参画の仕方について、主体的に考えることを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校保健の意義、構造、内容について理解し、説明することができるようになる。 2 保健教育の中の、保健学習と保健指導について、その位置づけや実践のあり方について理解し、説明することができるようになる。 3 保健管理の心身の管理、生活の管理、学校環境の管理について理解し、その実践のポイントを習得する。 4 児童生徒の現代的健康課題と、これに応じた学校保健活動の進め方について習得する。 5 学校保健推進にかかわる教員として、健康増進にとって不可欠な内容について具体的に学び身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する小レポートを出題する。 ・中間課題レポート：保健指導案の作成 『歯についての保健指導』 ・最終課題レポート：自らの目指す職種において、学校保健活動にどのように参画することが求められるのか、自らの考えを記述する。(800字程度) 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】学校保健安全法に対応した 改訂 学校保健 徳山美智子 中桐佐知子編著 東山書房 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第3次改訂版』第一法規</p> <p>【教材】テーマごとに文部科学省等から発行されている資料を配布</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに提出する小レポート (30%) ・授業中のグループ活動等における積極的な発言 (30%) ・中間課題レポート (20%) ・最終課題レポート (20%) 		
12. 受講生への メッセージ	学校保健は、児童生徒の健康や発達を支援する上で、また学習の機会を保障する上で、大変重要な領域です。それぞれの目指す職種の立場から、また学校保健という視点から、どのように児童生徒を支援することができるのか、講義の中で主体的に考える姿勢を期待します。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 学校保健の構造領域 ・学校保健とは ・ヘルスプロモーション	事前学習	これまでの学校保健についての既習事項について、復習しておく。教科書 pp10～23/pp88～97 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	学校保健の構造領域について理解したことを総括し、自分の考えをまとめる。
第 2 回	学校保健の今 ・平成 20 年中央教育審議会答申を読み解く	事前学習	事前に配布する、中央教育審議会答申を熟読し、記載されている内容をまとめておく。Pp24～28 pp37～42
		事後学習	講義時間内のディスカッションを総括し、現在の学校保健活動に求められている事項について、自分の考えをまとめる。
第 3 回	保健教育 ①保健学習 ・学習指導要領における保健学習 ・保健学習実施の実態調査結果から	事前学習	学校保健実務必携の保健学習に関するページ (pp.546～694) を参照。教科書 pp156～166 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	保健学習実態調査に関するディスカッションを総括し、自分の考えをまとめる。
第 4 回	②集団を対象とした保健指導 ・ライフスキル教育の体験	事前学習	学校保健実務必携の保健指導に関するページ (pp.559～694) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	児童生徒の生活改善につながる保健指導のあり方について、自分の考えをまとめる。
第 5 回	③児童生徒の現代的健康課題と保健教育 ・食育、性教育を進める際の留意点	事前学習	学校保健実務必携の食育・性教育に関するページ (pp.763～793/794～811) を参照。教科書 pp228～242 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	保健指導案作成の方法について、第3～5回の講義内容を復習し、保健指導案の作成にあたり資料準備を始める。
第 6 回	保健管理 ①児童生徒の健康診断 ・教育的活動としての健康診断 (事前指導を中心に)	事前学習	学校保健実務必携の健康診断に関するページ (pp.167～180) を参照。教科書 pp131～142 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断における事前指導に関するディスカッションを総括し、自分の考えをまとめる。
第 7 回	②健康観察 ・健康観察の観点	事前学習	学校保健実務必携の健康観察に関するページ (pp.181～197) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康観察に関するディスカッションを総括し、その留意事項について自分の考えをまとめる。
第 8 回	③健康相談 ・健康相談の基礎と事例検討	事前学習	学校保健実務必携の健康相談に関するページ (pp.392～409) を参照。教科書 pp144～154 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。

		事後学習	健康相談に関するディスカッションを総括し、その留意事項について自分の考えをまとめる。
第 9 回	④学校救急処置 ・救急処置体制の重要性 ・学校事故における裁判の判例から	事前学習	学校保健実務必携の学校救急処置に関するページ (pp.1062~1082) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	学校事故の事例に関するディスカッションを総括し、その留意点についてまとめる。
第 10 回	⑤学校環境衛生 ・定期検査、日常点検、臨時検査 ・日常点検の実践	事前学習	学校保健実務必携の学校環境衛生に関するページ (pp.80~165) を参照。教科書 pp215~226 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	教室内の日常点検を実施して気づいたことや感じたことをまとめる。
第 11 回	学校安全 ・学校安全の基礎的事項 ・安全点検の実践	事前学習	学校保健実務必携の学校安全に関するページ (pp.969~1061) を参照。教科書 pp189~214 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	教室内の安全点検を実施して気づいたことや感じたことをまとめる。
第 12 回	児童生徒の健康課題 ・児童のかかりやすい疾患 ・アレルギー ・歯科疾患と学校保健 ・保健指導案の作成	事前学習	学校保健実務必携の歯・口の健康づくり (pp.712~762) (pp 学校保健実務必携 pp447~473 / pp47506 参照) 教科書 pp178~188 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	事前に作成した (歯についての指導案を再検討) 気づいた点、改善点をまとめる。
第 13 回	児童生徒の発育発達と体力 ・学校保健統計調査から ・体力・運動能力調査から	事前学習	最新の学校保健統計調査、体力運動能力調査に目を通し、児童生徒の特徴をつかんでおく。
		事後学習	児童の発育発達・体力の現状から、学校が推進することのできる対策をまとめる。
第 14 回	精神の健康・障害のある児童生徒への対応 ・いじめ問題への対応の在り方	事前学習	事前に配布するいじめに関する資料を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	児童のいじめに関する現状から、学校が推進することのできる対策をまとめる。教科書 pp167~177 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
第 15 回	まとめ：「学校保健への参画のあり方」 ・最終課題レポートに記載した内容に基づいて、グループディスカッションを行う。 ・学校保健活動推進のポイントを共有する。	事前学習	最終課題レポートの作成
		事後学習	グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえ、全講義内容を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	学校保健学 (学校安全を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2302
2. 授業担当教員	面川 幸子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	学校保健は、児童、生徒、学生並びに幼児の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果に資するための学問である。教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の法令が、学校教育課程にある子どものよりよい成長と学校教育の円滑な実施を支援している。本講義では、学校保健の構造やその意義、法的な位置づけなど、基礎的かつ重要な事項について習得し、それぞれの領域での取り組みの実際について学ぶ。また、各自が目指す職種の立場からの参画の仕方について、主体的に考えることを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校保健の意義、構造、内容について理解し、説明することができるようになる。 2 保健教育の中の、保健学習と保健指導について、その位置づけや実践のあり方について理解し、説明することができるようになる。 3 保健管理の心身の管理、生活の管理、学校環境の管理について理解し、その実践のポイントを習得する。 4 児童生徒の現代的健康課題と、これに応じた学校保健活動の進め方について習得する。 5 学校保健推進にかかわる教員として、健康増進にとって不可欠な内容について具体的に学び身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する振り返りをする。 ・中間課題レポート：保健指導案の作成 (歯に着いての指導案) ・最終課題レポート：自らの目指す職種において、学校保健活動にどのように参画することが求められるのか、自らの考えを記述する。(800字程度) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『学校保健ハンドブック 第6次改訂 教員養成系大学保健協議会/編』 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第4次改訂版』</p> <p>【教材】テーマごとに文部科学省等から発行されている資料を配布。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のグループ活動等における積極的な発言 (30%)・毎時間ごとの授業振り返り (30%) ・中間課題レポート(20%) ・最終課題レポート (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	学校保健は、児童生徒の健康や発達を支援する上で、また学習の機会を保障する上で、大変重要な領域です。それぞれの目指す職種の立場から、また学校保健という視点から、どのように児童生徒を支援することができるのか、講義の中で主体的に考える姿勢を期待します。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 学校保健の構造領域	事前学習	これまでの学校保健についての既習事項について、復習しておく。Pp2～pp33
		事後学習	学校保健の構造領域について理解したことを総括し、自分の考えをまとめる。
第2回	学校保健の今 ・平成20年中央教育審議会答申を読み解く	事前学習	事前に配布する、中央教育審議会答申を熟読し、記載されている内容をまとめておく。
		事後学習	ディスカッションを総括し、現在の学校保健活動に求められている事項について、自分の考えをまとめる。
第3回	保健教育 ①保健学習 ・学習指導要領における保健学習 ・保健学習実施の実態調査結果から	事前学習	学校保健実務必携の保健学習に関するページ (pp.546～694) を参照。保健学習に関するページ (pp.36～81) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	保健学習実態調査に関するディスカッションを総括し、自分の考えをまとめる。
第4回	②集団を対象とした保健指導 ・ライフスキル教育の体験	事前学習	学校保健実務必携の保健指導に関するページ (pp.559～pp694) を参照。教科書の保健指導に関するページ (pp.84～88) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	児童生徒の生活改善につながる保健指導のあり方について、自分の考えをまとめる。
第5回	③児童生徒の現代的健康課題と保健教育 ・食育、性教育・喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育を進める際の留意点 ・中間課題の提示	事前学習	学校保健実務必携の食育・性教育に関するページ (pp763～793/794～811) を参照。教科書の食育・性教育に関するページ (pp.92～109) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	保健指導案作成の方法について、第3～5回の講義内容を復習し、保健指導案の作成を行う。
第6回	保健管理 (児童・生徒の健康状態の把握) ①児童生徒の健康診断 ・教育的活動としての健康診断 (事前指導を中心に)	事前学習	学校保健実務必携の健康診断に関するページ (pp.167～180) を参照。学校保健教科書の健康診断に関するページ (pp.149～158) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断における事前指導に関するディスカッションを総括し、自分の考えをまとめる。
第7回	②健康観察 ・健康観察の観点	事前学習	学校保健実務必携の健康観察に関するページ (教科書の pp.181～197) を参照。健康観察に関するページ (pp.140～143) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康観察に関するディスカッションを総括し、その留意事項について自分の考えをまとめる。
第8回	③健康相談 ・健康相談の基礎と事例検討	事前学習	学校保健実務必携の健康相談に関するページ (pp.392～409) を参照。教科書の健康相談に関するページ (pp.144～148) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。

		事後学習	健康相談に関するディスカッションを総括し、その留意事項について自分の考えをまとめる。
第 9 回	④-1 学校救急処置 ・救急処置体制の重要性 ・学校事故における裁判の判例から	事前学習	学校保健実務必携の学校救急処置に関するページ (pp.1062~1082) を参照。教科書の学校救急処置に関するページ (pp.260~278) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	学校事故の裁判事例に関するディスカッションを総括し、その留意点についてまとめる。
第 10 回	⑤学校環境衛生 ・定期検査、日常点検、臨時検査 ・日常点検の実践	事前学習	学校保健実務必携の学校環境衛生に関するページ (pp.80~165) を参照。教科書の学校環境衛生に関するページ (pp.218~233) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	教室内の日常点検を実施して気づいたことや感じたことをまとめる。
第 11 回	学校安全 ・学校安全の基礎的事項 ・安全点検の実践	事前学習	学校保健実務必携の学校安全に関するページ (pp.969~1061) を参照。教科書の学校安全に関するページ (pp.236~257) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	教室内の安全点検を実施して気づいたことや感じたことをまとめる。
第 12 回	児童生徒の健康課題 ・児童のかかりやすい疾患 ・学校における感染症と予防と対応 ・歯科疾患と学校保健	事前学習	学校保健実務必携の歯・口の健康づくり (pp.712~762 pp.447~473/pp.475~506) を参照。教科書の児童・生徒のおける疾病・異常及び感染症 (pp.160~182) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	事前に作成した (歯についての指導案を再検討) 気づいた点、改善点をまとめる。
第 13 回	児童生徒の発育発達と体力 ・学校保健統計調査から ・体力・運動能力調査から	事前学習	最新の学校保健統計調査、体力運動能力調査に目を通し、児童生徒の特徴をつかんでおく。教科書 (pp.129~137) を熟読しておく
		事後学習	児童の発育発達・体力の現状から、学校が推進することのできる対策をまとめる。
第 14 回	精神の健康・障害のある児童生徒への対応 ・いじめ、(不登校) の実態から	事前学習	教科書の精神の健康 (pp.184~200) を熟読しておく。事前に配布するいじめに関する資料を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	児童のいじめに関する現状から、学校が推進することのできる対策をまとめる。
第 15 回	まとめ：「学校保健への参画のあり方」 ・学校保健活動推進のポイントを共有する。	事前学習	今まで学んだことから学校保健学について考えをまとめておく
		事後学習	グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえ、全講義内容を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	家庭科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3433 EDEL3319
2. 授業担当教員	榎本 ヒカル		
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーションなど	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	家庭科の教科としての意義や、小学校家庭科の目標、内容、指導方法などについて教授する。さらに実際の家庭科学習のありかたを具体的な学習指導計画や学習指導案などの作成を通して、実践的に検討し提案する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の特質とその役割を知り、指導対象となる児童の生活実態や家庭科学習に関する背景的要因などを理解する。 2. 小学校家庭科の授業計画を構想し、具体的な学習指導計画や学習指導案、授業展開、評価などができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	学習指導案、評価レポート等の作成を課す。下記「14. 授業展開及び授業内容」を参照すること。授業中に詳細を通知する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社。 検定教科書『私たちの家庭科 小学校5・6』開隆堂。 流田直ほか『できますか？教えられますか？家庭科の基本』学研。		
11. 成績評価の方法	提出物評価 50%、 欠席・遅刻回数、教科書や実習用具持参状況も含めた授業参加態度評価 50%、 合計 100%。		
12. 受講生への メッセージ	1. 家政実習室使用時は使用のルールを必ず守ること。 2. 調理実習時には清潔を保ち、エプロンか白衣、三角巾やバンダナを持参し着用すること。 3. 被服製作時には裁縫道具を持参すること。 4. 毎時間教科書は全て必ず持参し、学習する人間として相応しい態度で授業に臨むこと。 5. 交通機関の遅延による遅刻の場合は、遅延証の提出だけでなく遅延の状況を詳細に説明すること。 以上 5 点を守れない者には受講資格はないものとする。		
13. オフィスアワー	授業中に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 学習を進めるにあたっての諸説明、家庭科学習の振り返り	事前学習	各自が過去に体験した家庭科教育を整理しておく
		事後学習	家庭科教育に関するレポート作成
第 2 回	家庭科の目標と学習指導要領の内容構成について	事前学習	学習指導要領解説 pp. 1～16 を読んでおく
		事後学習	学習指導要領に関するレポート作成
第 3 回	小学校家庭科の内容と指導法 (1) A 家庭生活と家族	事前学習	学習指導要領解説 pp. 17～24 を読んでおく
		事後学習	小学校教科書の対応ページをよく読んでおく
第 4 回	小学校家庭科の内容と指導法 (2) B 日常の食事と調理の基礎 その 1 : 食事の役割、栄養を考えた食事	事前学習	学習指導要領解説 pp. 25～36 を読んでおく
		事後学習	調理実習計画のレポート作成
第 5 回	小学校家庭科の内容と指導法 (3) B 日常の食事と調理の基礎 その 2 : 調理の基礎	事前学習	学習指導要領解説 pp. 30～36 を読んでおく
		事後学習	調理実習事後レポート作成
第 6 回	小学校家庭科の内容と指導法 (4) C 快適な衣服と住まい その 1 : 衣服の着用と手入れ	事前学習	学習指導要領解説 pp. 37～40、 pp. 44～48 を読む
		事後学習	小学校教科書の対応ページをよく読んでおく
第 7 回	小学校家庭科の内容と指導法 (5) C 快適な衣服と住まい その 2 : 生活に役立つ物の制作	事前学習	実習道具・材料の準備をしておく
		事後学習	被服製作実習事後レポート作成
第 8 回	小学校家庭科の内容と指導法 (6) C 快適な衣服と住まい その 3 : 快適な住まい方	事前学習	学習指導要領解説 pp. 40～43 を読んでおく
		事後学習	小学校教科書の対応ページをよく読んでおく
第 9 回	小学校家庭科の内容と指導法 (7) D 身近な消費生活と環境、他教科・中学校との関連	事前学習	学習指導要領解説 pp. 49～63 を読んでおく
		事後学習	他教科の環境に関する学習項目をまとめる
第 10 回	家庭科の授業設計、授業方法、評価方法	事前学習	教科書、小学校教科書全体をよく読んでおく
		事後学習	単元指導計画の作成
第 11 回	学習指導計画 (1) 単元指導計画の検討	事前学習	検討会の準備をしておく
		事後学習	検討会の結果をまとめておく
第 12 回	学習指導計画 (2) 単元指導計画の発表	事前学習	発表の準備をしておく
		事後学習	模擬授業学習指導案の提出
第 13 回	模擬授業と評価 (1) 模擬授業の発表と評価	事前学習	模擬授業の準備
		事後学習	評価レポートの作成
第 14 回	模擬授業と評価 (2) 模擬授業のふりかえり	事前学習	模擬授業の準備
		事後学習	評価レポートの作成
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	プレゼンテーションの準備
		事後学習	まとめレポートの作成

1. 科目名 (単位数)	家庭支援論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3120
2. 授業担当教員	青木 正		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、保育士として家庭、地域などを視野に入れた子育て家庭に対する支援のあり方や支援体制等について理解をする。さらに保育相談支援の意義や内容、方法など子育てを行う保護者支援の基本を理解する。		
8. 学習目標	1. 家庭支援に必要な考え方を理解し、実践で活かせるようにする。 2. 子育て支援に必要な支援に関連する福祉制度に規定された支援機関・体制を理解する。 3. 子育て支援に必要な支援方法、及び関連機関との連携を理解し、実践で活かせるようにする。 4. 保育相談に係る考え方と具体的な方策を理解し、実践で活かせるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回授業の初めに、前回の復習を兼ねた、小テストを実施する。また、後半期にレポートを課す。レポートの題目及び執筆規定については授業の中で指示する。予習や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的な学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 1. 山本伸晴ほか『保育士をめざす人の家庭支援』(株)みらい、2011。 【参考書】 1. 溝口元ほか『家庭支援論』アイ・ケイ コーポレーション、2011。 【教材】 1. 講義を補足するために必要に応じて資料を配布する。		
11. 成績評価の方法	試験、レポート、受講態度、授業への積極的参加度を総合して、次の基準で評価を行う。 小テストの評価 30% レポートの評価 50% 受講態度 20% (積極的な取り組みを見せた個人をプラス評価の対象とする)		
12. 受講生へのメッセージ	1. 遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する(した)場合は書面で教員に届け出ること。 2. レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。 3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。		
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィス参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要と進めかた「家庭支援論」と「家族援助論」	事前学習	シラバスを熟読しておく。
		事後学習	「家族支援」「家族援助」のイメージを言語化しておく。
第 2 回	保育士による家庭支援①	事前学習	保育士の職業イメージを整理。
		事後学習	これまでに他の科目等で「家族」「家庭」について学んだことを、授業ノート等から書き出しておく。
第 3 回	保育士による家庭支援② 家族の変容と社会変容①	事前学習	他科目で学習したバイスティックの対人援助 7 原則をおさらいしておく。
		事後学習	身近な性別役割分業の例を書き出し、考察する。
第 4 回	家族の変容と社会の変容②	事前学習	現代の家族の問題について、報道された記事やコラムなどを 1 点以上読んでくる。
		事後学習	「多様な家族構成」の「多様」の意味を、授業内容をふまえて考える。
第 5 回	家族の変容と社会の変容② 子育て支援①	事前学習	子育てについて、現代の女性がどのような不安を感じていると考えられるか。列挙しておく。
		事後学習	国際結婚・国際離婚の現状について、新聞記事やコラムを読む。
第 6 回	子育て支援②	事前学習	子育て支援サービスの主要なものを書き出しておく。
		事後学習	児童手当の変遷を自分でもう一度整理しておく。
第 7 回	地域の子育て支援への取り組み 【レポート課題の提示】	事前学習	「地域社会」がキーワードとなっている福祉関連テキストをチェックする。
		事後学習	地域における子育て支援の現状、課題、可能性について考察する。
第 8 回	施設での家庭支援の考え方	事前学習	児童福祉施設について調べる。

		事後学習	児童福祉施設における家庭支援のあり方について整理する。
第 9 回	家庭支援の基本としての相談支援	事前学習	保育士が行う相談支援のあり方について考えてくる
		事後学習	保育士ができる相談支援とはどのようなものかについて整理する。
第 10 回	保育所入所児童の家庭への支援	事前学習	保育所の一般的な日課はどのようなものか。タイムテーブルを書き出す。
		事後学習	自分の考える効果的な取り組みとは何か、整理する。
第 11 回	配慮が必要な児童とその家庭への支援①：虐待疑いのケース	事前学習	報道された児童虐待の事件について、インターネットや書籍で 1 つ以上、読んでおく。
		事後学習	虐待の社会的・経済的背景をふまえて考察する。
第 12 回	配慮が必要な児童とその家庭への支援②：登園拒否	事前学習	「登校拒否」の定義や事例を調べておく。
		事後学習	自分が保育士であったら当該児童とその家族にどのようなかかわりをするかを考える。
第 13 回	配慮が必要な児童とその家庭への支援③：ひとり親家庭のケース 【レポート提出】	事前学習	「ひとり親家庭」の課題として、たとえば何を思い浮かべるか、書き出しておく。
		事後学習	事前書き出した内容と、授業内容の共通点・相違点について考える。
第 14 回	配慮が必要な児童とその家庭への支援④：発達障害疑いのケース	事前学習	発達障害に対するイメージを言語化しておく。
		事後学習	自分が保育士であったら当該児童とその家族にどのようなかかわりをするかを考える。
第 15 回	まとめ——子育て支援における保育とソーシャルワーク	事前学習	ソーシャルワークとは何か、だいたいの意味を調べておく。保育所における保育士の専門性について考えを深める。
		事後学習	児童家庭福祉論 I・II や社会的養護内容など、接合する科目との関連を整理する。また、シラバス 8. の学習目標が達成できたか、自己点検する。

1. 科目名 (単位数)	家庭支援論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3328 SCMP3328 SBMP3328 SJMP3120
2. 授業担当教員	高柳 瑞穂		5. 開講学期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係	児童・家庭福祉論を履修済みであることが望ましい。児童・家庭福祉論Ⅱを並行履修するとより理解が深まる		
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、保育士として家庭、地域などを視野に入れた子育て家庭に対する支援のあり方や支援体制等について理解をする。さらに保育相談支援の意義や内容、方法など子育てを行う保護者支援の基本を理解する。		
8. 学習目標	1. 家庭支援に必要な考え方を理解し、実践で活かせるようにする。 2. 子育て支援に必要な支援に関連する福祉制度に規定された支援機関・体制を理解する。 3. 子育て支援に必要な支援方法、及び関連機関との連携を理解し、実践で活かせるようにする。 4. 保育相談に係る考え方と具体的な方策を理解し、実践で活かせるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回の授業時に集中力を以て臨むことが求められる。 本シラバスの「学習課題」欄の内容について提出を求めることは原則ないが、各自で取り組むことが望ましい。細かさよりも効率よく要点を把握することが大切である。随時、講義内容に関しての発言やグループディスカッションを求める。これは「授業への貢献度」の対象となり、加点方式である。積極的な関わりを期待する。 レポート (任意提出) では、オリジナルの「地域子育て支援活動」を構想する。このテーマは授業内容と関係するだけでなく、オリジナルの地域子育て支援活動を構想するためには、地域の特色や実現可能性、他の支援活動や行政のサービスとの重なりや相違点などを適切に考慮する必要がある。作成には本講義で身に付けた知識や発想をフルに活用する必要があり、中間総括も兼ねたレポートと言える。レポートを課す時期と締切はシラバス14.に示すとおりであるが、キャンパスの授業計画によって変更もあり得る。こちらからの書式や指示、説明に従って作成されており、締切を厳守して提出すれば5点が付与され、独自性や考察の適切さ等でさらに加点され、15点満点で評価する。		
10. 教科書・参考書・教材	随時、授業内容に即した資料を配布する。映像教材も適宜使用する。参考文献はその都度、授業内で紹介する。『社会福祉小六法』及び『社会福祉用語辞典』(ともに出版社は問わないがなるべく版の新しいもの)は一人一冊ずつ持っていることが望ましいが購入は義務ではない。当科目だけでなく他の科目でも大いに役立つ。 なお、授業内で参考にする予定の図書をあらかじめ紹介しておく。授業時にはプリントを配布するので購入は義務ではない。 溝口元ほか (2011)『家庭支援論』アイ・ケイ コーポレーション 山本伸晴ほか (2011)『保育士をめざす人の家庭支援』(株) みらい		
11. 成績評価の方法	コメントカード・ディスカッションを含む授業への貢献度 20%、レポート 20%、小テスト 30%×2 回。その他、積極的な取り組みや真摯な授業態度は加点の対象となり、満点を 100%として評価を付ける。全出席を前提として授業を進める。こちらからの指示なく私語をした場合は退出を求め、その回を欠席と見なすことがある。 始業時間に 1 分でも遅れた場合は遅刻となる。遅延証は受け付けない。遅刻を合算して欠席 1 回とみなすことはないが、本学規程に基づき出席が 4 分の 3 未満の場合、単位付与されない。 レポートのコピペ、試験時のカンニング等の不正行為ないしそれと疑われる行為は無条件で F 評価とする。 コメントカードは、ランダムに数度、授業中に実施する。授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかで評価する。 小テストは社会福祉士国家試験受験者を考慮し、5 者択一のマークシート方式で行う。10~15 問で 30 点満点である。それが 2 回実施される。他の科目とも接合するような、ごく基本的かつ重要な項目を中心に問うが、授業を欠席した者にとっては難しく感じるだろう。		
12. 受講生へのメッセージ	「現代社会は昔と違って、近所づきあいが希薄だ」「地域とのつながりが希薄になり、子育て中の親が孤立し、育児の悩みや虐待につながってしまう」。こうした言い回しは、教科書やメディアなど至るところで耳にします。しかし、このような理解は決して間違いではありませんが、現代家族や子育てのごくごく一面しか捉えていません。授業を通して、物事を多角的かつ批判的に分析する力を身に付けていきましょう。		
13. オフィスアワー	オフィスアワー : 授業内で通知します。オフィスアワー以外の来室も可能です。なるべくメール (mimatsum@ed.tokyo-fukushi.ac.jp) で事前にアポ (約束) を取ってから来室が望ましいですが、アポ無しの来室にもできる限り対応します。 学外研究日 : 授業内で通知します 研究室の場所 : 13 号館 (6 号館斜め向かい、セブンイレブンの脇道入ったところ) 5 階 951 号室 メールボックス : 研究室のドアに袋があるほか、6 号館 1 階にメールボックスがあります。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス : 授業の概要と進めかた「家庭支援論」と「家族援助論」	事前学習	シラバスを熟読しておく。
		事後学習	「家族支援」「家族援助」のイメージを言語化しておく。
第 2 回	保育士による家庭支援①	事前学習	保育士の職業イメージを整理。

		事後学習	これまでに他の科目等で「家族」「家庭」について学んだことを、授業ノート等から書き出して置く。
第 3 回	保育士による家庭支援② 家族の変容と社会変容①	事前学習	他科目で学習したバイステックの対人援助 7 原則をおさらいしておく。
		事後学習	身近な性別役割分業の例を書き出し、考察する。
第 4 回	家族の変容と社会の変容②	事前学習	現代の家族の問題について、報道された記事やコラムなどを 1 点以上読んでくる。
		事後学習	「多様な家族構成」の「多様」の意味を、授業内容をふまえて考える。
第 5 回	家族の変容と社会の変容② 子育て支援①	事前学習	子育てについて、現代の女性がどのような不安を感じていると考えられるか。列挙しておく。
		事後学習	国際結婚・国際離婚の現状について、新聞記事やコラムを読む。
第 6 回	子育て支援②	事前学習	子育て支援サービスの主要なものを書き出して置く。
		事後学習	児童手当の変遷を自分でもう一度整理しておく。
第 7 回	映像教材①『私の中のあなた』前編	事前学習	優生学と優生思想の意味を調べておく。
		事後学習	病気のある子どもがいる家庭への支援について考えながら内容を整理する
第 8 回	映像教材②『私の中のあなた』後編	事前学習	デザイナーベビーについて検索する。
		事後学習	登場人物のような、強いストレス下にある家族に援助者として出会ったら、どのような支援をするか、考察する。
第 9 回	保育所入所児童の家庭への支援 【小テスト①実施（予定）】	事前学習	保育所の一般的な日課はどのようなものか。タイムテーブルを書き出す。
		事後学習	自分の考える効果的な取り組みとは何か、整理する。
第 10 回	地域の子育て支援への取り組み 【レポート（任意）課題の提示（予定）】	事前学習	「地域社会」がキーワードとなっている福祉関連テキストをチェックする。
		事後学習	地域における子育て支援の現状、課題、可能性について考察する。
第 11 回	配慮が必要な児童とその家庭への支援①：虐待疑いのケース	事前学習	報道された児童虐待の事件について、インターネットや書籍で 1 つ以上、読んでおく。
		事後学習	虐待の社会的・経済的背景をふまえて考察する。
第 12 回	配慮が必要な児童とその家庭への支援②：登園拒否	事前学習	「登校拒否」の定義や事例を調べておく。
		事後学習	自分が保育士であったら当該児童とその家族にどのようなかわりをするかを考える。
第 13 回	配慮が必要な児童とその家庭への支援③：ひとり親家庭のケース 【レポート提出（予定）】	事前学習	「ひとり親家庭」の課題として、たとえば何を思い浮かべるか、書き出して置く。
		事後学習	事前書き出した内容と、授業内容の共通点・相違点について考える。
第 14 回	配慮が必要な児童とその家庭への支援④：発達障害疑いのケース	事前学習	発達障害に対するイメージを言語化しておく。
		事後学習	自分が保育士であったら当該児童とその家族にどのようなかわりをするかを考える。
第 15 回	まとめ—子育て支援における保育とソーシャルワーク 【小テスト②実施】	事前学習	ソーシャルワークとは何か、だいたいの意味を調べておく。保育所における保育士の専門性について考えを深める。
		事後学習	児童家庭福祉論 I・II や社会的養護内容など、接合する科目との関連を整理する。また、シラバス 8. の学習目標が達成できたか、自己点検する。

1. 科目名 (単位数)	看護学 (救急処置を含む) (4 単位)	3. 科目番号	EDHE3313
2. 授業担当教員	高橋 登志子		
4. 授業形態	ディスカッション・講義を中心に、グループワーク・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す学生が、本科目を学ぶことの意味を考えることから取り組んでいく。教師が、点数ではなく「その児童・生徒」をみるように、看護は病気をみるのではなく生きている「その人」をみる。また、看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、養護実践に不可欠な看護学的知識や技術を中心に学んでいく。</p> <p>養護教諭は、教諭自らの身を用いて、その児童・生徒が言葉とからだで表現しているサインを状況と共に意図的に読み取る。そして目の前にいる児童・生徒が、命の危険を伴うのか、休養を要するのか、医療を要するのかを判断しなければならない。その上で、児童・生徒が生を営んでいくための心身機能に支障を来たす危険性を最小限にするために、教諭の身を用いて必要な手当てをしなければならない。本科目では、このような判断や手当てに必要なフィジカルアセスメント、感染予防、移送、包帯法などの知識や技術と、児童・生徒によくみられる症状や状態に応じた基本的な対応について学んでいく。</p> <p>また人間は、外界から酸素や食物を取り入れ、エネルギーをつくり出し、活動し、休息し、不要物を外界へ排泄し、生きている。これらの生理的な働きが生活・人生の基盤となり、これを整えていくことが自己実現へとつながる。食事・活動・排泄等の生きるための行動に関して、生理的な働きを保つための援助としてのみではなく、よりよく生きるために、生活行動を自立し、自律的な望ましい生活習慣を確立していくための、健康教育に必要な基礎知識としても学習する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生自らが、看護学を学ぶことの意味を見出し、記述することができるようになる。 2. フィジカルアセスメントに関する基礎的な知識と技術を学び、これに基づいた身体機能の評価方法を説明できるようになる。 3. 感染予防に関する基礎的な知識と技術を学び、「清潔」「不潔」の区別ができるようになる。 4. 食事・排泄・活動・睡眠の意義と自立、および自律的な生活習慣に向けた援助・支援に関する知識を学び、養護教諭の役割を見出して記述することができる。 5. 保健室の機能を活かす環境づくりに関する知識と技術を学び、実践することができるようになる。 6. 移動・移送・包帯法に関する知識と技術を学び、学生間で実践できるようになる。 7. 児童・生徒によくみられる症状・状態に応じた看護的対応に関して学び、代表的な症状・状態に対する対応について記述することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1. 望ましい養護教諭 (看護学を必要とする資格) についてあなたの考えを述べてください。</p> <p>課題 2. 学校における感染経路の遮断の演習からあなたの考えを述べてください。</p> <p>課題 3. バイタルサインの正常値と異常な状態についてまとめて、ヘルスアセスメントの関連性を述べてください。</p> <p>課題 4. 心肺蘇生法・AEDの使用目的・方法・注意点をまとめてください。</p> <p>課題 5. 第 25 回～第 29 回から、1 題選択しまとめてください。</p> <p>課題の提出方法については授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房 2013</p> <p>【参考書】</p> <p>中桐佐智子他『最新看護学』東山書房 2013。</p> <p>大谷尚子他『養護教諭のためのフィジカルアセスメント—見て学ぶ応急処置の基礎基本』日本小児医事出版社、2011。</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	課題レポート	50%	
	演習・実習、グループ発表	30%	
	日常の授業参加態度	20%	
12. 受講生へのメッセージ	<p>看護学は、医学的な専門用語をはじめ、養護教諭が遭遇しやすい一般的な疾患や症状を理解することが求められます。よって、わかりやすく解説をしながら授業を展開しますが、授業終了後は復習することが必要になります。</p> <p>授業では自分の意見が言える、人の意見がきける、質問ができるなど積極的な態度で学習してほしいと考えています。</p> <p>また、演習・実習は授業中だけでは十分出来ないことから、予習、復習しマスターしておくことが必須になります。演習・実習は看護・援助する側 (養護教諭・看護師などの役) とされる側 (児童生徒、幼児、患者役) の相互行為から成り立っていることを体験して下さい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業日は、授業と授業の間の時間、授業終了後に対応する。</p> <p>授業日以外に連絡を必要とした場合は sannke_tt@yahoo.co.jp に連絡してください。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 1) 本科目の学習目的、学習方法について 養護教諭と看護学の関連性について 看護と健康 1) 看護の概念・定義、 2) 健康の定義、健康観の変遷、ヘルスプロモーション	事前学習	テキスト pp.3～19 の内容を読んで養護教諭を目指す学生、その他を目指す学生が看護学を学ぶ意味について考えて臨むこと。
		事後学習	看護の概念・定義、健康の定義についてまとめる。 養護教諭 (看護学を必要とする資格を目指す学生) にとって看護学の関係についてのあなたの考えをまとめる。

第 2 回	看護倫理と養護教諭の職業倫理について 1) 看護の倫理 2) 子供の尊厳と法や規則理解 3) 養護教諭の職業倫理と活動範囲 4) 望ましい養護教諭について	事前学習	テキスト pp.37～46 の内容、第 1 回目に配布した資料を読んで自分の考えをレポートして臨むこと。
		事後学習	養護教諭としての職業倫理について説明できるようにまとめておくこと。望ましい養護教諭についてまとめておくこと。
第 3 回	看護の対象者の理解 1) 乳幼児期、児童生徒期、成人期、老年期のライフステージによる特徴と看護 2) 病状ステージから見る対象者 3) 学校看護の対象を病気・障害、学校の環境からの対象理解	事前学習	テキスト pp.20～27 の内容を読んで既存の知識を活用して考えをまとめて臨むこと。
		事後学習	健康のレベルの各段階の定義についてまとめ理解をしておくこと。
第 4 回	学校看護の連携 1) 学校看護と地域保健・医療・福祉・教育の連携 2) 養護教諭と機関が連携・参画する具体的事例 3) 学校保健に関わる機関・職種の理解	事前学習	テキスト pp.28～36 の内容を読んで自分の考えをまとめること。また、地域看護学で学んだことを統合して臨むこと。
		事後学習	学校における連携の意義について養護教諭としての立場を想定してまとめ提示できるようにしておくこと。
第 5 回	学校で活用するコミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) 子どもと家族との援助関係形成とコミュニケーション 学校看護における安全の意義と安全を守る技術	事前学習	テキスト pp.91～97 の内容を読んで臨むこと
		事後学習	自己のコミュニケーション能力を理解し、自己の課題を明確にしておくこと。
第 6 回	保健室の環境整備のための基礎知識 1) 保健室の環境調整、備品等について 2) ベッドメイキング	事前学習	テキスト pp.125～139 の内容と第 5 回目に配布した資料を読んで臨むこと。
		事後学習	ベッドメイキングの方法・留意点についてまとめておくこと
第 7 回	ベッドメイキングの演習	事前学習	ベッドメイキングの方法・留意点であるテキスト pp.133～137 の内容と第 5 回目に配布した資料を理解して臨むこと。
		事後学習	ベッドメイキングの演習での自己の課題を明確にしておくこと。また、保健室での活用を考えまとめておくこと。
第 8 回	感染予防 1) 感染予防の基礎知識 2) 学校における感染予防と発生時の対応	事前学習	テキスト pp.102～114 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	感染予防の基礎知識を復習しておくこと
第 9 回	3) 学校における感染経路の遮断の演習 4) 無菌操作(撮子、滅菌物等)演習	事前学習	テキスト pp.114～124 の内容を読んで滅菌操作ができるようにして臨むこと。
		事後学習	学校での感染経路の遮断をまとめること。無菌操作について実践できるように自己の演習を振り返っておくこと。
第 10 回	ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントとは 2) ヘルスアセスメントのプロセス フィジカルアセスメント① 1) バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧)について①	事前学習	テキスト pp.50～68 の内容を読んでバイタルサインの測定をできるように練習し臨むこと。
		事後学習	バイタルサインの正常値と異常な状態についてまとめておくこと。
第 11 回	フィジカルアセスメント② 1) バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧)について② 2) 問診、視診、聴診、打診、触診等について	事前学習	テキスト pp.69～90 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	バイタルサインの正常と異常な状態についてまとめておくこと。問診、視診、聴診、打診、触診についてまとめておくこと
第 12 回	3) バイタルサインの演習 問診、視診、聴診、打診、触診等の演習	事前学習	テキスト pp.113～125 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	バイタルサインの測定の演習で何ができたか、何が難しかったかを提示された評価レポート用紙に記入し提出する。
第 13 回	フィジカルアセスメント ③ 部位別 1) 顔面のアセスメント 2) 頭頸部のアセスメント	事前学習	テキスト pp.72～73 の内容を読んでテキストにある専門用語、病気等を確認して臨むこと。
		事後学習	顔面、頭頸部のアセスメントの実践から自己の課題を確認しておくこと。
第 14 回	3) 胸部のアセスメント 4) 腹部のアセスメント 5) 脳神経のアセスメント	事前学習	テキスト pp.77～90 の内容を読んでテキストにある専門用語、病気等を確認して臨むこと。
		事後学習	胸部、腹部、脳神経のアセスメントの実践から自己の課題を確認しておくこと。
第 15 回	6) 口腔のアセスメント 7) 眼・耳・鼻のアセスメント	事前学習	テキスト pp.73～77 の内容を読んでテキストにある専門用語、病気等を確認して臨むこと。
		事後学習	口腔、眼・耳・鼻のアセスメントの実践から自己の課題を確認しておくこと。
第 16 回	養護教諭が活用する体位と移動 1) ボディメカニクスの原理・原則と活用法 2) 体位の種類と特徴 3) 体位変換の方法の基礎知識 4) 車いすの移動・移乗方法の基礎知識 5) 搬送法の基礎知識	事前学習	テキスト pp.140～154 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	ボディメカニクスの基礎知識を前のベッドメイキングの演習を振り返り意義を考えておくこと。車いすの移動・移乗の方法を確認しておくこと。

第 17 回	体位と移乗の演習 1) 体位変換 2) 車いすの移動・移乗	事前学習	学校の保健室で活用法を考えて臨むこと。
		事後学習	体位変換、車いす移動・移乗実践から自己の課題を確認してレポートすること。
第 18 回	養護教諭が活用する食事・排泄 1) 子どもにとっての食事と栄養について 2) 食生活への支援・援助について	事前学習	テキスト pp. 183~185 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	養護教諭として、子どもにとっての食事の意義について考えをまとめておくこと。
第 19 回	3) 排泄の意義と排泄に関する基礎知識 4) 排泄への支援・援助について	事前学習	テキスト pp. 185~187 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	養護教諭として、子どもにとっての排泄の意義について考えをまとめておくこと。
第 20 回	養護教諭が活用する清潔・休息と睡眠・活動 1) 健康生活における清潔の意義と清潔に関する基礎知識 2) 清潔への支援・援助について 3) 休息・睡眠の意義と睡眠に関する基礎知識	事前学習	テキスト pp. 188~191 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	養護教諭として、子どもにとっての清潔について考えをまとめておくこと。
第 21 回	4) 休息への支援援助について 5) 活動の意義と活動の基礎知識 6) 活動への支援・援助について	事前学習	テキスト pp. 191~196 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	養護教諭として、子どもにとっての休息と睡眠・活について考えをまとめておくこと。
第 22 回	止血法・包帯法・巻法について 心肺蘇生法・AEDの基礎知識	事前学習	テキスト pp. 157~178、第 20 回に配布資料の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	配布資料に心肺蘇生法・AEDの使用目的・方法・注意点をまとめること。
第 23 回	心肺蘇生法・AEDの演習	事前学習	まとめた配布資料の内容を確認すること。
		事後学習	心肺蘇生法・AEDの演習から自己の課題を確認しておくこと。
第 24 回	止血法・包帯法・巻法の演習	事前学習	まとめた配布資料の内容を確認すること。
		事後学習	止血法・包帯法・巻法の演習から自己の課題を確認しておくこと。
第 25 回	症状別の支援と援助 グループ学習と発表 1) 頭痛、腹痛 2) 嘔気・嘔吐 3) 下痢、便秘	事前学習	第 24 回に編成したグループと担当した症状を支援・援助の視点で発表・質疑・応答に向けてまとめておく。
		事後学習	発表・質疑・応答、他のグループの発表から自己のグループの課題を確認しておくこと。
第 26 回	4) 発熱 5) ショック、意識障害 6) かゆみ	事前学習	第 24 回に編成したグループと担当した症状を支援・援助の視点で発表・質疑・応答に向けてまとめておく。
		事後学習	発表・質疑・応答、他のグループの発表から自己のグループの課題を確認しておくこと。
第 27 回	事例検討① グループ学習 医療的ケア、慢性疾患を抱えた児童生徒の症状の急変を想定し、支援と援助をグループでまとめて発表する。	事前学習	グループで事例内容（資料提示）を支援・援助内容の視点でまとめて臨む
		事後学習	発表・質疑・応答、他のグループの発表から学んだことをまとめておくこと。
第 28 回	事例検討② グループ学習 学校で発生する外傷を想定し、支援と援助をグループでまとめて発表する。	事前学習	グループで事例内容（資料提示）を支援・援助内容の視点でまとめて臨む
		事後学習	発表・質疑・応答、他のグループの発表から学んだことをまとめておくこと。
第 29 回	事例検討③ グループ学習 学校で発生する糖尿病またはてんかんを想定し、支援と援助をグループでまとめて発表する。	事前学習	グループで事例内容（資料提示）を支援・援助内容の視点でまとめて臨む
		事後学習	発表・質疑・応答、他のグループの発表から学んだことをまとめておくこと。
第 30 回	まとめ	事前学習	看護学の「全体のまとめ」を考えて臨むこと。
		事後学習	看護臨床実習の授業に向けて看護学の「全体のまとめ」をすること。

1. 科目名 (単位数)	看護学 (救急処置を含む) (4 単位)	3. 科目番号	EDHE3313
2. 授業担当教員	尾岸 恵三子、三輪 生子		
4. 授業形態	ディスカッション・講義を中心に、グループワーク・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す学生が、本科目を学ぶことの意味を考えることから取り組んでいく。教師が、点数ではなく「その児童・生徒」をみるように、看護は病気をみるのではなく生きていく「その人」をみる。また、看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、養護実践に不可欠な看護学的知識や技術を中心に学んでいく。</p> <p>養護教諭は、教諭自らの身を用いて、その児童・生徒が言葉とからだで表現しているサインを状況と共に意図的に読み取る。そして目の前にいる児童・生徒が、命の危険を伴うのか、休養を要するのか、医療を要するのかを判断しなければならない。その上で、児童・生徒が生を営んでいくための心身機能に支障を来たす危険性を最小限にするために、教諭の身を用いて必要な手当てをしなければならない。本科目では、このような判断や手当てに必要なフィジカルアセスメント、感染予防、移送、包帯法などの知識や技術と、児童・生徒によくみられる症状や状態に応じた基本的な対応について学んでいく。</p> <p>また人間は、外界から酸素や食物を取り入れ、エネルギーをつくり出し、活動し、休息し、不要物を外界へ排泄し、生きていく。これらの生理的な働きが生活・人生の基盤となり、これを整えていくことが自己実現へとつながる。食事・活動・排泄等の生きるための行動に関して、生理的な働きを保つための援助としてのみではなく、よりよく生きるために、生活行動を自立し、自律的な望ましい生活習慣を確立していくための、健康教育に必要な基礎知識としても学習する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生自らが、看護学を学ぶことの意味を見出し、記述することができるようになる。 2. フィジカルアセスメントに関する基礎的な知識と技術を学び、これに基づいた身体機能の評価方法を説明できるようになる。 3. 感染予防に関する基礎的な知識と技術を学び、「清潔」「不潔」の区別ができるようになる。 4. 食事・排泄・活動・睡眠の意義と自立、および自律的な生活習慣に向けた援助・支援に関する知識を学び、養護教諭の役割を見出して記述することができる。 5. 保健室の機能を活かす環境づくりに関する知識と技術を学び、実践することができるようになる。 6. 移送・移送・包帯法に関する知識と技術を学び、学生間で実践できるようになる。 7. 児童・生徒によくみられる症状・状態に応じた看護的対応に関して学び、代表的な症状・状態に対する対応について記述することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【レポート課題 1】「養護教諭として看護学を学ぶことの意味について自己の考えを述べよ」(800字程度)</p> <p>【レポート課題 2】「ヘルスアセスメントについての学びを述べよ」(800字程度)</p> <p>【レポート課題 3】「事例 2 ケースをあげ、救急処置について述べよ」(800字程度)</p> <p>※ 提出期限については、授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 藤井寿美子・山口昭子・佐藤紀久榮・采女智津江編著『養護教諭のための看護学』大修館書店。 2. 『保健室で役立つフィジカルアセスメント』監修 山内豊明 東山書房 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房。 2. 草川功監修・全養サ書籍編集委員会著『ここがポイント！学校救急処置 基本・実例、子どものなぜに答える』農文協。 		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極性、参加度、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極性・参加度・受講態度 30% 2. レポート提出状況 30% 3. レポートの内容 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>看護は病院で看護師によって行われるという狭義の看護ではなく、健康水準にある(健康な人をも対象とした)人々を対象に看護は行われているというように広義の看護であることを学習します。養護教諭は、学校現場において、教育的・医学的・看護学的知識・技能を有した専門職といわれています。子どもたち一人ひとりを尊重しながら、子どもたちと向き合い、総合的に対応できるアセスメント能力が求められます。みなさんの中で、看護というものがどのようなものであるかの理解を確認しつつ、双方向で授業を展開していきましょう。積極的参加度、受講態度、レポートの形で評価します。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業等)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>○オリエンテーション</p> <p>・カリキュラムにおける本科目の位置づけ</p> <p>・本科目の学習目標・学習内容の概要・学習方法</p> <p>【看護学総論】</p> <p>○非看護系大学における看護学について</p> <p>○看護学総論 ○看護職の倫理</p>	事前学習	教科書「はじめに」を読んだ上で、既習の知識と生活体験から、養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意味を考え、発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.2-5 を読み、授業内容の理解を深める。

第 2 回	○基礎看護論 ・看護の基礎 ○看護の機能と養護教諭 ○望ましい養護教諭とは（専門職としての資質能力）	事前学習	教科書pp.6-10 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業内容を踏まえて、養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意義について考えを深めておく。
第 3 回	○看護行為の基本 ・コミュニケーション ・観察の目的 ・記録の重要性	事前学習	学校看護において、なぜ連携や協働が必要であるのか、自分なりの考えを発表できるようにしておく。教科書 pp.12-14
		事後学習	養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意味について、自己の考えをまとめる。
第 4 回	○看護の過程 ・養護教諭の養護活動の過程 ・疾病の経過に伴う看護 ・児童生徒対象の病気の経過に対応して行われる援助	事前学習	教科書 pp.16-23 の養護教諭の行う看護的対応の流れを理解しておく。
		事後学習	教科書等をみながら、特に自主的に取り組みたい学習課題について考えておく。
第 5 回	○健康診断 ・健康診断の目的 ・健康診断の法的根拠 ・健康診断の種類	事前学習	教科書 pp.26-36 を読み、健康診断が教育活動に関係が深いことを学ぶ。
		事後学習	健康診断の事後処置及び救急処置として頻度が高い疾病について深める。
第 6 回	○小児看護 ・小児看護の基礎知識（小児の健康と看護） ・小児各期の健康障害（幼児期・学童期）の理解 ・こころのケア（心的外傷ストレス、虐待、いじめ）	事前学習	教科書 pp.37-58 を読み、小児期の健康障害を理解し看護を学び教育活動に関係が深いことをまとめておく。
		事後学習	小児看護が養護教諭活動に関係が深いことを理解し深める。
第 7 回	○学校における感染予防に関する基礎知識 ・感染予防の 3 原則 ・消毒と滅菌の種類および方法 ・学校における感染症発生時の対応	事前学習	教科書 pp.52-58 「学校における感染予防・対策の考え方」を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	感染症の予防や拡大防止において、学びと自己課題をまとめておく。
第 8 回	○思春期看護 ・思春期の健康障害と看護・予防	事前学習	教科書 pp.59-83 まで熟読し、思春期の健康にかかわる問題と解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	思春期の健康問題の看護と予防について学んだことについて自己課題をまとめておく。
第 9 回	○眼科疾患と看護 ○耳鼻咽喉科疾患と看護 ○皮膚科疾患と看護	事前学習	教科書 pp.85-112 まで熟読し、解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	専門用語や学童期によく見られる症状や疾患、必要な看護について自己課題をまとめておく
第 10 回	○口腔歯科保健と看護 ○学校における救急看護（救急処置）	事前学習	教科書 pp.114-128 まで熟読し、保健室の機能と養護教諭の役割についてまとめておく
		事後学習	児童生徒の生命や安全について、体験をふり返り、自己課題をまとめておく。
第 11 回	○障害のある児童生徒の理解と看護 ○健康つくりと健康教育 ・ヘルスプロモーション ・日本の健康つくりの取り組み ・学校における健康教育 ・健康相談プロセス	事前学習	教科書 pp.129-134/pp.135-144 まで目を通し、わかったこと、わからなかったところを発表できるようにしておく。
		事後学習	健康教育活動について、授業内容の理解を深めておく。また、その活動の中心となる自己の課題をまとめておく。
第 12 回	○成人看護の基礎と予防対策・老人（高齢者）看護 ○公衆衛生看護の目的、業務と地域における看護活動	事前学習	教科書 pp.146-160 まで熟読し、系統的に健康つくりのための看護を理解し、学校保健と関係が深いことを学ぶ。
		事後学習	学校看護において、なぜ、連携や協働が必要であるか、自分なり考えを発表できるようにしておく。
第 13 回	【看護技術】 ○基礎看護 ・環境整備・安楽な体位・傷病者の移送 ・衣服の脱着・身体の清潔・排泄の援助 ・食生活の援助・薬法・薬の知識と理解	事前学習	教科書 pp.162-170 搬送法に関する技術のイメージトレーニングをしておく。また、児童を保健室に搬送してくることを想定し、必要な心身の準備と環境を整えておく。
		事後学習	保健室の使用後を想定した実習室環境を整える。また、授業で学んだ体験をふり返り、自己課題をまとめておく。
第 14 回	○感染予防のテクニック ・無菌操作に関する基礎知識 ・無菌操作の技術の実際	事前学習	教科書 pp.170-173 原理原則を抽出し、発表できるようにしておく。
		事後学習	身近なものを用いて、無菌操作のイメージトレーニングをしておく。
第 15 回	○バイタルサインの測定法 ・体温、脈拍、呼吸、血圧 ・包帯法 ○救急処置 ・技術の習得・体位・保温・止血法	事前学習	教科書 pp.173-202 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.173-193 を参照しながら、脈拍触知可能な各部位を自分の身体で確認する。また、他者の脈拍と呼吸数を測定する体験をしておく。

	・症状別救急処置（創傷・捻挫・骨折・熱中症・アナフィラキシーショック）		
第 16 回	【救急処置】 ○フィジカルアセスメントとは何か ・基本技術と理論	事前学習	教科書 2 pp.8-19 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	人間が生活を営む機能を支持する養護教諭の役割について考え、まとめる。
第 17 回	○養護教諭にとってのフィジカルアセスメントの重要性 ・養護教諭が行うフィジカルアセスメント	事前学習	教科書 2 pp.22-24 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	人間が生活を営む機能を支持する養護教諭の役割について考え、まとめる。
第 18 回	○フィジカルアセスメントに共通する基本技術 ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識障害）の測定方法と実際	事前学習	教科書 2 pp.34-67 に目を通し、呼吸・循環・体温調節に関する解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基準値を覚える。
第 19 回	○フィジカルアセスメントの実際① ・頭、眼科、耳鼻咽喉科における症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書 2 pp.74-101 目を通し、頭部、眼、耳鼻咽喉の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第 20 回	○フィジカルアセスメントの実際② ・口腔、首、顔面、胸における症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書 2 pp.102-141 を参照しながら、口腔、首、顔面、胸部の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第 21 回	○フィジカルアセスメントの実際③ ・腹部、四肢における症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書 2 pp.142-164 を読み、腹部の循環器系・四肢の骨格系の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第 22 回	○フィジカルアセスメントの実際④ ・発熱、気持ち悪い、めまい、立ちくらみ、だるい、疲れの症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書 2 pp.165-190 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己課題にとりくむ。
第 23 回	○症状フィジカルアセスメントの実際⑤ ・不眠、けいれん、ひきつけ、熱中症の症状や訴えに関する技術とその実際	事前学習	教科書 2 pp.191-211 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己課題にとりくむ。
第 24 回	○症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・顔の部位	事前学習	教科書 2 pp.214-246 を読み、顔の部位の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる顔のアセスメントの技術を学び深める。
第 25 回	○症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・胸部の部位	事前学習	教科書 2 pp.247-254 の該当部分を読み、胸部の部位の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる胸部のアセスメントの技術を学び深める。
第 26 回	症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・腹部の部位	事前学習	教科書 2 pp.255-268 を読み、腹部の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる腹部のアセスメントの技術を学び深める。
第 27 回	症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・全身	事前学習	教科書 2 pp.269-300 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となるアセスメントの技術を学び深める。
第 28 回	○止血法・包帯法に関する基礎的知識 ○心肺蘇生法に関する基礎的知識	事前学習	教科書 pp.191-192 及び配付資料を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書や資料を参照しながら、止血点を身体で確認し、技術を覚える。
第 29 回	○包帯法の実際 ○罨法の実際	事前学習	教科書 pp.181-187 を参照しながら、養護教諭が保健室でこれらの支援を行うこと想定し、必要な心身の準備と環境を整えておく。
		事後学習	保健室の使用後を想定した実習室環境を整える。資料を参照しながら体験をふり返り、自己課題をまとめる。
第 30 回	○本科目全体を通しての学びの想起（まとめ）	事前学習	養護教諭を志す自分が今まで学んだ看護学の意味について考えをまとめる。
		事後学習	本科目全体を通しての学びを想起し、現時点の自分が、看護臨床実習で学びたいこと、学ぶ必要性を感じることをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECM1316 GECM1326
2. 授業担当教員	郭 末任			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	韓国の文化と言語Ⅰでは言語を中心に講義を行なったが、Ⅱでは言語と文化両方を学習する。言語については基本的な挨拶から日常会話をはじめ、漢数詞、固有数詞などを応用し、会話を深める。文化については一般的な理論講義と共にビデオや現地見学(コリアタウン、高麗神社)などを併行して講義を行ない、より深い韓国文化の理解を高めることも目的とする。したがって、本授業は基本的なハングル文字を理解し、韓国の文化に興味を持っている学生が授業の対象として望ましい。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの文字と単語を覚える 2. 基本的な日常会話ができるように学習する 3. 現代の韓国社会の政治・経済・社会・文化などについて理解する。 4. 韓国の伝統文化・名節について理解する。 5. 韓国の歴史や世界遺産などについて理解する。 6. 韓国の文化を直接的に体験し、より深い文化を理解する。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 個人レポート：韓国文化の中で一つを選び、日本との相違点や類似点についてまとめる。 2) グループレポート：グループで発表した内容をまとめる。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 授業中に随時プリントを配る。 【参考書】 授業中に随時示す。 木内明 著『基礎から学ぶ韓国語講座初歩』国書刊行会 2014 金真 他『韓国文化を読む』朝日出版社 2011			
11. 成績評価の方法	成績の判断基準は試験、日常の取り組み、レポートの3つに基づく。評価の割合は、1学期100点満点で、試験を50点、日常の取り組みを30点、レポートを20点にする。試験による評価は途中の理解度を測定するため授業中に何度か小テストを行う。日常の取り組みは韓国語や文化に関する情報や考えを持ち寄る情報コーナーでの発表による。レポートは1学期を通してこんなことができるようになりたいという自己目標を設定し、成果を学期末に提出する。			
12. 受講生へのメッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的に授業に参加し発音などの練習のときは大きな声を出すこと。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときは傾聴すること。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	シラバスの説明	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバスに目を通し、講義へ臨むこと	
		事後学習	自己目標の設定	
第2回	ハングル文字(母音と子音) 現代韓国社会の理解	事前学習	母音と子音を10回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えたハングル文字を確認する	
第3回	挨拶言葉 韓国のお寺	事前学習	挨拶言葉を10回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えた挨拶言葉を確認する	
第4回	教室の言葉 韓国の特産物	事前学習	教室言葉を10回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えた教室言葉を確認する	
第5回	否定文 韓国の伝統文化	事前学習	否定の例文を10個ノートに書く	
		事後学習	伝統文化の映像を見て理解したことをノートにまとめる	
第6回	尊敬語 韓国の歴史	事前学習	尊敬の例文を10個ノートに書く	
		事後学習	韓国歴史を時期区分しノートにまとめる	
第7回	職業の言葉 韓国の世界遺産	事前学習	職業の言葉を10回ずつノートに書く	
		事後学習	職業の言葉を確認する	
第8回	漢数字と固有数字 韓国と儒教	事前学習	漢数字を1から10まで覚える	
		事後学習	儒教が韓国社会に及ぼした影響についてノートにまとめる	
第9回	食堂での言葉 食文化の日韓比較	事前学習	注文の例文を10個ノートに書く	
		事後学習	食文化の日韓異同をノートにまとめる	
第10回	買い物の言葉 衣文化の日韓比較	事前学習	買い物の例文を10個ノートに書く	
		事後学習	韓国衣文化の特徴についてノートにまとめる	

平成 28 年度

第 11 回	家族の呼称 家族関係と家族制度の日韓比較	事前学習	家族関係言葉を 10 回ずつノートに書く
		事後学習	日韓家族制度の異同をノートにまとめる
第 12 回	位置関係の言葉 現代音楽の日韓比較	事前学習	位置関係の言葉を 10 回ずつノートに書く
		事後学習	日韓現代音楽の異同をノートにまとめる
第 13 回	過去形 韓国の名節	事前学習	過去形の例文を 10 個ノートに書く
		事後学習	韓国社会（名節）についてノートにまとめる
第 14 回	韓国語及び文化に関する発表	事前学習	韓国語及び文化に関する資料の収集及び整理
		事後学習	韓国語または文化に関する発表をまとめる
第 15 回	全体まとめ	事前学習	学期初めに設定した自己目標成果をまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる

1. 科目名 (単位数)	看護臨床実習指導 (2 単位)		3. 科目番号	EDHE3378
2. 授業担当教員	高橋 登志子			
4. 授業形態	グループワーク・ディスカッションを中心に、講義・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す実習生が「看護学 (救急処置を含む)」を中心とした既習の知識・技術等を活用して、主体的に看護臨床実習に臨む力を培うことを目指している。なお、養護教諭としての実践力を高めるためには、学校との連携が不可欠な、地域の医療を必要とする人々の理解や、医療現場、医療に携わる人々、専門性に基づいた看護業務に関する理解等が求められる。</p> <p>そして、看護は患者ではなく「その人」をみる。看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、看護臨床実習の場で実習生が学びを得るために必要となる、基礎的知識や技術、態度や心構えなどを学ぶ。また本科目は、学生が主体的に学習課題を見出した上で、グループでの学びを自己課題へとつなげていくことができるよう展開する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明することができるようになる。 2 養護教諭を志す実習生の心得と学び方や態度について学び、実践することができるようになる。 3 健康障害のある人々や、検査や治療を必要とする人々が体験している生活を想定し、看護の役割に関する自己の考えを記述することができるようになる。 4 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加・実習」をし、学びを得るための準備をすることができる。 5 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題の自覚をすることができる。 6 看護臨床実習において、場や状況の理解ができるようになるために、医療現場の組織や設備に関することを学び、医療現場にある人的・物的資源を調べる方法を見出すことができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【アサイメント (宿題)】</p> <p>課題 1. 養護教諭における看護臨床実習の目的、意義、位置づけについて述べてください。 課題 2. 小児科の代表的疾患・症状・治療法・検査について述べてください。 課題 3. 移動援助の実習を通して、学んだことを述べてください。 提出方法については授業中に提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 中桐佐智子・岡田加奈子編『改訂 養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック』、東山書房、2012。 『教育実習の手引き』東京福祉大学編 『養護実習・看護臨床実習の手引き』東京福祉大学編</p> <p>【参考書】 『看護学事典』 提示以外に必要な参考書は随時提示する。</p>			
11. 成績評価の方法	課題レポート	60%		
	授業への参加度	20%		
	実習	20%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「看護臨床実習指導」は、地域看護の実態を把握するとともに、看護現場で経験豊かな指導者の下で患者と直接的に触れ合い、養護教諭としての自覚や資質を高めるための基礎的能力や態度を養うこと。 養護教諭を目指す学生として医療機関で実習するということを念頭に心構え、態度、基本的知識・技術の習得できるように臨んでください。学校では、養護教諭の職務の中で、「看護の機能」に対するニーズは高いと言われている。この授業を通し、実践的な知識や技術が身につくことを期待しています。 授業には教科書を必ず持参すること、事前学習を必ず確認して参加してください。また、実習を取り入れた授業体制であるため動きやすい服装 (靴を含む) で参加してください。 授業中は通信手段の電源を切ってください。</p>			
13. オフィスアワー	<p>授業日は、授業と授業の間の時間、授業終了後 非常勤講師室で対応する。 授業日以外に連絡を必要とした場合は sannke_tt@yahoo.co.jp に連絡してください。</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 看護臨床実習の目的と意義	事前学習	テキスト pp. 8~16 の内容を読んで看護臨床実習目的は何かを看護臨床実習用ノートに記述してくること。	
		事後学習	養護教諭における看護臨床実習の目的、意義、位置づけについて看護臨床実習用ノートに記述して第 2 回目の授業に提出する。	
第 2 回	実習の方法 実習場所と実習内容について 実習生の心得・実習のルール・留意点	事前学習	テキスト pp. 8~23 の内容を読んで実習の方法、実習の心得はどのようなことかを読んで看護臨床実習用ノートに記述してくること。	
		事後学習	自己の希望する実習場所について、どのような実習機関・施設なのか、関係する法的な事項について調べノートにまとめる。 自己が行動できるように「実習生の心得・実習ルール・態度等」について授業の内容を看護臨床実習用ノートに記述する。	
第 3 回	医療系施設における実習	事前学習	テキスト pp. 26~45 の内容を読んで臨むこと。 病院と病床の種類別を調べて看護臨床実習用ノートに記述してくること。	
		事後学習	各科に共通する見学・参加可能実習内容を看護臨床実習用ノートにまとめる。	

第 4 回	各科実習とその具体的展開(看護技術の演習・地域医療と学校保健の連携に関する内容を含) ① 小児科・内科の実習	事前学習	テキスト pp. 46～49、pp. 53～54 の小児科実習の特徴、内科実習の特徴とは何かを読んでくること。
		事後学習	小児科実習内容、内科実習内容についてまとめる。小児の正常な形態的発達・機能的発達・精神・運動機能の発達、内科の疾患・症状・治療法・検査を看護臨床実習用ノートに記述する。
第 5 回	② 精神科・神経科の実習	事前学習	テキスト pp. 49～52 精神科・神経科実習の特徴とは何かを読んでくること。
		事後学習	精神科・神経科実習の疾患・症状・治療法・検査を看護臨床実習用ノートに記述する。
第 6 回	③ 外科・整形外科の実習	事前学習	テキスト pp. 54～61 外科実習、整形外科実習の特徴とは何かを読んでくること。
		事後学習	外科実習内容・整形外科実習の疾患・症状・治療法・検査を看護臨床実習用ノートに記述して第 7 回の授業に提出する。
第 7 回	④ 眼科・耳鼻咽喉科の実習	事前学習	テキスト pp. 61～64、pp. 66～69 眼科の実習、耳鼻咽喉科実習の特徴とは何かを読んでくること。
		事後学習	眼科実習、耳鼻咽喉科実習の疾患・症状・治療法・検査を看護臨床実習用ノートに記述してくること。
第 8 回	⑤ 歯科口腔外科の実習	事前学習	テキスト pp. 64～66 歯科口腔外科の実習内容の特徴とは何かを読んでくること。
		事後学習	歯科口腔外科実習の疾患・症状・治療法・検査を看護臨床実習用ノートに記述する。
第 9 回	⑥ 皮膚科・産婦人科の実習	事前学習	テキスト pp. 69～74 皮膚科実習、産婦人科実習の特徴とは何かを読んでくること。
		事後学習	皮膚科実習、産婦人科実習の疾患・症状・治療法・検査を看護臨床実習用ノートに記述する。
第 10 回	看護臨床実習記録の書き方・評価の仕方について①	事前学習	テキスト pp. 75～82 の内容を読んで看護臨床実習で利用される実習記録にはどのようなものがあるかを調べて看護臨床実習用ノートに概要を記述してくること。
		事後学習	看護臨床実習記録を授業中に提示した事例を用いて記録用紙に記述して第 11 回授業時に提出する。
第 11 回	医療機関での生活環境の想定した(ベッドメイキングの作成を含)実習	事前学習	第 10 回の授業の終了時に提示する配布資料を読み、留意点については記述してくること。
		事後学習	実習した内容を看護臨床実習用ノートに記述すること。
第 12 回	体位変換・移動の援助・衣類の着脱の実習	事前学習	第 11 回の授業の終了時に提示する配布資料を読み、留意点については記述してくること。
		事後学習	課題レポート提出…移動援助に関連した内容提出内容については授業終了時に提示する。
第 13 回	看護臨床実習を終えた先輩の体験(4年生がゲストティーチャーとして参加予定)	事前学習	実習に対しての不安や先輩に確認したいこと、聞きたいことを記述してくること。
		事後学習	先輩よりの助言をまとめ自分の実習の課題を看護臨床実習用ノートに記述する。
第 14 回	グループ討議『看護臨床実習において学びとりたいこと、体験したいこと』	事前学習	今までの学びを統合して「看護臨床実習の目的とあなた個人の実習課題」を記述してくること。
		事後学習	看護臨床実習の目的とあなた個人の実習課題を看護臨床実習用ノートに記述して提出。
第 15 回	看護臨床実習に関連する基礎知識の確認(解剖生理学、薬理学、医学、看護学等)	事前学習	第 14 回に看護臨床実習に関連する基礎知識の配布資料の内容を読んでくること。 テキスト pp. 188～197 の医学、看護学内容を読んでくること。
		事後学習	「看護臨床実習に必要な知識・技術」に関する薬理学を中心に学びを看護臨床実習用ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	看護臨床実習指導 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3378
2. 授業担当教員	面川 幸子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	グループワーク・ディスカッションを中心に、講義・発表・実技演習などで構成する。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す実習生が「看護学 (救急処置を含む)」を中心とした既習の知識・技術等を活用して、主体的に看護臨床実習に臨む力を培うことを目指している。なお、養護教諭としての実践力を高めるためには、学校との連携が不可欠な、地域の医療を必要とする人々の理解や、医療現場、医療に携わる人々、専門性に基づいた看護業務に関する理解等が求められる。</p> <p>そして、看護は患者ではなく「その人」をみる。看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、看護臨床実習の場で実習生が学びを得るために必要となる、基礎的知識や技術、態度や心構えなどを学ぶ。また本科目は、学生が主体的に学習課題を見出した上で、グループでの学びを自己課題へとつなげていくことができるよう展開する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明することができるようになる。 2 養護教諭を志す実習生の心得と学び方や態度について学び、実践することができるようになる。 3 健康障害のある人々や、検査や治療を必要とする人々が体験している生活を想定し、看護の役割に関する自己の考えを記述することができるようになる。 4 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加・実習」をし、学びを得るための準備をすることができる。 5 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題の自覚をすることができる。 6 看護臨床実習において、場や状況の理解ができるようになるために、医療現場の組織や設備に関することを学び、医療現場にある人的・物的資源を調べる方法を見出すことができるようになる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【レポート課題 1】「養護教諭を志す自己が看護臨床実習において学びとりたいこと」</p> <p>【レポート課題 2】「看護臨床実習における自己目標と自己課題」</p> <p>※ 提出期限については、授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>中桐佐智子・岡田加奈子編著『養護教諭必携シリーズ No.5 改訂 養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック』東山書房。</p> <p>【参考書】</p> <p>・岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房。</p> <p>・中桐佐智子・天野敦子・岡田加奈子編著『養護教諭必携シリーズ No.3 最新看護学』東山書房。</p> <p>・藤井寿美子・山口昭子・佐藤紀久榮・采女智津江編著『養護教諭のための看護学』大修館書店。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加度・受講態度 総合点の 30% 2 レポート提出状況 総合点の 30% 3 レポートの内容 総合点の 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「臨床」とは？「実習」とは？ 養護教諭を志すあなた自身の人生の中で、「看護臨床実習」は、誰に、どのような意味があるものとなるのでしょうか。「臨床」には、その時、なぜ、どのような人々がいて、なぜ、養護教諭を志すあなたと出会うのでしょうか。そして現在、あなたは誰と共に、なぜ、何を学ぼうとしているのでしょうか。行為や動作の 1 つひとつには、どのような根拠や意味があったのでしょうか。本授業では、このようなことを考えながら本授業に臨んだ人としての学びを、授業への積極的参加度や受講態度・レポートの形で評価します。</p> <p>教員は、学生自身が学習目標を達成できるよう、知識や技術の伝達のみでなく、学生に向き合い、共に考え、悩み、学ぶ喜びを共に見出せるよう努めます。そして学生の中に、向き合う力・つなげる力・考える力・発見する力・表現する力が培われていくことを期待しています。</p>		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・カリキュラムにおける本科目の位置づけ ・本科目の学習目標・学習内容・学習方法 ○「臨床」とは・「専門性」とは ○看護臨床実習の目的と意義 	事前学習	養護教諭取得を志す自分にとって、なぜ看護臨床実習に臨む必要があるのかを考え、発表できるようにしておく。(教科書 pp.8~14)
		事後学習	教科書を参考にしながら、自らが看護臨床実習に臨む目的について、まとめておく。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ○看護臨床実習の方法 ・実習機関・実習内容・実習形態 ○「実習」とは・実習生の心得・学び方・態度 ○看護臨床実習に向けた自己課題 	事前学習	教科書 pp.14・23 を読み、どのように感じたかをまとめ、発表できるようにしておく。
		事後学習	養護教諭を志す自分が看護臨床実習において学びとりたいことについてまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ○医療系施設の種類・病院の分類 ○病院の概要 ・病院の組織・医療従事者・看護部門の組織 ・病院内の施設・設備 ○病院において看護臨床実習に臨むことの目的 	事前学習	教科書 pp.26・32 を読み、わかったこと、わからなかったことを、発表できるようにしておく。
		事後学習	自分が病院実習で学ぶべきと考えることについて、まとめておく。

第 4 回	○看護過程・看護記録について ○各診療科に共通して見学・参加可能な実習内容について（本学の実習日誌を含む）	事前学習	教科書 pp.36-42 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.43-45 を参照し、看護臨床実習に向けての自己学習課題をまとめておく。
第 5 回	○各診療科における看護臨床実習① ・グループ学習課題の決定 ・グループワーク：第 7 回の講に向けての学習計画	事前学習	教科書 pp.44-74 に目を通し、取り組みたいグループ学習課題を 2 つ決めておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己学習課題に関する学習をしておく。
第 6 回	○各診療科における看護臨床実習② 〈グループワーク〉 ・調べてきた知識や学びの共有 ・発表に向けた準備	事前学習	グループワークに向けて必要な資料を準備し、説明できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての、発表に向けた自己学習課題に関する学習をしておく。
第 7 回	○各診療科における看護臨床実習③ 〈グループ発表〉：「小児科」「精神科・心療内科」「内科」「整形外科」「眼科」「歯科口腔外科」「耳鼻咽喉科」「皮膚科」「産科・婦人科」「(その他)」などのグループごとに、次の学習内容を発表する。 ・当該診療科の特色・実習の目的と目標（外来と病棟） ・実習の内容（外来と病棟）・学校保健に関する症状・疾患、及び検査・治療について ・看護師が目指していると思われること ・養護教諭を目指す学生が学びとるべきと考えること ・（診療科に限定せず）第 8 回～第 13 回での学習課題	事前学習	グループ発表における質疑応答も踏まえた準備をしておく。
		事後学習	グループ発表での学びを想起しながら教科書 pp.44-74 を読み、自己学習課題を明らかにしておく。 また、健康障害のある人々や検査や治療を必要とする人々の生活体験と、看護の役割についてまとめる。
第 8 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習① （ベッドメイキング・環境整備等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。pp.145～149
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 9 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習② （着脱・清潔・排泄に関する援助等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。Pp.150～
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 10 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習③ （移動・移送・体位変換等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。pp.141～144
第 11 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習④ （身体計測・フィジカルアセスメント等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 12 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習⑤ （無菌操作・包帯法等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 13 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習⑥ （看護の専門性・看護業務・医療用語・医療機器・医療設備等を想定）（本学の実習日誌を含む）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 14 回	○看護臨床実習の目標の明確化 ○看護臨床実習に向けての自己課題の明確化（本学に実習日誌を含む）	事前学習	現在の自分が考える看護臨床実習の自己目標および自己課題をまとめ、発表できるようにしておく。
		事後学習	授業での学びを踏まえて、看護臨床実習の自己目標および課題をまとめておく。
第 15 回	○看護臨床実習記録の書き方・評価の仕方 ○看護臨床実習に臨む上での心構え ○本科目全体を通しての学びの想起（まとめ）	事前学習	教科書 pp.74-82 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業での学びを踏まえて、看護臨床実習の自己目標および自己課題を新たにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I A (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3211 GECD3261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	2年次までの教職課程科目並びにキャリア基礎演習 I / キャリア基礎演習 II をすでに単位取得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教員には、校種別の専門的知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身に付けることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習 I (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習 I A (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア開発演習 I A においては、「教職教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力を身につけることを目標とする。各回の演習においては、「教職教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。		
8. 学習目標	1. 教育に関する基礎的な教養を身に付け、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得することができる。 2. 教職教養の各領域の出題傾向を理解したうえで、各自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 教職教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 教職教養の各領域の過去問演習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集等に取り組み、自己学習できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 各回の確認テスト 2. 習熟度確認テストおよびレポート課題		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 東京教友会編著『教職教養ランナー 2017 年度版』一ツ橋書店。 【配布資料】 各回の演習で資料を配布する。 【参考書】 協同教育研究会編『教職教養の精選実施問題』、協同出版。 協同教育研究会編『過去問シリーズ：〇〇県 (自治体別に出版) の教職教養』、協同出版。 資格試験研究会編『教職教養らくらくマスター』、実務教育出版。 その他、自らが学習しやすい参考書を参照すること。		
11. 成績評価の方法	各回の確認テスト 20% 習熟度確認まとめテスト 80%		
12. 受講生へのメッセージ	本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。 ① 授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ② 「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ③ 遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④ わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑤ 本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 *なお、本演習は各分野の専門教員による T, T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワー (時間割掲載のオフィスアワー欄を参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の目標と進め方。	事前学習	シラバスで授業内容を確認しておくこと。
		事後学習	テキストの「まえがき」の部分を熟読しておくこと。
第 2 回	現代の教育 (pp. 189~216) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 3 回	教育史① (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 4 回	教育史② (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 5 回	教育史③ (pp. 217~268) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 6 回	教育課程と教授・学習 (pp. 303~310) *毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。

第 7 回	教育法規① (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	教育法規② (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 9 回	教育法規③ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 10 回	教育法規④ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 11 回	教育法規⑤ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 12 回	教育法規⑥ (pp. 7～138) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 13 回	特別支援教育の制度① * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	特別支援教育についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 14 回	特別支援教育の制度② * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	特別支援教育についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 15 回	習熟度確認まとめテスト／授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。
第 16 回	教育心理① (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 17 回	教育心理② (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 18 回	教育心理③ (pp. 269～302) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 19 回	教育時事① * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 20 回	教育時事② * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 21 回	教育時事③ * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 22 回	教育時事④ * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	最近の教育問題についてまとめておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 23 回	学習指導要領① (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 24 回	学習指導要領② (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 25 回	学習指導要領③ (pp. 311～359) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 26 回	生徒指導・安全指導① (pp. 139～168) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 27 回	生徒指導・安全指導② (pp. 139～168) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。

第 28 回	人権尊重の教育① (pp. 169~188) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 29 回	人権尊重の教育② (pp. 169~188) * 毎回、授業の後半に確認テストを実施。	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 30 回	習熟度確認まとめテスト/授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I B (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3212 GECD3262 GECD4212
2. 授業担当教員	石垣 久美子		
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、養護教諭教員採用試験対策を柱に据えつつ、養護教諭としての資質・能力をさらに向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、これまでに身につけてきた養護教諭としての基礎的な能力をさらに発展させ、児童生徒の複雑かつ多様な健康課題に対応できる高度な専門性を習得することを目指す。また講義に取り組む中で、養護教諭という職業への責任と使命感を再確認し、意欲的な自己学習を定着させていくことを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員採用試験に合格し、養護教諭として現場で活躍するための発展的知識・技術を確実に習得し、実践に活かすことが出来る。 2. 児童生徒の健康課題に対する判断力・対応力を磨き、高度な専門職としての資質をさらに向上させる。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、内容の定着を図る。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 4. 養護教諭の職務に関する小論文執筆 (夏季および冬季休業期間中) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>1) 東京アカデミー編『オープンセサミシリーズ 2017 年度教員採用試験ステップアップ問題集⑩養護教諭』七賢出版、2015。</p> <p>【参考書】</p> <p>1) 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第 2 次改訂版』第一法規、2009。(購入済み)</p> <p>2) 『教員採用試験よくわかるシリーズ「よくわかる養護教諭」』時事通信出版局。(購入済み)</p> <p>3) 文部科学省、日本学校保健会より出版されている冊子など</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 (30%) 2. 演習問題の振り返りおよび日常的な自己学習への取り組み (20%) 3. 毎回の演習問題、半期ごとのまとめ課題への取り組み (30%) 4. 養護教諭の職務に関する小論文 (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	養護教諭専門科目での既習事項とリンクさせながら、2 年次までに身につけてきた養護教諭としての基礎基本をさらに発展させ、教員採用試験 1 次試験合格を目指しましょう。養護教諭としての専門性をさらに向上させ、学校現場で活躍することのできる知識・技術の習得を目標に、一つ一つクリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	初回講義にて告知します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・全国の出題傾向等 ・教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	自らの受験する自治体の受験情報を調べ、必要な準備についての見通しを持つ。
第 2 回	学校保健 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校保健に関するページ (pp. 2~10) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校保健の演習問題に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 3 回	学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校安全に関するページ (pp. 19~25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校安全の演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 4 回	養護教諭の職務と保健室 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の養護教諭に関するページ (pp. 33~48) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った養護教諭に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 5 回	保健教育① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp. 66~84) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 6 回	保健教育② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp. 66~84) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 7 回	健康診断① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp. 108~123) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 8 回	健康診断② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp. 108~123) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。

			み、内容の定着をはかる。
第 9 回	健康相談・健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康相談に関するページ (pp. 146~157) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康相談に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 10 回	疾病とその予防① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp. 169~205) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 11 回	疾病とその予防② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp. 169~205) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 12 回	救急処置① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp. ~25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 13 回	救急処置② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp. ~25) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 14 回	論文文① 「不登校の子どもへの養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	不登校の児童生徒への対応について、既習科目での学習内容を振り返っておく。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 15 回	春期問題演習のまとめと振り返り 今後の自己学習の進め方	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	半期の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標や自己学習計画を明確化する。
第 16 回	学校環境衛生 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校環境衛生に関するページ (pp. 301~310) を読んでおく。
		事後学習	本時に行った学校環境衛生に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 17 回	関係法規 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の関係法規に関するページ (pp. 321~329) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った関係法規に関連する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 18 回	実践問題① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 19 回	実践問題② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 20 回	全国過去問演習① (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 21 回	全国過去問演習② (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 22 回	全国過去問演習③ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 23 回	全国過去問演習④ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 24 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。
		事後学習	先輩の合格体験談を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。
第 25 回	論文文②： 「いじめに対する養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	いじめへの対応について、既習科目での学習内容をふりかえり、自分の考えをまとめる。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 26 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。

第 27 回	全国過去問演習② (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 28 回	全国過去問演習③ (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 29 回	全国過去問演習④ (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 30 回	秋期過去問演習のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1 年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (保育士 A コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3214
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、学生が保育の専門職の中で自分に適した職種を発見し、それに必要な知識及び技術を主体的に深めていくことを目的とする。現場で働く先輩や外部講師の講義、あるいは今まで学んだ知識を総合して、子どもを取り巻く現代社会の様々な問題を理解し、保育者としての多様な活動の場について広く深く理解する。そこから自分の適性と自分自身の課題を見極め、保育の基礎知識を再確認し、実践との結び付ける力を獲得できるようにする。		
8. 学習目標	1. 保育の専門職の中で自分の職業適性を知ることができる。 2. 自分にとって必要な課題を発見することができる。 3. 自分のキャリア形成に必要な課題を解決する力を習得する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	① 3 年次春学期までの学習と実習を振り返り、自己課題は何かを明確にし、レポートにまとめる。 ② 外部講師の御講話から学んだことと自己課題について明確にし、レポートにまとめる。 ③ 期末レポート課題：15 回の授業を踏まえ、自己課題をまとめ、4 年次の就職に向けた目標と課題についてレポートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2016 年度版』実務教育出版 【参考書】授業中に適宜、紹介します		
11. 成績評価の方法	① 各回終了後のリフレクションシートの提出と内容 30% ② 積極的授業態度・意欲・協働性 20% ③ レポート課題 50%		
12. 受講生へのメッセージ	保育に携わる専門職 (保育士、幼稚園教諭、保育教諭、社会福祉施設職員など) になるためには、幅広い知識や技術、豊かな人間性や教養が求められます。しかし、それ以前に、そうした道を選択していくための「私との対話」の時間が大切です。この授業では、外部講師のご講話や専門の先生方による講義・演習により、保育の専門職になる「私」を見つめ、専門科目に関する知識の習得とともに自己課題を見出すことを目指します。また、学習方法を学び、4 年次に向けて、時間をかけて学習を積み重ねていくことができる力を養います。そのため、自身の課題と将来設計を結び付け、整理しながら積極的に授業に臨むよう努めてください。提出物の期限は守り、自己管理する力も身に付けること。		
13. オフィスアワー	チームティーチングのため、各教員のオフィスアワーは、各教員の担当科目のシラバスを参照して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス 授業の内容、望ましい学習態度について これからの「私」について—なぜ保育者を目指すのか— 保育に携わる職業と求められる能力について	事前学習	自身の進路について考えておく。
		事後学習	3 年次春学期までの学習と実習を振り返り、自己課題は何かを明確にし、レポートにまとめる。
第 2 回	就職動向、就職活動と就職に向けた準備について	事前学習	自己課題を基に、就職支援室から学びたいことについて考えておく。
		事後学習	本日の学びからの気づきをリフレクションシートに整理し自身の考えをまとめる。
第 3 回	現場の求める保育者について—外部講師 (卒業生) — ワークショップ：私の目指す保育者像	事前学習	自己課題を基に、卒業生から学びたいことについて考えておく。
		事後学習	外部講師の御講話から学んだことと自己課題について明確にし、レポートにまとめる。
第 4 回	実技「表現・身体表現」	事前学習	今まで学習した「幼児体育・表現」の授業内容から、重要な点をまとめ、自己課題を整理する。
		事後学習	就職試験のなかで、出題された実技を確認し、自己課題をリフレクションシートに整理する。
第 5 回	実技「造形」	事前学習	今まで学習した「造形」の授業内容から、重要な点をまとめ、自己課題を整理する。
		事後学習	就職試験のなかで、出題された実技と筆記試験を確認し、自己課題をリフレクションシートに整理する。
第 6 回	実技「音楽 (リズム表現・弾き歌い)」	事前学習	今まで学習した「音楽」の授業内容から、重要な点をまとめ、自己課題を整理する。
		事後学習	就職試験のなかで、出題された実技と筆記試験を確認し、自己課題をリフレクションシートに整理する。
第 7 回	ワークショップ (振り返り)：実技の必要性とその向上	事前学習	第 4 回第 5 回第 6 回のリフレクションシートを見直し、学びを整理しておく。
		事後学習	保育における実技について、その必要性と自己課題をリフレクションシートにまとめる。
第 8 回	専門科目「保育原理」	事前学習	今まで学習した「保育原理」の授業内容から、重要な点をまとめ、自己課題を整理する。
		事後学習	就職試験のなかで、出題された「保育原理」

			の設題を解き、自己課題をリフレクションシートに整理する。
第 9 回	専門科目「保育内容」	事前学習	今まで学習した「保育内容」の授業内容から、重要な点をまとめ、自己課題を整理する。
		事後学習	就職試験のなかで、出題された「保育内容」「幼児理解」の設題を解き、自己課題をリフレクションシートに整理する。
第 10 回	専門科目「子どもの保健」	事前学習	今まで学習した「子どもの保健」の授業内容から、重要な点をまとめ、自己課題を整理する。
		事後学習	就職試験のなかで、出題された「子どもの保健」の設題を解き、自己課題をリフレクションシートに整理する。
第 11 回	専門科目「社会福祉」「児童家庭福祉」	事前学習	今まで学習した「社会福祉」「児童家庭福祉」の授業内容から、重要な点をまとめ、自己課題を整理する。
		事後学習	就職試験のなかで、出題された「社会福祉」「児童家庭福祉」の設題を解き、自己課題をリフレクションシートに整理する。
第 12 回	専門科目「保育の心理学」	事前学習	今まで学習した「子どもの心理学」の授業内容から、重要な点をまとめ、自己課題を整理する。
		事後学習	就職試験のなかで、出題された「子どもの心理学」の設題を解き、自己課題をリフレクションシートに整理する。
第 13 回	ワークショップ（振り返り）： 専門科目の学びの整理とその学習方法 「一般教養」の出題と内容について	事前学習	第 8 回第 9 回第 10 回第 11 回第 12 回の授業のリフレクションシートを振り返り、専門科目で学んだことを整理し、自己課題を整理しておく。
		事後学習	就職試験における一般教養科目について、出題内容を確認し、問題を解き、自己課題をリフレクションシートにまとめる。
第 14 回	4 年次生の話	事前学習	実習や就職についての不安なことや悩んでいることなどを整理し、考えをまとめておく。
		事後学習	4 年次生から学んだことを整理し、リフレクションシートに自己課題を整理する。
第 15 回	まとめ ワークショップ：自己課題の整理と 4 年次に向けた目標	事前学習	15 回までのリフレクションシートを振り返り、ディスカッションしたいことなどを整理しておく。
		事後学習	15 回の授業を踏まえ、自己課題をまとめ、4 年次の就職に向けた目標と課題についてレポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (保育士 B コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3214 GECD3266
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議	5. 開講学期	
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、これまでの専門科目の学習成果の統合を図り、社会的、制度的に公的役割を担う施設における保育専門職(保育士、保育教諭、幼稚園教諭を含む)の使命、規律、態度等を習得する。保育者として必要な専門知識を復習するとともに、幅広い内容の教養知識を確認し、専門職としての自覚をもつ。この授業で様々な知識を総合的に学び、適性を自覚し、保育全体を俯瞰した後、「キャリア開発演習 II」において、応用力、文章表現力、具体的問題への対応力、行動力の向上を目指す。		
8. 学習目標	1. 保育者として必要とされる基礎知識、専門知識を整理し、採用試験に役立てることができる。 2. 応用問題に対応する力を身につけることができる。 3. 自分自身のキャリア形成に必要な課題を発見することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	必要に応じて提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2017 年度版』実務教育出版 【参考書】 授業中に適宜、紹介します		
11. 成績評価の方法	①過去問題による学習のまとめ 70% ②授業態度・意欲 30%		
12. 受講生への メッセージ	保育士になるためには、幅広い知識や技術、豊かな人間性や教養が求められます。この授業では、教養科目、専門科目に関する知識の習得を中心に行いますが、それらの力を身につけていくためには、時間をかけて根気よく学習を積み重ねていく必要があります。要点を繰り返し暗記し、継続的に学習することにより確実な力となりますので、頑張ってください。		
13. オフィスアワー	チームティーチングのため、オフィスアワーは各教員の担当科目のシラバスを参照して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス 公務員保育士について	事前学習	教科書(2015 年度版)pp.418～585 を読み、採用試験の概要について理解する。
		事後学習	公務員保育士について概要をまとめる。
第 2 回	就職について	事前学習	教科書 pp.432～585 から就職を希望する地域の情報(受験資格・日程・試験構成)を確認する。
		事後学習	保育の就職について学んだことをもとに、就職活動に向けて自分がすべきことをまとめる。
第 3 回	教養科目①	事前学習	教養科目の問題を解く。
		事後学習	演習で解答できなかった問題を再度解く。
第 4 回	教養科目②	事前学習	教養科目の問題を解く。
		事後学習	演習で解答できなかった問題を再度解く。
第 5 回	教養科目③	事前学習	教養科目の問題を解く。
		事後学習	演習で解答できなかった問題を再度解く。
第 6 回	専門科目①「子どもの保健」	事前学習	教科書 pp.333～377 を解く。
		事後学習	演習で解けなかった問題を再度解く。
第 7 回	専門科目②「保育の心理学」	事前学習	教科書 pp.251～280 を解く。
		事後学習	演習で解けなかった問題を再度解く。
第 8 回	専門科目③「保育原理」	事前学習	教科書 pp.281～310 を解く。
		事後学習	演習で解けなかった問題を再度解く。
第 9 回	専門科目④「児童家庭福祉」	事前学習	教科書 pp.221～250 を解く。
		事後学習	演習で解けなかった問題を再度解く。
第 10 回	専門科目⑤「社会福祉」	事前学習	教科書 pp.197～220 を解く。
		事後学習	演習で解けなかった問題を再度解く。
第 11 回	専門科目⑥「保育実習」	事前学習	教科書 pp.311～332 を解く。
		事後学習	演習で解けなかった問題を再度解く。
第 12 回	専門科目⑦「保育内容」	事前学習	教科書 pp.331～332 を解く。
		事後学習	演習で解けなかった問題を再度解く。
第 13 回	過去問による学習のまとめ	事前学習	演習で解いた問題を全部解けるように復習する。
		事後学習	まとめで解けなかった問題を再確認する。
第 14 回	4 年次生、卒業生の話	事前学習	教科書 pp.417～430 を読み、先輩への質問事項をまとめる。
		事後学習	体験談から得られたことをまとめる。
第 15 回	実習・就職活動について、授業のまとめ	事前学習	実習・就職についての質問事項をまとめる。
		事後学習	これまで学んだことを整理し、4 年次に備える。

*シラバス内の教科書の該当ページは、2015 年度版を参考に示してある。授業内に、2016 年度版のページ数を示す。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD1311 GECD1261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教員になるためには「一般教養」をはじめ、校種・教科別の「専門教養」、あるいは教職に関する基礎的な教養としての「教職教養」等の知識を確実に身につけることが求められる。本学の教員採用試験対策は、1 年次 (秋期) のキャリア基礎演習 I (「一般教養」対策)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (「専門教養」対策)、3 年次のキャリア開発演習 I A (「教職教養」対策) という一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習 I では、教員になるための第一歩としての幅広い一般教養を身につけるために、各分野の担当教員が指定の教科書 (=テキスト) を使用して高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容を再確認しながら、教員採用試験における「一般教養」の各分野 (人文科学・自然科学・社会科学) の重要ポイントをわかりやすく解説した上で、各回、授業内で問題演習を行うことにより、学習内容の理解のみならず、知識の確実な定着を図ることを目標とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本演習をとおして、高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容に関する自らの未習得部分を確認することができる。 2. よりよい教員になるために必要な知識を学ぶ上での基本的な「学習の仕方」「学習計画の立て方」を習得する。 3. 自らの未習得あるいは苦手部分を克服するために、本講義で学んだ「学習の仕方」にしたがって基本を見据えた自己学習に取り組むことができる。 4. 各系統・各分野の重要ポイントを理解し、問題演習時の応用問題に対しても柔軟に対応できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の問題演習 (=「確認テスト」) 2. 次時の学習範囲の予習 3. 前時の学習範囲の復習 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 資格試験研究会編『教員採用試験一般教養らくらくマスター 2018 年度版』実務教育出版。 *大学の書籍販売等を通じて、必ず授業開始までに入手しておくこと。</p> <p>【参考書】 各回、担当教員が適宜資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>以下の 3 つの観点から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の「確認テスト」・・・20% ・授業態度・・・30% ・習熟度確認まとめテスト・・・50% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>教員採用試験合格に向けての第一歩では、基本的な知識習得のための暗記・反復学習が重要となる。本演習においては、その基礎力を身につけることが目標であるため、受講生は以下のことを遵守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書 (=テキスト) を必ず毎回持参すること。 ②授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ③「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ④遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ⑤わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑥学習の際には、その内容を理解するにとどまらず、中学生や高校生にわかりやすく教えるための方法を考え、独自のノートづくりにも取り組むなど、各自が積極的に自己学習を進めること。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T. T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の進め方および予習・復習の仕方、テキスト内容の確認	事前学習	シラバスを熟読し、授業内容を確認しておくこと。
		事後学習	テキストの「本書の特長と活用法」「出題傾向と対策」の部分を熟読しておくこと。
第 2 回	人文科学① (国語分野 pp. 14~41) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 3 回	人文科学② (日本史分野 pp. 42~59) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 4 回	人文科学③ (世界史分野 pp. 60~77) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 5 回	自然科学① (数学分野 pp. 196~211) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 6 回	人文科学④ (美術分野 pp. 118~124) *確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。

第 7 回	人文科学⑤（音楽分野 pp. 125～129） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	人文科学⑥（英語分野 pp. 130～140） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 9 回	自然科学②（物理分野 pp. 212～223） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 10 回	自然科学③（化学分野 pp. 224～235） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 11 回	自然科学④（地学分野 pp. 248～260） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 12 回	自然科学⑤（生物分野 pp. 236～247） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 13 回	人文科学⑦（倫理分野 pp. 108～117） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 14 回	社会科学（政治・経済・社会・労働分野 pp. 150～189） * 確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 15 回	習熟度確認まとめテスト／授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること。
		事後学習	習熟度確認まとめテストの結果を通じて自己の成果と課題を確認すること。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡA (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2311 GECD2261
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ (教員コース)」を履修していることが望ましい		
7. 講義概要	<p>教員には、校種別の専門知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身につけることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。</p> <p>本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習ⅡA においては、「専門教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力をつけることを目標とする。</p> <p>各回の演習においては、「専門教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身につけ、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得する。 2. 専門教養の各領域の出題を理解したうえで、各自自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 専門教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 専門教養の各領域の過去問練習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集などに取り組み、自己学習できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 次時の学習範囲の予習 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】小学校各学習指導要領解説書 (各教科・道徳・特別活動・外国語活動)</p> <p>資格試験研究会編『教員採用試験小学校全科らくらくマスター 2017 年度版』実務教育出版。</p> <p>【参考書】各回の演習で担当教員から適宜資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>各回の確認テスト・・・20%</p> <p>授業への積極性・・・30%</p> <p>習熟度確認まとめテスト・・・50%</p> <p>-----</p> <p>100%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の決まりを守る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ②自己学習の際には、静粛に取り組むこと。 ③私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション *本演習における特性と今後の展望。教科書の確認。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	小学校全科における学習内容を大まかに理解する (各教科等における年間時数表等を参照し把握)。
第 2 回	算数① (らくらくマスターpp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 3 回	算数② (らくらくマスターpp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 4 回	算数③ (らくらくマスターpp. 85~124) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 5 回	社会① (らくらくマスターpp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 6 回	社会② (らくらくマスターpp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 7 回	社会③ (らくらくマスターpp. 39~84) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点など復習しておくこと。
第 8 回	図画工作① (らくらくマスターpp. 229~254) *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	指定された範囲の予習をしておくこと。
		事後学習	「確認テストで出題された部分を見直し、よくわ

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡB (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2312
2. 授業担当教員	面川 幸子		GECD2262
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、学校現場で必要とされる養護教諭をめざし、その資質と力量を向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、児童生徒への対応に関するディスカッション、各種実技演習などに取り組み、基礎的な能力を確実に身につける。また養護教諭という職業、あるいは教員採用試験対策に対する意欲を向上させるとともに、自己学習の習慣を定着させる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての養護教諭の資質と力量形成に向け、他の専門科目と関連付けながら、基礎的な知識や技術を確実に習得する。 2. 児童生徒の心身の健康課題に対する判断力を向上させるとともに、養護教諭の専門性をいかした対応のあり方を習得する。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、翌週の確認問題演習に備える。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 (学校保健実務必携の該当箇所を熟読し、他の科目での既習事項を復習しておく。) 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『2017 年度版教員採用試験 Basic 定着シリーズ⑦よくわかる養護教諭』時事通信出版局。 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第 4 次改訂版』第一法規。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加態度 (30%) 2. 演習問題および振り返りシートの記入 (自己学習への取り組み) (50%) 3. まとめ (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	養護教諭専門科目や教職関連科目の内容とリンクさせながら、養護教諭になるための基礎的な知識を確かなものにしていきます。また、演習やグループ討議を通して、養護教諭としての基本的態度や資質を身につけます。今のうちからこうした基盤作りに地道に取り組むことが、学校現場から必要とされる養護教諭として成長することにつながります。教員採用試験に合格に向けて、ひとつずつ、クリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・自己理解、他者理解のワーク ・これからの学びと教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	養護教諭を目指す意志を明確化し、今後の具体的な学習目標を持つ。
第 2 回	学校保健の領域・保健指導と保健学習 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.5～19
第 3 回	学校保健安全法 学校保健計画・学校安全計画・学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.20～25
第 4 回	養護教諭の職務 (養護教諭に求められる資質) (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.150～160
第 5 回	健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.80～86
第 6 回	健康診断 ①健康診断の意義・種類・検査項目 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる教科書 pp.38～70。
第 7 回	②保健調査・健康診断票の記入 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはか。pp.46～54
第 8 回	③健康相談・こころのケア (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.72～78
第 9 回	④発達障害・メンタルヘルス (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.180～184,p.194
第 10 回	⑤視力検査 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.56 p.166
第 11 回	⑥聴力検査 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.58 p.168

第 1 2 回	⑦歯科検診・う歯・その他歯科関連 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.62 ,p90 ,p170
第 1 3 回	⑧身体測定：身長・体重・座高 脊柱側弯検診 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.60～
第 1 4 回	⑨事後措置・健康診断での養護教諭の役割 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.68～70
第 1 5 回	・春期演習問題のまとめと振り返り	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 1 6 回	保健室の機能・保健室経営	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.196～198
第 1 7 回	疾病予防 ①最近の疾病予防 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.88
第 1 8 回	②腎臓病・糖尿病 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.94 ,p.98
第 1 9 回	③小児生活習慣病・肥満 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.96 ,p100 ,p192
第 2 0 回	④アレルギー疾患 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携の中で、本時の授業内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度行い、内容の定着をはかる。p.102 ,p104
第 2 1 回	⑤学校感染症の種類・出席停止期間の基準 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携(pp.447～462)等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.106～110
第 2 2 回	⑥感染症の症状 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.112～122
第 2 3 回	⑦心臓検診・心臓疾患・その他心臓関連 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.66 ,pp174
第 2 4 回	⑧結核検診 (問題演習・実技演習・振り返り) (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.64
第 2 5 回	学校環境衛生 ① 学校環境衛生の目的・学校環境衛生活 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携 (pp.80～166) 等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.26～29
第 2 6 回	②学校環境衛生検査項目と基準 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.30～36
第 2 7 回	養護教諭の専門知識 ①各種解剖学 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.162～178
第 2 8 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り) ②各種解剖学 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。 学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	先輩の合格体験を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。 本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 2 9 回	③飲酒・喫煙・薬物乱用、性教育 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.186～192
第 3 0 回	秋期演習問題のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	教育学概論 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	GELA1314 EDTS1101
2. 授業担当教員	江津 和也			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教育の基礎的概念と諸理論について概説するとともに、教育の意義と目的、教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理について講義する。</p> <p>① 後世の教育思想に大きな影響を与えたコメニウスに始まり、世界で最初の教科書『世界図絵』での「学校」を手掛かりに、現在の学校教育との差異に幅広く気付く。</p> <p>② 子どもの存在は歴史的にどのようにみなされてきたのであろうか。「子どもの発見」の意味を探る。</p> <p>③ 新教育運動の中心概念となっている「自発性の原理」「自己活動の原理」など、基本的な実践理論、指導理論を探る。</p> <p>④ 教育は子どもの人間形成に寄与するという大テーマのもとに、人間的な子どもの特性が強調され、定型化された教育から、より人間的な教育の方法へという日本の教育の流れを先人の教育理論からたどる。</p> <p>⑤ 「教えること」と「学ぶこと」をつなぐことに腐心してきた先人の指導理論の変遷をたどり、今の指導理論の中に十分反映されていることを探る。</p> <p>などを通して、現在の学校教育がかかえている諸課題に対応していく糸口を、先人の知見から学ぶ。</p>			
8. 学習目標	<p>①教育の考え方や在り方の多様性に触れ、今の教育事象に問いを持つ。</p> <p>②「子どもの発見」以来、子ども観の変遷を整理し、子どもの人間形成という教育の使命を柱に据えて教育を考えることができる。</p> <p>③教育はその時代とともに変遷し、教育者は社会の要請に応じて柔軟に建設的に対応することに努め、教育理論を進展させてきた上に今の教育の営みがあることを理解し、教育実践者としての自覚を深める。</p> <p>④「教えること」と「学ぶこと」をつなぐ教育者としての永遠の課題を自覚し「学生」となる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>①宿題として、次回の授業内容と関連する用語調べを求めることもある。</p> <p>②以下の内容のレポートを求める。12月の最後の授業までに必ず提出する(成績評価の対象であるとともに、授業で用いるため必ず提出すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の教育にかかわる新聞記事を探し、その概要を記す。(200字程度) それについて授業内容やテキストの記述をふまえてコメントを付す。(800~1200字程度) 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】湯川次義編『新版 よくわかる教育の基礎』学文社、2015年。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度、授業への貢献 10% レポート 30% 筆記試験 60% 			
12. 受講生への メッセージ	<p>1) 授業は講義を中心に展開していきますが、議論や発表など学生が参加できるような機会をつくります。そのような場では、ぜひ積極的に取り組んでください。</p> <p>2) 授業中の迷惑行為(私語など)、飲食、携帯電話やゲーム機の使用などは禁止します。マナー違反の学生に対しては減点するとともに退室を命じます。</p> <p>3) 厳正な出席管理をするために指定する座席に着席してください。また、授業中の許可のない教室の出入りは認めません。</p> <p>4) 遅刻は30分までの入室とし、それを超えると欠席となります。</p>			
13. オフィスアワー				
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスに目を通しておく。	
		事後学習	教職課程履修生としての学習姿勢について考えをまとめる。	
第2回	教育の意義	事前学習	教科書第1章に目を通しておく。	
		事後学習	子どもの社会化にとって家庭、地域社会、学校の役割についてノートにまとめる。	
第3回	発達と教育	事前学習	教科書第2章に目を通しておく。	
		事後学習	人間の発達にとって遺伝と環境がどのような関係があるのかノートにまとめる。	
第4回	教育の目的	事前学習	教科書第3章に目を通しておく。	
		事後学習	教育基本法における教育目的と目標を精読するとともにそれらを達成するためにはどのような教育実践が考えられるかノートにまとめる。	
第5回	教育の思想	事前学習	配布プリント(ルソー『エミール』の一部)を読み、その概要をノートにまとめる。	
		事後学習	過去の教育思想が現在の教育にどのような形で引き継がれているのかまとめる。	
第6回	教育の歴史(西洋)	事前学習	配布プリント(西洋教育史年表)に目を通して、西洋の歴史の流れを確認しておく。	
		事後学習	今日の学校教育にとって重要な出来事を年	

			表から抜き出し、その概要をノートにまとめておく。
第 7 回	教育の歴史（日本）	事前学習	教科書第 14 章に目を通しておく。
		事後学習	今日の学校教育にとって重要な出来事を年表から抜き出し、その概要をノートにまとめておく。
第 8 回	教育課程	事前学習	教科書第 4 章に目を通しておく。
		事後学習	カリキュラムの種類それぞれの特徴についてノートにまとめておく。
第 9 回	教育の方法	事前学習	教科書第 5 章に目を通しておく。
		事後学習	さまざまな教育の形態それぞれのメリットやデメリットについてノートにまとめる。
第 10 回	道徳教育	事前学習	教科書第 6 章に目を通しておく。
		事後学習	授業内容を踏まえながら道徳教育の「教科化」についてインターネット等で調べてまとめる。
第 11 回	教員	事前学習	教科書第 7 章に目を通しておく。
		事後学習	教師にもとめられる資質についてインターネット等を活用して調べる。
第 12 回	教育の制度	事前学習	教科書第 11 章に目を通しておく。
		事後学習	インターネットを活用して日本の教育制度と外国の教育制度の相違について調べる。
第 13 回	教育法規と教育行政	事前学習	教科書第 12 章及び 13 章に目を通しておく。
		事後学習	インターネットを活用して自分の住む市区町村の教育委員会の概要と教育の現状について調べる。
第 14 回	生涯学習社会	事前学習	教科書第 15 章に目を通しておく。
		事後学習	生涯学習社会における学校教育の役割について、授業内容をふまえながら自分の考えをまとめる。
第 15 回	現代社会における教育	事前学習	教育記事を活用したレポートを見直し、他人に自分の考えを的確に伝えられるようにしておく。
		事後学習	他人の新聞記事を活用したレポートの発表を通じて考えた、現在の日本の教育課題について自分の考えをノートにまとめておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE1103
2. 授業担当教員	小野澤 美明子		
4. 授業形態	講義、討議や発表学習を中心に	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校において編成する教育課程 (カリキュラム) とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である (『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省)。</p> <p>本講義ではまず、学校の教育活動の特色を経験から考え、学校は何をやる場所かを明らかにする。学校は決められた授業時間の中で意図的計画的に教育活動を展開し、人格の形成と社会に有用な人材育成を行っていることを理解するとともに、機会均等、教育の質の維持のために学習指導要領に定められた内容を各学校の創意に基づいて教育計画を編成・実施・評価していることを学ぶ。</p> <p>教育課程に関する基本的知識を身につけたうえで、現代日本の教育課程について、学習指導要領を通じて学ぶ。学習指導要領の性質、現行版の特徴、改訂の歴史について学習する。</p> <p>最後に、教育課程について学び、学校においてどのように教育課程を編成するかを簡単に考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○カリキュラム開発に必要な資料の準備と作成</p> <p>○レポート課題「子どもたちに身に付けさせたい力と私のめざすカリキュラム」2400字程度</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍、2008 年。</p> <p>【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版、2008 年。 田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009 年。 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加奈恵『第 3 版 新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ、2011 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への取り組み (ミニレポートを含む) 総合点の 20% 2 カリキュラム開発と発表内容 総合点の 40% 3 課題レポート 総合点の 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育課程 (カリキュラム) のデザイン次第で、学習は想像以上に楽しいものにもなれば、どうしようもなくつまらないものにもなりかねません。今回は、教育課程の編成理論を学んだ後、カリキュラム開発にチャレンジします。これまではカリキュラムの受け身であった立場から、提供する側に転身し、「こんな活動をしたら楽しいだろうな」と思うことを、カリキュラム上にどんどん実現して下さい。皆さんの斬新なアイデアに期待しています。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション 「教育課程論」の目標及び学習内容と今後の予定、授業の進め方を確認する。 ○ 「教育課程論」を学ぶ意義を考える。 	事前学習	シラバスを読み、講義概要を把握しておく。
		事後学習	「教育課程論」を学ぶ意義について復習する。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の構成要素 ・ 内部要素と外部要因 ○ 教育内容の構成 ・ 学問的要請 ・ 社会的要請 ・ 心理的要請 ・ 人間的要請 	事前学習	日常の教育的場面にはどのような場面があるか考えておく。またそこにはどのような教育内容が含まれているか考える。
		事後学習	教育課程の構成要素をまとめておく。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の役割 ・ 学校は何をやる場所か考える ○ 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム ・ 学校教育における潜在的カリキュラムの具体的な事例を挙げながらその重要性について考える。 	事前学習	顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムについて調べておく。
		事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の役割をまとめる。 ・ 二者のカリキュラムの特徴をまとめる。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領の性質と特徴 ・ 教育課程の基準 (性) ○ 教科書の意義と役割 ・ 教科書の担う役割を考える。 	事前学習	学習指導要領の総則を読んでくる。
		事後学習	学習指導要領及び教科書の特徴及び役割等をまとめる。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の変遷 ① ・ 昭和 22 年から平成 20 年までの学習指導要領を概観し、特徴を捉える。 ・ 「ゆとり」と「生きる力」の意義を考える。 	事前学習	学習指導要領に関して疑問に思ったことをまとめてくる。
		事後学習	学習指導要領の改訂のポイントと、それぞれの社会的背景をまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の変遷 ② ・ これまでの変遷をふまえて、現行学習指導要領の特徴及び重要性を検討する。 	事前学習	現行学習指導要領改訂のポイントをまとめてくる。
		事後学習	改定のポイントをふまえて、現行学習指導要領の特徴をまとめる。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育評価とその意義 ・ 教育評価の種類と特徴を知り、その意義を考察する。 	事前学習	学校教育における評価にはどのようなものがあるか、調べてくる。
		事後学習	教育評価の重要性について考察する。

第 8 回	○教育課程編成の原理と視点 ・工学的アプローチと羅生門的アプローチ ・構成主義的学習観 ○カリキュラムの事例検討 ・日本の学校で実践されている、特色のあるカリキュラムを取り上げて、編成の方針や教育内容に関する理解を深める。	事前学習	日本の学校の特色あるカリキュラムを調べる。
		事後学習	事例検討に関する考察をまとめる。
第 9 回	○カリキュラムの開発① ・カリキュラムをデザインするグループを作る。 ・資料を収集する。	事前学習	自分の希望するカリキュラム開発の分野及び領域を考えておく。
		事後学習	カリキュラムをデザインする上で必要な資料を収集する。
第 10 回	○カリキュラムの開発② ・グループで相談してカリキュラムをデザインする。 ・興味のあるテーマのウェビングをしてみよう。	事前学習	カリキュラムをデザインする上で必要な資料を収集する。
		事後学習	カリキュラムデザインの自分の案をまとめる。
第 11 回	○カリキュラムの開発③ ・テーマに関わる教材研究をする。 ・題材名 ・ねらい ・展開の概要 ・配当時間	事前学習	カリキュラムデザインの自分の案をまとめる。
		事後学習	グループの他のメンバーのアイデアを勘案して、修正する。
第 12 回	○カリキュラムの開発④ ・開発したカリキュラムの構想を図にする。 ・発表の準備をする。	事前学習	グループの他のメンバーのアイデアを勘案して、修正する。
		事後学習	自分の担当箇所の発表練習をする。
第 13 回	○開発したカリキュラムの発表① ・カリキュラムの特色、アピールしたいところ ・展開の概要	事前学習	自分の担当箇所の発表練習をする。
		事後学習	他のグループの発表に関する感想をまとめる。
第 14 回	○開発したカリキュラムの発表② ・発表を聞いた感想をまとめる。	事前学習	発表がまだの場合は、発表練習をする。
		事後学習	他のグループの発表に関する感想をまとめる。
第 15 回	○まとめと諸外国の教育課程 ・諸外国の教育課程の事例を検討する。	事前学習	諸外国の教育課程で興味を持ったものを収集する。
		事後学習	教育課程の編成に関してまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (初等) (2 単位)		3. 科目番号	EDTE1103
2. 授業担当教員	池田 芳和			
4. 授業形態	講義、討議や発表学習を中心に		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>学校において編成する教育課程 (カリキュラム) とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である (『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省)。</p> <p>本講義ではまず、学校の教育活動の特色を経験から考え、学校は何をやるべきかを明らかにする。学校は決められた授業時間の中で意図的計画的に教育活動を展開し、人格の形成と社会に有用な人材育成を行っていることを理解するとともに、機会均等、教育の質の維持のために学習指導要領に定められた内容を各学校の創意に基づいて教育計画を編成・実施・評価していることを学ぶ。</p> <p>教育課程に関する基本的知識を身につけたうえで、現代日本の教育課程について、学習指導要領を通じて学ぶ。学習指導要領の性質、現行版の特徴、改訂の歴史について学習する。</p> <p>最後に、教育評価について学び、学校においてどのように教育課程を編成するかを簡単に考察する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教育課程について、授業で学んだことから、これからの学校はどうあるべきか論じてください (1000字程度。提出方法など詳細は講義中に指示する)。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。</p> <p>文部科学省『生徒指導提要』教育図書。</p> <p>授業時にプリントを配布する</p>			
11. 成績評価の方法	<p>平常点 (ミニレポートの評価を含む) と課題レポート</p> <p>評価基準: 日常の授業態度 (質問、出席状況、ミニレポート) 70%、課題レポート 30%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	学校教育を担う教員を目指す皆さんにとって基礎基本ともいえる学習である。生徒として学校教育を受けてきた視点から、学校教育を提供する側へ視点変換して学びを深めてほしい。児童の側にたった授業に直接結びつく内容であることから真剣に学習に取り組んでくれることを期待している。			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション: 学校はどんなところか?	事前学習	シラバスを読み、講義概要を把握しておく。	
		事後学習	配布資料をよく読み、学習内容を復習する。	
第 2 回	教育課程とはなにか? 教育課程の定義	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえ、教育課程の意義・特徴について、配布資料にまとめる。	
第 3 回	教育課程の目的・目標とは何か	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえ、教育法規について、配布資料にまとめる。	
第 4 回	学習内容はどのように決められているか	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえ、学習内容について、配布資料にまとめる。	
第 5 回	子供や家庭・地域の実態とは何か	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえ、子供の実態をどのように捉えているか、配布資料にまとめる。	
第 6 回	授業時数はどのように決められているか	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえ、授業時数について、配布資料にまとめる。	
第 7 回	教育課程の編成及び実施 (一般方針)	事前学習	教科書② (小学校学習指導要領) 第 1 章総則第 1 教育課程編成の一般方針を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえ、学習指導要領の性格、教科書について、配布資料にまとめる。	
第 8 回	教育課程の編成及び実施 (内容の取り扱い)	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえたうえで、配布資料にまとめる。	
第 9 回	教育課程の編成及び実施 (教育課程編成の特例)	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえたうえで、教育課程編成の特例について、配布資料にまとめる。	
第 10 回	指導計画作成上の配慮事項 (言語活動の充実と教科指導)	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえたうえで、現行版学習指導要領の特徴について、配布資料にまとめる。	
第 11 回	指導計画作成上の配慮事項 (学級経営と生徒指導)	事前学習	教科書を読んでおく。	
		事後学習	講義内容をふまえたうえで、学級経営と生徒	

			指導について、配布資料にまとめる。
第 1 2 回	指導計画作成上の配慮事項（その他の配慮事項）	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	講義内容をふまえたうえで、配慮事項について、配布資料にまとめる。
第 1 3 回	教育評価の意義（指導要録とは）	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	新しい評価規準についてまとめる。
第 1 4 回	教育評価の意義（評価の形式）	事前学習	教科書を読んでおく。
		事後学習	講義内容をふまえたうえで、評価形態、評価形式について、配布資料にまとめる。
第 1 5 回	教育課程の評価 学校評価	事前学習	教科書、配布資料を読み直し、これまでの 14 回の授業内容をふりかえっておく。
		事後学習	講義内容をふまえたうえで、理解が不足していた点を再度学習する。

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS1103
2. 授業担当教員	磯辺 武雄		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表、グループ学習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「教育方法論 (中等)」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>教育課程とは、教育機関 (学校) がその教育目標 (学校の教育目標) を達成するために児童・生徒に提供する教育内容と学習経験の組織である。本講義では現代日本の教育課程を多角的に展望するための基礎的な知識や概念の習得を目的としている。</p> <p>まず教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念について学習する。そして日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴について学ぶ。さらに近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題についての理解を深める。</p> <p>これらの学習を通して、現行の学習指導要領の基本的方向について理解し、教師として必要となる資質・能力の基礎を養う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の思想や教育課程編成の方法・理論、教育課程と教育評価の関係を学ぶことによって、教育課程に関する基本的な用語や概念を理解し、説明することができる。 2. 日本の教育課程の変遷について学習し、歴史的視点から教育課程を展望することができる能力を身に付け、活用することができる。 3. 諸外国の教育改革について学び、日本の教育課程を相対的に考察することができる能力を身に付け、活用することができる。 4. 近年の教育課程に関する新たな取り組みについて学習し、現代の教育が抱える課題についての理解し、その課題に対する自らの考えを深めることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	小テスト・レポートを課すことがあります。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 (著) 『新しい時代の教育課程 [第3版]』有斐閣アルマ、2012。</p> <p>【参考書】 田中耕治『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年。 柴田義松『教育課程－カリキュラム入門』有斐閣、2000年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・積極的参加度・授業態度・発表・発言 20%</p> <p>・小テスト、レポート) 30%</p> <p>・期末試験 50%</p> <p>※「出席」は単位付与の必要条件のため、<u>加点的に評価の対象としないでください。</u> 遅刻・欠席の扱いについて明示することは構いません。 〔「授業への積極的参加度」等、出席をしたうえでの授業態度は加点的な評価対象とすることが可能です〕 ※期末試験は、授業期間中には実施せず試験期間を利用してください。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 2. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 3. 授業中に分からなかったことや疑問点は、後に残さずに授業後に質問してください。 4. レポート等の提出日は、厳守してください。 5. 新聞・テレビ等における教育に関する時事問題に、常に関心を持ってください。 		
13. オフィスアワー	授業終了後に設けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・オリエンテーション - ・教育課程を学ぶ意義について -	事前学習	教科書 pp. 1～16 を読んでおく。
		事後学習	教育課程を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。
第2回	近代日本の教育課程の歩み	事前学習	教科書 pp. 17～44 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第3回	現代日本の教育課程の歩み (1) ・経験主義からの影響 ・系統性重視への転換 ほか	事前学習	教科書 pp. 46～76 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	現代日本の教育課程の歩み (2) ・「新学力観」の追求 ・「生きる力」と「確かな学力」 ほか	事前学習	教科書 pp. 76～106 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第5回	教育課程の思想と構造 (1) ・思想的な基盤としての「生活と科学」	事前学習	教科書 pp. 142～152 を読み、分からない部分を確認しておく。

		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 6 回	教育課程の思想と構造 (2) ・学力とモラル ほか	事前学習	教科書 pp. 152～168 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	教育課程をどう編成するか (1) ・教育課程編成の構成要件とは何か ほか	事前学習	教科書 pp. 170～183 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	教育課程をどう編成するか (2) ・教育課程編成の基本原則とは何か ほか	事前学習	教科書 pp. 184～198 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	教育課程をどう評価するか ・教育課程評価とは何か ・学力評価の 4 つの立場 ほか	事前学習	教科書 pp. 200～226 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	社会における教育課程 ・近代学校批判と教育課程 ・教育課程における平等と質 ほか	事前学習	教科書 pp. 228～252 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	今日的課題への挑戦 ・市民性教育 ・メディアリテラシーの教育 諸外国の教育改革	事前学習	教科書 pp. 264～269, PP. 275～284, PP. 286～318 を読み、分からない部分を確認しておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	現行の教育課程における諸課題 (1) ・グループワーク (1)	事前学習	現行の教育課程における諸課題として、何があるかを調べておく。
		事後学習	WG での内容を整理しまとめる。
第 13 回	現行の教育課程における諸課題 (2) ・グループワーク (2) ・プレゼン①	事前学習	プレゼン内容を確認しておく。
		事後学習	プレゼンで指摘された事項について再生整理する。
第 14 回	現行の教育課程における諸課題 (3) ・プレゼン②	事前学習	プレゼン内容を確認しておく。
		事後学習	プレゼンで指摘された事項について再生整理する。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容を振り返る。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば整理し、教員に質問する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	EDTS1103
2. 授業担当教員	篠 大輔			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表、グループ学習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教育課程とは、教育機関（学校）がその教育目標（学校の教育目標）を達成するために児童・生徒に提供する教育内容と学習経験の組織である。本講義では現代日本の教育課程を多角的に展望するための基礎的な知識や概念の習得を目的としている。</p> <p>まず教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念について学習する。そして日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴について学ぶ。さらに近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題についての理解を深める。</p> <p>これらの学習を通して、現行の学習指導要領の基本的方向について理解し、教師として必要となる資質・能力の基礎を養う。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の思想や教育課程編成の方法・理論、教育課程と教育評価の関係を学ぶことによって、教育課程に関する基本的な用語や概念を理解し、説明することができる。 2. 日本の教育課程の変遷について学習し、歴史的視点から教育課程を展望することができる能力を身に付け、活用することができる。 3. 諸外国の教育改革について学び、日本の教育課程を相対的に考察することができる能力を身に付け、活用することができる。 4. 近年の教育課程に関する新たな取り組みについて学習し、現代の教育が抱える課題についての理解し、その課題に対する自らの考えを深めることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミニレポート・ワークシート（各回の講義内容に沿った課題を提示する。） 2. 期末レポート 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程 [第3版]』有斐閣アルマ、2011年。</p> <p>【参考書】 田中耕治『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年。 柴田義松『教育課程－カリキュラム入門』有斐閣、2000年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（積極的参加度・授業態度・発表・発言） 20% ・課題（ミニレポート・ワークシート） 30% ・期末レポート 50% 			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 5. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。 6. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 7. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 8. レポートや課題の提出期限を守ってください。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。 			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション - 教育課程を学ぶ意義について -	事前学習	教科書「序章」(pp. 1~16) を読んでおく。	
		事後学習	教育課程を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。	
第2回	教育課程の思想と構造① (第4章)	事前学習	教科書「第4章」1 (pp. 141~152) を読み、分からない部分をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第3回	教育課程の思想と構造② (第4章)	事前学習	教科書「第4章」2、3、4 (pp. 152~168) を読み、分からない部分をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第4回	教育課程をどう編成するか① (第5章)	事前学習	教科書「第5章」1 (pp. 169~178) を読み、分からない部分をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第5回	教育課程をどう編成するか② (第5章)	事前学習	教科書「第5章」2、3 (pp. 178~187) を読み、分からない部分をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	

第 6 回	教育課程をどう評価するか① (第 6 章)	事前学習	教科書「第 5 章」4 と「第 6 章」1、2、3 (pp. 187~218) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	教育課程をどう評価するか② (第 6 章)	事前学習	教科書「第 6 章」4 (pp. 218~226) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	社会における教育課程① (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」1、2 (pp. 227~236) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	社会における教育課程② (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」3、4 (pp. 237~252) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	近代日本の教育課程の歩み (第 1 章)	事前学習	教科書「第 1 章」(pp. 17~44) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	現代日本の教育課程の歩み① (第 2 章)	事前学習	教科書「第 2 章」1~5 (pp. 45~85) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	現代日本の教育課程の歩み② (第 2 章)	事前学習	教科書「第 2 章」6、7 (pp. 85~106) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	今日的課題への挑戦 (第 8 章)	事前学習	教科書「第 8 章」(pp. 253~284) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	レポート作成 (現在求められている教育課程の在り方について検討する)	事前学習	レポートの課題について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	レポートでは書ききれなかったことについて整理しておく。
第 15 回	まとめ - 教育課程論を振り返って	事前学習	これまでの学習内容を振り返る。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをノートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。

1. 科目名 (単位数)	教育実習指導 (中等) / 教育実習指導 (中等) (保健科) (1 単位)	3. 科目番号	SSMP3486 SCMP3486 SBMP3486 EDTS3373 EDTS2375
2. 授業担当教員	北林 敬		
4. 授業形態	講義や演習 (学習指導案の作成や模擬授業の実施など)、事例研究についてグループディスカッションによる実践的な学びあいを重視します。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えについて学習する。主な内容として、教育実習の意義や目的、実習内容の概要、教育実習生としての基本姿勢や生活態度、教科指導等にかかわる学習指導案の作成及び模擬授業の実施、教育実習日誌の作成等を取り扱い、教育実習に必要な事項のすべてについて学習する。</p> <p>教育実習を通じて、教育現場での実際を体験的に学び、教職への道をより確かなものとして邁進できるようにするとともに、教育実習生としての社会性を身に付けることをねらいとする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義・目的及び教育実習の概要について理解し、説明できるようになる。 2 教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等を理解し、実習を行えるようになる。 3 教材研究の重要性を理解し、教材研究に裏打ちされた教科・科目の学習指導案を作成できるようにする。 4 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実施し、教師の役割について理解し、説明できるようになる。 5 教育実習日誌の作成をはじめ、教育実習に必要とされるすべての事項について学び、実習を行えるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>予習課題や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにするとともに、問題解決力を培うように努めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークシート (ミニレポートを含み、各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 学習指導案 (精案) 及び学習指導案 (略案) 3. 模擬授業 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 柴田義松 木内剛『教育実習ハンドブック [増補版]』学文社、2013。 東京福祉大学編『教育実習の手引き』</p> <p>【参考書】 文部科学省『中/高等学校学習指導要領解説(総則編)』東山書房、2014。 文部科学省『中学校学習指導要領解説(保健体育編)』東山書房、2014。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編)』東山書房、2014。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言) 30% ・課題 (ワークシート・レポート) 30% ・学習指導案・模擬授業 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教師としての資質向上に関わる、自己目標・自己課題をもち、授業に参加して下さい。 ・新聞・テレビ等における教育に関連する時事問題に関して、常に興味を持っていただきたい。 ・ワークシート・アサイメントについては、指定した日までに必ず提出して下さい。 		
13. オフィスアワー	授業開始時に連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 授業の進め方 ・はしがき 目次 第 1 章	事前学習	教育実習ハンドブックの目次を読んで全体像をとらえる。
		事後学習	教育実習生に課せられている自覚と責任を持つ必要性について認識する。
第 2 回	第 1 章 教育実習の意義と課題 ・教育実習までの事前準備	事前学習	第 1 章 (pp. 9~17) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	教育実習の意義及び教育実習までの流れについてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 3 回	第 2 章 学校の教育課程編成の工夫とその見方 ・新教育課程のねらい	事前学習	第 2 章 (pp. 19~32) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	新教育課程のねらいについてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 4 回	第 3 章 最近の生徒の理解と指導 ・最近の生徒の課題	事前学習	第 3 章 (pp. 33~42) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	最近の生徒の現状と課題についてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 5 回	第 4 章 授業観察の視点と方法 ・教育実習における授業観察の意義	事前学習	第 4 章 (pp. 43~51) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	教育実習における授業観察の意義についてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 6 回	第 5 章 授業づくりの方法と準備① ・教育実習における授業実習の準備	事前学習	第 5 章 (pp. 45~59) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	教育実習における教壇実習の意義についてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 7 回	第 5 章 授業づくりの方法と準備② ・教育実習における授業実習の心得	事前学習	第 5 章 (pp. 59~83) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	教育実習における教壇実習の意義についてワークシートの

			復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 8 回	学習指導案の書き方 ・学習指導案の事例と内容 ・教材研究のポイント	事前学習	学習指導案の書き方について調べ、ワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	学習指導案の作成と教材研究のポイントについてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 9 回	学習指導案の作成：グループワーク	事前学習	学習指導案作成の資料を準備する。
		事後学習	作成した指導案の課題点をまとめる。
第 10 回	模擬授業(1)：グループ討議	事前学習	模擬授業の資料(教材等)を準備する。
		事後学習	模擬授業での課題点をまとめる。
第 11 回	模擬授業(2)グループ討議	事前学習	模擬授業の資料(教材等)を準備する。
		事後学習	模擬授業での課題点をまとめる。
第 12 回	模擬授業(3)：グループ討議	事前学習	模擬授業の資料(教材等)を準備する。
		事後学習	模擬授業での課題点をまとめる。
第 13 回	第 6 章 教科外指導の観察と参加 ・教科外指導の分野と観察の心構え	事前学習	第 6 章 (pp. 85～102) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	教科外指導の観察と参加の意義についてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 14 回	第 7 章 事後学習と研究レポートの作成	事前学習	第 7 章 (pp. 103～112) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	教育実習における事後学習の意義についてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。
第 15 回	第 8 章 学校の運営・近年の動き	事前学習	第 8 章 (pp. 113～129) について読んでワークシートに記述して理解を深める。
		事後学習	学校を取り巻く近年の状況についてワークシートの復習確認欄に記述して学習した内容を確認する。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等) / 教育心理学 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3110 EDTE2105
2. 授業担当教員	石 曉玲	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、グループディスカッション		
6. 履修条件・ 他科目との関係	「心理学概論」, 「心理学入門」, または「発達心理学」など心理系の 1 科目を履修したことが望ましい		
7. 講義概要	教育心理学は、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考える学問である。それを考える上では主に、発達、学習、人格、測定・評価の 4 つの領域について基礎知識が必要となってくる。本講義では、以上のような基礎的知識修得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用も考察する。		
8. 学習目標	1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明することができる。 2. 教育心理学の見方、考え方を習得し、活用できる。 3. 教育心理学の知識、見方、考え方を教育の場で応用できるようにする。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	保育・教育の現場での問題解決に必要な思考力、実践力を高めるために、演習課題などを出す。 事前学習として、テキストの授業内容との関連部分を読んでおくこと。 事後学習として、復習、資料・ノートのまとめは必須。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『教育心理学』松原達也編、丸善出版。 【参考書】 『保育のためのやさしい教育心理学』高村和代・小平英志・安藤史高著、ナカニシヤ出版。 『「使える」教育心理学』服部環監修 安齊順子・荷方邦夫編著、北樹出版。 『教育心理学キーワード』森敏昭・秋田喜代美編、有斐閣双書。 『保育児童福祉要説』東京福祉大学編、中央法規。		
11. 成績評価の方法	・平常点 (授業態度、授業への貢献度) 30% ・演習課題・小論文 30% ・小テスト 40%		
12. 受講生への メッセージ	「教育」とはということかについて深く考え、そして教育心理学について関心を持てることが受講の前提となります。 授業態度を重視するので、私語厳禁です。 自ら考え、授業で出されるさまざまな課題に取り組んでください。		
13. オフィスアワー	初回の授業で知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス / 教育心理学とは	事前学習	教育の概念について考える。
		事後学習	教育心理学の全体内容のイメージをつくる。
第 2 回	発達と教育	事前学習	発達と教育の部分を熟読する。
		事後学習	復習し、主な発達理論を理解する。
第 3 回	学習理論の基礎と応用	事前学習	学習理論の部分を熟読する。
		事後学習	復習し、学習理論の基礎を理解する。
第 4 回	動機づけの基礎知識と応用	事前学習	原因帰属理論を調べる。
		事後学習	復習し、動機づけの応用についてまとめる。
第 5 回	授業法の実際	事前学習	授業法の部分を熟読する。
		事後学習	授業のイメージを作る。
第 6 回	模擬授業の準備、グループワーク	事前学習	模擬授業の準備。テーマを下調べし、基本的な知識を身につける。
		事後学習	模擬授業のデザインを熟考し、考察を深める。
第 7 回	学習指導	事前学習	学習指導の部分を熟読する。
		事後学習	理解不足な点を復習する。
第 8 回	学級の心理 I (集団)	事前学習	学級の心理の部分を熟読する。
		事後学習	理解不足な点を復習する。
第 9 回	学級の心理 II (学級集団)	事前学習	日本の学級集団の特徴を調べる。
		事後学習	理解不足な点を復習する。
第 10 回	教育評価	事前学習	教育評価の部分を熟読する。
		事後学習	理解不足な点を復習する。
第 11 回	ここまでのまとめ	事前学習	ここまでの内容を復習、小テストの準備。
		事後学習	ここまでの内容を確認。
第 12 回	学校臨床 (1) 不登校の理解と対応	事前学習	不登校の実態、事例、対処法を調べる。
		事後学習	不登校の学習内容についてまとめる。
第 13 回	学校臨床 (2) いじめの理解と対応	事前学習	いじめの実態、事例、対処法を調べる。
		事後学習	いじめの学習内容についてまとめる。
第 14 回	学校臨床 (3) 特別支援教育と発達障害	事前学習	特別支援教育と発達障害の部分を熟読する。

		事後学習	理解不足な点を復習する。
第 15 回	さまざまな視点から教育心理学を学ぶ、講義全体のまとめ	事前学習	授業内容を振り返り、教育とは何かを考える。
		事後学習	教育心理学の本質について考察する。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3110
2. 授業担当教員	川島 亜紀子			
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、教育や保育に関わる心理学の基礎理論を学ぶとともに、保育や教育現場で生じるさまざまな問題に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処法を見つけ出す力を身につけることを目的に講義を行う。また、心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理的特性及び学習過程について、具体的事例を通して理解できる力を身につけさせる講義を行う。			
8. 学習目標	① 教育心理学の基本的な知識を学び、説明できる。 ② 教育心理学的な視点を、教育や保育の現場に応用するための基礎力を身に付けられる。 ③ 心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理的特性に対する理論と実際について身につけられる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	教育現場にはいじめや不登校、学力低下などさまざまな問題があるが、心理学的アプローチでどのように改善をはかれるかを調べ、まとめることを課題とする。またレポートをもとに、ディベートもしくはディスカッションを行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 鎌原雅彦・竹網誠一郎『やさしい教育心理学』有斐閣アルマ。 【参考書】 必要に応じて、適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	レポート 60%、学習用ノート 20%、授業への参加度など 20%。なお、本学の規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。			
12. 受講生への メッセージ	1. 本学の規定により全講義回数のうち 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. グループディスカッション等において積極的に討議できているグループは加点的な対象とする。 6. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合は F 評価とする。 7. レポートや小テスト、プレゼンテーションにおいて、不正行為 (カンニングや他者の論文・レポート等の盗用など) とみなされた場合、ただちに本講義を F 評価するとともに、当該年度の全ての授業において F 評価とする。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション ・講義概要と評価方法、レポートの書き方について説明する。	事前学習	教科書、学習用ノートを準備し授業に臨む。	
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 2 回	教育心理学とは何か	事前学習	教育心理学とは何かを調べ、ノートにまとめておく。	
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 3 回	記憶力がいいとはどういうことか	事前学習	第 1 章の内容を確認する。	
		事後学習	第 1 章の内容と学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 4 回	学ぶことと考えること	事前学習	第 2 章の内容を確認する。	
		事後学習	第 2 章の内容と学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 5 回	ほめることの大切さ	事前学習	第 3 章の内容を確認する。	
		事後学習	第 3 章の内容と学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 6 回	「やる気」を考える	事前学習	第 4 章の内容を確認する。	
		事後学習	第 4 章の内容と学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 7 回	学級という社会 (1) : 基礎編	事前学習	第 5 章の内容を確認する。	
		事後学習	第 5 章の内容と学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 8 回	学級という社会 (2) : 応用編 体罰について考える	事前学習	体罰について調べ、ディスカッションに備える。	
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 9 回	学級という社会 (3) : 応用編 いじめについて考える	事前学習	いじめについて調べ、ディスカッションに備える。	
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 10 回	どのように教えるか	事前学習	第 6 章の内容を確認する。	
		事後学習	第 6 章の内容と学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 11 回	児童・生徒をどう評価するか (1) : 基礎編	事前学習	第 7 章の内容を確認する。	
		事後学習	第 7 章の内容と学んだことを学習用ノートに	

			まとめる。
第 1 2 回	児童・生徒をどう評価するか (2) : 応用編 学力低下について考える	事前学習	学力低下について調べ、ディスカッションに備える。
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる。
第 1 3 回	人間の発達について考える	事前学習	第 8～10 章の内容を確認する。
		事後学習	第 8～10 章の内容と学んだことを復習しておく。
第 1 4 回	困難を抱える子どもたち	事前学習	第 11 章の内容を確認する。
		事後学習	第 11 章の内容と学んだことを学習用ノートにまとめる。
第 1 5 回	まとめ：教員のメンタルヘルスを考える	事前学習	メンタルヘルスとは何かを調べ、ノートにまとめておく。
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3110
2. 授業担当教員	平沼 晶子			
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、教育や保育に関わる心理学の基礎理論を学ぶとともに、保育や教育現場で生じるさまざまな問題に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処法を見つけ出す力を身につけることを目的に講義を行う。また、心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理的特性及び学習過程について、具体的事例を通して理解できる力を身につけさせる講義を行う。			
8. 学習目標	④ 教育心理学の基本的な知識を学び、説明できる。 ⑤ 教育心理学的な視点を、教育や保育の現場に応用するための基礎力を身に付けられる。 ⑥ 心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理的特性に対する理論と実際について身につけられる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業内で小テストや小レポートを実施するので復習をして臨む。 授業を通して学習したことを振り返り、期末レポートとしてまとめる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	会田元明著『子どもとむかいあうための教育心理学演習』ミネルヴァ書房、1994年。			
11. 成績評価の方法	本学の規定により、3/4 以上の出席を単位認定要件とする。 その上で、小テスト・小レポート (40%)、レポート課題 (30%)、授業態度と参加姿勢 (30%) から総合的に評価する。			
12. 受講生への メッセージ	1. 教科書に沿って授業を進めるので、事前学習に指定された箇所を熟読して授業に臨みましょう。 2. 当該のテーマについてグループワークを行うので積極的な態度で参加してください。 3. 教育心理学で学習したことを保育や教育の現場に応用できるように、実際に即して考えてください。			
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは何か	事前学習	自分自身の「教育観」について考えてくる。	
		事後学習	教科書の pp.9~24 を読み、教育観と児童観について理解を深める。	
第 2 回	教育の原則	事前学習	教科書の pp.25~39 を読む。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 3 回	個人差に応じた指導	事前学習	子どもの個人差について考える。	
		事後学習	子ども一人ひとりの成長を支援することへの理解を深める。	
第 4 回	子どもの発達と環境	事前学習	配布資料の事例を熟読する。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 5 回	子ども中心の教育	事前学習	教科書の pp.40~47 を読む。	
		事後学習	子ども中心の教育について理解を深める。	
第 6 回	学習の動機づけ	事前学習	教科書の pp.48~73 を読む。	
		事後学習	動機づけを高める教育について考える。	
第 7 回	学習の成立の型と理論	事前学習	古典的条件づけとオペラント条件づけについて調べる。	
		事後学習	学習の型に着目して身のまわりの学習の成り立ちを考える。	
第 8 回	幼児の問題とされる行動	事前学習	教科書の pp.105~121 を読む。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 9 回	児童・生徒の問題とされる行動	事前学習	教科書の pp.122~141 を読む。	
		事後学習	グループで討議したことを整理する。	
第 10 回	学校における問題 (1) いじめの原因と背景	事前学習	教科書の pp.142~151 を読む。	
		事後学習	配布資料の事例を熟読する。	
第 11 回	学校における問題 (2) いじめへの対応	事前学習	いじめについて自分の考えを整理する。	
		事後学習	グループで討議したことをまとめる。	
第 12 回	発達障害への理解	事前学習	発達障害の種類と特徴について調べる。	
		事後学習	発達障害をもつ子どもへの理解を深める。	
第 13 回	発達障害をもつ子どもへの対応	事前学習	発達障害をもつ子どもへの対応を考える。	
		事後学習	発達障害児に対する指導のあり方を理解する。	
第 14 回	教育評価	事前学習	教科書の pp.74~82 を読む。	
		事後学習	教育評価の目的、信頼性と妥当性について理解する。	
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	これまで学んだことを振り返り整理する。	
		事後学習	学習したことを保育や教育の現場で応用できるように定着させる。	

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3330 SCMP3330 SBMP3330 EDTS2105
2. 授業担当教員	成本 忠正		5. 開講学期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	教育心理学とは、子どもに関わる上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考察する学問である。本講義では、教育心理学の基礎とされる発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域についての基礎知識の習得に加えて、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのかを検討し、現実の教育現場で起きている問題への対応も考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明できるようになる。 2. 教育心理学の観点から、学習・教育の場における諸問題について考えを深める。 3. より良い教育、より良い学習を提供するための理論を知り、その応用や実践ができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業で紹介された教育心理学研究で得られた知見について詳細にリサーチし、それが教育現場でどのように貢献しているのかについてレポートを作成する。 2 各テーマの終了後に簡単な小テスト (15分程度) を実施する。 3 グループディスカッションの結果を発表する。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 <ol style="list-style-type: none"> 1 心理科学研究会編『中学・高校教師になるための教育心理学』有斐閣選書、2012年。 2 配布資料で授業を行う。 【参考書】 なし。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 グループディスカッションでの活発な意見交換と発表 総合点の40% 2 課題レポート 総合点の30% 3 小テスト 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	教員免許の基礎になる必修の講義です。心理学と教育に関する多くの知識を習得するため、厳しい講義かもしれませんが、積極的に楽しんでください。		
13. オフィスアワー	第1回目のオリエンテーションで発表します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (授業の進め方・評価方法) 教育心理学とは (1): 教育現場への貢献	事前学習	配布資料【教育心理学】を読む。
		事後学習	教育心理学の歴史と意義を理解する。
第2回	教育心理学とは (2): 研究方法	事前学習	配布資料【教育心理学】を読む。
		事後学習	研究方法について復習する。
第3回	教師に求められるものとは?	事前学習	教科書【生徒の生活・教師の生活】を読む。
		事後学習	教師に求められることを理解する。
第4回	青年期の特徴を理解する	事前学習	教科書【発達】を読む。
		事後学習	青年期における生徒の行動を理解する。
第5回	発達障害とは?	事前学習	教科書【障害のある生徒の発達】を読む。
		事後学習	発達障害を抱える生徒の行動を理解する。
第6回	行動の学習: 報酬による行動への影響とは?	事前学習	教科書【学習の基礎】を読む。
		事後学習	報酬・罰が与える行動への影響を理解する。
第7回	学習理論の応用について理解する	事前学習	配布資料【学習理論の応用】を読む。
		事後学習	オペラント学習の応用について復習する。
第8回	学校での学び・学習意欲を理解する	事前学習	教科書【学習動機づけ】を読む。
		事後学習	動機づけの種類について復習する。
第9回	学校における学習指導・学習量	事前学習	教科書【教育指導】を読む。
		事後学習	効果的な学習指導法について復習する。
第10回	教師の役割	事前学習	教科書【生徒と教師の関係】を読む。
		事後学習	生徒指導と教育相談について復習する。
第11回	問題行動の理解と指導	事前学習	教科書【問題行動の理解と指導】を読む。
		事後学習	不適応行動について復習する。
第12回	口頭発表	事前学習	発表準備をしておく。
		事後学習	発表。
第13回	口頭発表	事前学習	発表。
		事後学習	発表。
第14回	大学で何を学ぶか?	事前学習	教科書【教師として生きる】を読む。
		事後学習	教師になるために何を学び準備すべきかを考える。
第15回	授業の総括 (質疑応答)	事前学習	これまでの授業を振り返り、興味のある点や疑問を持った点を考える。
		事後学習	教育現場における心理学の役割を理解する。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2105
2. 授業担当教員	木村 純		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育心理学とは、子どもに関わる上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考察する学問である。本講義では、教育心理学の基礎とされる発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域についての基礎知識の習得に加えて、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのかを検討し、現実の教育現場で起きている問題への対応も考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明できるようになる。 2. 教育心理学的観点から、学習・教育の場における諸問題について考えを深める。 3. より良い教育、より良い学習を提供するための理論を知り、その応用や実践ができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、当該のテーマに関するワークシートに取り組み授業の最後にそれを提出する。または次週までに提出する。 2. 小テストで出来なかった箇所、理解が不足している箇所を次週までに完全に理解しレポートを提出する。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 松原達哉編『教育心理学』丸善出版。 【参考書】 必要に応じて、適宜、資料を配付する。また、他に参考書がある場合はそのつど指定する。		
11. 成績評価の方法	平常点 (授業への積極的参加態度、発表、発言) 40% 課題 (小テスト、レポート、ワークシート) 40% 期末試験 20%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的に参加すること。 2. 正当な理由なく、遅刻、欠席、早退をしないこと。 3. 授業の妨害行為および他者への迷惑行為 (私語、居眠り、携帯の使用、実習やディスカッションへの不参加、など) をしないこと。これらの不適切な行為がみられた場合は厳格に対処する。 4. 疑問がある場合は積極的に質問するなどして解決してください。 		
13. オフィスアワー	簡単な質問であれば授業前後の時間に受け付ける。オフィスアワーについては最初のガイダンスで周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 教育心理学とは何か 教育心理学の内容と方法を学ぶ	事前学習	教育における心理学の活用についてまとめてくる。可能であれば、教科書を入手し、第1章 (pp. 1~8) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第2回	発達 発達の概念を理解し、各種の発達理論を学ぶ	事前学習	教科書の第2章 (pp. 9~36) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第3回	学習理論 様々な学習の理論について学ぶ	事前学習	教科書の第6章 (pp. 114~133) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第4回	動機づけ 動機づけの理論を学び、動機づけを高めるにはどうするかを考える	事前学習	教科書の第7章 (pp. 134~158) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第5回	学習指導 (1) 各種の学習指導の方法を学び、その背景にある学習理論を理解する	事前学習	教科書の第4章 (pp. 61~85) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第6回	学習指導 (2) 各種の学習指導の方法を学び、その背景にある学習理論を理解する	事前学習	教科書の第4章 (pp. 61~85) を再確認する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第7回	学習指導 (3) 各種の具体的な授業法を学び、その背景にある学習理論を理解する	事前学習	教科書の第8章 (pp. 159~179) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第8回	学級の心理 (1) 学級の心理の背景にある社会心理学的理論を学ぶ	事前学習	教科書の第9章 (pp. 180~201) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第9回	学級の心理 (2) 学級の心理の背景にある歴史や文化の特質を社会心理学的な側面から考察する	事前学習	教科書の第9章 (pp. 180~201) を再確認する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第10回	教育評価 教育評価の方法と意義、問題点などを学ぶ	事前学習	教科書の第10章 (pp. 202~225) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第11回	学校における心理的問題 (1) いじめの原因や背景について考察する	事前学習	教科書の第5章 (pp. 86~103) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第12回	学校における心理的問題 (2) 不登校や自殺の原因や背景について考察する	事前学習	教科書の第5章 (pp. 103~113) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出
第13回	学校における心理的問題 (3) いじめや不登校、自殺について課題研究を行う	事前学習	いじめや不登校についての統計や事例を調査し、課題研究の準備を行う
		事後学習	レポートの作成と提出
第14回	特別支援教育と発達障害 発達障害について理解し、その支援について学ぶ	事前学習	教科書の第3章 (pp. 37~60) を通読する
		事後学習	ワークシートの作成と提出

第 15 回	授業の総括	事前学習	これまでの授業を振り返り、興味のある点や疑問を持った点を考えてくる
		事後学習	これまでの授業を振り返り、期末試験の準備をする
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等) ／教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3214 EDTE3106
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期／秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>生徒指導は、一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めていくことを目指して行われる教育活動であるが、教育相談はこの生徒指導の一環として位置づけられ、その中心的役割を担うものである。</p> <p>本講義は、教師が児童生徒の自発的、主体的な成長・発達の過程を援助するという教育的課題を達成するにあたり、必要な知見を獲得し、児童生徒と子どもたちを取り巻く多様な人々を共感的に理解するための資質について考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談を含め広義の生徒指導の意義と目的、内容、原理について理解し、説明することができるようになる。 2 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。 3 学校における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明することができるようになる。 4 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明することができるようになる。 5 発達支援活動としての教育相談の治療的、予防的、開発的側面について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○課題1 グループ活動 教師の行う教育相談は、個の尊重とあわせ学校教育の特質である集団指導の方法原理について理解することが重要である。そこで学習を班活動で行い、体験的に集団指導のあり方について理解を深める。 →役割分担を決定し、討議を行う。詳細は教場において指示する。</p> <p>○課題2 中間レポート作成 A4 1, 000字～1, 200字程度のものを作成し提出する。 →テーマ：生徒指導のあり方について</p> <p>○課題3 期末レポート作成 第15回目講義までにA4 1, 000字～1, 200字程度のものを作成し提出する。 →テーマ：望ましい教育相談のあり方について</p> <p>○課題4 振り返りシート作成 →毎講義授業のまとめを行い、定期的に提出し、添削を受ける。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】文部科学省『生徒指導提要』教育図書、平成 22 年 3 月。 【参考書】必要に応じ教場で指示する。また毎時資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>中間レポート：総合点の 30% 期末レポート：総合点の 40% 振り返りシート：総合点の 20% 授業への参加度等：総合点の 10% なお本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本講義は教職のための資格科目であり、将来の教育者としての思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な理論、技能の獲得を目指している。この目的達成のため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に励む。 3 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。 <p>なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることがある。 また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 5 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守られない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 講義の概要 学習姿勢の確認 グループ作り 生徒指導と教育相談	事前学習	教育に関するニュースのうち関心のある事柄を整理しておく。
		事後学習	生徒指導と教育相談についての差異についてまとめることができる。
第 2 回	生徒指導 1：グループによる討議 生徒指導の不登校について各種資料を読み取りつつグループにて背景、態様、対応等を討議し、のちに共有化を図る。	事前学習	不登校について調べておく。
		事後学習	不登校の現状及び対応についてまとめることができる。
第 3 回	生徒指導 2：グループによる討議 生徒指導のいじめについて各種資料を読み取りつつグループにて背景、態様、対応等を討議し、のちに共有化を図る。	事前学習	いじめについて自分の考えをまとめておく。
		事後学習	いじめの現状及び対応についてまとめることができる。

第 4 回	生徒指導 3 : グループによる討議 生徒指導の非行について各種資料を読み取り、グループにて背景、状況について討議する。また事例を通してその対応について考える。	事前学習	小学校における非行について調べておく。
		事後学習	非行の現状と最近の非行の特徴についてまとめることができる。
第 5 回	生徒指導 4 : グループによる討議 生徒指導の特別な支援を要する子どもへの対応について各種資料を読み取りつつ、グループで現状、対応を討議し、のちに共有化を図る。	事前学習	学校で行われている特別支援教育について調べておく。
		事後学習	さまざまな発達障害の特徴とその対応についてまとめることができる。
第 6 回	生徒指導の事例検討 : グループによる討議 不登校、いじめ、非行、発達障害について、成功事例を通して解決した理由を意見交換し、のちに共有化を図る。	事前学習	これまでの生徒指導の学びをまとめておく。
		事後学習	これまでの学びを踏まえて、各事例を読み、解決に至った要点をまとめることができる。
第 7 回	教育相談とカウンセリング 1 カウンセリングの定義 カウンセリングのルール 来談者中心療法	事前学習	カウンセリングとは何か調べてくる。
		事後学習	カウンセリングの基本についてまとめることができる。 中間レポートを提出する。
第 8 回	教育相談とカウンセリング 2 傾聴の基本的態度 傾聴の技法	事前学習	カウンセリングの技法を調べてくる。
		事後学習	カウンセリングの技法の一つである傾聴についてまとめることができる。
第 9 回	教育相談とカウンセリング 3 リソース ピア・サポート	事前学習	教育相談の行ううえで大切な心構えについて調べてくる。
		事後学習	リソース活用の意義とピア・サポートの方法についてまとめることができる。
第 10 回	教育相談とカウンセリング 4 教育相談の歴史 スクールカウンセラー配置の意義 教育相談体制について	事前学習	望ましい教育相談体制について調べてくる。
		事後学習	スクールカウンセラーの役割と学校における教育相談体制のつくり方についてまとめることができる。
第 11 回	教育相談とカウンセリング 5 開発的カウンセリングの実際 ・構成的グループエンカウンター ・アサーション ・ソーシャルスキルトレーニング等	事前学習	開発的カウンセリングを調べてくる。
		事後学習	開発的カウンセリングのポイントをまとめ、またその実践例について考えることができる。
第 12 回	教育相談とカウンセリング 6 保護者面接のあり方	事前学習	保護者との関係で最も難しいことは何か調べてくる。
		事後学習	保護者との良好な関係作り、また望ましい対応についてまとめることができる。
第 13 回	教育相談とカウンセリング 7 他機関との連携	事前学習	教育相談にて、どこと連携することが多いか調べてくる。
		事後学習	連携の様子と意義について、事例を通してまとめることができる。
第 14 回	教育相談とカウンセリング 8 事例を通じた具体的対応 1	事前学習	さまざまな教育相談の実際を調べてくる。
		事後学習	学校におけるさまざまな子どもの様子とその対応についてまとめることができる。
第 15 回	教育相談とカウンセリング 9 事例を通じた具体的対応 2 講義のまとめ	事前学習	教育相談について学んだことを整理しておく。
		事後学習	学校におけるさまざまな子どもの様子とその対応についてまとめることができる。 講義をまとめることができる。 期末レポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJTC1402
2. 授業担当教員	江津 和也			
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容の把握については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ双方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目は、幼稚園や特別支援学校の教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、幼小連携を踏まえた教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や幼児・児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、幼稚園・小学校や特別支援学校の幼稚部・小学部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>			
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠ある教育活動ができる教員となること。</p> <p>また、教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法規の基礎知識について知り、その内容について説明できるようになることを目的とする。 2. 教育関連法規の具体的な内容について学校(幼稚園・小学校及び特別支援学校の幼稚部・小学部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。 3. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめ、発表することができるようになる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①宿題として、次の授業内容と関連する用語調べを求めることもある。 ②以下の内容のレポートを求める。12月の最後の授業までに必ず提出する(成績評価の対象であるとともに、第14回の授業で用いるため必ず提出すること) <ul style="list-style-type: none"> ・教育法令や法規にかかわる新聞記事を探し、その概要を記す(200字程度) ・それについて授業内容やテキストの記述をふまえてコメントを付す(800~1200字程度) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】黒川雅子、坂田仰、河内祥子 『図解・表解 教育法規 確かにわかる法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 その他、授業中に提示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、授業への貢献 10% ・レポート 30% ・筆記試験 60% 			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業は講義を中心に展開していきますが、議論や発表など学生が参加できるような機会をつくります。そのような場では、ぜひ積極的に取り組んでください。 2) 授業中の迷惑行為(私語など)、飲食、携帯電話やゲーム機の使用などは禁止します。マナー違反の学生に対しては減点するとともに退室を命じます。 3) 厳正な出席管理をするために指定する座席に着席してください。また、授業中の許可のない教室の出入りは認めません。 4) 遅刻は30分までの入室とし、それを超えると欠席扱いとします。 			
13. オフィスアワー	授業内で提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション	事前学習	当科目のシラバスに目を通す。	
		事後学習	シラバスの内容について確認し、評価基準について理解する。	
第2回	法規の読み方	事前学習	テキスト第1章に目を通す。	
		事後学習	法規の読み方の基本について第1章で確認するとともに、レジユメの空白に調べて記述する。	
第3回	教育の基本理念に関する法規1 日本国憲法①	事前学習	テキスト第2章に目を通す。	
		事後学習	日本国憲法の成立、理念等に授業内容をふまえて、文章として簡潔にノートにまとめる。	
第4回	教育の基本理念に関する法規2 日本国憲法②	事前学習	憲法第26条について調べる。	
		事後学習	授業内容を確認しつつ、教育を受ける権利の多様な解釈についてインターネット等をもちいて調べてまとめる。	
第5回	教育の基本理念に関する法規3 教育基本法①	事前学習	テキスト第2章に目を通す。	
		事後学習	教育基本法の成立と理念について簡潔な文章でノートに論述する。	
第6回	教育の基本理念に関する法規4 教育基本法②	事前学習	教育基本法の条文(前半)に目を通す。	
		事後学習	教育の基本に関する規定の条文をノートに写すとともに解釈をノートに記述する。	
第7回	教育の基本理念に関する法規5 教育基本法③	事前学習	教育基本法の条文(後半)に目を通す。	
		事後学習	学校教育にかかわる規定の条文をノートに写し、その解釈を記述する。	
第8回	教育行政に関する法規	事前学習	テキストの教育行政にかかわる部分を読む。	
		事後学習	教育委員会の業務の具体的事例について居住地の事例をインターネット等で調べ、ノー	

			トにまとめる。
第 9 回	学校教育に関する法規	事前学習	テキストの学校教育法にかかわる部分を読む。
		事後学習	学校教育法の重要な条文をノートに写し、解釈をノートにまとめる。
第 10 回	教育課程・保育内容・教科書に関する法規	事前学習	テキストの教育課程等にかかわる部分を読む。
		事後学習	幼稚園教育要領、学習指導要領および教科書の制度等について授業内容をふまえて、簡潔に文章としてまとめる。
第 11 回	学校保健・学校安全に関する法規	事前学習	テキストの学校保健・学校安全等にかかわる部分を読む。
		事後学習	感染症予防や学校安全計画の事例についてインターネット等を活用して調べノートにまとめる。
第 12 回	児童・生徒に関する法規	事前学習	テキストの児童に関する法規の部分を読む。
		事後学習	児童および生徒にかかわる法規の重要条文をノートに写し、その解釈を記述する。
第 13 回	教育職員に関する法規	事前学習	テキストの教職員に関する法規の部分を読む。
		事後学習	教職員にかかわる法規の重要条文をノートに写し、その解釈を記述する。
第 14 回	教育改革の動向	事前学習	レポートの内容について再確認しておく。
		事後学習	他者のレポート発表内容を聞いたメモをもとに、ノートにまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまで学習した部分を確認しておく。
		事後学習	15回の授業内容について整理し、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (初等) / 教育法規 (初等・小) (2 単位)		3. 科目番号	SJTC1402 EDTE2102
2. 授業担当教員	山本 豊			
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本来は、法学や教育課程論などを履修していることが望ましい。したがって、それらの内容で教育法規に関する個所については、講義中に適宜説明する。			
7. 講義概要	<p>本科目は、小学校や特別支援学校の教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小学校や特別支援学校の小学部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>			
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠のある教育活動ができる教員となること。</p> <p>教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになる。</p> <p>4. 教育法規の基礎知識について知り、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>5. 教育関連法規の具体的な内容について学校(主に小学校及び特別支援学校の小学部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。</p> <p>6. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめることができるようになる。</p>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 予習が欠かせない科目である。なぜならば予習することによって、課題意識をもって講義に臨むことができるからである。その結果、学習の理解度に大きな差が生じることになるからである。 シラバスに対応して、「有権解釈に重きを置いた 教育法規」を読み、「書いて理解する 教育法規」の空欄を埋めて講義に臨むこと。 講義内容に応じて、教員採用選考試験の過去問を配布するので、事前に解いて講義に臨むこと。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>山本豊著『有権解釈に重きを置いた 教育法規』学校図書、2015 年。(シラバスでは教科書と表示する)</p> <p>山本豊著『書いて理解する 教育法規』オフィス・サウス、2014 年。(シラバスではサブノートと表示する)</p> <p>*必要に応じて教材・資料等を配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発表(事前学習の発表も含む)・態度 総合点の 30% 学習カードの記入内容、事前学習の内容 総合点の 30% 理解度テスト・事後学習の内容 総合点の 40% <p>◎ なお、本学規定により、3/4 以上の出席がない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなど予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。 自ら進んで発表したり、質問したりし、講義内容の理解に努めること。 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。 授業中の着帽、私語、飲食(ガムを含む)等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等の操作はしないこと。学生として授業を受けるに相応しい態度で講義に臨むこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 受講生全体に聞こえる声で話しをするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに入室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので(次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、教育法規を学ぶ意義 教育法規の体系と構造— 教育法規、法体系と法の形式・形式的効力、国の主な法令、地方の主な法規、法令間の矛盾抵触を解決するための諸原理などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、それに対応するサブノートの空欄を埋める。また、教科書の質問コーナーの解答を考えることで、教育法規に興味や関心をもつ。	
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。	
第 2 回	日本国憲法の教育に関連する規定— 教育を受ける権利、義務教育、法の下での平等、信教の自由、学問の自由などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。	
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。	
第 3 回	教育基本法—① 教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、学校教育、教員などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。また、教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。	

		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 4 回	教育基本法—② 家庭教育、社会教育、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力、政治教育、宗教教育、教育行政などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。教育基本法の理解度テストに備える。
第 5 回	学校教育—① 学校教育法 1 条校、学校の設置と管理、組織編制、学校の運営などについて理解する。 理解度テスト ①	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問すること。
第 6 回	学校教育—② 学校教育の目的と目標、教育課程、学習指導要領などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 7 回	学校教育—③ 教科書の使用義務と補助教材、備え付け表簿の内容とその保存期間、学年・学期・授業日・休業日などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。学校教育の理解度テストに備える。
第 8 回	児童・生徒—① 義務教育、義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業、懲戒・体罰（その 1）などについて理解する。 理解度テスト ②	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 9 回	児童・生徒—② 懲戒・体罰（その 2）、出席停止について理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。理解度テストに備える。
第 10 回	学校保健・安全・給食—① 学校保健、学校安全、学校給食について理解する。 理解度テスト ③	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 11 回	特別支援教育 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について理解する。 教職員—① 教員、教育公務員の定義	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 12 回	教職員—② 学校に配置される教職員、配置職員と職務教職員の資格などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 13 回	教職員—③ 免許状、任用、服務、分限処分と懲戒処分などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 14 回	教職員—④ 研修、給与、勤務時間その他の勤務条件などについて理解する。 教育行財政— 国と地方の役割分担、教育委員会、学校の管理及び経費の負担などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 15 回	その他の教育関連法規— 国家賠償、社会教育、学校図書館法、児童虐待の防止等に関する法律などについて理解する。 理解度テスト ④	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	本授業を振り返り、学習目標を達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は、今後の学習や実習等で解決を図る。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1321 SCMP1321 SBMP1421 EDTS2102
2. 授業担当教員	山本 豊		
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容の把握については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ双方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目は、中学校・高等学校や特別支援学校及び養護教諭の教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、小中一貫連携教育を踏まえた教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小・中・高等学校や特別支援学校の小学部・中学部・高等部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠ある教育活動ができる教員となること。</p> <p>また、教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになること。</p> <p>7. 教育法規の基礎知識について知り、その内容について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>8. 教育関連法規の具体的な内容について学校(小・中・高等学校及び特別支援学校の小学部・中学部・高等部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。</p> <p>9. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめ、発表することができるようになる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 予習が欠かせない科目である。なぜならば予習することによって、課題意識をもって講義に臨むことができるからである。その結果、学習の理解度に大きな差が生じることになるからである。 シラバスに対応して、「有権解釈に重きを置いた 教育法規」を読み、「書いて理解する 教育法規」の空欄を埋めて講義に臨むこと。 講義内容に応じて、教員採用選考試験の過去問を配布するので、事前に解いて講義に臨むこと。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>山本豊著『有権解釈に重きを置いた 教育法規』学校図書、2015 年。(シラバスでは教科書と表示する)</p> <p>山本豊著『書いて理解する 教育法規』オフィス・サウス、2014 年。(シラバスではサブノートと表示する)</p> <p>*必要に応じて教材・資料等を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発表(事前学習の発表も含む)・態度 総合点の 30% 学習カードの記入内容、事前学習の内容 総合点の 30% 理解度テスト・事後学習の内容 総合点の 40% <p>◎ なお、本学規定により、3/4 以上の出席がない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなど予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。 自ら進んで発表したり、質問したりし、講義内容の理解に努めること。 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。 授業中の着帽、私語、飲食(ガムを含む)等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等の操作はしないこと。学生として授業を受けるに相応しい態度で講義に臨むこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 受講生全体に聞こえる声で話しをすとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに来室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので(次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、教育法規を学ぶ意義 教育法規の体系と構造— 教育法規、法体系と法の形式・形式的効力、 国の主な法令、地方の主な法規、法令間の 矛盾抵触を解決するための諸原理などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、それに対応するサブノートの空欄を埋める。また、教科書の質問コーナーの解答を考えることで、教育法規に興味や関心をもつ。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 2 回	日本国憲法の教育に関連する規定— 教育を受ける権利、義務教育、法の下での平等、 信教の自由、学問の自由などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心

			をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 3 回	教育基本法—① 教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、学校教育、教員などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。また、教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 4 回	教育基本法—② 家庭教育、社会教育、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力、政治教育、宗教教育、教育行政などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。教育基本法の理解度テストに備える。
第 5 回	学校教育—① 学校教育法 1 条校、学校の設置と管理、組織編制、学校の運営などについて理解する。 理解度テスト ①	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問すること。
第 6 回	学校教育—② 学校教育の目的と目標、教育課程、学習指導要領などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 7 回	学校教育—③ 教科書の使用義務と補助教材、備え付け表簿の内容とその保存期間、学年・学期・授業日・休業日などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。学校教育の理解度テストに備える。
第 8 回	児童・生徒—① 義務教育、義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業、懲戒・体罰（その 1）などについて理解する。 理解度テスト ②	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 9 回	児童・生徒—② 懲戒・体罰（その 2）、出席停止について理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。理解度テストに備える。
第 10 回	学校保健・安全・給食—① 学校保健、学校安全、学校給食について理解する。 理解度テスト ③	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 11 回	特別支援教育 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について理解する。 教職員—① 教員、教育公務員の定義	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 12 回	教職員—② 学校に配置される教職員、配置職員と職務	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科

	教職員の資格などについて理解する。		書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 13 回	教職員—③ 免許状、任用、服務、分限処分と懲戒処分などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 14 回	教職員—④ 研修、給与、勤務時間その他の勤務条件などについて理解する。 教育行財政— 国と地方の役割分担、教育委員会、学校の管理及び経費の負担などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 15 回	その他の教育関連法規— 国家賠償、社会教育、学校図書館法、児童虐待の防止等に関する法律などについて理解する。 理解度テスト ④	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	本授業を振り返り、学習目標を達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は、今後の学習や実習等で解決を図る。

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE2104
2. 授業担当教員	池田 芳和		
4. 授業形態	講義、グループ討議を用いる。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校の教員を目指す学生にとっては、学校教育の目標・内容・方法を一体的に身に付けておく必要がある。これまで習得した教育学概論、教育課程論等を基礎に本科目が設定されている。</p> <p>教育の方法・技術が、人間を離れて存在することは有り得ない。学校における教育活動の中核は授業であり、児童・生徒が主体的に学び、学習内容を確かに身につける授業の実現を目指す。ここでは、授業を中心としての教育方法・技術の特質、教授・学習理論の変遷、児童・生徒の立場に立った授業の構想と学習の考え方、コンピュータの利用、授業と教師等について学習する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学ぶことの意味を捉え直し、問いを持つことの大切さを説明できる。 2. 現代の教育の現実的問題に焦点をあてながら、児童の学習を成立させるための考え方について説明できる。 3. 「何をどのように教え・学ばせるのか」「何が出来るようになるか」という観点から、教育方法を習得することが出来る。 4. 授業力を身に付けるため、カリキュラムの構成、教材教具の開発・発展、学習の形態等に注目し、教育方法の意義と技術の理解を深めることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○教科書の各章の要点整理及び講義内容の整理</p> <p>○夏季課題 岩崎夏海『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』ダイヤモンド社。を読んで 1000 字程度の感想を書く。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。</p> <p>文部科学省『生徒指導提要』教育図書。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>平常点 (ミニレポートの評価を含む) と課題レポート</p> <p>評価基準: 日常の授業態度 (質問、ミニレポート) 70%、課題レポート 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>これまでの自己の学びを振り返りながら、学びの意味を再認識し、子どもの認識に応じた教育方法を新しい学習指導要領に即して考える。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業日の授業以外の時間、随時 (開講時に、詳細は伝達)</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	教育方法とは教育方法の意義と学びとの関係を考え、自己の教育に対する考えを整理する。	事前学習	シラバスを読んで、学修の概要を知る。
		事後学習	「学び」について考えを整理する。
第 2 回	学ぶとはどういうことかを考えるとともに、学びの発達を考える。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	「学びの構造」を読み、感想をまとめる。
		事後学習	ピアジェの「問いと学び」を読み、その関係を考える。
第 3 回	問いと学びを読んで、学ぶとはどういうことかを考えるとともに、学びの発達を考える。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	「学び」とはどういうものかレポートを書く。
		事後学習	教育課題の種類とその原因を整理する。
第 4 回	子どもの現状や現代学校教育の課題について知るとともに、改善の方向を考え、国の動向について理解する。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	教育課題解決の方策を考える。
		事後学習	中教審について調べ、理解をする。
第 5 回	子どもたちの実態から考えられる教育課題解決のために、どうすればよいのか考えるとともに、国はどのような考えで教育を進めようとしているのか学ぶ。	事前学習	中教審答申「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」を読み、課題をとらえる
		事後学習	三つの自立についてまとめる
第 6 回	教育課題解決策について、国ではどのように考えてきたのか調べる。	事前学習	高等学校までの課題を抽出する
		事後学習	中教審答申「学習指導要領の改訂」を整理する
第 7 回	教育課程の基準と教育方法 学校では、多くの課題をもちつつ、どのように教育を進めようとしているのかについて考えを進めましょう。	事前学習	教科書「総則編」を読んでおく。
		事後学習	教育内容に関する学校の課題を整理しておく。
第 8 回	教育課程の編成と教育方法…教育課程の編成に当たり、重視しなければならないことを整理し、調べ教育課程の概要を知る。	事前学習	1 年生で学んだ教育課程を思い出す。
		事後学習	教育課程に関する法規を整理しておく。
第 9 回	教育課程実施上の配慮事項 (1~6) を読んで、必要なことをまとめる。少人数グループで配慮事項を分担しまとめ、グループ内で発表するとともに、少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事前学習	教科書「総則編」を読んでおく。
		事後学習	グループで討議したことを整理しておく。
第 10 回	教育課程実施上の配慮事項 (7~12) を読んで、必要なことをまとめる。少人数グループで配慮事項を分担しまとめ、グループ内で発表するとともに、少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。特に、新しい教育を推進するための情報教育について、ネット社会の功罪について学ばせ、話し合いを深める。	事前学習	教科書「総則編」を読んでおく。
		事後学習	グループで討議したことを整理しておく。
第 11 回	指導計画作成の配慮事項を整理するとともに、よい授業	事前学習	教科書「総則編」を読んでおく。

	を行うために、研修の重要性を知る。教員研修センター作成の DVD を視聴し、少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	事後学習	DVD の内容を整理し、レポートにまとめる。
第 1 2 回	よい授業を行うために、授業の構成要素について考える。グループで構成要素を考えさせ、学生の意見が、文部省作成の「教育方法の基礎」の一部と共通することで自信を持たせ、資料を元に探究させる。	事前学習	レポートを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業の構成要素の整理を行う。
第 1 3 回	授業の構成要素、それぞれの授業に果たす効果について調べ、話し合う。特に情報機器の活用、コンピュータ、電子黒板、デジタル教科書等の活用上の配慮事項について機器を操作しつつ、授業の効率を話し合う。	事前学習	授業の P D C A について調べておく。
		事後学習	啐啄同時などの用語を整理しておく。
第 1 4 回	私の授業構成論 『あなたはどのような要素を大事にして教育を行うか』について話し合う。	事前学習	授業を構成する要素で大事にしたいことを選択しておく。
		事後学習	グループで話し合ったことを整理しておく。
第 1 5 回	私の授業論 授業の構成要素について、自分なりの考えをまとめ、レポートする。	事前学習	要素を三つ選択してレポートにまとめる。
		事後学習	教育方法論で得た学びを整理する。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (小学校) (2 単位)		3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	池田 芳和		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教職実践演習 (小学校) は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを期待して実施される科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>① 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。 ② 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関する再確認をする。 ③ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。 ④ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>「学び続ける教師」として生きていけるように、座学で得た知識・技能、自らの教育実習、ボランティア体験や社会参加した経験の生かし方を中心に、自分の考えをまとめられるように課題を設定していく。</p> <p>① 目指す教師像との関連から理論や経験を整理させる。 ② 教育課題への適切な対応ができるよう考えを広げる。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】※ 特定の教科書は使用しない。 【参考書】 文部科学省発行『小学校学習指導要領「総則編」』 文部科学省発行『生徒指導提要』</p>			
11. 成績評価の方法	<p>評価方法は、</p> <p>① 日常の授業への積極的参加態度 (質問等) 30% ② 毎回の学び方 30% ③ レポート 40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>大学で4年間学習を積み多くのことを身に着けたことと考える。毎回のテーマにかかわる知識を基に教育者としての資質を高めるように努力してほしい。</p>			
13. オフィスアワー	<p>授業日の授業のない時間、随時 (一時間目に伝達)</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	目指す教師像について考える。	事前学習	目指す教師像を考える	
		事後学習	目指す教師像のマインドマップを作り、完成させる。	
第2回	目指す教師像からみて 教育実習の経験の課題とその解決方法	事前学習	マインドマップから自分にとっての課題を抽出しておく	
		事後学習	自らの課題の携行性をまとめる。	
第3回	学校が見た東京福祉大学の教育実習生の姿から課題を考える。	事前学習	教育実習記録で指摘されたことを抽出しておく。	
		事後学習	福祉大学の学生の課題と目標を整理し、自らの課題について解決策を考え、レポートにまとめる。	
第4回	小学校教員の仕事を振り返る。	事前学習	実習やボランティアで分かった学校の仕事の実際をメモする。	
		事後学習	経験できなかった仕事について、概要をまとめておく。	
第5回	校務分掌とサービスの在り方について	事前学習	サービスの根本基準をはじめ、教育公務員の守るべき法規について整理する。	
		事後学習	事例を通して、問題を整理する。	
第6回	人事考課制度について	事前学習	教員評価について調べておく。	
		事後学習	人事考課の趣旨と目的をしっかりとらえておく。	
第7回	学校における組織マネジメントについて	事前学習	「もしドラ」を読んでおく。	
		事後学習	組織マネジメントと学級経営についてを関連づけ、まとめる。	
第8回	学級経営案の書き方について	事前学習	目指す教師像から見て、どのような子供を育てるのかを明確にしておく。	
		事後学習	学級経営案を実習校の経験を生かして完成させる。	
第9回	自己申告書の書き方について	事前学習	自己申告用紙に下書きをする。	
		事後学習	指摘事項を生かして、自己申告書を完成させる。	
第10回	児童理解にたった学習指導について	事前学習	子供を生かす学習指導の要素を考えておく。	
		事後学習	DVDの感想をまとめておく。	
第11回	授業の進め方 授業参観	事前学習	授業参観の下調べをしておく。	
		事後学習	参観後の感想、自分にとっての課題を記述する。	
第12回	生徒 (生活) 指導の進め方 事例研究 いじめ対応	事前学習	いじめについて調べる。	

		事後学習	いじめを出さない学級経営の在り方についてまとめる
第 1 3 回	生徒（生活）指導の進め方 事例研究 不登校への対応	事前学習	不登校の発生する原因について調べる
		事後学習	不登校を出さない学級経営についてまとめる。
第 1 4 回	保護者会の進め方	事前学習	保護者会について、教育実習で得た経験を整理しておく。
		事後学習	保護者との真の連携を目指す方法についてまとめる。
第 1 5 回	初任者研修への臨み方	事前学習	初任者研修の概要を調べる。
		事後学習	初任者研修に期待すること、学びたいことをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (中学・高校) (2 単位)		3. 科目番号	EDTS4393
2. 授業担当教員	篠 大輔		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、模擬授業など			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>大学でこれまで学んできた理論や学習知と教育実習等で獲得してきた実践知との関連や統合を図る。特に、教育実習成果・課題を踏まえて、生徒の実態に即した授業設計の在り方、教材の準備など、作業や演習をする。具体的には</p> <p>①これまでの講義や実習で積み重ねた「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」、および資料等を基に、教員として必要な資質・能力に関する自己課題を明確にする。</p> <p>②教育実習の体験を基に、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。</p> <p>③教育に対する使命感、責任感、生徒・保護者とのコミュニケーションやよい授業を実施するための様々な準備について、実践的に学ぶ。</p> <p>更に、生徒への指導場面で、生徒理解や個に応じること、生徒の多様性に対応することなど実習で、実感した現場の実態と教員が配慮していること、身に付けたい能力などについて深める。</p> <p>また、学校という職場で組織の一員として働くことと、一人の教員として自己実現を図ることを仕事の仕方として掘り下げ、学校の教員として働くことの現実性を増し、実践力を高める。</p>			
8. 学習目標	<p>中学校、高等学校の教員として必要な基礎的資質・能力の形成に関して、以下の4項目をテーマおよび到達目標とする。</p> <p>① 職務に対して使命感や責任感を持ち、生徒に対する愛情が豊かであること。</p> <p>② 学校で働く組織人として、社会性や対人関係能力が適切であること。</p> <p>③ 生徒理解や学級経営等に関する基礎的な能力が身につけていること。</p> <p>④ 教科内容等の実践的な指導力が習得されていること。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニレポート・ワークシート (各回の講義内容に沿った課題を提示する。) ・学級経営案 ・課題レポート (授業内で課題を提示する。) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考書】参考文献については、テーマごとに紹介する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (授業態度・発表・発言) 20% ・毎回の課題 (ミニレポート・ワークシート) 30% ・学級経営案 30% ・課題レポート 20% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>9. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。</p> <p>10. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。</p> <p>11. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さず授業後に質問してください。</p> <p>12. レポートや課題の提出期限を守ってください。</p> <p>5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。</p>			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション - 教職実践演習とは -	事前学習	履修カルテや教育実習日誌を見かえし、これまでの学習の成果について振り返る。	
		事後学習	教職実践演習の意義について自分なりに考えをまとめておく。	
第2回	教育の現状および諸課題についての検討 (いじめ)	事前学習	いじめの問題について事前に調べておく。	
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。	
第3回	教育の現状および諸課題についての検討 (不登校)	事前学習	不登校の問題について事前に調べておく。	
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。	
第4回	教育の現状および諸課題についての検討 (子どもの貧困)	事前学習	子どもの貧困の問題について事前に調べておく。	
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。	
第5回	教育の現状および諸課題についての検討 (発達障害) ①	事前学習	発達障害について事前に調べておく。	
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。	
第6回	教育の現状および諸課題についての検討 (発達障害) ②	事前学習	前回の授業の復習をしておく。	
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。	
第7回	教育の現状および諸課題についての検討 (ネット依存)	事前学習	ネット依存の問題について事前に調べておく。	
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。	
第8回	現代的課題に取り組む教育実践① (支持的風土の学級づくり)	事前学習	第2回から第7回までに取り上げた課題について自ら教師となった際にどう対処するのかについて考えをまとめておく。	
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏ま	

			えて、自分の考えをまとめる。
第 9 回	現代的課題に取り組む教育実践② (いじめを防ぐ学級づくり)	事前学習	前回見た教育実践を振り返り、自らの教育実践にとり入れられるものについてまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 10 回	現代的課題に取り組む教育実践③ (学級崩壊を防ぐ学級づくり)	事前学習	前回見た教育実践を振り返り、自らの教育実践にとり入れられるものについてまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 11 回	学級経営案について/履修カルテを使用して、これまでの学習を振り返る	事前学習	履修カルテを見かえし、これまでどのような学習をしてきたかについてまとめておく。
		事後学習	授業を踏まえて教員になるために今後どのような能力を伸ばしていけばよいのかについて自分の考えをまとめ、学級経営案を作成する際の参考にする。
第 12 回	新任教師の課題について	事前学習	新任教師に求められる能力や態度について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 13 回	教師のメンタルヘルスについて	事前学習	教師のメンタルヘルスについて重要だと考えるところについてまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 14 回	保護者対応・PTA 運営について	事前学習	保護者対応・PTA 運営について重要だと考えるところについてまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 15 回	全体のまとめ - 教職実践演習を振り返って -	事前学習	これまでの学習内容を振り返る。
		事後学習	この授業を踏まえて、どのような教師をめざすのかについて考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (中学・高校) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS4393								
2. 授業担当教員	北林 敬										
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、模擬授業など	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>大学でこれまで学んできた理論や学習知と教育実習等で獲得してきた実践知との関連や統合を図る。特に、教育実習成果・課題を踏まえて、生徒の実態に即した授業設計の在り方、教材の準備など、作業や演習をする。具体的には</p> <p>①これまでの講義や実習で積み重ねた「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」、および資料等を基に、教員として必要な資質・能力に関する自己課題を明確にする。</p> <p>②教育実習の体験を基に、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。</p> <p>③教育に対する使命感、責任感、生徒・保護者とのコミュニケーションやよい授業を実施するための様々な準備について、実践的に学ぶ。</p> <p>更に、生徒への指導場面で、生徒理解や個に応じること、生徒の多様性に対応することなど実習で、実感した現場の実態と教員が配慮していること、身に付けたい能力などについて深める。</p> <p>また、学校という職場で組織の一員として働くことと、一人の教員として自己実現を図ることを仕事の仕方として掘り下げ、学校の教員として働くことの現実性を増し、実践力を高める。</p>										
8. 学習目標	<p>中学校、高等学校の教員として必要な基礎的資質・能力の形成に関して、以下の4項目をテーマおよび到達目標とする。</p> <p>⑤ 職務に対して使命感や責任感を持ち、生徒に対する愛情が豊かであること。</p> <p>⑥ 学校で働く組織人として、社会性や対人関係能力が適切であること。</p> <p>⑦ 生徒理解や学級経営等に関する基礎的な能力が身につけていること。</p> <p>⑧ 教科内容等の実践的な指導力が習得されていること。</p>										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニレポート・ワークシート (各回の講義内容に沿った課題を提示する。) ・学級経営案 ・課題レポート (授業内で課題を提示する。) 										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考書】 参考文献については、テーマごとに紹介する。</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>・平常点 (授業態度・発表・発言)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・毎回の課題 (ワークシート)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・学級経営案</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>・論文2本</td> <td>40%</td> </tr> </table>			・平常点 (授業態度・発表・発言)	20%	・毎回の課題 (ワークシート)	20%	・学級経営案	20%	・論文2本	40%
・平常点 (授業態度・発表・発言)	20%										
・毎回の課題 (ワークシート)	20%										
・学級経営案	20%										
・論文2本	40%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。</p> <p>13. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。</p> <p>14. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。</p> <p>15. レポートや課題の提出期限を守ってください。</p> <p>5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。</p>										
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション - 教職実践演習とは -	事前学習	履修カルテや教育実習日誌を見かえし、これまでの学習の成果について振り返る。								
		事後学習	教職実践演習の意義について自分なりに考えをまとめておく。								
第2回	教育の現状および諸課題についての検討 (教員環境)	事前学習	中等教育の教員環境の問題についてどのようなものがあるか事前に調べておく。								
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。								
第3回	教育の現状および諸課題についての検討 (いじめ)	事前学習	子どもどうしのいじめの問題について事前に調べておく。								
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。								
第4回	教育の現状および諸課題についての検討 (不登校)	事前学習	子どもの不登校の問題について事前に調べておく。								
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。								
第5回	教育の現状および諸課題についての検討 (発達障害)	事前学習	子どもの発達障害についてどのようなものがあるか事前に調べておく。								
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。								
第6回	教育の現状および諸課題についての検討 (問題行動)	事前学習	子どもの問題行動にはどのようなものがあるか事前に調べておく。								
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。								
第7回	教育の現状および諸課題についての検討 (危機管理)	事前学習	学校における危機管理にはどのようなものがあるか事前に調べておく。								
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。								

第 8 回	現代的課題に取り組む教育について 論文作成	事前学習	第3回から第7回までに取り上げた課題について自ら教師となった際にどう対処するのかについて考えをまとめておく。
		事後学習	論文に記述した教育実践が妥当なものであるかを確認する。
第 9 回	学級経営①（いじめを防ぐ学級づくり）	事前学習	いじめの問題に対応する学級経営について調べておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 10 回	学級経営②（学級崩壊を防ぐ学級づくり）	事前学習	学級崩壊を防ぐ学級経営について調べておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 11 回	学級経営案について/履修カルテを使用して、これまでの学習を振り返る	事前学習	履修カルテを見かえし、これまでどのような学習をしてきたかについてまとめておく。
		事後学習	授業を踏まえて教員になるために今後どのような能力を伸ばしていけばよいのかについて自分の考えをまとめ、学級経営案を作成する際の参考にする。
第 12 回	学校組織マネジメントについて	事前学習	学校の組織構造を教育実習校の資料を基にまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 13 回	保護者対応・PTA 運営について	事前学習	保護者対応・PTA 運営について重要だと考えるところについてまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 14 回	新任教師の課題について	事前学習	新任教師に求められる能力や態度について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	ディスカッションで話し合ったことを踏まえて、自分の考えをまとめる。
第 15 回	全体のまとめ - 教職実践演習を振り返って 論文作成	事前学習	これまでの学習内容を振り返る。
		事後学習	この授業を踏まえて、どのような教師をめざすのかについて考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (養護) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE4395
2. 授業担当教員	石垣 久美子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>養護実習の振り返り、実習日誌を基に自分の課題を明確にし、近年の子ども達の抱える健康課題を自主的にテーマ設定し、課題発表をする。発表から見える子どもの健康課題から実際の実習中の子どもの捉え方を検討し、養護教諭としての実践的な関わりについて理解を深める。</p> <p>この学習を通して、社会性や対人関係、コミュニケーション、コーティネットの能力を培い、養護教諭としての意識や使命感を高めるとともに、保健教育教材研究において実習中実施した保健指導、保健学習の指導案について、現場での指導講評を踏まえディスカッションを取り入れ、指導案改定案を作成しプレゼンテーションの力も養い、実践的な指導力や向上につながる課題解決のための能力の伸長をめざす。</p>		
8. 学習目標	<p>養護実習の振り返りを活かし、養護教育に関する自己課題を見出すことができる。</p> <p>教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、子どもに対する愛情) を身につけることができる。</p> <p>養護活動に必要な能力や保健室経営等に関する基礎的な能力を身につけることができる。</p> <p>保健室経営におけるコミュニケーション力を高め、自らの目指す養護教諭像を明らかにできる。</p> <p>健康教育に必要な指導力の基礎を形成することができる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関するレポートを出題する。 中間課題レポート：保健室経営案の作成 最終課題レポート：「あなたが目指す養護教諭像」について自分の考えを記述する。(800字程度) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】</p> <p>学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校実務必携 第2次改訂版』第一法規、2009年。(購入済み)</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言等の積極的な活動 (60%) 中間課題レポート (20%) 最終課題レポート (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>養護実習の振り返りを活かし、お互いがそれぞれの現地実習で学んだことや、気づいたことをディスカッションし、抱えた問題ケースを出し合い、学びの幅を広げていきましょう。より子どもを理解し、より学校を理解し、より地域を理解してどのように専門性を発揮していくかを一緒に学びより高めていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知いたします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	「教職実践演習」の目的、意義、授業運営の説明 「履修カルテ」の記入	事前学習	各自の実習後の目的や意義を振り返りまとめておく。
		事後学習	授業の目的、意義について理解したことをまとめる。
第2回	◆養護実習の振り返りと今後の課題 ① ・実習日誌をもとに、各自の実習について振り返り、実践演習で明らかにしておきたいことを明確化する。	事前学習	各自の実習の振り返りから自分の課題を考えまとめておく。
		事後学習	自分の振り返りから、本演習で明らかにしたいことをまとめる。
第3回	◆養護実習体験の共有 ・実習日誌をもとに各自の実習について振り返り、実習校の概要、実習中で経験したこと等をグループで話し合い発表	事前学習	実習日誌から学校概要、学びの経験等まとめておく。
		事後学習	他者の実習経験を聞いて感じたこと、わかったことをまとめる。
第4回	◆実習校の児童生徒の健康課題① ・健康診断や、実習中のかかわりからとらえた健康課題についての検討	事前学習	実習中に関わった子どもの健康課題についてまとめておく。
		事後学習	ディスカッションを通してわかった、現代の子どもたちの健康課題について総括し、自分の考えをまとめる。
第5回	◆実習校の児童生徒の健康課題② ・児童生徒の健康課題を理解し、養護教諭のかかわり方を検討	事前学習	実習日誌から見える養護教諭の子どもへのかかわり方をまとめておく
		事後学習	ディスカッションを通してわかった、子どもたちの健康課題とこれに応じた養護教諭の対応のあり方について総括し、自分の考えをまとめる。
第6回	◆保健室での遭遇した救急処置事例、いじめや不登校・保健室登校の問題について (事例討論)	事前学習	実習中に経験した救急処置、不登校、いじめ、保健室登校についてまとめておく。
		事後学習	各事例に対するの討論を総括し、養護教諭の対応のあり方について、自分の考えをまとめる。
第7回	◆学校保健年間計画 ・各校の年間保健計画の内容や実践状況について検討	事前学習	自校の保健年間計画から保健行事との関係をまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、各学校の学校保健計画の実態について自分の考えをまとめる。
第8回	◆保健室経営案 ・各校の保健室経営案内容や実践状況について検討	事前学習	自校の保健室経営案について発表できるようにまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、各学校の保健室経営案の実態や実践状況について、自分の考えをまとめる。

第 9 回	◆健康診断 ・養護実習で経験した健康診断計画立案から実施、事後措置について検討	事前学習	実習校での健康診断計画を振り返り、反省点や改善点をまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、健康診断の進め方における留意点について、自分の考えをまとめる。
第 10 回	◆健康教育・保健教育教材研究① ・実習中に実施した保健指導、保健学習の指導案について、現場の指導講評を踏まえたディスカッション実施	事前学習	各自の実施した保健指導案、保健学習指導案の指導講評をまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、保健教育の進め方における留意点について、自分の考えをまとめる。
第 11 回	◆健康教育・保健教育教材研究②	事前学習	自校で実施した指導案の指導講評と、前時のディスカッションの内容をまとめておく。
		事後学習	指導講評を活かし、指導案の改訂案を作成する。
第 12 回	◆健康相談事例検討① ・養護実習中に経験した困難事例等に関するディスカッション	事前学習	自校で扱った困難事例についての「事例検討資料」を作成し、発表できるようにまとめておく
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、健康相談の進め方における留意点について、自分の考えをまとめる。
第 13 回	◆健康相談事例② ・①の検討事例を基にしたロール・プレイ	事前学習	前授業で話し合われた事例についての役割分担を話し合い事例を良く理解しておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションからわかった、健康相談の進め方における留意点について、自分の考えをまとめる。
第 14 回	◆保健室経営におけるコミュニケーションと連携 ・児童生徒の発達段階とコミュニケーションの取り方についてのディスカッション（親連携・担任連携含む）	事前学習	実習校の児童生徒の実態と発達段階の特徴をまとめ、担任、保護者の連携について整理しておく。
		事後学習	養護教諭の職務を推進する上でのコミュニケーションの重要性について、自らの考えをまとめる。
第 15 回	◆求められる養護教諭 ・大学での学びや養護実習を総括し、自らの目指す養護教諭像を明らかにする。 ・本演習を通して明確化された、今後の研鑽を積むべき事項について整理する。	事前学習	養護実習、本演習を総括し、自ら目指す養護教諭像をまとめておく。
		事後学習	本授業から明確化された自分自身の今後の研鑽事項についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (幼稚園) (2 単位)		3. 科目番号	SJTC4575
2. 授業担当教員	河合 光利			
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	教員に求められる事項として、中教審答申では次の4つを挙げている。すなわち、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児理解や学級経営に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項である。本科目では、これらについて履修カルテを見直すとともに、教育実習での自分自身の実践を振り返って、自己課題を見出し、課題解決の方策を自分たちで検討する学習のプロセスを経て、実践的指導力を身に付けるようにする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習を通して、幼児教育に関する自己課題を見出すことができる。 2. 教員に求められる資質(職務への使命感・責任感、幼児に対する愛情)を理解し、自ら振り返る。 3. 幼児理解や学級経営に関する基礎的な能力を身に付ける。 4. 社会性や対人関係能力を身に付ける。 5. 保育内容や指導力に関する実践力を身に付ける。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	授業進度に従い、適宜、小レポート及び課題を課す。毎回の演習を通して、どのようなことが幼児教育を巡る課題と考えられるか、各自が具体的な事例を求め、質疑応答や小レポートに対応できるよう予習、復習を行なうこと。こうした学習プロセスを通して、自分の課題を見つけ、学習を深め、問題を解決していく力を身につけて欲しい。期末レポート(詳細は、授業内にて提示する)			
10. 教科書・参考書・教材	必要に応じて教科書の紹介やプリントを配布する。 参考書は、適宜、授業の中で提示するので参照すること。			
11. 成績評価の方法	授業態度(授業傾聴及び参加態度)20%、小レポート20%、授業発表40%、期末レポート20%			
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育実習での自分自身の実践の振り返りをもとに、自己課題を見出していく。自己課題を明確にもち、より一層の指導力を身につけるためにこの演習を捉え、どのような力を身につけたらよいか、具体的な内容と方法を常に考えながら授業に臨むようにして欲しい。			
13. オフィスアワー	後日、授業内にて通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション 授業方針及び本演習の目的と展開についての説明	事前学習	教育実習での課題を省察する	
		事後学習	身につけるべき力をまとめる	
第2回	教員に求められる資質①「保育という仕事」の意味 保育は、他の職業とどこが違うのか、何が求められているのか	事前学習	一般職について調べてくる	
		事後学習	一般職と教育職の相違をまとめる	
第3回	教員に求められる資質②「保育者の資質」とは? プロフェッショナルとは、どのようなことなのかを考える	事前学習	プロとは何かについて調べてくる	
		事後学習	保育のプロについてまとめる	
第4回	教員に求められる資質③「保育者の専門性」 今、何が課題なのか、何が期待されているのか	事前学習	保育の専門性について理解する	
		事後学習	自分が何をすべきかまとめる	
第5回	幼稚園の経営① 幼稚園の社会的役割と組織	事前学習	園の存在意義について調べてくる	
		事後学習	大切なことは何かをまとめる	
第6回	幼稚園の経営② 仮想幼稚園の作成(グループワーク)	事前学習	教育の内容や施設設備を考えてくる	
		事後学習	適切な規模を導き出してみる	
第7回	幼稚園の経営③ 幼稚園の教育と規模、施設設備を考える	事前学習	園建築の様式を調べてくる	
		事後学習	園建築と保育内容を結びつける	
第8回	幼稚園の経営④ 幼稚園建築と保育内容の関係	事前学習	募集の仕方を考えてくる	
		事後学習	クラスの人数と職員数をまとめる	
第9回	幼稚園の経営⑤ 園児募集と教職員の募集の仕方	事前学習	園のPRのし方を考えてくる	
		事後学習	パンフレットの効果を検証する	
第10回	幼稚園の経営⑥リスク・マネジメント 運営資金の流れを知る	事前学習	危機とは何かを調べてくる	
		事後学習	具体的対処法をまとめる	
第11回	幼稚園の経営⑦ 幼稚園における危機とは何か、その対処法を考える	事前学習	人間関係の問題を調べまとめてくる	
		事後学習	解決策をまとめる	
第12回	幼稚園の経営⑧ 仮想幼稚園の発表(グループワークの発表)	事前学習	対応の方法を考え、まとめる	
		事後学習	自らの対応を省みる	
第13回	保護者との望ましい関係①保護者対応の基本的な視点 保護者はどうすれば耳を傾けてくれるのか	事前学習	問題点を調べ、まとめてくる	
		事後学習	解決策をまとめてくる	
第14回	保護者との望ましい関係②具体的な保護者対応 障がいを持つ子どもと保護者への対応	事前学習	連携の実例を調べ、まとめてくる	
		事後学習	連携には何が必要かをまとめる	
第15回	幼保小連携について なめらかな移行とは?特別支援にかかる問題とは?	事前学習	保育への期待をまとめてくる	
		事後学習	保育者の果たす役割を理解する	

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (幼稚園) (2 単位)	3. 科目番号	SJTC4575
2. 授業担当教員	矢吹 芙美子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教員に求められる事項として、中教審答申では次の 4 つを挙げている。すなわち、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児理解や学級経営に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項である。本科目では、これらについて履修カルテを見直すとともに、教育実習での自分自身の実践を振り返って、自己課題を見出し、課題解決の方策を自分たちで検討する学習のプロセスを経て、実践的指導力を身に付けるようにする。		
8. 学習目標	1. 実習を通して、幼児教育に関する自己課題を見出すことができる。 2. 教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、幼児に対する愛情) を理解し、自ら振り返る。 3. 幼児理解や学級経営に関する基礎的な能力を身に付ける。 4. 社会性や対人関係能力を身に付ける。 5. 保育内容や指導力に関する実践力を身に付ける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	自己の課題に関するロールプレイングを通して、どのようなことに気づき、幼児教育を巡る課題を解決の方向に導けるか、仲間との人間関係も育てながら、各自が具体的なテーマの考察を深めていきます。毎回の課題の提示と演習、ロールプレイングを通しての発見、学びのプロセスを明らかにする記録を残します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】必要に応じてプリントを渡します。 【参考書】適宜授業の中で提示します。		
11. 成績評価の方法	日常の授業への積極的参加態度・ロールプレイング等への取り組み 50%、 毎回のレポート 50%		
12. 受講生へのメッセージ	自己の課題をロールプレイングで演じ、具体的にふるまえることを通して、先の洞察が導かれます。人前で演じる恥ずかしさを乗り越え、共に考え合う仲間と共に成長し、子ども達の前でも、保護者の前でも、社会人としても自分らしくふるまえるようになります。		
13. オフィスアワー	授業の中で通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション：本演習の目的と展開方法について	事前学習	履修カルテを見直し、記載漏れがないか確認してくる
		事後学習	成員間の人間関係の形成について授業の経過分析をし考察を記す
第 2 回	幼児教育における自己の課題を実習体験から探りだし、話し合い、課題の類型化を行う	事前学習	実習の場で難しかったことを自己の課題として挙げてくる
		事後学習	課題の類型化の方法を復習し考察を記す
第 3 回	教員に求められる資質① 「使命感・責任感、教育的愛情」にかかわる保育者とは 理念、歴史、思想の理解。社会状況、制度的、経営的理解	事前学習	授業内容に関してグループ討議ができるよう考えをまとめておく
		事後学習	ロールプレイングの経過分析をし、発見・考察を記す
第 4 回	教員に求められる資質② 福祉及びカウンセリングマインドをもった保育者とは 子どもから学び成長しようとする姿勢、個の課題を理解し、適切なかわり	事前学習	子どもを理解することの難しさを感じた事例をあげておく
		事後学習	ロールプレイングの経過分析をし、発見・考察を記す
第 5 回	学級経営① 教育力のある学級にするために公平かつ受動的に接し子どもに人間的交流・自己肯定感が育つようにする	事前学習	受容的に接することが難しいと感じる場面をあげて考えよう
		事後学習	ロールプレイングの経過分析をし、発見・考察を記す
第 6 回	学級経営② 学級集団育成の具体的な方法、個と集団のどちらもがのびる集団作り	事前学習	テーマについて自己課題を成立させてくる
		事後学習	ロールプレイングの経過分析をし、発見・考察を記す
第 7 回	保育者間の人間関係① チーム・ティーチング	事前学習	複数の先生の立ち位置や言葉のやり取りや内容の分化などについて考える
		事後学習	ロールプレイングの経過分析をし、テーマについての発見・考察を記す
第 8 回	保育者間の人間関係② 保育者の意識の育ちから協働へ	事前学習	保育者の意識の育ち・共有、役割の分担の難しさなぜか考えておく
		事後学習	ロールプレイングの経過分析をし、発見・考察を記す
第 9 回	保護者との望ましい関係① 保護者対応の基本的視点 保護者の理解から保護者間関係も育ち共に歩み出すために	事前学習	母親の立場、育児不安などについて調べておく
		事後学習	ロールプレイングの経過分析をし、発見・考察を記す
第 10 回	保護者との望ましい関係② 事例に学ぶ保護者支援 子どもの発達課題と共に歩む保護者と協働の関係づくり	事前学習	家庭の中での子どもの姿と集団での子どもの姿で見えてくるもの
		事後学習	ロールプレイングの経過分析をし、発見・考察を記す
第 11 回	さまざまな保育の展開をめざして① 保育内容の観点から	事前学習	保育内容について関心のあるテーマを三つ考えてくる
		事後学習	発表後の話し合いの経過を分析し結果の考察を記す
第 12 回	さまざまな保育の展開をめざして② 方法論的観点から	事前学習	関心のある内容について展開の方法を三つ考えてくる
		事後学習	発表後の話し合いの経過を分析し結果の考察を記す
第 13 回	さまざまな保育の展開を目指して③ ねらい、計画、実践、振り返り	事前学習	保育計画を立案してくる
		事後学習	ロールプレイングによる実践、話し合いの経過を分析し考察を記す
第 14 回	幼小小連携について	事前学習	幼小連携の具体的な展開例を調べて実践できるようにする
		事後学習	幼小連携について調べてこととロールプレイングの展開からの気づきについての考察を記す
第 15 回	全員の成長の過程を確認し、各自の今後の課題を成立させる	事前学習	14 回の授業を受けての自分の成長について考えてくる
		事後学習	過去・現在・未来の自分を成立させ動ける自分を探る

1. 科目名 (単位数)	教師論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1320 SCMP1320 SBMP1320 EDTS1102
2. 授業担当教員	北林 敬		
4. 授業形態	講義・グループ討議・ワークシート・レポート・試験	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	国際化・情報化・科学技術の発展・環境問題など変化の激しい今日の社会において、学校教育の場においても様々な課題が生じている。この課題を解決するためには、学校教育の主たる担い手である教員の役割や責任が今まで以上に大きくなっている。これからの教員は、教科に関する知識を単に教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもを育成することが求められている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事と役割とはどのようなものか、教員の権利や義務(サービス・研修・身分保障などを含む)は、法律上、どのように規定されているのかなど教職を志す学生があらかじめ教職について知っておく必要がある事項を考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職観の変遷について理解するとともに、教師に求められる資質・能力について考察することができるようになる。 2. 教員養成の歴史の変遷について理解するとともに、現在の教員養成の現状について考察することができるようになる。 3. 教員の役割と仕事について理解するとともに、現在、教員に期待されている役割について考察することができるようになる。 4. 教員の養成・採用・研修について理解し、教師のライフコースについて考察することができるようになる。 5. 自分の適性を理解し、なりたい教師像について考察することができるようになる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークシート(各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 課題レポート「教師論を学ぶ意義について述べよ。」(1000字) 3. 期末試験 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房、2015。 【参考書】 必要に応じてプリント資料を配付する。		
11. 成績評価の方法	・平常点(積極的参加度・授業態度・発表・発言) 30% ・課題(ワークシート・レポート) 30% ・期末試験 40%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は私語を慎み、携帯電話の電源を切って参加すること。 2. グループワークやグループ討議には積極的に参加すること。 3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問すること。 4. レポートや課題(ワークシート等)の提出期限を守ること。 5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないこと。 		
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション - 教師とは何か -	事前学習	教科書「序章」(pp. 13~18)を読んでおく。
		事後学習	教師論を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。
第2回	教職の意義(第1章)	事前学習	教科書「第1章」(pp. 19~31)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第3回	教職観と理想の教師像(第2章)	事前学習	教科書「第2章」(pp. 32~53)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第4回	教師と教員養成の歴史(第3章)	事前学習	教科書「第3章」(pp. 54~72)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第5回	教員の任用とサービス(第4章)	事前学習	教科書「第4章」(pp. 73~90)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第6回	教師の役割と仕事(第5章)①	事前学習	教科書「第5章」1・2(pp. 91~105)を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。

第 7 回	教師の役割と仕事 (第 5 章) ②	事前学習	教科書「第 5 章」 3・4 (pp.105～113) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	管理職・主任の役割 (第 6 章)	事前学習	教科書「第 6 章」 (pp.114～130) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	教師の職場環境 (第 7 章)	事前学習	教科書「第 7 章」 (pp.131～152) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	教師の資質向上と研修 (第 8 章)	事前学習	教科書「第 8 章」 (pp.153～172) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	教育実習の意義と心得 (第 9 章)	事前学習	教科書「第 9 章」 (pp.173～191) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	教職への進路選択と教員採用選考 (第 10 章)	事前学習	教科書「第 10 章」 (pp.192～217) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	面接模擬授業にどう臨むか (第 11 章)	事前学習	教科書「第 11 章」 (pp.218～230) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	教員採用選考 (教職教養) に出題される重要語	事前学習	教科書「索引」 (pp.231～235) を読み、分からない部分をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やグループ討議で話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 15 回	どのような教師を目指すのか	事前学習	どのような教師をめざすのか考えをまとめておく。
		事後学習	15 回の授業内容について整理し、筆記試験の対策をおこなう。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GELA2104 GELA2304 GELA2131
2. 授業担当教員	多比良 和誠			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、「教養」を身に付けるための一環として、わかりやすい資料などを用いながら、①国語問題(間違えやすい漢字や熟語など)、②数学問題(計算、図形など)、③英語問題(長文読解、熟語など)、④理科問題(物理、生物など)、⑤社会問題(歴史、地理など)を解き、⑥小論文を作成する。また、それらの問題を解くための技法や留意点などについて理解を深め、応用力を高めていく。さらに、「教養」とは何かを再認識し、それを身に付けることの意義についても考察する。その他、問題発見・解決能力や協調性を高めるためのディスカッション、表現力を高めるための発表、人間性を高めるための教材なども授業に取り入れ、幅広い意味での教養を身に付ける。			
8. 学習目標	本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。 ①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。 ②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。 ③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。 ④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。 ⑤教養を身に付けることについて、その意義を十分に理解し、自ら実践することができる。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<期末レポート> 最終日の授業時間には与えられた課題(最近注目されている話題)について、1,000字程度のレポートを作成して提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】教科書を使用せずに、わかりやすい学習参考例を使用する。 【参考書】国語辞典、英和辞典、高校時代に使用した教科書や参考書 古郡廷治 著『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書、2006年。 高橋俊一 著『すっきり! わかりやすい! 文章が書ける』すばる舎、2012年。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、毎週の口頭試問テスト、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加度 総合点の20% 2 受講態度 総合点の15% 3 毎週の確認テスト 総合点の25% 4 課題レポート 総合点の40% 期末試験は実施しないので、各授業での「確認テスト」が重要になる。欠席すると、「確認テスト」が受けられないだけでなく「授業への積極的参加」の評価が低くなる。 なお、4分の3以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	本授業を通じて、「基本的な勉強法」や「教養を身に付けることの意義」を学んでいただき、自分の将来の目標に向かって、自らが積極的に勉強できるようになることを願っている。			
13. オフィスアワー	時間: 授業がある日の昼休みと放課後 場所: 王子キャンパス 管理・研究棟3階の2号室			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、マナーなど)および就職試験や資格試験に合格するための心得(就職指導、勉強法、最近の傾向など)	事前学習	教養基礎演習Ⅱの学習用ノートを準備して講義へ臨むこと。また、レポート(文章表現)の基礎となる構文について自分なりに調べておく。	
		事後学習	配布資料(参考書の抜粋)の要点を学習用ノートにまとめる。 四字熟語などの暗記を始める。	
第2回	国語問題(間違えやすい漢字の読み書き)	事前学習	配布資料(参考書の抜粋)の熟読。 四字熟語の暗記。	
		事後学習	学習用ノートの個別確認。注意事項を今後の学習用ノート作成に反映させる。 四字熟語の暗記。	
第3回	国語問題(四字熟語・反意語など)	事前学習	国語問題(間違えやすい漢字)の復習。 四字熟語の暗記。	
		事後学習	国語問題(四字熟語・反意語など)の要点を学習用ノートにまとめる。四字熟語の暗記。	
第4回	計算問題(比例・反比例)	事前学習	数学の問題に目を通す。	
		事後学習	計算問題(比例・反比例)の要点を学習用ノートにまとめる。 化学の計算問題に目を通す。	
第5回	計算問題(化学)	事前学習	計算問題(比例・反比例)の復習。 化学の計算問題に目を通す。	
		事後学習	計算問題(化学)の要点を学習用ノートにまとめる。	
第6回	計算問題(化学)	事前学習	計算問題(化学)の復習。	
		事後学習	計算問題(化学)の要点を学習用ノートにまとめる。	
第7回	環境問題を考えるビデオ(鑑賞、レポート作成)	事前学習	これまでの配布資料の復習。	

		事後学習	レポート作成。人体の資料に目を通す。
第 8 回	生物問題（人体の臓器の役割と場所）	事前学習	人体の臓器の役割について調べる。
		事後学習	臓器の場所を描けるようになる。
第 9 回	英語問題（人体の臓器の名称など）	事前学習	臓器の場所を描く。
		事後学習	臓器等の名称を英語で学習用ノートにまとめる。臓器等の英名を暗記する。
第 10 回	英語問題（間違いやすい単語や熟語）	事前学習	臓器等の英名を暗記する。
		事後学習	英語問題（間違いやすい単語や熟語）の要点を学習用ノートにまとめる。日本史の資料に目を通す。
第 11 回	社会問題（日本史）	事前学習	日本史の資料に目を通す。
		事後学習	社会問題（日本史）の要点を学習用ノートにまとめる。
第 12 回	社会問題を考えるビデオ（鑑賞、レポート作成）	事前学習	社会問題（日本史）を暗記する。
		事後学習	レポート作成。
第 13 回	期末レポートに関するパワーポイント講義	事前学習	これまでの文章表現資料・テキストの復習。
		事後学習	期末レポートのアウトラインの作成。
第 14 回	期末レポートのアウトラインの作成・下書き	事前学習	期末レポートのアウトラインの下書き。
		事後学習	期末レポートの個別チェック。
第 15 回	期末レポートの清書・提出 授業評価	事前学習	期末レポートの最終チェック。
		事後学習	清書した期末レポートの提出。

1. 科目名 (単位数)	金融論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2135
2. 授業担当教員	平 仁			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループワーク		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>金融論の場合は、入門であっても、講師によって扱う内容が様々に異なっている。それだけ金融という現象が幅広い経済分野にまたがっているからである。本講義は、金融論の基礎について体系的・包括的に全体像を学ぶだけでなく、そうした知識・理論を用いて、基礎的な個人の金融行動選択の方法を学ぶことに特徴がある。予備知識が少ない学生でも理解できるようになるべく平易に解説する。</p> <p>前半では、金融論の基礎知識・理論として、金融の役割、金融の方法、金融取引を行う場である金融市場、貨幣、金融機関、金融政策を解説する。後半は、個々の経済主体の意思決定に必要な基礎知識として、お金を融通することの対価である利子率、家計や企業等の金融行動に関する基本的な理論や方法を解説する。</p> <p>講義の進行方法については、受講者の理解を深めるため項目ごとに問題演習を行う。また課題として提出するレポートをもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の金融経済の現状を把握し、説明できるようになる。 2. 金融の基礎理論を理解し、説明できるようになる。 3. 預金や株式、社債などの金融商品の取引や、その結果である利益と損失の発生を理解し、説明できるようになる。 4. 家計や個人の金融行動の選択に関する考え方と方法を習得し、日常生活で実践できるようになる。 5. 金融の理論や方法を企業や社会福祉関連施設等の運営・管理において応用できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサインメントは特に課さないが、各章末の問題演習を事後学習として必ず自習しておくこと。また、年末年始休暇に向けてレポート課題を課します。その詳細は講義中に追って指示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 吉田真理子・大野早苗著『はじめての金融理論』中央経済社 2011 年</p> <p>【参考書】 家森伸善『はじめて学ぶ金融のしくみ [第 4 版]』中央経済社 2013 年や日本経済新聞社編『ベーシック 金融入門』日本経済新聞社 2011 年、宿輪純一『決済システムのすべて』東洋経済新報社 2015 年、など。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末テスト 60% 2. 課題レポート 30% 3. 授業態度 (発表、質問等、参加意欲) 10% <p>なお、本学の規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>金融は経済の血液と呼ばれています。お金が回らないビジネスは死んでしまうからであり、これは営利を目的としない福祉事業等も同様です。日本では、お金に関して学ぶことは「金儲け」を学ぶことであるとの誤解が広がっていますが、お金に関する正しい知識を学ぶことは、お金の使い方を学ぶことになるのです。</p> <p>この講義は、このお金、つまり金融について、経済学的思考法により、その役割や機能を学びます。そのため、若干数学的な議論も出てきますので、事後学習による知識の定着を図り、自己の意思決定を合理的に行えるようになるよう、頑張ってください。</p> <p>また、この講義では、テキストの前半部分にあたる Part 1 のみを取り扱いますので、より発展的な学習を希望する学生は申し出て下さい。</p>			
13. オフィスアワー	追って指示する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明)	事前学習	教科書を準備して、その冒頭の「はじめに」を読み、金融論の内容を概観しておく。	
		事後学習	これから講義を受けるにあたって、「特に興味があるテーマ」や「問題意識」を整理する。	
第 2 回	金融の役割	事前学習	教科書「第 1 回講義」を読み、問題意識を整理してくる。	
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。	
第 3 回	金融の方法と金融市場	事前学習	教科書「第 2 回講義」を読み、問題意識を整理してくる。	
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。	
第 4 回	貨幣	事前学習	教科書「第 3 回講義」を読み、問題意識を整理してくる。	
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。	
第 5 回	日本銀行	事前学習	教科書「第 4 回講義」を読み、問題意識を整理してくる。	
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。	

第 6 回	日本の金融機関 年末年始休暇中の課題レポートのテーマの発表（予定、 提出期限は年末年始休暇明け最初の講義）	事前学習	教科書「第 5 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
第 7 回	預金通貨と信用創造	事前学習	教科書「第 6 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
第 8 回	信用乗数	事前学習	教科書「第 7 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
第 9 回	利子と利子率	事前学習	教科書「第 8 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
第 10 回	債券価格と投資収益率	事前学習	教科書「第 9 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
第 11 回	株価と株式の投資収益率 課題レポートの提出期限（予定）	事前学習	教科書「第 10 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
第 12 回	課題レポートに基づいたグループディスカッション 課題レポート返却	事前学習	課題レポートについてもう一度考えを整理し、プレゼンできるようにしておく。
		事後学習	課題レポートに対する他者の考え方を理解し、自分の問題としてもう一度考えておく。
第 13 回	家計の金融行動	事前学習	教科書「第 11 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
第 14 回	企業の金融行動	事前学習	教科書「第 12 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
第 15 回	為替レートとは	事前学習	教科書「第 13 回講義」を読み、問題意識を整理してくること。
		事後学習	講義で学んだことを整理し、演習問題を解く。
期末試験 論述式・持込可			

1. 科目名 (単位数)	経営管理論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3112
2. 授業担当教員	田中 正秀			
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答など		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本講義では組織の管理についての解説を行い、経営管理の理論的な部分に関して初歩的な理解を促すことが目的である。そのために、まずは、代表的な経営学説を学ぶことから始める。</p> <p>講義の流れとしては、経営管理の全体を把握するため、経営学の誕生、近代組織における経営管理の登場とその発展について学習する。変革する経営管理について、組織の活性化、モチベーション及び経営のリーダーシップについて学習を進める。</p> <p>また、経営の創始者としてのテイラーや管理原則を展開したファヨールの議論などを紹介する。最終的には人事労務管理論や財務管理論へと議論を展開して、経営管理の全体像を把握できるようにする。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 企業はもちろん病院・学校・公共団体などをはじめ家庭・個人にいたるまで経営管理能力が必要とされている。組織の経営管理活動の過去・現在・未来を理解できるようになる。</p> <p>2. 社会で要求される管理能力の基礎を身に付けると共に、行動案を立案できるようになる。</p> <p>3. 自分自身のマネジメント、即ちセルフマネジメントを理解し、実践力をつけることを目的とする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>定期的なアサイメントやレポートについては特に課さない。しかし、学習に必要な場合はレポートを課す。また、授業展開の中で特に重要となる授業内容の予備知識を調べてくるように提示する。前回の授業とのつながりを解説しながら授業を進めるが、特に重要となる授業内容については、その都度、各自でその要点をまとめてくるよう提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 塩次清代明・高橋伸夫・小林敏男著『有斐閣アルマ、経営管理〔新版〕』有斐閣、2011年。</p>			
11. 成績評価の方法	1. 授業への積極的参加度	20%		
	2. 課題レポート (確認テストを含む)	20%		
	3. 日常の学習状況	60%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>あらゆる人は何らかの組織に所属します。組織の活動は経営管理の知識が必要です。また、経営管理の学習は、未来の自分の人生の目標を定めその生き方を方向付ける試みができ、セルフマネジメント手法を学ぶことにもつながります。</p> <p>担当教員は新事業のリーダーとして、長年企業で多くの新製品の開発とその事業化のための経営管理を進めました。その研究と実務経験を生かして、医療・福祉・介護などの組織の経営管理へ活用するための研究・学習を皆さんと共に討議を重ねながら追求して行きます。</p>			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 経営管理の概念	事前学習	テキストの著者の考え方、を知る上で、「はしがき」(pp. i ~ ix) の内容を読みまとめる。	
		事後学習	経営管理の概要を聴いたうえで、経営体の経営管理について自分の考えをまとめて提出。	
第2回	経営の誕生、資本主義経済の発展と経営管理の形成人と社会システム、組織的な経済活動・公共的な経済活動	事前学習	テキスト序章 (pp. 1~12) を読んでまとめる。また、関心のある企業について調べる。	
		事後学習	テキストにある日本の会社と、各自が関心のある会社を比較し、その違いなどをまとめる。	
第3回	管理の生成と発展、専門経営管理と組織能力近代的組織の登場、所有と支配の分離	事前学習	テキスト第1章 (pp. 16~41) をまとめる。	
		事後学習	専門経営者の台頭、経営管理論の始祖ファヨールを中心に管理の必要性をまとめる。	
第4回	経営管理の発展 生産性と創造性の探究として経営管理論	事前学習	テキスト第2章前半 (pp. 42~47) を熟読、テーラーの科学的管理法をまとめる。	
		事後学習	経営管路の発展、経営管理論の系統図を理解しまとめ、現代企業との比較をする。	
第5回	経営管理の諸理論 資本主義と企業組織の発展、経営管理の生成	事前学習	テキスト第2章後半 (pp. 48~62) を熟読し、まとめ、諸理論の流れをつかんでおく。	
		事後学習	科学的管理法、サイモンの意思決定論を中心に内容をまとめる。	
第6回	経営管理の諸理論 科学的管理法と大量生産方式、コンティンジェンシー理論	事前学習	人間関係論誕生につながるホーソン実験をよく理解し、その内容をまとめる。	
		事後学習	人の管理から組織の理論の流れをまとめる。	
第7回	組織のデザイン、環境適応へ向けての構造設計 機能別組織管理と管理諸原則、ファヨールの貢献	事前学習	テキスト第3章の pp. 64~71 を熟読し、その内容をまとめる。	
		事後学習	経営管理におけるファヨールの貢献、機能別組織のデザインについてまとめる。	
第8回	事業別組織の経営管理、部門管理の標準化 事業部制組織の設計理念およびメリットとデメリット	事前学習	テキスト第3章 pp. 70~76 を熟読しまとめる。	
		事後学習	新聞や雑誌などから事業部制をもつ企業を1社選択し、学習内容と比較検討しまとめる。	
第9回	日本型組織デザイン 組織のヨコの連携、競争優位の確立に向けて	事前学習	テキスト第3章 pp. 76~89 を熟読するとともに、関心のある企業の組織図を記録しておく。	

		事後学習	日本型組織の新しい展開という視点でまとめ、理解を深める。
第 10 回	経営戦略、組織経営の指針 戦略と組織の適合性、企業ドメインの策定	事前学習	テキスト第 4 章 pp.90～96 を熟読しまとめる。
		事後学習	戦略的思考、成長ベクトル、SWOT 分析をまとめ、理解を深めておく。
第 11 回	競争戦略、戦略的事業単位の経営管理 ポーター理論	事前学習	テキスト第 4 章 pp.96～112 を熟読しまとめる。
		事後学習	企業の競争戦略事例を取り上げ、PPM 分析に 適応・考察してまとめ、理解を深める。
第 12 回	組織資源の管理 伝統的資源管理、情報資源の蓄積と利用、組織風土の適性	事前学習	テキスト第 5 章 pp.115～136 を読み、企業の 伝統的な経営資源と新潮流について把握する。
		事後学習	経営資源管理から日本型社内ネットワーク への発展と組織風土の関係を中心にまとめる。
第 13 回	組織間関係の管理、戦略的提携に向けての基礎 日本における組織間関係、戦略的提携のロジック	事前学習	テキスト第 6 章 pp.138～160 を読み、これまで の組織間関係の事例をまとめる。
		事後学習	なぜ企業間連携をするのか、戦略的提携ロジック を中心にまとめ、理解を深める。
第 14 回	変革の経営管理、組織を支える人的要因 人間関係論と行動科学、組織開発と組織活性化、	事前学習	テキスト第 7 章 pp.164～184 を読み、経営管理 と人的資源の関係を理解する。
		事後学習	新しい時代に相応しい変革の経営管理と組織 の活性化を中心にまとめる。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	経営の誕生から始まったこの学習の内容を 再確認し、疑問点や問題点をまとめる。
		事後学習	この学習で理解した経営管理のあり方をまと めると共に、関心ある企業などを取り上げて 理論と実践との差異などを比較しまとめる。

1. 科目名 (単位数)	経営戦略論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3117
2. 授業担当教員	菊池 敏夫		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、などを併用し、期末に試験を行う。			
6. 履修条件・他科目との関係	「経営組織論」や「マーケティング論」も履修することが望ましい。			
7. 講義概要	IT 化の進展によって、現在の経営はより高度化し、流動的になっている。そのような状況を考えると、企業の経営戦略について、包括的・体系的に学ぶ意義は大きい。企業経営では、経営の再評価の継続が求められるが、その際の経営方針決定の連続が経営戦略といえる。本講義においては、既存あるいは潜在的な競合他社との経営戦略について、製品戦略、事業戦略、全社戦略の側面から勉強を進める。なお、履修者は日々の会社経営について関心を持ちながら受講することが望ましい。			
8. 学習目標	1、企業を取り巻く経営環境を把握する。 2、その環境への適合方法、すなわち戦略を策定する。 3、戦略を実行するのに最適な経営組織を編成する。 4、戦略を実行し、結果を評価する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義でとりあげたテーマについて、授業中、小論文を書いてもらったり、レポートを提出することがある。また報告をしてもらうことがある。			
10. 教科書・参考書・教材	教科書は、井上善海・大杉春代・森宗一著「経営戦略入門」中央経済社、2015 年刊。 毎回、参考資料を配布、教科書の内容にしたがって講義を行う。			
11. 成績評価の方法	質問、討論、授業への積極性 35%、中間レポート 30%、最終レポート 35%			
12. 受講生へのメッセージ	わかりやすい講義を行うのでかならず出席、わからない点は質問すること、将来、企業へ就職したり、企業と関係のある仕事につく場合、経営戦略の知識が判断の力になることを期待している。			
13. オフィスアワー	授業ときにお知らせする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	経営戦略とは何か、講義の内容説明	事前学習	テキストの p.13～16 を読んでおく	
		事後学習	講義内容を整理して経営戦略を理解する	
第 2 回	経営戦略の策定とそのプロセス	事前学習	テキストの p.24～27 を読んでおく	
		事後学習	経営戦略の策定過程の理解を深める	
第 3 回	経営戦略の基本・ミッション	事前学習	テキスト p.31～43 を読み、内容を理解しておく	
		事後学習	講義内容を整理し、ミッションの重要性を理解する	
第 4 回	経営戦略の基本・ドメイン	事前学習	ドメインとは何かを考えておく (p.45～52)	
		事後学習	ドメインの意味、内容を整理、理解する	
第 5 回	成長戦略・内部成長と外部成長	事前学習	成長戦略とは何かを考えておく (p.75～81)	
		事後学習	外部成長としての M&A の理解を深める	
第 6 回	シナジーとは何か	事前学習	p.82～85 を読みシナジーを理解しておく	
		事後学習	シナジー効果といわれるものを考え、理解を深める	
第 7 回	多角化、その動機と分類	事前学習	多角化の型、事例を考えておく (p.87～92)	
		事後学習	講義内容を復習し、多角化の意味を理解する	
第 8 回	多角化と企業の業績	事前学習	多角化と業績との関係を考えておく (p.93～97)	
		事後学習	多角化と業績との関係の研究に興味をもつこと	
第 9 回	製品ポートフォリオ・マネジメント	事前学習	p.99～110 を読み PLC、PPM を理解する	
		事後学習	事例研究に興味をもち PPM への理解を深める	
第 10 回	成長戦略の展開	事前学習	グローバル戦略、オープンイノベーション戦略を理解 (p.111～123)	
		事後学習	講義内容を復習し、成長戦略への理解を深める	
第 11 回	業界の構造分析と競争戦略	事前学習	p.127～136 により業界の構造分析を理解しておく	
		事後学習	講義内容を整理し、成長戦略への理解を深める	
第 12 回	競争の基本戦略とポーター理論	事前学習	p.137～150 を読みポーターを理解しておく	
		事後学習	ポーターの競争戦略論の内容の理解を深める	
第 13 回	バリューチェーンとは何か	事前学習	バリューチェーンについて予備知識をもつ (p.151～162)	
		事後学習	講義内容を整理し、バリューチェーンの理解を深める	
第 14 回	競争戦略の展開	事前学習	p.163～177 を読み競争戦略を理解しておく	
		事後学習	具体的な競争戦略について理解を深める	
第 15 回	講義の総括、最終レポート提出	事前学習	講義全体をふりかえり質問を準備	
		事後学習	あらかじめ示したテーマで最終レポートを提出	

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1112												
2. 授業担当教員	上村 孝司														
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	秋期												
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。														
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 														
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 														
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1. 授業中に出される各課題に対する分析と考察, およびその提出 課題2. スポーツ観戦の感想等の発表とレポート作成 課題3. グループでの健康に関する疑問等の調査, 発表およびレポート作成</p>														
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 必要に応じて資料を配布する。 【参考書】 出村慎一監修『健康・スポーツ科学講義』杏林書院。</p>														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>45%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>45%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発表</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> <td>(授業中の実践に参加した場合, 加点も行う)</td> </tr> </table>			授業への参加態度	45%		課題	45%		発表	10%		計	100%	(授業中の実践に参加した場合, 加点も行う)
授業への参加態度	45%														
課題	45%														
発表	10%														
計	100%	(授業中の実践に参加した場合, 加点も行う)													
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席, 遅刻, 早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 2. わからないこと, 疑問に思うことは, 質問・意見をして解決していきましょう。 3. 自主的に取り組み, 積極的な授業参加を望みます。 														
13. オフィスアワー	別途通知します。														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	オリエンテーション 日本における健康の現状(子供の体力の現状) グループ作成	事前学習	健康とは何かを考える												
		事後学習	健康についての日本の現状を復習する												
第 2 回	身体の機能と部位・動きの名称 生理学, 解剖学, 運動学	事前学習	身体の部位の名称を知る												
		事後学習	各筋や運動方向などについて自身の身体を使いながら復習していく												
第 3 回	ストレッチの方法と実際 静的ストレッチ, 動的ストレッチ, 怪我の予防	事前学習	これまで行ったことのある体操やストレッチについて, 思い出したものを記載しておく												
		事後学習	様々なストレッチの方法について, 自身の身体を使いながら復習していく												
第 4 回	筋力を高めるための方法 健康のための筋力の必要性	事前学習	筋力が無いと健康にどう困るかを考える												
		事後学習	筋力を高めるための方法を実践してみる												
第 5 回	心拍数と血圧 様々な刺激と心拍数, 血圧の関係	事前学習	心拍数と血圧について調べ学習を行う												
		事後学習	心拍数と血圧について, 健康との関連性や, スポーツとの関連性を考察しまとめる												
第 6 回	水分と身体について 水分と身体の関係	事前学習	水の必要性について考える 1日の水分摂取量がどれくらいかを調べておく												
		事後学習	水分摂取について, 健康との関連性や, スポーツとの関連性を考察しまとめる												
第 7 回	何を食べれば健康になるのか? 栄養学・食事内容	事前学習	自身の食事内容を記録しておく												
		事後学習	自身の食事内容と健康に関して考察するとともに, 健康になるための食事内容などをまとめる												
第 8 回	ダイエットの方法と注意点 BMI や基礎代謝量の出し方, ダイエットの具体的方法, 危険なダイエットの方法や個人差	事前学習	身長, 体重, 体脂肪率を測定しておくこと												
		事後学習	自身の体格と健康, ダイエットについて考察するとともに, 実践を行う												
第 9 回	トレーニングの理論と現状 具体的方法と健康のためのトレーニング	事前学習	スポーツ選手と一般人のトレーニングの違いを考える												
		事後学習	健康のためのトレーニングにはどのようなものがあるかを復習し, 実践してみる												
第 10 回	生活習慣病の予防と改善 生活習慣病にならないようにするための方法や, 問題点を探る	事前学習	生活習慣病の種類を調べる												
		事後学習	どうすれば生活習慣病にならないかを, これまで習ったことを踏まえながら考察しまとめる												
第 11 回	スポーツの社会学 見る・する・支えるスポーツ, スポーツの歴史,	事前学習	現代社会のスポーツの必要性を考える												
		事後学習	実際にスポーツ観戦を行う												
第 12 回	スポーツ観戦報告	事前学習	スポーツ観戦やスポーツ現場の視察												

	何を見て、何を感じてきたか？	事後学習	他者のスポーツ観戦から感じたことや考えたことをまとめるとともに、自身のスポーツ観戦のレポートを作成する
第 13 回	健康についての疑問・質問 グループでの問題提起と解決	事前学習	健康について疑問となることを挙げておく
		事後学習	グループで上がった健康についての疑問を調査し、発表する準備を行う
第 14 回	健康についてのグループ発表	事前学習	グループで上がった健康についての疑問を調査し、発表する準備を行う
		事後学習	他グループ発表から感じたことや考えたことをまとめるとともに、自身のグループ発表のレポートを作成する
第 15 回	運動と健康のあり方(子供の体力と健康)	事前学習	これまでの授業の復習をする
		事後学習	健康で長生きするための実践を行う
6~7 月	赤城山宿泊研修		
10 月	合同スポーツデイ		

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1301 GEHL1112
2. 授業担当教員	山内 健次		
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しみながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題：健康であるために今後どのようなスポーツ、運動を実践していきたいか		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>教科書：授業内でプリントを配布 参考書：神戸大学大学院人間発達環境学研究所健康科学研究会編『基礎としての健康科学』大修館書店『ぜんぶわかる人体解剖図』成美堂出版</p>		
11. 成績評価の方法	<p>期末試験 50% 課題 30% 授業への参加態度 20%</p>		
12. 受講生への メッセージ	現代社会における健康に対しての問題点をしっかり理解し、自分自身の健康増進に役立てましょう。		
13. オフィスアワー	授業内でお知らせいたします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (受講にあたっての服装や態度と注意点、授業内容の確認、成績評価方法) 現代社会と健康① (平均寿命と健康寿命 少子化 老年化指数)	事前学習	日本の国民医療費について調べてくる。
		事後学習	他の国の老年化指数を調べてみる。
第 2 回	現代社会と健康② (日本人の死亡原因 子どもの死亡原因)	事前学習	日本人の死亡三大要因について調べてくる。
		事後学習	30 代、40 代の成人の死亡原因は何か調べてみる。
第 3 回	現代社会と健康③ (健康に対する定義 病気の一次予防・二次予防・三次予防 健康を作る社会づくり)	事前学習	健康とは何かについて考えてくる。
		事後学習	健康の維持増進のために自分にできることを実践する。
第 4 回	現代社会と健康④ (健康診断書の数値の読み方 国民健康づくり対策 食事バランスガイド)	事前学習	自分自身の健康診断結果について確認してくる。
		事後学習	自分自身の食事の摂り方について見直す。
第 5 回	現代社会と健康⑤ (健康づくりのための身体活動基準 2013 健康づくりのための睡眠指針 2014)	事前学習	身近な食品のカロリーを調べてくる。
		事後学習	自分自身の運動の取り組み方について見直す
第 6 回	現代社会と健康⑥ (生活習慣病 生活習慣病と運動の関係 生活変化に伴う体力の衰え)	事前学習	生活習慣病を予防するには、どのように生活を送ればよいのか考えてくる。
		事後学習	生活習慣病を予防するために、自分で実践できることを決める。
第 7 回	体力の科学① (体力の定義 体力の分類 発育と発達 子どもの体力)	事前学習	自分自身の体力測定結果を確認してくる。
		事後学習	子どもの発育発達に応じた運動をまとめる。
第 8 回	体力の科学② (高齢者の体力 ロコモティブシンドローム)	事前学習	高齢者が日常生活を送る上での、問題点を考えてくる。
		事後学習	高齢者に優しい社会づくりを実践する。
第 9 回	身体 (からだ) のしくみを知る① (骨＝頭部・体幹・上	事前学習	大まかなからだのしくみについて調べてく

	肢・下肢 関節 歯)		る
		事後学習	学習した骨の名称を自分の身体で確認する。
第 10 回	身体(からだ)のしくみを知る②(筋肉の種類と構造 神経系の分類)	事前学習	大まかなからだの役割りについて調べてくる。
		事後学習	学習した筋肉の名称を自分の身体で確認する。
第 11 回	身体(からだ)のしくみを知る③(自律神経系のはたらき ストレスと自律神経 ストレスの対処法)	事前学習	自分自身のストレスは何か考えてくる。
		事後学習	学習したストレス対処法を実践してみる。
第 12 回	身体(からだ)のしくみを知る④(心臓・肺のはたらき 運動による呼吸循環系の変化 運動のためのエネルギー)	事前学習	自身の安静時の心拍数、呼吸数を確認してくる。
		事後学習	有酸素運動、無酸素運動を実践してみる。
第 13 回	運動と肥満・栄養(BMI 指数とカウプ指数 体脂肪率の測定法 三大栄養素とビタミン・ミネラル)	事前学習	自分自身の体脂肪量を確認してくる。
		事後学習	さまざまな食品のカロリー量をまとめる。
第 14 回	飲酒・喫煙がからだに及ぼす影響	事前学習	日本人の喫煙率を調べてくる。
		事後学習	飲酒・喫煙以外の嗜好品によって、健康を害するものがあるのか調べてみる。
第 15 回	救急手当(心肺蘇生法 気道内異物除去)と応急手当(創裂刺傷 骨折・捻挫の固定法 熱傷 鼻血等)の実際	事前学習	これまで習ってきた心肺蘇生法について復習してくる。
		事後学習	傷の手当てや熱傷の手当てなどを復習する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)		3. 科目番号	GEHL1101
2. 授業担当教員	清水 信好			
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しみながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 			
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で学んだ内容についてミニレポートにまとめ、終了時に提出する。 2. 「運動プログラムの作成」、「健康的ダイエットの方法」などについてレポートを求める。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 征矢英昭・本山貢・石井好二郎『これで納得 使える スポーツサイエンス』講談社。2012			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度	40%		
	期末テスト	30%		
	課題レポート、提出物	30%		
	総計	100%		
12. 受講生への メッセージ	肥満、高血圧、加齢、睡眠、食と健康など、受講生の日常生活もそのまま該当する内容を扱っていきます。人体の仕組みや生理についてよく理解し、生活習慣の改善、運動スポーツの実践ができるようになってください。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (本科目のねらいと到達目標等)		事前学習	大学生になって、自分は日常生活をどのように過ごしているのか、客観的に把握しておく。
	日常生活と健康の関わり 運動不足の害		事後学習	健康という観点から自分の生活状況をどのように評価するか。問題点、改善点を具体的に考え、記述する。
第 2 回	運動と健康の関係性 小中学生の運動習慣の実情 日常生活の乱れと健康の関係性 基本的な生活習慣の重要性		事前学習	生活習慣の乱れは身体にどのような影響をもたらすか考えたうえで授業に臨む。
			事後学習	講義内容から自分が受容したことについて専用紙にまとめる。
第 3 回	身体の仕組み 1 嗜好品と体の健康 喫煙の恐怖		事前学習	喫煙に関する健康の害および他人に及ぼす悪影響について調べて臨む。テキスト p.8
			事後学習	講義内容および視聴覚教材から自分が受容したことについて専用紙にまとめる。
第 4 回	身体の仕組み 2 低体温と健康障害 運動の貢献		事前学習	バイタルサインとは何か、又自分の数値について確認して臨む。
			事後学習	低体温改善に貢献する運動の効果についてまとめる。
第 5 回	身体の仕組み 3 生命の維持 (水分、酸素) 運動との関わり		事前学習	水、酸素と健康。運動時の水分補給について 事前学習して授業に臨む。
			事後学習	講義の内容および視聴覚教材から受容したことを専用紙にまとめる。
第 6 回	運動による身体の変化 1 準備運動と整理運動の持つ意義と 傷害予防		事前学習	準備運動と、整理運動の重要性について考えて臨む。
			事後学習	講義内容について自分の考えを専用紙にまとめる。
第 7 回	運動による身体の変化 2 肥満の原理と食の実態		事前学習	肥満は何故健康に良くないのかを調べて臨む。
			事後学習	講義内容についての自分の感想を専用紙にまとめる。
第 8 回	運動による身体の変化 3 メタボリックシンドローム ダイエット方法		事前学習	ダイエットの方法について、身の回りの事例、体験等からまとめておく。
			事後学習	正しいダイエットを理解する。第 3 者にもアドバイスできるように理解する。前回の授業内容を加味して自分の

			受容したことを総括する。
第 9 回	前半授業の総括と・確認テスト	事前学習	運動・スポーツは生活習慣病を予防し、健康寿命を延伸できるのか、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	他学生の健康・スポーツに対する考えを聴き、自分の健康・運動感の視点と比較し、自分の前半授業の内容を総括する。
第 10 回	スポーツと健康 1 運動不足の害 軽運動（歩行を主として）	事前学習	歩行の健康に対する貢献度について調べて臨む。
		事後学習	軽運動の身体に及ぼす影響と運動不足の差について自分の考えを専用用紙にまとめる。
第 11 回	スポーツと健康 2 トレーニングの原理・原則 運動処方	事前学習	体力の概念と向上のためのトレーニング法を調べておく。
		事後学習	トレーニングの原理・原則に基づいた健康維持のための運動プログラムの作成方法をまとめる。
第 12 回	スポーツと健康 3 筋力低下と傷害の関係性 体力測定	事前学習	腰痛発生のメカニズムについて事前に学習してくる。
		事後学習	高校生時代との筋力、筋持久力を比較し、現有体力を把握する。
第 13 回	スポーツと健康 4 疲労回復法 疲労しにくい身体づくり	事前学習	疲労を回復するためのいろいろな方法を調べて授業に臨む。
		事後学習	自分なりの疲労回復方法についてまとめ上げ、実践する。
第 14 回	スポーツと健康 5 ストレッチング 安全管理（暑熱、寒冷、湿度等）	事前学習	ストレッチングとは何か、実施方法は、身体に及ぼす影響について調べて臨む。
		事後学習	スポーツを安全かつ効果的に実践するための留意点、方法について総括して専用用紙にまとめる。
第 15 回	日常生活と健康 スポーツできる幸福（好循環）	事前学習	健康とは何か、これまでの授業を振り返り自分の考えをまとめておく。
		事後学習	資料、講義内容および視聴覚の内容を参考にし、自分の健康観をまとめ、健康行動を実践するという意識をもつ。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	健康管理学 (健康相談活動を含む) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2345 SCMP2345 SBMP2345
2. 授業担当教員	清水 信好			
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	健康は、人がより豊かで充実した人生を過ごすという目的を達成するための手段であるという観点から、自分の視点や考え方を盛り込んだ健康観を確立することをねらい、健康とは何かを理解し、健康増進のための生活習慣の知識および実践方法を学習する。また人間の健康を保持増進するための社会や環境はどうあるべきかなど社会や環境と健康とのかかわりについて理解し習得する。 身体の構造や仕組みについても併行して理解する。			
8. 学習目標	1、健康の捉え方、健康観を確立することができるようになる。 2、生活習慣と健康との関係性を理解し、健康行動に結びつける意識を高めることができるようになる。 3、健康阻害要因の排除と健康行動の実践を日常生活に導入できる動機づけとすることができるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	「生活習慣が健康に及ぼす影響、健康行動」、「疾病の予防」、「健康管理の具体的進め方」などについてのレポートを課す。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】木村庸一 他著『学生のための健康管理学』南山堂。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 40% 期末試験 30% 課題レポート、提出物等 30% 総計 100%			
12. 受講生への メッセージ	1、本授業を通じて自ら健康行動を実践するようにしてください 2、講義だけでなくグループワークを行います。ディスカッションに真剣に臨んでください 3、欠席、遅刻はしないこと。成績評価に大きく反映させます 4、居眠り、私語、明らかな不適切授業態度には厳格に対処します			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 健康行動、不健康行動		事前学習	大学生になってからの自分の日常生活の実状を客観的に把握して臨む
			事後学習	健康という観点から自分の日常生活をどのように評価するか、問題点改善点を考えたうえ専用紙に記述し提出する
第 2 回	健康の概念 図表から健康を考える 健康の定義		事前学習	健康とは何か自分流に考えたうえでテキスト pp. 2~3、pp. 35~39 を読んで臨む
			事後学習	講義内容およびグループワークを通じて自分の健康観と健康の重要性を理解しまとめる
第 3 回	健康観 1 江戸時代 (養生訓)		事前学習	事前に配付されたプリント (養生訓概要) を熟読して授業に臨む
			事後学習	プリントおよび講義、視聴覚内容から養生訓について感ずるところを専用紙にまとめ提出する
第 4 回	健康観 2 明治 昭和 (戦後) 平成 最近の健康観		事前学習	親や祖父母の時代の生活環境、食事情について情報を入手して授業に臨む
			事後学習	歴史背景と健康観についてノートに整理する
第 5 回	健康づくりのための施策 1 国民健康づくり運動 健康増進対策の沿革		事前学習	国が進める健康増進等の政策にはどのようなものがあるか、概要を把握して授業に臨む
			事後学習	実施されてきた健康づくり運動の概要を理解し、自分が実践できているかのチェックと目標値に向けた行動変容が起こす動機づけとする
第 6 回	健康づくりのための政策 2 健康日本 21 (第 2 次)		事前学習	健康日本 21 と健康日本 21 (第 2 次) の違いについて理解してくる
			事後学習	講義内容、資料から現在の我が国の健康づくり対策の考え方、内容等をまとめる
第 7 回	職場における健康づくり 1 職場における傷害、疾病等の実情		事前学習	テキキストの職場における健康管理および図表を理解してくる
			事後学習	職場における健康障害を体系的に分類し、概要をノートにまとめる
第 8 回	職場における健康づくり 2 腰痛 ①		事前学習	腰痛発生の原因について事前学習し、基礎知識を持って授業に臨む
			事後学習	腰痛とは何か、職場で起こりやすい具体的腰痛、種類、原因、予防法についてまとめる、

第 9 回	職場における健康障害 腰痛 ② 職場における腰痛予防指針 KW テストの実施	3	事前学習	「職場における腰痛予防指針」を理解して授業に臨む
			事後学習	腰痛予防の重要性を認識し、腰痛予備軍としての目安となる体力テストを実施し、現有体力を体感する
第 10 回	前半授業のまとめと確認テスト KW テスト評価の返却・解説		事前学習	今までの授業内容を十分理解したうえで授業に臨む
			事後学習	受講学生全体評価と個別評価を受容し、健康行動への動機づけとする
第 11 回	中高年齢者の健康管理 飲酒 喫煙	1	事前学習	飲酒及び喫煙の害について調べてくる
			事後学習	他者へ及ぼす影響について理解し、特に非喫煙教育の重要性を認識する
第 12 回	中高年齢者の健康管理 高血圧	2	事前学習	高血圧の概念、血圧のメカニズムについて理解する
			事後学習	運動、食事、休養と血圧の関係を理解し健康行動の実践の重要性を認識する
第 13 回	中高年齢者の健康管理 糖尿病	3	事前学習	糖尿病の発生原因およびメカニズムについて概要を把握しておく
			事後学習	糖尿病を始め、疾病の多くが日常生活習慣に原因があることを深く理解し、日常生活処方の指導的立場になることを認識する
第 14 回	中高年の健康管理 ストレス	4	事前学習	事前に配布されたプリントを熟読し、ストレスとは何かについて考えてくる
			事後学習	ストレスコーピングについて、より専門的に学習するきっかけとする
第 15 回	健康相談活動と健康教育		事前学習	望ましい成人の日常生活行動とは何か。また、健康相談のポイントを学習して臨む
			事後学習	健康教育および健康相談の専門性を認識しそのための、学習意欲を高め、共に健康に関する知識の拡大と健康行動の実践の動機づけとする
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	権利擁護と成年後見 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3101
2. 授業担当教員	佐久山 敏之			SCMP3101
4. 授業形態	講義・討議	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	1 権利擁護の基本的な考え方・成年後見制度の概要・成年後見人の活動の実際について、実務の動向も含めて学ぶとともに、成年後見制度と関わりのある諸制度や専門職の役割について学ぶ。 2 権利擁護・成年後見制度の理解の前提となる憲法と民法の基本的な考え方を学ぶ。			
8. 学習目標	1 権利擁護相談援助と日本国憲法、民法、行政法とのかかわりを理解、習得し、説明できる。 2 成年後見制度の概要及び成年後見人等の役割、実務について理解、習得し、説明できる。 3 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解し、説明できる。 4 成年後見活動の実際及び権利擁護活動の実際について考察し、理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題 (1600 字以上) 「法定後見制度について述べなさい。」 提出期限等については、初回講義時において指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規。			
11. 成績評価の方法	①授業への積極的参加度と参加態度 40% ②筆記試験 30% レポート 30% ③本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	権利擁護の具体的実現としての成年後見制度においては、社会福祉士と弁護士・司法書士等の法律家との役割分担による成年後見活動が期待されている。また、成年後見人としての活動は、ソーシャルワーカーの独自性・独立性が発揮できる可能性のある領域であるともいえる。権利擁護の担い手としての存在になるべき自覚をもって、講義に参加すること。なお、受講生が苦手意識を持ちやすい民法については、時間を多めにとり、基本から講義する。 授業中はつねに集中力を保ち、積極的態度で授業に参加すること。 1. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 2. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義の概要、権利擁護とは、成年後見制度の意義	事前学習	権利擁護と成年後見制度学習用ノートを準備して講義に臨むこと。	
		事後学習	権利擁護の意義、成年後見制度の意義についてまとめる。	
第 2 回	成年後見制度 I (法定後見制度の基本)	事前学習	テキスト pp. 78~93 を熟読しておく。	
		事後学習	成年後見制度の全体像をまとめる。	
第 3 回	成年後見制度 II (法定後見制度の基本・事例)	事前学習	テキスト pp. 94~102 を熟読しておく。	
		事後学習	成年後見等の手続きの流れをまとめる。	
第 4 回	成年後見制度 III (財産管理と身上監護)	事前学習	配布資料を熟読しておく。	
		事後学習	財産管理と身上監護の意義、身上監護の内容についてまとめる。	
第 5 回	成年後見制度 IV (任意後見制度等・事例)	事前学習	テキスト pp. 103~113 を熟読しておく。	
		事後学習	任意後見制度の仕組みをまとめる。	
第 6 回	成年後見制度 V (最近の動向と今後の課題)	事前学習	テキスト pp. 114~132 を熟読しておく。	
		事後学習	今後の課題についてまとめる。	
第 7 回	日常生活自立支援事業等	事前学習	テキスト pp. 134~139 を熟読しておく。	
		事後学習	日常生活自立支援事業の意義、成年後見制度との違いをまとめる。	
第 8 回	成年後見制度利用支援事業等	事前学習	テキスト pp. 134~139 を熟読しておく。	
		事後学習	成年後見制度利用支援事業の概要と今後の課題についてまとめる。	
第 9 回	民法の概要 I (売買契約の流れを中心に)	事前学習	テキスト pp. 46~55 を熟読しておく。	
		事後学習	売買契約の流れを事例に基づきまとめる。	
第 10 回	民法の概要 II (売買契約・事例)	事前学習	配布資料を熟読しておく。	
		事後学習	事例の内容を復習する。	
第 11 回	民法の概要 III (家族法の意義)	事前学習	テキスト pp. 64~74 を熟読しておく。	
		事後学習	家族法の概要をまとめる。	
第 12 回	民法の概要 IV (相続分等の事例)	事前学習	配布事例を熟読しておく。	
		事後学習	事例の内容を復習する。	
第 13 回	権利擁護に関わる組織・団体、権利擁護に関わる専門職	事前学習	テキスト pp. 142~164 を熟読しておく。	
		事後学習	専門職の役割、社会福祉士と他職種との連携についてまとめる。	
第 14 回	成年後見と権利擁護活動の実際 (事例)	事前学習	p. 188 事例 1、p. 192 事例 2 を熟読しておく。	
		事後学習	事例の内容を復習する。	
第 15 回	日本国憲法の概要 (基本的人権を中心に)	事前学習	テキスト pp. 7~18 を熟読しておく。	
		事後学習	基本的人権の意義、種類をまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	公衆衛生／公衆衛生 (養護) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3335 SCMP3335 SBMP3335 EDHE3314
2. 授業担当教員	福本 正勝		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>公衆衛生は、健康上の問題を集団で捉えることにより、疾病の予防や健康増進のための組織的な対策や制度を考える学問である。福祉や医療に携わる専門職には、必須の分野である。</p> <p>本科目では公衆衛生の概念や基本的な考え方、我が国が直面しているさまざまな健康問題の現状と課題を学び、疾病予防や健康増進のための公衆衛生活動について考察する。さらにこれからの保健・医療・福祉の方向性と互いの連携の在り方について、学生自身が考察できる力を身につけることができるようにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の歴史と概念について説明できるようになる。 2. 保健統計の各指標について説明できるようになる。 3. 疫学の考え方について説明できるようになる。 4. 各健康問題（感染症、生活習慣病など）の現状と課題、それに対する我が国の施策を理解し、説明できるようになる。 5. 養護教諭や福祉職として理解しておくべき公衆衛生に関する知識や考え方を習得し応用できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業時に適宜ワークシートの提出を求める。</p> <p>レポート課題：新聞、インターネットで取り上げられた医療・福祉の問題について、その概要、どのような社会問題となったかなどをまとめなさい (1600～2000 字程度)。</p> <p><課題例> インフルエンザ、腸管出血性大腸菌感染症、原発事故、花粉症、喫煙、生活習慣病対策、うつ病、災害対策など</p> <p>研究発表：レポート課題で調べた内容について、わかりやすく発表しなさい。適宜、実施する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鈴木庄亮・久道茂監修『シンプル衛生公衆衛生学 2015』南江堂。</p> <p>【参考書】 『国民衛生の動向 2013/2014 年』厚生統計協会編。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>提出物及びレポート 30% 研究発表 10% 期末試験 50% 授業への積極的参加度 10%</p> <p>本学規程により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。なお、遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>福祉や医療・保健を志す者は社会の情報に敏感になることが必要である。新聞やインターネットなどのメディアが報じるニュースをよくチェックし、その内容を理解するとともに、対応や解決策を皆で検討する。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行は主にシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業の前後に講師控え室にあります。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	公衆衛生の概念および歴史 (古代ローマの環境保健対策、中世ヨーロッパの港で行われた感染症予防対策、ジョン・スノウの功績、高木兼寛の業績、チャドウィックの主張、ウィンスロウの公衆衛生の定義、WHO の健康の定義、疾病構造の変化)	事前学習	教科書 pp. 1～16 を読んでおく。
		事後学習	公衆衛生の概念及び歴史について復習し、ワークシートを提出する。
第 2 回	保健統計 (世界の人口とその推移、何が人口の増加をもたらしたか、人口転換、日本の人口とその推移、合計特殊出生率の推移、健康指標、粗死亡率と年齢調整死亡率、平均寿命と平均余命、罹患率と有病率、患者調査)	事前学習	教科書 pp. 17～27 を読んでおく。
		事後学習	保健統計について復習し、ワークシートを提出する。
第 3 回	疫学 (疫学とは何か、疫学調査の手順と留意事項、選択バイアス・情報バイアス・交絡バイアス、無作為化比較試験 (RCT)、年齢調整死亡率の求め方、相対危険度・寄与危険度の求め方)	事前学習	教科書 pp. 29～30 を読んでおく。
		事後学習	疫学について復習し、ワークシートを提出する。
第 4 回	疾病予防と健康管理 (疾病リスクと健康管理；一次予防・二次予防・三次予防の概念、健康日本 2 1、ヘルスプロモーションの考え方)	事前学習	教科書 pp. 49～60 を読んでおく。
		事後学習	「予防」について復習しワークシートを提出する。
第 5 回	食品と健康 (食中毒の原因 (病原微生物・自然毒・化学物質) と発生状況、予防対策について、食品の安全性を確保するための法律について)	事前学習	教科書 pp. 61～62 を読んでおく。
		事後学習	食品と健康について復習しワークシートを提出する。
第 6 回	感染症とその予防 (感染症の成立要因、感染症予防対策)	事前学習	教科書 pp. 73～88 を読んでおく。

		事後学習	感染症について復習シワークシートを提出する。
第 7 回	主な疾患の予防（循環器、代謝、がん、アレルギー疾患など）	事前学習	教科書 pp. 90～124 を読んでおく。
		事後学習	生活習慣病対策について復習シワークシートを提出する。
第 8 回	環境保健の概要（環境の諸要因と評価、量-反応曲線、環境要因による健康被害、放射線による健康被害、公害の概念と歴史、環境対策）	事前学習	教科書 pp. 127～136 を読んでおく。
		事後学習	環境保健の概要について復習シワークシートを提出する。
第 9 回	地域保健と保健行政（地域社会と地域保健、行政との関係）	事前学習	教科書 pp. 223～236 を読んでおく。
		事後学習	地域保健について復習シワークシートを提出する。
第 10 回	母子保健（日本の母子保健の水準、乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率、幼児死亡率、母子保健対策、健康診査、母子健康手帳、保健指導と医療援護、母子保健の課題と動向）	事前学習	教科書 pp. 227～239 を読んでおく。
		事後学習	母子保健対策について復習シワークシートを提出する。
第 11 回	学校保健（子どもの健康状況、学校保健、学校保健管理、学校保健指導、歯科保健、学校環境管理）	事前学習	教科書 pp. 241～245 を読んでおく。
		事後学習	学校保健について復習シワークシートを提出する。
第 12 回	レポート返却と学生発表の打ち合わせ	事前学習	自分が調べたテーマに関して再考する。
		事後学習	返却されたレポートを書き直す。
第 13 回	産業保健（労働災害、職業病、健康診断、3 管理）	事前学習	教科書 pp. 265～270 を読んでおく。
		事後学習	産業保健について復習シワークシートを提出する。
第 14 回	老人保健・福祉（老化、介護保険制度）、精神保健（ストレス、精神疾患の概念）、国際保健医療（国際保健、世界保健機構）	事前学習	教科書 pp. 295～296 を読んでおく。
		事後学習	老人保健、福祉の制度、精神保健、さらに国際保健について復習シワークシートを提出する。
第 15 回	医療の制度（わが国の医療保障の制度、公費負担医療、医療保険制度のしくみ、国民皆保険制度、診療報酬制度、国民医療費の現状）、難病対策（難病の概念）	事前学習	教科書 pp. 343～352 を読んでおく。
		事後学習	医療の制度について復習シワークシートを提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2106
2. 授業担当教員	本沢 一善			SCMP2106
4. 授業形態	講義、グループ学習等		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。事前・事後学習の提出についても採点・返却する。状況により、授業内容のなかから90分以上の項目を選び、グループ学習とする。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会編 『低所得者に対する支援と生活保護制度 (第4版)』中央法規出版、2014年。			
11. 成績評価の方法	授業態度、事前・事後学習の提出など 20% 授業への積極的参加度 20% レポート・試験 60% 学ぼうとする基本姿勢を重視し、おしゃべり、配布の印刷物などのわずれ、授業のぬけ出などは評価にカウントする。			
12. 受講生へのメッセージ	公的扶助に関する学習は、理念、原理、原則が重要であるとともに、最近では援助技術への理解が重視されています。また、社会福祉士・精神保健福祉士の資格試験の科目でもあり、しっかり勉強しておきたい科目の1つです。90分、15回では、効率的な学習が必要です。そこで、数人で協力し合って学習するグループ学習の方法も採ります。この学習方法が成功する鍵はお互いに信頼できるような取り組みが必要です。真摯で積極的な授業参加をお願いします。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (授業の概要、授業の進め方)、貧困・低所得の問題	事前学習	「第1章 第1節 B 公的扶助と社会保険」を熟読し、原則A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第1章 第1節 C 公的扶助の範囲など、第2節 公的扶助の意義など」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第2回	公的扶助の意義、公的扶助制度の役割	事前学習	「第2章 第1節 貧困・低所得」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第2章 第2節 A 絶対的貧困と相対的貧困、B 社会的排除など」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第3回	公的扶助制度の歴史 (1)	事前学習	「第3章 第1節 A 救貧法、B 救貧施設と金銭給付」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第1節 C 救貧法の展開など、D 公的扶助の誕生」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第4回	公的扶助制度の歴史 (2)	事前学習	「第2節 日本の歴史」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第3節 貧困・低所得者対策の動向」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第5回	生活保護制度の仕組み (1)	事前学習	「第4章 第1節 A 生活保護法の目的、B 生活保護法の基本原理」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第1節 C 保護の原則」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第6回	生活保護制度の仕組み (2)	事前学習	「第2節 A 生活扶助」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第2節 D 医療扶助、E 介護扶助」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第7回	生活保護制度の仕組み (3)	事前学習	「第3節 保護施設」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第5節 不服申立と訴訟」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	
第8回	生活保護基準と最低生活保障水準	事前学習	「第5章 第2節 生活保護基準の考え方」を熟読し、A4用紙(表)にまとめる。	
		事後学習	「第3節 生活保護基準の実際」を熟読し、A4用紙(裏)に手書で記述し、提出する。	

第 9 回	生活保護に関する統計の動向	事前学習	「第 6 章 第 1 節 A 被保護人員、B 被保護世帯数」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 保護の開始・廃止の動向、第 3 節 医療扶助・介護扶助の動向」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 10 回	低所得者対策 (1) 生活福祉資金	事前学習	「第 7 章 第 1 節 A 世帯更生資金貸付制度の制立など」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「B 生活福祉資金貸付制度の概要」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 11 回	低所得者対策 (2) 公営住宅・ホームレス対策など	事前学習	「第 3 節 ホームレス対策」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 C 児童手当、第 4 節 A 公営住宅制度」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 12 回	生活保護の運営体制と関係組織 (国・都道府県等)・専門職 (現業員等)	事前学習	「第 8 章 第 1 節 D 国の役割」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 1 節 C 地方分権一括法など、第 2 節 福祉事務所の役割」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 13 回	生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動、福祉事務所の役割と連携	事前学習	「第 9 章 第 1 節 A 生活保護における相談援助活動の特徴」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 1 節 B 相談援助活動のプロセス、第 3 節 他機関などとの連携等」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 14 回	自立支援プログラムの意義と実際	事前学習	「第 10 章 第 1 節 自立とは」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 自立支援プログラムの位置づけ」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 15 回	総合まとめ	事前学習	過去問をベースに 15 題 (項目は 75) の印刷を前もって配布する。そこから 3 題選び、内容をまとめて提出する。
		事後学習	国試の過去問をベースに、全体の理解を深める
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1101 PSMP1401
2. 授業担当教員	宮崎 栄二		
4. 授業形態	講義、グループレポート作成と発表、ディスカッション、小テスト	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人類の長年の願望だった長寿化社会の実現が先進国のみならず開発途上国でも見られる現象となった。現在日本は、少子高齢化の影響で人口の減少と介護人材の不足が社会問題となっており、社会が健全に発展するためには、少子・高齢社会の的確な現状の把握と問題の本質を理解し、ニーズに基づいた積極的な対応が必要である。</p> <p>本講義では、第1に、人口構造と世帯構成、高齢者の精神的・身体的状態、経済的状态など高齢者を取り巻く環境について理解を深める。第2に、高齢者福祉の発展過程として高齢者福祉制度の萌芽から老人福祉法、現在に至るまでの変化について検討する。第3に、支援が必要な虚弱高齢者、予防高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点などについて把握する。第4に、介護保険法に規定されている介護に関連する介護予防と各種サービス、ケアマネジメント、終末期ケアなど諸事項に関する法律について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域や選好する場所で生活し続けるためには、どのような政策や実践が必要であるかを地域で調査を実施し、社会に貢献できることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 人口学的特徴とライフサイクルの観点から高齢者の生活実態や世帯構成、経済的状況について理解を深める。 高齢者福祉制度の仕組み、発展過程と課題について理解を深め、今後実現可能な政策とは何かを調査する。 公的介護保険制度の現状と問題点について把握し、要介護高齢者の介護ニーズに適切に対応するために解決すべき課題を把握する。 高齢者ニーズを満たす方法として、血縁関係のみならず地域ネットワークの在り方についても理解を深め、高齢者が社会参加を積極的にするためには、どのような環境づくりが必要であるか、調べる。 終末期ケアの在り方(人間観や倫理を含む)について理解し、高齢者が望む場所で最期を迎えるために、必要な政策と地域ネットワークのありがたを理解する。 介護保険制度の仕組みについて理解を深め、介護サービス事業所の現状と問題点を調査し、改善策を把握する。 相談援助活動において、要介護高齢者の人権を守るための成年後見制度など法制度の内容を理解し、成年後見制度が普及しない理由や問題点を把握する。 本科目は、国家試験科目であり、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目指す。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 学生本人が居住している市町村を訪ねて、その市町村が発行している高齢者福祉、介護保険関連のパンフレット、冊子等を収集し、その町独自のサービスなどを理解する。 同時に、それぞれの市町村の介護保険事業の実態(高齢者人口、要介護認定者数、施設利用者数等)を調査する。 その他の課題は、授業の際に提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 杉本敏夫・橋本有里子編『学びを迫及する高齢者福祉』保育出版社。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。 *授業中に適宜資料を配布する。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 平常点(授業への積極的参加度・授業態度) 30% レポートと課題 30% 期末筆記試験 40% <p style="text-align: right;">計100%</p> <p>なお、本学規定により、単位取得のためには3/4以上の出席を必要とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者になることは、誰にも避けることが出来ないことです。高齢化が著しく進む日本で、高齢者福祉・介護福祉は大変大きな、深刻な課題です。十分に学習し、理解しなければなりません。 介護保険制度は主要な柱です。興味を持って学習してください。 介護保険制度は変化が急です。国家試験に対応するために新たな情報にも注意して下さい。 授業内容は、基本的に教科書に沿って進めていくので、必ず予習してきて下さい。 <p>履修にあたっては次の事を最低限守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③席は前から男女で座ること。 ④他の人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴すること。 ⑤授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 講義概要について説明 教科書『学びを迫及する高齢者福祉』 第1章 高齢者の生きがいと社会的参加について、居場所を中心に理解する。	事前学習	教科書第1章1節を読み、高齢者の生きがいとは何かについて調べる。
		事後学習	高齢者の社会参加への課題と対応策をまとめる。

第 2 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 2 章 1 節 高齢化の現状をととして、少子高齢社会と社会的問題、少子高齢社会の実態とその要因、地域間格差について理解する。	事前学習	教科書第 2 章 1 節を読み、自分の住んでいる市町村の高齢化実態の概略を調べる。
		事後学習	一人暮らし高齢者や高齢者夫婦の実態をまとめる。
第 3 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 3 章 日本の高齢者福祉の発展過程と諸外国の高齢者福祉の発展過程を比較し違いを理解する。	事前学習	教科書第 3 章 1 節を読み、高齢者保健福祉制度の歩みを、戦後の日本を中心に、概略を調べる。
		事後学習	日本の平成年間に入ってから、高齢者保健福祉制度理念の変化についてまとめる。
第 4 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 4 章 高齢者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的変化に対する理解を深める。ライフサイクル・コースについて理解する。	事前学習	教科書第 4 章 2 節を読み、高齢者の有訴者率と受療率を調べる。
		事後学習	ライフサイクルとライフコースについてまとめる。
第 5 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 5 章 介護の概念、対象と、高齢者虐待について、最近の動向を理解する。	事前学習	教科書第 5 章 1 節を読み、介護の現状を調べる。
		事後学習	高齢者虐待の現状を、「高齢社会白書」などを使ってまとめる。
第 6 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 6 章 認知症ケアを中心に、高齢者のケアを理解する。	事前学習	教科書第 6 章 3 節を読み、認知症について調べる。
		事後学習	終末期ケアと高齢者の人権、家族の生活維持についてまとめる。
第 7 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 7 章 高齢者福祉に関わる法制度を理解する。	事前学習	教科書第 7 章 1 節を読み、老人福祉法成立の経緯について調べる。
		事後学習	高齢者医療制度をめぐる動向と課題をまとめる。
第 8 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 8 章 介護保険制度の全体像、制度成立の背景について理解する。	事前学習	教科書第 8 章 1 節を読み、介護保険制度の概要を調べる。
		事後学習	介護保険制度の今後の課題をまとめる。
第 9 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 9 章 介護保険制度における介護サービスについて理解する。	事前学習	教科書第 9 章 2 節を読み、介護保険居宅サービスの概要を調べる。
		事後学習	介護サービス実施における、介護サービス事業者、専門職の連携（多職種連携）についてまとめる。
第 10 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 10 章 介護保険 3 施設を中心に、施設の役割と他の専門機関を理解する。	事前学習	教科書第 10 章 1 節を読み、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）を調べる。
		事後学習	地域包括支援センターについて、その役割や配置される専門職についてまとめる。
第 11 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 11 章 高齢者福祉、介護保険制度における、国、都道府県、市町村などの役割を理解する。	事前学習	教科書第 11 章 1 節を読み、介護保険制度における国・都道府県の役割を調べる。
		事後学習	介護保険制度における、市町村の役割をまとめる。（練習問題）
第 12 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 12 章 高齢者に対する相談援助の実際を理解する。	事前学習	教科書第 12 章 1 節を読み、個別援助技術を念頭に、高齢者の相談援助を介護保険を中心に調べる。
		事後学習	グループワークを念頭に、地域を活用した当事者グループ結成などの事業について、メディアを利用してまとめる。（練習問題）
第 13 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 13 章 高齢者の住まい方について、自宅と老人ホームなどを比較しながら理解する。	事前学習	教科書第 13 章 1 節を読み、有料老人ホームについて調べる。
		事後学習	サービス付高齢者住宅についてまとめる。（練習問題）
第 14 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 14 章 福祉用具と福祉住環境について理解する。	事前学習	教科書第 14 章 1 節を読み、福祉用具とは何か調べる。
		事後学習	バリアフリー住宅について調べ、バリアが高齢者に対しどのような影響があるかまとめる。（練習問題）
第 15 回	教科書『学びを追究する高齢者福祉』 第 15 章、高齢者支援の方法と実際について、介護保険制度や介護の実際を通して理解する。（全体のまとめ）	事前学習	教科書第 15 章「事例研究 在宅福祉」を読み、要介護・要支援高齢者が地域での生活を継続していくには、どう対応すればよいか調べる。
		事後学習	介護保険制度について、自分の住んでいる市町村のパンフレットなどで全体像を改めてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SCMP1301
2. 授業担当教員	尹 文九		SBMP1301
4. 授業形態	講義、グループレポート作成と発表、ディスカッション、小テスト	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人類の長年の願望だった長寿化社会の実現が先進国のみならず開発途上国でも見られる現象となった。現在日本は、少子高齢化の影響で人口の減少と介護人材の不足が社会問題となっており、社会が健全に発展するためには、少子・高齢社会の的確な現状の把握と問題の本質を理解し、ニーズに基づいた積極的な対応が必要である。</p> <p>本講義では、第1に、人口構造と世帯構成、高齢者の精神的・身体的状態、経済的状态など高齢者を取り巻く環境について理解を深める。第2に、高齢者福祉の発展過程として高齢者福祉制度の萌芽から老人福祉法、現在に至るまでの変化について検討する。第3に、支援が必要な虚弱高齢者、予防高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点などについて把握する。第4に、介護保険法に規定されている介護に関連する介護予防と各種サービス、ケアマネジメント、終末期ケアなど諸事項に関する法律について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域や選好する場所で生活し続けるためには、どのような政策や実践が必要であるかを地域で調査を実施し、社会に貢献できることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口学的特徴とライフサイクルの観点から高齢者の生活実態や世帯構成、経済的状况について理解を深める。 2. 高齢者福祉制度の仕組み、発展過程と課題について理解を深め、今後実現可能な政策とは何かを調査する。 3. 公的介護保険制度の現状と問題点について把握し、要介護高齢者の介護ニーズに適切に対応するために解決すべき課題を把握する。 4. 高齢者ニーズを満たす方法として、血縁関係のみならず地域ネットワークの在り方についても理解を深め、高齢者が社会参加を積極的にするためには、どのような環境づくりが必要であるか、調べる。 5. 終末期ケアの在り方(人間観や倫理を含む)について理解し、高齢者が望む場所で最期を迎えるために、必要な政策と地域ネットワークのありがたを理解する。 6. 介護保険制度の仕組みについて理解を深め、介護サービス事業所の現状と問題点を調査し、改善策を把握する。 7. 相談援助活動において、要介護高齢者の人権を守るための成年後見制度など法制度の内容を理解し、成年後見制度が普及しない理由や問題点を把握する。 8. 本科目は、国家試験科目であり、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目指す。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	レポート:施設見学や高齢者へのインタビューした内容を2000字程度にまとめて提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 杉本敏夫・橋本有里子編、『学びを追究する高齢者福祉』保育出版社。</p> <p>【参考書】 福祉士養成講座編集委員会編『新版老人福祉論』中央法規。 *授業中に適宜資料を配布する。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポートと課題 20% 2) 授業への参加度 30% 3) ミニテスト及び学習用ノート 50% 計 100% <p>なお、本学規定により、単位取得のためには3/4以上の出席を必要とする。 まだ、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象になる。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときはきちんと傾聴すること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 高齢者のイメージについて	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、授業に臨むこと
		事後学習	高齢者のイメージについて理解した内容をまとめる
第2回	少子高齢化の現状と動向	事前学習	pp.14・20を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業を通して理解された内容についてまとめる
第3回	高齢者の心身の特徴	事前学習	pp.27・33を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業を通して理解された内容をまとめる

第 4 回	高齢者を取り巻く諸問題 健康、介護、経済的問題、生活意識、生きがい 問題など	事前学習	高齢者を取り巻く様々な問題の一つを選んでその内容についてまとめる
		事後学習	授業で理解された内容についてまとめる
第 5 回	高齢者保健福祉制度の歩み 戦後以来日本政府が高齢者のため行なった政策 をマクロレベルで検討	事前学習	pp.58-70 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業で理解された内容をまとめる
第 6 回	高齢者支援関連法(これ囲社会対策基本法)	事前学習	pp.82-86 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
第 7 回	高齢者支援関連法 (老人福祉法)	事前学習	pp.86-92 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	老人福祉法について理解された内容をまとめる
第 8 回	高齢者支援関連法 (バリアフリー新法と成年後見制度など)	事前学習	pp.92-97 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	権利擁護制度について理解した内容をまとめる
第 9 回	高齢者支援関連法 (高齢者虐待防止法)	事前学習	pp.223-242 を参考し、その中で虐待の事例を調査し、まとめる
		事後学習	虐待発見時の対応プロセスについてまとめる
第 10 回	介護保険法 介護保険制度の全体像、制度成立の背景、理念、 目的など	事前学習	pp.102-115 を参考し、その内容をまとめる
		事後学習	授業を通して理解された内容をノートにまとめる
第 11 回	施設見学あるいは高齢者へのインタビュー	事前学習	事前に見学予定の施設を調べ、施設の概要をまとめる
		事後学習	それぞれについてレポートとしてまとめて提出する
第 12 回	介護保険法 介護保険法の改正と介護給付(ビデオ)	事前学習	2005 年改正された内容について調べ、その内容を学習用ノートにまとめる
		事後学習	ビデオを見て、改正された内容についてまとめる
第 13 回	介護保険法におけるサービス	事前学習	pp.115-127 を熟読し、サービスの内容について学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
第 14 回	介護保険法における専門職の役割	事前学習	pp.142-151 を熟読し、専門職にはどのような職があるのかについて学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
第 15 回	高齢者を支援する組織・団体の役割	事前学習	pp.128-142 の中から一つの組織を選び、それについてまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる

1. 科目名 (単位数)	国語科指導法 (書写を含む) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2311								
2. 授業担当教員	市川 直道											
4. 授業形態	講義 演習 グループ討議 発表 実技		5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係	国語科指導法→「国語(書写)」の単位を修得していること。											
7. 講義概要	<p>国語科は全教科の基礎基本であり、中心的教科である。それゆえに、人間形成や社会力及び創造力の基礎となる国語科の指導者として、必須の知識・理解と実践力の基礎を育てるのがねらいである。そのために、学習指導要領の示す「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の3領域と書写を含む「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項を中心に、それぞれの各学年に応じた目標、内容及び指導法について理解と実践力を育てるようにする。</p> <p>特に、指導法に関しては単なる理解でなく、発表や討論、模擬授業等を通して指導技術の習得を図る。また、教材や学習活動の開発創造を大切にする意欲的態度を育てる。</p>											
8. 学習目標	<p>1、日本の国語教育の全体像を理解し、その成果と課題について自分の考えをもつ。</p> <p>2、小学校学習指導要領国語について概観し、目標や内容について説明できるようになる。</p> <p>3、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導目標・内容について理解し、説明できるようになる。</p> <p>4、小学校の具体的な国語教材を取り上げ、教材研究、指導案の作成、模擬授業などを行い、小学校国語科の学習指導の実際を体験的に身につける。</p>											
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	アサシメント (宿題) は、授業ごとに提示する。 (期末課題) 小学校の国語科の具体的な単元・教材を選び、学習指導案を作成する											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社。 宮地 裕『文部科学省検定済教科書 国語 四年上 かがやき・下 はばたき』光村図書出版。</p> <p>【参考書】※ 必要な資料は、授業毎に配付する。</p>											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート・宿題</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>期末課題</td> <td>20%</td> </tr> </table>				授業への積極的参加度	20%	授業態度	20%	レポート・宿題	40%	期末課題	20%
授業への積極的参加度	20%											
授業態度	20%											
レポート・宿題	40%											
期末課題	20%											
12. 受講生へのメッセージ	<p>国語科の学習では、教材研究が大切です。指導者の教材研究が不足すると、たちまち授業はつまらなくなり、子どもたちの目から輝きが薄れていきます。いろいろな教科や領域で言葉を通して教育が行われますが、国語科では、全ての教科の基盤となる言語の教育を進めます。国語の能力を身に付けさせることはもとより、言語文化を継承・発展させる態度を育て、論理的に思考し表現する能力、伝え合う力、感性や情緒を育むことにも及びます。したがって、本授業では、受講生自らが言葉に対して真摯な態度で臨み、鋭い言語感覚を磨いて欲しいと思います。座席は指定とします。</p>											
13. オフィスアワー	別途通知する											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第1回	シラバスの説明を聞き、授業の展開について見直しを立てる。	事前学習	教科書を準備する。また、シラバスに目を通し、授業内容を把握してから講義に臨む。									
		事後学習	国語科の指導法を学ぶ心構えをまとめる。									
第2回	戦後、現代を中心に国語科教育の歴史と現状を学ぶ。	事前学習	戦後の国語教育史で関心のある事柄を調べておく。									
		事後学習	国語教育史を概観し、国語科の今日的課題をまとめる。									
第3回	学習指導要領 国語 を中心に、国語科の体系について学ぶ。	事前学習	国語科の目標の解説を熟読して、授業に臨む。									
		事後学習	3領域と1事項からなる構成を2学年ごとにまとめる。									
第4回	具体的な1単元の計画・評価を概観し、学習指導の計画と評価について学ぶ。	事前学習	評価についての現段階での考えをまとめる。									
		事後学習	全体の評価計画との関連や目標に準拠した評価の意味をまとめる。									
第5回	「読むこと」(文学的文章)の教材研究と指導について学ぶ。	事前学習	教材「一つの花」を熟読し、感想を書く。									
		事後学習	教材観や指導観をまとめ、作品の陶冶価値について考える。									
第6回	「読むこと」(説明的文章)の教材研究と指導について学ぶ。	事前学習	教材「アップとルーズ」を熟読し、文章の構成図を書く。									
		事後学習	情報伝達には送り手の意図や判断が働いていることに対する自分の考えをまとめる。									
第7回	「書くこと」(作文)の学習指導過程と指導の実際について学ぶ。	事前学習	報告文の特徴を事前に調べて、授業に臨む。									
		事後学習	観察文・紹介文・説明文などの組み立て例を考え、まとめる。									
第8回	「話すこと・聞くこと」の題材例をもとに指導の実際について学ぶ。	事前学習	教材「話し合いのしかたについて考えよう」を熟読する。									
		事後学習	司会力をつけるにはどんな指導が必要か、自分の考えをまとめる。									
第9回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(書写を含む)の指導について学ぶ。	事前学習	学習指導要領「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を熟読する。									
		事後学習	音読を重視した指導の意味をまとめる。									
第10回	具体的な教科書教材を選択し、1単位時間の指導案づくりの練習をする。	事前学習	教材「ごんぎつね」を通読する。									
		事後学習	1単位時間の展開案の形や使う言葉など、形式について									

			てまとめる。
第 1 1 回	教材「ごんぎつね」の場面を選び、指導案を作成し、模擬授業の実施計画を立てる。	事前学習	前回の授業を振り返り、どの場面を扱うか、考えを整理しておく。
		事後学習	自分が担当する 10 分間の授業部分を精査し、展開の具体案や教材作りをする。
第 1 2 回	作成した指導案を説明し、グループ内で 1 人 10 分間の模擬授業を行い、意見交換をする。	事前学習	模擬授業に参加する心構えを整え、授業記録の準備をする。
		事後学習	観点に沿って授業記録を整理し、提出する。
第 1 3 回	作成した指導案を説明し、1 人 10 分間の模擬授業を行い、意見交換をする	事前学習	模擬授業に参加する心構えを整え、授業記録の準備をする。
		事後学習	観点に沿って授業記録を整理し、提出する。
第 1 4 回	作成した指導案を説明し、4 人で分担し、45 分間の模擬授業を行い、意見交換をする	事前学習	模擬授業に参加する心構えを整え、授業記録の準備をする。
		事後学習	観点に沿って授業記録を整理し、提出する。
第 1 5 回	期末課題（学習指導案の作成）に取り組み、提出する。	事前学習	教材「ごんぎつね」の最終場面の指導案作成の準備をする。
		事後学習	教材の陶冶価値や表現上の特徴などを押さえ、教材観や指導観を書き、提出する。

1. 科目名 (単位数)	国語科指導法 (書写を含む) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2291 SJMP2391 EDEL2311								
2. 授業担当教員	小本 そのみ											
4. 授業形態	講義 演習 グループ討議 発表 実技		5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	<p>国語科は全教科の基礎基本であり、中心的教科である。それゆえに、人間形成や社会力及び創造力の基礎となる国語科の指導者として、必須の知識・理解と実践力の基礎を育てるのがねらいである。そのために、学習指導要領の示す「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の3領域と書写を含む「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項を中心に、それぞれの各学年に応じた目標、内容及び指導法について理解と実践力を育てるようにする。</p> <p>特に、指導法に関しては単なる理解でなく、発表や討論、模擬授業等を通して指導技術の習得を図る。また、教材や学習活動の開発創造を大切にする意欲的態度を育てる。</p>											
8. 学習目標	<p>2、日本の国語教育の全体像を理解し、その成果と課題について自分の考えをもつ。</p> <p>2、小学校学習指導要領国語について概観し、目標や内容について説明できるようになる。</p> <p>3、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導目標・内容について理解し、説明できるようになる。</p> <p>4、小学校の具体的な国語教材を取り上げ、教材研究、指導案の作成、模擬授業などを行い、小学校国語科の学習指導の実際を体験的に身につける。</p>											
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	事前・事後学習の欄に記載のアサイメント 課題 (1) 具体的な単元の指導計画を作成する。 課題 (2) 具体的な単元の本時の展開案を作成する。 期末課題 具体的な単元の学習指導案を作成する。		第5・6・13・14・15回 第7回目提出予定 第11回目提出予定 第15回目提出予定									
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社。 甲斐睦朗他『文部科学省検定済教科書 国語 四年上 かがやき・下 はばたき』光村図書出版。</p> <p>【参考書】※ 必要な資料は、授業毎に配付する。</p>											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題 (1) (2)・宿題</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末課題</td> <td>30%</td> </tr> </table>				授業への積極的参加度	20%	授業態度	20%	課題 (1) (2)・宿題	30%	期末課題	30%
授業への積極的参加度	20%											
授業態度	20%											
課題 (1) (2)・宿題	30%											
期末課題	30%											
12. 受講生への メッセージ	<p>教材研究は大変重要であり、指導者の教材研究が不足すると、たちまち授業がつまらなくなり、子どもたちの目から輝きが薄れていきます。いろいろな教科や領域で言葉を通して教育が行われますが、国語科では、全ての教科の基盤となる言語の教育を進めます。国語の能力を身に付けさせることはもとより、言語文化を継承・発展させる態度を育て、論理的に思考し表現する能力、伝え合う力、感性や情緒を育むことにも及びます。したがって、受講に当たっては、受講生自らが言葉に対して真摯な態度で臨み、鋭い言語感覚を磨いていって欲しいと思います。なお、座席は指定とします。</p>											
13. オフィスアワー	授業時間の前後											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第1回	シラバスの説明を聞き、授業の展開について見通しを立てる。	事前学習	教科書を準備する。また、シラバスに目を通し、授業内容を把握してから講義に臨む。									
		事後学習	国語科の指導法を学ぶ心構えをまとめる。									
第2回	戦後、現代を中心に国語科教育の歴史と現状を学ぶ。	事前学習	戦後の国語教育史で関心のある事柄を調べておく。									
		事後学習	国語教育史を概観し、国語科の今日的課題をまとめる。									
第3回	小学校学習指導要領 国語 を中心に、国語科はどのような教科か学ぶ。	事前学習	国語科の目標の解説を読む。									
		事後学習	3領域と1事項からなる構成を2学年ごとにまとめる。									
第4回	具体的な1単元の計画・評価を概観し、学習指導の計画と評価について学ぶ。	事前学習	評価についての現段階での考えをまとめる。									
		事後学習	全体の評価計画との関連や目標に準拠した評価の意味をまとめる。									
第5回	「読むこと」(文学的文章)の教材研究と指導について学ぶ。	事前学習	教材「一つの花」を熟読し、感想を書く。									
		事後学習	教材観や指導観をまとめ、教材としての価値を考える。									
第6回	「読むこと」(説明的文章)の教材研究と指導について学ぶ。	事前学習	教材「アップとルーズで伝える」を熟読し、文章の構成図を書く。									
		事後学習	情報伝達には送り手の意図や判断が働いていることに対する自分の考えをまとめる。									
第7回	「書くこと」(作文)の学習指導過程と指導の実際について学ぶ。	事前学習	報告文の特徴を事前に調べて、授業に臨む。									
		事後学習	観察文・紹介文・説明文などの組み立て例を考え、まとめる。									
第8回	「話すこと・聞くこと」の題材例をもとに指導の実際について学ぶ。	事前学習	教材「よりよい話し合いをしよう」を熟読する。									
		事後学習	司会力をつけるためにはどんな指導が必要か、自分の考えをまとめる。									
第9回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(書写を含む)の指導について学ぶ。	事前学習	『小学校学習指導要領解説 国語編』伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の各学年の目標と内容を読む。									
		事後学習	音読を重視した指導の意味をまとめる。									

第 10 回	具体的な教科書教材を選択し、単元の指導計画を考え、1 単位時間の指導案づくりの練習をする。	事前学習	教材「ごんぎつね」を通読する。
		事後学習	1 単位時間の展開案の形や使う言葉など、形式についてまとめる。
第 11 回	教材「ごんぎつね」の場面を選び、4 人組で 45 分間の指導案を作成し、模擬授業の実施計画を立てる。	事前学習	前回の授業を振り返り、どの場面を扱うか、考えを整理しておく。
		事後学習	自分が担当する 10 分間の授業部分を精査し、展開の具体案を書き、教材作りをする。
第 12 回	作成した指導案を説明し、4 人で分担し、45 分間の模擬授業を行い、意見交換をする。	事前学習	模擬授業に参加する心構えを整え、授業記録の準備をする。
		事後学習	観点に沿って授業記録を整理し、提出する。
第 13 回	作成した指導案を説明し、4 人で分担し、45 分間の模擬授業を行い、意見交換をする	事前学習	模擬授業に参加する心構えを整え、授業記録の準備をする。
		事後学習	観点に沿って授業記録を整理し、提出する。
第 14 回	作成した指導案を説明し、4 人で分担し、45 分間の模擬授業を行い、意見交換をする	事前学習	模擬授業に参加する心構えを整え、授業記録の準備をする。
		事後学習	観点に沿って授業記録を整理し、提出する。
第 15 回	期末課題（学習指導案の作成）に取り組み、提出する。	事前学習	教材「ごんぎつね」の単元設定の理由、最終場面の学習展開など指導案を作成できるよう準備をする。
		事後学習	教材としての価値や表現上の特徴などを押さえ、教材観や指導観をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	国際社会と日本 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1334 GELA1354
2. 授業担当教員	坂井 二郎		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループプレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	「グローバル化」という言葉を頻繁に耳にするようになりましたが、それは一体何を意味するのでしょうか。この授業では、国際社会の状況に関する事例を使用教材(教科書、随筆記事、映像等)を適宜用いて紹介し、それを基にグループ討議を行い、「グローバル化」が世界の人々に及ぼしている影響を多角的に学び、理解を深めます。また、学期を通して、世界各地で起こっている出来事と日本との関わりについても考察を深めていきます。		
8. 学習目標	1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	1. 宿題は授業で扱うそれぞれの章を授業前までに熟読し、要旨、疑問点、自分の意見をまとめ、事前に配布された質問用紙に全て答えておくことを意味する。 2. 最終レポートのタイトルは「持続可能な国際社会における自国の役割」とする。詳細は初回授業で説明するが、A4用紙にワードで記載すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 NHK「地球データマップ」制作班編『NHK 地球データマップ：世界の“今”から“未来”を考える』NHK 出版。 【参考書】 授業時に指示する。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 20% 宿題 30% まとめ中間テスト 20% 最終レポート 30%		
12. 受講生へのメッセージ	1. どのような些細なことでも構いませんので自分の意見を積極的に発信していきましょう。 2. 何か質問、疑問等がある時はそのままにせず、どのような些細なことでも気軽に聞くようにしてください。 3. レポート作成の指導は授業の中で適宜行いますが、作成上の問題がある場合はいつでも質問してください。		
13. オフィスアワー	初回授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業概要説明	事前学習	指定教科書を購入し、目次(pp. 6~7)に目を通し授業内容を予想しておく。
		事後学習	1. 教員による授業概要説明を補足説明事項に留意しながら確認し、疑問点があればノートに記入しておく。 2. 授業時に設定した自分の目的を確認し、必要があれば適宜修正し、ノートに記入しておく。
第2回	自分・社会・地球の関係性を考える (Section 1: すべてはつながっている)	事前学習	「はじめに」(pp. 2~5)とSection 1 (pp. 9~16)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第3回	社会問題から日本と世界の現状を考える (Section 2)	事前学習	Section 2 (pp. 17~21)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第4回	食糧問題から日本と世界の現状を考える (Section 2-1)	事前学習	Section 2-1 (pp. 22~33)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第5回	お金から日本と世界の現状を考える (Section 2-2)	事前学習	Section 2-2 (pp. 34~49)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第6回	戦争問題から日本と世界の現状を考える (Section 2-3)	事前学習	Section 2-3 (pp. 50~61)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。

第 7 回	言語の消滅から日本と世界の現状を考える (Section 2-4)	事前学習	Section 2-4 (pp. 62~72)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第 8 回	Section 1 から Section 2-4 までのまとめとまとめ中間テスト	事前学習	Section 1 から Section 2-4 までの内容を教科書、授業ノート、配布されたプリントを使い、重要点を再確認し、まとめテストに備える。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第 9 回	環境問題から日本、世界、そして地球の現状を考える (Section 3)	事前学習	Section 3 (pp. 73~77)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第 10 回	原子力発電から日本と世界と地球の現状を考える (Section 3-1)	事前学習	Section 3-1 (pp. 78~85)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第 11 回	絶滅危惧種から日本と世界と地球の現状を考える (Section 3-2)	事前学習	Section 3-2 (pp. 86~101)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第 12 回	食糧輸入問題と温暖化の関係から日本と世界と地球の現状を考える (Section 3-3)	事前学習	Section 3-3 (pp. 102~109)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第 13 回	食料自給率から日本と世界と地球の現状を考える (Section 3-4)	事前学習	Section 3-4 (pp. 110~116)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを再確認し、1. 気づいた点、2. 興味深かった点、3. 疑問点、の3点から授業を振り返り、ノートに記入しておく。
第 14 回	持続可能な国際社会と地球の未来を考える (Section 4)	事前学習	Section 4 (pp. 117~127)を読み、内容を確認する。その後、配布された質問用紙に従い全ての問いに答えを記入しておく。
		事後学習	教科書と授業ノートを活用し、今までの授業を振り返り、総括をノートに記入しておく。
第 15 回	最終レポートの発表と提出	事前学習	レポート内容を確認し、5分程度で発表できるよう発表のレジュメを作成しておく。
		事後学習	1. 他の学生の発表を聞いて、学んだこと、興味深かったことをノートにまとめる。 2. 初回授業時に設定した目的を見返し、その達成度を査定する。

1. 科目名 (単位数)	国際社会と日本 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1334
2. 授業担当教員	若狭 清紀			GELA1354
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループプレゼンテーション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし			
7. 講義概要	「グローバル化」という言葉を頻繁に耳にするようになりましたが、それは一体何を意味するのでしょうか。この授業では、国際社会の状況に関する事例を使用教材(教科書、随筆記事、映像等)を適宜用いて紹介し、それを基にグループ討議を行い、「グローバル化」が世界の人々に及ぼしている影響を多角的に学び、理解を深めます。また、学期を通して、世界各地で起こっている出来事と日本との関わりについても考察を深めていきます。			
8. 学習目標	1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	ほぼ毎回、課題を設定し、提出を求める。 「国際社会の一員として考えること」というタイトルのレポートを作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山本富美子編著『留学生・日本人学生のための一般教養書 国境を越えて [本文編] 改訂版』新曜社、2007。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 30% 提出物 30% レポート 40%			
12. 受講生へのメッセージ	教科書を必ず持ってきて下さい。遅刻、欠席をしないで授業中はしっかりと集中し、課題には意欲的に取り組んで下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	教科書を購入して、全体的に目を通しておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第2回	人口動態(第2課)	事前学習	教科書第2課を読み、分からない語句について調べておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第3回	人口動態に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第4回	戦後の社会構造の変容(第3課)	事前学習	教科書第3課を読み、分からない語句について調べておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第5回	戦後の社会構造の変容に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第6回	戦後の経済構造の変容(第4課)	事前学習	教科書第4課を読み、分からない語句について調べておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第7回	戦後の経済構造の変容に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第8回	開発の功罪(第5課)	事前学習	教科書第5課を読み、分からない語句について調べておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	
第9回	開発の功罪に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。	
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。	

平成 28 年度

第 1 0 回	レポート作成と発表の方法について	事前学習	レポートで書く内容の案を考えておく。
		事後学習	レポート作成を進めて、発表の準備をしておく。
第 1 1 回	地球規模の環境問題と対策（第 6 課）	事前学習	教科書第 6 課を読み、分からない語句について調べておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。
第 1 2 回	地球規模の環境問題と対策に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。
第 1 3 回	グローバル化時代の課題（第 9 課）	事前学習	教科書第 9 課を読み、分からない語句について調べておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。
第 1 4 回	グローバル化時代の課題に関するグループディスカッションとスピーチ	事前学習	ディスカッションで発表する内容を調べてまとめておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。
第 1 5 回	レポートの発表と提出	事前学習	レポートを完成させ、発表の準備を整えておく。
		事後学習	授業の要点と授業を通して自分が考えたことをまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	子どもの食と栄養 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3358 SCMP3358 SBMP3358 SJMP3121
2. 授業担当教員	遠藤 道代		
4. 授業形態	講義、演習 (課題作成および発表含む)、調理実習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小児期の栄養と食生活の重要性を理解し、一生涯の食生活の意義を理解する。また保育者として、小児の発育と発達の特徴を踏まえた栄養と食のあり方を理解し、保育所における望ましい食のあり方について理解を深める。さらに最近の食にまつわる様々な問題にふれながら、保護者と子どもの総合的な食育や保育所における食の実践について理解する。		
8. 学習目標	1) 栄養、食生活の基礎知識を身につける。 2) 小児期各期の栄養と食生活について学び、説明することができる。 ①妊娠期 (胎児期) ②新生児期 ③乳児期 ④幼児期 ⑤学童期・思春期 3) 保育士としての食の援助の役割について学び、説明することができる。 4) 疾患をもつ小児の栄養・食生活について学び、説明することができる。 5) 小児の食の問題について学び、説明することができる。 6) 子どもとその家族に対する栄養教育・食教育について学び、知識を身につける。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	栄養学を体系的に理解するためには、授業を重ねるごとに知識の蓄積が必要になる。次回の授業内容について教科書で該当する単元を予習し、授業後は要点を復習することをアサシメントとする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 堤ちはる, 土井正子編著『子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養』萌文書林。 【参考書】 講義内で適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	1. 授業への積極的参加態度 (質問等の積極性など) 20% 2. 期末試験 80%		
12. 受講生へのメッセージ	栄養が我々の体をつくっているということ、他のいのちを戴くことによってそれが得られることを知れば、食の大切さに気づかずにいられません。まずは自身の適切な健康管理、食生活管理を身につけることが始めてみましょう。次に子どもの健全な育成のために、食の面から自分に何ができるのか、もっとできることはないかと常に心に止め、目的意識を明確にして受講してください。 履修にあたっては次の事を最低限守ってください。 1. 指定の教科書は授業の際、必ず持参すること。 2. 授業中の私語、飲食、携帯電話やゲーム機の使用は厳禁します。 3. 教室内の秩序を保つため、座席を指定する場合があります。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	小児期の健康と食生活の意義	事前学習	テキスト pp. 1~16 を読み、内容を把握する。
		事後学習	健全な発育・発達と食生活との関わりについて理解し、小児の食の問題についてまとめる。
第 2 回	小児期の発育・発達と食生活	事前学習	テキスト pp. 17~25 を読み、内容を把握する。
		事後学習	小児の摂食・嚥下機能および、消化・吸収についてまとめる。
第 3 回	栄養に関する基礎知識① 栄養素の消化と吸収	事前学習	テキスト pp. 25~34 を読み、内容を把握する。
		事後学習	小児の消化・吸収の特徴についてまとめる。
第 4 回	栄養に関する基礎知識② 栄養素の機能	事前学習	テキスト pp. 35~60 を読み、内容を把握する。
		事後学習	五大栄養素の種類と役割についてまとめる。
第 5 回	日本人の食事摂取基準の意義とその活用 乳児期・幼児期の必要栄養量	事前学習	テキスト pp. 62~71 を読み、内容を把握する。
		事後学習	日本人の食事摂取基準策定の意義と、小児期に必要な栄養素量をまとめる。
第 6 回	小児期の発育・発達と食生活① 妊娠期 (胎児期) の食生活	事前学習	テキスト pp. 72~88 を読み、内容を把握する。
		事後学習	妊娠期・授乳期に配慮すべき栄養、食生活についてまとめる。
第 7 回	小児期の発育・発達と食生活② 新生児期・乳児期の栄養 (乳汁栄養の種類と特徴)	事前学習	テキスト pp. 89~107 を読み、内容を把握する。
		事後学習	母乳栄養と育児用ミルクの特性について分類する。育児用ミルクの調乳法についてまとめる。
第 8 回	小児期の発育・発達と食生活③ 乳児期・幼児期における授乳・離乳の意義とその実践	事前学習	テキスト pp. 107~127 を読み、内容を把握する。
		事後学習	授乳・離乳の支援ガイドの要点をまとめる。離乳食としてふさわしい献立をまとめる。
第 9 回	小児期の発育・発達と食生活④ 幼児期の発達と食生活	事前学習	テキスト pp. 128~152 を読み、内容を把握する。
		事後学習	幼児期の食機能の特性を理解し、幼児期の食事摂取基準に適した食生活についてまとめ

			る。間食の意義と実践方法についてまとめる。
第 10 回	小児期の発育・発達と食生活⑤ 学童期・思春期の発達と食生活	事前学習	テキスト pp. 153～168 を読み、内容を把握する。
		事後学習	第二次発育急進期や二次性徴をふまえて、学童期・思春期に必要な栄養についてまとめる。
第 11 回	食育の基本と内容	事前学習	テキスト pp. 174～198 を読み、内容を把握する。
		事後学習	食育基本法の要点をまとめる。食育を援助するための役割についてまとめる。
第 12 回	子どもとその家族に対する栄養教育・食教育	事前学習	テキスト pp. 199～212 を読み、内容を把握する。
		事後学習	家庭の食事の現状と課題についてまとめる。保護者への食の支援方法についてまとめる。
第 13 回	児童福祉施設における食事と栄養	事前学習	テキスト pp. 213～238 を読み、内容を把握する。
		事後学習	児童福祉施設の食事の内容について要点をまとめる。手洗いを実践する。
第 14 回	疾患を持つ小児の栄養・食生活	事前学習	テキスト pp. 239～271 を読み、内容を把握する。
		事後学習	疾病および体調不良の小児への対応について、疾患の特徴と栄養との関わりについてまとめる。
第 15 回	保育所における食育推進の計画・実施・評価 食育実践活動事例からの検討	事前学習	事前に配布される資料を基に、保育所、家庭、地域に向けた実践方法を把握する。
		事後学習	教材を活用した食育活動についてまとめる。給食を通じた食育をまとめ、実際に調理作業を実践する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	子どもの保健Ⅱ (1 単位)	3. 科目番号	SJMP2117
2. 授業担当教員	佐野 葉子		
4. 授業形態	技術演習、講義、グループワーク、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育者として子どもの健康と安全を守るために必要な基礎的知識や実践力を身に付けることをねらいとしている。「子どもの保健Ⅰ」で学んだ知識を基礎とし、子どもが健康的に生活するうえで必要な生活環境要因について理解し、総合的な援助技術の習得を目指す。</p> <p>技術演習では、子どもの発育の観察と評価、日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、一般的な症状に対する看護の方法、応急手当（一次救命処置を含む）など、保育現場で必要とされる技術をモデル人形を対象として実践する。</p> <p>グループワークでは、事故防止対策と安全教育、歯磨きや手洗いなどの健康教育について検討し、発表することで集団保育における事故防止や健康管理・健康教育の実践力を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。 2. 子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。 3. 子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。 4. 子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。 5. 子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。 6. 応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができるようになる。 7. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。 8. 子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習状況に応じ、授業内で学習課題の提示を行う。 2. アサイメント及びレポート課題：詳細については、授業内で説明する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもに多い症状と一般的なケア 2) 歯磨きや手洗いなどの健康教育 3) 事故防止策と安全教育 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】榊原洋一監修 小林由紀著『子どもの保健演習ノート』改定第2版、診断と治療社、2013。		
11. 成績評価の方法	試験 50%、レポート 30%、授業への積極的参加態度 20%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、子どもの健康と安全をまもるために必要な基礎的知識・技術を習得し、保育者にふさわしい態度を身につけることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生（大学生）としてふさわしい態度を示す。 2. 技術演習にあたっては、以下のことを守ること <ol style="list-style-type: none"> ①技術演習にふさわしい身支度を整える。 ②準備・実施・後片付けまで互いに協力し合い、積極的に取り組む。 ③他学生の手技にも注目し、良い点を学ぶ。 ④保育の現場と同様に緊張感をもち、言動に注意する。 ⑤使用する物品は大切に扱う。 3. 成績評価の対象となるレポートの提出期限は厳守する。 教員は以下のことを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 授業開始時に授業の目的・目標を明確に示す。 3. 聴き取りやすい大きさの声で話し、専門用語はわかりやすく説明する。 4. 学生が積極的に授業に参加できるよう双方向対話型の学習環境をつくる。 5. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の使用等の受講生としてふさわしくない態度には厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	詳細は時間割決定後に設定致します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	「子どもの保健Ⅱ」ガイダンス	事前学習	シラバスを読んでおく
		事後学習	自己紹介用紙の記載
第2回	胎児期の発育について	事前学習	胎児期の発育について考えてくる
		事後学習	胎児期に起こる障害についてまとめる
第3回	子どもの成長発達 その1 (身体発育の観察と評価)	事前学習	身体発達の評価方法についてテキストを読む
		事後学習	身体発達の評価方法をまとめる
第4回	子どもの成長発達 その1 (身体測定の演習)	事前学習	測定方法の手順についてテキストを読む
		事後学習	測定方法についてまとめる
第5回	子どもの成長発達 その2 (運動機能の発達)	事前学習	運動機能の発達についてテキストを読む
		事後学習	運動機能の発達をまとめる
第6回	子どもの成長発達 その2 (生理機能の発達)	事前学習	生理機能の発達についてテキストを読む
		事後学習	生理機能の発達についてまとめる
第7回	子どもの生活環境	事前学習	子どもの生活環境についてテキストを読む
		事後学習	子どもの生活環境についてまとめる
第8回	保育環境と衛生管理の実際 (グループワーク)	事前学習	保育環境で大切だと考えられる要因を調べる

		事後学習	発表のまとめを行う
第 9 回	日常生活の養護の方法 その 1 (母乳栄養、人工栄養、哺乳方法)	事前学習	母乳栄養、人工栄養についてテキストを読む
		事後学習	母乳栄養、人工栄養についてまとめる
第 10 回	日常生活の養護の方法 その 1 (演習：調乳、授乳)	事前学習	調乳方法、衣服の着せ方
		事後学習	調乳方法の手順をまとめる
第 11 回	日常生活の養護の方法 その 2 (沐浴、衣服の着せ方)	事前学習	沐浴、衣服の着せ方について調べてくる
		事後学習	沐浴の目的をまとめる
第 12 回	日常生活の養護の方法 その 2 (演習：沐浴、衣服の着せ方)	事前学習	沐浴の手順を調べてくる
		事後学習	沐浴の手順をまとめる
第 13 回	日々の健康状態の観察 (グループワーク)	事前学習	健康状態の観察ポイントを調べてくる
		事後学習	健康状態の観察ポイントをまとめる
第 14 回	日々の健康状態の観察の実際 (グループワーク発表)	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表内容のまとめ
第 15 回	一般的な症状に対する看護と感染予防	事前学習	感染症について調べてくる
		事後学習	感染症についてまとめる
第 16 回	一般的な症状に対する看護と感染予防の実際 (演習)	事前学習	感染予防について調べてくる
		事後学習	感染予防についてまとめる
第 17 回	応急手当、一次救命	事前学習	応急処置についてテキストを読む
		事後学習	応急処置の方法をまとめる
第 18 回	応急手当、一次救命 (演習)	事前学習	一次救命について調べる
		事後学習	一次救命についてまとめる
第 19 回	子どもの感染症	事前学習	感染症についてテキストを読む
		事後学習	感染症についてまとめる
第 20 回	起こりやすい事故	事前学習	起こりやすい事故について調べてくる
		事後学習	起こりやすい事故についてまとめる
第 21 回	集団保育における健康管理	事前学習	健康管理で大切なことを調べてくる
		事後学習	健康管理についてまとめる
第 22 回	集団保育における健康教育 「健康教育」のための教材作成 (グループワーク)	事前学習	健康教育について考えてくる
		事後学習	発表内容の確認と準備
第 23 回	「健康教育」のための教材作成 (グループワーク)	事前学習	発表の準備
		事後学習	グループワークの振り返り
第 24 回	「健康教育」のための教材作成 (グループワーク)、「健康教育」のプレゼンテーション・まとめ	事前学習	発表の準備
		事後学習	この科目で学んだことをまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	子どもの保健Ⅱ (1 単位)	3. 科目番号	SSOT2407
2. 授業担当教員	深田 一枝		SCOT2407
4. 授業形態	技術演習、講義、グループワーク、プレゼンテーション	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育者として子どもの健康と安全を守るために必要な基礎的知識や実践力を身に付けることをねらいとしている。「子どもの保健Ⅰ」で学んだ知識を基礎とし、子どもが健康的に生活するうえで必要な生活環境要因について理解し、総合的な援助技術の習得を目指す。</p> <p>技術演習では、子どもの発育の観察と評価、日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、一般的な症状に対する看護の方法、応急手当（一次救命処置を含む）など、保育現場で必要とされる技術をモデル人形を対象として実践する。</p> <p>グループワークでは、事故防止対策と安全教育、歯磨きや手洗いなどの健康教育について検討し、発表することで集団保育における事故防止や健康管理・健康教育の実践力を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。 2. 子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。 3. 子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。 4. 子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。 5. 子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。 6. 応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができるようになる。 7. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。 8. 子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. アサイメント (宿題) : 授業内容に応じた課題プリント 2. レポート課題 : テーマ「保育士等を目指す学生としての自己管理」 提出期限は第11回講義日までとする。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著 『子どもの保健・実習 一健やかな育ちをサポートするために一』 第2版 同文書院、2016。</p>		
11. 成績評価の方法	試験 50%、レポート 30%、授業への積極的参加態度 20%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、子どもの健康と安全をまもるために必要な基礎的知識・技術を習得し、保育者にふさわしい態度を身につけることを目的としている。</p> <p>受講生は、履修要項の「授業における心構えⅠ・Ⅱ」、「予習・レポートについて」を読み、以下のことを守り講義に臨む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生 (大学生) としてふさわしい態度を示す。 2. 技術演習にあたっては、以下のことを守ること <ol style="list-style-type: none"> ①技術演習にふさわしい身支度を整える。 ②準備・実施・後片付けまで互いに協力し合い、積極的に取り組む。 ③他学生の手技にも注目し、良い点を学ぶ。 ④保育の現場と同様に緊張感をもち、言動に注意する。 ⑤使用する物品は大切に扱う。 3. 成績評価の対象となるレポートの提出期限は厳守する。 教員は以下のことを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 授業開始時に授業の目的・目標を明確に示す。 3. 聴き取りやすい大きさの声で話し、専門用語はわかりやすく説明する。 4. 学生が積極的に授業に参加できるよう双方向対話型の学習環境をつくる。 5. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の使用等の受講生としてふさわしくない態度には厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	「子どもの保健Ⅱ」についてのオリエンテーション	事前学習	シラバスを熟読し講義に臨む。
		事後学習	受講生として望ましい学習態度や身支度についてまとめる。
第2回	小児保健の現状 (子どもの保育と保健・養護について学ぶ)	事前学習	pp. 8～18、p. 273 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第3回	子どもの成長発達 (1) (成長・発達の基本、形態的成長、脳・神経系の発達、言語の発達について学ぶ)	事前学習	pp. 21～23 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認、課題プリント
第4回	子どもの成長発達 (2) (グループワーク) (生理機能・精神機能の発達について学ぶ)	事前学習	グループでの発表の準備を行う。
		事後学習	発表のまとめを行う。
第5回	発育の観察と評価 (身体発育の評価・発達の評価について学ぶ)	事前学習	pp. 32～35 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第6回	発育の観察と評価の実際 (技術演習) (乳幼児の身体測定)	事前学習	課題プリント、pp. 35～37 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。

第 7 回	子どもの生活環境 (乳幼児に必要な居室環境について学ぶ)	事前学習	pp. 41～43 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 8 回	保育環境と衛生管理の実際 (グループワーク) (保育環境の調整と衛生管理のありかた)	事前学習	グループでの発表の準備を行う。
		事後学習	発表のまとめを行う。
第 9 回	健康的な日常生活習慣形成のための養護 (1) (子どもの栄養と食事、睡眠・休息の援助について学ぶ)	事前学習	pp. 43～44、pp. 59～60、p. 79 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 10 回	健康的な日常生活習慣形成のための養護の実際 (1) (技術演習) (抱き方、寝かせ方、ミルクの飲ませ方)	事前学習	課題プリント、pp. 58～60、pp. 79～80、pp. 84～85、を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。
第 11 回	健康的な日常生活習慣形成のための養護 (2) (子どもの排泄、清潔、衣生活の援助について学ぶ)	事前学習	pp. 86～87、pp. 93～94、pp. 98～100 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 12 回	健康的な日常生活習慣形成のための養護の実際 (2) (技術演習) (沐浴、乳児の衣服の着脱、おむつのあて方)	事前学習	課題プリント、pp. 87～92、pp. 94～97 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。
第 13 回	日々の健康状態の観察 (子どもの健康状態の観察について学ぶ)	事前学習	pp. 105～107、pp. 222～223 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 14 回	日々の健康状態の観察の実際 (技術演習) (乳幼児のバイタルサイン測定)	事前学習	課題プリント、pp. 107～109 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。
第 15 回	一般的な症状に対する看護と感染予防 (子どもに多い症状とその対応、感染予防について学ぶ)	事前学習	pp. 161～172 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 16 回	一般的な症状に対する看護と感染予防の実際 (技術演習) (巻法、手洗い、嘔吐物の処理・消毒液の作り方)	事前学習	課題プリント、pp. 162～163、p. 171 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする。
第 17 回	子どもの事故の特徴と安全教育 (子どもの事故と事故防止・安全教育について学ぶ)	事前学習	pp. 189～193 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 18 回	事故防止策と安全教育の実際 (グループワーク) (保育現場における事故防止策と安全教育のあり方)	事前学習	グループでの発表の準備を行う。
		事後学習	発表のまとめを行う。
第 19 回	応急手当 (一次救命処置を含む) (子どもに必要な応急手当について学ぶ)	事前学習	pp. 208～211 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 20 回	応急手当 (技術演習) (三角巾の使い方、一次救命処置)	事前学習	課題プリント、pp. 211～215 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	技術演習での課題を明確にする
第 21 回	集団保育における健康管理 (集団保育における子どもの健康支援と環境衛生・安全管理について学ぶ)	事前学習	pp. 219～222 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認
第 22 回	集団保育における健康教育 (グループワーク) (「健康教育」のための企画書作成を行う)	事前学習	pp. 241～246、p. 256 を読み、疑問点をまとめておく。
		事後学習	疑問点の確認、「健康教育」の企画書を提出する。
第 23 回	集団保育における健康教育 (グループワーク) (「健康教育」のための教材作成を行う)	事前学習	グループでの教材作成の準備を行う。
		事後学習	教材作成の進行状況を確認する。
第 24 回	集団保育における健康教育 (「健康教育」のプレゼンテーションを行う)	事前学習	グループでの発表の準備を行う。
		事後学習	発表のまとめと評価を行う。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	コンピュータサイエンスⅡ (2単位)		3. 科目番号	EDIT1312
2. 授業担当教員	舘 秀典			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	試験結果を点数順に並べ替える問題や、選挙結果の集計など、具体的な問題の処理手順をアルゴリズムという。同じコンピュータを使って同じ問題を扱っても、アルゴリズムが異なれば、問題解決に要する処理時間は大幅に異なる。本講義では、アルゴリズムの善し悪しの評価方法である「オーダ」という概念について学び、具体的な問題に対する複数のアルゴリズムを開発し、そのオーダの違いを調べる。また、これらのアルゴリズムを、C++言語を用いてコンピュータ上で実行することにより、オーダの違いと処理時間の関係を実感する。			
8. 学習目標	アルゴリズムは、ハードウェアの進歩に左右されない概念である。現在の情報化社会を支えているコンピュータの底に潜む、技術の進歩に左右されない科学としての見方・考え方・方法論を学ぶ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマ毎に、授業内容に基づく課題を出題する。課題の内容は、主に教科書や配付資料内の演習問題などから出題され、受講者には授業担当者の指示に従ってレポートを作成および提出することが求められる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 藤原暁宏『情報工学レクチャーシリーズ アルゴリズムとデータ構造』森北出版 【参考書】 講義の中で適宜紹介するとともに、印刷物を配布する。			
11. 成績評価の方法	下記の観点に基づいて評価を行う。 1. 授業への参加態度 20% 2. 各章におけるレポート 30% 3. 総合演習・最終レポート 50%			
12. 受講生へのメッセージ	論理的な思考ができるように普段から心がけること。またプログラムとして動作確認を行うが、ファイルの操作およびタイピング等基礎的な能力は最低限身に付けておくこと。 一度の欠席が大きな遅れとなるため、やむを得ず欠席した際は必ず補完しておくこと。 また、簡単なプログラムにてアルゴリズムの実装を行う。構造的な考え方に慣れること。			
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション	事前学習	シラバスと指定教科書の内容を確認し、今後の学習事項について把握することを求める。	
		事後学習	オリエンテーションで学習した重要事項を学習ノート等に整理し、記憶の定着を促す。	
第2回	アルゴリズムとは	事前学習	「アルゴリズムの概要」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「アルゴリズムの概要」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。	
第3回	アルゴリズムの設計と評価	事前学習	「アルゴリズムの設計と評価」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所を把握する。	
		事後学習	「アルゴリズムの設計と評価」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。	
第4回	プログラミング演習 (C, C++の構文)	事前学習	「プログラミング演習」に関する箇所を読み、プログラムとは何か理解する。	
		事後学習	「プログラミング演習」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深める。	
第5回	プログラミング演習 (基本処理)	事前学習	「プログラミング演習」に関する例題及び練習問題を事前に解く。	
		事後学習	「プログラミング演習」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深める。	
第6回	プログラミング演習 (文字列操作)	事前学習	「プログラミング演習」に関する例題及び練習問題を事前に解く。	
		事後学習	「プログラミング演習」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深める。	
第7回	プログラミング演習 (関数)	事前学習	「プログラミング演習」に関する例題及び練習問題を事前に解く。	
		事後学習	「プログラミング演習」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深める。	
第8回	探索アルゴリズムと計算量 (線形探索)	事前学習	「探索アルゴリズムと計算量」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。	
		事後学習	「プログラミング演習」の練習問題及び応用問題に取り組み、	

			学習内容の理解を深めて記憶
第 9 回	探索アルゴリズムと計算量 (逐次探索)	事前学習	「探索アルゴリズムと計算量②」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「探索アルゴリズムと計算量②」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。
第 10 回	探索アルゴリズムと計算量 (二分探索、その他)	事前学習	「探索アルゴリズムと計算量③」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「探索アルゴリズムと計算量③」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。
第 11 回	整列アルゴリズムと計算量 (選択法)	事前学習	「整列アルゴリズムと計算量①」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「整列アルゴリズムと計算量①」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。
第 12 回	整列アルゴリズムと計算量 (マージソート)	事前学習	「整列アルゴリズムと計算量②」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「整列アルゴリズムと計算量②」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。
第 13 回	整列アルゴリズムと計算量 (その他 ソート)	事前学習	「整列アルゴリズムと計算量③」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「整列アルゴリズムと計算量③」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。
第 14 回	総合演習	事前学習	「総合演習」に関する例題及び練習問題を事前に解いて、本時の学習内容と特に理解を要する箇所の把握に努める。
		事後学習	「総合演習」の練習問題及び応用問題に取り組み、学習内容の理解を深めて記憶の定着を促す。
第 15 回	講義の総括	事前学習	「講義の総括」を前に、これまでの学習内容の中から理解できていない項目がないか教科書及びノート等を見直して確認する。
		事後学習	「講義の総括」で再学習があると判明した問題を解き直し、理解を深め、記憶の定着を促す。

1. 科目名 (単位数)	コンピュータネットワークⅡ (2 単位)		3. 科目番号	EDIT2322
2. 授業担当教員	館 秀典			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータネットワークⅠ」を履修済みであることを前提とした授業を行う。			
7. 講義概要	現代のインターネットの通信手段の基礎である TCP/IP の仕組みを演習を通して学ぶ。また、ネットワーク上のサービス形態として、クライアントサーバモデルと P2P モデルについて学ぶ。			
8. 学習目標	プロトコルの観点から、世界的情報ネットワークであるインターネットの仕組みを理解することを目標とする。特に IP プロトコル、ルーティングアルゴリズム、TCP プロトコルをマスターする。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	教科書および配布資料の演習問題を各章の終了毎に行う。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】小林活・江崎浩『インターネット総論』共立出版 【参考書】A.S. タネンバウム著『コンピュータネットワーク第4版』日経 BP 社			
11. 成績評価の方法	授業に対する積極性 30% 章毎の小テスト・演習およびレポート 70%			
12. 受講生へのメッセージ	専門用語が多いため、あらかじめ教科書に目を通し、不明な用語は調べてくること。演習問題を多く行う。やり残しや疑問点等は早めに解決すること。コンピュータネットワークⅠの内容を理解していることが大前提となる。コンピュータネットワークⅠを受講しないで本講義を受講することのないように。			
13. オフィスアワー	初回に周知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	LAN および OSI 階層構造等、コンピュータネットワークⅠの復習	事前学習	教科書 第1章 1.1-1.2 を読み理解する	
		事後学習	LAN および OSI 階層構造等についての演習課題を解く	
第2回	インターネットの歴史と運営組織	事前学習	教科書 第1章 1.3 を読み理解する	
		事後学習	インターネットの歴史と運営組織についての演習課題を解く	
第3回	インターネット層 (1) インターネットプロトコル	事前学習	教科書 第2章 2.1 を読み理解する	
		事後学習	インターネットプロトコルの概要についての演習課題を解く	
第4回	インターネット層 (2) IP アドレスの仕組み	事前学習	教科書 第2章 2.2 を読み理解する	
		事後学習	IP アドレスの仕組みについての演習課題を解く	
第5回	インターネット層 (3) 経路制御	事前学習	教科書 第2章 2.3 を読み理解する	
		事後学習	経路制御についての演習課題を解く	
第6回	インターネット層 (4) 演習	事前学習	過去の講義内容全般の見直し	
		事後学習	教科書 pp. 52-53 演習課題を解く	
第7回	物理・データリンク層 (1) 基礎技術	事前学習	教科書 第3章 3.1 を読み理解する	
		事後学習	基礎技術についての演習課題を解く	
第8回	物理・データリンク層 (2) 有線系	事前学習	教科書 第3章 3.2 を読み理解する	
		事後学習	有線系についての演習課題を解く	
第9回	物理・データリンク層 (2) 無線系	事前学習	教科書 第3章 3.3 を読み理解する	
		事後学習	無線系についての演習課題を解く	
第10回	トランスポート層 (1) 概要	事前学習	教科書 第4章 4.1 を読み理解する	
		事後学習	無線系についての演習課題を解く	
第11回	トランスポート層 (2) TCP と UDP	事前学習	教科書 第4章 4.2 を読み理解する	
		事後学習	TCP と UDP についての演習課題を解く	
第12回	トランスポート層 (3) TCP と UDP	事前学習	教科書 第4章 4.3 を読み理解する	
		事後学習	TCP と UDP についての演習課題を解く	
第13回	インターネット上のビジネス・セキュリティ 次世代のインターネット技術	事前学習	教科書 第5.7.10章を読み理解する	
		事後学習	次世代のインターネット技術についての演習課題を解く	
第14回	システム設計と運用	事前学習	教科書 第9章を読み理解する	
		事後学習	システム設計と運用についての演習課題を解く	
第15回	総合演習	事前学習	過去の講義内容全般の見直しを行う	
		事後学習	講義中に配布する、これまでの総合演習課題を解く	

1. 科目名 (単位数)	算数科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2312
2. 授業担当教員	佐々木 隆宏			
4. 授業形態	講義・演習・実習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	小学校算数の目標を踏まえて、算数の授業づくりのための具体的な方法を学び、実際学習指導案を作成する。作成した指導案を活用し、模擬授業を行い指導の実際を体験することで、さらにより良い授業作りのための方法について学んでいくとともに、授業を見る視点や授業の改善点を明らかにする手法などを学ぶ。			
8. 学習目標	(1) 求められる算数の授業に関して、現状を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。 (2) 求められる算数の授業を踏まえ、自らが理想とする算数の授業づくりのための学習指導案を作成することができる。 (3) 模擬授業等を通して、配慮の必要な児童への対処方法や授業実践上の方法について理解し、説明することができる。 (4) 算数の授業の評価の方法について理解し、説明することができる。 (5) 模擬授業を通して、算数の授業の実践ができる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 講義内容に関する内容をまとめる課題を講義中に課す。 2. 中間レポートとして、各領域から選択した内容についての学習指導案を作成する。 3. 期末レポートとして、中間レポートで作成した学習指導案を再度作成する。 なお、レポートの一部は他の履修者にも公開して模擬授業を行ない、その後の討論における資料とする。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省「学習指導要領解説算数編」 東洋館出版社 講義において資料を配布するが上記教科は必ず購入すること			
11. 成績評価の方法	1. 中間レポート … 10% 2. 期末レポート … 10% 3. 講義への参加(模擬授業・学習指導案・板書計画・理解) … 40% 4. 期末試験 … 40% * 私語が目立つ学生に対しては減点をする。 5. 出席に関して * 欠席 4 回で単位取得資格を失う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とする。 * 再履修学生で教育実習により欠席をした場合は、教育実習以外の欠席が 2 回で単位取得資格を失う。遅刻は 2 回で欠席 1 回とする。 * 遅刻した場合の出席申請は当日中のみ有効とする。			
12. 受講生へのメッセージ	児童に算数を教えるという行為は、計算が出来て、問題が解ければすぐに行えるわけではない。まず、教員自身が算数科の内容を十分に理解し、数学観を育成することが大切である。児童が発言した疑問を教員の理解不足から十分な回答ができないとなれば、算数嫌いな児童を増やしてしまうことになる。算数や数学に苦手意識を抱いている学生もいるかもしれないが、指導者となるための学習をする中で、自身の数学的素養を高めることができれば良いと考えている。また、そうなるための講義を提供したい。 【注意】 本講義は「算数」を履修済みの学生を対象とした内容である。 【注意】 配布資料を綴じるファイルを必ず用意すること。			
13. オフィスアワー	火曜日 12:30 ~ 17:00			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	・ 小学校算数科の目標 / 数学学習パラダイムをかえる	事前学習	小学校算数科の 4 領域の内容について調べる	
		事後学習	算数・数学教育の目的について自己説明する	
第 2 回	・ 算数・数学科教育の歴史と目的の変遷	事前学習	第 1 回に配布する資料を読んでおく	
		事後学習	第 2 回の講義資料を読み重要語句は暗記する	
第 3 回	・ A 領域「数と計算」	事前学習	学習指導要領解説「算数科の内容」A 領域をまとめる	
		事後学習	学習指導要領解説の各学年の A 領域をまとめる	
第 4 回	・ B 領域「量と測定」	事前学習	学習指導要領解説「算数科の内容」B 領域をまとめる	
		事後学習	学習指導要領解説の各学年の B 領域をまとめる	
第 5 回	・ C 領域「図形」	事前学習	学習指導要領解説「算数科の内容」C 領域をまとめる	
		事後学習	学習指導要領解説の各学年の C 領域をまとめる	
第 6 回	・ D 領域「数量関係」	事前学習	学習指導要領解説「算数科の内容」D 領域をまとめる	
		事後学習	学習指導要領解説の各学年の D 領域をまとめる	
第 7 回	・ 算数的活動	事前学習	第 6 回に配布する講義資料を読んでおく	
		事後学習	講義で扱った以外の算数的活動はどのようなものがあるか考える 【課題指示】	
第 8 回	・ 算数科の授業形態 / 指導形態	事前学習	第 7 回に配布する講義資料を読んでおく	
		事後学習	算数科の様々な授業形態について特徴をまとめる	
第 9 回	・ 算数科における評価と方法 / 板書 / 発問	事前学習	第 8 回に配布する講義資料を読んでおく	
		事後学習	講義中に終えなかった板書計画を完成させる	
第 10 回	・ 指導計画の作成/学習指導案の作成	事前学習	インターネットで算数科の指導案を調べる	
		事後学習	講義中に終えなかった学習指導案を完成させる	
第 11 回	・ 模擬授業(1)	事前学習	学習指導案の確認、掲示物の作成をする	
		事後学習	模擬授業の反省点や教員からのコメントをまとめる	
第 12 回	・ 模擬授業(2)	事前学習	学習指導案の確認、掲示物の作成をする	
		事後学習	模擬授業の反省点や教員からのコメントをまとめる	
第 13 回	・ 模擬授業(3)	事前学習	学習指導案の確認、掲示物の作成をする	
		事後学習	模擬授業の反省点や教員からのコメントをまとめる	

第 14 回	・ 教材研究 / さまざまな機材を活用した授業	事前学習	教科書の「C 図形」領域を読んで理解する
		事後学習	第 14 回に配布する数学的理解に関する講義資料を読んで復習する
第 15 回	・ 算数科指導法のまとめ ・ 期末試験に向けた演習	事前学習	演習に向けてこれまでに講義資料を復習する
		事後学習	講義中配布したすべての資料を読み全体を概観する
期末試験			

1. 科目名(単位数)	算数科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2292 SJMP2392
2. 授業担当教員	守屋 誠司		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習・実習等			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	小学校算数の目標を踏まえて、算数の授業づくりのための具体的な方法を学び、実際学習指導案を作成する。作成した指導案を活用し、模擬授業を行い指導の実際を体験することで、さらにより良い授業作りのための方法について学んでいくとともに、授業を見る視点や授業の改善点を明らかにする手法などを学ぶ。			
8. 学習目標	(1) 今求められる算数の授業に関して、現状を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。 (2) 求められる算数の授業を踏まえ、自らが理想とする算数の授業づくりのための学習指導案を作成することができる。 (3) 模擬授業等を通して、配慮の必要な児童への対処方法や授業実践上の方法について理解し、説明することができる。 (4) 算数の授業の評価の方法について理解し、説明することができる。 (5) 模擬授業を通して、算数の授業の実践ができる。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 : 分数の割り算の方法をまとめたレポート (A4 3枚) 課題 2 : 神奈川県面積を3種類の方法で求めるレポート (A4 4枚) 課題 3 : 正六角形の宝箱を製作する。 課題 4 : 模擬授業の学習指導案作成と教具の準備 (グループごと)			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】守屋誠司編著『小学校指導法 算数』玉川大学出版部。 【参考書】授業中に紹介する。			
11. 成績評価の方法	授業で出される課題 30%, 最終試験 60%, 日常の授業態度 (質問、授業への積極的参加度) 10%で総合的に評価する。			
12. 受講生への メッセージ	① 演習が伴う講義では、用具 (定規, コンパス, 分度器等) が必要となるので、忘れないようにすること (事前の講義で連絡します)。 ② 受講者の学力, 理解度, 作業スピード等によって内容を変更する場合がある。 ③ まとめでは、各講義で扱った内容の中からいくつかを取り上げて、詳しく記述することを求めるので、各講義でしっかりとノートを取り、確実に理解するようにしておくこと。			
13. オフィスアワー	月曜日 19:55-20:30			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション, 数学教育学の概要, 算数科の目標	事前学習	テキスト pp. 9~25 を読み, 数学をなぜ教えるのか自分なりの見解を持つ。	
		事後学習	数学を教える目的を自分なりに整理する。	
第 2 回	数学教育の歴史 (戦後から)	事前学習	テキスト pp. 39~55 を読み, 戦後の数学教育の大まかな流れを知る。	
		事後学習	生活を中心とした算数指導のメリット・デメリットをまとめる。	
第 3 回	心理学的話題 (求差型減法はなぜ難しいのか?)	事前学習	テキスト pp. 77~83 を予習する。	
		事後学習	求差型減法が難しいわけをまとめて, 8-5=3 を指導する時の留意点を整理する。	
第 4 回	数と計算 1 分解と合成から, 加法と減法	事前学習	テキスト pp. 84~91 を予習する。	
		事後学習	分解と合成の指導がその後のどの内容に影響を与えるかをまとめる。	
第 5 回	数と計算 2 乗法と除法	事前学習	テキスト pp. 91~96 を予習する。	
		事後学習	かけ算の効率的な指導方法についてまとめる。	
第 6 回	数と計算 3 小数と分数	事前学習	テキスト pp. 97~125 を予習する。	
		事後学習	小数と分数の乗除で共通しているルールを元に, 分数÷分数がなぜ分数×逆数と計算できるか, そのわけを 4 通り考える。	
第 7 回	量と測定 面積 (ミカンの表面積は?)	事前学習	テキスト pp. 126~143 を予習する。	
		事後学習	神奈川県面積を 4 種類の方法で求める。	
第 8 回	図形 立体図形 (宝箱作り)	事前学習	テキスト pp. 144~173 を予習する。	
		事後学習	正六角形をした宝箱を作成する。	
第 9 回	数量関係	事前学習	テキスト pp. 174~191 を予習する。	
		事後学習	具体的資料で代表値 (平均値, 中央値, 最頻値) を求める。	
第 10 回	ICT の利用	事前学習	テキスト pp. 242~254 を予習する。	
		事後学習	Web 上から模擬授業に生かせるコンテンツを探して, 指導プランを立ててみる。	
第 11 回	指導案の書き方と実際の授業をビデオで視聴する。	事前学習	テキスト pp. 210~242 を予習する。	
		事後学習	模擬授業用の指導案を作成する。	
第 12 回	模擬授業 (1)	事前学習	指導案の作成と模擬授業の準備	
		事後学習	指導案の修正	
第 13 回	模擬授業 (2)	事前学習	指導案の作成と模擬授業の準備	
		事後学習	指導案の修正	

第 1 4 回	模擬授業 (3)	事前学習	指導案の作成と模擬授業の準備
		事後学習	指導案の修正
第 1 5 回	まとめ	事前学習	この授業内容を振り返って、疑問点等をまとめ、質問の準備をする。
		事後学習	この授業のまとめを行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	システム設計演習 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3316
2. 授業担当教員	竹内 俊彦			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「システム設計」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	ソフトウェア開発において、UML 図は主流だといえるが、いかに優れた設計ツールを使っても、それを実現する方法を知らなければあまり意味を成さない。 本科目では、UML で記述された図を元に、クラスやインターフェースを JAVA プログラミング言語で記述し、実際のプログラムの実装法を行う。			
8. 学習目標	JAVA 言語を学習し、開発環境として Eclipse を使って簡単なシステムを設計する。また、JAVA 言語と UML との関係をよく理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1 自分で作成したいシステムの設計書を作成 課題2 課題1に基づき、各自、Java で作成したいシステムを作成する			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 必要な資料を授業中に配布する。 【参考書】 小泉ひよ子「Java プログラマのための UML 活用ガイド」カットシステム、2004 年 2 月。木村聡「Eclipse で学ぶはじめての Java 第 3 版」ソフトバンククリエイティブ社、2008 年。 河合昭男「ゼロからわかる UML 超入門 -はじめてのモデリング-」技術評論社、2010 年。 平澤章「オブジェクト指向でなぜつくるのか」日経 BP 社、2004 年。 その他、必要な資料は授業中に配布する。			
11. 成績評価の方法	[1] 授業への積極的参加度	50%	[2] 課題1 (仕様書作成)	10%
	[3] 課題2 (プログラム作成)	30%	[4] 発表会	10%
12. 受講生へのメッセージ	システムの設計は、プログラミングの技術を前提として、プログラムしたいものをイメージし、いくつかのクラスに分解し、設計する技術が求められる。学習者の習熟度に合わせ、講義内容を変更することがある。また春期の「システム設計」の受講を強く求める。			
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示するが、時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照すること。なおオフィスアワー以外でも時間が合えば面談するが、事前にメール連絡をすることが望ましい。 totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 本講義の概要説明、UML とは何か、JAVA のインストールと利用、aster-community のインストールと利用	事前学習	aster-community について調べてくる	
		事後学習	Java と aster-community を、自分のパソコンがあればインストールする。	
第 2 回	Eclipse の利用 Eclipse の説明、コードの記述と実行、main メソッド、文字列、シーケンス	事前学習	Eclipse については調べてくる。	
		事後学習	Eclipse を、自分のパソコンがあればインストールする。	
第 3 回	Java によるプログラミング(1) さまざまな演算、型変換、if 文	事前学習	Java の「型」にはどんなものがあるか調べておく。	
		事後学習	各「型」には、どんなデータを格納できるか、説明できるようにする。	
第 4 回	Java によるプログラミング(2) 配列、for 文	事前学習	Java の配列、for 文について予習する。	
		事後学習	Java の配列、for 文を利用した簡単なプログラムを作成できるようにする。	
第 5 回	Java によるプログラミング(3) break 文、while 文、ネスト	事前学習	break 文、while 文、ネストについて予習する。	
		事後学習	break 文、while 文、ネストを利用した簡単なプログラムを作成できるようにする	
第 6 回	オブジェクト指向プログラミング(1) オブジェクト指向でなぜ作るのか、クラスの定義と利用	事前学習	オブジェクト指向について予習する。	
		事後学習	オブジェクト指向プログラミングと、構造化プログラミングの違いを説明できるようにする。	
第 7 回	オブジェクト指向プログラミング(2) クラス、メソッドの作成と利用	事前学習	クラス、メソッドについて予習する。	
		事後学習	クラス、メソッドを人に説明できるようにする。	
第 8 回	オブジェクト指向プログラミング(3) クラス、メソッドを利用した小プログラムの作成	事前学習	クラス、メソッドを利用した簡単なプログラムのアイデアを出す。	
		事後学習	クラス、メソッドを利用した簡単なプログラムを作成できるようにする。	
第 9 回	設計演習 1 自作システムのアイデア出し、仕様書を作成する	事前学習	開発プログラムのアイデアを出す	
		事後学習	授業中に作った開発プログラムの仕様書を改良する。	
第 10 回	設計演習 2 諸図の作成	事前学習	仕様書の作成支援ツールに触れ、各種機能を思い出す。	
		事後学習	自分の開発システムの設計を行う。	
第 11 回	設計演習 3 課題 1 の完成、中間発表会	事前学習	中間発表会に向けて仕様書等を完成させる	
		事後学習	発表会での指摘を受けて仕様書等を改善する	

第 1 2 回	実装 1 システムのプログラミング、個別のアドバイス	事前学習	仕様書等を完成させておく。
		事後学習	自作システムのプログラムを改良する。
第 1 3 回	実装 2 システムのプログラミング、個別のアドバイス	事前学習	自作システムの改良に伴う仕様書の変更をする。
		事後学習	自作ソフトのプログラムを改良する。
第 1 4 回	実装 3 システムのプログラミング、個別のアドバイス、課題 2 の完成	事前学習	自作システムの改良に伴う仕様書の変更をする。
		事後学習	自作ソフトのプログラムを改良する。
第 1 5 回	発表会 課題 2 (開発システム) の発表会、講評、まとめ	事前学習	発表会に向け、プログラムの動作確認と発表資料の準備を行う。
		事後学習	講評に基づき、プログラムを修正する

1. 科目名 (単位数)	死生論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1332 GELA1352
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義を中心とするが主題によっては演習を行う場合がある。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	Death Education デス・エデュケーション (生と死から学ぶいのちの教育) を枠組みに、死、生、性の事柄について多角的に考える。また、Grief Education グリーフ・エデュケーション (悲嘆教育) も内容に含み、死別の悲しみとそこのかかわりについても学ぶ。これらの学びを通して、人間の尊厳について、存在のかけがえなさについて、異質性と普遍性についてなどを理解することで、関係存在としての自らを見つめ直す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 死、生、性、悲嘆を学ぶことで、一人一人の存在のかけがえのなさについて理解する。 2 あわせて、人間は単独では存在できない関係存在であることについて理解する。 3 これらから、生きていくことに対する肯定的な考え方の形成を目指す。 4 さらに、対人援助を志す「福祉、教育、心理」を学ぶ受講者のかかわり技術の形成を目指す。 5 ただし、技術は人間性により支えられるものであり、深く思索するパーソナリティの形成も目指す。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：新聞、インターネットなどから「生命の尊厳」に関する情報の収集を行う。 課題：それについての自分の意見をまとめる。 →単元終了後にレスポンスシートを作成する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 鈴木 康明著『生と死から学ぶ』北大路書房。 【参考書】 鈴木 康明監修『いのちの本』学研。 若林一美著『死別の悲しみを越えて』岩波書店。		
11. 成績評価の方法	レポート 60%、レスポンスシート 20%、授業への参加度 20% なお本学の規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	<p>パスカルは、「人間は、死と不幸と無知とを癒すことができなかったため、幸福になるために、それらのことについて考えないことにした」(『パンセ』中央公論社・世界の名著) と述べておられます。至言である。しかし、だからこそそれらについて受講者と考えてみたいのである。そのためには受講者一人一人の思考力、創造力、問題解決能力が必要であり、その形成を目指し、次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に勤む。 3 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。 <p>なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることを理解しておく。</p> <p>また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 5 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守らない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・講義の目的と内容、評価について ・受講態度と自己教育力について →座席、私語 etc.	事前学習	受講動機を確認しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 2 回	(1) BEING 今在ること ・胎児条項と優生思想を中心に、いのちの「優劣」とはなにかについて考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 1～11 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 3 回	・ダウン症と中絶を中心に、存在する「価値」について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 12、資料 2 を読みそれぞれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 4 回	(2) NOW AND HERE 今を生きる ・生涯にわたる発達と取り上げ、「関係存在」としての人間を考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 20～28 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 5 回	・「青年期」の課題からこれからの自らのあり方を考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 31、資料 2 を読みそれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 6 回	(3) PILOT 先を生きる人々 ・「老い」を理解し、高齢者へのかかわりについて考え	事前学習	教科書 pp. 40～56 を読み要点を整理しておく。

	る。 →グループワーク 討議	事後学習	教科書 pp. 29～31 を読みそれについての意見をまとめる。
第 7 回	(4) SALAD BOWL ともに生きる ・異質性の課題から対人関係構築能力と「多文化共生」について考える →グループワーク 演習 (ある物語)	事前学習	教科書 pp. 59～67 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 8 回	(5) BE THERE ホスピスから学ぶ ・悪性新生物と痛みの事柄から、「かかわり」の意味について考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp. 76～84 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 9 回	・ホスピス緩和ケアの活動からかかわりの意味について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p. 86、資料 2 を読みそれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 10 回	(6) LOST AND GAIN 死別の悲しみ ・「悲嘆と哀悼」から、人間存在の意義について考える。 →ペアワーク 演習 (かかわり技術)	事前学習	教科書 pp. 104～108 を読みそれについての意見をまとめる、
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 11 回	・「グリーフケア」の理論と技術から、対人援助の意義について学ぶ。 →ペアワーク 演習 (かかわり技術)	事前学習	教科書 pp. 94～103 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 12 回	(※) 東日本大震災から ・自らの「これからの生き方」について考える。 →スライド	事前学習	2011 年 3 月 11 日の行動を想起しておく。
		事後学習	グループワーク わからあいの体験
第 13 回	(7) GIFT 賜物 ・デス・エデュケーションとグリーフ・エデュケーションの現状と課題について考える。 →グループワーク 情報交換	事前学習	教科書 pp. 118～127 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 14 回	(8) WILL AND WISH ・臓器移植、「長寿願望」から人間の尊厳について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 pp. 136～144 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 15 回	(※) ダギーセンターから ・親を亡くした子どもの悲しみとかかわりについて考える。 →DVD →グループワーク 討議	事前学習	これまでの講義を通して考えたこと、気がついたことをまとめておく。
		事後学習	小論文作成

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由教育 I (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2452
2. 授業担当教員	須藤 典征			SCMP2452
4. 授業形態	講義、グループ討議		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、肢体不自由児の特徴を理解するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた支援や教育のあり方、指導計画の立て方、指導の実際、評価など、それぞれの留意点について論じる。また、重度重複障害や医療的ケアを要する児童生徒への医療との連携による教育のあり方、肢体不自由児の自立を目指した教育を実践していくうえで、将来的展望に立って、教師に求められる役割や、指導、支援のあり方について考察する。			
8. 学習目標	①肢体不自由児の発育・発達・健康特性について理解する。 ②特別支援教育の時代における肢体不自由教育について理解する。 ③重度重複障害児のニーズに応じた教育について理解する。 ④教育における医療的ケアを要する児童生徒への取り組みについて学ぶ。 ⑤自立活動の意義・重要性を理解し、児童生徒への取り組みについて学ぶ。 ⑥保護者への心理支援も含めた肢体不自由児の指導のあり方について学ぶ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	脳性まひの種類と発達特性について (1200字程度)。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』ミネルヴァ書房、2015。 【参考書】竹田一則著『やさしい医学・生理学』ジエース教育新社、2010。 *その他、配布資料、VTR などを用いて授業を進めていく。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加態度 40% 脳性まひの種類と発達特性についてのレポート 30% 期末試験 30%			
12. 受講生へのメッセージ	肢体不自由児教育の歴史を振り返りながら、「特別支援学校」における教育のあり方を考えていきましょう。自ら問題意識を持ち、積極的に仲間と協議しながら、肢体不自由児教育の基本姿勢を学び、具体的な教育計画が立てられるようにしていきましょう。 *授業には、自らの問題意識を持ち、仲間と協議する気持ちで臨みましょう。様々な人の意見を聴きながら、自分の考えをまとめていけるようにしていきましょう。 授業中の私語、携帯電話の作動は禁止します。節度のある態度で授業に臨みましょう。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	本講義を進行する上での遵守事項の確認 肢体不自由児教育のあゆみ	事前学習	受講に際し「シラバスの 12」を理解し留意する。	
		事後学習	肢体不自由児教育のあゆみを振りかえり、まとめる。	
第 2 回	肢体不自由児の実態と肢体不自由教育の実際 肢体不自由児の教育①普通学級・特別支援学級の教育	事前学習	肢体不自由の言葉の意味を確認し、まとめる。	
		事後学習	肢体不自由児の教育の「場」についてまとめる。	
第 3 回	肢体不自由児の教育②特別支援学校の教育 脳性まひ児の運動発達と教育的支援について①	事前学習	脳性まひの概念をまとめる。	
		事後学習	脳性まひの特性についてまとめる。	
第 4 回	脳性まひ児の運動発達と教育的支援について② 肢体不自由児の二次障害について	事前学習	定型発達児の運動発達について確認し、まとめる。	
		事後学習	肢体不自由児の二次障害についてまとめる。	
第 5 回	肢体不自由教育の教育課程について 自立活動における取り組み① 医療的ケアについて	事前学習	教育における医療的ケアとはどんなものか考え、まとめる。	
		事後学習	特別支援学校の「自立活動」についてまとめる。	
第 6 回	自立活動における取り組み② 「個別の指導計画」について①	事前学習	「個別の指導計画」とは何か調べ、まとめる。	
		事後学習	「個別の指導計画」作成の意義をまとめる。	
第 7 回	「個別の指導計画」について② 家庭・地域との連携による教育の充実	事前学習	家庭・地域で何が「資源」であるか考え、まとめる。	
		事後学習	家庭・地域との連携を考えまとめる。	
第 8 回	まとめ 肢体不自由児教育のあゆみ①	事前学習	第 1 回の講義ノートを振り返りまとめる。	
		事後学習	肢体不自由児教育に尽力した人名を確認する。	
第 9 回	肢体不自由児教育のあゆみ② 肢体不自由児の実態と肢体不自由教育の実際	事前学習	第 2 回の講義ノートを振り返りまとめる。	
		事後学習	本講義内容の課題について考えまとめる。	
第 10 回	肢体不自由児の教育①普通学級・特別支援学級の教育 肢体不自由児の教育②特別支援学校の教育	事前学習	特別支援教育の概要を振り返りまとめる。	
		事後学習	本講義内容の課題について考えまとめる。	
第 11 回	脳性まひ児の運動発達と教育的支援について③ 脳性まひ児の運動発達と教育的支援について④	事前学習	第 3 回の講義内容を振り返りまとめる。	
		事後学習	本講義内容の課題について考えまとめる。	
第 12 回	肢体不自由児の二次障害について 教育における医療的ケアについて	事前学習	第 4 回の講義内容を振り返りまとめる。	
		事後学習	教員が行える医療行為について理解する。	

第 1 3 回	「学習指導案」の作成①	事前学習	第 5 回の講義内容を振り返りまとめる。
		事後学習	本講義内容の課題について考えまとめる。
第 1 4 回	「学習指導案」の作成②	事前学習	第 1 3 回の作成状況を確認しておく。
		事後学習	学習指導案の課題について考え、まとめる。
第 1 5 回	「学習指導案」の発表	事前学習	発表の準備を確実にしておく。
		事後学習	発表後の課題について考え、まとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位 数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1101 PSMP2402
2. 授業担当教員	上木 文夫		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、 学外調査	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関 係			
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレ ポート課題	<p>「学外調査として、夏期休校期間中に、自分が居住する地域 (市区町村) の『子ども家庭』に関する問題や課題について調査し、分かったこと、理解したこと、発見したこと等を報告書にまとめる。」</p> <p>※レポートのタイトルは、自分で考えて表紙に記載すること。 ※レポートは、A4 サイズ横書きで3 枚程度とする (表紙は枚数に含まれない)。 ※調査方法としては、可能な限り学校などの教育機関、児童館などの児童福祉施設、市 (区) 役所や町 (村) 役場、保健センターなどの機関訪問をする。又は、民生委員・児童委員など地域の「子ども家庭事情」に詳しい方から「子ども家庭」に関する話を聴くことが望ましい。子ども家庭福祉に関連する施策に関するチラシやパンフレットなども頂き、レポートに添付することが望ましい。 ※提出は、夏期休校期間明けの最初の授業時とする。</p>		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第5 版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方 法	<p>①「振り返りシート」(小テスト扱い) への記入を含む授業への参加度、及び貢献度 60%</p> <p>②学外調査レポート 20%</p> <p>③期末試験 20%</p> <p>以上、満点を 100%として評価を付ける。</p> <p>※「振り返りシート」は、ランダムに数度、授業中に実施する。いわば、抜き打ちの小テストの扱いとなるが、全出席が基本となるため、日程は事前に提示しない。それまでの授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかを評価基準とする。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目は、社会福祉士国家試験の出題科目であり、履修は受験資格取得において必須条件となっています。また、資格取得を目指していない学生にとっても、社会福祉における中軸の一つをなす科目ですので、真摯な気持ちで受講して下さい。また学習内容は、私達の日常生活、地域生活に直結しており、社会福祉を学ぶ者にとっての一般常識的な内容も含まれています。一方で、専門的な固有性をもった内容も含まれているため、積極的な授業への参加が求められます。「振り返りシート」はランダムに実施されますが、配点が高い評価項目です。全出席が基本ですので、体調管理に気を付けて授業に臨んで下さい。</p>		
13. オフィスアワ ー	<p>原則として、小さな質問については授業前後の休み時間に声掛けをして下さい。時間が掛かりそうな相談や質問の場合、授業の前後にお互いに相談 (打ち合わせ) をした上で、個別に日時と場所の設定をします。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日 程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業概要の説明と科目の位置づけ 「児童福祉論」から「児童・家庭福祉論」への変遷の理解	事前学習	シラバスを熟読しておく。 指定テキストが入手できたら、目次を確認しておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 2 回	現代の「子ども家庭」を取り巻く現状と課題① 少子高齢社会と現代社会の諸相	事前学習	日本の少子化率の推移について調べる。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 3 回	現代の「子ども家庭」を取り巻く現状と課題② 現代における子どもたちの実像	事前学習	日本の「子どもの貧困」の実態について調べる。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。

第 4 回	「子ども」「子ども家庭」における基本原理、基本理念と子どもの権利条約	事前学習	子どもの権利条約の成立過程についてまとめる。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 5 回	子どもの権利条約の概要について 「受動的権利」及び「能動的権利」 児童観の変遷について 子どもの捉え方と子どもの権利の変遷	事前学習	子どもの権利条約における「意見表明権」とは何かを調べる。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 6 回	視聴覚教材「もう泣かない」の鑑賞を通じて、子どものダイナミズムと支援者に求められる資質について考える	事前学習	「グループダイナミクス」という概念について調べる。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 7 回	視聴覚教材「もう泣かない」の鑑賞を通じて、子どもと親との関係、及び家族支援のあり方を考える。	事前学習	自分なりに、子どもが求める大人像について考えておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 8 回	子ども家庭福祉の歴史的展開について 日本の児童福祉の歴史	事前学習	戦後の児童福祉の歴史について調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 9 回	子ども家庭福祉の法体系について① 児童福祉法、児童虐待防止法など	事前学習	児童福祉法が、いつ頃、どのような背景の下に成立したかについて概略を調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 10 回	子ども家庭福祉の法体系について② DV防止法、児童買春禁止法、発達障害者支援法など	事前学習	児童福祉法以外にどのような関連法があるか調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 11 回	子ども家庭福祉の実施体制について 児童相談所、児童家庭支援室（福祉事務所） 民生委員・児童委員など	事前学習	児童相談所の機能と役割について調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 12 回	児童福祉施設の種別とサービス内容について 特に、社会的養護としての施設ケアのあり方と形態	事前学習	興味のある児童福祉施設について調べておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 13 回	障害児、難病児などの福祉とサービスについて 自閉症スペクトラムの理解を中心に	事前学習	「障害」とは何かを自分なりに考えておく。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 14 回	被虐待児童の実態と相談援助活動	事前学習	被虐待児童に関する相談件数の推移を調べる。
		事後学習	本日の授業内容をまとめ、振り返りシートに備える。
第 15 回	情緒・行動障害児の実態と相談援助活動	事前学習	情緒・行動障害にはどのようなものがあるかを調べる。
		事後学習	期末試験の対策をしっかりとしておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2102 SCMP2302 SBMP2302 SJMP1101
2. 授業担当教員	田中 良幸		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>日常の学習姿勢が大切です。日ごろから新聞やテレビニュース等のマスコミを通して、今、子どもの生活と家庭にどのようなことが起きていることに興味を持つことが期待されます。課題図書購読を学期初めから長期休みをはさんで求めます。各課題図書についてレポート提出が必要です。その他、適宜、レポートの提出を求めます。本シラバスの「学習課題」欄の内容は実施する際、必要なスタイルを習得できるようにしてください。随時、講義内容に関しての発言やグループディスカッションを求めます。「授業への貢献度」を重視するので、積極的な関わりを期待します。</p> <p>授業計画は進度等によって変更もあり得ます。レポートはこちらからの書式や指示、説明に従って作成されることが期待されます。締切を厳守して提出すれば加点され、独自性や考察の適切さ等でさらに加点されます。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第 5 版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への貢献度 20%、レポート 20%、小テスト 20%。また、長期休みに課題本に関するレポート提出 20% を求めます。期末に到達度試験 20%を行います。グループ活動でのディスカッションや発表への積極的な取り組み、真摯な授業態度は加点対象となり、満点を 100%として評価を付けます。居眠り、私事、私語等への改善が見られない場合は注意書、警告書を発行し、中途退出を求めることがあります。</p> <p>始業時間開始以降、社会的にやむを得ないと認められる遅延 (人身事故・電車故障・災害など) の場合は遅延証を持参のうえ個別に相談すること。遅刻を合算して欠席とみなすことはないが、4 分の 3 以上の出席が必須であるという本学の規程は厳守してください。</p> <p>レポートでのコピー、試験時のカンニング等の不正行為が発覚した場合は無条件で F 評価とします。</p> <p>理解確認カードへの記入を必要に応じて適宜実施する。授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかで評価します。小テスト、期末テストは、穴埋め選択形式と記述式を組み合わせで行います。例：穴埋め 1 問 2 点×20 問 40 点、記述問題 60 点で 100 点満点です。基本的かつ重要な項目を中心に問うが、授業では教科書を読んでいくことはしないので、自主的に教科書を精読してください。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「児童福祉論」は「子ども家庭福祉論」という科目名で最近では呼ばれることがある。なぜ、「子ども」となり、そこに「家庭」が付くようになったのだろうか、また、グローバル時代の今日、どのような視点から子どもと家族を理解する必要があるのだろうか。国や家庭によって子どもの課題は変わることがある。では、何は同じ対応でよくて、どこを変える必要があるのか等を探求をし、考えてみる。学びのきっかけは、こうした素朴な疑問から出発します。様々な人々がそれぞれ自分たちの社会規範や価値観を抱いて同じ社会を構成する時代となった今日、正解のない事柄について授業を通して一緒に考えていきましょう。</p> <p>必要に応じて、映像を活用したり、レジュメを用意しますが、欠席した回のレジュメが欲しい場合など、気軽に研究室に来室してください。</p>		
13. オフィスアワー	別途研究室に掲示する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要と進めかた	事前学習	シラバスを熟読しておく。
	【課題図書の提示 1】 グループ活動導入	事後学習	「子育て」と「子育て」に対するイメージを言語化し、書き出す。
第 2 回	子どもの権利と人権：今、世界で子どもに何が起きているのか 映画鑑賞 1	事前学習	「人身売買」「子ども兵士」「代理出産」という言葉について調べておく。
		事後学習	「子どもの権利条約」を確認し、現代社会における国や

			地域での子どもの置かれた立場の違いをまとめておく。
第 3 回	子どもの歴史①：世界史にみる子どもの生活状況（虐殺・虐待・誘拐等） 映画鑑賞 2	事前学習	「エリザベス救貧法」「ワークハウス」「子どもの誕生」「ナチ・ホロコースト」「人身売買」「子ども兵士」等を調べる。
		事後学習	「子ども」「青少年」「成人」の定義、世界史に見る子どもが置かれた状況を考察する。
第 4 回	子どもの歴史②：日本史にみる子どもの生活状況 古代、中世までの日本 グループ活動	事前学習	日本の古代、中世の子どもの生活を調べてみよう昔話の中の子ども等を自分で調べておく。
		事後学習	日本の近世以前の子どもの生活の様子を考察し、整理する。
第 5 回	子どもの歴史③：日本史にみる子どもの生活状況 近代以降の子どもの置かれた社会的状況	事前学習	明治以降の日本の子どもの生活を調べてみよう
		事後学習	昭和時代までの子どもの歴史を考察し、整理する。
第 6 回	現代社会と子ども・家庭	事前学習	現代の子どもの生活の特徴をチェックする。
		事後学習	現代までの子どもの置かれた歴史をまとめ、考察する ⇒課題をレポートにまとめる
第 7 回	障害のある子どもと家庭支援 グループ活動	事前学習	「ヒルコ」「福助」という言葉について意味を調べる。
		事後学習	「障害」のある子どもとその保護者の生活とその課題を理解し、どのような支援が必要となるかを考察する。
第 8 回	子ども福祉関連法・制度 1	事前学習	社会福祉小六法で児童福祉法の概要を読み、児童相談所に関連する資料を検索しておく。
		事後学習	「子どもの貧困」に関する資料を集めて読んでおく
第 9 回	子ども福祉関連法・制度 2 児童虐待防止法の変遷と課題 映画鑑賞 1	事前学習	児童虐待防止法について調べてみる。
		事後学習	児童虐待防止法と児童福祉法の関連をまとめる。
第 10 回	子ども福祉関連法・制度と関連機関；福祉・保健 1 映画鑑賞 2	事前学習	児童福祉法を読んで、項目を理解しておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスについて理解する。
第 11 回	子ども福祉関連法・制度と関連機関；福祉・保健 2	事前学習	社会福祉六法体制の内訳は何か、書き出しておく。
		事後学習	課題図書の提示
第 12 回	援助活動の実際 1	事前学習	就学前の子どもの養育制度の概要を調べておく。
		事後学習	学生前の子どもの養育困難の支援と効果をまとめる。
第 13 回	援助活動の実際 2	事前学習	社会的養護について事前に自分で概要を調べておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスを整理する
第 14 回	グループによる課題報告発表	事前学習	テーマについて各グループで発表準備をしておく。
		事後学習	他グループの発表を含めて要点を確認する。
第 15 回	まとめ	事前学習	全授業を通してのキーワードの確認と不明点の整理。
		事後学習	全 15 回を振り返り、学習目標が達成できたかどうかを確認し、児童・家庭福祉論Ⅱに向けて準備をする。
期末試験として期末に到達度試験 20%を実施します			

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2303 SCMP2303 SBMP2303
2. 授業担当教員	田中 良幸	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーションなどを取り入れた形態を重視する。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、児童・家庭福祉論で学んだ、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動などを復習した上で、児童・家庭福祉論Ⅱでは、子ども家庭にかかわる福祉・保健政策について、とりわけ子どもの貧困など、グループでテーマを設定した上で、学習を進め、成果を発表する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。授業の進め方は、授業開始時に分けたグループでの研究が基本となる。また、学生が授業運営に参画する度合いを増やす。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 ・グループでの研究を通じて、文献の読み方、資料の集め方、調査の方法を理解し、活用できるようにする。 ・グループでの研究を通じて、研究の目的、方法、結論、考察をいった手順を活用できるようにする。 ・グループでの発表を通じてプレゼンテーションの方法を身につける。 ・その他、文章の要約方法、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	日常の学習姿勢が大切です。日ごろから新聞やテレビニュース等のマスコミを通じて、どのようなことが今起きているのかについて関心を持つことが期待されます。課題図書を読んでのレポート提出を学期初めから冬休みをはさんで求めます。その他、適宜、レポートの提出を求める。レポートは独自性や考察の適切さ等で基本点にさらに加点されます。随時、講義内容に関しての発言やグループディスカッションを求めます。「授業への貢献度」を重視するので、積極的な関わりを期待します。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>随時、授業内容に即した資料を配布する。映像教材も適宜使用する。参考文献はその都度、授業内で紹介する。『社会福祉小六法』及び『社会福祉用語辞典』（ともに出版社は問わないがなるべく版の新しいもの）は一人一冊ずつ持っているとう望ましい。</p> <p>文献の一部を例示する。</p> <p>チャールズ・ディケンズ 中村能三訳「オリバー・ツイスト」新潮社 1955年</p> <p>社団法人日本社会福祉士会編集『対日外国人の実践事例から学ぶ 多文化ソーシャルワーク』中央法規 2012</p>		
11. 成績評価の方法	<p>積極的な発言等は授業への貢献となります。さらに、グループ活動でのディスカッションや発表への積極的な取り組み、真摯な授業態度は加点対象となり、満点を 100%として評価を付けます。全出席を前提として授業を進めます。居眠り、私事、私語等への改善が見られない場合は注意書、警告書を発行し、中途退出を求めることがあります。</p> <p>始業時間開始以降、社会的にやむを得ないと認められる遅延（人身事故・電車故障・災害など）の場合は遅延証を持参のうえ個別に相談してください。遅刻を合算して欠席 1 回とすることはありませんが、4 分の 3 以上の出席が必須であるという本学の規程は厳守してください。</p> <p>レポートでのコピー、試験時のカンニング等の不正行為が発覚した場合は無条件で F 評価とします。授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかで評価します。小テストは、穴埋め選択形式と記述式を組み合わせます。基本的かつ重要な項目を中心に問いますが、授業では教科書等をそのまま読んでいくことはしないので、自主的に教科書や必要文献を精読することが必要となります。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	グローバル化を迎えた今日、日本社会は海外にルーツを持つ人たちとのより調和のとれた共生が求められています。子どもの福祉、家庭福祉の在り方は、歴史的にその変化をみるだけでも（縦の軸）、また日本の今日の社会状況だけをみても（横の軸）決して正しく理解できるわけではありません。グローバル化の意味を社会的マイノリティとして児童・家庭福祉の視座から考えることは実践に必須となります。さらに、多様な社会的マイノリティの人たちの理解を深めることで、価値観や家庭の生活スタイルが異なる家庭で育っていく子ども達が、どのようなことはうまくいっており、どのような時につまずきやすいかを知ることで日本の社会の特徴の理解することは大切です。本講義を通して物事を多元的に考える力を養いましょう。		
13. オフィスアワー	<p>オフィスアワー : 初回授業で周知します。オフィスアワー以外の来室も可能です。なるべくメール (yotanaka@ed.tokyo-fukushi.ac.jp) で事前にアポ (約束) を取ってから来室が望ましいですが、オフィスアワーは基本的に在室していますので対応します。</p> <p>学外研究日 : 初回授業で周知します</p> <p>研究室の場所 :</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要と進めかた 「児童福祉」「児童・家庭福祉」の定義の歴史の変遷とその意義 映画『オリバー・ツイスト』前篇	事前学習	シラバスを熟読しておく。児童・家庭福祉論Ⅰを受講した学生は、「児童・家庭福祉」に対するイメージがどう変容したのか、整理する。
		事後学習	家族、社会の状況を調べ、エリザベス救貧法の持つ時代背景を考えておく。
第 2 回	映画『オリバー・ツイスト』後編鑑賞後、グループで何	事前学習	親や親族等の身近の人から子供時代の生活の様子を聞き、時代背景を踏まえた理解の重

	を発見したかについて意見を交換してまとめる		要性を自分で考えてみる。
		事後学習	視聴を通して発見した自分なりの課題を明らかにして、その時代背景と社会の様子をまとめておく。
第 3 回	「グローバル化による人の移動と生活」 グループ活動	事前学習	事前に用意された課題（言語の意味）を自分で調べておく。自分の生活の中で、両親共に日本人ではない等をしたどのようなグローバル化の影響を体験したかをまとめておく。
		事後学習	授業内容をふまえて、言語の持つ意味と子どもの生活への影響をまとめる。
第 4 回	「グローバル化による人の移動と生活」② グループ活動	事前学習	事前に用意された課題（文化の意味）と関連させて、自分たちが日常新たな体験で戸惑ったことをまとめておく。
		事後学習	文化、社会規範、慣習についてまとめる。
第 5 回	「子どもの貧困」 1 グループ活動	事前学習	「相対的貧困率」の概念について調べ、OECD やユニセフのサイトで、日本の貧困率が主要先進国中何位であるか調べる。0. ルイスの「貧困の文化」の概念について学習しておく。
		事後学習	どのような時に子どもの貧困と呼ばれる状況に陥るのかを自分で整理しておく。
第 6 回	「子どもの貧困」 2	事前学習	特にひとり親家庭の貧困について、マルサスの「貧困の罨」概念とその批判を説明できるようにしておく。
		事後学習	社会のその時の生活水準と時代による変化で貧困概念が変化する事例を家電製品の普及を例にして調べて、まとめる。
第 7 回	「社会的養護」 グループ活動	事前学習	社会的養護の仕組みにはどのような制度や機関があるかを調べておく。
		事後学習	どのような状況の時に子どもは社会的養護の社会的意義と効果の限界を整理する。
第 8 回	「社会的養護」②	事前学習	各世代で必要な支援と社会制度を調べる
		事後学習	支援のための施設、里親制度等を確認する。
第 9 回	「子どもの権利擁護」 グローバルなマクロ視点と個別事例についてのミクロ視点の融合	事前学習	なぜ子供に権利が必要なのかについて、契機となった社会背景を調べるとともに、「子どもの権利条約」の内容を探ってくる。
		事後学習	子どもの権利侵害についての事例の持つ意味を考えてみる
第 10 回	「子どもの権利擁護」 子どもの自己決定とパターナリズム グループ活動	事前学習	自分の生活等を振り返る中で権利擁護を考えてみる
		事後学習	授業で学んだ論点に照らして考察する。
第 11 回	「自己決定と自己責任」 子どもの自己決定とパターナリズム 児童ポルノ法を例に考える	事前学習	「自己決定」について自分で調べ、課題を考える。また、児童ポルノ法の概要を調べ、課題を明らかにしておく。
		事後学習	課題図書提示
第 12 回	「家庭内の関係不調及び不全」グループ活動	事前学習	マスコミで取り上げられた最近の子どもによる非行事件の一つ調べる。
		事後学習	非行に走る子どもの背景、家庭要因、個別要因について考えをまとめる。
第 13 回	「社会的マイノリティ」としての要支援家庭：少年非行と社会的逸脱	事前学習	前編の内容を総括しておく。
		事後学習	どのような人々がどのようなマイノリティ集団を形成し、どのような生活を送っているのかを考える
第 14 回	「社会的マイノリティ」としての要支援家庭	事前学習	各グループで選択した課題を調べる。
		事後学習	グループ発表に備えて資料をまとめる
第 15 回	グループ発表とまとめ	事前学習	全授業を通しての不明点を整理しておく。
		事後学習	全 15 回を自分でいまいちど振り返り、児童・家庭福祉論と、その他関連科目との接合を整理する。また、自分で関心を持った課題が達成できたかどうか、自己点検する。

1. 科目名(単位数)	児童・家庭福祉論Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SJMP3101
2. 授業担当教員	高柳 瑞穂		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーションなどを取り入れた形態を重視する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	児童・家庭福祉論を履修済みであることが望ましい。家庭支援論を並行履修するとより理解が深まる		
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、児童・家庭福祉論で学んだ、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動などを復習した上で、児童・家庭福祉論Ⅱでは、子ども家庭にかかわる福祉・保健政策について、とりわけ子どもの貧困など、グループでテーマを設定した上で、学習を進め、成果を発表する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。授業の進め方は、授業開始時に分けたグループでの研究が基本となる。また、学生が授業運営に参画する度合いを増やす。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 ・グループでの研究を通じて、文献の読み方、資料の集め方、調査の方法を理解し、活用できるようにする。 ・グループでの研究を通じて、研究の目的、方法、結論、考察をいった手順を活用できるようにする。 ・グループでの発表を通じてプレゼンテーションの方法を身につける。 ・その他、文章の要約方法、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>毎回の授業時に集中力を以て臨むことが求められる。</p> <p>本シラバスの「学習課題」欄の内容について提出を求めることは原則ないが、各自で取り組むことが望ましい。細かさよりも効率よく要点を把握することが大切である。随時、講義内容に関しての発言やグループディスカッションを求める。これは「授業への貢献度」の対象となり、加点方式である。積極的な関わりを期待する。</p> <p>レポート(任意提出)の内容は、授業で扱った年号を時系列に整理し、オリジナルの年表を作成するというものである。すべての年号を網羅すればよいというものではなく、内容別、テーマ別、国別、人物別など、自分で考えたテーマに従ってきちんと整理して記述することが求められる。講義全体を理解していなければ、自分の年表が講義のどの部分を取り上げたものなのかを説明できず、根拠も不明確なものとなるだろう。講義全体の理解度を問うとともに、シラバス8.であげた力が身に付きつつあるかを確認する、中間総括的なレポートといえる。レポートを課す時期と締切はシラバス14.に示すとおりであるが、キャンパスの授業計画や進捗等によって変更もあり得る。こちらからの書式や指示、説明に従って作成されており、締切を厳守して提出すれば5点が付与され、独自性や考察の適切さ等でさらに加点され、15点満点で評価する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>随時、授業内容に即した資料を配布する。映像教材も適宜使用する。参考文献はその都度、授業内で紹介する。『社会福祉小六法』及び『社会福祉用語辞典』(ともに出版社は問わないがなるべく版の新しいもの)は一人一冊ずつ持っているが購入は義務ではない。当科目だけでなく他の科目でも大いに役立つ。</p> <p>なお、授業内で参考にする予定の図書をあらかじめ紹介しておく。授業時にはプリントを配布するので購入は義務ではない。</p> <p>山野良一『子どもの最貧国・日本』光文社新書、2008 ささやななえ『新・凍りついた瞳』集英社文庫、2012 中根成寿『知的障害者家族の臨床社会学』明石書房、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>コメントカード・ディスカッションを含む授業への貢献度 40%、小テスト 30%×2回。レポート(任意提出)はこれとは別に加点される。その他、積極的な取り組みや真摯な授業態度は加点の対象となる。全出席を前提として授業を進める。こちらからの指示なく私語をした場合は退席を求め、その回を欠席と見なすことがある。</p> <p>始業時間に1分でも遅れた場合は遅刻となる。遅延証は受け付けない。遅刻を合算して欠席1回とみなすことはないが、本学規程に基づき出席が4分の3未満の場合、単位付与されない。</p> <p>レポートのコピー、試験時のカンニング等の不正行為ないしそれと疑われる行為は無条件でF評価とする。コメントカードは、ランダムに数度、授業中に実施する。授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかで評価する。</p> <p>小テストは社会福祉士国家試験と同様、5者択一のマークシート方式で行う。10～15問で30点満点である。それが2回実施される。他の科目とも接合するような、ごく基本的かつ重要な項目を中心に問うが、授業を欠席した者にとっては難しく感じるだろう。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	児童福祉、家庭福祉の在り方は、歴史的に見ても(縦の軸)、また現代だけをみても(横の軸)決して一樣ではありません。本講義を通して、物事を多元的に考える力を養いましょう。		
13. オフィスアワー	<p>オフィスアワー : 授業内で通知します。オフィスアワー以外の来室も可能です。なるべくメール(mimatsum@ed.tokyo-fukushi.ac.jp)で事前にアポ(約束)を取ってからの来室が望ましいですが、アポ無しでの来室にもできる限り対応します。</p> <p>学外研究日 : 授業内で通知します</p> <p>研究室の場所 : 13号館(6号館斜め向かい、セブンイレブンの脇道入ったところ)5階951号室</p> <p>メールボックス : 研究室のドアに袋があるほか、6号館1階にメールボックスがあります。</p>		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要と進めかた 「子ども家庭福祉」「家族」の定義	事前学習	シラバスを熟読しておく。
		事後学習	児童家庭福祉論の受講を通して、あるいは大学入学後の学びを通して、「児童家庭福祉」に対するイメージがどう変容したのか、整理する。
第 2 回	子どもの貧困①	事前学習	「相対的貧困率」の概念について調べる。OECD やユニセフのサイトで、日本の貧困率が主要先進國中何位であるか調べる。
		事後学習	特にひとり親家庭の貧困について、「貧困の罅」という概念を用いて説明できるようにしておく。
第 3 回	子どもの貧困②	事前学習	「逸脱」という概念について調べておく。
		事後学習	授業内容をふまえて、0.ルイスの「貧困の文化」の概念について学習しておく。
第 4 回	子どもの権利と人権①：ルソーの思想から	事前学習	前近代ヨーロッパの子ども観について調べておく。未視聴の者は映画『オリバー・ツイスト』を視聴しておく、エリザベス救貧法下の子ども観を理解する手助けとなる。
		事後学習	ルソーの性善説的教育論について、自分の言葉で説明できるように整理しておく。
第 5 回	子どもの権利と人権②：エレン・ケイの思想から	事前学習	エレン・ケイとヤヌシュ・コルチャックについて調べておく。
		事後学習	ケイとコルチャックの思想の類似点や違いを整理し、それが国連の現代の児童の権利観にどのようにつながっているかを考察する。
第 6 回	子どもの自己決定とパターンリズム①：パターンリズムとは何か	事前学習	「自己決定」とは何か、考える。
		事後学習	自分の身近なパターンリズムの例を一つあげ、授業で学んだ論点に照らして考察する。
第 7 回	映像教材①：『アメリカン・クライム』前編【小テスト①実施】	事前学習	1960年代のアメリカについて、時代背景を調べる。
		事後学習	虐待の要因について、虐待者個人に帰せられる要因以外を列挙しておく。後編視聴に備えて前編の内容を整理しておく。
第 8 回	映像教材②：『アメリカン・クライム』後編	事前学習	集団ヒステリーについて調べておく。
		事後学習	現代の日本の児童虐待問題との共通点や相違点を整理する。
第 9 回	子どもの自己決定とパターンリズム②：東京都青少年健全育成条例を例に 【レポート課題の提示】	事前学習	青少年にとっての「健全」とは何か、考察する。
		事後学習	非実在青少年の性表現の規制について、自分の考えをまとめる。
第 10 回	子どもの自己決定とパターンリズム③：児童ポルノ法を例に	事前学習	児童ポルノ法の概要を調べる。
		事後学習	売買春とパターンリズムの関係について考察する。
第 11 回	児童虐待①：『新・凍りついた瞳』より「長い家路 前編」	事前学習	「非行」のイメージを書き出しておく。
		事後学習	自立援助ホームの意義を整理する。
第 12 回	児童虐待②：『新・凍りついた瞳』より「長い家路 前編」 【レポート提出】	事前学習	非行少年による事件の一つ以上調べる。
		事後学習	非行児童への効果的な支援方法について考える。
第 13 回	児童虐待③：『新・凍り付いた瞳』「長い家路 後編」虐待を打ち明けてきた子どもへの対応	事前学習	前編の内容を総括しておく。
		事後学習	虐待を打ち明けてきた子どもへの対応について、自らがそのような場面に立ち会った場合に実践できるよう、考える。
第 14 回	障害者家族の問題とその支援①：父親の視点から	事前学習	障害のある児童の現状について、概要を調べる。
		事後学習	障害のある児童の家族への支援について考察する。
第 15 回	障害者家族の問題とその支援②：障害のある子どもの権利 【小テスト②実施】	事前学習	全授業を通しての不明点を整理しておく。障害児（成人の「子ども」も含む）殺しの事件について調べておく。
		事後学習	全 15 回を自分でいまいちど振り返り、児童家庭福祉論、家庭支援論や、その他関連科目との接合を整理する。また、シラバス 8. が達成できたかどうか、自己点検する。

1. 科目名 (単位数)	児童環境保健論 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3307
2. 授業担当教員	小此木 久美子		
4. 授業形態	講義と演習を併用した双方向型学習形態	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>少子高齢社会のなかで、児童を取り巻く自然環境、社会文化的環境を改めて見つめ、人類の生活生存を生態系としてとらえることは重要な教育的意義を有する。成長期にある児童が、それぞれの発達段階を健康に生きていくためには、自然環境からの刺激が必要である。人類の進化の過程で獲得された環境適応能力は、個体発生を繰り返していることを認識することから出発する。人が健康生活を営む能力は、児童の成長を軸とした各種環境要因との相互作用を理解することが重要である。日光、空気、気象、日内リズム、食品など、各種環境要因を自然科学的、人間生物学的に理解するとともに、人間社会の歴史的・文化的適応能力の発達について考える。この過程を通して、参加学生それぞれの専攻、学部、学科を基盤にして、ある生活環境下での児童の生命の営みについて課題を見つけ、研究を深め、意見交換を行い、他分野理解を深めたい。</p>		
8. 学習目標	<p>人間は自然の一部であることを生態学的に捉えると共に、子育ての社会化（社会的養護含）の視点を導入し、少子高齢化社会のなかでの児童の生活生存権を護るための教師力（養護力）を理論と実践両側面から修得することができる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童の発育発達の法則性について、生きる力の育成の視点から考察する 2 都市化・人工化が児童の心身発達及び人格形成に及ぼす影響についてまとめる 3 児童の人権と子育ての社会化を児童福祉の視点で考察し行政施策について考察する 4 児童の理解を、生涯保健の立場から、考える事の意義について考察する 5 児童虐待予防対策について専門職としての役割について考察する 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>鈴木路子・関口恵美他『教育の基盤としての公衆衛生看護ノート』教育新聞社 2014 鈴木路子編『人間環境・教育福祉論』光生館 2007 年</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1 授業態度・振り返りや気づき 30% 2 レポート課題発表 40% 3 期末試験 30% 計 100%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>人間・環境・社会を包括とした「児童環境保健論」の学びを関連領域の学習を深めディスカッションを通して自分の発達力を磨き、少子高齢化の中で、人間の命の尊厳に焦点を当てた学びを深めてほしい</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業前後の時間帯</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	自然の一部としての人間その成長過程を探る —自然環境と人の適応—	事前学習	適応及び適応能力の発達について調べ、適応の概念形成を理解する。
		事後学習	各自の生育環境と疾病罹患傾向の自分史を記述する。
第 2 回	乳幼児期(学齢期・思春期・壮年期を見通しての発達と環境—五感の発達と環境刺激—)	事前学習	皮膚粘膜・視覚・聴覚・平衡感覚・臭覚の発達過程を生理学的に調べる。
		事後学習	人間の五感の発達を基盤にした臨床保育の実践事例を連動させる。
第 3 回	乳幼児の発達と環境刺激 —皮膚粘膜による生体防御機能の発達—	事前学習	疾病予防のための免疫概要(生体防御機能を予習する)。
		事後学習	環境微生物との触れあいが少なくなった現代にあって、増加していく疾病罹患傾向を理解する。
第 4 回	乳幼児、思春期の成長課程と環境刺激 —自律神経系の発達と生体リズム—	事前学習	自律神経について調べる。
		事後学習	一日の生活リズムの確立と自立神経系の発達が連動していることを改めて認識する。
第 5 回	乳幼児・思春期及び老年期と環境刺激 —中枢神経・内分泌系・免疫系の発達と疾病罹患傾向—	事前学習	脳・内分泌・免疫の相互関連性を調べる。
		事後学習	生涯保健・発達の立場を理科し、生活環境との関わりから疾病や傷害を位置づけ対策を考察する。
第 6 回	乳幼児・思春期及び老年期と環境刺激 —内分泌系・免疫系の発達と疾病罹患傾向	事前学習	脳・内分泌・免疫の相互関連性を各種文献から、再評価する。
		事後学習	生涯保健・生涯発達の立場を理解し、生活環境との関わりから、疾病や障害を位置づけ、対策を考える。
第 7 回	環境と乳幼児の疾病—感染症とアレルギー	事前学習	感染とアレルギーの起こり方の基本を復習する。
		事後学習	乳幼児期の疾病を、学齢期、思春期以降へつないで学ぶ。生涯保健の意義を考える。
第 8 回	環境と乳幼児、学齢期、思春期、青壮年・老年期の疾病—生体リズムの脱同調と生活習慣病—	事前学習	生体リズムの同調・脱同調について復習する。

		事後学習	生活習慣病について、その連続性について、充分理解し、保健指導案を作成し、実践してみる。
第 9 回	いじめ、虐待、各種ストレスと児童の発達 －社会的養護と児童家庭福祉－	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」第Ⅱ部 熟読
		事後学習	各種事例を通して、社会的養護に必要な性を学ぶ、とくに発達、人格形成への影響を習得する。
第 10 回	子ども家庭福祉にかかわる法体系	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」 pp.111-122 熟読
		事後学習	執筆者関口先生の家庭裁判所調停員としてのご経歴を背景にした専門領域を質問、習得する。
第 11 回	子ども家庭福祉にかかわる 専門職	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」 pp.123-133 熟読
		事後学習	授業後の指導課題(教科書演習課題 p133)を行う。
第 12 回	児童の社会的養護サービスへの支援	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」 pp134-140 熟読
		事後学習	授業後の指導課題(教科書演習課題 p140)を行う。
第 13 回	ひとり親家庭への支援	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」 pp141-147 熟読
		事後学習	授業後の指導課題(演習課題 p146)を行う。
第 14 回	子ども家庭福祉とネットワーキング －虐待事例から学ぶ－	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」 pp148-171
		事後学習	授業後の指導課題 (演習課題 p.151、p.155、p.157、p.159、p.161、p.163、p.166、p.168、p.170)
第 15 回	児童をめぐる自然科学的アプローチと社会福祉学的アプローチ－児童環境保健論の究極的な目標と今後の課題－ 学生とのディスカッション	事前学習	関口先生の教育福祉学的接近を考える。
		事後学習	改めて、「児童環境保健論」とは何だったのか？ 各自、どう捉え、今後の教育課程にどう生かしていくかについて、討論結果をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	児童生徒指導論 (進路指導を含む) (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2106
2. 授業担当教員	磯辺 武雄		
4. 授業形態	講義、グループワーク、事例研究、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「道徳教育の研究」、「教育相談 (カウンセリングを含む)」、「特別活動の指導法」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>学校における生徒指導の意義及び生徒指導の基礎を理解し、特に学校不適応、不登校、非行、校内暴力、生徒懲戒、学校事故等の今日的な問題について理解を図る。また、生徒指導の観点から進路指導と学級経営の問題を取り上げるとともに、進路指導の進め方や学級経営の意義・在り方等について理解を図る。</p> <p>適宜、学校における生徒指導や進路指導にかかわる実践事例を組み入れて理解を深め、現場で役立つ理論的・実践的なセンスや能力を養うことを目標とする。</p> <p>新学習指導要領に示す教育の方向として、今までになく生徒指導の充実が求められている点を踏まえ、自己教育力の育成のための生徒指導の内容・方法を具体的に学ぶこととする。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスの機能の充実による生徒指導の意義・役割について理解する。 2 生徒指導 (教育相談を含む) の進め方や生徒指導の方法を理解する。 3 進路指導の意義・方法及びキャリア教育のねらい・進め方について理解する。 4 生徒指導に基づく学級 (ホームルーム) 経営の方法及び配慮事項等について理解する。 5 事例研究を通じて、生徒指導上の諸問題への対応策・改善策について学ぶ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・レポート課題の提出 (2 回) を求めます。形式 A 4 判ヨコ書、分量 800 字～1,200 字以内、その他の書式等については、初回授業に説明します。</p> <p>1 回目テーマ: 「生徒指導の意義や役割について、改訂学習指導要領の視点を踏まえて述べなさい。」 6 回目授業時提出</p> <p>2 回目テーマ: 「今日における生徒指導・進路指導に関する教育諸問題の中で、最も関心のあるものを一つとりあげ、客観的資料に基づいて所感を述べなさい。」 11 回目授業時提出</p> <p>・必要に応じて小テストを実施します。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 磯辺武雄・金 泰勲ほか編著『生徒指導・進路指導の方法と実際』成文堂、2015。</p> <p>【参考書】 文部科学省編『生徒指導提要』教育図書株式会社 平成 22 年 3 月。 『小/中/高等学校学習指導要領解説 (総則編)』文部科学省。 『小/中/高等学校学習指導要領解説 (特別活動編)』文部科学省。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・期末試験 50%</p> <p>・小テスト・レポート 30%</p> <p>・授業への参加意欲・態度 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>・授業中の私語、飲食及び携帯電話、スマートフォンの使用は慎んで下さい。</p> <p>・グループワークの際は、各自、必ず関連資料等を事前準備し、積極的にグループ討議に参加して下さい。</p> <p>・教員としての資質向上に関わる自己目標・自己課題をもち、積極的に授業に参加して下さい。</p> <p>・新聞・テレビ等における教育に関連する時事問題に関して、常に関心を持っていただきたい。</p> <p>・レポート、アサイメントについては、必ず指定の提出期限を厳守して下さい。</p>		
13. オフィスアワー	授業終了後、教室にて適宜時間を設けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	授業の進め方を確認する。
第 2 回	生徒指導の基本原則 (1) ・生徒指導の意義 ・生徒指導の歴史と理論ほか	事前学習	pp. 1～13 を読み、生徒指導の意義を調べる。
		事後学習	生徒指導の意義・歴史・原理等について整理する。
第 3 回	生徒指導の基本原則 (2) ・生徒指導の内容 ・教育課程における児童生徒理解	事前学習	PP. i3～25 を読み、生徒指導の内容・領域を調べる。
		事後学習	生徒指導の内容について整理する。
第 4 回	児童生徒理解の方法 ・児童生徒の発達課題と心理 ・集団指導と個別指導ほか	事前学習	PP. 26～50 を読み、児童生徒の発達課題について調べる。
		事後学習	児童生徒理解の方法について整理する。
第 5 回	学校運営と生徒指導 ・生徒指導の校内組織体制 ・生徒指導主事ほか	事前学習	PP. 51～76 を読み、生徒指導主事の役割について調べる。
		事後学習	学校運営と生徒指導体制について整理する。
第 6 回	生徒指導と教育相談 (1) ・教育相談の意義 ・教育相談の組織と計画	事前学習	PP. 77～89 を読み、教育相談の意義について調べる。
		事後学習	教育相談の意義及び組織と計画について整理する。
第 7 回	生徒指導と教育相談 (2) ・教育相談の進め方 ・学校外の専門機関との連携	事前学習	PP. 89～100 を読み、教育相談の進め方を調べる。
		事後学習	生徒指導と教育相談について整理する。
第 8 回	児童生徒指導と法制度 (1) ・校則と懲戒 ・体罰	事前学習	PP. 101～114 を読み、校則と懲戒の種類について調べる。
		事後学習	体罰について自分の考えを整理する。
第 9 回	児童生徒指導と法制度 (2)	事前学習	PP. 114～125 を読み、ゼロ・トレランス方式等について調べる。

	・出席停止 ・ゼロ・トレランス方式ほか	事後学習	児童生徒指導と法制度について整理する。
第 10 回	児童生徒指導の今日的課題 (1) ・いじめ	事前学習	PP. 126～133 を読み、いじめの定義について調べる。
		事後学習	いじめ問題について自分の考えを整理する。
第 11 回	児童生徒指導の今日的課題 (2) ・不登校 ・中途退学 ・暴力行為	事前学習	PP. 133～151 を読み、不登校等の定義について調べる。
		事後学習	不登校、中途退学、暴力行為について、自分の考えを整理する。
第 12 回	児童生徒指導の今日的課題 (3) ・非行少年 ・心身のケア問題とその取り組み	事前学習	PP. 152～160 を読み、非行の態様について調べる。
		事後学習	問題児童生徒のケアとその取り組みについて整理する。
第 13 回	進路指導・キャリア教育 ・進路指導・キャリア教育の意義 ・進路指導・キャリア教育の歴史 と理論 ・進路指導・キャリア教育の内容、 組織ほか	事前学習	PP. 161～189 を読み、進路指導上の諸問題について調べる。
		事後学習	進路指導・キャリア教育について自分の考えを整理する。
第 14 回	学校安全・危機管理 ・学校安全・危機管理の意義 ・学校安全・危機管理の進め方 ほか	事前学習	PP. 190～212 を読み、学校安全・危機管理の意義について調べる。
		事後学習	学校安全・危機管理について自分の考えを整理する。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの授業を振り返り課題点を調べる。
		事後学習	課題点の今後の学習計画とその補填について整理する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	児童生徒指導論 (進路指導を含む) (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2448 SCMP2448 SBMP2448 EDTS2106
2. 授業担当教員	攪上 哲夫		5. 開講学期
4. 授業形態	講義、グループワーク、事例研究、演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校における生徒指導の意義及び生徒指導の基礎を理解し、特に学校不適応、不登校、非行、校内暴力、生徒懲戒、学校事故等の今日的な問題について理解を図る。また、生徒指導の観点から進路指導と学級経営の問題を取り上げるとともに、進路指導の進め方や学級経営の意義・在り方等について理解を図る。</p> <p>適宜、学校における生徒指導や進路指導にかかわる実践事例を組み入れて理解を深め、現場で役立つ理論的・実践的なセンスや能力を養うことを目標とする。</p> <p>新学習指導要領に示す教育の方向として、今までになく生徒指導の充実が求められている点を踏まえ、自己教育力の育成のための生徒指導の内容・方法を具体的に学ぶこととする。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスの機能の充実による生徒指導の意義・役割について理解する。 2 生徒指導 (教育相談を含む) の進め方や生徒指導の方法を理解する。 3 進路指導の意義・方法及びキャリア教育のねらい・進め方について理解する。 4 生徒指導に基づく学級 (ホームルーム) 経営の方法及び配慮事項等について理解する。 5 事例研究を通じて、生徒指導上の諸問題への対応策・改善策について学ぶ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習進度に応じた小レポートを課す。 2. 中間・期末レポート 各2,000字程度。 <p>中間レポート①「ガイダンスの機能の充実を図ったこれからの生徒指導について述べよ。第5回授業時提出 期末レポート②「生徒指導上の諸課題と『生きる力』の育成との関連について述べよ。第11回授業時提出</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】文部科学省編『生徒指導提要』教育図書、2012年。</p> <p>【参考書】日本生徒指導学会編著『現代生徒指導論』学事出版、2015年。</p>		
11. 成績評価の方法	課題レポート2本 (50%)、通常授業での小レポート (30%) 通常授業での積極的参加意欲と態度 (20%)		
12. 受講生へのメッセージ	教師の立場からの生徒指導を考えていく。生徒指導とは何か、問題行動を起こす生徒への対応等学生諸君らとともに考えていきたい。		
13. オフィスアワー	第1回授業の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	科目ガイダンス「生徒指導の意義と原理①」：生徒側から考える生徒指導と教師側から考える生徒指導の違いについて考察する。座席の確認	事前学習	『生徒指導提要』(pp.1~3)を読み、生徒指導の意義を確認する。
		事後学習	『生徒指導提要』(pp.4~8)を読み、教育課程における生徒指導の位置づけをまとめる。
第2回	「生徒指導の意義と原理②」：生徒指導の前提となる発達観と指導観の考え方について考察する。ディスカッション	事前学習	『生徒指導提要』(pp.9~13)を読み、生徒指導の基本的な考え方についての予備知識を持つ。
		事後学習	生徒指導の前提となる発達観と指導観について小レポートでまとめる。
第3回	「生徒指導の進め方」①不登校の問題：不登校生徒が生まれる背景と対応について考察する。ディスカッション	事前学習	『生徒指導提要』(pp.152~159)を読み、不登校生徒の予備知識を持つ。
		事後学習	「担任として不登校問題にどのように対応するか小レポートにまとめる。
第4回	「生徒指導の進め方」②いじめ問題：いじめ問題の現状と原因を考察する。DVD・ディスカッション	事前学習	『生徒指導提要』(pp.173~177)を読み、いじめ問題についての予備知識を持つ。
		事後学習	いじめの現状と原因をワークシートにまとめる。
第5回	「生徒指導の進め方」③いじめ問題：いじめ問題への対応策を考察する。DVD・ディスカッション	事前学習	配布資料を読み、いじめ問題への対応を考え授業に臨む。
		事後学習	担任としていじめ問題にどのように対応するかレポートにまとめる。
第6回	「生徒指導の進め方」④いじめ問題：いじめ防止対策推進法の趣旨を理解する。ディスカッション	事前学習	配布プリント (いじめ防止対策推進法) を事前に読み、この法律の予備知識を持つ。
		事後学習	いじめ防止対策推進法と校内での対策について調べ、ワークシートにまとめる。
第7回	「生徒指導の進め方」⑤暴力行為：暴力行為の実態と対策について考察する。DVD・ディスカッション	事前学習	配布資料を読み、暴力行為の現状をつかむ。
		事後学習	暴力行為に対する各学校の取り組み方を調べ、ワークシートにまとめる。
第8回	「生徒指導と法制度」①校則と生徒指導 校則の内容と運用について考察する。ディスカッション	事前学習	校則の実態を調べ、ワークシートにまとめる。
		事後学習	「担任として」校則をどのように守らせるか、小レポートにまとめる。

第 9 回	「生徒指導と法制度」②懲戒・体罰・出席停止と生徒指導を考察する。ディスカッション	事前学習	配布資料を読み、懲戒・体罰・出席停止の内容についての予備知識を持つ。
		事後学習	体罰事件の新聞記事を読み、体罰の実態をワークシートにまとめる。
第 10 回	「進路指導の実際」①進路指導の変遷を調べ、進路指導の意味を考察する。ディスカッション	事前学習	配布資料を読み、進路指導の歴史と現状についての予備知識を持つ。
		事後学習	キャリアガイダンスの考え方についてワークシートにまとめる。
第 11 回	「進路指導の実際」②進路指導がどのように行われるか調べ、発表する。ディスカッション	事前学習	各学校の進路指導の実際について調べる。
		事後学習	職場体験学習を計画する。
第 12 回	「進路指導の実際」③進路指導の問題 高校中退と進路指導について考察する。ディスカッション	事前学習	高校中途退学の実態をインターネット等で調べる。
		事後学習	高校中退者を防ぐための方策をレポートする。
第 13 回	「生徒指導と学級経営」学級・ホームルーム経営の意義、ねらい、役割について考察する。ディスカッション	事前学習	学級経営の基本理念について、文献より調べ予備知識を持つ。
		事後学習	学級経営と進路指導の関係についてワークシートにまとめる。
第 14 回	「生徒指導とガイダンスの機能の充実」ガイダンスの進め方の実際を知る。ディスカッション	事前学習	学習指導要領に示されている「ガイダンスの機能」について調べる。
		事後学習	生徒指導の場面をガイダンスの機能の充実より小レポートにまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習を振り返り課題点を調べる。
		事後学習	教員の立場から生徒指導の進め方を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	社会科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3431
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、討議、レポート、模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	同一年度に「社会」を履修することが望ましい。 本科目で指導案作成と授業実践を中心とする課題に取り組む。「社会」においては指導要領について理解を深める。		
7. 講義概要	「生きる力」の育成を主たるねらいとした学習指導要領の改訂に基づき、小学校社会科の指導法に焦点化して、実践的な指導力を身に付ける。そのために、まず小学校社会科及び各学年（3 年生以上）の目標と内容について、確実に理解する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に検討する。さらに、これらの指導計画の学習をもとにして 1 単位時間の指導案づくりと模擬授業を行う。そして、これらの学習を通して、児童が社会的事象に興味・関心をもって、主体的に社会科授業に取り組み、確かな学力を身に付ける指導法について学修する。		
8. 学習目標	1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	ミニ授業テーマ一覧 (アサインメント) ・ミニ授業① 第3・4 学年内容 (1) より事例単元「学校のまわりのようす」を設定する。この単元の授業の一場面を実践する。テーマ: 「地図記号」を教える授業 ・ミニ授業② (単元指導計画のプレゼン) テーマ: 第3・4 学年内容 (3) 「廃棄物の処理」について、単元指導計画を作成せよ。 ・ミニ授業③ 第5 学年内容 (1) より事例単元「わたしたちの国土」を設定する。この単元の授業の一場面を実践する。テーマ: 内容 (1) イ「自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」の授業の中で、写真や統計資料などを使用する授業場面の実践 ・ミニ授業④ 第6 学年内容 (1) より事例単元「日本のあゆみ」を設定する。この単元の授業の一場面を実践する。テーマ: 内容 (1) ウ「武士による政治のはじまり」について、「ご恩と奉公」を教える授業 ※注意 ミニ授業についてはレポート課題 (アサインメント) をかねております。使用したミニ指導案、参考資料は、講義後提出を求めます。 ・グループでの授業発表 ※授業実践後に振り返りレポート (評価対象) の提出を求めます。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2008 年。 安彦忠彦監修『小学校 学習指導要領の解説と展開 社会編』教育出版、2008 年。(以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 1) 森分孝治・片上宗二『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書、2000 年。 「同心円の拡大主義」のような学術用語から「ディベート」など社会科授業を創る上でのキーワードや理論について事典様式で解説がなされています。アカデミックの色彩が強い書籍ですので発展的学習のための材料としてここに紹介します。 2) 有田和正『社会科授業づくりの技術』教育出版、1997 年。 社会科・生活科教授の分野で教材開発の名人と評価されている有田氏の授業開発手法について、授業記録を見ながら追体験することができます。本科目では氏の実践のVTRを見る機会もあります。 3) 安彦忠彦監修『小学校 学習指導要領の解説と展開 社会編』教育出版、2008 年。 小学校学習指導要領について、教科社会に関する記述内容を57問の質問に対する答えとしてまとめ直している。例えば「Q12: 「身近な地域や市の様子」をどのようにとらえたらよいのでしょうか。」(p. 26.) など、現場教員の立場で発想する疑問が多く収録されている。教師の立場から学習指導要領の社会科を理解するには取り組みやすい書といえる。 4) 『新編 新しい社会 3・4 年 上・下、5 年上・下、6 年上・下』東京書籍。 小学校で採用される教科書の中でも採用頻度が比較的高い出版社の編集した教科書である。秋期社会科指導法では指導案作成や授業実践演習の機会があるため購入しておくとし便性が高い。教育実習校で採用されている教科書でもよい。1 年後には教壇に立って実践する立場になるので、小学校用教科書のような基本教材への投資は無駄にならない。		
11. 成績評価の方法	アサインメント30%、講義内で設定される課題・レポート40%、模擬授業発表 (グループ課題) 30%を評価の構成要素とします。ただしアサインメントについてはすべて個人で取り組む課題とします。 なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。 公欠事由による欠席があった回についてはアサインメントの提出とともに課題を設定します。欠席の事前事後速やかに報告し、指示を受けてください。		
12. 受講生へのメッセージ	受講生の多くは将来、小学校教諭を志すと推察します。小学校教諭の資質として、「子どもが好き」であること、「子どもの心身の成長を支援したい」という意欲とそれを果たそうとする責任感など様々あります。しかし、同様に大事にしなければならないこととして、本科目をはじめとする各教科の学習指導です。成長過程にある子どもは様々な学びをします。その学びの機会に、保護者以上に関わるのが小学校教諭です。これは、子どもを託した保護者との信頼関係を築くことにも影響が及ぶものです。本科目をきっかけとして、社会的な事象への関心を深め、「社会」のありようを伝え考えさせることができる様にしましょう。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出の状況如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します		

	①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言・発表等）できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話（メール・通話）の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくはe-mailにて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 時間割判明後、講義内にて案内します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	①オリエンテーション(シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと。) ②ある社会科授業の風景・その1(課題:授業VTRを見て授業記録を作成する。実際の視聴は次時。どのような指導場面になるのか指導案をもとにイメージを具体化する。)	事前学習	春期に教育実習を実践した受講者は、実習記録など見直し、社会科授業実践がどのように展開されていたか復習しておく。実習未実施者は、テキスト pp. 73-75. を読み、講義内で視聴する授業ビデオの場面想定をしておくこと。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のアサインメント(課題)に取り組む。
第2回	社会科授業の実際(授業の一連の流れを観察しポイントを検証する。) ある社会科授業の風景・その2(課題:授業VTRを見て指導案を再現する。)	事前学習	前時に検討した指導案を見直し、どのように授業が展開するのか場面想定をしておくこと。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のアサインメント(課題)に取り組む。
第3回	ミニ授業① 第3・4学年内容(1)より事例単元「学校のまわりのようす」を設定する。この単元の授業の一場面を実践する。テーマ:「地図記号」を教える授業	事前学習	ミニ授業①の指導案を立案する。
		事後学習	プレゼン後に寄せられた意見をもとに授業改善に取り組む。
第4回	模擬授業構想・検討① 模擬授業テーマ:『地域に根ざした社会科授業』 課題地域を1つ設定し、その地域を教材とした授業を構成する。 現地を訪れ、「生」の教材(実物、インタビュー、最新データ etc.)を取得し、教材として活用する。対象学年は自由に選択してよい。授業時間は検討の時間も考慮し、最大30分までとする。ただし指導細案は一般的な1時限45分で計画すること。 グループで取り組む授業のテーマを設定する。	事前学習	各々、授業で取り上げる地域を考え、どのような授業をしてみたいか、グループ検討会で意見交換できるように調べしておくこと。その際、説明資料が充実していれば、自身の提案する授業案が採択されやすくなることもある。
		事後学習	各グループで作業スケジュールを策定し、各々の担当の業務について取り組みを始める。
第5回	ミニ授業②(単元指導計画のプレゼン) テーマ:第3・4学年内容(3)「廃棄物の処理」について、単元指導計画を作成せよ。	事前学習	ミニ授業②の単元指導計画を策定する。何時間指導計画で実践するかについては各々が自由に設定してよい。
		事後学習	プレゼン後に寄せられた意見をもとに授業計画の改善に取り組む。
第6回	模擬授業構想・検討② 検討①で選定したアイデアを元に教材案を持ち寄る。授業化する場面の設定	事前学習	第4回の決定事項をもとに、グループ検討会で意見交換できるように準備する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。
第7回	ミニ授業③ 第5学年内容(1)より事例単元「わたしたちの国土」を設定する。この単元の授業の一場面を実践する。 テーマ:内容(1)イ「自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」の授業の中で、写真や統計資料などを使用する授業場面の実践	事前学習	ミニ授業③の指導案を立案する。
		事後学習	プレゼン後に寄せられた意見をもとに授業改善に取り組む。
第8回	模擬授業構想・検討③ 検討②を受け、指導案の作成に取り組む。	事前学習	第6回の決定事項をもとに、グループ検討会で意見交換できるように準備する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。
第9回	・ミニ授業④ 第6学年内容(1)より事例単元「日本のあゆみ」を設定する。この単元の授業の一場面を実践する。 テーマ:内容(1)ウ「武士による政治のはじまり」について、「ご恩と奉公」を教える授業	事前学習	ミニ授業④の指導案を立案する。
		事後学習	プレゼン後に寄せられた意見をもとに授業改善に取り組む。
第10回	模擬授業構想・指導案発表	事前学習	自グループの授業構想について見直し、改善の余地はないか検討しておく。
		事後学習	他グループからの問題指摘や教員からの助言をもとに発表までに指導案を完成させる。
第11回	模擬授業発表① 授業検討 授業発表及び授業記録の作成、意見交換の実施。	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。児童役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直ししておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(児童役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。児童役として発表を聞くグループ

			は意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第 1 2 回	模擬授業発表② 授業検討 授業発表及び授業記録の作成、意見交換の実施。	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。児童役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(児童役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。児童役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第 1 3 回	模擬授業発表③ 授業検討 授業発表及び授業記録の作成、意見交換の実施。	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。児童役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(児童役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。児童役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第 1 4 回	模擬授業発表④ 授業検討 授業発表及び授業記録の作成、意見交換の実施。	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。児童役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(児童役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。児童役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第 1 5 回	模擬授業発表⑤ 授業検討 授業発表及び授業記録の作成、意見交換の実施。 本科目のまとめ	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。児童役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	社会科授業実践上の課題について各々がミニ授業、グループ授業を通して気付いた点を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	社会科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3316
2. 授業担当教員	池田 芳和		
4. 授業形態	講義、討議、レポート、模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「生きる力」の育成を主たるねらいとした学習指導要領の改訂に基づき、小学校社会科の指導法に焦点化して、実践的な指導力を身に付ける。そのために、まず小学校社会科及び各学年(3年生以上)の目標と内容について、確実に理解する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に検討する。さらに、これらの指導計画の学習をもとにして1単位時間の指導案づくりと模擬授業を行う。そして、これらの学習を通して、児童が社会的事象に興味・関心をもって、主体的に社会科授業に取り組み、確かな学力を身に付ける指導法について学修する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	単元計画と指導案づくり、実地調査		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。		
11. 成績評価の方法	評価方法 平常点(ミニレポートの評価を含む)と課題レポート 評価基準 日常の積極的授業参加態度(質問、ミニレポート等)50%、指導案の作成30%、まとめレポート20%		
12. 受講生へのメッセージ	社会事象を探究することの楽しみを味わいながら実力をつけるためには体を動かすことから始めることが重要です。課題を設定しつつ、授業の構想をたてて具体的な指導を可能とする学習にしたい。積極的な取組を期待したい。		
13. オフィスアワー	授業日の授業のない時間、随時(一時間目に伝達)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	社会科とは何か～社会科の歴史と領域 具体的な問題に当たり、社会科指導法を考える。	事前学習	教科書「社会編」で目標等、再確認しておく。
		事後学習	学修から社会科教育の在り方を整理する。
第2回	楽しい社会科授業とは～学びの視点 社会科の指導法の課題について学び、意欲的で楽しい授業づくりを考える。	事前学習	社会科教育の重要概念を調べる。
		事後学習	社会科指導の在り方を整理しておく。
第3回	授業はどのようにしてできるか～教育内容と教材… 教材の役割が大きいことを理解し、資料を基に考えを深めることができるようにする過程を学びあう。	事前学習	社会科の学習指導案を調べておく。
		事後学習	教材分析の仕方を整理する。
第4回	社会科学習の学習過程の累型(探究学習を中心に) 指導計画の作成の仕方を知り、その視点から社会科指導の実際を記録から学び、話し合う	事前学習	社会科学習の指導計画の在り方を調べる。
		事後学習	問題設定場面をどのように作るかを整理する。
第5回	指導計画作成の方法 単元を決めて、自分で指導計画を考える。また、グループで検討しあう。	事前学習	指導案作成のため、授業記録を読んでもくる。
		事後学習	子供の活動を保障する展開の在り方をまとめる。
第6回	教材開発、地域調査の方法 実際に地域を回り、目的に応じた資料の収集を行う。	事前学習	選択する単元のある教科書を選び、研究する。
		事後学習	適当な資料を選んでくる。
第7回	教材開発、地域調査の方法 教材づくりを行い、その資料で模擬授業を行う。	事前学習	研究論文を読んでもくる
		事後学習	教材の重要性をまとめる。
第8回	教材・授業分析の方法 社会科の教材分析について、研究論文の考えから学び、自分の考えを持てる。	事前学習	評価規準について調べてくる。
		事後学習	学習指導案を完成させる。
第9回	模擬授業(1) 社会科の小単元計画について学び、自分の計画を立てる。	事前学習	資料を完成させる。
		事後学習	グループの模擬授業の感想を書く。
第10回	模擬授業(2) 評価規準を確定して、目標を明確にする。	事前学習	学年の目標を明確にしておく。
		事後学習	展開の在り方をまとめる。
第11回	模擬授業(3) 教材の選択を行い、その教材の分析を行い、子どもに何を学ばせるのか明らかにする。	事前学習	必要な資料の分析を行っておく。
		事後学習	教材の意義について、話し合ったことをまとめておく。
第12回	模擬授業(4) 本時の展開を構成し、主な発問を考える。	事前学習	発問の意義について調べる。
		事後学習	模擬授業から発問についてまとめる。
第13回	模擬授業(5) 各人の作った指導案を基に、指導展開を行う。互いに評価しあう。	事前学習	授業展開を考えてくる。
		事後学習	模擬授業を行い、相互評価したことを整理する。

平成 28 年度

第 1 4 回	模擬授業（6） 各人の作った指導案を基に、指導展開を行う。互いに評価しあう。	事前学習	授業展開を考えてくる。
		事後学習	模擬授業を行い、相互評価したことを整理する。
第 1 5 回	社会科指導法のまとめを行う。	事前学習	模擬授業から得られたことを整理してくる。
		事後学習	社会科指導法で学んだことを今後どう生かすか、レポートを書く。

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2307 SSMP2107 SBMP2107
2. 授業担当教員	若狭 清紀	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い (積極的に数値を利用して正しく測定する)、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとするものである。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査 (面接調査) の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。 2.社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。 3.社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。 4.量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。 5.グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。 6.分析方法 (仮説の検証を含む)、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。 7.本講義は社会福祉士国家試験科目なので、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目標とする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内容の重要事項のまとめを、指定する書式で提出してもらう。 冬休み前に、面接調査をもとにしたレポートを提出してもらう。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林修一・久保田滋・西野理子等『テキスト社会調査』梓出版社。 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度・提出物 30% 小テスト 30% レポート 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>社会福祉士に必要とされる基礎的な社会調査能力を習得することを目標として欲しい。 情報処理学習室のパソコンを使うので、ログインできるようにしておくこと。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途通知する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスに目を通しておくこと。
		事後学習	間違った社会調査にならないための条件について考える。
第2回	社会調査の意義と目的、統計法の概要	事前学習	教科書第I部1. (p.7) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第3回	社会調査における倫理と個人情報保護	事前学習	教科書第IV部 54. (p.111) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第4回	社会調査の種類	事前学習	教科書第I部3. (pp.10~13) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第5回	量的調査の方法	事前学習	教科書第II部 13.14.15. (pp.34~40) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第6回	仮説の設定と調査計画	事前学習	教科書第II部 11.16. (pp.31,41~43) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第7回	調査票の作成	事前学習	教科書第II部 17.18.19. (pp.44~49) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第8回	調査票の配布と回収、データ入力	事前学習	教科書第II部 24.25.26. (pp.57~61) を読み、分からない言葉について調べておく。 Microsoft Excel による作表の方法について確認しておく。

平成 28 年度

		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第 9 回	量的調査の集計と分析 (1) 変数の種類、度数分布と記述統計	事前学習	教科書第Ⅲ部 28. 29. (pp. 65~68) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第 10 回	量的調査の集計と分析 (2) 記述統計量とクロス集計	事前学習	教科書第Ⅲ部 31. 32. (pp. 71~74) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第 11 回	量的調査の集計と分析 (3) 散布図、相関係数と回帰分析、重回帰分析 社会福祉士国家試験過去問題の問題演習	事前学習	教科書第Ⅲ部 37. 38. (pp. 83~87) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。 国家試験過去問題の復習
第 12 回	質的調査の種類	事前学習	教科書第Ⅳ部 43. 44. 45. 47. 48. 50. 51. (pp. 95~97, 99~101, 103, 104) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第 13 回	質的調査の分析方法 グループワークによるデータ分析	事前学習	自分が作成したレポートの内容を確認しておく。
		事後学習	授業内容の重要事項をまとめる。
第 14 回	発表レジュメ作成 社会福祉士国家試験過去問題の問題演習	事前学習	発表レジュメの内容を考えておく。
		事後学習	国家試験過去問題の復習
第 15 回	グループ発表、まとめ	事前学習	国家試験過去問題に即して知識を確認する。
		事後学習	グループ発表の内容を振り返る。 授業全体の重要事項について確認する。

1. 科目名 (単位数)	社会的養護内容 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2418
2. 授業担当教員	花崎 みさを		SCOT2418
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育士実践に必要な知識・技能を学習するものである。 具体的には、子どもと家族に対応する「専門的な支援者」である保育士として、社会的養護、施設が目指そうとしている方向性と施設における家族、子どもへの支援の在り方を「子どもの最善の利益」という視点から理解するため、保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用に関して具体的な事例を交えて学ぶ。これらを通じて実習に向けた準備等ができるようにする。		
8. 学習目標	1. 児童福祉施設における養護の意義を理解し、専門的な支援者としての保育士に必要な認識を身につける。 2. 子どもの成長・発達に果たす養護の意義について学習し、保育士としての役割感覚を身につける。 3. 子どもの最善の利益を意識した支援の実践方法を身につける。 3. 社会的養護に関わる施設の事例分析を行い、利用者理解と事例への洞察力、支援の視点を身につける。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	第 8 回および第 14 回の授業終了時に、宿題として授業内容に即したレポートの提出を求める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 吉田眞理編著、児童の福祉を支える 演習『社会的養護内容』萌文書林。 【参考書】 桜井奈津子編著『養護内容』青踏社。		
11. 成績評価の方法	レポート (2 回合計) を 100 点満点として減点方式で採点し、下記のように評価する。さらに授業態度が悪い場合は、適宜減点する。 レポート 2 回 80% 授業への積極的参加態度 (含む ディスカッション) 20% なお、本校の規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	・常に積極的な授業態度であること。 ・講義を自分自身の中に取り込み、理解するよう努めること。 ・常に自分自身を見つめる眼をもち、各々のテーマに正直に取り組むこと。		
13. オフィスアワー	授業に対して、質問・相談・苦情などのある学生のために、授業終了後、または空いている時間を面接時間とする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	子どもの最善の利益・子どもの権利を守る仕組み	事前学習	「国連子どもの権利条約」について復習してくる。
		事後学習	子どもの権利を守る仕組みについて確認する。
第 2 回	生存と発達の保証	事前学習	施設における健康・安全の保障について考えてくる。
		事後学習	障害児の生存と発達の保障についてについて確認する。
第 3 回	自立支援計画書の作成 (事例をもとにグループで作成)	事前学習	自立支援計画書の書き方確認する。
		事後学習	アセスメントの視点
第 4 回	支援者の資産と倫理 (グループの発表と抗議)	事前学習	ソーシャルワーカーの倫理綱領に目を通してくる。
		事後学習	支援者「求められる資質と倫理」について確認する。
第 5 回	日常生活支援と児童養護施設の暮らし	事前学習	施設養護における日常生活支援について考えて来る。
		事後学習	入所時のかかわり方と日常生活への導入について確認する。
第 6 回	〃 (グループによる「日課」作成)	事前学習	日課や規則の意味についても理解してくる。
		事後学習	「生活文化」と「生活力」について確認する。
第 7 回	〃 (レポート課題の提示))	事前学習	リビングケアとアフターケアについて確認する。
		事後学習	自立を育む支援とアフターケアの考え方と方法について確認する。
第 8 回	子どもへの支援における記録 (記録文の作り方の実際)	事前学習	記録作成と留意点について目を通してくる。
		事後学習	記録の目的と書くときの留意点について確認する。
第 9 回	乳児院、母子生活支援施設、障害児施設等の暮らしと日常生活支援	事前学習	各々の施設の特徴について概要を理解してくる。
		事後学習	各々の施設の特徴と現状の理解。
第 10 回	虐待された子どもへの支援 (事例学習・ロールプレイ)	事前学習	虐待された子どもの「問題行動」について復習してくる。
		事後学習	子どもの「問題行動」への対応について確認する。

平成 28 年度

第 1 1 回	親子関係の調整（レポート課題提示）	事前学習	「家族再統合」を支援する必要性について考えて来る。
		事後学習	親権と子どもの人権について確認する。
第 1 2 回	ソーシャルワークの知識と応用（グループによる事例研究）	事前学習	「バイステティックの原則」の復習をしてくる。
		事後学習	個別援助技術のプロセスについて確認する。
第 1 3 回	ソーシャルワークの知識と応用（グループ発表とまとめ）	事前学習	当事者グループとしての子ども集団について考えてくる。
		事後学習	集団援助技術のプロセスについて確認する。
第 1 4 回	施設の小規模化と家庭養護	事前学習	地域小規模児童養護施設のデメリットについて考えて来る。
		事後学習	個別ケアの必要性について確認する。
第 1 5 回	地域と施設の関係（学校・地域住民）	事前学習	学校・地域との関係調整について考えて来る。
		事後学習	施設と地域の交流による各々のメリットについて確認する。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉経営論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP1117
2. 授業担当教員	田中 正秀			
4. 授業形態	演習形式で授業を行う。集団討議、個人発表、レポート作成。場合によっては現地視察も行う。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、非営利法人の経営について学習をする。非営利法人には財団法人、社団法人、NPO、医療法人などがあり、それぞれの特徴について理解する。非営利法人の共通する問題としては、財源や人材の確保、社会的評価などがある。これらについて具体的な問題点を学習していき、どのように問題を解決するのが良いのかなどについて学習を進める。また、現代社会で重要視されている、コンプライアンスと非営利法人との関係についても学習をする。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉経営に関する広い知識を身につけ、理解する。 ・まず社会福祉を取り巻く経済の実情を知り将来を展望する。 ・福祉法人の目標を考え、経営の本質について考察し、就職等で実践する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメントやレポートについては、基本的には課さないが、必要に応じて課すケースも有る。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座〈11〉福祉サービスの組織と経営 第4版』中央法規出版、2013。			
11. 成績評価の方法	1、授業態度 (議論に参加など)	90%		
	2、確認テスト	10%		
12. 受講生へのメッセージ	「参加すること。」これは出席を指すのではなく、他人の意見に耳を傾ける余裕と間違えるのを恐れないで自分の意見を持ち、議論に積極的に参加する。否定するときは、必ず代替案をだす。そしてリーダーシップ。それが「経営」において決定的に重要なためである。			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 社会福祉と経営の概念	事前学習	指定の教科書に全体的に目を通す。	
		事後学習	講義内容の確認まとめを行うこと。	
第2回	社会福祉法人の基本的知識	事前学習	社会福祉法人について該当する教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第3回	これまでの社会福祉経営 その1	事前学習	社会福祉経営について該当する教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第4回	これまでの社会福祉経営 その2	事前学習	第3回の学習内容の復習をしておくこと。	
		事後学習	講義内容の確認まとめを行うこと。	
第5回	社会福祉経営を取り巻く環境の変化	事前学習	社会福祉経営環境について該当する部分を教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第6回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その1	事前学習	各自が21世紀における福祉経営モデルを仮設として構築しておくこと。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第7回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その2 財源1	事前学習	経営としてのキャッシュのあり方に該当する教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第8回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その3 財源2	事前学習	経営としてのキャッシュのあり方に該当する教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第9回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その4 人的資源1	事前学習	経営として人財のあり方に該当する教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第10回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その5 人的資源2	事前学習	経営として人財のあり方に該当する教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第11回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その6 まとめ	事前学習	自分的福祉経営モデルをまとめておくこと。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第12回	社会福祉経営と行政のあり方 その1 現状	事前学習	行政と民間のあり方に該当する教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	
第13回	社会福祉経営と行政のあり方 その2 課題	事前学習	行政と民間のあり方に該当する教科書から熟読しておく。	
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。	

平成 28 年度

第 1 4 回	社会福祉経営と行政のあり方 その 3 解決手法の策定	事前学習	自分的福祉経営モデルをまとめておくこと
		事後学習	講義内容に関して得た知見をまとめて提出。
第 1 5 回	総括	事前学習	これまでの講義概要を理解しておくこと。
		事後学習	総括レポートの作成。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP1103 SSMP1103 PSMP1403
2. 授業担当教員	村本 浄司		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。) について理解する。 6. 福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む。) の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 		
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループディスカッションの内容についてグループごとに授業終了後に提出する。 2. 授業の最後にその日の講義内容について課題を設定し、提出を求める。 3. レポート課題1500字以上「戦後の日本の福祉政策についてまとめ、それに対するあなたの考えを述べなさい」 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第3版 一現代社会と福祉一』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①レポート 30% ②授業への積極的参加度 40% ③毎回の講義のまとめ 30% 		
12. 受講生への メッセージ	本講義は社会福祉を学ぶ上で基礎的な内容であり、将来、学生の皆さんが福祉関連業務に従事した際に、支援の背景的理論を担う重要なものです。そのため、講義に対しては集中して取り組んでいただきますようお願い致します。講義はなるべくわかりやすく理解できるように努めますが、疑問点や質問などがありましたら、遠慮なく尋ねるようにしてください。		
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要、講師紹介等) 社会福祉の新たな展開、福祉政策理解の枠組み、伝統社会から近代社会へ①	事前学習	教科書を準備し、シラバスを確認して講義へ臨むこと。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉の展開と福祉政策について考える。
第2回	社会福祉の新たな展開、福祉政策理解の枠組み、伝統社会から近代社会へ②	事前学習	教科書を熟読し、福祉の展開と福祉政策を理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、伝統社会から近代社会についてまとめる。
第3回	市民権の確立と福祉国家の成立、福祉国家の変容	事前学習	教科書を熟読し、福祉国家について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉国家の成立と変容についてまとめる。
第4回	現代社会の変化と福祉	事前学習	教科書を熟読し、現代社会の変化と福祉について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、現代社会の変化と福祉についてまとめる。
第5回	価値規範としての福祉、社会福祉の拡大と限定	事前学習	教科書を熟読し、福祉の範囲について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉政策についてまとめる。
第6回	施策コラボレーションとしての福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、施策コラボレーションについて理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、施策コラボレーションについてまとめる。
第7回	社会福祉士の役割と機能、福祉の思想	事前学習	教科書を熟読し、福祉の思想について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉の思想のまとめを完成させる。
第8回	市場の論理と倫理	事前学習	教科書を熟読し、市場の論理と倫理について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、市場の論理についてまとめる。
第9回	ロールズとセンに学ぶもの	事前学習	教科書を熟読し、ロールズとセンについて理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、ロールズとセンのまとめを完成させる。
第10回	社会政策のなかの福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉政策についてまとめる。
第11回	近代化と福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、近代化と福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、近代化と福祉政策についてまとめる。

第 1 2 回	戦後改革と高度経済成長期の福祉政策①	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、戦後の福祉政策についてまとめる。
第 1 3 回	戦後改革と高度経済成長期の福祉政策②	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、欧米諸国における「貧困の発見」についてまとめる。
第 1 4 回	福祉政策の調整と進展	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、1980 年代までの福祉政策についてまとめる。
第 1 5 回	1990 年代および 2000 年代以降の福祉政策①	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、1990 年代の福祉政策についてまとめる。
第 1 6 回	1990 年代および 2000 年代以降の福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、戦後の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、2000 年代以降の福祉政策についてまとめる。
第 1 7 回	福祉政策における必要と資源	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策の必要と資源について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉における「必要」とは何かについてまとめる。
第 1 8 回	福祉政策の理念と資源の配分システム	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策資源の配分システムについて理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉政策の理念と配分システムについてまとめる。
第 1 9 回	福祉政策の手法と政策決定過程・評価	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策の手法と政策決定過程・評価について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉政策の手法と政策決定過程・評価についてまとめる。
第 2 0 回	人権擁護と福祉政策	事前学習	教科書を熟読し、人権擁護と福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、人権擁護と福祉政策についてまとめる。
第 2 1 回	雇用と福祉政策、教育と福祉政策、住宅福祉政策、震災と福祉政策①	事前学習	教科書を熟読し、雇用・教育と福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、雇用と福祉政策、教育と福祉政策についてまとめる。
第 2 2 回	雇用と福祉政策、教育と福祉政策、住宅福祉政策、震災と福祉政策②	事前学習	教科書を熟読し、住宅・震災の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、住宅・震災の福祉政策についてまとめる。
第 2 3 回	社会福祉制度の構造、社会福祉制度と福祉サービス①	事前学習	教科書を熟読し、社会福祉制度の構造について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、社会福祉制度の構造についてまとめる。
第 2 4 回	社会福祉制度の構造、社会福祉制度と福祉サービス②	事前学習	教科書を熟読し、社会福祉制度と福祉サービスについて理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉サービスについてまとめる。
第 2 5 回	福祉サービスの提供	事前学習	教科書を熟読し、福祉サービスの提供について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、福祉サービスの提供についてまとめる。
第 2 6 回	多元化する福祉サービス提供方式と社会福祉制度、福祉サービスの提供	事前学習	教科書を熟読し、福祉サービスの提供について理解する。
		事後学習	第 24 回過去問題を復習する。
第 2 7 回	相談援助の原則・視点・考え方と方法	事前学習	教科書を熟読し、バスタックの 7 原則について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、相談援助の原則についてまとめる。
第 2 8 回	福祉政策の国際比較	事前学習	教科書を熟読し、諸外国の福祉政策について理解する。
		事後学習	講義資料を確認し、諸外国の福祉政策についてまとめる。
第 2 9 回	福祉政策の課題と展望	事前学習	教科書を熟読し、福祉政策の課題と展望について理解する。
		事後学習	福講義資料を確認し、社政策の課題と展望についてまとめる。
第 3 0 回	これまでのまとめと過去の国家試験問題	事前学習	教科書を熟読し、これまでの講義内容について理解する。
		事後学習	社会福祉士国家試験の過去問題を復習する。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP1103 SBMP1103
2. 授業担当教員	西村 明子		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。) について理解する。 6. 福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む。) の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。		
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	適宜レポートの提出を求める。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第3版 一現代社会と福祉一』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	レポート 70% 授業への積極的参加度 30%		
12. 受講生への メッセージ	本講義は社会福祉を学ぶ上で基礎的な内容であり、将来、学生の皆さんが福祉関連業務に従事した際に、 支援の背景的理論を担う重要なものである。そのため、講義に対しては集中して取り組むことを臨む。授業 の進捗状況・理解度に合わせ、順番等変更する場合もある。		
13. オフィスアワー	初回授業で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業内容と進め方について	事前学習	自分にとって福祉とは何かを考えておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 回	社会福祉の発展過程 (1) イギリスにおける社会福祉の発展と現状	事前学習	自分にとって福祉とは何かを考えておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 3 回	社会福祉の発展過程 (2) イギリスにおける社会福祉の発展と現状	事前学習	前回の講義資料 (イギリスにおける社会福祉の 発展と現状) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 4 回	社会福祉の発展過程 (3) ヨーロッパにおける社会福祉の発展と現状	事前学習	教科書、前回の講義資料 (イギリスにおける社 会福祉の発展と現状) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 5 回	社会福祉の発展過程 (4) アメリカにおける社会福祉の発展と現状	事前学習	教科書、前回の講義資料 (ヨーロッパにおける 社会福祉の発展と現状) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 6 回	社会福祉の発展過程 (5) わが国におけるにおける社 会福祉の発展と現状)	事前学習	教科書、前回の講義資料 (アメリカにおける社 会福祉の発展と現状) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 7 回	社会福祉の対象 (1) 貧困の発生との構造	事前学習	教科書、前回の講義資料 (わが国におけるにお ける社会福祉の発展と現状) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 8 回	社会福祉の対象 (2) 各種救貧制度の課題	事前学習	教科書、前回の講義資料 (貧困の発生との構造) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 9 回	社会福祉の対象 (3) 少子高齢化に伴う福祉対象の変 化	事前学習	教科書、前回の講義資料 (各種救貧制度の課題) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 10 回	社会福祉の対象 (4) ニーズと社会資源	事前学習	教科書、前回の講義資料 (少子高齢化に伴う福 祉対象の変化) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 11 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学 (1) 国家の経済と福 祉政策の変遷 イギリスを中心として	事前学習	教科書、前回の講義資料 (ニーズと社会資源) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理

第 1 2 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学 (2) ヨーロッパ諸国の採用した福祉政策	事前学習	教科書、前回の講義資料 (国家の経済と福祉政策の変遷 イギリスを中心として) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 3 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学 (3) 貧困の哲学と社会政策の理念	事前学習	前回配布の (ヨーロッパ諸国の採用した福祉政策) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 4 回	福祉政策と福祉制度 (1)	事前学習	前回の講義資料 (貧困の哲学と社会政策の理念) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 5 回	福祉政策の価値観 (2)	事前学習	前回の講義資料 (福祉政策と福祉制度 (1)) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 6 回	福祉政策の対象 (3)	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉政策の価値観 (2)) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 7 回	福祉政策の主体 政策主体の変遷	事前学習	前回配布の (福祉政策の対象 (3)) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 8 回	福祉政策の手法と政策決定過程	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉政策の主体政策主体の変遷) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 9 回	福祉政策の評価	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉政策の手法と政策決定過程) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 0 回	福祉政策と関連政策 (1) 救貧制度の成立と課題	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉政策の評価) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 1 回	福祉政策と関連政策 (2) 福祉国家の成立と課題	事前学習	教科書、前回の講義資料 (救貧制度の成立と課題) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 2 回	福祉政策と関連政策 (3) 福祉国家の課題と修正	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉国家の成立と課題) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 3 回	社会福祉制度 (1) : 福祉サービスの供給部門 (1) 国家・政府による供給	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉国家の課題と修正) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 4 回	社会福祉制度 (2) : 福祉サービスの供給部門 (2) 民間による供給	事前学習	前回配布の (1) : 福祉サービスの供給部門 (1) 国家・政府による供給を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 5 回	社会福祉制度 (3) : 福祉サービスの供給過程 (1) 公民のネットワークによる供給システム	事前学習	教科書、前回の講義資料 (2) : 福祉サービスの供給部門 (2) 民間による供給を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 6 回	社会福祉制度 (2) : 福祉サービスの供給過程 (2) 住民主体による公共的ネットワーク	事前学習	教科書、前回の講義資料 (3) : 福祉サービスの供給過程 (1) 公民のネットワークによる供給システムを熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 7 回	社会福祉制度 (3) : 福祉サービスの利用過程 現在の供給システムの現状と課題	事前学習	教科書、前回の講義資料福祉サービスの供給過程 (2) 住民主体による公共的ネットワークを熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 8 回	福祉政策の課題と国際比較 (1) 欧米の制度との比較	事前学習	教科書、前回の講義資料 : 福祉サービスの利用過程 現在の供給システムの現状と課題を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 9 回	福祉政策の課題と国際比較 (2) 北欧諸国との比較	事前学習	教科書、前回の講義資料 (1) 欧米の制度との比較を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 3 0 回	まとめと最終チェック	事前学習	教科書、前回の講義資料 (2) 北欧諸国との比較を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4 単位)		3. 科目番号	SCMP1103 SSMP1103
2. 授業担当教員	青木 正			
4. 授業形態	講義・ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。) について理解する。 6. 福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む。) の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 			
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	前半期と後半期にそれぞれ1回ずつ (計2回) レポートを課す。レポートの題目及び執筆規定については授業の中で指示する。 予習や探求的な課題に積極的に取り組み、主体的な学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第3版 -現代社会と福祉-』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。			
11. 成績評価の方法	試験、レポート(2回)、受講態度、授業への積極的参加度を総合して、次の基準で評価を行う。 試験の評価 40% レポートの評価 40% 受講態度 20% (積極的な取り組みを見せた個人をプラス評価の対象とする)			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する (した) 場合は書面で教員に届け出ること。 2. レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。 3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。 			
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要、講師紹介等) 社会福祉とは何か① 理念としての社会福祉	事前学習	教科書を準備し、シラバスを確認して講義へ臨むこと。教科書 pp. 1~6 を読む	
		事後学習	社会福祉とは何か考える	
第2回	社会福祉とは何か② 制度政策としての社会福祉 実践としての社会福祉	事前学習	教科書 pp. 6~15 を読む	
		事後学習	社会福祉を4つの側面から理解する	
第3回	わが国の社会福祉の歩み① 戦前	事前学習	教科書 pp. 17~21 を読む	
		事後学習	戦前の社会福祉の歩みを理解する	
第4回	わが国の社会福祉の歩み② 戦後	事前学習	教科書 pp. 21~27 を読む	
		事後学習	戦後の社会福祉の歩みを理解する	
第5回	わが国の社会福祉の歩み③ 社会福祉基礎構造改革	事前学習	教科書 pp. 28~33 を読む	
		事後学習	社会福祉基礎構造改革を理解する	
第6回	イギリスの社会福祉の歩み	事前学習	教科書 pp. 33~46 を読む	
		事後学習	イギリスの社会福祉の歩みを理解する	
第7回	アメリカの社会福祉の歩み	事前学習	教科書 pp. 46~54 を読む	
		事後学習	アメリカの社会福祉の歩みを理解する	
第8回	諸外国の社会福祉の歩み	事前学習	教科書 pp. 56~65 を読む	
		事後学習	ドイツとスウェーデンの社会福祉の歩みを理解する	
第9回	現代における社会福祉① 社会福祉の考え方	事前学習	教科書 pp. 69~76 を読む	
		事後学習	社会福祉の考え方を整理する	
第10回	現代における社会福祉② 社会福祉の理論	事前学習	教科書 pp. 77~81 を読む	
		事後学習	社会福祉の理論を理解する	
第11回	社会福祉政策と福祉ニーズ① 福祉サービス利用者のとらえ方	事前学習	教科書 pp. 83~88 を読む	
		事後学習	福祉サービス利用者のとらえ方を理解する	
第12回	社会福祉政策と福祉ニーズ② 福祉ニーズと社会福祉問題	事前学習	教科書 pp. 89~94 を読む	
		事後学習	福祉ニーズと社会福祉問題を理解する	
第13回	社会福祉関係法制と運営① 法源としての憲法	事前学習	教科書 pp. 95~100 を読む	
		事後学習	法源としての憲法を理解する	

平成 28 年度

第 1 4 回	社会福祉関係法制と運営② 国際的条約と社会福祉	事前学習	教科書 pp. 101～108 を読む
		事後学習	国際的条約と社会福祉を理解する
第 1 5 回	社会福祉関係法制と運営③ 社会福祉法	事前学習	教科書 pp. 109～118 を読む
		事後学習	社会福祉法を理解する
第 1 6 回	社会福祉関係法制と運営④ 社会福祉六法	事前学習	教科書 pp. 118～125 を読む
		事後学習	社会福祉六法を理解する
第 1 7 回	社会福祉行財政と民間福祉活動① 社会福祉行政	事前学習	教科書 pp. 127～133 を読む
		事後学習	社会福祉行政を理解する
第 1 8 回	社会福祉行財政と民間福祉活動② 社会福祉財政と費用徴収	事前学習	教科書 pp. 133～138 を読む
		事後学習	社会福祉財政と費用徴収を理解する
第 1 9 回	社会福祉行財政と民間福祉活動③ 民間福祉活動	事前学習	教科書 pp. 138～146 を読む
		事後学習	民間福祉活動を理解する
第 2 0 回	社会福祉援助の体系と担い手① ハード福祉とソフト福祉、社会福祉援助技術の体系	事前学習	教科書 pp. 149～160 を読む
		事後学習	ハード福祉とソフト福祉、社会福祉援助技術の体系を理解する
第 2 1 回	社会福祉援助の体系と担い手② 直接援助技術、間接援助技術	事前学習	教科書 pp. 160～176 を読む
		事後学習	直接援助技術、間接援助技術を理解する
第 2 2 回	社会福祉援助の体系と担い手③ 関連援助技術	事前学習	教科書 pp. 176～185 を読む
		事後学習	関連援助技術を理解する
第 2 3 回	社会福祉援助の体系と担い手④ 社会福祉援助の担い手	事前学習	教科書 pp. 185～195 を読む
		事後学習	社会福祉援助の担い手を理解する
第 2 4 回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題① 所得保障	事前学習	教科書 pp. 199～208 を読む
		事後学習	所得保障を理解する
第 2 5 回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題② 児童家庭福祉	事前学習	教科書 pp. 208～217 を読む
		事後学習	児童家庭福祉を理解する
第 2 6 回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題③ 障害者福祉	事前学習	教科書 pp. 217～228 を読む
		事後学習	障害者福祉を理解する
第 2 7 回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題④ 高齢者福祉と介護保険	事前学習	教科書 pp. 228～240 を読む
		事後学習	高齢者福祉と介護保険を理解する
第 2 8 回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題⑤ 母子及び父子並びに寡婦福祉	事前学習	教科書 pp. 241～251 を読む
		事後学習	母子及び父子並びに寡婦福祉を理解する
第 2 9 回	社会福祉及び関連する分野の現状と課題⑥ 地域福祉	事前学習	教科書 pp. 251～260 を読む
		事後学習	地域福祉を理解する
第 3 0 回	まとめと振り返り	事前学習	教科書を熟読し、これまでの講義内容ついて理解する。
		事後学習	自己評価し、理解不足のところは知識を補い、期末試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4 単位)		3. 科目番号	SSMP1103
2. 授業担当教員	櫻井 猛			
4. 授業形態	講義・ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。) について理解する。 6. 福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む。) の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 			
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	毎週、実践現場のビデオ感想文の作成 毎月 講義まとめの提出			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第3版 -現代社会と福祉-』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。			
11. 成績評価の方法	配点 毎月 のミニテスト 30% (ミニテストには出席点[参加点]も含まれます) 最終試験 70% 以上のほか、毎回のビデオ感想文、さらに出席、積極性、授業準備などが加味される。 <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業は「社会福祉原論」という、福祉専門職にとっては基礎的な科目である。非常に難解な内容を含むので、真剣に取り組むことによって、国家試験にも通用する実力をつけることができる。したがって、授業中はずねに集中力を保って受講することと、積極的な態度で授業に参加することが期待されている。 2. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 			
12. 受講生への メッセージ	原論は社会福祉を学ぶ上で、基礎となる重要な科目です。そのためには、歴史的な大局的な視点、国家行政の福祉政策、社会の経済的・社会的な諸システムとその理念等の理解を理解するように努めましょう。それとともに福祉は生身の人間の生活そのものに大きな影響を持ち、特に弱い立場の人への理解が必要です。この講義に真剣に参加することによって必ず、福祉の重要性、面白さがわかってくと重なります。原論は専門家としての基礎である知識や価値観を形作るものですので、ぜひ頑張ってください。できるだけ丁寧に解かりやすく説明します。			
13. オフィスアワー	休憩時間等を利用してください。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業内容と進め方について	事前学習	自分にとって福祉とは何かを考えておく	
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理	
第 2 回	社会福祉の発展過程 (1)イギリスにおける社会福祉の発展と現状	事前学習	自分にとって福祉とは何かを考えておく	
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理	
第 3 回	社会福祉の発展過程 (2) イギリスにおける社会福祉の発展と現状	事前学習	前回の講義資料 (イギリスにおける社会福祉の発展と現状) を熟読しておく	
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理	
第 4 回	社会福祉の発展過程 (3)ヨーロッパにおける社会福祉の発展と現状※	事前学習	教科書、前回の講義資料 (イギリスにおける社会福祉の発展と現状) を熟読しておく	
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理	
第 5 回	社会福祉の発展過程 (4)アメリカにおける社会福祉の発展と現状	事前学習	教科書、前回の講義資料 (ヨーロッパにおける社会福祉の発展と現状) を熟読しておく	
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理	
第 6 回	社会福祉の発展過程 (5) わが国におけるにおける社会福祉の発展と現状)	事前学習	教科書、前回の講義資料 (アメリカにおける社会福祉の発展と現状) を熟読しておく	
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理	
第 7 回	社会福祉の対象 (1) 貧困の発生との構造	事前学習	教科書、前回の講義資料 (わが国におけるにおける社会福祉の発展と現状) を熟読しておく	
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理	
第 8 回	社会福祉の対象 (2) 各種救貧制度の課題	事前学習	教科書、前回の講義資料 (貧困の発生との構造) を熟読しておく	
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理	
第 9 回	社会福祉の対象 (3) 少子高齢化に伴う福祉対象の変化	事前学習	教科書、前回の講義資料 (各種救貧制度の課題) を熟読しておく	
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理	

第 1 0 回	社会福祉の対象 (4) ニーズと社会資源	事前学習	教科書、前回の講義資料 (少子高齢化に伴う福祉対象の変化) を熟読しておく
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 1 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学 (1) 国家の経済と福祉政策の変遷 イギリスを中心として	事前学習	教科書、前回の講義資料 (ニーズと社会資源) を熟読しておく
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 2 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学 (2) ヨーロッパ諸国の採用した福祉政策	事前学習	教科書、前回の講義資料 (国家の経済と福祉政策の変遷 イギリスを中心として) を熟読しておく
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 3 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学 (3) 貧困の哲学と社会政策の理念	事前学習	前回配布の (ヨーロッパ諸国の採用した福祉政策) を熟読しておく
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 4 回	福祉政策と福祉制度 (1)	事前学習	前回の講義資料 (貧困の哲学と社会政策の理念) を熟読しておく
		事後学習	内容の確認と講義の整理
第 1 5 回	福祉政策の価値観 (2)	事前学習	前回の講義資料 (福祉政策と福祉制度 (1)) を熟読しておく
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 6 回	福祉政策の対象 (3)	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉政策の価値観 (2)) を熟読しておく
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 7 回	福祉政策の主体 政策主体の変遷	事前学習	前回配布の (福祉政策の対象 (3)) を熟読しておく
		事後学習	重要事項内容の確認と講義の整理
第 1 8 回	福祉政策の手法と政策決定過程	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉政策の主体 政策主体の変遷) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 1 9 回	福祉政策の評価	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉政策の手法と政策決定過程) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 0 回	福祉政策と関連政策 (1) 救貧制度の成立と課題	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉政策の評価) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 1 回	福祉政策と関連政策 (2) 福祉国家の成立と課題	事前学習	教科書、前回の講義資料 (救貧制度の成立と課題) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 2 回	福祉政策と関連政策 (3) ※福祉国家の課題と修正	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉国家の成立と課題) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 3 回	社会福祉制度 (1) : 福祉サービスの供給部門 (1) 国家・政府による供給	事前学習	教科書、前回の講義資料 (福祉国家の課題と修正) を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 4 回	社会福祉制度 (2) : 福祉サービスの供給部門 (2) 民間による供給※	事前学習	前回配布の (1) : 福祉サービスの供給部門 (1) 国家・政府による供給を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 5 回	社会福祉制度 (3) : 福祉サービスの供給過程 (1) 公民のネットワークによる供給システム	事前学習	教科書、前回の講義資料 (2) : 福祉サービスの供給部門 (2) 民間による供給を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 6 回	社会福祉制度 (2) : 福祉サービスの供給過程 (2) 住民主体による公共的ネットワーク	事前学習	教科書、前回の講義資料 (3) : 福祉サービスの供給過程 (1) 公民のネットワークによる供給システムを熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 7 回	社会福祉制度 (3) : 福祉サービスの利用過程 現在の供給システムの現状と課題	事前学習	教科書、前回の講義資料福祉サービスの供給過程 (2) 住民主体による公共的ネットワークを熟読しておく
		事後学習	配布資料と講義の整理
第 2 8 回	福祉政策の課題と国際比較 (1) 欧米の制度との比較※	事前学習	教科書、前回の講義資料 : 福祉サービスの利用過程 現在の供給システムの現状と課題を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 2 9 回	福祉政策の課題と国際比較 (2) 北欧諸国との比較	事前学習	教科書、前回の講義資料 (1) 欧米の制度との比較を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理
第 3 0 回	まとめと最終チェック	事前学習	教科書、前回の講義資料 (2) 北欧諸国との比較を熟読しておく
		事後学習	重要事項の確認と講義の整理

期末試験

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として地域や施設で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、過去問題を使用した演習を徹底して行います。その中で、試験に合格するための知識を定着させ、合格へと導いていきます。		
8. 学習目標	社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。 (I) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。 (II) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる) これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。 ・定期試験 (共通科目・専門科目) では、本番の試験の合格基準に従って、 <ul style="list-style-type: none"> ① 全体の60%以上の得点がある。 ② 全ての科目で得点がある (0点科目がない) 。ことを課題とします。 (不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます。) 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 授業内配布テキスト、『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】 『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。		
11. 成績評価の方法	各授業に行う確認テスト 50% 定期試験 (共通科目・専門科目) 50% 30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。 10 分以上の遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなします。		
12. 受講生へのメッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題集」をどれだけ暗記できるかによって決まるので、本講義を受講する学生は、1 問 1 問真剣に取り組んでください。 授業の内容や進行順は変更することがあります。		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる 教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第 2 回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 4 回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 5 回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 6 回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 7 回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 8 回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 9 回	【福祉行政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 10 回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習

	会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)		
第 1 1 回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】 （「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童福祉法（障害児支援関係）」「障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 （「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 （「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 （「相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。)との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期（共通科目）			
第 1 6 回	【社会調査の基礎①】 （「統計法」「社会調査における倫理」「量的調査の方法①」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【社会調査の基礎②】 （「量的調査の方法②」「質的調査の方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【相談援助の基盤と専門職】 （「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の理念」「相談援助に係る専門職の概念と範囲」「専門職倫理と倫理的ジレンマ」「総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 9 回	【相談援助の理論と方法①】 （「様々な実践モデルとアプローチ」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 0 回	【相談援助の理論と方法②】 （「相談援助の過程」「ケースマネジメントとケアマネジメント」「相談援助における社会資源の活用・調整・開発」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【相談援助の理論と方法③】 （「スーパービジョン」「記録」「相談援助と個人情報の保護の意義と留意点」「相談援助における情報通信技術（IT）の活用」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 2 回	【福祉サービスの組織と経営①】 （「福祉サービスに係る組織や団体」「福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 3 回	【福祉サービスの組織と経営②】 （「福祉サービス提供組織の経営と実際」「福祉サービスの管理運営の方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 4 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度①】 （「高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）」「介護過程」「介護と住環境」「介護保険法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度②】 （「介護保険法における組織及び団体の役割と実際」「地域包括支援センターの役割と実際」「高齢者の虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 6 回	【児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】（「児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「児童・家庭福祉制度の発展過程」「児童福祉法」「DV 防止法」「母子保健法」「児童手当法」「次世代育成支援対策推進法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習

第 27 回	【就労支援サービス】 （「雇用・就労の動向と労働施策の概要」「就労支援に係わる専門職の役割と実際」「就労支援分野との連携と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 28 回	【更生保護制度】 （「更生保護制度の概要」「更生保護制度の担い手」「医療観察制度の概要」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 29 回	専門事例問題	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 30 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期（専門科目）			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	GECD4221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習 (指定座席による問題演習)	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として施設や地域で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、社会福祉士養成演習Ⅰで身につけた基本的知識の定着を図るとともに、実際の試験に対応できる応用力を身につけていきます。過去の試験において出題が多くみられる項目を中心について問題演習を行い、最新の福祉の動向も踏まえながら、社会福祉士国家試験合格に必要な力を養成していきます。</p>		
8. 学習目標	<p>社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる)</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・ 予め配布する「一問一答」の中から、毎回授業の最後に確認テストを行うので、満点が取れるまで予習復習を繰り返してください。</p> <p>・ 期間の途中で行う「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>③ 全体の60%以上の得点がある</p> <p>④ 全ての科目で得点がある (0点科目がない) ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>『2016 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規 (3年生の養成演習Ⅰで購入したテキストです。3年次に養成演習Ⅰを受講していなかった学生は、事前に購入しておくこと。)</p> <p>『大学作成の授業内配布テキスト』</p> <p>『見て覚える! 社会福祉士国試ナビ 2017』、中央法規 (秋期の開始時に購入します)</p> <p>【参考文献】</p> <p>『2017 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規</p> <p>『社会福祉士国家試験模擬問題集 2017』中央法規</p> <p>『社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック 共通科目編 2015』中央法規。</p> <p>『社会福祉士受験ワークブック 専門科目編 2015』中央法規。</p> <p>『社会福祉士の合格教科書 2017』医学評論社</p>		
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」と 12月に実施する校内模試の結果 50%</p> <p>60コマ中、16コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する (春学期のみ)。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家試験に合格するためには、「過去問題集」にどれだけ真剣に取り組み、どれだけ暗記できたかにかかっています。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという決意をもって、1問1問真剣に取り組んでください。</p> <p>授業の内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (春期) (試験の概要・傾向等) 【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第2回	【福祉行財政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第3回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第4回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第5回	実力確認テストⅠ (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までに授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習
第6回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第7回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第8回	【相談援助の理論と方法】【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習

		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 9 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】【障害者に対する支援と障害者自立支援法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【地域福祉の理論と方法】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【相談援助の理論と方法】【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験（実力確認テストⅡ）（専門科目）			
第 16 回	ガイダンス（秋期） 共通科目基礎徹底理解①（共通科目ランダム問題） （制度を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解②（共通科目ランダム問題） （人物・年代を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解（専門科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解 （医学・心理学・介護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解① （社会学・法学）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解② （法人）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解① （社会保障・低所得者・高齢者）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解② （障害者・権利擁護・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③ （行財政・保健医療・児童・更生保護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解① （基盤と専門職・社会調査）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解② （理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	事例問題の演習①（理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 28 回	事例問題の演習②（高齢者・児童・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	事例問題の演習③（共通科目編）	事前学習	指定された科目の過去問演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	（試験の問題冊子を持参する）
		事後学習	（最後まで合格を信じること）

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1301
2. 授業担当教員	掛札 節			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあつて、これからの福祉のあり方についても考察する。			
8. 学習目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあつて、これからの福祉のあり方についても考察する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習の理解度をみる課題 (まとめ) を授業内で複数回 (3 回程度) 行います。 *その他毎回の授業の進行状況に応じて指示します。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 大久保秀子著 『新・社会福祉とは何か (第 2 版)』 中央法規出版。 【参考書・資料】 喜多村悦史 『社会保障論』 テキスト (第 2 版) 東京福祉大学出版会。 (*その他、授業の進行に合わせ、随時指示する。)			
11. 成績評価の方法	・課題 (まとめ) ①～③を含む個人の課題の内容 60% ・グループでの作業・発表を含む積極的参加態度 40%			
12. 受講生へのメッセージ	社会福祉入門は、これから保育や児童、福祉等の専門職になるために必要な理論や技術等を修得していく上で基礎となる科目です。そのため、授業への出席、熱意ある参加、グループでのディスカッションや作業、課題作成などへの積極的な取組みを望みます。 (*授業内容や順番、課題等は、皆さんの進捗状況・理解度にあわせて適宜変更していきます。)			
13. オフィシアワー	授業時間内に提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	授業の主な内容や進め方について 社会福祉について		事前学習	教科書の冒頭にある「はじめに」を読んで、理解を進めておく。
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 回	第 1 章 社会福祉とは何か		事前学習	教科書の第 1 章 (pp. 1～19) を読み、理解を進めておく。
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 3 回	第 2 章 社会福祉の歴史		事前学習	教科書の第 2 章 (pp. 20～38) を読み、理解を進めておく
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 4 回	第 3 章 社会福祉の法と行財政		事前学習	教科書の第 3 章 (pp. 39～52) を読み、理解を進めておく。
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 5 回	中間まとめ① (課題①作成)		事前学習	教科書の第 1/2/3 章 (pp. 1～52) を読み、理解を進めておく。
			事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
第 6 回	第 4 章 ソーシャルワークの理解		事前学習	教科書の第 4 章 (pp. 53～67) を読み、理解を進めておく。
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 7 回	第 5 章 最低生活保障と生活保護制度		事前学習	教科書の第 5 章 (pp. 68～82) を読み、理解を進めておく。
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 8 回	第 6 章 児童家庭福祉と次世代育成の展開①		事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 83～108) を読み、理解を進めておく。
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 9 回	第 6 章 児童家庭福祉と次世代育成の展開②		事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 83～108) を読み、理解を進めておく。
			事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等

			についての要点をまとめる。
第 10 回	中間まとめ 2 (課題②作成)	事前学習	教科書の第 4/5/6 章を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
第 11 回	第 7 章 障がい者の自立と福祉	事前学習	教科書の第 7 章 (pp.109~131) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 12 回	第 8 章 高齢者の生活と福祉	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 132~159) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 13 回	第 9 章 地域福祉への展開	事前学習	教科書の第 9 章 (pp.160~174) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 14 回	第 10 章 これからの社会福祉	事前学習	教科書の第 10 章 (pp.175~190) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 15 回	総まとめ (課題③作成)	事前学習	教科書の第 7/8/9/10 章 (pp109~190) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	社会保障論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2105 SCMP2105 SBMP2105 PSMP2405
2. 授業担当教員	齋藤 有里		
4. 授業形態	講義、学生発表、グループディスカッション、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、社会保障を構成している年金、医療、介護保険、労働保険などを、それぞれの沿革にまでさかのぼり、理論的に解説する。そのことにより社会福祉の現場で働く場合に必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を体得する。</p> <p>社会保障の理念や範囲、期待する社会保障の機能などは国によって異なっており、その相違が主に市場経済の構造や社会的慣行にあるとすれば、今後、わが国が豊かな社会保障を構築するためにどのような条件整備を進めていくべきかを探っていく必要がある。</p> <p>教科書をベースに、下記の講義日程に沿って授業を進める。聞き漏らし部分を含め、授業中および授業終了後等に質問する習慣を身に付け、その日のうちに不明部分を解消することが必要である。本科目の学習分野は膨大であり、講義日程に沿って授業が進行するので、後日まとめたの一括つめこみは難しい。</p> <p>事前学習が済んでいることが前提であるから、説明は要点のみとなる。黒板への原則、板書は行わない。論点のいくつかに関して、学生による事前学習成果の発表と質疑討論を授業に組み入れる。</p> <p>制度知識を確実なものとするため、社会福祉士国家試験の過去問等を活用してのグループ討議を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の基本理念と役割を理解し、文章で説明できるようになる。 2 社会保障の各制度について、その適用や給付にとどまらず、運営の仕組みや財源確保の仕組みについても、わかりやすい自分の言葉で口頭説明できるようになる。 3 少子高齢化、政府財政悪化、企業福祉後といった環境変化の中で、社会保障制度の持続性を確保するには何が求められ、国民としてどう行動すべきなのかについて、自身の分析と対案を提示できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業期間中に、授業の理解度の確認のため小テストを数回行う。 2. 事前学習の発表を行う際には、発表者はA4用紙1枚程度の原稿を準備すること。 3. また社会保障制度の役割や機能に関して、各自の理解度および問題意識をより明確にするために、A4用紙3枚程度の課題レポートがある。課題レポートについては、授業時にテーマなどを明記したプリントを配布し、詳しく説明する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 学内作成のオリジナル教科書</p> <p>【参考書】 『新・社会福祉要説』『保育児童福祉要説』『教職科目要説 (初等教育編・中等教育編)』。</p>		
11. 成績評価の方法	評価については、理解度を確認するために行う小テストおよび期末試験 55%、課題レポートおよび事前学習に関する発表 25%、授業態度および積極的参加度 (授業への取り組み・発言) 等 20% で判断する。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の理解や課題解決のため、積極的な態度で臨むこと。 2. 新聞等に目を通すなど、最近の社会保障制度の動向についても興味を持ってもらいたい。 3. 授業中の私語、携帯電話等の操作は禁止。 4. 欠席、遅刻、早退をしないようにすること。 		
13. オフィスアワー	第 1 回目の授業で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	社会保障制度の概要： 社会保障の体系、機能、方法	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障制度の体系などを整理する。
第 2 回	社会保険・公的扶助・社会手当のそれぞれの役割	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	各制度の役割の違いを整理する。
第 3 回	社会保障制度の財源： 社会保障給付費、財源構成	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	財源構成や年次推移などのポイントを理解する。
第 4 回	社会保障の実施体制	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障をめぐる財政の流れを整理する。
第 5 回	少子高齢化・雇用と社会保障： 人口問題、少子高齢化の状況	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	少子高齢化の状況や問題点をまとめる。
第 6 回	労働環境の変化、働き方の多様化	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	働き方による格差や雇用にかかわる様々な問題点を整理する。
第 7 回	社会保障制度の発達： 社会保障制度の成立の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保障制度の歴史の大きな流れを整理する。
第 8 回	日本の社会保障制度の発展	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	日本の制度の変遷を整理する。
第 9 回	年金保険制度の概要と沿革： 年金保険制度の構造	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	年金制度の役割や体系を整理する。
第 10 回	年金保険制度の歴史	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。

		事後学習	年金制度の沿革を整理する。
第 11 回	国民年金（基礎年金）制度： 国民年金制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 12 回	国民年金基金	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民年金との関わりを意識しながら、国民年金基金の役割を整理する。
第 13 回	厚生年金保険制度： 厚生年金保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	厚生年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 14 回	年金保険制度の保険給付と旧共済年金の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	他の年金制度と比較しながら、旧共済年金の被保険者や保険料、制度の役割など整理する。
第 15 回	医療保険制度の概要と沿革： 医療保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	医療保険制度の役割や体系を整理する。
第 16 回	医療保険制度の歴史	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	医療保険制度の沿革をまとめる。
第 17 回	健康保険制度： 健康保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	健康保険制度の被保険者や保険料などについて整理する。
第 18 回	健康保険制度の給付	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	健康保険制度の給付内容を整理する。
第 19 回	国民健康保険制度・高齢者医療制度： 国民健康保険制度の概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	国民健康保険制度の被保険者や保険料について整理する。
第 20 回	高齢者医療制度の概要、その他の公的医療保険制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	高齢者医療制度の被保険者や給付内容などを整理する。
第 21 回	介護保険制度： 介護保険制度の沿革と概要	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	介護保険制度の沿革をまとめ、被保険者や制度の概要を整理する。
第 22 回	介護保険制度の給付内容と制度改正	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	介護保険制度の内容や制度改正の要点をまとめる。
第 23 回	雇用保険： 雇用保険の沿革と仕組み	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	雇用保険の沿革をまとめ、被保険者や保険料について整理する。
第 24 回	雇用保険の給付および各種制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	雇用保険の給付内容などについてまとめる。
第 25 回	労災保険： 労災保険の沿革と仕組み	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	労災保険の沿革をまとめ適用労働者や保険料について整理する。
第 26 回	労災の認定と保険給付	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	労災保険の給付内容などについてまとめる。
第 27 回	諸外国の社会保障制度： 先進国の社会保障制度、主要国の年金制度	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	諸外国の社会保障制度の特徴をまとめる。
第 28 回	主要国の医療保障、社会保障の国際化	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	諸外国の社会保障制度の特徴をまとめる。
第 29 回	保険の意義、企業年金と社会保障の直近の動き： 民間保険と社会保障	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	社会保険と民間保険との違いや、保険の原則についてまとめる。
第 30 回	企業年金、社会保障をめぐる直近の動き	事前学習	教科書の該当箇所を読み、用語等を調べておく。
		事後学習	企業年金などの役割についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	授業研究 (総合学習を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2320
2. 授業担当教員	小野澤 美明子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・グループ協議・発表・レポート作成など		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、「小学校で実践されている授業についての研究」と「総合的な学習の時間」の内容について学習を深める。</p> <p>小学校での教育が目指す方向性について学習指導要領の趣旨や目指すべき学力観について正しく理解するとともにより良い授業を目指すために「評価」という観点から考察検討していく。</p> <p>小学校教育の基本は「授業」であり、授業にかかわる児童の姿や教師の教材研究などについて授業実践例を基にして考えを深めたいと考えている。</p> <p>さらに「総合的な学習の時間」に関しても、その内容や具体的な事例などを踏まえて、「総合的な学習の時間」の進め方などを踏まえて実践する。</p>		
8. 学習目標	<p>(1) 学習指導要領の趣旨や内容を理解する。</p> <p>(2) 目指すべき学力観について理解する。</p> <p>(3) 授業の評価の実際について理解する。</p> <p>(4) 総合的な学習の時間の導入の趣旨や内容について理解する。</p> <p>(5) 総合的な学習の時間の実際について理解する。</p> <p>(6) 自ら課題を見付け、調べ、まとめ、発表し新たな課題を見出す総合的な学習の時間の学習の流れを実践を通して理解する。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1 グループで相談しながら模擬授業及び総合学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成 (取り扱う教科又は領域、学年、単元、目標と内容、指導計画、授業の展開 (本時案) 等) ・選択した領域の研究及びプレゼンテーションの資料作成 <p>2 模擬授業及び総合学習の振り返りカードを記入し、提出する。</p> <p>3 模擬授業の観察記録を提出する。</p> <p>4 模擬授業及び総合学習のプレゼンテーションに関する考察をし、ワークシートに記入する。</p> <p>5 レポート課題 2400字程度</p> <p>次の2つの中から一つ選択する。</p> <p>「わたしのめざす『子どもが主体的に追究する授業』 —〇〇の実践事例を通して—」</p> <p>「わたしの考える教材と授業の発展的展開 —〇〇の実践事例を通して—」</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍、2008年。</p> <p>【参考書】</p> <p>田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年。</p> <p>稲垣忠彦・佐藤学『子どもと教育 授業研究入門』岩波書店、1996年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1 学習指導案の作成 総合点の 20%</p> <p>2 模擬授業 総合点の 20%</p> <p>3 模擬授業の批判的検討 総合点の 20%</p> <p>4 レポート 総合点の 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業は、子どもたちの学ぶ意欲を引き出す大切な源です。子どもたちが、興味や関心を持って学びの可能性を広げていくか否かは、教師自身の学ぶ意欲と、教材研究の深さにかかっています。</p> <p>授業研究は、授業そのものの研究を深めるのは勿論ですが、結局のところ、子どもと教師と教材がどのように関わり合っているかという、関わり方の問題です。関わり方が無限に存在する限り、授業は常に新たに開拓され、更新し続けます。ぜひ、皆さんの自由な発想で授業創りにチャレンジして下さい。</p> <p>また、総合学習は皆さん自身が課題を設定し、周りの様々な人々や事物、事象と関わりながら追究し、活動を深めていく実践経験を通して、教師としての指導力を身に付けてほしいと願っています。</p> <p>学生のうちに、授業を構想したり、総合学習などの実践を経験したりすることは、教師を志す皆さんにとって、大きな宝物になることでしょう。授業解釈も千差万別であり、同一の授業が存在することはあり得ません。だから授業研究はおもしろいのです。積極的に授業に参加して下さい。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業研究」のねらい及び学習内容と今後の予定、授業の進め方を確認する。 <p>○ 授業づくりの基礎理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の構成要素を考える。 ・授業形態の工夫 (集団学習、グループ学習、個別学習、課題別学習、習熟度別学習) ・授業評価 (評価の観点、評価方法等) 	事前学習	印象に残った授業のエピソードをまとめておく。
		事後学習	授業形態及び授業評価に関する内容の復習をする。
第 2 回	<p>○現代社会において目指す学力観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力とは何かについて、自分の見解をまとめる。 ・二つの国際学力調査から日本の子どもたちの学力を読み解く。 	事前学習	学力とは何かに関して、自分の考えをまとめてくる。
		事後学習	ゆとり教育と学力の関係に対する自分の考えをまとめる。
第 3 回	<p>○総合的な学習の時間の導入の趣旨及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科と総合学習の関係性を考える。 	事前学習	学習指導要領第 5 章「総合的な学習の時間」の項目を読んでくる。
		事後学習	教科と総合学習の関係性に関する考察をまとめる。

第 4 回	○総合学習の基礎理論と実践事例 ・特色及び多様なアプローチ方法を学ぶ。 ・活動計画の重要性を考える。 ・実践事例を検討する	事前学習	総合学習の実践事例を、インターネットや書籍などで調べる。
		事後学習	総合学習の評価方法を復習する。
第 5 回	○模擬授業及び総合学習のグループ編成 ○学習指導案の作成方法（単元名、目標、単元設定の理由、指導計画、本時のねらい、本時の展開、評価等）を学ぶ。	事前学習	興味のある分野及び領域を考慮しておく。
		事後学習	決定した領域及び教科に関する教材研究をする。
第 6 回	○模擬授業及び総合学習発表の準備 ① ○主体的に追究する総合学習の展開について理解する。 (課題発見→目標設定→課題追究→課題解決→新たな課題発見) 【模擬授業グループ】 ・授業の大まかな展開を考える ・それぞれの場面における役割分担をする。 【総合学習グループ】 ・自分たちの興味を基に課題を設定し、目標に向かってどのような方法で探究していくか計画を立てる。	事前学習	決定した領域及び教科に関する教材研究をする。
		事後学習	・模擬授業グループは、各自指導案を作成し、それを持ち寄って協議するように準備をする。 ・総合学習グループは、どのような探究の拡がりがあるか各自、案を練る。
第 7 回	○模擬授業及び総合学習発表の準備 ② 【模擬授業グループ】 ・指導案を完成させ、役割分担をする。 【総合学習グループ】 ・グループのメンバーが関わり合いながら探究活動を深め、発展させていく。単なる調べ学習で完結しないように留意する。	事前学習	グループで適宜打ち合わせの時間を確保し、全体の構成を練る。修正を加えて吟味する。
		事後学習	・模擬授業グループは、リハーサルをし、適宜修正を加える。 ・総合学習グループは、各自役割を認識し、目標が達成できるように活動をする。
第 8 回	○模擬授業及び総合学習発表の準備 ③ 【模擬授業グループ】 ・模擬授業のシミュレーションをする。(教材の工夫、授業の演出、役割分担の確認) 【総合学習グループ】 ・社会的事象(周りの人や物、こと)と関わり、体験しながら活動を深める。	事前学習	各グループの計画に沿って準備を進める。
		事後学習	各グループの計画に沿って準備を進める。
第 9 回	○模擬授業と研究協議会 ① ・子ども役と授業記録役は交互に演ずる。 ・模擬授業に対する批判的検討をする。 各自の授業記録を振り返りながら指導案や授業の展開に対する見解をディスカッションする。 <設定した単元の有効性> ・子どもが興味や関心を持って取り組めるか。 ・子どもの実態に即しているか。 ・活動内容の多様な発展が期待できるか。 ・子どもたちの学力を含む多面的成長が期待できるか。 <指導案の検討> ・目標は焦点化されているか。 ・単元設定の理由に、子どもの願いや教師の願い、教材観等がふくまれているか。 ・学習活動・内容は子どもの主体性や創造性が保障され、意欲的参加が期待できるか。 ・指導上の留意点及び評価の観点は明確かつ適切か。	事前学習	それぞれの役割を認識し、責任を果たす。
		事後学習	・授業者は、今後の授業分析及び実践に生かせるように、授業をリフレクションし、ワークシートにまとめる。 ・観察した模擬授業に対する考察をワークシートにまとめる。(教師の話し方、板書の仕方、資料の提示と活用、役割演技等について工夫されていた点、改善点、感想など) 設定した単元の有効性に対する見解を述べる。
第 10 回	○模擬授業と研究協議会 ② <教師の指導・支援> ・声の大きさや話す速さは適切だったか。 ・板書は見やすいように工夫、整理されていたか。 ・資料の提示と活用は適切だったか。 ・教師の役割演技はどうだったか。 ・本時の課題は提示されていたか。 ・子どもの興味をそそる演出の工夫はなされていたか。(動機づけ) ・指示や発問が適切になされていたか。 ・全体の動きと個に配慮した指導がなされていたか。 ・子どもが主体性や創造性を尊重するような配慮が見られたか。 ・本時のまとめと次時の課題の提示はなされていたか。	事前学習	他グループの模擬授業を参考にして、その都度自分たちの指導案及び授業の進め方を見直す。 ・指導案の記述内容は適切か。 ・教師の指示や発問内容を見直す。
		事後学習	観察した模擬授業に対する考察をワークシートにまとめる。(動機づけ、本時の課題、教師の指示及び発問の仕方、集団と個を意識した指導、本時のまとめと次時の課題、子どもの主体性及び創造性の尊重等について。)
第 11 回	○模擬授業と研究協議会 ③ <子どもの活動への取り組み> ・本時の課題が把握できていたか。 ・興味・関心を持って意欲的に取り組んでいたか。 ・積極的、主体的に活動に参加していたか。 ・友だち同士で関わり合いながら活動に参加できたか。 ・本時の目標は達成できたか。 ・子どもの役割演技はどうだったか。 <その他> ・教師と子どもの主体的な協働参加により授業が創られていたか。 ・ITは適切に機能していたか。 ・特別に支援が必要な子どもに対する配慮はなされていたか。 ・教室環境は整備されていたか。	事前学習	教師と子どもの協働参加の視点から指導案を見直す。予想される子どもの反応について検討する。
		事後学習	観察した模擬授業に対する考察をワークシートにまとめる。(授業形態の工夫、教師及友だち同士の積極的・主体的協働参加、ITの有効性、特別支援、目標の達成度、教室環境等について。)
第 12 回	○総合学習のプレゼンテーション ① ・グループの目標は明確に設定されているか。 ・発展的展開が期待できる課題が設定されているか。 ・目標に向かって、意欲的な探究がなされているか。 ・表層的な、単なる調べ学習になっていないか。	事前学習	総合的な学習の時間の指導要領の内容を復習する。 課題レポートを作成する。
		事後学習	発表を聞き、見解をまとめる。
第 13 回	○総合学習のプレゼンテーション ② ・メンバーの協働参加による活動の深まりが見られるか。 ・社会的事象との関わりの中で体験しながら活動を追究しているか。	事前学習	全国の総合学習の事例を調べる。
		事後学習	発表を聞き、見解をまとめる。

平成 28 年度

第 14 回	○ 総合学習のプレゼンテーション ③ ・ライフヒストリーを紡ぐ営みとしての充実感を味わえる活動になっているか。	事前学習	全国の多様な実践事例を調べる。
		事後学習	発表を聞き、見解をまとめる。
第 15 回	○ 総合学習のプレゼンテーション ④ ○ 授業研究のまとめと今後の課題 ○ 海外の授業研究 ー米国を中心にー ・総合学習及び教科学習の事例を検討する。 ○ 公開研究会の情報を提供する。	事前学習	全国の多様な実践事例を調べる。
		事後学習	できるだけ多くの公開研究会に参加しよう！

1. 科目名 (単位数)	障害児療育 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2341 SCMP2341 SBMP2341 SJMP2119
2. 授業担当教員	齋藤 厚子		
4. 授業形態	講義、DVD視聴、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>「療育」という用語は、狭義には障害の早期発見から就学までの取り組みの意味で使われ、広義には成人の生活支援も含み、医療・福祉・教育にまたがる分野で使われている。近年、明確な診断のない「気になる」子どもや被虐待児もその対象となり、ノーマライゼーションの理念の理解とともに発達や障害についての幅広い知識が必要となるばかりか、親支援や地域の子育て支援も保育士の重要な役割となっている。</p> <p>本科目では、知的障害、肢体不自由、視覚障害や聴覚障害、自閉症スペクトラムを含む発達障害、診断はないが「気になる」子どもを対象に、年齢は乳幼児から成人まで、場所は一般の保育所のみならず、病院内保育、施設内保育等、幅広い視野で「療育」を捉え、保育士としての専門性を培う。</p>		
8. 学習目標	<p>統合保育の場では、障害のある子どもやその子を支える家族の生活・心情をふまえた支援ができるとともに、障害のない子どもへの配慮や教育もできるようになる。また、専門機関においても、保育士としての専門性を発揮して、医療・福祉の専門化と連携して適切な支援ができるようになる。</p> <p>① 幅広い対象、場、形態に及ぶ「療育」の理念や概念について知る。 ② 障害に関する医療・社会福祉・教育の制度についての基礎知識を身に付ける。 ③ 障害のある子どものいる家族の生活や心情について共感できるようになる。 ④ 発達とその順序性についての基礎知識を基盤に、障害のある子どもの育ちに見通しをつけられるようになる。 ⑤ 様々な専門家の役割を知って、障害のある子どもや保護者を中心とした連携・協働ができるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 授業の内容についてミニテストを実施します。レジュメ・ノートにて予習、復習を行ってください。 2. 障害の特徴などについてグループごとにテーマを決めて調べ発表を行います。 3. テスト 事例レポートを実施します (詳細は授業にて)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 指定しません。レジュメ、資料を使用します。※レジュメをファイルするフォルダーを用意すること。 【参考書】 小林保子・立松英子『保育者のための障害児療育 理論と実践をつなぐ』学術出版会。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』、中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (積極的参加度 グループ学習での取り組み姿勢)、試験・レポート等を総合的に評価 授業参加態度 グループ活動参加度 40% 授業時レポート・ミニテスト 20% テスト 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業を通して学ぶ知識や考える力、他者と協力する姿勢など全てが将来の障害児支援の専門職としての実践力につながります。そしてその実践力が、子どもたちの可能性を広げます。そのような将来への視点を持って授業に臨んでください。</p>		
13. オフィスアワー	後日インフォメーションします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・授業概要 ・評価基準の説明 ・グループ作りとグループ課題の説明	事前学習	シラバスを読み授業概要を理解しておく。※レジュメをファイルするフォルダーを用意すること。
		事後学習	グループ課題に関する書籍など資料を探しておく。
第 2 回	DVD 視聴を通し障害の多様性について知る	事前学習	事前プリントに目を通しておく
		事後学習	DVD で学んだことについて振り返っておく。
第 3 回	障害概念の変化 ・ノーマライゼーション ・ICF ・障害児者に関する法律・福祉政策・教育施策	事前学習	3 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 4 回	知的障害児への理解と支援	事前学習	4 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 5 回	肢体不自由児への理解と支援	事前学習	5 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 6 回	聴覚障害児者への理解と支援 視覚障害児者への理解と支援	事前学習	6 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 7 回	自閉症スペクトラム障害への理解と支援	事前学習	7 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 8 回	注意欠如多動性障害への理解と支援	事前学習	8 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 9 回	学習障害への理解と支援 てんかんに対する理解と支援	事前学習	9 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 10 回	気になる子への理解と支援 家族への理解と支援	事前学習	10 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 11 回	療育とは	事前学習	11 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 12 回	支援計画の作成①脳性麻痺の A ちゃんへの支援	事前学習	12 回目のテーマについて各自調べてみる。

平成 28 年度

		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 13 回	支援計画の発表とディスカッション	事前学習	13 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 14 回	支援計画の作成②氷山モデルでの支援プラン作成	事前学習	14 回目のテーマについて各自調べてみる。
		事後学習	レジュメ・ノートの内容を復習しておく。
第 15 回	支援計画の発表とディスカッション	事前学習	今までのテーマについて振り返っておく。
		事後学習	1～15 回までのレジュメ・ノートの内容を復習しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2101 SCMP2101 SBMP2301 PSMP2401
2. 授業担当教員	西村 明子		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>障害者を取り巻く福祉制度・政策は、日々、劇的な変化を遂げている。そして、障害者のニーズも複雑・多様化している。実践現場では、これに適切に対処することができるソーシャルワーカーが求められている。本講義においては、激しく移り変わる障害福祉制度や情勢、さらには障害者の実情について学び、ソーシャルワーカーが主体的に問題解決に取り組むことができるように知識を身につけていく。</p> <p>また、ソーシャルワーカーは多面的な視点を必要とすることから、新聞記事等、資料も用いて障害者問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ、福祉問題について共に考えていく。</p> <p>そして、障害者福祉論は、社会福祉士国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目となる。同国家試験の合格を目指すためには、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」が得点源となるような受験対策が必要となる。そのため、本講義においては、過去の国家試験を分析・検討し、それに沿った内容も講義する。</p>		
8. 学習目標	<p>障害者福祉論が終了した時点で、具体的に以下の点を理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 ・障害者福祉制度の発展過程 ・障害者自立支援制度と近年における改正状況 ・障害者福祉に関連する法令の概要 ・相談支援事業所の役割と実際 ・障害者福祉の専門職の役割と実際 ・障害者福祉の他職種連携・ネットワーキング ・障害者自立支援制度と介護保険制度の関係 ・障害者権利条約の批准 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>講義を聞いているだけでは、その内容を理解することは難しい。そのため、学生の理解度を上げるため、講義内において課題を設定し、それを行うことを予定している。</p> <p>具体的には次のような課題である。①障害者の生活実態、②障害者基本法の体系、③身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要、④障害者虐待防止法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者差別解消法の概要、⑤障害者総合支援法への改正点等</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第 5 版)』中央法規。</p> <p>参考図書等については随時提示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>①中間試験 40% ②期末試験 40% ③授業への積極的参加度及びレポート 20% ①～③を総合的に評価する。</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得を認めない。 また、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象となる。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講義においては、学生の理解度を上げるため、さまざまな箇所において、学生の意見や感想、さらにはこれまでに学んだ福祉の知識について、質問していくという形式で講義を進めていく。その際、学生からの積極的な参加を望んでいるので、その内容が優れていると判断した場合には、大いに講義内評価として加味していく。授業の進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合もある。</p> <p>また、学生自身により講義の質を高めるため、以下の点に注意して受講しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講する。 ・理解できないことは、講義外において積極的に質問する。 ・明らかに態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。それでも改善が見られない場合には、たとえ皆出席であっても F 評価とする。 ・講義中、私語、居眠りは絶対にしてはならない。 		
13. オフィスアワー	初回授業で連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 障害者を取り巻く社会情勢と生活実態① 戦後の障害者福祉の展開・障害の理念	事前学習	教科書を準備し、シラバスに目を通してから講義へ臨むこと
		事後学習	戦後の障害者福祉の展開を理解する
第 2 回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態② 障害者権利条約批准の意味するところ 障害者の生活実態	事前学習	教科書 pp. 14～25 を熟読し、障害者の現状を理解する
		事後学習	障害者の現状について、配布プリントの復習
第 3 回	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態③ 「障害」の多様な見方・国際生活機能分類 (ICF)	事前学習	教科書 pp. 26～30 を熟読し、ICF を理解する。
		事後学習	ICF と医学モデル/社会モデルについて配布プリントの復習
第 4 回	障害者にかかわる法体系① 障害者基本法の概要 障害者差別解消法と合理的配慮	事前学習	教科書 pp. 32～45・pp69～70 を熟読し、障害者基本法を理解する。
		事後学習	障害者基本法・障害者差別解消法の概要について配布プリントの復習
第 5 回	障害者にかかわる法体系② 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健	事前学習	教科書 pp. 46～58 を熟読し、身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉

	福祉法・発達障害者福祉法の概要と課題		法を理解する
		事後学習	身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法・発達障害者福祉法の概要について配布プリントの復習
第 6 回	障害者にかかわる法体系③ 障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法の概要と課題	事前学習	教科書 pp. 59～73 を熟読し、障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法等を理解する
		事後学習	障害者虐待防止法・医療観察法・バリアフリー新法・障害者雇用促進法の概要について配布資料を復習
第 7 回	第 1 回から第 6 回までのまとめ・中間試験	事前学習	第 1 回～第 6 回までを復習する
		事後学習	中間試験で、出来なかったところを復習
第 8 回	障害者総合支援法の概要①	事前学習	教科書 pp. 102～104 を熟読し、障害者総合支援法の概要を理解する。
		事後学習	障害者総合支援法の概要について配布プリントの復習
第 9 回	障害者総合支援法② 支給決定のプロセス	事前学習	教科書 pp. 118～125 を熟読し、障害者総合支援法の支給決定のプロセスを理解する。
		事後学習	支給決定のプロセスについて配布プリントの復習
第 10 回	障害者総合支援法③ 自立支援給付のサービス (1) (介護給付・訓練等給付)	事前学習	教科書 pp. 105～117 を熟読し、自立支援給付のサービスを理解する
		事後学習	自立支援給付のサービスについて配布プリントの復習
第 11 回	障害者総合支援法④ 自立支援給付のサービス (2) (自立支援医療・補装具・地域相談支援)	事前学習	教科書 pp. 126～151 を熟読し、自立支援給付のサービスを理解する
		事後学習	自立支援給付のサービスについて配布プリントの復習
第 12 回	地域生活支援事業のサービス (都道府県地域生活支援事業・高次脳機能障害) 障害児に対する支援・	事前学習	教科書 pp. 132～137 を熟読し、地域生活支援事業のサービスを理解する
		事後学習	地域生活支援事業・障害児支援のサービスについて配布プリントの復習
第 13 回	ゲストスピーカーを予定	事前学習	配布する資料を通読しておく
		事後学習	ゲストスピーカーの講義をノートに整理する
第 14 回	障害者の所得保障・国家試験過去問題 (事例問題)	事前学習	教科書 pp. 78～79 を熟読し、障害者の所得保障の理解と提示した国家試験過去問題を解いてくる
		事後学習	障害者の所得保障について配布プリント・国家試験問題の復習
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書・配布したプリントを復習し、解らないところを整理しておく
		事後学習	期末試験に向けて復習
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害の理解 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2314
2. 授業担当教員	秋島 恵子		SCMP2314
4. 授業形態	講義、グループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>障害の基礎的理解として、障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解する。また、障害のある人の日常生活に及ぼす影響を理解した上で、障害のある人やその家族への生活支援を行うための根拠となる知識を習得することを目的とする。</p> <p>事例や視聴覚教材等を通して、具体的に障害を理解できるような授業を展開する。</p>		
8. 学習目標	<p>障害の理解 I が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念や障害の基本的理念が理解でき、その人らしい生活を考えることができる。 2. 生活モデル、ICF の概念が理解でき、環境改善のあり方を考えることができる。 3. 身体的、精神的障害について理解でき、ノーマライゼーションの考え方を明らかにすることができる。 4. 障害が及ぼす日常生活への影響やバリアが理解でき、その対応を考えることができる。 5. 障害のある人に対する介護の基本的視点が理解でき、生活ニーズを把握することができる。 6. 障害のある人だけでなく、その家族とどう関わるか理解でき、専門職としての役割を考えることができる。 7. 障害の種類や特性に応じた保健・医療・福祉との連携と地域におけるサポート体制を理解した上で、地域で普通に暮らすことのできる社会づくりを考えていくことができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内に配布する「リアクションペーパー」に、発表に対する評価・意見・感想・質問等を書き、その授業時間内に提出する。</p> <p>発表テーマ 1～4 と 5～8 の中からそれぞれ 2 つずつ選び、レポートを作成し提出する。</p> <p>5 回目、6 回目は、演習をもとに内容をまとめ、授業内に提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小澤 温編『障害の理解』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>発表 (2 回) 20%</p> <p>レポート (4 回) 40%</p> <p>小レポート (3 回) 15%</p> <p>リアクションペーパー (8 回) 16%</p> <p>期末試験 (到達度確認試験) 9%</p> <p>理由の申し出がない場合、欠席 10 点減点、遅刻、中抜け、早退は 1 回で 3 点減点とする。</p> <p>尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業中のマナー、ルールを守ること</p> <p>【出欠席について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず、遅刻、早退、欠席する場合は、その理由を申し出ること。何もない場合は減点対象とする。 <p>【マナー、ルールについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人の受講の妨げになるような迷惑行為は慎む。 ・私語や携帯の利用、授業途中での入退室は、授業を真面目に聞こうとしている人に対して大変に迷惑をかける行為となるため、自粛する。(携帯電話などは電源を切るかマナーモードにする。また、かばん等に必ずしまっておく。) ・居眠りをしない。 ・明らかに授業態度が不適切と判断された際は、厳格な指導を行うが、指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ皆出席であっても F 評価となる。 		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>「障害の理解 I」のねらい、授業のすすめ方</p> <p>テーマ「障害の基礎的理解」</p> <p>障害の概念、障害者の状況、ICF に基づく障害のとらえ方について理解する。</p>	事前学習	テキスト pp. 2～8 を読んでおく。
		事後学習	障害の概念、障害者の状況、ICF に基づく障害のとらえ方について整理する。
第 2 回	<p>「障害者の基礎的理解 2」</p> <p>障害者の定義について、班でまとめる。</p>	事前学習	テキスト pp. 2～8 を読んでおく。
		事後学習	障害者福祉の定義 1 について整理する。
第 3 回	<p>障害者の基礎的理解 3」</p> <p>障害者の定義について、班で発表する。</p> <p>障害者の定義についてまとめたものを提出する。</p> <p>班編成と班のテーマを決める。</p> <p>発表までの手順を決める。</p> <p>発表内容についてまとめる。</p>	事前学習	テキスト pp. 2～8 を読んでおく。
		事後学習	障害者福祉の定義 2 について整理する。
第 4 回	発表掲示資料と配布資料を作成する。	事前学習	発表内容について、各自まとめる。
		事後学習	発表掲示資料と配布資料を作成する。
第 5 回	テーマ「障害者の理解 1」	事前学習	テキスト pp. 28～37 を読んでおく。

平成 28 年度

	身体障害者の理解： 視覚障害について理解する。 (演習、小レポート提出)	事後学習	視覚障害について整理する。
第 6 回	テーマ「障害者の理解 2」 肢体不自由について理解する。(演習、小レポート提出)	事前学習	テキスト pp. 48～62 を読んでおく。
		事後学習	肢体不自由について整理する。
第 7 回	テーマ「障害者福祉の基本理念」 障害者福祉の基本原則、障害者総合支援法による基本理念、ノーマライゼーションやリハビリテーションの理念について (発表 1)	事前学習	テキスト pp. 9～68 を読んでおく。
		事後学習	障害者福祉の基本理念について整理する。
第 8 回	テーマ「障害者福祉の歴史と展開」 障害者福祉の歴史について (発表 2)	事前学習	テキスト pp. 19～27 を読んでおく。
		事後学習	障害者福祉の歴史について整理する。
第 9 回	テーマ「障害者の理解 3」 聴覚障害・言語障害について (発表 3)	事前学習	テキスト pp. 19～27 を読んでおく。
		事後学習	障害者福祉の歴史について整理する。
第 10 回	テーマ「障害者の理解 4」 内部障害：内部障害（心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害）について (発表 4)	事前学習	テキスト pp. 63～68 を読んでおく。
		事後学習	心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害について整理する。
第 11 回	テーマ「障害者の理解 5」 精神障害について (発表 5)	事前学習	テキスト pp. 63～68 を読んでおく。
		事後学習	心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害について整理する。
第 12 回	テーマ「障害者の理解 6」 知的障害について (発表 6)	事前学習	テキスト pp. 89～98 を読んでおく。
		事後学習	知的障害について整理する。
第 13 回	テーマ「障害のある人の心理」 障害の及ぼす心理的影響について (発表 7)	事前学習	テキスト pp. 166～177 を読んでおく。
		事後学習	障害の及ぼす心理的影響について整理する。
第 14 回	テーマ「障害のある人の心理」 障害の受容について (発表 8)	事前学習	テキスト pp. 178～189 を読んで、障害の受容について調べる。
		事後学習	障害の受容について整理する。
第 15 回	発表のまとめ	事前学習	これまで発表された内容について勢理しておく。
		事後学習	まとめをもとに、レポートを作成する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	小学校教育実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	EDTE2371
2. 授業担当教員	加藤 卓	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。 2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。 3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。 4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	道徳の授業は、担任が行うことが基本とされるため、指導案を作成し授業を行う力が必須である。また、教育実習指導を学んだ上での自己の課題を明確にするため、期末課題としてレポートに取り組む。 課題1 道徳の指導案の作成と模擬授業(グループ) 課題2 期末レポート(個人 1000~1250文字 1枚) 「教育実習指導での学びをふまえての、教育実習に向けた具体的な取組みについて」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ①文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』、東洋館出版社、2008年。 ②東京福祉大学編『教育実習の手引』、東京福祉大学、2015年(平成27年1月改訂版)。 ③宮崎猛/小泉博明『実習生 受け入れ校必携マニュアル教育実習完璧ガイド』、小学館、2005年。 ④久米公編著『学習指導要領準拠 漢字指導の手引き 第七版』、教育出版株式会社、2011年。 【副読本】 文部科学省『生徒指導提要』、教育図書株式会社、2011年、pp.23~27 道徳の指導案を作成するにあたり、道徳の副読本が必要になる。 石橋裕子、林幸範、梅澤実『小学校教育実習ガイド』、萌文書林、2011年、(¥1,944) 授業では使用しないが、各教科の指導案作成時には参考にされたい。		
11. 成績評価の方法	下記の3項目により、総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度(グループ活動・発言・準備物・前学習点検など) … 30% (欠席4回で単位取得資格を失う遅刻は2回で欠席1回とする1時間以上遅れた遅刻については原則として出席と認めない山手線の遅延は、初回の遅延証のみ認める。4回目以降の遅延は遅刻扱いとする。) 2. 学習指導案・模擬授業(グループ) … 30% 3. 期末レポート(個人) … 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	教育実習は、やり直しのきかない一本勝負であり、教員志望者にとっては大きな関門である。多くのことを学ぶ機会であるので、恐れることなく希望を持って取り組むことができるよう、基本的な心構え・態度や知識をこの講義を通して習得されたい。 実際の教育実習では、黒板や実習日誌等への初期での誤字・脱字・筆順の誤りが大きな減点対象になっている。そのため、ひらがな・カタカナ・数字・記号・1~6学年における筆順の主要な漢字について、教育者に不可欠な高精度な書字能力の習得を目指す。丁寧な書字については日頃からの自己点検を心掛けられたい。 また、教育実習では、正当な理由が無く一度でも遅刻・欠勤をすると、単位取得が不可能になる。教育公務員として児童の手本となる生活態度・勤務態度ができなければ、不適格者であるという評価を受ける。清楚な頭髪や服装にし、居ずまいを正し常日頃から生活全般において自分を律した生活を心掛けることは、とても重要なことである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生証を必ず持参し、授業中は机上に提示しておくこと(出席点検・予習点検・準備物点検・積極的参加度・復習点検等による加減点に使用するため)。 2. 正当な理由がある欠席・遅刻・早退は、理由を書面にて提出すること。 3. 授業開始3分前から真剣に取り組み、他受講者の学ぶ権利を侵害することがないよう、私語・電話やメールやSNSでの携帯の使用・居眠り・飲食等を禁止する。 4. 事前学習点検に備え、予習・復習をしっかりと行う習慣をつけること。 5. 試験勉強・受験勉強で役立つよう、学習したページには付箋を貼ること。 6. 受講者の学力・理解度・作業速度等により、内容を一部変更する場合がある。 		
13. オフィスアワー	第1回目の講義で提示する(シラバス記載時点で、講義時間割が未定であるため)。 Office Hour でも不在の場合があるので、予めアポイントメントを取ること。 E-mail address ta-kato アットマーク ed.tokyo-fukushi.ac.jp 研究室所在地 13号館5階957研究室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 主免許小学校教育実習の目的と意義 黒板の使い方・筆記用具の準備	事前学習	②pp.1-7, pp.23-31・③「1 教育実習が始まる前に」pp.18-19の主免許小学校教育実習の目的と意義に関連する項を通読し、重要な部分にアンダーラインを引く。 (①~④の記号は、教科書を表す。以下同様)
		事後学習	主免許小学校教育実習の目的と意義に関する重要事項を整理し、自己のノートに記録する。
第2回	グルーピング 道徳教育の目的と内容、授業設計の方法	事前学習	①pp.20-24, pp.116-121・③「3 学習指導案の書き方」pp.56-71の道徳教育の目的と内容、授業設計の方法に関連する項を通読し、重要な部分にアンダーラインを引く。 (①~④の記号は、教科書を表す。以下同様)
		事後学習	道徳教育の目的と内容、授業設計の方法に関する重要事項を整理し、自己のノートに記録

			する。
第 3 回	硬筆でのひらがなの書き方 指導案の書き方と構想	事前学習	②pp. 31-32・③「3 学習指導案の書き方」 pp. 68-69 の指導案の書き方に関連する項を 通読し、重要な部分にアンダーラインを引 く。
		事後学習	指導案の書き方に関する重要事項を踏まえ、 道徳の指導案等の作成に取り組む。
第 4 回	硬筆でのカタカナの書き方 実習日誌の書き方	事前学習	②pp. 17-21, pp. 28-30・③「5 実習日誌はこ う書こう」pp. 100-110 を通読し、重要な部分 にアンダーラインを引く。
		事後学習	実習日誌の書き方に関する重要事項を整理 し、自己のノートに記録する。
第 5 回	模擬授業のリハーサル (指導案・教材等提出 第 5 回の週末金まで)	事前学習	指導案・細動案・板書計画・教材等の作成を 完了し、模擬授業のリハーサルの準備を整え る。
		事後学習	模擬授業のリハーサルの反省点を元に、指導 案・細動案・板書計画・教材等を修正する。 指導案・教材等を第 5 回の週末金曜日まで提 出する。
第 6 回	道徳の時間の模擬授業 1 教育実習日誌の記載練習	事前学習	道徳の時間の模擬授業 1 の準備を行う。また、 教育実習日誌の記載練習に関連する項を再 読する。
		事後学習	道徳の時間の模擬授業 1, 教育実習日誌の記 載練習で感じた反省点を自己のノートに記 録する。
第 7 回	道徳の時間の模擬授業 2 教育実習日誌の記載練習	事前学習	道徳の時間の模擬授業 2 の準備を行う。また、 教育実習日誌の記載練習に関連する項を再 読する。
		事後学習	道徳の時間の模擬授業 2, 教育実習日誌の記 載練習で感じた反省点を自己のノートに記 録する。
第 8 回	数字と記号の書き方 グループと個人の模擬授業の反省	事前学習	ノートに記録済みの個人の模擬授業の反省 を再確認し、発言に備えてアンダーラインを 引く。
		事後学習	グループと個人の模擬授業の関する反省を 整理し、自己のノートに記録する。
第 9 回	1 学年の基本筆順の漢字 (33 字/43 字) 教育実習までの事前準備	事前学習	②pp. 8-11・③「1 教育実習が始まる前に」 pp. 4-29 の教育実習までの事前準備に関連す る項を通読し、重要な部分にアンダーライン を引く。 ④の 1 学年の漢字 43 字の項を通読する。
		事後学習	教育実習までの事前準備に関する重要事項 を整理し、自己のノートに記録する。
第 10 回	1・2 学年の基本筆順の漢字 (10/43 字+20/44 字) 教育実習の心得	事前学習	②pp. 11-15, p. 25・③「2 実習中の心得」の 教育実習の内容に関連する項を通読し、重要 な部分にアンダーラインを引く。 ④の 2 学年の漢字 32 字の項を通読する。
		事後学習	教育実習の内容に関する重要事項を整理し、 自己のノートに記録する。
第 11 回	2 学年の基本筆順の漢字 (22/44 字) 小学校教育実習の評価	事前学習	②pp. 21-22, pp. 26-27・③「2 実習中の心得」 pp. 52-53 の教育実習の心がけに関連する項 を通読し、重要な部分にアンダーラインを引 く。
		事後学習	教育実習の評価に関する重要事項を整理し、 自己のノートに記録する。
第 12 回	3 学年の基本筆順の漢字 (35/35 字) 授業の実際	事前学習	②pp. 15-17・③「4 授業の実際」 pp. 84-99 の 授業の実際に関連する項を通読し、重要な部 分にアンダーラインを引く。 ④の 3 学年の漢字 35 字の項を通読する。
		事後学習	小学校教育実習の授業の実際に関する重要 事項を整理し、自己のノートに記録する。
第 13 回	4 学年の基本筆順の漢字 (18/30 字) 目指す教師像と礼儀作法	事前学習	②pp. 8-12, p20-21, pp. 33-35・③「2 実習中の 心得」 pp. 30-35 の目指す教師像と礼儀作法に 関連する項を再確認し、重要な部分にアンダ ーラインを引く。 ④の 4 学年の漢字 18 字の項を通読する。
		事後学習	目指す教師像と礼儀作法に関する重要事項 を整理し、自己のノートに記録する。
第 14 回	5・6 学年の基本筆順の漢字 (12/30 字+11/11 字)	事前学習	③「6 教員採用試験に向けて」 pp. 114-129 を 通読し、重要な部分にアンダーラインを引 く。

	教育実習の自己の課題の言語化		教育実習の自己の課題について考え、ノートにレポートの構想を記録する。 ④の 5・6 学年の漢字 12+11 字の項を通読する。
		事後学習	教育実習の自己の課題への取組みについてレポートを作成する。高精度な書字と筆順の習得ができたか総復習する。
第 15 回	講義のまとめ 期末レポート提出 高精度な書字と筆順の習得確認シート提出	事前学習	自己の課題を克服するための取組みを明らかにしたレポートを完成する。
		事後学習	自己の課題への解決行動を開始する。

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1353 GELA1333
2. 授業担当教員	藤田 尚		
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。 犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。 事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。 以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	アサイメントとしては、講義前にはテキストの該当箇所を読み、講義後は知識の定着を図るため、再度、テキストやレジュメに目を通す。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 教科書は使用せずに、レジュメを基に講義を行う。</p> <p>【参考書】 澤登俊雄『少年法入門 第6版』有斐閣、2015年。 丸山雅夫『少年法講義 第2版』成文堂、2012年。 守山正=後藤弘子編『ビギナーズ少年法 第2版補訂版』成文堂、2009年。 田宮裕=廣瀬健二編『注釈少年法 第3版』有斐閣、2009年。 川出敏裕=金光旭『刑事政策』成文堂、2012年。 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房、2011年。 法務省法務総合研究所『平成27年版 犯罪白書』日経印刷株式会社、2015年。</p>		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・授業(グループ討議も含む)への参加度など(20%)。小テスト(80%)。		
12. 受講生へのメッセージ	受講生と同年代の少年が、なぜ犯罪を行わざるを得なかったかについて、常日頃から新聞やニュース等に関心を持ち、その理由を考えてほしいと思います。また、本講義を通して、少年犯罪に興味を持ち、一人でも多くの少年を更生させるための支援を担ってほしいと考えます。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、少年非行とは	事前学習	少年非行とは何かについて、参考書等を参照する。
		事後学習	少年非行とは何かについて、再度、レジュメ及び参考書を読み直し、理解を深める。
第2回	少年非行の動向及び要因	事前学習	少年非行の動向や要因について、参考書における該当箇所を読んでおく。
		事後学習	レジュメ等を参考に、少年非行の動向や要因について理解し、私見をまとめる。
第3回	少年法の理念と基本構造	事前学習	少年法の理念である健全育成を中心に、その目的や基本構造について、参考書等を読んで授業に臨む。
		事後学習	少年法の理念や基本構造について整理し、まとめる。
第4回	非行の発見過程	事前学習	発見活動の主体と対象及びその方法について調べておく。
		事後学習	理解しにくい箇所のため、レジュメや参考書を振り返りながら、発見の主体と対象をしっかりと区別しながら、まとめる。
第5回	事件の受理と調査過程	事前学習	家庭裁判所によって事件が受理され、調査が始まるのだが、その一連の流れについて調べておく。
		事後学習	観護措置や家庭裁判所調査官の役割等について、まとめる。
第6回	審判過程	事前学習	審判の意義、対象、関係者等について調べて授業に臨む。
		事後学習	審判については、裁定合議制、検察官関与、被害者等の傍聴等、少年法改正による様々な論点があるため、論点

			に対する私見をまとめておく。
第 7 回	少年の刑事事件	事前学習	少年の保護事件と刑事事件の違いについて調べておく。
		事後学習	少年の保護事件と刑事事件の差異について、再度、レジメ等を参考に整理し、理解を深める。
第 8 回	非行少年の処遇① 保護観察	事前学習	保護処分の 1 つである保護観察の内容について、参考書等を用いて調べる。
		事後学習	成人に対する保護観察との違いを意識しつつ、保護観察の内容についてまとめる。
第 9 回	非行少年の処遇② 児童福祉施設における処遇	事前学習	児童養護施設や児童自立支援施設の役割等について調べておく。
		事後学習	児童養護施設と児童自立支援施設の役割について、少年院との違いを念頭に置きながら、まとめる。
第 10 回	非行少年の処遇③ 少年院における処遇	事前学習	少年院の種類及び対象について調べて授業に臨む。
		事後学習	少年院における矯正教育をはじめとする処遇がどのようなものかについて、まとめる。
第 11 回	少年に対する刑罰の執行 少年刑務所における処遇	事前学習	少年刑務所の対象者及びどのような手続きを経て入所しているかについて調べておく。
		事後学習	少年院と少年刑務所の対象及び処遇の内容等について、比較をしながら、まとめる。
第 12 回	少年法及び少年院法改正の動向	事前学習	少年法及び少年院法改正には、どのような背景があるのかについて調べておく。
		事後学習	少年法及び少年院法改正の内容について、それぞれの改正ごとにまとめる。
第 13 回	グループディスカッション及びグループ発表 ①	事前学習	これまでの授業を振り返り、関心のあるテーマをピックアップしておく。
		事後学習	グループで決めたテーマを基に、グループ間で協力しながら、発表に向けた準備を行う。
第 14 回	グループディスカッション及びグループ発表 ②	事前学習	グループ発表のための、準備を行う。また、最終講義のため、疑問点等があればまとめておく。
		事後学習	グループ発表を基にレポート作成を行う。また、期末試験へ向け、これまでの講義内容を確認する。
第 15 回	小テスト(論述形式)	事前学習	提示した課題について、まとめておく。
		事後学習	テストでできなかった点について、復習を行う。

1. 科目名 (単位数)	情報科指導法Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	EDIT3345
2. 授業担当教員	竹内 俊彦		
4. 授業形態	講義、演習および実習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、高等学校教諭免許状「情報」を取得しようとする学生を対象とし、高等学校・教科「情報」の指導法の基本的事項について学習する。「情報科指導法Ⅱ」では、「情報科指導法Ⅰ」で学習したことを基礎として、教材作成や指導案の作成、模擬授業の実施、評価の仕方等について実習を通して実践的に学習する。		
8. 学習目標	情報科指導法Ⅰで学習したことを踏まえ、実際に授業計画立案や教材・教具開発に必要な知識・技能を身に付けられる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	最終の模擬授業では、リハーサルを含めた入念な下準備を求めます。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 富士ソフト ABC『Word の困ったを即効解決する本—Word2013&2010 完全対応』秀和システム、2013 年 8 月、1800 円+税。 富士ソフト ABC『Excel の困ったを即効解決する本—Word2013&2010 完全対応』和システム、2013 年 8 月、1800 円+税。 【参考書】 山極隆監修『最新社会と情報』実教出版、2015 年。 山極隆監修『最新情報の科学』実教出版、2015 年。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』2010 年。		
11. 成績評価の方法	下記の観点に基づいて評価を行います。 授業への積極的参加度 50% 模擬授業の評価 50%		
12. 受講生へのメッセージ	Word, Excel は非常に機能が多く、学生から「〇〇はできないの?」「思った通りの画面になりません」と質問されることがしょっちゅうあります。現場で慌てずに済むよう、しっかり学んでおきましょう。		
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示しますが、時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照してください。なおオフィスアワー以外でも時間があえば面談しますが、事前にメールで連絡をすることが望ましいです。totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション Word に関する、学生からよく質問がある高度な内容① 「基本操作」「文字入力」	事前学習	教科書「CHAPTER1 基本操作で困った」「CHAPTER2 文字入力で困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER1 基本操作で困った」「CHAPTER2 文字入力で困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 2 回	Word に関する、学生からよく質問がある高度な内容② 「編集操作」	事前学習	教科書「CHAPTER3 編集操作で困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER3 編集操作で困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 3 回	Word に関する、学生からよく質問がある高度な内容③ 「書式設定」	事前学習	教科書「CHAPTER4 書式設定で困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER4 書式設定で困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 4 回	Word に関する、学生からよく質問がある高度な内容④ 「画面表示」「表と罫線」	事前学習	教科書「CHAPTER5 画面表示で困った」「CHAPTER6 表と罫線で困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER5 画面表示で困った」「CHAPTER6 表と罫線で困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 5 回	Word に関する、学生からよく質問がある高度な内容⑤ 「写真や図形」「印刷」	事前学習	教科書「CHAPTER5 画面表示で困った」「CHAPTER6 表と罫線で困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER7 写真や図形の困った」「CHAPTER8 印刷で困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 6 回	Word に関する、学生からよく質問がある高度な内容⑥ 「差し込み印刷」「ファイル管理」「その他の機能」	事前学習	教科書「CHAPTER9 差し込み印刷で困った」「CHAPTER10 ファイル管理で困った」「CHAPTER11 その他の機能で困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER9 差し込み印刷で困った」「CHAPTER10 ファイル管理で困った」「CHAPTER11 その他の機能で困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 7 回	Excel に関する、学生からよく質問がある高度な内容① 「基本操作」「データ入力」	事前学習	教科書「CHAPTER1 基本操作の困った」「CHAPTER2 データ入力の困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER1 基本操作の困った」

			「CHAPTER2 データ入力の困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 8 回	Excel に関する、学生からよく質問がある高度な内容② 「セル操作」「書式設定」	事前学習	教科書「CHAPTER3 セル操作の困った」 「CHAPTER4 書式設定の困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER3 セル操作の困った」 「CHAPTER4 書式設定の困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 9 回	Excel に関する、学生からよく質問がある高度な内容③ 「印刷」「数式と計算」	事前学習	教科書「CHAPTER5 印刷の困った」 「CHAPTER6 数式と計算の困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER5 印刷の困った」 「CHAPTER6 数式と計算の困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 10 回	Excel に関する、学生からよく質問がある高度な内容④ 「関数」「グラフ」	事前学習	教科書「CHAPTER7 関数の困った」 「CHAPTER8 グラフの困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER7 関数の困った」 「CHAPTER8 グラフの困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 11 回	Excel に関する、学生からよく質問がある高度な内容⑤ 「データベース」「ファイル管理」	事前学習	教科書「CHAPTER9 データベースの困った」 「CHAPTER10 ファイル管理の困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER9 データベースの困った」 「CHAPTER10 ファイル管理の困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 12 回	Excel に関する、学生からよく質問がある高度な内容⑥ 「応用機能」「便利ワザ」	事前学習	教科書「CHAPTER11 応用機能の困った」 「CHAPTER12 便利ワザの困った」を読む。
		事後学習	教科書「CHAPTER11 応用機能の困った」 「CHAPTER12 便利ワザの困った」の、授業内で教えなかった部分を自習する。
第 13 回	模擬授業およびディスカッション① Word もしくは Excel の授業計画案を立てる	事前学習	Word, Excel の、どの単元を教えたいかをあらかじめ決めてくる。
		事後学習	ディスカッションをもとに、授業指導案を作成する。
第 14 回	模擬授業およびディスカッション② Word もしくは Excel の模擬授業用の教材を作る	事前学習	授業指導案をもとに、教材作成計画を立てる。
		事後学習	模擬授業のリハーサルを行う。
第 15 回	講義の総括 模擬授業およびディスカッションを行う	事前学習	模擬授業のリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業後のディスカッションや講評から、自分の模擬授業を反省する。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GEBS1104
2. 授業担当教員	伊達 康博		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で、テーマごとに総合的な演習を行う。 また、授業外アサイメントとして、テーマごとに課題の作成・提出を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 杉本くみ子・吉田栄子『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』実教出版、2013 年。 【教材】 USBメモリ (2 ギガバイト以上の空き容量があるもの) を 1 個用意し毎回の授業に持参。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、授業態度 : 30% 課題の提出 : 30% 中期達成度実技検定 : 20% 最終確認実技検定 : 20% 合計 : 100% 以上により、本学規定に沿って総合的に評価を行う。		
12. 受講生へのメッセージ	特にレクチャー時における私語は固く厳禁とします。コンピュータを使って文書作成やデータ処理、プレゼンテーションを行うことは、好き嫌いに問わず現代社会で活躍するうえでとても重要な能力です。また、電子メールやインターネットを利用したコミュニケーションや情報収集技術も情報を得るために必要な最低限の能力です。そのため、必要事項を伝達するときに、私語は他の受講生への深刻な妨害行為となります。受講に際しては、特に予習の必要はありませんが、毎回出席することが必要です。この演習では初歩の基礎から、コンピュータの効果的な使い方を学習していきますので、全くの初心者でも何も心配ありません。大学生および社会人として必要な基本的な知識やスキルと一緒に勉強していきましょう。		
13. オフィスアワー	授業の前後に適宜設ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション：春期講義の概要、コンピュータの経験に関するアンケート、情報処理学習室の使い方 (コンピュータの起動と終了など)	事前学習	シラバスを下読みしておくこと。
		事後学習	本演習の目的を理解し、次回までに指示された学用品を準備しておくこと。
第 2 回	OS (Windows) の基本操作：ファイル操作、フォルダ操作 (ファイルの保存・読み込みなど)	事前学習	教科書で Windows の概要を下読みしておく。
		事後学習	ファイルおよびディレクトリの意味を再確認しておく。
第 3 回	WWW：ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報検索	事前学習	自らのネットの主要な用途について質問された時に必ず答えられるようにしておくこと。
		事後学習	特に著作権の事柄については必ず復習しておくこと。
第 4 回	電子メール ①：電子メールの利用方法とメールアドレスの設定方法	事前学習	メールの利便性について質問された時に必ず答えられるようにしておくこと。
		事後学習	アカウントシートの保存に留意すること。
第 5 回	電子メール ②：電子メールの送信と受信、添付ファイルの利用方法	事前学習	自分のログイン情報を覚えておくこと。
		事後学習	自分宛にメールを送り、受信する人がどのように見えているのかを確認しておくこと。
第 6 回	インターネットを取り巻く諸問題：ウイルスチェック、著作権、ネチケットなど	事前学習	著作権の事柄について予習しておくこと。
		事後学習	ノートを見返し、清書したものをメールで送信する。
第 7 回	総復習：WWW、電子メール、インターネット	事前学習	第 6 回までの内容を必ず各自で振り返っておくこと。
		事後学習	総復習した事柄をノートにまとめる。
第 8 回	Microsoft Word ①：基本操作	事前学習	Word について小・中・高校でどのような学習をしてきたのかを振り返っておくこと。
		事後学習	Word で利用できる機能や目的を再度確認して理解しておく。
第 9 回	Microsoft Word ②：文書の作成	事前学習	Word の起動を自分でできるようにしておく。
		事後学習	ローマ字入力や半角・全角の違いと切替操作を必ず理解しておくこと。
第 10 回	Microsoft Word ③：表の作成	事前学習	どのような時に表を用いると効果的かについ

			て必ず自らで考えておくこと。
		事後学習	作表の効果について理解し、用途を考える。
第 1 1 回	Microsoft Word ④：文章の編集	事前学習	入力操作をできるようにしておく。
		事後学習	効果的な編集について必ず振り返ること。
第 1 2 回	Microsoft Word ⑤：文章の飾り付け	事前学習	なるべく早く入力できるように練習しておく。
		事後学習	装飾のバリエーションについて復習する。
第 1 3 回	Microsoft Word⑥：その他の便利な機能	事前学習	これまで学習した機能を踏まえて、どのような機能が使えると便利なのかを考えておくこと。
		事後学習	それぞれの機能について用途を考える。
第 1 4 回	総復習：Microsoft Word	事前学習	第 8～13 回の内容について事前に振り返る。
		事後学習	配布資料をもとに必ず操作を復習すること。
第 1 5 回	春期学期の総括	事前学習	春期を通しての資料やノートを確認すること。
		事後学習	Word の効果的な使用方法を自ら考える。
第 1 6 回	秋期講義の概要	事前学習	必ず春期までの内容を振り返り学習し、それを踏まえて秋期のシラバスを下読みすること。
		事後学習	秋期の計画の全体を理解し再確認しておく。
第 1 7 回	Microsoft PowerPoint ①：基本操作とスライドの作成	事前学習	教科書の基本操作の項を下読みしておくこと。
		事後学習	プレゼン企画の内容を熟考しメモすること。
第 1 8 回	Microsoft PowerPoint ②：文字の入力と図形の挿入	事前学習	著作権の学習内容を復習しておくこと。
		事後学習	効果的な図表の使い方を改めて再考すること。
第 1 9 回	Microsoft PowerPoint ③：効果的プレゼンテーションの基礎知識	事前学習	受け手にとってのわかりやすさを考えておく。
		事後学習	わかりやすいプレゼンのために再編集する。
第 2 0 回	総復習：Microsoft PowerPoint	事前学習	必ずスライドショーで見え方を確認しておく。
		事後学習	より明解なプレゼンとは何かを各自で考える。
第 2 1 回	Microsoft Excel ①：基本操作	事前学習	自分のタイピング速度を予め確認しておく。
		事後学習	教科書で基本操作の項を復習しておく。
第 2 2 回	Microsoft Excel ②：データの作成（セル範囲の選択、四則演算など）	事前学習	社会のどのような場面で計算を用いることが求められるのかを考えておくこと。
		事後学習	基本的な計算の概念を復習しておくこと。
第 2 3 回	Microsoft Excel ③：表の作成（オートフィル、基本的な関数の利用、表の書式設定など）	事前学習	前回の資料をもういちど読んでおくこと。
		事後学習	Excel 特有の計算操作を教科書で復習する。
第 2 4 回	Microsoft Excel ④：表の編集（セルの相対参照と絶対参照など）	事前学習	Excel 特有の計算操作を教科書で再度復習。
		事後学習	参照の概念と操作方法について再確認する。
第 2 5 回	Microsoft Excel ⑤：グラフの作成と編集	事前学習	グラフの種類について復習しておくこと。
		事後学習	グラフの適切な選択について考えること。
第 2 6 回	Microsoft Excel ⑥：さまざまな関数の利用 (I)	事前学習	関数の機能についてその概要を教科書を下読みして確認しておくこと。
		事後学習	関数の考え方と種類を復習しておくこと。
第 2 7 回	Microsoft Excel ⑦：データベース（リストの作成、ソート、フィルタリングなど）	事前学習	データベースとは、その定義を調べておく。
		事後学習	データベースの用途と運用方法について特に再確認しておく。
第 2 8 回	Microsoft Excel ⑧：Excel と Word の連携	事前学習	Word の基本操作を復習しておくこと。
		事後学習	より効果的な書類の作成方法を再確認する。
第 2 9 回	総復習：Microsoft Excel	事前学習	第 21～28 回の内容を振り返っておくこと。
		事後学習	表計算ソフトの応用について各自で考える。
第 3 0 回	秋期学期の総括	事前学習	秋期で用いた資料やノートを確認しておく。
		事後学習	情報処理の基本概念や要点について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GEBS1104 GECM1104												
2. 授業担当教員	加藤 由樹														
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年												
6. 履修条件・他科目との関係															
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。														
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。														
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマごとに総合的な課題を行う。 具体的には、以下の二つの課題を行う。 1. 主に情報モラル・セキュリティについて、調べてまとめる作業 (Wordによる総合課題) 2. 学生自身の興味のある事柄について、わかりやすく伝えるための発表資料の作成作業 (PowerPointによる総合課題)														
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 教科書は使用しない。教員が準備したプリント教材を配付したり、デジタル教材を投影し提示したりする。 【参考書】 授業の中で、随時紹介する。 【教材】 教員が準備したプリント教材を配付したり、デジタル教材を投影し提示したりする。														
11. 成績評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">1. 授業態度</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2. テーマごとの課題</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3. 文書作成の総合試験</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4. 表計算の総合試験</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5. プレゼンテーション</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: right;">100%</td> </tr> </table> 以上により、本学規定に沿って評価を行う。			1. 授業態度	30%	2. テーマごとの課題	20%	3. 文書作成の総合試験	20%	4. 表計算の総合試験	20%	5. プレゼンテーション	10%	合計	100%
1. 授業態度	30%														
2. テーマごとの課題	20%														
3. 文書作成の総合試験	20%														
4. 表計算の総合試験	20%														
5. プレゼンテーション	10%														
合計	100%														
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ● コンピュータは、とても便利な道具です。日々生じる問題に対して、それらの解決のための手段の一つとして、コンピュータをうまく活用できる能力が、この授業を通じて、皆さんに身に付くことを期待します。 ● コンピュータの使用において疑問な点があれば、どんなことでも積極的に質問してください。 ● この科目は、授業内の演習がメインです。欠席、遅刻、早退する場合は、連絡してください。 														
13. オフィスアワー	授業の前後														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	イントロダクション：春期講義の概要、コンピュータの経験に関するアンケート 情報処理学習室の使い方、コンピュータの基本操作	事前学習	高校での情報の授業を振り返る。												
		事後学習	大学の情報処理教室を空き時間に利用してみる。												
第 2 回	Windows 基礎、ファイル操作	事前学習	OS とは何かを調べておく。												
		事後学習	各自のファイルの整理をする。												
第 3 回	ファイルとフォルダ構造	事前学習	日常での整理を振り返る。												
		事後学習	フォルダによる整理を各自で実践する。												
第 4 回	インターネットと情報検索。情報モラル、マナー	事前学習	インターネットの仕組みを調べておく。												
		事後学習	仕組みを思い出しながらインターネットを利用する。												
第 5 回	電子メール (1)：電子メールの利用方法とメールアドレスの設定方法など	事前学習	携帯メールの特徴をまとめておく。												
		事後学習	大学 Web メールを各自で使ってみる。												
第 6 回	電子メール (2)：電子メールの宛先など	事前学習	大学 Web メールをどう使用したかをまとめておく。												
		事後学習	大学 Web メールを使って複数の人に同時にメールを送ってみる。												
第 7 回	電子メール (3)：電子メールのマナー、添付ファイルなど	事前学習	携帯メールのマナーをまとめておく。												
		事後学習	PC メールと携帯メールの違いを認識してメールを使い分ける。												
第 8 回	Microsoft Word (1)：Word の基本操作、文書の作成	事前学習	文書とは何かをイメージしておく。												
		事後学習	タイピングについてトレーニングをする。												
第 9 回	Microsoft Word (2)：罫線	事前学習	表の構造を整理しておく。												
		事後学習	罫線を使って、文字を配置する。												
第 10 回	Microsoft Word (3)：文書の編集、拡張書式など	事前学習	文字入力について調べる。												

		事後学習	拡張書式を利用して文字を書く。
第 1 1 回	Microsoft Word (4) : 文書の飾り付け、クリップアート、 図形描画など	事前学習	カット集を使った文書をイメージしておく。
		事後学習	サークルなどの募集ポスターを作ってみる①
第 1 2 回	Microsoft Word (5) : 図形描画 続き	事前学習	地図を書きたい場所を考えておく。ランドマークを整理していく。
		事後学習	サークルなどの募集ポスターを作ってみる①
第 1 3 回	Microsoft Word についての総復習 その 1	事前学習	文字入力、フォントの修飾、拡張書式を振り返っておく。
		事後学習	文字入力、フォントの修飾、拡張書式のしかたを確実に身につける。
第 1 4 回	Microsoft Word についての総復習 その 2	事前学習	図形描画、罫線について振り返っておく。
		事後学習	図形描画、罫線のしかたや、これらを使ったアイデアを考える。
第 1 5 回	春期まとめ	事前学習	今までの Word の操作を再確認しておく。
		事後学習	Word でレポートを書く際などに、さまざまな機能を使うように心掛ける。
第 1 6 回	Microsoft Excel (1) : Excel の基本操作、データの作成	事前学習	表の構造(セル、行、列など)を調べておく。
		事後学習	セル入力をトレーニングする。
第 1 7 回	Microsoft Excel (2) : 表の作成、オートフィル、 基本的な関数の利用(合計、平均など)	事前学習	授業で使用する表の作成を行う。
		事後学習	四則計算を表計算で行うトレーニングをする。
第 1 8 回	Microsoft Excel (3) : 表の編集、 相対参照と絶対参照	事前学習	表計算の利点を整理しておく。
		事後学習	絶対参照について繰り返し練習する。
第 1 9 回	Microsoft Excel (4) : グラフの作成 その 1	事前学習	グラフを作る意義を考えておく。
		事後学習	授業で説明したグラフ以外の棒グラフを作る。
第 2 0 回	Microsoft Excel (5) : グラフの作成 その 2	事前学習	割合のグラフとは何かを考えてく。
		事後学習	授業で説明したグラフ以外の割合のグラフを作る。
第 2 1 回	Microsoft Excel (6) : 並び替え、 オートフィルタなど	事前学習	データを整理するときに便利な機能を整理しておく。
		事後学習	データの抽出を求める問題を解く。
第 2 2 回	Microsoft Excel (7) : 基本的な関数	事前学習	関数とは何かについて調べておく。
		事後学習	基本的な関数を使った問題を解く。
第 2 3 回	Microsoft Excel (8) : さまざまな関数	事前学習	様々な関数の中で興味のあるものを調べておく。
		事後学習	特に文字列に関する関数の問題を解く。
第 2 4 回	Microsoft Excel (9) : Excel 総復習	事前学習	グラフの作り方を確認しておく。
		事後学習	複雑な関数の問題を解く。
第 2 5 回	Microsoft Excel (10) : Excel まとめ	事前学習	複雑な関数の問題を何度も解いて慣れておく。
		事後学習	さまざまな場面で効率を上げるために Excel を使えるように意識して生活する。
第 2 6 回	Microsoft PowerPoint (1) : PowerPoint の基本操作、 デザインテンプレートの利用	事前学習	プレゼンテーションの心得について調べておく。
		事後学習	PPT を使って自己紹介スライドを作成する① 内容を考える。
第 2 7 回	Microsoft PowerPoint (2) : 図表の作成、 アニメーションなど	事前学習	アニメーションについて調べておく。
		事後学習	PPT を使って自己紹介スライドを作成する② アニメーションを入れる。
第 2 8 回	Microsoft PowerPoint (3) : さまざまな機能を用いた スライドの作成	事前学習	図、写真などを効果的に見せる方法を考えておく。
		事後学習	PPT を使って自己紹介スライドを作成する③ 図、写真を入れる。
第 2 9 回	Microsoft PowerPoint (4) : 自己紹介発表 1	事前学習	セリフの準備、発表の練習をしておく。
		事後学習	発表を反省する。
第 3 0 回	Microsoft PowerPoint (5) : 自己紹介発表 2	事前学習	セリフの準備、発表の練習をしておく。前回あ たった学生はまだの学生の練習に協力する。
		事後学習	発表を反省する。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GECM1104
2. 授業担当教員	清水 文也			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	演習課題提出時に提出できなかった場合は、持ち帰り宿題になり次回までに提出する			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】実教出版編修部著『30時間でマスター Windows8 対応 Office2013』実教出版、2014。			
11. 成績評価の方法	1. Word, Excel, PowerPoint の3つの演習課題提出: 60% 2. 最終プレゼンテーションの内容と発表及び提出: 40% ※ファイル未提出及びプレゼン未実施は大幅な減点対象となります。			
12. 受講生へのメッセージ	大学生活は学生から社会人に切り替わるための準備期間でもあります。本講義には企業での社内研修に参加する想定で受講してください。社会人は研修を正当な理由なく欠席したり遅刻したりはしません。ましてや、研修中に私語・居眠り・他の用事・スマホなどをすることもありません。それは社会人経験のない大学生でも想像できるかと思います。受講の際は、この点を意識して切り替えるつもりで受講してください。連続性のある演習科目ですので欠席は遅れるだけでなく知識定着の妨げにもなるので皆勤を目指しましょう。			
13. オフィスアワー	初回時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	講義ガイダンス ・学習目標及び成績評価の解説 ・タイピング演習	事前学習	シラバスをしっかりと読んでおく。	
		事後学習	タイピングの復習をしておく	
第2回	Windowsの基本操作演習 ・OSの基本操作(フォルダ&ファイル) ・インターネットとメールのマナー	事前学習	教科書(pp.4~31)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第3回	Microsoft Word(1) ・文字、文章の入力とファイルの保存	事前学習	教科書(pp.32~48)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第4回	Microsoft Word(2) ・文書の作成と文字の修飾	事前学習	教科書(pp.49~64)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第5回	Microsoft Word(3) ・表の挿入と編集	事前学習	教科書(pp.65~78)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第6回	Microsoft Word(4) ・画像と図形の挿入と編集	事前学習	教科書(pp.79~95)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第7回	Microsoft Word(5) ・レポート、論文の文書編集①	事前学習	レポート、論文の記述方法を学習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第8回	Microsoft Word(6) ・レポート、論文の文書編集②	事前学習	レポート、論文の記述方法を学習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第9回	Microsoft Word(7) ・その他の機能	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第10回	Microsoft Word(8) ・Word総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第11回	Microsoft Excel(1) ・データ入力とオートフィル	事前学習	教科書(pp.96~111)を読んでおく。	
		事後学習	単独でできるように復習しておく。	
第12回	Microsoft Excel(2) ・計算式と関数	事前学習	教科書(pp.112~127)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第13回	Microsoft Excel(3) ・相対参照と絶対参照	事前学習	教科書(pp.128~141)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第14回	Microsoft Excel(4) ・グラフ作成と編集	事前学習	教科書(pp.142~151)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第15回	Microsoft Excel(5) ・条件判定と検索関数	事前学習	教科書(pp.152~167)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第16回	Microsoft Excel(6) ・セルの参照機能とフィルター	事前学習	教科書(pp.168~193)を読んでおく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第17回	Microsoft Excel(7) ・その他の機能	事前学習	これまでの演習を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	

第 18 回	Microsoft Excel (8) ・Excel 総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 19 回	Microsoft PowerPoint (1) ・スライド作成と図形の挿入	事前学習	教科書 (pp. 194~209) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 20 回	Microsoft PowerPoint (2) ・グラフとアニメーション効果	事前学習	教科書 (pp. 210~217) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 21 回	Microsoft PowerPoint (3) ・表の挿入とワードアート	事前学習	教科書 (pp. 218~225) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 22 回	Microsoft PowerPoint (4) ・その他の機能とスライドショー	事前学習	教科書 (pp. 226~247) を読んでおく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 23 回	Microsoft PowerPoint (5) ・PowerPoint 総復習と課題提出	事前学習	これまでの演習を復習しておく。
		事後学習	演習内容について復習しておく。
第 24 回	情報リテラシーと最新テクノロジー ・情報リテラシーと情報倫理 ・“サイバー” という第 5 の空間	事前学習	情報リテラシーについて調べておく。
		事後学習	講義内容について要点をまとめておく。
第 25 回	自己プレゼンテーションの準備① ・フレームワークをもとに自己分析を行う ・自分の取扱説明書を作成する	事前学習	自己分析の準備をしておく。
		事後学習	プレゼン用に自己分析を整理しておく。
第 26 回	自己プレゼンテーションの準備② ・プレゼン用スライドの作成 ・プレゼン評価の説明	事前学習	スライド作成の復習をしておく。
		事後学習	スライドを完成させる
第 27 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表①) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 28 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表②) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 29 回	自己プレゼンテーションの実施 (発表③) ・質疑応答と相互評価	事前学習	プレゼンテーションのリハーサルをしておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 30 回	講義のまとめと振り返り	事前学習	これまでの講義について質問を用意すること。
		事後学習	これまでのすべての講義内容を復習しておく。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GMCM1104
2. 授業担当教員	田畑 忍		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義中の各テーマにおいて課題を提示する。 また、春期・秋期の各学期末に、レポート課題を提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 杉本くみ子/大澤栄子『30時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013』実教出版、2013年。 必要に応じ適時資料を配布する。 【参考書】 参考資料等は授業時に提示する。		
11. 成績評価の方法	授業への積極性・授業態度 40% 課題 60% *遅刻・欠席・早退は減点の対象となります。		
12. 受講生への メッセージ	演習であるため、これまでの経験が大きく左右する面もあると思いますが、基本的には初心者であることを前提に行います。 疑問点等は都度解決し、次回の展開に備えてください。 演習の授業ですが、グループによる学習や発表も行うので、積極的に参加してください。		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、コンピュータの経験に関するアンケート 情報処理学習室の使い方	事前学習	シラバスを読んでもらうこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 回	コンピュータの基礎、OS (Windows) の基本操作について	事前学習	教科書 pp. 4～5 を読む。
		事後学習	学習した内容について復習をしておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 3 回	ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報の検索について	事前学習	教科書 pp. 6～9 を読む。
		事後学習	学習した内容について復習をしておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 4 回	電子メールの仕組み、マナーについて	事前学習	電子メールのマナーや利便性について考えてもらうこと。
		事後学習	学習した内容について復習をしておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 5 回	コンピュータウイルス、著作権、ネチケットについて	事前学習	担当になった用語について調べてもらうこと。
		事後学習	学習した内容について復習をしておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 6 回	Microsoft Word①：基本操作	事前学習	配付した基本操作の資料を確認しておくこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 7 回	Microsoft Word②：課題練習	事前学習	教科書 pp. 45、69 を確認してもらうこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 8 回	Microsoft Word③：オリジナル文書作成	事前学習	どのようなオリジナル文書を作成するのかを考えてもらうこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 9 回	Microsoft Word④：相互評価・発表	事前学習	オリジナル文書を完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 10 回	Microsoft Word⑤：オリジナル文書の改善	事前学習	オリジナル文書の改善点を考えてもらうこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。 オリジナル文書の完成版を提出すること。
第 11 回	Microsoft Excel①：基本操作 (1)	事前学習	配付した基本操作の資料を確認しておくこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 12 回	Microsoft Excel②：課題練習 (1)	事前学習	教科書 pp. 157、158 を確認してもらうこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。

第 1 3 回	Microsoft Excel③：オリジナル文書作成	事前学習	どのようなオリジナル文書を作成するのかを考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 1 4 回	Microsoft Excel④：相互評価・発表	事前学習	オリジナル文書を完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 1 5 回	Microsoft Excel⑤：オリジナル文書の改善	事前学習	オリジナル文書の改善点を考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。 オリジナル文書の完成版を提出すること。
第 1 6 回	秋期講義の概要・春期の復習	事前学習	春期の演習を見直しておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 1 7 回	Microsoft Excel⑥：基本操作 (2)	事前学習	配付した基本操作の資料を確認しておくこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 1 8 回	Microsoft Excel⑦：課題練習 (2)	事前学習	教科書 pp. 121、145 を確認してくること。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 1 9 回	Microsoft PowerPoint①：基本操作 (1)	事前学習	配付した基本操作の資料を確認しておくこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 2 0 回	Microsoft PowerPoint②：課題練習	事前学習	教科書 pp. 215、216 を確認してくること。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 2 1 回	Microsoft PowerPoint③：オリジナルスライド作成 (1)	事前学習	どのようなオリジナル文書を作成するのかを考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 2 回	Microsoft PowerPoint④：相互評価・発表 (1)	事前学習	オリジナルスライドを完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 3 回	Microsoft PowerPoint⑤：相互評価・発表 (2)	事前学習	オリジナルスライドを完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 4 回	Microsoft PowerPoint⑥：オリジナルスライドの改善 (1)	事前学習	オリジナルスライドの改善点を考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。 オリジナルスライドの完成版を提出すること。
第 2 5 回	Microsoft PowerPoint⑦：基本操作 (2)	事前学習	教科書 pp. 192～198、209～210 を再確認しておくこと。
		事後学習	教科書等で復習しておくこと。 ふり返しシートを提出すること。
第 2 6 回	Microsoft PowerPoint⑧：オリジナルスライド作成 (2)	事前学習	どのようなオリジナル文書を作成するのかを考えてくること。 写真を用意しておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 7 回	Microsoft PowerPoint⑨：相互評価・発表 (3)	事前学習	オリジナルスライドを完成させておくこと。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 2 8 回	Microsoft PowerPoint⑥：オリジナルスライドの改善 (2)	事前学習	オリジナルスライドの改善点を考えてくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。 オリジナルスライドの完成版を提出すること。
第 2 9 回	総合演習	事前学習	これまでの学習内容を確認してくること。
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。
第 3 0 回	本講義のまとめ	事前学習	これまでの演習問題を再度試してみる
		事後学習	ふり返しシートを提出すること。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GECM1104 GEBS1104
2. 授業担当教員	二村 泰弘			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマ毎に、授業内容に基づく課題を出題する。受講者には、課題要件を満たす作品やファイル(文書ファイル、表計算ファイル、プレゼンテーションファイルなど)を作成すること、そしてそれらを指示された手続き(電子メールなど)で提出することが求められる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】システムテクニカルサービス著『情報処理入門 Windows7 版 -Office2013 対応-』システムテクニカルサービス、2014。 【参考書】講義の中で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	下記の観点に基づいて評価を行う。 1. 授業への参加、発表 40% 2. 課題 60% ※欠席・遅刻・早退は減点の対象となるので注意すること。			
12. 受講生への メッセージ	欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは、理由を書面にて提出すること。なお、受講者の状況に応じて講義内容を一部変更する場合がある。			
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。面談に際しては、事前にメール等で連絡することが望ましい。 y a f u t a m u @ e d . t o k y o - f u k u s h i . a c . j p			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション、Windows の起動と終了、ファイル操作、フォルダ操作	事前学習	教科書 pp. 1~19 および pp. 33~40 を読む。	
		事後学習	Windows の基本操作を復習する。	
第 2 回	情報通信機器の利用 (1): インターネットを利用した情報収集の基礎①	事前学習	教科書 pp. 20~27 を読む。	
		事後学習	www ブラウザを利用する。	
第 3 回	情報通信機器の利用 (2): インターネットを利用した情報収集の基礎②	事前学習	教科書 pp. 27~32 を読む。	
		事後学習	検索機能を活用してみる。	
第 4 回	情報通信機器の利用 (3): インターネットを利用した情報伝達の基礎①	事前学習	教科書 pp. 354~359 を読む。	
		事後学習	電子メールを利用する。	
第 5 回	情報通信機器の利用 (4): インターネットを利用した情報伝達の基礎②	事前学習	教科書 pp. 104~105 を読む。	
		事後学習	電子メールのマナーを復習する。	
第 6 回	情報通信機器の利用 (5): 総合演習	事前学習	教科書のこれまでの範囲を復習する。	
		事後学習	これまでの課題を仕上げる。	
第 7 回	情報通信機器の利用 (6): インターネットを取り巻く諸問題 (ウイルス、著作権など)	事前学習	教科書 pp. 78~107 を読む。	
		事後学習	ウイルス対策、著作権の保護について復習する。	
第 8 回	文書作成ソフトウェア (1): ソフトウェアの基本操作	事前学習	教科書 pp. 110~129 を読む。	
		事後学習	Word での文書作成を復習する。	
第 9 回	文書作成ソフトウェア (2): 表の作成	事前学習	教科書 pp. 130~143 を読む。	
		事後学習	Word での表の作成を復習する。	
第 10 回	文書作成ソフトウェア (3): 文書の編集	事前学習	教科書 pp. 144~161 を読む。	
		事後学習	Word での文書の編集を復習する。	
第 11 回	文書作成ソフトウェア (4): 図の利用	事前学習	教科書 pp. 162~179 を読む。	
		事後学習	「ペイント」での図形描画などを復習する。	
第 12 回	文書作成ソフトウェア (5): 文書の飾り付け、図形描画など	事前学習	教科書 pp. 162~179 を読む。	
		事後学習	Word での図形描画などを復習する。	
第 13 回	文書作成ソフトウェア (6): その他の便利な機能	事前学習	教科書 pp. 180~186 を読む。	
		事後学習	Word での文章校正機能などを復習する。	
第 14 回	文書作成ソフトウェア (7): 総合演習①	事前学習	教科書「Word 編」の全範囲を復習する。	
		事後学習	課題を仕上げる。	
第 15 回	文書作成ソフトウェア (8): 総合演習②	事前学習	教科書「Word 編」の全範囲を復習する。	
		事後学習	課題を仕上げる。	
第 16 回	プレゼンテーションソフトウェア (1): ソフトウェアの基本操作	事前学習	教科書 pp. 282~296 を読む。	
		事後学習	PowerPoint でのファイル作成を復習する。	
第 17 回	プレゼンテーションソフトウェア (2): 図表の作成、アニメーションなど	事前学習	教科書 pp. 282~296 を読む。	
		事後学習	PowerPoint でのファイル作成を復習する。	
第 18 回	プレゼンテーションソフトウェア (3): 効果的プレゼ	事前学習	教科書 pp. 297~307 を読む。	

	ンテーションの基礎知識①	事後学習	発表に向け PowerPoint でファイルを作成する。
第 19 回	プレゼンテーションソフトウェア (4) : 効果的プレゼンテーションの基礎知識②	事前学習	教科書 pp. 308~312 を読む。
		事後学習	発表に向け PowerPoint でファイルを作成する。
第 20 回	プレゼンテーションソフトウェア (5) : 発表①	事前学習	プレゼンテーションの準備を行う。
		事後学習	プレゼンテーションを振り返る。
第 21 回	プレゼンテーションソフトウェア (6) : 発表②	事前学習	プレゼンテーションの準備を行う。
		事後学習	プレゼンテーションを振り返る。
第 22 回	表計算ソフトウェア (1) : ソフトウェアの基本操作	事前学習	教科書 pp. 188~205 を読む。
		事後学習	Excel の基本操作を復習する。
第 23 回	表計算ソフトウェア (2) : 表の作成	事前学習	教科書 pp. 206~215 を読む。
		事後学習	Excel でのファイル作成を復習する。
第 24 回	表計算ソフトウェア (3) : 表の印刷	事前学習	教科書 pp. 215~221 を読む。
		事後学習	Excel での表の作成と印刷について復習する。
第 25 回	表計算ソフトウェア (4) : 相対参照と絶対参照	事前学習	教科書 pp. 222~227 を読む。
		事後学習	Excel の相対参照と絶対参照について復習する。
第 26 回	表計算ソフトウェア (5) : さまざまな関数の利用 (IF 関数など)	事前学習	教科書「Excel 編」のこれまでの範囲を復習する。
		事後学習	Excel のさまざまな関数について復習する。
第 27 回	表計算ソフトウェア (6) : グラフの作成	事前学習	教科書 pp. 228~245 を読む。
		事後学習	Excel でのグラフ作成を復習する。
第 28 回	表計算ソフトウェア (7) : 複数のシートの連携	事前学習	教科書 pp. 246~258 を読む。
		事後学習	Excel での 3D 参照について復習する。
第 29 回	表計算ソフトウェア (8) : データの並べ替え・抽出	事前学習	教科書 pp. 259~275 を読む。
		事後学習	Excel のデータベース利用を復習する。
第 30 回	表計算ソフトウェア (9) : 総合演習	事前学習	教科書「Excel 編」の全範囲を復習する。
		事後学習	課題を仕上げる。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GECM1104
2. 授業担当教員	舘 秀典		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義中の各テーマにおいて課題を提示する。 毎時、提示されたテーマに基づくグループ発表を行う。 また、春期・秋期の各学期末に、レポート課題を提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft2013を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社。 また、必要に応じ適時資料を配布する。 【参考書】 参考資料等は授業時に提示する。		
11. 成績評価の方法	授業への積極性・授業態度 30% 各回における演習課題の完成物 40% 総合演習課題 30%		
12. 受講生へのメッセージ	演習であるため、これまでの経験が大きく左右する面もあるかと思いますが、基本的には初心者であることを前提に行います。 疑問点等は都度解決し、次回の展開に備えること。 講義・演習中の演習問題のやり残しは必ず早めに対処すること。 一度学んだことは次回までに自分のものしておくこと。		
13. オフィスアワー	初回時に提示する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、コンピュータの経験に関するアンケート情報処理学習室の使い方	事前学習	教科書第 1 章を読み、疑問点を見つける。
		事後学習	社会における情報技術の使われ方について自らの経験をもとにレポートを作成する。
第 2 回	コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について	事前学習	前講義にて配布される情報関連の用語について調べてくる。
		事後学習	コンピュータとは何か、どのような歴史があるのかについてレポートを作成する。
第 3 回	インターネットの歴史、サービスについて	事前学習	前講義にて配布されるインターネット関連の用語について調べてくる。
		事後学習	講義中のインターネットの歴史に関する課題レポートの作成。
第 4 回	WWW: ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報の検索	事前学習	前講義に配布されるインターネット関連の用語について調べてくる。
		事後学習	インターネットを利用し、講義中に課題に対して様々な検索方法を試してみる。
第 5 回	電子メール: 電子メールの仕組み、マナーについて	事前学習	前講義にて配布される電子メール・モラル・マナー関連の用語について調べてくる。
		事後学習	電子メールの仕組みについての課題レポートの作成を行う。
第 6 回	最近のインターネットの動向について	事前学習	最近目にしたインターネット関連の用語・技術を箇条書きで書き出す。
		事後学習	最近のインターネットで気になった事について自ら調べまとめる。
第 7 回	著作権について	事前学習	事前配布される著作権関連の用語について調べてくる。
		事後学習	著作権に関する Q&A を作成する。
第 8 回	Microsoft PowerPoint: プレゼンテーションソフトとは	事前学習	プレゼンテーションとは何か、またどのような場所で利用されるものなのかを調べる。
		事後学習	プレゼンテーションソフトの基本的な操作の演習課題の遂行。
第 9 回	Microsoft PowerPoint: 基本的な利用方法	事前学習	今回利用する PowerPoint について、どのようなものか調べる。
		事後学習	プレゼンテーションソフトの基本的な操作の

			演習課題の遂行。
第 10 回	Microsoft PowerPoint : プレゼンテーション作成	事前学習	プレゼンテーションを作成するにあたり、気を付けることは何かについて調べる。
		事後学習	プレゼンテーションを作成するにあたってのストーリー作成を行う。
第 11 回	Microsoft Word : ワープロソフトとは	事前学習	教科書 pp. 87-91 を読み、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解する。
		事後学習	ワードプロセッサソフトの基本的な操作の演習課題の遂行
第 12 回	Microsoft Word : 文字の編集 (書体、大きさの変更および装飾など)	事前学習	ワードプロセッサソフトでは何ができるのかについて調べ、可能であればソフトウェアに触れてみる。
		事後学習	ワードプロセッサソフトのレイアウト変更の演習課題の遂行
第 13 回	Microsoft Word : 余白、ページの設定、インデントなど	事前学習	事前配布されるワープロソフトのサンプルをもとに自らページの設定を行ってみる。
		事後学習	ワードプロセッサソフトのレイアウト変更の演習課題の遂行
第 14 回	Microsoft Word : スタイル、テンプレートの利用など	事前学習	事前配布されるワープロソフトのサンプルをもとに自らスタイル、テンプレートの機能を試してみる。
		事後学習	テンプレートを用いて Word 文章を作成する演習課題の遂行
第 15 回	第 1 回～第 14 回までの総合演習	事前学習	これまでのワードプロセッサソフト・プレゼンテーションソフトの演習問題を再度試してみる。
		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行
第 16 回	秋期講義の概要・春期の復習	事前学習	春期の演習を再度見直し、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	秋期に行う演習の概要を教科書にて見直しておく。
第 17 回	Microsoft Word : クリップアート、図形描画、罫線など	事前学習	事前配布されるワープロソフトのサンプルをもとにメディアの挿入を試してみる。
		事後学習	クリップアート、図形描画、罫線などを利用した演習課題の遂行。
第 18 回	Microsoft Word : さまざまな機能を用いたレポート文書の作成	事前学習	事前配布されるワープロソフトのサンプルをもとにどのような機能を利用すれば作成可能であるかを検討する。
		事後学習	さまざまな機能を用いたレポート課題の作成
第 19 回	Microsoft Excel : 表計算ソフトとは	事前学習	教科書 pp. 167～168 を読み、表計算ソフトを用いるメリットについて理解する。
		事後学習	表計算ソフトはどのような時に利用すると有効であるか自らまとめる。
第 20 回	Microsoft Excel : データの入力 (数値データと文字データ)、セルの操作	事前学習	教科書 pp. 169～177 を参照し、基本操作の注意点について理解する。
		事後学習	データ入力を主とした講義課題の遂行
第 21 回	Microsoft Excel : 数式の利用、セルの相対参照と絶対参照	事前学習	教科書 pp. 188～191 を参照し、数式の演算記号・参照とは何かについて理解する。
		事後学習	数式を利用した講義課題の遂行
第 22 回	Microsoft Excel : 基本的な関数の利用 (合計、平均など)、グラフの作成	事前学習	教科書 pp. 193～195, pp. 204～211 を参照し、関数とは・関数の入力方法・グラフの作成について学んでおく。
		事後学習	関数を利用した講義課題の遂行
第 23 回	Microsoft Excel : 関数の利用、IF 関数の入れ子など	事前学習	教科書 pp. 196～199 を参照し、IF 関数とは、関数の入れ子について学んでおく。
		事後学習	IF 関数を利用した講義課題の遂行
第 24 回	Microsoft Excel : さまざまな関数の応用	事前学習	教科書 p. 201 および事前配布資料を参照し Excel における日付の扱い、その他関数について学んでおく。
		事後学習	さまざまな関数を利用した講義課題の遂行
第 25 回	Microsoft Excel : データの処理、並べ替え、フィルタリングなど	事前学習	教科書 pp. 226～235 を参照しデータの処理について学んでおく。
		事後学習	データ処理を行う講義課題の遂行
第 26 回	総合演習 (0)	事前学習	事前に配布される Word, Excel を連携させた文章を作成するには、どのような機能を用いればよいのかを検討する。
		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行
第 27 回	総合演習 (1)	事前学習	事前に配布される Word, Excel を連携させた文章を作成するには、どのような機能を用いればよいのかを検討する。

平成 28 年度

		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行
第 28 回	総合演習 (2)	事前学習	事前に配布される Word, Excel を連携させた文章を作成するには、どのような機能を用いればよいのかを検討する。
		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行サイトを完成させる。
第 29 回	総合的な演習 : Microsoft Excel の総復習	事前学習	これまでの Excel の演習問題を再度試してみる。
		事後学習	演習時間中の課題および追課題の遂行
第 30 回	本講義のまとめ	事前学習	これまでの演習問題を再度試してみる。
		事後学習	演習時間中の課題の遂行

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	GECM2104 GECM2304
2. 授業担当教員	加藤 卓		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。 マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。		
8. 学習目標	情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどのような姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	授業のレベルを満たすSiteを作成できる知識・技能を各自が習得するため、以下の課題に取り組む。 課題1(春期末課題) SEOに則ったSiteを、HTMLとCSSにより構築し運用する。 課題2(秋期末課題) JavaScript言語のプログラミングを習得し、自Siteに適用する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業内で、教材を提示する(複数の最新書籍の指定では高額になるため)。 【参考書】必要に応じて授業内で参考書を紹介する。		
11. 成績評価の方法	講義内容レベルのWeb Siteの作成能力を習得できない場合、欠席が無くとも再履修となる。 1. 授業への積極的参加度 … 30% (半期欠席4回・通年欠席8回で単位取得資格を失う。遅刻は2回で欠席1回とする。1時間以上遅れた遅刻については原則として出席と認めない。山手線の遅延は、初回の遅延証のみ認める。半期4回目以降の遅延は遅刻扱いとする。学習不能に陥らぬよう、初回から遅延・遅刻・欠席の皆無を期すること。) 2. 前期期末課題(Web Site作成) … 40% 3. 後期期末課題(SEO対策+Java scriptのWeb Site作成) … 30%		
12. 受講生へのメッセージ	先に学習した情報処理演習Ⅰを、サンシャイン60の最上階にエレベーターで昇ることに例えるならば、情報処理演習Ⅱは、徒歩で海拔0mから富士山頂まで登ることに相当する。頂上を極めたい方は、相当の覚悟を持ち一步一步努力されたい。積極的に学ぶ意欲がない、反復習得を好まない方には、非常に単位取得困難な科目である。 検索上位に表示されないSiteは、その存在すら認識してもらえない。就職先が求めている人材とは、検索で上位に表示されるよう、SEO対策や運用術まで習得済みのWebmasterである。なぜならば、Siteの検索ヒット率が、就職先の宣伝・説明責任・収益に直結しているからである。 Webmasterは、情報生産者であるため、就職や経済面で非常に有利である。プログラミングの考え方や技能を習得するためには、長時間にわたって集中して作業することが必要であるため、自分への先行投資としてPCの個人所有等の環境整備を強く勧める。 SEO対策まで習得するためには、従来は幾度か学び直しをしなければならなかったが、本講義では、最初からSEO対策に有効なSiteの作り方を学び、自分のSiteを自己責任で実際に運用する。 1. 学生証を必ず持参し、授業中は机上に提示しておくこと。(出席点検・加減点に使用するため) 2. 正当な理由がある欠席・遅刻・早退は、理由を書面にて提出すること。 3. 授業開始3分前から真剣に取り組み、他受講者の学ぶ権利を侵害することがないように、私語・電話やメールやSNSでの携帯の使用・居眠り・飲食等を禁止する。 4. 事前学習点検に備え、予習・復習の習慣をつけること。 5. 受講者の学力・理解度・作業速度等により、内容を一部変更する場合がある。		
13. オフィスアワー	第1回目の講義で提示する(シラバス記載時点で、講義時間割が未定であるため)。 Office Hourでも不在の場合があるので、予めアポイントメントを取ること。 E-mail address ta-kato アットマーク ed.tokyo-fukushi.ac.jp 研究室所在地 13号館5階957研究室		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 【ICTモラル】 著作権・肖像権・パブリシティ権 無料ホームページサービスへの申請	事前学習	シラバス・著作権を調べる。
		事後学習	プロバイダへの申請をする。
第2回	【Siteの基礎知識】 Site構築の考え方 SEO, 言語とツール, Siteの構想・基本構造・配置・階層・色彩設計 Google アカウント取得	事前学習	Webの仕組みについて調べる。
		事後学習	春期末課題作品の構想を練る。
第3回	Ez-htmlの使用法、headとbodyの記述、CSSとhtmlの記述方法、#タグ、色の記述、メモの仕方	事前学習	春期末課題作品のイメージを持つ。
		事後学習	春期末課題作品の構想を決定する。Ez-htmlの操作の復習をする。
第4回	【ベースのページの作成】 ①ヘッダー部分の作成 Site名の記述、パンくずリストの作成、トップのリンクメニュー、H1タグの記述	事前学習	Siteの基本構造を調べる。
		事後学習	ヘッダー部分やパンくずリストを修正する。
第5回	Google Add Wordsの使用法、keywordsの決定、titleの記述	事前学習	Metaタグについて調べる。
		事後学習	keywords・titleについて復習をする。
第6回	descriptionの記述	事前学習	descriptionについて調べる。

		事後学習	更により Meta タグを構想する。
第 7 回	②サイドメニュー部分の作成 リストの記述	事前学習	リストのタグを調べる。
		事後学習	サイドメニュー部分を修正する。
第 8 回	③メイン部分の作成 囲み, margin と padding, 文章の記述	事前学習	文書領域について調べる。
		事後学習	文書領域のサイズや配置を修正する。
第 9 回	画像の修正 写真やイラストの挿入	事前学習	画像の拡張子について調べる。
		事後学習	画像を修正・挿入してみる。
第 10 回	④フッター部分の作成 常時掲載項目の記述	事前学習	footer について調べる。
		事後学習	不足している素材を集める。
第 11 回	ベースのページの完成 レイアウト・色彩デザインの最終仕上げ	事前学習	色彩デザインについて調べる。
		事後学習	ベースのページを完璧に仕上げる。
第 12 回	【サイトの構築と運用】 CSS の追い出し, ページの複数化	事前学習	Site の構造について調べる。
		事後学習	Site のファイル・フォルダ構成を修正する。
第 13 回	Site 全体の構造化 作業しやすいサイトの構造化	事前学習	他のページの作成を進める。
		事後学習	Site のフォルダ構成を修正する。
第 14 回	複数ページの作成 サイトの複数ページの改訂	事前学習	複数ページの作成を進める。
		事後学習	複数ページの完成度を高める。
第 15 回	作品の最終確認 点検表で不具合を修正し作品の完成度を高める	事前学習	春期提出作品を完成させる。
		事後学習	点検表に従い前期提出作品の総点検をする。
第 16 回	Google Webmasters tools について 作品の確認と春期作品の提出	事前学習	Google Webmasters tools について調べる。
		事後学習	春期作品を修正してアップロードする。
第 17 回	【SEO 対策による改善】 LPO の適用	事前学習	LPO について調べる。
		事後学習	秋季期末課題の構想を練る。
第 18 回	2 つの Site map の作成 XML-Sitemaps Generator について	事前学習	Site map について調べる。
		事後学習	XML-Sitemaps Generator の操作の復習をする。
第 19 回	アクセス解析ツール Google Analytics の使用について	事前学習	アクセス解析ツールについて調べる。
		事後学習	Google Analytics の操作の復習をする。
第 20 回	外部対策とサテライトブログ サテライトブログの作成	事前学習	外部対策について調べる。
		事後学習	作成したサテライトブログを修正してみる。
第 21 回	【動的ページの作成】 JavaScript について ソースの基本的な記述	事前学習	JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 22 回	JavaScript について メモの活用	事前学習	JavaScript のソースについて調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 23 回	HTML に働く JavaScript について デバックの作法	事前学習	HTML に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 24 回	HTML に働く JavaScript について イベントハンドラと function	事前学習	HTML に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 25 回	CSS に働く JavaScript について if を使ったイベントの仕分け	事前学習	CSS に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	入力したソースを修正・復習する。
第 26 回	CSS に働く JavaScript について タブ式ページの完成	事前学習	CSS に働く JavaScript について調べる。
		事後学習	自分の Site への適用の構想を練る。
第 27 回	【WEB を活用した問題発見・問題解決能力】 JavaScript の自サイトへの移植 バナー作成とアップ	事前学習	JavaScript の適用について調べる。
		事後学習	該当回のページを自 Site に移植・修正する。
第 28 回	他の JavaScript を適用してみる ファビコンの作成とアップ	事前学習	Web 検索により他の JavaScript を調べる。
		事後学習	自分の Site へ適用する。
第 29 回	他の JavaScript の適用を完成させる アクセス解析・Meta タグ・サイトマップの確認	事前学習	Web 検索により他の JavaScript を調べる。
		事後学習	自分の Site への適用を完了させる。
第 30 回	講義のまとめ・秋期最終作品の提出	事前学習	講義終了後のサイト発展の構想を練る。
		事後学習	講義全体の復習・秋期最終作品のアップロード

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	GECM2104
2. 授業担当教員	清水 文也			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
8. 学習目標	<p>情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどの様な姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>春期: HTML5 と CSS3 と JavaScript の演習課題 秋期: 分析レポート、改善案レポート及び最終提案書の課題</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 必要な資料は講義時に配布します			
11. 成績評価の方法	<p>春期: HTML, CSS, JavaScript の演習課題提出: 20% 秋期: 個人演習の問題分析レポート課題提出: 10% グループ演習の分析内容と発表の精度: 20% 個人演習の改善企画レポート課題提出: 10% グループ演習の改善内容と発表の精度: 20% フィードバック後の最終提案書の提出: 20% ※課題未提出は大幅な減点対象となります。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>物事の原理原則を学んだ上で、現状の問題発見から分析を行い、解決案を提案することは現代社会に求められる非常に重要なスキルです。本科目では Web 技術の基礎的な仕組みを学んだ上で、後半に既存サイトの改善案を提案していきます。「情報」というものをどのように扱うべきかを学ぶには、インターネットを通した利用者側と発信者側の両方の視点で考察することが最適です。テーマを変えれば演習で行うことは他の場面の問題でも応用できるものです。やや難易度は高い取り組みですが、やりがいは実感できますので創造的な改善立案と活発なグループディスカッションを期待しています。何事も本気で取り組まなければ、自分の本当の能力を知ることはできません。また、本気で取り組んだ時にだけ得られるものがあります。</p>			
13. オフィスアワー	初回時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義ガイダンス ・学習目標及び成績評価の解説 ・Web 技術の基礎知識	事前学習	シラバスをしっかりと読んでおく。	
		事後学習	Web 技術の仕組みを復習しておく。	
第 2 回	Web サイト全体と HTML 文書の基本的構造	事前学習	HTML について調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 3 回	テキスト表示の各要素	事前学習	HTML 文字入力を調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 4 回	マルチメディア表示の各要素	事前学習	HTML マルチメディア表示を調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 5 回	メニューボタンの設置と CSS 装飾	事前学習	HTML リストを調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 6 回	表 (テーブル) の作成と編集	事前学習	HTML テーブルを調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 7 回	メイン・記事ページの設置	事前学習	HTML 文字入力を復習しておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 8 回	お問い合わせページの設置 (JavaScript)	事前学習	問合せページを調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 9 回	資料請求 (PDF) ページの設置	事前学習	資料請求ページを調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 10 回	Google MAP と YouTube の埋込, SNS ボタンの設置	事前学習	他のサイトで調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 11 回	Web デザインについて	事前学習	Web デザインについて調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 12 回	レスポンシブ Web デザイン対応	事前学習	レスポンシブ Web について調べておく。	
		事後学習	演習内容について復習しておく。	
第 13 回	Web サイトの課題作成 (1)	事前学習	これまでの演習内容を復習しておく。	
		事後学習	課題を作成しておく。	
第 14 回	Web サイトの課題作成 (2)	事前学習	これまでの演習内容を復習しておく。	
		事後学習	課題を作成しておく。	
第 15 回	Web サイトの課題作成 (3) と提出	事前学習	これまでの演習内容を復習しておく。	
		事後学習	完成課題を改善しておく。	

平成 28 年度

第 16 回	Web マーケティングとは ・発信者としての Web マーケティング基礎知識 ・RFP (提案依頼書) の解説	事前学習	Web マーケティングについて調べておく。
		事後学習	Web マーケティングについて復習しておく。
第 17 回	Web サイト現状問題分析 (個人演習) ① ・問題分析手法の解説 ・既存 Web サイトの問題発見と分析	事前学習	問題分析について調べておく。
		事後学習	問題分析を整理しておく。
第 18 回	Web サイト現状問題分析 (個人演習) ② ・3C による問題分析 ・分析レポート提出	事前学習	問題分析について調べておく。
		事後学習	分析内容を改善しておく。
第 19 回	グループ分析 (協同演習) ① ・各自の分析レポートについて討議 ・発信者として優先事項の検討と取捨選択	事前学習	自分の分析レポートを整理しておく。
		事後学習	グループ討議の内容を整理しておく。
第 20 回	グループ分析 (協同演習) ② ・3C+クロス SWOT 分析 ・中間発表用スライド作成	事前学習	問題分析について調べておく。
		事後学習	スライドを整理しておく。
第 21 回	グループ分析中間発表 (協同演習) ・各グループの分析結果を発表 ・質疑応答と相互評価	事前学習	発表準備をしておく。
		事後学習	フィードバックを反映しておく。
第 22 回	Web プロデュースとは ・発信者としての Web プロデュース基礎知識 ・SNS マーケティングの活用	事前学習	Web プロデュースについて調べておく。
		事後学習	Web プロデュースについて復習しておく。
第 23 回	アイデア発想法 (個人演習) ① ・アイデア発想法の解説 ・個人演習による改善案の抽出	事前学習	アイデア発想法について調べておく。
		事後学習	改善案をさらに検討しておく。
第 24 回	アイデア発想法 (個人演習) ② ・改善案の検討 ・改善レポート提出	事前学習	改善案を整理しておく。
		事後学習	レポートを見直しておく。
第 25 回	グループ案検討 (協同演習) ① ・各自の改善案レポートをもとに討議 ・拡散思考でさらに改善案を検討	事前学習	改善案についてさらに検討しておく。
		事後学習	グループの改善案を整理しておく。
第 26 回	グループ案検討 (協同演習) ② ・RFP をもとに改善案の整理 ・収束思考で改善案を合目的に落とし込む	事前学習	RFP を再度見直しておく。
		事後学習	グループの改善案を整理しておく。
第 27 回	グループ提案書作成 (協同演習) ・発信者として Web サイトの「あるべき姿」を整理 ・問題分析と改善案を含めた最終提案書の作成	事前学習	グループ提案書の作成準備をしておく。
		事後学習	最終提案書を改善しておく。
第 28 回	最終プレゼン (競争演習) ① ・各グループによる最終提案プレゼン ・質疑応答と相互評価	事前学習	最終プレゼンのリハーサルを行っておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 29 回	最終プレゼン (競争演習) ② ・各グループによる最終提案プレゼン ・質疑応答と相互評価	事前学習	最終プレゼンのリハーサルを行っておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。
第 30 回	提案書の改善 (競争演習) ・フィードバックをもとに提案書を改善 ・プレゼン総評と最終提案書の提出	事前学習	提案書の改善をまとめておく。
		事後学習	これまでの講義内容を復習しておく。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅲ (4 単位)		3. 科目番号	GECM3304
2. 授業担当教員	竹内 俊彦			
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	通年	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この講義では、「情報処理演習Ⅰ」や「情報処理演習Ⅱ」で学んだ基礎知識や技術を基にして、さらに発展的な内容を具体的な事例を用いて学習する。事例と演習により、これまでに学んだ情報処理をどのような場面で活用できるのかを学ぶ。そのため、コンピュータを使った数値計算にとどまらず、さらに大きな枠組みで情報処理について考えていく。具体的には、プログラミング言語として VBA 言語を取り上げ、プログラミングを構成する基本要素を、演習を行いながら学んでいく。また、データ分析に関しても扱い、調査や実験の結果を導くために必要な技法を学ぶ。			
8. 学習目標	情報処理において、コンピュータを使うための知識や技術は重要である。しかし、コンピュータは何かの目的を達成するための道具であるという一面もある。そこで本講義では、履修者自らがコンピュータを使いこなすための具体的な方法を調べて、どのようにしたらその目的を達成できるのかを考える。そのような考え方や姿勢を習得し、操作できるようになることが本講義の目標である。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	[1] 課題1 VBAとExcelを連携させた有用なプログラムとレポートを作成せよ (春期の最終提出物) [2] 課題2 フォーム、関数を用いた有用なプログラムとレポートを作成せよ (秋期の最終提出物)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 結城 圭介『Excel VBA 超入門講座』技術評論社、2006 年 1 月、2079 円。			
11. 成績評価の方法	[1] 課題1 (春期の最終提出物とレポート) 40% [2] 課題2 (秋期の最終提出物とレポート) 60%			
12. 受講生へのメッセージ	VBA を覚えれば、Excel の高度な使い方ができるため、たとえば教師になるのなら成績処理、ビジネス・パーソンになるのであれば名簿管理や売上管理など、現場で役立つソフトを自分で作れるようになります。ですので、自分ばかりか周囲の人にも多大な支援ができます。社会人になる前にぜひ習得したいスキルです。			
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示しますが、時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照してください。なおオフィスアワー以外でも時間があえば面談しますが、事前にメールで連絡をすることが望ましいです。totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション VBA でプログラミング・VBE を使ってみよう・連続処理・判断・繰り返し	事前学習	教科書『Excel VBA 超入門講座』を入手する。	
		事後学習	教科書第 1 章～第 2 章を再読する。	
第 2 回	変数・配列・文字列と数値・プロシージャ・イベント	事前学習	第 3 章を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 3 章を再読する。	
第 3 回	プロシージャから別のプロシージャを呼び出す、プロシージャに引数を渡す	事前学習	第 4 章 01-03 を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 4 章 01-03 を再読し、プロシージャを作ってみる。	
第 4 回	変数の宣言と有効範囲・文字列・数値の保存	事前学習	第 4 章 04-08 を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 4 章 04-08 を再読し、変数を宣言し値を代入表示してみる。	
第 5 回	論理式による判断と選択	事前学習	第 4 章 09-13 を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 4 章 09-13 を再読し、論理式を用いた分岐をするプログラムを書いてみる。	
第 6 回	繰り返し(for 文と while 文)	事前学習	第 4 章 14-17 を事前に読み、疑問点をチェックする。	
		事後学習	第 4 章 14-17 を再読し、for 文、while 文を用いたプログラムを書いてみる。	
第 7 回	On Error 文・配列変数・コメント文	事前学習	第 4 章 18-22 を事前に読み、ことに配列変数について重点的に予習する。	
		事後学習	第 4 章 18-22 を再読し、配列変数を用いたプログラムを作成する。	
第 8 回	変数と定数・組み込み定数・ユーザ定数	事前学習	第 4 章 23-25 を事前に読み、組み込み定数とユーザ定数の違いを重点的に予習する。	
		事後学習	第 4 章 23-25 を再読し、組み込み定数とユーザ定数を用いたプログラムを作成する。	
第 9 回	組み込み関数の利用・整数化・切り捨て・型のチェック	事前学習	第 5 章 01-03 を事前に読み、予習する。	
		事後学習	第 5 章 01-03 を再読し、整数化・切り捨て等の関数を利用したプログラムを作成する。	
第 10 回	乱数の発生・文字列の切り出し・トリム・置換・文字列の検索・文字コード取得	事前学習	第 5 章 04-10 を事前に読み、予習する。	
		事後学習	第 5 章 04-10 を再読し、文字列操作関連の関数を利用したプログラムを作成する。	
第 11 回	日付や時刻関連の関数	事前学習	第 5 章 11-17 を事前に読み、予習する。	
		事後学習	第 5 章 11-17 を再読し、日付や時刻関連の関数を利用したプログラムを作成する。	

第 1 2 回	MsgBox 関数・InputBox 関数・ユーザ関数の作成	事前学習	第 5 章 18-22 を事前に読み、予習する。
		事後学習	第 5 章 18-22 を再読し、ユーザ関数を利用したプログラムを作成する。
第 1 3 回	自作ソフト作成(1)	事前学習	自分の作りたいソフトのアイデアを考える。
		事後学習	講評をもとにアイデアを具体化する。
第 1 4 回	自作ソフト作成(2)	事前学習	自宅でソフトを作成する。
		事後学習	自宅でソフトを完成させる。
第 1 5 回	ソフト発表会 (課題 1)	事前学習	発表会に向けた下準備をする。
		事後学習	講評に従ってプログラムを修正する。
第 1 6 回	ボタン・テキストボックス・チェックボックス	事前学習	第 6 章 01-04 を事前に読み、予習する。
		事後学習	第 6 章 01-04 を再読し、各種オブジェクトを利用したプログラムを作成する。
第 1 7 回	ワークブックを開いたときに実行等、イベント時に実行するプログラム	事前学習	第 6 章 05-09 を事前に読み、予習する。
		事後学習	第 6 章 05-09 を再読し、ワークシートを開いたときに実行されるプログラムを作成する。
第 1 8 回	きれいにコーディングするためのテクニック	事前学習	第 7 章を事前に読み、予習する。
		事後学習	第 7 章を再読し、自分のプログラムをきれいに書き直す。
第 1 9 回	時限爆弾プログラムの作成・占いプログラムの作成	事前学習	時限爆弾プログラムの実装方法を考える。
		事後学習	時限爆弾プログラムの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 0 回	ファイル処理するプログラム	事前学習	簡単なメモ帳の実装方法を考える。
		事後学習	簡単なメモ帳プログラムの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 1 回	画像を用いた簡単なゲーム・プログラムの作成	事前学習	アルバム・プログラムの実装方法を考える。
		事後学習	アルバム・プログラムの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 2 回	スクリーン・セーバー的なプログラムの作成	事前学習	スクリーン・セーバーの実装方法を考える。
		事後学習	スクリーン・セーバーの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 3 回	RPG 的なプログラムの作成	事前学習	RPG 的なプログラムの実装方法を考える。
		事後学習	RPG 的なプログラムの正解例をもとに自分で再コーディングを行う。
第 2 4 回	自作プログラムのアイデア出しとアドバイス	事前学習	自分の作りたいプログラムの原案を練る。
		事後学習	講評をもとに、プログラムの実装方法を考える。
第 2 5 回	自分のプログラムを作成(1)	事前学習	プログラムの実装に必要な素材(画像・サウンドなど)を集める。
		事後学習	自宅でプログラムを作成する。
第 2 6 回	自分のプログラムを作成(2)	事前学習	自宅でプログラムを作成する。
		事後学習	自宅でプログラムを作成する。
第 2 7 回	自分のプログラムを作成(3) 中間発表会	事前学習	中間発表に向けた準備をする。
		事後学習	講評に従い、自分のプログラムを修正する。
第 2 8 回	自分のプログラムを作成(4)	事前学習	自宅でプログラムを作成する。
		事後学習	自宅でプログラムを作成する。
第 2 9 回	自分のプログラムを作成(5)	事前学習	自宅でプログラムを作成する。
		事後学習	自宅でプログラムを完成させる。
第 3 0 回	ソフト発表会(課題 2)・まとめ	事前学習	プログラム発表会の準備をする。
		事後学習	プログラムのレポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	情報と職業 (2 単位)	3. 科目番号	EDIT1302
2. 授業担当教員	清水 文也	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義と演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータやインターネットの利用は、現代の生活において必要不可欠である。それは、日常生活のみならず、ビジネス環境にも大きな変化をもたらしている。情報に関する学習において、コンピュータやネットワークの仕組みや操作を理解することも重要であるが、それらが社会やビジネスでどのように使われているのかを理解することも重要である。本講義では、情報化により、私たちの生活がどう変わったのか、また、どのようにビジネスに活用されているのかを、事例を通して考えていく。		
8. 学習目標	コンピュータやインターネットを活用することで、どんなビジネスが可能になったのかを理解して、情報社会で生きるための知識と考え方を身につけることが本講義の目標である。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	最終レポート課題を提出する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】廣石良雄 著『情報と職業 (SCC Books 378)』エスシーシー、2014。		
11. 成績評価の方法	1. ディスカッション参加態度：70% 2. 最終レポートの内容と発表：30%		
12. 受講生への メッセージ	本講義では、教科書の内容に加えて今後必要とされる情報産業の知識を織り交ぜながら進めていきます。また、毎回の講義後半で情報教育及び IT 技術に関する記事についてディスカッションをしますので、皆さんの積極的な参加を期待しています。		
13. オフィスアワー	初回時に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義ガイダンス ・学習目標及び成績評価の解説	事前学習	シラバスをしっかりと読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理しておく。
第 2 回	コンピュータの歴史 ・メインフレームからクラウド時代へ	事前学習	教科書 (pp. 2～23) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 3 回	情報産業の現状と将来① ・i-Japan 戦略 2015	事前学習	教科書 (pp. 26～35) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 4 回	情報産業の現状と将来② ・ビッグデータなど	事前学習	教科書 (pp. 36～47) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 5 回	IT の職種① ・IT 人材の資格と職種	事前学習	教科書 (pp. 50～86) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 6 回	IT の職種② ・医療情報技師資格など	事前学習	教科書 (pp. 87～93) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 7 回	情報のモラル① ・情報社会の法制度	事前学習	教科書 (pp. 96～116) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 8 回	情報のモラル② ・ハイテク犯罪	事前学習	教科書 (pp. 117～138) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 9 回	情報産業における業務の把握① ・共通フレーム 2013	事前学習	教科書 (pp. 140～164) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 10 回	情報産業における業務の把握② ・情報システム開発プロジェクト	事前学習	教科書 (pp. 165～185) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 11 回	IT 技術者の勤労観 ・IT 技術者のスキルアップ	事前学習	教科書 (pp. 188～198) を読んでおく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 12 回	情報サービス産業の市場 ・業界御三家と収支構造	事前学習	情報サービス産業について調査しておく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 13 回	企業における様々な情報システム ・各業務に紐づく情報システム	事前学習	情報システムについて調査しておく。
		事後学習	講義内容の重要事項を整理して復習する。
第 14 回	レポート作成 ～高等学校における「情報科」教育について～	事前学習	これまでの講義をもとに、テーマを整理する。
		事後学習	レポートを改善し完成させる。
第 15 回	レポート発表と提出 ～高等学校における「情報科」教育について～	事前学習	発表に向けて準備しておく。
		事後学習	発表の振り返りを行うこと。

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1305 GEBS1105
2. 授業担当教員	小野澤 美明子		
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、わが国の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○担当になったテーマに関しては、グループで打ち合わせをし、事前に準備をしてプレゼンに備える。プレゼンは一方的に発表するだけでなく、聞いている人が考える場面を含めるように工夫する。</p> <p>○普段から人権に関して興味を持ち、新聞、雑誌、TV、インターネット等から最新の情報を収集し、メモをしたり、記事のスクラップをする。</p> <p>○発表の振り返りカード及びディスカッションカードを提出する。</p> <p>○毎授業後、それぞれの人権課題に対する自分の考えや、今後の関わり方について、ワークシートに記入する。</p> <p>○課題レポート「わたしと人権 - (任意のサブテーマ) -」2400字程度 自分が最も関心のある人権課題の一つ取り上げて、現状と今後の課題等に対する自分の考え方及び関わり方を述べる。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 教科書は使用しない。プリントによる教材を使用する。</p> <p>【参考書】 法務省・文部科学省編『平成27年版 人権教育・啓発白書』勝美印刷株式会社、2015年。 森実『知っていますか?人権教育一問一答 第2版』2013年。 日本社会教育学会編『現代的人権と社会教育の価値』東洋館出版社、2004年。 中野睦夫編著『早わかり人権小辞典』明治図書、2003年。</p>		
11. 成績評価の方法	1 グループ提案資料の内容・発表態度 2 日常の学習状況(授業への積極的参加, 人権課題に対する考察など) 3 課題レポート	総合点の40% 総合点の20% 総合点の40%	
12. 受講生への メッセージ	<p>人権教育は、まずそれぞれのテーマについて自分なりに考えることから始まります。考えることが人権問題に関わる第一歩であると言えます。世の中の全ての問題は、直接的であれ間接的であれ、人権問題と関わっています。人権問題について考えることは、人権を通して他者との関係性を築くことであり、自分も含めて周りにいる人全てを尊重することにつながります。皆さんがそのような姿勢で関わり続ける限り、人の輪は新たに生産され続けていきます。15回の授業が終わった時に、皆さんが人権問題に興味を持ち、日常生活の中で何らかのアクションを起こしていることを期待しています。そのような豊かな人権感覚を培うために、グループワークによるディスカッションや、ロールプレイ、シミュレーション等のアクティビティには積極的に参加して下さい。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<p>【オリエンテーション】 「人権教育」のねらい及び学習内容と今後の予定、授業の進め方を確認する。</p> <p>【人権の概念】 人権とは何かを考え、現在までの自分と人権問題との関わりを振り返る。</p>	事前学習	人権に関する最近のニュースを収集する。
		事後学習	人権問題と自分との関わりについて、これまでの体験をまとめる。
第2回	<p>【人権の性質】 人権の性質について学ぶ。</p> <p>【私の人権感覚】 テーマに基づいたディスカッション及びロールプレイ等を行う。</p>	事前学習	人権に関する最近のニュースを収集する。
		事後学習	人権の性質について、自分の言葉で伝えられるように復習する。
第3回	<p>【グループ編成とテーマの分担】 グループを編成し、提案するテーマを決定する。今後の進め方についてグループで打ち合わせをする。</p>	事前学習	人権に関する最近のニュースを収集する。
		事後学習	分担されたテーマについて資料を収集し、まとめる。
第4回	<p>【グループによるプレゼンテーションの準備 ①】 図書館や情報処理室を活用し、グループで協力して資料を収集する。</p>	事前学習	分担されたテーマについて資料を収集し、まとめる。
		事後学習	グループ内の自分の役割分担に関する資料を作成

			する。
第 5 回	【グループによるプレゼンテーションの準備 ②】 ・各自収集してきた情報を集約し、プレゼンの資料を作成する。必ず考察及び体験談、今後の自己の関わり方を含める。 ・プレゼンの資料を完成させ、発表の流れを確認する。	事前学習	グループ内の自分の役割分担に関する資料を作成する。
		事後学習	自分の役割分担に関して、責任を持って発表できるように準備を整える。
第 6 回	【生命倫理に関する人権課題】 遺伝子診断、人工妊娠中絶、出生前診断、生殖医療・体外受精・代理母出産、脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死、インフォームド・コンセント、終末期医療、看護倫理、ヒトクローン研究	事前学習	生命倫理に関するニュースを収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、生命倫理の人権課題に対して自分がどのように関わっていったらよいかを考え、ワークシートに記入する。
第 7 回	【高齢者に関する人権課題】 家庭・施設における身体的・心理的虐待・介護・世話の放棄・放任・経済的虐待等	事前学習	高齢者の人権に関するニュース及び体験談等を収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、高齢者の人権問題に対して自分がどのように関わっていったらよいかを考え、ワークシートに記入する。
第 8 回	【障害児、障害者に関する人権課題】 身体・知的・精神・発達障害者の福祉問題、偏見・差別問題、就労問題、教育問題、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等	事前学習	障害児、障害者に関するニュース及び体験談等を収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、障害児・障害者の人権問題に対して自分がどのように関わっていったらよいかを考え、ワークシートに記入する。
第 9 回	【インターネットによる人権侵害と課題】 誹謗・中傷、個人情報の流出、犯罪への関与等	事前学習	インターネットによる人権侵害に関するニュース及び体験談等を収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、インターネットによる人権侵害に対して自分がどのように関わっていったらよいかを考え、ワークシートに記入する。
第 10 回	【子どもに関する人権課題 ①】 ・児童虐待（身体的・心理的・性的）、ネグレクト、児童買春、児童ポルノ等	事前学習	子どもの人権に関わるニュース及び体験談等を収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、子どもの人権問題に対して自分がどのように関わっていったらよいかを考え、ワークシートに記入する。
第 11 回	【子どもに関する人権課題 ー教育現場に関連してー ②】 ・児童の学校生活における人権の保障とは ・いじめ、不登校、教師の体罰等	事前学習	子どもの人権に関わるニュース及び体験談等を収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、学校生活における子どもの人権問題に対して自分がどのように関わっていくか考え、ワークシートに記入する。 課題レポートを作成する。
第 12 回	【女性に関する人権課題】 男女差別、セクシャル・ハラスメント、家庭内暴力、就業環境、家事・育児・介護の負担等	事前学習	女性の人権に関するニュース及び体験談等を収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、女性の人権問題に対して自分がどのように関わっていくか考え、ワークシートに記入する。
第 13 回	【HIV 感染者・ハンセン病・その他病気を抱えている人の人権課題】 差別待遇、就労問題、偏見、孤立・排除、好奇等 【外国人、ホームレス、アイヌの人々、同和問題に関する人権課題】 差別待遇、就労問題、入居拒否等	事前学習	HIV 感染者等の病気を抱えている人、外国人、ホームレス、アイヌの人々、同和問題の人権に関するニュース及び体験談等を収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、HIV 感染者等の病気を抱えている人、外国人、ホームレス、アイヌの人々、同和問題の人権に対して自分がどのように関わっていくか考え、ワークシートに記入する。
第 14 回	【その他の人権課題】 ○死刑制度、刑を終えて出所した人、犯罪被害者等の犯罪に関連した問題。 ○企業の人権問題（セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、過労死、退職強要等） ○世界の人権問題 ○性的指向（異性愛、同性愛、両性愛）、性同一性障害に関する人権問題 好奇・偏見、孤立・排除、就労・職場の待遇等 ○人身取引等	事前学習	その他の人権問題に関するニュース及び体験談等を収集してくる。
		事後学習	発表やディスカッションを基に、その他の人権問題に対して自分がどのように関わっていくか考え、ワークシートに記入する。
第 15 回	【人権課題のまとめ】 ○人権問題に取り組んでいる人の話を聞き、自分がこれから関わっていく上での参考にする。	事前学習	これから自分が取り組もうとする人権課題を整理する。
		事後学習	意識的に人権感覚を磨き、他者の人権を尊重して関わろうと心がける。

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1105
2. 授業担当教員	倉澤 達雄		
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、わが国の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>レポート課題 1. 「基本的人権」に関するもの 2. 「人権教育の実践」に関するもの</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】I 中野 光、小笠 毅編著『ハンドブック 子どもの権利条約』岩波書店。 II 中野陸夫編著『早わかり人権小辞典』明治図書。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート 総合点の60%、グループ発表 総合点の20%、授業への参加度 総合点の20%、総合点 100%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>人権教育はすべての人々が人権を享有することのできる社会の実現を目指します。したがって、この授業で学習したことが皆さんの日常生活で活かされることが肝要です。理論と実践を一体化して、人権を相互に尊重し合い、心の豊かさを育むことに誰もが関心を寄せる社会の実現に役立つ人権教育の在り方を学び探りましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業計画概要「世界人権宣言」と「憲法」にみる基本的人権について	事前学習	人権とは何か。自分の考えを整理する。
		事後学習	基本的人権について整理する。
第2回	人権教育・啓発に関する法律および基本計画について	事前学習	教科書(以下 教)II pp. 70~71 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	憲法と人権教育・啓発に関する法律との関連を整理する。
第3回	わが国の人権教育の現状と人権教育に対する取り組みについて	事前学習	教II pp. 68~69 を熟読し人権問題の現状を考える。
		事後学習	21世紀の人権先進国についての自分の意見を整理する。
第4回	子どもの人権について(子どもの最善の利益)	事前学習	教I pp. 26~31 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	事例発表内容を吟味し担当事項の発表についてグループで相談する。
第5回	子どもの人権について(子どもの意見表明権)	事前学習	教I pp. 70~77 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	担当グループの発表内容を吟味し整理する。
第6回	子どもの人権について(子どものゆとりの権利)	事前学習	教I pp. 58~61 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	担当グループの発表内容を吟味し整理する。
第7回	子どもの人権について(親の権利義務と子の権利義務)	事前学習	教I pp. 38~41, pp. 96~99 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	担当グループの発表内容を吟味し整理する。
第8回	子どもの人権について(障害児の権利他)	事前学習	教I pp. 118~123 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	担当グループの発表内容を吟味し整理する。
第9回	主として高齢者、障害者の人権について	事前学習	教II pp. 34~35, pp. 62~63 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	担当グループの発表内容を吟味し整理する。
第10回	主として同和問題について	事前学習	教II pp. 100~103 を熟読しその要点をまとめる。

		事後学習	担当グループの発表内容を吟味し整理する。
第 1 1 回	主としてアイヌの人々、外国人の人権について	事前学習	教Ⅱ pp. 12～13、pp. 44～45 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	担当グループの発表内容を吟味し整理する。
第 1 2 回	学校における人権教育の実際（人権教育の指導方法の在り方）	事前学習	教Ⅱ pp. 74～75 を熟読して各自体験を振り返る。
		事後学習	人権教育の 4 次元を実践的に整理する。
第 1 3 回	学校における人権教育の実際（小 1 生命の尊重、小 6 愛されるトイレに）	事前学習	日常の学校生活に潜む人権侵害を考える。
		事後学習	事例に関連する課題を整理する。
第 1 4 回	学校における人権教育の実際（中 いじめ、差別落書き、人権教育の日常化）	事前学習	発達段階に即した人権教育を考える。
		事後学習	学校における人権教育について整理する。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	学校における人権教育の在り方を考える。
		事後学習	人権尊重の日常化について考える。

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1105
2. 授業担当教員	攪上 哲夫		
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、わが国の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>1. レポート課題「人権教育の現状と課題について」(具体的な内容については授業時に指示をする)</p> <p>2. グループ発表の準備、一人一人が責任を持ってプレゼンテーションに備える。</p> <p>3. 人権教育のテーマごと、ワークシートに考察し振り返りを行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>プリントによる教材を配布する。</p> <p>【参考図書】中野光、小笠毅編著『ハンドブック 子どもの権利条約』 岩波書店 中野睦夫編著『早わかり人権小事典』 明治図書 李修京編『グローバル社会と人権問題』 明石書店 2014</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1. グループ提案資料の内容・発表態度 40%</p> <p>2. 日常の学習状況(授業への積極的参加、人権課題に対する考察など) 20%</p> <p>3. 課題レポート 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「人権」に対する掘り下げた理解を図り、各自が「人権」問題を自分の問題として意識できるように主体的に授業に参加してください。「子どもの人権」に視点を充てた授業を展開します。未来を担う子どもの人権が保障される社会の実現を目指していきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	科目ガイダンス 「世界人権宣言と日本国憲法」	事前学習	人権とは何か。人権についての自身の体験について整理する。
		事後学習	世界人権宣言の概要をまとめる。
第2回	日本国憲法における基本的人権について理解を深める。	事前学習	日本国憲法における基本的人権が記された条項を読む。
		事後学習	戦後 70 年が過ぎ、日本の人権に関する現状をまとめる。
第3回	子どもの人権問題 世界の子どもの問題① 「貧困・差別・教育」	事前学習	世界に目を向け、人権が侵害されている実態をつかむ。
		事後学習	DVD 視聴後、子どもの人権侵害に関して問題点を整理、ワークシートにまとめる。
第4回	子どもの人権問題 世界の子どもの問題② 「子ども労働・子ども兵士」	事前学習	働く子どもの現状をインターネットで調べる。
		事後学習	世界人権宣言と世界の子どもの人権の問題との乖離を考察する。
第5回	子どもの人権問題 日本の子どもの問題① 「児童虐待・児童買春・児童ポルノ」	事前学習	家庭崩壊と子どもの人権について配布プリントを読み、予備知識を持つ。
		事後学習	児童を取り巻く不健康な環境に対する政府の取り組みについて調べる。
第6回	子どもの人権問題 日本の子どもの問題② 「不登校・いじめ・体罰等」	事前学習	子どもの人権に関わるニュースを収集して、問題意識を持つ。
		事後学習	日本の子どもの人権にどのように関わるか、ワークシートに考察する。
第7回	子どもの人権問題 日本の子どもの問題③ 「障害児教育 養護学校義務化以降」	事前学習	配布プリントを読み、要点をまとめる。
		事後学習	障害のある子どもの人権保障についてワークシートにまとめる。

第 8 回	子どもの人権問題 日本の子どもの問題④ 「国際結婚と子どもの問題」	事前学習	配布プリントを読み、要点をまとめる。
		事後学習	外国人子弟の教育をどのように保障するか 考察し、ワークシートにまとめる。
第 9 回	人権教育「課題解決」① グループ編成とテーマの設定 グループを編成し、提案するテーマを決定する。	事前学習	人権教育に関する情報を収集する。
		事後学習	分担されたテーマについて資料を収集し、ま とめる。
第 10 回	人権教育「課題解決」② グループによるプレゼンテ ーション準備	事前学習	グループ内の自分の役割分担に関する資料 を作成する。
		事後学習	自分の役割分担に関して、責任ある準備を行 う。
第 11 回	人権教育「課題解決」③ グループによるプレゼンテ ーション①	事前学習	発表の準備をシュミレーションする。
		事後学習	グループ発表・ディスカッションから問題意 識を整理しワークシートにまとめる。
第 12 回	人権教育「課題解決」④ グループによるプレゼンテ ーション②	事前学習	発表の準備をシュミレーションする。配布プ リントを読み、要点をまとめる。
		事後学習	グループ発表・ディスカッションから問題意 識を整理しワークシートにまとめる。
第 13 回	人権教育「課題解決」⑤ グループによるプレゼンテ ーション③	事前学習	発表の準備をシュミレーションする。配布プ リントを読み、要点をまとめる。
		事後学習	グループ発表・ディスカッションから問題意 識を整理しワークシートにまとめる。
第 14 回	人権教育「課題解決」⑥ グループによるプレゼンテ ーション④	事前学習	発表の準備をシュミレーションする。配布プ リントを読み、要点をまとめる。
		事後学習	グループ発表・ディスカッションから問題意 識を整理しワークシートにまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	学校における人権教育の在り方を考える。
		事後学習	人権尊重の日常化について考える。

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1111 GELA1311
2. 授業担当教員	川島 亜紀子		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教育学部生は、先に「心理学入門」を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学という学問の歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学ぶことを通して、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識、心理学的視点を身につける。 3. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 4. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 5. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	事前学習として、指定された部分を読んできてください。毎回、授業の最初に簡単な小テスト (10分程度) を実施します。第 1 4 回、第 1 5 回の講義で、興味あるテーマに関するグループ発表および質疑応答を行うため、プレゼンテーション・シートを作成し、レポートを提出します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 「図説 心理学入門 第 2 版」齊藤勇篇 誠信書房		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の 30% 2 課題レポート 総合点の 40% 3 小テスト (複数回) 総合点の 30% 具体的な評価方法は第 1 回目のガイダンスで説明します。		
12. 受講生へのメッセージ	皆さんの理解度・達成度によって講義の進度を調整する場合があります。 わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、事前に通知のない欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語、居眠りは減点の対象となります。また、授業内での携帯電話の使用は厳禁とします。 初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第 1 回の授業に出席してください。		
13. オフィスアワー	授業中に周知する。(掲示参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 心理学とは何か	事前学習	教科書 序章を読む
		事後学習	序章の要点をまとめる
第 2 回	知覚と認知 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 1 章を読む
		事後学習	教科書 第 1 章の要点をまとめる
第 3 回	知覚と認知 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 1 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 4 回	欲求と感情 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 2 章を読む
		事後学習	教科書 第 2 章の要点をまとめる
第 5 回	欲求と感情 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 2 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 6 回	学習・思考・記憶 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 3 章を読む
		事後学習	教科書 第 3 章の要点をまとめる
第 7 回	学習・思考・記憶 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 3 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 8 回	発達と教育 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 4 章を読む
		事後学習	教科書 第 4 章の要点をまとめる
第 9 回	発達と教育 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 4 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 10 回	性格と異常心理 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 5 章を読む
		事後学習	教科書 第 5 章の要点をまとめる
第 11 回	性格と異常心理 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 5 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 12 回	対人心理と社会心理 (1) : 基礎知識	事前学習	教科書 第 6 章を読む
		事後学習	教科書 第 6 章の要点をまとめる
第 13 回	対人心理と社会心理 (2) : 演習	事前学習	教科書 第 6 章の要点を振り返る
		事後学習	演習の内容についてレポートを書く
第 14 回	まとめ (1) プレゼンテーションとディスカッション	事前学習	発表資料の準備
		事後学習	発表についてのレポートを書く
第 15 回	まとめ (2) プレゼンテーションとディスカッション	事前学習	発表資料の準備
		事後学習	発表についてのレポートを書く

1. 科目名 (単位数)	心理学基礎実験 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS2301
2. 授業担当教員	末永 叔子・丹野 宏昭		
4. 授業形態	講義・実習(グループ活動)・演習(グループ活動)・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修に当たって統計学の基礎知識が必要ですので、教育学部で開講されている「心理統計法」の単位を修得してから心理学基礎実験を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学を研究するための基礎となる各手法をとり上げ、生理、記憶、学習、認知、人格、社会等、心理学の主要な分野の知識を身につけながら、それらの知識や考え方に基づく科学的レポートの書き方を学ぶ。 実験等の体験を通して、心理学の理論を机上に終わらせることなく、身近なものとして体得することができる。 なお本科目は認定心理士の資格科目であり、受講生は規定数以上の実験等に参加し、レポートを提出することが義務付けられている。		
8. 学習目標	1. 実験等の演習を通して、心理学を含む社会科学全般に必要な不可欠である各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し、身につける。 2. 実験等の演習によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理することができるようになる。 3. 目的、方法、結果、考察から成る心理学研究レポートの記述の仕方を習得し、心理学的事象について、統計処理の結果を用いて、説明、解釈できるようになる。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	各実験を行った後に、その実験に関するレポートを提出する。 レポートの作成を通じて実験内容についての理解を深め、またレポート作成のルールを理解する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】木下富雄『教材心理学』ナカニシヤ出版。 【参考書】授業中に適宜指示する。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 30% レポート 70%		
12. 受講生へのメッセージ	教科書に指定している「教材心理学」を用いて実験を行いますので、初回の授業までに購入し、毎回忘れずに持ってきて下さい。第 1 回目の授業で「心理学基礎実験の手引き」を配布します。必ず初回の授業に出席し、手引きを受け取るとともに、授業の注意事項をよく聞き、その後の実験実習に備えること。この授業は全回出席を前提として授業を進めます。やむを得ぬ理由で遅刻・欠席する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること。また、全回出席ということをお勧めします。 認定心理士の資格科目であり、5 種類以上の実験に参加し、それぞれの実験についてレポートを提出することが義務づけられています。高い緊張感を持って授業に望み、学習目標を達成して下さい。また、携帯電話を授業中に操作しないこと。他の受講生に迷惑をかける行為(私語、居眠り、グループ活動に参加しないなど)をつつしむこと。		
13. オフィスアワー	詳細な時間は授業開始後に指示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス	事前学習	『教材心理学』を購入し、授業に備える。
		事後学習	『心理学基礎実験の手引き(以降、手引き)』を熟読する。
第 2 回	心理学実験とは	事前学習	『手引き』の重要事項をまとめる。
		事後学習	授業内で通知された内容をまとめる。
第 3 回	実験計画法	事前学習	『教材心理学』の実験計画書を読み、心理学実験の例を学ぶ。
		事後学習	実験計画例を再読し、理解を深める。
第 4 回	実験レポートの構成	事前学習	『手引き』の該当部分を熟読する。
		事後学習	『手引き』を再読し、理解不足な点が無いか確認する。
第 5 回	統計学の復習	事前学習	『心理統計法』の授業で用いた教科書を復習する。
		事後学習	理解不足であった点を再度確認する。
第 6 回	統計学を用いたデータの取り扱い	事前学習	エクセルの使用法を復習する。
		事後学習	理解不足であった点を再度確認する。
第 7 回	SPSS とは	事前学習	前回の授業で疑問点があれば、質問内容を整理しておく。
		事後学習	エクセルと SPSS の違いを確認する。
第 8 回	SPSS の使い方	事前学習	前回の授業で疑問点があれば、質問内容を整理しておく。
		事後学習	エクセルと SPSS の使用法を復習する。
第 9 回	実験 1 : 実験計画の立案	事前学習	『手引き』のレポートについての項目を復習し、授業で行う実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 10 回	実験 1 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 11 回	実験 1 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方

			を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 1 2 回	実験 1 : レポートの作成	事前学習	『手引き』のレポートの項目を復習する。
		事後学習	『手引き』をもとにレポートを完成させる。
第 1 3 回	実験 2 : 実験計画の立案	事前学習	前回の実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 1 4 回	実験 2 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 1 5 回	実験 1 : レポートの返却	事前学習	実験 1 の内容を復習する。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを熟読する。
第 1 6 回	実験 1 : レポートの修正	事前学習	『手引き』を再読し、返却されたレポートの修正点を確認する。
		事後学習	レポートを修正する。
第 1 7 回	実験 2 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 1 8 回	実験 2 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 1 9 回	実験 3 : 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 2 0 回	実験 3 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 2 1 回	実験 3 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 2 2 回	実験 3 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 2 3 回	実験 4 : 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 2 4 回	実験 4 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 2 5 回	実験 4 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 2 6 回	実験 4 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 2 7 回	実験 5 : 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 2 8 回	実験 5 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 2 9 回	実験 5 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 3 0 回	実験 5 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。

1. 科目名 (単位数)	心理学基礎実験 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS2301
2. 授業担当教員	末永 叔子・丹野 宏昭		
4. 授業形態	講義・実習(グループ活動)・演習(グループ活動)・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修に当たって統計学の基礎知識が必要ですので、教育学部で開講されている「心理統計法」の単位を修得してから心理学基礎実験を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学を研究するための基礎となる各手法をとり上げ、生理、記憶、学習、認知、人格、社会等、心理学の主要な分野の知識を身につけながら、それらの知識や考え方に基づく科学的レポートの書き方を学ぶ。 実験等の体験を通して、心理学の理論を机上に終わらせることなく、身近なものとして体得することができる。 なお本科目は認定心理士の資格科目であり、受講生は規定数以上の実験等に参加し、レポートを提出することが義務付けられている。		
8. 学習目標	4. 実験等の演習を通して、心理学を含む社会科学全般に必要な不可欠である各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し、身につける。 5. 実験等の演習によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理することができるようになる。 6. 目的、方法、結果、考察から成る心理学研究レポートの記述の仕方を習得し、心理学的事象について、統計処理の結果を用いて、説明、解釈できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各実験を行った後に、その実験に関するレポートを提出する。 レポートの作成を通じて実験内容についての理解を深め、またレポート作成のルールを理解する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】木下富雄『教材心理学』ナカニシヤ出版。 【参考書】授業中に適宜指示する。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 30% レポート 70%		
12. 受講生へのメッセージ	教科書に指定している「教材心理学」を用いて実験を行いますので、初回の授業までに購入し、毎回忘れずに持ってきて下さい。第 1 回目の授業で「心理学基礎実験の手引き」を配布します。必ず初回の授業に出席し、手引きを受け取るとともに、授業の注意事項をよく聞き、その後の実験実習に備えること。この授業は全回出席を前提として授業を進めます。やむを得ぬ理由で遅刻・欠席する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること。また、全回出席ということをお勧めします。 認定心理士の資格科目であり、5 種類以上の実験に参加し、それぞれの実験についてレポートを提出することが義務づけられています。高い緊張感を持って授業に望み、学習目標を達成して下さい。また、携帯電話を授業中に操作しないこと。他の受講生に迷惑をかける行為(私語、居眠り、グループ活動に参加しないなど)をつつしむこと。		
13. オフィスアワー	詳細な時間は授業開始後に指示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス	事前学習	『教材心理学』を購入し、授業に備える。
		事後学習	『心理学基礎実験の手引き (以降、手引き)』を熟読する。
第 2 回	心理学実験とは	事前学習	『手引き』の重要事項をまとめる。
		事後学習	授業内で通知された内容をまとめる。
第 3 回	実験計画法	事前学習	『教材心理学』の実験計画書を読み、心理学実験の例を学ぶ。
		事後学習	実験計画例を再読し、理解を深める。
第 4 回	実験レポートの構成	事前学習	『手引き』の該当部分を熟読する。
		事後学習	『手引き』を再読し、理解不足な点が無いか確認する。
第 5 回	統計学の復習	事前学習	『心理統計法』の授業で用いた教科書を復習する。
		事後学習	理解不足であった点を再度確認する。
第 6 回	統計学を用いたデータの取り扱い	事前学習	エクセルの使用法を復習する。
		事後学習	理解不足であった点を再度確認する。
第 7 回	SPSS とは	事前学習	前回の授業で疑問点があれば、質問内容を整理しておく。
		事後学習	エクセルと SPSS の違いを確認する。
第 8 回	SPSS の使い方	事前学習	前回の授業で疑問点があれば、質問内容を整理しておく。
		事後学習	エクセルと SPSS の使用法を復習する。
第 9 回	実験 1 : 実験計画の立案	事前学習	『手引き』のレポートについての項目を復習し、授業で行う実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 10 回	実験 1 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 11 回	実験 1 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方

			を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 1 2 回	実験 1 : レポートの作成	事前学習	『手引き』のレポートの項目を復習する。
		事後学習	『手引き』をもとにレポートを完成させる。
第 1 3 回	実験 2 : 実験計画の立案	事前学習	前回の実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 1 4 回	実験 2 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 1 5 回	実験 1 : レポートの返却	事前学習	実験 1 の内容を復習する。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを熟読する。
第 1 6 回	実験 1 : レポートの修正	事前学習	『手引き』を再読し、返却されたレポートの修正点を確認する。
		事後学習	レポートを修正する。
第 1 7 回	実験 2 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 1 8 回	実験 2 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 1 9 回	実験 3 : 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 2 0 回	実験 3 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 2 1 回	実験 3 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 2 2 回	実験 3 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 2 3 回	実験 4 : 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 2 4 回	実験 4 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 2 5 回	実験 4 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 2 6 回	実験 4 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。
第 2 7 回	実験 5 : 実験計画の立案	事前学習	前回までの実験を踏まえ、実験のどこに注意を払うべきか確認する。
		事後学習	実験手続きを復習する。
第 2 8 回	実験 5 : 実験の実施	事前学習	実験手続きについて不明点があれば質問内容を整理しておく。
		事後学習	行った実験内容を復習する。
第 2 9 回	実験 5 : 実験結果の整理	事前学習	どの統計手法を使うのか考え、SPSS の使い方を復習しておく。
		事後学習	統計処理の結果をまとめる。
第 3 0 回	実験 5 : レポートの作成	事前学習	『手引き』や返却されたレポートをもとに、レポートの書き方を復習する。
		事後学習	レポートを完成させる。

1. 科目名 (単位数)	心理検査法 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS3302
2. 授業担当教員	沢 哲司		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床心理学の単位を修得していること。		
7. 講義概要	<p>臨床心理学において、必須の知識である必要な心理査定技術の基礎を習得する。担当教員が選定した代表的な心理検査について、1. 理論的背景、2. 実施方法、3. 結果の整理方法、4. 解釈方法、5. 利用上の注意点、6. 適応範囲と限界などを理解することを目的とする。心理検査法の基礎的な事項(理論や施行法)を身に付けるために、演習を重視する。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当箇所の心理検査をレジュメにまとめて、プレゼンテーションを行う。 2. 検査者・被検査者体験、心理検査の事例等に関してグループディスカッションを行う。 3. 実施した心理検査に関して、レポートを提出する。 <p>といった方法で、各検査法の特徴と臨床現場での使用の仕方を体験的に学ぶ。</p> <p>また、時間がゆるせば、1. 査定法の選び方、2. 環境の整え方、3. 結果の報告やフィードバックの仕方などについても検討する。</p>		
8. 学習目標	心理査定法の中でも、特に心理検査法に焦点をあてる。演習を行うことによって心理査定技術の基礎的な技術を身につけ、活用できる。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実施した心理検査の整理・結果レポート課題 詳しくは授業時に告知する。 2. (必要に応じて) 学生による担当箇所の発表 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 沼初枝著『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版、2009 ※必要に応じて、適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 松原達哉『第4版心理テスト法入門』日本文化科学社、2004</p> <p>【教材】 心理検査に関しては、実習を伴うために別途実費(検査用紙代等)が必要な場合がある。詳しくは開講時に説明する。また、各検査の演習を行う際に、各自が持参するものを前の週の授業時に告知するので忘れないようにすること。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業の参加度(授業態度を含む)、課題シート…40% 行った検査の結果整理・分析レポート 60%</p> <p>注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の規定により全講義回数のうち3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合はF評価とする。 		
12. 受講生へのメッセージ	心理検査法は、体験的に学ぶ授業なので、自分に向き合う必要がある。また、毎回の検査についてレポートをもらう予定なので、授業外の時間も多く使って学ぶ必要がでてくる。教科書代以外に検査用紙代等別途実費もかかる。そのため、本授業は学びに費やすエネルギーがかなり高くなると予想されるが、その分自己理解が深まるように展開するつもりである。相応の時間的・精神的余裕がある場合に受講してもらいたい。学生の理解度・達成度・要望等の状況によっても講義の進度や内容、扱う検査を一部調整する場合がある。		
13. オフィスアワー	決まり次第授業で告知 メールアドレス: tesawa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	心理検査法を学ぶにあたって	事前学習	シラバスをよく読んでおくこと。
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第2回	臨床心理アセスメントの基本	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第3回	臨床心理アセスメントにおける倫理	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第4回	アセスメントとしての心理面接	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第5回	諸種の面接法	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第6回	インテーク面接	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第7回	診断面接	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第8回	初回面接	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第9回	心理検査の歴史	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる

		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第 10 回	知能のアセスメント 概要	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	配布した資料を整理し、まとめる
第 11 回	知能のアセスメント 実施 1	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 12 回	知能のアセスメント 実施 2	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 13 回	知能のアセスメント 分析 1	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 14 回	知能のアセスメント 分析 2	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 15 回	人格（パーソナリティ）のアセスメント	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 16 回	心理検査を学ぶ	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 17 回	各種心理検査の概要	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 18 回	乳幼児の発達に関する検査	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 19 回	高齢者の認知機能に関する検査	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 20 回	人格質問紙法	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 21 回	代表的な人格質問紙法	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 22 回	健康調査票	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 23 回	うつ状態やうつ症状のアセスメント	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 24 回	不安症状のアセスメント	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 25 回	投映法とは	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 26 回	代表的な投映法	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	実施した検査の結果をまとめる
第 27 回	心理検査の実際 学校場面	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	事例についてまとめる
第 28 回	心理検査の実際 職場場面	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	事例についてまとめる
第 29 回	心理検査の実際 病院	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	事例についてまとめる
第 30 回	まとめ	事前学習	授業時に指定した個所を予め読み、まとめる
		事後学習	まとめ

1. 科目名 (単位数)	心理統計法 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS1301
2. 授業担当教員	成本 忠正	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習		
6. 履修条件・他科目との関係	「統計学」を先に履修すること。		
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内および授業外に、データ解析に関する課題を、随時、行ってもらおう。 2. 毎回の演習内容についての予習と、自宅での復習が必須となるため、本シラバスの事前学習・事後学習の内容を熟読して臨むこと。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】岸学 (著) 『SPSS によるやさしい統計学 第2版』オーム社、2012年。</p> <p>【参考書】山田剛史・村井潤一郎 (著) 『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2004年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度 30%</p> <p>アサインメント 30%</p> <p>小テスト 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>春期の「統計学」「情報処理演習Ⅰ」「文章表現」に継続する内容ですので、しっかり復習してから臨んでください。なお、皆さんの理解度・達成度によって講義内容を変更する場合があります。</p> <p>わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、事前に通知のない欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語・居眠りは減点の対象となります。また、授業内での携帯電話の使用は厳禁とします。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく
		事後学習	情報処理室の利用可能時間を調べ、大学所定の手続きに従ってコンピュータを操作する
第2回	「統計学」達成度確認テスト	事前学習	春期の「統計学」の講義内容 (尺度水準・記述統計・推測統計) について復習しておく
		事後学習	達成度確認テストの中で理解度が足りなかった点について、「統計学」の教科書・資料で十分に知識を補完する
第3回	記述統計・推測統計のおさらい	事前学習	「統計学」で使用した教科書を読んでも補完できなかったところを質問できるようまとめておく
		事後学習	記述統計・推測統計を復習しておく
第4回	データの入力と尺度水準: Excel・データの変換と整形: Excel→SPSS	事前学習	春期「情報処理演習Ⅰ」におけるエクセルの基本操作を復習するとともに、教科書「統計解析の準備をする」を熟読しておく
		事後学習	教科書にある仮想データを入力し、SPSSのデータに変換する
第5回	1変数の記述一度数分布・代表値・散布度	事前学習	教科書「記述統計 データをわかりやすく表現する」を熟読しておく
		事後学習	講義内で扱った変数以外について代表値と散布度を求めるとともに、グラフで出力する
第6回	統計的仮説検定の意義	事前学習	春期「統計学」で学習した統計的仮説検定 (z検定およびt検定) の内容を復習しておく
		事後学習	講義内で配布するレジュメに沿って「統計的仮説検定」の手順をまとめる
第7回	関係の分析 1-相関係数と無相関検定 1: 解析と読み取りの基本手順-	事前学習	第8章「関係を分析する」の間隔・比率尺度同士の関係 (pp. 103~) を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った「学習意欲得点」以外について相関係数を算出してエクセルの表にまとめる

第 8 回	関係の分析 3 - 2 × 2 のクロス集計表における ϕ 係数の算出と χ^2 検定 -	事前学習	第 8 章「関係を分析する」の名義尺度同士の関係 (pp. 122~) を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果と ϕ 係数を報告にまとめる
第 9 回	関係の分析 4 - 2 × 3 のクロス集計表における V の算出と χ^2 検定後の残差分析 -	事前学習	第 8 章の「名義尺度同士の関係」(前回箇所 + p. 131 クラメールの V を熟読しておく
		事後学習	講義で扱った変数以外の組み合わせについて χ^2 検定結果と V を報告にまとめる
第 10 回	差の分析 1 : 対応のない t 検定	事前学習	第 9 章「差を分析する」を熟読し、検定の選択のチャート図を理解するとともに「対応なしの t 検定」の手順を把握しておく
		事後学習	「使用教材」によって「試験 2 回目」に有意な差がみられるか検定を実施し報告にまとめる
第 11 回	差の分析 2 : 対応のある t 検定	事前学習	第 9 章の「差を分析する」のうち、「対応ありの t 検定」の手順を把握しておく
		事後学習	「試験 2 回目」と「試験 3 回目」に有意な差がみられるか検定を実施し、報告をまとめる
第 12 回	差の分析 3 : 対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	第 10 章の「差を分析する (分散分析法)」(教科書 pp. 159~) のうち、一要因分散分析の手順を把握しておく
		事後学習	「3 つの部署」で「試験 1 回目」に差があるかを検定し、結果を報告にまとめる
第 13 回	差の分析 4 : 対応のない一元配置分散分析と多重比較	事前学習	第 10 章の「差を分析する (分散分析法)」(教科書 pp. 159~) のうち、一要因分散分析に続く多重比較の意味と手順を把握しておく
		事後学習	「3 つの部署」で「試験 1 回目」に差があるかを検定し、多重比較 (tukey の HSD 法) の結果を含めた報告をまとめる
第 14 回	差の分析 5 : 対応のある一元配置分散分析と多重比較	事前学習	第 10 章の「差を分析する (分散分析法)」(教科書 pp. 159~) のうち、対応のある一要因分散分析の手順を把握しておく
		事後学習	講義内で指示した以外の変数について一要因分散分析を実施し、報告にまとめる
第 15 回	統計データの読み取りとは	事前学習	新聞記事など、身近にある統計データを根拠とした議論を用意する
		事後学習	「科学的報告におけるクリティカル・シンキングの意義」について 400 字にまとめる

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1141
2. 授業担当教員	宮坂 慎司		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	実技、講義			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> i. 毎時の授業において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 自己の振り返りとして、授業における取り組みをスケッチブックにまとめることを課題とする。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】【参考書】 授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時に指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的姿勢・参加態度：50% (意欲的な制作活動・自己課題への取り組み等) 課題：50% (毎時の提出作品・発表・レポート課題等)			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> i. 指導者としての資格を得るという自覚を持ち、積極的に、集中して制作に取り組むこと。そのために、必要な道具や材料は必ず準備し、事前事後の学習に努めること。 ii. 多くの体験を積み、広い視野を持つこと。多くの人の作品に触れ、考えや意見を持つこと。 iii. 自分の制作した作品を大切にすること。 以上のことを意識して、自分の学びをより有意義なものとしてください。			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (研究室の前に時間割表を掲示)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造一発想について		事前学習	中学校・高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。
			事後学習	造形発想に関するグループでの制作活動を振り返り、考えたこと感じたことを配布プリントにまとめる。
第 2 回	◇ 色彩の基礎 色のイメージと組み合わせについて		事前学習	これまでの描画経験を振り返り、自分の表現と色について考える。「色の特徴」について考え、表現するための工夫を書き出す。
			事後学習	学んだ色の構造について振り返り、各色のイメージとその組み合わせからできた作品をスケッチブックにまとめる。
第 3 回	◇ モダンテクニックによる表現 I (デカルコマニー・フィンガーペインティング)		事前学習	絵の具を用いた制作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品制作に向けて、自分らしい色彩について考え、構想をまとめる。
			事後学習	デカルコマニーとフィンガーペインティングによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。作品をスケッチブックにまとめる。
第 4 回	◇ モダンテクニックによる表現 II (にじみ絵・パッチ)		事前学習	クレヨンを用いた制作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品制作に向けて、クレヨンで簡潔に輪郭を描くことができるようなモチーフ (植物) の資料を収集する。
			事後学習	にじみ絵とパッチによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。作品をスケッチブックにまとめる。
第 5 回	◇ モダンテクニックによる表現 III (スクラッチ・スパッタリング)		事前学習	筆を用いない描画の経験を振り返り、活動の内容を書き出す。作品制作に向けて、幻想的な表現による画面をイメージし、構想を練る。
			事後学習	スクラッチとスパッタリングによる制作活

			動を振り返り、技法と表現の関係について考える。作品をスケッチブックにまとめる。
第 6 回	◇ モダンテクニックによる表現 IV (ドリップング・スタンピング)	事前学習	筆を用いない描画の特性について考える。作品制作に向けて、身の回りにある自然物の有機的な形態に着目し、構想を練る。
		事後学習	ドリップングとスタンピングによる制作活動を振り返り、子どもの造形活動における見立ての重要性について考えたこと・感じたことをプリントにまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。
第 7 回	◇ モダンテクニックによる表現 V (フロッタージュ・コラージュ)	事前学習	フロッタージュとコラージュという技法について調べ、作品の構想を練りながら、制作に使用できそうな材料を収集する。
		事後学習	フロッタージュとコラージュによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。作品をスケッチブックにまとめる。
第 8 回	◇ 紙工作 I 折り紙・色画用紙を用いた壁面装飾の基礎	事前学習	保育現場における壁面装飾について調査し、季節ごとの実例をスケッチする。
		事後学習	切り紙の折り方について復習する。10 折り・12 折り用のオリジナル型紙のアイデアを描き出し、出来上りのイメージとともに記録する。作品をスケッチブックにまとめる。
第 9 回	◇ 紙工作 II 紙の折り目を利用した立体表現	事前学習	A4 ケント紙を用いてバースデーカードを制作する時、どのような工夫ができるか考え、アイデアを書き出す。
		事後学習	ポップアップカードの制作活動を振り返り、実際に制作した作品以外に、どのような形で応用できるかを考え、アイデアを書き留める。作品をスケッチブックにまとめる。
第 10 回	◇ 素材についての研究 可塑性を用いた造形の展開	事前学習	粘土を使った活動の経験を振り返り、使用していた粘土の特徴（においや触感）を思い出して書き出す。作品制作に向けて、紙粘土の特性を活かした形態をイメージし、構想をまとめる。
		事後学習	粘土による制作活動を振り返り、それぞれの種類の粘土の特徴をプリントにまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。
第 11 回	◇ 表現への寄り添い 子どもの描く絵から感じとれること	事前学習	保育現場や子どもの絵が飾られる場に着目し、子どもの描く絵について調査する。
		事後学習	子どもの描画表現の特性と発達についてプリントにまとめる。実際に展示されている現場において子どもの絵を鑑賞する。
第 12 回	◇ 着せ替え式ペープサートの制作 I 制作の準備・構想と下描き	事前学習	ペープサートがどのようなものかを調べ、作品のイメージを広げる。
		事後学習	着せ替え式ペープサートの特徴をまとめ、表現を活かせるキャラクターを考えてスケッチを行う。
第 13 回	◇ 着せ替え式ペープサートの制作 II 技法の工夫・彩色・組み立て	事前学習	制作するキャラクターについて、性格や特技などの個性を考えて、プリントにまとめる。
		事後学習	制作したキャラクターについて、その周辺を飾る背景や持ち物についてイメージを広げ、アイデアをスケッチする。
第 14 回	◇ 着せ替え式ペープサートの制作 III 仕上げと発表準備	事前学習	保育現場における実践の事例を調べ、演じる際の注意点などについて考える。
		事後学習	グループでの制作活動を振り返り、個人制作との違いについて考え、プリントにまとめる。
第 15 回	◇ 着せ替え式ペープサートの制作 IV 発表と講評、制作のまとめ	事前学習	作品発表に向けての準備をする。グループ内でストーリーの読み合わせを行い、発表に備える。
		事後学習	図画工作 I での自身の制作活動を振り返りながら、自分の造形表現の個性について考える。スケッチブック提出に向けて、作品やプリントをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (幼) (2単位)		3. 科目番号	EDMP1141
2. 授業担当教員	中川 画太			
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・授業内容に沿った作品、レポートの作成 ・授業内容に沿ったグループ作品、レポートの作成・発表 以上について、随時指示を行う			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】花篤實『造形表現 実技編』三晃書房。			
11. 成績評価の方法	・日常の授業態度 (授業への積極的参加度) 総合点の 40% ・実習による作品制作、発表 総合点の 60%			
12. 受講生へのメッセージ	物を作る喜びや楽しさを体験する講座ですが、これまでに小・中・高の学校で児童や生徒として体験してきた“図画工作”や“美術”の授業とは異なり、指導者となるための授業です。 1. 良好な体調で、積極的に臨み、集中する 2. 指示された用具や素材を、必ず用意する 3. 制作した作品は、今後の貴重な資料となるものでもあり、必ず大切にファイリングする 以上 3 点、厳守の上で、貴重な体験を積んでいきましょう。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義概要。鉛筆等による素描 (自画像) 鉛筆の使い方	事前学習	シラバスより、講義概要を捉えておく。	
		事後学習	本講義を受講するに当たり、心構え等、重要なポイントを整理し、必要となる用具などをそろえる準備をする。	
第 2 回	オートマティズムによる描画実習 I 【スタンプ、ドリッピングなど絵の具を使った表現】	事前学習	必要な用具と材料を準備する。その際、どこでどのように手に入れられるか、値段、他にどのような類似したものがあるかなどを、チェックする。	
		事後学習	返却された前回の作品を、しっかりファイリングする。 【今後、全作品が同様である】 第 2 回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。	
第 3 回	オートマティズムによる描画実習 II 【クレヨンを使ったパチック、ぼかし網を使ったスパッタリング】	事前学習	第 2 回同様、必要な用具・材料の準備と、それに関することのチェック。	
		事後学習	返却された第 2 回の作品について、反省し求められたことについて考察する。 第 3 回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。	
第 4 回	オートマティズムによる描画実習 III 【デカルコマニー】	事前学習	第 3 回同様、必要な用具・材料の準備と、それに関することのチェック。	
		事後学習	返却された第 3 回の作品について、反省し求められたことについて考察する。 第 4 回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。	
第 5 回	粘土等、可塑の素材による立体造形 I 【“4 本脚の動物”をテーマに、制作】	事前学習	多種類の紙粘土等が置いてある場所 (店舗) に行き、粘土 (造形材料) について調べる。	
		事後学習	返却された第 4 回の作品について、反省し求められたことについて考察する。 立体造形の平面との違いを整理する。	
第 6 回	粘土等、可塑の素材による立体造形 II 【アルミホイルを使った立体造形】	事前学習	必要な材料の準備と、それに関することのチェック。	
		事後学習	身近な材料について、身の回りをチェックする。	
第 7 回	紙工作 I 【お面制作】	事前学習	紙工作に、どのような材料が使えるかを考えて、準備する。	
		事後学習	紙による立体造形について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果、そして、他にどのような方法があるか、配布物や教科書を参	

			考にして整理する。
第 8 回	紙工作Ⅱ【「動物」制作】	事前学習	前回の体験をふまえ、紙工作に有用な用具や適切と思われる材料を準備する。
		事後学習	紙の特性や、立体造形の材料としての可能性などを、配布物や教科書を参考にして整理する。
第 9 回	紙工作Ⅲ【身近なものを使っておもちゃを作る・・・紙コップロケットなど】	事前学習	身近にある紙や接着剤など、どんなものが“工作”の材料になるか考えながら、準備する。
		事後学習	制作した体験をふまえ、子どもへの指導上の留意点を、配布物や教科書を参考にして整理する。
第 10 回	見立て活動の聞き取り実践	事前学習	第 4 回までの平面作品を中心に、これまでに制作してきた自分の作品に発見したことを思い返し、新たに発見することはないか、一つ一つ、見返してみる。
		事後学習	コミュニケーションの方法や、共感できるための姿勢など、実習で体験したことを整理し、気付いたことを、まとめる。
第 11 回	動物の形態研究	事前学習	動物の形態が判りやすい資料を探す。
		事後学習	形態の要点を捉えて単純化する際に、自分が目を向けた部分の他に、目を向ける部分はなかったかなど、考察してみる。
第 12 回	ペープサート制作Ⅰ【ペープサート人形制作】	事前学習	紙工作の体験をベースにした、材料準備。
		事後学習	“観客からの視点”で、自分の作品を見てみる。
第 13 回	ペープサート制作Ⅱ【劇制作：グループワーク】	事前学習	導入から終幕まで、見せるために必要なことを考え、整理しておく。
		事後学習	グループ内での役割分担に沿って、必要な準備をする。
第 14 回	ペープサート制作Ⅲ【劇制作：グループワーク】	事前学習	前回の反省点や、新たな提案があれば、グループ全員に伝えられるよう、整理して準備しておく。
		事後学習	グループ内での役割分担にそった最終準備をする。チームワークを高めるためのコミュニケーションについても、考察する。
第 15 回	ペープサート制作Ⅳ【劇発表：グループワーク、鑑賞、講評】	事前学習	演出、シナリオ読み合わせ、セリフの声だし、音響、舞台道具等、チェックポイントや、新たな提案があれば、グループ全員に伝えられるよう、整理して準備しておく。
		事後学習	自分のグループについてだけでなく、他のグループの発表から得られた事を、しっかりと受けとめ、整理してまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (初等) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2141
2. 授業担当教員	薬本 武則		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	実技、講義			
6. 履修条件・他科目との関係	「図画工作Ⅰ」の履修が望ましい。			
7. 講義概要	図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通用する幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を追求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題作品の提出。 2. プレゼンテーション文章の提出、及び絵本の説明内容の提出。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 薬本武則著『絵画原理』K's 工房。 文部科学省『小学校学習指導要領解説・図画工作編』。 【教材】 画材 (スケッチブック《S120》、水彩道具一式、色鉛筆《12色》) などの準備。授業ごと事前に通知。			
11. 成績評価の方法	作品およびレポート提出、ポートフォリオの作成、日常的な授業態度等を総合し評価する。 作品・レポート・ポートフォリオ総合 80%、授業態度・出席状況 20%で総合評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	児童期は、絵を描いたりものを作ったりする造形活動に意欲的です。児童に喜びと自信をもたせながら、心身の成長発達に沿った造形活動を援助できるように教師をめざしましょう。そのためには、学生自身がより豊かな知性に支えられた感性による造形活動を体験することが大切です。授業では造形教育のための基礎・基本的表現を学び、児童の知的表現につながる演習をします。学生自身が感性と知性に支えられた造形教育と造形活動に興味と関心をもって授業に臨むことが期待されます。 【注意事項】 ① 汚れてもよい服装で出席すること。 授業の事後学習として毎回「ポートフォリオに記録する」ことに慣れましょう。授業内容、制作過程 (写真、コメント) を保存、記録する作業は煩雑ですが、自分の成長の証し・作品集の記録になります。			
13. オフィスアワー				
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	◇ オリエンテーション 図画工作Ⅱの授業内容について説明する。	事前学習	シラバス「図画工作Ⅱ」を読む。	
		事後学習	学習内容をポートフォリオに記録する。 多種多様の絵本を読む。	
第 2 回	◇理論 美術教育 (図画工作) の基本的意識について、「絵画原理」から考理論的解説をする。	事前学習	「絵画原理」を熟読する。	
		事後学習	学習内容をポートフォリオに記録する。	
第 3 回	◇理論 美術教育 (図画工作) の表現・鑑賞方法について「絵画原理」から理論的解説をする。	事前学習	「絵画原理」を熟読する。	
		事後学習	学習内容をポートフォリオに記録する。	
第 4 回	◇絵本をつくろう① 「私の生活」をテーマに 4 コマ漫画を作る (物語の始まりである「起」物語をつなぐ「承」物語の山場「転」物語のオチ「結」)、4 コマ漫画の作り方及び下絵の制作) (スケッチブック《S120》、筆記用具・プラスチックペン)	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。	
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。	
第 5 回	◇絵本をつくろう② コマ漫画 3-5 種類の線描き及び彩色 (スケッチブック、筆記用具・プラスチックペン、色鉛筆など)	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。	
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。	
第 6 回	◇絵本をつくろう③ 前回の 4 コマ漫画を 20 コマに展開・拡大、下絵の制作 (スケッチブック、筆記用具、画材など)	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。	
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。	
第 7 回	◇絵本をつくろう④ スケッチブックに鉛筆で 20 コマ漫画のストーリーと下描きの制作 (スケッチブック、筆記用具、画材など)	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。	
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。	

平成 28 年度

第 8 回	◇絵本をつくろう⑤ 20 コマの絵の下描き及び修正 《スケッチブック、筆記用具、画材など》	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。
第 9 回	◇絵本をつくろう⑥ 下描きの完成 (スケッチブック、筆記用具、画材など)	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。
第 10 回	◇絵本をつくろう⑦ 下描き完成作品をスケッチブックに本描き (マジックペン等で線描き) する	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。
第 11 回	◇絵本をつくろう⑧ 本描き用の絵に彩色 (水彩絵具、色鉛筆など)	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。
第 12 回	◇絵本をつくろう⑨ 本描き用の絵に彩色 (水彩絵具、色鉛筆など、)	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。
第 13 回	◇絵本をつくろう⑩ 本描き用の絵に彩色完成「私の生活」(水彩絵具、色鉛筆など)	事前学習	指定された教材の準備と作品の構想を練る。
		事後学習	制作過程、コメント等をポートフォリオに記録する。
第 14 回	◇プレゼンテーション I 絵本の発表会・相互好評会	事前学習	作品に対する効果的なプレゼンを思考する。
		事後学習	他の学生の発表を観察吸収し、良い点を学び、コメント等をポートフォリオに記録する。
第 15 回	◇プレゼンテーション II 絵本の発表会・相互好評会	事前学習	作品に対する効果的なプレゼンを思考する。
		事後学習	他の学生の発表を観察吸収し、良い点を学び、コメント等をポートフォリオに記録する。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ / 図画工作Ⅱ (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2141
2. 授業担当教員	宮坂 慎司		5. 開講学期	春期 / 秋期
4. 授業形態	実技、講義			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、保育者・指導者として保育実践の場に還元することのできる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探究するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> i. 毎時の実習において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 自己の振り返りとして、授業における取り組みをスケッチブックにまとめることを課題とする。 <p>以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】【参考書】 授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。</p> <p>【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時に指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的姿勢・参加態度：50% (意欲的な制作活動・自己課題への取り組み等)</p> <p>課題：50% (毎時の提出作品・発表・レポート課題等)</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> i. 指導者としての資格を得るという自覚を持ち、積極的に、集中して制作に取り組むこと。 ii. そのために、必要な道具や材料は必ず準備すること。 iii. 多くの体験を積み、広い視野を持つこと。多くの人の作品に触れ、考えや意見を持つこと。 <p>以上のことを意識して、自分の学びをより有意義なものとしてください。</p>			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (研究室の前に時間割表を掲示)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 子どもの造形表現への理解について	事前学習	絵画表現や紙工作など、図画工作Ⅰでの造形活動を振り返り、その達成度を考えるとともに図画工作Ⅱにおける自分自身の目標を設定する。	
		事後学習	子どもの描いた絵画に関して、ディスカッションの前後における自身の考えをまとめる。	
第 2 回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究Ⅰ 技法の復習と自己課題の設定	事前学習	図画工作Ⅰにおいて習得した絵画技法 (デカルコマニー・フィンガーペインティング・にじみ絵・パッチク・スクラッチ・スパッタリング・ドリップング・スタンピング・フロタージュ・コラージュ等) の復習をする。	
		事後学習	自身で題材を設定する自己課題について、制作の道筋を明確にし、構想をまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。	
第 3 回	◇ 型抜き版画による表現Ⅰ 構想・下描き・型紙の制作	事前学習	型抜き版画による作品制作に向けて、モチーフとなる動植物に関する資料を収集する。その上でアイデアデッサンを描く。	
		事後学習	型抜き版画の特徴をプリントにまとめ、モチーフのデフォルメについて考えをまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。	
第 4 回	◇ 型抜き版画による表現Ⅱ スクリーン印刷・作品の相互評価	事前学習	スクリーン印刷に向けて、構図や色構成についてイメージをかためる。	
		事後学習	型抜き版画による制作活動を振り返り、自己評価をまとめる。また、シルクスクリーンなど、関連する版画技法について調べる。作品をスケッチブックにまとめる。	
第 5 回	◇ 張り子による造形Ⅰ 作品構想・張り子制作	事前学習	張り子技法の制作の実例を調べる。風船や空き容器を心材とした張り子制作に向けて、モチーフに関する資料と材料を収集する。	
		事後学習	張り子技法による制作活動を振り返り、風船を心材とした場合の展開を考える。作品をスケッチブックにまとめる。	
第 6 回	◇ 張り子による造形Ⅱ 着色と組み立て・作品の相互評価	事前学習	前回制作した作品について、装飾するために必要な資料を収集する。作品を相互に鑑賞す	

			るにあたって、コンセプトをまとめる。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第 7 回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 I 作品構想・アイデアスケッチ	事前学習	身近にある材料を用いたおもちゃ制作に関して、資料を収集する。実際に身近にある素材を集め、造形材料となる可能性を探る。
		事後学習	ディスカッションによって得られた制作の構想をアイデアスケッチとともにまとめる。実践的な制作の場において、子どもにより伝わりやすい表現を意識しながら模擬授業の準備を行う。
第 8 回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 II 作品の試作と発表準備	事前学習	制作の構想をもとに、教材準備について考える。実際に模擬授業における制作物を試作する。
		事後学習	それぞれが持ち寄った試作を踏まえ、導入・展開・まとめといった模擬授業の具体的な中身についてグループで考えをまとめる。
第 9 回	◇ 身近にある材料を用いたおもちゃ制作 III 発表と相互評価	事前学習	グループ毎に発表の準備とリハーサルを行う。
		事後学習	模擬授業形式の発表について、振り返りをプリントにまとめる。また、鑑賞者の視点において印象に残った発表を取り上げ、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第 10 回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究 II 色・形・触感について・自己課題の制作	事前学習	それぞれの制作計画に従って、必要となる材料を収集する。まとめた構想についてアイデアスケッチを描く。
		事後学習	制作活動を振り返り、自身の作品における色や形、触感といった造形要素について考える。作品をスケッチブックにまとめる。
第 11 回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究 III 自己課題の制作・作品相互評価	事前学習	自己課題について、仕上げていくイメージを持つ。作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第 12 回	◇ まとめの制作・発表 I 作品構想・試作	事前学習	まとめの制作・発表に向けて、課題プリントにアイデアをまとめる。ストーリーやキャラクターの構想を練り、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	各制作物の基本的構造を復習し、アイデアデッサンの制作を進める。作品をスケッチブックにまとめる。
第 13 回	◇ まとめの制作・発表 II ページの作成・内容を描く	事前学習	アイデアデッサンをもとに、表現に適した技法について考え、制作に必要な材料を用意する。
		事後学習	作家「レオ・レオニ」に関するプリントをまとめる。
第 14 回	◇ まとめの制作・発表 III 表紙の作成・組み立て	事前学習	手作り絵本やパネルシアターの作品制作に関して、彩色や仕掛けなどの工夫についてイメージを膨らませ、全体像の構想をまとめる。
		事後学習	『えほん 子どものための 500 冊』を参考に、興味を持った作家・作品について調べ、プリントにまとめる。
第 15 回	◇ まとめの制作・発表 IV まとめ・作品発表と講評	事前学習	作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。自身の作品の魅力をより相手に伝える工夫を考える。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。図画工作 II の制作活動を振り返り、スケッチブック提出に向けて作品とプリントをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2314
2. 授業担当教員	佐々木 達行		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	学習指導要領における図画工作科教育の目標、内容、指導方法、評価等について概括した上で、初等教育において造形的な創造活動による学びが持つ意義を考察し、図画工作科教育の望ましい在り方と授業像を実践的に学ぶ。併せて、子どもの発達段階における造形の特質と、その表現の多様性について理解を深め、個に応じた指導力や、題材・教材研究の能力、図画工作科の授業を組み立てる力の獲得を目指す。授業では、具体的な題材例を設定し、写真や映像などを通して実践的に学び、指導案の書き方、指導方法についても習得する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校図画工作科の目標及び内容を知り、その特質と教育的意義を理解する。 2. 造形表現の発達段階を学び、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるようになる。 3. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。 4. 図画工作科における評価の考え方と方法について学び、理解を深める。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、指導者の立場から考察ができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予め教科書を読むなど、講義内容を予習し、内容について問いを持ったり、質問ができるようにしたりして授業に臨むようにする。 ○ 毎回の講義内容の記録、演習作品等を記録してファイル (A4) にまとめ、ポートフォリオとして提出する。 ○ 学習の成果を課題レポートとして提出する。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 佐々木達行『造形教育における授業の課題・目標と評価』開隆堂出版。 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版。			
11. 成績評価の方法	授業に対する関心・意欲・主体性等の態度、授業記録・作品等ポートフォリオ、課題レポート、等により総合的に判定をする。 授業に対する関心・意欲・主体性等の態度 20%、ポートフォリオ 50%、課題レポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	講義内容は皆さんが目指している教師としての専門性を高めるためのものである。 講義に出席した皆さんは、お客さんではない。講義内容を予習しておき、分からないことがあれば質問したり、自分の考えを述べたりするなど自主的、積極的に関わり、理解を深めていくこと。講義内容について質問をすることは決して恥ずかしいことではない。むしろ、質問ができるということは、自分が分かっている部分に気づいていることで、優秀であり、大きく成長する可能性を持っているということである。講義は、知識や技術を与えてもらうだけのものではなく、自分で勝ち取るものである。それは自分に自信が持てるようになること、教師としての誇りを培っていくことにつながっていくはずである。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 授業の受け方、目標、内容、方法、準備等について	事前学習	教科書を通読しておく。	
		事後学習	記録帳、材料、用具、ファイル等の準備、確認する。	
第 2 回	授業の構成要素と指導法	事前学習	教科書 pp.82~86、授業の構成要素について読んで、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。	
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、「授業の構成要素」とその指導のあり方について、他に説明できるようにしておく。	
第 3 回	表現・鑑賞内容と指導法(1) 表現形式と指導	事前学習	教科書 pp.86~89、表現・鑑賞内容、「表現形式」について読んで、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。	
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、「表現形式」と指導との関係について、他に説明できるようにしておく。	
第 4 回	表現・鑑賞内容と指導法(2)表現材料/技法/用具と指導	事前学習	教科書 pp.86~89、表現・鑑賞内容、「表現材料/技法/用具」について読んで、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。	
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、「表現材料/技法/用具」と指導との関係について、他に説明できるようにしておく。	
第 5 回	子どもの表現と意味(1) 表現様式とその意味	事前学習	「表現様式」とは何か、文言の意味を調べておく。分からないところがあれば、質問できるようにしておく。	

		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、子どもの表現様式とその表現意味をまとめておくとともに、他に説明できるようにしておく。
第 6 回	子どもの表現と意味(2) 表現様式とその指導	事前学習	材料準備：クレヨン、カラーフェルトペン。 子どもの表現様式とその表現意味のまとめを確認しておく。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。 また、子どもが表現する意味とそれに応じた指導との関係について、他に説明できるようにしておく。
第 7 回	授業デザインと指導法(1) 指導型のデザイン方法と指導	事前学習	教科書 p.90、pp.115~118、指導型の授業のデザイン方法の実践例を読んで、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。また、指導型の授業デザイン方法と指導との関係を確認しておく。
第 8 回	授業デザインと指導法(2) 課題追究型のデザイン方法と指導	事前学習	教科書 p.91、pp.107~110 を読んで、課題追究型の授業のデザイン方法の実践例を読んで、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録、制作した作品を整理し、ファイルしておく。また、課題追究型の授業のデザイン方法と指導との関係を確認しておく。
第 9 回	授業デザインと指導法(3) 造形遊び（課題追究型）のデザイン方法と指導	事前学習	「造形遊び」とは何か、文言の意味を調べておく。分からないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、「造形遊び」の授業のデザイン方法と指導との関係を確認しておく。
第 10 回	指導案の作成と方法(1) 授業構成と指導案の形式	事前学習	教科書 pp.92~96、pp.99~102 を読んで、授業構成とはどのようなことか、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、授業デザイン表と指導案の形式について、自分なりの考えを持って他に説明できるようにしておく。
第 11 回	指導案の作成と方法(2) 形式内容の記述の方法	事前学習	教科書 pp.92~96、pp.103~106 を読んで、授業デザイン表、指導案の形式内容の具体的な記述方法を確認し、分からないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録を整理し、ファイルしておく。また、授業デザイン表と指導案の形式に合わせて、内容を整理して具体的に書けるようにしておく。
第 12 回	指導の模擬演習(1) 教材内容の検討	事前学習	具体的に行なってみたい授業内容、資料、学年等を選んでおく。分からないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録、作成した授業デザイン表、指導案検討資料を整理し、ファイルしておく。
第 13 回	指導の模擬演習(2) 指導案の作成	事前学習	準備：各自の表現・鑑賞活動内容の必要に応じた資料、材料等。分からないところがあれば、質問できるようにしておく。
		事後学習	授業の記録、作成した「授業デザイン構成表」、「指導案」を整理し、ファイルしておく。
第 14 回	模擬授業演習	事前学習	具体的な指導案を使った模擬演習をイメージしておく。
		事後学習	行なった模擬授業演習の記録を整理し、ファイルしておく。また、作成した「指導案」や具体的な指導法についての反省点等を確認しておく。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	作成したポートフォリオをもとに、授業の内容や課題を捉えなおしておく。
		事後学習	課題レポートの作成

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2単位)	3. 科目番号	SJMP2395
2. 授業担当教員	中川 画太		SJMP2295
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	学習指導要領における図画工作科教育の目標、内容、指導方法、評価等について概括した上で、初等教育において造形的な創造活動による学びが持つ意義を考察し、図画工作科教育の望ましい在り方と授業像を実践的に学ぶ。併せて、子どもの発達段階における造形の特質と、その表現の多様性について理解を深め、個に応じた指導力や、題材・教材研究の能力、図画工作科の授業を組み立てる力の獲得を目指す。授業では、具体的な題材例を設定し、写真や映像などを通して実践的に学び、指導案の書き方、指導方法についても習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校図画工作科の目標及び内容を知り、その特質と教育的意義を理解する。 2. 造形表現の発達段階を学び、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるようになる。 3. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。 4. 図画工作科における評価の考え方と方法について学び、理解を深める。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、指導者の立場から考察ができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導案の作成、及び、プレゼンテーション 2. 授業内容に沿った作品、レポートの発表・提出 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『形・色・イメージ+これからの図画工作』 日本文教出版。 ※教科書は必ず購入してください。未購入者の履修を認めない。資料は必要に応じて配布する。		
11. 成績評価の方法	・ 日常の授業態度 (授業への積極的参加度：創意工夫して試行錯誤し、自ら感じ、思考し、行動する姿勢) 総合点の40% ・ 課題提出、実習による作品制作、学習指導案作成とその発表 等 総合点の60%		
12. 受講生へのメッセージ	子どもたちの成長に造形活動がもつ意味、意義をしっかりと捉えて、モチベーションを高く持って受講したい。優れた指導者になる近道はない。Aを習って、それをすぐ実践できる、といった単純なノウハウではなく、豊かな体験と、自ら考え工夫することから、自分なりのBと言う実践を行う、そのための時間である。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 良好な体調で、積極的に臨み、集中する 2. 教科書や、指示された用具・素材を、必ず用意する 3. 制作した作品は、今後の貴重な資料となるものでもあり、必ず大切にファイリングする 以上3点、厳守の上で、貴重な体験を積んでいきたい。教室の中だけでなく、日常生活での物との出会い、様々な出来事への興味関心も重要である。積極的な取り組みの先には、新たな自分との出会いがあるはずである。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバスの説明：授業内容、目的、評価など) 図画工作科指導要領について1 ※ 以下 a. 図画工作科指導法講義・演習 (教科書の該当項目名)、b. 実習 a. 「1 改訂で変わるものと変わらないもの」 「3 「目標」について」 b. 「音・色・形」・・・形から受けるイメージ、底に色彩が加わったらどうなるか、さらに、視覚と聴覚の共感覚体験を加えて、表現の可能性を考える 【注意事項】 教科書は必ず購入すること	事前学習	シラバスより、講義概要を捉えておく。
		事後学習	本講義を受講するに当たり、心構え等、重要なポイントを整理する。必要となる用具などをそろえる。 指導要領がどのような目的で変化したのか、その根幹を理解する。 【授業全体を通して、指導者の視点を持ち、安全確保を第一の旨とし身だしなみに気を配り、作業空間に対する配慮と意識を養う様努めること】
第2回	図画工作科指導要領について2 造形活動の意義について a. 「2 改訂の要点」「6 [共通事項]について」「7 造形遊びの学習」「8 「絵や立体、工作に表す」の学習」 b. 「グループディスカッション」1 学校教育がなぜ必要なのかについて話し合う	事前学習	図工教育の果たす役割について考えておく。
		事後学習	指導者のモチベーションに関わる内容なので、しっかりと理解する。 表現と五感のつながりについて、体験したことを思い起こしながら、まとめる。 グループディスカッションで、しっかりと自分の意見を発し、他者の意見を聞く事が出来たか、振り返る。
第3回	児童生徒の発達段階について a. 幼児から児童までの発達段階特有の描画表現について b. 「大人 (人類) の美術表現史」	事前学習	これまでに、子どもの描画から美術作品まで、自分がどんな絵画に接してきたか、思い出してみよう。
		事後学習	小学生6年間の発達段階がどのように遷り変わり、表現活動はどのように変化して行くと考えられ、指導者はそれにどう対応して行くことを求められるのか、整理してまとめる。
第4回	造形活動に於ける表現と鑑賞との関わりについて a. 「9 鑑賞の学習」 b. 「鑑賞」について、現代美術のエポックとなった作品を通して、考察する	事前学習	表現から受け取る力について、これまで学んできたことをしっかりと振り返っておく。
		事後学習	時代や作風の枠を越えて、出来るだけたくさんの美術作品と向き合えるよう、積極的に機会を持つよう努める。

			グループディスカッションで、しっかり自分の意見を発し、他者の意見を聞く事が出来たか、振り返る。
第 5 回	図画工作科授業の構造について a. 授業の内容・構成、時間配分の実際について 「4 内容構成について」 b. 「グループディスカッション」 2 “時間”をテーマに話し合う	事前学習	図画工作科の授業を行う上での重要ポイントは何か、各自で考え、書き出しておく。
		事後学習	導入時の留意点や、材料・用具に対しての視点など日頃からどのような努力が必要か整理し、それに勤めていけるように努力する。
第 6 回	評価について a. 「10 評価の扱いについて」 b. 「見る」と「読む」の違いについて 子どもの周辺にいる大人が陥りがちな子ども理解の盲点を取り上げる	事前学習	自分の中で「評価」はどのように位置づけられているのか、整理しつつ、他の視点からの「評価」についても、考えてみよう。
		事後学習	「評価」とは何か、なんのための評価か。授業の主役は、児童生徒である。主役のために、より良い授業を行うには、どのような「評価」が求められるのか、よく考えよう。
第 7 回	図画工作科に於ける材料・用具の扱い方について a. 「11 材料・用具の扱い方（内容の取扱い）」 b. 「ネームプレート制作」 1 概要説明（各自の名前などをモチーフとして、木工を行う）	事前学習	ネームプレートのデザインを考えておく。
		事後学習	実習中の安全確保のため、身だしなみへの配慮（服装や、髪型など）や動作についての意識を高くする様努める。
第 8 回	図画工作科に於ける教材研究及び指導計画の立て方について a. 「5 指導計画について」 図画工作科指導案に必要な記述事項 b. 「グループディスカッション」 3 家族のあり方、子どもと大人の関係のあり方について話し合う 「ネームプレート制作」 2 デザイン	事前学習	これまでの講義内容を理解した上で、改めて、学習指導要領を自分なりに読み解いておく。これまでの小・中・高での各自の図工・美術体験を思い起こし、そこにどんな授業案があったのか、指導者の立場から考えてみよう。
		事後学習	小学校図画工作科の指導要領の構造を完全に把握することに努める。指導要領により、指導案作成上求められる事を整理してまとめる。
第 9 回	学年による内容の違い 1：低学年の指導計画について a. 「低学年の子どもの姿」 b. 「ネームプレート制作」 3 切り抜き 1：電ノコによる制作 電ノコの扱いについて	事前学習	ネームプレートのデザインを仕上げしておく
		事後学習	小学校低学年の子どもの姿を、発達段階などの観点から理解するように努める。授業に於ける安全を確保するために、工作機械使用法を各自が責任をもって理解すること。正しい技能の修得と機械工具・道具の扱い方、道具の片づけと清掃、作品の保管に取り組み、それらを習慣化し体験的に身に付けるという意識を持つこと
第 10 回	学年による内容の違い 2：中学年の指導計画について a. 「中学年の子どもの姿」 b. 「グループディスカッション」 4 “誉める”をテーマに話し合い、図画工作科に於ける言葉かけについての思考を深める 「ネームプレート制作」 4 切り抜き 2：電ノコによる制作 ペーパーやすりの扱いについて	事前学習	グループごとにホームセンター等で必要な道具を購入すること 【必要な道具】 木工用ペーパーやすり #120、#400、クリアーニス 動線確保・安全作業について、機械工具の特性と使用法について認識しておく
		事後学習	小学校中学年の子どもの姿を、発達段階などの観点から理解するように努める。工作機械使用法について、繰り返し確認し、正しい技能を身に付ける様努める。
第 11 回	図画工作科と他教科との関連について （造形活動の特性、重要性が、他の科目の基盤として活かしていることを知る） a. 「12 他教科等との関連付け」 b. 「ネームプレート制作」 5 切り抜き 3：電ノコによる制作 磨き	事前学習	必要な道具・材料は何か、どのように用意すれば良いかを考え、整理し、準備しておく。
		事後学習	これまで学んできた造形活動の教育上の意義と、その特性、重要性が他教科と密接に関連している点から、図画工作科の位置づけについて、考察し、自分なりの意見を確立するよう努める。 【図画工作科指導案の作成】 材料・用具は様々なので、学んだ事、得た知識をきちんと整理して理解する 【指導案の骨子を作成する】
第 12 回	学年による内容の違い 3：高学年の指導計画について a. 「高学年の子どもの姿」 b. 「グループディスカッション」 5 “小1プロブレム”をテーマに話し合う 「ネームプレート制作」 6 切り抜き 4：電ノコによる制作 磨き 展開図からの組立て	事前学習	必要な道具・材料は何か、どのように用意すれば良いかを考え、整理し、準備しておく。
		事後学習	小学校高学年の子どもの姿を、発達段階などの観点から理解するように努める。“つくる喜びは生きる喜び”という、図画工作科の原点が、学校教育に於いて果たせる役割について、深く考察する 【指導案の作成】
第 13 回	図画工作教育のこれからについて	事前学習	必要な道具・材料は何か、どのように用意す

	a. 「図画工作教育の展望」 【図画工作科指導案の提出】 b. 「ネームプレート制作」 7 磨き 彩色・仕上げ		れば良いかを考え、整理し、準備しておく。
		事後学習	これまで学んできた図画工作科に於ける造形活動の教育上の意義や、他教科との関連などから、図画工作科の位置づけについて、考察し、自分なりの意見を確立するよう努める。 【作成した指導案の問題点見直し】
第 1 4 回	授業計画プレゼンテーション 1 (グループ内) ディスカッション (グループ内) 各自提出の指導案を読み合って、意見交換する	事前学習	【作成した指導案の問題点見直し】
		事後学習	グループで発表する指導案の作成、修正とプレゼンテーション準備
第 1 5 回	授業計画プレゼンテーション 2 (グループによる) ディスカッション (全体)	事前学習	グループで発表する指導案の修正とプレゼンテーション準備
		事後学習	指導案プレゼンテーションの反省。 本講座に於いて獲得できた事を整理してまとめ、様々項目についてより深く理解して実践につなげられるようにする。

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2314
2. 授業担当教員	片岡 浩			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	学習指導要領における図画工作科教育の目標、内容、指導方法、評価等について概括した上で、初等教育において造形的な創造活動による学びが持つ意義を考察し、図画工作科教育の望ましい在り方と授業像を実践的に学ぶ。併せて、子どもの発達段階における造形の特質と、その表現の多様性について理解を深め、個に応じた指導力や、題材・教材研究の能力、図画工作科の授業を組み立てる力の獲得を目指す。授業では、具体的な題材例を設定し、写真や映像などを通して実践的に学び、指導案の書き方、指導方法についても習得する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校図画工作科の目標及び内容を知り、その特質と教育的意義を理解する。 2. 造形表現の発達段階を学び、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるようになる。 3. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。 4. 図画工作科における評価の考え方と方法について学び、理解を深める。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、指導者の立場から考察ができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業表・学習指導案の作成 2. 作品提出 3. プレゼンテーションおよび資料 (写真) 提出 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】【参考書】 『形・色・イメージ+これからの図画工作』日本文教出版。 ※教科書は必ず購入してください。未購入者の履修を認めません。資料は必要に応じて配布します。			
11. 成績評価の方法	実技課題&レポート 50%、 日常の授業態度 (試行錯誤や創意工夫など自ら感じ考え、思考し、行動する姿勢) 50%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単なる知識や方法・技法の伝達だけにとどめず「造形表現の良さや素晴らしさ」を、こどもたち一人ひとりに伝えていけるような教員になってほしいです。日常生活の中での様々な出来事に興味関心を持ちながら、豊かな感性とところを養ってってください。 2. 学習においては、指示されたノルマやプログラムに頼るのではなく、創意工夫、試行錯誤を試み、自己の責任で判断していく習慣を身につける『造形学習の本質』を体験しながら実社会で役立つ力を養ってください。 ※授業日程はグループ実習の進行状況によって調整する場合があります。			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(掲示参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業内容、目的、評価など) 【注意事項】 教科書は必ず購入すること・未購入者は減点します		事前学習	【美術・芸術作品に親しむ】 ①NHK 日曜美術館などメディアを通じた美術・芸術鑑賞、ジュンク堂や図書館などで美術・芸術情報に触れる ②
	a. 図画工作科指導法講義・演習 b. 実習		事後学習	教科書の準備
第 2 回	a. 「学習指導要領」全体の設計図について 「1. 改訂で変わるものと変わらないもの」 ～教科の目標と学年の目標及び内容構成の関連～ 「2. 改訂の要点」 「1 2. 他教科との関連付け」 については全体の授業を通してその時々で触れる b. 五感を駆使して、材料の特性を探り活かしながら、表現の可能性を探る①		事前学習	①教科書の準備 ②全体の設計図への書き込み
			事後学習	①学習指導要領「教科の目標と学年の目標及び内容構成の関連」と照らし合わせて全体の構造を把握する ②改訂の要点を把握する
第 3 回	a. 「3. 目標について」 b. 五感を駆使して、材料の特性を探り活かしながら、表現の可能性を探る②		事前学習	①図工教育の果たす役割について考察する ②全体の設計図への書き込み
			事後学習	児童たちの「生きる力」育成のために、教員として「何を学び身に付けるのか、また何をこども達に身につけさせるのか」についてグループで話し合い考察と理解を深めること
第 4 回	a. 「4. 内容構成について」 b. 五感を駆使して、材料の特性を探り活かしながら、表現の可能性を探る③		事前学習	創造力育成の意味についてグループで話し合い考察と理解を深める
			事後学習	学習指導要領「教科の目標と学年の目標及び内容構成の関連」と照らし合わせて「教科の内容構成」を確認し理解を深めること
第 5 回	a. 「6. [共通事項]について」 b. 五感を駆使して、材料の特性を探り活かしながら、表現の可能性を探る ④		事前学習	安全教育実践の為に、工作機械使用法について各自が責任をもって理解すること
			事後学習	[共通事項]の意味合いと意義をグループで話し合い、考察と理解を深めること
第 6 回	a. 「7. 造形遊びの学習」		事前学習	[共通事項]についてテキストに記入

	b. 五感を駆使して、材料の特性を探り活かしながら、表現の可能性を探る ⑤	事後学習	「A 表現(1)」の意味合いと意義を認識し理解すること
第 7 回	a. 「8. 絵や立体、工作に表わす」 b. まとめ・振り返り	事前学習	「A 表現(1)」についてテキストに記入
		事後学習	「A 表現(2)」の意味合いと意義を認識し理解すること
第 8 回	a. 「9. 鑑賞の学習」(グループディスカッションと発表) b. 「楽しく五感を刺激する課題づくり」 ①課題づくり ②材料決め(各班で翌週までに用意) 【「指導案作成ノート」の配布】	事前学習	①「A 表現(1)」についてテキストに記入 ②創造的創作活動の意義を体験的に考察する
		事後学習	国立新美術館に行き「日展」を鑑賞する
第 9 回	a. 「10. 評価の扱いについて」 b. 「楽しく五感を刺激する課題づくり」 ①課題づくり ②材料決め(各班で準備・管理) 「材料をもとに内容研究・授業構成」 ①材料をもとに試行錯誤 ②授業内容と題名決め	事前学習	①創造的創作活動の意義を体験的に考察する ②技能とコツについて深く考察・分析し、身につけるように取り組むこと
		事後学習	評価の扱いについてまとめておく
第 10 回	a. 「11. 材料・用具の扱い方(内容の取扱い)」 【資料プリント配布】 b. 「楽しく五感を刺激する課題づくり」 ①課題づくり ②材料決め(各班で準備・管理) 「材料をもとに内容研究・授業構成」 ①材料をもとに試行錯誤 ②授業内容と題名決め	事前学習	「指導案作成ノート」への書き込み
		事後学習	①「材料用具の取り扱いの資料」をもとに内容を整理・理解する
第 11 回	a. 「5. 指導計画」 【「図画工作科指導案に必要な記述事項」の配布】 b. 「楽しく五感を刺激する課題づくり」 ①課題づくり ②材料決め(各班で準備・管理) 「材料をもとに内容研究・授業構成」 ①材料をもとに試行錯誤 ②授業内容と題名決め	事前学習	「指導案作成ノート」への書き込み
		事後学習	①他教科との関連付けにおける図画工作の特性を活かした役割について考察する ②ディスカッションのまとめ提出
第 12 回	a. 「楽しく五感を刺激するオリジナル課題の実施」 ①「模擬授業(45分 2グループ)」 ②「まとめと講評」	事前学習	道具・材料の準備 素材の特性を活かす仕上げ法と表現についてテストピースで研究・制作する
		事後学習	①「指導案(見本)」に照らし合わせながら指導計画と評価の扱いのあり方を認識・理解する ②「図画工作科指導案に必要な記述事項」及び「作業工程の記録」をもとに指導案を作成する
第 13 回	a. 「楽しく五感を刺激するオリジナル課題の実施」 ①「模擬授業(45分 2グループ)」 ②「まとめと講評」	事前学習	「図画工作科指導案に必要な記述事項」及び「作業工程の記録」をもとに指導案を作成する
		事後学習	東京藝術大学大学美術館「卒業・修了制作展」を鑑賞する
第 14 回	a. 「楽しく五感を刺激するオリジナル課題の実施」 ①「模擬授業(45分 2グループ)」 ②「まとめと講評」	事前学習	指導案の作成と模擬授業の準備
		事後学習	①模擬授業を振り返っての課題点の記録 ②「東京五美術大学連合卒業・修了制作展」を国立新美術館にて鑑賞する
第 15 回	a. 「楽しく五感を刺激するオリジナル課題の実施」 ①「模擬授業(45分 2グループ)」 ②「まとめと講評」	事前学習	指導案の修正と模擬授業の準備
		事後学習	①作業記録及び指導案レポートの提出 ②作品写真及び作品提出 ③東京都立工芸高等学校「卒展」を鑑賞する

1. 科目名 (単位数)	スクールソーシャルワーク演習 (1 単位)	3. 科目番号	SSMP4472 SCMP4472
2. 授業担当教員	大門 俊樹		
4. 授業形態	演習、学校または子ども支援に関するフィールド体験	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	①個別事例へのアセスメントのみでなく、ソーシャルワーカーとして、教育行政や学校の動き、地域を把握し、地域アセスメント、学校(地域機関)アセスメントができる力をつける。②SSW実践、特にメゾ・マクロプラクティスについて実際に体験的に習得する。③記録化する手法を持たない学校のなかで、記録化するだけでなく、校内で記録用紙を創造し、蓄積していく力をつける。		
8. 学習目標	これまで社会福祉専門職が入ったことのない学校にソーシャルワークの視点を導入し、学校現場でソーシャルワーク実践をどのように進めていけばいいのか、ミクロ・メゾ・マクロの観点すべてを視野に入れるスクールソーシャルワーカーの動きを実践的に習得することができる。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	授業期間中に、学校または子ども支援に関する施設へボランティアとして行き、フィールド体験を行うとともに、その内容と成果について授業内で発表し、レポートにまとめる。それ以外の課題については、授業中に指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 門田光司・鈴木庸裕『ハンドブック・学校ソーシャルワーク演習～実践のための手引～』ミネルヴァ書房。 【参考書】 門田光司・奥村賢『スクールソーシャルワーカーのしごと 学校ソーシャルワーク実践ガイド』中央法規。 日本学校ソーシャルワーク学会『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規。		
11. 成績評価の方法	レポート	50%	
	学校または子ども支援に関するフィールド体験とその発表	30%	
	授業態度、発表、授業への参加度	20%	
12. 受講生へのメッセージ	1. 本授業の受講については次の点が前提となる。 ・3年次にソーシャルワーク実習を終了していること。 ・社会福祉士または精神保健福祉士の国家資格取得に向けて十分な学習をし、基本的知識と技術を備えていること。 ・スクールソーシャルワーク実習に行く準備をしていること。 2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 3. 授業中は携帯電話やPHS等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 4. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F評価とする。 5. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前へ出ること。 6. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(内容・進め方・評価方法)、貧困家庭の子どもたちへの支援1(貧困家庭の支援機関を知る)	事前学習	テキスト第3章のpp.107～118を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	貧困家庭の子どもたちへの支援についてまとめる。
第2回	貧困家庭の子どもたちへの支援2(事例学習)	事前学習	テキスト第3章のpp.119～127を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	テキストpp.127の「支援の振り返り」を考え、理解を深める。
第3回	特別支援教育の子どもたちへの支援1(特別支援教育の支援機関を知る)	事前学習	テキスト第3章のpp.127～138を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	特別支援教育の子どもたちへの支援についてまとめる。
第4回	特別支援教育の子どもたちへの支援2(事例学習)	事前学習	テキスト第3章のpp.138～141を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	テキストp.141の「支援の振り返り」を考え、理解を深める。
第5回	精神疾患の子どもたちへの支援1(精神疾患の支援機関を知る)	事前学習	テキスト第3章のpp.145～153を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	精神疾患の子どもたちへの支援についてまとめる。
第6回	精神疾患の子どもたちへの支援2(事例学習)	事前学習	テキスト第3章のpp.153～169を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	テキストp.169の「事例を振り返る」を考え、理解を深める。
第7回	事例を使った演習1(知的障害のある不登校児への支援1)	事前学習	テキスト第4章のpp.173～181の事例(1)を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	事例(1)のエコマップを作成する。
第8回	事例を使った演習1(知的障害のある不登校児への支援2)	事前学習	事例(1)の支援計画を作成する。
		事後学習	テキストp.181の演習課題に取り組む。

第 9 回	事例を使った演習 2 (「不登校」の背景に存在する環境への介入事例 1)	事前学習	テキスト第 4 章の pp. 181~190 の事例 (2) を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	事例 (2) のエコマップを作成する。
第 10 回	事例を使った演習 2 (「不登校」の背景に存在する環境への介入事例 2)	事前学習	事例 (2) の支援計画を作成する。
		事後学習	テキスト pp. 189~190 の討議ポイントに取り組む。
第 11 回	事例を使った演習 3 (知的障害を持つ児童への就学支援 1)	事前学習	テキスト第 4 章の pp. 190~204 の事例 (3) を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	事例 (3) のエコマップを作成する。
第 12 回	事例を使った演習 3 (知的障害を持つ児童への就学支援 2)	事前学習	事例 (3) の支援計画を作成する。
		事後学習	テキスト pp. 204~205 の演習課題に取り組む。
第 13 回	事例を使った演習 4 (精神的に不安定な母親を持つ、長期欠席児童への対応 1)	事前学習	テキスト第 4 章の pp. 205~217 の事例 (4) を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	事例 (4) のエコマップを作成する。
第 14 回	事例を使った演習 4 (精神的に不安定な母親を持つ、長期欠席児童への対応 2)	事前学習	事例 (4) の支援計画を作成する。
		事後学習	テキスト pp. 217~218 の演習課題を作成する。
第 15 回	まとめ (事例に関する総合学習)	事前学習	テキストで取り上げた事例のうち 1 つを選び、再度熟読する。
		事後学習	スクールソーシャルワーカーとしてその事例を扱うと仮定して、どのように介入するか考察する。

1. 科目名 (単位数)	政治学 (国際政治を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1318 GELA1339
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「国際関係論」を履修予定の学生は本科目を選択することが望ましい。本科目の履修によって左記科目の学習を充実させることができます。		
7. 講義概要	景気対策、規制緩和、地域主権、社会保障、雇用問題など「政治」の場で議論される諸問題はマスメディア報道などを通して日々われわれの耳に入ってくる。わたしたちは、住みやすい社会をつくり、市民の生活水準の向上を図るための機能を「政治」と呼んでいる。本科目では政治学の基礎的な概念を理解し、歴史的事象、時事問題を事例として政治の仕組みについて考えていく。		
8. 学習目標	1) 政治学の基本概念について理解し、説明できる。 2) 現代社会を政治学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 具体的な公共政策を事例として当否の検討などをとおして政治参加に必要な意思決定ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。また、講義配当時間の関係上、テキスト掲載のすべての章を取り扱うことはできないので、今回対象外とする章については以下に示す課題例を参考に各自で読み進めるようにしてください。各回に関連ある内容の章を紹介します。課題例はその都度補足します。 課題例： ①官僚と政治家どちらが信用できるのか。(第9章) ②戦前と戦後。日本をめぐる国際環境はどのように変わったのか。(第10章) ③「外圧」によって国内の仕組みが変わった？(第11章) ④環境問題の解決はなぜ難しいのか。(第12章) ⑤汚職に手を染めるものの経済発展を実現できる政治家と、清廉潔白で人間的に優れているが経済運営が下手な政治家。どちらが望まれるか。 ⑥若者は政治に無関心か？		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』有斐閣アルマ、2009 年。(以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 1) 山口二郎『政治のしくみがわかる本』岩波ジュニア新書、2009 年。 教科書を一回りやさしくした内容で政治について解説しています。教科書にやや難しさを覚えたときには、参照することをお勧めします。巻末には、学術書以外で政治について学べるブックリストも付いています。 2) 久米郁男・川出良枝・古城佳子他『政治学』有斐閣、2011 年補訂。 政治学の全領域をカバーする教科書を目指して編集された本書は、おおよその政治的トピックについては参照することが可能です。しかも日本の政治の動きをベースとして政治学概念を説明しており、日本の読者にとって理解しやすい記述をしてあることも特色です。教科書のレベルを卒業した学生向きです。 3) 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 4) 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	リーディングアサインメント (30%)、授業への取り組み (発表なども含む) (30%)、試験 (40%) を評価の配分とします。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、こうしている間にも刻々と変化する社会を「政治」という視点から考えるものです。よって時にはテキストに書かれていないトピックが私たちの前に立ちはだかることがあります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。「政治学」について関心あるテーマがあれば授業時に提案してください。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な		

	態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。	
	本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。	
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp	
14. 授業展開及び授業内容		
講義日程	授業内容	学習課題
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと。) 政治学のテーマである「権力」について考察する。権力を行使する主体は何か、誰が権力を行使すべきか、権力の行使がなぜ認められるのかを考察する。	事前学習 テキスト pp.239-246 に紹介されている用語についてよく知っているもの、聞いたことがあるが詳細を知らないもの、初見のものと分類する。
		事後学習 本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のアサインメント(課題)に取り組む。
第 2 回	組織化された集団 (鉄の三角同盟、フリーライダー) 利益集団が組織されるのはなぜか。鉄の三角同盟、多元的民主主義の観点から考える。	事前学習 (第 2 回から第 15 回の事前学習) 前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。 ①なぜ特定の業界の利益が「政治」に守られるのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 3 回	官と民の関係① (市場の失敗) 市場の失敗の観点から政府の役割について考える。	事前学習 ②市場の失敗を解決するためには何が必要か?
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 4 回	官と民の関係② (政府の失敗) 政府の失敗を通して政府の限界について考察する。	事前学習 ③どうすれば政府の失敗をなくすことができるのか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 5 回	大企業と政治① (規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 大企業の行動を事例として影響力資源について考える。	事前学習 ④企業はなぜ政権与党に政治献金をするのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 6 回	大企業と政治② (規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 政策決定に影響力を及ぼすものは何かを考える。	事前学習 ⑤何が影響力資源となるのか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 7 回	選挙と政治① (選挙制度) 政策投票をめぐる問題を中心に選挙について考察する。	事前学習 ⑥政策で投票する議員候補を選ぶのはどうして難しいのだろうか。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 8 回	選挙と政治② (政党の機能) 選挙制度の違いによって実現される世論はどう異なるのかを考える。	事前学習 ⑦政党の選挙での役割は何か。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 9 回	地方分権① (国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 日本における地方自治のあり方を考える。	事前学習 ⑧日本における中央政府と地方の関係を説明しなさい。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 10 回	地方分権② (国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 革新知事、革新市長はなぜ誕生したのかについて考え	事前学習 ⑨地方政府の首長の役割とは。
		事後学習 講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された

	る。		課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 1 回	マスメディアと政治について考える①（第 4 の権力） 第 4 の権力とは何を意味するのか考える。	事前学習	⑩テレビやラジオが法律で中立性を求められるのはなぜか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 2 回	マスメディアと政治について考える②（政治過程への影響） 政策実現過程におけるマスメディアの役割について考察する。	事前学習	⑪マスメディアの影響力は強いのか、弱いのか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 3 回	国会①（政治過程） 議院内閣制のもとでの国会の影響力について考える。	事前学習	⑫野党の国会戦術とは。国会のルールについて知ろう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 4 回	国会②（立法） 日本を事例として国会で審議される法案を手掛かりに考察する。	事前学習	⑬日本とイギリス・アメリカの国会（立法）の特徴を指摘してみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 1 5 回	内閣と総理大臣（議院内閣制、大統領制、行政 1） 日本の内閣総理大臣とアメリカの大統領。どちらがよりリーダーシップを行使できるのか考える。リーダーシップを発揮するための条件に付いて考える。	事前学習	⑭総理大臣が短命（任期満了以前に早期退陣）なのはよくないことなのか。 pp.239-246.に紹介されている用語についてどれだけ理解が進んだのか確認する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2127
2. 授業担当教員	藤島 薫・小金澤 嘉		PSMP2427
4. 授業形態	講義、集団討議、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解をする。保健、医療、福祉等の各分野における相談援助の対象及び相談援助の基本的考え方を理解するとともに、各分野における相談援助に係る専門職や他職種の専門性などについても理解する。また、精神障害者の相談援助における権利擁護について、自己決定のあり方や権利擁護システムなどについて具体的に学ぶ。さらに、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について学ぶことを目的とする。		
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方。 ②相談援助に係る専門職（地域、行政、精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲 ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 ④精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題レポート① 「ライフステージにおけるメンタルヘルスの課題についてまとめ、精神保健福祉士の役割について論述しなさい」 課題レポート② 「精神保健福祉分野における権利擁護の意義と役割について、自立支援、利用者主体、自己決定など、多角的な視点を踏まえて考察し論述しなさい」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 3「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版、2014。 【参考書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 2「精神保健の課題と支援』へるす出版、2014。		
11. 成績評価の方法	評価方法 期末試験及び課題レポート：80% 授業態度：20%		
12. 受講生へのメッセージ	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱは精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目の理解ができることで、精神保健援助技術論、演習、実習へとつながることが出来ますので、しっかりと学ぶ心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知する（時間割表掲載のオフィスアワー欄参照）。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	精神科ソーシャルワーク論Ⅰのふり回り 精神科ソーシャルワーク論Ⅱの授業概要 現代のメンタルヘルスに関わる問題についてディスカッション	事前学習	現代社会における様々なメンタルヘルスに関わる課題を新聞などで探してくること。
		事後学習	現代のメンタルヘルスの背景についてまとめること。
第 2 回	精神保健福祉分野における相談援助の体系① 相談援助の基本的考え方 ミクロからマクロ、ソーシャルワークの体系、実践モデル	事前学習	テキスト 84～97 ページを読んで、実践モデルの変遷について理解してくること。
		事後学習	ソーシャルワークの体系および実践モデルについての要点をまとめること。
第 3 回	精神保健福祉分野における相談援助の体系② ソーシャルワークの基本的展開過程 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク	事前学習	テキスト 104～123 を読んで、ケース、グループ、コミュニティの展開過程を理解してくること。
		事後学習	それぞれの展開過程における精神保健福祉士の役割と機能についてまとめること。
第 4 回	精神保健福祉分野における相談援助の体系③ 相談援助の対象 医療機関、地域生活支援、司法、精神保健センターなど	事前学習	精神障害者が生活をする上で、どのような資源を利用するのかについて考えてくること。
		事後学習	それぞれの社会資源が対象とする利用者についてまとめること。
第 5 回	精神保健福祉分野における相談援助の体系④ 相談援助の現状と今後の課題 ライフステージや職場・社会環境におけるメンタルヘルスの問題	事前学習	テキスト 21～28、158～170 を読んで、社会状況やライフステージについて理解をしていくこと。
		事後学習	講義およびディスカッションによる学びをもとにして、課題レポート①を作成すること。
第 6 回	精神保健福祉に関わる専門職① 医療機関 メディカルスタッフ、コメディカルスタッフ	事前学習	医療機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	メディカルスタッフ、コメディカルスタッフの役割についてまとめること。

平成 28 年度

第 7 回	精神保健福祉に関わる専門職② 福祉行政・関連行政機関 福祉事務所現業員、社会復帰調整官、障害者職業カウンセラー 等	事前学習	福祉行政・関連行政機関にはどのようなものがあるか調べてくること。
		事後学習	福祉行政・関連行政機関に配置されている専門職や職員の役割についてまとめること。
第 8 回	精神保健福祉に関わる専門職③ 地域福祉施設 生活相談員、職業指導員、サービス管理責任者、等	事前学習	地域福祉施設にはどのようなものがあるか調べてくること。
		事後学習	地域福祉施設に配置されている職員の役割についてまとめること。
第 9 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲① 相談援助における権利擁護の概念と範囲	事前学習	テキスト 150～158 を読んで、精神障害者の権利について考えてくること。
		事後学習	精神障害者の権利を擁護することについて、歴史的背景および社会状況を踏まえまとめること。
第 10 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲② 権利擁護システムと、当事者の自己決定、意思決定能力 キーワードに関するディスカッション	事前学習	当事者の自己決定と意思決定能力について考えてくること。
		事後学習	ディスカッションを通して学んだことを踏まえ、精神障害者の権利擁護についてまとめること。
第 11 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲③ 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 事例を使ってディスカッション	事前学習	精神保健福祉士の倫理綱領を読み、権利擁護をどのように実践するのかについて考えてくること。
		事後学習	授業内容と事例に関するディスカッションを通して、課題レポート②を作成すること。
第 12 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携① 総合的・包括的援助を支える理論と機能	事前学習	テキスト 137～140 ページを読んでくること。
		事後学習	精神保健福祉活動において、他職種連携の必要性についてまとめること。
第 13 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携② 他職種連携とチームアプローチの意義と概要	事前学習	テキスト 140～149 ページを読んで精神保健福祉士が他職種と連携する上でのポイントをまとめてくること。
		事後学習	支援をする上で、他職種の連携がどのように機能するのかについてまとめること。
第 14 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携③ 他職種連携における精神保健福祉士の役割 事例を使ったディスカッション	事前学習	支援者と当事者の連携にはどのようなメリットがあるかをまとめてくること。
		事後学習	事例を使ったディスカッションを通して、当事者や家族の参加による支援のあり方についてまとめること。
第 15 回	精神科ソーシャルワーク論Ⅱのまとめ テーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだこと確認してくること。
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科リハビリテーション学 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP2125 PSMP2425												
2. 授業担当教員	先崎 章、吉田 尚史														
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論	5. 開講学期	秋期												
6. 履修条件・他科目との関係															
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う精神科リハビリテーション業務の基本的知識を身につける。すでに学んだ精神医学の復習、これから学ぶ精神保健福祉論の予習にもなる。一般目標「障害者の全人間的復権」に、精神障害ならではの独自性を加えていく。その際の基本原則、プロセスはもとより、さまざまな技術や方法についても学ぶ。生活技能訓練については、特定のシナリオを用いてシミュレーション・トレーニングを行う。総じて、他職種と連携しながら国家資格としての専門性が発揮できる素地を造り上げる。また、総合支援法や医療観察法など、関連する新しい法律についても学習を促す。														
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科リハビリテーションの概念、原則、対象、諸相について理解する。 2. 実際のプロセスを精神障害の時間的发展、精神医療の空間的拡大に即して理解する。 3. 精神障害のストレス脆弱性一対処技能モデルについて理解する。 4. 生活技能訓練 (SST) をはじめ、さまざまなリハビリテーション技術について理解する。 5. 精神障害者ケアマネジメントの歴史、理念、類型、技法について理解する。 6. 旧精神保健福祉法の福祉的サービスの歴史から総合支援法新体系サービスへの移行について理解する。 														
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>精神科リハビリテーションの主要な対象は統合失調症 (精神分裂病) の患者である。この疾患を包括的に理解するため、クリストファー S. エイメンソン (松島義博、荒井良直訳) 『精神分裂病の家族心理教育カリキュラム』 (パワーポイント教材) を利用する。</p> <p>内容は、①脳の疾患、②原因、経過、予後、③治療と回復、④抗精神病薬療法、⑤心理社会的リハビリテーション、⑥回復に必要な家族の態度と技能、以上である。各グループが 1 テーマを担当し、スライド提示による発表を行う。テーマごとに全体討論がなされ、そのつどレポート課題を抽出していく。</p>														
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 改訂 新版 精神保健福祉士養成セミナー第 5 巻『精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 久保・長山・岩崎編『精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド』日本評論社。 東大生活技能訓練研究会編『わかりやすい生活技能訓練』金剛出版。 高橋茂樹・成田すみれ監修『障害者総合支援法がわかる本』成美堂出版。 蜂矢英彦監修『コメディカルスタッフのための精神障害 Q&A』中央法規。</p> <p>【教材】 エイメンソン (松島義博、荒井良直訳) 『精神分裂病の家族心理教育カリキュラム』 (パワーポイント教材)</p>														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>随時行われるミニ・テストの総計点数</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表の際の加点法による評価</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題に対する評価得点の総計</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>終講試験①多肢選択問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>②論述問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計 100%</td> </tr> </table>			随時行われるミニ・テストの総計点数	15%	グループ発表の際の加点法による評価	10%	レポート課題に対する評価得点の総計	25%	終講試験①多肢選択問題	25%	②論述問題	25%		計 100%
随時行われるミニ・テストの総計点数	15%														
グループ発表の際の加点法による評価	10%														
レポート課題に対する評価得点の総計	25%														
終講試験①多肢選択問題	25%														
②論述問題	25%														
	計 100%														
12. 受講生へのメッセージ	<p>毎回、授業内容の重要項目のみゴシック体でプリントアウトしたものを全員に配付する。各自、授業を聴きながら、その余白に書き込んで自前のノートをつくる。この作業には、なによりも授業の脈絡をつかむことが要求される。パワーポイント教材にもとづくプレゼンテーションなど、講義というよりは実習に近い。精神保健福祉士としての実務に役立つ基本的な表現能力を身につけよう。</p> <p>教科書には、諸外国の精神科リハビリテーションとしてイギリス、フランス、カナダ、アメリカ、イタリアの例が挙げられている。時間にゆとりがあるとき、統合失調症概念の発祥の地スイスにおける 2 つのプロジェクトについて紹介したい。ベルン大学精神科の統合心理療法 (ITP) およびゾテリア同居共同体である。精神保健福祉士として 21 世紀の精神医療を担うみなさんにとって、刺激的な話題であろう。</p>														
13. オフィスアワー	<p>授業中に通知する。 研究室 26 (1 号館 4 階)</p>														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	リハビリテーションの概念と歴史：「リハビリテーション」の語義、リハビリテーションの歴史、国際障害分類 (ICIDH)、リハビリテーションの分類、ADL から QOL へ	事前学習	テーマが「精神疾患」から「精神障害」へと移ることになる。												
		事後学習	リハビリテーションという語の由来、その歴史について理解する。												
第 2 回	リハビリテーションの理念と原則：「全人間的復権」ということ、「障害」と「障害者」の違い、多様な専門職の連携、「障害受容」(障害者となること)	事前学習	自分がもつ「障害」および「障害者」イメージを点検してみよう												
		事後学習	「障害受容」のプロセスについては、さらに理解を深めてほしい。												
第 3 回	精神科リハビリテーションの概念：精神は脳の活動である、精神の障害とは何か、障害構造論 (上田および蜂矢)、精神障害の側の問題、援助者について	事前学習	精神が脳の働きと不可分であることを改めて銘記しておこう。												
		事後学習	精神障害における「疾患と障害の併存」についての理解を深める。												

第 4 回	精神科リハビリテーションの理念：精神科リハビリテーションの特徴、精神科リハビリテーションの意義・目標、M.フーコーの『狂気の歴史』	事前学習	精神障害は身体障害や知的障害と比べ、どのような特徴をもつか。
		事後学習	フーコーが用いた「狂気」について、イメージを膨らましてみよう。
第 5 回	精神科リハビリテーションの基本原則：網羅的かつ統合されたアプローチ、当事者参加の原則、主体性回復の視点、個別性の重視、「リカバリー」への希望など	事前学習	バイステックのソーシャルワークの 7 原則について復習しておく。
		事後学習	精神保健福祉領域のキーワード「リカバリー」について学ぼう。
第 6 回	精神科リハビリテーションの諸相：地域での生活支援、医学モデルからリハビリテーションモデルへ、諸外国の現状（イギリス、フランス、カナダ、アメリカ、イタリア）	事前学習	精神保健福祉士の任務は精神障害者の「生活支援」である。
		事後学習	医療とリハビリテーションでは、アプローチの仕方に違いがある。
第 7 回	精神科リハビリテーションの対象：ICIDH-2 (2001) への改訂、わが国における精神障害者の定義、ストレス-脆弱性-対処技能モデル(Liberman)	事前学習	援助専門職にとっての基本ツール、ICF について予習しておこう。
		事後学習	対処技能とは何か、具体的に説明できるように学習しておこう。
第 8 回	精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割：精神保健福祉士法の目的、精神保健福祉士の概要と特徴、業務内容とその専門性	事前学習	精神保健福祉士の国家資格化がスムーズだったのはなぜだろうか。
		事後学習	精神保健福祉士の任務は精神障害者の「生活支援」である。
第 9 回	精神科リハビリテーションにかかわる専門職との連携：各専門職の特徴、連携のあり方、チームアプローチの形態	事前学習	精神保健福祉士は医療と福祉の両方にまたがるユニークな資格だ。
		事後学習	多職種チームが高度に機能するには、何が一番大事だと思うか。
第 10 回	精神科リハビリテーションの施設（その 1）：日本における地域精神医療の展開、社会復帰施設・福祉事業の歩み、社会復帰施設などの概要	事前学習	日本の精神医療で「脱施設化」がなかなか進まないのはなぜか。
		事後学習	精神保健福祉法から自立支援法を経て総合支援法へと至る推移を概観しよう。
第 11 回	精神科リハビリテーションの施設（その 2）：社会復帰施設の現状と課題、精神障害者居宅生活支援事業、精神保健福祉センターおよび保健所、その他の協力機関・支援団体、応益負担と応能負担	事前学習	障害者総合支援法下の精神保健福祉システムについて整理しよう。
		事後学習	現下のシステムで、リカバリー・アプローチがどこまで可能か考えてみよう。
第 12 回	精神科リハビリテーションのプロセス(その 1)：回復期（陽性症状と陰性症状）、慢性期、生活維持期におけるリハビリテーション計画と介入、日常生活能力と労働能力の評価	事前学習	統合失調症の症状および経過について、よく復習しておくこと。
		事後学習	統合失調症のリハビリテーションに ICF を具体的に適用してみる。
第 13 回	精神科リハビリテーションのプロセス（その 2）：病院における、社会復帰施設における、地域社会におけるリハビリテーションの展開；自立支援法新体系への移行	事前学習	障害者自立支援法は改正され「障害者総合支援法」と名を変えた。
		事後学習	病院→施設→地域という流れに即して、具体的な局面を描いてみる。
第 14 回	精神科リハビリテーションのプロセス（その 3）：ライフサイクル、疾病の側面から、生活の側面から、各年代に即して（20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代）	事前学習	統合失調症の経過をライフサイクルという視点から眺めてみる。
		事後学習	各年代に応じた生活支援・援助実践のポイントをまとめておく。
第 15 回	作業療法およびレクリエーション療法：歴史、精神療法的な側面、生産活動的な側面、作業活動の分類例、各精神状態像への対応	事前学習	人間にとって働くことがいかに重要な意義をもつか考えてみる。
		事後学習	作業療法士（OT）と精神保健福祉士の連携場面を想定してみよう。
第 16 回	認知行動療法（生活技能訓練）：ストレス-脆弱性-対処技能モデル、問題解決技能訓練、基本訓練モデル（実技リハーサル）、課題別のモジュール訓練モデル	事前学習	生活技能訓練（SST）の狙いは「気持ちを変えてみる」ことである。
		事後学習	認知行動療法の基礎概念に関して、各自で学習を深めてほしい。
第 17 回	集団精神療法（グループワークを含む）：定義、歴史、分類、実際、効果、障害・専門性と集団療法との関係、日本人の集団特性	事前学習	精神保健福祉士にとってグループワークは必須の技法である。
		事後学習	力動的集団精神療法とグループワークとの違いについて認識する。
第 18 回	行動療法：定義、理論（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、認知学習理論）、技法（個々の技法のパッケージング）、適応となる疾患	事前学習	パブロフの犬を使った「条件反射」の実験のことを思い出そう。
		事後学習	バンデューラの「観察学習」の概念について調べてみてほしい。
第 19 回	家族療法プログラム：心理教育とは、時代的背景、感情表出(EE)の測定と尺度、家族を対象とする場合、患者を対象とする場合、実際の取り組み	事前学習	精神医学で習った EE の研究のことをよく復習しておくこと。
		事後学習	家族への心理教育は、再発予防に効果があることが実証された。
第 20 回	住居訓練：時代的背景、住宅確保、住居プログラム、「住居福祉」概念の導入、生活を継続するケア、住居訓練の領域	事前学習	人間にとって「住む」とはどういうことか、自分で考えてみよう。
		事後学習	いわゆる「7200 人問題」のその後について調べてみてほしい。

第 2 1 回	デイケアおよびナイトケア：歴史、デイケアのめざすもの、スタッフの基本姿勢、デイケアの実際、ナイトケア、デйнаイトケア	事前学習	昨今、デイケア部門を併設するメンタル・クリニックが急増した。
		事後学習	最近の話題、うつ病者のリワーク・プログラムについても知ろう。
第 2 2 回	精神科訪問看護：日本における歴史、意義と目的、精神科訪問看護の特徴、実際の流れ、実施上の留意点	事前学習	精神科訪問看護には、すでに長い歴史があることを踏まえよう。
		事後学習	積極的地域ケア（ACT）へと発展させることは可能だろうか。
第 2 3 回	精神障害者ケアマネジメント：定義および類型（マジソンの市の PACT など）、理念および原則、実際のプロセス、いくつかの留意点	事前学習	高齢者福祉のケアマネジメントとは、実質がかなり異なっている。
		事後学習	実際のケア会議で、リーダーを務めるのは精神保健福祉士である。
第 2 4 回	地域生活支援とネットワーキング；地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方、地域活動支援センターとは	事前学習	精神障害者にとって地域生活のリアルティイーは重要な意義をもつ。
		事後学習	自立支援法改め総合支援法下のサービス・システムを学習する。
第 2 5 回	家族会、当事者活動（セルフヘルプ・グループ）、ボランティアの育成と活用、コミュニティワーク（地域住民への働きかけ）	事前学習	専門職を目指す自分とボランティアとの違いについて考えよう。
		事後学習	精神保健福祉士にとってもコミュニティワークは重要である。
第 2 6 回	精神障害者に対する就労援助活動：就労の意義と援助活動、職業リハビリテーションサービスの実際、障害者総合支援法による支援システムとサービスメニュー	事前学習	自立支援法以降、精神障害者の就労支援には力が注がれている。
		事後学習	就労させるさい、病気を開示するかしないかは重要な問題である。
第 2 7 回	精神科救急医療、身体合併症医療などの関連：精神科救急医療システムの現状、地域リハビリテーションにおける望ましいあり方	事前学習	地域生活の継続性を保つには、これの充実が不可欠の要件である。
		事後学習	都市における「スーパー救急」の運営について調べてみよう。
第 2 8 回	精神保健福祉施策：日本の歩み（医療偏重と福祉の遅れ）、精神保健福祉法成立まで、改正精神保健福祉法、障害者総合支援法、今後の課題	事前学習	もう一度、日本の精神保健福祉施策について振り返ってみる。
		事後学習	障害者総合支援法下、精神障害者の「生きづらさ」は緩和されるか。
第 2 9 回	授業の総括と補足（スイス・ベルン大学のゾテリアプロジェクトと統合心理療法 IPT の紹介、統合失調症の早期発見・早期介入）	事前学習	返却されたミニ・テストの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	最近の話題、統合失調症の早期発見・早期介入について調べよう。
第 3 0 回	まとめ	事前学習	返却されたレポート課題の結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	教員との質疑で浮上した疑問点について、自分で解決しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP1158 PSMP2133
2. 授業担当教員	大楠 重光		
4. 授業形態	講義、グループ討論	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。また、乳幼児から老年期までのそれぞれのライフステージにおける精神保健、及び精神保健における個別課題、例えば精神障害者対策・アルコール・薬物乱用問題・ターミナルケア等への取り組みについても検討していく。さらに、地域精神保健対策や精神保健法制・行政についても学習する。		
8. 学習目標	1、精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 2、現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際および精神保健福祉士の役割について理解する。 3、精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 4、国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートが必要な間場合には授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『改訂・新版 精神保健福祉士養成セミナー2 精神保健学—精神保健の課題と支援』、へるす出版。 【参考書】 精神保健医療福祉白書 2016年版 精神保健医療福祉白書編集委員会=編集 中央法規出版。		
11. 成績評価の方法	ライフサイクルにおける精神保健 (まとめ); 45% 精神保健学のまとめ: 45% 授業態度: 10% (遅刻・早退は減点する)		
12. 受講生へのメッセージ	この科目は精神保健福祉士国家試験を受験する学生にとって必修科目であり、かつ出題科目です。国家試験の際には、この科目で0点を取ると合計点に係わらず不合格となりますので、しっかりと勉強してください。		
13. オフィスアワー	授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習 事後学習	シラバス、教科書の通読。 精神保健福祉学とは何かについて調べる。
第2回	精神保健学の概要	事前学習 事後学習	教科書 pp.1~16 を読み、精神保健学の概要について調べる。 教科書 pp.1~16 を読み、精神保健学の概要について復習する。
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期)	事前学習 事後学習	教科書 pp.17~28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) について調べる。 教科書 pp.17~28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) に関するキーワードについて理解を深める。
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (学童期)	事前学習 事後学習	教科書 pp.28~41 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) について調べる。 教科書 pp.28~41 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) に関するキーワードについて理解を深める。
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期)	事前学習 事後学習	教科書 pp.41~53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) について調べる。 教科書 pp.41~53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) に関するキーワードについて理解を深める。
第6回	ライフサイクルにおける精神保健 (青年期)	事前学習 事後学習	教科書 pp.53~61 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) について調べる。 教科書 pp.53~61 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) に関するキーワードについて理解を深める。
第7回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)	事前学習 事後学習	教科書 pp.61~70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) について調べる。 教科書 pp.61~70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) に関するキーワードについて理解を深める。
第8回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期)	事前学習 事後学習	教科書 pp.70~78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) について調べる。 教科書 pp.70~78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) に関するキーワードについて理解を深める。
第9回	ライフサイクルにおける精神保健 (まとめ)	事前学習 事後学習	乳幼児から老年期に至るライフサイクルにおける精神保健の特徴をまとめること。 授業で行ったまとめを振り返りポイントを覚えること。
第10回	まとめの解説 精神保健における個別課題への取組み (精神障害対策)	事前学習 事後学習	教科書 pp.80~96 を読み、精神障害対策について調べる。 教科書 pp.80~96 を読み、精神障害対策に関するキーワードについて理解を深める。
第11回	精神保健における個別課題への取組み (認知症対策)	事前学習 事後学習	教科書 pp.97~107 を読み、認知症対策について調べる。 教科書 pp.97~107 を読み、認知症対策に関するキーワードについて理解を深める。
第12回	精神保健における個別課題への取組み (アルコール関連問題対策1)	事前学習 事後学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策について調べる。 教科書 p107~123 を読み、アルコール関連問題対策に関するキーワードについて理解を深める。
第13回	精神保健における個別課題への取組み	事前学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策について調べる。

	(アルコール関連問題対策 2)		て調べる。
		事後学習	教科書 pp.107～123 を読み、アルコール関連問題対策に関するキーワードについて理解を深める
第 1 4 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 1)	事前学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 5 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 2)	事前学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 6 回	精神保健における個別課題への取組み (思春期精神保健対策)	事前学習	教科書 pp.142～154 を読み、思春期精神保健対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.142～156 を読み、思春期精神保健対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 7 回	精神保健における個別課題への取組み (「こころの健康づくり」の動向)	事前学習	教科書 pp.154～166 を読み、「こころの健康づくり」の動向について調べる。
		事後学習	教科書 pp.154～166 を読み、「こころの健康づくり」に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 8 回	精神保健における個別課題への取組み (司法精神保健福祉対策)	事前学習	教科書 pp.166～178 を読み、司法精神保健福祉対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.166～178 を読み、司法精神保健福祉対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 9 回	精神保健における個別課題への取組み (緩和ケアと精神保健)	事前学習	教科書 pp.179～190 を読み、緩和ケアと精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.179～190 を読み、緩和ケアと精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 0 回	精神保健活動の実際 (家庭における精神保健)	事前学習	教科書 pp.191～201 を読み、家庭における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.191～201 を読み、家庭における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 1 回	精神保健活動の実際 (学校における精神保健)	事前学習	教科書 pp.201～211 を読み、学校における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.201～211 を読み、学校における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 2 回	精神保健活動の実際 (職場における精神保健)	事前学習	教科書 pp.211～219 を読み、職場における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.211～219 を読み、職場における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 3 回	精神保健活動の実際 (地域における精神保健)	事前学習	教科書 pp.219～228 を読み、地域における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.219～228 を読み、地域における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 4 回	地域精神保健の現状と課題 (概要・関係法規・関係施策)	事前学習	教科書 pp.228～257 を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)について調べる。
		事後学習	教科書 pp.228～257 を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 5 回	自殺対策の現状と課題	事前学習	教科書の自殺に関する各項目を読み、現状と課題について調べる。
		事後学習	教科書やノートを読み、理解不足な点がないか確認する。
第 2 6 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 1)	事前学習	教科書 pp.257～272 を読み、調査研究の現状と課題について調べる。
		事後学習	教科書 pp.257～272 を読み、地域精神保健の現状と課題(調査研究)に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 7 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 2)	事前学習	教科書やノート等を見直し、第 25 回の内容について理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	量的研究・質的研究、研究の倫理等について理解不足な点がないか確認する。
第 2 8 回	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	事前学習	教科書 pp.273～281 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割について調べる。
		事後学習	教科書 pp.273～281 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 9 回	精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健	事前学習	教科書 pp.281～322 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.281～322 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 3 0 回	授業評価・精神保健学のみとめ	事前学習	これまでの学習内容について教科書、配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる
		事後学習	これまでの学習内容について教科書、配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 / 精神保健学 (養護) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2358 SBMP2358 SJMP2218 SCMP1158
2. 授業担当教員	沢 哲司、大楠 重光		
4. 授業形態	講義、プレゼンテーション、ディスカッション、レスポンスシート	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	養護教諭として求められる「乳幼児から老年期までの各ライフステージにおける精神保健」、「精神保健における個別課題（家庭・学校・地域・職場・司法精神保健など）」、「精神保健に関する法制度・行政のしくみ」「世界の精神保健事情」についての最新事情を学び、将来の自身のあり方を選択することに役立てる。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「養護教諭」として必要な精神保健学の知識を身につける。 ・精神保健の最新事情を知り、学校現場における「精神保健」の意義や課題について考える。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>精神保健学の知識を主体的に身につけ、精神保健の課題について現場で役立つ考え方を深めるために以下のアサイメントとレポートを出す。</p> <p>【発表】 教科書の担当箇所について、グループプレゼンテーションをする (20分)。 担当箇所やグループは、第 1 回のオリエンテーションで決めるので必ず出席すること。</p> <p>【課題 1】 学校現場で使える精神保健についての啓発パンフレットをA4一枚程度で作成する。</p> <p>【課題 2 (期末レポート課題)】 あなたの考える学校現場における精神保健の課題と対策について2000字程度でレポートする。 詳しくは、講義で指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 十束支朗・生地新・森岡由起子著『あたらしい精神保健』医学出版社、2004。</p> <p>【参考書】 小川恵著『対人サービス職のための精神保健入門』日本評論社、2013。</p> <p>【教材】 授業内でプリントを配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での発表と積極的な参加度 (授業態度を含む) と毎授業のレスポンスシート…25% ・グループプレゼンテーション…25% ・課題 1 と 2…50% ・私語、携帯電話の操作、授業時間中での教室の出入り、その他周囲の学生に迷惑がかかる行為は「授業態度」として、減点の評価を行います。また、理由の申し出がない欠席、遅刻、早退も減点の対象です。 <p>なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>学校現場で役に立つ精神保健の講義をしたいと考えています。疑問や意見に限らず、講義を受けていて少しでも気になったことを講義の中で学生が発表することや、レスポンスシートに書くことを歓迎します。学生とできる限り交流しながら授業を進めていきたいと思ひます。そのため、学生の理解度・達成度・要望によって講義の進捗や内容を一部調整する場合があります。</p> <p>その他、初回授業で受講ルールや成績評価の詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	決まり次第授業で告知 メールアドレス : tesawa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 精神保健学の概要	事前学習	教科書『あたらしい精神医学』の第 1 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	発表グループと発表の打ち合わせをする。
第 2 回	精神保健の歴史	事前学習	教科書の第 2 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 3 回	精神保健の身体的基礎	事前学習	教科書の第 3 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 4 回	人間発達 (ライフサイクル) と精神保健	事前学習	教科書の第 4 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 5 回	対人関係と家庭の精神保健	事前学習	教科書の第 5 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 6 回	学校における精神保健	事前学習	教科書の第 6 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 7 回	職場における精神保健	事前学習	教科書の第 7 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 8 回	地域社会と精神保健・福祉	事前学習	教科書の第 8 章を読み、分からない箇所にマ

			カーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 9 回	現代における心の病気 (1) 児童・青年期	事前学習	課題 1 に取り組む (提出期限は初回に指示)。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 10 回	現代における心の病気 (2) 成人	事前学習	教科書の第 9 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 11 回	精神障害の予防と対策 (1) 児童・青年期	事前学習	教科書の第 10 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 12 回	精神障害の予防と対策 (2) 成人	事前学習	課題 2 に取り組む (提出期限は初回に指示)。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 13 回	精神保健とカウンセリング	事前学習	教科書の第 11 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 14 回	精神保健と福祉	事前学習	教科書の第 12 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 15 回	まとめ	事前学習	今まで授業内で提示してきた設問について自分の考えをまとめたノートを改めて読み返し、今の考えと照らし合わせる。
		事後学習	教科書に自分で引いたマーカー部分を見返し、説明できるかチェックする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習 I (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3168 PSMP3468
2. 授業担当教員	大山 勉、鹿内 佐和子、谷口 恵子、茅野 由紀		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習 I、II、精神保健福祉援助演習 I、II、IIIは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習 I では、自己覚知やコミュニケーションなど精神保健福祉士として必要な基本的技術を学習し、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己覚知 2) 基本的なコミュニケーション技術の習得 3) 基本的な面接技術の習得 4) グループダイナミクス活用技術の習得 5) 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 6) 課題の発見・分析・解決の技術の習得 7) 記録の技術の習得 8) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行う <ol style="list-style-type: none"> ①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ②地域アセスメント ③地域福祉の計画 ④ネットワーキング ⑤社会資源の活用・整備・開発 ⑥サービス評価 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかる基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基礎整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己覚知について 2 面接技術について <p>その他、授業中に振り返りのレポートを課す</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日総研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習 I のねらいの解説 <ul style="list-style-type: none"> － 専門職養成における演習の位置づけと目的を理解する 	事前学習	ソーシャルワーク演習 I、II で学んだ内容を振り返る テキスト〔基礎編〕序章～第 1 章 (p 3～15) を熟読する
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (1) <ul style="list-style-type: none"> － 自己覚知について理解する － 対人援助職における自己覚知の意義を考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章 I (p 71) を熟読する
		事後学習	自己覚知はなぜ必要かまとめる
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (2) <ul style="list-style-type: none"> － ジェノグラム、エコマップなどマッピング技法を用いて自己理解につなげる 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章 II (p 72～78) を熟読する
		事後学習	授業での実践を通して自分について考えた

	<ul style="list-style-type: none"> 自分の価値観をみつめ、自分の価値観に基づく他者との関係性のあり方を考える 自己理解を深めたうえで、他者理解について考える 		<ul style="list-style-type: none"> ことをまとめる 課題 1 を作成する
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの理解 コミュニケーションの過程を理解する 言語・非言語コミュニケーションについて理解し、その活用方法を学ぶ ロールプレイを用いてコミュニケーション技術を学ぶ 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章（p 28～30）を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> クライアントに対する姿勢 人と人が話をしている際の距離についてロールプレイを通じて学習する バイステックの 7 原則について実際の援助場面を想定して理解を深める 	事前学習	バイステックの 7 原則について復習する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> 面接における技術：基本的応答技法 単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅱ（p 31～34）を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> 面接における技術：応用 基本的応答技法を用いて、事例に基づくアセスメント面接を実践する 	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集・整理・伝達の意義と方法を学ぶ 情報収集・整理・伝達の目的、原則、方法を理解する ロールプレイを用いて情報の収集・整理・伝達の技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅳ（p 38～43）を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> 課題の発見・分析・解決の技術の習得 課題の発見・分析・解決方法を学ぶ ロールプレイを用いて課題の発見・分析・解決の技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅴ（p 44～47）を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> グループダイナミクス活用技術を習得する グループダイナミクス理論を学ぶ ロールプレイを用いてグループダイナミクス活用技術を習得する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅲ（p 35～37）を熟読する ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだことを振り返る
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワークにおける記録について理解し、技術を習得する 記録の目的を理解する 記録の方法を理解する 事例を用いて記録法を実践する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅵ（p 48～52）を熟読する
		事後学習	事例を用いて記録する練習を行う
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する（1） アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメントを理解する 事例を活用して上記項目を実践的に理解する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅰ～Ⅱ（p 149～159）を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する（2） 地域福祉計画づくりを理解する 事例を活用して地域福祉計画づくりを実践する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅴ-2（p 173～178）を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する（3） ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価について理解する 事例を活用して上記項目に関する技術を習得する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅲ～Ⅴ-1（p 160～172）を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る 	事前学習	学習ノートを見直す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3169 PSMP3469
2. 授業担当教員	大山 勉、鹿内 佐和子、星野 弘美		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、2 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱでは、実技指導を通してソーシャルワーカーとして必要なケースワークの基本的技術を学習する。また、事例を用いて具体的な課題別の援助方法を理解し課題により異なる援助技術を学習する。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) インテークからアセスメント、プランニング、介入、モニタリング、評価、終結とアフターケアのケースワークの一連の流れを理解し、それぞれの過程における必要な技術を実践することができる。 2) 他専門職の専門性を尊重したチームアプローチの意義を理解し、ネットワーキングの技術を身につける 3) 社会資源について理解し、その活用、調整、開発の技術を学ぶ 4) ケアマネジメントについて理解し、実践することができる 5) 事例検討の意義を理解し、その方法を実践する 6) 次の課題について必要な援助技術を習得する：社会的排除/退院支援・地域移行、地域生活継続/ピアサポート/地域における精神保健/教育、就労/貧困、低所得、ホームレス/精神科リハビリテーション/危機状態にある精神保健福祉 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中に行ったロールプレイの考察 2 授業で取り上げた課題の一つを選び、その課題について調べる 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日総研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだことの振り返りと演習Ⅱのねらいの解説 	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだ内容を振り返る テキスト〔基礎編〕序章～第 1 章 (pp.3～15) を熟読する
		事後学習	演習において身に付けたいことを書き出す
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源とその活用 <ul style="list-style-type: none"> － 社会資源とは何か理解する － クライエントと社会資源を結びつける際に必要な技術を身につける － 社会資源の開発の技術を学ぶ 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章Ⅲ (pp.62～64) を熟読する
		事後学習	精神保健福祉士としてかわるクライアントが必要な社会資源は何かあるか書き出す
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・チームアプローチ：他専門職の理解と実践 － 精神保健福祉士の専門性と比較しながら精神保健 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章Ⅳ (p.65) を熟読する

	福祉士が関わる他専門職の専門性を理解する －チームアプローチにおいて必要な技術を理解する －事例を用い、ロールプレイでチームアプローチを実践する	事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 4 回	・ネットワークング －ネットワークングを理解し、必要な技術を学ぶ －事例を用いて支援に必要なネットワークングを考える	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章 V～VI (pp.66～70) を熟読する
		事後学習	ネットワークングをつくる際に配慮すべきことをまとめる
第 5 回	・ケースワークの実践 (1) : ケースワークの流れの理解とインテーク～契約まで －インテークからアフターケアまでの流れとそれぞれの過程において大切な要素を学ぶ －事例を用いてインテーク場面をロールプレイで実践する －自己のロールプレイを振り返りクライアントとかわる際の特徴を知る	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 I (p.89) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	・ケースワークの実践 (2) : アセスメント －事例を用いてアセスメント面接をロールプレイで実践する －情報をアセスメントシートにまとめる技術を身につける －収集した情報からクライアントのニーズを見出す技術を身につける	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 II (pp.91～93) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる 授業を受けてアセスメントシートに再度情報をまとめる
第 7 回	・ケースワークの実践 (3) : プランニング～介入 (支援の実際) ～モニタリング －ニーズを基に支援計画を立案する技術を身につける －モニタリングの意義とその方法を身につける	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 III (pp.94～98) を熟読する
		事後学習	自分の立てた支援計画を記録にまとめる モニタリングの際に配慮すべき点をまとめる
第 8 回	・ケースワークの実践 (4) : 評価～終結 －支援評価の意義とその方法を身につける －終結の大切さを理解し、終結の場面をロールプレイで実践する －アフターケアの意義を理解し、必要なアフターケアを計画する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 IV (pp.99～101) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる アフターケアについて学んだ点をまとめる
第 9 回	・ケースワークの実践 (5) : まとめ －ケースワークの過程を振り返り、ワーカーとしての自己の課題を見出す	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章 I (pp.53～56) を熟読する
		事後学習	数回にわたり実施したロールプレイを振り返り、ワーカーとしての自分の課題を書き出す。
第 10 回	・ケアマネジメント －ケアマネジメントの方法を学び、精神障害者に対するケアマネジメントの意義を理解する －事例を用いてケアマネジメントを実践する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章 II (pp.～159) を熟読する
		事後学習	ケアマネジメントとは何か自分の言葉でまとめる
第 11 回	・事例検討の意義と方法 －事例検討とは何か理解し、事例検討の方法を学ぶ ・事例検討 (1) : 社会的排除 －精神障害者が抱える社会的排除の問題を理解する －事例を用いて社会的排除における支援の方法を学ぶ	事前学習	テキスト〔実践編〕序章 (pp.79～86) を熟読する テキスト〔実践編〕第 2 章 (pp.103～105) を読み、わからない用語等意味を調べる
		事後学習	社会的排除とは何か自己の考えをまとめる 事例を通して学んだことを書き出す
第 12 回	・事例検討 (2) : 退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート －上記に掲げたそれぞれの課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 13 回	・事例検討 (3) : 地域における精神保健 (自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存) －地域における精神保健の課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 14 回	・事例検討 (4) : 教育・就労、貧困・低所得・ホームレス、精神科リハビリテーション、危機状態にある精神保健福祉 －上記に掲げたそれぞれの課題を理解する －事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)

平成 28 年度

第 1 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ －精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る 	事前学習	学習ノートを見返す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士援助演習Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	SCMP4170 PSMP4470
2. 授業担当教員	大山 勉、藤島 薫、星野 弘美			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期／秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅲでは、実習体験をソーシャルワーク概念に結びつけながら振り返るとともに、実践モデル。アプローチを実践的に学び、終了した時点で、実習での体験を踏まえ精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目的とする</p>			
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <p>①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	実習での振り返りを理論的に行っていくため、その都度実習の振り返りを事前にしてくることを課題とする。課題は後日提出し、評価の対象となる。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新 (改定) 版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日総研出版、2006</p>			
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>			
12. 受講生へのメッセージ	精神保健福祉士を目指して学んできた講義科目、演習科目、実習での体験の総まとめとなる授業です。学んできたことを結びつけて理解を深められるよう、また就職して働くに際して即戦力となるよう、積極的な態度で授業に参加することが期待されます。			
13. オフィスアワー				
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことの振り返りと演習Ⅲのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことを振り返る。	
		事後学習	演習Ⅲで学びたいことを書きだす	
第 2 回	・自己覚知、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティ ー当事者との関わり等を通して気付いた自分自身と実習を通して身に着けたソーシャルワーカーとしてのアイデンティティを振り返る。	事前学習	実習体験を通して気づいた自分自身についてまとめる。 テキスト〔基礎編〕第 2 章Ⅰ (pp.17～19) を熟読する。	
		事後学習	授業でのディスカッション等を通しての考察をまとめる。	
第 3 回	・クライアントに対する姿勢：バイステックの 7 原則 ー実際の援助場面で学んだバイステックの 7 原則について振り返る	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 2 章Ⅱ～Ⅳ (pp.20～26) を熟読する。	
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。	
第 4 回	・社会資源とその活用・調整・開発 ー当事者を支援するうえで、活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表する。関わった当事者の方たちに必要な資源について考えるとともに、資源の調整・開発の方法を考察する	事前学習	実習中活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表の準備をする。	
		事後学習	発表を通して学んだことをまとめる。	
第 5 回	・チームアプローチ (ネットワークング、アウトリーチ) ーチームアプローチを用いて支援した事例を振り返る ーチームアプローチを行う上で、精神保健福祉士がどのような役割を担っていたかまとめる	事前学習	実習中のチームアプローチの事例を記入する。	
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。	

	<ul style="list-style-type: none"> －自分自身が担った役割を振り返り、自己の課題を認識する 		
第 6 回	ケースワーク（１）：ケースの振り返り ー 自分がかかわったケースを振り返る 出会うの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る。	事前学習	実習中記入したソーシャルワークケース記録を見返す。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第 7 回	ケースワーク（２）：ケースの振り返り、発表、考察 ー 自分がかかわったケースを振り返る 出会うの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る。	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	自身の関わりについてよかった点、課題点をまとめる。
第 8 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（１） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ （エコロジカル、システムなど）	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 9 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（２） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ （ストレングス／エンパワメント／ナラティブなど）	事前学習	どのようにして情報を収集したか記入する。
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる。
第 10 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（３） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ （危機介入／行動変容／問題解決など）	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 11 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（４） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ （リカバリーなど）	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 12 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（５） ーモデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ （SST／心理教育／セルフヘルプグループなど）	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる。
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる。
第 13 回	課題別、対象者別の支援を学ぶ（１） ー演習の中で学んだモデル・アプローチを用い、設定された課題（認知症、発達障害、高次脳機能障害等）についての知識を深めながら、支援について考える。	事前学習	設定された課題について調べる。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる。
第 14 回	課題別、対象者別の支援を学ぶ（２） ー演習の中で学んだモデル・アプローチを用い、設定された課題（自殺予防、権利擁護等）についての知識を深めながら、支援について考える	事前学習	設定された課題について調べる。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ー精神保健福祉援助演習Ⅲで学んだことをふりかえる 	事前学習	授業で学んだことを振り返る。
		事後学習	精神保健福祉援助演習Ⅲで身に付けたことをまとめる。 ワーカーとしての自身のストレングス・課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導 I (精保専攻) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2183
2. 授業担当教員	大山 勉、鹿内 佐和子		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導 I、II、III は 2 年時～3 年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の意義について理解する。 2) 個人の資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 2) 実習施設・機関の概要及びその地域について理解し、明瞭な説明ができる。 4) 日本における精神保健福祉の現状を理解し、実習先でかかわる精神障害者への理解を深めるため、他の講義で学んだ基礎知識を総括的に確認する。 5) 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務について理解し、実習においてそれらに基づく実践ができる基礎を身につける。 6) 事前訪問に向けて準備を整え、事前訪問を実施する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健福祉に関わる知識の確認 (実習コンピテンス確認テストに向けて基礎知識の確認) 2 自己の実習に対する動機、目標 3 配属された実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる (2000～4000字) <p>* 予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新 (改定) 版 精神保健福祉士養成セミナー 第 8 巻 『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版 (この教科書は「精神保健福祉援助実習指導 I、II、III」共通)、2014。 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016年版』中央法規。 		
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、事前学習の内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導 I のねらい、授業の進め方についての説明 ・実習の流れの理解と実習に関する基本的ルールの確認 (「実習の手引き使用」) 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導の教科書を購入する
		事後学習	実習の手引きの実習の流れを再確認し、実習の時期、日程等理解する
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職養成における実習の意義を理解する :精神保健福祉士を目指すうえで、実習がなぜ大切なのか、また実習で何を学ぶべきなのか理解を深める。 	事前学習	テキスト第 1 章・第 2 章 (pp. 3～26) を熟読する
		事後学習	授業で学んだことを受け、自己にとっての実習に行く意義について学習ノートにまとめる
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士を目指している自己の動機に対する理解を深める :実習の意義と同時に、個人が持っている資格取得に対する動機を自己の中で明確にするとともに、他人に対して説明できるようにする 	事前学習	自分の資格取得動機を説明できるように準備する
		事後学習	授業を受け再度自己の資格取得動機について考える。自己の実習の動機を学習ノートにまとめる
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の意義について理解する :事前学習で学ぶべきことを把握するとともに、その意義を理解する :実習コンピテンス確認テストについての説明 	事前学習	テキスト第 3 章 III (pp. 46～65) を熟読する 精神保健福祉の歴史、精神科医療の現状についてレポートにまとめる
		事後学習	精神障害者のおかれている現状について考

	<p>精神保健福祉に関する基礎知識の確認①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する ：日本の精神保健福祉の歴史、精神保健福祉の現状、精神障害者が抱える困難性について考える 		<p>えたことをまとめる</p>
第 5 回	<p>精神保健福祉に関する基礎知識の確認②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の理解 ：主な精神疾患についての基礎知識を確認する <p>精神保健福祉に関する基礎知識の確認③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉に関する制度の理解 ：精神保健福祉士として必要となる制度についての知識を確認する 	事前学習	<p>与えられたテーマについてレポートにまとめる</p>
		事後学習	<p>授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる</p>
第 6 回	<p>精神保健福祉に関する基礎知識の確認④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉に関する技術の理解 ：面接の基本姿勢、面接技術などソーシャルワーカーとして必要になる基礎的技術について確認 <p>精神保健福祉に関する基礎知識の確認⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉に関する職業倫理と法的責務の確認 ：精神保健福祉士法、倫理綱領について、実習に結びつけて理解 	事前学習	<p>与えられたテーマについてレポートにまとめる</p>
		事後学習	<p>授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる</p>
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先を理解する ：実習が可能な施設・機関の紹介と説明（「実習の手引き」使用） ：実習先を理解する意義と理解すべき内容を把握 	事前学習	<p>テキスト第 7 章（pp. 127～137）を熟読する</p>
		事後学習	<p>実習可能な施設について確認する</p>
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 医療機関 〈精神科病院／総合病院精神科／精神科診療所／精神科デイケア施設／アルコール専門病棟／認知症病棟〉 	事前学習	<p>グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 I、II、（pp. 139～150）を熟読する テキスト第 8 章 IV（pp. 162～164）を熟読する</p>
		事後学習	<p>発表の内容をまとめる</p>
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設 〈共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所〉 	事前学習	<p>グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 III（pp. 151～161）を熟読する テキスト第 8 章 VII（pp. 170～174）を熟読する</p>
		事後学習	<p>発表の内容をまとめる</p>
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 行政 〈精神保健福祉センター／保健所／市町村保健センター〉 ：実習施設・機関の理解に対するまとめ ・実習コンピテンス（自己覚知を深める） ：セルフアセスメントの実施 	事前学習	<p>グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 VI（pp. 168～169）を熟読する</p>
		事後学習	<p>発表の内容をまとめる</p>
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先の配属 ：配属先実習施設・機関に関する情報収集 ：誓約書・個人調書等書類作成の意味の理解と作成（自己の実習目標を明文化する） 	事前学習	<p>実習施設についてまとめた内容を振り返る</p>
		事後学習	<p>個人調書作成</p>
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・配属先実習施設・機関に対する理解を深める ：配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法 ：配属先実習施設・機関に関する情報収集 ：誓約書・個人調書等書類作成の意味の理解と作成（自己の実習目標を明文化する） 	事前学習	<p>配属先についてホームページ等を用いて情報を収集する</p>
		事後学習	<p>個人調書の書き直し、清書</p>
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・配属先実習施設・機関に関する理解 ：実習施設の概要をまとめる ・事前訪問に向けた準備 ：事前訪問の目的と意義の確認 ：基本的態度と訪問時の注意事項の確認 	事前学習	<p>配属先についてさらに情報を収集する テキスト第 3 章 V（pp. 61～65）を熟読する</p>
		事後学習	<p>見学実習の目的と意義をまとめる</p>
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・配属先実習施設・機関に関する理解 ：実習施設の概要をまとめる ・事前訪問に向けた準備 ：事前訪問の目的と意義の確認 ：基本的態度と訪問時の注意事項の確認 	事前学習	<p>実習施設の概要をまとめる 見学実習で確認したいことを書き出す</p>
		事後学習	<p>見学実習の注意事項を振り返る 実習先に見学実習の確認、挨拶の連絡をする</p>
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ・学習のまとめ ・精神保健福祉援助実習指導 II に向けた課題 	事前学習	<p>見学実習報告書を作成する 見学実習に対するお礼状を書く</p>
		事後学習	<p>精神保健福祉援助実習指導 I で学んだことを振り返る</p>

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (精保専攻) (2 単位)		3. 科目番号	SCMP3184
2. 授業担当教員	藤島 薫、鹿内 佐和子		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、討論			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンステストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者 (スーパーバイザー) との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習コンピテンス確認テスト (1) 及び (2) の実施 (合格点に達するまで再テストを行う) 2 実習施設の概要、実習計画書の作成 3 ソーシャルワーク基礎実習振り返り 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー第8巻『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書2016年版』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、実習の振り返りの内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。			
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結している。この授業期間中に、初めて実習に行き、次の段階の実習に備えます。実習及び資格取得に対する動機を高め、より充実した実習体験を持てるよう、積極的な授業参加態度を期待する。			
13. オフィスアワー	後日通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 ：実習までの流れの確認 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る。実習コンピテンス確認テストのための学習を行う。	
		事後学習	実習に向けての自己の課題を書き出す。実習コンピテンス確認テストのための学習を行う。	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習コンピテンス確認テストⅠの実施 ・ソーシャルワーク基礎実習、実習プログラム (案) の作成 ：ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認 (「実習の手引き」使用) ：実習計画の意義と目的について説明 	事前学習	「実習の手引き」ソーシャルワーク実習についての項目に目を通す。テキスト第3章V、3 (pp.63～65) を熟読する。	
		事後学習	実習施設・機関の概要、ソーシャルワーク基礎実習プログラム (案) を作成する。	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習、実習計画の作成 ：自己の実習の意義、目的を再確認する ：実習計画書の記入と添削・確認 	事前学習	実習施設・機関の概要、ソーシャルワーク基礎実習プログラム (案) を作成する。	
		事後学習	実習プログラム (案) について、添削された箇所を再度修正する。	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 ：スーパービジョンについて理解する ：巡回指導の目的と内容を理解する ・ソーシャルワーク基礎実習 実習施設・機関の概要、実習プログラムの完成 ：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 	事前学習	テキスト第4章VI (pp.85～86) VIII (pp.89～95) を熟読する。	
		事後学習	実習施設・機関の概要及び実習プログラム (案) 持参のうえ、実習施設訪問について実習指導者に相談する。	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 ：個人情報保護の理解 ：実習中の記録等の取り扱いに関する具体的な注意事項 	事前学習	テキスト第8章V (pp.165～167)、第4章VII (pp.87～95) を熟読する。 「実習の手引き」資料：学生が行う現場実習における個人情報保護の手引きに目を通す。	

		事後学習	個人のプライバシー保護と守秘義務について、実習生、利用者それぞれの視点から重要な点をまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の意義・書き方を理解する ：実習記録の書き方演習 	事前学習	テキスト第 8 章 V (p 165～167)
		事後学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する自己評価表の各項目の意味を再度確認する（不明点があれば、翌週確認する）。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ：実習記録の取り扱い等に関する説明 	事前学習	実習先訪問の報告書を作成する。
		事後学習	テキスト、実習の手引きを振り返り、実習に備える。実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り ：グループにおけるディスカッション（実習中に感じたこと、困難だったこと、自己の課題等共有する） ：実習後の必要事項の確認（記録の提出、お礼状の郵送等） ：実習成果発表会について説明 	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習のまとめを記入 実習先にお礼状を出す。
		事後学習	実習中に学んだこと、課題を学習ノートに書きだす。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り ：事後学習の意義を理解する ：ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ：ソーシャルワーク基礎実習に関する実習総括レポートを作成 ・実習後の自身の成長を把握する 	事前学習	テキスト第 5 章 (pp. 97～109) を熟読する。
		事後学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする。
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）①	事前学習	実習総括レポートの作成
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる。
第 11 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	実習総括レポートの作成
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返りを援助実習につなげる ：基礎実習の課題を明確にし、援助実習における自己の実習目標を明確にする 	事前学習	援助実習における実習目標を書きだす。 実習コンピテンス確認テストのための自己学習を行う。
		事後学習	実習の手引き、実習プログラムシートについて学んだことを振り返る。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・援助実習に関する理解 ：実習実施時期の確認 ：「実習プログラムシート」の理解（援助実習の目標の理解と目標を達成するための展開方法について） 	事前学習	実習の手引き、精神保健福祉援助実習の項目を熟読する。
		事後学習	実習プログラム（案）を作成する。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・援助実習、実習プログラム（案）の作成 ：実習プログラム（案）の作成、添削 	事前学習	実習計画を作成する。
		事後学習	添削を受けて実習プログラム（案）を再度作成する。 実習プログラム（案）を持って実習先を訪問する。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ：援助実習に向けて、基礎実習での課題、その後の振り返りをまとめる 	事前学習	実習先訪問の報告書を作成する。
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅱで学んだことと今後の課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (編) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3184 PSMP3484
2. 授業担当教員	藤島 薫、谷口 恵子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、討論		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンス確認テストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照らし自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 2. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3. 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 5. 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テストⅠ・Ⅱ(合格点に達するまで再テストを行う) 2. 配属された実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる(2000～4000字) 3. 実習施設の概要、実習プログラム(案)の作成 <p>*予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新(改定)版 精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版(この教科書は「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」共通) 2014。 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布 <p>【参考書】</p> <p>精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、事前学習の内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 ：実習までの流れの確認 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る。実習コンピテンス確認テストの実施に向けて自己学習を行う。
		事後学習	実習に向けての課題を書きだし、実習までに解消する方法を考える。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の意義・書き方を理解する ：実習記録の取り扱い等に関する説明 	事前学習	テキスト第4章Ⅶ(pp.87～95)を熟読する。
		事後学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 ：実習場面において必要となる精神保健福祉士としての技術を学ぶ ・実習記録の理解② ：実習記録の書き方演習 	事前学習	精神保健福祉士として必要な技術について復習する。
		事後学習	授業で学んだことをまとめる。実習までにやるべき自分の課題を書き出す。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：個別援助実践の意義を理解する ：ケース記録の意義を理解する ：ケース記録の全体を把握する 	事前学習	『学習の手引き』のケースワーク記録見本に目を通す。
		事後学習	実習において個別援助を実践する意味についてまとめる。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 	事前学習	アセスメントとは何か調べる。

	<ul style="list-style-type: none"> : アセスメントについて : ジェノグラムとエコマップについて : 事例を用いてケース記録書き方演習 	事後学習	自分に対するジェノグラムとエコマップを作成する。 授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・プランニング・インターベンションと評価について ・事例を用いてケース記録書き方演習 	事前学習	プランニングとは何か調べる。
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・事例を用いたケースワーク演習① 	事前学習	あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・事例を用いたケースワーク演習② 	事前学習	あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる。
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習プログラミングシートの理解 ・個人情報の保護 ・個人情報保護法、精神保健福祉士法、倫理綱領など専門職における秘密保持義務を理解する 	事前学習	実習の手引きにある実習プログラミングシートに目を通す。
		事後学習	実習において秘密を保持する必要性やそれが困難となる場面などを想定しどのように対応すべきか、考察を深める。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実習における課題を理解する ・実習の手引きに書かれた内容を理解するとともに、自己の実習課題を再確認する 	事前学習	『実習の手引き』のそれぞれの実習の目的に目を通す。
		事後学習	実習で何を学びたいか学習ノートに書き出す。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習配属先について理解を深める ・配属先実習施設に関する情報収集 ・施設の概要、実習計画の作成について理解する 	事前学習	『学習の手引き』の実習施設の概要、実習プログラム（案）見本に目を通す。
		事後学習	配属先実習施設についてホームページ等を利用して情報を収集する。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要、実習プログラム（案）の作成 ・自己の実習の意義、目的を再確認する ・実習施設の概要、実習プログラム（案）の記入と添削・確認 	事前学習	実習施設の概要、実習プログラム（案）を作成する。
		事後学習	施設の概要、実習計画について、添削された箇所を再度修正する。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 ・スーパービジョンについて理解する ・巡回指導の目的と内容を理解する ・実習計画の完成 ・スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 	事前学習	テキスト第 4 章VI (pp. 85~86)、VIII (pp. 89~95) を熟読する。
		事後学習	実習巡回教員への挨拶用紙の記入をし、各自実習巡回教員に挨拶に行く。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の確認 ・実習計画においてスーパーバイザーと協議したい点の確認 	事前学習	テキスト第 3 章V (pp. 61~65) を熟読する。
		事後学習	見学実習の目的と意義をまとめる。 見学実習の日程調整を各自行う。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・SW 基礎実習／精神保健福祉援助実習第一段階に向けて最終確認 	事前学習	施設実習までの課題を書きだす。
		事後学習	実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(精保専攻) (2 単位)		3. 科目番号	SCMP3185
2. 授業担当教員	藤島 薫、鹿内 佐和子			
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅲは、精神保健福祉援助実習第一段階の帰校指導の役割りも兼ね、実習の振り返りを行い、実習における学びを深める。また、精神保健福祉援助実習第Ⅱに向けての準備、事後学習も行き、終了した時点で次のことを達成していることが期待される。</p> <p>1) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。</p> <p>2) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。</p> <p>3) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。</p> <p>4) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。</p> <p>5) 実習中に行う事例について検討し、支援計画の立案を実践的に理解する</p> <p>6) 実習中の利用者との関わりを振り返り、自己覚知を深める</p> <p>7) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。</p> <p>8) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。</p>			
8. 学習目標	<p>① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。</p> <p>② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。</p> <p>④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目に、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <p>1. 実習で関わった利用者についての事例</p> <p>2. 第一段階実習の進捗状況(帰校指導報告書の作成2回)</p> <p>3. 第一段階実習の総括レポート(実習報告書)</p> <p>5. 第二段階実習の総括レポート(実習報告書)</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】</p> <p>長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>			
11. 成績評価の方法	レポート課題	60%	(提出期限厳守)	
	授業への参加態度	30%	(授業の参加態度重視、遅刻・無断欠席は減点の対象)	
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、実習と連動して精神保健福祉士としての実践力の向上に焦点を置いて授業を進める。学生の積極的な授業参加を期待する。			
13. オフィスアワー	別途、連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回 *翌週より援助実習開始	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉援助実習指導Ⅱの振り返りと確認 本講義内容、進め方の説明 援助実習開始に向けて 援助実習の目的、課題を再度確認する 実習プログラムの確認 		事前学習	精神保健福祉援助実習第一段階に必要な事柄を整える。
			事後学習	実習の手引き「精神保健福祉援助実習第一段階」の項目を熟読し、理解を深める。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 実習の振り返り 実習実施上の問題点等について検討 ソーシャルワークケース記録の理解 ケース記録の意義を理解する ケース記録の全体を把握する 		事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす。
			事後学習	『学習の手引き』にあるソーシャルワークケース記録に目を通す。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 実習の振り返り 実習実施上の問題点等について検討 ソーシャルワークケース記録の理解 アセスメントについて ジェノグラムとエコマップについて 		事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす。
			事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入する。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 実習の振り返り 実習実施上の問題点等について検討 帰校指導記録の作成 ソーシャルワークケース記録の理解 プランニング・インターベンションと評価について 		事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす。帰校指導記録用紙に実習の進捗状況を記入する。
			事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入し、アセスメン

			トのうえ、支援計画について考える。 帰校指導記録用紙のまとめを記入する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ：インターベンションと評価について ・社会福祉専門職についての理解 ：実習施設・機関で行われる各種手続きについてまとめる ：実習施設・機関で行われる相談援助業務についてまとめる 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす。 実習中必要となった制度や相談援助業務についてまとめる。
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入し、アセスメントのうえ、支援計画について考える。 授業を通して、制度や相談援助業務について確認した事項を追記する。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ：実習実施上の問題点等について検討 ：帰校指導記録の作成 ・連携についての理解 実習施設・機関と社会資源、関係機関との連携についてまとめる 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 実習中連携をした機関やそれぞれの役割について気づいた点を書きだす。 帰校指導記録用紙に実習の進捗状況を記入する。
		事後学習	授業を通して学んだ点をまとめる。 帰校指導記録用紙のまとめを記入する。
第 7 回 *翌週で 実習終了	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討について ：事例検討の意義と方法を理解する ・実践事例の報告と検討 ：担当している事例についての報告と意見交換 	事前学習	体験している事例について報告の準備をする。
		事後学習	報告された事例について学びとなった点をまとめる。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討 ：担当している事例についての報告と意見交換 ・実習の振り返り ：実習総括レポート（実習報告書）の作成について説明 ・実習のまとめに向けて ：基礎実習から援助実習を通して、学んだことと課題を振り返る ：実習終了に向けて必要事項の確認（記録の提出等） 	事前学習	体験している事例について報告の準備をするテキスト第 5 章（pp. 97～100）を熟読する。
		事後学習	実習終了に向けて必要なことを確認する。 実習総括レポートの準備をする。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ：実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ：ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める（自己の価値観が実習中利用者とのかかわりにおいてどのように反映したか考えをまとめる） ・第二段階実習に向けての準備 ：個人調書の準備 ：配属先に関する情報収集 	事前学習	実習テキスト第 5 章 II（pp. 100～110）を熟読する。
		事後学習	実習総括レポートを作成する。 第二段階実習先に提出する個人調書を作成する。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段階実習に向けての準備 ：第二段階実習における実習課題の説明 ：実習施設概要の作成 ：実習プログラム（案）の作成 	事前学習	実習の手引き「第二段階実習」について目を通す。 第一段階実習を振り返り、第二段階実習に向けての自己の課題を明確にする。
		事後学習	実習施設概要、実習プログラム（案）の作成
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段階実習に向けての準備 ：実習施設概要、実習プログラム（案）完成 ・事前訪問に向けた準備 ：事前訪問の目的と意義の再確認 ：基本的態度と訪問時の注意事項の再確認 ：スーパーバイザーと協議したい事柄を明確にする 	事前学習	実習施設概要、実習プログラム（案）の手直し
		事後学習	実習施設の概要の完成 事前訪問時にスーパーバイザーと協議したい事柄をまとめる。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ：実習計画に関するスーパーバイザーとの協議事項の確認とそれを踏まえての計画書の完成 ・第二段階実習における最終確認 ：学習のまとめと、第二段階実習に向けての課題整理 ・第二段階に向けた事前学習まとめ ：精神科医療機関における制度（入院制度、保険制度等）及びワーカーの役割を確認する ：社会復帰施設や就労支援に関する制度（障害者総合支援法、障害者雇用促進法等）、ワーカーの役割を確認する 	事前学習	事前訪問報告書を作成する。 精神保健福祉法、障害者総合支援法等必要な事柄を箇条書きにする。
		事後学習	実習プログラム（案）を完成させる。 実習施設概要、実習プログラム（案）を実習施設に持参し、指導者と協議する。 配属先に即した実習中必要となる制度についてまとめ、実習に備える。
第 13～ 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ※ 第二段階実習の事後学習として、実習終了後実施します。日程については後日通知します。 第二段階実習事後学習 ：実習の振り返り ：実習総括レポート（実習報告書）の作成 ：実習報告 	事前学習	第二段階実習で学んだことを振り返る。 実習総括レポート及び発表の準備をする。
		事後学習	実習報告を通して、再度自己の実習での学びを振り返りまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。この講義では、過去問題の演習を繰り返して行います。その中で、試験に合格するための知識を記憶に定着させて下さい。		
8. 学習目標	精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。 (I)問題の総得点の6割程度以上の点数の得点があること。 (II)受験で課されるすべての科目において得点があること (一科目でも0点を取ると不合格となる) これらの基準を満たすために、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストはあなた方の学習の形成的評価となるものですから、確実に得点ができるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを2度と繰り返さないようにしましょう。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・各授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。 ・定期試験 (共通科目・専門科目) では、実際の本番の試験の合格基準に従って、 ①全体の60%以上の得点がある ②全ての科目で得点が見られる (0点科目がない) ことを課題とします。 (不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業内配布テキスト、『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。		
11. 成績評価の方法	各授業の最後に行う確認テスト 50% 定期試験 (共通科目・専門科目) 50% 30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。 10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。		
12. 受講生へのメッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題」をどれだけ自分のものとして理解し暗記できているかによって決まります。本講義を受講する学生は、本番の試験と同様に1問1問真剣に取り組んで下さい。 (授業進行は変更することがあります)		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる 教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第2回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第3回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第4回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第5回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第6回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第7回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第8回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第9回	【福祉行政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第10回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第11回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習

	(「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童福祉法(障害児支援関係)」「障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)」について)	事後学習	確認テストの復習
第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 (「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 (「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 (「相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。)との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期(共通科目)			
第 1 6 回	【精神疾患とその治療①】 (「精神疾患総論」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【精神疾患とその治療②】 (「精神疾患の治療」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【精神保健の課題と支援①】 (「精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 9 回	【精神保健の課題と支援②】 (「精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割」「精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題」「精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 0 回	【精神保健福祉相談援助の基盤①】 (「精神保健福祉士の役割と意義」「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の概念と範囲」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【精神保健福祉相談援助の基盤②】 (「相談援助の理念」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「相談援助に係わる専門職の概念と範囲」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 2 回	【精神保健福祉相談援助の基盤③】 (精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲)「精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 3 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開①】 (「精神保健医療福祉の歴史と動向」「精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 4 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開②】 (「医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割」「相談援助の過程及び対象者との援助関係」「相談援助のための面接技術」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開③】 (「相談援助活動の展開」「家族調整・支援の実際と事例分析」「地域移行・地域定着支援の対象及び支援体制」「地域を基盤にした相談援助の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 6 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開④】 (「地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方」「精神障害者のケアマネジメント」「地域を基盤にした支援とネットワーク」)「地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス①】 (「精神保健福祉法の意義と内容」「精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス」「精神障害者に関連する社会保障制度の概要」「相談援助に係わる組織、団体、関係	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習

	機関及び専門職や地域住民との協議)について)		
第 28 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス②】 (「更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係」「更生保護制度における関係機関や団体との連携」「医療観察法の概要」「医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割」「社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 29 回	【精神障害者の生活支援システム】 (「精神障害者の生活の実際」「精神障害者の生活と人権」「精神障害者の居住支援」「精神障害者の就労支援」「市町村における相談援助」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 30 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期 (専門科目)			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECD4225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し、精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。すでに履修している精神保健福祉士養成演習Ⅰにおける学習を基盤として、この講義ではより実践的な演習を行っていきます。今まで学んできた学習内容を、出題が多く見られる分野を中心に徹底した問題演習を行っていきます。試験に合格するために必要となる知識を確実に記憶に定着させるとともに、近年の出題傾向を把握した上で、新しい問題にも対応できる実力を身につけられる講義を行います。</p> <p>また、全国統一模擬試験を受験することで試験の雰囲気になれるとともに、解答した問題については、その後の授業の中でも振り返りをしていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ)問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ)受験で課されるすべての科目において得点があること (一科目でも0点を取ると不合格となる)。</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を満遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。特にこの養成演習Ⅱの授業では、実際の出題実績の多い最頻出分野の問題から繰り返し解いていく作業を中心とします。各授業の最後に行う確認テストは、皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に全問が正解できることを目標とするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直すことで、同じ間違いを二度と繰り返さないことが重要です。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・各授業の最後には、予め配付する「一問一答」の中から関連する項目の確認テストを行います。満点が取れるまで予習復習を繰り返して下さい。</p> <p>・期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目編)・Ⅱ (専門科目編)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>① 全体の60%以上の得点が見られる。</p> <p>② 全ての科目で得点が見られる (0点科目がない) ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】(3年の養成演習Ⅰの時に購入した問題集を使用します。3年次に養成演習Ⅰを履修していなかった者は、事前に購入して授業に臨むこと。『2016 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規))</p> <p>「大学作成の授業内配付テキスト」</p> <p>『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』(中央法規)</p> <p>【参考書】『精神保健福祉士受験ワークブック 専門科目編 2017』(中央法規)</p> <p>『2017 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規)</p> <p>『精神保健福祉士国家試験模擬問題集<専門科目>2017』(中央法規)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目編)・Ⅱ (専門科目編)」と12月に実施する校内模試 50%</p> <p>60 コマ中、16 コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する(春学期のみ)。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家試験へ合格するためには、徹底した「過去問題」の理解・暗記が欠かせません。試験本番まで1年を切った本年度は、より実践的な演習を行っていきます。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという強い決意をもって、一問一問真剣に取り組むようにして下さい。</p> <p>授業内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (春期) (試験の概要・傾向等) 【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく。
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第2回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第3回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第4回	【福祉行財政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第5回	実力確認テストⅠ (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までの授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習
第6回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習

		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 7 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 8 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 9 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】【地域福祉の理論と方法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験（実力確認テストⅡ）（専門科目）			
第 16 回	ガイダンス（秋期） 事例問題の演習①（相談援助関連）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解（共通科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解（専門科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解①（共通科目） （人体・心理学）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解①（共通科目） （社会理論・現代社会）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解②（共通科目） （地域福祉）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解①（共通科目） （社会保障・低所得者）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解②（共通科目） （障害者・権利擁護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③（共通科目） （行財政・保健医療）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	利用者を理解する科目の徹底理解②（専門科目） （精神疾患・精神保健）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	精神保健福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解 （専門科目）（基盤・理論と展開）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	社会保障を理解する科目の徹底理解④（専門科目） （制度とサービス・生活支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 28 回	事例問題の演習②（基盤・制度とサービス・生活支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	精神保健医療福祉の最近の動向の理解（時事問題）	事前学習	配付資料を事前によく読んでくる
		事後学習	福祉に関する時事問題をしっかりと把握する
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	（国家試験の問題冊子を持参する）
		事後学習	（最後まで、合格を信じること！）

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論 I (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2128 PSMP2428
2. 授業担当教員	大山 勉、谷口 恵子			
4. 授業形態	講義、課題の発表	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	障害者福祉の歴史、理念と意義、障害の概念、障害福祉施策についての学習を基礎とし、精神障害者に対する処遇の歴史を踏まえ、精神保健福祉の理念と意義、精神障害者の人権、精神保健福祉法制、精神保健福祉施策の現状と課題について学習する。また、精神保健福祉業務を担う精神保健福祉士の理念と意義、対象、専門性、および精神障害者に対する相談援助について学習する。			
8. 学習目標	以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1.障害者福祉の理念と意義、障害の概念、障害者福祉施策について理解する。 2.精神障害者の人権について理解する。 3.精神保健福祉士の理念と意義、対象について理解する。 4.精神障害者に対する相談援助活動について理解する。 5.精神保健福祉法等、精神障害者に関する法律の意義と内容について理解する。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	割り当てられた範囲について調査及びディスカッションを行い、レポート等を作成・提出及び発表をする。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『新版 精神保健福祉士養成セミナー 第 6 巻 精神障害者の生活支援—制度・システムとサービス』へるす出版。 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知する。			
11. 成績評価の方法	授業への参加度 (授業態度など) ...30% 課題提出・発表...30% テスト...40% (事前に範囲・形式を予告する。)			
12. 受講生へのメッセージ	初回授業で受講ルールの詳細を説明する。したがって受講希望者は必ず第 1 回の授業に出席すること。 精神保健福祉士の倫理・技術等を含むその存在意義は、精神障害のある人たちのためにある。したがって、倫理・技術が単独で存在することはない。つまり、精神障害のある人たちの生活実態や状況を知り、その支援を如何に良いものとしていくかという志向が必要となる。本講義は精神障害のある人たちのおかれた、おかれている状況を理解することから始める。そして受講生諸君が「精神障害がある人たちへの支援が如何にあるべきか」を考える起点としていただきたい。			
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読	
		事後学習	精神保健福祉とは何かについて調べてくる	
第 2 回	精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷	事前学習	教科書 pp.1～6 を読み、精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.1～6 を読み、精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 3 回	精神保健福祉法の主な内容	事前学習	教科書 pp.6～22 を読み、精神保健福祉法の主な内容について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.6～22 を読み、精神保健福祉法に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 4 回	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割/障害者自立支援法までの経緯/障害者基本法と精神障害者福祉施策	事前学習	教科書 pp.23～32 を読み、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割/障害者自立支援法までの経緯/障害者基本法と精神障害者福祉施策について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.23～32 を読み、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割/障害者自立支援法までの経緯/障害者基本法と精神障害者福祉施策に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 5 回	障害者自立支援法とその動向	事前学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法とその動向について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 6 回	新たな障害保健福祉施策の検討 障害者総合福祉法への道	事前学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 7 回	今後の精神保健福祉医療の課題と検討	事前学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。	

第 8 回	精神保健福祉に関する行政組織	事前学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織について調べる。
		事後学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 9 回	医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景	事前学習	教科書 pp.77～79 を読み、医療観察法について調べる。
		事後学習	教科書 pp.77～79 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 10 回	医療観察法の概要および目的	事前学習	教科書 pp.79～85 を読み、医療観察法の概要および目的について調べる。
		事後学習	教科書 pp.79～85 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 11 回	精神保健福祉士と医療観察制度	事前学習	教科書 pp.85～87 を読み、精神保健福祉士と医療観察制度について調べる。
		事後学習	教科書 pp.85～87 を読み、精神保健福祉士と医療観察制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 12 回	医療観察法の今後の課題と期待	事前学習	教科書 pp.87～88 を読み、医療観察法の今後の課題と期待について調べる。
		事後学習	教科書 pp.87～88 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 13 回	更生保護制度の概要	事前学習	教科書 pp.88～94 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.88～94 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 14 回	司法・医療・福祉の連携	事前学習	教科書 pp.94～96 を読み、司法・医療・福祉の連携について調べる。
		事後学習	教科書 pp.94～96 を読み、司法・医療・福祉の連携に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	世界史 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1328 GELA1348
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>歴史を学ぶということは過去を記憶することのみにとどまるものではない。それを踏まえ、現在をどのように生き、さらに未来をどう構築していくのかについて主体的に考えることである。つまり、現存の社会、経済、政治制度、文化、思想、技術などがどのように形成されてきたのか、それを今後どのようにしていくのかについて、総合的に捉えることが目的である。各地域の歴史、文化、民族などは共通する部分もあるが、基本的にはそれぞれが異質な存在であるところからそれらに対し真摯である。そしてだからこそ、互いに異質性を認め共生を目指す、それが人類である。</p> <p>また、今日の社会福祉混迷の打開を思想に求め、欧米社会福祉思想史の方法、古代の慈善救済の福祉思想、中世の慈善救済事業思想、市民革命と自由・平等の人権思想、博愛事業思想と市民主導型ボランティア、社会事業思想とソーシャルワークの創出、現代社会福祉思想の登場と変貌、戦後福祉改革と福祉国家思想・運動を取り上げることもあるが、受講生の興味・関心のある課題を取り入れながら授業を進めていく。</p>		
8. 学習目標	<p>大きな目標は 8 点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平和を維持するため、戦争を起こさないための強い気持と行動力を形成し、実践に活かすことができる。 2 現代にいたる歴史の概要を理解し、説明することができる。 3 特に近現代史を理解し、説明することができる。 4 それぞれの地域、文化、民族の特質を理解し、説明することができる。 5 多文化が共生するためには相互理解が必要であることを理解し、説明することができる。 6 世界史における社会福祉思想史の研究方法を習得する。 7 古代から現在にいたる時間軸の中で生まれた福祉思想とそれらの特徴を知る。 8 過去の福祉思想の今日への影響及び関わりについて考察する能力を養う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題：新聞記事を中心に世界で起きている出来事について、正確な情報を収集する。 課題：そのことについての自分の考えを整理する。 →単元終了後にレスポンスシートを作成する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 教場で配布するワークブックを使用するので、特に指定しない。 【参考書】 教場で資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート 60%、レスポンスシート 20%、調べ学習など講義への参加度 20%。 なお本学の規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>ステレオタイプ、偏見が争いの源であることは社会心理学的知見から明らかである。それを避けるためには他者について正しい知識を持つことが必要であり、それは異質性に対する純粋な関心、好奇心からなる。本講義は知識の獲得とあわせ、そのような人材の育成も目指したい。そこで受講者に次の事柄の遵守を希望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2 質問、発表を積極的にを行い、主体性の形成に勤む。 3 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などに対するセルフモニタリング機能を強化する。 <p>これらは学ぶ者の基本的な学習姿勢であると同時に、多文化共生時代を生きる際にも必要な事項である。なお明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることを理解しておく。 また教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 5 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守られない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・古代四大文明がおこったところ ・縄文文化と弥生文化 ・卑弥呼の国 ・聖徳太子の政治 <p>この時期の世界は？</p>	事前学習	中高の歴史教科書を読んでおこう
		事後学習	ワークブック 1
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の農民の暮らし ・奈良の大仏 ・摂関政治 ・国風文化 ・平氏の政権 ・鎌倉幕府の政治 ・鎌倉文化 ・元寇 ・足利義満 ・室町文化 <p>この時期の世界は？</p>	事前学習	奈良と鎌倉の大仏を見学しよう。
		事後学習	ワークブック 2 ワークブック 3
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コロンブスの航海 ・キリスト教伝来 ・織田信長 ・豊臣秀吉 ・桃山文化 ・江戸幕府と大名 ・鎖国の理由 ・江戸の都市 ・元禄文化 <p>この時期の世界は？</p>	事前学習	姫路城を見学しよう。
		事後学習	ワークブック 4 ワークブック 5

第 4 回	・徳川吉宗 ・松平定信 ・水野忠邦 ・化政文化 ◎ヨーロッパ史基礎	事前学習	歌舞伎を見よう。
		事後学習	ワークブック 6
第 5 回	・産業革命 ・ペリーの来航 ・大政奉還 ・明治維新 ・自由民権運動 ◎ヨーロッパ史基礎	事前学習	映画【レ・ミゼラブル】を見よう。
		事後学習	ワークブック 7
第 6 回	・日清戦争 ・日露戦争	事前学習	教科書の日清・日露戦争の項を読んでおこ う。
		事後学習	ワークブック 8
第 7 回	・第一次世界大戦 ・大戦後の世界 ・大正デモクラシー	事前学習	教科書の第一次世界大戦の項を読んでおこ う。
		事後学習	ワークブック 9
第 8 回	・世界恐慌 ・日中戦争	事前学習	映画【サウンド・オブ・ミュージック】を見 よう。
		事後学習	西大門刑務所歴史館に行こう。
第 9 回	・第二次世界大戦	事前学習	映画【黄色い星の子供たち】を見よう。
		事後学習	ワークブック 10
第 10 回	・日本の民主化 ・冷たい戦争 ・日本の「独立」 ・石油危機	事前学習	第二次世界大戦の項をまとめておこ う。
		事後学習	復習テスト
第 11 回	映像の世紀から	事前学習	※教場で指示。
		事後学習	感想をまとめてみよう。
第 12 回	映像の世紀から	事前学習	※教場で指示。
		事後学習	感想をまとめてみよう。
第 13 回	アウシュヴィッツとこどもの「いのち」	事前学習	【ホロコースト】(中公新書)を読んでおこ う。
		事後学習	アウシュヴィッツ博物館に行こう。 アンネ・フランク・ハウスに行こう。
第 14 回	東京大空襲とこどもの「いのち」 沖縄戦とこどもの「いのち」	事前学習	【東京大空襲】(岩波新書)を読んでおこ う。
		事後学習	東京大空襲・戦災資料センターに行こう。 ひめゆり平和祈念資料館に行こう。
第 15 回	広島・長崎とこどもの「いのち」	事前学習	【広島・長崎でなにが起こったのか】(岩波 ブックレット)を読んでおこ う。
		事後学習	広島平和記念資料館に行こう。 長崎原爆資料館に行こう。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	相談援助演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2103						
2. 授業担当教員	上木 文夫								
4. 授業形態	講義、ゼミナール形式、グループ活動、ディスカッション、演習、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークの基本的な考え方、理論、目的・原理・原則、構成要素と機能について講義するとともに、保育士の役割と相談援助の関係、子どもへのケア、関連する技法、相談援助の対象・過程・計画、関係機関との協働、専門職間の連携、社会資源の活用などについては、グループでの討議とまとめ、発表を経て学んでいく。身近に迫った実習も考慮して、現場に対応できるスキルも学習できるようにする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基本にゼミナール方式とグループ活動の形態を導入し、ディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の変化に伴い、家族や子どもたちの育ちの状況について理解し、説明することができる。 ・ソーシャルワークの基本的な考え方、視点、体系について理解し、説明することができる。 ・相談援助の目的と原理・原則について理解し、説明することができる。 ・相談援助の構成要素、機能、実践上の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助が求められる背景と目的、家族支援と保育士の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助の視点、関連する援助技術について理解し、説明することができる。 ・相談援助の対象、援助過程、技法等について理解し、活用することができる。 ・その他、相談援助の計画、関連機関との協働、専門職との連携、社会資源の活用などについて理解し、応用できるセンスを養う。 <p>相談援助について基本的なことを理解するとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>「バイステックの七原則についてまとめなさい。」</p> <p>※A4 レポートで3枚程度</p> <p>※冬季休校期間の明けた最初の授業での提出とする。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 指定なし。書き込み式の配布プリントにて授業を進める。</p> <p>【参考書】 柏女霊峰・伊藤喜余子 編著『社会福祉援助技術 保育者としての家族支援』樹村房、2011 年。</p> <p>【教材】 書き込み式の講師配布プリント</p>								
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>25%</td> </tr> </table> <p>以上、三つの項目の総合100%を100点として評価する。</p>			授業への積極的参加度	50%	レポート	25%	期末試験	25%
授業への積極的参加度	50%								
レポート	25%								
期末試験	25%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業には積極的に参加すること。また、履修にあたっては次の事を最低限守ろう。</p> <p>①配布する資料は正しく整理して必ず保管する。</p> <p>②人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴する。</p> <p>③授業中の私語や携帯電話の使用は禁止する。</p> <p>※特に、教科書は指定せず、書き込み式レジュメを用いてディスカッション中心の授業を行う。その中から、期末試験を実施するので、全出席が基本ではあるが、休んでしまった日のレジュメの転記を誰かに依頼することが望ましい。また、ディスカッション中心の授業となるため、積極的な発言と傾聴の姿勢を大切にしてほしい。</p>								
13. オフィスアワー	<p>質問や相談は、原則として授業前後に受けるが、時間が掛かるものについては双方で打ち合わせ、日時と芭蕉を決定する。</p>								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明 人と環境の交互作用の視点について 「生活モデル」と「エコロジカル・アプローチ」の理解	事前学習	専用ノートや書き込み式レジュメを管理・整理できるファイルなどを準備する。						
		事後学習	「生活モデル」の視点についてまとめる。						
第2回	「ストレングス・モデル」の理解 「ストレングス・アプローチ」の相談援助事例	事前学習	ソーシャルワークにおける「ストレングス」とは何かを調べておく。						
		事後学習	事例検討を通じて、学んだことを整理し、「ストレングス・パースペクティブ」についてまとめる。						
第3回	相談援助の展開過程の概要 インテークについて アウトリーチと潜在的ニーズの掘り起こし	事前学習	相談援助の展開過程(進め方)について、自分なりに調べてみる。						
		事後学習	相談援助におけるインテークのもつ意義、方法、留意点について要点をまとめる。						
第4回	相談援助の展開過程 アセスメントについて ジェノグラムとエコマップの活用	事前学習	ジェノグラムとエコマップについて、自分なりに調べてみる。						
		事後学習	相談援助におけるアセスメントの意義、方法、留意点について要点をまとめる。						
第5回	相談援助の展開過程 プランニング インターベンション	事前学習	「インターベンション」とは何か、自分なりに調べておく。						
		事後学習	「プランニング」と「インターベンション」						

			の意義、方法、留意点について要点をまとめる。
第 6 回	相談援助の展開過程 モニタリング ターミネーション	事前学習	「支援の終結」とは何を意味するのか、自分なりに調べてみる。
		事後学習	「モニタリング」と「ターミネーション」の意義、方法、留意点について要点をまとめる。
第 7 回	相談援助における基本的態度① バイステックの七原則 自己覚知の必要性	事前学習	バイステックの七原則について、じぶんに調べておく。
		事後学習	バイステックの七つの原則のうち、本日の学習内容のポイントをまとめる。
第 8 回	相談援助における基本的態度② バイステックの七原則 専門的援助関係の理解	事前学習	専門的援助関係と信頼関係の違いを比較して、その違いを考えてみる。
		事後学習	専門的援助関係について、学んだことをまとめる。
第 9 回	相談援助面接① 面接室での面接と生活場面面接の違いについて	事前学習	面接技法には、どのようなものがあるか、自分なりに調べておく。
		事後学習	相談援助面接や本日の学びのポイントについて、よくまとめておく。
第 10 回	相談援助面接② 基本的応答技法	事前学習	面接技法には、どのようなものがあるか、自分なりに調べておく。
		事後学習	相談援助面接や本日の学びのポイントについて、よくまとめておく。
第 11 回	「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」 ソーシャルワーカーの「自己一致」について	事前学習	非言語的コミュニケーションには、どのようなものがあるか、できるだけ多く挙げてみる。
		事後学習	本日の学習内容の要点を整理し、ソーシャルワーカーの自己一致について、あらためて考えてみる。また、授業での気づきや発見をまとめる。
第 12 回	地域を基盤とした相談援助 多職種・多機関の連携・ネットワーク	事前学習	地域には、保育士が活用可能などのような社会資源があるか、できるだけ多く調べておく。
		事後学習	連携やネットワークの重要性と役割分担について、ポイントを整理し、まとめる。
第 13 回	児童虐待の早期発見に向けた相談援助 子どもの「声なき声」SOSをキャッチする 児童相談所との連携	事前学習	児童虐待防止法における「児童虐待の定義」「通告義務」「早期発見義務」について調べておく。
		事後学習	本日の学習内容の要点・ポイントをあらためて整理し、まとめる。
第 14 回	<考察> システムのアプローチの相談援助① 視聴覚教材「マラソン」前半	事前学習	「家族」とは、どのような性質をもっているか、考えておく。
		事後学習	システム論的アプローチの相談援助の視点について整理し、まとめる。
第 15 回	<考察> システムのアプローチの相談援助② 視聴覚教材「マラソン」後半 授業まとめ	事前学習	「クライアント・システム」と「ワーカーズ・システム」とは何かを調べてみる。
		事後学習	これまでの授業のまとめをし、期末試験の準備をしておく。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	相談援助演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2103						
2. 授業担当教員	白井 絵里子								
4. 授業形態	講義、ゼミナール形式、グループ活動、ディスカッション、演習、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークの基本的な考え方、理論、目的・原理・原則、構成要素と機能について講義するとともに、保育士の役割と相談援助の関係、子どもへのケア、関連する技法、相談援助の対象・過程・計画、関係機関との協働、専門職間の連携、社会資源の活用などについては、グループでの討議とまとめ、発表を経て学んでいく。身近に迫った実習も考慮して、現場に対応できるスキルも学習できるようにする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基本にゼミナール方式とグループ活動の形態を導入し、ディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の変化に伴い、家族や子どもたちの育ちの状況について理解し、説明することができる。 ・ソーシャルワークの基本的な考え方、視点、体系について理解し、説明することができる。 ・相談援助の目的と原理・原則について理解し、説明することができる。 ・相談援助の構成要素、機能、実践上の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助が求められる背景と目的、家族支援と保育士の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助の視点、関連する援助技術について理解し、説明することができる。 ・相談援助の対象、援助過程、技法等について理解し、活用することができる。 ・その他、相談援助の計画、関連機関との協働、専門職との連携、社会資源の活用などについて理解し、応用できるセンスを養う。 <p>相談援助について基本的なことを理解するとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解の定着を図るため、授業内容についてミニテストを実施する。 2. 授業内容の理解度を確認するため、第 15 回授業内でレポートを作成する。 レポートの課題については授業の中で指示する。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 監修 前田敏雄、編集 佐藤伸隆・中西遍彦『演習・保育と相談援助 第 2 版』(株)みらい、2014。</p> <p>【参考書】 笠師千恵/小橋明子著『相談援助 保育相談支援』中山書店、2014。 柏女霊峰他著『保育相談支援』ミネルヴァ書房、2011。 山辺朗子著『ワークブック 社会福祉援助技術演習②個人とのソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2013。 この他、必要に応じて参考資料等を使用する。</p>								
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業態度(授業への積極的参加度)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>ミニテスト及び提出物</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業内レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>遅刻、早退は 3 回で 1 回欠席とします。私語、携帯電話の使用、無断退出等、他の学生に迷惑がかかる行為は減点の対象とします。</p>			授業態度(授業への積極的参加度)	20%	ミニテスト及び提出物	40%	授業内レポート	40%
授業態度(授業への積極的参加度)	20%								
ミニテスト及び提出物	40%								
授業内レポート	40%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>相談援助においては、多様な生活課題とその背景について理解しておくことが求められます。日々の生活の中で幅広く情報にアンテナを張り、それらに関心を持ち続けることにより授業での学びを生きた実践につながられるようにしてください。</p> <p>履修にあたっては、真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことを期待します。シラバスに記載してある事前学習を必ずしておいてください。</p>								
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際にお伝えします。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション(講義の概要、学習目標、授業の進め方についての説明) テキスト第 1 章「保育と相談援助」 —相談援助が求められる背景と保育士の役割	事前学習	シラバスとテキスト第 1 章を読んでおく。						
		事後学習	相談援助が求められる背景についてまとめておく。						
第 2 回	テキスト第 2 章「相談援助とは何か」 —相談援助の考え方、視点 —相談援助の原則と倫理	事前学習	テキスト第 2 章を読んでおく。						
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(重要項目、キーワード等)についてまとめる。						
第 3 回	テキスト第 3 章「相談援助の過程と連携」 —相談援助の過程(進め方) —関係機関・専門職との連携	事前学習	テキスト第 3 章を読んでおく。						
		事後学習	講義内容を復習したうえで、授業内で提示した事項(重要項目、キーワード等)についてまとめる。						
第 4 回	テキスト第 4 章「相談援助者になるために①」 —自己覚知	事前学習	テキスト第 4 章を読んでおく。						
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。						
第 5 回	テキスト第 5 章「相談援助者になるために②」 —他者理解	事前学習	テキスト第 5 章を読んでおく。						
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。						
第 6 回	テキスト第 6 章「相談援助者になるために③」 —基本的態度、非言語コミュニケーションの理解	事前学習	テキスト第 6 章(p79~85)を読んでおく。						
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。						

第 7 回	テキスト第 6 章「相談援助者になるために③」 —基本的態度、非言語コミュニケーションの活用	事前学習	前回の授業で使用したレジュメ等について復習をしておく。
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。
第 8 回	テキスト第 6 章「相談援助者になるために③」 —面接における基本的応答技法（言語コミュニケーション）の理解と活用①	事前学習	テキスト第 6 章(p85～87)を読んでおく。
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。
第 9 回	テキスト第 6 章「相談援助者になるために③」 —面接における基本的応答技法（言語コミュニケーション）の理解と活用②	事前学習	前回の授業で使用したレジュメ等について復習をしておく。
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。
第 10 回	相談援助の原則について学ぶ① —バイステックの 7 原則①	事前学習	テキスト p 38～42 を読んでおく。
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。
第 11 回	相談援助の原則について学ぶ② —バイステックの 7 原則②	事前学習	テキスト p 38～42 を読んでおく
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。
第 12 回	テキスト第 7 章「相談援助者になるために④」 —保育活動における記録の書き方と実際	事前学習	テキスト第 7 章を読んでおく。
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。
第 13 回	テキスト第 8 章「相談援助を行う前に①」 —生活課題の把握 テキスト第 9 章「相談援助を行う前に②」 —社会資源の把握	事前学習	テキスト第 8 章と第 9 章を読んでおく。
		事後学習	授業内で提示した重要事項と演習を通して自ら考えたことをまとめる。
第 14 回	相談援助者になるために求められることについて —相談援助の考え方、基本的態度、コミュニケーションスキル、相談援助の原則に関するポイントの整理と確認	事前学習	これまで学習した内容を振り返り、理解が不十分である点を明確にしておく。
		事後学習	理解が不十分であることが明らかになった点について、必要に応じて参考書等を活用して知識の補足をしておく。
第 15 回	これまで学習してきた内容についての確認 (授業内でレポートを作成)	事前学習	これまでの授業で学習した内容について復習をしておく。
		事後学習	レポート作成を通して、相談援助者になるために自らが今後取り組むべき課題はどのようなものかを明確にしておく。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4 単位)		3. 科目番号	SSMP2156
2. 授業担当教員	佐久山 敏之			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	ソーシャルワークⅠの単位を修得した後に履修することが望ましい			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題 (1600 字以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「相談援助の展開過程について説明しなさい。」 2) 「相談援助における面接の技術について述べなさい。」 <p>提出期限等については、初回講義時において指示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座 7)』第 3 版、中央法規出版、2015 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①授業の積極的参加度と参加態度 40% ②筆記試験 30% レポート 30% ③本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業中はつねに集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 2. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 <p>レポートの提出日を厳守すること。</p>			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義の概要、シラバス・試験についての説明等)	事前学習	事前にシラバスに目を通してくる。	
		事後学習	オリエンテーションの内容をまとめる。	
第 2 回	相談援助とは① (ソーシャルワーカーの役割ソーシャルワークの定義、構成要素等)	事前学習	テキスト p. 2 の事例を熟読しておく。	
		事後学習	ソーシャルワーカーの役割、定義をまとめる。	
第 3 回	相談援助の構造と機能 (ソーシャルワークの構造とニーズ、機能)	事前学習	テキスト pp. 28~43 を熟読しておく。	
		事後学習	「人と環境との関係」「社会資源」「ニーズ」についてまとめる。	
第 4 回	事例・グループディスカッション	事前学習	テキスト pp. 28~43 を熟読しておく。	
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。	
第 5 回	人と環境の交互作用 (人にとっての環境の意義、システムとは何か、システム理論とエコロジカルモデル)	事前学習	テキスト pp. 54~66 を熟読しておく。	
		事後学習	人と環境の連続性、システム理論の歴史的発展とエコロジカルモデルを理解する。	
第 6 回	事例・グループディスカッション	事前学習	テキスト pp. 54~66 を熟読しておく。	
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。	
第 7 回	相談援助における援助関係① (援助関係の意義)	事前学習	テキスト pp. 68~81	
		事後学習	環境のマイクロ・レベル、メゾ・レベル、マクロ・レベルの定義についてまとめる。	
第 8 回	事例・グループディスカッション	事前学習	配付資料を熟読しておく。	
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。	
第 9 回	相談援助における援助関係② (自己覚知)	事前学習	テキスト pp. 82~85 を熟読しておく。	
		事後学習	ソーシャルワーカーに求められる自己覚知とは何かについてまとめる。	
第 10 回	事例・グループディスカッション	事前学習	テキスト pp. 82~85 を熟読しておく。	
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。	
第 11 回	相談援助における援助関係③ (家族療法)	事前学習	テキスト pp. 86~90 を熟読しておく。	
		事後学習	家族療法の意義についてまとめる。	

第 1 2 回	相談援助の展開過程①（相談援助の展開過程）	事前学習	テキスト pp. 92～102 を熟読しておく。
		事後学習	相談援助のプロセスと構造についてまとめる。
第 1 3 回	相談援助の展開過程②（インテーク、アセスメント）	事前学習	テキスト pp. 103～122 を熟読しておく。
		事後学習	インテークとアセスメントの基本をまとめる。
第 1 4 回	相談援助の展開過程③（プランニング、支援の実施、モニタリング、再アセスメント）	事前学習	テキスト pp. 123～139 を熟読しておく。
		事後学習	ソーシャルワーク援助計画とケアプランの違い、モニタリング、再アセスメントの対象・方法・内容についてまとめる。
第 1 5 回	相談援助の展開過程④（終結、効果測定、評価、アフターケア）	事前学習	テキスト pp. 140～142 を熟読しておく。
		事後学習	支援の終結における効果測定、評価、アフターケアについてまとめる。
第 1 6 回	相談援助の展開過程⑤（予防的対応とサービス開発）	事前学習	テキスト pp. 143～147 を熟読しておく。
		事後学習	予防的対応の意義、ソーシャルアクションについてまとめる。
第 1 7 回	相談援助のためのアウトリーチ（事例含む）	事前学習	テキスト pp. 150～159 を熟読しておく。
		事後学習	アウトリーチの意義・方法・留意点についてまとめる。
第 1 8 回	相談援助のための契約の技術	事前学習	テキスト pp. 162～173 を熟読しておく。
		事後学習	ソーシャルワークにおける契約の意義・方法・留意点についてまとめる。
第 1 9 回	相談援助のためのアセスメントの技術①（アセスメントの意義）	事前学習	テキスト pp. 176～182 を熟読しておく。
		事後学習	アセスメントにおいて明らかにすべき項目を整理してまとめる。
第 2 0 回	事例・グループディスカッション	事前学習	テキスト pp. 176～182 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。
第 2 1 回	相談援助のためのアセスメントの技術②（総合的アセスメント、エコマップ、ジェノグラム）	事前学習	テキスト pp. 183～194 を熟読しておく。
		事後学習	エコマップ、ジェノグラムの使い方をまとめる。
第 2 2 回	事例・グループディスカッション（エコマップの作成含む）	事前学習	テキスト pp. 183～198 を熟読しておく。
		事後学習	事例の内容を整理してまとめる。エコマップの作成方法を復習する。
第 2 3 回	相談援助のための介入の技術（介入の意義と目的、方法、事例含む）	事前学習	テキスト pp. 200～215 を熟読しておく。
		事後学習	介入の意義、目的、方法をまとめる。
第 2 4 回	相談援助のための経過観察、効果測定、評価	事前学習	テキスト pp. 218～242 を熟読しておく。
		事後学習	モニタリングの手続、再アセスメントの手順、集団比較実験デザイン、シングルシステムデザイン等についてまとめる。
第 2 5 回	相談援助のための面接の技術①（面接の目的、展開）	事前学習	テキスト pp. 244～254 を熟読しておく。
		事後学習	代表的な面接の技術を習得する。
第 2 6 回	相談援助のための面接の技術②（面接で用いる面接の技術とコミュニケーション）	事前学習	テキスト pp. 255～263 を熟読しておく。
		事後学習	代表的な面接の技術を習得する。
第 2 7 回	相談援助のための面接の技術③（面接の技術とコミュニケーション・事例）	事前学習	テキスト pp. 255～263 を熟読しておく。
		事後学習	事例を通じて面接の技術を習得する。
第 2 8 回	相談援助のための記録の技術（具体例含む）	事前学習	テキスト pp. 264～286 を熟読しておく。
		事後学習	記録の意義、目的、種類、記録方法についてまとめる。具体例の内容を整理してまとめる。
第 2 9 回	相談援助のための交渉の技術（具体例含む）	事前学習	テキスト pp. 290～309 を熟読しておく。
		事後学習	交渉の意義、目的、方法、プレゼンテーションの内容と方法についてまとめる。具体例の内容を整理してまとめる。
第 3 0 回	総まとめ	事前学習	学習用ノートを通読しておく
		事後学習	本講義で学んだ内容について学習用ノートを使いながら復習する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4 単位)	3. 科目番号	SCMP2356 SSMP2156 SBMP2156 PSMP2456
2. 授業担当教員	水島 正浩		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・学習の理解度をみる課題を授業内で複数回行う。 *その他授業の進行状況に応じて指示します。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座Ⅶ）』第3版、中央法規出版、2015年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題（まとめ） 60% 授業への積極的参加態度 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>ソーシャルワークⅡはこれから社会福祉士・社会福祉の専門職になるために必要な理論や実践技術修得の基礎となる科目です。そのため、授業への出席、熱意ある参加、ディスカッション・作業、レポート作成などへの積極的な取り組みを望みます。授業の進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合があります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業内（初回授業）に通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業内容と進め方について	事前学習	教科書の「はじめに」を読み、学習内容の全体的なイメージをつかんでおく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第2回	第1章 相談援助とは	事前学習	教科書の第1章 (pp. 1～25) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第3回	第2章 相談援助の構造と機能①	事前学習	教科書の第2章 (pp. 27～51) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第4回	第2章 相談援助の構造と機能②	事前学習	教科書の第2章 (pp. 27～51) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第5回	第3章 人と環境の相互作用①	事前学習	教科書の第3章 (pp. 53～66) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第6回	第3章 人と環境の相互作用②	事前学習	教科書の第3章 (pp. 53～66) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第7回	第4章 相談援助における援助関係①	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第8回	第4章 相談援助における援助関係②	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第9回	第4章 相談援助における援助関係③	事前学習	教科書の第4章 (pp. 67～90) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第10回	中間まとめ1 (課題①作成)	事前学習	教科書の第1章～第4章 (pp. 2～90) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。

第 1 1 回	第 5 章 相談援助の展開過程 I ①	事前学習	教科書の第 5 章 (pp. 91~130) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 2 回	第 5 章 相談援助の展開過程 I ②	事前学習	教科書の第 5 章 (pp. 91~130) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 3 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II ①	事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 131~147) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 4 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II ②	事前学習	教科書の第 6 章 (pp. 131~147) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 5 回	第 7 章 相談援助のためのリサーチ技術①	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 149~159) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 6 回	第 7 章 相談援助のためのリサーチ技術②	事前学習	教科書の第 7 章 (pp. 149~159) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 7 回	第 8 章 相談援助のための契約の技術①	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 161~173) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 8 回	第 8 章 相談援助のための契約の技術②	事前学習	教科書の第 8 章 (pp. 161~173) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 1 9 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術①	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 0 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術②	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 1 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメント技術③	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 175~198) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 2 回	中間まとめ 2 (課題②作成)	事前学習	教科書の第 5 章~第 9 章 (pp. 91~215) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。
第 2 3 回	第 1 0 章 相談援助のための介入の技術①	事前学習	教科書の第 10 章 (pp. 199~215) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 4 回	第 1 0 章 相談援助のための介入の技術②	事前学習	教科書の第 10 章 (pp. 199~215) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 5 回	第 1 1 章 相談援助のための経過観察・再アセスメント・効果測定・評価①	事前学習	教科書の第 11 章 (pp. 217~242) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 6 回	第 1 1 章 相談援助のための経過観察・再アセスメント・効果測定・評価②	事前学習	教科書の第 11 章 (pp. 217~242) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 7 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術①	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 8 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術②	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 2 9 回	第 1 2 章~1 4 章 相談援助のための面接・記録・交渉の技術③	事前学習	教科書の第 12 章~14 章 (pp. 243~310) を読み、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第 3 0 回	総まとめ (課題③作成)	事前学習	教科書の第 10 章~14 章 (pp. 199~310) を読み、重要な点の再確認をしておく。
		事後学習	ここまでの内容について整理し、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4 単位)		3. 科目番号	SSMP2156 SBMP2156
2. 授業担当教員	村本 浄司			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループディスカッションの内容についてグループごとに授業終了後に提出する。 2. 授業の最後にその日の講義内容について課題を設定し、提出を求める。 3. レポート課題1500字以上「人と環境との交互作用についてまとめ、それに対するあなたの考えについて述べなさい」 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座7）』第3版、中央法規出版、2015年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①レポート 30% ②授業への積極的参加度 40% ③毎回の講義のまとめ 30% 			
12. 受講生への メッセージ	<p>この授業は相談援助の理解に必要なクライアント・システムやネットワーク、相談援助の過程を体系的に身につけることを目的としています。具体的には、クライアントの見方、アセスメントの方法や支援計画の立案、評価および修正までの流れを把握し、実践の場で応用でき、利用者1人ひとりについて判断できるようになることを目的とするものです。本授業を通して、実習や演習につなげられるように学んでいただきたいと思います。</p>			
13. オフィスアワー	初回の講義において発表する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション（講義内容、講師紹介等） 相談援助とは①（ソーシャルワーカーの具体的な事例、仕事からとらえたソーシャルワークの定義と枠組み）	事前学習	教科書を準備し、シラバスを確認して講義へ臨むこと。	
		事後学習	ソーシャルワークの定義についてまとめる。	
第2回	相談援助とは②（ソーシャルワークを構成する要素、ソーシャルワークの職場、ソーシャルワーカーが所属する組織）	事前学習	教科書の pp.9～26 を熟読し、ソーシャルワーカーの仕事について理解する。	
		事後学習	ソーシャルワークの方法・技能についてまとめる。	
第3回	相談援助の構造と機能①	事前学習	教科書の pp.28～37 を熟読し、人と環境との交互作用について理解する。	
		事後学習	社会資源の枠組みについてまとめる。	
第4回	相談援助の構造と機能②	事前学習	教科書の pp.38～51 を熟読し、ソーシャルワークにおけるニーズについて理解する。	
		事後学習	ソーシャルワークの機能についてまとめる。	
第5回	人と環境との交互作用①	事前学習	教科書の pp.54～58 を熟読し、人と環境について理解する。	
		事後学習	人にとって環境についてまとめる。	
第6回	人と環境との交互作用②	事前学習	教科書の pp.58～67 を熟読し、システム理論について理解する。	
		事後学習	システム理論からのソーシャルワークについてまとめる	
第7回	相談援助における援助関係①	事前学習	教科書の pp.70～80 を熟読し、ソーシャルワークのミクロ、メゾ、マクロについて理解する。	
		事後学習	ソーシャルワーカーが準ずる原則についてまと	

			める。
第 8 回	相談援助における援助関係②	事前学習	教科書の pp.81～93 を熟読し、援助の構造について理解する。
		事後学習	援助関係の効用と限界についてまとめる。
第 9 回	相談援助の展開過程 I ①	事前学習	教科書の pp.96～106 を熟読し、相談援助のプロセスについて理解する。
		事後学習	ケースの発見についてまとめる。
第 10 回	相談援助の展開過程 I ②	事前学習	教科書の pp.107～121 を熟読し、インテークの段階について理解する。
		事後学習	ニーズの確定についてまとめる。
第 11 回	相談援助の展開過程 I ③	事前学習	教科書の pp.122～136 を熟読し、支援目標の設定について理解する。
		事後学習	教科書の事例における支援計画を完成させる。
第 12 回	相談援助の展開過程 II ①	事前学習	教科書の pp.138～145 を熟読し、モニタリングについて理解する。
		事後学習	再アセスメントについてまとめる。
第 13 回	相談援助の展開過程 II ②	事前学習	教科書の pp.146～153 を熟読し、支援の終結について理解する。
		事後学習	予防的対応についてまとめる。
第 14 回	アウトリーチの意義と目的	事前学習	教科書の pp.156～160 を熟読し、アウトリーチについて理解する。
		事後学習	アウトリーチの機能についてまとめる。
第 15 回	アウトリーチの方法と留意点	事前学習	教科書の pp.161～165 を熟読し、アウトリーチの具体的方法について理解する。
		事後学習	アウトリーチを行うための留意点についてまとめる。
第 16 回	契約の意義と目的	事前学習	教科書の pp.168～172 を熟読し、契約について理解する。
		事後学習	ソーシャルワークにおける契約の意義についてまとめる。
第 17 回	契約の方法と留意点	事前学習	教科書の pp.173～179 を熟読し、契約の留意点について理解する。
		事後学習	事例に基づいて文書による契約書を作成する。
第 18 回	相談援助のためのアセスメントの技術①	事前学習	教科書の pp.182～188 を熟読し、アセスメントの特性について理解する。
		事後学習	アセスメント面接における言語反応について、ロールプレイの結果をまとめる。
第 19 回	相談援助のためのアセスメントの技術②	事前学習	教科書の pp.189～204 を熟読し、アセスメントで得るべき情報について理解する。
		事後学習	教科書の事例についてまとめる。
第 20 回	介入の意義と目的	事前学習	教科書の pp.206～212 を熟読し、介入の意義について理解する。
		事後学習	介入のターゲットについてまとめる。
第 21 回	介入の方法と留意点	事前学習	教科書の pp.213～221 を熟読し、介入の方法について理解する。
		事後学習	介入の技術や技法についてまとめる。
第 22 回	相談援助のための経過観察 (モニタリング)、再アセスメント、効果測定、評価の技術①	事前学習	教科書の pp.224～238 を熟読し、モニタリングについて理解する。
		事後学習	再アセスメントの手順についてまとめる。
第 23 回	相談援助のための経過観察 (モニタリング)、再アセスメント、効果測定、評価の技術②	事前学習	教科書の pp.239～248 を熟読し、効果測定について理解する。
		事後学習	サービス開発についてまとめる。
第 24 回	相談援助のための面接の技術①	事前学習	教科書の pp.250～260 を熟読し、面接の目的について理解する。
		事後学習	面接においてワーカーが行うことについてまとめる。
第 25 回	相談援助のための面接の技術②	事前学習	教科書の pp.261～268 を熟読し、面接に用いる技術について理解する。
		事後学習	面接の形態についてまとめる。
第 26 回	相談援助のための記録の技術①	事前学習	教科書の pp.270～283 を熟読し、記録の意義について理解する。
		事後学習	記録業務の 4 つのステップについてまとめる。
第 27 回	相談援助のための記録の技術②	事前学習	教科書の pp.284～293 を熟読し、記録の方法について理解する。
		事後学習	事例に基づいて記録を作成する。

平成 28 年度

第 28 回	相談援助のための交渉の技術①	事前学習	教科書の pp.296～303 を熟読し、交渉について理解する。
		事後学習	交渉の成果を最大にするための工夫についてまとめる。
第 29 回	相談援助のための交渉の技術②	事前学習	教科書の pp.304～315 を熟読し、交渉の技術について理解する。
		事後学習	他機関との交渉についてまとめる。
第 30 回	これまでのまとめ、国家試験について	事前学習	教科書やこれまでの講義資料を熟読し、これまでの内容を復習する。
		事後学習	国家試験過去問題を復習する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1102 GELA2302
2. 授業担当教員	藤島 薫、白井 絵里子、高柳 瑞穂、田中 良幸、西村 明子、 上木 文夫、茅野 由紀、小金澤 嘉、坂間 治子、高橋 登志子			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期/秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習 I、II、III、IV、V と 1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習 I では、これからの演習への導入として、社会福祉とは何か、社会福祉援助活動とは何か、どのように援助活動が展開されるのかという基本的学習を中心に、コミュニティ (地域) の社会学的定義、コミュニティの役割・機能、住民のニーズ (必要性) の発見と理解などに必要とする情報収集方法と社会調査方法を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習 I が終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) 社会福祉実践とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) コミュニティの社会学的な定義が明瞭にできる。 4) コミュニティの役割・機能と住民に対する福祉サービスがどのような形態で、どのような過程を通じて提供されるのか理解し、明瞭な説明が口頭及び文書でできる。 5) 初歩的なコミュニティ・ニーズの調査方法と情報収集方法の理解がされ、応用することができる。 6) コミュニティにおける福祉従事者の役割・機能の理解がされ、明瞭に説明できる。 7) コミュニティにおける福祉従事者の実践活動に必要とする知識について理解する。 8) 以上のことを報告書にまとめ、発表することができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: マズローのニーズ体系に関するレポート (A4/2 枚)</p> <p>課題 2: グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成</p> <p>課題 3: グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。</p> <p>課題 4: コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。</p> <p>まとめレポート: 課題 4 にて作成した報告書について各自でのまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房、2011 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート (課題 2・3・4) 30%</p> <p>個人レポート (課題 1) 30%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習 I のねらいと単元の解説、他己紹介、グループ編成	事前学習	ソーシャルワーク演習 I の学習用ノートを準備し講義へ臨むこと。また、これからの学習に際し、テキスト「はじめに」を熟読する。	
		事後学習	ソーシャルワーク演習 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。	
第 2 回	社会福祉とは? 社会福祉援助活動とは? 社会福祉の定義と目的、分類、活動の展開過程を知る	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~25) を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。	
		事後学習	「社会福祉とは何か」「社会福祉援助活動」について学習用ノートにまとめ提出する (学習用	

			ノートの確認)。
第 3 回	社会福祉の働き “ニーズ”とは何か？ 個人の“ニーズ”と福祉“ニーズ”の違い（もしくは同じ点）を知る 課題 1：マズローのニーズ体系に関するレポート（A4/2 枚）	事前学習	テキスト第 2 章（pp.28～51）のうち、「福祉ニーズ」について要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成。
第 4 回	地域（コミュニティ）について知る コミュニティとは何か？ コミュニティを知るための手段とは？ グループ分けと調べるコミュニティの選別 グループ毎に選別したコミュニティを調べるのに必要な資料やデータ収集	事前学習	テキスト第 3 章（pp.54～65）を熟読し、「コミュニティとは何か」「コミュニティの診断方法」についてその内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーで相談し、選別したコミュニティに関する資料とデータを収集する。
第 5 回	集めた資料やデータを整理、分析しグループレポートにまとめる 課題 2：グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成	事前学習	集められたデータをもとに、グループメンバー各自が予備的なレポートを作成する（これを用いてグループレポートを作成）。
		事後学習	グループ毎に作成したレポートをもとに、各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。
第 6 回	グループレポートの発表 1	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 7 回	グループレポートの発表 2	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 8 回	地域社会にどのような福祉のニーズがあるのか考える 希望する対象領域を考える 領域ごとのグループ編成 課題 3：グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。	事前学習	テキスト第 4 章（pp.68～76）を熟読し、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループ毎に選別した領域に関する予備的情報（制度や関連データ）を各自収集し、学習用ノートにまとめる。
第 9 回	集めた資料、データの報告	事前学習	各自がまとめたものをベースに、報告用資料をグループで作成する。
		事後学習	報告した資料の課題点、不足点についてまとめ、不足点を補足する。
第 10 回	聞き取り調査の計画（1） 聞き取り対象者の選定 質問項目の作成	事前学習	テキスト第 4 章（pp.76～86）を熟読し、「現地調査の方法」について学習用ノートにまとめ提出する（学習用ノートの確認）。
		事後学習	「キー・インフォーマント・アプローチ」及び「フォーカス・グループ・アプローチ」について学習ノートにまとめる。
第 11 回	聞き取り調査の計画（2） 聞き取り調査の依頼（協力依頼書の作成方法、電話での依頼方法について） 聞き取り調査のロールプレイ（実際の聞き取り調査を想定して、演習内で互いに調査を行ってみる）	事前学習	グループ毎に聞き取り調査における調査項目について素案を作成する。
		事後学習	ロールプレイの実施を受け、課題とその修正点について各自学習ノートにまとめる。 聞き取り調査の実施計画についてグループで最終確認の後実施する。
第 12 回	聞き取り調査の実施 課題 4：コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。	事前学習	聞き取り調査にて収集したデータ（回答）を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめたレポートを受け、各自の考察を学習用ノートにまとめる。
第 13 回	聞き取り調査の成果発表（1）	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 14 回	聞き取り調査の成果発表（2）	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 15 回	振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅱに向けての課題	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を 1 ページにまとめる（まとめレポート）。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ提出する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	GEBS2103 GELA2303
2. 授業担当教員	水島 正浩、高柳 瑞穂、上木 文夫、大嶋 泰子、茅野 由紀、 小金澤 嘉、坂間 治子、高橋 登志子、星野 弘美		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは、グループ(小集団)理論、グループ・ダイナミクス理論を基礎にして、グループワーク(集団援助技術)の学習をする。特に、実践グループワークの方法を中心に、目標の設定方法、グループの構成方法、グループ・プロセス、リーダーシップ、凝集性、メンバーの役割、相互作用、グループの発達段階などを演習グループの体験を通じて学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待される。 「学生自身がグループワークを使用できる最小限度の知識と技術の習得を目的とする」 より詳細には、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ(小集団)とは何か、その基本的知識、特性の理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) グループ・ダイナミクス理論とその主要概念の理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) グループワークの歴史的発展、目的、特質、援助技術としての位置づけについて理解ができ、明瞭な説明ができる。 4) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)について各々の特質の理解ができ、説明ができる。 5) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)についてのワーカーの知識、技術、役割、機能の理解ができ、説明ができる。 6) グループ・プロセス(過程)の理解ができ、説明ができる。 7) グループワークを行ううえでの最低の技術(リーダーシップ、個々のメンバーとグループ全体にどのように関わるか、プロセスの促進、凝集性の発達、葛藤の解決、コミュニケーション能力の発達など)に関しての基本的理解ができ、説明ができる。 8) 図工、音楽、ゲーム、行事などのプログラムを媒介役として、相互作用、凝集性の促進、役割・責務の遂行などについて理解ができ、実行することができる。 		
9. アサイメント (宿題)及びレポート課題	<p>課題1：自分がこれまで関わったグループ(小集団)(例：仲良しグループ、学級、高校の同窓会、勉強会、趣味のグループ等)を題材に、次にあげるグループの特性について例をあげて説明せよ(A4/3枚)。 ①どのような目的のグループか ②どのようにしてグループが作られたのか ③メンバーは何人か ④どのくらいの期間、継続しているのか ⑤どのくらいの頻度で会合を開いているのか ⑥グループの特性は何か ⑦あなたがグループに属する理由は何か ⑧今までにグループを止めた人はいるか、それはどのような理由からか ⑨グループの中心になっている人がいるか、それはどのような人格の人か ⑩グループの中で意見の相違、お互いの葛藤が生じた場合、どのように相違や葛藤を解決したか</p> <p>課題2：グループワークに関する文献を調べ、下記の「概念」の意味について自分の言葉で説明せよ(A4/3枚)。 ①グループ・ダイナミクス ②規範 ③役割 ④相互作用 ⑤凝集性 ⑥グループの発達段階 ⑦グループワーカーの役割と機能 ⑧メンバーの役割と機能</p> <p>課題3：リーダーシップ理論についてその概念についてまとめよ。(A4/2枚)。 まとめレポート：グループワークに関するまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】保田井進・硯川眞旬・黒木保博『福祉グループワークの理論と実際』、2010年。 【参考書】平山尚・武田丈『人間行動と社会環境』、2004年。 野村豊子 監訳『グループワーク入門』中央法規、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~3) 60% まとめレポート 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 7. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 8. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 9. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 10. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 6. 受講生全体に関こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 7. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 8. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 9. 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション グループとは何か 自分が体験したグループの目的、特徴、何が自分のためになったか。グループの良い点と悪い点はなにか。 演習Ⅱの学習目標は何か、何を、どのように学習するか。 (グループの目的と、個々のメンバーの目的は何か)	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2～9) の内容をまとめる
		事後学習	課題 1 の作成と提出
第 2 回	グループワーク基本的概念を理解する 相互作用、過程、規範、力動、凝集性、自己開示とはなにか体験してみる。 グループワークの歴史発達を理解する。 グループワークと他の実践技術との関係を理解する。	事前学習	参考書『グループワーク入門』第 2 章 (pp.71～98) の内容をまとめる
		事後学習	課題 2 の作成と提出
第 3 回	グループワークの理解の枠組み：グループの発達段階 (準備期、開始期、作業期、終結期) グループワークのプロセスを学習する。 グループワークの記録の方式を学ぶ。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52～61 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	グループワークの記録について学習したことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 4 回	新しいグループを構成する 準備期：グループの計画 施設・機関のニーズを知る。どのようなグループを構成するか、参加者の募集 (高齢者の孤立を解消する、児童養護施設での行動問題がある子どもの矯正グループ、統合失調症患者の家族のためのグループなど)。 グループワークの計画書を作成する。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52～53 を熟読し、グループ計画書を作成する。
		事後学習	構成されたグループメンバーにてグループワークの計画書を完成させる。
第 5 回	準備期 「契約書」を作成し、ワーカーとメンバー間で交換する。 グループワークの評価方法をきめる。	事前学習	テキスト p.77「評価の方法」を読み、その内容をまとめる。
		事後学習	講義内で用いた契約書をもとに、再度契約書を作成し提出する。
第 6 回	開始期 グループをどのように始めるか。「アイスブレイカー」を用意する。 ワーカーはグループ全体と個々のメンバーとの関係をつくる技術 (メンバーの経験を普遍化する技術、メンバーのグループ・過程に参加を促進する技術) の習得。 グループのルール (規範) について話し合う。	事前学習	アイスブレイクに必要なアイデアを考えまとめる。
		事後学習	テキスト pp.53～56 の内容を A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 7 回	開始期 「コミュニケーション技術の基本」を学習する。 メンバーの自己開示を促進する技術の習得。 メンバー間の思考、感情、行動を連携させる技術の習得。 リーダーシップについて。	事前学習	第 6 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	課題 3 の作成と提出
第 8 回	作業期 グループ過程を明確化する技術。プロセスの促進する技術、凝集性を発達する技術の習得。メンバーの役割を理解する技術、「葛藤解決技術」習得の習得。	事前学習	テキスト pp.56～59 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	講義で取り上げた技術について 1 つを選択し、その内容についてまとめる。
第 9 回	作業期 「問題解決技術」と「認知再構成技術」の習得。	事前学習	第 8 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	問題解決技術もしくは認知再構成技術について 1 つを選びその内容を A4 用紙 1 枚にまとめる。
第 10 回	作業期 メンバーの役割を理解する技術の習得。 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.62～68 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	教員から提示されたプログラム活動についてその内容をまとめる。
第 11 回	作業期 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。 ソシオグラム (Sociogram) を作る。	事前学習	プログラム活動案を作成し、講義内でメンバーからフィードバックを受ける。
		事後学習	ソシオグラムについて学習したことを用いて家族のそれを作成する。
第 12 回	作業期 グループ内と外の社会資源を探し、有効に利用する技術 (例：精神障害者の家族のための心理・教育グループ)。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.68～72 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	特定のグループを想定し、そのグループに提供可能な身近で具体的な社会資源についてあげ、その活用と意義についてまとめ提出する。
第 13 回	終結期 グループの終結の準備 (終結の予告をして、メンバーの終結に対する感情の話し合い)。	事前学習	テキスト pp.59～61 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	グループで実践してみる「終結作業」を通じて学び、感じたことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 14 回	グループワークの評価方法を応用	事前学習	テキスト第 8 章 pp.73～81 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	これまで行ってきたグループ活動を通じてグループワークにおけるソーシャルワーカーの機能と役割について A4 用紙 3 枚にまとめて提出する (まとめレポート)。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生が演習Ⅱで学んだことは何であって、どの程度学習目標の達成ができたか。	事前学習	テキスト第 9 章 pp.82～88 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3160
2. 授業担当教員	上木 文夫、上野 義光、大嶋 泰子、白井 絵里子、鄭 春姫、中里 哲也、久次 奈美、星野 弘美			SCMP3460
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期/秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲでは、ケースワークの基本技術として、他者理解と自己理解について考えることから、人間関係形成に必要な技術、また基本的な面接技術とコミュニケーションに焦点をあてて、必要な専門知識と技術を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間行動に関する心理学理論について理解を深め、その概要を説明することができる。 2) クライエントに対する姿勢について理解を深め、実践することができる。 3) 基本的コミュニケーション技法について理解し、実践することができる。 4) 基本的応答技法について理解し、実践することができる。 5) 面接技法について理解し、それを用いてクライアントの問題や課題をアセスメントすることができる。 6) 以上のことを総合的に理解し、ソーシャルワークにおける面接を展開することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1: 個人 (人) を理解する上で必要となる精神分析理論について、その主要概念について説明しなさい。 課題2: 面接における基本的応答技法について、技法がもたらす効果について簡潔に説明しなさい (第9・10回の学習をまとめる) 課題3: 事例を用いて面接を実施し、自らの面接技術に関し他者からの評価を受け、また自己評価を行う まとめレポート: ソーシャルワークⅢにて学習したことに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。 【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2004年。 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座 第7巻)』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート 30% 個人レポート 40% まとめレポート 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 12. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 13. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 14. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 15. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 11. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 12. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 13. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り ソーシャルワーク演習Ⅲのねらいと単元の解説	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びをレポートにまとめる。	
		事後学習	参考書『人間行動と社会環境』第2章 (pp.10~33) を熟読し、その内容をまとめる。	
第2回	人を理解する (1) 精神分析理論について学習する: 精神分析理論の主要概念について理解を深める 行動理論と学習理論について学習する: 行動理論と学習理論の主要概念について理解を深める	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第3章1 (pp.35~38) を熟読し、その内容をまとめる。	
		事後学習	課題1の作成 (授業内で示された提出期限厳守)	

	学んだ人間行動に関する心理学理論が、どのように人間行動の理解に用いられるのかを事例をもとに検証する		
第 3 回	人を理解する (2) 心理社会理論について学習する：心理社会理論の主要概念について理解を深める 人間の発達過程について理解を深める 事例を用いて人間行動に関して心理社会理論を使用して分析・検証する	事前学習	参考書『人間行動と社環境』第 4 章 (pp.64~88) を熟読し、その要点をノートにまとめる。
		事後学習	心理社会理論について口頭で説明ができるよう、その内容を確認する。
第 4 回	ソーシャルワークにおける面接の目的・特性理解 「会話」と「面接」の相違点について理解し、面接の形態 (構造化面接と生活場面面接)、面接実施の基盤となる考え方について理解を深める	事前学習	テキスト pp.100~111 を読みその内容をまとめる。
		事後学習	「会話」と「面接」の相違点について口頭で説明できるよう、学習内容をノートにまとめる。
第 5 回	クライアントに対する姿勢：距離について考える 人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する	事前学習	自分自身の日常生活を振り返り、人と接する際の距離について考え、どのような距離感をもっているかをノートにまとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり適切な距離とは何か演習を通じて学んだことをレポートにまとめ提出する。
第 6 回	クライアントに対する姿勢：バイステイックの 7 原則の実践 専門的対人援助関係形成のための原則について再確認する	事前学習	バイステイックの 7 つの原則について、その内容を調べ、まとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり、その人間関係形成とバイステイックの 7 原則との関係性をノートにまとめる。
第 7 回	面接における技術：面接におけるコミュニケーションについて理解する 基本的コミュニケーション技法について、その原則について理解を深め、ロールプレイを用いて習得する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、コミュニケーションの特質 (癖や傾向) について気づいたことをノートにまとめる。
		事後学習	基本的コミュニケーション技法について、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてレポートにまとめ提出する。
第 8 回	面接における技術：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 言語・非言語的コミュニケーションの意義を理解し、その活用方法についてロールプレイを用いて実践する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、非言語的コミュニケーションについて気づいた事をノートにまとめる。
		事後学習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてノートにまとめる。
第 9 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (1) 「反射」について理解し、技術を習得する 単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112~116 を熟読したうえで、p.112 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「反射」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 10 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (2) 「感情の反射」「適切な質問」について理解し、技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112~116 を熟読したうえで、p.92 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「感情の反射」「開かれた質問と閉ざされた質問」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 11 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 10 回までに学んだことを振り返り、コミュニケーションと応答技法についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 12 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 9 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 13 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	面接のロールプレイを実施し、明らかとなった自己の課題について明確にし、ノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 14 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	第 13 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生がソーシャルワーク演習Ⅲで学んだこと、学習目標の達成度を評価する	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲを通じて学んだこと、課題となったことをノートにまとめる。
		事後学習	コミュニケーションと面接技法に関し、実習及び実践を行う上で自身の評価できる点と改善点をレポートにまとめ提出する (まとめレポート)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3161 SCMP4461 PSMP3461
2. 授業担当教員	藤島 薫、大門 俊樹、石井 三智子、上木 文夫、上野 義光、 中里 哲也、星野 弘美			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に把握します。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論についても学習を深めます。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2：事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3：グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4：社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に関する知識や理論を深める。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：認知理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題2：課題中心理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題3：システム (家族療法) 理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>まとめレポート：ソーシャルワーク実践アプローチに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 川村隆彦著『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版、2011年。</p> <p>【参考書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』中央法規出版、2015年。 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート (課題1～3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は以下の条件を守って下さい。</p> <p>16. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講しましょう。受講生には積極的な態度を望みます。</p> <p>17. 自ら進んで教員に質問しましょう。理解できないことをそのまま放っておかないようにしましょう。</p> <p>18. 授業は欠席、遅刻、早退をしないで下さい。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告して下さい。</p> <p>19. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意して下さい。</p> <p>20. 授業中、私語、居眠り、携帯電話などの操作は緊急時以外、絶対にしないで下さい。</p> <p>また教員は、以下のことを実行します。</p> <p>14. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>15. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>16. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>17. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します)	事前学習	テキスト pp.76～83 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。	
	認知理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。	
第2回	認知理論・アプローチ② (事例を通してクライアントの考え方の傾向に気づかせることを学びます)	事前学習	テキスト pp.83～86 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。	
		事後学習	支援プロセスについてノートにまとめる。	

第 3 回	認知理論・アプローチ③ (事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます)	事前学習	テキスト pp.86～87 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ABC 理論についてノートにまとめる。
第 4 回	認知理論・アプローチ④ (事例を通して、クライアントの非合理的な考え方を論駁することについて学びます)	事前学習	テキスト pp.87～89 を熟読し、不明な点は明らかにし、箇条書きにしてノートにまとめ、授業へ臨む。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 5 回	認知理論・アプローチ⑤ (事例を通して合理的な考え方を学び、それを訓練することについて学びます) 小まとめ *課題 1	事前学習	テキスト pp.92～94 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 6 回	課題中心理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.132～138 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 7 回	課題中心理論・アプローチ② (事例を通して、ターゲット問題を選択することを学びます)	事前学習	テキスト pp.138～141 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	ターゲット問題についてノートにまとめる。
第 8 回	課題中心理論・アプローチ③ (事例を通して、目標と課題を設定する(契約)ことを学びます)	事前学習	テキスト pp.141～143 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題中心アプローチにおける契約についてノートにまとめる。
第 9 回	課題中心理論・アプローチ④ (事例を通して、課題を遂行し、アセスメントを行うことを学びます)	事前学習	テキスト pp.143～145 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 10 回	課題中心理論・アプローチ⑤ (事例を通して、終結について学びます) 小まとめ *課題 2	事前学習	テキスト pp.145～147 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 11 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.165～173 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 12 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ② (事例を通して、ジョイニングにより関係を形成し、主訴を確認することを学びます)	事前学習	テキスト pp.173～178 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 13 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ③ (事例を通して、情報収集と仮説設定をすることを学びます)	事前学習	テキスト pp.178～180 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 14 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ④ (事例を通して、働きかけることを学びます)	事前学習	テキスト pp.180～182 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 15 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ⑤ (事例を通して、再情報収集・仮説設定・働きかけの循環を行うことを学びます) まとめ *課題 3	事前学習	テキスト pp.183～186 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 3 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 V (2 単位)		3. 科目番号	SSMP4162
2. 授業担当教員	青木 正、上野 義光、大嶋 泰子、久次 奈美、星野 弘美			SCMP4462 PSMP4462
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習 I、II、III、IV、V と、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習 V では、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的な目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8)終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習 V が終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標 1: 授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標 2: 授業内容にある事例の中に含まれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標 3: 自らの相談援助の場面を想定して、目標 1、目標 2 を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題 1: 前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>課題 2: 後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>まとめレポート: 事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第 2 版、中央法規、2015 年。</p> <p>【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005 年。 障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題 1~2) 50%</p> <p>まとめレポート 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。そのため受講生は次の条件を守ってください。</p> <p>21. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って積極的な態度で受講する。</p> <p>22. 自ら進んで教員に質問する。理解できないことはそのまま放っておかない。</p> <p>23. 欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告する。</p> <p>24. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしない。</p> <p>教員は以下の方針で授業を行います。</p> <p>18. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>19. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>20. 双方向対話型の学習によりディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう環境を作る。</p> <p>21. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション(授業の進め方等) 障害者の就労支援に関する相談援助 ① ※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、職場(環境や集団)や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要のあることを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 25 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。		事前学習	テキスト pp.268~271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
			事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 2 回	障害者の就労支援に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション		事前学習	第 1 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。

		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 3 回	病院からの退院に関する相談援助 ① ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、専門職がチームを組んで支援する必要のあることを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 27 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.276～279 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 4 回	病院からの退院に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 3 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 5 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ① ※ DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談援助事例をもとに、DV とはどのようなものか、その特質を理解し、「DV 防止法」をもとに DV が被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 28 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 6 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 5 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 7 回	虐待児童への相談援助 ① ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、発達障害とネグレクト（育児放棄）が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿（環境）と児童のもつ力（ストレングス）を調整しながら支援することを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 30 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 8 回	虐待虐待への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 7 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 9 回	低所得者への相談援助 ① ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源（環境）を活用しながら自立に向けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 34 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 10 回	低所得者への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 9 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 11 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ① ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方について学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 37 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 12 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 11 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 13 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ① ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけの内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 38 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 14 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 13 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 15 回	まとめ ※ 第 1 回～第 14 回授業を振り返り、援助の重要ポイントを押さえる。	事前学習	授業で配布されたレジュメ、事前・事後学習ノートの内容を整理し、ソーシャルワーク演習 V での学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2180 PSMP2480
2. 授業担当教員	鹿内 佐和子、大門 俊樹、高柳 瑞穂、谷口 恵子、西村 明子、大嶋 泰子、小金澤 嘉、鹿内 佐和子			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 3) 資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 4) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容について、まとめなさい。</p> <p>課題 2: 実習配属施設・機関に関して、その関連法令、規定されたサービス内容等施設・機関の概要についてまとめなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未取得者への実習配属は行わない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 26. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 27. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 28. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 29. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 22. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 23. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 24. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明		事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
			配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、『学習の手引き』、学生調査票
第 2 回	・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制についての理解 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用)		事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
			事後学習	「ソーシャルワーク実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。
第 3 回	・相談援助実習の位置付けについて理解する (テキスト pp.2~18) ; 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める		事前学習	テキスト pp.2~18 を熟読する
			事後学習	「なぜ実習が必要なのか」についてノートにまとめ提出する。
第 4 回	・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の理解 (テキスト pp.19~34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用) ; 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める		事前学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。
			事後学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、東京福祉大学の実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の目標についてノートにまとめる。
第 5 回	・「相談援助実習」(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) が可能な施設・機関の紹介と説明 (テキスト pp.55~64 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ; 法定施設・機関の紹介と希望種別の選択		事前学習	テキスト pp.62~69 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
			事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。

	・実習形態に関する理解 (テキスト pp.65~68)		
第 6 回	・事前学習として実習先を理解する意義 (テキスト p103~106) : 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる (課題 1) ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題 1 の作成 (講義内で示される提出期限厳守)。
第 7 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成 (実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		配布物	実習配属通知、個人調査書 (実習先提出用) 実習記録必要書式のコピー (施設概要及び実習プログラム案下書き用紙)
第 11 回	・配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法 (テキスト p.123~139) ・個人調書等書類の作成 (社会福祉士資格取得の動機の明文化)	事前学習	「社会福祉士を目指す動機」「思い描く社会福祉士像」について言語化できるようまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第 12 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	テキスト pp.142~146 を熟読し、「3 段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
		配布物	「事前訪問について」
第 13 回	・実習計画の作成 (テキスト pp.147~154) : 実習計画 (本学では「実習プログラム (案)」とする) の意義と作成についての理解を深める ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	テキスト pp.147~154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・「契約としての実習」についての理解 (テキスト pp70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性和重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	事前訪問に向けた準備を行う。
第 15 回	・見学実習 (事前訪問) の最終確認 ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導 II に向けた課題	事前学習	事前訪問日時について実習指導者へ電話連絡のうえ、訪問日時を明確にする。
		事後学習	ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習指導 II に向けた自己課題についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (C) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3481
2. 授業担当教員	大門 俊樹、大嶋 泰子		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク実習の実施に向けて、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習における課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルワーク実習で確認すべき各種相談援助技術について、明確に説明できる。 2) ソーシャルワーク実習配属実習施設・機関の関連法制度、規定されているサービス内容に関して、明確に説明することができる。 3) ソーシャルワーク実習に対する抱負及び動機に関して言語化できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1: 本学のソーシャルワーク実習において、その目標を達成するための具体的な実習内容について示しなさい。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】 川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 50%</p> <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 30. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 31. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 32. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 33. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 34. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 26. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 27. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 28. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート (ファイル) の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。
		事後学習	ソーシャルワーク実習実施上の課題についてノートにまとめる。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の理解 (1) (テキスト pp.104~122) : 事前学習として各分野における実習の在り方について理解を深める。 	事前学習	テキスト第 2 部第 7 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の理解 (2) (テキスト pp.104~122) : 第 2 回に引き続き、第 2 部第 7 章に示す、実習先理解を深める。 	事前学習	テキスト第 2 部第 7 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法 (1) (テキスト pp.124~140) : 施設、機関、また地域の社会福祉サービス利用者についての理解を深める。 	事前学習	テキスト第 2 部第 8 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。

第 5 回	・実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法 (2) (テキスト pp.124~140) : 第 4 回に引き続き、第 2 部第 8 章に示す、社会福祉サービス利用者の理解を深める。	事前学習	テキスト第 2 部第 8 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 6 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~157) : 相談援助実習の構成と求められる内容について理解を深める。	事前学習	テキスト第 2 部第 9 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 7 回	・実習経験と学習「基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成」(テキスト pp.166) : サービス利用者とのコミュニケーションの方法と信頼関係の形成について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 部第 2 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 8 回	・実習経験と学習「利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成」(テキスト pp.174) : ニーズの把握から支援のための計画作成までの方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 3 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 9 回	・実習経験と学習「利用者やその関係者との援助関係の形成」(テキスト pp.182) : 利用者支援に必要となる関係者との関わり方とその必要性について理解を深める。 ・実習経験と学習「利用者やその関係者への権利擁護及び支援」(テキスト pp.191) : 利用者及び関係者に対しての権利擁護とはどのようなものなのか理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 4 節及び第 5 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 10 回	・実習経験と学習「チームアプローチの実際」(テキスト pp.196) : ソーシャルワーク実践におけるチームアプローチの意義と方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 6 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 11 回	・実習経験と学習「社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解」(テキスト pp.203) : 専門職倫理が実践の根底にあることの意義と、実習における専門職倫理へのアプローチの方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 7 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 12 回	・実習経験と学習「実習機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解」(テキスト pp.209) : ソーシャルアドミニストレーションについて理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 8 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 13 回	・実習経験と学習「地域社会の一員としての実習機関・施設の理解」(テキスト pp.216) : 社会福祉機関・施設の社会化について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 9 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 14 回	東京福祉大学 ソーシャルワーク実習の目標理解 (『ソーシャルワーク実習の手引き』使用) : これまで学習してきたことと、本学の実習目標との相互関係を確認し、実習プログラムの作成方法について理解を深める。(課題 1)	事前学習	東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』を熟読し、実習目標について理解を深める。
		事後学習	実習目標に沿った実習プログラム(案)についてまとめる。
第 15 回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (J) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3181
2. 授業担当教員	白井 絵里子		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク実習の実施に向けて、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習における課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門職実習、つまりソーシャルワーク実習（相談援助実習）で求められ、確認すべき専門技術について明確に説明することができる。 2) 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習計画を立案できる。 3) 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4) 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習配属施設・機関の施設概要について規定の書式にまとめなさい。</p> <p>課題 2: ソーシャルワーク実習 実習プログラム (案) の作成</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】 川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30%</p> <p>課題 2 30%</p> <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 35. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 36. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 37. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 38. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 39. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 29. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 30. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 31. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 32. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート (ファイル) の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。
		事後学習	ソーシャルワーク実習実施上の課題についてノートにまとめる。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.196～211) : 第 1 節・第 2 節 	事前学習	テキスト第 12 章第 1・2 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.212～224) : 第 3 節・第 4 節 	事前学習	テキスト第 12 章第 3・4 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。

第 4 回	・相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.225～237）： 第 5 節・第 6 節	事前学習	テキスト第 12 章第 5・6 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるかを考察しノートにまとめる。
第 5 回	・実習記録の理解（テキスト p.256）： 実習記録の意義、書き方、取り扱い等に関する説明 実習記録の書き方演習 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解	事前学習	テキスト pp.257～268 を熟読し、記録の意義と記入の際の留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	第 5 回で配布された実習日誌（コピー・練習用）に記録を記入し、添削を受ける。
第 6 回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成（実習への抱負の明文化） ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	配属施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
第 7 回	・相談援助実習の仕組み（テキスト pp.167～175）： 望まれる相談援助実習の在り方（3段階実習プログラム）を踏まえてソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する	事前学習	テキスト pp.167～175 を熟読し、「3 段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	レジデンシャルソーシャルワークとフィールドソーシャルワークについてノートにまとめる。
第 8 回	・実習計画の作成（テキスト pp.182～186）： 実習計画の意義と作成についての理解を深める	事前学習	テキスト pp.182～186 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	講義での学習を踏まえて実習計画書（案）を作成する。
第 9 回	・ソーシャルワーク実習 施設概要の作成： 施設概要作成に関する説明 ・ソーシャルワーク実習 実習計画の作成： 実習計画書の記入と添削	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第 10 回	・ソーシャルワーク実習 施設概要の作成：施設概要作成 ・ソーシャルワーク実習 実習計画の作成： 実習計画書の記入と添削・確認	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第 11 回	・巡回指導の理解（テキスト pp.270～287）： 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp.270～287 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
第 12 回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解（1） ・見学実習（事前訪問）に向けた準備： 見学実習（事前訪問）の目的と意義の確認	事前学習	実習計画（案）内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第 13 回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解（2） ・見学実習（事前訪問）に向けた準備： 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	実習計画（案）内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第 14 回	・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む）	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	守秘義務についてノートにまとめる。
第 15 回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3181 PSMP3481
2. 授業担当教員	水島 正浩、青木 正、高柳 瑞穂、谷口 恵子、西村 明子、大嶋 泰子、高橋 登志子、久次 奈美、星野 弘美			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習プログラム(案)の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 3) 記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 4) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 5) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題 1: 実習プログラム(案)の作成 課題 2: ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』(第2版)、中央法規、2014年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 40. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 41. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 42. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 43. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 44. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 33. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 34. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 35. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 36. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明:シラバスを用いて今後の講義の進め方、また実習(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習)との関連について理解を深める ・実習に向けての不安・課題についての話し合い 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート(ファイル)の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。	
		事後学習	講義での話し合いを踏まえ、ソーシャルワーク基礎(またソーシャルワーク実習)実施上の課題についてノートにまとめる。	
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録及び下書き用紙、健康診断・細菌検査について	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践(テキストpp.160~181):第1節~第3節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム(案)の作成:ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認 	事前学習	テキスト pp.160~181 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	実習プログラム(案)を作成し、教員の添削を受ける。	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践(テキストpp.182~202):第4節~第6節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム(案)の作成:実習計画書の記入と添削 	事前学習	テキスト pp.182~202 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	添削された実習プログラム(案)を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から	

			確認印を受ける。
		配布物	実習開始に関する諸注意、細菌検査容器、福祉実習に伴う欠席届について、巡回教員への挨拶用紙
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.203～223）：第 7 節～第 9 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成：施設概要作成に関する説明 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成（課題 1）：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 <p>※この週から第 7 回の週の期間中にソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削指導を受けた実習プログラム（案）を実習指導者へ提出、協議を行う。</p>	事前学習	テキスト pp.203～223 を読み、実習活動について理解を深める。
		事後学習	添削された実習プログラム（案）を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。 確認を受けた実習プログラム（案）を実習先実習指導者へ訪問のうえ提出し、その内容を協議する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解：実習記録の意義、記入方法、取扱い等に関する説明と書き方演習（テキスト pp.226～238） ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成：スーパーバイザーとの協議の結果、実習プログラム（案）をまとめる 	事前学習	テキスト pp.226～238 を読み、記録の意義、内容について理解を深める。
		事後学習	実習先指導者との協議のうえ、確定した実習プログラム（案）をまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習スーパービジョン・巡回指導の理解（テキスト pp.239～252）：巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する <p>※ここまで巡回担当教員との面接を終えていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成：作成された施設概要の確認 	事前学習	テキスト pp.239～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	実習巡回指導教員への挨拶用紙を作成し、実習巡回教員への挨拶と打合せを行う。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習に向けて最終確認：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.38～42・p.54 を熟読し、実習中の留意事項について理解する。
		事後学習	実習生の義務と権利について学習したことをノートにまとめる。
		配布物	細菌検査結果（該当者のみ）、ソーシャルワーク基礎実習終了後の諸注意、実習記録提出証明書、実習誓約書
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り：ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ・ソーシャルワーク基礎実習の学習効果と課題の整理：ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成（課題 2） <p>※確認事項：実習記録の提出、お礼状の送付</p>	事前学習	実習記録の整理 自己評価の実施
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で提示される提出期限厳守）。
第 9 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）①	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習の目的と内容の理解：ソーシャルワーク実習の全体像と目的、課題について理解する 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 p.9 を熟読する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習においてすべきこと がらについてノートにまとめ、口頭で説明できるようにする。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の評価： 返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.20～の実習プログラミングの実習先 該当箇所に目を通す。
		事後学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録（実習評価） 返却、ソーシャルワーク実習記録、ソーシャルワーク実習プログラム（案）下書き用紙
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び 	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。

	「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事後学習	事例をもとに「ソーシャルワークケース記録」の記入を行い提出する。
第 14 回	・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認を受ける。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員と協議した実習計画（案）を、実習先指導者へ提出、協議を行う（ソーシャルワーク実習事前訪問の実施）。
		配布物	ソーシャルワーク実習開始にあたっての諸注意
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	ソーシャルワーク実施に向けた自己課題をノートに記載する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習に必要な資料を収集し、事前学習を進める。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3182 PSMP3482
2. 授業担当教員	水島 正浩、青木 正、谷口 恵子、西村 明子、大嶋 泰子、 小金澤 嘉、高橋 登志子、久次 奈美、星野 弘美			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、ソーシャルワーク実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置付けている。(実習) 実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び(実習) 実践へと結び付ける。(実習) 実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。なお、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ講義内での指導内容は、帰校指導記録を用いて実習先指導者へ定期的に報告することとなる。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的なアプローチについて明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任について明確に説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 1～5：講義日程にて示す通り ・実習報告書の作成 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】 川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1～5 30% 実習報告書 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 45. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 46. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 47. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 48. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 49. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 37. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 38. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 39. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・ソーシャルワーク実習 実習計画書の確認 		事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成、配属施設実習指導者より確認を得た実習計画書と照らし合わせ、具体的に実習で行いたい事をノートにまとめる。
			事後学習	実習計画をもとに、30 回の実習をより具体的にマネジメントする。

第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：アセスメントについて 	事前学習	支援過程とアセスメントの方法についてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ソーシャルワークケース記録情報収集とアセスメントについて事例を用いて実際に記入し、提出する。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：ジェノグラムとエコマップについて ・プランニングについて ・帰校指導について説明・理解 	事前学習	ジェノグラムとエコマップについてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ジェノグラムとエコマップについて事例を用いて実際に作成、提出する。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：インターベンション・結果と評価 	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・他職種連携とチームアプローチについての理解：実習施設・機関の他職種・他職員とのチームアプローチのあり方についてまとめる（課題 1） 	事前学習	実習時に実習先で実践されている他食連携について指導者より指導を受けその内容を記録にまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 	事前学習	課題 1 についてまとめる。
		事後学習	実習時に課題 2 の作成に必要な情報について質問等を通じて収集する。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・地域社会への働きかけについての理解：実習施設・機関と関わる社会資源についてまとめたうえで、その関連性と働きかけの方法についてまとめる（課題 2） 	事前学習	実習先の社会資源について調べ、記録にまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・クライアントへの援助実践についての理解：クライアントへの支援において適用できる実践アプローチについて考察する（課題 3） 	事前学習	担当しているケースについて、情報を整理する。また、ソーシャルワークの実践アプローチについて内容を確認する。
		事後学習	課題 3 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
		配布物	実習報告書について、ソーシャルワーク実習Ⅱアンケート（Sのみ）
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・専門職の倫理綱領と実践についての理解：実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題 4） 	事前学習	実習において実践活動及び職員の行動を観察のうえ、専門職倫理との関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題 4 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換 	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換 	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
		配布物	実習終了時の諸注意 実習記録提出証明書
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 ・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換 ・実習の評価について理解する（テキスト pp.290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）：実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・実習報告書の作成について（説明） 	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める：自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映すると考えるかまとめる（課題 5） 	事前学習	実習活動を通じて自己について振り返り、価値観と実習行動等の関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題 5 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習後の学習課題（テキスト p.310）：目標と結果の照合、今後の課題について明確化する 	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。

1. 科目名 (単位数)	体育科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2390 SJMP2290 EDEL2313
2. 授業担当教員	小谷川 元一		
4. 授業形態	1 理論 導入：講義から課題の把握→展開Ⅰ：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→発表→講義のまとめ 2 演習 (指導案の作成と模擬授業による確かめ) 導入：指導法を形にする方法の講義→展開Ⅱ：特性に応じた指導案の作成→グループ内での検討→模擬授業→考察→指導案のまとめ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	(1) 体育科には教科書がないため、指導方法は、教師の裁量によって行われる。そこで、本講義の学習によってどの児童にも体育科の運動の楽しさや喜びを体得させる指導法を身に付ける。具体的には、体育科の学習指導のポイントを運動特性に基づいて理解を図る。 (2) 一般的な特性と児童から見た特性の融合を図ることが、よい授業に結び付くことを映像を通して理解する。 (3) 演習として、実際の授業を通して、授業分析の方法を理解するとともに、学習評価を行い、指導と評価の一体化を図ることの重要性を学び、説明することができる。		
8. 学習目標	以下の目標とその内容は、模擬授業を通して実践的に理解することを目的とする。なお、本講義によって身につけた指導法は教育実習にて試行するなどして児童の実態に即した指導方法として改善し、教師となった際の力とする。 (1) 小学校体育科の目標とその内容を理解するとともに、指導の進め方とその際の技能的なポイント、態度や思考・判断の留意事項などは、学習指導案を教師の指導言葉によって具体的に記述するなどして、身につけることができるようになる。 (2) 学習評価の在り方を評価規準まで掘り下げて理解することを通して、指導と評価の一体化の理解を図ることができるようになる。 (3) 模擬授業を体験することにより、授業の実際を体験し、よい授業の条件を理解できるようになる。 (4) 現場の教師との対話から児童の反応と運動の技能等を身に付けさせる言葉掛けの実際を把握できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 テキスト『教師と親の『共育』で防ぐ いじめ・学級崩壊』の学習指導案を参考に学習指導案を作成する。(個人) 課題 2 グループに分かれて検討を重ね指導案発表会で発表する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『小学校学習指導要領 体育編』 小谷川元一著『教師と親の『共育』で防ぐ いじめ・学級崩壊』大修館書店、2007。 【参考書】高橋健夫・小谷川元一他編著『新版 体育科教育学入門』大修館書店、2010。 高橋健夫監修『優れた体育授業を観る (DVD 編)』文部科学省科学研究補助金、2007。 高橋健夫編著『体育授業を観察評価する』明和出版、2003。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度 50% 課題 1 (指導案作成) 20% 課題 2 (発表内容) 30%		
12. 受講生へのメッセージ	・体育は他教科にない特性を持ち、学級経営の成功のための大きなカギを握ります。「体育の授業が上手にできればよい教師である」といっても過言ではありません。運動特性を捉えた上で、模擬授業等を参観することにより、現場ですぐに役立つ指導技術を身に付けることをめざしています。私自身の 25 年間にわたる体育授業実践のノウハウを伝授し、子どもたちに感動を与えられる教師をめざしましょう。 ・集中講義には必ず参加してください。(期日・会場等は授業の中で説明します)		
13. オフィスアワー	研究室在室時はいつでも結構です。皆さんの来室をお待ちしております。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 講義 体育科の特性と目標 「学校体育の可能性を問い直す」	事前学習	シラバスをもとに学習の見通しを持つ
		事後学習	体育科の特性と目標をワークシートに記入する
第 2 回	講義 体育科の領域構成 体育科学習指導案の作成の仕方	事前学習	体育科の領域構成についての資料収集をする
		事後学習	体育科の領域構成をワークシートに記入する
第 3 回	グループワーク 「体育科学習指導案作成」	事前学習	体育科学習指導案を作成する
		事後学習	グループワークをもとに修正する
第 4 回	授業参観 研究協議 「低学年児童を対象にした実際の授業を参観する」	事前学習	低学年の授業の様態について想起する
		事後学習	低学年の授業の様態についてワークシートにまとめる
第 5 回	授業参観 研究協議 「高学年児童を対象にした実際の授業を参観する」	事前学習	高学年の授業の様態について想起する
		事後学習	高学年の授業の様態についてワークシートにまとめる
第 6 回	授業参観 研究協議 「授業参観をもとにグループディスカッションを行う」	事前学習	グループディスカッションに向け自身の意見を確認する
		事後学習	グループディスカッションで身につけたことをワークシートにまとめる
第 7 回	授業参観 研究協議 「グループディスカッションについての発表会を行う」	事前学習	発表の準備をする
		事後学習	発表会で学んだことをワークシートにまとめる
第 8 回	授業参観 研究協議 「授業者(現役教師)を交えての意見交換会を行う」	事前学習	現任教諭への質問事項をまとめる
		事後学習	現任教諭の講義で理解したことをワークシートにまとめる

第 9 回	模擬授業参観 研究協議 「学生が児童役となる模擬授業を参観する(指導者は現役教師)」	事前学習	ボール運動系の授業の様態を想起する
		事後学習	ボール運動系の授業の配慮点についてワークシートにまとめる
第 10 回	模擬授業参観 研究協議 「学生が教師・児童役となる模擬授業を参観する」	事前学習	器械運動系の授業の様態を想起する
		事後学習	器械運動系の授業の配慮点についてワークシートにまとめる
第 11 回	模擬授業参観 研究協議 「二つの模擬授業をもとにグループディスカッションをし、発表会を行う」	事前学習	二つの模擬授業の感想をまとめる
		事後学習	グループディスカッションや発表会で身につけたことをワークシートにまとめる
第 12 回	指導案発表会 1	事前学習	発表会の準備をする
		事後学習	発表会感想シートに記入する
第 13 回	指導案発表会 2	事前学習	他グループへの質問内容を整理する
		事後学習	発表会感想シートに記入する
第 14 回	指導案発表会 3	事前学習	他グループへの質問内容を整理する
		事後学習	発表会感想シートに記入する
第 15 回	示範授業 「命の授業(保健学習)」 学習のまとめ	事前学習	命の授業についての資料収集をする
		事後学習	学習のまとめをし、自己評価をする

1. 科目名 (単位数)	多文化コミュニケーション (2 単位)		3. 科目番号	GELA1336
2. 授業担当教員	坂井 二郎			
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション、グループ発表	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	多文化理解入門を受講していることが望ましい			
7. 講義概要	加速するグローバル化、少子高齢化、広がる SNS などの波を受け、現在の日本を取り巻く環境には、自分とは異なる母語・習慣・価値観をもった人たちとのコミュニケーション活動が溢れている。本講義は、自分の視野をこのような多文化「共生社会」にむけて広げ、必要とされるコミュニケーション能力を修得することを目的とする。具体的には、「言語」「コミュニケーション」「文化」の3つの基本的概念を理解した後、コミュニケーション行動を言語と非言語に大別して展開し、日米をはじめ東アジア文化圏のコミュニケーション行動なども交えながら、実際の対人場面で行われているさまざまなコミュニケーション行動の文化的特徴、世界の人々の生活習慣、経済状況、異なる価値観の背景にある歴史について学んでいく。実際のコミュニケーションは、複数の行動が同時に表出されるものである。そこで、表出された行動の意味について総合的に考え、日常生活や身近な出来事の中にあるコミュニケーションと関連付けたり、自身と文化背景の異なる他者の行動を比較したりしながら、文化が多層に重なりあっている現代社会のコミュニケーション行動への理解を深めていく。			
8. 学習目標	1. 自身のコミュニケーション行動について客観的な視点で認識できるようになる。 2. 文化的行動の意味について理解できるようになる。 3. 多様な人々について、創造的、多面的に考え、共存のあり方を自分なりに考えられるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 事前学習課題は毎回指定された教科書の課題(「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」)を意味する。 2. 学習プリントは授業中に配布される授業内容に関するプリントを指し毎回授業後に提出する。 3. まとめプリントは毎回授業後に配布される復習のためのプリントを指し、次回授業開始時に提出する。 4. 振り返りプリントは授業内容の復習を含む学習内容に関する振り返りを記入したプリントを指し、第7回と第11回の授業時に提出する。 5. 学習記録ファイルはすべての学習プリント、まとめプリント、振り返りプリントを含めた学習記録を指し、14回目の授業終了時に提出する。 6. グループ発表は、「グローバル時代の留学生の多文化コミュニケーション」をテーマとして1グループ5人を限度として10分程度の発表をグループで行うこととする。詳細は授業時に追加説明をする。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】八代その他 著 「異文化コミュニケーションワークブック」三修社。3,024 円 【参考書】授業時に指示する。			
11. 成績評価の方法	事前学習課題 20% 学習プリントの提出 20% まとめプリントの提出 20% 振り返りプリントの提出 10% 学習記録ファイルの提出 10% グループ発表 20%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業は事前学習を前提に行うため、必ず事前学習課題は行うこと。 2. 授業で扱ったすべてのプリントは学習記録ファイルにまとめ、なくさないよう注意すること。 3. 携帯電話は電源から切り、かばんの中に入らないこと。 4. 私話は授業中は決してしないこと。 5. わからないことはどのようなことでも教員に質問するよう心がけること。 6. どのようなことでもよいので積極的に意見を述べること。			
13. オフィスアワー	初回授業時に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	シラバスの説明、	事前学習	教科書の「はじめに」と目次を読み、教科書の内容を考えてくる。	
		事後学習	シラバスの重要事項をまとめプリントに記入する。	
第2回	自己紹介1:自由に自分を紹介する	事前学習	1分間で自己紹介できるよう準備してくる。	
		事後学習	他の学生の自己紹介内容と気づいた点をまとめプリントに記入する。	
第3回	第1章:異文化コミュニケーションとは1:新しい常識とステレオタイプ(P.9-P.16)	事前学習	P.9~P.16までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリントに記入する。	
第4回	第1章:異文化コミュニケーションとは2:異文化理解への態度(P.17-P.21)	事前学習	P.17~P.21までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリントに記入する。	
第5回	第1章:異文化コミュニケーションとは3:文化とコミュニケーション(P.22-P.35)	事前学習	P.22~P.35までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをまとめプリントに記入する。	

第 6 回	自己紹介 2 : お互いの文化を紹介し合う	事前学習	今まで学んだことを参考に 1 分間で自分の文化について紹介できるよう準備してくる。
		事後学習	様々な学生の自文化紹介内容と気づいた点を振り返りプリントに記入する。
第 7 回	第 2 章 : コミュニケーションスタイル : 自己開示とパラ言語 (P. 46-57)	事前学習	P. 46~P. 57 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	様々な文化のコミュニケーションスタイルについて気づいたことをまとめプリントに記入する。
第 8 回	第 3 章 : 言語コミュニケーション 1 : ほめ方・叱り方・謝り方 (P. 61-72)	事前学習	P. 46~P. 57 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	ほめ方・叱り方・謝り方の多様性について気づいたことをまとめプリントに記入する。
第 9 回	第 3 章 : 言語コミュニケーション 2 : 自己紹介と誘い方・断り方 (P. 61-72)	事前学習	P. 46~P. 57 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	自己紹介や誘い方・断り方の多様なスタイルについて気づいたことをまとめプリントに記入する。
第 10 回	自己紹介 3 : 自己のコミュニケーションスタイルを意識しながら自己紹介し合う	事前学習	自分のコミュニケーションスタイルを意識しながら 1 分間で自己紹介できるよう準備してくる。
		事後学習	お互いの自己紹介を通し気づいたコミュニケーションスタイルの文化多様性について振り返りプリントに記入する。
第 11 回	第 4 章 : 非言語コミュニケーション (P. 81-100)	事前学習	P. 81~P. 100 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	非言語コミュニケーションの文化多様性について気づいたことをまとめプリントに記入する。
第 12 回	第 5 章 : 価値観 (P. 103-108)	事前学習	P. 81~P. 100 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	価値観の文化多様性について気づいたことをまとめプリントに記入する。
第 13 回	第 7 章 : 異文化コミュニケーションスキル 1 : (P. 137-149)	事前学習	P. 137~P. 149 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。
		事後学習	D. I. E. メソッドとアサーティブ・コミュニケーションについて学んだ内容をまとめプリントに記入する。
第 14 回	第 7 章 : 異文化コミュニケーションスキル 2 : (P. 150-157)	事前学習	P. 150~P. 157 までの「セルフチェック」と「ステップアップエクササイズ」を完了しておく。学習記録ファイルの提出準備をする。
		事後学習	エボケーについて学んだ内容をまとめプリントに記入する。
第 15 回	グループ発表	事前学習	グループ発表の準備を行う。
		事後学習	授業から学んだ内容をノートに記入する。

1. 科目名 (単位数)	地域看護学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3315									
2. 授業担当教員	小此木 久美子											
4. 授業形態	講義、ディスカッション、インタビュー調査、発表、グループ学習等	5. 開講学期	秋期									
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	<p>地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を学ぶ。また、地域看護の方法の中で特に健康教育を取り上げ、活用される理論と方法の基礎を理解する。地域看護とは、生活の場としての地域社会と住民の健康を保持増進するための看護活動であり、「地域保健 (CommunityHealth)」「公衆衛生看護学 (PublicHealthNursing)」と同意語である。</p> <p>家族が生活を営む地域 (Community) の保健医療・福祉行政施策 (サービス) と保健看護諸活動の実際を体系的に学ぶ。この包括的看護活動は、地域住民のよりよい健康安全とそれを支える地域社会・環境を総合する働きかけにより実践されるものである。母子保健、成人保健、老人保健、環境保健、精神保健、地域保健行政施策、地域診断 (地域の健康評価) 等、広域的な内容が含まれる。地域医療機関で行われる「臨床看護実習」、地域福祉施設で行われる「ソーシャルワーク実習」「保育実習」等を介して、包括的看護活動を行う実践力を身につけ、養護教諭、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などとして地域看護活動を基盤にそれぞれの専門性を発揮する能力を養う。</p>											
8. 学習目標	<p>以下について学習、理解し、説明できるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を理解する。 2 地域における健康教育について理解する。 3 学校保健と地域保健の連携について理解する。 4 子どもの権利条約を通して子どもの権利をより深く理解する。 5 一人親家庭の生活実態や子どもを巡る諸問題について理解する。 6 地域ネットワークについて面接調査を計画し実践する方法を学ぶ。 7 ニーズを実現するための社会資源の活用や他職種との協働等支援の方法を理解する。 8 以上を通して、児童生徒がどのような環境で生育するのかを理解し、多様化した現代の社会にあって養護教諭に求められる役割と機能を十分に理解する。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>A4/1000字程度 提出期限は次週の授業時提出</p> <p>課題1 地域社会と地域看護について考え、地域住民の健康の把握方法についてまとめる</p> <p>課題2 学校における保健教育と地域における健康教育を対比しながら指導案を作成する</p> <p>課題3 地域保健法・学校保健法・母子保健法等関連する法律を精読し重要な条文を整理する</p> <p>課題4 養護教諭をめざすために、社会福祉を学ぶ意義と目的について考察する</p> <p>課題5 子供の権利条約を精読し日本に与えた影響について考察する</p>											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・鈴木路子編著『公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社, 2014 2・鈴木路子・眞野喜洋編著『教育健康学-教育と医療の接点を求めて-』ぎょうせい・平成 10 3・岩波ジュニア新書『子どもの権利条約』岩波書店、2013 年 3 月 <p>【参考書】</p> <p>東京福祉大学編 『教職科目要説』(中等教育編) ミネルヴァ書房</p> <p>鈴木庄亮・久道 茂編著『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂、2012 年</p> <p>井伊久美子・平野かよ子他 『新版保健師業務要覧』日本看護協会出版会 2014</p>											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1 授業態度・振りかえりや気づき等の記録</td> <td>30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 レポートおよび課題発表</td> <td>40%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>30%</td> <td>計 100%</td> </tr> </table> <p>以上を総合して成績評価を行う</p>			1 授業態度・振りかえりや気づき等の記録	30%		2 レポートおよび課題発表	40%		3 期末試験	30%	計 100%
1 授業態度・振りかえりや気づき等の記録	30%											
2 レポートおよび課題発表	40%											
3 期末試験	30%	計 100%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>地域看護学は、住民の健康把握・ニーズ調査、各種統計資料の収集・分析・解説を含めた攻守上雨声の一部である。この領域は精神保健学・学校保健学・環境保健論・養護教育学及び社会福祉等多くの関連領域との連携が必須である。これらを相互に学びながら。新たな視点を発見し、児童生徒の健康を把握し、問題に対応し管理実践・教育実践活動がいかに重要であるかを学び、その実践力を身につける。</p> <p>子どもを取り巻く環境は複雑多様化している。このような環境が子どもの健全な成長と発達にどのような影響を与えているか子どもの置かれている実態から理解を深めてほしい。</p>											
13. オフィスアワー	授業前後の時間帯											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	地域看護とは何か-公衆衛生における地域看護 (地域保健) 活動の役割と意義- 課題 1 : 地域看護活動の目的・対象・方法及び必要とされる能力についてまとめる	事前学習	教科書 I 序章を読み、地域看護学 (公衆衛生看護学) の全体像を把握する									
		事後学習	学校看護と地域看護の役割、連携を認識し、具体的な目的・対象・方法を自らの言葉で表現する									
第 2 回	地域社会と地域看護の考え方-一人の暮らしと健康 課題 2 : 地域社会と地域看護について考え、地域住民の健康の把握方法についてまとめる	事前学習	教育実習先の地域社会を想定する									
		事後学習	地域保健法を基盤に行われる地域住民の健康把握の方法を整理する									
第 3 回	地域における健康教育 課題 3 : 学校における健康教育と地域における健康教育	事前学習	教科書 II 第 3 部学校健康教育と地域における健康教育を読み、想定する									
		事後学習	具体的に指導案を作成し実践する									

	を対比しながら指導案を作成する		
第 4 回	学校保健と地域保健の連携（１）感染症対策、健康危機管理対策	事前学習	地域の保健センター・保健所等を訪問し、資料を収集する
		事後学習	各種情報を入手分析、まとめ、討論を行った結果をまとめる
第 5 回	学校保健と地域保健の連携（２）性教育、母子保健対策 課題 4：地域保健法・母子保健法・学校保健法等関連する法律を精読し重要な条文を整理する	事前学習	保健師と養護教諭の連携について支援事例を調べておく
		事後学習	思春期保健対策として課題解決策を考える
第 6 回	学校保健と子ども家庭福祉の連携 第 1 章 子ども家庭支援と社会福祉 第 2 章 子ども家庭を取り巻く社会状況 課題 5：養護教諭をめざす人が社会福祉を学ぶ意義と目的について考察する	事前学習	教科書第 1・2 章を読み、学校保健の基盤として、子ども家庭福祉の重要性を認識する
		事後学習	支援者として子どもに対峙するときの基本的姿勢について考察する
第 7 回	第 3 章 社会福祉の理念と権利保障 1. 子どもの権利保障の歩み 2. 子どもの権利の特徴 3. 子どもの権利に関する条約 課題 6：子どもの権利条約を精読し、日本に与えた影響について考察する	事前学習	子どもの権利条約を読み、子どもの権利と生命・生活・生存の重要性を認識する
		事後学習	子どもの権利条約について、その時代的背景、条約制定の意義と目的、内容についてまとめる
第 8 回	4. 子どもを養育する権利と義務 課題 7：親権とは何か、親権を巡る問題について、法律の改正も含めて動向を整理しまとめる	事前学習	教科書第 3 章を読み、子どもを養育する親の権利と義務について理解を深める
		事後学習	「ハーグ条約」とは何か、日本が加盟することの意義と問題点についてまとめる
第 9 回	第 4 章 子ども家庭福祉にかかわる法体系 児童福祉法・児童福祉を直接支える法律・関連する法律	事前学習	教科書第 4 章を読み、子ども家庭福祉の法体系の全体像を把握する
		事後学習	児童虐待対策とその課題についてまとめる
第 10 回	第 8 章 子ども家庭福祉と地域ネットワーク 1. 虐待防止ネットワークの広がり 2. 要保護児童対策地域協議会、設置の効果・課題 等 3. 出身市町村の現況調査の方法と計画を立てる	事前学習	教科書第 8 章を読み、地域ネットワークとその必要性を理解する
		事後学習	出身地市区町村の要保護児童対策地域協議会の現状と課題を情報収集する
第 11 回	第 5 章 子ども家庭福祉にかかわる専門職 1. 専門職との協働 2. 教育機関の福祉専門職 3. 児童福祉領域の福祉専門職 等	事前学習	教科書第 5 章を読み、子ども家庭福祉にかかわる専門職とその機能を理解する
		事後学習	養護教諭が連携を深めておく必要のある専門職と連携する際の留意点についてまとめる
第 12 回	第 6 章 児童の社会的養護サービス 1. 社会的養護とは何か 2. 社会的養護にかかわる機関、施設 等	事前学習	教科書第 6 章を読み、社会的養護とその今日的課題を理解する
		事後学習	里親制度の意義と現状、問題点についてまとめる
第 13 回	第 7 章 ひとり親家庭への支援 1. ひとり親家庭の概念 2. ひとり親家庭の状況 3. ひとり親家庭に対する社会的支援施策	事前学習	教科書第 7 章を読み、ひとり親家庭の現状について理解を深める
		事後学習	父母の離婚が子どもの心身に与える影響について、近年の動向も踏まえて考察する
第 14 回	要保護児童対策地域協議会についての現況調査の成果発表 1. 現況調査の結果をグループで話し合い整理する 2. グループ発表する	事前学習	地域ネットワークの現状と課題について各自実施した現況調査の結果をレポートにまとめる
		事後学習	地域協議会への養護教諭の関わり方を考察する
第 15 回	第 9 章 子ども家庭支援の実際 事例 1：虐待事例への支援 事例 2：不登校事例への支援	事前学習	教科書第 9 章を読み、子ども家庭支援の具体的実践事例を知る
		事後学習	事例 2 について、支援の長期目標と短期目標を立案する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	知的障害教育Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3449 SCMP3449 SBMP3449
2. 授業担当教員	金川 朋子			
4. 授業形態	知的障害教育Ⅰをふまえた講義、演習、模擬授業		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目では、知的障害教育Ⅰで学んだ知識をふまえ、医療・福祉など近接分野の最新の動向に関心を広げながら、知的障害のある子どもの生涯を見通した支援、保護者との安定した関係の構築、外部専門家との有機的な連携を実践するための力量を身につける。また、模擬授業を通して、実態評価の基礎、各種教育計画の作成手順、教材・教具の意義理解を進め、特別支援学校の教育実践に必要な基礎的技能を培う。</p>			
8. 学習目標	<p>知的障害児やその保護者を取り巻く社会事象をふまえながら、個別的教育支援計画・個別の指導計画や学習指導案の作成及び授業実践ができるようになる。</p> <p>① 知的障害者を取り巻く様々な社会事情を知る。 ② 各種教育計画の書き方がわかり、書けるようになる。 ③ 実態把握・アセスメントについての基礎知識が身につく。 ④ 教材・教具の意義や工夫の観点がわかる。 ⑤ 「各教科等を合わせた指導」の法的根拠やねらい・内容がわかって授業に生かせるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚園・小学部・中学部)』教育出版。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部・高等部)』海文堂。 文部科学省『生徒指導提要』教育図書 小林芳文・大橋さつき・飯村敦子編著『発達障がい児の育成・支援とムーブメント教育』大修館書店。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>特別支援学校での勤務を想定した実践演習が中心となります。教育実習では、限られた期間の中で、子どもの実態把握、学習指導案の作成、実践的な指導力が求められます。また、各都道府県の教員採用試験では、模擬授業が導入されています。「必ず現場で教壇に立つ」という志を持ち、受講してもらいたいと思います。また、教員として、人として大切なことを学んで欲しいと思います。</p> <p>1. 講義が終わったら後に、レポートを提出。 2. 実技を通して、理論と実践を結び付けながら授業を行います。 3. 学び、高めあえる授業づくりを一緒に作り上げていきましょう。</p>			
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義で詳細を伝えます。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	①オリエンテーション ②個別的教育支援計画について (1) - 考え方から作成、活用まで -	事前学習	「本講座で学びたいこと・目標」を 200 字程度にまとめる。	
		事後学習	「個別的教育支援計画」に基づいた教育について考え、まとめる。	
第 2 回	個別的教育支援計画について (2) - 考え方から作成、活用まで -	事前学習	「個別の指導計画」について、教科書・インターネット等で調べる。	
		事後学習	「個別の指導計画」の意義について、まとめる。	
第 3 回	知的障害教育での学習指導 (1) - 学習指導案の作成 (1) -	事前学習	「学習指導案」の記入項目について、教科書・インターネット等で調べる。	
		事後学習	「学習指導案」の記入項目間の関連、作成の手順をまとめる	
第 4 回	知的障害教育での学習指導 (2) - 学習指導案の作成 (2) -	事前学習	「ティームティーチング」について、教科書・インターネット等で調べる	
		事後学習	「学習指導案」の記入方法について、まとめる。	
第 5 回	知的障害教育における教材・教具の意義 (1) - 教材作り (こくご・さんすう) ① -	事前学習	教材・教具の意義について、教科書・インターネット等で調べる。	
		事後学習	作成する教材について、インターネット等で調べ、必要な物を検討する。	
第 6 回	知的障害教育における教材・教具の意義 (2) - 教材作り (こくご・さんすう) ② -	事前学習	作成する教材に必要な物を準備し、持参する。	
		事後学習	教材作りで工夫した点や学んだ事をまとめ、今後の課題を考える。	
第 7 回	障害の特性に応じた指導 (1) - ソーシャルスキルトレーニング① -	事前学習	「ソーシャルスキルトレーニング」について、教科書・インターネット等で調べる。	
		事後学習	障害の特性に応じた指導内容・方法について、再度検討する。	

第 8 回	障害の特性に応じた指導 (2) ーソーシャルスキルトレーニング②ー	事前学習	障害の特性に応じた指導・具体的な指導内容を検討する。
		事後学習	障害の特性に応じた指導・具体的な指導内容の工夫したことをまとめる。
第 9 回	知的障害教育の実際に学ぶ ー知的障害に関する学外施設見学もしくは外部講師による講義ー ※相手先の都合により変更の可能性あり	事前学習	事前に配付する資料を読み、指導のねらい・内容等について、疑問点をまとめる。
		事後学習	知的障害教育の指導内容・方法等、学んだ事をまとめる。
第 10 回	生徒指導、進路指導、危機管理について ー学習指導以外の必須事項ー	事前学習	生徒指導提要における特別支援教育に関する内容について調べる。
		事後学習	特別支援教育と生徒指導等との関連についてまとめる。
第 11 回	「各教科等を合わせた指導」の実際 (1) ムーブメント教育を活用した指導を考える①	事前学習	「各教科等を合わせた指導」の意義について、調べる。
		事後学習	「各教科等を合わせた指導」の具体的な指導内容を検討する。
第 12 回	「各教科等を合わせた指導」の実際 (2) ムーブメント教育を活用した指導を考える②	事前学習	「各教科等を合わせた指導」の具体的な指導内容を検討する。
		事後学習	グループで行う模擬授業の学習指導案を検討する
第 13 回	「各教科等を合わせた指導」の実際 (3) ムーブメント教育を活用した指導を考える③ (模擬授業・評価・改善)	事前学習	模擬授業のためのリハーサル等を行い、発表に向けての準備を行う
		事後学習	模擬授業実施後のよかった点、反省点等をまとめ、授業改善する。
第 14 回	学習指導案の作成と模擬授業の実際 (4) ムーブメント教育を活用した指導を考える④ (模擬授業・評価・改善)	事前学習	模擬授業のためのリハーサル等を行い、発表に向けての準備を行う
		事後学習	模擬授業実施後のよかった点、反省点等をまとめ、授業改善する。
第 15 回	知的障害教育における連携 ー教員として、人として大切なことー	事前学習	「知的障害教育に携わる教員としての資質」について、自らの考えをまとめておく。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート (800～1000 字) を作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	知的障害教育総論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3455 SCMP3455 SBMP3455
2. 授業担当教員	金川 朋子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	世界や日本における知的障害教育の歴史、教育的な位置づけ、現代の新しい流れについて総合的な学習から基本的知識についてまで幅広く学ぶ。特に今後はインクルーシブ教育が重視されていく中で、これからの知的障害教育には何が最も重要になっていくのか、議論を深めていく。また、知的障害の根本的な症状や「困り感」に関する障害理解と、学校教育や教師の役割に関して多様な知識を学んでいく。そのために、機会に応じて生活単元学習、作業学習、日常生活の指導、教科別の指導、自立活動などについて実際の授業映像を見ながら理解を深めていく。さらに、その他の動画、画像、スライドや独自の資料を多用し、わかりやすい説明を心掛けていきたい。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知的障害教育の歴史を理解し、説明することができる。 2. 知的障害教育に関する基本的な知識を知り、解説することができる。 3. 現代の知的障害教育を取り巻く諸課題を理解し、自分の考えを織り交ぜながらその解決策について述べるることができる。 4. 知的障害の種々の指導法について理解し、どのような指導が必要かを具体的に述べるることができる。 5. 教育だけではなく福祉や雇用など、知的障害児者を取り巻く社会的環境について知り、教育との関連性を説明することができる。 6. 個別の指導計画と個別の教育支援計画を理解し、ニーズに応じた授業作りについて説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。 3. 最終レポートは、後日提示する 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 柘植雅義著『特別支援教育 多様なニーズへの挑戦』中公新書。 【参考書】 鯨岡峻『〈育てられる者〉から〈育てる者〉へ』NHK ブックス。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)			
12. 受講生へのメッセージ	特別支援教育がスタートし、その中心にある知的障害教育においても、子どものニーズに応じた教育支援、障害の特性に応じた発達支援が求められています。特別支援教育教員免許の修得をめざすみなさんには、基礎的知識の理解を深め、さらに教育実践力の向上に努めてもらいたいと思います。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義が終わったら後に、レポートを提出。 2. 実技を通して、理論と実践を結び付けながら授業を行います。 3. 学び、高めあえる授業づくりを一緒に作り上げていきましょう。 			
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義で詳細を伝えます。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	①オリエンテーション ②特別支援教育とは何か。	事前学習	「知的障害教育について、学んできたこと、本講座で学びたいことをまとめる。	
		事後学習	「本講座で学びたいこと・目標」を 200 字程度にまとめる。	
第 2 回	①特別支援教育について (1) ②ムーブメント教育を活用した指導①	事前学習	pp. 3～17 を読み、「特別支援教育」についての自分の考えをまとめる。	
		事後学習	「特別支援教育」について、今求められていることをまとめる。	
第 3 回	①特別支援教育について (2) ②ムーブメント教育を活用した指導②	事前学習	pp. 119～132 を読み、障害のある子どもの教育の歴史についてまとめる。	
		事後学習	「我が国における障害のある子どもの教育の歴史」についてまとめる。	
第 4 回	①特別支援教育について (3) ②ムーブメント教育を活用した指導③	事前学習	pp. 133～148 を読み、障害のある子どもの教育の歴史についてまとめる。	
		事後学習	「我が国における障害のある子どもの教育の歴史」についてまとめる。	
第 5 回	①特別支援教育について (4) ②自閉症の子どもの教材作り (1)	事前学習	pp. 149～156 を読み、障害のある子どもの教育の歴史についてまとめる。	
		事後学習	「我が国における障害のある子どもの教育の歴史」についてまとめる。	
第 6 回	①特別支援教育について (5) ②自閉症の子どもの教材作り (1)	事前学習	pp. 207～235 を読み、特別支援教育の課題についてまとめる。	
		事後学習	特別支援教育の課題についてまとめる。	
第 7 回	障害のある子どもへの発達支援 (1) ー関係発達の視点から①ー	事前学習	前時に配布した資料に目を通し、「関係発達の視点」について考える。	

		事後学習	「関係発達の見点」について、知的障害教育の指導にどのように活かすかまとめる
第 8 回	障害のある子どもへの発達支援 (2) －関係発達の見点から②－	事前学習	前時に配布した資料に目を通し、「関係発達の見点」について考える。
		事後学習	「関係発達の見点」について、知的障害教育の指導にどのように活かすかまとめる
第 9 回	知的障害のある子どもの自立と社会参加 (1) －障害児者の「性に関する指導」について－	事前学習	「性に関する指導」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	障害のある子どもに対する「性に関する指導」の在り方についてまとめる。
第 10 回	知的障害のある子どもの自立と社会参加 (2) －キャリア教育と就労の現状－	事前学習	「障害者の就労の状況」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	特別支援教育における「キャリア教育」の在り方についてまとめる。
第 11 回	知的障害のある子どもの自立と社会参加 (3) －障害児者福祉との連携－	事前学習	知的障害児の卒業後の生活について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	知的障害者の卒業後の生活における、教育と福祉との連携についてまとめる。
第 12 回	知的障害のある子どもの自立と社会参加 (4) －医療・福祉との連携－	事前学習	知的障害者の卒業後の生活における、医療・福祉との連携について調べる。
		事後学習	知的障害者の医療・福祉との連携の在り方について、まとめる。
第 13 回	知的障害教育の実際に学ぶ －知的障害に関する学外施設見学もしくは外部講師による講義－ ※相手先の都合により変更の可能性あり	事前学習	事前に配付する資料を読み、指導のねらい・内容等について、疑問点をまとめる。
		事後学習	知的障害教育の指導内容・方法等、学んだ事をまとめる。
第 14 回	発達障害児・者への教育的支援	事前学習	発達障害児・者への教育的支援について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	発達障害児・者への教育的支援の在り方について、まとめる。
第 15 回	まとめ 共生社会をめざす特別支援教育	事前学習	全講義を通じて関心が高かったテーマを選び、それになぜ関心を持ったのか、を説明できるように準備する。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート (800～1000 字) を作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECEM1314 GECEM1324
2. 授業担当教員	張 岩		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「中国の文化と言語Ⅰ」の学習を基礎に、中国の人びとの暮らし、伝統文化、風俗習慣を盛り込んだ教材を精読する。簡単な日常会話と文系を学び、生きた中国語会話の体験学習をおこなう。ビデオを用いて、中国の大学生活や庶民の暮らしを紹介する。老親介護をテーマにした映画を鑑賞し、中国の高齢者福祉の状況を理解し、日本に身を置かれたわたしたちの暮らしや考え方と比べてみる。		
8. 学習目標	1.中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができるようになる。 2.中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できる。 3.中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができる。 4.3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業中の口頭発表：随時、ディスカッション後 (授業に対しての理解を確認する、個人の見解を述べて、皆で考える)。 授業中及び授業後のドリル：一課毎 (勉強した内容を振り返って、理解を強化する) レポート：1～2回 (映画などを見て考えよう。命題。800～1200文字) 小テスト、まとめドリル (採点あり)：学期中、期末 (学習内容がどれくらい習得したのかを確かめる)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】陳淑梅・劉光赤著『しゃべっていいとも中国語 (中西君と一緒に中国へ行こう)』朝日出版社。 (履修にあたって、教科書は必ず用意すること) 【参考書】(任意) ○中国語辞書 ○瀬戸口 律子著『完全マスター中国語の文法 改訂版』 ○竹内 実著『北京』文芸春秋社。 ○沈潔 著『地域福祉と福祉NPOの日中比較研究』日本僑報社。 ○その他、インターネットなど		
11. 成績評価の方法	授業の参加、予習・復習、課題の作成などを総合的に評価する。 授業への参加 (出席率・授業態度・宿題・個別発表) 40% 授業中ドリル・まとめドリル 30% レポート 30%		
12. 受講生へのメッセージ	現在の中国では、社会福祉をはじめ、多くの社会問題を抱えており、日本に比べて遅れている部分が多いと思われます。その原因はさまざまだと思いますが、その根底にある中国の歴史、伝統、国家体制、社会の仕組みなどを理解する必要があると思います。近年、著しい経済発展や社会制度の改善により、日本とともに福祉を語る日も近いでしょう。そのときには、習い覚えた中国語でコミュニケーションの糸口を開くことができることを望んでいます。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後に設ける		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	①「中国の文化と言語Ⅰ」の「まとめドリル」を講評、「中国の文化と言語Ⅰ」のポイント復習 ②教科書第9課「道をたずねる」(動詞“在”、前置詞“从”“往”)	事前学習	予習：教科書 P44～P46 (内容を読んで理解する、新出単語を発音して覚えてみよう)
		事後学習	復習：復習：教科書第9課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする) 教科書 P48-49 ドリル
第2回	①教科書第9課 P47 ②教科書 P48-49 ドリルの答え合わせ ③教科書第10課「ショッピングをする」(数のいい方、形容詞が述語になる文)	事前学習	予習：教科書 P50～P51 (内容を読んで理解する)
		事後学習	復習：教科書第10課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる)
第3回	①教科書第10課 P52-P53 ②教科書 P54-55 ドリル ③映画「こころの湯」のその時代背景 (資料配布)	事前学習	教科書 P52、新出単語を発音して覚えて、第10課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第10課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる) 映画「こころの湯」について、資料を読む、調べる (インターネット、図書館など)
第4回	映画：「こころの湯」	事前学習	映画「こころの湯」とその時代背景 (資料を用意)
		事後学習	映画の内容をノートにまとめる
第5回	①教科書第11課「おしゃべりをする」(年月日、曜日のいい方、年齢のいい方) ②ディスカッション、「こころの湯」レポート設題について	事前学習	配布した資料やノート、調べた内容を用意 予習：教科書 P56～P57 (内容を読んで理解する)
		事後学習	復習：教科書第11課の内容 (ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめる) ディスカッションの内容をノートにまとめる、レポートの主旨を決める、レポートを書く

第 6 回	①教科書第 1 1 課 P58-59 ②教科書 P60-61 ドリル	事前学習	教科書 P58、新出単語を発音して覚えて、第 1 1 課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第 1 1 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第 7 回	教科書第 1 2 課「料理を注文する」 （量詞、動詞の重ね型） レポート提出	事前学習	予習：教科書 P62~P64（内容を読んで理解する新出単語を発音して覚えてみよう） レポートを用意
		事後学習	復習：教科書第 1 2 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする）教科書 P66-67 ドリル
第 8 回	①教科書第 1 2 課 P65 ②教科書 P66-67 ドリルの答え合わせ ③教科書第 1 3 課「サッカーのチケットを買う」 （時刻のいい方、文末の“了”）	事前学習	予習：教科書 P68~P69（内容を読んで理解する）
		事後学習	復習：教科書第 1 3 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第 9 回	①教科書第 1 3 課 P70-P71 ②教科書 P72-73 ドリル ③ビデオ：中国のいろいろ	事前学習	教科書 P70、新出単語を発音して覚えて、第 1 3 課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第 1 3 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第 1 0 回	教科書第 1 4 課「マッサージ」 （時間の長さのいい方、完了を示す“了”）	事前学習	予習：教科書 P74~P76（内容を読んで理解する新出単語を発音して覚えてみよう）
		事後学習	復習：教科書第 1 4 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする）教科書 P78-79 ドリル
第 1 1 回	①教科書第 1 4 課 P77 ②教科書 78-79 ドリルの答え合わせ ③教科書第 1 5 課「インターネットカフェ」 （前置詞“給”、助動詞“可以”“能”）	事前学習	予習：教科書 P80~P81（内容を読んで理解する）
		事後学習	復習：教科書第 1 5 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第 1 2 回	①教科書第 1 5 課 P82-P83 ②教科書 P84-85 ドリル	事前学習	教科書 P82、新出単語を発音して覚えて、第 1 5 課の本文を訳してみよう
		事後学習	復習：教科書第 1 5 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる）
第 1 3 回	教科書第 1 6 課「電話をかける」 （動詞の進行態、助動詞“会”）	事前学習	予習：教科書 P86~P88（内容を読んで理解する新出単語を発音して覚えてみよう）
		事後学習	復習：教科書第 1 6 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容をまとめて、発音練習をする）教科書 P90-91 ドリル
第 1 4 回	①教科書第 1 6 課 P89 ②教科書 90-91 ドリルの答え合わせ ③ 9 ~ 1 6 課復習練習問題	事前学習	ノート、教科書、プリントを整理して用意
		事後学習	復習：教科書第 1 6 課の内容（ノート、教科書：授業でノートにメモした内容や、授業で勉強した教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる） 総復習：9 ~ 1 6 課の授業でノートにメモした内容や、教科書の内容と教科書のドリルで間違えたところをまとめる、9 ~ 1 6 課復習練習問題を覚える
第 1 5 回	学習のまとめ（まとめドリル）	事前学習	ノート、教科書、プリントを整理して用意
		事後学習	「学習のまとめ」で間違えたところをまとめる

1. 科目名 (単位数)	聴覚障害者の言語障害指導 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3458
2. 授業担当教員	須藤 典征			SCMP3458 SBMP3458
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>言語の獲得には聴覚の機能が大きく作用する。聴覚の障害があると言語能力の獲得に問題が生ずるのである。言語習得の過程では、聴覚障害を補う補助手段を導入して言語理解・言語表出を支援していくことが必要である。言語理解のためには補聴器などによる聴覚補償のほか、他の感覚経路を利用した口話や手話などの手段を用いる。言語表出のためには発話練習や機器を利用した発話訓練などが行われている。音声言語を媒体にしたコミュニケーションだけではなく、文字など視覚的な情報を有効に利用してコミュニケーション能力を高めていく指導が必要である。生活年齢や発達段階に応じたコミュニケーション支援に向けた取り組み (同時法、口話法、聴覚口話法、キュードスピーチ、トータルコミュニケーション、バイリンガルアプローチ、指文字、手話の使用など) についても検討していく。語彙の獲得・文能力の増進・他者との交流能力の促進も視野に入れるとともに、家庭・学校における対応にも配慮が必要である。このような観点について、乳幼児期・学齢期・青年期/成人期・熟年期それぞれの時期の言語指導について学ぶ。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 聴覚の機能および聴覚の発達に伴う言語発達について知る。 2) 聴覚の障害に伴って生じる言語の障害について学習する。 3) 聴覚障害の補償について学ぶ。 4) 聴覚障害児、幼児、学童、青年、成人に対する支援の実情を学ぶ。 5) コミュニケーションが重要となる聴覚障害者の社会生活について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	聴覚障害の検査法についてのレポート (1000~1200字)			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】使用しない。講義中適切な資料を配布する。受講生はファイリングを確実にすること。			
11. 成績評価の方法	受講態度 50%・試験 30%・レポート 20%			
12. 受講生への メッセージ	<p>聴覚は言語獲得、周囲の状況判断にとって非常に重要な機能を担っています。聴覚障害という問題がある場合、どのような困難に出会うのかをリアリティを持って、洞察・理解をしてほしいと考えています。また、年配者の聴力障害者は増えているので、聴力障害についての知識は実生活上役立つと思います。加えて、聴覚障害を補償するための方策についても広く理解すれば、様々な障害の克服の方策についても理解が深まるでしょう。</p>			
13. オフィスアワー	講義開始前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	聴覚の機能 (聴器の構造、聴くということはどういうことか) 1	事前学習	耳の構造をネットや書籍で調べておく。	
		事後学習	耳の構造を確実に覚える。	
第 2 回	聴覚の機能 (聴器の構造、聴くということはどういうことか) 2	事前学習	難聴の種類について調べておく。	
		事後学習	難聴の種類を確実に覚える。	
第 3 回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害 (その種類、 障害の程度) 1	事前学習	チームを結成してラポールを作っておく。	
		事後学習	疑似体験の感想をまとめる。	
第 4 回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害 (その種類、 障害の程度) 2	事前学習	チーム内で会話をする内容を決めておく。	
		事後学習	どの会話が聞き取りにくいかとまとめる。	
第 5 回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害 (その種類、 障害の程度) 3	事前学習	聞き取りにくい内容を確認しておく。	
		事後学習	疑似体験の総合的感想をまとめる。	
第 6 回	聴覚障害の補償 (補聴器、視覚的情報の利用)	事前学習	補聴器や人工内耳について調べておく。	
		事後学習	補聴器や人工内耳について覚える。	
第 7 回	聴覚障害とコミュニケーション 1	事前学習	どんなコミュニケーションがあるか調べておく。	
		事後学習	多様なコミュニケーションを確認する。	
第 8 回	聴覚障害とコミュニケーション 2	事前学習	口話法について調べておく。	
		事後学習	口話法について確認しておく。	
第 9 回	聴覚障害とコミュニケーション 3	事前学習	手話について調べておく。	
		事後学習	手話について確認しておく。	
第 10 回	聴覚障害とコミュニケーション 4	事前学習	トータルコミュニケーションについて調べる。	
		事後学習	トータルコミュニケーションについて確認する。	
第 11 回	聴覚特別支援学校の教育課程	事前学習	聴覚特別支援学校の教育課程について調べておく。	
		事後学習	聴覚特別支援学校の教育課程について確認しておく。	
第 12 回	聴覚特別支援学校における教育	事前学習	教育相談について調べておく。	
		事後学習	教育相談について確認しておく。	
第 13 回	日本の聴覚障害児に対する保育・教育	事前学習	幼稚園設立の経緯について調べておく。	
		事後学習	幼稚園教育要領と留意点	
第 14 回	聴覚障害者の社会生活上の問題	事前学習	聴覚障害者の裁判事例を調べる。	
		事後学習	裁判事例をまとめる。	
第 15 回	聴覚障害児の学力と授業	事前学習	どのような教科指導が難しいか考えておく。	
		事後学習	全般的な留意点についてまとめる。	

期末試験

1. 科目名 (単位数)	重複障害・LD 等教育総論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3454 SCMP3454 SBMP3454
2. 授業担当教員	金川 朋子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば当事者または保護者による講話の機会を設ける。また重複障害については補講期間に関連施設の見学会なども予定している。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	2012 年の調査で改めて発達障害傾向の児童生徒が全体の 6.5%存在する、と明らかになった。その存在が年々クローズアップされる発達障害児だが、普通教育においては理解がなかなか進まない。また特別支援学校にもこの傾向がある児童生徒が増えつつあり、学校の枠を超えて発達障害児への対応が重視されている。発達障害に関わる基礎知識から指導技術までを網羅し、学校現場で彼らをどう支援し、その特性を伸ばしていくか、について実際のケースに触れながら具体的に指導していく。また障害の重度化・多様化が進む中で様々な障害を併せ持つ児童生徒も急増している。併せて重複障害についても説明していきたい。またスライドや画像、動画、独自の資料を多用し、グループディスカッションも活用する。本講座では、重度・重複障害、LD 等発達障害の特性を学び、個に応じた発達支援が行える指導実践力を兼ね備えた教員をめざす。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害、重複障害について理解し、簡潔に述べることができる。 2. 学習障害 (LD) の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 3. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 4. 高機能自閉症、アスペルガー障害の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 5. 発達障害のある児童生徒へのコミュニケーション支援のあり方を学ぶ。 6. 発達障害のある児童生徒に対する教育の特質について理解し、説明することができる。 7. 特別支援学校現場における重度・重複障害児への対応について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 全国特別支援教育肢体不自由教育校長会編著『障害の重い子どもの指導 Q & A』ジアース教育新社 国立特別支援教育総合研究所編著『改訂新版 LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド』東洋館出版社。</p> <p>【参考書】 国立特別支援教育総合研究所編著『共に学び合うインクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例』ジアース教育新社</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>特別支援教育では、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、これまでの特殊教育の対象だけでなく、発達障害者支援法に定義される知的な遅れのない LD、ADHD、高機能自閉症等も対象としている。</p> <p>近年、特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の障害の重度・重複化が進んでおり、また、発達障害の子どもへの教育的支援の充実が求められています。</p> <p>本講座では、重度重複障害、LD 等発達障害のある子どもの特性を理解し、実践力のある教員をめざして欲しいと思います。グループでの学びとして、ポスター作成、発表を行います。学び、高めあえる授業づくりを一緒に作り上げていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義でお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	①オリエンテーション ②特別支援教育における「重度・重複障害」、「LD 等発達障害」について	事前学習	重複障害・発達障害のある子どもとの、これまでの関わりについてまとめる
		事後学習	「本講座で学びたいこと・目標」をまとめる。
第 2 回	重度・重複障害のある子どもの教育 (1) － 重度・重複障害とは－	事前学習	「重複障害」の定義について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	重度重複障害の子どもの教育の在り方」についてまとめる
第 3 回	重度・重複障害のある子どもの教育 (2) － 「ICF」と教育的支援	事前学習	「ICF」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「教育における ICF」の意義について、まとめる。
第 4 回	重度・重複障害のある子どもの教育 (3) － 「重度・重複障害」の概念と主な原因－	事前学習	「重度・重複障害のある子どもの概念と主な原因」について調べる。
		事後学習	「学校教育における医療との連携のあり方」についてまとめる。
第 5 回	重度・重複障害のある子どもの教育 (4) － 重度重複障害に関する学外施設見学もしくは外部講師による講義－ ※相手先の都合により変更の可能性あり	事前学習	配付する資料を読み、重度重複障害のある子どもの教育に対する疑問点をまとめる。
		事後学習	「重度重複障害のある子どもの教育的活動」についてまとめる。

第 6 回	発達障害のある子どもの教育（１） －発達障害の理解	事前学習	「発達障害」の定義について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「発達障害のある子どもの教育的な在り方」についてまとめる。
第 7 回	発達障害のある子どもの教育（２） －発達障害の理解と教育的支援	事前学習	「高機能自閉症の特性」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「発達障害の特性に応じた教育的支援」について、まとめる。
第 8 回	発達障害のある子どもの教育（３） －発達障害の理解－	事前学習	「学習障害（LD）の特性」について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	「学習障害（LD）の特性に応じた教育的支援についてまとめる。
第 9 回	発達障害のある子どもの教育（４） －発達障害の理解－	事前学習	「ADHD、高機能自閉症の特性」について、教科書・インターネット等で、調べる。
		事後学習	「ADHD、高機能自閉症の特性に応じた教育的支援についてまとめる。
第 10 回	障害のある子どもの教育（１） コミュニケーション支援の在り方	事前学習	コミュニケーション支援の方法について、教科書・インターネット等で調べる。
		事後学習	コミュニケーション支援の在り方についてまとめる。
第 11 回	障害のある子どもの教育（２） 教育におけるユニバーサルデザイン	事前学習	教育におけるユニバーサルデザインについて、調べる。
		事後学習	教育におけるユニバーサルデザインの在り方についてまとめる。
第 12 回	障害のある子どもの教育（３） グループワーク①ポスター制作	事前学習	グループワークで取り組むテーマについて、文献・インターネット情報を調べる。
		事後学習	ポスター制作のための情報収集、事前準備を行う。
第 13 回	障害のある子どもの教育（４） グループワーク② ポスター制作	事前学習	グループ発表で取り組むテーマについて、文献・インターネット情報を調べる。
		事後学習	ポスター発表にむけての役割を理解し、発表内容・方法を考える。
第 14 回	障害のある子どもの教育（５） グループワーク③ ポスター発表	事前学習	ポスター発表での役割理解、発表原稿等を準備する。
		事後学習	ポスター発表を振り返り、よかった点と課題をまとめる。
第 15 回	まとめ 共生社会における「障害のある子どもの教育の在り方	事前学習	障害のある子どもの教育の在り方についての自分の考えをまとめておく。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート（800～1000字）を作成し提出する。

1. 科目名 (単位数)	哲学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1319 GELA1340
2. 授業担当教員	石井 砂母亜		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>「哲学とは何か？」という問いは、現在でも、世界の一線級の哲学者たちの間でさえ合意をみていない。ここに哲学の特徴、難しさ、そしておもしろさが表れている。この世界がどうなっているかについての新しい知識を求める経験科学的な探求と異なり、哲学は、(例えて言えば) この世界を見ている自分たちの目そのものを探求するかのような自己言及的な側面を強くもっている。しかし言うまでもなく、自分で自分の目を覗き見ることはどうやってもできない。そこに哲学のむずかしさがあり、哲学に「答えはない」と言われる所以(ゆえん)がある。それでも、普段自分たちが当たり前のものとして考えたり疑ったりすることのなかった前提を、改めて見つめなおしてみることに意義を感じられる人にとっては、哲学を学ぶこと(あるいは「哲学する」こと)は、好奇心を刺激されるものとなるだろう。</p> <p>本講義では、哲学者たちが取り組んできたテーマについて、日常生活とのつながりを意識しながら学んでいく。しかし、もっとも大切なことは、哲学者たちの考えた内容そのものを覚えることではなく、その思考の軌跡を追体験することによって、受講者自身が各自の思考力を鍛えていくことである。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 自分が今このように存在し、このように物事を認識しているその(無意識の)根拠を改めて問いなおすことによって、人間として生きているとはどのようなことなのかをよりよく考えられるようになること。</p> <p>2. 科学的な探求とは異なる知のあり方があることを理解すること。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>各回の講義でリアクションペーパーを提出する。 15回目の講義時にレポートを提出する(レポートは講義内容を踏まえ、本を読み考察し、自らの見解を述べる。また、本や資料を参考にした場合には、参考文献として記載すること)。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書 441)、2007 年。</p> <p>【参考書】 野矢茂樹『はじめて考えるときのように―「わかる」ための哲学的道案内』(PHP 文庫)、2004 年。 左近司祥子編著『西洋哲学の 10 冊』(岩波ジュニア新書 613)、2009 年。 熊野純彦『西洋哲学史―古代から中世へ』(岩波新書 1007)、2006 年。 熊野純彦『西洋哲学史―近代から現代へ』(岩波新書 1008)、2006 年。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート 70%、授業への積極的参加度 30%		
12. 受講生への メッセージ	<p>本講義では、歴史上の賢人たちの〈問いの立て方〉(問い立て)とそこから導き出される〈考え方〉を学んでゆきたい。特に、古代から現代に至る賢人たちの問い立てに触れることで、皆さんと共に、〈問いを立てる〉ということ、その問いから〈考える〉ことを試みたい。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	【オリエンテーション】 考えるということ、問いを立てるということ	事前学習	指定テキストの「はじめに」を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 2 回	アルケーへのまなざし：フォアソクラティカ	事前学習	指定テキストの第 1 部 1-4 章を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 3 回	汝自身を知れ：ソクラテス	事前学習	指定テキスト第 1 章 5.1 章ソクラテスを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 4 回	魂を配慮する：ソクラテスとプラトン	事前学習	指定テキストの第 1 章 5.2 章プラトンを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 5 回	洞窟からの脱出：プラトン	事前学習	指定テキストの第 1 章 5.2 章プラトンを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 6 回	完成を目指す世界：アリストテレス	事前学習	指定テキストの第 1 章 5.3 章アリストテレスを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 7 回	幸福を目指すわたし：アリストテレス	事前学習	指定テキストの第 1 章 5.3 章アリストテレスを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 8 回	貧しい者こそ幸いである：イエス	事前学習	指定テキストの第 2 部を読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 9 回	わたしを超えて、あなたにおいて：アウグスティヌス	事前学習	指定テキストの第 3 部 1 章アウグスティヌスを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。

平成 28 年度

第 10 回	われ思う、ゆえにわれあり：デカルト	事前学習	授業で提示する第 3 部 2.1 章デカルトを読む
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 11 回	拒むことも答えることもできない問い：カント	事前学習	授業で提示する第 3 部 2.2 章カントを読む
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 12 回	〈自由〉を生きる：カント	事前学習	授業で提示したテキストを読む
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 13 回	現代と〈わたし〉：「モダン・タイムス」を観る	事前学習	現代の諸問題に関して、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 14 回	ニヒリズムと向き合う：ニーチェ	事前学習	指定テキストの第 3 部 5 章ニーチェを読む。
		事後学習	講義に関する疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。
第 15 回	わたし〈と〉他者	事前学習	第 1 回～第 14 回までの講義内容を踏まえ、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	15 回に及ぶ講義の内容整理し、疑問点を整理し図書館等で調べ、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	道徳教育の研究 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3396
2. 授業担当教員	倉澤 達雄		SJMP3296
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>道徳というのは大人がしたり顔でする説教でも教科書に羅列されている題目でもなく、私たちの身近にあるものである。たとえば、「あれかこれか」という二つ以上の選択肢にぶつかったときに、私たちはどの道を選ぶのがよいのかという価値判断に迫られる。このような、よさ・悪さ、xxすべき、といった当為・価値判断に関わる問題はすべて道徳的、倫理的問題だと言える。この意味では、私たちは道徳とともに毎日の生活を送っている。</p> <p>自分の価値判断が、自分の考えや行動、自分の生き方の内部だけで完結するのであれば、それほどたくさん問題は出てこないのかもしれない。しかし自分の価値判断はほとんどの場合、他人を巻き込む。つまり、道徳の問題は個人的であると同時に社会性をもつものである。異なる道徳規範をもった人が二人以上集まる時(私たちの実際の生活のほとんどあらゆる場がそれに該当する)、そこは衝突と妥協と調整の場となる。</p> <p>このような価値判断のぶつかり合いの連続である現実をどのように生き抜いていけるのか、またそれを次の世代の子どもたちにどのように伝えていったらよいかを考えるために、本講義では縦軸(日本の歴史の中で道徳規範がどのように変化してきたか)と横軸(他の社会や文化圏ではどのような道徳規範が機能しているか)の両方に目を配り、今の自分も持っている道徳観念や価値基準を見つめなおしていく。さらに人類の発展とともに新たに生じてきた道徳的、倫理的課題(科学技術と自然環境との関係、医療技術と生命の意味との関係など)をも取り上げ、今後ますます変化していく社会の中で生きていく受講生が、自分の頭で価値を判断していく力をつけられるようにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> さまざまな私たちの道徳規範や価値基準と自分たちのそれとの間の共通点と相違点に着目することで、自分が(無意識に)拠って立っている基盤を再考できるようになること。 自分がどのように生きていくかという課題は、ほとんど必然的に他者を巻き込むという点ですぐれて社会的なテーマでもある。「自分を含みこむ社会の一員としての自分」という角度から自分を見つめなおして、そして自分が関わっていると感ぜられる社会の外延を広げられるようになること。 ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質であるのみならず、これこそがまさに、非常に大切な「道徳的資質」と言える)。 		
9. アサイメント (宿題)及びレポート課題	レポート・「道徳教育の目標、内容」にかかわる設問 ・「道徳教育の指導」にかかわる設問 ・「道徳性の日常的な育成」に関する設問		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 I 文部科学省『小学校学習指導要領解説(道徳編)』東洋館出版社。 【参考書】 横浜市教育委員会『横浜版 学習指導要領(道徳編)』ぎょうせい。 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	レポート	総合点の 70%	
	授業への参加態度、積極性	総合点の 30%	
	総合点	100%	
12. 受講生への メッセージ	この科目は教師を志す人のためのものです。子どもに充実した教育を保障するためには、まず、教師自身の道徳性とその実践力が問われます。したがって、みなさんの講義への責任ある参加態度が特に重要になります。また、この学習が自分の日常の生活態度に反映することを期待します。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業計画概要、教育課程の全体構成と道徳教育	事前学習	道徳教育についての自分のイメージをまとめておく。
		事後学習	教育課程全体における道徳教育の位置を整理する。
第 2 回	道徳教育の改訂の経緯とその要点	事前学習	教科書 I pp. 7~14 を熟読し改訂の要点をまとめておく。
		事後学習	わが国の道徳教育の歩みを整理する。
第 3 回	道徳性の発達と道徳教育	事前学習	教科書 I pp. 15~22 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳の意義と道徳性の発達について整理する
第 4 回	道徳教育の目標	事前学習	教科書 I pp. 23~33 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳教育の目標と道徳の時間の目標について整理する。

平成 28 年度

第 5 回	道徳の内容と内容構成の考え方	事前学習	教科書 I pp. 34～38 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	内容項目の指導の四観点について整理する。
第 6 回	低学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 pp. 39～48 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	低学年の四観点 16 項目について整理する。
第 7 回	中学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 I pp. 48～53 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	中学年の四観点 18 項目について整理する。
第 8 回	高学年の内容と指導の観点	事前学習	教科書 I pp. 53～62 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	高学年の四観点 22 項目について整理する。
第 9 回	道徳の時間の指導計画と指導の展開	事前学習	教科書 I pp. 65～78 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画について整理する。
第 10 回	道徳の時間の指導計画と指導の展開	事前学習	教科書 I pp. 79～98 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳の時間の特質とその指導について整理する。
第 11 回	全教育活動における道徳教育	事前学習	教科書 I pp. 99～107 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	全教育活動の道徳教育の必要性と教科等との関連について整理する。
第 12 回	総合的な学習の時間における道徳教育	事前学習	教科書 I pp. 107～111 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	他領域における道徳教育について整理する。
第 13 回	道徳に時間における児童理解と評価	事前学習	教科書 I pp. 124～128 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	道徳教育における評価について整理する
第 14 回	道徳教育における家庭、地域社会との連携	事前学習	教科書 I pp. 116～123 を熟読しその要点をまとめる。
		事後学習	家庭や地域との連携の重要性について理解を深める。
第 15 回	まとめ	事前学習	道徳教育推進上の課題について考える。
		事後学習	道徳性の育成とその実践化への課題をもつ。

1 科目名 (単位数)	特別活動の指導法 (中等) (2 単位)	3 科目番号	SSMP2346 SCMP2346 SBMP2346 EDTS2307
2 授業担当教員	磯辺 武雄		
4 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)	5 開講学期	春期/秋期
6 履修条件・他科目との関係	「児童生徒指導論 (進路指導を含む) (中等)」を履修していることが望ましい。		
7 講義概要	特別活動に関する主要な概念を講義等で受け入れて増やす学び(概念受容型の学び)と演習や協議等を通じて自力で概念を形成する「概念形成型の学習」を行うようにする。特に、特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、学級活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。演習内容は、小学校における「学級活動」を中心にその授業力・指導力を育成するものとする。学級活動を中心に演習を展開する理由は、学級活動が特別活動の中核であり、集団成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、人間としての生き方に関する指導を行う中心的な場であるとともに、生徒指導の全機能が補充・深化・統合される場として重要であるからであり、教科書もなく学級担任としての真の力量が問われからである。		
8 学習目標	(1)特別活動に関する理論と実践について理解し、理論と実践の交流や応用が図れるようになる。 (2)改訂学習指導要領の特別活動では、「よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成」などを特に重視しており、それらに関わる力について実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動を一層充実することが求められている。そこで、これらのニーズに応える具体的な活動例を理解し、自ら考えた新企画を発表できるようになること。 (3)中学校における特別活動の中核となる「学級活動」について、計画委員会が主体となって授業を展開する指導案(展開案)を作成し、班内及び全員の前で発表できるようになること。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・必要に応じて、小テスト・小レポートを課すことがあります。 ・事例研究等においては、必ず各自で関連資料等の事前準備をしておいて下さい。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ①相原次男・新富康央・南本長徳編著『新しい時代の特別活動—一個が生きる集団活動を創造する—(シリーズ現代の教職 9)』ミネルヴァ書房、2012 年。 ②文部科学省『小/中/高等学校学習指導要領解説 特別活動編』。各自が取得する免許状に該当するもの。 ただし、授業では『 <u>中学校学習指導要領解説 特別活動編</u> 』を中心に使用します。 【参考書】 田中智志ほか編著『特別活動』一藝社、2013。 江川玫成編『特別活動の理論と方法 (三訂版)』学芸図書、2014(三訂版 5 刷)。		
11. 成績評価の方法	期末試験 (50%)、小テスト・小レポート (30%)、授業への参加意欲・態度 (20%)		
12. 受講生へのメッセージ	・授業中の私語、飲食及び携帯電話、スマートフォンの使用等は慎んで下さい。 ・グループワークの際は、必ず各自、関連資料等の事前準備をし、グループ討議に積極的に参加して下さい。 ・教員としての資質向上に関わる自己目標・自己課題をもち、授業に参加して下さい。 ・新聞・テレビ等における教育に関連する時事問題に関して、常に関心を持っていただきたい。 ・レポート、アサイメントについては、指定の提出日を必ず厳守して下さい。		
13. オフィスアワー	授業終了後、教室にて適宜時間を設けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	特別活動の教育的意義と実践課題 ・特別活動の今日的意義 ・特別活動の教員に求める力量 他	事前学習	教科書 pp. 2~15 を読み、特別活動の今日的意義について調べる。
		事後学習	特別活動の今日的意義と実践課題について整理する。
第 2 回	特別活動の方法 ・特別活動の方法 (集団活動、体験活動) 他	事前学習	教科書 pp. 16~30 を読み、特別活動の方法について調べる。
		事後学習	集団活動と体験活動について整理する。
第 3 回	特別活動の歴史 ・戦前の特別活動 ・戦後の特別活動 他	事前学習	教科書 pp. 31~44 を読み、学習指導要領における特別活動の内容について調べる。
		事後学習	特別活動の歴史について整理する。
第 4 回	小・中学校の学級活動と高等学校のホームルーム活動 ・学級活動の目標・内容 (小・中学校) ・ホームルーム活動の目標・内容 (高等学校)	事前学習	教科書 pp. 46~59 を読み、学級活動の目標・内容について調べる。
		事後学習	学級活動の目標・内容について整理する。
第 5 回	児童会活動と生徒会活動 ・児童会・生徒会活動の目標・内容および特質 ・児童会・生徒会活動の現実的問題 他	事前学習	教科書 pp. 60~75 を読み、児童会・生徒会活動の内容等について調べる。
		事後学習	児童会活動と生徒会活動について整理する。
第 6 回	学校行事 ・学校行事の歴史およびその種類と内容 ・学校行事の展開上の問題とその克服の方向 他	事前学習	教科書 pp. 76~90 を読み、学校行事といじめとの関係について調べる。
		事後学習	学校行事の種類について整理する。
第 7 回	特別活動と総合的な学習の時間 ・特別活動、総合的な学習の教育的特質 ・学校行事と総合的な学習との関連性 他	事前学習	教科書 pp. 92~106 を読み、総合的な学習の教育課程上の特質について調べる。
		事後学習	特別活動と総合的な学習の時間について整理する。
第 8 回	特別活動と道徳教育 ・特別活動における道徳教育	事前学習	教科書 pp. 107~121 を読み、特別活動と道徳教育の関連性について調べる。

平成 28 年度

	・特別活動と道徳の時間との関連 他	事後学習	特別活動と道徳教育との関連性について整理する。
第 9 回	・学級活動/学級経営 学級づくり ～グループワーク～ (1)	事前学習	教科書 pp.122～133 を読み、学級活動/学級経営の特質について調べ、どんな学級づくりをしたいか考えてみよう。
		事後学習	学級づくりの要諦について整理する。
第 10 回	・学級づくり ～グループワーク～ (2) 学級づくり ～GWおよびGWプレゼン～	事前学習	GWでの学級づくりについて再考する。 GWプレゼン配布資料を準備する。
		事後学習	学級づくりの意義について整理する。
第 11 回	・学級づくり ～グループワーク～ (3) 学級づくり ～GWプレゼン～	事前学習	GWプレゼン配布資料を準備する 学級活動の活性化と実践手法について調べる。
		事後学習	魅力ある学級づくりについて再整理する。
第 12 回	今日の特別活動の諸課題について ～グループワーク	事前学習	特別活動の諸課題について調べてみよう。
		事後学習	特別活動の課題点を整理する。
第 13 回	今日の特別活動の諸課題について ～グループ発表～	事前学習	GWプレゼン配布資料を準備する。
		事後学習	プレゼンの指摘内容について再整理する。
第 14 回	進路指導/キャリア教育 ・進路指導の意義 ・キャリア教育の意義 他	事前学習	「働く」ことの意義について考えてみる。
		事後学習	職業観、勤労観について整理する。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの授業を振り返り課題点を確認する
		事後学習	課題点について、今後の学習計画を立てる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	特別支援教育実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	SSMP3487 SCMP3487 SBMP3487
2. 授業担当教員	金川 朋子		
4. 授業形態	講義・演習 講義による基礎理論の習得に基づき、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履修者同士の実践的な学び合いを重視します。学習指導案の作成等の講義、指導場面別の指導内容、事例研究等について、演習・グループ討議等を行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座では、特別支援学校での教育実習を想定した実践的な内容で構成する。 1. 教師のあり方 2. 教育実習の準備・教材研究 3. 特別支援教育の児童・生徒の実態 4. 特別支援教育の現状と課題 5. 障害児の理解と接し方 6. 障害児の観察の視点 7. 人権教育について 8. 教育機器と教材の活用		
8. 学習目標	以下について学習し、教育実習に臨める力、指導実践力を高める。 ①教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを持つ。 ②教育実習での児童、生徒の実態把握ができるようになる。 ③学習指導案の作成と教材作り等について創意工夫し、臨めるようになる。 ④研究授業に基づいた、授業改善を通し、よりよい授業を考えられるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 須田正信・伊丹昌一編著『合理的配慮の視点でつくる！特別支援教育の授業づくり&指導案作成ガイド』明治図書、2014 年。 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領・特別支援学校高等部学習指導要領』海文堂、2009 年。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部・高等部)』海文堂、2009 年。 『教育実習の手引き』東京福祉大学編		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)		
12. 受講生へのメッセージ	いよいよ教育実習です。支援学校での教育実習では、限られた期間の中で、的確な実態把握、学習指導案の作成、教材研究などが求められます。これまでの学びを活用し、障害のある子どもを対象にした教育活動に積極的に取り組み、実践に基づいた学びを展開してください。模擬授業を中心にした、より実践に近い形での講座を行います。自己評価、他者評価を行いながら、学び合い、高め合う授業を行います。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義でお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	特別支援学校の実際 教育実習での指導①ー自己紹介ー	事前学習	教育実習で行う、自己紹介の内容・方法を考える
		事後学習	教育実習に臨むまでに必要な準備・手続等を計画する
第 2 回	教育実習での指導②ー朝の会ー	事前学習	特別支援学校における「朝の会」について、ねらい・活動内容等を調べる
		事後学習	特別支援学校における「朝の会」について、ねらい・活動内容等をまとめる
第 3 回	教育実習での指導③ー朝の会ー	事前学習	特別支援学校における「朝の会」の活動内容を調べる。
		事後学習	特別支援学校における「朝の会」の在り方についてまとめる
第 4 回	教育実習での指導④ー研究授業	事前学習	教育実習における「研究授業」についてのねらい・方法等を調べる。
		事後学習	教育実習における「研究授業」の在り方についてまとめる。
第 5 回	教育実習での学びについて 外部部講師等による講義	事前学習	教育実習に対する心構えについてまとめる
		事後学習	教育実習にむけての自己の課題をまとめる
第 6 回	模擬授業 1 (1) 学習指導案の作成	事前学習	模擬授業の学習指導案の作成、教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業の学習指導案の作成、教材研究を行う。
第 7 回	模擬授業 1 (2) 学習指導案の作成	事前学習	模擬授業の学習指導案の作成、教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業の学習指導案の作成、教材研究を行う。
第 8 回	模擬授業 1 (3) 授業発表・授業研究	事前学習	模擬授業のためのリハーサル等を行い、発表に向けての準備を行う
		事後学習	模擬授業実施後のよかった点、反省点等をまとめ、授業改善し、学習指導案を完成させる。

平成 28 年度

第 9 回	模擬授業 1 (4) 授業発表・授業研究	事前学習	模擬授業のためのリハーサル等を行い、発表に向けての準備を行う
		事後学習	模擬授業実施後のよかった点、反省点等をまとめ、授業改善し、学習指導案を完成させる。
第 10 回	教育実習での指導⑤ 教材研究・教材作り 特別支援学校の公開授業等に参加について	事前学習	特別支援学校の公開授業等の情報を調べる。
		事後学習	特別支援学校の公開授業等の参加計画を考える。
第 11 回	模擬授業 2 (1) 学習指導案の作成	事前学習	模擬授業の学習指導案の作成、教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業の学習指導案の作成、教材研究を行う。
第 12 回	模擬授業 2 (2) 学習指導案の作成	事前学習	模擬授業の学習指導案の作成、教材研究を行う。
		事後学習	模擬授業の学習指導案の作成、教材研究を行う。
第 13 回	模擬授業 2 (3) 授業発表・授業研究	事前学習	模擬授業のためのリハーサル等を行い、発表に向けての準備を行う
		事後学習	模擬授業実施後のよかった点、反省点等をまとめ、授業改善し、学習指導案を完成させる。
第 14 回	模擬授業 2 (4) 授業発表・授業研究	事前学習	模擬授業のためのリハーサル等を行い、発表に向けての準備を行う
		事後学習	模擬授業実施後のよかった点、反省点等をまとめ、授業改善し、学習指導案を完成させる。
第 15 回	まとめ 一人権教育について、教育実習までの準備等	事前学習	教育実習校の教育目標等の情報を調べて、ノートに記入する。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート(800~1000字)を作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECM1718
2. 授業担当教員	古田 高史	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション等		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「日本の言語と文化Ⅰ」で養った日本語運用能力をさらにレベルアップする訓練を行います。毎回の授業は、学生が主体となって行う口頭発表・ディスカッションを中心に構成します。発表担当者は、事前にテキストを熟読し、テーマに関する情報収集を行い、クラスメートからの質問に答えられるよう準備をしておきます。授業では、担当者が内容導入を行い、教師役となりクラスでのディスカッションをリードします。ディスカッション後は、各自が意見をまとめる作文と語彙・語法に関する小テストの時間を設けます。これらの活動を通して、研究課題の特定、情報収集、分析、そしてディスカッション、問題解決の提案といった、日本語でリサーチプロジェクトを遂行するために必要な基礎的スキルの養成を目指します。		
8. 学習目標	1. 大学の学びの場で日本人学生と円滑に意見交換、議論ができるレベルの日本語運用能力の習得を目指し、実践することが出来る。 2. ディスカッションリーダーとなる経験を通して、日本の文化・社会に関する問題を多角的に分析し、論点を明確にする能力を身につけることが出来る。 3. 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働する力を向上させ、グローバル社会で働く基礎力を身につけることが出来る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 学習課題に指示した事前学習・事後学習を必ず行った上で授業に参加すること。 2. 指示された学習内容を記録したノート (ルーズリーフは不可) を提出する。 3. 授業で取り組んだタスクから一つを選び、発表原稿を提出する。作成や提出の詳細は授業中に指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編『日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書 出会い 本冊 テーマ学習・タスク活動編』ひつじ書房、2015 東京外国語大学留学生日本語教育センター編『日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書 出会い 別冊 文型・表現練習編』ひつじ書房、2016		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・積極的参加度 30% 小テスト・確認テスト・ノートの提出 40% 発表 15% 期末レポート (発表原稿) の提出 15%		
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、受講生が自らの日本語運用能力を高めようとする「努力のプロセス」も大切にします。特に以下の点には注意してください。 1. 欠席、遅刻、早退などせず、積極的に参加すること。 2. 提出物、宿題は必ず提出すること。 3. ノート、復習シートはなくさないこと。 4. 教科書 (本冊、別冊の二冊) は毎回必ず持参すること 5. 分からないことは、担当教員に必ず質問、確認をすること		
13. オフィスアワー	初回の授業時間内に説明する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業概要の説明、自己紹介 (自分の興味・関心、目標など)	事前学習	日本の言語と文化Ⅰで学習したトピックを振り返り、自分の興味・関心、目標をまとめておく。
		事後学習	この授業での目標をノートに記入する。
第 2 回	タスク 1 街で見つけたおもしろいもの① タスクの内容と準備方法の説明	事前学習	【本冊】 p. 32~34 を読み、タスクの内容を確認しておく。また、p. 43 を読み、このタスクを通しての、自分自身の目標を決める。
		事後学習	自分の身の回りの「おもしろいもの」を探して、何枚か写真をとっておく。
第 3 回	タスク 1 街で見つけたおもしろいもの② 小テスト、話してみよう	事前学習	【別冊】 第一課の学習事項を復習しておく。
		事後学習	小テストで出来なかったところ、話してみようで作文したことを、ノートに写しておく。
第 4 回	タスク 1 街で見つけたおもしろいもの③ 発表の内容を考える	事前学習	【本冊】 p. 35 を記入しておく。
		事後学習	【本冊】 p. 35 を見直しておく。
第 5 回	タスク 1 街で見つけたおもしろいもの④ 発表の構成と表現を学ぶ: 発表原稿の作成	事前学習	【本冊】 p. 37~38 を記入しておく。
		事後学習	【本冊】 p. 39~40 の発表原稿を作成しておく。
第 6 回	タスク 1 街で見つけたおもしろいもの⑤ 発表	事前学習	【本冊】 第 5 回で作成した発表原稿で、発表の練習をしておく。
		事後学習	発表原稿を、ノートに写しておく。
第 7 回	タスク 1 街で見つけたおもしろいもの⑥ 発表を聞いて考えたことを話し合う	事前学習	【本冊】 p. 42 を記入しておく。
		事後学習	今日の授業で気づいたことをノートに記録しておく。
第 8 回	タスク 1 街で見つけたおもしろいもの	事前学習	【別冊】 第一課の学習事項を復習しておく。

	の⑦ 確認テスト、まとめ	事後学習	タスク 1 を通して出来るようになったこと、確認テストで出来なかったところをノートに記録しておく。
第 9 回	タスク 2 私のキャリアプラン① タスクの内容と準備方法の説明	事前学習	【本冊】 p. 66~68 を読み、タスクの内容を確認しておく。また、 p. 84~85 を読み、このタスクを通しての、自分自身の目標を決める。
		事後学習	【本冊】 p. 68 を参考に質問を考えて、ノートに記しておく。
第 10 回	タスク 2 私のキャリアプラン② 小テスト、話してみよう	事前学習	【別冊】 第二課の学習事項を復習しておく。
		事後学習	小テストで出来なかったところ、話してみようで作文したことを、ノートに写しておく。
第 11 回	タスク 2 私のキャリアプラン③ インタビューのし方を学ぶ	事前学習	【本冊】 p. 72~75 を読んでおく。
		事後学習	インタビューを行い、【本冊】 p. 69~71 を記入しておく。
第 12 回	タスク 2 私のキャリアプラン④ 発表の構成と表現を学ぶ: 発表のスライド	事前学習	【本冊】 p. 80 を記入しておく。
		事後学習	【本冊】 p. 81~82 を参考に、発表のスライド、発表原稿を作成してみる。
第 13 回	タスク 2 私のキャリアプラン⑤ 発表	事前学習	スライドももとに発表の練習をしておく。
		事後学習	発表原稿をノートに写しておく。
第 14 回	タスク 2 私のキャリアプラン⑥ 発表を聞いて考えたことを話し合う	事前学習	【本冊】 p. 83 を記入しておく。
		事後学習	今日の授業で気づいたことをノートに記録しておく。
第 15 回	タスク 2 私のキャリアプラン⑦ 確認テスト、まとめ	事前学習	【別冊】 第二課の学習事項を復習しておく。
		事後学習	タスク 2 を通して出来るようになったこと、確認テストで出来なかったところをノートに記録しておく。
第 16 回	タスク 3 地域の名所を紹介する① タスクの内容と準備方法の説明	事前学習	【本冊】 p. 130~132 を読み、タスクの内容を確認しておく。また、 p. 145~146 を読み、このタスクを通しての、自分自身の目標を決める。
		事後学習	【本冊】 p. 132 を参考に、自分が紹介したい「地域の名所」をノートに挙げておく。
第 17 回	タスク 3 地域の名所を紹介する② 小テスト、話してみよう	事前学習	【別冊】 第三、四課の学習事項を復習しておく。
		事後学習	小テストで出来なかったところ、話してみようで作文したことを、ノートに写しておく。
第 18 回	タスク 3 地域の名所を紹介する③ 情報を収集する	事前学習	【本冊】 p. 132~134 を記入してみる。
		事後学習	さらに、情報を集めて、【本冊】 p. 132~134 を完成させておく。
第 19 回	タスク 3 地域の名所を紹介する④ 発表の構成と表現を学ぶ: アウトライン	事前学習	【本冊】 p. 136~137 を音読しておく。
		事後学習	【本冊】 p. 138~139 を記入しておく。
第 20 回	タスク 3 地域の名所を紹介する⑤ 発表	事前学習	【本冊】 p. 140~141 の発表原稿を作成したうえで、発表の練習を行う。
		事後学習	発表原稿をノートに写しておく。
第 21 回	タスク 3 地域の名所を紹介する⑥ 発表を聞いて考えたことを話し合う	事前学習	【本冊】 p. 144 を記入しておく。
		事後学習	今日の授業で気づいたことをノートに記録しておく。
第 22 回	タスク 3 地域の名所を紹介する⑦ 確認テスト、まとめ	事前学習	【別冊】 第三、四課の学習事項を復習しておく。
		事後学習	タスク 3 を通して出来るようになったこと、確認テストで出来なかったところをノートに記録しておく。
第 23 回	タスク 4 私のボランティア経験① タスクの内容と準備方法の説明	事前学習	【本冊】 p. 198~200 を読み、タスクの内容を確認しておく。また、 p. 214~215 を読み、このタスクを通しての、自分自身の目標を決める。
		事後学習	【本冊】 p. 200 に記入しておく。
第 24 回	タスク 4 私のボランティア経験② 小テスト、話してみよう	事前学習	【別冊】 第五、六課の学習事項を復習しておく。
		事後学習	小テストで出来なかったところ、話してみようで作文したことを、ノートに写しておく。
第 25 回	タスク 4 私のボランティア経験③ インタビューシートを作る	事前学習	【本冊】 p. 201 を参考に質問を考えて、ノートに記入しておく。
		事後学習	【本冊】 p. 202~205 を記入しておく。
第 26 回	タスク 4 私のボランティア経験④ 報告書の構成と表現を学ぶ	事前学習	【本冊】 p. 206~208 を読んでおく。
		事後学習	【本冊】 p. 209~211 を記入しておく。
第 27 回	タスク 4 私のボランティア経験⑤ 発表	事前学習	【本冊】 p. 209~211 をもとにして、発表の練習をしておく。
		事後学習	発表原稿をノートに写しておく。
第 28 回	タスク 4 私のボランティア経験⑥ 発表を聞いて考えたことを話し合う	事前学習	【本冊】 p. 213 を記入しておく。
		事後学習	今日の授業で気づいたことをノートに記録しておく。
第 29 回	タスク 4 私のボランティア経験⑦	事前学習	【別冊】 第五、六課の学習事項を復習しておく。

	確認テストとまとめ	事後学習	タスク 4 を通して出来るようになったこと、確認テストで出来なかったところをノートに記録しておく。
第 30 回	これまでの内容の振り返り	事前学習	これまでの学習項目を復習しておく。
		事後学習	この授業で出来るようになったこと、これから、より出来るようになりたいことをノートに記しておく。

1. 科目名 (単位数)	乳児保育 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2417
2. 授業担当教員	澤井 洋子		SCOT2417
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	わが国における乳児保育の発展と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・保育を意識した乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を習得し、保育現場での課題解決方法を模索する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の乳児保育がたどった歩みとその意義・基本を知り、これからのあり方についても理解し、説明することができる。 2. 乳幼児の発達とそれに沿った保育所(園)生活のあり方や保育者の援助と役割を学び、説明することができる。 3. 乳幼児保育における保健衛生及び安全についての知識を身につける。 4. 保育課程と記録について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	第2回 乳児保育の歴史的あゆみと伝統的子育て観を学んだうえで、自己の乳児保育に対する考えをレポートにまとめ、認識を明らかにする。(A4レポート用紙1枚)		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『乳児保育演習ガイド』高内正子他 編著、建帛社。</p> <p>【参考書】『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館。</p> <p>『保育児童福祉要説』東京福祉大学編、中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別の授業への積極的参加態度及びグループ活動(ディスカッション・発表等)での積極的参加態度 2. 宿題の提出と内容 3. まとめレポート評価 <p>以上の比率で総合評価する。</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>	総合点の 50%	総合点の 20%
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、0歳児保育から2歳保育を中心に心身の発達や生活習慣自立、それを支える保育者のあり方などの基本的なことを学びます。しかし、教科書の理論だけではなく理解できるものではありません。赤ちゃんに触れた経験のない受講生は、この授業の前に、あるいは授業の進行と同時に、保育所などでボランティアを体験し、ぜひ一度乳児に触れてみてください。皆さんの五感で乳児を理解することも授業と同様に大切です。なお授業中に次のことを受講生に期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中、活発な議論や質問など積極的態で授業に臨むこと。 2. 保育に関わる仕事を志す人にふさわしい生活態度を常に心がけて、真摯に授業に打ち込むこと。 3. 提出物の期限を守ること。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の概要説明 乳児保育の理念 ・乳児保育の意義について考察する。 ・乳児保育の基本と方法を理解する。	事前学習	乳児の特徴について書き出しておくこと。
		事後学習	ここで学んだ「乳児保育の役割」をまとめる。
第2回	乳児保育の歴史を理解し現状を考察する。 ・母性神話と3歳児神話が乳児保育に及ぼした影響について ・待機児童の現状について ・DVDで乳児前期の保育実践の様子を確認する。	事前学習	待機児童の現状について資料を集め考察する。
		事後学習	保護者との連携と職員間の連携について考察し、まとめること。
第3回	乳児保育と子どもの身体的発達の特徴と運動機能の発達の過程を理解する。またDVDで乳児前期の保育実践の様子を確認する。	事前学習	新生児の原始反射について意味や意義を調べておくこと。
		事後学習	0～2歳の運動機能の発達のワークシートを完成させる。
第4回	乳児保育と子どもの精神機能の発達を理解する。①	事前学習	保育所保育指針第2章子どもの発達2.発達過程(1)～(4)を読んでおくこと。
		事後学習	0～2歳の運動機能の発達のワークシートを整理する。
第5回	乳児保育と子どもの精神機能の発達を理解する。② またDVDでも精神機能の発達様子を確認する。	事前学習	再度、保育所保育指針第2章子どもの発達2.発達過程(1)～(4)を読んでおくこと。
		事後学習	0～2歳の精神機能の発達のワークシートを完成させる。
第6回	乳児保育と子どものコミュニケーションの発達の過程を理解し、保育者の配慮について考察する。①	事前学習	再度、保育所保育指針第2章子どもの発達2.発達過程(1)～(4)を読んでおくこと。
		事後学習	0～2歳のコミュニケーションの発達のワークシートを整理する。
第7回	乳児保育と子どものコミュニケーションの発達の過程	事前学習	再度、保育所保育指針第2章子どもの発達

	を理解し、保育者の配慮について考察する。② また DVD で乳児のコミュニケーション発達における大人の配慮について確認する。		2. 発達過程 (1) ~ (4) を読んでおくこと。
		事後学習	乳幼児が言葉を発する前に、周囲の大人が配慮すべきことを書き出して整理する。
第 8 回	乳児保育と子どもの病気と健康① ・感染症とアレルギー疾患と対応について理解する。	事前学習	資料：厚生労働省：「保育所におけるアレルギー対策ガイドライン」の抜粋を読み、予習を行っておく。
		事後学習	アトピー性皮膚炎と食物アレルギーについての対応を表にまとめる。
第 9 回	乳児保育と子どもの病気と健康② ・病気の症状に合わせた観察と手当の方法を覚える。	事前学習	資料：厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」子どもの病気～症状に合わせた対応～ を読み、予習を行っておく。
		事後学習	病後児を保育するときの注意について症状別に考える。
第 10 回	乳児保育と養護の実際 ・乳児の養護に際して、対応の留意点を理解する。 また DVD で 1, 2 歳児の保育実践の様子を確認する。	事前学習	資料：厚生労働省「授乳・離乳支援ガイド」抜粋を読み、予習を行っておく。
		事後学習	養護に際しの対応の留意点をまとめる。
第 11 回	乳児保育と遊びとおもちゃ ・乳児における遊びの意味や必要性を理解する。①	事前学習	赤ちゃん用品売り場で、どのようなおもちゃが売られているか見学する。
		事後学習	発達過程に応じたおもちゃを、年齢別・目的別に整理する。
第 12 回	乳児保育と遊びとおもちゃ ・乳児における遊びの意味や必要性を理解する。② また DVD で遊びの様子を確認する。	事前学習	遊びの内容と 5 領域の関係について教科書で確認する。
		事後学習	おもちゃを使つての遊び方について、保育者の配慮をまとめる。
第 13 回	乳児保育と環境 ・乳児保育に適した環境について理解する	事前学習	保育所保育指針第 1 章 (3) 保育の環境 を読んでおくこと。
		事後学習	人的環境としての保育者についてまとめる。
第 14 回	乳児保育と保育の計画 ・乳児の保育計画の特徴と記録の役割を理解する	事前学習	保育所保育指針第 4 章 1 保育の計画 を読んでおくこと。
		事後学習	なぜ記録が必要か、記録の必要性について確認しまとめる。
第 15 回	乳児院の保育の現状と保育士の役割 ・DVD を視聴し、乳児院における保育を理解する。 乳児保育における家庭支援と今後の課題 乳所保育の基本の再確認とまとめ	事前学習	乳児院の意義と役割について調査しておく。 保育所保育指針第 6 章保護者に対する支援を読んでおくこと。
		事後学習	いくつかの乳所保育の基本の中から、最も重要だと思うものを選び、レポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	認知症の理解 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2312									
2. 授業担当教員	先崎 章		SCMP2312									
4. 授業形態	講義、質疑応答形式を併用、ビデオ教材による知識の習得とディスカッション	5. 開講学期	秋期									
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	<p>認知症の医学的、行動的、心理的、社会福祉的概要の理解を深めるよう努力します。将来社会人となることから、老人医療、地域社会、精神保健および精神保健福祉制度についても関心がいくよう、認知症に関連する知識の習得を目指します。具体的な達成目標レベルは、認知症ケア専門士認定試験の「認知症ケアの基本」分野で合格点をとれることです。また、最新の認知症治療や認知症予防についての理解を深めるために、ビデオ教材を適時使用します。</p> <p>少子高齢化が、かつて人類が経験したことのないスピードで進行しています。精神疾患 (含、認知症) の増加、障害者概念の広がりにより、平成 25 年度から施行される新たな医療計画に 5 疾病 5 事業の一つとして精神疾患 (含、認知症) が加わり、また同時に (介護保険法に準ずる形で) 地域障害者総合支援法がスタートします。最近の福祉・医療の概要、動向についても理解を深めていきます。</p>											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士として必要な認知症の知識を身につける。 2. 脳の機能や老人の心理や精神疾患についての理解を深める。 3. 認知症に付随する身体症状や介護についての視点も身につける。 4. 家族の力や地域資源を活かす視点を身につける。 5. 認知症や高齢者に関する医療や制度の理解を深める 											
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義で取り上げた項目や学生の関心事項の中から、選択してレポートを作成し提出する。詳細は授業の中で説明します。											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解 第 3 版』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 山口晴保編『認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第 2 版』協同医書出版社。 日本認知症ケア学会編『認知症ケア標準テキスト 改訂・認知症ケアの基礎』(株) ワールドプランニング。 『新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療 第 2 版』中央法規。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>毎回の提出物、授業態度</td> <td>50%</td> <td>(おしゃべりや携帯電話等の使用は減点します)</td> </tr> <tr> <td>課題レポート、プレゼンテーション</td> <td>10%</td> <td>(詳細は講義の中で説明します)</td> </tr> <tr> <td>復習テスト (随時実施) の総計点数</td> <td>40%</td> <td>(事前に範囲・形式を予告します。)</td> </tr> </table>			毎回の提出物、授業態度	50%	(おしゃべりや携帯電話等の使用は減点します)	課題レポート、プレゼンテーション	10%	(詳細は講義の中で説明します)	復習テスト (随時実施) の総計点数	40%	(事前に範囲・形式を予告します。)
毎回の提出物、授業態度	50%	(おしゃべりや携帯電話等の使用は減点します)										
課題レポート、プレゼンテーション	10%	(詳細は講義の中で説明します)										
復習テスト (随時実施) の総計点数	40%	(事前に範囲・形式を予告します。)										
12. 受講生へのメッセージ	<p>毎回、A4 判の資料を配布しますので、散逸しないよう、綴じていってください。認知症に対する医学的な知見や対応方法は、最近 5 年間でみてもまったく様変わりしています。最新の知見、トピック、話題を提供して、認知症や老人に対する興味や関心が持てるよう、視覚教材も交えて授業を工夫していきます。</p> <p>基本的な知識を習得するためには、地道な学習活動と基本事項を記憶していくことが必要です。医学的、科学的な知識、エビデンスに裏付けられた介護、支援、援助が将来できるように願って、授業を進行させていきます。具体的には「医学的なこと」と「社会福祉的なこと」の二つの事柄を 1 回の中で進行させていきます。</p>											
13. オフィスアワー	授業中に通知する											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	オリエンテーション、認知症ケアの歴史 認知症の体験の理解	事前学習	認知症のケアの歴史について調べてみる									
		事後学習	認知症についての配布プリントの復習									
第 2 回	認知症の基礎、脳・海馬について 個室ユニットと相部屋	事前学習	認知症の記憶障害の特徴について調べてみる									
		事後学習	脳についての配布プリントの復習									
第 3 回	認知症とは? 認知症による脳の変化 高齢者のうつと躁、最近のトピック	事前学習	大脳の変性部位について調べてみる									
		事後学習	脳の変化についての配布プリントの復習									
第 4 回	軽度認知障害 (MCI) アルツハイマー病の診断、病理、治療、予防	事前学習	タウタンパク、アミロイドβタンパクを調べる									
		事後学習	アルツハイマー病についての配布プリントの復習									
第 5 回	脳血管性認知症、レビー小体型認知症	事前学習	様々な認知症のタイプについて調べてみる									
		事後学習	認知症のタイプについての配布プリントの復習									
第 6 回	若年認知症、若年者の高次脳機能障害 (認知症との対比)	事前学習	高次脳機能障害について調べてみる									
		事後学習	高次脳機能障害についての配布プリントの復習									
第 7 回	認知症の人の行動・心理症状 BPSD への対応について	事前学習	中核症状、周辺症状、BPSD について調べる									
		事後学習	BPSD についての配布プリントの復習									
第 8 回	認知症の人の生活理解、認知機能の変化が生活に及ぼす影響、治療可能な認知症	事前学習	認知症者の毎日の生活について想像してみる									
		事後学習	認知症者の生活理解についての配布プリントの復習									
第 9 回	認知症の人に対する介護	事前学習	BPSD 各症状に対する対応について復習する									
		事後学習	認知症介護についての配布プリントの復習									
第 10 回	認知症と知的障害の経過、対応の違い	事前学習	知的障害について調べてみる									
		事後学習	認知症・知的障害についての配布プリントの復習									
第 11 回	介護者自身の体験、家族のこころ 家族の力を活かす、こころを支える	事前学習	介護を体験したことのある人のはなしを聞く									
		事後学習	介護家族の力についての配布プリントの復習									
第 12 回	認知症の対応、環境の大切さ、家族の会の役割について	事前学習	認知症の家族会について調べてみる									
		事後学習	家族会についての配布プリントの復習									
第 13 回	認知症についてのまとめ 認知症を理解するための 8 大原則・1 原則	事前学習	第 1 回～12 回のプリントを復習する									
		事後学習	認知症理解についての配布プリントの復習									
第 14 回	全体のまとめ 認知症や高齢者に関する最近のトピックス	事前学習	認知症関連のニュースや新聞記事を調べる									
		事後学習	最近のトピックスについての配布プリントの復習									

第 15 回	認知症に関する制度・関係機関、最近のトピックス、介護保険の今後	事前学習	地域障害者総合支援法について調べてみる
		事後学習	まとめ配布プリントの復習

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2342 SCMP2342 SBMP2342
2. 授業担当教員	川島 亜紀子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ討議・発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	今日の発達心理学は、人間の受精から死までを扱う「生涯発達心理学」を意味する。本講義では、最初に発達の全体的なプロセスやメカニズムについて、概観する。そして、身体、認知、感情、パーソナリティ、社会性など、それぞれの機能がどのように発達していくか、考えたい。また、現代の少子高齢化社会や情報社会特有の問題と発達との関係、あるいはその病理についても講義、ディスカッション等を行いながら、学習を進めていく。			
8. 学習目標	(1) 発達のいくつかの基本的概念を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解し、身近な発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	○課題 1 主題に対する振り返り 講義主題ごとにレスポンスシート (A4 用紙半分程度) を作成し、内容理解について振り返る。 ○課題 2 主題に対する振り返りその 2 シートに書かれた事柄を可能な範囲で共有、討議することで、さらに内容理解を深める。 ○課題 3 グループ活動 関心を持ったテーマをグループで役割分担を決定し、討議および共同研究、発表を行う。 ○課題 4 レポート作成 A4 (40字×40行) 2枚程度のものを作成し提出する。 →法について自由に論ずる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小野寺 敦子『手にとるように発達心理学がわかる本』かんき出版			
11. 成績評価の方法	レポート 40%、課題研究 (グループ活動) 20%、学習用ノート 20%、授業への参加度など 20%。 なお、本学の規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。			
12. 受講生への メッセージ	1. 本学の規定により全講義回数のうち 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 2. 遅延の場合は遅延証明書を当日または次回講義までに担当教員に提出すること。 3. 遅延の累積回数が多い場合には、遅延を認めない場合もあるため注意すること。 4. 積極的な受講態度や参加姿勢は加点的な対象とする。 5. グループディスカッション等において積極的に討議できているグループは加点的な対象とする。 6. 受講態度や参加姿勢について、特に以下に示す様態は減点的な対象とする。私語、居眠り、携帯いじり、無断退室、出席の代返、その他授業と関係のない行為等。注意しても学習態度に改善が見られない場合は F 評価とする。 7. レポートや小テスト、プレゼンテーションにおいて、不正行為 (カンニングや他者の論文・レポート等の盗用など) とみなされた場合、ただちに本講義を F 評価するとともに、当該年度の全ての授業において F 評価とする。 学生の理解度や要望により授業内容を変更することがあります。			
13. オフィスアワー	授業開始時に周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション ・講義概要と評価方法等についての説明 最新の臨床心理学的トピックスを挙げ、今後の学習意欲向上を図るとともに、レポートの書き方について説明する。 ・グループ作り 発達心理学とは	事前学習	シラバスを熟読し、学習用ノートを用意して授業に臨む。	
		事後学習	発達について学んだことを学習用ノートにまとめる。	
第 2 回	発達心理学の基礎理論	事前学習	教科書 pp. 24～55 を熟読する。	
		事後学習	教科書 pp. 24～55 の内容を学習用ノートにまとめる。	
第 3 回	胎児期～新生児期の発達	事前学習	教科書 pp. 60～75 を熟読する。	
		事後学習	教科書 pp. 60～75 の内容を学習用ノートにまとめる。	
第 4 回	乳児期の発達	事前学習	教科書 pp. 76～91 を熟読する。	
		事後学習	教科書 pp. 76～91 の内容を学習用ノートにまとめる。	
第 5 回	幼児期前期の発達	事前学習	教科書 pp. 96～109 を熟読する。	
		事後学習	教科書 pp. 96～109 の内容を学習用ノートにまとめる。	
第 6 回	幼児期後期の発達	事前学習	教科書 pp. 110～125 を熟読する。	
		事後学習	教科書 pp. 110～125 の内容を学習用ノートにまとめる。	
第 7 回	児童期の発達	事前学習	教科書 pp. 130～161 を熟読する。	
		事後学習	教科書 pp. 130～161 の内容を学習用ノートにまとめる。	
第 8 回	児童期の発達上の問題	事前学習	いじめと不登校について調べ、ディスカッションに備える。	

		事後学習	ディスカッションから学んだことをレポートにまとめる。
第 9 回	青年期の発達	事前学習	教科書 pp. 166～187 を熟読する。
		事後学習	教科書 pp. 166～187 の内容を学習用ノートにまとめる。
第 10 回	成人期の発達	事前学習	教科書 pp. 192～209 を熟読する。
		事後学習	教科書 pp. 192～209 の内容を学習用ノートにまとめる。
第 11 回	高齢期の発達	事前学習	教科書 pp. 214～225 を熟読する。
		事後学習	教科書 pp. 214～225 の内容を学習用ノートにまとめる。
第 12 回	発達のつまづき	事前学習	教科書付録部分を熟読する。
		事後学習	学習した内容をまとめ、今後、発達障がいを持つ人々と関わっていくうえで留意したいことをレポートにまとめる。
第 13 回	グループ・プレゼンテーション (1)	事前学習	発表準備を行う。
		事後学習	他のグループの発表内容を振り返る。
第 14 回	グループ・プレゼンテーション (2)	事前学習	発表準備を行う。
		事後学習	他のグループの発表内容を振り返る。
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	授業内容を振り返り、発達の理論と各発達段階の特徴について復習する。
		事後学習	理解が不足していた部分について復習する。

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	EDPS2304
2. 授業担当教員	平沼 晶子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ討議・発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	今日の発達心理学は、人間の受精から死までを扱う「生涯発達心理学」を意味する。本講義では、最初に発達の全体的なプロセスやメカニズムについて、概観する。そして、身体、認知、感情、パーソナリティ、社会性など、それぞれの機能がどのように発達していくか、考えたい。また、現代の少子高齢化社会や情報社会特有の問題と発達との関係、あるいはその病理についても講義、ディスカッション等を行いながら、学習を進めていく。			
8. 学習目標	(1) 発達のいくつかの基本的概念を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解し、身近な発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業内で小テストを実施するので復習をして臨む。 講義内容に関連したテーマを取り上げてディスカッションを行い、グループごとに発表をする。授業を通して学習したことについて振り返り、期末レポートとしてまとめる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 青木紀久代編著『実践・発達心理学』 みらい、2012 年。			
11. 成績評価の方法	本学の規定により、3/4 以上の出席を単位認定要件とする。 その上で、小テスト (40%)、レポート課題 (30%)、授業態度と参加姿勢 (30%) から総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	1. 教科書に沿って授業を進めますが、必要に応じてプリントを配布するので各自で整理・保管すること。 2. 発達という連続性のある内容なので、欠席をしないように心がけること。 3. 毎回、当該のテーマについてディスカッションを展開させていくので、積極的な態度で臨むこと。			
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、発達とは	事前学習	シラバスおよび教科書第 1 章 (pp.13~24) を読む。	
		事後学習	発達観・子ども観の変遷について理解する。	
第 2 回	胎児期・新生児期の発達	事前学習	教科書第 2 章 (pp.25~36) を読む。	
		事後学習	生後 1 年間の身体発達について理解する。	
第 3 回	乳幼児期の発達 (1) 愛着の形成	事前学習	教科書第 3 章 (pp.37~50) を読む。	
		事後学習	愛着の形成と発達について理解する。	
第 4 回	乳幼児期の発達 (2) 自己と情動の発達	事前学習	教科書第 4 章 (pp.51~65) を読む。	
		事後学習	自己意識の発達について理解する。	
第 5 回	乳幼児期の発達 (3) ことばの発達	事前学習	教科書第 5 章 (pp.66~72) を読む。	
		事後学習	言葉はどのように育まれるのかについて理解する。	
第 6 回	乳幼児期の発達 (4) コミュニケーションの発達	事前学習	教科書第 5 章 (pp.73~77) を読む。	
		事後学習	話し言葉の発達について理解する。	
第 7 回	乳幼児期の発達 (5) 知的発達	事前学習	教科書第 6 章 (pp.78~84) を読む。	
		事後学習	遊びを通してどのように知的に発達していくかについて理解する。	
第 8 回	乳幼児期の発達 (6) 学習	事前学習	教科書第 6 章 (pp.85~90) を読む。	
		事後学習	学習理論について理解する。	
第 9 回	乳幼児期の発達 (7) 社会性の発達	事前学習	教科書第 7 章 (pp.91~107) を読む。	
		事後学習	仲間関係の発達について理解する。	
第 10 回	発達過程で生じる問題	事前学習	教科書第 8 章 (pp.108~118) を読む。	
		事後学習	気になる子どもへの対応を考える。	
第 11 回	児童期の発達と発達上の問題	事前学習	教科書第 8 章 (pp.119~123) を読む。	
		事後学習	発達障害をもつ子どもへの理解を深める。	
第 12 回	思春期・青年期の発達	事前学習	教科書第 9 章 (pp.124~137)、第 10 章 (pp.138~150) を読む。	
		事後学習	アイデンティティの獲得について理解する。	
第 13 回	成人期の発達	事前学習	教科書第 11 章 (pp.151~163) を読む。	
		事後学習	成人期の課題について理解する。	
第 14 回	老年期の発達	事前学習	教科書第 12 章 (pp.164~178) を読む。	
		事後学習	老いることと生涯発達の関係について考える。	
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	授業内容を振り返り、各発達段階の特徴について復習する。	
		事後学習	全授業を通して学習したことを自分の中に定着させる。	

1. 科目名 (単位数)	発達と老化の理解Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2311 SCMP2311 SBMP2311
2. 授業担当教員	中里 克治		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	介護福祉士は、高齢者の介護を行うことが多い。老年期では、正常な発達過程である正常老化だけではなく、病的な老化についても同時に学ぶ必要がある。それは、中年期までの発達では、病的な発達の影響を受ける人が少ないが、老年期、特に老年期後期では多くの人が病的な過程の影響を受けるからである。そこで、Ⅰで学んだ乳児期から中年期までの発達を基礎として、Ⅱでは老年期について学ぶ。			
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解し、説明できるようになる。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学んでゆく。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	随時、課題を出す。最終のレポートを書いてもらう。 最終レポート課題：高齢者の介護では、身体面の介護を中心に行う。しかし、特別養護老人ホームを見ると、認知症やうつ病などの老年期特有の精神障害を持つ高齢者が大部分を占めている。そのほかにも、青年期や中年期に発病した統合失調症などを抱えながら、高齢期に達した人々もまれではない。高齢者を介護で、心のケアのためにケアワーカーとして何ができるかについて、2000字程度で述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 下仲順子編『老年心理学 (改訂版)』培風館。			
11. 成績評価の方法	評価方法は、レポート 50%、日常の授業態度 (質問、授業への積極的参加度) 50%			
12. 受講生へのメッセージ	前半で学ぶことは皆さんがすでに経験したことであるが、後半で学ぶ事はこれから体験することである。心理学では問題を自分のこととして考える態度が大切である。家族など身近な人々の体験からも多くを学ぶことができる。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	高齢者心理学研究の歴史	事前学習	高齢者心理学研究はいつ始まったか、老化の概念にはどのようなものがあるかを調べてまとめる。pp.1-12	
		事後学習	高齢者心理学研究でどのような研究方法が使われているか調べてまとめる。pp.9-11	
第 2 回	高齢社会の到来	事前学習	日本での高齢化の進行状況を調べてまとめる。pp.13-18	
		事後学習	人口の高齢化がもたらす社会の状況の変化をまとめる。pp.19-22	
第 3 回	高齢期の健康、身体疾患	事前学習	年を取るとはどのようなことか考察する。pp.24-32	
		事後学習	体と心の老化 pp.24-36	
第 4 回	高齢期の精神疾患	事前学習	高齢期特有の精神疾患には何があるか調べる。pp.38-44	
		事後学習	高齢期特有の疾患と疾患もつての老化をまとめる。pp.38-44, pp.48-50	
第 5 回	高齢期の感覚、知覚機能の加齢変化	事前学習	「年を取るとはどのようなことか」について、自分の考えをまとめる。pp.52-55	
		事後学習	体と心の老化 pp.52-62	
第 6 回	高齢者の記憶	事前学習	「年を取ると物忘れするようになるのか」について自分の考えをまとめる。pp.64-67	
		事後学習	記憶の種類と加齢の関係性についてまとめる。pp.64-71 プリントの参照のこと	
第 7 回	知能と加齢	事前学習	「年を取ると“ぼける”のか」について自分の考えをまとめる。pp.38-43 第 3 回のプリントも参照	
		事後学習	知能の加齢と関係する要因を調べてまとめる。pp.79-81	
第 8 回	人格と加齢	事前学習	パーソナリティの老化について調べる。pp.89-106	
		事後学習	「パーソナリティは老化で変わるのか」について自分の考えをまとめる。pp.98-106	
第 9 回	高齢期の適応	事前学習	高齢期の適応の問題点を調べる。pp.109-112	
		事後学習	ライフスタイルとパーソナリティについて調べる。pp.109-116 プリントも参照	
第 10 回	高齢期の家族	事前学習	少子高齢化と家族の関係について調べる。pp.122-129	
		事後学習	「高齢者にとって家族の持つ意味」について自分の考えをまとめる。pp.16-132	
第 11 回	高齢期の対人関係と社会生活	事前学習	高齢者の人間関係はどのようなものかについて調べる。pp.134-145	
		事後学習	高齢者の社会参加とソーシャルサポートの重要性をまとめる。pp.134-145	
第 12 回	死と死にゆく過程	事前学習	「自分の死に対する考え方」を確かめ、まとめてみる。pp.147-149	
		事後学習	「死に向かう人に何が出来るか」について自分の考えをまとめる。pp.149-158	
第 13 回	高齢者の認知、知能・記憶機能の測定	事前学習	知能・記憶機能の測定方法について調べる。pp.160-170	
		事後学習	神経心理学的検査について調べる。pp.168-170	
第 14 回	高齢者の人格、精神健康の測定、心理療法	事前学習	高齢者の心理療法について調べる。pp.185-198	
		事後学習	対象別の心理査定と心理療法について調べてみる。pp.172-198	

平成 28 年度

第 15 回	まとめ	事前学習	「人生の意味」について自分の考えをまとめる。第 8 回、第 9 回を参考に
		事後学習	「死の意味」について自分の考えをまとめる。死によって人生が完結する。死に積極的な意味付けができるでしょうか。

1. 科目名 (単位数)	病原微生物学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2312								
2. 授業担当教員	根岸 祥子										
4. 授業形態	講義、ワークシート提出、発表	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>細菌やウイルスなどの微生物の中には、ヒトや動植物に病気を起こすものがある。病原微生物学はこれら病原性のある微生物を対象とする。人類はその歴史が始まって以来、数々の微生物感染症と闘ってきたが、自然科学の進歩とともに抗生物質やワクチンが開発され、公衆衛生や栄養状態の改善等とあいまって、先進諸国では感染症はほぼ制圧できたと思われた。しかし、近年の新興・再興感染症の広がりや薬剤耐性菌による院内感染、高齢者や免疫力の低下している人々の日和見感染など、病原微生物との戦いには終わりがないことが明らかとなった。また、開発途上国の人々にとっては感染症は依然として脅威である。</p> <p>本科目ではこのような状況を踏まえ、微生物とは何かという基礎から、ヒトにおける生体防御システム、感染症の予防対策まで幅広く理解する。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 微生物感染症の歴史と現状について説明することができるようになる。 2) 微生物の種類 (細菌・ウイルス・真菌・原虫) とその基本構造について説明することができるようになる。 3) 感染症の成立要因 (①感染源、②感染経路、③宿主の感受性) について説明することができるようになる。 4) 感染源・感染経路への対策について説明することができるようになる。 5) 感受性対策について説明することができるようになる。 6) 生体防御システムについてその概略を説明することができるようになる。 7) 主な微生物感染症について説明することができるようになる。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサインメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新興感染症として、最近話題となっている感染症について一つを選び、まとめなさい。 2. 日本での食中毒の原因としてどのような病原体があるか。その感染経路、予防法について述べなさい。(A4版、横書きレポート用紙2枚) 提出日は第1回目の講義で発表する。字数: 1枚1200~1600字 										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】南嶋 洋一/吉田 眞一/永淵 正法著 『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学』(第12版) 医学書院。</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>期末試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業ごとのワークシート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>10%</td> </tr> </table>			期末試験	20%	レポート	30%	授業ごとのワークシート	40%	授業態度	10%
期末試験	20%										
レポート	30%										
授業ごとのワークシート	40%										
授業態度	10%										
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1) この教科内容は難解のところが多いので、つねに緊張感と集中力を保って受講し、積極的な態度で授業に参加すること。 2) 授業内容の理解のために、予習と復習を必ず行うこと。 3) レポートの提出期限は厳守。ワークシートは必ず提出すること。 4) 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず講師に書面をもって報告すること。 5) 授業中の私語、居眠りはしないこと、携帯電話はOFFにしてバッグにしまうこと。 										
13. オフィスアワー	講義時間前後、その他講義時間決定後通知										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	病原微生物学の概要、感染症の歴史の変遷	事前学習	教科書 pp. 4~12 の内容のまとめ								
		事後学習	微生物の定義および感染症の歴史の変遷に関するワークシートの作成と提出								
第2回	細菌の性質	事前学習	教科書 pp. 14~39 の内容のまとめ								
		事後学習	細菌の性質に関するワークシートの作成と提出								
第3回	真菌の性質、原虫の性質	事前学習	教科書 pp. 42~56 の内容のまとめ								
		事後学習	真菌および原虫の性質に関するワークシートの作成と提出								
第4回	ウイルスの性質、ウイルス感染の機構	事前学習	教科書 pp. 58~70 および pp. 92~96 の内容のまとめ								
		事後学習	ウイルスの性質と感染機構に関するワークシートの作成と提出								
第5回	感染と感染症	事前学習	教科書 pp. 74~91 の内容のまとめ								
		事後学習	感染と感染症に関するワークシートの作成と提出								
第6回	感染に対する生体防御機構 (1)	事前学習	教科書 pp. 98~125 の内容のまとめ								
		事後学習	生体防御機構に関するワークシート①の作成と提出								
第7回	感染に対する生体防御機構 (2) アレルギーおよび粘膜免疫	事前学習	教科書 pp. 126~136 の内容のまとめ								
		事後学習	生体防御機構に関するワークシート②の作成と提出								
第8回	感染源・感染経路からみた感染症	事前学習	教科書 pp. 138~160 の内容のまとめ								

平成 28 年度

	感染症の予防	事後学習	感染源、感染経路、感染の予防に関するワークシートの作成と提出
第 9 回	予防接種 感染症の検査と診断	事前学習	教科書 pp. 160～176 の内容のまとめ
		事後学習	検査と診断に関するワークシートの作成と提出
第 10 回	感染症の治療、感染症の現状と対策	事前学習	教科書 pp. 178～210 の内容のまとめ
		事後学習	治療および感染症の現状に関するワークシートの作成と提出
第 11 回	おもな病原微生物（1）細菌①	事前学習	教科書 pp. 214～244 の内容のまとめ
		事後学習	おもな細菌感染症に関するワークシート①の作成と提出
第 12 回	おもな病原微生物（2）細菌②	事前学習	教科書 pp. 244～284 の内容のまとめ
		事後学習	おもな細菌感染症に関するワークシート②の作成と提出
第 13 回	おもな病原微生物（3）真菌、原虫	事前学習	教科書 pp. 286～304 の内容のまとめ
		事後学習	おもな真菌、原虫感染症に関するワークシートの作成と提出
第 14 回	おもな病原微生物（4）ウイルス①	事前学習	教科書 pp. 306～327 の内容のまとめ
		事後学習	おもなウイルス感染症に関するワークシート①の作成と提出
第 15 回	おもな病原微生物（5）ウイルス②	事前学習	教科書 pp. 327～351 の内容のまとめ
		事後学習	主なウイルス感染症に関するワークシートの作成と提出
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	病原微生物学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2311
2. 授業担当教員	石本 強		EDHE2312
4. 授業形態	講義、ワークシート提出、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>細菌やウイルスなどの微生物の中には、ヒトや動植物に病気を起こすものがある。病原微生物学はこれら病原性のある微生物を対象とする。人類はその歴史が始まって以来、数々の微生物感染症と闘ってきたが、自然科学の進歩とともに抗生物質やワクチンが開発され、公衆衛生や栄養状態の改善等とあいまって、先進諸国では感染症はほぼ制圧できたと思われた。しかし、近年の新興・再興感染症の広がりや薬剤耐性菌による院内感染、高齢者や免疫力の低下している人々の日和見感染など、病原微生物との戦いには終わりがないことが明らかとなった。また、開発途上国の人々にとっては感染症は依然として脅威である。</p> <p>本科目ではこのような状況を踏まえたうえで、微生物とは何かという基礎から、ヒトにおける生体防御システム、感染症の予防対策まで幅広く理解する。</p>		
8. 学習目標	<p>8) 微生物感染症の歴史と現状について説明することができるようになる。</p> <p>9) 微生物の種類(細菌・ウイルス・真菌・原虫)とその基本構造について説明することができるようになる。</p> <p>1 0) 感染症の成立要因(①感染源、②感染経路、③宿主の感受性)について説明することができるようになる。</p> <p>1 1) 感染源・感染経路への対策について説明することができるようになる。</p> <p>1 2) 感受性対策について説明することができるようになる。</p> <p>1 3) 生体防御システムについてその概略を説明することができるようになる。</p> <p>1 4) 主な微生物感染症について説明することができるようになる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	各学生は、割り当てられた範囲について事前に学習し、指定された課題に取り組み提出する。詳細は授業の中で説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 本田武司 編『はじめの一步のイラスト 感染症・微生物学』羊土社		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度(授業態度など)…30%</p> <p>課題提出と発表…30%</p> <p>テスト…40%(事前に範囲・形式を告示する)</p> <p>本学規程にしたがい、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 遅刻・早退3回で1回の欠席とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業中は、緊張感と集中力を保って受講し、質問してください。明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告してください。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。</p> <p>また、私語、スマホの使用、無断退出、その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p>		
13. オフィスアワー	講義時間前後、その他講義時間決定後通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	病原微生物学を学習する意義、院内感染、新興感染症	事前学習	教科書 pp. 18～20 を読んでおく
		事後学習	院内感染、新興感染症について復習する
第2回	病原微生物、非病原微生物	事前学習	教科書 pp. 20～22 を読んでおく
		事後学習	病原微生物、非病原微生物について復習する
第3回	感染症とは、感染症成立要因	事前学習	教科書 pp. 23～25 を読んでおく
		事後学習	感染症とは、感染症成立要因について復習する
第4回	感染源、感染経路	事前学習	教科書 pp. 25～28 を読んでおく
		事後学習	感染源、感染経路について復習する
第5回	施設内感染、感染対策	事前学習	教科書 pp. 28～34 を読んでおく
		事後学習	施設内感染、感染対策について復習する
第6回	感染症の予防に関するグループディスカッションと発表準備	事前学習	教科書 pp. 18～34 を読んでおく
		事後学習	発表準備内容について復習しておく
第7回	グループ別の発表	事前学習	教科書 pp. 18～34 を読んでおく
		事後学習	各グループの発表内容について復習しておく
第8回	生体防御、自然免疫	事前学習	教科書 pp. 34～36 を読んでおく
		事後学習	生体防御、自然免疫について復習しておく
第9回	適応免疫、多様性と免疫寛容	事前学習	教科書 pp. 36～53 を読んでおく
		事後学習	適応免疫、多様性と免疫寛容について復習しておく
第10回	免疫と病気	事前学習	教科書 pp. 53～58 を読んでおく
		事後学習	免疫と病気について復習しておく
第11回	ヒトと微生物、細菌とは	事前学習	教科書 pp. 59～61 を読んでおく

平成 28 年度

		事後学習	ヒトと微生物、細菌について復習しておく
第 1 2 回	細菌の構造・代謝・増殖、病原菌	事前学習	教科書 pp. 62～74 を読んでおく
		事後学習	細菌の構造・代謝・増殖、病原菌について復習しておく
第 1 3 回	ウイルスの分類、ウイルスとは	事前学習	教科書 pp. 75～79 を読んでおく
		事後学習	ウイルスの分類、ウイルスについて復習しておく
第 1 4 回	ウイルスの増殖・臓器親和性・侵入機構	事前学習	教科書 pp. 80～90 を読んでおく
		事後学習	ウイルスの分類、ウイルスについて復習しておく
第 1 5 回	真菌・原虫・寄生虫	事前学習	教科書 pp. 91～119 を読んでおく
		事後学習	真菌・原虫・寄生虫について復習しておく
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	病弱教育 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3450 SCMP3450 SBMP3450
2. 授業担当教員	金川 朋子		
4. 授業形態	講義・演習 講義による基礎理論の習得に基づき、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履習者同士の実践的な学び合いを重視します。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	病気を抱える子どもを対象にした病弱教育だが、これからの特別支援教育、あるいは普通教育の中で、変革のカギを握る重要性を有している。特に普通学校に通う「病気の子ども」が増大し、学校現場における食物アレルギーへの理解が高くなかったために、子どもの健康が損なわれてしまった、という教育事故も発生している。本講義では、病弱教育における多様な教育の場、多様な教育課程、医療との連携、心理的な支援のあり方まで、基本的な知識の獲得と、実際の学校現場ですぐに役立つ情報や指導・支援の在り方を学ぶ。また具体的なケースを中心として事例に応じた教育の在り方などを共にディスカッションしていきたい。		
8. 学習目標	以下に関して学習し理解を深め、指導実践力を高める。 1. 病弱教育の対象、場所、制度などの現状を知り、説明できる。 2. 病弱教育で求められる支援の概要を理解でき、説明できる。 3. 病気の子どもへの心理についての理解を深め、個に応じた指導の在り方を考えられる。 4. 各病態に応じた支援のあり方、配慮点について学び、説明できる。 5. 教育と医療との連携の必要性を理解し、教員の役割を説明できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎授業に、事前学習、授業内容、感想等を記入したレポートを提出。(到達度評価)。 2. 教科書や配付プリント、レポート等が綴られるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。		
10. 教科書・参考書・教材	全国特別支援学校病弱教育校長会編 病気の子どもガイドブック ジアース教育新社 全国特別支援学校病弱教育校長会編『病気の子ども理解のために』(国立特別支援教育総合研究所 HP から無料ダウンロード可。授業に必要な場合には指示に従って使用する部分を各々でダウンロードし持参する)。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 日常の学習状況 (総合点の 40%) 授業への積極的参加 (総合点の 30%) 課題レポート (総合点の 30%)		
12. 受講生へのメッセージ	病気を抱えながらも、懸命に学習に取り組んでいる病弱特別支援学校、病院内学級を知っていますか。幼いころに、風邪をひいて学校を数日休むと、治ってから「教室に入りづらいなあ」と感じたことはありませんでしたか。病気で欠席した子どもたちがその後不登校状態に陥ってしまう事もあります。また小児ぜんそくなどの慢性疾患を持つ子どもたちが、学校が家庭や病院としっかり連携できなかったために、病気には影響がないのに体育への参加を制限されたり、宿泊行事に参加させてもらえなかったりする、という事例もあります。病気の子どもへの心理を理解し、どんな病気を持っていても笑顔で安心して通える学校、教育である病弱教育について、理解を深めて欲しいと思います。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義でお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション「病弱教育」とは病弱教育の現状と課題	事前学習	「病弱教育」に関する経験や関わった内容等についてまとめる
		事後学習	「本講座で学びたいこと・目標」を 200 字程度にまとめる。
第 2 回	特別支援教育における「病弱教育」(1) 病弱教育に関する制度	事前学習	「病弱教育」に関する制度について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「病弱教育」に関する制度について、学んだ事をまとめる。
第 3 回	特別支援教育における「病弱教育」(2) 子どもの病気について	事前学習	「子どもの病気」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「病気の子どもへの配慮」について、まとめる。
第 4 回	特別支援教育における「病弱教育」(3) 病気の子どもへの配慮	事前学習	「病気の子どもへの心理」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	「病気の子どもへの配慮」について、まとめる。
第 5 回	病弱教育における授業づくり グループワーク① ポスター制作	事前学習	グループワークで取り組むテーマについて、文献・インターネット情報を調べる。
		事後学習	グループワークで取り組むテーマについて、文献・インターネット情報を調べる。
第 6 回	病弱教育における授業づくり グループワーク② ポスター制作	事前学習	グループワークで取り組むテーマについて、文献・インターネット情報を調べる。
		事後学習	グループワークで取り組むテーマについて、文献・インターネット情報を調べる。

第 7 回	弱教育における授業づくり グループワーク③ ポスター発表	事前学習	ポスター発表での役割理解、発表原稿等を準備する。
		事後学習	ポスター発表を振り返り、よかった点と課題をまとめる。
第 8 回	弱教育における授業づくり グループワーク④ ポスター発表	事前学習	ポスター発表での役割理解、発表原稿等を準備する。
		事後学習	ポスター発表を振り返り、よかった点と課題をまとめる。
第 9 回	特別支援教育における「病弱教育」(4) 個別の指導計画・個別の教育支援計画	事前学習	病弱教育における個別の指導計画の意義について、調べる。
		事後学習	病弱教育における「個別の指導計画」の意義について、まとめる。
第 10 回	特別支援教育における「病弱教育」(5) コーディネーターの役割	事前学習	病弱教育におけるコーディネーターの役割について、調べる。
		事後学習	病弱教育におけるコーディネーターの役割について、まとめる。
第 11 回	特別支援教育における「病弱教育」(6) 医療との連携について	事前学習	病弱教育における医療との連携について、調べる。
		事後学習	病弱教育における医療との連携における教員の役割をまとめる。
第 12 回	病弱教育の実際に学ぶ －病弱教育に関する学外施設見学もしくは外部講師による講義－※都合により変更の可能性あり	事前学習	前に配付する資料を読み、病気の子どもの教育に対する疑問点をまとめる。
		事後学習	病気のある子どもの教育について、学んだ事をまとめる。
第 13 回	特別支援教育における「病弱教育」(7) カウンセリングマインド	事前学習	「カウンセリングマインド」について、教科書・インターネット等で調べて、まとめる。
		事後学習	教員として必要な「カウンセリングマインド」について、まとめる。
第 14 回	特別支援教育における「病弱教育」(8) 病気の高校生のための病弱教育	事前学習	「病気の高校生のための病弱教育」について、調べる。
		事後学習	「病気の高校生のための病弱教育」の現状と課題についてまとめる。
第 15 回	まとめ これからの病弱教育の在り方について	事前学習	全講義を振り返り、これからの病弱教育の在り方について考えをまとめる。
		事後学習	提示するテーマについてのレポート(800～1000字)を作成し提出する

1. 科目名 (単位数)	病弱教育Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3451 SCMP3451 SBMP3451
2. 授業担当教員	須藤 典征	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	病弱教育Ⅰを踏まえた講義・演習・模擬授業		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>近年、小児医療においては 6 ヶ月以上の長期入院は少なくなり、入院と退院を繰り返しながらも家庭や地域で過ごす時間を重視した治療形態がとられるようになってきている。病弱教育の対象は、小児がんや腎疾患など小児慢性特定疾患のみならず、心因性の障害から不登校や入院加療を必要とする児童生徒にも広がり、また、重症心身障害児施設を併設する病院や特別支援学校では、呼吸障害、摂食障害等、生命にかかわる重篤な障害を合併し、医療的ケアが不可欠な児童生徒も教育が受けられるようになってきている。</p> <p>本科目では、病弱特別支援学校や院内学級及び訪問教育における実践を念頭に、個に応じた学校側の配慮事項や授業に向けての実態把握、指導計画や学習指導案の作成、教材作成などのスキルを学んでいく。</p>		
8. 学習目標	<p>病虚弱児の生涯を見通し、その心理と生活実態を踏まえた、教育的支援ができるようになる。</p> <p>① 病虚弱児の教育の現状や教育行政の新しい動きがわかる。</p> <p>② 治療が長引く疾病、発達障害や心因性の不登校、重症心身障害児などさまざまな状態の「病虚弱児」の病態の概要がわかり、適切な配慮事項を含んだ指導計画が作成できるようになる。</p> <p>③ 様々な形態での授業に向けた、実態把握、指導計画や学習指導案の作成、教材作成を行うための基礎知識が身につく。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	小児慢性特定疾患のうち、一つを選択してレポート課題を提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 竹田一則『やさしい医学・生理学』ジヤース教育新社。2010</p> <p>【参考書】 ①『特別支援学校教育要領・学習指導要領』文部科学省。 ②『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚園・小学部・中学部)』文部科学省。 ③『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度と受講態度 (総合点の 50%)</p> <p>期末試験 (総合点の 30%)</p> <p>レポート (総合点の 20%)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>学生の積極的な受講態度を期待しています。</p> <p>また私語や携帯電話の作動は他の受講生の迷惑にもなりますので、厳に慎んでください。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義進行上の遵守事項について アレルギー疾患について (全般)	事前学習	受講に際し「シラバスの 12」を理解しておく。
		事後学習	アレルギー疾患について (全般) 確認する。
第 2 回	アレルギー疾患について (1) 気管支喘息	事前学習	気管支喘息について調べる。
		事後学習	気管支喘息について確認しておく。
第 3 回	アレルギー疾患について (2) アトピー性皮膚炎・食物アレルギーなど	事前学習	アトピー性皮膚炎について調べておく。
		事後学習	第 3 回の講義内容についてまとめる。
第 4 回	悪性新生物について (1) 白血病	事前学習	白血病について調べておく。
		事後学習	第 4 回の講義内容についてまとめる。
第 5 回	悪性新生物について (2) 脳腫瘍	事前学習	脳腫瘍について調べておく。
		事後学習	第 5 回の講義内容についてまとめる。
第 6 回	膠原病・糖尿病について	事前学習	膠原病・糖尿病について調べておく。
		事後学習	第 6 回の講義内容についてまとめる。
第 7 回	先天性代謝異常について フェニルケトン尿症	事前学習	フェニルケトン尿症について調べておく。
		事後学習	第 7 回の講義内容についてまとめる。
第 8 回	学習指導案作成の準備など (チーム編成)	事前学習	自分のテーマを決定しておく。
		事後学習	第 8 回の内容についてまとめる。
第 9 回	学習指導案の作成①- 1	事前学習	役割分担を明確にしておく。
		事後学習	第 9 回の内容についてまとめる。
第 10 回	学習指導案の作成①- 2	事前学習	役割分担を明確にしておく。
		事後学習	第 10 回の内容についてまとめる。
第 11 回	学習指導案の作成②- 1	事前学習	役割分担を明確にしておく。
		事後学習	第 11 回の内容についてまとめる。
第 12 回	学習指導案の作成②- 2	事前学習	役割分担を明確にしておく。
		事後学習	第 12 回の内容についてまとめる。
第 13 回	学習指導案の作成②- 3	事前学習	役割分担を明確にしておく。
		事後学習	第 13 回の内容についてまとめる。
第 14 回	模擬授業・学習指導案の発表①	事前学習	発表の準備を確実にする。
		事後学習	第 14 回の講義内容についてまとめる。
第 15 回	模擬授業・学習指導案の発表②	事前学習	発表の準備を確実にする。
		事後学習	他チームからの質問について後日回答する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉科指導法 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3441
2. 授業担当教員	大門 俊樹		SCMP3441
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	高等学校福祉科の主旨、目標、科目構成と内容についての理解を図る。また、一問一答などを通して、福祉科の授業を行う上で必要な社会福祉の基礎的・専門的知識や技術についても整理する。さらに、受講生全員が模擬授業をつくりあげることにより、福祉科教員としての基礎を確立することを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校福祉科の設置経緯と位置づけについて理解し説明できるようになる。 2. 福祉科の教育目標と教育内容について理解し説明できるようになる。 3. 各科目 (新教育課程 7 科目) に関して理解し説明できるようになる。 4. 教材研究と指導案作成について理解し、模擬授業の計画に備え発表できるようになる。 5. 授業展開例と授業評価について理解し説明できるようになる。 6. 模擬授業を計画し、実際に全員が授業を行い、福祉科教育実習の準備の第一歩とする。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	教育実習に備えるために、1時間分の学習指導案を作成し提出するとともに、全員が模擬授業を体験する。その後、一人ひとりの授業についての振り返りを行った後、添削をした学習指導案を返却し、教育実習に生かしていく。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 村川浩一他『(H25 新課程) 社会福祉基礎』実教出版。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版。 【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	学習指導案 50% 授業内で行う模擬授業準備・発表活動等 30% 授業態度・レポート等の提出物 20% 学校での授業補助・行事参加等の教育ボランティア活動を行った場合は、評価し加算する。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 2. 授業中は携帯電話や PHS 等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 3. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F 評価とする。 4. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前へ出ること。 5. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。 6. この授業では、全員が福祉科の模擬授業を行う。受講生の中には福祉科で教育実習を行わない学生もいると考えられるが、福祉科指導法の履修には必須といえるため、積極的に取り組むこと。 		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業ガイダンス、高校福祉科の設置経緯のねらい 1	事前学習	自分がなぜ福祉科教員免許を取得するのか、よく考えて授業に臨む。
		事後学習	福祉教育の類型をまとめ、理解する。
第 2 回	高校福祉科の設置経緯のねらい 2	事前学習	高校福祉科の教育目標をチェックし、理解する。
		事後学習	教科「福祉」が登場した時代背景について理解し、まとめる。
第 3 回	高校福祉科の教育目標と科目編成	事前学習	一問一答に対応するため、現代社会と福祉の復習をする。
		事後学習	高等学校の教育目標を確認し理解する。
第 4 回	学習指導要領総説、教育評価	事前学習	学習指導要領総説を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	学習指導要領と福祉科について整理するとともに、福祉科の教育目標を再確認する。
第 5 回	福祉科の各科目 1 (社会福祉基礎)	事前学習	一問一答に対応するため、地域福祉の理論と方法の復習をする。
		事後学習	社会福祉基礎の目標と学習内容を整理する。
第 6 回	福祉科の各科目 2 (介護福祉基礎)	事前学習	学習指導要領における介護福祉基礎の内容を読んだうえで授業に臨む。
		事後学習	介護福祉基礎の目標と学習内容を整理する。
第 7 回	福祉科授業の具体的内容 1 (諸外国における社会福祉)	事前学習	一問一答に対応するため、福祉行財政と福祉計画の復習をする。
		事後学習	「諸外国における社会福祉」に関する授業用教材を作成する。
第 8 回	福祉科授業の具体的内容 2 (日本における社会福祉)	事前学習	「日本における社会福祉」を読んだうえで、要点をまとめる。
		事後学習	「日本における社会福祉」に関する授業用教材を作成する。
第 9 回	福祉科授業の具体的内容 3 (社会福祉・社会保障制度の意義と役割)	事前学習	一問一答に対応するため、社会保障の復習をする。
		事後学習	「社会福祉・社会保障制度の意義と役割」に関する授業用教材を作成する。
第 10 回	福祉科授業の具体的内容 4 (子ども家庭福祉)	事前学習	「子ども家庭福祉」を読んだうえで、要点をまとめる。

		事後学習	「子ども家庭福祉」に関する授業用教材を作成する。
第 1 1 回	福祉科授業の具体的内容 5 (障害者福祉)	事前学習	一問一答に対応するため、低所得者に対する支援と生活保護制度の復習をする。
		事後学習	「障害者福祉」に関する授業用教材を作成する。
第 1 2 回	福祉科授業の具体的内容 6 (高齢者福祉)	事前学習	「高齢者福祉」を読んだうえで、要点をまとめる。
		事後学習	「高齢者福祉」に関する授業用教材を作成する。
第 1 3 回	福祉科授業の具体的内容 7 (生活支援のための公的扶助)	事前学習	一問一答に対応するため、保健医療サービスの復習をする。
		事後学習	「生活支援のための公的扶助」に関する授業用教材を作成する。
第 1 4 回	福祉科授業の具体的内容 8 (国民生活を支える社会保障制度)	事前学習	「国民生活を支える社会保障制度」を読んだうえで、要点をまとめる。中間まとめ(基礎力診断テスト)に対応するため、福祉科の内容について、総復習をする。
		事後学習	「国民生活を支える社会保障制度」に関する教材を作成する。
第 1 5 回	福祉科授業の具体的内容 9 (地域福祉の進展と地域の将来)	事前学習	一問一答に対応するため、障害者に対する支援と障害者自立支援制度の復習をする。
		事後学習	「地域福祉の進展と地域の将来」に関する教材を作成する。
第 1 6 回	指導計画の作成	事前学習	学習指導計画とは何なのかについて理解し、授業に臨む。
		事後学習	学習指導案の項目をまとめる。
第 1 7 回	模擬授業準備 (指導案作成)	事前学習	一問一答に対応するため、相談援助の基盤と専門職の復習をする。
		事後学習	模擬授業で扱う単元を決める。
第 1 8 回	模擬授業準備 (指導案作成)	事前学習	模擬授業の指導案を作成する (1)。
		事後学習	模擬授業の指導案を作成する (2)。
第 1 9 回	模擬授業準備 (指導案作成)	事前学習	一問一答に対応するため、相談援助の理論と方法を復習する。
		事後学習	模擬授業用の教材を作成する (1)。
第 2 0 回	模擬授業準備 (指導案作成)	事前学習	一問一答に対応するため、高齢者に対する支援と介護保険制度の復習をする。
		事後学習	模擬授業用の教材を作成する (2)。
第 2 1 回	模擬授業準備 (指導案作成、練習) 1	事前学習	一問一答に対応するため、児童や家庭に対する支援と児童・家庭支援制度の復習をする。
		事後学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (1)。
第 2 2 回	基礎力診断テスト、模擬授業準備 (指導案作成、練習) 2	事前学習	基礎力診断テストに対応するため、福祉科の内容について、総復習をする。
		事後学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (2)。
第 2 3 回	模擬授業 (発表) 1	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (3)。
		事後学習	他の学生の授業を見て、良い点があったら、取り入れるようにする。
第 2 4 回	模擬授業 (発表) 2、 模擬授業 1～2 の振り返りと講評	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (4)。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする。
第 2 5 回	模擬授業 (発表) 3	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (5)。
		事後学習	他の学生の授業を見て、良い点があったら、取り入れるようにする。
第 2 6 回	模擬授業 (発表) 4、 模擬授業 3～4 の振り返りと講評	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (6)。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする。
第 2 7 回	模擬授業 (発表) 5	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (7)。
		事後学習	他の学生の授業を見て、良い点があったら、取り入れるようにする。
第 2 8 回	模擬授業 (発表) 6、 模擬授業 5～6 の振り返りと講評	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (8)。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする。
第 2 9 回	まとめ 1 (全員の模擬授業に対する講評)	事前学習	自分の模擬授業について、反省点を再度明らかにする。
		事後学習	模擬授業に対する講評を聞いて、自分に取り入れるべきところを明らかにする。
第 3 0 回	まとめ 2 (全員の模擬授業に対する講評)	事前学習	自分の模擬授業について、反省点を再度明らかにする。
		事後学習	模擬授業に対する講評を聞いて、自分に取り入れるべきところを明らかにする。

1. 科目名 (単位数)	福祉行財政と福祉計画 (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3103 SBMP3103 SSMP3103 PSMP3403
2. 授業担当教員	宮崎 栄二		
4. 授業形態	講義、グループ討議等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>市場の失敗が問われている現在、これからは福祉分野においても、行政の役割が市場機能より重要になると考えられる。こうした問題意識から本講義は福祉と関連し、パブリック (行政) が行っている事について以下の点を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の行財政の実施体制 (国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。) について理解する。 ・福祉行財政の実際について理解する。 ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉分野において市場の失敗と行政の機能の変化について理解し、説明することができる。 2. 福祉サービスの担い手として行政組織の役割について学習し、理解を深める。 3. 福祉予算と福祉サービスの関係について学び、説明できるようになる。 4. 福祉計画の理論と技法について、また、福祉計画がなぜ重要になってきたのかについて学び、説明できるようになる。 5. 福祉行政の過程すなわち、plan→do→see→feed back について学び、理解を深める。 6. 福祉計画の策定するとき、なぜ住民参加が重要なのかについて理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が住んでいる市町村へ外向き、それぞれの市町村の「総合振興計画」「地域福祉計画」「高齢者保険福祉・介護保険事業計画」「障害者計画」「エンゼルプラン」等を収集し、その基本理念等をまとめる。(中間レポート課題) ・その他の課題は、授業の際に提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』中央法規。</p> <p>【参考書】 坂田周一『社会福祉計画』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>平常点 (授業への積極的参加度) 30%</p> <p>中間レポート 30%</p> <p>期末筆記試験 40%</p> <p>計 100%</p> <p>なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>社会保障・社会福祉の制度、法律、財政、現状や課題などについて、自主的に学ぶこと。また、日頃から主体的に資料やニュース、参考文献、各省庁インターネット情報などに目を通してください。(特に社会保障・社会福祉制度の法律・制度の矛盾・現状・動向について、日頃から関心を持って資料収集してください。)</p> <p>履修にあたっては次の事を最低限守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること。 ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③授業中の私語や携帯電話の使用は禁止します。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義の狙いと概要)、 教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 1 章第 1 節 福祉と制度について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 2~3 を読み、社会福祉の概要を調べ、確認する。
		事後学習	旧・社会福祉事業法と現・社会福祉法の差異をまとめる。(目的・基本理念・地域福祉関係)
第 2 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 1 章第 2・3 節 福祉法制度の歴史と福祉計画の概要について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 11~24 を読み、社会福祉六法を中心に社会福祉法制度の発展過程について調べる。
		事後学習	福祉計画と予算制度・財源配分についての概要をまとめる。
第 3 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 2 章第 1・2・3 節 福祉行政① (行政の骨格、国の役割、都道府県の役割、市町村の役割) について学ぶ	事前学習	教科書 p. 34 を読み、三権分立と政府の役割を調べる。
		事後学習	国と自治体との関係をまとめる。 法定受託事務・自治事務について福祉行政事務の変化をまとめる。
第 4 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 2 章第 4 節 福祉行政② (社会福祉基礎構造改革と福祉サービス利用方法) について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 53~54 を読み、社会福祉基礎構造 (改革) を調べる。
		事後学習	措置から契約など、福祉サービス利用方法の変化をまとめる。
第 5 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 3 章第 1~5 節 福祉財政 (福祉の財源) について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 64~67 を読み、財政・財源とはなにかを調べる。一般会計予算と特別会計予算の違いを調べる。
		事後学習	地方自治体の財政と民生費の動向をまとめる。

			応益負担と応能負担の違いをまとめる。
第 6 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 4 章第 1～4 節 福祉行政の組織・団体と専門職の役割について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 88～89 を読み、社会福祉法により福祉事務所の設置規定等について調べる。
		事後学習	社会福祉専門機関の組織体制（児童相談所・身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所・婦人相談所）をまとめる。
第 7 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 4 章第 5・6 節 地域の相談システム（地域包括支援センター・子育て支援センター等）について学ぶ	事前学習	教科書 p. 94 を読み、地域包括支援センターについて、機能や役割を調べる。
		事後学習	社会福祉専門機関の専門職（社会福祉主事・児童福祉司・身体障害者福祉司・知的障害者福祉司）についてまとめる。
第 8 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 5 章第 1～3 節 福祉計画の目的と意義について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 104～106 を読み、福祉計画の目的・意義を調べる。
		事後学習	福祉行政における市町村主義及びケアプランの登場と計画の連続性についてまとめる。
第 9 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 6 章第 1～3 節 福祉計画の理論と技法について学ぶ	事前学習	教科書 p. 118 を読み、日常性と非日常性について調べる。
		事後学習	テクノクラート官僚とストリートレベル官僚についてまとめる。
第 10 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 6 章第 4・5 節 福祉計画の評価と住民参加について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 144～149 を読み、福祉計画事後評価のポイントについて調べる。
		事後学習	社会福祉サービスのプログラム評価についてまとめる。
第 11 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 7 章第 1・2 節 福祉計画の実際①（老人福祉計画・介護保険事業計画）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 166～171 を読み、福祉計画の分析的枠組みとは何かについて調べる。地域特性・福祉特性について調べる。
		事後学習	ゴールドプラン、老人福祉計画、介護保険事業計画について概要をまとめる。
第 12 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 7 章第 3 節 福祉計画の実際②（障害者福祉計画）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 188～204 を読み、新「障害者基本計画」及び「障害者総合支援法」について調べる。
		事後学習	「障害者プラン～ノーマライゼーション7か年戦略～」についてまとめる。（練習問題）
第 13 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 7 章第 4 節 福祉計画の実際③（次世代育成支援行動計画）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 217～225 を読み、次世代育成支援対策推進法について調べる。
		事後学習	次世代育成支援行動計画の種類についてまとめる。（練習問題）
第 14 回	教科書『福祉行財政と福祉計画』 第 7 章第 5 節福祉計画の実際④（地域福祉計画）について学ぶ	事前学習	教科書 pp. 234～238 を読み、社会福祉法第 4 条・107 条を中心に、地域福祉計画関係の条文を調べる。
		事後学習	地域福祉計画の基本的骨格をまとめる。学生の住む自治体の地域福祉計画を確認する。（練習問題）
第 15 回	最近の福祉行政の話題 全体のまとめ	事前学習	福祉行政実施体制・生活保護支給事務など実際の話題に目を向け調べる。
		事後学習	福祉行財政と福祉計画の全体を振り返り、国家試験問題についても対応できるようにする。（練習問題）
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉と教育 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1329 GELA1349
2. 授業担当教員	成田 成		
4. 授業形態	講義 (学習参考例)、演習 (ワークシート)、ディスカッション、レポート課題、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	福祉や教育の現場では、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉や教育を必要とする各人のニーズに応えられるように解決していかなければならない。そのためには、これまで我が国で主流とされてきた一方的な知識注入型の授業法を改め、学生が主体となって学習に取り組めるような双方向対話型の授業法に切り替えていかなければならない。本授業では、主に「新聞記事」「視覚教材」「学習参考例」などをもとにして、日本の福祉と教育のあり方について考え、真に必要な能力は何かを分析しながら、現代社会で求められる福祉従事者や教育者のあり方について考察する。		
8. 学習目標	本講義では、①ディスカッションでは、他人の意見を受け入れつつ、柔軟な思考力や問題解決能力を養うこと、②発表では、聞き手に理解されやすい表現力を身に付けること、③レポート課題では、論理的でわかりやすく簡潔な文章が書けるような文章作成能力を身に付けること、を学習目標としている。また、①～③に記した能力を兼ね備え、福祉や教育の現場で役立つ実践力を身に付けることを究極の目標としている。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：最終日の授業時間には、「本授業に参加して興味を持ったことについて、自分でテーマを決めて1,000字程度で論述せよ。」というテーマでレポートを作成していただく。		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	レポート課題：60点、授業態度（発表などを含む）：40点、合計100点 4分の3以上の出席がない場合には、単位を与えないこととする。		
12. 受講生へのメッセージ	この科目では、ディスカッションや発表を通じて、福祉と教育のあり方について考え、福祉や教育の現場で役立つ能力を養っていただきたい。そのためにも、本授業に参加して、①レポート課題やワークシートでは、論理的でわかりやすい簡潔な文章の作成能力、②ディスカッションでは、柔軟な思考力や問題解決能力、③発表では、発言力や表現力を身に付けてほしい。		
13. オフィスアワー	時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4号館1階120研究室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、心得など) なぜ「福祉と教育」という科目が開講されたのか	事前学習	「福祉」と「教育」の共通点について考えてくる。
		事後学習	「福祉と教育」を開講した理由について振り返る。
第2回	日本の教育の現状① (教師による児童のいじめ)	事前学習	教師による児童のいじめ問題についての具体例を考えてくる。
		事後学習	いじめ問題の解決策について、さまざまな視点から考察する。
第3回	日本の教育の現状② (教員の指導力不足)	事前学習	教員の指導力不足を感じた事例について考えてくる。
		事後学習	教員の指導力不足の問題の具体的な解決策について練り直す。
第4回	日本の教育の現状③ (小学校教師によるモデル授業) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	小学校時代に良かった授業について振り返ってみる。
		事後学習	学んだことについて、将来、どのように活かすかを考えてみる。
第5回	日本の教育の現状④ (中学校教師によるモデル授業) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	中学校時代に良かった授業について振り返ってみる。
		事後学習	学んだことについて、将来、どのように活かすかを考えてみる。
第6回	日本の教育の現状③④のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	日本の教育の現状③④のビデオで学んだことを整理してくる。
		事後学習	福祉または教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第7回	有能な人材育成に繋がる授業法	事前学習	印象に残る素晴らしい授業について振り返る。
		事後学習	有能な人材育成に繋がる授業について考えてくる。
第8回	福祉の現場① (在宅介護でのターミナルケア) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	ターミナルケアについて調べてくる。
		事後学習	在宅介護で重要なことを再確認する。
第9回	福祉の現場② (モデルとなっているデイケアハウス) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	デイケアハウスについて調べてくる。
		事後学習	モデルとなっているデイケアハウスの長所と短所を確認する。

第 10 回	福祉の現場①②のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	福祉の現場①②のビデオを鑑賞して学んだ点を整理してくる。
		事後学習	福祉や教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第 11 回	福祉の現場③（難病患者の介護—コミュニケーションの重要性） ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	難病についての具体例をいくつか調べてくる。
		事後学習	ビデオで学んだことについて整理しておく。
第 12 回	福祉の現場④（認知症患者への対応） ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	認知症についての具体例をいくつか調べてくる。
		事後学習	ビデオで学んだことについて整理しておく。
第 13 回	福祉の現場③④のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	福祉の現場③④のビデオを鑑賞して学んだ点を整理してくる。
		事後学習	福祉や教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第 14 回	バイステックの7つの原則（福祉と教育への応用） ・福祉従事者や教育者にとって重要なこと	事前学習	バイステックの7つの原則について調べてくる。
		事後学習	福祉従事者と教育者にとって重要なものは何かについて考える。
第 15 回	合格点がもらえるレポートの書き方 ・レポート（本授業に参加して興味を持ったこと）	事前学習	本授業に参加して興味を持ったことについて整理しておく。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導 I (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3251
2. 授業担当教員	太田 節子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育児童基礎演習を履修していること			
7. 講義概要	保育実習 I の意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を明確にする。 2. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。 3. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につける。 4. 演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。 5. 保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	実習への準備をする科目であるので、自己をふりかえり自己課題をみつけ (部分実習指導案、教材研究、記録の書き方など) 課題として提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>岡本幹彦他編『福祉施設実習ハンドブック』(株)みらい 2013。 関口はつ江編『保育実習ハンドブック (実習の手引き)』大学図書出版 2012。</p> <p>【参考書】</p> <p>東京福祉大学社会学部発刊『保育実習の手引き』 (授業中に配布予定) 東京福祉大学社会学部発刊『保育実習 学習の手引き』 (授業中に配布予定) 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>積極的授業参加態度 50%</p> <p>15 回まとめレポートの内容 50%</p> <p>以上の比率で総合評価する。</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	保育実習は、これまで履修した科目の学習を前提として行われます。今までの学習全てを現場でフル活用していく心構えで授業に臨んで下さい。実際に子どもの目の前に立つ皆さんは、子どもにとって一人の大人のモデルとなります。保育者は全人格を問われる職業であることを自覚して、実習事前・事後それぞれに自己課題を明確にもち、実践力を身につけて下さい。さらに実習終了後は、現場での学習を保育理論と統合し、今後履修する科目の学習の糧にしてほしいと思います。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	保育実習 I・II・IIIそれぞれの目的と授業概要、実習の流れを理解する。保育所実習の基礎知識を学習する。	事前学習	教科書「保育実習ハンドブック」第 1 章 実習とは何か (pp.7~20) を熟読してくる。	
		事後学習	施設実習 I の実習目標を復習する。	
第 2 回	実習におけるマナーと勤務の留意点を確認する。先輩の体験談から実習生としてのあるべき態度を理解する。	事前学習	『保育実習の手引き』の「実習に関する基本的ルール」及び「留意事項」の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	ノートに記録した先輩からの体験談をまとめて、要点を整理する。	
第 3 回	保育所実習オリエンテーションへの準備を通して、保育所実習の目的と内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』のなかの実習オリエンテーションへの準備、必要とする持ち物、の箇所を読み、必要なものを準備する。	
		事後学習	施設実習自己課題を明確にする。	
第 4 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。	事前学習	施設実習に関する教科書の「実習日誌の書き方」の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	『保育実習 学習の手引き』のなかの「実習記録について」及び「実習記録の提出にあたって」を読み、復習する。	
第 5 回	保育所の一日の流れを把握する。乳幼児の発達の特徴と年齢別による保育の留意点を理解する。	事前学習	『保育所保育指針』のなかの年齢別発達の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	保育所のデイリープログラムのサンプルを読み、保育所生活の一日の流れを把握する。	
第 6 回	施設実習に向けて各施設の DVD を視聴し、生活の流れを理解し、実習への心構えを再確認する。	事前学習	『保育実習の手引き』の守秘義務の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	各施設の生活の流れを復習し、理解する。	
第 7 回	施設実習における利用者への配慮事項を学ぶ。保育所実習オリエンテーションへの準備を通して、保育所実習の実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』のなかの保育所実習 I の実習目標を読み、理解する。	
		事後学習	保育所実習自己課題を明確にする。	
第 8 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。	事前学習	保育実習に関する教科書の「実習日誌」の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	授業で視聴した VTR のなかの「子どもの姿」について記録したエピソードを清書する。	
第 9 回	部分・責任実習について理解し、指導計画の理解と立案方法を習得する。	事前学習	保育実習に関する教科書の「指導案」の箇所を読み、理解する。	

		事後学習	課題とする指導案を立案し、模擬保育に備えてグループ全員で検討する。
第 10 回	保育演習 (1) 指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 11 回	保育演習 (2) 指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 12 回	保育演習 (3) (4) 指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 13 回	施設実習に備えて実習の過程を把握したうえで、12日間の自己課題を3段階に分けて仮設定する。	事前学習	施設実習に備えて自己課題を考察する。
		事後学習	施設実習に向けて考察した自己課題を基に自身が不足している学習を深める。
第 14 回	保育所実習直前に向けて、実習における重要事項を再確認し、必要な心構え・態度を自覚し、準備する持ち物の点検も行う。	事前学習	保育所実習に向けて『保育実習の手引き』を再読する。
		事後学習	保育所実習に向けて、準備が十分に行われているかどうかを確認する。
第 15 回	授業のまとめをする。	事前学習	保育士倫理綱領をよく読んでおく。
		事後学習	保育士の専門性と自己課題について、レポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育者論 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1106
2. 授業担当教員	太田 節子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	現代の経済社会・生活環境の著しい変化の中で育つ子ども達の問題を見据えて、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、保育者の資質を身に付けられるようにする。家庭保育や集団保育の実践と関連して学び、どちらにおいても、子どもの気持ちを受容し、子どもと共に絶えず先の方向を洞察してふるまえる自分を育てることが必要になる。現代の子どもの育ちの危機を理解し、保育者の専門性について、子ども個々のかかわりから、保護者支援、専門職間・専門機関との連携など、様々な人間関係における協働を理解する。			
8. 学習目標	①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育士の制度的な位置づけを理解する。 ③保育士の専門性について考察し、理解する。 ④保育者の協働について理解する。 ⑤保育者の専門的成長について理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・事例についての考察の小課題を課すので解答する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 汐見稔幸・大豆生田啓友編『保育者論』 ミネルヴァ書房。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 【参考書】 小田豊他編『保育者論－保育者の探求と創造－』 光生館			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加態度、小課題への取り組み、レポート (授業中に指示します)、小試験を適宜課し、それらの平均点とします。			
12. 受講生へのメッセージ	子どもをよく観察することにより、子どもは周囲の人とのかかわりのなかで育つことを感じ取る力を身につけて下さい。将来の保育者としての自分の姿を想像して、理想に向かって努力して下さい。 1. 授業のルールを守る (欠席、遅刻、早退は届け出ること)。 2. 私語は慎み、携帯電話の作動は厳禁とする。 3. レポート等の提出日時は厳守する。間に合わない場合は、必ず本人が申し出ること (原則として書面にて)。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	現代社会における保育者の資質とは	事前学習	保育者になりたいと思った理由、子どもは保育者をどのように見ているかを考えてくる。	
		事後学習	保育が、子どもが、どのように見えてくるか、その変化をとらえよう。	
第 2 回	保育者の仕事と役割Ⅰ 保育園・幼稚園の一日	事前学習	保育者の役割について考えてくる。	
		事後学習	具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざしを理解しまとめる。	
第 3 回	保育者の仕事と役割Ⅱ 保育園・幼稚園での保育者の姿	事前学習	子どもとの関係の保護者との関係、保育者同士の関係の基本を考える。	
		事後学習	日常生活で人の良いところも見つけて表現できる練習をしよう。	
第 4 回	保育者の仕事と役割Ⅲ 保育所・幼稚園に関する法令	事前学習	巻末資料を読んでおく。	
		事後学習	法令から保育者に求められることを読み解。	
第 5 回	子どもの育つ基盤 子どもを気持ちを受容するとはどのようなことか	事前学習	人間関係の育ちを考えてくる。	
		事後学習	問題とされることを肯定的にとらえる練習をする。	
第 6 回	子どもが育つ基盤 子どもの自己肯定感や意欲を育てるとはどのようなことか	事前学習	対立する子どもとのかかわりを考える。	
		事後学習	授業の流れを復習し、発見疑問をまとめる。	
第 7 回	2. 発達過程におけるかかわり方の変化	事前学習	乳児期に親はどのようにかかわってくれたか話を聞いてみよう。	
		事後学習	発達とかかわりについて自分の成長と関連させ振り返ってみよう。	
第 8 回	3. 自我の成長とかかわり	事前学習	幼児期の自我の成長が著しいころに親はどのようにかかわってくれたか話を聞いてみよう。	
		事後学習	寄り添うかかわり方から共に生きるかかわりについて考える。	
第 9 回	4. 少人数における仲間との体験を通しての育ち	事前学習	友だちを求め、気持ちのぶつかり合いを通して育つことを自分の体験を思い出してくる。	
		事後学習	授業の流れを復習し、発見疑問をまとめる。	
第 10 回	5. 多人数における仲間との体験を通しての育ち	事前学習	仲間関係を体験することの意味を考えてくる。	
		事後学習	授業での事例を通して学んだ内容を深める。	
第 11 回	6. 協同しあう関係から得る育ち	事前学習	友だちと目的を共にして活動することにより何が育つのかを考えてくる。	
		事後学習	5 歳児の発達の可能性について認識を深める。	

第 1 2 回	実践者の資質要件－体験・認識・洞察・行為化・責任の遂行	事前学習	子どもとかかわった自分の体験を思い出し振り返る。
		事後学習	体験を振りかえり、先にどうふるまえばいいか具体的な例でふるまい方を考える。
第 1 3 回	子どもの育ちの危機と子育て支援 I 親の立場を理解する－家族の崩壊とは－	事前学習	家族心理について考える。
		事後学習	社会の変容との関係で親の立場を理解して協働ができるように考える。
第 1 4 回	子どもの育ちの危機と子育て支援 II 地域支援について理解する。	事前学習	男女の関係を考え、固定的役割分担の弊害を気づく。
		事後学習	家族の共存と、子育て支援を考える。
第 1 5 回	子育て支援の理論	事前学習	6 章を読み、保護者や家庭と共に歩むことを考える。
		事後学習	保育者の役割を全体を通して考えておく。

1. 科目名 (単位数)	保育者論 (2 単位)		SSOT1401
2. 授業担当教員	矢吹 芙美子	3. 科目番号	SCOT1401 SJMP1106
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	現代の経済社会・生活環境の著しい変化の中で育つ子ども達の問題を見据えて、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、保育者の資質を身に付けられるようにする。家庭保育や集団保育の実践と関連して学び、どちらにおいても、子どもの気持ちを受容し、子どもと共に絶えず先の方向を洞察してふるまえる自分を育てることが必要になる。現代の子どもの育ちの危機を理解し、保育者の専門性について、子ども個々のかかわりから、保護者支援、専門職間・専門機関との連携など、様々な人間関係における協働を理解する。		
8. 学習目標	①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育士の制度的な位置づけを理解する。 ③保育士の専門性について考察し、理解する。 ④保育者の協働について理解する。 ⑤保育者の専門的成長について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・事例についての考察の小課題を課すので解答する。		
10. 教科書・参考書・教材	資料を配布します。 【参考書】 武藤安子、上原貴夫編著『発達支援－豊かな実践に向けて－』ななみ書房。 小田豊他編『保育者論－保育者の探求と創造－』光生館。 汐見稔幸・大豆生田啓友編『保育者論』ミネルヴァ書房。 酒井幸子編著、矢吹他著『保育内容 人間関係』萌文書林。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加態度 (小課題への取り組み、レポートを含む)、小試験を適宜課し、それらの平均点とします。資料はきちんと整理しておく。最終回にノートチェックをします。		
12. 受講生へのメッセージ	子どもをよく観察することにより、子どもは周囲の人のかかわりのなかで育つことを感じ取る力を身につけて下さい。将来の保育者としての自分の姿を想像して、理想に向かって努力して下さい。 1. 授業のルールを守る (欠席、遅刻、早退は届け出ること)。 2. 私語は慎み、携帯電話の作動は厳禁とする。 3. レポート等の提出日時は厳守する。間に合わない場合は、必ず本人が申し出ること (原則として書面にて)。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	現代社会における保育者の資質とは	事前学習	保育者になりたいと思った理由、子どもは保育者をどのように見ているかを考えてくる。
		事後学習	保育が、子どもが、どのように見えてくるか、その変化をとらえよう。
第 2 回	保育者の仕事と役割 I 保育園・幼稚園の一日	事前学習	保育者の役割について考えてくる。
		事後学習	具体的な仕事の流れに見える保育者のまなざしを理解しまとめる。
第 3 回	保育者の仕事と役割 II 保育園・幼稚園での保育者の姿	事前学習	子どもとの関係の保護者との関係、保育者同士の関係の基本を考える。
		事後学習	日常生活で人の良いところも見つけて表現できる練習をしよう。
第 4 回	保育者の仕事と役割 III 保育所・幼稚園に関係する法令	事前学習	巻末資料を読んでおく。
		事後学習	法令から保育者に求められることを読み解く。
第 5 回	子どもの育つ基盤 I 子どもの気持ちに響き合う－肯定性の原理－	事前学習	人間関係の育ちを考えてくる。
		事後学習	問題とされることを肯定的にとらえる練習をする。
第 6 回	子どもが育つ基盤 II－1. かかわりの 5 類型	事前学習	対立する子どもとのかかわりを考える。
		事後学習	授業の流れを復習し、発見疑問をまとめる。
第 7 回	2. 発達過程におけるかかわり方の変化	事前学習	乳児期に親はどのようにかかわってくれたか話を聞いてみよう。
		事後学習	発達とかかわりについて自分の成長と関連させ振り返ってみよう。
第 8 回	3. かかわりの転換期① 自我の成長とかかわり	事前学習	幼児期の自我の成長が著しいころに親はどのようにかかわってくれたか話を聞いてみよう。
		事後学習	寄り添うかかわり方から共に生きるかかわりについて考える。
第 9 回	4. かかわりの転換期② 仲間との体験を通しての育ち	事前学習	友だちを求め、気持ちのぶつかり合いを通して育つことを自分の体験を思い出してくる。

		事後学習	授業の流れを復習し、発見疑問をまとめる。
第 10 回	子どもの育つ基盤Ⅲ 三者関係 人・人・人の三者関係	事前学習	一者関係、二者関係、三者関係を意識して生活し発見 をまとめる。
		事後学習	三者を大切にす視点を事例を通して考える
		事後学習	三者を大切にす視点を事例を通して考える
第 11 回	子どもの育つ基盤Ⅲ 三者関係 人・物・自己の三者関係	事前学習	子どものエピソードが書かれている本を読み、物の役 割について考えてくる。
		事後学習	物を意識し、見えてくるものについて考える。
		事後学習	物を意識し、見えてくるものについて考える。
第 12 回	実践者の資質要件―体験・認識・洞察・行為化・ 責任の遂行	事前学習	子どもとかかわった自分の体験を思い出し振り返る。
		事後学習	体験を振りかえり、先にどうふるまえばいいか具体的 な例でふるまい方を考える。
		事後学習	体験を振りかえり、先にどうふるまえばいいか具体的 な例でふるまい方を考える。
第 13 回	子どもの育ちの危機と子育て支援Ⅰ 親の立場 を理解する―家族の崩壊とは―	事前学習	家族心理について考える。
		事後学習	社会の変容との関係で親の立場を理解して協働ができ るように考える。
		事後学習	社会の変容との関係で親の立場を理解して協働ができ るように考える。
第 14 回	子どもの育ちの危機と子育て支援Ⅱ 恋愛・結 婚・夫婦・親子の家族心理学	事前学習	男女の関係を考え、固定的役割分担の弊害を気づく。
		事後学習	家族の共存と、子育て支援を考える。
		事後学習	家族の共存と、子育て支援を考える。
第 15 回	子育て支援の理論	事前学習	6 章を読み、保護者や家庭と共に歩むことを考える。
		事後学習	6 章を読み、保護者や家庭と共に歩むことを考える。
		事後学習	保育者の役割についてを全体を通して考えておく。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (環境) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3133
2. 授業担当教員	坂本 真理子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を構成する 5 領域のひとつである「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることで、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。また、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。演習形式で学ぶことにより、本講義で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 ・子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。 ・子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	期末レポート課題：授業で学んだことを踏まえ、保育における環境の重要性、保育者の役割について理解し整理して自分の考えをまとめる。(1000 字程度)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 谷田貝公昭監修『新保育内容シリーズ環境』一藝社。 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。		
11. 成績評価の方法	授業態度・意欲 30% 期末レポート 30% 演習課題・発表 40%		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に意欲的な授業への参加を期待する。 ・授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作、飲食等は禁止する。 ・大学生として節度ある態度で授業に臨み、疑問が生じたら、積極的に質問するようにすること。 ・グループワークにおいては、個々の責任を十分理解し、協力して学習すること。 		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 授業概要 領域「環境」の意義について理解する。	事前学習	教科書第 1 章を熟読する。
		事後学習	教科書 pp.10~11、pp.32~38 を読み、領域「環境」の意義及びねらいと内容を整理する。
第 2 回	好奇心・探究心を育てる保育について理解する。	事前学習	教科書第 4 章を熟読する。
		事後学習	子どもの好奇心を捉えて、関わりたくなる環境を事例から考え、まとめる。
第 3 回	人的環境について 友たち・保育者との関わりについて理解する。	事前学習	教科書第 6 章を熟読する。
		事後学習	教科書 pp.84~91 を読み、ワークシートにまとめる。
第 4 回	物的環境について (室内・屋外環境) 園具、遊具、素材との関わりについて理解する。	事前学習	教科書第 7、8 章を熟読する。
		事後学習	教科書 p.95 を読み、ワークシートにまとめる。
第 5 回	自然環境について 動植物との関わりについて理解する。	事前学習	教科書第 11、12、13 章を熟読する。
		事後学習	自然を「ねらい」とした活動を考え、ワークシートにまとめる。
第 6 回	情報環境について 数、文字、図形との関わりについて理解する。	事前学習	教科書第 10 章を熟読する。
		事後学習	日常生活の中の形 (丸・三角・四角) を探し、ワークシートにまとめる。
第 7 回	文字への興味・関心を育む 自己紹介カードを製作する①。	事前学習	自分の名前の頭音語を集める。
		事後学習	自己紹介カード製作を各自進める。
第 8 回	文字への興味・関心を育む 自己紹介カードを製作する②。	事前学習	カードを用いた自己紹介を考え、発表に備える。
		事後学習	自己紹介カード製作を通して、文字への興味・関心を育むことについて振り返る。
第 9 回	乳幼児期の安全環境について	事前学習	教科書第 9 章を熟読する。
		事後学習	園外保育に行く際の安全に対する配慮点を考え、ワークシートにまとめる。
第 10 回	環境構成について 心理的 3 原則を理解する。	事前学習	環境構成について考える。
		事後学習	環境構成の際の保育者の役割について、授業で学んだことをワークシートにまとめる。
第 11 回	グループ演習①：新聞紙で遊ぼう 新聞紙を使った遊びを考える。	事前学習	新聞紙を使った遊びを各自考えて来る。
		事後学習	発表の準備をする。
第 12 回	グループ演習②：新聞紙で遊ぼう	事前学習	発表の準備をする。

	グループごとに遊びを発表する。	事後学習	発表したグループの評価をする。
第 13 回	グループ演習③：新聞紙で遊ぼう グループごとに遊びを発表する。	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	発表したグループの評価をする。
第 14 回	保育の環境構成と指導の実際について ビデオ視聴	事前学習	保育環境の重要性を考える。
		事後学習	VTR と照らし合わせて、環境構成及び保育者の役割についてワークシートにまとめる。
第 15 回	授業のまとめ レポート作成	事前学習	これまでのワークシートを読み返し、復習する。
		事後学習	授業で学んだ事を振り返り、自分の考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (健康) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2412 SCOT2412 SJMP1131								
2. 授業担当教員	清水信好										
4. 授業形態	配布資料による質疑応答形式およびグループディスカッションを主とした授業を行う。	5. 開講学期	春期/秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	保育内容を構成する健康について理解し、乳幼児の健康な心身の発達に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進、安全な生活、積極的な身体活動への援助について理解する。保育の全体構造における「保育内容健康」に関して総合的に指導・援助が行えるよう、具体的な実践例を通して、健康の内容、他領域の内容の総合的な展開のしかたについて習得する。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣を育て、健全な心身の基礎を培うことができるようになる。 2. 幼児が健康の諸問題について自ら学び、自ら考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導を学び、実践できるようになる。 3. 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における健康領域の「ねらい」「内容」について理解し、習得して、「遊びによる総合的な」保育活動の中で実践できるようにする。 4. 保育者として子どもの健康な心と体を育てることが出来るよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようになる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「幼児の生活実態を把握しそのうえで運動遊びをどのように定着させていったらよいのか」「発育発達と伸ばしたい能力」などの指定する設題に対しレポートを提出する										
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】宮下恭子編著『保育内容「健康」』大学図書出版。										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート、提出物等</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加度	40%	期末試験	30%	課題レポート、提出物等	30%	総計	100%
授業への積極的参加度	40%										
期末試験	30%										
課題レポート、提出物等	30%										
総計	100%										
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら保育者、教諭になったとしての前提で授業に臨んでください。 2. 講義だけでなくグループワークを行います。ディスカッションに真剣に臨んでください。 3. 欠席、遅刻はしないこと。成績評価に大きく反映させます。 4. 居眠り、私語、明らかに授業に臨む不適切な態度は厳格に対処します。 										
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション 最近の子供たちのからだの状況 健康領域における保育者の役割と援助とは	事前学習	保育内容「健康」用のノートを準備し授業に臨む。幼稚園と保育所の制度上の違いについて調べてくる。								
		事後学習	講義内容について私見を加味してノートにまとめる。								
第2回	幼児の健康について 1 幼児の健康が保障される条件	事前学習	テキスト pp. 9~14 を熟読しておくこと。								
		事後学習	グループごとに課題をまとめ発表できるように準備する。								
第3回	幼児の健康について 2 幼児の健康とは何か	事前学習	幼児の健康とは何かを考えてくる。								
		事後学習	グループ発表の評価と講義の内容をノートにまとめる。								
第4回	心身の発育・発達について 1 スキヤモンの発育曲線 (リンパ型、神経型)	事前学習	幼児の発育発達について予習してくる。 テキスト pp. 26~27								
		事後学習	課題に対するグループワークと発表準備								
第5回	心身の発育・発達について 2 育てたい子どもの能力 (調整力)	事前学習	免疫力についての事前情報を入手して臨む。								
		事後学習	グループ発表の内容と講義の内容を専用用紙にまとめ提出する。								
第6回	幼児期の生理的機能について 幼児期の特徴と留意点	事前学習	テキスト pp. 26~35 を通読しておく。								
		事後学習	講義の内容に自分の考えを加味してノートにまとめる発表。								
第7回	遊びと健康管理 遊びと熱中症と水分補給	事前学習	体と水分の関わりについて予習して臨む。								
		事後学習	講義と視聴覚の内容から総合的に捉え「人と水」のテーマで、専用用紙にまとめ提出する。								
第8回	運動遊びと心身の健康について 1 遊びにより育まれるもの 運動遊びの意義	事前学習	テキスト pp. 39~48 を通読して臨む。								
		事後学習	配付されたプリントからディスカッションし運動あそびの重要性について理解する。								
第9回	運動遊びと心身の健康について 2 課題の総括と前半授業の確認テスト	事前学習	遊びの不足は子どもにどのような悪影響が出るか事前学習しておく。								
		事後学習	他学生の考えと自分の考えを対比し、整理する。 前半の授業を総括し、確認テストとする。								
第10回	基本的な生活習慣について 1 望ましい幼児の生活スタイル	事前学習	幼児の基本的な生活習慣について概要をまとめておく。 テキスト pp. 113~117								
		事後学習	グループ発表および講義の内容から自分の考えをノートにまとめる。								

第 1 1 回	基本的な生活習慣について 幼児の食生活を点検する 2	事前学習	朝食の欠食、おやつについての実態を把握して臨む。
		事後学習	講義内容および視聴覚内容について専用紙にまとめ提出する。
第 1 2 回	基本的な生活習慣について 幼児の睡眠とその意義 サーカディアンリズム 3	事前学習	テキスト pp. 103～107 を熟読して臨む。
		事後学習	子どもにとって重要な意味をもつ睡眠について講義、資料をもとに望ましい睡眠について専用紙にまとめ提出する。
第 1 3 回	健康と安全について 安全対策、安全管理、救急処置	事前学習	事故を未然に防止する具体的方法について列挙し授業に臨む。
		事後学習	講義内容、配付された資料、グループ討議の内容をまとめ安全管理についての理解を深める。
第 1 4 回	子どもの成長と保育者の理解と姿勢	事前学習	今、子どもの身体がおかしいと言われている実態について調べて臨む。
		事後学習	課題に対するグループワーク、保護者の役割を再確認する 発表の準備をする。
第 1 5 回	健康で元気な子供を保障するために 保育者の健康行動について	事前学習	発表の準備をして臨む テキスト pp. 199～200 を読み自分の感想をまとめる。
		事後学習	学習主体を知り、保護者、保育者の役割・援助と責務を確認し、本科目を総括する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (健康) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1131
2. 授業担当教員	中村 裕		
4. 授業形態	配布資料による質疑応答形式およびグループディスカッションを主とした授業を行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	子どもの保健との関連性をもて理解が深まる。		
7. 講義概要	保育内容を構成する健康について理解し、乳幼児の健康な心身の発達に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進、安全な生活、積極的な身体活動への援助について理解する。保育の全体構造における「保育内容健康」に関して総合的に指導・援助が行えるよう、具体的な実践例を通して、健康の内容、他領域の内容の総合的な展開のしかたについて習得する。		
8. 学習目標	1. 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣を育て、健全な心身の基礎を培うことが出来るようになる。 2. 幼児が健康の諸問題について自ら学び、自ら考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導を学び、実践できるようになる。 3. 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における健康領域の「ねらい」「内容」について理解し、習得して、「遊びによる総合的な」保育活動の中で実践できるようにする。 4. 保育者として子どもの健康な心と体を育てることが出来るよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	子どもの健康に関する資料 (各テーマごと: 発達、外遊び、健康増進、安全指導等) を配布し、保育者としての立場から自分の考えについて述べる (発表およびレポート) 発表後、またはレポート提出後、「課題」とし、グループごとにディスカッションをする。		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】『幼稚園教育要領・保育所保育指針 (原本)』チャイルド社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 (原本) チャイルド社 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 【教材】テーマごとに資料配布		
11. 成績評価の方法	課題レポート・・・・・・ 30% テーマ発表・・・・・・ 20% スモールテスト (毎時間) 20% 期末試験・・・・・・ 30% 計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	健康は生活、活動の基本である。幼児期に健康的な生活習慣を身につけることは、将来の幸福な生活に向けての基礎づくりともいえる。それにはまず、からだに対する興味や関心を持たせ、健康の意義を指導することが大切である。また、乳幼児期は自分のからだを管理することは不可能に近いため、保育者の指導・援助方法を学ぶことも不可欠である。本講義は子どもが健康な生活を送るために、必要なものは何か。何を身につけておくべきか。を学ぶことはもとより、保育者にとっての健康にも着目し、自らの生活習慣も振り返り、保育者自身も健康であってほしいと願っている。 本講義は主にディスカッション形式で進める為、意見や考えを積極的に述べる授業参加を期待する。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (領域健康のねらいと内容の解説)	事前学習	領域健康の学習ノートを準備し講義に臨むこと 領域内容のねらいと内容を確認する
		事後学習	領域健康のねらいと内容をまとめる
第 2 回	幼児の健康 (健康の定義、健康状態の把握) と発育発達の理解 (発育発達概念・理解・影響を与える要因)	事前学習	「幼児にとって健康とは何か」についてまとめる
		事後学習	幼児の健康と発育発達について復習する
第 3 回	形態面の発育 (乳幼児の形態面の発育) と生理機能の発達 (乳幼児の体温・呼吸・脈拍など)	事前学習	参考書から発育発達生理機能についてまとめる
		事後学習	形態面の発育、生理機能の発達について復習する
第 4 回	運動機能の発達 (運動の発達、運動能力の発達) と幼児の体格・運動能力の測定法 (体格運動能力の測定)	事前学習	資料から乳幼児の形態面の発育についてまとめる
		事後学習	幼児の体格・運動能力の測定方法について実践してみる
第 5 回	幼児の遊びの発達と健康、遊びの意義と遊びの発達過程、人間関係・社会性の発達との関連	事前学習	乳幼児の遊びの重要性を、活動の総合性、自発性との関連でまとめる。自分の遊び体験を記録する
		事後学習	乳幼児にとっての遊びの重要性についての考え方をまとめる
第 6 回	乳幼児に遊びの指導における「保育内容健康」のねらいと指導上の留意点。運動遊びの種類と主なねらい	事前学習	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育指針の健康にかかわる内容を予習する
		事後学習	さまざまな運動遊びの方法とそこに含まれる多様なねらいをまとめる
第 7 回	運動遊び、戸外遊びの子どもの発達段階による展開の	事前学習	発達段階別に運動遊び、戸外遊びの例を調べる

	違い、配慮の仕方（教材研究） 運動遊びを主活動とした指導案の作成	事後学習	授業における例とは別の活動を、例にした運動遊びの指導案を作成する
第 8 回	集団遊び、園外保育指導の子どもの発達段階による配慮の仕方（教材研究） 集団遊びを主活動とした指導案の作成	事前学習	発達段階別に集団遊び、園外保育の方法の例を調べる
		事後学習	授業における例とは別の活動を例にした集団遊びの指導案を作成する
第 9 回	模擬保育 1 固定遊具を用いた活動 代表グループによる模擬保育（全体参加）	事前学習	事前に配られた固定遊具を用いた活動の指導案について検討する
		事後学習	当日の反省と次への発展のしかたをまとめる
第 10 回	模擬保育 2 集団遊びを中心とした活動 代表グループによる模擬保育（全体参加）	事前学習	事前に配られた集団遊び活動の指導案について検討する
		事後学習	当日の反省と次への発展のしかたをまとめる
第 11 回	幼児の生活習慣の指導（基本的生活習慣の形成と指導）	事前学習	資料から幼児期の基本的生活習慣についてまとめる
		事後学習	現在の幼児の生活リズムの問題点等について復習する
第 12 回	食事と健康（食生活の指導、食事の生活習慣の指導）	事前学習	乳幼児にとって食育の重要性を保育指針によって確認する
		事後学習	保育中の食事の指導、家庭との連携について復習する
第 13 回	安全な生活（乳幼児に対する安全管理と安全教育、乳幼児の事故災害の予防）	事前学習	乳幼児の事故、災害の事例を調べる
		事後学習	事故、災害の防止方法について復習する
第 14 回	応急処置（乳幼児に多い怪我の応急処置、事故への対応、保育者としての配慮）	事前学習	乳幼児に多い怪我を調べまとめる
		事後学習	緊急時の対処、乳幼児に多い怪我の応急処置の方法、家庭連絡等についてまとめる
第 15 回	乳幼児の健康な育ちと社会環境（地域や家庭との連携、保育者の役割）	事前学習	子どもの健康な育ちに対する現代の環境問題を考える
		事後学習	子どもの健康な発達を守るための保育の専門家としての役割、責務をまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (言葉) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2415 SCOT2415 SJMP2134
2. 授業担当教員	矢野 景子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、保育内容を構成する 5 領域のひとつである「言葉」について理解を深める。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、基本的な技術を習得する。		
8. 学習目標	1. 領域「言葉」の内容と意味を理解する 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解する。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5. 言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6. 児童文化財 (絵本や紙芝居、パネルシアターなど) の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回の授業前には、必ず、配布プリントや教科書の事前に指定した箇所を読んでくること。 ①レポート課題 (メディアリテラシーの関連文献を読み、現代社会の課題整理と保育者の役割について論述する) を期末試験内に提出する。 ②ブックリストの作成及び提出 (絵本や児童書を 50 冊以上読み、ブックリストを完成させる)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 徳安敦・堀科『保育内容 (言葉)』青踏社、2016 年 必要に応じて、別途授業内でプリントを配布する 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 小川清美編『演習 児童文化 保育内容としての実践と展開』萌文書林、2010 年。 長島和代編『保育のマナーと言葉』わかば社、2014 年。 矢野博之編『こどもの世界 こどもと文化/生活 Ⅰ』大学図書出版、2013 年。 レゾ・エミリア市の幼児教育実践記録『子どもたちの 100 の言葉』学研、2001 年。		
11. 成績評価の方法	評価については、以下の内容にて評価する。 授業態度 (積極的参加度、リフレクションシートの記述内容と提出 等) 20% ブックリストの提出 30% 期末試験 (筆記試験)・課題レポート 50% 本学の規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 遅延の場合は、遅延届を必ず提出すること。		
12. 受講生へのメッセージ	子どもは大人との関係を基盤にしてことばの世界を広げていく。授業では、子どもの権利と発達を保障する大人 (保育者) として、専門的知識だけでなく、子どもの姿を通してことばの面白さや役割についても学び、ことばの持つ魅力について考えていく。また、保育者としての正しい言葉づかいやクラス便り、連絡帳等の記述などについても触れ、実際の事例や映像等を使用して、ディスカッションを行う。予習、復習、質疑を含め、授業内での積極的な発言、グループワークの積極的な協働・参加を期待する。授業内でのリフレクションシートでは、気づきや疑問等を自身の言葉でまとめるよう努め、相手にわかる文章を心がけること。レポート及び提出物の提出日は厳守すること。		
13. オフィスアワー	別途、通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要及授業計画、求められる態度等について 私たちの生活を取り巻くことばや文字	事前学習	教科書の目次を参照し、関心のある章を精読する。
		事後学習	今後の授業で学びたいことを整理し、学習目標を立てる。
第 2 回	保育の基本・専門性と領域「言葉」	事前学習	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「言葉」を精読し、関心のある箇所とその理由をワークシートにまとめる。
		事後学習	授業を通しての気づきを整理し、リフレクションシートに保育者の専門性と言葉の役割について自身の考えをまとめる。
第 3 回	言葉の発達 乳児期 (1)	事前学習	乳児期の言葉の発達について、身近な日常生活やメディア等から関心のあることを探し、ワークシートに整理する。
		事後学習	授業を通しての気づきを整理し、リフレクションシートに言葉の発達についてまとめる。
第 4 回	言葉の発達 乳児期 (2)	事前学習	乳児期の言葉の発達について、身近な生活の中で、養育者の関わりを観察し、特徴をワークシートに整理する。
		事後学習	配布資料「ことばのみちすじ」を精読し、授業を通しての気づきを整理し、養育者の関わりについてリフレクションシートに自身の言葉でまとめる。

第 5 回	言葉の発達 幼児期	事前学習	幼児の面白いつぶやきや子どもの頃の原体験など、ワークシートにまとめる。
		事後学習	幼児期の言葉の発達を踏まえ、保育者の役割について、リフレクションシートに自身の言葉でまとめる。
第 6 回	言葉の発達 学童期	事前学習	配布資料「たいようのおなら」から、学童期の子どもと言葉について気づいたことをワークシートにまとめる。
		事後学習	接続期の課題と保育実践ジャーゴンの相違について整理し、リフレクションシートに自身の考えをまとめる。
第 7 回	児童文化財とことば（1）絵本	事前学習	ブックトークで紹介したい本を 1 冊用意する。
		事後学習	①保育における絵本の役割についてリフレクションシートに自身の考えをまとめる。 ②期末課題「ブックリスト」の制作に取り掛かる。
第 8 回	児童文化財とことば（2）紙芝居	事前学習	関心のある紙芝居を 1 冊用意する。
		事後学習	グループ発表を通して、紙芝居を演じる際の留意点と環境設定について、リフレクションシートに考えをまとめる。
第 9 回	児童文化財とことば（3）パネルシアター・パペット・エプロンシアターの理解	事前学習	パネルシアター・パペット・エプロンシアターについて調べ、ワークシートにまとめる。
		事後学習	児童文化財の特徴を整理し、グループ制作に向けた準備を行う。
第 10 回	グループ制作	事前学習	どの児童文化財の制作を行うかを考え、材料を用意する。
		事後学習	台本、演出の構成、環境設定などをまとめ、発表に向けた準備と確認を行う。
第 11 回	実践「グループ発表」と討議	事前学習	発表に向けて、練習し、最終の確認を行う。
		事後学習	ワークシートを基に、保育における活用と展開について、児童文化財の活用とその留意点について、リフレクションシートに自身の考えをまとめる。
第 12 回	保育者の専門性とことば①	事前学習	配布資料「言語障害について」を精読する。
		事後学習	言語障害と早期発見、専門機関との連携の必要性について、自身の考えをリフレクションシートにまとめる。
第 13 回	保育者の専門性とことば②	事前学習	子どもの言葉と虐待の関連について、日常生活から考え、ワークシートにまとめる。
		事後学習	子どもの権利条約とことばの視点から、保育者の役割について考え、リフレクションシートにまとめる。
第 14 回	保育者の専門性とことば③	事前学習	現代社会とことばの課題について、日常生活を振り返り、ワークシートに関心のあることを整理する。
		事後学習	識字、メディア、個人差、接続期の課題など、授業を踏まえ、保育者となる前にどのような自身の課題があるか、リフレクションシートに考えをまとめる。
第 15 回	まとめ領域「言葉」の理解	事前学習	配布資料「クラス便り」を精読し、保育者の子どもの姿を捉える視点と記述について、気づいたことをワークシートに整理する。
		事後学習	学習目標を自己評価し、リフレクションシートにまとめる。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (人間関係) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3413 SCOT3413 SJMP3132
2. 授業担当教員	坂本 真理子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「保育内容人間関係」について、子どもの活動とねらいと内容との関連を具体的に扱う。子どもの発達と共に人間関係がどのように広がり、深まっていくのか、子ども、保育者、家庭、地域等を含めた人との関わりについて理解する、保育の全体構造のなかで、子どもの人間関係および社会性を育てることができるよう、社会性の発達とその援助についての基礎的理論や知識を習得し、それを子どもの実際に即して指導・援助が行えるよう、多様な事例について考察する。具体的に考え、行動に結び付ける力をつけることを目指し、映像の活用、事例報告、ロールプレイなどを行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の人間関係、特に愛着形成の重要性がわかる。 2. 乳幼児期の人間関係の発達過程を理解し、説明することができる。 3. 遊びの中での子どものさまざまな社会的体験を理解し、多様な状況における望ましい援助を考察することができる。 4. 子ども同士の人間関係を育てる活動や環境構成の仕方がわかり、実践できる。 5. 好ましい社会的生活習慣を身につけるための保育方法、かかわり方がわかる。 6. 就学を迎える子どもの集団行動、社会的環境への興味関心を育てる方法がわかる。 7. 保護者と保育者との望ましい関係について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	期末レポート課題：授業で学んだことを踏まえ、子どもの対人関係能力を高める保育及び保育者の大切な役割について理解し、整理し自分の考えをまとめる。(1000字程度)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 大場牧夫 他著『子どもと人間関係』 萌文書林。 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 日本保育協会『保育所保育指針解説書』フレーベル館。		
11. 成績評価の方法	授業態度・意欲 40% 中間レポート 20% 期末レポート 40%		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的で意欲的な授業への参加を期待する。 ・授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作、飲食等は禁止する。 ・大学生として節度ある態度で授業に臨み、疑問が生じたら、積極的に質問するようにすること。 ・演習においては、各自が活動を十分に楽しみながら積極的に学習すること。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 授業概要 領域「人間関係」の意義について理解する。	事前学習	教科書第 3 章を熟読する。
		事後学習	教科書 pp. 73～90 を読み、領域「人間関係」の意義及びねらいと内容を整理する。
第 2 回	領域「人間関係」について 「人間関係」の領域で育てたい事柄を理解する。	事前学習	教科書第 3 章を熟読する。
		事後学習	育てたい子どもの姿と保育者の援助について、ワークシートにまとめる。
第 3 回	0, 1 歳児の「人との関わり」に関する発達過程と援助の留意点を習得する	事前学習	保育所保育指針及び幼稚園教育要領の「幼児期の発達」の箇所を熟読する。
		事後学習	0, 1 歳児の発達について復習し、要点を整理しワークシートにまとめる。
第 4 回	2, 3 歳児の「人との関わり」に関する発達過程と援助の留意点を習得する	事前学習	保育所保育指針及び幼稚園教育要領の「幼児期の発達」の箇所を熟読する。
		事後学習	2, 3 歳児の発達について復習し、要点を整理しワークシートにまとめる。
第 5 回	4 歳児の「人との関わり」に関する発達過程と援助の留意点を習得する	事前学習	保育所保育指針及び幼稚園教育要領の「幼児期の発達」の箇所を熟読する。
		事後学習	4 歳児の発達について復習し、要点を整理しワークシートにまとめる。
第 6 回	5 歳児の「人との関わり」に関する発達過程と援助の留意点を習得する	事前学習	保育所保育指針及び幼稚園教育要領の「幼児期の発達」の箇所を熟読する。
		事後学習	5 歳児の発達について復習し、要点を整理しワークシートにまとめる。
第 7 回	乳幼児期の「人との関わり」に関する発達過程と援助の留意点をまとめる。	事前学習	乳幼児期の発達過程について、これまでのワークシート読み返し、復習する。
		事後学習	乳幼児期の発達過程と、保育者の援助について考察しまとめる。
第 8 回	演習：ルールのある遊びについて 実際にゲームを楽しみ、保育者の役割を理解する。	事前学習	ルールのある遊びを考える。
		事後学習	保育者の留意点及び援助について、演習から

			学んだことをまとめる。
第 9 回	保育における集団、集団形成について理解する。	事前学習	教科書第 4 章を熟読する。
		事後学習	教科書 pp. 113～122 を読み、ワークシートにまとめる。
第 10 回	「人との関わり」の育ちについて 依存から自立そして自律していくことを理解する。	事前学習	教科書第 4 章を熟読する。
		事後学習	教科書 pp. 93～102 を読み、ワークシートにまとめる。
第 11 回	子どもの対人関係能力を高める保育環境について 子どもの生きる現代社会について考察する。	事前学習	教科書第 2 章を熟読する。
		事後学習	pp. 28～30、pp. 42～47 を読み、ワークシートにまとめる。
第 12 回	実践事例から「人との関わり」に関する援助について 「けんか」への対応を考察し理解する。	事前学習	教科書第 5 章を熟読する。
		事後学習	配布プリントから、「けんか」への対応方法についてワークシートにまとめる。
第 13 回	現代の保護者を取りまく状況を理解し、保護者と保育者の望ましい関係を理解する。	事前学習	現代の保護者を取りまく状況を調べる。
		事後学習	保護者への対応 ～連携を十分にはかる～について、ワークシートにまとめる。
第 14 回	保育者の関わりと役割について 保育者の専門性と資質を理解する。	事前学習	保育者の大切な役割について考察する。
		事後学習	求められる保育者の専門性と資質について授業で学んだことをワークシートにまとめる。
第 15 回	授業のまとめ レポート作成	事前学習	これまでの授業内容について復習する
		事後学習	授業で学んだ事を振り返り、自分の考えをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (人間関係) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3132
2. 授業担当教員	川島 亜紀子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「保育内容人間関係」について、子どもの活動とねらいと内容との関連を具体的に扱う。子どもの発達と共に人間関係がどのように広がり、深まっていくのか、子ども、保育者、家庭、地域等を含めた人との関わりについて理解する、保育の全体構造のなかで、子どもの人間関係および社会性を育てることができるよう、社会性の発達とその援助についての基礎的理論や知識を習得し、それを子どもの実際に即して指導・援助が行えるよう、多様な事例について考察する。具体的に考え、行動に結び付ける力をつけることを目指し、映像の活用、事例報告、ロールプレイなどを行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の人間関係、特に愛着形成の重要性がわかる。 2. 乳幼児期の人間関係の発達過程を理解し、説明することができる。 3. 遊びの中での子どものさまざまな社会的体験を理解し、多様な状況における望ましい援助を考察することができる。 4. 子ども同士の人間関係を育てる活動や環境構成の仕方がわかり、実践できる。 5. 好ましい社会的生活習慣を身につけるための保育方法、かかわり方がわかる。 6. 就学を迎える子どもの集団行動、社会的環境への興味関心を育てる方法がわかる。 7. 保護者と保育者との望ましい関係について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回にレポート課題を出します。詳細は、各講義内で提示します。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 濱名浩編『保育内容人間関係』みらい 授業中の配布資料や自分の作成したレポートをまとめるので、各自ファイル (A4 用) を用意しておいてください。</p> <p>【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 日本保育協会『保育所保育指針解説書』フレーベル館。 森上史朗編『最新保育資料集 2009』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加態度 20% レポート 30% 授業のまとめレポート 50%		
12. 受講生へのメッセージ	乳幼児の望ましい発達にとって重要な部分を占めるのが、乳幼児期の人間関係です。子どもは、周囲の人々とのかかわりを通して人との関係を学び、人と関わる力を身につけていきます。したがって保育者は、子どもの人間関係のあり方に多大な影響を及ぼします。受講生の皆さんは、自身の人間関係を見つめ、自らが豊かな人間関係を築いていけるよう日々努力することが大切です。		
13. オフィスアワー	第 1 回目のガイダンスで発表します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業の概要、計画、学習のための求められる態度について理解する。乳幼児を取りまく人間環境について理解する	事前学習	保育所保育指針の「保育の内容」の箇所を読んで理解しておく
		事後学習	第 1 章、第 2 章を読み、レポートにまとめる。
第 2 回	乳児期の「人との関わり」に関する発達過程と援助の留意点を習得する	事前学習	保育所保育指針の「乳児期の発達」の箇所を読み、レポートにまとめる。
		事後学習	第 3 章 乳児期の人間関係の発達の箇所を読み、レポートにまとめる。
第 3 回	幼児期の「人との関わり」に関する発達過程と援助の留意点を習得する	事前学習	保育所保育指針の「幼児期の発達」の箇所を読み、レポートにまとめる。
		事後学習	第 3 章 幼児期の人間関係の発達の箇所を読み、レポートにまとめる。
第 4 回	遊びの変化と人と関わる力の発達との関連について理解し、望ましい援助を知る (1)	事前学習	教科書の「第 4 章 第 1, 2 節」を読んでくる。
		事後学習	パーテンによる「遊びの分類」それぞれの項目における具体例をレポートにまとめる。
第 5 回	遊びの変化と人と関わる力の発達との関連について理解し、望ましい援助を知る (2)	事前学習	教科書の「第 4 章 第 3, 4 節」を読んでくる。
		事後学習	実習のなかで観察した子どもの遊びを採り上げ、人と関わる力の学習について考察する。
第 6 回	保育者と子ども (特に 3 歳児) の人間関係における留意点を理解する	事前学習	教科書「第 5 章 保育者に求められるもの」を読んでくる。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 7 回	保育者と子ども (特に 4 歳児) の人間関係における留意点を理解する	事前学習	教科書「第 6 章保育者に求められる援助の視点—自立に向けて—」を読んでくる。

		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 8 回	仲間関係（特に 5 歳児）の発達と援助について理解し、望ましい援助を考察する（1）	事前学習	教科書「第 7 章 保育者に求められる援助の視点—協同に向けて 第 1～3 節」を読む。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 9 回	仲間関係（特に 5 歳児）の発達と援助について理解し、望ましい援助を考察する（2）事例を通して考える	事前学習	教科書「第 7 章 保育者に求められる援助の視点—協同に向けて 第 4～6 節」を読む。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 10 回	仲間関係（特に 5 歳児）の発達と援助について理解し、望ましい援助を考察する（3）集団の形成について理解する	事前学習	教科書「第 7 章 保育者に求められる援助の視点—協同に向けて 第 7～8 節」を読む。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 11 回	現代の保護者を取りまく状況を理解し、保護者と保育者の望ましい関係を理解する	事前学習	現代の保護者を取りまく状況を調べる。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 12 回	保育者と関わる中で保護者の行動事例を取り上げ、望ましい支援の方法を習得する	事前学習	教科書「第 10 章 親の思いと家庭とのかかわり 第 1～2 節」を読んでくる。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 13 回	学童期の子どもの仲間関係を理解し、人と関わる力の育成と望ましい援助について理解する。（1）	事前学習	学童期における児童の人間関係の実態を調べる。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 14 回	学童期の子どもの仲間関係を理解し、人と関わる力の育成と望ましい援助について理解する。（2）	事前学習	児童養護施設のなかでの児童の実態を調べる。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。
第 15 回	授業のまとめを行う	事前学習	現代社会における人間関係の諸問題の一例をあげ、レポートにまとめる。
		事後学習	授業内で出された課題についてレポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論 (2 単位)		3. 科目番号	SSOT2411 SCOT2411 SJMP2130
2. 授業担当教員	瑞穂 優			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>保育者として保育内容を考える際、保育内容の 5 領域や子どもの活動に対する理解は重要である。しかし、子どもの実態に応じて保育を構想するためにはこれらの理解のみでは十分条件とはならない。これらに加えて、養護と教育が一体的に展開する保育、環境を通して行う保育、遊びによる総合的な保育といった一連の保育内容の展開に関する考え方への理解が深まることで、はじめて目の前の子どもの姿から具体的に保育を構想することが可能となる。本講義の目的はここにあり、子どもの姿から保育を構想していく際に必要な考え方を身につけることを目指す。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育・教育要領に基づく保育の基本及び保育内容を理解し、保育の全体的な構造を把握するとともに、その歴史の変遷について学び、保育内容について説明できる。 ・子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することについて理解を深め、具体的な保育実践につなげる。 ・子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子ども理解を深めたいうで具体的な保育内容を考察し、実践できる。 ・多様な保育展開について具体的に学び、保育者の専門性について説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】入江 礼子・榎沢良彦 編著 『シードブック 保育内容総論』 建帛社 【参考書】文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館</p>			
11. 成績評価の方法	授業参加態度 50% 課題レポート (ワークシート) の提出状況と内容 50%			
12. 受講生へのメッセージ	乳幼児期をどのように過ごすかということは、とても大切なことです。保育者はその責任を負う仕事です。自分はどうのような保育者になりたいか、どのような保育をしたいのか、しっかり考えて、しっかり学んでほしいと思います。 1. 授業にきちんと出席する 2. 私語は慎む 3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にしまう この3つは守ってください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	家庭での保育と保育所・幼稚園・認定こども園での保育	事前学習	自分の過ごした乳幼児期を思い出しておく。	
		事後学習	保育所または幼稚園の 1 日をまとめる。	
第 2 回	小学校との連携と保育	事前学習	保育所・幼稚園と小学校の違いを考えてくる。	
		事後学習	乳幼児期にはどのような生活がふさわしいかまとめる。	
第 3 回	子どもの発達と生活	事前学習	保育所保育指針 第 2 章を読んでくる。	
		事後学習	保育所保育指針の発達についてまとめる。	
第 4 回	保育所で展開される生活と保育内容	事前学習	教科書 第 3 章-1 を読んでくる。	
		事後学習	保育所での生活をまとめる。	
第 5 回	保育所における 0・1 歳児の生活	事前学習	教科書 第 3 章-2・3 を読んでくる。	
		事後学習	0・1 歳児の生活をまとめる。	
第 6 回	保育所における 2・3 歳児の生活	事前学習	教科書 第 3 章-4・5 を読んでくる。	
		事後学習	2・3 歳児の生活をまとめる。	
第 7 回	幼稚園で展開される生活と保育内容	事前学習	教科書 第 2 章-1 を読んでくる。	
		事後学習	幼稚園での生活をまとめる。	
第 8 回	保育所・幼稚園における 3・4・5 歳児の生活	事前学習	教科書 第 2 章-2・3・4 を読んでくる。	
		事後学習	3・4・5 歳児の生活をまとめる。	
第 9 回	保育内容の歴史の変遷と社会状況の関連	事前学習	教科書 第 4 章を読んでくる。	
		事後学習	保育内容の変遷についてまとめる。	
第 10 回	幼稚園教育要領・保育所保育指針について	事前学習	教科書 第 5 章を読んでくる。	
		事後学習	「5 領域」についてまとめる。	
第 11 回	遊びの特質	事前学習	子どもにとって「遊び」とは何か、考えてくる。	
		事後学習	「遊び」を分類する。	
第 12 回	遊びと学び	事前学習	教科書 第 6 章を読んでくる。	
		事後学習	子どもにとっての「遊び」の意義についてまとめる。	
第 13 回	主体性を大切に保育所・幼稚園における保育	事前学習	「主体性」とは何か、自分にあてはめて考えてくる。	
		事後学習	どのような保育が望ましいか、自分の考えをまとめる。	
第 14 回	保育所・幼稚園における実習	事前学習	教科書 第 8 章を読み、自分がこれから何を学ばなければならないか考える。	
		事後学習	実習に向けての準備を考える。	
第 15 回	まとめ	事前学習	授業で学んだことを振り返る。	
		事後学習	授業をもう一度振り返る。	

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SJMP4130
2. 授業担当教員	河合 光利			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「保育内容総論」の授業内容をふまえて、その応用、発展的な学習を目指す。幼稚園実習及び保育所実習の経験を活用させ、グループワークを取り入れながら現場の保育内容について検証する。また、保育内容に関する知識・理解を深めるために、様々な保育実践事例を取り上げ、事例から子どもの発達の可能性を見いだす視点を養うと共にその保育内容について総合的に検証・評価する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく社会的状況を理解し、説明することができる。 ・幼稚園実習及び保育所実習経験をふまえて現場の保育内容を検証することができる。 ・よりよい保育内容を構築するための環境構成、指導・援助について考察することができる。 ・様々な保育実践事例を通して、子どもの発達や学習の可能性を考察し、議論することができる。 ・保育全体への視野を広げ、保育内容を総合的に検証・評価する力を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で参考図書を提示するので、提示された図書の中から3冊以上の図書を選択、参考図書1冊につき小レポート1回分として計3回の小レポートを提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 関口はつ江、太田光洋編「実践としての保育学」同文書院、2011 【参考書】 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館。 日本保育協会「保育所保育指針解説書」フレーベル館。 森上史朗編「最新保育資料集 2013」ミネルヴァ書房。 その他、必要に応じて参考書を紹介、もしくはプリントを配布する。			
11. 成績評価の方法	授業態度 (出席、発言、ノート、傾聴態度等) 20% 小レポート 40%、期末レポート 40%			
12. 受講生へのメッセージ	毎回の授業では、発言、発表を求めているので、指名を受けた際にはきちんと発言、発表ができるように、予習、復習を忘れずに行うこと。また、授業の中でわからないことがあれば、すぐに質問をすること。レポートの締切りは厳守。授業への積極的な参加を期待する。			
13. オフィスアワー	別途通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション 授業方針及び授業の概要についての説明	事前学習	幼稚園教育要領、保育指針の総則を読んでくる	
		事後学習	「環境を通して行う教育」の意味をまとめる	
第 2 回	「領域」のもつ関連性とは、どのようなものか	事前学習	5つの領域の意味をまとめる	
		事後学習	領域の特性についてまとめる	
第 3 回	幼児の発達の諸側面	事前学習	幼児の発達について理解する	
		事後学習	発達に関する諸問題をまとめる	
第 4 回	遊びを通しての総合的な指導とは?	事前学習	遊びとは何かを理解する	
		事後学習	遊びの中での「育ちの姿」をまとめる	
第 5 回	保育者としての成長を考える (1) 保育者とは	事前学習	あるべき姿を考える	
		事後学習	自分のあり方をまとめる	
第 6 回	保育者としての成長を考える (2) 保育者の服務	事前学習	服務とは何かを調べてくる	
		事後学習	保育者の役割をまとめる	
第 7 回	保育者としての成長を考える (3) ライフステージ	事前学習	保育者としての人生を考えてくる	
		事後学習	ライフステージをまとめる	
第 8 回	保育者としての成長を考える (4) 資質&専門性	事前学習	資質、専門性について調べてくる	
		事後学習	求められる課題をまとめる	
第 9 回	幼稚園、保育所の建築を考える	事前学習	園舎園庭環境を調べてくる	
		事後学習	園舎、園環境の影響をまとめる	
第 10 回	幼稚園、保育所における園外保育を考える	事前学習	園外保育について調べてくる	
		事後学習	園外保育の内容を検討する	
第 11 回	幼稚園、保育所の事故及び安全について考える	事前学習	事故例を集めてくる	
		事後学習	対策、解決策をまとめる	
第 12 回	保育の今日的課題について (1) 連携とは?	事前学習	連携の対象はどのようなものか調べてくる	
		事後学習	連携に係る問題をまとめる	
第 13 回	保育の今日的課題について (2) 障がいをもつ子ども	事前学習	障がい児保育の問題を調べてくる	
		事後学習	解決策を検討する	
第 14 回	保育の今日的課題について (3) 待機児童、認定子ども園、義務教育化など	事前学習	何が問題なのか、調べてくる	
		事後学習	課題について検討する	
第 15 回	保育の今日的課題について (4) 10年先の幼児教育を予測する	事前学習	現代社会のトピックを集めてくる	
		事後学習	10年後の幼児教育の姿をまとめる	

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SJMP4130
2. 授業担当教員	太田 節子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「保育内容総論」の授業内容をふまえて、その応用、発展的な学習を目指す。幼稚園実習及び保育所実習の経験を活用させ、グループワークを取り入れながら現場の保育内容について検証する。また、保育内容に関する知識・理解を深めるために、様々な保育実践事例を取り上げ、事例から子どもの発達の可能性を見いだす視点を養うと共にその保育内容について総合的に検証・評価する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく社会的状況を理解し、説明することができる。 ・幼稚園実習及び保育所実習経験をふまえて現場の保育内容を検証することができる。 ・よりよい保育内容を構築するための環境構成、指導・援助について考察することができる。 ・様々な保育実践事例を通して、子どもの発達や学習の可能性を考察し、議論することができる。 ・保育全体への視野を広げ、保育内容を総合的に検証・評価する力を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・受講者の学習状況に応じて、レポート課題を提示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 必要に応じて、様々な文献から出典しプリントを配付する。			
11. 成績評価の方法	レポート、グループ発表 40% 個人発表 60%			
12. 受講生へのメッセージ	これまでの学習の集大成の心構えをもって授業に望んで下さい。保育者には生涯学習が求められます。現場に出てからは、園内外の研修での積極的学習が望まれますが、基本的には自身が保育についてより深く学ぼうとする姿勢を継続することによって保育者の成長が決まっていきます。保育者の成長はよりよい保育内容を生み出します。なぜ学び続けていかなければならないかをこの授業で確信し、「自ら学ぶ力」を身につけて、保育の質を高めていける保育者を目指して欲しいと思います。			
13. オフィスアワー	水曜 11:00~12:00			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業の概要、意義、望ましい学習態度等についての説明。受講者個々がどのような自己課題を持っているのかを明記する。	事前学習	2 年次に履修した「保育内容総論」の授業内容を復習しておく。	
		事後学習	これまで行った実習内容の省察をする。	
第 2 回	「気になる子ども」の保育について、援助方法を習得する。インクルーシブ教育について理解する。	事前学習	インクルーシブ教育の意味を調べておく。	
		事後学習	授業の内容をふまえて、インクルーシブ教育の要点をまとめる。	
第 3 回	「メディアと子ども」について考察し、メディアリテラシーについて学ぶと共に子どもへの望ましい援助を理解する。	事前学習	現代のメディアが子どもに及ぼす影響を考察する。グループであげた問題点について予め議論し、問題の内容を深めておく。	
		事後学習	子どもへのメディア教育のあり方を考察する。授業で議論した内容を、自身の考えを含めてまとめる	
第 4 回	「保護者支援」について、具体的な実践例をとりあげ、効果的な支援方法を習得する。	事前学習	現代の保護者をとりまく状況について調べておく。	
		事後学習	保護者支援について要点をまとめる。	
第 5 回	保育実践事例から、子どもの発達への効果や可能性を洞察すると共に、保育内容に関する問題点も考える。(1)	事前学習	自身の幼稚園実習体験のなかで、保育実践事例として望ましい内容をあげる。	
		事後学習	授業の事例について、自己の考えをまとめる。	
第 6 回	保育実践事例から、子どもの発達への効果や可能性を洞察すると共に、保育内容に関する問題点も考える。(2)	事前学習	前回の授業でとりあげた実践事例の望ましい援助について、復習する。	
		事後学習	(1) と (2) の実践事例を比較し、自身の考えをまとめる。	
第 7 回	保育実践事例から、子どもの発達への効果や可能性を洞察すると共に、保育内容に関する問題点も考える。(3)	事前学習	前回の授業でとりあげた実践事例の望ましい援助について、復習する。	
		事後学習	(1) と (2) と (3) の実践事例を比較し、自身の考えをまとめる。	
第 8 回	幼稚園実習経験のなかでの保育内容について検証し、そこでの疑問点をグループのなかで出し合う。	事前学習	実習の省察内容をまとめ、実習現場における疑問点 (問題点) について整理しておく。	
		事後学習	グループ学習を行い、受講者全員が議論する内容として相応しい疑問点 (問題点) を抽出する。	
第 9 回	前回出し合った疑問点を精査し、そのなかで受講者全員にとって学びとなるような疑問点をグループごとに提示し、それについて全員で議論し、考察し、保育を様々な視点から検証する。	事前学習	グループであげた問題点について予め議論し、問題の内容を深めておく。	
		事後学習	授業で議論した内容を、自身の考えを含めてまとめる	

第 10 回	9 回目の授業の継続。	事前学習	グループであげた問題点について予め議論し、問題の内容を深めておく。
		事後学習	授業で議論した内容を、自身の考えを含めてまとめる
第 11 回	10 回目の授業の継続。	事前学習	グループであげた問題点について予め議論し、問題の内容を深めておく。
		事後学習	授業で議論した内容を、自身の考えを含めてまとめる。
第 12 回	各自の得意分野を磨き、子どもの状況とねらいを設定したうえで発表し、評価しあう。(1)	事前学習	自身の得意分野について考察する。
		事後学習	受講生の発表について検証し、評価内容を記述する。
第 13 回	各自の得意分野を磨き、子どもの状況とねらいを設定したうえで発表し、評価しあう。(2)	事前学習	受講生の発表から学習した点をまとめ、自身の今後に生かす。
		事後学習	受講生の発表について検証し、評価内容を記述する。
第 14 回	各自の得意分野を磨き、子どもの状況とねらいを設定したうえで発表し、評価しあう。(3)	事前学習	受講生の発表から学習した点をまとめ、自身の今後に生かす。
		事後学習	受講生の発表について検証し、評価内容を記述する。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	受講生の発表から学習した点をまとめ、自身の今後に生かす。
		事後学習	現場に向けて、生涯学習への課題を明確にする。

1. 科目名(単位数)	保育内容総論Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SJMP4130
2. 授業担当教員	矢吹 芙美子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「保育内容総論」の授業内容をふまえて、その応用、発展的な学習を目指す。幼稚園実習及び保育所実習の経験を活用させ、グループワークを取り入れながら現場の保育内容について検証する。また、保育内容に関する知識・理解を深めるために、様々な保育実践事例を取り上げ、事例から子どもの発達の可能性を見いだす視点を養うと共にその保育内容について総合的に検証・評価する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく社会的状況を理解し、説明することができる。 ・幼稚園実習及び保育所実習経験をふまえて現場の保育内容を検証することができる。 ・よりよい保育内容を構築するための環境構成、指導・援助について考察することができる。 ・様々な保育実践事例を通して、子どもの発達や学習の可能性を考察し、議論することができる。 ・保育全体への視野を広げ、保育内容を総合的に検証・評価する力を身につける。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	レポート課題 3題 1 保育の方法・形態について事例を挙げ考察する。 2 遊びを通しての学びについて事例をあげ考察する。 3 状況における子どもの把握と評価について事例を挙げて考察する			
10. 教科書・参考書・教材	授業内でプリントを配布する			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加態度(小課題への取り組み、レポートを含む)、小試験を適宜実施し、それらを総合し評価します。授業への参加態度 50%、小試験 50%			
12. 受講生へのメッセージ	実習体験で生じた課題との関連を意識し、めざされる保育を発展的に学んでいく。毎回の課題や演習に積極的に取り組み、自らより良い保育は展開できるようになる。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	現代社会と子どもの現状	事前学習	1年時に使った教科書「共に育つ」pp.15～27を復習し、乳幼児期の保育内容の課題を考えておく	
		事後学習	集団討議および授業から学んだことを整理し確認する。	
第2回	実習体験から成立する保育の課題	事前学習	実習体験から課題として成立していることをレポートに書く	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第3回	揺れ動く子どもの心の理解とかかわり	事前学習	子どもの理解の困難さを感じた事例をまとめておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第4回	友達を求めあう子どもの姿の理解とかかわり	事前学習	テーマについて実習体験を思い起こし書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第5回	友達に伝わる喜びから伝え合う楽しさの理解とかかわり	事前学習	テーマについて実習体験を思い起こし書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第6回	保育方法としての保育の形態、自由保育、誘導保育、集団保育、課程保育、一斉保育	事前学習	テーマについて実習体験を思い起こしどのような保育形態を経験したか書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第7回	実習で体験した保育形態から子どもの姿を振り返り検証する	事前学習	体験した保育形態における子どもの姿を	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第8回	集団における個々に寄り添う保育と環境構成	事前学習	実習経験からテーマについて書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第9回	集団と個の関係をとらえた保育	事前学習	実習経験からテーマについて書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第10回	リーダーチーム理論、一斉保育、課程保育、集団指導への活用	事前学習	実習経験からテーマについて書いておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第11回	行事に向けての子どもと保育	事前学習	行事に向けてどのような指導がされ子どもたちの姿はどうか思い起こして書く	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第12回	新たな保育の実践、状況における子どもの理解、共に育つ発達評価法、	事前学習	前もって資料配布するので資料を読んでおく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第13回	ニュージーランドの学びの物語、フィンランドの保育	事前学習	世界の保育について調べておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第14回	英国の伝統的保育からプロジェクトアプローチへ	事前学習	プロジェクトアプローチについて調べておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	
第15回	ごっこ遊びと心理劇、子どもと共に創る心理劇、ふるまいながら考える	事前学習	ごっこ遊びについて調べておく	
		事後学習	集団討議と授業のまとめを整理し確認する	

1. 科目名 (単位数)	保育の心理学 I (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1110
2. 授業担当教員	石 暁玲	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義, ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係	春期の本授業で子どもの心身の発達を理解することで、秋期の「保育の心理学Ⅱの授業につながる」。		
7. 講義概要	<p>保育の心理学 I では、子どもの成長を支える保育に関わる皆さんが子どもの発達を見取る上で重要な、人間の生涯にわたる発達のプロセスと発達に影響を及ぼす諸要因についての知識を学びます。人間の発達の特徴を理解することは、子どもの成長に気付き、子どもがどうしてそのような行動をとるのかを適切に理解すること、そしてそれを保護者や同僚と共有する視点を獲得するための重要な基礎となります。</p> <p>講義は発達の各時期の特徴を、身体、知覚・認知、自己意識、感情、社会性などの様々な側面から学びます。さらに、こうした知識を実践でも活かせるスキルを高めるため、子どもの行動の背景にある発達の特徴について、学んだ知識に基づいたディスカッションをしながら進めます。</p>		
8. 学習目標	<p>①人間の発達プロセスに関する基本的な知識を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②子どもの行動や現象を、発達や教育に関わる心理学の知見を用いて説明できるようになる。</p> <p>③保育場面において子どもの発達を支える支援を、心理学の知見を用いて考えられるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内容にかかわる課題を授業中に随時提示します。</p> <p>授業中テストを実施します。予習・復習など自発的勉強が必要です。</p> <p>子どもの発達や保育、子育てに関わる宿題を出します。</p> <p>授業中にビデオを見たり課題を読んだりして、話し合いや発表を行います。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 立松英子編著 (監修) 『保育の心理学 I』 大学図書出版会。 授業中にプリントや資料を配付するので、各自ファイル (A4 用) を用意しておくといと思います。</p> <p>【参考書】 松原達哉編『発達心理学—健やかな幸せな発達をめざして』丸善出版。 咲間まり子編『多文化保育・教育論』みらい社。 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦 (編著) 『やわらかアカデミズム<わかる>シリーズ よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。 藤村宣之 (編著) 『いちばんはじめに読む心理学の本 3 発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか?』ミネルヴァ書房。 厚生労働省『保育所保育指針解説 (平成 20 年度)』フレーベル館。 『平成 20 年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>』チャイルド本社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>プレゼンテーション・課題発表 20%</p> <p>授業への積極的参加態度 30%</p> <p>テスト (2 回) 50%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>①積極的に乳幼児と接するチャンスを見つけ、ボランティア体験などを積んでください。</p> <p>②保護者が子どもを安心して預けられるかどうかという観点で自分自身を見直してみましょう。</p> <p>③教員と学生の相互努力によって授業はよりよくなっていきます。受講生の授業への積極的な参加と授業への協力を求めます。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回目のガイダンスで発表します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション/授業の進め方 評価の方法 保育と発達心理学①	事前学習	教育基本法で幼児教育はどのように表されているか調べておこう。
		事後学習	発達心理学がなぜ保育で重視されているかまとめておこう。
第 2 回	保育所保育指針と発達心理学②	事前学習	保育所保育指針の改訂の要点について調べておこう。
		事後学習	保育所保育指針の改訂の要点について、その理由をまとめておこう。
第 3 回	発達心理学を概観する① 生涯発達心理学の概念と発達を規定する要因	事前学習	現代の「発達」の定義を調べておこう。
		事後学習	「成熟優位説」「環境優位説」のそれぞれの主張をまとめておこう。
第 4 回	発達心理学を概観する② 様々な発達理論	事前学習	各発達理論の要点を教科書から読み取っておこう。
		事後学習	主な発達理論の内容を自分の言葉でまとめておこう。
第 5 回	胎児期・新生児期：子どもの発達と環境	事前学習	胎児期・新生児期の発達の特徴を調べる。
		事後学習	保育所では何故お昼寝をするのか理由をまとめておこう。
第 6 回	乳幼児：基本的信頼感の獲得・身体の機能と運動発達	事前学習	「愛着」などの用語の意味を調べておこう。
		事後学習	「感覚運動段階」の特徴についてまとめておこう。
第 7 回	幼児前期：感情・認知・自我の発達	事前学習	関連用語を調べる。
		事後学習	子どもの自我の発達と親による社会化機能との葛藤について考察する。
第 8 回	中間まとめ	事前学習	第 1 回から 7 回の内容を振り返っておこう。

平成 28 年度

		事後学習	質問に答えられなかったところを確認しておこう。
第 9 回	幼児後期：遊び・言語・社会性の発達	事前学習	関連内容を熟読する。
		事後学習	言葉の力について考察する。
第 10 回	児童期の発達：脱中心化・道徳性の発達	事前学習	脱中心化を理解する。
		事後学習	道徳性の発達を考察する。
第 11 回	青年期の発達：アイデンティティの達成	事前学習	アイデンティティの概念を調べる
		事後学習	自分のアイデンティティの達成度を振り返る。
第 12 回	成人期の発達 I：親密性・養護性の発達	事前学習	親密性の現代的意味を調べる。
		事後学習	養護性はなぜ大事なのかを考察する。
第 13 回	成人期の発達 II：子育てと親発達	事前学習	「子育て施策」にはどんなものがあるか調べておこう。
		事後学習	子育て困難に悩む親が心を開いてくれるために、保育士として何を準備すればよいか考えておこう。
第 14 回	中年期・高齢期の発達：よりよく生きるために	事前学習	中年期・高齢期のイメージを作る。
		事後学習	よりよく生きるための工夫をまとめる。
第 15 回	講義全体のまとめ	事前学習	これまでの内容を振り返り、理解を深める。
		事後学習	今後の学習への展望、発達の本質を考察する。

1. 科目名 (単位数)	保育の心理学 I (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1110
2. 授業担当教員	平沼 晶子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義, ディスカッション			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>保育の心理学 I では、子どもの成長を支える保育に関わる皆さんが子どもの発達を見取る上で重要な、人間の生涯にわたる発達のプロセスと発達に影響を及ぼす諸要因についての知識を学びます。人間の発達の特徴を理解することは、子どもの成長に気づき、子どもがどうしてそのような行動をとるのかを適切に理解すること、そしてそれを保護者や同僚と共有する視点を獲得するための重要な基礎となります。</p> <p>講義は発達の各時期の特徴を、身体、知覚・認知、自己意識、感情、社会性などの様々な側面から学びます。さらに、こうした知識を実践でも活かせるスキルを高めるため、子どもの行動の背景にある発達の特徴について、学んだ知識に基づいたディスカッションをしながら進めます。</p>			
8. 学習目標	<p>①人間の発達プロセスに関する基本的な知識を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②子どもの行動や現象を、発達や教育に関わる心理学の知見を用いて説明できるようになる。</p> <p>③保育場面において子どもの発達を支える支援を、心理学の知見を用いて考えられるようになる。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>授業内で小テストを実施するので復習をして臨む。</p> <p>講義内容に関連したテーマを取り上げてディスカッションを行い、グループごとに発表をする。</p> <p>授業を通して学習したことについて振り返り、期末レポートとしてまとめる。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 青木紀久代編著『実践・発達心理学』 みらい、2012 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>本学の規定により、3/4 以上の出席を単位認定要件とする。</p> <p>その上で、小テスト (40%)、レポート課題 (30%)、授業態度と参加姿勢 (30%) から総合的に評価する。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>1. 生涯発達の視点に立ち、自分自身を捉え直すとともに、保育者に求められる課題を見出していきましょう。</p> <p>2. 発達という連続性のある内容なので、欠席をしないように心がけましょう。</p> <p>3. 毎回、当該のテーマについてディスカッションを展開させていくので、積極的な態度で臨んでください。</p>			
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション・発達とは何か	事前学習	シラバスおよび教科書第 1 章 (pp.13~24) を読む。	
		事後学習	発達観・子ども観の変遷について理解する。	
第 2 回	新生児期・乳幼児期の心身の発達	事前学習	教科書第 2 章 (pp.25~36) を読む。	
		事後学習	生後 1 年間の身体発達について理解する。	
第 3 回	愛着の形成	事前学習	教科書第 3 章 (pp.37~50) を読む。	
		事後学習	愛着の形成と発達について理解する。	
第 4 回	自己と情動の発達	事前学習	教科書第 4 章 (pp.51~65) を読む。	
		事後学習	自己意識の発達について理解する。	
第 5 回	言葉とコミュニケーションの発達 (1)	事前学習	教科書第 5 章 (pp.66~72) を読む。	
		事後学習	言葉はどのように育まれるのかについて理解する。	
第 6 回	言葉とコミュニケーションの発達 (2)	事前学習	教科書第 5 章 (pp.73~77) を読む。	
		事後学習	話し言葉の発達について理解する。	
第 7 回	知的発達	事前学習	教科書第 6 章 (pp.78~90) を読む。	
		事後学習	遊びを通してどのように知的に発達していくかについて理解する。	
第 8 回	社会性の発達	事前学習	教科書第 7 章 (pp.91~107) を読む。	
		事後学習	仲間関係の発達について理解する。	
第 9 回	発達が気になる子ども	事前学習	教科書第 8 章 (pp.108~123) を読む。	
		事後学習	気になる子どもへの対応を考える。	
第 10 回	発達障害	事前学習	課題のワークに取り組む。	
		事後学習	発達障害への理解を深める。	
第 11 回	思春期の心理	事前学習	教科書第 9 章 (pp.124~137) を読む。	
		事後学習	思春期の心性について理解する。	
第 12 回	青年期の心理	事前学習	第 10 章 (pp.138~150) を読む。	
		事後学習	アイデンティティの獲得について考える。	
第 13 回	子育てと生涯発達	事前学習	教科書第 11 章 (pp.151~163) を読む。	
		事後学習	子育てを通しての親の発達について考える。	
第 14 回	老年期の心理	事前学習	教科書第 12 章 (pp.164~178) を読む。	
		事後学習	老いることと生涯発達の関係について考える。	
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	授業内容を振り返り、学習したことを整理し理解を深める。	
		事後学習	授業で学んだことを自分の中に定着させる。	

1. 科目名 (単位数)	法学Ⅱ (民法、行政法) (4 単位)		3. 科目番号	GELA2317
2. 授業担当教員	藤田 尚			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>社会福祉や教育に携わる者は、社会保障や教育制度に関する諸法令についての基礎知識を理解し、その具体化を図るため、民法 (総則・財産法・家族法) 及び行政法 (行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等) に関する基礎知識を学び、その実践に求められる能力、いわゆるリーガルマインドを習得する必要がある。</p> <p>また、法律科目の特性上、まず法律の条文を読んで理解し、適切に解釈できるようになるとともに、判例を学び、各々の法律条文がどのように解釈され、適用されているのかを理解できるようにならなければならない。そのため、この講義では、条文に当たり、判例を検討しながら学習を進めていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 条文や判例に基づいて法律を解釈できるようになる。 2. 民法、行政法の基礎的知識を習得し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の民法、行政法科目に対応できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【教科書】 教科書は使用せずに、レジュメを基に講義を行う。 但し、六法 (簡易な六法、あるいは電子辞書内の六法も可)、または、法令データ提供システム (http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi) からプリントアウトした条文を持参すること。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度 第4版』中央法規、2014。 野崎和義『医療・福祉のための法学入門—憲法・民法・行政法の基礎』ミネルヴァ書房、2013年。</p> <p>○民法編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野村豊弘『民事法入門 第6版』有斐閣、2014年。 ・内田貴『民法Ⅰ 総則・物権総論 第4版』東京大学出版会、2008年。 ・内田貴『民法Ⅱ 債権各論 第3版』東京大学出版会、2011年。 ・内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物件 第3版』東京大学出版会、2005年。 ・内田貴『民法Ⅳ 親族・相続 補訂版』東京大学出版会、2004年。 <p>○行政法編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田宙靖『行政法入門 第6版』有斐閣、2013年。 ・石川敏行=藤原静雄=大貫裕之=大久保規子=下井康史『はじめての行政法』有斐閣、2013年。 ・櫻井敬子=橋本博之『行政法 第4版』弘文堂、2013年。 			
10. 教科書・参考書・教材	授業中の態度・授業 (グループ討議も含む) への参加度など (20%)。小テスト (80%)。			
11. 成績評価の方法	民法及び行政法は、法律の条文や判例を読みながら、理解することが重要です。法律用語は難しいものが多いため、用語事典を活用したり、事例の場合には、図解しながら読み進めると理解しやすいと思います。まずは、自分に合った参考書を探し、内容理解に努めて下さい。			
12. 受講生へのメッセージ	授業前後の休憩時間			
13. オフィスアワー	<p>【教科書】 教科書は使用せずに、レジュメを基に講義を行う。 但し、六法 (簡易な六法、あるいは電子辞書内の六法も可)、または、法令データ提供システム (http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi) からプリントアウトした条文を持参すること。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度 第4版』中央法規、2014。 野崎和義『医療・福祉のための法学入門—憲法・民法・行政法の基礎』ミネルヴァ書房、2013年。</p> <p>○民法編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野村豊弘『民事法入門 第6版』有斐閣、2014年。 ・内田貴『民法Ⅰ 総則・物権総論 第4版』東京大学出版会、2008年。 ・内田貴『民法Ⅱ 債権各論 第3版』東京大学出版会、2011年。 ・内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物件 第3版』東京大学出版会、2005年。 ・内田貴『民法Ⅳ 親族・相続 補訂版』東京大学出版会、2004年。 <p>○行政法編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田宙靖『行政法入門 第6版』有斐閣、2013年。 ・石川敏行=藤原静雄=大貫裕之=大久保規子=下井康史『はじめての行政法』有斐閣、2013年。 ・櫻井敬子=橋本博之『行政法 第4版』弘文堂、2013年。 			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義の進め方、勉強の仕方等)		事前学習	シラバスを読み、六法における民法典の構造について目を通した上で、授業に臨む。
			事後学習	講義の進め方や勉強の仕方をレジュメで確認の上、自分に合った参考書に目を通す。
第2回	民法 民法とは		事前学習	民法の意義、構造、歴史、基本原理等について調べ、授業に臨む。
			事後学習	レジュメ等を基に、民法の概要について整理し、まとめる。
第3回	民法 権利と義務		事前学習	権利・義務の意義、物権と債権、権利の濫用について調べておく。
			事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、

			重要箇所についてまとめる。
第 4 回	民法 法律行為	事前学習	契約・法律行為、権利能力・意思能力・行為能力について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 5 回	民法 代理、時効	事前学習	代理制度及び時効制度の意義について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 6 回	民法 契約①（契約の成立と効果、契約の分類）	事前学習	契約の成立と効果及び契約の分類について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 7 回	民法 契約②（契約の履行と不履行）	事前学習	契約の履行（債務の履行）及び契約の不履行（債務不履行）について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 8 回	民法 所有権	事前学習	物権の種類、所有権（動産・不動産）について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 9 回	民法 不法行為	事前学習	不法行為の意義や機能、損害賠償について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 10 回	民法 債務の弁済	事前学習	債務の担保（物的担保と人的担保）、債務の弁済（債務の履行）について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 11 回	民法 成年後見制度①（法定後見）	事前学習	成年後見制度のうち、法定後見の内容について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 12 回	民法 成年後見制度②（任意後見）	事前学習	成年後見制度のうち、任意後見の内容について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 13 回	民法 親族①（家族）	事前学習	親族、夫婦（婚姻と離婚）について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 14 回	民法 親族②（親子・扶養）	事前学習	親子関係、扶養、親権について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 15 回	民法 相続①（相続）	事前学習	相続の意義と根拠、法定相続と遺言相続について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 16 回	民法 相続②（遺言）	事前学習	遺言の意義及び種類、遺留分について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 17 回	グループディスカッション① （最高裁判例及び最近の法改正について討論を行う）	事前学習	授業内で提示するテーマについて各自調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 18 回	グループディスカッション② （最高裁判例及び最近の法改正について討論を行う）	事前学習	授業内で提示するテーマについて各自調べておく。 教員が作成した資料を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 19 回	民法 まとめ	事前学習	講義を振り返り、理解が不十分だった点について、質問事項をまとめる。小テストの準備に備える。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。小テストで誤った点を復習する。
第 20 回	行政法 行政法とは	事前学習	行政法の仕組みについて調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 21 回	行政法 行政にかかわる法	事前学習	議会立法及び行政立法について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、

			重要箇所についてまとめる。
第 2 2 回	行政法 行政行為	事前学習	行政行為の意義及び内容について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 2 3 回	行政法 行政上の強制措置	事前学習	行政上の強制執行、即時強制と行政調査について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 2 4 回	行政法 行政手続と情報公開	事前学習	行政手続法の意義及び情報公開制度について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 2 5 回	行政法 行政不服審査法	事前学習	行政不服審査法の意義及び不服申し立ての対象と種類について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 2 6 回	行政法 行政事件訴訟法①	事前学習	不服申立てと行政事件訴訟の関係性、行政事件訴訟の種類について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 2 7 回	行政法 行政事件訴訟法②	事前学習	出訴期間、司法審査の範囲、取消訴訟の判決の種類について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 2 8 回	行政法 国家賠償法	事前学習	国家賠償法の概要について調べておく。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。
第 2 9 回	行政法 まとめ	事前学習	講義を振り返り、理解が不十分だった点について、質問事項をまとめる。小テストの準備に備える。
		事後学習	レジュメ及び参考書等で講義内容を復習し、重要箇所についてまとめる。小テストで誤った点を復習する。
第 3 0 回	法学Ⅱ全般のまとめ	事前学習	民法及び行政法を復習し、理解が不十分な点を書き出し、質問事項をまとめる。
		事後学習	法学Ⅱ全般について復習する。

1. 科目名 (単位数)	法学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1316 GELA1337 GELA1116
2. 授業担当教員	本沢 一善		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	この科目は法律全般に及ぶので憲法も一通り触れるが、できれば「法学 (憲法)」の科目を学んだあとに履修が望ましい。		
7. 講義概要	<p>この講義は、憲法、民法、労働法等、各種の法に関する一般的な約束事や社会生活を送っていくために必要な基礎的な法の概略を学ぶ、いわゆる「法学入門」に相当するものである。</p> <p>この講義では、法学をはじめ学ぶ学生を主たる対象に、法と社会、法の種類、法解釈等について学習するとともに、社会生活に関連する法律として、家族、財産に関する民法等の民事法の概略、犯罪に関する刑法等の刑事法の概略、労働法などの社会法の一部について学習する。この学習を通じて、法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得する。</p> <p>この講義は、法学を専門とするわけではない法学初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いので、深く突っ込んだ議論を行うことは困難であるとともに、かなりのスピードで法律について学んで頂くことになるので、事前、事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。また、比較的一方向の講義になる可能性が高いことも留意して下さい。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得し、法学的に物事を考えることができるようになる。 2. 教科書のポイントを理解し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の法律科目に対応できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	数回、講義内容の中で重要なテーマにつき、1000字程度のレポートを課し、採点し返却する。事前・事後学習の提出についても採点・返却する。授業進行のなかで、90分以上をとり項目を選び、グループ学習を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】○本沢一善『法学要説』学文社、改訂版 2014. 10。 【参考書】○教材-印刷物 (教科書の要約+労働法・商法)		
11. 成績評価の方法	授業態度 (積極的参加度、事前・事後学習の提出など) 30%、期末試験 60%、レポート 10%、計 100% で評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事前と事後の学習をし、疑問を次回に質問し、次回の予定の項目につき、一覧しておく。 ・授業態度の悪い学生 (おしゃべり、授業をぬけ出る、教科書のわずれなど) はチェックし、評価にカウントする。 		
13. オフィスアワー	授業前と授業後に行う。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	法律全般、a 法とは、b 種類	事前学習	「第 1 節 [2] (2) 裁判規範、第 2 節 [1] 法源」を熟読し、原則 A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 [2] (1) 制定法、[3] (4) 一般法と特別法」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 2 回	憲法 1、a 憲法の歴史—外国、日本、b 国民主権	事前学習	「第 1 章 第 1 節 [2] 硬性憲法と軟性憲法、[3] 最高法規制」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 節 [1] 国民主権、[2] 象徴天皇制」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 3 回	憲法 2、a 基本的人権—自由権、社会権	事前学習	「第 3 節 [1] (3) 享有する主体、(5) 新しい人権」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「[4] (1) 社会権総論、(2) 生存権」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 4 回	憲法 3、a 立法権—国会、b 行政権—内閣	事前学習	「第 7 節 [1] (3) 唯一の立法機関、第 8 節 [2] (1) 内閣の組織」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 7 節 [2] (1) 二院制、第 8 節 [2] (2) 総理大臣の権限、[3] 内閣の機能」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 5 回	憲法 4、a 司法権—裁判所、b 財政、c 地方自治	事前学習	「第 9 節 [2] 裁判所、第 1 1 節 [2] 地方公共団体の組織」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 9 節 [1] (2) 司法権の限界、第 1 0 節 [3] 公金の支出、[3] 地方公共団体の機能」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 6 回	民法 1、a 行為能力、b 法律行為	事前学習	「第 2 章 [2] (1) 自然人の権利能力、[3] 成年後見制度、[5] 法律行為」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 2 章 [2] (2) 行為能力、[7] 代理、第 2 節 物権、第 3 節 債権」を熟読し、A4 用紙 (裏) に手書で記述し、提出する。
第 7 回	民法 2、a 親族、b 相続	事前学習	「第 4 節 [1] 親族、[2] 婚姻と離婚、[6] 相続」を熟読し、A4 用紙 (表) にまとめる。
		事後学習	「第 4 節 [4] 親子、[7] 遺言と遺留分」を熟読

			し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 8 回	行政法 1、a 行政の活動、b 組織、c 行政手続	事前学習	「第 3 章第 2 節 行政の組織、第 3 節[1]行政行為」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 3 節[2]行政指導など、[4]行政強制」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 9 回	行政法 2、a 行政救済、b 地方行政	事前学習	「第 4 節[1](3)審査請求など、第 5 節[2]地方自治体の組織」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 4 節[3]国家補償、第 6 節[2]個人情報保護法」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 10 回	刑法など 1、a 刑法	事前学習	「[刑法]第 2 節1法違反と犯罪防止、(7)社会的処遇など」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節[1](4)犯罪の成立要件」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 11 回	刑法など 2、a 少年法	事前学習	「第 2 節[2](1)目的[少年法]、(2)対象となる少年」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「第 2 節[2](4)家庭裁判所」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 12 回	労働法 1	事前学習	「[労働法]1.労働法とは、4.労働契約」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「5.賃金、9.就業規則など」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 13 回	労働法 2	事前学習	「11.労働組合、13.労働協約」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「12.団体交渉、14.争議行為など」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 14 回	商法	事前学習	「[商法]1.商法と商行為など、3.営業譲渡」を熟読し、A4 用紙(表)にまとめる。
		事後学習	「4.支配人、代理商など、5.商事契約」を熟読し、A4 用紙(裏)に手書で記述し、提出する。
第 15 回	総合まとめ	事前学習	大事だと思う項目を 3 つ選び、内容を手書でまとめる。教科書の巻末の「設問と解答および解説」155 項目から質問を 3 つ選ぶ。
		事後学習	総まとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	法学概論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1116
2. 授業担当教員	杉原 弘泰			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>この講義は、憲法、民法、労働法等、各種の法に関する一般的な約束事や社会生活を送っていくために必要な基礎的な法の概略を学ぶ、いわゆる「法学入門」に相当するものである。</p> <p>この講義では、法学をはじめ学ぶ学生を主たる対象に、法と社会、法の種類、法解釈等について学習するとともに、社会生活に関連する法律として、家族、財産に関する民法等の民事法の概略、犯罪に関する刑法等の刑事法の概略、労働法などの社会法の一部について学習する。この学習を通じて、法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得する。</p> <p>この講義は、法学を専門とするわけではない法学初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いので、深く突っ込んだ議論を行うことは困難であるとともに、かなりのスピードで法律について学んで頂くことになり、また、事前、事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。また、比較的一方方向の講義になる可能性が高いことも留意して下さい。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得し、法学的に物事を考えることができるようになる。 2. 教科書のポイントを理解し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の法律科目に対応できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	小テスト、確認テストの実施。 学生の理解度、授業の進捗状況によってはレポートの提出を指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 中川 淳 編著『法と現代社会』世界思想社。</p> <p>【参考書】 江頭・小早川・西田・高橋・能見編『ポケット 六法 平成 25 年版』有斐閣。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 (授業への参加意欲) 20%</p> <p>確認テスト・小テスト 30%</p> <p>期末試験 50%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>法律学は小難しく面白くないと言われることがあり、私も学生時代にそう思ったこともあった。だが社会人になると、そうばかり言うては行かないことがすぐに分かる。実際の事例は奥の深い問題が背景にあることが多い。諸君には、法律の解釈だけでなく、一つの法律がどのような社会的背景で、何を目的として作られ、また、どのように運用されているかなど、実際の生きた法の運用についても、関心を持って頂きたい。私は現在弁護士としての仕事もしているの、経験した実例などを教材にして皆さんと一緒に議論しようと思う。授業中、皆さんからの、質問、意見を大いに歓迎する。出来るだけ楽しい授業にしたいと思うので、皆さんも協力して欲しい。</p> <p>なお、教科書を買わずに、手ぶらで授業に出たり、教科書を読まずに受験したりしないように予めお願いしておく。また、授業の進行速度、受講生の理解度等を考慮し、シラバスの授業内容、進行順序を一部変更することがある。</p>			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方、勉強の仕方)、法の基礎知識	事前学習	教科書 pp. 1～13 を通読する。最初読んで良く理解できなくても、授業の前に一度は読みとおして欲しい。それだけで、授業中の理解が容易になる。以下同じ。	
		事後学習	講義を聞いて復習した際、分からないことがあったら、次回の授業の初めに質問する。	
第 2 回	人生と法 (1) 婚約と婚姻の法	事前学習	教科書 pp. 14～28 を通読する	
		事後学習	第 2 回～第 4 回の講義は民法の親族法に属するテーマである。最も身近な婚姻に関わる法律問題を考える機会となれば幸いである。講義の後、再度教科書を読み返すこと。	
第 3 回	人生と法 (2) 出生と親子関係	事前学習	教科書 pp. 29～44 を通読する。	
		事後学習	親子関係では、非嫡出子の法的地位が国により異なる。このほか、現代的な問題として、人工授精、体外受精による出産、代理出産等を巡る親子関係の問題もあり、生命倫理にも係る難しい課題ともなっている。教科書を読み、講義を聴いた後、興味のあるところ、疑問点などについて、関連図書資料などを調べて更に深く研究してみるとよい。	
第 4 回	人生と法 (3) 死亡と相続	事前学習	教科書 pp. 45～60 を通読する。	
		事後学習	誰しも死は避けられない。人の「死亡」に係る法的な問題を、民事・刑事の両面から考える講義である。前者では、相続、遺言に関わる民法上の制度を考え、後者では、人の「死亡」の在り方に関して、「安楽死」「尊厳死」とは何か、またそれに関わる刑事責任の問題等について深く理解できるように復習する。	
第 5 回	両性の平等 (1) 憲法上の地位	事前学習	教科書 pp. 62～77 を通読する。	
		事後学習	第 5 回～第 7 回の講義は、「両性の平等」のテーマを、憲法、民法、労働法の観点から考えるものである。戦後の日本国憲法は、近代国家にふさわしく、女性の人権を認め、憲法第 14 条に両性の本質的平等を唄い、政治的、経済的、社会的関係での不当な性差別を禁止した。	

			この講義では、主として憲法的な観点から、「両性の平等」理念の基本を理解できるように、講義後に復習して欲しい。
第 6 回	両性の平等 (2) 民法上の地位	事前学習	教科書 pp. 78～89 を通読する。
		事後学習	第 2 回講義とも関連するが、この講義では婚姻関係から生じる問題を「両性の平等」概念に照らして考えようとするものである。 第 2 回講義と併せて、教科書を読み返す。
第 7 回	両性の平等 (3) 労働法上の地位	事前学習	教科書 pp. 90～102 を通読する。
		事後学習	労働基準法、男女雇用機会均等法等を通して、労働法上の平等概念を考察するものである。この講義を通じて、女性の社会的地位の向上、雇用における両性の実質的平等の意義等を深く考察することが必要である。
第 8 回	社会生活と法 (1) 住居と法	事前学習	教科書 pp. 106～119 を通読する。
		事後学習	第 8 回—第 10 回講義は、市民生活の上で生起する民事上の法律問題のうち身近なものを取り上げている。その第 1 回は、不動産売買、賃貸、マンション所有・管理を巡る法律問題などである 詳しく勉強したい人は、更に民法、借地借家法等に関する書籍等を調べるとよい。
第 9 回	社会生活と法 (2) 契約と法	事前学習	教科書 pp. 120～135 を通読する。
		事後学習	民法総則に相当する領域の講義である。 売買、消費貸借、請負などの様々な契約を行う場合の一般原理についての知識を習得することを狙いとしており、民事法の研究では大変重要な基礎学習であるから、教科書を繰り返し読むこと。
第 10 回	社会生活と法 (3) 事故と法	事後学習	教科書 pp. 136～153 を通読する。
		事後学習	基本的には民法第 709 条の「不法行為」の概念を、様々な事故を例にとり説明している。 その中には、自動車による交通事故や、医療事故も含まれるので、身近な問題として関心を持ち、よく勉強して欲しい。
第 11 回	現代の課題 (1) 未成年者の課題	事前学習	教科書 pp. 156～171 を通読する。
		事後学習	第 11 回—第 15 回講義は、現代的な課題を取り上げる。 まず、未成年者の保護と福祉の問題を、子供の人権、離婚後の子の福祉などの観点から考察する。教科書にはないが、少年犯罪と非行問題についても、図書館で書籍、資料を検索するなどして研究してみるとよい。
第 12 回	現代の課題 (2) 高齢者の福祉	事前学習	教科書 pp. 172～187 を通読する。
		事後学習	現代は少子高齢化社会と言われ、高齢者に対するケアが大きな社会問題となっている。これらを、高齢者に対する経済保障、介護保険などを中心に考察し、最後に成年後見制度について解説する予定であり、福祉関係の職業を目指す学生には、特別の関心と深い研究が望まれる。
第 13 回	現代の課題 (3) 環境と法	事前学習	教科書 pp. 188～203 を通読する。
		事後学習	産業経済の発展に伴い、環境汚染が進み、今地球レベルでの環境対策が求められている。 その法律的な枠組みには、専門的技術的な要素が多く、分かりにくい。しかし、現代人の常識としては是非環境法の基本理念ぐらいは勉強しよう。教科書を 2 回読む。
第 14 回	現代の課題 (4) 裁判制度 (含む裁判員制度)	事前学習	教科書 pp. 204～224 を通読する。
		事後学習	裁判制度は決して新しいものではないが、十数年前の司法改革の一環として作られた裁判員制度は正に現代的な新しい制度である (教科書では言及されていないが)。講義では、この裁判員制度の趣旨と問題点を解説し、その後に諸君と議論してみたい。
第 15 回	現代の課題 (5) 憲法と基本的人権	事前学習	教科書 pp. 225～246 を通読する。
		事後学習	憲法において保障される基本的人権と我が国の統治機構につき概説するものである。 国民としての常識に属するが、将来公務員を志望する学生には、更に憲法の教科書を購入して、この部分の研究を深めておくことが望ましい。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保健医療 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1102 PSMP1402
2. 授業担当教員	小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む。)や保健医療サービスについて理解する。 ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 ・医療ソーシャルワーカーの多くが所属する組織である「病院」についての理解を深めると同時に、組織とソーシャルワークの関連を理解する。 ・医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスの各専門職の役割および連携についての、基礎的な知識を踏襲する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるようになる。 2. 診療報酬の概要を理解し、説明することができるようになる。 3. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携について理解し、説明することができるようになる。 4. 医療を取り巻く現状について理解し、説明することができるようになる。 5. 病院のしくみについて理解し、説明することができるようになる。 6. 組織とソーシャルワークの関連について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1 「患者の権利への支援について2000字以上で記述しなさい」 ポイント：インフォームドコンセント、専門職の倫理が患者の権利支援にどのように結びつくのか理解し、説明する。</p> <p>課題2 「医療ソーシャルワーカーの業務のうち一つを選び、どのような支援なのか事例を用いて2000字以上で説明しなさい。」 ポイント：医療ソーシャルワーカーの支援の実際と留意事項を、事例を用いて理解し説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート 50% 試験 50% 遅刻・早退は 30 分以内とし、それ以外は欠席とする。出席が 3 / 4 に満たない場合は単位認定しない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>健康に留意の上、主体的に参加されたい。 【出欠席について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず、遅刻早退欠席する場合は、その理由を申し出る。 ・遅刻者は、授業の妨げにならないよう、静かに着席し授業に参加する。 ・原則として、出席不足を補うことはできない。 		
13. オフィスアワー	授業間の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 保健医療サービスの歴史と現状	事前学習	医療についての自己の体験をまとめる
		事後学習	医療法改正の経緯を社会的背景と関連付けながらまとめる
第2回	医療法の改正についての振り返り 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 保健医療サービスとその構成要素、戦後の保健医療サービスの整備・拡充	事前学習	保健医療サービスの意味について調べる
		事後学習	ステークホルダーを中心にして保健医療の概要をまとめる
第3回	保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割 医療法改正に見る保険医療サービスの今日的課題、医療連携 チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士	事前学習	医療法の改正から医療と福祉の関連を調べる
		事後学習	保健医療サービスにおいて社会福祉士に求められる役割をまとめる
第4回	保健医療サービスを提供する施設とシステム 医療法による医療施設の機能・類型、医療政策による医療施設の機能・類型 診療報酬による医療施設の基準・類型、介護施設の基準・類型、在宅支援のシステム	事前学習	医療システムについて調べる
		事後学習	機関・施設の役割・機能をまとめる
第5回	保健医療サービスの概要についてのまとめと考察 保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	事前学習	保健医療サービスの概要と社会福祉士の役割をまとめ、説明できるようにしておく
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの背景についてまとめる
第6回	保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割 ミクロのソーシャルワーク、ミクロからメゾのソーシャルワーク、メゾからマクロのソーシャルワーク	事前学習	医療ソーシャルワーカーの業務指針について理解しておく
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの業務についてまとめる
第7回	保健医療サービスの専門職の役割、保健医療サービス専門職の概観、基本的姿勢 保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際	事前学習	保健医療サービスに関わる専門職の役割について調べる
		事後学習	保健医療サービスに関わる専門職の役割

			についてまとめる
第 8 回	保健医療サービスの専門職の役割、保健医療サービス専門職の概観、基本的姿勢 インフォームドコンセントの意義と実際・倫理 医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	事前学習	インフォームドコンセントの現状について調べる
		事後学習	インフォームドコンセントの重要性についてまとめる
第 9 回	保健医療サービスに関わる専門職についてまとめと考察 保健医療サービスの提供と経済的保障 医療費に関する政策的動向、医療保険制度と診療報酬制度の概要、	事前学習	保健医療サービスに関わる専門職についてまとめ、説明出来るようにしておく
		事後学習	政策動向についてまとめる
第 10 回	保健医療サービスの提供と経済的保障 医療費に関する政策的動向、医療保険制度と診療報酬制度の概要、介護保険制度と介護報酬制度の概要、高額療養費制度の概要、ターミナルケア支援の診療報酬制度 自立支援医療、公費負担医療制度の概要	事前学習	医療保険・診療報酬制度について調べる
		事後学習	診療報酬制度の動向についてまとめる
第 11 回	保健医療サービスに関わる専門職・保健医療サービスの提供と経済的保障についてまとめと考察 保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 保健医療の専門職との連携方法と基礎知識	事前学習	保健医療サービスの関わる社会保障制度についてまとめ、説明できるようにする
		事後学習	連携の意味についてまとめる
第 12 回	保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 保健医療の専門職との連携方法と基礎知識、チームケア実現のための制度や連携機関・団体	事前学習	保健医療におけるチームワークの理論について調べる
		事後学習	チームワークの理論とコンピテンシーについてまとめる
第 13 回	保健医療サービスの連携の理論と実践（専門職との連携） 地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法	事前学習	地域ネットワークの事例を調べる
		事後学習	保健医療における地域ネットワークの構築方法についてまとめる
第 14 回	保健医療サービスの連携の理論と実践(地域の社会資源との連携) 地域 NST の概念 地域ケア、ネットワークの実際	事前学習	地域ネットワークの事例を調べる
		事後学習	授業内で考察した地域ネットワークをまとめる
第 15 回	保健医療サービスにおける連携についてのまとめ ディスカッションおよび保健医療サービスの課題と展望	事前学習	保健医療サービスの課題を調べる
		事後学習	保健医療サービスの課題についてまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保健医療 (2 単位)		3. 科目番号	SCMP1102
2. 授業担当教員	高橋 登志子			SBMP1302
4. 授業形態	講義、グループディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む。)や保健医療サービスについて理解する。 ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 ・医療ソーシャルワーカーの多くが所属する組織である「病院」についての理解を深めると同時に、組織とソーシャルワークの関連を理解する。 ・医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスの各専門職の役割および連携についての、基礎的な知識を踏襲する。 			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるようになる。 2. 診療報酬の概要を理解し、説明することができるようになる。 3. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携について理解し、説明することができるようになる。 4. 医療を取り巻く現状について理解し、説明することができるようになる。 5. 病院のしくみについて理解し、説明することができるようになる。 6. 組織とソーシャルワークの関連について理解し、説明することができるようになる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	レポートと課題等は e-mail での提出を認める。 アドレス sannke_tt@yahoo.co.jp ① 『保健医療福祉職種の資格・業務内容』の各自担当箇所のレジメとパワーポイントを作成。 ② 診療報酬・高額療養制度・診療報酬について述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス』中央法規。			
11. 成績評価の方法	個人・グループレジメ及びプレゼン	20%		
	授業への積極的参加度	20%		
	レポート・期末試験	60%		
12. 受講生へのメッセージ	学習内容は、保健医療にかかわるソーシャルワーカーとして活躍するにあたり習得してほしい基礎的な内容で構成されている。よって、保健医療の専門的な表現や用語について調べるにより簡単な理解をして授業に臨んで欲しい。 ソーシャルワークとは、人間と環境の交差点の中に置かれ、その相互作用を焦点とする多様性に満ちた専門職である。社会福祉実践の対象は非常に広範囲で複雑であるが、本講義では、医療ソーシャルワーカーを意識して保健医療サービスを概観する。 21 世紀の保健・医療・福祉は、制度の変容を受け、お互いに連携して支援する存在となり、連携・総合化により、継続的ケアを実現する時代を迎えている。社会福祉実践において重要な役割をはたす組織について理解を深め、将来の実践に役立てていただきたい。組織におけるミドルマネジメントの視点を意識してほしいと考えている。 授業には教科書を必ず持参すること、事前学習を必ず確認して参加してください。 授業中は通信手段の電源を切ってください。			
13. オフィスアワー	授業日は、授業と授業の間の時間、授業終了後に対応する。 授業日以外に連絡を必要とした場合は sannke_tt@yahoo.co.jp に連絡してください。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、医療業界の全体像、日本の病院の成り立ち	事前学習	テキスト pp. 2~32 の内容を読んで臨むこと。また、病院に対するイメージをまとめて授業に参加すること	
		事後学習	病院から発展させ保健医療サービスとは何か、保健医療の変遷についてまとめる。	
第 2 回	保健医療サービスを提供する施設とシステム(1) 医療法・保健医療政策・診療報酬・病状ステージからみた医療施設の機能・類型	事前学習	テキスト pp. 33~56 の内容を読んで臨むこと。	
		事後学習	医療法による医療施設の機能・類型、保健医療政策による医療施設の機能・類型、診療報酬・病状ステージからみた医療施設の機能・類型をまとめる。	
第 3 回	保健医療サービスを提供する施設とシステム(2) 介護保険法における施設の機能・類型	事前学習	テキスト pp. 57~74 の内容を読んで臨むこと。	
		事後学習	介護保険法における施設の機能・類型、在宅支援システムについてまとめる。	
第 4 回	保健医療サービスにおける各専門職の役割 (1) 保健・医療・福祉関係の専門職について資格・役割・業務分野のグループワーク	事前学習	テキスト pp. 115~126 を第 3 回の授業で具体的に提示する。その課題に取り組んで臨む。	
		事後学習	保健・医療・福祉関係の専門職について資格・役割・業務分野についてまとめる。	
第 5 回	保健医療サービスにおける各専門職の役割 (2) 保健・医療・福祉関係の専門職について資格・役割・業務分野のグループ発表会	事前学習	テキスト pp. 115~126 を第 3 回の授業で具体的に提示する。その課題に取り組んで臨む。	
		事後学習	保健・医療・福祉関係の専門職について資格・役割・業務分野についてまとめる。	
第 6 回	保健医療サービスの变化と社会福祉士の役割	事前学習	テキスト pp. 75~86 の内容を読んで臨むこと。	
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの定義・歴史から今日の社会福祉士の役割をまとめる。	
第 7 回	保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割 (1) 業務内容 (マイクロソーシャルワーク)	事前学習	テキスト pp. 87~96 の内容を読んで臨むこと。	
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの業務内容 (マイクロソーシャルワーク) についてまとめる。	
第 8 回	保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカー	事前学習	テキスト pp. 97~113 の内容を読んで臨むこと。	

平成 28 年度

	一の役割 (2) 業務内容 (マイクロ～メゾへのソーシャルワーク、 メゾ～マクロへのソーシャルワーク)	事後学習	医療ソーシャルワーカーの業務内容 (マイクロ～メ ゾへのソーシャルワーク、メゾ～マクロへのソ シャルワーク) についてまとめる。
第 9 回	保健医療サービスにおける専門職の基本姿勢	事前学習	テキスト pp. 127～145 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	患者の権利とインフォームドコンセントの意義と 専門職の倫理についてまとめる。
第 10 回	保健医療サービスの提供と経済的保障 (1) 診療報酬・高額療養制度	事前学習	テキスト pp. 149～164 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	診療報酬・高額療養制度について、診療報酬につ いてレポートにして提出をする。
第 11 回	保健医療サービスの提供と経済的保障 (2) 介護報酬	事前学習	テキスト pp. 165～175 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	診療報酬における医療連携・チーム医療他、介護 報酬についてまとめる。
第 12 回	保健医療サービスの連携の理論と実践 (専門職との 連携) (1) チームケア	事前学習	テキスト pp. 178～193 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	保健医療の連絡・連携・統合からチームケアにつ いてまとめる。
第 13 回	保健医療サービスの連携の理論と実践 (専門職との 連携) (2) 保健医療の専門職との連携の実際	事前学習	テキスト pp. 194～211 の内容を読んで臨むこと。
		事後学習	チームケア実現に向けて制度や連携機関・団体と の保健医療の専門職との連携の実際をまとめる。
第 14 回	保健医療サービスの連携の理論と実践 (地域の社会 資源との連携)	事前学習	テキスト第 7 章の内容と今までの授業で学んだ読 んだことを自分の考えをまとめて臨むこと。
		事後学習	地域ケアネットワークの実際の事例を振り返りか らまとめる。
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	これからの保健・医療・福祉をこれまでの学びか ら自分の考えをまとめて臨んでください。
		事後学習	これからの保健・医療・福祉での全体のまとめを する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保健科指導法Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	EDHE2348
2. 授業担当教員	菅原 健次			
4. 授業形態	◇課題提示→講義→演習・協議等→講義→振り返り など <例 1> 導入：講義から自らの課題の把握→展開 (演習)：自分の考えをまとめ る→グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議 →まとめ：協議と講義のまとめ <例 2>演習 (保健科指導法Ⅰで学習した指導法を生かした指導案の作成と模擬授業) 導入：講義 (健康教育の指導の在り方)→展開 (演習)：保健学習の指導案の作成→実際の学校の授業の参観→中学校 3 年の『病気の予防』の指導内容から課題を把握→指導案の作成→模擬授業→全体協議→まとめ：授業実践、授業の評価とまとめ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	(1) 保健学習に関する主要な概念を講義等で理解し、演習・協議等を通じて保健学習の概念を自ら描き、保健科教諭としての専門性を生かした授業力を高める。 (2) 保健科指導法Ⅰで学んだ内容を基礎として、保健科教育内容の構成や系統性、学習指導要領の内容の示し方、教材づくりなどについて学習する。 (3) 保健科指導法Ⅰで学んだ専門的知識や実践力を踏まえ、教育実習に必要な授業力を身につける (4) 保健管理と保健教育の違いはもとより、保健学習と保健指導の違いに応じた保健教育を学習する。			
8. 学習目標	(1) 生徒にとって楽しく分かる保健授業を目指した「教育内容、教材、指導方法」などの基礎と応用について、実践的・具体的に身に付けることができる。 (2) 文部科学省刊「中学校学習指導要領解説 保健体育編」と「高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編」の保健分野・保健科の内容等について理解したうえで、示された学習指導案形式に則った学習指導案を作成し模擬授業を行うことができる。 (3) 保健学習と保健指導の違いに応じた授業の展開を理解し説明することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	平素の講義と学習指導要領解説書並びに教科書を理解し、次の点を予習することにより、確かな力を身に付けることができる。 (1) 次時の学習内容について、教科書を活用して予習することをアサイメントとする。 (2) 健康教育の課題を見付け、その課題に対する対応策を適宜レポートとして提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 数見 隆生著『生きる力をはぐくむ保健の授業とからだの学習』農文協。 森 昭三・和唐 正勝編著『新版 保健の授業づくり入門』大修館書店。 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編 (新)』東山書房。 【参考書】 ※ プリント教材等は、随時の授業時に配布しそれを使用する。			
11. 成績評価の方法	授業力こそ学校における最も重要な力である。そのためには、学習指導要領解説書の内容を十分に理解するとともに、実際の授業から指導上の課題を把握し、その課題に応じた指導案を作成する。各領域における指導方法は、各時間に明確に指導する。教科書と学習内容を合わせれば、十分に望ましい指導案の作成も、具体的な指導も可能である。 ○学習成果を生かした模擬授業の確かさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合点の 45% ○自らの課題に応じた学習指導案の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合点の 25% ○授業態度 (課題に対する発言、質問、グループ活動の司会、記録など積極的参加度)・・・・総合点の 30%			
12. 受講生へのメッセージ	(1) 学びとは自らの課題を知ることである。その課題を自分の課題として捉えたところから学習は始まる。 (2) 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。やむを得ず欠席する場合は、書面を提出すること。 (3) 携帯電話の操作、及び私語は厳禁のこと。 (4) レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。 (5) 予習するとともに、関心を持って健康教育関係の新聞記事や月刊誌に目を通しておく。			
13. オフィスアワー	金曜日 15:00~18:00			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション ① 保健科指導法Ⅰを踏まえた学習が行われることを知る ② 理論と実践を重ねる授業ができる	事前学習	『保健科指導法Ⅱ』用の講義ノートを作成し、中学校『健康な生活と病気の予防』の単元における担当分野の候補を決めてくる。	
		事後学習	養護教諭の専門性を生かした保健科指導法とは如何なるものか考えをまとめる。	
第 2 回	保健の授業をめぐる今日的状況と課題 ① 教師主導型の授業からの転換を図る必要性が分かる ② 意欲的に学ぶ授業の必要性が分かる	事前学習	模擬授業担当の時間の自らの課題を明らかにしておく。	
		事後学習	生徒中心の授業の視点を明らかにした、模擬授業の視点を設定する。	
第 3 回	21 世紀に求められる新たな『健康知』について ① 健康の捉え方を再度確認できる ② 自ら健康を求めて実践できる児童・生徒の育成の仕方が分かる	事前学習	養護教諭の立場から、その課題である『健康』をどのように学習としていくかをまとめる。	
		事後学習	理解と実践を如何に結びつけるかについて、その考えを本時に添ってまとめる。	
第 4 回	わが国の保健教育のあゆみと保健の授業がめざすもの ① これまでの保健教育の歴史をふり返ることができる ② 科学的な保健学習の重要性が理解できる	事前学習	教科書『保健の授業を巡る今日的状況と課題』を熟読し、まとめる。	
		事後学習	わが国の保健教育の歩みについて、授業をふり振り返りながらまとめる。	
第 5 回	保健の授業で『生きる力』を育てることについて ① 主体となれる個の健康観について理解できる ② 自らの身に掛かる主体的学習の重要性が分かる	事前学習	“保健の授業で『生きる力』『自ら学ぶ力』を育てるといふこと pp. 32~38 まで読んでくる。	
		事後学習	保健学習の中心的な動機付けと成ポイントを本時に即して記述する。	

第 6 回	養護教諭の築いてきた『からだの学習』について I ① 保健科指導法の推進の効果が分かる ② 養護教諭の実践の歴史が分かる	事前学習	本時から養護教諭の視点に立った保健科指導法の究明を行う。なぜ体の教師かまとめる。
		事後学習	養護教諭の実践の歴史が誕生したきっかけをまとめる。
第 7 回	養護教諭の築いてきた『からだの学習』について II ① 児童・生徒の健康への取り組みが理解できる ② 養護教諭の実践の価値が分かる	事前学習	pp.190～199 を読み、先人の努力についてまとめる。
		事後学習	養護教諭の実践の価値について、その実績に基づきまとめる。
第 8 回	養護教諭の築いてきた『からだの学習』について III ① 学校における健康教育の組織的取り組みが分かる ② 組織を生かした実践の方法が分かる	事前学習	pp.200～220 を読んで、健康教育活性化の手順を知る。
		事後学習	保健室経営を充実させる方策を、校内研究の立場からまとめる。
第 9 回	実際の保健学習について（小学校の授業 VTR による） ① 実際の授業例を通して学習の展開の仕方が分かる ② 実際の授業につながる指導案が立てられる	事前学習	模擬授業の担当時間の研究を進め、授業内容を深める。①
		事後学習	身にかかる視点から動機付けを行った授業であったか確かめる。
第 10 回	実際の保健学習について（授業に基づく研究協議） ① 実際の授業を基に、よい授業の条件を理解できる ② よい授業のポイントが分かる	事前学習	授業分析の内容を思い出し、中心となる観点を明らかにしておく。
		事後学習	本時を“そうか”“そうだ”“そうしよう”の学習展開でまとめる。
第 11 回	課題学習による授業の進め方について ① 課題学習の方法を理解できる ② 生徒の主体性を生かした指導法の一つを理解できる	事前学習	模擬授業の担当時間の研究を進め、授業内容を深める。②
		事後学習	春期に行った自分の模擬授業を、学びの主体性という観点から分析する。
第 12 回	デイバートによる学習について I ① デイバートの仕方が分かり、その準備ができる ② 保健科の指導法の一つが実践できる	事前学習	対立点が明確なデイバートの課題をもって、授業に臨めるようにする。
		事後学習	持論の正当性を堅持すると同時に、対論の弱点をおさえ、記録しておく。
第 13 回	デイバートによる学習について II ① デイバートを行い、その評価ができる ② デイバートのよさが分かった活用ができる	事前学習	模擬授業の担当時間の研究を進め、授業内容を深める。③
		事後学習	デイバートの結果について、客観的な評価を行い、次回に備える。
第 14 回	ライフスキルに基づく学習について ① 保健科の指導法の一つが理解できる ② 実践に即役立つ指導の仕方を知っている	事前学習	セルフエスティームについて調べ授業に臨めるようにする。
		事後学習	ストレスマネジメントについて明確化し、その実践の方法をまとめる。
第 15 回	養護教諭による授業の参観と研究協議会の実際 ① 実際の授業を見学し、授業の雰囲気をおさえる ② 主体的に取り組む分かる授業ができる	事前学習	模擬授業の展開に養護教諭の専門性を加えるとすればそれはどこかを明確にしておく。①
		事後学習	VTR による授業実践から、授業分析を行い自分ならどうしたかを記述する。
第 16 回	模擬授業に向けた教材研究 1 「中学校学習指導要領解説保健体育編」と教科書を基にしながら ① 学習指導要領の趣旨を理解している ② 学習指導案の骨子を理解した指導案を作成できる	事前学習	保健科の 4 単元を概観し、主としたねらいを明確におさえる。
		事後学習	特に、“健康と環境”の単元が中学の独自性である理由を明確にする。
第 17 回	模擬授業に向けた教材研究 2 年間指導計画における位置づけと授業時数について ① 3 年間の保健学習の単元が理解できている ② 年間指導計画の立て方が分かる	事前学習	模擬授業の展開に養護教諭の専門性を加えるとすればそれはどこかを明確にしておく。②
		事後学習	ワークシートを解説書を基にして完成させ、より理解を図る。
第 18 回	模擬授業に向けた教材研究 3 生徒実態把握のためのアンケート項目の作成 ① 生徒の思いや願いを考慮した学習指導案の必要性が分かる ② 実態に即した指導案が立てられる	事前学習	自らの模擬授業にかかわる実態調査項目を作成しておく。
		事後学習	実態を分析し、模擬授業の進め方を生徒に沿った学習とする。
第 19 回	模擬授業に向けた教材研究 4 指導目標の設定と評価規準の設定 ① 指導の目標とその評価が作成できる ② 指導と評価の一体化が図れる	事前学習	模擬授業の展開に養護教諭の専門性を加えるとすればそれはどこかを明確にしておく。③
		事後学習	保健科における授業評価の視点を明らかにし、自らの指導案を見直す。
第 20 回	模擬授業に向けた教材研究 5 指導方針の決定と指導計画と評価計画の作成 ① 学習指導とその評価計画が立てられる ② 計画に基づいた指導と評価ができる	事前学習	モデル案を参考にしつつ、単元計画の流れの充実を図る。
		事後学習	指導と評価が一体のものである理由をまとめ、自分小模擬授業の充実を図る。
第 21 回	模擬授業に向けた教材研究 6 本時の目標と展開の決定 ① 本時の筋を通した展開が計画できる ② 授業の目標に応じた展開が設計できるようになる	事前学習	模擬授業の指導案を作成する。重点とする課題への対応策を明確にして作成する。①
		事後学習	目標に準拠した評価ができるように、具体の評価規準を作成しておく。
第 22 回	模擬授業に向けた教材研究 7 板書計画の作成と授業資料の準備 ① 学習の流れが一目で分かる板書ができる ② 板書計画の作成の仕方が分かる	事前学習	板書計画の意義を明確にし、自分の模擬授業に備える。
		事後学習	学習した板書の仕方をもとに、自分の模擬授業の板書計画を作成する。
第 23 回	模擬授業に向けた教材研究 8 前時に続き授業資料の準備とテスト問題の作成	事前学習	模擬授業の指導案を作成する。重点とする課題への対応策を明確にして作成する。②

	① 授業の展開を支える資料の作成ができる ② 学習を支える資料が準備できるようになる	事後学習	学習内容にそったテスト問題を作成できたか、本時を再度見直す。
第 24 回	保健指導の授業の参観（保健学習との違いを理解する） ① 保健指導の役割が分かる ② 保健学習との違いを意識した授業ができる	事前学習	保健指導と保健学習の違いを明確にして授業に臨めるようにする。
		事後学習	特別活動の学級活動にある共通事項（2）を確認して、授業のまとめをする。
第 25 回	模擬授業の実践と授業研究会 I ① 20 分間の模擬授業ができる。授業の評価ができる ② 教育実習などの授業に生かせる	事前学習	授業分析の方法を春期の経験を踏まえて思い出し、授業者によって明確にして望む。
		事後学習	2～3名の模擬授業者の授業のよさと課題を明確にし、本人に伝える。①
第 26 回	模擬授業の実践と授業研究会 II ① 20 分間の模擬授業ができる。授業の評価ができる ② 教育実習などの授業に生かせる	事前学習	授業後の自己評価を聞きながら、指摘すべき点を明確にした助言を行えるようにする。
		事後学習	2～3名の模擬授業者の授業のよさと課題を明確にし、本人に伝える。②
第 27 回	模擬授業の実践と授業研究会 III ① 20 分間の模擬授業ができる。授業の評価ができる ② 教育実習などの授業に生かせる	事前学習	授業分析の方法を春期の経験を踏まえて思い出し、授業者によって明確にして望む。
		事後学習	2～3名の模擬授業者の授業のよさと課題を明確にし、本人に伝える。③
第 28 回	授業の準備 ティームティーチングの役割分担と資料作り ① 授業の展開を理解でき、自分の役割を身に付ける 授業の実践に役立つ ② 授業の諸準備の方法とその内容が分かり、教育実習には即役立つ。	事前学習	学習指導案に沿って 6 年生児童に分かる授業を行うための文字カードや模型を作成したり、板書計画などを確認しておく。
		事後学習	グループごとに準備内容を確認し、実際の授業をするにあたって、必要内容を復唱し合う。
第 29 回	授業を行う。3 組に分かれ、保健科指導法 II で学んだ力を生かし、6 年生児童を対象に単元『病気の予防』で授業を行う。 ② 生活習慣病の予防法が『わかり』実践できる心を育てる ②どこまで指導力が伸びたか把握することができる	事前学習	台詞でつくった指導案を授業イメージに即しながら自分一人の模擬授業を行う。
		事後学習	本時の学習を通して、養護教諭として、T1、T2 の場合の授業評価を行う。
第 30 回	授業評価を行い、児童の実態に即し、しかも、わかり実践できる心を育てられたか討議し合い、3 年生以降の自分の努力目標をつくる。 ① 自分の課題を明確にできる。 ② 教育実習など実際の授業につながり、生かせる。	事前学習	授業後の自己評価を聞きながら、指摘すべき点を明確にした助言を行えるようにする。
		事後学習	保健科指導法 I と II を学習して生まれた、模擬授業の指導案を見直し、教育実習で使えるように、台詞で綴る。

1. 科目名 (単位数)	ボランティア論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1350 GELA1330
2. 授業担当教員	上木 文夫		
4. 授業形態	講義 (ディスカッションを含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに見直され、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。 2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。 3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。 4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	休校期間中等に各学生の興味・関心に応じて、1 回以上のボランティア活動 (施設の一日行事ボランティア等) を行い、その内容と成果について授業内で発表するとともに、レポート (報告書) を提出する。 ※レポートは、A4 で3 枚程度とする。 ※提出は、冬季休校期間明けの最初の授業時とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 指定しない (プリント資料を毎回配布する)。 【参考書】 三本松政之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣アルマ、2007 年 巡静一・早瀬昇編著 大阪ボランティア協会監修『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規、1997 年		
11. 成績評価の方法	レポートの評価 25 % 授業への積極的参加・貢献度 50 % 期末試験 25 % ※上記の3 項目の合計100%を100点として評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 2. 授業中は携帯電話や PHS 等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 3. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループ・ディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、主体的に取り組むこと。 4. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。 5. 学期内にボランティア活動を計画的かつ積極的に行うこと。施設ボランティアだけがボランティアではない。エコキャップや使用済み切手の収集と提供などもボランティアである。 		
13. オフィスアワー	原則としては授業の前後。但し、時間を要する場合は双方で相談し、日時や場所を決めましょう。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業ガイダンス (教員の自己紹介、受講生の自己紹介—ボランティア体験や関心のあるボランティアについて、授業の進め方の説明など)	事前学習	ボランティアについて自分が持っているイメージをまとめる。
		事後学習	これからやりたいボランティア活動について考え、まとめる。
第2回	ボランティア活動とは何か	事前学習	自分なりに、ボランティア活動とは何かを考え、まとめる。
		事後学習	学習した内容を整理し、ボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第3回	ボランティア活動の歴史と発展	事前学習	ボランティアの起源や歴史、発展について、調べておく。
		事後学習	ボランティア活動の歴史の変遷について、授業で学んだ要点をまとめる。
第4回	ボランティア活動を始めるにあたって	事前学習	ボランティア活動を始めるにあたって留意すべき点について、自分で考え、まとめる。
		事後学習	ボランティア活動を始めるにあたって留意すべき点についてまとめる。
第5回	現場の職員としてボランティアを受け入れる意義	事前学習	ボランティアを受け入れる立場に立って、ボランティア活動を考えてみる。
		事後学習	ボランティアを受け入れる際の実践現場のメリットやデメリットについてまとめる。
第6回	災害とボランティア (「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」における災害ボランティア活動) の実践から学ぶ	事前学習	阪神・淡路大震災、東日本大震災について調べておく。
		事後学習	災害ボランティアについて、学んだ点についてまとめる。
第7回	地域福祉とボランティア	事前学習	自分の生活している地域において、自分ができるボランティア活動について考える。
		事後学習	地域福祉を推進していく上で、ボランティアが果たす役割や意義についてまとめる。

第 8 回	高齢者福祉とボランティア	事前学習	現在の日本の高齢者の状況について調べておく。
		事後学習	高齢者に関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第 9 回	障がい者福祉とボランティア	事前学習	ノーマライゼーションについて調べてまとめる。
		事後学習	障がい者に関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第 10 回	子ども家庭福祉とボランティア	事前学習	わが国の子どもと家庭を取り巻く課題について挙げる。
		事後学習	子どもに関わるボランティア活動について学んだ点をまとめる。
第 11 回	国際問題、及び環境問題とボランティア	事前学習	日本や世界を見渡して、どのような国際問題や環境問題があるか挙げておく。
		事後学習	環境に関わるボランティア活動について学んだ点についてまとめる。
第 12 回	ボランティア活動についての成果発表 1	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第 13 回	ボランティア活動についての成果発表 2	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第 14 回	ボランティア活動についての成果発表 3	事前学習	成果発表の準備をする。
		事後学習	成果発表の振り返りと、他者のボランティア活動から学んだ点をまとめる。
第 15 回	ボランティアコーディネーターの機能と役割	事前学習	ボランティアコーディネートについて自分なりに調べておく。
		事後学習	期末試験の準義
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	マーケティング論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2133						
2. 授業担当教員	城田 吉孝									
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション形式の授業を行います		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	本科目履修後に、「経営戦略論」および「経営組織論」を引き続き履修することが望ましい。									
7. 講義概要	企業は自社の標的市場を確定し、市場需要の創造・開拓・拡大を図るために製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策を展開していることを学ぶ。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティング戦略の体系を理解する 2. マーケティングリサーチの役割を理解する 3. 4P (product, price, promotion, place) について理解する 4. 企業の社会的責任について理解する 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> (1) マクドナルドのマーケティング戦略について考える。 (2) 自社の売り上げの一部を寄付している会社、地域貢献をしている会社の活動内容を調べてみよう。 (3) 身近な社会福祉法人の特徴について調べてみよう。 									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 城田吉孝著『ポイントマーケティング情報論』中部日本教育文化会、2015。</p> <p>【参考書】 宮澤永光・城田吉孝・江尻行男 編『現代マーケティングその基礎と展開』ナカニシヤ出版、2009。 西田安慶・城田吉孝 編『マーケティング戦略論』学文社、2011。 上田隆徳・青木幸弘 著『マーケティングを学ぶ (上) 売れる仕組み』中央経済社、2008。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業中の態度・意欲</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>50%</td> </tr> </table>				授業中の態度・意欲	20%	課題レポート	30%	期末試験	50%
授業中の態度・意欲	20%									
課題レポート	30%									
期末試験	50%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は、下記のことを守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業には欠席、遅刻、早退はしないこと (欠席、遅刻、早退の場合は、その理由を書面にて提出のこと)。 ②授業中理解できなかったことは、そのまま放っておかず質問すること。 ③授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチは切っておくこと。 ④授業中は緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 ⑤課題の提出期限を厳守すること。 									
13. オフィスアワー	第1回の授業時に伝える。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容		学習課題							
第1回	第1章	マーケティングの概念と役割	事前学習	p. 5 の企業経営におけるマーケティング役割についてまとめること。						
			事後学習	マーケティング重視の背景と適用の拡大まとめること。						
第2回	第2章	マーケティング戦略: マネジリアルマーケティングの成立経過と展開	事前学習	p. 13 のマネジリアルマーケティングの成立経過について読みまとめること。						
			事後学習	マーケティング戦略の展開についてまとめること。						
第3回	第2章	マーケティング戦略: マーケティングミックス	事前学習	pp. 26~28 を読み製品、場所、プロモーション、価格についてまとめること。						
			事後学習	競争対応を読みまとめること。						
第4回	第3章	製品情報	事前学習	p. 38 の第1節製品の意義と分類についてまとめること。						
			事後学習	p. 39 の第3節サービスマーケティングについてまとめること。						
第5回	第4章	ブランド情報: 第1節ブランドの定義、第2節ブランド商標、製品開発とブランド構築	事前学習	第1節ブランドの定義と役割についてまとめること。						
			事後学習	第2節製品開発とブランド構築の関係をまとめること。						
第6回	第4章	ブランド情報: ブランドエクイティ	事前学習	p. 53 のブランドエクイティの概要をまとめること。						
			事後学習	ブランド戦略についてまとめること。						
第7回	第5章	価格情報	事前学習	p. 72 の価格決定の基本的な方法についてまとめること。						
			事後学習	価格政策についてまとめること。						
第8回	第6章	チャネル情報	事前学習	p. 85 のチャネル役割についてまとめること。						
			事後学習	チャネル政策についてまとめること。						
第9回	第7章	プロモーション情報	事前学習	p. 93 の広告・パブリシティ・広報の意味についてまとめること。						
			事後学習	広告の機能と種類についてまとめること。						
第10回	第8章	マーケティング情報	事前学習	p. 111 を読みマーケティング情報システムについてまとめること。						
			事後学習	マーケティングリサーチの研究系譜について						

			てまとめること。
第 1 1 回	第 9 章 マーケティングリサーチの役割	事前学習	p. 127 を読みマーケティングリサーチの意味をまとめること。
		事後学習	マーケティングリサーチの役割についてまとめること。
第 1 2 回	第 1 0 章 マーケティングリサーチの範囲 第 1 1 章 マーケティングリサーチの方法	事前学習	p. 130 を読みマーケティングリサーチの範囲についてまとめること。
		事後学習	p. 139 を読みマーケティングリサーチの方法をまとめること。
第 1 3 回	第 1 2 章 調査票の設計 第 1 3 章 標本調査	事前学習	p. 149 を読み質問文の注意点をまとめること。
		事後学習	標本数の決め方をまとめること。
第 1 4 回	第 1 4 章 データ分析と調査結果の報告、 マーケティング課題と展望	事前学習	p. 162 のデータ分析の要点をまとめること。
		事後学習	調査結果の報告書の注意点をまとめること。
第 1 5 回	第 1 5 章 コーズリレーテッドマーケティング	事前学習	p. 167 を読みコーズリレーテッドマーケティングの課題をまとめること。
		事後学習	コーズリレーテッドマーケティングについてまとめること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	マルチメディアと学習環境 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3335
2. 授業担当教員	竹内 俊彦			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	マルチメディアの教育利用について、教科書に基づいて過去の実例から学ぶ。また、コンピュータを利用したデジタル教材作成の演習を通して、マルチメディアと学習環境について理解を深める。			
8. 学習目標	情報化社会における学習環境について学び、マルチメディアに関わる最新技術や学習システムなどについて深く理解し、活用することを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の前半に、教材・ビデオを用いて概念の説明を行い、自分の考えをまとめてもらう。その後、ディスカッションをする。また最終課題として、各自、IT機器を用いた授業実践を行う。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 授業内で必要資料を配布する。 【参考書】 日本教育法学会『デジタルメディア時代の教育方法』図書文化社、2011年10月10日、2000円+税。 赤堀侃司『タブレットは紙に勝てるのか』ジャムハウス、2014年7月21日、1650円+税。 石戸奈々子『デジタル教育宣言』角川 EPUB 選書、2014年12月10日、1400円。			
11. 成績評価の方法	授業内ディスカッションへの積極的参加度 50% 反転授業の実施状況 20% 最終課題と発表 30%			
12. 受講生へのメッセージ	理解すべき基本事項から最新の話題までを扱います。受け身の姿勢ではなく、熱意ある積極的な履修者のディスカッション参加を期待します。			
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示しますが、時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照してください。なおオフィスアワー以外でも時間があえば面談しますが、事前にメールで連絡をすることが望ましいです。totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション・知識か思考力か	事前学習	マルチメディアと学習環境というテーマについて何か自分の考えをまとめておくこと。	
		事後学習	授業で出てきたキーワードのうち、興味を持ったことについて調べる。	
第2回	昔の授業方式・臨時教育審議会	事前学習	明治時代の教育方法や、昭和の教育方法とについて調べる	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第3回	CAI 教育	事前学習	CAI 教育について調べる。	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第4回	デジタル教科書	事前学習	デジタル教科書の教育利用について調べる。	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第5回	アクティブ・ラーニング	事前学習	アクティブ・ラーニングについて調べる。	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第6回	ビッグデータと教育	事前学習	ビックデータの教育利用について調べる。	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第7回	サマーキャンプ	事前学習	アメリカのサマーキャンプで行われる教育について調べる。。	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第8回	反転授業の説明と準備	事前学習	反転授業について調べる。	
		事後学習	教員から与えられた反転授業用の教材を視聴する。	
第9回	反転授業の実施	事前学習	反転授業の資料を作成し、授業準備をする。	
		事後学習	反転授業中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第10回	ゲーミフィケーション	事前学習	ゲーミフィケーションについて調べる。	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第11回	インフォーマル・ラーニング	事前学習	インフォーマル・ラーニングについて調べる。	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートにまとめる。	
第12回	協調学習	事前学習	協調学習について調べる。	
		事後学習	ディスカッション中に、疑問点や学んだことについてノートに	

			まとめる。
第 13 回	情報機器を使った授業と演習①	事前学習	実際の授業の中でどのように情報機器を活用すれば良いのかを考える。
		事後学習	情報機器を使った模擬授業の準備を進める
第 14 回	情報機器を使った授業と演習②	事前学習	実際の授業の中でどのように情報機器を活用すれば良いのかを考える。
		事後学習	情報機器を使った模擬授業の準備を進める
第 15 回	情報機器を使った模擬授業	事前学習	模擬授業のリハーサルをする。
		事後学習	模擬授業後のディスカッション内容から自分の授業を反省する。

1. 科目名 (単位数)	マルチメディア表現Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	EDIT2333
2. 授業担当教員	竹内 俊彦		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	マルチメディア表現Ⅰでは、音声・楽音及び2次元静止画像について学んだが、それらの基礎技術を基にして、本講義では、動画像及び3次元コンピュータグラフィックス(CG)について学ぶ。先ず動画像に関しては、2次元動画像の表現法、圧縮法、及び編集法について学ぶ。つづいて3次元CGに関しては、3次元物体の表現法及び、3次元CG作成の原理について学ぶ。そして、マルチメディア表現Ⅰ、Ⅱで学んできた個別の要素技術を総動員して、具体的に3次元CGを作成する。		
8. 学習目標	1. 2次元動画像の表現法、圧縮法、及び編集法について学ぶ。 2. 3次元物体の表現法及び、3次元CG作成の原理について学ぶ。 3. マルチメディア表現Ⅰ、Ⅱで学んできた個別の要素技術を総動員して3次元CGを作成する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	課題1 自分の作成したいショート・ムービーの絵コンテを制作する 課題2 ショート・ムービーを制作する		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 「SCCライブラリーズ」制作グループ『お気に入り VIDEO をプロデュース Premiere Elements 10 Windows 版』 SCC Books 356、2011。 【参考 URL】 超初心者のための映画制作講座の「絵コンテの描き方」 http://eigalesson.com/econte/index.html		
11. 成績評価の方法	[1] 授業への積極的参加度 50% [2] 課題1 課題2の絵コンテ 10% [3] 課題2 最終作品 30% [4] 発表会での評価 10%		
12. 受講生へのメッセージ	映画製作には、とにかく時間がかかります。あらかじめ自分の作りたい映画のアイデアを練り、必要な素材を授業の中盤までに集めておいてください。また受講生間で、お互いの映画の登場人物となる可能性があります。		
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示する。また時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照すること。なおオフィスアワー以外でも時間があえば面談するが、事前にメールで連絡をすることが望ましい。 totakeuchi@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション・映画撮影の流れ説明、絵コンテの描き方を学ぶ	事前学習	絵コンテの参考サイトを一読する
		事後学習	次々週、撮影する絵コンテを作成する
第2回	撮影機材の扱い方を学び、撮影のテクニックについて学ぶ	事前学習	絵コンテを完成させる
		事後学習	撮影テクニックから、絵コンテを修正する
第3回	30秒ほどのショート・ムービーを撮影する 撮影した動画をデータとして取り込む	事前学習	ショート・ムービーの絵コンテを作る
		事後学習	取り込んだデータを持ち帰り、加工する
第4回	Adobe Premiere で動画編集を学ぶ(1) 撮影動画を取り込む方法・画面の説明と基本的な編集	事前学習	「Premiere」という動画編集ソフトについてネットで調べる
		事後学習	基本的な編集方法について復習する
第5回	Adobe Premiere で動画編集を学ぶ(2) 素材の入手方法と規格の違い	事前学習	動画の規格の違いについて調べる
		事後学習	授業以外の素材サイトを自分でも調べる
第6回	Adobe Premiere で動画編集を学ぶ(3) テロップの入れ方等	事前学習	テロップを効果的に利用した動画を調べる
		事後学習	タイトル、字幕などを入れてみる
第7回	Adobe Premiere で動画編集を学ぶ(4) さまざまなエフェクト前半	事前学習	好きな動画に、どんな効果があるかリストする
		事後学習	スローモーション、白黒化などを自分で試す
第8回	Adobe Premiere で動画編集を学ぶ(5) さまざまなエフェクト後半	事前学習	好きな動画に、どんな効果があるかリストする
		事後学習	画面分割、逆再生などを試す
第9回	Adobe Premiere で動画編集を学ぶ(6) 音声・音楽の効果的な使い方と作品書き出し	事前学習	音声素材のサイトを調べる
		事後学習	音声と静止画で簡単なカラオケ動画を作る
第10回	自分の制作したい映画のアイデア出し	事前学習	自分の作りたい映画のアイデアを出す
		事後学習	絵コンテを描く・撮影計画を練る
第11回	アイデアの中間発表・撮影スケジュール作成	事前学習	撮影する動画のアイデアの発表準備をする
		事後学習	講評をもとに、撮影計画を練る
第12回	映画製作(1) 自分の映画を制作・個別アドバイス	事前学習	絵コンテを作成する
		事後学習	撮影を開始する or 素材を加工する
第13回	映画製作(2) 自分の映画を制作・個別アドバイス	事前学習	自宅で撮影する or 素材を加工する
		事後学習	映画製作の作業をする
第14回	映画製作(3) 自分の映画を制作・個別アドバイス	事前学習	自宅で撮影する or 素材を加工する
		事後学習	発表用に映画を完成させる
第15回	作品発表会・講義のまとめ	事前学習	発表会の前に、最終確認をする
		事後学習	講評をもとに作品を修正する

1. 科目名 (単位数)	メディア社会論 (2 単位)	3. 科目番号	EDIT2306
2. 授業担当教員	舘 秀典	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義と演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	近年、若者から高齢者までの多くの人が、スマートフォンや携帯電話などのモバイル機器を使って、電話やインターネットによる情報収集・検索などを行っている。それは、コンピュータやネットワークの技術開発やインフラ整備により、我々の生活スタイルが大きく変わってきていることを示す一例である。本講義では、メディアと社会との関わりについて、具体的な社会現象や研究事例を通して考えていく。		
8. 学習目標	メディアが社会にもたらした影響やメディア技術について理解し、日常生活や今日の情報社会に応用できる知識を身につけることを目標とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回において、レポート、グループ制作を課題として与える。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】使用しない (適宜プリントを配布予定)。 【参考書】講義の中で適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	中間報告 (20 点), 最終発表 (60 点), ミニレポート (20 点) の累積点数により評価する。ただし、全ての課題が合格点 (60%) に達していることを単位取得条件とする。		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・動画等を利用した教材の作成を行う。 ・制作経験の有無は不問。 ・積極的な参加姿勢のある者のみ受講可。 ・授業時間外での課題作業が発生する場合あり。 ・授業で制作する作品は公開が前提となる。 		
13. オフィスアワー	授業中に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	メディアと社会	事前学習	メディアについて学習する。
		事後学習	メディアと社会の関係について復習する。
第 2 回	メディアと情報システム	事前学習	メディアを構成する情報システムを学習する。
		事後学習	メディア情報システムの役割を復習する。
第 3 回	企画の相談・企画会議	事前学習	様々なメディア教材をみてる。
		事後学習	メディア教材を作成するにはどのような手順が必要か検討する。
第 4 回	企画の相談・企画会議	事前学習	自分たちで作成する教材を案を考える。
		事後学習	決定した案に対し妥当性を検討する。
第 5 回	コンテ作成・中間報告準備	事前学習	報告会に必要な資料を準備する。
		事後学習	作成した資料を推敲する。
第 6 回	コンテ作成・中間報告準備	事前学習	報告会に必要な資料を準備する。
		事後学習	作成した資料を推敲する。
第 7 回	中間報告会	事前学習	発表資料を準備する。
		事後学習	受け取った意見をもとに推敲する。
第 8 回	撮影・制作	事前学習	撮影・編集に必要な資料を準備する。
		事後学習	作業を振り返り次回必要なものを検討する。
第 9 回	撮影・制作	事前学習	撮影・編集に必要な資料を準備する。
		事後学習	適切に進められているか検討しスケジュールの調整を行う。
第 10 回	撮影・制作	事前学習	撮影・編集に必要な資料を準備する。
		事後学習	適切に進められているか再度検討しスケジュールの再調整を行う。
第 11 回	撮影・制作	事前学習	撮影・編集に必要な資料を準備する。
		事後学習	成果発表に向けて資料を準備する。
第 12 回	総合演習 (成果発表)	事前学習	成果発表に向けて最終確認を行う。
		事後学習	受け取った意見をもとに教材を再検討する。
第 13 回	総合演習 (成果発表)	事前学習	成果発表に向けて最終確認を行う。
		事後学習	受け取った意見をもとに教材を再検討する。
第 14 回	総合演習 (成果発表)	事前学習	成果発表に向けて最終確認を行う。
		事後学習	受け取った意見をもとに教材を再検討する。
第 15 回	講義の総括	事前学習	報告書とともに最終成果物を作成する。
		事後学習	全体を振り返りメディアと社会について自らの意見をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	免疫学概論 (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2318
2. 授業担当教員	栗原 久			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>免疫系は、いろいろな細胞がさまざまな手段を駆使して働いている生体防御のための複雑なシステムである。微生物や寄生虫などの感染に対して、抵抗力と防御力を与えるのが免疫系である。感染性の病原体に対する免疫系の対応は、生存のために必須のものであり、生得的なシステムと、後天的に獲得されるものがある。</p> <p>本授業では、免疫系の基本的システム、免疫系と健康、免疫異常と病気について学び、生体防御システムの知識を深める。</p>			
8. 学習目標	<p>以下について学び、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫とは何かについて学ぶ。 2. 免疫系がどのようなにはたらくのか学ぶ。 3. 免疫系の反応について学ぶ。 4. 免疫系の異常と疾病について学ぶ。 5. 免疫系に影響を及ぼす因子について学ぶ。 6. 正常な免疫系を維持する要素について学ぶ。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫関連の最新情報 (疾病、治療法など) を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業の開始前に配布) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 齋藤紀先著『休み時間の免疫学』講談社。 『東京福祉大学編教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴェ書房。</p> <p>【参考書】 多田富雄 (監訳)『免疫学への招待』南江堂。</p>			
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション (免疫とは何か)	事前学習	「免疫学概論」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。	
		事後学習	人はなぜ、感染症になりにくいのか、免疫の観点から考えてみる。	
第 2 回	免疫細胞群の種類と機能の概略	事前学習	pp.6-14: 骨髄における免疫細胞の形成・分化を理解する。	
		事後学習	骨髄球系、リンパ球系の細胞分化についてまとめる。	
第 3 回	自然免疫系と獲得免疫	事前学習	pp.18-21: 抗体とは何かを理解する。	
		事後学習	自然免疫 (非特異的な防御反応) と獲得免疫 (特異的な免疫反応) の違いを、抗体産生からまとめる。	
第 4 回	獲得免疫 ①液性免疫の仕組み	事前学習	pp.22-37: B 細胞による抗体形成の機序を理解する。	
		事後学習	抗体の種類とそれらの機能についてまとめる。	
第 5 回	獲得免疫 ②細胞性免疫	事前学習	pp.86-93: 骨髄性細胞の種類について理解する。	
		事後学習	細胞性免疫の機能の特徴について、液性免疫との相互作用を考慮してまとめる。	
第 6 回	獲得免疫 ③T 細胞	事前学習	pp.100-113: 胸腺の役割について理解する。	
		事後学習	T 細胞の分化と、それぞれの機能についてまとめる。	
第 7 回	ワクチン	事前学習	pp.60-72: 代表的なワクチン接種を調べる。	
		事後学習	ワクチン接種と抗体産生、その有効性について、細菌とウイルスそれぞれについて考察する。	
第 8 回	ウイルスと免疫応答	事前学習	pp.39-59: 細菌とウイルスの相違点を理解する。	
		事後学習	ウイルス感染と免疫による防御機構をまとめる。	
第 9 回	細菌感染と免疫応答	事前学習	pp.40-41: 細菌とウイルスの体内における増殖場所を理解する。	
		事後学習	細菌感染、特に結核菌感染と免疫による防御機構をまとめる。	
第 10 回	I 型アレルギー反応・アナフィラキシー	事前学習	pp.126-141: I 型アレルギー反応の症状を理解する。	
		事後学習	アレルギーの定義、アナフィラキシーの発現機序をまとめる。	
第 11 回	II 型アレルギー反応	事前学習	pp.142-155: 血液型 (ABO, Rh,) について理解する。	
		事後学習	ABO および Rh 型血液不適合についてまとめる。	
第 12 回	先天性免疫不全	事前学習	pp.148-163: HLA 抗原、血清病、膠原病、拒絶反応について理解する。	
		事後学習	免疫機能と免疫抑制薬の作用機序をまとめる。	

第 13 回	後天性免疫不全	事前学習	pp.160-165: 免疫不全の発現機序を理解する。
		事後学習	各種の先天的免疫不全に伴う疾患について、発現の時系列変化をまとめる。
第 14 回	ガン・敗血症と免疫	事前学習	pp.168-175: ガン細胞に対する免疫機構について理解する。
		事後学習	ガン細胞増殖の促進・抑制因子、および免疫機構の過剰状態による各種症状をまとめる。
第 15 回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題についてまとめる。
		事後学習	課題について口頭発表し、学生間でディスカッションした内容を含めたレポートを作成し、提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	薬理学概説 (薬物乱用防止を含む) (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2319
2. 授業担当教員	根岸 祥子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物 (覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど) の特徴、および薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。 			
8. 学習目標	<p>以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の有効性と毒性 (副作用) の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物関連の最新情報 (効果、副作用、新薬情報など) を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業の開始前に配布) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 (第 13 版) 医学書院</p> <p>【参考書】必要に応じて授業の中で通知します。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、発表とディスカッション 10%、期末試験 20%、授業中における積極的発言 10%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 口頭発表の方法を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 			
13. オフィスアワー	初回授業で通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション 薬の効果発現 (用量-効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体)	事前学習	「薬理学概説」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。 pp.1~24 を読んでおく。	
		事後学習	薬物の使用目的、効果発現の基本原則をまとめる。	
第 2 回	感染症と化学療法薬 (抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬)	事前学習	pp.67~93 を読み、病原体の種類を理解する。	
		事後学習	抗菌薬、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。	
第 3 回	消毒薬	事前学習	pp. 286~291 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。	
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬についてまとめる。	
第 4 回	呼吸器系と薬 (気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬)	事前学習	pp. 224~228 を読み、喘息の原因と症状を理解する。	
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。	
第 5 回	鎮痛薬 (解熱鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬)	事前学習	pp. 156~185 を読み、痛みの発現機序について理解する。	
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる。	
第 6 回	炎症とアレルギー治療薬 (ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬)	事前学習	pp. 118~133 を読み、アレルギー反応の発現機序を理解する。	
		事後学習	アレルギー反応の予防・緩和薬の作用機序、副作用をまとめる。	
第 7 回	保健室にある薬 (薬理作用と使用上の	事前学習	第 1 回~第 6 回の授業内容を復習する。	

	注意点)	事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。まとめをレポート提出する。
第 8 回	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物	事前学習	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考えを含めてまとめたレポートを提出する。
第 9 回	アルコール・飲酒	事前学習	事前配布資料を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第 10 回	ニコチン・喫煙	事前学習	事前配布資料を読み、タバコ中やタバコ煙中の成分を把握しておく
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第 11 回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する。
第 12 回	カフェイン・喫茶	事前学習	配布資料を読んで、茶・コーヒー中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫茶の功罪、特に幼児や妊婦における影響についてまとめる。
第 13 回	薬物中毒と解毒処置	事前学習	pp. 266～276 を読んで、中毒とはどういうことか理解する。
		事後学習	中毒に対する緊急処置（治療薬を含む）についてまとめる。
第 14 回	漢方薬・サプリメント	事前学習	pp. 278～283 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	漢方薬を含めて、サプリメントの有効性の真偽を考察する。
第 15 回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題について考察し、まとめる。
		事後学習	課題について発表し、ディスカッションした内容についてまとめ、レポート提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	養護実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	EDHE3377
2. 授業担当教員	石垣 久美子		
4. 授業形態	講義や演習 (保健室経営計画作成等)、事例検討等について、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履修者同士の実践的な学びあいを重視します。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	養護実習は、学校での実務を体験することを習得するものである。その養護実習の目的は、これまで学んできたことを生かすこと、養護教諭が行う実務の教育活動の中で位置づいていることを知ること、そして、新たな課題を見いだすことである。そこで、本科目では、養護教諭を目指すものにとってその準備の段階と本実習後の効果を上げるために、養護実習 (本実習) に対する理解を深め、実習生としての態度や心構え・技能等を事前に育成すること、更に準備の段階と本実習後には、自己の課題を省察し、進路選択にも結びつけることを学んでいく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健活動及び養護教諭の執務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割が理解できるようにする。 2. 養護の対象である子どもの心身の発達特徴や生活状況および健康問題の特質を理解し、説明できる。 3. 子どもの発達において問題とされる健康課題に対して、個別的及び組織的に適切な取り組みができる。 4. 養護教諭になるための志向を高めるとともに、養護教諭になるための自らの課題について理解し、解決しようとする意欲をもてるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	【アサインメント (宿題)】 ・実習予定校と連絡を取りながら学校訪問を想定し、訪問時期・時間の予約、挨拶、実習校との打ち合わせ事項 (保健指導の内容や指導案) 等、養護実習の事前学習として準備実習計画を作成する。 ・授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する小レポート用を出題する。 ・中間課題レポート：ほけんだより作成 ・最終課題レポート：保健教育指導案作成		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 東京福祉大学編『養護実習・看護臨床実習の手引き』。大谷尚子・中桐佐知子『養護実習ハンドブック』東山書房、2004 年。 【参考書】 学校保健・安全実務研究会編著『学校保健実務必携』第一法規、2014 年。		
11. 成績評価の方法	・授業ごとに出題する小レポート (30%) ・授業中のグループ活動等における積極的な発言 (30%) ・中間課題レポート (20%) ・最終課題レポート (20%)		
12. 受講生へのメッセージ	「養護実習指導」は、養護教諭になるために必要な理論と実地体験 (実習) が欠かせません。今まで学んだことがらを、具体的な教育実践の場面において検証していくことができます。現在学校現場で抱えている問題を直に感じ取り理解することができその上で、大学に戻ってから新たな課題意識を持って、その解決学習に発展させていくことができます。子どもの心と体を大切にす養護教諭にとって自己の心と体の健康管理に十分配慮し、児童生徒の範になれるような生活態度で臨んで下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ◆養護実習の意義と目標 ・臨地で実習する意義 ・養護実習の目標	事前学習	養護実習の「意義」と「目的」について、自分なりの考えを持って講義に臨む。
		事後学習	授業の目的について理解したことを、講義時間内に配布する小レポート用ワークシートに記述する。
第 2 回	◆養護実習の内容と方法 ・実習の目標と方法 ・実習の段階的進め方 ・実習の評価	事前学習	養護実習の内容と方法について教科書 pp. 20~30 を熟読し、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	養護実習の内容と方法について、本時の授業を通して感じたことやわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。
第 3 回	◆実習前の準備と実習の開始 ・事前訪問 ・実習生という立場の理解 ・実習の成果をあげるための準備	事前学習	実習生という立場を理解し、教員としての心構え等について教科書 pp. 32~42 を熟読し、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	実習を開始する前に必要な準備について、本時の講義を通して感じたことやわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。
第 4 回	◆教育計画と学校組織についての理解 ・教育計画 ・教職員の役割 ・学校保健に関する組織 ・学校保健計画	事前学習	実習校の学校教育目標等含め事前に学校概要を理解しておく (未定の人は、実習先の県や市の教育指針) を理解し小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	実習校の教育計画や組織体制について、本時の講義を通して改めて感じたことやわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。
第 5 回	◆環境衛生活動の実際	事前学習	教科書の学校環境衛生活動に関するページ

	(校舎内外の環境整備、清掃の実際、 環境衛生検査の実際) * 検査実習についてのレポート提出①		を pp. 71~74 熟読し、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。学校保健実務必携の中で、学校環境衛生活動に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	学校環境衛生活動の内容、実施状況、振り返りを小レポート用ワークシートに記述する。
第 6 回	◆健康診断の技術演習 (1) [目的・内容] ・健康診断とその事後措置	事前学習	健康診断についての配付資料を熟読し、ポイントをまとめておく。合わせて学校保健実務必携の中で、健康診断に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	健康診断の実施と事後措置の進め方について、本時の授業を通して感じたことわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。
第 7 回	◆健康診断の技術演習 (2) [健康診断の実際] * 目的・内容の自己評価をして レポート提出②	事前学習	健康診断に関する配付資料を熟読し、ポイントをまとめておく。合わせて学校保健実務必携の中で、健康診断に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	健康診断の技術演習を通して、感じたことわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。
第 8 回	◆養護教諭の執務計画 ・養護教諭の執務の方針・執務計画 ・保健室計画 ・保健室の整備・備品 ・一日保健室計画	事前学習	教科書の養護教諭の執務計画に関するページ pp. 75~93 を熟読し、その進め方について小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	養護教諭の執務計画について感じたことや分かったことを小レポート用ワークシートに記述する。自分の一日保健室計画を立案してみる。
第 9 回	◆健康管理体制の理解 ・健康管理のためのシステムと情報管理 ・救急処置体制の整備 ・健康観察と欠席状況の把握と事後措置 ・感染症発生予防と発生時の緊急対応	事前学習	教科書の健康管理体制に関するページ pp. 96~120 を熟読し、その整備のあり方について小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	学校における健康管理体制について、本時の講義を通して感じたことやわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。
第 10 回	◆養護実習の実際① [健康相談活動] ・慢性疾患の障害を抱える子どもの継続的ケア ◆保健室来室者への対応 ・保健室来室者の来室理由と対応過程 ・外科的症状への対応	事前学習	教科書及び学校保健実務必携の健康相談活動や来室者への対応に関するページを熟読し、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	健康相談活動の留意点について、講義時間内のディスカッションを総括し、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。
第 11 回	◆養護実習の実際② [健康相談活動] ・頭痛を訴える子どもへの対応 ・腹痛を訴える子どもへの対応 ・気分不良を訴える子どもへの対応 ・何となく来室する子どもの対応 ・頻回来室者への対応 * 相談活動についての課題レポート提出③	事前学習	教科書及び学校保健実務必携の健康相談活動や来室者への対応に関するページを熟読し、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	健康相談活動の留意点について、レポートを作成する。
第 12 回	◆集団対象の保健指導 ・保健指導の内容と機会 ・保健指導案の作成	事前学習	教科書の保健指導案の作成に関するページ pp. 165~171 を熟読し、指導案作成に向けた授業の構想を小レポート用ワークシートに記述し、まとめておく。
		事後学習	保健指導案を作成するために、子どもの健康課題から保健指導のテーマを決め、実習校の子どもを対象とした学習指導案 (保健指導案) を作成する。
第 13 回	◆保健指導案作成、 ・ほけん便りの作成 (ほけん便りの意義や作成ポイント)	事前学習	指導案作成の続き ほけん便りに関する配付資料を熟読し、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	指導案の完成と模擬授業に向けての整理を行う。ほけん便りを作成する。
第 14 回	◆模擬授業① 発表を通し、グループワークおよび発表	事前学習	模擬授業指導案の再整理を行い、使用する教材を作成するなど、発表準備をしておく。
		事後学習	模擬授業から学んだことを小レポート用ワークシートに記述する。
第 15 回	◆模擬授業② 発表を通し、グループワークおよび発表 * 課題レポート提出④	事前学習	模擬授業指導案の再整理を行い、使用する教材を作成するなど、発表準備をしておく。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめ、レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (初等) / 幼児体育 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1142
2. 授業担当教員	田中 マキ子			
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。			
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。) 2, 子どもの運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。) 3, リズム体操、身体表現の教材がつけれる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 「運動実施案」を作成し発表する。 課題 2 運動プログラム指導案 (グループワーク) を作成し、発表する。(実技発表)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ワークシートや学習資料を毎時間配布する。 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版。 幼児体育研究所『保育者のための幼児運動遊び指導』不昧堂出版、2000。			
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 50% 課題 1 (レポート) 20% 課題 2 (実技発表) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育要領・保育指針に位置づけられている運動について、その特性について実技を通じながら触れることをねらいとしています。幼稚園教諭・保育士として運動遊びを展開する上で最低限必要な技能及び教師行動を身に付けます。高度な運動技能を求めるよりも、幼児の身体の可能性を体感させるための大切なポイントや小学校の体育授業への関連性を身に付けることができます。 実技の際には運動にふさわしい服装 (ジャージ、T シャツ等。ジーンズ禁止) で参加してください。			
13. オフィスアワー	研究室のオフィスアワーに準ずる、それ以外でも研究室にいるときはいつでも対応します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、講義 「幼児期の運動能力の発達と運動の必要性」	事前学習	幼児期の運動の必要性を考察する。	
		事後学習	講義の概要を各自復習し、ノートにまとめておく。	
第 2 回	講義 「幼児期に身につけさせたい運動の系統性」	事前学習	幼児期の運動経験を振り返り、どのような運動をしていたかをまとめておく。	
		事後学習	自分の運動経験と講義内容の違いを考え、今後の指導に活かせるようにまとめておく。	
第 3 回	講義 幼児期・児童期の運動遊びについて	事前学習	幼児期の運動遊びについて、どのようなものがよいか、どんな種類があるか、調べておく。	
		事後学習	自分の調べた運動遊びと、講義を聞いての違いをまとめる。	
第 4 回	【集中講義】① 道具を使わない運動遊び① 基礎運動 (走る、飛ぶ、腕を使う、ストレッチ体操など)	事前学習	幼児期の運動遊び (道具なし) を調べ、どんな運動遊びがあるか、授業で提案できるようにしておく。	
		事後学習	授業で行った運動遊びから、さらに発展させてどんな運動遊びが考えられるか、できるだけ多く考え出す。	
第 5 回	【集中講義】① 道具を使わない運動遊び② 鬼ごっこ、ごっこ遊びなど	事前学習	道具を使わずに遊びながら体を動かせる運動遊びを授業で提案できるようにできるだけ多く考えておく。	
		事後学習	授業を行ってみてさらに、自分のオリジナルの遊びを考えてみる。	
第 6 回	【集中講義】① 器械運動 (マット、跳び箱など)	事前学習	器械運動について調べ、安全に授業を行えるよう、知識とともに体を作っておく。	
		事後学習	指導が行えるように、補助の方法などをまとめておく。	
第 7 回	【集中講義】① 道具を使った運動遊び① 様々な大きさのボールを使って	事前学習	ボールを使ってどのような運動遊びができるか考えて、まとめておく。	
		事後学習	授業で行った運動遊びをまとめ、実際にグループで実践し、さらに発展させる。	
第 8 回	【集中講義】① 道具を使った運動遊び② フープ、縄を使って	事前学習	道具を使った遊びについて調べる。	
		事後学習	授業で行った内容を自分なりにまとめておく。 実査に指導現場で行えるように指導方法を覚える。	
第 9 回	【集中講義】②	事前学習	運動プログラム作成に必要な知識を調べておく。	

	運動プログラム案の作成(グループワーク)①	事後学習	授業を行ったうえで、もう一度どんな運動遊びが考えられるか、各自考える。
第 10 回	【集中講義】② 運動プログラム案の作成(グループワーク)②	事前学習	各グループで考えられる案をまとめておく。
		事後学習	実際に指導ができるように段取りをしっかりと確認しておく。
第 11 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表①	事前学習	授業構成モデルを各自調べ、グループで話し合いができるように準備する。
		事後学習	各グループの発表に対して意見が言えるよう、幼児体育指導に対するの考えをまとめておく。
第 12 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表②	事前学習	授業構成モデルを各自調べ、グループで話し合いができるように準備する。
		事後学習	作成した模擬授業案をシュミレーションし、グループ発表がうまくいくよう段取りを考える。
第 13 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表③	事前学習	各グループの発表に対して意見が言えるよう、幼児体育指導に対するの考えをまとめておく。
		事後学習	良かった点、修正点を見つけ、各自まとめる。
第 14 回	講義 運動指導時の安全管理と怪我の応急処置	事前学習	運動指導時の安全管理、リスクを調べておく。
		事後学習	怪我の対処方法など、指導に活かせるようにまとめておく。
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	今まで授業で行ったことを整理し、各自幼児体育の指導に対する考えをまとめておく。
		事後学習	今までの授業の内容を整理し、指導をする時にできるだけたくさんの引き出しを持っておけるようにまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (保育士) / 幼児体育 (2 単位)		3. 科目番号	SSOT2423 SJMP1142
2. 授業担当教員	田中 マキ子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。			
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。) 2, 子どもの運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。) 3, リズム体操、身体表現の教材がつけれる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 「運動実施案」を作成し発表する。 課題 2 運動プログラム指導案 (グループワーク) を作成し、発表する。(実技発表)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ワークシートや学習資料を毎時間配布する。 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版。 幼児体育研究所『保育者のための幼児運動遊び指導』不味堂出版、2000。			
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 50% 課題 1 (レポート) 20% 課題 2 (実技発表) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育要領・保育指針に位置づけられている運動について、その特性について実技を通じながら触れることをねらいとしています。幼稚園教諭・保育士として運動遊びを展開する上で最低限必要な技能及び教師行動を身に付けます。高度な運動技能を求めるよりも、幼児の身体の可能性を体感させるための大切なポイントや小学校の体育授業への関連性を身に付けることができます。実技の際には運動にふさわしい服装 (ジャージ、Tシャツ等。ジーンズ禁止) で参加してください。			
13. オフィスアワー	研究室のオフィスアワーに準ずる、それ以外でも研究室にいるときはいつでも対応します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、講義 「幼児期の運動能力の発達と運動の必要性」	事前学習	幼児期の運動の必要性を考察する。	
		事後学習	講義の概要を各自復習し、ノートにまとめておく。	
第 2 回	講義 「幼児期に身につけさせたい運動の系統性」	事前学習	幼児期の運動経験を振り返り、どのような運動をしていたかをまとめておく。	
		事後学習	自分の運動経験と講義内容の違いを考え、今後の指導に活かせるようにまとめておく。	
第 3 回	講義 幼児期・児童期の運動遊びについて	事前学習	幼児期の運動遊びについて、どのようなものがよいか、どんな種類があるか、調べておく。	
		事後学習	自分の調べた運動遊びと、講義を聞いての違いをまとめる。	
第 4 回	【集中講義】① 道具を使わない運動遊び① 基礎運動 (走る、飛ぶ、腕を使う、ストレッチ体操など)	事前学習	幼児期の運動遊び (道具なし) を調べ、どんな運動遊びがあるか、授業で提案できるようにしておく。	
		事後学習	授業で行った運動遊びから、さらに発展させてどんな運動遊びが考えられるか、できるだけ多く考え出す。	
第 5 回	【集中講義】① 道具を使わない運動遊び② 鬼ごっこ、ごっこ遊びなど	事前学習	道具を使わずに遊びながら体を動かせる運動遊びを授業で提案できるようにできるだけ多く考えておく。	
		事後学習	授業を行ってみてさらに、自分のオリジナルの遊びを考えてみる。	
第 6 回	【集中講義】① 器械運動 (マット、跳び箱など)	事前学習	器械運動について調べ、安全に授業を行えるよう、知識とともに体を作っておく。	
		事後学習	指導が行えるように、補助の方法などをまとめておく。	
第 7 回	【集中講義】① 道具を使った運動遊び① 様々な大きさのボールを使って	事前学習	ボールを使ってどのような運動遊びができるか考えて、まとめておく。	
		事後学習	授業で行った運動遊びをまとめ、実際にグループで実践し、さらに発展させる。	
第 8 回	【集中講義】① 道具を使った運動遊び② フープ、縄を使って	事前学習	道具を使った遊びについて調べる。	
		事後学習	授業で行った内容を自分なりにまとめておく。実査に指導現場で行えるように指導方法を覚える。	
第 9 回	【集中講義】② 運動プログラム案の作成 (グループワーク) ①	事前学習	運動プログラム作成に必要な知識を調べておく。	
		事後学習	授業を行ったうえで、もう一度どんな運動遊びが考えられるか、各自考える。	

第 10 回	【集中講義】② 運動プログラム案の作成(グループワーク)②	事前学習	各グループで考えられる案をまとめておく。
		事後学習	実際に指導ができるように段取りをしっかりと確認しておく。
第 11 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表①	事前学習	授業構成モデルを各自調べ、グループで話し合いができるように準備する。
		事後学習	各グループの発表に対して意見が言えるよう、幼児体育指導に対しての考えをまとめておく。
第 12 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表②	事前学習	授業構成モデルを各自調べ、グループで話し合いができるように準備する。
		事後学習	作成した模擬授業案をシュミレーションし、グループ発表がうまくいくよう段取りを考える。
第 13 回	【集中講義】② 運動プログラムの発表③	事前学習	各グループの発表に対して意見が言えるよう、幼児体育指導に対しての考えをまとめておく。
		事後学習	良かった点、修正点を見つけ、各自まとめる。
第 14 回	講義 運動指導時の安全管理と怪我の応急処置	事前学習	運動指導時の安全管理、リスクを調べておく。
		事後学習	怪我の対処方法など、指導に活かせるようにまとめておく。
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	今まで授業で行ったことを整理し、各自幼児体育の指導に対する考えをまとめておく。
		事後学習	今までの授業の内容を整理し、指導をする時にできるだけたくさん引き出しを持っておけるようにまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	幼児理解 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2212
2. 授業担当教員	吉川 晴美		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	幼児期の保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に並び、発達の課題に即した指導を行うことが重要です。本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、実践事例 (文献、映像) 等を用いて、幼児の生活の実際とその理解、具体的な指導のとらえと意味、幼児期の保育における環境のとらえ方、評価の在り方、幼小の連携、並びに行事について学びます。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育は環境を通して行うものであることが理解できるようになる。 ・保育者の役割をあげ、説明することができるようになる。 ・幼児期の保育における評価について説明することができるようになる。 ・幼小の学びの関連性が分かるようになる。 ・行事の意味が分かり、日常の保育との関係を説明することができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	様々な場面における幼児の姿や行動の観察、具体的な幼児とのかかわりについて記録を行う。上記記録から事例 (エピソード) を抽出し考察を行う。			
10. 教科書・参考書・教材	武藤安子・吉川晴美・松永あけみ 『家庭支援の保育学』建帛社 2010 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文科省『資料 幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』2010			
11. 成績評価の方法	試験 50%、レポート、提出物 30%、授業中の態度 20%			
12. 受講生へのメッセージ	子ども、幼児とはなにか、その内面を理解し、保育者としてどのようにかかわるか、具体的な場面を通して、共に探求し、考えていきましょう、			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業概要、授業計画、保育とは	事前学習	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の第1章を読んでくる。	
		事後学習	シラバス全体に目を通し、今後の進行を確認しておく	
第2回	保育とは	事前学習	教科書該当箇所を読み、事前配布した資料に記入してくる。	
		事後学習	保育とは何か、保育者としての子ども理解とはなにかについてまとめる。	
第3回	子どもをとらえる視点と保育	事前学習	事前に配布した資料に目を通しておく	
		事後学習	子どものとらえ方について確認し、自分のとらえ方をひろげる。	
第4回	子どもの発達とはなにか	事前学習	教科書、配布資料を読み、発達についてイメージしてくる。	
		事後学習	保育者として、発達の過程を理解する意義をとらえなおす。	
第5回	子どもの発達理解1—幼児期前半の発達—	事前学習	教科書、配布資料を読み、幼児期前半の子どもの発達の特徴をまとめる。	
		事後学習	事例検討を通して、発達をふまえた適切な援助を振り返り、自分の考えを広げる	
第6回	子どもの発達理解2—幼児期後半の発達—	事前学習	教科書、配布資料を読み、幼児期後半の子どもの発達の特徴をまとめる。	
		事後学習	事例検討を通して、発達をふまえた適切な援助を振り返り、自分の考えを広げる	
第7回	子ども理解の方法1—観察と記録の取り方	事前学習	配布資料を読み、該当箇所に記入してくる	
		事後学習	観察法についてまとめる	
第8回	子ども理解の方法2—ロールプレイによる理解	事前学習	具体的な場面における子どもの姿をイメージしてくる。	
		事後学習	授業で行ったロールプレイについてまとめる	
第9回	子どもの立場からの理解	事前学習	保育場面における子どもの立場、気持ちをイメージしてくる。	
		事後学習	ビデオ資料を通じ、子どもの側から観たその内的世界と外的世界をまとめる。	
第10回	子ども同士・保育者とのかかわりからの理解	事前学習	保育場面における、子ども同士、保育者とのかかわりについてイメージしてくる。	
		事後学習	ビデオ資料を通じ、子ども同士、保育者とのかかわりについてまとめる。	
第11回	子ども理解と援助1—気になる子どもの事例から	事前学習	保育場面における気になる子どもと行為の意図についてイメージしてくる。	
		事後学習	教科書、配布資料をもとに、幼児理解の意味と方法を深め、広げる。	
第12回	子ども理解と援助2—特別に配慮が必要な子どもの事例から	事前学習	障がいや特別に配慮が必要な子ども	
		事後学習	ビデオ資料の事例検討から、保育者のかかわりについてまとめる。	
第13回	子ども理解と援助3—愛着・虐待と子どものサイン	事前学習	配布資料をもとに、愛着の意味、虐待についての基礎的知識を確認してくる。	
		事後学習	具体的事例から、子どものサインをどう受けとめ、カウンセリングマインドで応ずるかについてまとめる。	
第14回	保育の環境と援助—保護者・家族理解と連携	事前学習	配布資料、具体的事例から、親の気持ち、子どもとの関係について考えてくる。	
		事後学習	家族の関係性と子どもをめぐる問題と援助、連携についてまとめる。	
第15回	まとめ	事前学習	今まで学習した内容を確認してくる。	
		事後学習	学習内容を整理し、子ども理解の知識と方法と実践をつなげて自分のものとする。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	幼稚園教育実習指導 (1 単位)		3. 科目番号	SJTP3555
2. 授業担当教員	河合 光利		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実践することにより、幼稚園教育の理解を深め、教師の使命感と保育の実践力とを身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構え、実践方法を扱う。具体的には、指導計画作成、保育状況把握、教材研究、指導方法、記録の仕方などについて講義や事例検討を通して学ぶ。保育の具体的な状況に応じた判断力、行動力を養うため、模擬保育や教材研究など活動を伴う授業を含める。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の現場にかかわる人としての基本的な態度、マナー、言葉遣いを理解し、自然に振舞うことができる。 2. 保育実習者として現場から学ぶことの意味と学び方がわかる (子どもからの学び、保育者からの学び)。 3. 実習体験の段階 (観察、参加、実習) における実習目標と実習記録の方法はわかる。 4. 指導計画の作成—実践—反省の過程を体験的に学習し、実践の振り返りと計画の改善の方法がわかる。 5. 子どもの発達段階にふさわしい教材と子どもの興味関心、自発的遊びを生かした活動の展開がわかる。 6. 子どもの活動や遊びへの関わりかた、問題状況への対応をロールプレイなどを通して身に着ける。 7. 幼稚園生活の1日の流れ、保育環境の整備の仕方など、幼稚園の生活の全体について知っておく。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業時間内にて行う小グループによる教材研究及びその発表を評価対象とするので、必ず参加すること。教材研究及び期末レポート、いずれも詳細については、授業内にて提示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 関口はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書出版、2012。 東京福祉大学編『教育実習の手引き』。 【参考書】 百瀬ユカリ著『よくわかる幼稚園実習 第2版』創成社、2010年。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2008年。 その他、講義内容に応じて文献を紹介する他、プリント等を配布する。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加態度 (出席、発言、傾聴態度等) 20% 教材研究及び発表 40% 期末レポート 40%			
12. 受講生へのメッセージ	子どもを育てる仕事は、育てようとする人 (保育者) の気持ちの持ち方や行動の仕方が大きな影響を及ぼす。それ故に、保育という仕事には大きな責任がある。授業を通じて保育者のもつ責任に気づき、自分を知り、次の世代を担う子どもの存在を自覚し、自分の行うべきことを学んで欲しい。また、毎回の授業の中で実習生として「適正に欠ける」態度が目立つ場合、単位を認めないこともあるので、しっかりとした自覚をもって授業に臨んでもらいたい。			
13. オフィスアワー	別途、通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	なぜ、実習をおこなうのか (授業の概要、授業計画、教育実習の目的等)	事前学習	教科書の初項の内容をノートに箇条書きにする。	
		事後学習	自身の学習目標をノートに記述する。	
第2回	実習に向けての基本的な心構え等 (1) (自分発見と自分づくり)	事前学習	教科書 pp. 7~19 を読んでノートに記述する。	
		事後学習	自己の課題を見つけ、ノートに記述する。	
第3回	実習に向けての基本的な心構え等 (2) (態度、礼儀、服装、マナー)	事前学習	教科書 p. 113 を読んでノートに記述する。	
		事後学習	自分の今の姿と比較をする。	
第4回	実習に向けての基本的な心構え等 (3) (健康管理等)	事前学習	教科書 pp. 75~86 をノートにまとめる。	
		事後学習	実習期間中にすべきことをノートに記す。	
第5回	実習における事前・事後指導 (1) オリエンテーション	事前学習	事前指導 (教科書 p. 90) をノートに記述する。	
		事後学習	具体的な実習計画を作成する。	
第6回	実習における事前・事後指導 (2) 実習期間中の留意点	事前学習	実習の流れ (教科書 p. 104) ノートに記述する。	
		事後学習	自分のすべき事柄をノートに記述する。	
第7回	実習における事前・事後指導 (3) 実習後の活動	事前学習	教科書 p. 120 を読み、まとめたことを記述してくる	
		事後学習	自己課題をまとめ、ノートに記述してくる。	
第8回	園生活の理解 (1日の生活の流れを理解する)	事前学習	幼稚園の1日の生活をノートに記す。	
		事後学習	実習生としての役割をノートにまとめる。	
第9回	実習日誌の記入	事前学習	実習日誌とはどのようなものか調べてくる。	
		事後学習	日誌の記入方法をノートにまとめる。	
第10回	指導案の作成	事前学習	指導計画の必要性をノートに記述する。	
		事後学習	指導計画を理解し、ノートにまとめる。	
第11回	教材の研究 (1) 教材の収集及び内容の吟味	事前学習	保育実践に必要な教材を集めてくる。	
		事後学習	グループ内で教材の検討を行なう。	
第12回	教材の研究 (2) 教材の検討	事前学習	教材の特性を理解する。	
		事後学習	教材の特性をノートにまとめる	

平成 28 年度

第 1 3 回	模擬指導 (1) 教材の発表	事前学習	グループでの発表の準備を行なう。
		事後学習	発表教材の課題をノートにまとめる。
第 1 4 回	模擬指導 (2) 教材の発表	事前学習	グループでの発表の準備を行なう。
		事後学習	発表教材の課題をノートにまとめる
第 1 5 回	実習における自己課題を掲げる	事前学習	全体総括としての内容をノートに記述する。
		事後学習	実習生としての抱負をレポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	幼稚園教育実習指導 (1 単位)		3. 科目番号	SJTP3555						
2. 授業担当教員	矢野 景子									
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実践することにより、幼稚園教育の理解を深め、教師の使命感と保育の実践力を身に付け、教育職としての資質を向上させることを目的とする。本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構え、実践方法を扱う。具体的には、指導計画作成、保育状況把握、教材研究、指導方法、記録の仕方などについて講義や事例検討を通して学ぶ。保育の具体的な状況に応じた判断力、行動力を養うため、模擬保育や教材研究など活動を伴う授業を含める。									
8. 学習目標	<p>7. 保育の現場にかかわる人としての基本的な態度、マナー、言葉遣いを理解し、自然に振舞うことができる。</p> <p>8. 保育実習者として現場から学ぶことの意味と学び方がわかる (子どもからの学び、保育者からの学び)。</p> <p>9. 実習体験の段階 (観察、参加、実習) における実習目標と実習記録の方法はわかる。</p> <p>10. 指導計画の作成—実践—反省の過程を体験的に学習し、実践の振り返りと計画の改善の方法がわかる。</p> <p>11. 子どもの発達段階にふさわしい教材と子どもの興味関心、自発的遊びを生かした活動の展開がわかる。</p> <p>12. 子どもの活動や遊びへの関わりかた、問題状況への対応をロールプレイなどを通して身に着ける。</p> <p>7. 幼稚園生活の1日の流れ、保育環境の整備の仕方など、幼稚園の生活の全体について知っておく。</p>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>以下に示したレポート課題について、授業時間内に提出すること。</p> <p>1. 今の自分の姿をもとにしながら、どのような保育者になりたいのかを考え、自己課題と実習で学びたいことについてレポートする。</p> <p>2. 保育実技アイデアノートの作成と提出 (A4のノートを用意すること)</p> <p>3. 幼児教育の独自性について配布資料を基にミニレポートを提出する。</p>									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 関口 はつ江編『保育実習ハンドブック』大学図書出版、2012年。</p> <p>【参考書】 民秋 言『実習生のための自己評価チェックリスト』萌文書林、2005年。 ミネルヴァ書房編集部編『保育所保育指針 幼稚園教育要領解説とポイント』ミネルヴァ書房、2008年。 東京福祉大学編『教育実習の手引』。 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館、2013年。 その他、講義内容に応じて文献を紹介する他、プリント等を配布する。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>授業への積極的参加態度 (グループワークの参加態度、プレゼンテーション等)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>小レポート (及びリフレクションシート) /教材研究の発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>保育実技アイデアノートの作成と発表、提出 /全日指導案の提出</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>本学の規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 遅延の場合は、遅延届を必ず提出すること。</p>				授業への積極的参加態度 (グループワークの参加態度、プレゼンテーション等)	20%	小レポート (及びリフレクションシート) /教材研究の発表	30%	保育実技アイデアノートの作成と発表、提出 /全日指導案の提出	50%
授業への積極的参加態度 (グループワークの参加態度、プレゼンテーション等)	20%									
小レポート (及びリフレクションシート) /教材研究の発表	30%									
保育実技アイデアノートの作成と発表、提出 /全日指導案の提出	50%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>「これから保育者になる私」の形成は実習前からすでにはじまっている。授業で学んだことを活かし、実習の中で多くの学びを得るためには、今の自分を省みるとともに、実習生としての自覚と課題意識をもって実習に臨むことが求められる。したがって、授業の中では積極的な発言、協働・参加を期待する。また、不安や悩み、疑問や質問等はリフレクションシートにて開示し、実習前に解消・解決をするよう努めること。また、毎回の授業の中で実習生として「適正に欠ける」態度が目立つ場合、単位を認めないこともあるので、しっかりとした自覚をもって授業に臨んでもらいたい。</p>									
13. オフィスアワー	別途、通知する									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	実習における学びとはオリエンテーション	事前学習	配布資料を精読する。実習で学びたいことを整理しノートに記入する。							
		事後学習	実習前の不安や悩みを整理してノートに記入する。							
第2回	幼稚園教育実習の実際①さまざまな実習のスタイル	事前学習	教科書 p.39、配布資料を精読し、関心のある箇所を探す。							
		事後学習	実習のスタイルの違いをまとめる。							
第3回	幼稚園教育実習の実際②子ども、保育者、実習生の流れ	事前学習	幼稚園教諭の仕事の1日の流れをイメージし、考えておく。							
		事後学習	1日の実習の流れについて、気づいたことを自身の言葉で整理し、ノートに記入する。							
第4回	実習における事前準備-実習生の心構えと事前オリエンテーションの臨み方-外部講師-	事前学習	実習生としての心構えを考え、ノートに記入する。							
		事後学習	実習生としての心構えについて授業での気づきを自身の言葉でノートに記入する。							
第5回	実習における事前準備-教材研究-	事前学習	自分の得意なこと、苦手なことをまとめる。							
		事後学習	第15回までに保育実技アイデアノートを作成する。							

第 6 回	実習の中での子どもの遊び・生活の理解	事前学習	配布資料を精読し、関心のある箇所を探す。
		事後学習	実習の視点について気づいたことを整理しノートに記入する。
第 7 回	記録と実習日誌	事前学習	教科書 pp. 47～48/pp. 59～68 を精読し、関心のある箇所を探す。
		事後学習	実習日誌を書くための記録の取り方について、気づいたことを整理しノートに記入する。
第 8 回	環境構成/配慮と安全管理	事前学習	配布資料を読み、日常でのヒアリハット体験をノートに記入する。
		事後学習	授業での気づきを整理しノートに記入する。
第 9 回	指導案の作成 (1) (意味と作り方)	事前学習	配布資料を読み、課題を行う。
		事後学習	指導案について気づいたことを整理しノートに記入する。
第 10 回	指導案の作成 (2) (ねらい、内容、流れ等)	事前学習	配布資料を読み、課題を行う。
		事後学習	指導案について気づいたことを整理しノートにまとめる。
第 11 回	指導案の作成の実際-3 歳児-	事前学習	配布資料の 3 歳児の指導案を完成させる。
		事後学習	指導案を評価し、修正する。
第 12 回	指導案の作成の実際-4 歳児-	事前学習	配布資料の 4 歳児の指導案を完成させる。
		事後学習	指導案を評価し、修正する。
第 13 回	指導案の作成と模擬指導-5 歳児-	事前学習	5 歳児の指導案を作成する。
		事後学習	指導案を評価し、修正する。
第 14 回	省察と自己評価	事前学習	教科書 pp. 110～112 を精読し、関心のある箇所を探す。
		事後学習	自己評価を参考に、自己課題を修正しまとめ、レポートを作成する。
第 15 回	全体のまとめ/保育実技アイデアノートの情報交換	事前学習	保育実技アイデアノートを完成させる。
		事後学習	保育実技アイデアノートの情報交換で気付いたことをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	理科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	SJEL3432 EDEL3317
2. 授業担当教員	二村 泰弘			
4. 授業形態	講義、実験、グループ学習、模擬授業		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>理科教育は、子ども達が興味関心を持つ「理科の授業づくり」について理論と実践に基づいた基本を習得する必要がある。そのためには、自然科学の基本的な概念や法則を体系的に学習し、自然界の全体像を構造的に捉え科学的自然観を習得しなければならない。</p> <p>以上のことを学習するためには、小学校の理科教師は自然界の現象で目に見えない物を見えるように子ども達の目の前で再現できる力量を身に付ける必要がある。</p> <p>本講義では、身の回りの自然現象について科学的な物の見方・考え方で解決していく基本的な力量を学習する。そのために、授業に役立つ簡単な実験を行う。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育の歴史の変遷について学習し、学習指導要領の理科教育の内容や目標が分かる。 ・理科の授業作りと指導計画の立て方を学習する。なお、事前に理科学習指導案の書き方等を学び、模擬授業を行い、理科の指導と指導技術を習得し、授業中の安全管理についても学習する。 ・理科教育を取り巻く諸問題のうち、実感を伴った体験学習のあり方や環境教育等を理解する。 ・実験を通して実践力のある理科教師を目指す。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1 : 3～6 年の中から 1 単元を指定し、指導案を作成する。</p> <p>課題 2 : 天候に左右される教材 (特に、星の観察・植物の生長等) についてどのような指導方法があるか、あなたの考えを 1,000 字以内で述べなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 畑中忠雄著『三訂 若い先生のための理科教育概論』東洋館出版社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 (教科書の準備・私語・居眠り・積極性) 総合点の 60 % レポート 総合点の 40 % ※欠席・遅刻・早退は減点の対象となるので注意すること。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>受講生に期待すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。 2. 授業中は他人に迷惑をかけないように、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 3. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得する。 4. 副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは、理由を書面にて提出すること。 			
13. オフィスアワー	<p>初回の授業で通知する。面談に際しては、事前にメール等で連絡することが望ましい。 y a f u t a m u @ e d . t o k y o - f u k u s h i . a c . j p</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。理科教育の目標について学習する。	事前学習	理科の学習指導要領を読んでおく	
		事後学習	理科教育で育成する能力について復習する	
第 2 回	日本の理科教育の歴史の変遷について学習する。	事前学習	教科書の第 2 章を読んでおく	
		事後学習	戦前と戦後の理科教育の変遷について復習する	
第 3 回	学習指導要領の内容を中心にした現在の日本の理科教育について学習する。	事前学習	教科書の第 3 章を読んでおく	
		事後学習	理科の学習指導要領を読み直す	
第 4 回	理科の授業と指導計画について学習する。	事前学習	教科書の第 5 章を読んでおく	
		事後学習	年間指導計画の立て方を復習する	
第 5 回	理科の授業と教材研究の仕方について学習する。	事前学習	教科書の第 6 章を読んでおく	
		事後学習	教材研究の進め方を復習する	
第 6 回	理科学習指導案の作成の仕方について学習する。	事前学習	学習指導案を考えてくる	
		事後学習	学習指導案を作成する	
第 7 回	学習指導案をもとに模擬授業を行う。(班ごとに模擬授業を行う)(課題 1 の指導案提出)	事前学習	模擬授業の準備をしておく	
		事後学習	模擬授業の問題点を復習しておく	
第 8 回	学習指導案をもとに模擬授業を行う。(班ごとに模擬授業を行う)	事前学習	模擬授業の準備をしておく	
		事後学習	模擬授業の問題点を復習しておく	
第 9 回	理科の授業と指導技術について学習する。(発問・板書の仕方・ノートの取り方・話し合い活動)	事前学習	教科書の第 9 章を読んでおく	
		事後学習	課題 2 のレポートを作成する	
第 10 回	理科の授業の実践について学習する。(課題 2 のレポート提出)	事前学習	教科書の第 10 章を読んでおく	
		事後学習	学習の決まりを復習する	
第 11 回	理科の授業と安全指導について学習する。	事前学習	教科書の第 11 章を読んでおく	
		事後学習	理科の安全指導について復習する	
第 12 回	理科の授業と映像を見ながら野外学習について学習する。	事前学習	教科書の第 12 章を読んでおく	
		事後学習	野外学習について復習する	
第 13 回	理科の授業と映像を見ながら環境教育について学習する。	事前学習	教科書の第 13 章を読んでおく	
		事後学習	自分で取り組めるリサイクルについて実践していく	

平成 28 年度

第 1 4 回	理科の授業の評価の仕方について学習する。	事前学習	教科書の第 1 4 章を読んでおく
		事後学習	事例を通して評価してみる
第 1 5 回	まとめ（科学的な物の見方・考え方について学習する）	事前学習	理科の基礎・基本を調べておく
		事後学習	科学の物の見方・考え方を復習しておく

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3113
2. 授業担当教員	平沼 晶子		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	臨床心理学として、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業内で小テストや小レポートを実施するので復習をして臨む。 授業を通して学習したことについて振り返り、期末レポートとしてまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	杉原一昭編著『事例で見る発達と臨床』北大路書房、2001 年。		
11. 成績評価の方法	本学の規定により、3/4 以上の出席を単位認定要件とする。 その上で、小テスト・小レポート (40%)、レポート課題 (30%)、授業態度と参加姿勢 (30%) から総合的に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書に沿って授業を進めるので、事前学習に指定された箇所を熟読して授業に臨みましょう。 2. 人間がよりよく生きるために、臨床心理学の知識をどのように活用していくかについて実践に即して考え、積極的な態度で受講してください。 		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・臨床心理学とは何か	事前学習	シラバスを読む。臨床心理学とは何かを自分で調べておく。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 2 回	臨床心理学の全体構造	事前学習	教科書の pp. i ~ v を読む。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 3 回	アセスメントの方法	事前学習	教科書の pp. 2~5 を読む。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 4 回	面接の種類と目的	事前学習	教科書の pp. 6~11 を読む。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 5 回	発達と臨床 (1) 乳児期の問題・地域援助	事前学習	臨床心理学における社会的連携について調べる。
		事後学習	視聴した映像資料について自分の考えをまとめる。
第 6 回	地域援助	事前学習	臨床心理学における地域援助について調べる。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 7 回	発達と臨床 (2) 幼児期の問題	事前学習	教科書の pp. 34~45 を読む。
		事後学習	福祉領域での臨床実践のあり方を理解する。
第 8 回	発達と臨床 (3) 児童期の問題	事前学習	教科書の pp. 52~59 を読む。
		事後学習	プレイセラピーについての理解を深める。
第 9 回	発達と臨床 (4) 思春期の問題	事前学習	教科書の pp. 78~87 を読む。
		事後学習	教育領域での臨床実践のあり方を理解する。
第 10 回	発達と臨床 (5) 青年期の問題	事前学習	教科書の pp. 96~106 を読む。
		事後学習	家族を含めた面接について理解を深める。
第 11 回	発達と臨床 (6) 成人前期の問題	事前学習	教科書の pp. 123~132 を読む。
		事後学習	認知行動療法について理解を深める。
第 12 回	発達と臨床 (7) 成人後期の問題	事前学習	教科書の pp. 147~154 を読む。
		事後学習	事例の問題背景について整理してまとめる。
第 13 回	発達と臨床 (8) 老年期の問題	事前学習	教科書の pp. 190~198 を読む。
		事後学習	高齢者への援助に必要なことをまとめる。
第 14 回	臨床心理学研究の課題	事前学習	臨床活動と研究との関係について調べる。
		事後学習	配布資料を読み直し理解を深める。
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	これまで学んだことを振り返り整理する。
		事後学習	学習したことを各自の専門領域につなげて考える。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1103								
2. 授業担当教員	山内 健次										
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。										
7. 講義概要	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。										
8. 学習目標	1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助技術を知り、実践できる。 4. レクリエーションの企画・運営ができる能力を身につけ、実践できる。										
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	【課題1】レクリエーションに関する年表の課題 【課題2】レクリエーションの社会資源についての調査レポート										
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】: 弓箭書院『これからのレジャー・レクリエーション ～余暇社会に向けて～』 【参考書】日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』										
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>期末試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>課題1</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題2</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>20%</td> </tr> </table>			期末試験	40%	課題1	20%	課題2	20%	授業への参加態度	20%
期末試験	40%										
課題1	20%										
課題2	20%										
授業への参加態度	20%										
12. 受講生へのメッセージ	レクリエーション支援者はホスピタリティーの精神が必要です。受講者みんなが楽しめるような雰囲気づくりを心掛けて下さい。										
13. オフィスアワー	授業内でお知らせいたします										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	ガイダンス(授業の進め方、成績評価方法、レクリエーションインストラクター資格取得方法説明)現代社会における余暇生活①(日常生活の3領域とレクリエーション支援)	事前学習	本講義内容をシラバスにて把握したうえで授業に臨む。								
		事後学習	自身の日常生活の3領域を整理する。								
第2回	現代社会における余暇生活②(レクリエーションが行われる目的)	事前学習	レクリエーションを行う目的について考えてくる。								
		事後学習	他者の考えを取り入れ、自分自身にとってのレクリエーションの意義を再考する。								
第3回	レクリエーションの持つ意味とは①(レクリエーションのイメージ 厚生 休み時間 遊戯論)	事前学習	レクリエーションという言葉についてのイメージを考えてくる。								
		事後学習	レクリエーションという言葉の意味を整理する。								
第4回	レクリエーションの持つ意味とは②(遊戯論 遊び場づくり運動 生活のレクリエーション化 レクリエーションの生活)	事前学習	自身にとって遊びはなぜ必要なのかを考えてくる。								
		事後学習	自身にとっての「生活のレク化」「レクの生活化」を実践する。								
第5回	レクリエーションの意義①(レクリエーションとは レクリエーション運動の歴史)	事前学習	レクリエーションの意義について考えてくる。								
		事後学習	レクリエーションの運動についてまとめる。								
第6回	レクリエーションの意義②(レクリエーションによるベネフィット)	事前学習	レクリエーションを行うことによって何が得られるのか考えてくる。								
		事後学習	自身にとってストレスが解消されるようなレクリエーションを実践する。								
第7回	レジャーとレクリエーション レジャー活動の実際(旅行・ギャンブルなど)	事前学習	レジャーとレクリエーションの違いを考えてくる。								
		事後学習	旅行の計画をしてみる。								
第8回	レクリエーション・インストラクターの役割①(レクリエーション支援の考え方)	事前学習	レクリエーション支援者の役割にはどういふものがあるのか考えてくる。								
		事後学習	自身が行ってみたいレクリエーション支援者とはどのようなものか考えをまとめる。								
第9回	レクリエーション・インストラクターの役割②(レクリエーション・インストラクターに期待される役割と活動事例)	事前学習	これからの社会におけるレクリエーション支援者の必要性を考えてくる。								
		事後学習	色んな障害にあつたレク支援とその重要性をまとめる。								
第10回	レクリエーションの利用者と援助者①(レクリエーション活動援助の個別性とグループ利用)	事前学習	個別に行われるレクリエーション支援、グループで行われるレクリエーション支援につ								

			いて考えてくる。
		事後学習	個別レク、グループレクで行われるレク財についてまとめる。
第 1 1 回	レクリエーションの利用者と援助者②(支援の定義 支援者の役割と定義)	事前学習	この講義を受講する前後でのレクリエーションのイメージに違いを考えてくる。
		事後学習	レクリエーション支援者に求められる資質について。
第 1 2 回	レクリエーションと社会福祉 (ノーマライゼーション QOL 児童・高齢者・障害者福祉とレクリエーション)	事前学習	児童・高齢者・障害者がそれぞれどのような目的でレクリエーションを行うのか考えてくる。
		事後学習	レクリエーションと Q O L の向上についてまとめる。
第 1 3 回	レクリエーション計画 (ニーズの追求 アセスメント インフォームド・コンセント A-PIE プロセス)	事前学習	対象者の違いによってレクリエーションのニーズはどう変わるのか考えてくる。
		事後学習	自分自身で対象者を決めてレクリエーションの計画をする。
第 1 4 回	レクリエーション援助者の役割 (援助者のポリシー ホスピタリティー精神 バーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーション)	事前学習	レクリエーション援助者のポリシーについて考えてくる。
		事後学習	バーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションの実践に心掛ける。
第 1 5 回	レクリエーション運動を支える制度 (日本・都道府県・市区町村レクリエーションの役割)	事前学習	クラブや協会の役割を調べてくる
		事後学習	クラブや協会の役割をまとめる。
期末試験			

1. 科目名(単位数)	レクリエーション理論 (2単位)	3. 科目番号	GEBS2303 GEHL2314 GEHL1103
2. 授業担当教員	木本 多美子		
4. 授業形態	講義・演習(配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。</p> <p>授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助技術を知り、実践できる。 4. レクリエーションの企画・運営ができる能力を身につけ、実践できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>【課題1】レクリエーションに対する態度の自己評価とその課題についてのミニレポート</p> <p>【課題2】身の回りにあるレクリエーションプログラムに関するレポート</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】毎時間ワークシートとしての学習資料を配布する。</p> <p>【参考書】日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』日本レクリエーション協会。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度(授業毎の振り返りを含む) 40%</p> <p>課題1 30%</p> <p>課題2 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講座ではレジャー・レクリエーションの意義や特性を理解し、自分自身の実践、さらには他者へのレクリエーション支援の方法を学ぶことをねらいとしています。閉塞感漂う現代社会では、スポーツ、野外活動、芸術・文化・学習活動などのレクリエーションを通して自身の人生を生き生きと過ごすこと、また地域を活性化したり、人々が健康やかに暮らせるよう心と体をリフレッシュしたり、楽しみながら自然と共生する生き方の提案をできるような人材が必要です。</p> <p>以上のような目的達成のために下記の基本的ルールを守ることを期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション実践者としてふさわしい活発な意見、質問等を期待しています。 2. 出席や授業態度を重視します。やむを得ない理由の欠席、遅刻、早退の場合は届けを提出してください。 3. 障害や疾病等、何らかの配慮が必要な学生は、初回に授業担当教員に連絡の上、受講してください。 		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 自己理解/レジャー・レクリエーション自己分析	事前学習	シラバスをもとに学習の見通しを持つ。
		事後学習	学習の見通しを整理する。
第2回	レクリエーションの基礎理論① 「レクリエーションの目的」	事前学習	前回の自己理解を確認し、自分にとってのレクリエーションとは何かを考える。
		事後学習	他者の考えを取り入れ、自分にとってのレクリエーションの意義を再考する。
第3回	レクリエーションの基礎理論② 「レクリエーションの歴史」	事前学習	レクの歴史について調べる。
		事後学習	レクの歴史を整理する。
第4回	レクリエーションの基礎理論③ 「スポーツとは」	事前学習	スポーツの歴史や特性を調べる
		事後学習	スポーツの歴史や特性をまとめる
第5回	レクリエーションの基礎理論④ 「遊びとは」	事前学習	遊びの特性を調べる
		事後学習	遊びの特性をまとめる
第6回	レクリエーション実践	事前学習	レクリエーションアクティビティを調べる
		事後学習	実践を通して、レクリエーションの効果や意義を整理する。
第7回	レクリエーションサービス・支援の理論① 「レクリエーションのプログラミング」	事前学習	レクリエーションプログラミングを調べる
		事後学習	レクリエーションプログラミングについてまとめる
第8回	レクリエーションサービス・支援の理論② 「発達に応じたレクリエーション支援」	事前学習	異なる発達段階の特徴を調べる。
		事後学習	異なる発達段階にあつたレク支援をまとめる。
第9回	レクリエーションサービス・支援の理論③ 「障害児・者とレクリエーション支援」	事前学習	色んな障害の特性を調べる。
		事後学習	色んな障害にあつたレク支援とその重要性をまとめる。
第10回	レクリエーションサービス・支援の理論④ 「高齢者とレクリエーション支援」	事前学習	高齢者の特徴を調べる
		事後学習	高齢者にあつたレク支援とその重要性をまとめる
第11回	レクリエーションサービス・支援の理論⑤ 「冒険セラピー」	事前学習	冒険セラピーとは何か調べる。
		事後学習	冒険セラピーの効果をまとめる。

第 1 2 回	レクリエーションサービス・支援の理論⑥ 「レクリエーション指導者の役割」	事前学習	レク支援者の役割やレクリエーションの資格を調べる。
		事後学習	レク支援者の役割とレクリエーションの資格をまとめる。
第 1 3 回	レクリエーションサービスの理論「安全管理」⑦	事前学習	安全面の配慮事項を調べる。
		事後学習	安全配慮事項について整理する。
第 1 4 回	現代におけるレクリエーションの課題と必要性	事前学習	学習をふりかえる
		事後学習	学習をふりかえり、今後の課題をあげる
第 1 5 回	学習のまとめ	事前学習	学習をふりかえる
		事後学習	学習のまとめをし、自己評価をする。